国立国語研究所学術情報リポジトリ

中学生の漢字習得に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001292

国立国語研究所報告 36

中学生の
漢字習得に関する研究

国立国語研究所

秀英出版

The National Language Research Institute
Research Report XXXVI

RESEARCH ON THE ACQUIREMENT OF CHINESE CHARACTERS BY MIDDLE SCHOOL STUDENTS

A report of three consecutive years' research on the kinds of characters, the number of characters, and the way of learning them by the same students during three years of middle school.

Contents

I Outline of the Research.
II Research on the Realities of Learning Chinese Characters.
III Research on the Basic Factors of Learning Chinese Characters.
IV A Case Study—Acquirement of Chinese Characters by One Girl Student during Her Three Years' Course.
V Investigation into the Realities of Guidance in Learning Chinese Characters in Middle School.

Materials

I Research on the Appearance of Chinese Characters in the Textbooks for Middle School.
II A Table of the Appearance of Chinese Characters in Textbooks (Tôyô Chinese Characters excepting Educational Chinese Characters).
III A List of Words Presented as a Test for the Investigation of Ability in All Tôyô Chinese Characters.
IV Bibliography of Research on the Realities of Learning Chinese Characters.

Syûei Syuppan Co.
2-30, Itigayakagatyô, Sinzyuku-ku, TOKYO, JAPAN
1971

刊行のことば

国立国語研究所は，昭和28年から38年にかけて小学生の言語能力の発達に関する研究，および中学生の言語能力の概観調査を行ない，漢字の読み書き能力の発達についても概観することができたが，さらに，昭和39年から中学生が義務教育を終えるまでに，どれくらいの漢字を，どのように習得するかを詳しく調べるため，中学生の漢字習得に関する研究に着手した。その結果をまとめたのが，この報告である。

この調査研究は，第2研究部（当時部長輿水実　現芹沢節）国語教育研究室が担当した。

企画・実施・まとめなど，全期間を通して調査研究にあたった者は，芹沢節（当時　室長）・根本今朝男であり，後期に中村明（現話しことば研究室）が参加した。川又瑠璃子（全期間を通して）・小林信子（後期）が作業を助けた。村石昭三・福田昭子も前期の調査実施に加わった。

本書の執筆分担は次の通りである。

第1編・第2編・第4編・資料Ⅲ	芹沢　節
第3編・第5編・資料Ⅳ	根本 今朝男
資料Ⅰ・Ⅱ	中村　明

なお，この研究を進めるために，協力学校を委嘱して各学校のご協力をいただいた。特に長期にわたってご協力くださった稲付中学校長伊東甚吾氏・長谷重幸氏および吉村安夫氏をはじめ，父母・生徒のかたがたに厚くお礼を申しあげる。

昭和46年3月1日

国立国語研究所長

岩淵悦太郎

目　　次

刊行のことば……1

第1編　研究のあらまし……21

Ⅰ　なぜこの研究をとりあげたか……22

Ⅱ　この研究の組織……23

1. 調査の目的……23
2. 調査項目……24
3. 調査の規模・内容・方法……24
4. 調査の実施……27
5. 調査の対象……27
6. 調査の協力者……29

Ⅲ　結果のあらまし……30

第2編　漢字習得の実態に関する研究……35

第1章　当用漢字習得調査の方法と結果の概観……36

Ⅰ　当用漢字全数読み書き調査の方法……36

1. 調査方法と問題作成……36
   (1) 漢字習得と調査方法
   (2) 調査の方法と問題

(3) 結果の整理
2. 調査の時期および実施……41
(1) 調査の時期と実施
(2) 調査の場所

Ⅱ 結果の概要……43

1. 量的観点からみた習得状況……43
(1) 文字中心，累積方法からみた場合
1) 全体的習得状況
2) 個人別習得状況
(2) 音訓および習得完了という観点から整理した場合
1) 教育漢字の読み書き
2) 教育漢字外当用漢字の読み書き
3) 個人別習得完了の文字数
4) 調査時ごとの習得文字数
5) 漢字習得にみられる段階性
(3) 表外字の習得

第2章 当用漢字の習得状況—読み……61
質的観点からみた習得状況

Ⅰ 教育漢字 1年入学時の読みの成績 ……61

1. 整理の観点と成績……61
(1) 音訓を考慮した場合の成績
2. 読みの成績と字種……64
(1) 音訓の観点から全員が完全に読めた字
(2) どちらかの音訓では全員が読めた字
(3) 7人以下が読めた字
3. 音訓の習得のアンバランス……67
(1) 音訓の優位と親近性
1) 音優位の漢字
2) 訓優位の漢字
3) 2音以上のうち，1音が優位のもの

4)　2音1訓(以上)のうち，1音が優位のもの
5)　1音2訓以上のうち，ある訓(1訓)が優位のもの
6)　多音多訓（1音2訓，2音1訓以上）のうち，ある音と訓は優位のもの
4.　学年配当漢字との関係……71
(1)　音訓をつくして完全に読めた字の学年配当
(2)　1音又は1訓の字で100％読めた字の学年配当
(3)　どちらかの読みでは100％読めた字の学年配当
5.　漢字習得と使用教科書
（その1）　1年入学時に読めなかったの音訓と小学校国語教科書の未提出音訓
(1)　出身小学校と使用教科書
(2)　1年入学時調査結果と国語教科書の漢字提出状況
(3)　読みの成績と教科書の提出音訓
1)　抵抗のある音訓の多くは教科書未提出・未学習
2)　抗抵のある音訓の多くは教科書の提出度・使用度少
3)　提出語形による習得の差
4)　教科書提出で成績の悪いもの
5)　未提出音訓，提出度少で成績のよいもの
Ⅱ　教育漢字　3年卒業時の読みの成績　……83
1.　3年間で読めるようになった字……83
(1)　文字としては881字読める
(2)　3年卒業の調査時に読み残った音訓
2.　きびしい観点（習得完了）で整理した場合の3年間の成績……84
(1)　習得完了という観点で問題を残した文字
1)　1年入学時に，8人は読めなかった86字のその後の成績
2)　1年入学時に，どちらかの音訓では全員読めた326字のその後の成績
3.　卒業時の読字成績の実態……86
4.　問題のある音訓の学年配当……87

5. 問題のある読みの音訓別数……88
6. 読みにくい音訓の特徴……90
(1) 低学年用のやさしい漢字が含まれている
(2) 多音多訓のもの
(3) 特殊音をもつ読み方が多い
(4) 親近性に乏しい語
(5) 日常性のない訓が多く含まれている
(6) 別訓として読まれる
(7) 語彙力の不足によるもの
7. 読めない音訓とその文字の使用度……93
(1) 現代雑誌九十種の調査結果との関係
(2) 小・中学校の使用国語教科書での提出状況との関係

Ⅲ 教育漢字外当用漢字
1年入学時の読みの成績 …… 100

1. 読みの成績と字種…… 100
(1) 音訓の観点から全員が完全に読めた字
(2) どちらかの音訓では全員が完全に読めた字
(3) 7人以下が読めた字
2. 読みの成績から推定される小学校段階における
教育漢字外当用漢字の習得…… 105
(1) 「小学校改訂学習指導要領」の備考漢字115字
と入学時調査結果との比較
(2) 入学時の読みの成績と文字学習

Ⅳ 教育漢字外当用漢字
3年卒業時の読みの成績 …… 111

1. 3年間で読めるようになった字…… 111
(1) 3年間で全員が読めるようになった字
1) 音訓の観点から全員が完全に読めた字
2) 7人以下が読めた字
2. 読めない字…… 116

(1) 読めない文字の特徴
1) 1音又は1訓の字
2) 教科書に未提出の字
3. 音訓習得のアンバランス…… 117
(1) 読めない音訓にみられる現象
1) 音不振のもの
2) 訓不振のもの
4. 読めない文字（音訓）と社会での使用度…… 122
(1) 文　字
1) 現代雑誌九十種の調査結果との関係
(2) 音　訓
1) 読みにくい音訓とその音訓の使用状況
（参考）成績不振の音訓とその使用度
5. 漢字習得と使用教科書…… 128
（その2） 教育漢字外当用漢字の習得と教科書の文字使用
(1) 文字提出と読みの成績
1) 文　字
(2) 音　訓
1) 音
2) 訓
第3章　当用漢字の習得状況——書き …… 145
I　教育漢字　1年入学時の書きの成績 …… 145
1. 書きの成績と字種…… 146
(1) 全員が書けた字
(2) 7人以下が書けた字
2. 書けた字の基本性…… 149
3. 書字成績と学年配当漢字との関係…… 150
4. 1年入学時に読み書きできた漢字…… 153
5. 書けない漢字…… 156

(1) 書けない漢字の共通性

Ⅱ 教育漢字　3年卒業時の書きの成績…… 156

1. 全員が書けるようになった字…… 157
2. 書けない教育漢字…… 159
(1) 書きにくい漢字と学年配当漢字との関係
3. 書けない理由…… 161
(1) 書けない文字と使用度
1) 書けない字と教科書使用度
2) 字形の再生力
3) 社会の使用・関心度
4. 学習指導との関係…… 164

Ⅲ 教育漢字外当用漢字
1年入学時の書きの成績…… 164

1. 書きの成績と字種…… 164
2. 書けた漢字と文字学習…… 169
(1) 入学時調査で書けた字と学習文字
3. 書けた漢字と読めた漢字…… 170
(1) 入学時調査における書字対読字成績表

Ⅳ 教育漢字外当用漢字
3年卒業時の書きの成績…… 172

1. 3年間で書けるようになった字…… 172
2. 書きの成績と字種…… 172
(1) 全員が書けた字
(2) 7人以下が書けた字
3. 教育漢字外当用漢字の書ける字…… 176
(1) 書ける字の性格の検討
1) 使用教科書の漢字出現状況から
2) 多用される語の構成要素として
(2) 新しい学習指導要領における備考漢字との比較

第4章　当用漢字の習得について…… 185

Ⅰ　教育漢字の読み書き …… 185

1.　3年卒業時の教育漢字の読み書きの習得…… 185
(1)　文字中心・累積の結果という観点から
1)　具体的な字種
(2)　音訓および習得完了という観点から
1)　具体的な字種

Ⅱ　教育漢字外当用漢字の読み書き …… 188

1.　3年卒業時の教育漢字外当用漢字の
読み書きの習得…… 188
(1)　文字中心・累積の結果という観点から
1)　具体的な字種
（参考）読めるが書けない字
(2)　音訓および習得完了という観点から
1)　具体的な字種

Ⅲ　習得のゆれ…… 195

1.　習得のゆれ現象…… 195
2.　ゆれ現象の実際…… 196
(1)　読みにおける習得のゆれ
(2)　書きにおける習得のゆれ
3.　ゆれのある文字…… 198
4.　習得のゆれと個人差…… 200
(1)　読字における習得のゆれ
1)　読みの成績とゆれの関係
(2)　書字における習得のゆれ
1)　書きの成績とゆれの関係

Ⅳ　漢字習得の螺旋的構造 …… 204

1.　卒業時における正答文字数の多様性…… 204
(1) 教育漢字
2.　各種正答文字数と習得過程における漸進性…… 205
3.　漢字習得の螺旋的構造…… 206
（参考）教育漢字外当用漢字

第5章　表外字の読みの力と習得経路 …… 208

I　表外字の読みの調査 …… 208

1.　調査の方法…… 208
(1) 第1回めの調査
1) 調査の問題
2) 調査文字
(2) 表外字の予備調査
1) 調査方法と結果
(3) 調査用表外字の選定
(4) 調査文字
(5) 調査の規模と実施
(6) 調査の問題
(7) 正答・誤答の判定

II　表外字を読む力 …… 218

1.　調査の成績…… 218
(1) 1年入学時の成績
(2) 1年終末時の成績
(3) 3年卒業時の成績
2.　読める表外字…… 224
(1) 固有名詞
(2) 教科書関係の文字
(3) 興味・関心領域からの文字
1) 生活面から
2) 読書語彙としての文字

(4) 動植物名の文字
3. 表外字を読む力の進歩…… 227
(1) 音訓反応の深化
(2) 2年前期と3年後期の比較
(3) 文字による音訓の優位反応
1) 音優位の字
2) 訓優位の字
3) 音訓同数の字
4. 表外字と習得 …… 230
(1) 正答反応が高く，しかも固定的な文字群
(2) 正答反応はやや低いが，反応が固定的な文字群
(3) ある調査時では高い反応が持続，固定しない文字群
(4) 正答反応が低く，しかも固定的な文字群
(5) 正答反応も概して不振，正答反応に浮動性のあるもの

Ⅲ 表外字の習得経路 …… 237

1. 1年入学時の調査から——習得経路の手がかり… 237
2. 表外字の習得経路…… 239
(1) 人名から
(2) 地名から
(3) 教科の学習を通して
(4) 一般読書
(5) テレビ・映画・音楽
(6) 看板・広告・宣伝等
(7) 既知の文字から類推して
(8) その他
(9) 表外字習得とことば

Ⅳ 教科書に使用された表外字 …… 253

1. 教科書の表外字…… 253
2. 調査の成績と教科書との関係…… 254
3. 読める表外字の二つの型…… 255

第6章　習得における誤答…… 258

Ⅰ　誤答傾向…… 258

1.　読　み…… 258

(1)　読みの成績と各反応

1)　文字の側からみた場合

2)　音訓の側からみた場合

(2)　読みにおける誤答

1)　字形に関する誤り

2)　意味に関する誤り

3)　提出語形による誤り

4)　音訓に関する誤り

(3)　誤答反応に見られる習得過程

1)　同じ誤りがくり返し続けられている

2)　テストの度に反応が異なる

2.　書　き…… 283

(1)　書きの成績と各反応

(2)　書きにおける誤答

1)　字形が正しくとりにくい文字群

2)　同音（訓）の他の文字，同義・類義の他の文字をあてて書くもの

3)　字形と音・義の両種の誤りが混然としてあるもの

4)　字体に関するもの

(3)　誤答反応に見られる習得過程

1)　同じ誤りがくり返し続けられている

2)　テストの度に反応が異なる

3)　低度の誤答からより高度の誤答へ

4)　無答に潜在している正答意識

(4)　誤答の個人的特徴

1)　正しい字形がとれない

2)　いろいろに誤って書く

3) 意味に関連した他の字をあてる
4) 誤答も多く無答も多い

Ⅱ 漢字の読み書き調査の反応からみた習得（書字）の類型 …… 304

1. 具体例…… 305
例1 親 2 流 3 政 4 図 5 授 説
6 講 7 程 8 貸・借 9 拾・捨
10 旗 11 燃 12 増 13 相
（参考） 書字誤答例一覧
教育漢字
教育漢字外当用漢字

第7章 習得上の問題点解明のための調査と結果 …… 333

Ⅰ 集団調査実施のねらいと方法 …… 333

1. この調査のねらい…… 333
2. 問題の構成…… 334
(1) 2年生
(2) 3年生
3. 調査の実施…… 336

Ⅱ 調査の結果——2年生 …… 337

1. 教育漢字…… 337
(1) 教育漢字の読み——調査の文字と結果
(2) 教育漢字の書き——調査の文字と結果
2. 教育漢字外当用漢字…… 347
(1) 教育漢字外当用漢字の読み——調査の文字と結果
(2) 教育漢字外当用漢字の書き——調査の文字と結果
3. 表外字の読み…… 356

4. 漢字の知識…… 362
(1) 漢字の構造の知識
(2) 忘れた字を思い出す手がかり
(3) 持と待　増と贈　議と儀
(4) 元気と元木——漢字の表意性の認識
5. 読みにくい訓…… 368
6. 読みにくい音…… 373
7. 漢語とその構成文字の読みと語義の関係…… 383
8. 訓の読みと意味の関係…… 390

Ⅲ 調査の結果——3年生 …… 399

1. 教育漢字…… 399
(1) 教育漢字の読み——調査の文字と結果
(2) 教育漢字の書き——調査の文字と結果
2. 教育漢字外当用漢字…… 403
(1) 教育漢字外当用漢字の読み——調査の文字と結果
(2) 教育漢字外当用漢字の書き——調査の文字と結果
3. 表外字…… 407
(1) 読みの成績
(2) 表外字の習得経路
4. 読みにくい音…… 412
5. 訓の読みと意味把握…… 414
(1) 意味把握の増大・深化
1) 熟語として
2) 訓として
(2) 意味把握の誤り
1) 意味記述の誤答例
(3) 読みと意味把握の関係
6. 生徒の漢字学習に関する内省・実態・感想・意見など…… 423
(1) 漢字をおぼえる手がかり
(2) 新出漢字の学習法
(3) 漢字使用の態度化

(4) 日常の読書生活と読めない漢字
(5) 辞書の利用状況
(6) 漢字学習への興味・関心
(7) 漢字学習への感想・意見など
(参考)
2年生　集団調査問題
3年生　集団調査問題(8)

第3編　漢字の習得要因に関する研究 …… 459

第1章　被調査生徒の側面
——要因資料からみた8人像 …… 461

1. 知　能 …… 461
(1) 研究所で実施した知能検査
(2) 学校で実施した知能検査
(3) 上記4回の検査結果の平均値
2. 学　力 …… 462
(1) 学校における国語の学力（1年～3年）
(2) 実施した国語の標準学力検査などとその結果
3. 身体・性格・行動など …… 466
(1) 概　観
(2) P・C・T (Pupil Counseling Test) による診断
(3) 行　動
4. 家庭環境・学習状況など …… 472
(1) 家 庭 環 境
(2) 学習状況など——担任教員から見た8人の生徒——
5. 読書状況および読書力 …… 479
(1) 「読書調査」について
(2) 「読書調査」結果の概要
(3) 読書力について

第2章　国語科学習指導の実際 …… 503

1. 学校における国語科学習指導とわれわれとの関係 503
2. 国語科担当教員（吉村安夫氏）の漢字指導——「中学校の漢字学習指導の実態に関する質問紙調査」から…… 503
3. 被調査生徒の国語科学習指導の歩み…… 505
(1) 学習指導計画
(2) 1週の国語科配当時間数
(3) 被調査生徒の使用教科書
(4) 指導の実際
4. 学校における国語科教育研究活動など…… 508
(1) 「漢字能力調査とその指導法の研究」（昭和39年度）
(2) 「読解指導における辞書利用による語句指導はいかにすべきか」（昭和40・41年度）

第3章　漢字習得と諸要因との関係 …… 511

1. 知能と漢字習得…… 511
2. 国語学力と漢字習得…… 513
3. 読書・読書力と漢字習得…… 514
4. 漢字学習上のくふうと漢字習得…… 515
5. 漢字学習の好ききらいと漢字習得…… 517
6. 作文と漢字習得…… 519
(1) 被調査者から得た作文資料
(2) 作文の文字量
(3) 漢字の使用量
(4) 個人別に見た使用異なり漢字数と漢字習得
(5) 作文における漢字の誤字・誤用と漢字習得
(6) 男子2，女子1の作文資料
7. 各漢字力相互の関係と漢字習得の類型…… 526
(1) 各漢字力間の相関
(2) 漢字習得の類型について
8. 8人の生徒の，この調査および中学校3年間の学習生活などについての感想・意見…… 530

(1) 対話による質問調査のあらまし
(2) 漢字習得調査についての感想・意見をめぐって
1) 調査のために研究所へ来ることについて
2) この調査をとおして漢字に対する意識が変わったか
(参考) この調査および中学校年間の学習生活等についての対話（録音資料）
(1) 男子4の録音資料
(2) 男子1の録音資料
(3) 女子3の録音資料

第4編 事例研究

——1生徒の3年間の漢字習得…… 547

1. 習得の漢字…… 548
(1) 1年入学時の漢字
(2) 3年間の習得文字量
(3) 習得の型
(4) 習得の具体的状況
1) 教育漢字の読み書き
2) 教育漢字外当用漢字の読み書き
3) 表外字の読み
4) 集団調査での結果
5) 作文での使用例
2. 学習者としての女子2…… 574
(1) 家族構成
(2) 知能
(3) 学力
(4) 身体・性格・行動など
(5) 言語生活
3. 自身の経験…… 580
(1) 漢字学習に対する好悪
(2) 漢字に対する関心・態度
(3) 漢字の使用

(4) 辞書の利用
(5) 漢字学習のくふう

第5編　漢字学習指導の実態に関する調査…… 585

1. 調査の目的…… 586
2. 調査の方法…… 586
3. 調査の内容…… 586
4. 調査地域，実施の時期，回収率など…… 588
   (1) 調査地域
   (2) 実施の時期
   (3) 回収率
5. 調査事項と結果の概要…… 591

質問1　学校の環境と国語科学習指導…… 591
- a　あなたの現在の学校の地域環境
- b　あなたの現在の学校の全学級数
- c　あなたの現在の学校の国語科教員数
- d　あなたの現在の毛筆習字担当者
- e　あなた自身の現在の国語科のうけもち
- f　あなた自身の，その他（e以外）の校務分掌

質問2　漢字学習指導の方法…… 593
- a　教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程
- b　教科書以外の漢字の取り立て指導

質問3　漢字学習指導の内容…… 599
- a　漢字一字一字の意味の指導
- b　当用漢字の音訓表外の読みの指導
- c　取り出して扱う，教科書提出の漢字
- d　cの場合の音訓の指導
- e　筆順の指導
- f　作文の中での漢字指導
- g　漢字使用の態度化の指導

h　部首の知識を利用した指導
i　部首についての指導
j　熟語の語構成についての指導
k　他教科へのサービスを意識した指導
l　他教科における漢字の学習指導
質問4　その他の指導…… 618
a　辞書指導（漢和辞典について）
b　副教科書，ワーク・ブック
c　家庭学習
d　特別に行なっている漢字の学習指導
質問5　漢字学習指導に対するあなたのご意見…… 625
a　中学校卒業までに身につけさせたい漢字力は？
b　漢字学習指導のあるべき姿について
c　漢字学習指導の観点からの，小学校への要望
（参考）
I　漢字学習指導の実態に関する質問紙調査（調査票）
II　当用漢字の音訓表以外の読みについての指導
＜表1＞1字1字の読み
＜表2＞熟字訓としての読み

資　料　編…… 665

資料I　中学校の教科書における漢字の出現状況に関する研究…… 665

1.　調査の目的…… 666
2.　調査結果の意義と限界…… 667
3.　調査の資料…… 668
4.　調査の範囲…… 670
(1)　調査の対象とした漢字の範囲
(2)　漢字の調査範囲
(3)　教科書の調査範囲
5.　調査の細則…… 675

(1) 読みを決定するさいの方針
(2) 誤用例の処置
(3) 用例の所属する音訓の決定
(4) 用例の単位
(5) 固有名詞の判定

6. 漢字出現状況一覧表の見かた…… 680
(1) 字種・音訓の配列順
(2) 各欄記載要領の解説

7. 実例処理に関する注記…… 695
(1) 読みの決定に関して
(2) 用例の所属する音訓の決定に関して
(3) 用例の提示のしかたに関して
(4) 固有名詞あつかいに関して

8. 漢字出現状況一覧表の使いかた…… 705
0 準備的資料
1 教育漢字の場合
2 教育漢字外当用漢字の場合
3 表外字の場合

資料II 教科書漢字出現状況一覧表…… 743
(教育漢字外当用漢字)

資料III 当用漢字全数調査問題提出語形一覧 …… 831

1. 教育漢字…… 832
2. 教育漢字外当用漢字…… 856

資料IV 漢字習得に関する実態調査の文献 …… 877

はじめに
(1) 小学校尋常4年生のその学年までに出た漢字の書きの調査
(2) 中学校ニ入学セル当初ノ生徒ノ漢字ニ関スル知識ノ調査
(3) 読方教育測定
(4) 東京市内小学校児童に対する漢字の書きの調査

(5)　教育漢字881字の書きの調査（小・中学校）
(6)　漢字を書く能力の基準を設ける調査
(7)　義務教育における漢字習得に関する調査
(8)　教育漢字881字の読み・書き調査
(9)　中学生・高校生の漢字を読む力の調査
(10)　教育漢字の学年配当と読み書き調査
(11)　教育漢字 881 についての小学校卒業直前における読み書き調査
(12)　中学校における漢字書写能力調査
(13)　漢字習得の実態に関する研究
(14)　昭和43年度　漢字の習得状況に関する調査
(15)　中学生・高校生の漢字を書く力の調査

第 1 編

研究のあらまし

I　なぜこの研究をとりあげたか

国語教育研究室では，昭和28年来小学生の言語能力の発達に関する調査研究を実施してきたが，それが終了したので，続いて中学生の言語能力の概観調査を行ない，昭和39年度から，中学生の漢字習得に関する研究に着手することになった。それはここ数年来，学生・生徒・児童の漢字力の低下ということが，教育上の問題の一つとしてとりあげられており，小・中・高生の漢字の読み誤り，書き誤りを始め，大学生の漢字の誤用が関係者によって報告・紹介されるたびに，その実態と原因をたしかめておく必要が痛感されたからである。

現在は，漢字の学習負担の軽減という立場をも考慮した当用漢字表の制定（昭和21年11月）からすでに20年も経ており，当用漢字による漢字教育，文字生活も一応の普及徹底をみているはずである。このあたりで義務教育期間中に当用漢字を読み書きする力がどのくらい身についたかを，調査しておくべきではないであろうか。

昨今，漢字力の低下を，当用漢字表制定などの一連の国語施策と関係づけて論じられることがある。漢字の学習負担への配慮は，明治40年（義務教育が6年になる）から昭和20年まで，義務教育6年間で学ぶ漢字数を約1300字にとどめていた。戦後，義務教育の年限が9か年に延長し，期間中に学習する漢字の数も当用漢字を対象とするということでふえているが，読み書きともに習得することを要請されている字数は，教育漢字（正しくは当用漢字別表の漢字。いわゆる義務教育用漢字である教育漢字のことで，便宜上，以下，この呼び方を用いる。なお，別表外当用漢字も，教育漢字外当用漢字と呼ぶことにした）881字である。書くことを要求されている教育漢字が881字に減少したために，書けない字がふえ，誤字誤用が多いとなげかれている反面，戦前の漢字を書く調査（昭和10年，東京市の小学校6年生〈高等1年生を含む〉を対象に，小学校の学習漢字1356字についての岡崎常太郎氏の調査。資料編参照）と，小学校6年卒業生対象の教育漢字を書く調査（昭和34年，国立国語研究所調査。）と比

べて，学習した文字数に対する成績（平均書字数）は，むしろよいという現象もある。

いっぽう，小学6年生に実施した教育漢字全数の読みの成績は平均正答率が相当高いのに，大学卒業生の就職試験でも誤読が多い（例—人材の意味の器(うつわ)を「キ」，選挙の遊説(ユウゼイ)を「ユウセツ」など），意味用法に即した正しい読みかたができない，昔はもっと読む力が高かったなどと，なげく関係者もいるのである。

昔はルビの使用が影響してか，現在よりも初見の文字を読むことができ，また，誤読が修正されやすい利点があるという人がある。戦前の漢字調査のほとんどが書くことを中心に行なわれたのも，それとの関連があるものと思われる。

元来，定着しにくい書くことに，ルビなしによって生ずる読みの問題が加わったので，漢字力低下の印象が強くなったのではなかろうか。

このように考えると，当用漢字の全数，それも音訓をつくしての読みの調査を実施して，その実態を把握しておく必要が感じられるのである。

中学生の漢字の力を見る場合，いろいろな見かたができるが，ここでは，卒業時に到達した習得状況とともに，その習得過程をも見ようとした。

義務教育段階を目標としたのは，国民の文字力ということを考えるとき，義務教育終了段階が一応の目安となること，また，現在多くの人々が読む一般代表的なものとして新聞が考えられるが，その新聞が，「義務教育を終えて2—3年社会生活を送った人に理解してもらえる」ことを目安としていることなどから，中学生を対象としてとりあげ，義務教育段階における漢字習得について詳しく調べておこうとしたのである。

Ⅱ　この研究の組織

1．調査の目的

中学生が義務教育課程を終了するまでに，どれくらいの漢字をどのようにし

て習得するか，漢字の習得状況を，中学3年間にわたって，量的，質的に追跡調査し，中学生の漢字習得の可能な量，習得漢字の字種，習得上の問題点，習得過程，習得要因などを追究して国語教育および国語問題に資そうとするものである。

上の目的のもとに，調査項目として次のことを考えた。

2．調 査 項 目

(1)　義務教育終了までに読み書きできる漢字の習得量。

(2)　読み書きできる漢字，読み書きに抵抗のある漢字はどのような漢字か，習得漢字・未習得漢字の字種および質。

(3)　漢字習得上の問題点は何か，およびその解明。

(4)　漢字習得の諸要因についての調査。

(5)　中学生の漢字学習指導の実態の把握。

上の目的，調査項目のために，調査の規模・内容などを次のように企画した。

3．調査の規模・内容・方法

(1)　当用漢字の全数にわたって，その習得状況を詳しく調べる。1850字の読み書きの力を調べ，なお，漢字習得量の可能な量，習得経路等を推測するために，表外字についても調べてみる。

(2)　音訓にわたって，読みの習得状況を調べる。当用漢字音訓表による全音訓（3122音訓）について，その読みの力を調べる。

(3)　漢字の習得状況，習得の過程・要因・問題点を追究するために，中学3年間にわたり，継続して調査する。

ある一定時の調査では，その時点での漢字力・習得状況を知ることはできるが，習得の過程についてはわからない。同一の被調査者について，くり返し

調査する継続調査の方法をとる。

(4)　継続調査・全数調査をたてまえとしたので，その量的負担を考え，調査方法として消却方式をとる。入学時に全数調査を行ない，正しく読み書きできた漢字がその後の調査でも正しく読み書きでき，習得が安定したと認められた場合は，調査の対象文字からはずして，新しく表外字をさし加え，調査の負担量の過重をふせぐ。

(5)　多量の漢字を，時間的にも継続して，詳しく調査を進めるため，被調査者の数のほうを限定する。

当用漢字全数（表外字を含む）を，音訓にわたり，継続調査をするために，被調査者を少数の特定生徒（8名）にしぼり，事例調査の形式をかりて，研究をすすめる。

(6)　特定事例生徒の当用漢字の全数調査の補いとして，当該学年の中学生集団に，事例調査による結果から得た問題を中心とした漢字テスト——漢字習得上の問題点解明のためのテストを実施する。

少数特定個人の調査結果のかたよりを排除し，結果の普遍性・信頼性，問題点の所在のたしかめ，問題解決の手がかりを得るために，全数調査結果から得た問題を中心に構成した漢字テストを，同学年の中学生の集団（約 500 名）に対して実施し，全数調査結果の検証，次の調査のための修正資料を得る。

(7)　漢字習得の諸要因を追究するために，習得の要因調査をし，資料の収集・整備をはかる。

漢字習得要因として，いろいろの因子があるが，習得者としての生徒，習得の中心的媒体としての教科書，習得を可能にするために，学習を計画的，系統的に進める指導の三つの側面を考え，それぞれ調査の対象としてとりあげる。

(7—1)　生徒の側の調査および，要因資料を収集・整備する。

漢字習得とかかわりのある生徒の側の諸因子——知能・性格・国語学力・学力一般・読書力・作文・マスコミ・マスメディア接近状況等について，検

査・調査（学校側のものも含む）し，資料をととのえる。

（7—2）教材の面からの資料を調査整理する。小学校の国語教科書，中学校の各教科の各使用教科書の漢字出現状況を詳しく調べる。

（7—3）指導面についての情報の把握

調査実施校に対する指導面の希望や指示は全く行なわず，学校の自主的な指導方針によって，学習指導が進められたので，学校の国語主任で，8人の生徒の担任の国語教師の指導記録，指導についての情報を得て，学校における3年間の学習指導経過を明らかにする。

(8)　中学生の漢字習得に関するこの調査を機会に，中学校全般にわたる漢字学習指導の実態を調査する。

小学校と比べると，従来あまり明らかにされていない中学生の漢字学習指導についての質問紙調査を全国的規模で実施し，指導の実態を把握しておく。

(9)　なお，漢字習得に関する実態調査の文献についても，収集を心がけた。

整理すると次のようになる。

中学生の漢字習得に関する研究

	＜調査名＞	＜調査対象＞	＜調査事項＞
（主調査）	当用漢字全数読み書き調査（表外字を含む）	8人の事例生徒	1850字（3122音訓）の読み書き（表外字1018字の読み）
	漢字習得要因調査 1 生徒調査	〃	知能・性格・学力・読書・作文言語環境等
	2 教科書調査	生徒使用の小学校・中学校の国語教科書　中学校他教科各教科書	漢字出現状況
	3 学習指導の実際	生徒の中学校3年間における国語学習指導の実際	
（補充・検証調査）	事例調査の結果を検証するための漢字テスト 漢字習得上の問題解明のためのテスト	8人の事例生徒と同学年の中学生集団	8人の調査結果，読み書きの上で問題となった漢字および習得上の問題点の解明を試みた漢字の諸テスト
（特別調査）	中学校の漢字学習指導の実態に関する調査	A青森・千葉・神奈川3県の全公立中学校教師	漢字学習指導の方法 〃　の内容 漢字学習に関連するその他

B全国40都道府県の選出教師	の指導，学習指導に対する意見等

4．調査の実施

昭和39年4月から昭和43年にかけて，次の諸調査を実施した。

当用漢字全数読み書き調査　39年4月～42年3月（年間2回，通算6回）

漢字習得上の問題点解明のためのテスト　39年～42年3月（年間1回）

漢字習得要因調査

生徒調査	期間中各項目について随時
学習指導についての情報・記録	情報　期間中随時
	記録　42年卒業後
教科書調査	42年～43年

中学校の漢字学習指導の実態に関する質問紙調査

配布から回収まで　41年12月～42年2月

5．調査の対象

(1)　当用漢字全数読み書き調査

事例調査校　　東京都北区　区立稲付中学校

生徒8人（男子4人，女子4人）

平均的中学生の漢字力をみるということで，知能・国語学力・一般学力などに，上下のかたよりがないもの(中間クラス)，3年間移動の予測されないものという条件のもとに学校側に人選を依頼。学校側では，さらに学区内の出身小学校のバランス，本人や家庭での調査協力の承認を得るなどの配慮の上，生徒を選出し，調査を順調に進めることができるように，学級編成その他，3年間にわたる種々の協力を得た。

男子　1　　女子　3　　同一小学校出身

男子　3　　女子　1　　同一小学校出身

男子　4　　女子　4　　〃

男子2，女子2　各，異なる小学校出身

（8人5小学校出身）

(2)　漢字習得上の問題解明のためのテスト

集団調査の実施協力校

1年	東京	稲付中学校	1年生	7学級分	348人
2年	〃	稲付中学校	2年生	2学級分	85人
	〃	四谷第二中学校	〃	〃	79人
	〃	砂町中学校	〃	〃	76人
	〃	教育大附属中学校	〃	〃	82人
	〃	武蔵野第三中学校	〃	〃	43人
				5校　計	365人
3年	東京	稲付中学校	3年生	2学級分	83人
	〃	文海中学校	〃	〃	70人
	大阪	箕面第一中学校	〃	〃	91人
	〃	箕面第二中学校	〃	〃	80人
	〃	止々呂美（とどろみ）中学校	〃	1	15人
	名古屋	前津中学校	〃	2	82人
	〃	南陽中学校	〃	〃	76人
				7校　計	497人

2年生では事例調査の生徒の出身校稲付中学校，および東京内で，教育的環境の整っているところ，地域的に教育的環境の不備なところなど，生徒の漢字力が幅広くわかるように学校を選び，各学校の2年生の2学級分の生徒を調査した。（武蔵野第三中学は，学校側の事情により1学級分）

3年生では，調査が従来，東京中心に行なわれたので，訓読み等における地域性との関係もみようとして，関西・中京方面にわたって調査した。3年でも，同じ地域で教育的環境の整っているところ，環境不備なところなど，生徒の漢字力の実態が幅広くわかるように学校を選んだ。

なお，学校の選定にあたっては，調査の目的，調査校の条件などをあげて，各教育委員会に依頼し，その推薦を得た。

6．調査の協力者

調査の実施協力学校　東京都稲付中学校　校長　伊東　甚吾（39年度）
長谷　重幸（40年以降）
国語主任　吉村　安夫

		（校　長）	（国語主任）
調査の実施校（2年）	東京都四谷第二中学校	富田　義雄	久保田吉彦
〃	砂町中学校	山本　寛太	新井　章
〃	教育大学附属中学校	鈴木　清	長谷川敏正
〃	武蔵野第三中学校	中嶋　幸三	久保田勝蔵
（3年）	東京　文海中学校	中沢　政雄	
	大阪　箕面第一中学校	田中　静夫	
	〃　〃　第二中学校	下野　寅雄	
	〃　止々呂美中学校	川上　龍雄	
	名古屋　前津中学校	中村　義高	
	〃　南陽中学校	篠辺　広	

実施各校の推薦および実施の推進にあたり，

協力学校推薦　当時	東京北区教育委員会指導主事	相川　正志
	大阪府教育委員会指導部第二課長	中畔　肇
	〃　〃　指導主事	田中　昭次
	〃　〃　〃	松山三郎左衛門
	愛知県教育委員会学校教育課長	永屋　省三
	〃　〃　指導主事	市川　光雄
	名古屋市〃　〃	田中喜一郎

以上のかたがたには，この調査をすすめる上で，種々ご高配・ご協力をい

ただいた。

また，漢字学習指導の実態に関する調査では，各教育委員会・国語教育研究会・中学校・先生がたのご協力を得た。別に記してあるが，あわせて謝意を表したい。なお，記名は省略したが，旧小学校国語教科書，表外字調査資料，その他文献資料などを借覧させていただいたかたがたにもお礼を申しあげる。

Ⅲ　結果のあらまし

調査対象文字を当用漢字全数にわたり（表外字も含む），しかも読み書きともに調べる，読みでは音訓をつくして調べる，同一生徒を3年間継続して調べる，習得要因調査も併用する，主調査の補いとして集団による調査も実施するなどに，本調査の新しい研究としての性格があるが，その結果，どのようなことが新しくわかったか，また，どのようなところに問題があったかなどについて，概要を記しておこう。

詳細は各章にゆずり，大要だけを列記すると，

(1)　各人について当用漢字の全数調査を実施したので，義務教育終了時の1人あたりの習得漢字数の大体の見当がついた。なお，同時に実施した表外字の読みの調査結果から，表外字の読める字種や字数の大体について推定するめどがついた。

(2)　当用漢字表内の全音訓について，その読みを調べたので，当用漢字を読む能力が，特定の音または訓の読みだけでなく，表内の全音訓にわたって，いっそう詳しくとらえることができた。

(3)　同一生徒について継続調査を実施したので，1度だけの調査結果からでは知ることのできない，習得上の問題の所在を知ることができた。

(4)　漢字の読み書きの実態調査だけでなく，習得の要因調査も併用したので，読み書きの調査結果をより動的にみることができた。

(5)　教育漢字の読み　それが日常的，一般的に多用される読みかたではよく読めるようになり，中学校卒業までに文字としては881字全数が読めるが，現

行の当用漢字音訓表で認められている音訓のすべてを尽くしては読めない。使用度の少ないほうの音訓をはじめ，低・中学年用の配当漢字にも読めない音訓があって，最後まで読めないで終る。

文字中心に，主要な読みかたでは読めることとみるか，その文字の音訓をつくして読めることとみるかによって，教育漢字の読みの到達度が異なり，中学生段階での読みの習得度の見かたも二様になるという問題が示された。

(6) 教育漢字の書きについては，要請どおり義務教育終了段階までに，そのすべてを書けるまでには到達できない。日常性の強い文字は書けるが，中学生の生活にはあまり親近性のないものは書けない。しかも，書くべき文字を認識しながら，正しい字形をとり得ないために誤り，正答の数を減じているという実態のあることがわかった。

(7) 教育漢字外当用漢字の読みについては，当時の学習指導要領のもと，また，国語教科書で，全漢字（文字・音訓とも）を新出漢字としては提出し難い状況（このため，巻末付録等を利用しての漢字表が配慮されている）であるため，文字としても読めないものを残している。各教科書で未提出，一般に使用度の低い文字は読めない。また，教育漢字でさえそうであったように，音訓という観点からでは，読めないものがいつそう多くあるという実態が示された。

なお，小学校で学習ずみとなる教育漢字についても，読みに抵抗のあったような音訓のすべてを，中学校の使用国語教科書で提出しきれない。また，教育漢字外当用漢字では，使用の全教科書にわたっても，未使用の文字（音訓）があるという現実の問題が認められた。しかし，未提出でも読めているものもあり，中学生の漢字習得の経路について知ることができた。

(8) 教育漢字外当用漢字の書きについては，当時の学習指導要領では書くことまでは要求されていないにもかかわらず，中学生活に密着した，使用度の高いものの中には，書ける漢字として定着性の高いものがあるということがわかった。

(9) 当用漢字外のいわゆる表外字は，直接，学習指導の対象とはならないが，

固有名詞（地名・人名）や伝統的な文字表記として現存しているため，教科の学習や生徒をとりまく種々のマスメディアを通して，正しく読めるものが相当量あるという現象が示された。

また，表外字の読みの調査を通して，漢字習得の経路についてその大体を察知することができた。

(10) 読みについて，音訓という観点からすると，それが学習上重要視されるもの，一般に使用度の高いもの，関心興味の深いもの，印象の強いものなどはよく読めるが，日常生活で使用されなくなってきつつある語など（反現代語的な和語，文章語，漢語表現的なものなど）では読めない。義務教育終了段階では，漢字の読みは，音訓という観点からすると，相当アンバランスなかたちで習得されていることがわかった。

(11) 読み書き両方について調べたために，読み書きできる文字にはどういうものがあるか，どれくらいあるかなど，両者の関係，字種等について，その大体を知ることができた。

(12) 同じ漢字について，同一の生徒にくり返し調査した結果，文字習得の過程で，学習指導，その他の刺激を受けて，一度正しく読み書きできても，時間の経過その他によって，忘却，知覚あいまいなどにより，再び正答できない，しかも，習得が完了したと認めたあとでも，こうした習得上のゆれ現象があること，中学生になってもそれがあることが確かめられた。

(13) 上のことから，累積の成績と習得完了の成績に差があること，さらに習得上のゆれ現象があること，読みにおける音訓の習得のアンバランス，提出語による正答の違いなどから，漢字習得の過程，習得の構造がわかった。

(14) 3年間にわたる誤答反応の分析から，習得にいたる誤答の性格・特徴・種類，あるいは，読み書き調査の反応結果からの書字の習得の類型をさぐるなど，誤答現象の面から，習得との関係を知ることができた。

(15) 広く生徒の使用教科書の漢字出現状況を調査したために，中学生の漢字の読みの力は，国語教科書を中心とした漢字や語句の指導（読解指導）によって培われることはもちろんであるが，国語科以外の他教科の学習を通して

も，かなり得られるものであることが推察できた。

(16) 生徒の直接指導担当教師による3年間の国語学習の大体が，教師の記録や報告によってわかるので，どのような国語学習指導のもとに，調査の結果が生じたかが察せられる。また，調査校として，特に行きすぎた漢字学習は行なわれず，一般に行なわれている，あるべき漢字学習指導の状況下であったことがわかる。

(17) 8人の知能・学力・学習状況など，個人的な要因資料を整えておいたので，同一の教材（教科書等）を，同一の教師によって学習指導されたという共通の条件下でも，習得量，習得の型など，個人差を生じるという，文字習得における人的要因についても見ることができた。

(18) 習得とかかわりがあると思われる，知能・学力・読書力等の諸要因と漢字習得との関係がほぼ推察された。

(19) 事例調査の生徒と同学年の中学生の集団に対しても，事例調査における習得上の問題点についてのテストを行なってきたために，事例調査の結果や習得上の問題点が，特定生徒にかたよってあるものでなく，総体的に共通性のあるものであることが確められた。

(20) 習得上の問題点として考えられるいくつかの点について，集団による調査で確かめたために，問題点の所在，解釈，今後考慮すべきことなどの見当がついた。

(21) なお，この調査の一環として行なった中学校の漢字学習指導の実態に関する調査によって，当時の中学校における漢字学習指導が，実際にはどのように行なわれているかがわかった。

(22) 資料として，Ⅰ 中学校の教科書における漢字の出現状況に関する研究，Ⅱ 教科書の漢字出現状況一覧表（教育漢字外当用漢字），Ⅲ 当用漢字全数調査問題提出語形一覧(教育漢字・教育漢字外当用漢字)，Ⅳ 漢字習得に関する実態調査の文献を添えた。Ⅰ・Ⅱは各教科書における漢字の出現状況調査の方法や対成績との関係がわかり，また，各教科での使用状況が語句に即して一覧できるように，Ⅲは，調査の結果が，どのような問題，提出語に

よって生じたかがわかり，利用できるように，Ⅳは，諸文献の中から，本調査に関係，参考になるものという立場からとりあげたものである。

以上が結果のあらましである。

なお，報告書の組み立て，編集にあたっては，習得の実態に関する研究と習得要因に関する研究に大別し，さらに，資料性の豊かなものは資料編に納めるなどして，大きく連関をとりながらも，各自担当の部面の独立性はなるべく生かすように位置づけた。したがって習得の実態と要因との関係についての考察や記述も，担当部面でそれぞれに扱ったことを中心とし，新たに章を設けて，両者の関係について全体的に考察，論究することはさけた。また，「中学校の教科書における漢字の出現状況」の研究は，本来は習得要因に関する研究であるが，教科書漢字出現一覧表と対応させたものでもあり，利用上の便をも考えて，まとめて，資料編に位置づけた。この調査結果にもとづいて，教科書の漢字提出の習得要因としての考察は随所でとりあげられている。

最後に，この調査結果は，当時の教育課程において学習指導が進められた時点でのものであり，この調査が報告されるころには，新しい学習指導要領に準じた，小学校の漢字学習指導が開始されるから，習得の実態も次第に向上すると思われる。その意味で，この調査の時期的な意義について問われる点もあろうが，数量上のことはともかく漢字習得上の本質的な問題としてみられたことについては，今後も引き続き検討すべきものをもっていると考えられる。

また，将来，小・中学校の新学習指導要領による漢字の学習指導がじゅうぶん行なわれた段階での漢字習得状況の比較参考資料として利用していただけたらと願っている。

なお，この漢字習得に関する研究は，昭和39年から始められており，国立国語研究所年報16・17・18・19・20（昭和39年度～43年度）に，年次ごとの調査の中間報告がされている。　（芦沢　節）

第 2 編

漢字習得の実態に関する研究

第1章　当用漢字習得調査の方法と結果の概観

I　当用漢字全数読み書き調査の方法

中学生の漢字習得の実態を調べるために，諸調査を企画実施したが，当用漢字の習得状況は当用漢字全数読み書き調査によってみることにした。

A　当用漢字全数読み書き調査の方法

当用漢字全数読み書き調査の具体的方法は次のようである。

当用漢字全数読み書き調査（付 表外字の読み）　年間　2回

当用漢字1850字を当用漢字音訓表で認められている音訓すべてにわたって調査する。

従来の漢字調査方法では，当用漢字（教育漢字）を調査する場合，どちらかの音か訓で問題を作るが，この調査では，当用漢字音訓表で認められている音訓はすべて調査の対象とした。したがって1850字3122音訓について調べることになる。

まず，入学の時，当用漢字の全数1850字（3122音訓）を調査し，それを年間2回ずつ（各学年の1学期と3学期末）くり返し行なって，3年間継続する。同一の生徒にくり返して調査するので，正しく読み書きすることが定着したかどうか，すなわち習得が完了したか否かを確かめることができる。定着が認められた場合は，その文字を調査対象からはずして，新たに，表外字を加えていく方法をとった。

1.　調査方法と問題作成

(1)　漢字習得と調査方法

調査方法・調査の問題作成について述べる場合，この調査で，漢字習得とい

うことをどのように考え，調査方法にとり入れたかを明らかにしておく必要がある。

「習得」についての考察はあとに譲るが，漢字の習得といった場合，学習したその文字や語形を忘れることなく覚え，必要に応じて読み書きできるという段階から，さらに，その文字の性質・機能を知って，その文字の一般化や応用化ができる，その文字を含む未習の語句も類推して読み書きできるなど，年齢や能力や経験などによって，習得といわれるものの内容に段階や程度があるものと思われる。したがって漢字習得のための調査をする場合，厳密には，問題作成の上で，一つの文字について，いろいろな形で調べなければならず，現に，提出語形によって反応に異同が生ずる場合もある。しかし，多量の漢字調査を実施する際に，1文字について幾種類もの語形で調べる煩は全数調査そのものを困難にする危険性がある。そこで，新出漢字として学習途上にある中学生に対しては，学習した文字が誤まられたり，忘れられたりすることなく，正しく読み書きできた状態をもって習得とみなすこと，提出語形は，なるべく中学生にとって無理のない，親近性のあるものを対象とすることに努めた（文字によっては，1語だけでなく，2～3語にわたって調べる)。習得の条件をこのように限定したが，読みの場合は，一つの文字を音訓にわたって調べたこと，継続調査によって，習得の時間的確度を調べたことにより，習得調査として，より実態に近いものが把握できたと思われる。ここでいう文字の習得とは，以上のような条件下でのことである。

(2)　調査方法と問題

（読み）　当用漢字の全音訓にわたる。

カードによる1対1方式（個人調査）

問題例

通	交　通 通る　通う

教育漢字「通」（1音2訓の文字　ツウ/とおる　かよう）音訓をつくして問題を出すので，左図のように見出しの漢字のほか，その文字の音と訓が出るよ

うな語形をあらかじめカードに記入しておいて，それを読ませ，反応集計表に反応を詳しく記入する。

（調査法としていろいろの方法が考えられるが，小学6年生〈卒業ま近の児童〉にプリテストをしてみた結果，上記の方法が，音・訓の反応が出やすい。ペーパーテスト〈読みの記入かなづけ〉より，調査者にとって，漢字習得の度合いが判断しやすい——1対1方式なので，正しい読みの反応ぶり，1度で正しくすみやかに読める，読み渋りがある，誤りと気づいて訂正する，など，ペーパーテストの結果だけでは知ることのできない反応の程度・過程もみられる——テストの所要時間が早いなどの利点がある。）

（書き）

読みでは，全音訓を調べたが，書きでは，原則として生徒に親近性のある読み方のものをとり，問題があるもの，どちらともいえないものなどは，両方調べる。

問題用紙に記入させる集団調査形式。

文字の意味がはっきりとわかりやすいような文脈や語句を示して，目的の文字を記入させる。

問題例　「通」

「交〔通(つう)〕」または，「道を〔通(とお)〕る」で問題を出して，〔通(かよ)〕うという語形では出さない。

〔　(まど)　〕をあける。　西〔　(れき)　〕1965年。　など。

第1回調査での	教育漢字	16枚
テスト用紙	教育漢字外当用漢字	22枚

(3) 結果の整理

調査の結果は文字別の個人用整理カードおよび文字別の調査漢字整理表（8人共通）に，整理記入する。

その際，正答，誤答，無答の別を明記し，誤答は，その誤りをそのまま記入しておく。

読みの場合は，1対1方式のため反応の結果のみでなく，反応の過程や度合いも見ることができ，正答でも，◎(すみやかに確答）と，○(渋っての正答，自信のない正答。誤答したが自分で気づいて訂正する）の，二種類に分けた。

書きでは，判定者が，明らかにその字として判断できれば，いわゆる点画の長短，方向，とめるかはねるか，つけるかはなすかなどについて，あまり，些末な点にまではこだわらない（ことに，急いで書いたために字形が整わないで上記のチェック点がある時など）方針によったが，上記のような点画の不備のために字形としての構成上の欠陥にまで及ぶもの，字義が変わるもの，たとえば，次のような場合は，判定基準を厳密にした。

〔例〕長短によって字形・字義も変わる場合

土と士　　未と末

点の有無に関するもの

専（×尃）博（×博）

つき抜けるか，とめるかに関するもの

券（×券）　募（×募）　純（×純）

(個人用整理カード) (40ページ上の図)

パンチカードを用い，全数調査の読み書きの結果を文字別・個人別にカードに記入する。

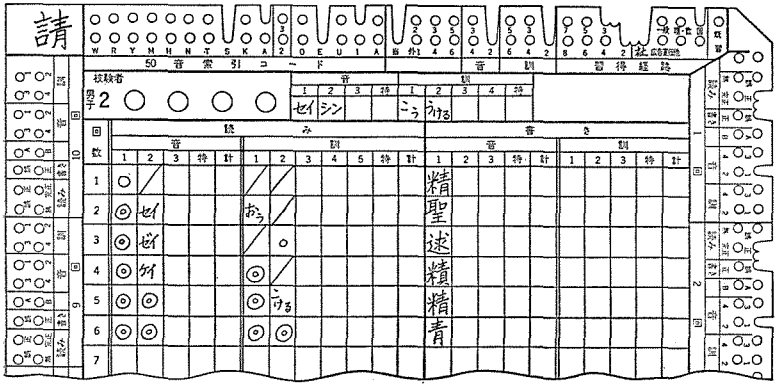
読み書きの結果は，調査回数別に音訓それぞれの位置に記入，カード化する。

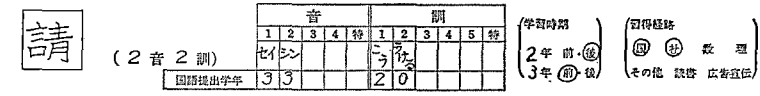
正答◎　○（両者の区別は，◎がすみやかに正しく読めたのに対し，○は渋り読み，ためらい読みあるいは一度誤ったが，のち，みずから正しく読み直したものを示す）

誤答　誤りをそのまま記入

無答　／

周囲はコード化してあって，各回の調査時の結果，読み書き成績の別，音訓の成績の差など，目的に応じてパンチを入れ，整理を簡便にすることができる。8人各自に，調査字数の個人用整理カードがある。





年用漢字

音		男子1	2	3	4	女子1	2	3	4	計 ○	×
1 セイ 請求	1回	◎	○	◎	○	/	/	/	/	4	
	2	◎	◎	◎	○	◎	◎	/	/	6	
	3	◎	◎	◎	◎	◎	○	/	◎	7	
	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8	
	5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8	
	6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8	
	7										
	8										
2 シン 普請	1回	/	/	/	セイ	/	/	/	/	0	1
	2	セイ	セイ	セイ	/	/	/	/	/	0	3
	3	セイ	セイ	セイ	セイ	/	○	/	/	1	4
	4	セイ	ケイ	◎	/	/	セイ	/	/	1	3
	5	◎	◎	◎	セイ	/	セイ	/	/	3	2
	6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	/	◎	7	
	7										
	8										
3	1回										

訓		男子1	2	3	4	女子1	2	3	4	計 ○	×
1 こう 請う	1回	/	/	/	/	/	/	/	/	0	
	2	/	おう	/	/	/	/	/	/	0	1
	3	/	/	/	/	/	/	/	/	0	
	4	/	◎	すくう	/	/	/	/	/	1	1
	5	/	◎	○	/	◎	/	/	/	3	
	6	/	◎	○	/	/	/	/	○	3	
	7										
	8										
2 うける 請け負う 請け	1回	/	/	/	/	/	/	/	/	0	
	2	/	/	/	/	/	/	/	/	0	
	3	○	○	/	/	/	/	/	/	2	
	4	◎	/	◎	/	/	/	/	/	2	
	5	◎	こ/る	◎	/	/	/	◎	/	3	1
	6	○	◎	◎	◎	/	◎	○	/	6	
	7										
	8										
3	1回										

誤字評点												
	1	○	○	○	○	/	○	/	/	4		
	2	○	○	○	○	○	○	/	/	6		
	3	○	○	○	○	○	○	/	○	7		
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	8		
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	8		
	6	○	◎	○	○	○	○	○	○	8		
	7											
	8											

書字評点												
請求書を出された	1	/	精	清	精	倩	/	/	/	0		
	2	○	聖	精	精	/	/	/	精	1		
	3	○	迷	精	/	○	/	/	○	3		
	4	○	精	○	/	○	○	/	○	5		
	5	○	精	○	/	○	○	○	○	6		
	6	○	青	○	青	○	○	○	○	6		
	7											
	8											

（調査漢字整理表）（40ページ下の図）

個人用整理カードに対して，用意した。

文字ごとに，各調査時の8人の調査結果が記入され，その文字について，8人の3年間の成績が一覧できるようになっている。

例〔請〕は，2音2訓の文字。500番は，この字が教育漢字外当用漢字の500番の文字であることを示す。「読み」では，音・訓の欄を設け，それぞれの反応を記入する。なお，問題として読ませた語形も示しておく。「書き」も同様。「書き」は結果がそのまま書字評点となるが，「読み」では，読字評点の方では，音・訓どちらかが読めていれば，その文字を正答とする観点で評価しなおしてある。

上方，文字の横は〔請〕の字の教科書の出現状況を示す。中央は，国語教科書での出現状況で，〔請〕の字は2年で訓「こう」で初出，3年で，音「セイ・シン」が読み替えで提出され，訓「うける」は未出であったことを示す。学習時期は国語での学習を示す。2年後期（「請う」）3年前期（要請・普譜）に学習したことがわかり，成績との関係を知ることができる。右端は，他教科やその他の学習経路がわかるように設けたもの。主として，表外字の習得経路を考えたものであるが，教育漢字外当用漢字の場合は，他教科の出現状況もあわせみることができる。「請」は社会科でも出ている。

なお，〔請〕の下の「　年用漢字」は，教育漢字の場合の漢字配当学年を示す。

2.　調査の時期および実施

(1)　調査の時期・実施

第1回　当用漢字の全数読み書き調査（付　表外字の読み 100字）

39年4月28日～7月15日（延べ13回）

教育漢字の読み→書き→教育漢字外当用漢字の読み→書き→表外字の読みの順で実施した。

1回のテスト所要時間は，放課後の時間を利用するので，1～2時間。

第2回　当用漢字の全数読み書き調査（付　表外字の読み 220字）

39年12月10日～40年3月25日（延べ11回）

間に期末試験や学校の諸行事があったために，1・2月（中旬まで）は実施していない。〈12月10日～22日（4回）2月24日～3月25日（7回）〉

第3回　当用漢字の全数読み書き調査（付　表外字の読み 322字）

40年6月18日～7月21日（延べ　10回）

（1回のテスト所要時間は，放課後の時間を利用し，約2時間。1年の時より，教育漢字など消却文字がふえてきたのと，生徒のテスト慣れなどで，調査の延べ回数は減ってきた）

第4回　当用漢字全数読み書き調査（付　表外字の読み 668字）

41年3月14日～3月24日（延べ8回）

（調査に慣れてきて，読みなど反応が早くなる。1回の調査時間がときに2時間を越えても，間に小休止があれば可能。）

第5回　当用漢字全数読み書き調査（付　表外字の読み 1000字）

41年7月8日～7月23日（延べ9回）

（1・2年の時より消却文字がふえてきたので調査時間は短縮気味だが，表外字増によって，延べ回数はふえている）

第6回　当用漢字全数読み書き調査（付　表外字の読み 1000字）

42年3月2日～3月14日（延べ7回）

（2月中は，期末試験，高校進学試験などがあるため，3月に集中して調査を実施した。授業のない日には，途中に休み時間をとって1回の調査に3時間近くをかけたときもある）

(2) 調 査 の 場 所

3年間の調査のうち，1年入学時の第1回めの中学校図書室での調査を除いては，すべて研究所で実施した。途中の事故をおそれて室員が必ず学校までの出迎え・送り届けを3年間実施したが，このことは，途中で生徒と親しく話し

合うことができて，調査者・被調査者という関係を越えた人間的な接触をもつことができ，この調査をあまり心理的な負担をかけず，順調に進めることができたと思っている。

Ⅱ　結果の概観

1.　量的観点からみた習得状況

8人の事例調査対象生徒（以下8人の生徒と呼ぶ）に，その入学時から卒業時まで，6回にわたって実施した当用漢字の全数（音訓）読み書き調査（表外字も含む）の結果を数量的にみると次のようである。

(1)　文字中心，累積方法からみた場合

1)　全体的習得状況

この全数調査の一つの特徴は，読みの調査では，当用漢字1850字について，当用漢字表による全音訓（3122音訓）を調査の対象としたことであるが，整理の際に，文字の読みの力を音訓にわたって考慮に入れるか，あるいは，文字中心に考えて，音訓いずれかの読み方で読めていればよいとするかによって，読みの成績が相当違ってくるということが実証された。

まず，従来の漢字調査の結果と比較するために，従来行なわれた漢字の諸調査の調査方法・整理方法と同様に，読みについては，その文字の音訓どちらかで正しく読めているものは正答として整理集計してみると，中学入学から卒業まで，すなわち義務教育終了までの8人の生徒の漢字の読み書きできる力は，第1表（53ページ）のようになる。

第1表の数字は，当用漢字全数を，8人全員が読めたり書けたりした文字数（正答率100％の文字の数）はどれくらいあるか，7人正答の文字数はいくつかというように，被調査者が正しく読み書きできた正答文字数を，教育漢字・

教育漢字外当用漢字別にみたもので，同時に実施した，表外字の読みの結果も添えてある。

この第1表で，読めた（正答）というのは，前述のように1字のもつ音訓をすべてつくして読めたという数でなく，音訓すべてにわたって読めたものはもちろん，音訓どちらか読めたものも入れた数字である。

このように，従来の調査・整理方法の観点をとると，8人の生徒の漢字力は，中学の入学時から2年時を経て次第に伸び，3年卒業時までには相当の習得の伸びが認められる。

この従来の整理方法からすると，8人全員（100%）が正答した文字数という観点からしても，義務教育終了時までに

1　教育漢字は，いずれかの読み方では全数（881字）読めるようになる。

2　教育漢字外当用漢字（969字）も，全数とまではいかないが，1人あたりその90%近く（863字）までは読めるようになる。

3　教育漢字を書く力は，義務教育終了までに，その全数881字が書けるように要請されているが，目標までには達し得ず，87.5%(771字）にとどまっている。

4　しかし，書くことまでは要求されていない教育漢字外当用漢字の中に，相当数（205字，21.2%）の書ける漢字がある。

5　教科書では，ルビ付きで使用され，直接学習指導の対象にはなっていない表外字が，比較的使用度の高い1000字ほど（1018字）のうち，1割には満たないとしても共通に読める漢字群（64字〈46字＋18字〉）がある。表外字は学習によらない，個人的，環境的，偶然的な習得因子による自然習得（教育による計画的学習による習得に対してのもの）が多いから，正答反応が集中化されないが，異なりの延べ字数（字種）としてはかなりの量となる，などが認められる。

＜注＞46字＋18字の18字は，第1～3回までの表外字調査で，全員が，2回にわたって正しく読めた文字数。第4回以降はこの18字を，テスト対象から省き，他の新しい文字を加えた。

2)　個人別習得状況

第1表と同様の観点から個人別に3年間の習得状況をみたのが，第2表（54ページ）である。この整理方法によって，個人別の習得文字数をみると，最高者と最低者との間には，かなりの開きがある。学校側に8人を選定してもらう際，学級内で中級という条件であったが，やはり個人差があり，卒業時には，最高者は当用漢字1850字中読み1845字（881＋964），書き1775字（881＋894）と，表外字の読み527字（＋18字），最低者は読み1762字（881＋881），書き1315字（837＋478），表外字の読み182字（＋18字），（教育漢字外当用漢字の書きなど，さらに低い男子もいるが，総体的に低いものの例をとった）という数字を示している。最高者と最低者の開きは，入学当初のころより，卒業時のほうが少なくなっていて，その限りでは，全般的に漢字力の向上が目だつ。8人平均では，3年末には，読み1821.3字（＋表外字の読み336.8字），書き1500.9字となり，この漢字の全数調査方式（累積の成績）によって，読みにおける音訓成績を従来どおりに扱った場合での，中学3年間の習得文字量の大体が推定されよう。

	＜読み＞		＜書き＞		＜表外読み＞	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時	入学	卒業
最高者	1637字	1845字	1207字	1775字	59字	545字
最低者	1205	1762	606	1315	28	200
（両者の差）	（432）	（83）	（601）	（460）	（31）	（345）
8人平均	1409.6	1821.3	866.4	1500.9	46.8	336.8

なお，上来みてきた習得文字量については，この調査の特殊性からくる条件下のものであることをつけ加えておきたい。

前述したように，この数字は，音訓にわたって調査したが，音訓を考慮して，音訓をつくしての整理ではないということのほかに，消却方式による整理方法が加味されている数字，すなわち累積の成績であるということである。

この調査の方法は，前章で述べたように，音訓にわたる全数調査という大量の調査文字を対象とし，なお，表外字についても調査を試みる必要上，被調査

者の調査文字の負担量を少なくするために，習得が完了した（読みでは音訓をつくして読め，しかも2回続けて正答できた場合，書きでは，2回続けて正しく書けた場合は，習得が完了した文字として扱う）文字として，被調査者の調査対象文字から消去したために，習得完了の文字については，人によって，文字によっては3年卒業調査時では，調査を実施していない文字がある。ことに教育漢字については，人によって習得完了の文字が多く出てきたので，正答できる同じ文字を何回もくり返して調査する煩をさけて消去していったので，このことが多い。教育漢字外当用漢字については，中学生になってから学習した文字であるため，音訓をつくして読めるようになるまでに時間がかかり，消去対象にする文字が少なかったので，調査文字はほとんど消去せずに3年間続けた。しかし，整理は，教育漢字に準じて行なった。したがって，卒業時の正答数の中には，それ以前の調査結果で，習得完了とみなし，その後は調査を実施しなかった文字の正答数も加えてある。すなわち，ある文字に関しては，累積正答数もあるということである。

上のような観点で整理した習得文字量を，A　個人別習得文字量，B　文字の側からみて8人全員がそろって正答できた文字量（Aの8人平均正答文字量より，Bの全員正答文字としてみた場合の量のほうが習得の密度は高い）とに整理してみると，第3表（55ページ）および第1～第3図（56ページ）のようになる。

グラフによると一見してわかるが，教育漢字の読みは，音訓からの観点をはずせば，各個人それぞれの習得文字数と，8人が全員そろって読めた文字数が一致してい，義務教育終了段階までには，教育漢字881字は，なんらかの読み方では全部読み得るということになる。教育漢字外当用漢字の読みは，中学にはいってから学習する文字であるだけに，教育漢字のように969字を読めるところまでには達し得ないが，入学時に比べると，各人が読める文字数も，8人共通に読めた文字数も，長足の伸びが認められ，学習の効果のあったことを示している。しかし，教育漢字のように9年間の学習経験を経ないだけに，各自の読めた文字数と，8人全員が読めた文字数とは一致していない。

教育漢字の書きは，入学時に比べれば，倍近くの進歩発達が認められるが，全数を書くには至らず（最高者は書けている），書けない文字を残している。教育漢字外当用漢字に至っては，それが書くことまでは要求されていない文字であるだけに，卒業時でも書けない字が多くある。しかし，入学時の書けた文字数と比べると，相当の進歩が認められ，卒業時に教育漢字が，8人そろっては書けなかった文字が110字あったのに比べて，8人そろって書けた文字が205字あったことは，教育漢字外当用漢字の書ける漢字を考えるとき，興味のある問題を提示しているといえる。なお，教育漢字外当用漢字が書けるようにする漢字としては学習されなかったことから，卒業時の8人平均の正答文字数と8人がそろって書けた文字数との上に開きがあることが，他の教育漢字・教育漢字外当用漢字の読み，教育漢字の書きに比べて目だち，教育漢字外当用漢字の書く字としての特殊性が物語られている。

第3図は当用漢字1850字の到達目標に対して，どの程度まで迫り得たかをみたもの。個人によって程度の差があろうが，中学生の文字習得（読み書き）の相は，だいたいこうしたものではなかろうかと考えられる。

(2)　音訓および習得完了という観点から整理した場合

前にも述べたように，この調査は，読みの場合，音訓をつくして調査したために，また，同一人に対して3年間にわたって，同じ調査を継続実施したために，(1)でみた数字がそのままその文字の完全な習得数であると言いきれない状況，漢字の習得ということについて問題のある実態をあわせもっていることが認められた。このことは，後に章を改めて詳述するが，そうした観点に立って習得の数量を見ると，(1)の累積方法でみた場合とは異なってくる。

1)　教育漢字の読み書き

第1回入学時の調査結果で，表われてきたことであるが，読みにおいて，その文字の音訓をつくして調査してみると，教育漢字の低学年用のごく平易な文字（例――川　下　青など）でも，それがある読み（かわ　カ　あお）では100％読めても，他の読み（セン　もと　ショウ）では正しく読めない，読み

に抵抗があるという現象，すなわち，読みにおける音訓の正答反応の不均衡（音訓習得のアンバランス現象）があることが，習得上の問題点として出てきた（国語研究所年報16—昭和39年度参照）。したがって，当用漢字音訓表に認められている音訓にわたって，その文字がどのように読めるか，また，完全に習得したと認めうる文字という立場（2回続けて正答できた文字は，習得が定着した文字，習得完了の文字とみなす）ではどうか，さらに書く力との関係からみるとどうかなど，習得状況を厳密に個人別に調べてみたのが，第4表・第5表で，この観点からすると，習得の文字数は減少する。

第4表（57ページ）は教育漢字の読み書きについて，習得状況を厳密に調べたものである。まず読みでは，音訓をつくしてその文字が読めているかどうかという観点から，音訓どちらかでしか読めていない場合は，習得完了とはみなさない（第2表では，正答文字として数えてある），さらに，続けて2回正しく読めていなければ習得完了とはみなさないという立場で整理したもの。各人の習得表で上段の数字は習得が完了した文字数，下段の%は，その習得文字数が教育漢字881字に対してどの割合いまで読めたかの比率，中央の（　）内の字数は，前回の調査時から次の調査時までにどれだけの文字を習得できたか，新しく習得した文字数を示したものである。書きの成績は，特に音訓からの観点はないが，2回続けて正答できたという観点に立って整理した数字，読み書きともは，以上のような観点で整理した結果，読みで完了し，さらに書きでも完了している，最も完了度の高い習得文字数としてみた場合のものである。

この観点からすると，読みでは，第2表でみたように，3年卒業時，とにかく881字読めた教育漢字も，少ない人で20字，多い人で120字，平均61字は，問題を残していることになり，文字としては読めても，音訓をつくしては読めない文字が残る，読みの上で，音訓上の問題の多いことがわかる。

書きでも習得完了という観点をとると，習得文字数は減ってくる。しかし，書きでは，読みのように，音訓からの観点が伴わないので，読みに比べると，最後に残った文字数は少なく（少ない人1字，多い人68字，平均33字），一見奇異に感じられるであろうが，読みでは，音訓をつくして読めた場合の習得数

であり，書きでは，読みやすいどちらかの読みの，親しい語形で書けた文字であるからである。また，小学校から書くことを積み重ねて来た文字であるため，習得度もかなり定着しているからである。なお個人別にみて残った文字が多くて68字，平均33字でありながら，第1表でみた場合，全員100％が正しくは書けなかった文字110字と比べると，少ないと思われるが，これは，個人によって書き残った文字の字種に異同があるからで，それらの総和が110字となるからである。

読み書きともに習得という立場からでは，習得し残した文字数の少ない人で21字，多い人で170字，平均90字ほどの文字が残ることがわかる。

第2表の一般的な厳密な整理によらない結果と比較してみると，両者の関係がさらに判然とするであろう。

なお，第4表では，各人が，調査時ごとに習得していった文字数を（　）内に示しておいたが，最終段階で習得度に高低の差があっても，各自それなりに努力のあとがみられる。なお，読みで習得でき，書きで習得でき，さらに読み書きで習得できる，完全にその文字が習得できるようになる過程が，この数字を通しても知ることができる。

2)　教育漢字外当用漢字の読み書き

同様の観点で，教育漢字外当用漢字の習得状況を厳密に調べたのが第5表（58ページ）の教育漢字外当用漢字習得状況一覧表である。

これによると，いずれかの読み方では相当よく読めた教育漢字外当用漢字も，音訓の上からは，少ないもので74字，多いものは440字，平均240字（24.8％）も，完全には読めない音訓をかかえた文字を残していることがわかる。また，書きにおいては，138字～643字，平均432字（44.7％）が書けない字として残り，読み書きともに完了した文字となると，193字～714字，平均520字（53.8％）もの大量の数にのぼるほどである。もっとも，教育漢字外当用漢字は，中学生になってから学習する文字であり，しかも使用した国語教科書での未提出文字は165字（未提出音訓は335音訓〈276音・59訓〉）もあるから，習得文字数（音訓数）も低くなる。また，書字では，書くことまでは要求されて

いないから，書字学習は弱体になる。読み書きできる文字としての定着性は教育漢字に比べると，おのずから低くなるわけである。

3)　個人別習得完了の文字数

この3年間にわたる個人別習得完了の文字数をグラフで示したのが，第4・第5図（59ページ）である。教育漢字か教育漢字外当用漢字かの字種の違い，読み書きの違い，8人のそれぞれによって，習得完了を示すグラフの曲線が異なる。小学校からの継続学習文字である教育漢字は，各人によるカーブの開きがあまりなく，目標数への集中化の傾向がある，音訓習得を考慮に入れたために，小差ではあるが読みのほうが書きより上下差があり，目標へのへだたりもある。これと対照的なのが教育漢字外当用漢字で，各人の差，読み書きの差，目標数へのへだたりなど，中学生になってからの学習漢字であることを各曲線が示している。

4)　調査時ごとの習得文字数

厳密な意味での習得という立場からみた場合の，毎回の調査時ごとの新しく習得された文字数，（　）内の数字を一覧表にしてみたのが第6表（60ページ）であるが，調査時前期分・後期分を加えたものが，年間の新しい習得数ということになり，各人の習得の様相もこれによって推察される。

読みの習得量に比べて，書きの習得量が少ないもの，両者の習得量の開きが比較的少ないもの，初めに相当量を習得し，しだいに少しずつ習得が定着していくもの，各学年平均的に習得していくもの，学年を重ねるに従って習得度を加えていくものなど，習得の文字数，習得の型・傾向などに個人差があって，いちがいに言えないが，しかし，年間の習得可能な文字数を推定することができよう。

5)　漢字習得にみられる段階性

最後に，第1の観点で整理した場合の正答文字数（第2・3表）と第2の観点で整理した場合の習得完了文字数（第4・5表）との間にかなりの差があることに注目されるが，実はここに漢字調査時の成績と，その成績の内実の相，成績の定着化――習得との関係が認められるのである。

昭和28年来，小学生の言語能力の調査の際にも，6年間同一児童の文字力の追跡調査をして（規模は小さいが），習得のゆれの現象のあることを認め，漢字習得上の問題点として注意したが（報告書「小学生の言語能力の発達」74ページ参照）今回，全数調査（音訓調査）を行なって，この問題の核心にふれた感をいだいた。

漢字習得上のこの現象を，習得における仮習得と習得との関係，漢字習得における螺旋的構造としてとらえたいと思うが，そのことについては，後章で考察を加えたい。

(3) 表外字の得習

表外字については，別章で述べるが，結果について概観しておこう。

調査文字量は負担量などをも考慮し，3年間にだいたい1000字を目安としたが，実際は2年後期第4回調査の際に，それまで8人全員が正答した18字を消去した上での3年前・後期の1000字であるから，表外字の調査文字総数は1018字となる。したがって，第4回以降の100％（8人）正答の文字数に18字を加えたものが，最終的な成績となり，個人成績も，それぞれ18字を加えた文字数が習得文字数となる。

表外字の1年入学時から卒業時までの調査結果を数量的にみた第1表では，全員正答数は1年入学時の16.2％が最高で，3年卒業時は4.6％と低くなっている。このことは，調査文字数がしだいに多くなっていること，表外字が学習漢字ではなく，何らかの個人的偶然性によって接近することが多い――共通性に乏しい――ということ，1年の100字は表外字としての出度数の高い文字であるが，3年の1000字は，全員正答18字を除いた，各表外字選定資料の共通出現回数のしだいに低くなっているものであるからであろう。

また当用漢字の読みが，学年とともに上昇発達の度が高く，全員正答の文字数が伸びているのに比べると，表外字の全員正答字数は必ずしもそうではないという対照的な結果が出ている。一方，個人別にみた表外字の取得数は学年とともに伸びているが，3年卒業時には，前期よりも少ないものがある。これは

別因が考えられるが(後述)，表外字の性格を表わした数とみることができる。

他教科の学習で，地名・人名などをはじめ，マスコミその他の視覚的な媒体を通して共通に接近する文字もあるが，表外字の性格上，より多く個人的，偶然的な機会によって習得される。表外字の文字数は非常に多いだけに，使用度が低い文字になると，正答率はいっそう低くなる。3年間の成績は，一面では表外字習得の発達を示すとともに，反面では，表外字習得の特殊性を示していると思われる。

（第1表）　当用漢字（表外字も含む）全数読み書き調査結果一覧

	教育漢字（881字）												教育漢字外当用漢字（969字）												表外字					
	読み						書き						読み						書き						読み					
	第1回（入学時）	第2回（1年後）	第3回（2年前）	第4回（2年後）	第5回（3年前）	第6回（卒業時）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	100字	218	322	667	1000	1000
																									1	2	3	4	5	6
正答100%（8人正答）	字 813 % (92.2)	855 (97.1)	877 (99.5)	877 (99.5)	879 (99.8)	881 (100)	355 (40.3)	478 (54.3)	581 (65.9)	685 (77.8)	732 (83.1)	771 (87.5)	193 (19.9)	402 (41.5)	547 (56.5)	678 (70.0)	752 (77.6)	863 (89.1)	17 (1.8)	30 (3.1)	67 (6.9)	108 (11.1)	156 (16.1)	205 (21.2)	* 16 (16.2)	11 (5.0)	31 (9.6)	*** (57) 39 (5.8)	*** (78) 60 ** (6.0)	*** (64) 46 ** (4.6)
87.5% 7人	56 (6.4)	23 (2.6)	4 (0.5)	4 (0.5)	2 (0.2)		159 (18.0)	134 (15.2)	140 (15.9)	108 (12.3)	89 (10.1)	74 (8.4)	120 (12.4)	141 (14.6)	130 (13.4)	90 (9.3)	80 (8.3)	51 (5.3)	22 (2.3)	32 (3.3)	59 (6.1)	103 (10.6)	135 (13.9)	146 (15.1)	10 (10.1)	8 (3.7)	39 (12.1)	47 (7.0)	53 (5.3)	62 (6.2)
75.0% 6人	9 (1.0)	2 (0.2)					118 (13.4)	101 (11.5)	92 (10.4)	59 (6.7)	42 (4.8)	23 (2.6)	112 (11.6)	106 (10.9)	80 (8.3)	59 (6.1)	40 (4.1)	23 (2.4)	29 (3.0)	42 (4.3)	65 (6.7)	126 (13.0)	134 (13.8)	157 (16.2)	7 (7.1)	18 (8.3)	26 (8.1)	49 (7.3)	81 (8.1)	70 (7.0)
62.5% 5人	3 (0.3)	1 (0.1)					75 (8.5)	63 (7.2)	30 (3.4)	20 (2.3)	13 (1.5)	9 (1.0)	80 (8.3)	78 (8.0)	54 (5.6)	34 (3.5)	37 (3.8)	13 (1.3)	34 (3.5)	51 (5.3)	71 (7.3)	99 (10.2)	129 (13.3)	130 (13.4)	11 (11.1)	16 (7.3)	26 (8.1)	48 (7.2)	72 (7.2)	69 (6.9)
50.0% 4人							73 (8.3)	47 (5.3)	24 (2.7)	7 (0.8)	2 (0.2)	4 (0.5)	90 (9.3)	55 (5.7)	42 (4.3)	28 (2.9)	23 (2.4)	8 (0.8)	53 (5.5)	74 (7.6)	82 (8.5)	103 (10.6)	115 (11.9)	112 (11.6)	10 (10.1)	23 (10.6)	37 (11.5)	71 (10.6)	74 (7.4)	82 (8.2)
37.5% 3人							53 (6.0)	38 (4.3)	10 (1.1)	2 (0.2)	3 (0.3)		87 (9.0)	45 (4.6)	24 (2.5)	23 (2.4)	12 (1.2)	5 (0.5)	64 (6.6)	80 (8.3)	118 (12.2)	104 (10.7)	110 (11.4)	79 (8.2)	5 (5.1)	13 (6.0)	21 (6.5)	63 (9.4)	85 (8.5)	107 (10.7)
25.0% 2人							30 (3.4)	13 (1.5)	3 (0.3)	0	0		76 (7.8)	47 (4.9)	25 (2.6)	18 (1.9)	9 (0.9)	5 (0.5)	91 (9.4)	115 (11.9)	124 (12.8)	116 (12.0)	82 (8.5)	64 (6.6)	7 (7.1)	29 (13.3)	23 (8.7)	69 (10.3)	106 (10.6)	88 (8.8)
12.5% 1人							15 (1.7)	5 (0.6)	1 (0.1)	0	0		83 (8.6)	49 (5.1)	36 (3.7)	23 (2.4)	8 (0.8)	1 (0.1)	149 (15.4)	180 (18.6)	148 (15.3)	113 (11.7)	74 (7.6)	55 (5.7)	8 (8.1)	29 (13.3)	44 (13.7)	116 (17.4)	154 (15.4)	158 (15.8)
0% 0							3 (0.3)	2 (0.2)	0	0	0		128 (13.2)	46 (4.7)	31 (3.2)	16 (1.7)	8 (0.8)	0	510 (52.6)	365 (37.7)	235 (24.3)	97 (10.0)	34 (3.5)	21 (2.2)	25 (25.3)	71 (32.6)	70 (21.7)	165 (24.7)	313 (31.5)	317 (31.7)

〔注〕　*　表外字の第1回文字数は100字であるが、印刷上のミスから実際は99字について整理してある。第2表も同様。
　　**　調査文字数は1,000字であるが、印刷上のミスから実際は999字について整理してある。
　　***（　）内の数字は第3回調査時までに習得できた18字を加えた数。

(第2表)

個人別成績一覧

	教育漢字 (881字)												教育漢字外当用漢字 (969字)												表外字					
	読み						書き						読み						書き						読み					
	第1回(入学時)	第2回(1年後)	第3回(2年前)	第4回(2年後)	第5回(3年前)	第6回(学業時)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
男子	字																											*	*	*
1	880	881	881	881	881	881	843	864	875	879	880	881	757	886	908	935	955	964	364	490	628	751	853	894	59	90	195	(432) 414	(586) 572	(545) 527
	%																													
	(99.9)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(95.7)	(98.1)	(99.3)	(99.8)	(99.9)	(100)	(78.1)	(91.4)	(93.7)	(96.5)	(98.6)	(99.5)	(37.6)	(50.6)	(64.8)	(77.5)	(88.0)	(92.3)	(59.6)	(41.3)	(60.6)	(62.1)	(57.3)	(52.8)
2	875	880	881	881	881	881	689	721	775	828	832	851	604	774	816	881	904	934	122	170	242	305	379	443	49	78	120	(185) 167	(352) 334	(369) 371
	(99.3)	(99.9)	(100)	(100)	(100)	(100)	(78.2)	(81.8)	(88.0)	(94.0)	(94.9)	(96.6)	(62.3)	(79.9)	(84.2)	(90.9)	(93.3)	(96.4)	(12.6)	(17.5)	(25.0)	(31.5)	(39.1)	(45.7)	(49.5)	(35.8)	(37.3)	(25.0)	(33.4)	(37.1)
3	877	881	881	881	881	881	802	839	868	874	879	878	545	754	840	887	912	946	183	276	428	557	703	747	42	56	122	(196) 178	(289) 271	(246) 228
	(99.5)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(91.0)	(95.2)	(98.5)	(99.2)	(99.8)	(99.7)	(56.2)	(77.8)	(86.7)	(91.5)	(94.1)	(97.6)	(18.9)	(28.5)	(44.2)	(57.5)	(72.5)	(77.1)	(42.4)	(25.7)	(37.9)	(26.7)	(27.1)	(22.8)
4	880	881	881	881	881	881	646	713	770	794	819	840	720	818	853	894	909	953	141	181	246	337	384	464	62	93	151	(324) 306	(362) 344	(359) 381
	(99.9)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(73.3)	(80.9)	(87.4)	(90.1)	(93.0)	(95.3)	(74.3)	(84.4)	(88.0)	(92.3)	(93.8)	(98.3)	(14.6)	(18.7)	(25.4)	(34.8)	(39.6)	(47.9)	(62.6)	(42.7)	(46.9)	(45.9)	(34.4)	(38.1)
女子	879	879	881	881	881	881	756	795	844	868	871	874	497	703	786	860	932	962	204	303	420	645	772	821	48	68	140	(260)	(331)	(368)
1	(99.8)	(99.8)	(100)	(100)	(100)	(100)	(85.8)	(90.2)	(95.8)	(98.5)	(98.9)	(99.2)	(51.3)	(72.5)	(81.1)	(88.8)	(96.2)	(99.3)	(21.1)	(31.3)	(43.3)	(66.6)	(79.7)	(84.7)	(48.5)	(31.2)	(43.5)	242 (36.3)	313 (31.3)	350 (35.0)
2	842	867	880	880	881	881	600	655	785	842	847	862	307	541	689	785	840	935	83	130	255	433	579	630	37	40	132	(159)	(265)	(179)
	(95.6)	(98.4)	(99.9)	(99.9)	(100)	(100)	(68.1)	(74.3)	(89.1)	(95.6)	(96.1)	(97.8)	(31.7)	(55.8)	(71.1)	(81.0)	(86.7)	(96.5)	(8.6)	(13.4)	(26.3)	(44.7)	(59.8)	(65.0)	(37.4)	(18.3)	(41.0)	141 (21.1)	247 (24.7)	161 (16.1)
3	853	868	878	878	879	881	524	642	724	787	829	837	352	528	609	737	797	881	82	132	198	344	422	478	28	33	95	(271)	(210)	(200)
	(96.8)	(98.5)	(99.7)	(99.7)	(99.8)	(100)	(59.6)	(72.9)	(82.2)	(89.3)	(94.1)	(95.0)	(36.2)	(54.5)	(62.8)	(76.1)	(82.3)	(90.9)	(8.5)	(13.6)	(20.4)	(35.5)	(43.6)	(49.3)	(28.3)	(15.1)	(29.5)	163 (24.4)	192 (19.2)	182 (18.2)
4	879	881	881	881	881	881	702	787	822	852	856	862	530	723	861	839	906	947	190	235	355	533	578	645	47	71	159	(310)	(361)	(368)
	(99.8)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(79.7)	(89.3)	(93.3)	(96.7)	(97.2)	(97.8)	(54.7)	(74.6)	(88.9)	(86.6)	(93.5)	(97.7)	(19.6)	(24.3)	(36.6)	(55.0)	(59.6)	(66.6)	(47.5)	(32.6)	(49.4)	292 (43.8)	343 (34.3)	350 (35.0)
平均	870.6	877.3	880.5	880.5	880.8	881	695.3	752.0	807.9	840.5	851.6	860.6	539.0	715.9	795.3	852.3	894.4	940.3	171.1	239.6	346.5	488.1	583.8	640.3	46.8	66.1	139.3	(255.9)	(315.0)	(336.8)
	(98.8)	(99.6)	(99.9)	(99.9)	(100)	(100)	(78.9)	(85.4)	(91.7)	(95.4)	(96.7)	(97.7)	(55.6)	(73.9)	(82.1)	(88.0)	(92.3)	(97.0)	(17.7)	(24.7)	(35.8)	(50.4)	(60.2)	(66.1)	(47.3)	(30.3)	(42.3)	237.9 (35.7)	327.0 (32.7)	318.8 (31.9)

(注) * ( ) の数字は第3回までに全員共通に読め、4回から調査文字としてはずした18字を加えた数。以下各人同様。

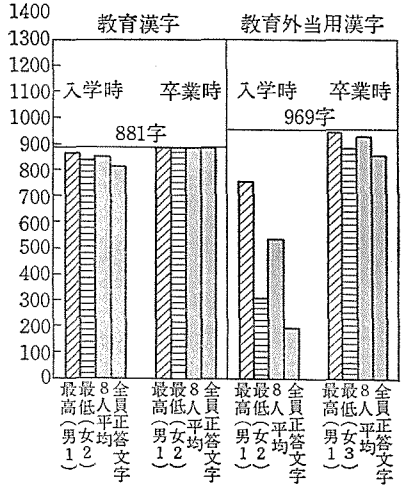
(第3表)　　習得文字量

(読み)		教育漢字(881字)				教育漢字外当用漢字(969字)				当用漢字(1850字)	表外字(1018字)	調査全数字(2867字)
		入学時	1年終了時	2年終了時	卒業時	入学時	1年終了時	2年終了時	卒業時	義務教育終了時	卒業時	卒業時
A	男 1	881字	881	881	881	757 ＊1638	886 1767	935 1816	964 1845	1845	545	2390
	2	875	880	881	881	604 1479	774 1654	881 1762	934 1815	1815	389	2204
	3	877	881	881	881	545 1423	754 1635	887 1768	946 1827	1827	246	2073
	4	880	881	881	881	720 1600	818 1699	894 1775	953 1834	1834	399	2233
	女 1	879	879	881	881	497 1376	703 1582	860 1741	962 1843	1843	368	2211
	2	842	867	880	881	307 1149	541 1408	785 1665	935 1816	1816	179	1995
	3	853	868	878	881	352 1205	528 1396	737 1615	881 1762	1762	200	1962
	4	879	881	881	881	530 1409	723 1604	839 1720	947 1828	1828	368	2196
	8人平均	870.6	877.3	880.5	881	539.0 1409.6	715.9 1593.2	852.3 1732.8	940.3 1821.3	1821.3	336.8	2158.1
B	文字の側から8人(100%)が正答できた文字数	813	855	877	881	193 1006	402 1257	678 1555	863 1744	1744	64	1808

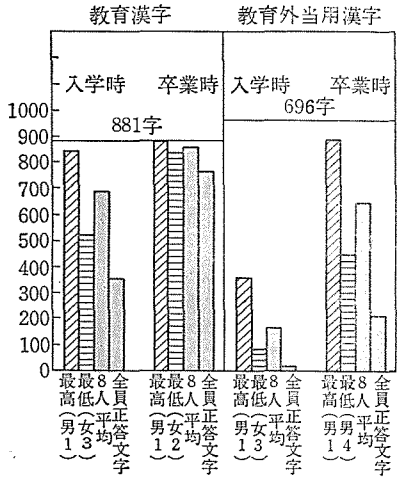
(書き)										
A	男 1	843	864	879	881	364 ＊1207	490 1354	751 1630	894 1775	1775
	2	689	721	828	851	122 811	170 891	305 1133	443 1294	1294
	3	802	839	874	878	183 985	276 1115	557 1431	747 1625	1625
	4	646	713	794	840	141 787	181 894	337 1131	464 1304	1304
	女 1	756	795	858	874	204 960	303 1098	645 1513	821 1695	1695
	2	600	655	842	862	83 683	130 785	433 1275	630 1492	1492
	3	524	642	787	837	82 606	132 774	344 1131	478 1315	1315
	4	702	787	852	862	190 892	235 1022	533 1385	645 1507	1507
	8人平均	595.3	752.0	840.5	860.5	171.1 866.4	239.6 991.6	488.1 1328.6	640.3 1500.8	1500.8
B	文字の側から8人(100%)が正答できた文字数	355	478	685	771	17 372	30 508	108 793	205 976	976

＊下段の数字は各調査時における教育漢字の習得数を加えた習得文字数を示す。

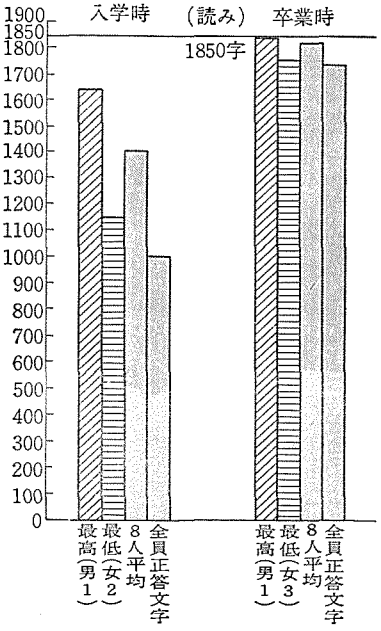
（第1図）　教育漢字・教育漢字外当用漢字の読み

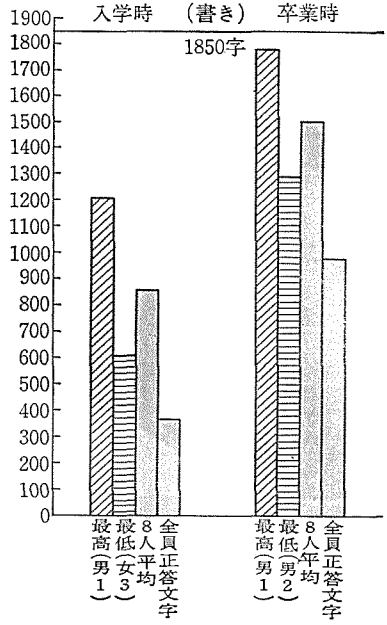


（第2図）　教育漢字・教育漢字外当用漢字の書き



（第3図）　当用漢字(1850字)の読み・書き





（第4表）

教育漢字習得状況一覧表

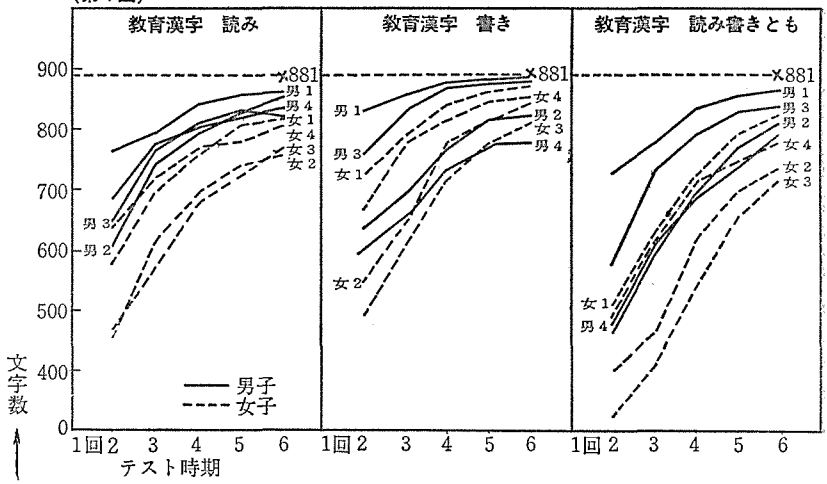
	読み						書き						読み書きとも					
	2回で完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残	2回完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残	2回完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残
男子	766字	799	842	853	861	20	831	859	873	879	880	1	726	782	835	851	860	21
		(33字)	(43)	(11)	(8)			(28)	(14)	(6)	(1)			(56)	(53)	(16)	(9)	
1	86.9%	90.7	95.6	96.8	97.7	2.3	94.3	97.5	99.1	99.4	99.9	0.1	82.4	88.8	94.8	96.6	97.6	2.4
	617	739	790	827	853	28	633	699	765	812	829	52	466	595	697	767	805	76
2		(122)	(51)	(37)	(26)			(66)	(66)	(47)	(17)			(129)	(102)	(70)	(38)	
	70.0	83.9	89.7	93.9	96.8	3.2	71.9	79.3	86.8	92.2	94.1	5.9	52.9	67.5	79.1	87.1	91.4	8.6
	654	769	806	829	836	45	778	833	866	872	877	4	584	730	793	821	832	49
3		(115)	(37)	(23)	(7)			(55)	(33)	(6)	(5)			(146)	(63)	(28)	(11)	
	74.2	87.3	91.5	94.1	94.9	5.1	88.3	94.6	98.3	99.0	99.5	0.5	66.3	82.9	90.0	93.2	94.4	5.6
	694	771	802	820	843	38	603	685	745	786	813	68	485	613	691	737	783	98
4		(77)	(31)	(18)	(23)			(82)	(60)	(41)	(27)			(128)	(78)	(46)	(46)	
	78.8	87.5	91.0	93.1	95.7	4.3	68.4	77.8	84.6	89.2	92.3	7.7	55.1	69.6	78.4	83.7	88.9	11.1
女子	579	692	759	807	836	45	722	783	838	864	870	11	501	620	725	792	825	56
		(113)	(67)	(48)	(29)			(61)	(55)	(26)	(6)			(119)	(105)	(67)	(33)	
1	65.7	78.5	86.2	91.6	94.9	5.1	82.0	88.9	95.1	98.1	98.8	1.2	56.9	70.4	82.3	89.9	93.6	6.4
	458	620	697	739	761	120	545	640	770	827	844	37	309	462	610	695	730	151
2		(162)	(77)	(42)	(22)			(95)	(130)	(57)	(17)			(153)	(148)	(85)	(35)	
	52.0	70.4	79.1	83.9	86.4	13.6	61.9	72.6	87.4	93.9	95.8	4.2	35.1	52.4	69.2	78.9	82.9	17.1
	463	572	674	723	769	112	488	616	701	778	816	65	272	406	538	655	711	170
3		(109)	(102)	(49)	(46)			(128)	(85)	(77)	(38)			(134)	(132)	(117)	(56)	
	52.6	64.9	76.5	82.1	87.3	12.7	55.4	69.9	79.6	88.3	92.6	7.4	30.9	46.1	61.1	74.3	80.7	19.3
	638	710	768	776	801	80	674	770	812	845	852	29	496	627	713	749	777	104
4		(72)	(58)	(8)	(25)			(96)	(42)	(33)	(7)			(131)	(86)	(36)	(28)	
	72.4	80.6	87.2	88.1	90.9	9.1	76.5	87.4	92.2	95.9	96.7	3.3	56.3	71.2	80.9	85.0	88.2	11.8
8人	608.6	709.0	767.3	796.8	820.0	61.0	659.3	735.6	796.3	832.9	847.6	33.4	479.9	604.4	700.3	758.4	790.4	90.6
平均	69.1	80.5	87.1	90.4	93.1	6.9	74.8	83.5	90.4	94.5	96.2	3.8	54.5	68.6	79.5	86.1	89.7	10.3

（第5表）

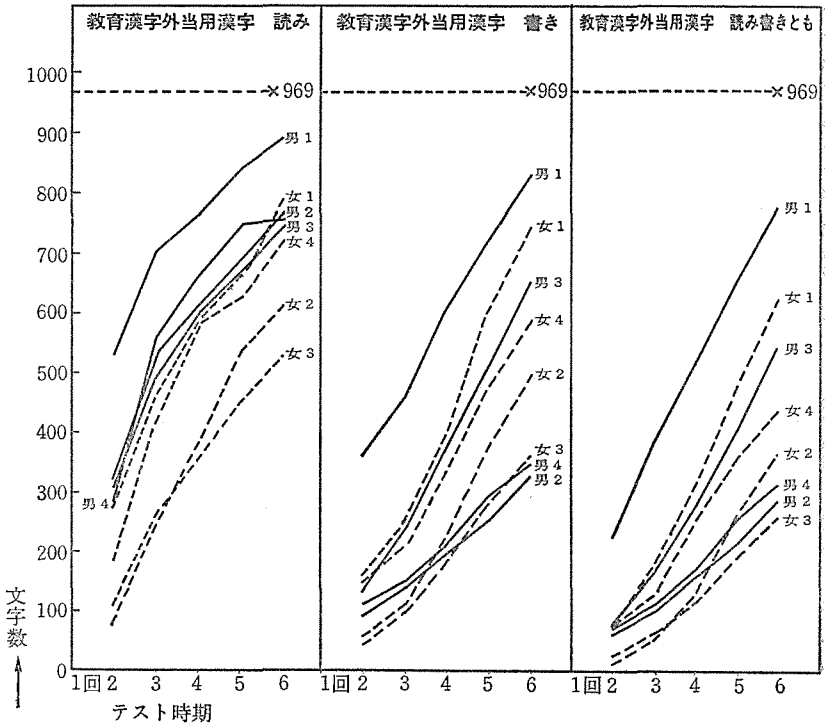
教育漢字外当用漢字習得状況一覧表

	読み						書き						読み書きとも					
	2回で完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残	2回完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残	2回完了	3回〃	4回〃	5回〃	6回〃	残
男子	533字	701	762	838	895	74	310	464	605	729	831	138	220	391	528	664	776	193
		(168字)	(61)	(76)	(57)			(154)	(141)	(124)	(102)			(171)	(137)	(134)	(114)	
1	55.0%	72.3	78.6	86.5	92.4	7.6	32.0	47.9	62.4	75.2	85.8	14.2	22.7	40.4	54.5	68.5	80.1	19.9
	320	524	614	697	767	202	93	142	200	257	326	643	51	100	159	214	290	679
2		(204)	(90)	(83)	(70)			(49)	(58)	(57)	(69)			(49)	(59)	(55)	(76)	
	33.0	54.1	63.4	71.9	79.2	20.8	9.6	14.7	20.6	26.5	33.6	66.4	5.3	10.3	16.4	22.1	29.9	70.1
	306	487	602	684	745	224	126	248	373	513	651	318	66	173	278	401	535	434
3		(181)	(115)	(82)	(61)			(122)	(125)	(140)	(138)			(107)	(105)	(123)	(134)	
	31.6	50.3	62.1	70.6	76.9	23.1	13.0	25.6	38.5	52.9	67.2	32.8	6.8	17.9	28.7	41.4	55.2	44.8
	298	558	663	746	765	204	105	149	203	293	353	616	54	109	165	252	307	662
4		(260)	(105)	(83)	(19)			(44)	(54)	(90)	(60)			(55)	(56)	(87)	(55)	
	30.8	57.6	68.4	77.0	78.9	21.1	10.8	15.4	20.9	30.2	36.4	63.6	5.6	11.2	17.0	26.0	31.7	68.3
女子	182	405	587	680	794	175	158	261	397	607	736	233	55	163	313	488	623	346
		(223)	(182)	(93)	(164)			(103)	(136)	(210)	(129)			(108)	(150)	(175)	(135)	
1	18.8	41.8	60.6	70.2	81.9	18.1	16.3	26.9	41.0	62.6	76.0	24.0	5.7	16.8	32.3	50.4	64.3	35.7
	74	242	379	534	617	352	57	109	223	376	497	472	12	56	130	260	362	607
2		(168)	(137)	(155)	(83)			(52)	(114)	(153)	(121)			(44)	(74)	(130)	(102)	
	7.6	25.0	39.1	55.1	63.7	36.3	5.9	11.2	23.0	38.8	51.3	48.7	1.2	5.8	13.4	26.8	37.4	62.6
	109	262	351	451	529	440	47	104	176	288	356	613	20	61	117	192	255	714
3		(153)	(89)	(100)	(78)			(57)	(72)	(112)	(68)			(41)	(56)	(75)	(63)	
	11.2	27.0	36.2	46.5	54.6	45.4	4.9	10.7	18.2	29.7	36.7	63.3	2.1	6.3	12.1	19.8	26.3	73.7
	293	454	588	626	715	254	140	210	334	476	540	429	69	134	251	354	437	532
4		(161)	(134)	(38)	(89)			(70)	(124)	(142)	(64)			(65)	(117)	(103)	(83)	
	30.2	46.9	60.7	64.6	73.8	26.2	14.4	21.7	34.5	49.1	55.7	44.3	7.1	13.8	25.9	36.5	45.1	54.9
8人	264.4	454.1	568.3	657.0	728.4	240.6	129.5	210.9	313.9	442.4	536.3	432.8	68.4	148.4	242.6	353.1	448.1	520.9
平均	27.3	46.9	58.6	67.8	75.2	24.8	13.4	21.8	32.4	45.7	55.3	44.7	7.1	15.3	25.0	36.4	46.2	53.8

(第4図)


教育漢字　読み
教育漢字　書き
教育漢字　読み書きとも
×881
男1
男4
女1
女4
女3
女2
男3
男2
男子
女子
文字数
テスト時期
1回 2 3 4 5 6

(第5図)


教育漢字外当用漢字　読み
教育漢字外当用漢字　書き
教育漢字外当用漢字　読み書きとも
×969
男1
女1
男2
男3
女4
女2
女3
男4
文字数
テスト時期
1回 2 3 4 5 6

(第6表) 調査時にみられる習得文字数一覧表

	教育漢字					教育漢字外当用漢字					当用漢字としてみた場合				
	2年前期 3回	2年後期 4回	3年前期 5回	3年後期 6回	残の数	3回	4回	5回	6回	残の数	3回	4回	5回	6回	残の数
男子 1 よみ	33	43	11	8	20	168	61	76	57	74	201	104	87	65	94
男子 1 かき	28	14	6	1	1	154	141	124	102	138	182	155	130	103	139
男子 1 よみ・かき とも	56	53	16	9	21	171	137	134	114	193	227	190	150	123	214
2	122	51	37	26	28	204	90	83	70	202	326	141	120	96	230
2	66	66	47	17	52	49	58	57	69	643	115	124	104	86	695
2	129	102	70	38	76	49	59	55	76	679	178	161	125	114	655
3	115	37	23	7	45	181	115	82	61	224	296	152	105	68	269
3	55	33	6	5	4	122	125	140	138	318	177	158	146	143	322
3	146	63	28	11	49	107	105	123	134	434	253	168	151	145	483
4	77	31	18	23	38	260	105	83	19	204	337	136	101	42	242
4	82	60	41	27	68	44	54	90	60	616	126	114	131	87	684
4	128	78	46	46	98	55	56	87	55	662	183	134	133	101	760
女子 1	113	67	48	29	45	223	182	93	164	175	336	249	141	193	220
女子 1	61	55	26	6	11	103	136	210	129	233	164	191	236	135	244
女子 1	119	105	67	33	56	108	150	175	135	346	227	255	242	168	402
2	162	77	42	22	120	168	137	155	83	352	330	214	197	105	472
2	95	130	57	17	37	52	114	153	121	472	147	244	210	138	509
2	153	148	85	35	151	44	74	130	102	607	197	222	215	137	758
3	109	102	49	46	112	153	89	100	78	440	262	191	149	124	552
3	128	85	77	38	65	57	72	112	68	613	185	157	189	106	678
3	134	132	117	56	170	41	56	75	63	714	175	188	192	119	884
4	72	58	8	25	80	161	134	38	89	254	233	192	46	114	334
4	96	42	33	7	29	70	124	142	64	429	166	166	175	71	458
4	131	86	36	28	104	65	117	103	83	532	196	203	139	111	636
8人均 よみ	100.4	58.3	29.5	23.3	61.0	189.8	114.1	88.8	71.4	240.6	290.1	172.4	118.3	94.6	301.6
8人均 かき	76.4	60.6	36.6	14.8	33.4	81.4	103.0	128.5	93.9	432.8	157.8	163.6	165.1	108.6	466.1
8人均 よみ・かき とも	124.5	95.9	58.1	32.0	90.6	80.0	94.3	110.3	95.3	520.9	204.5	190.1	168.4	127.3	611.5

第2章　当用漢字の習得状況—読み

質的観点からみた習得状況

前章では，当用漢字全数読み書き調査に対して被調査者がどのような正答反応を示し，どの程度の習得力をもっているかを数量的に見たのであるが，調査の結果を，文字の種類・性質などの質的観点から見ることもできる。

被調査者がよく読め，書けた字はどのような文字か，また，読み書きに抵抗のあった字はどれか，どういうところに習得上の問題点があるかを，字種に即してみることにしよう。

文字の側からの習得状況をみると，次のようになる。

I　教育漢字　1年入学時の読みの成績

1.　整理の観点と成績

教育漢字881字は，小学校の6年間に，それぞれの学年配当漢字として，国語の教科書に一応提出され（音訓はつくされていない）学習ずみの漢字である。小学校6か年の課程を終えて，中学へ入学後の調査でそれがどのくらい読めているかというと，前章でみたように，数量的には1人あたりの平均正答字数は，870.6字（8人平均）であった。この870.6字は，それぞれの生徒の読めた字数を平均したもので，字種については，8人共通の文字もあるが，めいめい独自に異なる文字もある。8人が共通に正答できた文字数はどれだけあるかというと，813字（第1表）である。この8人共通に正答できた813字は，教育漢字にも未学習音訓があるから，その文字の音訓はすべてをつくして読めた

という正答数ではない。この数字の中には，音訓をつくして読めたものはもちろん，どちらかの音なり訓なりで読めているものも，その文字としては正答できたとした場合の数字である。すなわち，「幸」の字の読みで，「コウ」の正答者7人，「さいわい」の正答者5人であった場合，「コウ」とは読めなかったある1人が，「さいわい」では正答できていれば，「幸」の字の正答数は8人とし，正答率100％の字というように整理した場合の数字である。

従来の漢字テストでは，語として，または，文脈中に位置づけて提出されているから，その読みはおのずから一定のものが要求されるわけであるが，この調査では，前章でみたように文字を中心にその読みを音訓にわたって調査したために，正答文字数を考える場合，音訓からの観点の差が出てくるわけである。

(1)　音訓を考慮した場合の成績

そこで，文字とその音訓ということを考慮し，一つの文字に対して音訓にわたるとどのように反応するかを整理してみると，習得の数量・様相もまた多少変わってくる。

(1)　全員（100%）がその文字の音訓をつくして正しく読めた文字
469字（53.2%）

(2)　全員（100%）がその文字のどちらかの音訓では正しく読めた文字
326字（37.0%）

以下は8人全員は正しく読めなかった文字

(3)　7人（87.5%）のものが読めた文字（成績のよい方での読みで）68字（7.7%）

(4)　6人（75.0%）〃　〃（　〃　）11字（1.2%）

(5)　5人（62.5%）〃　〃（　〃　）7字（0.8%）

このうち，(1)の469字は，さらに，(イ)(ロ)に分けられる。

(イ)　1音又は1訓の文字で100％読めたもの　245字（27.8%）

(ロ)　音訓ともにある文字で，音訓をつくして100％読めたもの
224字（25.4%）

音訓の側からみて，全員共通に正答反応のあった文字は，計795字（90.2％）となる。

したがって8人正答読字数といっても，次のような段階があることになる。

1)　8人平均正答読字数　870.6字
2)　8人（全員）共通の正答読字数　813　字
3)　8人（全員）が音訓の側からみて正読できた文字数　795　字
4)　8人（全員）が音訓をつくして正読できた文字数　469　字

8人（全員）音訓も加えた正答読字数　881字

8人平均正答読字数　870.6字		
8人（全員）共通の正答読字数　813字		
(イ)1音又は1訓文字100％正答245字	(ロ)音訓をつくして100％正答224字	どちらかの音訓では100％正答326字

そして，音訓をつくして全員が読めた(イ)(ロ)は，当用漢字の音訓表で認められている音訓の範囲内で完全に読めた教育漢字469字(53.2％）ということになり，その文字の読みを習得するという立場では，どちらかの読みかたで100％読めた(2)の漢字より，習得の度合いの深い，定着した漢字（特に〈ロ〉）ということがいえる。(2)のどちらかの音訓では正しく読めた326字は，生徒が学習で，あるいは一般読書その他で，その読み方を覚える，または，日常生活で多用され，目にふれる機会の多い音訓のほうでは読めても，そうでない他の音訓には，その読みに抵抗を示す文字ということになる。100％読めた漢字795字のうち，約半数は，音訓どちらかの読み方に抵抗があるということ，既習・未習ということを一応カッコの中に入れて，音訓表によるその文字の音訓という観点からすれば，小学校段階で読めることが要請されている教育漢字にも，読めない音や訓のあるという実情（未学習音訓があるから当然としても，現象の上で）読みにおける音訓の習得のアンバランスという実態を示しているといえる。

字種に即して見よう。

2.　読みの成績と字種

(1)　音訓の観点から全員が完全に読めた字

全員（100%）が完全に読めた字　469字（イ 245字　ロ 224字）

愛悪圧安案暗以囲位医委胃意育一員院運永英液駅円塩演王央
横応億恩温火加花科夏貨歌課賀界海械開階貝害革確格学活株
刊完官寒感漢関館観岸希汽季紀記規貴旗技義議旧休究急級球
牛挙共協教橋曲局近均禁銀区具空君訓軍郡係計景芸血決月犬
件見券研建絹憲県検験原現古固故個庫湖五午語護工交光后考
効校航候高康港鉱広講合号告国黒左査差才菜祭最際在材財昨
策察三山算賛酸残士支止史司四市死使姉指師紙視詞詩資寺事
児時辞式識七実写車舎謝者釈弱手首酒種需習周週終集十術春
順準所書暑諸序小少昭消章象勝照賞状条場植職心臣信真森進
親人仁水数世正制星清晴製整税席積績接千宣専船線戦選全前
然早走争創想総像則息測速族属続卒村他多打態台第題達単短
男団談池知置竹茶中虫忠柱貯町長鳥朝腸調賃低底庭停程敵適
鉄典店点展転電土徒努度冬当東島党等答燈動堂童働道銅特徳
毒独南二肉入年念能農波破馬倍売博畑八判版番非飛美必百表
票評標秒品不父府婦部風服副復福複物聞兵陛別辺返変弁便勉
母墓方法北牧本毎妹満未味脈名盟毛目問夜野約薬油輸友勇遊
予用洋要容葉陽様曜浴来利理陸立律略旅両良料量領林輪類令
礼冷例歴列労六録論話

＜注＞・印の字は(イ)1音又は1訓の文字であることを示す。そのうち＊印付きは1訓の字。

上にあげた469字が，教育漢字（881字）のうち，中学入学時に，全員が完全に読めた文字ということになる。このうち，(イ)の1音又は1訓の文字で完全

に読めた字は245字である。教育漢字881字中の1音の文字は272字，1訓の文字は3字（貝・株・届）計275字であるから，上の結果からみて，教育漢字の1音または1訓の文字の89.1%は完全に読めるということ，音や訓の複雑でないものが，早く読みが定着するということがわかる。また，音訓をつくして読めた漢字224字をみると，当然のことながら音訓ともに生徒には親近性の高い文字であること，1音1訓の文字が多いことが認められる。

しかし，次に示す(2)のどちらかの音訓では100%読めている326字は，当用漢字表で認められているどれかの音または訓（中には，2音以上，または2訓以上の読みかたのあるもので，そのうちのどれかというものも含む）では，100%読めていても，他の音または訓では，その読みかたがわからない，あるいは，あやまって読むという文字である。

(2)　どちらかの音訓では全員が読めた字

どちらかの音訓では全員（100%）が読めた字　326字

衣移引印因飲雨絵泳栄易延遠園屋音下化仮何果荷家過価我芽回会快改解外各角覚額間幹慣管岩眼顔願気起基帰寄喜期器機客九久求救許魚漁供京強鏡競業極玉金勤苦群兄形型敬経軽欠結潔健元言限己戸後口公功向行幸厚皇耕黄構興谷今根混妻西細済罪作殺雑参産子氏仕示志私糸始思歯試字次耳自治持失室質社借主守取受州秋修衆就住拾重宿出初女助招承唱商焼上乗常情色食織申新身神深生成声性青政省精誠静夕石赤責切折設雪説節舌川先浅素組宗草相倉送造増蔵足側存孫尊大太体対帯貸代炭断地築着注昼張直追通丁弟定的天田図都刀投湯登統頭同導得読内日任認熱燃配買白麦発反半犯坂板飯比肥悲費備鼻筆氷俵病貧夫布分武仏粉文平米編歩保包放報豊望暴末万民務無命明迷鳴面綿木門役訳右由有余養落楽力率流留緑臨連練路老和

ここにみられる漢字は，文字としてはそれほどむずかしくはなく，その音ま

たは訓も，一方では日常語として多用されているが，他方の音または訓では，ことばとして(語彙的に)，比較的日常的ではなくなりつつあるもの，中学1年生にとってはむずかしいもの，小学校の教科書でも提出されることが少ないものを含んでいるということ，多音多訓の文字があること，漢字の学年配当で低学年用の漢字も相当含まれていることに気づくであろう。

(3)　7人以下が読めた字

全員が読めた795字を除く86字は次の文字である。

7人（87.5%）のものが読めた字　68字

異(イ)ことなる　遺(イ)　*雲(ウン)くも　*営(エイ)　*衛(エイ)　*益(エキ)　*往(オウ)　*河(カ)　*画(カ・カク)　*拡(カク)　*歓(カン)　疑(ギ)
宮(グウ)みや　*給(キュウ)　去(キョ)さる　*句(ク)　*系(ケイ)　兼(かね)ねる　権(ケン)　険(ケン)　減(ゲン)　厳(ゲン)　*孝(コウ)　*穀(コク)
*再(サイ)ふたたび　災(サイ)　採(サイ)　刷(サツ)　*散(サン)らす　至(いた)る　似(に)る　授(ジュ)　収(シュウ)　従(したが)う　祝(いわ)う　述(のべ)る
*純(ジュン)　*処(ショ)　除(のぞ)く　称(ショウ)　*証(ショウ)　*是(ゼ)　*勢(セイ・いきお)い　*聖(セイ)　絶(ゼツ)　銭(ぜに)　善(ゼン)　*祖(ソ)
*俗(ゾク)　待(タイ)　退(タイ)　*隊(タイ)　著(チョ)　*帳(チョウ)　*提(テイ)　*伝(デン・つた)える　討(トウ)　*届(とど)ける　納(おさ)める　*敗(ハイ)やぶれる
皮(かわ)　負(フ)　補(ホ)　防(ふせ)ぐ　*貿(ボウ)　預(ヨ)　欲(ヨク)　*里(リ・さと)

〈注〉＊印の字は，1音又は1訓の字，あるいは音訓ともに読めている字であることを示す。また，音訓のある文字はルビで示された音又は訓での成績であることを示す。ここに示されていない表内音訓では，もっと読めていない。以下同じ。

6人（75.0%）のものが読めた字　11字

*可(カ)　*逆(ギャク・さか)らう　居(キョ)　誤(ゴ)　蚕(かいこ)　推(スイ)　*損(ソン)　拝(ハイ)　付(つ)ける　*富(フ・とむ)　奮(フン)

5人（62.5%）のものが読めた字　7字

*壱(イチ)　勧(カン)　境(キョウ・さかい)　難(ナン)　*弐(ニ)　*派(ハ)　否(ヒ)

いずれの読み方でも全員(100%)は読めなかったこれらの文字は，漢字の学年配当では高学年用の文字が多く，その大半は6年用漢字であること，6年で学習したために，まだ，習得が固定しにくいこと，また，これらの文字によって構成，造語されることばもしだいに抽象的なものになっていき，親近性に乏しいことなどが考えられる。

3.　音訓の習得のアンバランス

(1)　音訓の優位と親近性

どちらかの読みでは，100％読めた326字を当用漢字の音訓表に照らして，音訓どちらの読み方が優位であったか調べてみると，次のようになる。

1)　音優位の漢字　103字

文字の横のかたかなのルビは，その読めた音を示す。（　）内は，読めなかった訓である。

衣(ころも)　印(しるし)　因(よる)　栄(さかえる)　園(その)　果(はたす)　価(あたい)　快(こころよい)　改(あらためる)
各(おのおの)　角(つの)　額(ひたい)　管(くだ)　眼(まなこ)　基(もとい)(もとづく)　器(うつわ)　機(はた)　求(もとめる)
救(すくう)　鏡(かがみ)　競(きそう)　敬(うやまう)　欠(かける)　潔(いさぎよい)　健(すこやか)　限(かぎる)　公(おおやけ)
幸(さいわい)　耕(たがやす)　構(かまえる)　根(ね)　済(すむ)　罪(つみ)　参(まいる)　産(うむ)　氏(うじ)
仕(つかえる)　志(こころざす)　私(わたくし)　試(こころみる)　字(あざ)　自(みずから)　失(うしなう)　室(むろ)　社(やしろ)
宿(やど)(やどる)　招(まねく)　承(うけたまわる)　唱(となえる)　商(あきなう)　常(つね)　情(なさけ)　責(せめる)　設(もうける)
節(ふし)　先(さき)　造(つくる)　増(ます)　蔵(くら)　側(かわ)　尊(たっとい)　大(おおきい)　代(よ)(かわる)
炭(すみ)　築(きずく)　注(そそぐ)　張(はる)　的(まと)　天(あめ)　図(はかる)　統(すべる)　導(みちびく)
得(える)　任(まかせる)　熱(あつい)　配(くばる)　半(なかば)　犯(おかす)　飯(めし)　比(くらべる)　肥(こえる)
費(ついやす)　備(そなえる)　俵(たわら)　病(やむ)(やまい)　夫(おっと)　仏(ほとけ)　編(あむ)　保(たもつ)　放(はなつ)(はなす)
報(むくいる)　民(たみ)　務(つとめ)　面(おも)(おもて)　門(かど)　訳(わけ)　養(やしなう)　臨(のぞむ)　連(つれる)(つらねる)
練(ねる)　路(じ)　老(おいる)　和(やわらぐ)

上の文字は，その音では100％読めるが，訓では抵抗があり，中には全然読めないもの，0のものもある。

〈具体例〉

音では100％読めるが，訓ではその読みかたに抵抗のある例（50％以下）

音 100％／訓 0

因(イン)／(よる)　各(カク)／(おのおの)　字(ジ)／(あざ)　社(シャ)／(やしろ)　商(ショウ)／(あきなう)　天(テン)／(あめ)　統(トウ)／(すべる)

報ホウ／しらせる　基キ／もとい（もとずく75%）　面メン／おもて（おも37.5%）

音 100%／訓12.5%

価カ／あたい　額ガク／ひたい　眼ガン／まなこ　公コウ／おおやけ　仕シ／つかえる　承ショウ／うけたまわる

音 100%／訓25.0%

幸コウ／さいわい　済ザイ／すむ　責セキ／せめる　図ト・ツ／はかる　民ミン／たみ

音 100%／訓37.5%

潔ケツ／いさぎよい　自ジ・シ／みずから　唱ショウ／となえる　欲ヨク／ほっする

音 100%／訓50.0%

管カン／くだ　競キョウ・ケイ／きそう　欠ケツ／かける　参サン／まいる　室シツ／むろ　的テキ／まと

反対に次のような1群がある。

2）訓優位の漢字　98字

訓では 100%読めたもの。文字の横のひらがなはその訓を示し，（ ）内は読めなかった音を示す。

移(イ)	引(イン)	飲(イン)	雨(ウ)	泳(エイ)	延(エン)	屋(オク)	何(カ)	荷(カ)
過(カ)	我(ガ)	芽(ガ)	覚(カク)	幹(カン)	慣(カン)	岩(ガン)	顔(ガン)	願(ガン)
帰(キ)	寄(キ)	喜(キ)	許(キョ)	魚(ギョ)	強(キョウ・ゴウ)	玉(ギョク)	勤(キン)	型(ケイ)
軽(ケイ)	戸(コ)	向(コウ)	行(コウ・ギョウ・アン)		厚(コウ)	谷(コク)	混(コン)	妻(サイ)
細(サイ)	殺(サツ・サイ)	示(ジ・シ)	糸(シ)	始(シ)	思(シ)	歯(シ)	耳(ジ)	持(ジ)
借(シャク)	守(シュ・ス)	取(シュ)	受(ジュ)	秋(シュウ)	住(ジュウ)	拾(シュウ・ジュウ)	焼(ショウ)	乗(ジョウ)
織(ショク・シキ)	申(シン)	身(シン)	深(シン)	声(セイ)	誠(セイ)	静(セイ・ジョウ)	夕(セキ)	折(セツ)
雪(セツ)	舌(ゼツ)	川(セン)	浅(セン)	組(ソ)	草(ソウ)	倉(ソウ)	送(ソウ)	孫(ソン)
貸(タイ)	昼(チュウ)	追(ツイ)	田(デン)	刀(トウ)	投(トウ)	湯(トウ)	頭(トウ・ズ)	同(ドウ)
認(ニン)	燃(ネン)	買(バイ)	麦(バク)	坂(ハン)	悲(ヒ)	鼻(ビ)	筆(ヒツ)	氷(ヒョウ)
布(フ)	包(ホウ)	豊(ホウ)	末(マツ)	迷(メイ)	鳴(メイ)	綿(メン)	余(ヨ)	落(ラク)

これらの文字は，訓では 100%読めるが，音では抵抗があり，中には全然読めないもの，0のものもある。

〈具体例〉

訓 100%／音 0

行（いく・おこなう）／アン（コウは87.5%，ギョウは62.5%）　浅（あさい）／セン　夕（ゆう）／セキ　貸（かす）／タイ

殺(ころす/サイ)（サツは87.5%）

訓 100%／音12.5%

坂(さか/ハン)

訓 100%／音25.0%

我(われ/ガ)　谷(たに/コク)　拾(ひろう/シュウ)（ジュウは50.0%）　舌(した/ゼツ)　示(しめす/シ)（ジは87.5%）

訓 100%／音37.5%

何(なに/カ)　荷(に/カ)　顔(かお/ガン)　玉(たま/ギョク)　持(もつ/ジ)　焼(やく/ショウ)　川(かわ/セン)

訓 100%／音50.0%

寄(よる/キ)　取(とる/シュ)　静(しずか/セイ・ジョウ)

そのほか，次のようなものもある。

3）　2音以上のうち，1音が優位のもの　33字

絵(エ・カイ)　易(エキ・イ)　気(キ・ケ)　期(キ・ゴ)　客(キャク・カク)　漁(ギョ・リョウ)　京(キョウ・ケイ)　業(ギョウ・ゴウ)　極(キョク・ゴク)

己(コ・キ)　功(コウ・ク)　皇(コウ・オウ)　雑(ザツ・ゾウ)　質(シツ・シチ)　州(シュウ・ス)　衆(シュウ・シュ)　就(シュウ・ジュ)　性(セイ・ショウ)

精(セイ・ショウ)　素(ソ・ス)　宗(シュウ・ソウ)　存(ゾン・ソン)　体(タイ・テイ)　対(タイ・ツイ)　地(チ・ジ)　丁(チョウ・テイ)　発(ハツ・ホツ)

反(ハン・タン)　武(ブ・ム)　文(ブン・モン)　暴(ボウ・バク)　万(マン・バン)　役(ヤク・エキ)

〈具体例〉

100%／0 %　業(ギョウ/ゴウ)　己(コ/キ)　衆(シュウ/シュ)　精(セイ/ショウ)　宗(シュウ/ソウ)　体(タイ/テイ)

100%／25.0 %　客(キャク/カク)　功(コウ/ク)　就(シュウ/ジュ)　丁(チョウ/テイ)　暴(ボウ/バク)

100%／25.0 %　素(ソ/ス)

100%／37.5 %　絵(エ/カイ)　期(キ/ゴ)　極(キョク/ゴク)

100%／50.0 %　雑(ザツ/ゾウ)　対(タイ/ツイ)

4）　2音1訓（以上）のうち，1音が優位のもの　19字

化(カ・ケ)(ばける)　仮(カ・ケ)(かり)　会(カイ・エ)(あう)　解(カイ・ゲ)(とく)　経(ケイ・キョウ)(へる)　元(ゲン・ガン)(もと)　興(コウ・キョウ)(おこる)　治(ジ・チ)(おさめる)　修(シュウ・シュ)(おさめる)

成(セイ・ジョウ)(なる)　政(セイ・ショウ)(まつりごと)　説(セツ・ゼイ)(とく)　内(ナイ・ダイ)(うち)　貧(ヒン)(まずしい)　無(ム)(ない)　由(ユ・ユウ)(よし)　有(ユウ・ウ)(ある)　率(リツ・ソツ)(ひきいる)

留(リュウ・ル)(とめる)

〈具体例〉

仮 100/カ 50.0/ケ 25.0/かり　会 100/カイ 87.5/あう 25.0/エ　解 100/カイ 62.5/とく 25.0/ゲ　経 100/ケイ 87.5/キョウ 25.0/へる　興 100/キョウ 50.0/コウ 0/おこる

治(ジ) 100 / 87.5 おさめる / 50.0 チ　成(セイ) 100 / なる 62.5 / ジョウ 12.5　政(セイ) 100 / ショウ 25.0 / まつりごと 0　説(セツ) 100 / とく 50.0 / セイ 0　由(ユウ) 100 / ユ 62.5 / よし 0

有(ユウ) 100 / ある 62.5 / ウ 25.0　率(リツ) 100 / ソツ 50.0 / ひきいる 0

5）　1音2訓以上のうち，ある訓（1訓）が優位のもの　9字

下(カ，ゲ，した，くだる，さげる，しも，もと) おきる 起(キ)(おこる)　供(キョウ)(ク)(ともに，そなえる)　群(グン)(むれる，むらがる)　結(ケツ)(むすぶ)　言(ゲン)(ゴン)(こと)　粉(フン)(こな)　歩(ホ)(フ)(あゆむ，あるく)

明(メイ，ミョウ)(あかるい，あける，あきらか)

〈具体例〉

下 100 / した 87.5 / くだる カ 50.0 / ゲ / しも 0 / もと　供 100 / とも 62.5 / キョウ 37.5 / そなえる 0 / ク　結 100 / むすぶ 87.5 / ケツ 12.5 / ゆう　言 100 / いう 87.5 / こと 75.0 / ゴン 62.5 / ゲン

明 100 / あかるい 87.5 / あき / あける 75.0 / ミョウ 37.5 / メイ / らか

6）　多音多訓(1音2訓，2音1訓以上)のうち，ある音と訓は優位のもの

64字

遠(エン)(とおい，オン)　音(オン)(イン，ね)　家(カ)(いえ，ケ)　回(カイ)(エ)(まわす)　外(ガイ)(ゲ)(そと，ほか)　間(カン)(ケン)(あいだ，ま)　九(キュウ)(ク)(ここのつ)　久(キュウ)(ク)(ひさしい)　金(キン)(コン)(かね)

苦(ク)(くるしい，にがい)　兄(キョウ)(ケイ)(あに)　形(ギョウ)(ケイ)(かたち，かた)　後(ゴ)(コウ)(のち，うしろ)　口(コウ)(ク)(くち)　黄(コウ)(オウ)(き)　今(コン)(キン)(いま)　西(セイ)(サイ)(にし)　作(サク)(サ)(つくる)

子(シ)(ス)　次(ジ)(シ)(つぐ)　主(シュ)(ス)(ぬし)　重(ジュウ，おもい)(チョウ)(かさねる，え)　出(シュツ)(スイ)(でる，だす)　初(ショ)(はじめ，はじめて，はつ)　女(ジョ)(ニョ)(おんな)　助(ジョ)(すけ，たすける)　上(ジョウ)(うえ，あげる，かみ，のぼる)

色(ショク)(シキ)(いろ)　食(ショク)(ジキ)(たべる，くう)　新(シン)(あらた，あらしい)　神(シン)(かみ，ジン)　生(セイ，ショウ)(き，なま，いきる，うまれる)　青(セイ)(ショウ)(あお，あおい)　省(セイ)(ショウ)(はぶく，かえりみる)　石(セキ)(シャク)(いし)　赤(セキ)(シャク)(あか，あかい)

切(セツ)(サイ)(きる)　相(ソウ)(ショウ)(あい)　足(ソク)(たりる，あし)　太(タイ)(タ)(ふとい)　帯(タイ)(おびる)　断(ダン)(たつ，ことわる)　着(チャク)(きる，つく)　直(チョク)(ジキ)(なおす，ただちに)　通(ツウ)(とおる，かよう)

弟(テイ)(デ)(おとうと)　定(テイ)(ジョウ)(さだまる)　都(ト)(ツ)(みやこ)　登(トウ)(のぼる)　読(ドク)(トク)　日(ニチ，ジツ)(か，ひ)　白(ハク)(ビャク)(しろ，しらい)　板(バン)(ハン)(いた)　分(ブン)(フン)(プ)(わける)

平(ヘイ)(ビョウ)(たいら，ひらたい)　米(マイ)(ベイ)(こめ)　望(ボウ)(モウ)(のぞむ)　命(メイ)(ミョウ)(いのち)　木(ボク)(モク)(き)　右(ユウ)(ウ)(みぎ)　楽(ガク)(ラク)(たのしい)　力(リョク)(リキ)(ちから)　流(リュウ)(ル)(ながれる)

緑(リョク)(ロク)(みどり)

〈具体例〉

遠(エン)(とおい) 100 / オン 25.0　音(オン)(おと) 100 / イン 75.0 / ね 12.5　回(カイ)(まわす) 100 / エ 0　外(ガイ)(そと) 100 / ゲ 75.0 / ほか 37.5　間(カン)(あいだ) 100 / ケン 87.5 / ま 0

久(キュウ)(ひさしい) 100 / ク 12.5　苦(ク)(くるしい) 100 / にがい 12.5　今(コン)(いま) 100 / キン 12.5　重(ジュウ)(おもい) 100 / チョウ 87.5 / かさねる 12.5 / え　出(シュツ)(でる，だす) 100 / スイ 50.0

助(ジョ)(たすける) 100 / すけ 37.5　食(ショク)(たべる) 100 / くう 87.5 / ジキ 25.0　青(セイ)(あお，あおい) 100 / ショウ 0　省(セイ，ショウ)(はぶく) 100 / かえりみる 50.0　赤(セキ)(あか，あかい) 100 / シャク 25.0

切(セツ)(きる) 100 / サイ 37.5　弟(デイ)(おとうと) 100 / テイ 37.5　望(ボウ)(のぞむ) 100 / モウ 12.5　流(リュウ)(ながれる) 100 / ル 0　緑(リョク)(みどり) 100 / ロク 37.5

以上のように見てくると，小学校6年の課程を終えて，教育漢字はかなり読めるようになったとはいうものの，音訓をつくして，その文字を読めるということとは，かなり径庭のあることがわかるであろう。これを，漢字の学年配当の関係からみると，次のようになる。（当時の学年配当漢字による）

4.　学年配当漢字との関係

(1)　音訓をつくして完全に読めた字の学年配当

1年用　一火花月五左三山四七手十小森人水正中土二八目六　23字（50.0%）

2年用　夏海学休牛空犬見古工光考高合国黒紙時車春書少心千前早走村多男池知竹虫町長鳥朝冬東道南入年馬父風母方北名毛夜友用来立林話　59字（56.2%）

3年用　悪安暗運歌開寒岸急教橋近君計決原語交広止市死使指寺事実者弱首終集所暑勝場進親数世星晴船全台柱店当島答動波売畑美表品物聞返妹野遊葉様旅　66字（35.3%）

4年用　囲位育塩横加関旗共曲係血建固湖港告差菜祭最残姉写酒種習消照植真清整積戦選然争息速続打短置調底庭努等働飛必別変便味問薬油勇良輪冷　63字（30.7%）

5年用　確現康象測低破満浴量　10字（5.2%）

6年用　絹児墓　3字（4.5%）

(2)　1音又は1訓の字で100%読めた字の学年配当

1年用　本　1字（2.2%）

2年用　円王汽校百　5字（4.8%）

3年用　意駅温科界貝活感記究級球局銀研県庫午号才算週昭第茶鉄点電度肉番勉毎曜理両礼　37字（19.8%）

4年用　愛案以医委員院英貨械階害官館観季挙協具郡景芸航材昨察士史司詩式順章臣信席線族卒他題達談停転徒燈堂童農秒不府部服福法脈予洋陽利陸料類歴列労録　69字（33.7%）

5年用　圧胃永液演央応億恩課賀格完漠希紀規技義議均区軍件験個護候鉱講査際在賛酸支師辞識舎謝周術準序賞製績接想総像則単団貯腸敵適典銅特毒独念能倍博非票標婦副復兵辺弁牧約輸要容領令例　85字（43.8%）

6年用　革株刊貴旧禁訓券憲検故后効財策視詞資釈需諸状条職仁制税宣専属創態忠賃程展党徳判版評複陛未盟律略論　48字（33.3%）

(3)　どちらかの読みでは100%読めた字の学年配当

1年用　雨下九金口子耳女上生青石赤川先足大田日白木右　22字（47.8%）

2年用　音何家会外間気京玉元戸行谷今西作糸思字秋出色声夕切雪組草地天読麦半分文米歩明門力　40字（38.1%）

3年用　引絵遠園屋化荷回角岩顔起帰期客魚強苦兄形後公向黄根細仕始次自持室社主取受住重助乗食申新身神深送太体炭着注昼追通弟図都刀投頭同配買発坂板病平万鳴面役由落楽流和　78字（41.7%）

4年用　衣印飲泳芽改覚願喜器機鏡競業極軽結言幸産歯試治失借守州拾初唱商焼成静節相孫対代直丁定的湯登内熱反悲費鼻氷夫粉包放望末民命有緑連練路老　66字（32.2%）

5年用　移因栄易仮果過価快解各慣管寄久求救許漁群型経欠健限功厚興殺雑参氏示志質修宿承常情織性政省精責折設説浅素倉造増側帯貸築張統導任燃飯比肥備筆俵貧布武仏編保報務無迷綿余養留　83字（42.8%）

6年用　延我額幹眼基供勤敬潔己皇耕構混妻済罪私衆就招誠舌

宗蔵存尊断得認犯豊暴訳率臨　　37字（25.7%）

したがって，どちらかの音訓では，その読み方に抵抗のあった文字と学年配当との関係をみると，次のようになる。

1年用漢字　22字（47.8%）　　2年用漢字　40字（38.1%）
3年用漢字　78字（41.7%）　　4年用漢字　66字（32.2%）
5年用漢字　83字（42.8%）　　6年用漢字　37字（25.7%）

ある音なり訓なりでは100%読めても，他の音訓では正しく読めない，読みに抵抗のある文字の中には，小学校低学年用の漢字が相当数あることがわかる。1年用漢字など，約半数がそれで，ある読みではよく読めるし，書けもする1年用漢字であるという点から，当然完全に読める文字として看過されがちであり，中学校の漢字の読みの学習は，多く，新出の教育漢字外当用漢字に向けられるから，こうした実態を認識・把握しないと，小学校と中学校の漢字学習の上で断層が生じるうれいがある。中学校の漢字学習においても，こうした実態をふまえた積極的な教育漢字の読みの学習指導の必要性が痛感される。（これら未習得音訓の多くは，小学校時代の未学習音訓と深い関係がある。このことについては，稿を改めて後に述べる。）

○全員（100%）は読めなかった文字の学年配当

中学入学時に読みに抵抗のあった漢字の学年配当をみると

5人（62.5%）読めた字
　6年用　　壱勧境難弐派否　　7字（4.9%）

6人（75.0%）読めた字
　6年用　　可逆誤推損拝富奮　　8字（5.6%）
　5年用　　居蚕　　2字（1.0%）
　4年用　　付　　1字（0.5%）

7人（87.5%）読めた字
　6年用　　異遺営益拡歓疑系兼権険減厳孝穀再災採至授従述純処除称証是聖絶善俗退著提討届納補預欲　　41字（28.5%）
　5年用　　衛往河給句似収祝銭祖伝敗防貿　　14字（7.2%）

4年用	宮刷散勢隊帳	6字（2.9%）
3年用	画去待皮負里	6字（3.2%）
2年用	雲	1字（1.0%）

上の文字は，どの読み方でも，全員（100%）は読めなかった，すなわち，読みにくい漢字であるが，さすがに高学年用の配当漢字に多い。これらは高学年用の漢字であるために，使用度も低く，したがって，まだ習得が定着していない，また，文字としても，字形，文字構造などに複雑でむずかしいものがある。字義も抽象的なものがでてきて，構成された語としてもあまり日常的でないものが多くなってくるからであろう。

以上のような入学時の教育漢字の読みの力は，中学生としての文字学習，言語生活を経て，3年の卒業時の調査（第6回調査）ではどのようになるか。被調査者が，同一人であるから，3年の成績によってその後の進歩，習得の状況を知ることができる。

5.　漢字習得と使用教科書

（その1）　1年入学時に読めなかった音訓と小学校国語教科書の未提出音訓

教科書の漢字使用に関する研究は資料編に詳しいので，この編では，教科書の漢字使用が漢字習得とどのような関係にあるかということを，具体的な事例について考察することにした。まず，入学時の読みの成績と，小学校における国語の教科書の漢字提出との関係についてみよう。

(1)　出身小学校と使用教科書

8人の生徒の出身小学校は，北区立の清水・桐ケ丘・第三岩淵・梅木・赤羽の5校である。これら5校での8人の生徒が使用した国語教科書は，期間中に，教科書の改訂による採択替えがあったために，途中で使用教科書の変更がある。しかも，当時は，現在のように広域採択でなかったから，各校6年間の

使用教科書は必ずしも同一社，同一種（系統）のものでなく，同一社のものを6年間使用した学校の場合でも，改訂版が出版された後はそれを使うことになり，他の学校では6年間に2社～3社と使用教科書を変更しているために，5社，8種（同一社のものでも改訂版を使用した場合は1社2種となる）にわたっている。

東書「新しい国語」（2種）　二葉「国語の本」「国語」

学図「小学校国語」（2種）　光村「小学校新国語」

教育出版「国語」　（6年のみ）

このような状況下のため，教科書における漢字提出という側からだけでこれをみれば，文字としては，学年配当漢字によって統一することができても，音訓提出では各社提出の系統性がくずれ，特に，使用変更のために当然学習されるはずの音訓が未学習に終わることがありうる。

昭和39年4月，8人の生徒は，それぞれの学校における学習文字歴をもって中学校に入学してきたわけである。かれらの文字歴の中には，小学校での国語教科書を中心とする意図的な文字学習，他教科での間接的な学習，その他，一般読書，生徒をとりまく，言語・文字環境による自然学習などによるものが含まれているが，小学校段階では，やはり国語学習が中心と思われる。

1年入学時調査結果と，国語教科書での提出状況を比較してみよう。

(2)　1年入学時調査結果と国語教科書の漢字提出状況

入学時の教育漢字の調査で読めない音訓と小学校国語教科書の提出状況

読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例	読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例
因（よる）	人 0	0		間（ケン）	人 0（世間一間）	4(7)	人間
回（デ）	0	0		基（もと）	0	0	
各（おのおの）	0	0		供（グ）	0	1	供養

読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例	読みに抗抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例
	人				人		
供そなえる	3	2	供える，お供えする	統すべる	0	0	
業ゴウ	0	0		読トク	＊(4)	0	
厳ゴン	0	0		報むくいる	0	1	…の報い
己キ	0	0		面おもて	0	2	池の面，すなの面
行アン	0	0		おも	3	1	面持
殺サイ	0	0		流ル	0	0	
字あざ	0	1	郡…字…	下もと	＊(0)	3	一望の下，太陽の下，博士の下で
社やしろ	0	0		しも	4 下の句	5	川下，下手，下の句
衆シュ	0	0		修シュ	＊(6)	2	修行，はい句修業
商あきなう	0	0		木モク	＊(8)	5	木曜
青ショウ	0	0		音イン	1	1	母音
政まつりごと	0	0		価あたい	1	1	価をたずねる
ショウ	2	0		額ひたい	1	4(5)	額(の汗)
精ショウ	0	1	精進	眼まなこ	1	0	
夕セキ	0	0		客カク	1 客死	3	旅客機，旅客
石コク	＊(3)	1	十万石	久ク	1	0	
説ゼイ	0	0		苦にがい	1	0	
とく	4	4(6)	説く，説き起す	結ゆう	1	1	結う
浅セン	0	0		権ゴン	1	0	
宗ソウ	0	0		公おおやけ	1	2	公にする「公と私」
体テイ	0	1	風体	功ク	1	0	
貸タイ	0	0		興おこる	1	2	国を興す，運動が興る
天あめ	0 天地	＊(あま2) 2	天の川	コウ	4	3(5)	興奮 復興

読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例	読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例
今キン	1	0		我ガ	2	0	
仕つかえる	1	2	仕える，仕え	会エ	2	1	会得
就ジュ	1	0		解ゲ	2	0	
重チョウ	1 重複	4(6)	貴重，尊重	勧すすめる	2	5	勧める
承うけたまわる	1	1	承る	宮キュウ	2 宮城	3(5)	宮殿，王宮
成ジョウ	1	0		ク	3	0	
丁テイ	1	1	丁君	経へる	2	4(5)	年を経る，喜びを経る，マラッカを経る
内ダイ	1 内裏内参	3(4)	境内，参内	兼ケン	2	1	兼任
難かたい	1	0		幸さいわい	2	2(1)	幸い
納ナ	1	1	納屋	谷コク	2	1	けい谷
ノウ	3	0		採とる	2	4(5)	採る，しんじゅ採り，採れる
白ビャク	1	2	黒白を争う，白夜	済すむ	2	3(5)	済む
麦バク	1	0		蚕サン	2	2	養蚕
反タン	1	1	一反	示シ	2	0	
坂ハン	1	0		似ジ	2	0	
負おう	1	2(3)	気負う，負う	拾シュウ	2	0	
望モウ	1	1(2)	大望	ジュウ	4	4(5)	壱百弐拾参円，壱弐参拾，「十」を「拾」
暴バク	1	0		食ジキ	2	0	
率ひきいる	1	2	率いる，率いて	赤シャク	2	0	
ソツ	4	2(3)	率先，引率	責せめる	2	3(5)	責める
遠オン	2	0		折セツ	2	0	
仮かり	2	4	仮に，仮の名，仮り小屋	設もうける	2	3(4)	設ける，道を設ける
ケ	4	0		舌ゼツ	2	0	

読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例	読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例
素ス	2	1	素焼き	自みずから	3	2(3)	自らを，自らが
太タ	2	2	太郎，まる太	持ジ	3	3	支持，持参
退しりぞく	2	3(4)	退く，飛び退く	授さずける	3	3	授ける，授けられる
図はかる	2	2	図る	宿やど	3	1	宿る
発ホツ	2	0		助すけ	3	0	
板ハン	2 板木	3(5)	鉄板	唱となえる	3	2(3)	唱える
奮ふるう	2	3(4)	奮いたたす，奮い立つ	焼ショウ	3	1	全焼
民たみ	2	0		切サイ	3	1	一切
役ニキ	2	0		絶たえる	3	4	絶える，絶えず絶え間なく
訳わけ	2	1(2)	申し訳	川セン	3	1	河川
有ウ	2	0		帯おび	3	3	帯
和やわらぐ	2	1(2)	和らぐ	弟テイ	3	3	師弟，高弟，門弟
絵カイ	3	2	絵画	犯おかす	3	3(4)	犯す
何カ	3	0		否いな	3	2(3)	否か，否
荷カ	3	1(2)	荷物	貧ヒン	3 貧民，貧困	5	貧弱，貧苦，貧民，貧血
外はか	3	0		ビン	3	0	
顔ガン	3	0		付フ	3 付加	5(8)	付近，付属
期ゴ	3	2	最期	平ひらたい	3	4(7)	平たい，平べったい，平泳ぎ
境さかい	3	4(5)	境，境目，県境	包ホウ	3	0	
極ゴク	3	0		末マツ	3 末路	5	幕末，始末末席，文末
玉ギョク	3	1	玉座	明メイ	3 明白，明治	4(7)	明治，説明，発明
潔いさぎよい	3	1	潔く	欲ほっする	3	1	欲する
災わざわい	3	0		留とめる	3	2	書き留める，気に留めない

読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例	読みに抵抗のあった音・訓	入学時正答者数	教科書提出数5社（8種）	提出語例
留ル	4	0		省かえりみる	4	0	
緑ロク	3	0		静セイ	4	0	
管くだ	4	0		ジョウ	4	0	
寄キ	4 寄宿 寄生虫	5(6)	寄宿舎，寄付金，寄ぞう，寄港	対ツイ	4	1	一対の目
競きそう	4	2(3)	競う，競い合う	断たつ	4	2(3)	断ち切る 断たれる
欠かける	4	4(6)	欠ける，欠く，欠かさず	著いちじるしい	4	3(4)	著しい，著しく
元ガン	4	3(5)	元日，元来	的まと	4	2(3)	尊敬の的，りんごの的
もと	4	3(5)	元の（ように・姿），根元	都ツ	4	2	都合
作サ	4 作法	5	動作，作業	討うつ	4	1	かたきを討つ
雑ゾウ	4	1(2)	雑木林	湯トウ	4	1	熱湯
参まいる	4	3	お参り，参ります	拝おがむ	4	3(4)	拝む
室ひろ	4	2	石室，県営の室	飯めし	4	2	朝飯　飯たき
取シュ	4	2	取材	病やむ	4	0	
出スイ	4	0		やまい	4	3(4)	病い（～が重い～を得て）
述ジュツ	4	1	記述	牧まき	4	1(2)	牧場
女ニョ	4	0		命ミョウ	4	0	
除ジョ	4	1	除夜の鐘	臨のぞむ	4	2	海に臨む，海岸に臨む
上かみ	4	4(6)	上手，川上，上の句	老おいる	4	3(4)	老いる，年老いた
生なま	4	3(4)	生水，生野菜，生米・麦・卵，生のたまねぎ	治チ	4	4	自治生活，自治会，治療法（治りょう）
推おす	4	2	推しはかる，推し進める				

〈注〉　①教育出版「国語」は，1校（赤羽小）で6年生にのみ使用されたので，時間の都合上6年の教科書のみを調査した。

②正答者数のうち＊印は，入学時調査の際調査もれのもの。（　）内の数字は2回め調査の時の正答者数。

③正答者数の欄の語例は，調査の問題を示す。特に掲げてない場合は，小学校教科書での使用例と同じ。

(3)　読みの成績と教科書の提出音訓

入学時調査の際の読みの成績と，教科書での文字の音訓提出状況をみると，両者の関係はかなり深いことが認められる。

1)　その読み方に抵抗のあった音訓の多くは，教科書で提出・使用されなかった音訓，すなわち，未学習音訓であることが多い。

当然のことながら0対0，未習得音訓＝未学習音訓である。もっとも，中には，教科書では提出されているが，1人も読めなかった音訓というのもあるが，提出した教科書も，1・2社に過ぎず，そのうち，*石コク *下もと など入学時には調査もれのものなどがある。また，表内音「間ケン」は4社（7種）の教科書で，「人間 ニンゲン」という語形で提出されているが，われわれの調査では「ケン」の連濁者「ゲン」はさけて「一間・世間」で調査したためか(「一間 イッケン」という単位は，現在の中学生には無理であった)，入学時調査では0人であった（2回め〈1年3学期〉の調査では8人正答）という場合もある。これらは，概して学習語形と調査語形との相違によることが多い。

2)　1)に属するが，その読み方に抵抗のあった音訓は，教科書での提出度・使用度の少ない音訓であることが多い。

0対0ほど数的にははっきりしていないが，両者の関係が，総体的にみて，だいたいパラレルになっているものが多い。

なお，この場合，厳密にいうと，教科書提出数は，8人の生徒が学習した音訓数と必ずしも一致していないことである。前述のように，8人の生徒は（1人を除いて)，6年間同一の会社の教科書で学習していない。ある学年から学年まではA社の，次の学年ではB社の教科書というように，使用替えがなされている。小学校の場合は，教育漢字の学年配当があるから，文字としては，どの教科書を使用しても，だいたい同じであるが，音訓の細部に至ると，必ずしも同じでなくなることがありうる。8人の6年間の教科書使用の状況は次のよう

であるから，

教　科　書	学年 1	2	3	4	5	6	使用校（生徒）
東京書籍「新しい国語」改・新編（2種）	○	○	○	○	○	○→	梅木（男4、女4）
				○	○	○→	第三岩渕（男3、女1）
						○→	赤羽（男2）
学図「小学校国語」	○「1・2年生の国語」	○	○「私たちの国語」	○	○	○→	桐ヶ丘（女2）
	○「1年生の国語」						清水（男1、女3）
		○「2年生の国語」	○「私たちの国語」	○			赤羽（男2）
二葉「国語の本」		○	○	○	○		清水（男1、女3）
「国　語」	○						赤羽（男2）
光村「小学新国語」	○	○	○				第三岩渕（男3、女1）
教出「国　語」						○→	清水（男1、女3）

使用教科書の変わったことによって，続けて使用すれば，学習したかもしれない音訓でも，途中で教科書が変わったために，学習の機会を失するおそれがある。ことに読みに抵抗のあった音訓は，新出文字としての音訓でなく，読みかえの音訓であることが多いからである。したがって 1)・2) の場合は，さらに上回ることになろう。

3)　その音を含む語形——提出語形による習得の差がある。

数社（数種）の教科書に提出されているにもかかわらず，読みの成績の悪いものがある。これは，前例「間ケン」でも述べたが，学校で学習した時の用語と，われわれの調査で用いた刺激語が同じでなかったことに多く原因があるようである。訓の場合は，その訓ずばりの形で問題はないが，音の場合は，その語構成——語形によって，結果に差が生ずることは周知のことであり，問題を作る際に，一般的で，なるべく生徒にわかりやすい語形を目ざしたが，①連濁

などはさけてなるべくその音を出そうとした（例—間ケン→一間・世間，板ハン→板木ハン cf 教科書では鉄板）②できれば語頭で出してみようとした（例—重チョウ→重複，教科書では貴重・尊重）こと，および，調査を始めた時は，小学校の教科書調べが実施されておらず，学習語形をふまえた調査語形で提出されていないものがあり，なかには，生徒への親近性を目ざしながらも，かえって，生徒の学習・知識・興味・関心からはずれたものも出てきて（2回めの調査で，調査語形を補充したものもある），成績の悪かったものもある。

〈調査語形〉　〈教科書提出語形〉

内ダイ　→内裏・参内　〈境内・参内〉境ケイ の音を難音としてさけたが，内裏よりは読みやすかった。

末マツ　→末路　〈幕末・始末・文末・末席〉

客カク　→客死　〈旅客機・旅客〉

宮キュウ　→宮城　〈宮殿・王宮〉

貧ヒン　→貧困・貧民　〈貧苦・貧民・貧血〉

付フ　→付加　〈付近・付属〉

明メイ　→明白・明治　〈明治・説明・発明〉

4）教科書では，かなり提出されているが，成績の悪いものがある。

訓に多くみられ，3）の場合と違って，教科書で，ある程度使用されながら，文章語的で，一般の使用語彙として使われることが少なくなりつつあり，生徒に縁遠い語であるもの。

経る，採る，蓄う　額ひたい　公おおやけ　仮かり　など。

字あざなど，提出数も一社であるが，1人も正しく読めていないのは，東京の区内在住という地域性による経験の乏しさからであろう。

5）教科書では提出されない，または，提出度少としては，調査の成績のよいものがある。

管くだ　出スイ　女ニョ　省かえりみる　静セイ　病やむ　命ミョウ　留ル　仮ケ　（以上4人）

何カ　外ほか　顔ガン　極ゴク　災わざわい　助すけ　納ノウ　貧ビン　包ホウ　（以上3人）

などがそれで，これらは，国語の教科書での学習以外の媒体によって，読めるようになったものとみることができよう。その一つ一つの習得要因をさだかに

知ることはできないが，文字としてはむずかしい読みでありながら，極ゴクの極楽，貧ビンの貧乏，留ル—留守，助スケ—人名や助太刀など，習得の契機となることばの背景として，話しことば，読書語彙，その他のマスメディアなどとの関連が考えられる。

学習しても成績の悪いもの，未学習でも成績のよいものもあるので，教科書での提出が，そのまま成績の良否をきめるとはいい難いが，両者の関係が大きいこと，さらに全般的には，学習した語句に即して漢字が習得されている段階であることなどが認められるのである。

Ⅱ　教育漢字　3年卒業時の読みの成績

1.　3年間で読めるようになった字

(1)　文字としては881字読める

教育漢字を読む力は，量的観点からの習得でみたように，各人それぞれ学年を追うに従って進歩し，文字としての読みでは，全員（100%）が881字全数を読むことができるようになる。

しかし，1年入学時調査でみられた特殊な音の読み，日常生活語としては親近性の乏しい訓読みなどの中には，3年卒業時においても依然として読みにくい，または読めない音訓を持ち越していることが，卒業時の調査結果から認められる。入学時の読みの習得状況が以降3年間でどのように進んだか。

(2)　3年卒業の調査時に読み残った音訓

全数調査の方法（消却方式採用）で3年卒業時の調査結果をみると，文字としては881字読めるようになるが，音訓関係からみると，3年卒業時調査の結果として，次のように抵抗を示した音訓が73字（75音訓）ある。

8人全員が読めなかったもの　因(よる)

7人が　〃　殺(サイ)　社(やしろ)　衆(シュ)

6人が　〃　基(もとい)　政(まつりごと)　天(あめ)　由(よし)

5人が　〃　功(ク)　行(アン)　夕(セキ)　貸(タイ)

4人が　〃　回(エ)　字(あざ)　統(すべる)

3人が　〃　各(おのおの)　眼(まなこ)　期(ゴ)　供(ク)　潔(いさぎよい)　興(おこる)

災(わざわい)　済(すむ)　精(ショウ)　説(ゼイ)　舌(ゼツ)　宗(ソウ)　難(かたい)

2人が　〃　価(あたい)　管(くだ)　機(はた)　権(ゴン)　就(ジュ)　拾(シュウ)

赤(シャク)　責(せめる)　切(サイ)　反(タン)　否(いな)　報(むくいる)

1人が　〃　遠(オン)　下(もと)　解(ゲ)　外(ほか)　勧(カン)　居(いる)　供(そなえる)

競(きそう)　業(ゴウ)　経(キョウ)(へる)　結(ゆう)　公(おおやけ)　谷(コク)　仕(つかえる)　主(ス)　宿(やどる)　承(うけたまわる)　唱(となえる)

商(あきなう)　織(ショク)　推(おす)　生(き)　青(ショウ)　浅(セン)　相(ショウ)　的(まと)　図(はかる)　刀(トウ)　内(ダイ)

拝(おがむ)　白(ビャク)　奮(ふるう)　望(モウ)　流(ル)

〈注〉 漢字の下の線は重出の文字であることを示す。

したがって，この調査の消却方式による累積成績では，文字としては881字全数が読め，読みに抵抗を示した音訓のある字は73字で，それを除いた808字は，音訓ともに読める字ということになる。

しかし，この成績は，前に述べたように，二度続けて正答できた場合は習得完了とみなし，いわば，正答文字（正答音訓）として，たなあげして，累積した場合の数字であって，実際の習得状況からこれをみると，様相が多少異なってくる。

2.　きびしい観点(習得完了)で整理した場合の3年間の成績

音訓をつくして読める，2回続けて正答できる（この場合の正答はしぶり読みの正答○でなく，完全正答◎），習得完了という，より厳密な観点から整理してみると，中学終了時までに習得が完了しなかった文字は165字（180音訓）という数にのぼる。

(1)　習得完了という観点で問題を残した文字

この165字（180音訓）を，１年入学時の成績と比べながら，字種についてみよう。

1)　１年入学時に，８人全員は読めなかった86字のその後の成績

１年入学時には音訓という観点を度外視して，文字としての観点からも，全員（100%）は正答できなかった文字が86字残ったが，この86字も，卒業時までにはいずれかの読みでは読めるようになる。

文字としては読めるようになった86字を，音訓の観点，習得完了の観点からみると，次のようになる。

１年入学時では，やさしい音訓の方でも７人以下の成績であったが，学年が進むにつれて読めるようになり，どちらかの音訓では８人読めるが，なお，問題を残す読みもある。

例　１年入学時　難ナン→５人，かたい→１人，３年卒業時まで，ナン８人　かたい→５人読めるようになる。

１年入学時，全員（100%）は正答できなかった	86字	⟶	３年卒業時には全員（100%）が読める	86字
			A 音訓をつくして全員が読める字	B どちらかの読みでは読めても，音訓をつくしては読めない字
７人しか読めなかった字	68字		48字	20字 負 宮 刷 敗 険 授 災※ 採 退 権※ 厳 納 討 預 異 至 欲 遺 給△ 是△ cf. △は１音の字
６人　〃	11		4	7 逆 蚕 居※ 推※ 拝※ 富 奮※
５人　〃	7		3	4 勧※ 境 難※ 否※
計	86字		55字	31字

このうち，＊印の9字は，3年卒業時にも8人全員は読めなかった。

2)　1年入学時に，どちらかの音訓では全員読めた326字のその後の成績

入学時調査で，音訓をつくしては読めないが，どちらかの音訓では全員が読めた326字のうち，192字は3年卒業までに，音訓をつくして読めるようになる。残りの134字が，問題を残す文字となる。

読めるようになった192字

移引飲雨絵泳栄易延園屋化果荷家過我芽会快改角覚間幹慣岩顔願起帰寄喜器客九求救許魚京強鏡極金勤群兄形型敬軽限口向幸厚耕構根混妻西細罪作産子氏志私糸始思歯試次耳自治持失質守取受秋住重招上乗常情色新身神深声性誠静雪節先素組草倉送造増蔵足側存孫尊大対代炭地築着注昼張直追通丁弟定田投湯登頭同導得日任認熱燃配買半犯飯比肥悲鼻筆氷俵貧夫布分武仏粉文平米編保豊末万務無明迷鳴綿門役右余養落楽力連路和

音訓の側から整理すると，次のようになる。

〈1年入学時〉			〈3年卒業時〉		
			A		B
どちらかの音訓では100％読めた字	326字	→	音訓をつくして全員読めた字	192字	どちらかでは読めても音訓をつくしては読めない字	134字
全員音訓をつくして読めた字	469		469		0
どの音訓でも全員は読めなかった字	86		55		31

したがって，どちらかの音訓では全員が読める881字（326＋469＋86），音訓をつくして読める716字（469＋192＋55），音訓をつくしては読めなかった字165字（134＋31）ということになる。

3.　卒業時の読字成績の実態

中学3年卒業時の読字成績の実態は，整理の観点によって次のように段階のあることがわかる。

＜整理の観点＞		＜1年入学時＞	＜3年卒業時＞
累積成績			
文字を中心としてみた場合	8人平均読字数	870.6字→	881字
	8人全員が文字としては正答できた読字数	813	881
	(音訓に抵抗のあった読み)		73 (75音訓)
習得完了			
音訓の観点からみた場合	どちらかの音訓の側からみると，全員が読めた字数	795	881
	全員が音訓をつくして読める字	469	716
	(音訓をつくしては読めない)	412	165 (180音訓)

中学での学習，日常の文字生活・読書生活，語彙の拡充等を通して，入学時では難音訓を含んでいたものが音訓ともに読めるようになったこと，しかし，難音訓であるだけに習得完了という厳密な立場をとると，正答のゆれ現象がともない，抵抗を示す音訓数が相当残るということが認められる。

配当漢字との関係からみると次のようになる。

4.　問題のある音訓の学年配当

1年用漢字　川セン（4人　ルビはその読みかたに抵抗のあった音又は訓。人数は読めなかった人数。以下数字のみで示す。なお，読めなかった人数に，3年卒業調査時の人数と差があるのは，3年間の習得過程の中で，習得上のゆれ現象，しぶり読みなどのあったものを加えた，習得完了という厳密な観点で整理してあるからである。）

下もと(4)　赤シャク　青ショウ　白ビャク(3)　生き(2)　木ボク(2)　石コク　△女ニョ(1)

9字（音7・訓3　10音訓）

2年用漢字　天(7)　切　夕　字(6)　行(5)　出　△麦　外　音　読(2)
元　玉　△気　谷　△今　戸　歩　△何(1)　18字(音14・訓4　18音訓)

3年用漢字　由(8)　社　回　面(7)　坂(6)　仕　期　遠(4)　図　公(3)
申　発　*負　△食(2)　*負　病　体　流　主　刀　都
後　△苦　△室　△助　板　△黄　△太(1)　27字(音15・訓13　28音訓)

4年用漢字　業(6)　拾(5)　機　結　緑(4)　有　老　反　商　唱
*宮　競　成(3)　*宮　州　△焼　的　内　費　放　包
望　練(2)　△緑　△成　△言　衣　印　*△刷　借　相　△初
民　△命(1)　31字(音19・訓16　35音訓)

5年用漢字　因(8)　説　政　殺　功　統　貸(7)　興(6)　各　*蚕(5)
解　久　経　承　織　精　省　報(4)　価　管　参
責　留(3)　経　仮　示　修　宿　△設(2)　△政　*給　*居
漁　欠　△健　雑　△折　浅　△帯　*敗　備(1)
39字(音18・訓23　41音訓)

6年用漢字　基　衆(8)　供　宗(7)　*授(6)　*△供　眼　*災　舌
*否　*奮　暴(5)　*権　已　*採　*退　*難(4)　*勧　潔　*厳
済　就　*推(3)　*△勧　*△討　*納　△訳　臨(2)　*△納　訳　*△預
*△異　*△遺　額　*逆　*境　*△険　皇　*至　*是　断　*拝
*△富　*欲　△率　*△納　△興(1)　41字(音21・訓27　48音訓)

〈注〉＊印の文字は，1年入学時にいずれの音訓でも8人全員は読めなかった31字。一つきの文字は，前出の問題の音・訓の他に，重ねて読めなかった音・訓であることを示す。
△印の音又は訓は，正答ではあるが，しぶり読みの連続で，完全正答とはみなし難いと思われる場合を示す。

5．問題のある読みの音訓別数

165字（180音訓）を，音・訓別に整理すると次のようになる。

音に抵抗のあった読み

8人 ⑯衆シュ

7人 ③回エ ⑮説ゼイ 殺サイ 功ク 貸タイ ⑯供ク 宗ソウ

6人 ②切サイ 夕セキ ③坂ハン ④業ゴウ

5人 ②行アン ④拾シュウ ⑤蚕サン ⑥暴バク 舌ゼツ

4人 ①川セン ③期ゴ 遠オン ④緑ロク ⑤久ク 精ショウ 織ショク 解ゲ ⑥己キ 権ゴン

3人 ①赤シャク 青ショウ 白ビャク ④有ウ 反タン 宮キュウ 成ジョウ ⑥就ジュ 厳ゴン

2人 ①木ボク ②出スイ 麦バク 音イン 読トク ③申シン 発ホツ 食ジキ ④宮ク 包ホウ 焼ショウ
内ダイ 州ス 望モウ ⑤経キョウ 示シ ⑥勧カン 納トウ

1人 ①石コク 女ニョ ②玉ギョク 気ケ 谷コク 今キン 戸コ 歩ブ 何カ ③体テイ 流ル
主ス 刀トウ 都ツ 板ハン 黄コウ 太タ ④緑リョク 命ミョウ 借シャク 言ゲン 相ショウ
⑤政ショウ 雑ゾウ 折セツ 浅セン 敗ハイ 漁リョウ 給キュウ ⑥納ノウ 訳ヤク 預ヨ 是ゼ
至シ 境ケイ 興コウ 遺イ 皇オウ 率リツ

訓に抵抗のあった読み

8人 ③由よし ⑤因よる ⑥基もとい

7人 ②天あめ ③社やしろ 面おもて ⑤政まつりごと 統すべる

6人 ②宇あざ ⑤興おこる ⑥授さずける

5人 ⑤各おのおの ⑥供そなえる 否いな 眼まなこ 奮ふるう 災わざわい

4人 ①下もと ③仕つかえる ④機はた 結ゆう ⑤省かえりみる 経へる 承うけたまわる 報むくいる ⑥採とる 退しりぞく 難かたい

3人 ②図はかる 公おおやけ ④老おいる 商あきなう 唱となえる 競きそう ⑤価あたい 責せめる 参まいる 管くだ 留とめる
⑥推おす 勧すすめる 潔いさぎよい 済すむ

2人 ①生きる ②外ほか ③負おう ④放はなつ 的まと 費ついやす 練ねる ⑤修おさめる 仮かりに 宿やどる 設もうける
⑥討うつ 訳わけ 臨のぞむ

1人 ②元もと ③負まける 病やまい 後のち 苦にがい 室むろ 助すけ ④成なる 刷する 民たみ 衣ころも
印しるし 初はつ ⑤欠かける 備そなえる 居いる 健すこやか 帯おびる ⑥額ひたい 逆さからう 富とむ 欲ほっする
断たつ 拝おがむ 険けわしい 率ひきいる 異ことなる 納おさめる（81字　86訓）

〈注〉人数は読めなかった数を示す。文字の左上の○内の数字は，配当学年を示す。
文字の下の一線は重出の音訓であることを示す。

如上の，中学卒業時までに音訓上で抵抗のある読みをみると，3年間の国語学習の上で，あるいは他教科，一般読書などで使われることが少ない，目にふれる機会が乏しい，生活に密着したことばとは遊離しているなど，習得する機会が少なかったもの（音・訓）と考えることができる。読みに抵抗を示した165字（94音・86訓 180音訓）を上のように音訓別に整理してみると，なぜそれが読みにくいか，その原因および，読みにくい音訓の特徴や性格がわかる。

6.　読みにくい音訓の特徴

(1)　低学年用のやさしい漢字がかなり含まれている。（1年用漢字9字，2年用漢字18字）これらの文字の一般的な音訓のほうでは早く読みの力が定着し，また，書く力も備わっていながら，他の読みでは読みにくい。このことはすでに「国立国語研究所年報」で指摘してきたが（年報16～19），低・中学年用漢字の中に多音多訓の文字が多く，しかも，あまり日常生活的ではない特殊音訓が含まれている（例—下〈2音5訓〉赤〈2音2訓〉行〈3音3訓〉など）ことが主因であろう。

(2)　低学年用漢字に限らず，教育漢字は，教育漢字外当用漢字に比べると多音多訓の傾向がある。1音又は1訓の文字の89％が1年入学時にすでに全員（100％）が読めていたことと考え合わせても，このことが首肯されよう。

(3)　特殊音を持つ読み方のものが多く含まれている。

当用漢字表の表内訓の中には「限られたことばに用いられる」音訓があり，「—」線をつけて示されているが，教育漢字には次の60字62音訓がある。

遺(6)イ　遠(3)オン　音(2)イン　仮(5)ケ　回(3)エ　会(2)エ　期(3)ゴ　久(5)ク　宮(4)グ　去(3)コ　漁(5)リョウ　境(6)ケイ

競(4)ケイ　兄(3)キョウ　権(6)ゴン　厳(6)ゴン　功(5)ク　行(2)アン　今(2)キン　殺(5)サイ　次(3)シ　自(3)シ　児(6)ニ　主(3)ス

守(4)ス　修(5)シュ　衆(6)シュ　就(6)ジュ　重(3)え　出(2)スイ　食(3)ジキ　織(5)シキ　成(4)ショウ　性(5)ショウ　青(1)ショウ　政(5)ショウ

星(3)ショウ　精(5)ショウ　静(4)ジョウ　石(1)コク　—シャク　赤(1)シャク　切(2)サイ　説(5)ゼイ　然(4)ネン　弟(3)ダイ　都(3)ツ　登(4)ト

読(2)トク　内(4)ダイ　日(1)か　納(6)トウ　—ナ　反(4)タン　貧(5)ビン　望(4)モウ　暴(6)バク　命(4)ミョウ　留(5)ル　流(3)ル

緑(4)ロク　路(4)ロ　　(cf.教育漢字外当用漢字は969字中21字21音訓)

<注>右下の数字は配当学年を示す。

この62音訓の中には，兄弟(キョウダイ)　貧乏(ビンボウ)　留守(ルス)　過去(コ)　競馬(ケイ)（輪）など，日常語として多用されているために，かえって他の音訓よりも読みやすく成績のよい音もあるが，しかし，多くは，呉音系の音などで，赤銅・緑青・行燈・行脚・回向・最期・末期・遠国・久遠，遊説，相殺，精進，衆生など，特殊な用語，仏教用語などに使われ，特殊な読みを要求され，一般的でないために，学習からはずれやすく，習得されにくいということになる。上来みてきた未習得音訓と比べてみてもそのことがわかる。

(4)　日常生活や，話しことばで親近性の乏しい語に使われる読み（音）が含まれている。——引きの特殊音でなくとも，現在の日常生活，話しことばではしだいに使われなくなっている，むしろ漢語でいうのをさけて，和語で言いかえているようなことばと関係のある読み（音）は，習得されにくい。

例—川のセン（河川），夕のセキ(朝夕，一朝一夕)，舌のゼツ（筆舌，毒舌）貸のタイ・借のシャク（貸借)，拾のシュウ（拾得する，拾得物）なども，日常の話しことばとしては，「かわ」「あさゆう」「ふでにも　口にも…」「かしかり」「ひろう」のように，わかりやすく，耳に親しめるように和語として使う場合が多く，セン，セキ，ゼツなどの音を用いることばは，しだいに使用されることが少なくなってきており，生徒に親しみにくいからであろう。(対談中「毒舌」を「ドクじた」と言って，「ドクじたじゃないよ。ドグゼツと言うんだ」とたしなめられ「そうかドクゼツというんですか」と驚いていたという10代の流行歌手も出てくるわけである。〈週刊朝日 43.12.20日号〉周作怠談）読みに抵抗のある音の多くは，特殊音か，この用いられなくなってきつつある語の音で，漢字の読みの力について考えるとき，その時代の使用語彙との関連からも考察しなければならないことがわかる。

(5)　日常生活ではあまり使われないことばの訓が含まれている。

訓は字義の定着したものであり，一般に漢字の意味を理解する手だてとなるものであったが，中には，現在の日常生活ではあまり用いられていない文章語的な訓では，むしろ，その文字を含む漢語の方が使用されていて親近性

があるためか，時に訓でよりもかえって音の方が読めるという現象がある。

面(おもて)　公(おおやけ)　商(あきな)う　政(まつりごと)　競(きそ)う　統(すべ)る　興(おこ)る　省(かえり)みる　経(へ)る
承(うけたまわ)る　価(あたい)　否(いな)　眼(まなこ)　災(わざわ)い　難(かたい)　退(しりぞ)く

など，訓では読めないが，同意の漢語

表面　公共（私）　商売　政治　競争　統治・統一　復興・興亡　反省
経過　承知　定価　否定　近眼　災難　難事（困難）　退出・退化・退学

の音では読める。すなわち音のほうではよく読めるという現象である。

これら一連の和語は生活語としてはしだいに用いられなくなってきつつあり，代わって，その文字を含む漢語・熟語のほうが多用されている現実が，漢字を読む力にもそのまま反映していることを示している。

(6)　なお，当用漢字音訓表制定以前には，別訓として用いられていた読み方のほうに反応して，音訓表の読み方が用いられないものもある。

魚の「うお」→さかな，潔の「いさぎよい」→きよいなどがそれで，こうした反応は，現在社会でも，往々にして行なわれているために，文字によっては相当根強く，また，多くの生徒によって繰り返されている反応である。

(7)　語彙力がともなわないために読めない。上掲の特殊音訓や，日常生活的でない語に使用される音・訓であるために読めないということも，語彙力との対応の問題であるが，さほど特殊でもなく，生活上でも用いられておりながら読めない（いくつかの）場合がある。

この調査では，読みの力を調べるための刺激語として，なるべく中学生として親近性のある語を選んだために，読みに抵抗のある音訓として残ったものは，多く上掲のように特殊な語彙や同じ意を表わす語で，日常生活では用いられることの少ないほうの語彙としての音または訓であったが，日常生活でも用いられながら，語彙力との関係で，ある語では読めながら同じ音のものでも実際には読めないものが出てくることは必定であろう。その語が未学習語彙であったり，あるいは新聞・雑誌・単行本などによる読書活動や生活経験が狭く，浅いなどで，語彙範囲が狭かったり，中学生として必要度や関心度の少ない領域の用語などであったりすると，いっそうそうした結果が出てくることは，同じ

文字を，他の語彙の音で調査した場合，読字反応に変動があることによっても知られる。この調査でも，その点を配慮して，習得が固定化しにくいと思われたいくつかの文字には，同音の語を2～3種（その際もなるべく親しい語彙を目ざした。また，その文字が語頭や語尾にある場合の使いわけも考慮した）加えることも試みた。提出語によって読みの反応が異なるということも，漢字習得に段階のあることを表わしている。

この調査で，読みの場合(1対1方式なので)，むずかしいほうは読まない，読み誤る，口ごもるなどによって難易や適否が判定できた。教育漢字であり，一般的な語を目ざしたので，大差はないが，中には多少の有意の差が認められたものもある。

例——：

益エキ→利益＞純益　　主ぬし→持ち主＞地主　　仮カ →仮面＞仮説

株かぶ→株式＞切り株　　河カ →運河＞河口　　室むろ→室蘭＞室咲き

(表外字との組み合せでも，地名として親しい)

今コン→今度＞今回　　述ジュツ→著述＞述語

(述語という語が学習されない時)

冬トウ→冬眠＞冬至　　胎タイ→胎生＞胎児

(一般的な胎児より他教科で学習された胎生が読みやすい)

漢字調査の結果（正答数）を比較するとき，単に数字だけを問題にせず，どのような語句によってその文字が検されたかもあわせてみておかなければならない理由がここにある。

7. 読めない音訓とその文字の使用度

義務教育終了段階でも読みに抵抗を示した教育漢字の音または訓は，上来みてきたように，特殊な語に用いられる音訓，あるいは，使用度の少ない語の音訓が多かった。これらの音訓が一般使用語彙とどのような関係があるか。「現代雑誌九十種の用語用字　漢字表」（国立国語研究所報告22　昭和31年代の現

代雑誌九十種について，その用語用字をしらべ，漢字の使用度による使用順位があげられている）によって，これらの文字の使われ方をみるとその関係が判然とするであろう。

(1)　現代雑誌九十種の調査結果との関係

読みの上で問題を残した音訓のうち，半数（4人）以上がその読み方に抵抗を示した文字は，現代雑誌九十種の用語用字調査によると，どのような使われ方をしているであろうか。

現代雑誌九十種でのその文字の使用状況

<文字使用度>	<その読み方での使用度>	<用　例>
因(92)	よる(2)	因る(1種)　〈cf. 依る(6)ひらがな489〉
基(133)	もとい(0)	〈基づく(15)〉
衆(105)	シュ(3)	衆生(1)
由(239)	よし(10)	由(1)
回(409)	エ(0)	
説(214)	ゼイ(2)	遊説(1)
殺(157)	サイ(3)	減殺・相殺(2)
功(60)	ク(0)	
貸(46)	タイ(3)	貸借・貸船(2)
供(274)	ク(0)	
	そなえる(5)	供える(1)
宗(57)	ソウ(2)	宗匠・孟宗(2)
天(272)	あめ(0)	〈あま(1)　天くだり〉
社(654)	やしろ(0)	
面(539)	おもて(3)	面(1)　〈表89〉
政(366)	まつりごと(0)	
統(128)	すべる(0)	
切(540)	サイ(26)	一切・合切(〜袋)(2)

夕(88)　セキ(２)　一夕(一朝～)　明夕(２)

坂(93)　ハン(０)

業(651)　ゴウ(10)　悪業・黒業・罪業・自業・非業(５)

字(146)　あざ(10)　字・大字・何字(３)

興(144)　おこる(３)おこす(1)おこる(2)　興る(す)　(１)

授(49)　さずける(０)

行(1352)　アン(５)　行脚・行燈(２)

拾(44)　シユウ(３)　拾得・収拾(２)

*蚕(0)　サン(０)

暴(58)　バク(５)　暴露(１)

舌(14)　ゼツ(４)　饒舌・毒舌(２)

各(185)　おのおの(３)　各(１)〈各各14　ひ3〉

否(52)　いな(む)いないなむ(7)(0)　否(終るや～や)(１)

眼(272)　まなこ(２)　眼(１)

畜(31)　ふるう(０)

災(33)　わざわい(２)　災いする(１)

川(480)　セン(５)　河川・二川・川柳(３)

期(475)　ゴ(５)　一期・最期(２)〈最後(85)〉

遠(161)　オン(１)　遠寺(～の鐘の音)(１)

緑(40)　ロク(１)　松緑(～湯)

久(153)　ク(０)

精(118)　シヨウ(８)　精進　無精(不精)(～ひげ)(２)

織(115)　シヨク(８)　織機　交織　混織　紡織(４)

解(303)　ゲ(０)

己(33)　キ(１)　知己(１)

権(164)　ゴン(２)　権化(２)　〈人・地名９〉

下(1038)　もと(12)　下(１)　〈許７　ひ16〉

仕(320)　つかえる(２)　仕える(１)

機(412)	はた(0)	
結(511)	ゆう(2)	結納(1)
省(135)	かえりみる(1)	省みる(1)
経(390)	へる(15)	経る(1)
承(53)	うけたまわる(0)	
報(126)	むくいる(1)	報いる(1)
採(65)	とる(9)	採る・採り入れる(2) 〈取る　撮る　捕るなど…㋕345〉
退(76)	しりぞく(3)	退く(1)
難(143)	かたい(31)	難い・有難・有難い(3)〈かたい15 ありがたい15〉

これでみると，読みに問題のあった音訓は，例外なく，

① 文字としての使用度は多いが，その音なり訓なりでの使われかた――使用語彙――使用面はいたって少ない

② 文字としての使用度もあまり多くなく，しかもその音訓面での使用もいたって少ない

のどちらかである。したがって，それらの音訓を含む語彙が中学生の目にふれる機会は非常に乏しいということになる。使用度少は日常の必要度少ということも考えられるが，しかし，一般読書とはちがって，学校教育では，学習上の必要という面から，文字や語彙がより意図的に提出されるはずであるし，また，されなければならない。しかし，小学校と異なって，中学校では配当漢字もなく，基本的な学習語彙の体系もないから，文字や語彙の提出は，多く教科書の教材として採用された文章を中心としてまかなわれる。ことに，中学校では教育漢字外当用漢字が中心となるから，いきおい教育漢字は小学校で提出された漢字ということで，読みの上では，習得ずみ扱いを受けることが現実のようである。試みに，8人の生徒が使用した国語の教科書での教育漢字の音訓使用状況をみると，次のようである。

(2)　小・中学校の使用国語教科書での提出状況との関係

教育漢字の未習得音訓と使用国語教科書の提出状況

漢字	小学校国語教科書（5　社）		中学校国語教科書			
配当学年	1～6年（教科書提出数）（5社）	使　用　例	1～3年（使用度数）	1年	2年	3　　年
1年用						
川セン	1社	河川	2			②河川
下もと	3	一望の下，太陽の下，博士の下で	0			
2年用						
天あめ	0 2（あま）	天の川(2)	天あめ 4 あま(12)		①天の川 ②天野	②天　②天の香具山　⑨天の川
切サイ	1	一切	0			
夕セキ	0		0			
字あざ	1	…郡…字…	0		〈特〉 ③ あざな	③ あざな
行アン	0		0			
3年用						
由よし	0		2		②	
社やしろ	0		0			
回エ	0		0			
面おも	2	池の面，砂の面	4			③北面 ①西面
坂ハン	0		0			
仕つかえる	2	仕える　仕え	9	③	①	⑤
期ゴ	2	最期(2)	0			
遠オン	0		1			①遠国
4年用						
業ゴウ	0		1		①収拾 ⑥宇治拾遺	①業つくばり
拾シュウ	0		7			

漢字	小学校国語教科書（5　社）		中学校国語教科書			
配当学年	1～6年（教科書提出数）	使　用　例	1～3年（使用度数）	1年	2年	3　　年
機（はた）	1	機織りの音	0			
結（ゆう）	1	結う	0			
緑（ロク）	0		0			
5年用						
因（よる）	0		0			
説（ゼイ）	0		0			
政（まつりごと）	0		0			
殺（サイ）	0		0			
功（ク）	0		0			
統（すべる）	0		0			
貸（タイ）	0		0			
興（おこる）	2	国を興す 運動が興る	1			①
各（おのおの）	0		0			
蚕（サン）	2	養蚕(2)	2	②養蚕		
解（ゲ）	0		0			
久（タ）	0		4	①人名 大久保	③大久保	
経（へる）	4	年を経る，喜びを経る，マラッカを経る(2)	6		②	④
承（うけたまわる）	1	承る	4			④
織（ショク）	1	自動織機	0			
精（ショウ）	1	精進	0			
省（かえりみる）	0		0			
報（むくいる）	1	…の報い	3	①	②	

漢字	小学校国語教科書（5　社）		中学校国語教科書			
配当学年	1～6年（教科書提出数）	使　用　例	1～3年（使用度数）	1年	2年	3　　年
6年用						
基（もと）	0		4			④
衆（シュ）	0		0			
供（ク そなえる）	ク 1 そなえる 2	供えて，お供えする	ク 7 そなえる 7	④節供 ③供日え ④供え る①供 え物	①供える	①供える
宗（ソウ）	0		0			
授（さずける）	3	授ける(2) 授けられる	4		① ①授かる	①授かる ①お授けなさる
眼（まなこ）	0		0			
災（わざわい）	0		0			
舌（ゼツ）	0		0			
否（いな（ひ））	2	否か，否	いな 2		②奮い起こす	いな ②
奮（ふるう）	3	奮いたたす 奮い立つ(2)	5	①	①奮い立たせる	①奮い起こす
暴（バク）	0		2			②暴露
権（ゴン）	0		1			①人名　権二
己（キ）	0		4		④知己	
採（とる）	4	採る(2)　しんじゆ採り，採れる	8	①	② ①採り方	① ③採り入れる
退（しりぞく）	3	退く(2)　飛び退く	0			
難（かたい）	0		0			

＜注＞小学校国語教科書では，8人の生徒が，出身小学校で採用した5社の教科書について，教育漢字の提出状況を調べたもの。教科書提出数は，その5社のうち，この音訓を提出した教科書の数を示したもの。使用例は，その使用例。中学校国語教科書では，8人の生徒が中学校3年間に使用した一社のもの。ここでは，使用度数についても調べたので，使用度数をつけてある。

成績の非常に悪かった音訓は，教育の場でも学習されていないものに多いということがわかる。社会での使用も乏しく，教育上でも学習の機会が乏しいこれら教育漢字の未習得音訓（未学習音訓）が，このあと，いつ，どこで，習得されていくか，義務教育後の習得状況を検討する必要を感じる。

Ⅲ　教育漢字外当用漢字　1年入学時の読みの成績

1.　読みの成績と字種

中学1年入学時の教育漢字外当用漢字の読みの成績は，平均読字数は539字であったが，これを漢字を中心として整理してみると，次のようになる。

入学時読みの成績 / その内訳	8人 (100%) 読めた字 189字	7人 (87.5) 〃 114字	6人 (75.0) 〃 109字	5人 (62.5) 〃 82字	4人 (50.0) 〃 94字	3人 (37.5) 〃 86字	2人 (25.0) 〃 78字	1人 (12.5) 〃 89字	0人の字 128字
(イ) 1音又は1訓の文字で	89	58	63	39	51	51	41	57	90
(ロ) 音訓をつくして	7	3	2	3	4	5	6	10	38
(ハ) どちらかの音訓で	93	53	44	40	39	30	31	22	0

教育漢字外当用漢字は，中学校で学習する文字であるから，入学時の読みの成績がこの程度であるのは当然で，むしろ，8人全員が読めた字が189字（2割弱）あることに，小学校段階での教育漢字外当用漢字習得の機会と能力のあることが示されているといえる。具体的に文字についてみよう。

(1)　音訓の観点から全員が完全に読めた字

8人（100%）読めた漢字　189字

1音又は1訓で完全に読めたもの　89字

域宇乙華菓箇介閣乾監簡鑑儀菊巨峡菌径憩劇坑郊侯項込*婚佐座栽剤咲*誌尺珠署将晶紹丈垂瀬奏荘臓滝*宅卓丹担段弾稚畜蓄

宙庁*津滴痘胴俳培*箱班畔般晩秘*姫附符偏亡坊房帽棒盆枚*又密*娘*矢硫厘塁郎廊湾　（＊印の字は訓よみであることを示す。以下同じ。）

音訓をつくして読めたもの　7字

江(コウ)え　砂(シャ)すな　城(ジョウ)しろ　洗(セン)あらう　泉(セン)いずみ　暖(ダン)あたたかい　幼(ヨウ)おさない

(2)　どちらかの音訓では全員が読めた字

ルビは読めた音訓を，（　）内の読みは抵抗のあった音訓を示す。

陰(イン)(かげ)	羽(はね)(ウ)(は)	映(エイ)(うつる)	鉛(なまり)	割(わる)(カツ)	甘(あまい)(カン)	肝(きも)	巻(まく)(カン)	冠(かんむり)	
丸(まるい)(ガン)	危(あやうい)	机(つくえ)(キ)	弓(ゆみ)(キュウ)	丘(おか)(キュウ)	吸(すう)(キュウ)	胸(むね)(キョウ)	郷(ゴウ)	掘(ほる)(クツ)	
恵(めぐむ)(ケイ)(エ)	掲(ケイ)(かかげる)	剣(ケン)(つるぎ)	懸(ケン)	弦(ゲン)(つる)	源(ゲン)(みなもと)	呼(よぶ)(コ)	甲(コウ)(カン)	紅(コウ)(ク)(ベニ)(くれない)	
刻(コク)(きざむ)	裁(サイ)(たつ)	枝(えだ)(シ)	姿(すがた)(シ)	紫(むらさき)	飼(かう)(シ)	射(シャ)(いる)	斜(シャ)(ななめ)	若(わかい)(ジャク)(もしくは)	
趣(シュ)(おもむき)	縮(シュク)(ちぢむ)	松(まつ)(ショウ)	笑(ショウ)(わらう)	傷(ショウ)(きず)	伸(のびる)(シン)	針(はり)(シン)	井(い)(ショウ)(セイ)	姓(ショウ)(セイ)	
桑(くわ)(ソウ)	窓(まど)(ソウ)	装(ショウ)(よそおう)	操(みさお)	束(たば)(ソク)	袋(ふくろ)(タイ)	仲(なか)(チュウ)	頂(いただき)(チョウ)	潮(しお)(チョウ)	
痛(いたむ)(ツウ)	提(つつみ)(テイ)	笛(ふえ)(テキ)	殿(との)(デン)(テン)	豆(まめ)(ズ)(トウ)	凍(こおる)(こごえる)(トウ)	桃(もも)(トウ)	稲(いね)(トウ)	豚(ぶた)(トン)	
乳(ちち)(ニュウ)(チ)	忍(しのぶ)(ニン)	背(せ)(ハイ)	拍(ヒョウ)	泊(とまる)(ハク)	髪(かみ)(ハツ)	抜(ぬく)(バツ)	被(こうむる)(ヒ)	尾(お)(ビ)	
匹(ヒキ)(ヒツ)	浮(うく)(うかぶ)(フ)	舞(まう)(ブ)	腹(はら)(フク)	並(なみ)(ヘイ)(ならべる)(ならびに)	片(かた)(ヘン)	浦(うら)(ホ)	募(つのる)(ボ)	忘(わすれる)(ボウ)	
紡(つむぐ)(ボウ)	眠(ねむる)(ミン)	夢(ゆめ)(ム)	雄(おす)(お)(ユウ)	優(やさしい)(ユウ)	羊(ひつじ)(ヨウ)	揚(あげる)(ヨウ)	頼(たのむ)(ライ)	卵(たまご)(ラン)	
離(はなれる)(リ)	裏(うら)(リ)	鈴(すず)(レイ)(リン)							

(3)　7人以下が読めた字

7人（87.5%）読めた漢字　114字

1音又は1訓で読めたもの　58字

緯閲憶架街看環艦犠脚距偶刑啓慶警抗購酷脂*芝樹秀症粧障彰診睡寸層燥拓託誕駐廷抵帝斗唐糖*峠搬伯爆販盤微普簿邦胞凡魔漫郵齢

音訓をつくして読めたもの　3字

茎(くき)　梅(うめ)(バイ)　宝(たから)(ホウ)

どちらかの音訓で読めたもの　53字

影(エイ)　鋭(するどい)　越(こえる)(エツ)　沿(そう)　押(おす)(おさえる)　奥(おう)　桜(さくら)　嫁(よめ)　皆(みな)(カイ)

泣(なく)(キュウ)　恐(おそろしい)(おそれる)(キョウ)　筋(すじ)(キン)　琴(キン)　穴(あな)(ケツ)　肩(かた)(ケン)　好(すく)(コウ)(このむ)　荒(コウ)(あらす)(あれる)

降(ふる)(コウ)(おりる)　香(か)(コウ)　骨(ほね)(コツ)　札(ふだ)(サツ)　煮(にる)(シャ)　狩(かり)(シュ)　柔(ニュウ)(やわらかい)　沼(ぬま)(ショウ)

蒸(ジョウ)(むす)　寝(シン)(ねる)　震(シン)(ふるう)　盛(もる)(セイ)(ジョウ)(さかり)　染(そめる)(セン)　扇(おうぎ)(セン)　掃(ソウ)(はく)　沢(タク)(さわ)　摘(テキ)(つむ)

渡(わたる)(ト)　筒(トウ)(つつ)　曇(くもる)(ドン)　尼(あま)(ニ)　粘(ねばる)(ネン)　彼(かの)(ヒ)(かれ)　疲(つかれる)(ヒ)　漂(ヒョウ)(ただよう)

浜(はま)(ヒン)　払(はらう)(フツ)　慕(したう)(ボ)　峰(みね)(ホウ)　訪(おとずれる)(ホウ)　冒(おかす)(ボウ)　溶(とかす)(ヨウ)　謡(うたい)(ヨウ)

涙(なみだ)(ルイ)　恋(こい)(こいしい)(レン)　腕(うで)(ワン)

6人（75.0%）読めた漢字　109字

1音又は1訓で読めたもの　63字

維※沖※刈寛還奇岐棋騎擬倹玄呉豪獄斎冊祉滋磁儒銃旬肖礁錠嬢紳征牲鮮賊壇聴呈塔脳肺賠藩批碑怖譜覆墳丙遍砲肪躍翌絡欄覧痢僚寮療糧零炉浪

音訓をつくして読めた字　2字

煙(エン)(けむり)　沈(チン)(しずむ)

どちらかの音訓で読めた字　44字

偉(イ)(えらい)　灰(ハイ)(カイ)　怪(あやしい)(カイ)　岳(たけ)(ガク)　干(ほす)(カン)(ひる)　汗(あせ)(カン)　鬼(おに)(キ)　輝(かがやく)(キ)　拠(コ)

叫(さけぶ)(キョウ)　響(キョウ)(ひびく)　迎(ゲイ)(むかえる)　鯨(くじら)(ゲイ)　軒(ケン)(のき)　悟(ゴ)(さとる)　御(ゴ)(ギョ)(おん)　困(こまる)(コン)　巡(めぐる)(ジュン)

床(ショウ)(とこ)(ゆか)　鐘(かね)(ショウ)　吹(ふく)(スイ)　酔(スイ)　昔(むかし)(シャク)(セキ)　脱(ダツ)(ぬぐ)　探(タン)(さぐる)　彫(チョウ)(ほる)　逃(にげる)(トウ)

盗(トウ)(ぬすむ)　濃(ノウ)(こい)　杯(ハイ)(さかずき)　帆(ホ)(ハン)　腐(フ)(くさる)　封(フウ)(ホウ)　閉(とじる)(ヘイ)　奉(ホウ)(たてまつる)

妨(ボウ)(さまたげる)　麻(マ)(あさ)　霧(きり)(ム)　盲(モウ)(めくら)　踊(おどる)(ヨウ)　雷(ライ)(かみなり)　乱(ラン)(みだれる)　柳(やなぎ)(リュウ)　粒(リュウ)(つぶ)

5人（62.5%）読めた漢字　82字

1音又は1訓で読めたもの　39字

亜尉悦核穫喫却圏遣娯稿撮惨殊酬熟徐渉審薪陣籍織租徴邸到陶闘督排罰妃慢猛紋酪了烈

音訓をつくして読めた字　3字

舟(シュウ)(ふね)　贈(ゾウ)(おくる)　幕(マク)（2音の文字であるが，便宜上。以下同じ。）

どちらかの音訓で読めた字　40字

違(イ)(ちがう)　炎(エン)(ほのお)　貫(カン)(つらぬく)　換(カン)(かえる)　幾(キ)(いく)　狂(キョウ)(くるう)　互(ゴ)(たがい)　攻(コウ)(せめる)　綱(コウ)(つな)

鎖(サ)(くさり)　歳(サイ)(セイ)　刺(さす)(シ)　施(シ)(ほどこす)　湿(シツ)(しめる)　寿(ジュ)(ことぶき)　獣(ジュウ)(けもの)　緒(ショ)(お)　償(ショウ)(つぐなう)

畳(ジョウ)(たたみ)　振(シン)(ふる)　刃(は)(ジン)　誓(セイ)(ちかい)　繕(ゼン)(つくろう)　巣(ソウ)(す)　捜(ソウ)(さがす)　霜(ソウ)(しも)　遅(チ)(おくれる)

珍(チン)(めずらしい)　伴(ハン)(バン)(ともなう)　苗(ビョウ)(なえ)　幅(フク)(はば)　壁(ヘキ)(かべ)　捕(ホ)(とらえる)　埋(マイ)(うめる)　茂(モ)(しげる)　翼(ヨク)(つばさ)

涼(リョウ)(すずむ)　隣(リン)(となり)　暦(レキ)(こよみ)　朗(ロウ)(ほがらか)

4人（50.0%）読めた漢字　94字

1音または1訓で読めたもの　51字

宴援禍慨*掛患棺憾揮謹勲顕孤弧碁硬鋼剛彩索軸爵叙升掌硝奨

衝殖摂銑粗双即泰逮痴兆哲婆廃輩範泌噴幣魅銘耗霊錬

音訓をつくして読めた字　4字

鶏(ケイ)(にわとり)　捨(シャ)(すてる)　跡(セキ)(あと)　塗(ト)(ぬる)

どちらかの音訓で読めた字　39字

縁(エン)(ふち)　戒(カイ)(いましめ)　悔(カイ)(くいる)(くやむ)　企(キ)(くわだてる)　拒(キョ)(こばむ)　撃(ゲキ)(うつ)　激(ゲキ)(はげしい)　幻(ゲン)(まぼろし)

鼓(コ)(つづみ)　控(コウ)(ひかえる)　載(サイ)(のせる)　酢(サク)(す)　充(ジュウ)(あてる)　渋(ジュウ)(しぶる)　縦(ジュウ)(たて)　召(ショウ)(めす)　錘(スイ)(つむ)

請(セイ)(こう、うける)　占(セン)(しめる)(うらなう)　葬(ソウ)(ほうむる)　騒(ソウ)(さわぐ)　耐(タイ)(たえる)　滞(タイ)(とどこおる)　倒(トウ)(たおれる)　透(トウ)(すく)

踏(トウ)(ふむ)　突(トツ)(つく)　迫(ハク)(せまる)　敷(フ)(しく)　紛(フン)(まぎれる)　柄(ヘイ、え)(がら)　暮(ボ)(くれる、くらす)　墨(ボク)(すみ)

免(メン)(まぬかれる)　憂(ユウ)(うれい)(うれえる)　誉(ヨ)(ほまれ)　腰(ヨウ)(こし)　裸(ラ)(はだか)　裂(レツ)(さく)

3人（37.5%）読めた漢字　86字

1音または1訓で読めたもの　51字

**扱芋佳餓較勘敢軌吉況緊傑孔恒紺錯擦朱愁昇冗浄醸随旋阻塑

僧遭致抽超跳墜*坪艇途妊陪舶敏賦舗没摩妙愉幽裕慮猟

音訓をつくして読めた字　5字

驚(キョウ)(おどろく)　枯(コ)(かれる)　襲(シュウ)(おそう)　模(モ)(ボ)　網(モウ)(あみ)

どちらかの音訓で読めた字　30字

依(イ)(エ)　暇(カ)(ひま)　含(ガン)(ふくむ)　詰(キツ)(つめる)　及(キュウ)(およぶ)(および)　狭(キョウ)(せまい)　仰(ギョウ)(コウ)(あおぐ)(おおせ)　巧(コウ)(たくみ)

絞(コウ)(しぼる)(しめる)　臭(シュウ)(くさい)　如(ジョ)(ニョ)　焦(ショウ)(こげる)　飾(ショク)(かざる)　浸(シン)(ひたす)　慎(シン)(つつしむ)　穂(スイ)(ほ)　潜(セン)(ひそむ)

礎(ソ)(いしずえ)　促(ソク)(うながす)　端(タン)(はし)　値(チ)(あたい)　恥(チ)(はじる)　締(テイ)(しまる)　悩(ノウ)(なやむ)　膚(フ)(はだ)　伏(フク)(ふせる)

忙(ボウ)(いそがしい)　与(ヨ)(あたえる)　露(ロ)(つゆ)　惑(ワク)(まどう)

2人（25.0%）読めた漢字　78字

1音または1訓で読めたもの　41字

威為慨滑凶恭遇屈貢酵詐慈邪囚叔俊庶抄剰娠炊帥隻禅壮胎胆秩窒陳貞尿繁蛮賓倣剖撲膜隆累

音訓をつくして読めた字　6字

握(アク にぎる)　駆(ク かける)　侍(ジ さむらい)　憎(ゾウ にくむ)　澄(チョウ すむ)　抱(ホウ だく)

どちらかの音訓で読めた字　31字

慰(イ なぐさめる)　忌(キ いむ)　偽(ギ いつわる)　脅(キョウ おびやかす)　愚(グ おろか)　契(ケイ ちぎる)　堅(ケン かたい)　献(コン ケン)　賢(ケン かしこい)　更(コウ さらに)　魂(たましい コン)　催(サイ もよおす)　伺(シ うかがう)　漆(うるし シツ)　詔(ショウ みことのり)　譲(ジョウ ゆずる)　触(ショク ふれる)　辛(シン からい)　侵(シン おかす)　衰(スイ おとろえる)　奪(うばう ダツ)　淡(タン あわい)　懲(チョウ こらす)　吐(ト はく)　怒(いかる ド)　鈍(ドン にぶい)　薄(うすい ハク)　縛(バク しばる)　沸(わく フツ)　乏(ボウ とぼしい)　誘(ユウ さそう)

1人（12.5%）読めた漢字　89字

1音または1訓で読めたもの　57字

逸姻詠疫謁欧雅塊懐壊括渇棄虐享謙拷克搾嗣諮匂淑粛瞬循匠訟祥*畝析拙窃践疎択諾脹訂徹奴悼騰軟閥扶某傍謀膨諭融窯履虜隷楼

音訓をつくして読めた字　10字

隠(イン かくれる)　獲(カク える)　傾(ケイ かたむく)　継(ケイ つぐ)　替(タイ かえる)　避(ヒ さける)　縫(ホウ ぬう)　滅(メツ ほろびる)　黙(モク だまる)　劣(レツ おとる)

どちらかの音訓で読めた字　22字

汚(オ けがす)　穏(オン おだやか)　祈(いのる キ)　既(キ すでに)　戯(ギ たわむれる)　朽(キュウ くちる)　虚(キョ コ)　凝(ギョウ こる)　携(ケイ たずさえる)　誇(コ ほこる)　旨(シ むね)　雌(シ めす)　執(シツ シュウ とる)　尽(ジン つくす)　惜(セキ おしい)　訴(ソ うったえる)　描(ビョウ えがく)　憤(フン いきどおる)　飽(ホウ あく)　揺(ヨウ ゆれる)　陵(リョウ みささぎ)　励(レイ はげむ)

0人の字　128字

1音又は1訓の文字　90字

韻殴翁*虞*卸寡*蚊劾該郭嚇轄*且喚閑款緩宜糾斤吟*繰薫拘肯慌衡墾懇唆宰債暫璽疾赦盾殉准遵嘱辱迅粋髄枢崇斥遷薦漸措妥惰堕*但逐嫡衷勅朕鎮逓迭撤謄匿篤寧媒伐頒罷赴併弊崩奔矛*匁唯猶庸擁抑濫吏倫廉賄

音訓ともに読めなかった字　38字

哀(アイ あわれ)　隔(カク へだてる)　陥(カン おちいる)　堪(カン たえる)　飢(キ うえる)　欺(ギ あざむく)　窮(キュウ きわめる)　暁(ギョウ あかつき)　繭(ケン まゆ)
雇(コ やとう)　顧(コ かえりみる)　恨(コン うらむ)　砕(サイ くだく)　削(サク けずる)　賜(シ たまわる)　寂(ジャク さびしい)　醜(シュウ みにくい)　潤(ジュン うるおう)
詳(ショウ くわしい)　尋(ジン たずねる)　遂(スイ とげる)　婿(セイ むこ)　喪(ソウ も)　怠(タイ おこたる)　濁(ダク にごる)　嘆(タン なげく)　鍛(タン きたえる)
鋳(チュウ いる)　弔(チョウ とむらう)　添(テン そえる)　煩(ハン わずらわしい)　卑(ヒ いやしい)　侮(ブ あなどる)　癖(ヘキ くせ)　芳(ホウ かんばしい)
翻(ホン ひるがえる)　麗(レイ うるわしい)　漏(ロウ もる，もれる)

2.　読みの成績から推定される小学校における教育漢字外当用漢字の習得

入学時の調査で，8人全員が読めた漢字は189字あるが，そのうち，1音または1訓で完全に読めたもの89字，音訓をつくして読めたもの7字，計96字は，完全に読めた字ということになり，当然のことながら，どちらかの音訓1種のものが圧倒的に多い。残る半数は，音訓どちらかの読みで，100%読めるということになる。教育漢字外当用漢字の読みの調査は，6月から始まったので（6月4日～6月19日），その間までに中学の国語教科書で，新出漢字として学習したものを反映しているものもあるが（後述），しかし，その大部分は，当時未学習の教育漢字外当用漢字を，半数以上のものが読めた字が588字もあるということは，このころになると，教育漢字881字のほかに，日常生活に密着し，教育漢字と熟合して使用されている教育漢字外当用漢字の相当数のものに接近し，ある程度は読めるようになっていることを示している。このことは，われわれが，言語能力の発達研究のために昭和28年来継続調査をしてきた児童の6年生の読書力調査（昭和34年）の結果を通しても，小学生の教育外当用漢字を読む力・読める可能性が推定されたし，（6年生に実施した「標準読書力診断テスト」〈阪本D式〉の読字テスト中の当用漢字28字「*枝暇筋*療*宅樹巣*怪*秘黙黙掲*頂粧背捕*依誉奇歎妨江懇孔汚覧審薦」は，平均して，32.7%読めており，＊印の文字でなら50%以上は読める。国立国語研究所報告書26「小学生の言語能力の発達」—文字の習得　67ペー

ジ，同報告書17「高学年の読み書き能力」—当用漢字を読む力　313～317ページ参照）近くは，文部省初中局の小学校教育課で，43年度改定学習指導要領のために，実験学校で，小学校6年生に実施した教育漢字外当用漢字の全数読字調査結果（昭和42年実施）によっても，相当量の教育漢字外当用漢字の読めることがわかる。

(1)　「小学校改訂学習指導要領」の備考漢字115字と入学時調査結果との比較

昭和43年度改訂の「小学校の学習指導要領」で，教育漢字外当用漢字から小学校6年用漢字の備考としてとり出した文字は115字ある。（この115字は，教育上の基本語彙と関係のあるもの，小学生調査の結果習得度の高いもの，文字構成上の基本的なもの，使用度が高く語構成上必要なものなど，いくつかの必要条件を勘案して決めた漢字である。）

域宇羽映沿灰街閣割干巻看簡丸危机揮弓吸泣胸郷筋径警劇穴源呼好紅降鋼刻骨困砂座裁冊姿誌磁射捨尺若樹縦縮熟署将笑傷障城蒸針垂寸染泉洗奏窓層操臓宅担探段暖値仲宙庁兆頂潮痛糖乳脳肺背俳班晩批秘腹閉片宝訪亡忘棒枚幕密模矢郵優幼羊翌乱卵覧裏朗　　115字

この115字をわれわれの1年入学時の調査結果と比較してみると，音訓観点から全員100％読めた189字（文字としては汗荒降腕が加わって193字）中，115字と共通するものは72字（62.6％）であり，189字中にない43字も，7人が読めた字20字，6人—13字，5人—3字，4人—5字，3人—2字の割合になっていて，かなり共通度が高いことがわかる。

7人　沿街看泣筋警穴好降骨樹障蒸寸染層糖宝訪郵　（20字　17.4％）

6人　灰干困冊磁探脳肺批閉翌乱覧　（13字　11.3％）

5人　熟幕朗　（3字　1.7％）

4人　揮鋼捨縦兆　（5字　4.3％）

3人　値模　（2字　1.7％）

教育漢字外当用漢字の読みの調査は，中学での文字学習が行なわれていない4月入学直後に実施されたものではない。したがって，厳密にいえば調査結果に，中学生になってからの文字学習が反映しているとみなければならない。

(2)　入学時の読みの成績と文字学習

第1回入学時の教育外当用漢字の読みの調査は，6月4日～6月19日に行なわれたから，調査の結果に，中学生になってから学習した文字の影響が出てくるはずである。

読みの調査が終了するまでに，生徒が使用した国語の教科書の新出漢字は，次の68字70音訓である。

読みの調査時までに学習した1年生の国語教科書の新出漢字（4月～6月19日）

迫せまる　胸むね　紹ショウ　介カイ　背せ　帽ボウ子　廊ロウ下　掲ケイ示板　丸まるい　伸のびる　若わかい　割わる　浮うかぶ　（辞じ　書　索サク引）

懸ケン命　項コウ目　図鑑カン　雑誌シ　吹ふく　座ザ席　好すく　抜ぬく　箇カ所　吸すう　夢ゆめ　乳ちち　お嬢ジョウさん　甘あま約束ソク　枝えだ　羽は音　舞まう　飼かう　肝カン油　痛いたい　一片ペンの雲　片かた側　丘おか　一匹ひき　肩かた　咲さく　一枚まい　頬ほお　大丈ジョウ夫　腕うで　棒ボウ　矢や車草　幼おさない年　行儀ぎ　酔よう　忘わすれる　恵めぐまれる　*涼すずしい　*汗あせ　*暖あたたかい　*桃もも　*洗あらう　*箱はこ　*押おす　*叫さけぶ　*舗ホ　*装ソウ　心　*臓ゾウ　*笑わらい　*机つくえ　*腹はら　*階段ダン　*袋ふくろ　*御ご飯　*伏ふせる　（68字70音訓）

（＊印の文字は，読みの調査期間中に学習した字。一線のつけてあるのは読みかえを示す。）

この新出漢字と，第1回の読みの調査結果と比べてみると，次のようになる。

読みの成績	文字数	学習した文字で読めた人数	文字数	内訳 イ	ロ	ハ	ニ
							文字としてみた場合
8人が読めた字	189字	学習した文字で8人が読めたもの	54字	1音1訓の字 18	音訓をつくして 3	どちらかの音訓で 33	＋2（汗・腕）

7人〃	114	7人	〃	4	(		4	)
6人〃	109	6人	〃	6	(	1	5	)
5人〃	82	5人	〃	1	(		1	)
4人〃	94	4人	〃	1	(		1	)
3人〃	86	3人	〃	2	(	1	1	)

学習した文字で，8人(100%) とも読めた字　54字

紹ショウ 介カイ 帽ボウ 廊ロウ 項コウ 鑑カン 誌シ 座ザ 箇カ 咲さく 枚まい 丈ジョウ 棒ボウ 矢ヤ 儀ギ 箱はこ 臓ゾウ 段ダン　(イ．1音又は1訓の文字　18字)

*幼ヨウおさない 暖●あたたかいダン 洗●あらうセン　(ロ．音訓をつくして読める文字　3字)

胸むね 背せ 掲ケイ 丸まるい 伸のびる 若わかい 割わる 浮うかぶ 懸ケン 抜ぬく 吸すう 夢ゆめ 乳ちち 甘あまい 束ソク 枝えだ 羽×は●はね 舞まう 飼かう 肝カン 痛いたい *片●へンかた 丘おか 匹ひき 頼たのむ 忘わすれる 恵めぐむ 桃もも 装ソウ 笑×わらい●ショウ 机つくえ 腹はら 袋ふくろ (ハ．どちらかの音訓で読める文字　33字)

7人が読めた字　4字　好すく 肩かた 腕うで 押おす (ハ)

6人が読めた字　6字　嬢ジョウ (イ．1字)

吹ふく 酔よう 汗あせ 叫さけぶ 御ゴ (ハ．5字)

5人が読めた字　1字　涼×すずしい●すがしい (ハ)

4人が読めた字　1字　迫×せまる●バク (ハ)

3人が読めた字　2字　舗ホ (イ)　伏ふせる (ハ)

〈注〉ルビは，教科書で提出された音訓と同じ音又は訓で読めたことを示す。

●印は，教科書で提出されなかった音又は訓で読めたことを示す。

×印は，その音又は訓で教科書に提出されたが，その音又は訓の読みかたよりも●印のほうに反応の優位性があったことを示す。

＊印は，音訓ともに提出された字。

なお，汗・腕は，文字単位にみた場合(193字圏内では) には，8人が読めた字である。

上のように，学習した文字のほとんどが，その学習した音訓の読み方でよく読めていること，学習した文字は，やはり正反応が集中する，習得しやすいことが認められる。ただし，ごくまれに，学習した音訓外の読み方のほうに優位な反応を示したもの（暖のダン，洗のセン，羽のはね，笑のショウ，迫のハク

など）があり，生徒のこの時点でのその文字の音訓への接近度・親近性がうかがわれる。学習した文字はさすがによく読めている（親近性の乏しい文字は読めていないものもある）が，8人正反応の文字数は189字ある。したがって入学後学習した文字による8人正答の54字を除いた135字は国語の学習（教科書の新出漢字による）外の習得経路によって読めるようになったと思われる漢字である。

国語学習によらないでも読めた字

8人全員が読めたもの　135字

域字乙華菓閣乾監簡菊巨峡菌径憩劇坑郊侯込婚佐栽剤姿尺珠署将晶垂瀬奏荘滝宅卓丹担弾稚畜蓄宙庁津滴痘胴俳培班畔般晩秘姫附符偏亡坊房盆又密娘硫厘塁郎湾（以上1音又は1訓の文字で）　72字　　江砂城泉（音訓をつくして）　4字

陰イン　映エイ　鉛エン　巻まく　冠カン　危キ　弓ゆみ　郷キョウ　堀ほる　剣ケン　弦ゲン　源ゲン
呼よぶ　甲コウ　紅コウ　刻コク　裁サイ　紫シ　射シャ　斜シャ　趣シュ　縮シュク　松まつ　傷ショウ
針はり　井い　姓ショウ　桑くわ　窓まど　操ソウ　仲なか　頂チョウ　潮しお　提テイ　笛ふえ　殿どの
豆マメ　凍トウ　稲いね　豚ぶた　忍ニン　拍ハク　泊ハク　髪かみ　被ヒ　尾お　並なみ　浦うら
募ボ　紡ボウ　眠ミン　雄ユウ　優ユウ　羊ヨウ　揚ヨウ　卵たまご　離リ　裏うら　鈴すず

（ルビで示した音又は訓で　59字）

8人が共通に読めるということは，相当習得度の高い字ということであるが，上の字を見ると，小学校でも，国語や他教科の学習語彙としてルビ付きで使われるもの，教育漢字との熟合度が高く，使用度が高いもの，日常生活に関係のあるもの，一般読書・新聞・映画・テレビ・広告・看板などのマスメディアによって刺激をうける機会の多いものなどの文字であることが考えられる。また，中学で開始された他教科の学習による影響も逐次出てくるころである。

同様に7人が読めたもの109字，4人以上では520字もあるわけで，中学入学前後のこの時期までに国語学習以外の何らかの経路・刺激などによって読めるようになる文字がかなりあることを示している。

7人が読めたもの　109字

緯閲憶架街看環艦犠脚距偶刑啓慶警抗購酷脂芝樹秀症粧障彰診睡寸層燥拓託誕駐廷抵帝斗唐糖峠搬伯爆販盤微普簿邦胞凡魔漫郵齢（1音又は1訓の文字で）　58字

茎梅宝（音訓をつくして）　3字

影(かげ) 鋭(エイ) 沿(エン) 臭(オク) 桜(さくら) 嫁(よめ) 皆(みんな) 泣(なく) 恐(おそろしい おそれる) 筋(キン) 琴(こと)

穴(あな) 荒(あれる) 降(ふる) 香(コウ) 骨(ほね) 札(ふだ) 煮(にる) 狩(かり) 柔(ジュウ) 沼(ぬま) 蒸(ジョウ) 寝(シン)

震(シン) 盛(もる) 染(そめる) 扇(セン) 掃(ソウ) 沢(さわ) 摘(テキ) 渡(わたる) 筒(トウ) 曇(ドン) 尼(あま) 粘(ネン)

彼(かの) 疲(ヒ) 漂(ヒョウ) 浜(はま) 払(はらう) 慕(ボ) 峰(みね) 訪(ホウ) 冒(ボウ) 溶(ヨウ) 謡(ヨウ) 涙(なみだ)

恋(こい しい)　48字　（文字としてなら50字〈十荒・降〉）

入学時調査結果の具体例を見ると，読めた音訓と読めない音訓の相違，音優位，訓優位の文字の実相が，未学習文字だけにいっそう出ていることがわかる。文字としては学習された教育漢字でさえ，音訓という観点からは問題を残しているほどであるから，今後の学習にまつ教育漢字外当用漢字では当然のことといえよう。

以後，新しく教育漢字外当用漢字を学習していく過程で，それらが，どのような問題を示しながら習得を重ねていくであろうか。

Ⅳ　教育漢字外当用漢字　3年卒業時の読みの成績

1.　3年間で読めるようになった字

教育漢字外当用漢字の卒業時の読みの調査は，42年3月10日から開始されたので，国語教科書での学習もほとんど終えたから，義務教育終了時の読みの力，習得状況をみることができたわけである。前章でみたように，音訓両方の成績をとり入れた文字としてみた場合は全員正答の字が863字であったが，さらに音訓観点を考慮してみても，855字は全員が読めるというように，1年入学時に比べて進歩のあとが著しい。

卒業時の読みの結果を音訓観点で整理してみると，下表のようになる。

	8　人 (100%) が 読めた字	7 人 (87.5) 〃	6 人 (75.0) 〃	5 人 (62.5) 〃	4 人 (50.0) 〃	3 人 (37.5) 〃	2 人 (25.0) 〃	1 人 (12.5) 〃	0 人	7～0 計
	855字	58	24	13	8	5	5	1	0	114
(イ)1音又は1訓の字で	454字	39	15	13	7	5	5	1	0	85
(ロ)音訓をつくして	254	7	0	0	0	0	0	0	0	7
(ハ)どちらかの音訓で	147	12	9	0	1	0	0	0	0	22

（教育漢字外当用漢字の読みの成績が総体的によかったのは，一つには，3年間継続調査による慣れもあったと思われるが，この年から東京都の高等学校の入試科目が，国・英・数の3教科にしぼられたこと，受験のための他教科学習に分散されるエネルギーが，国語に集中されたことも与って力あると思われる。）

(1)　3年間で全員が読めるようになった字

1)　音訓の観点から全員が完全に読めた字

(イ)　1音又は1訓の文字　454字

亜 *扱 威 尉 為 維 緯 域 逸 *芋 姻 韻 宇 詠 疫 悦 閲 宴 援 欧 殴 *沖 憶 乙 佳 架 華 菓
箇 *蚊 雅 餓 介 塊 懐 壊 劾 慨 概 街 核 郭 較 閣 穫 *掛 括 滑 *刈 看 勘 乾 患 棺 敢 監
寛 憾 環 還 簡 艦 鑑 奇 岐 軌 揮 棋 棄 騎 儀 擬 犠 菊 吉 喫 却 脚 巨 距 凶 況 享 峡
恭 菌 緊 謹 吟 偶 遇 屈 *繰 勲 刑 径 啓 慶 憩 警 劇 傑 圏 遣 倹 謙 顕 玄 孤 弧 呉 娯
碁 孔 抗 坑 恒 肯 郊 侯 貢 慌 項 硬 酵 稿 鋼 購 衡 拷 豪 酷 獄 *込 婚 紺 墾 懇 佐 詐
座 栽 彩 斎 債 剤 索 錯 搾 *咲 冊 擦 撮 惨 祉 脂 誌 慈 滋 磁 軸 *芝 邪 尺 爵 朱 珠 殊
儒 樹 秀 愁 酬 銃 淑 熟 瞬 旬 盾 准 循 庶 署 徐 叙 匠 抄 肖 昇 渉 症 訟 将 晶 粧 紹
掌 硝 障 彰 奨 衝 礁 丈 浄 剰 錠 嬢 殖 娠 紳 診 審 薪 迅 陣 炊 垂 帥 睡 粋 随 髄 枢
寸 征 牲 斥 析 隻 瀬 籍 拙 窃 摂 旋 践 銑 鮮 繊 禅 租 粗 疎 塑 壮 奏 荘 僧 遭 層 燥
臓 即 賊 妥 惰 胎 泰 *滝 宅 択 拓 卓 託 諾 *但 丹 担 胆 誕 段 弾 壇 致 痴 稚 畜 蓄 秩
窒 宙 駐 兆 超 脹 跳 徴 聴 庁 勅 *鎮 津 *墜 坪 呈 廷 邸 抵 帝 訂 滴 哲 撤 徹 斗 途 奴
到 唐 陶 痘 塔 糖 騰 闘 謄 胴 *峠 督 軟 尿 妊 寧 脳 婆 肺 俳 排 廃 輩 培 陪 賠 伯 舶
爆 *箱 伐 罰 閥 班 畔 般 販 搬 範 繁 藩 晩 蛮 盤 妃 批 秘 碑 罷 徴 泌 姫 賓 敏 扶 附
普 符 怖 賦 譜 覆 墳 噴 丙 併 幣 弊 偏 遍 舗 簿 邦 胞 砲 倣 亡 坊 房 剖 肪 帽 傍 棒
膨 撲 没 凡 盆 摩 魔 枚 膜 *又 漫 慢 魅 密 妙 予 *娘 銘 耗 猛 紋 *矢 躍 愉 唯 郵 幽 裕
融 翌 絡 酪 欄 覧 痢 履 隆 硫 虜 慮 了 猟 僚 寮 療 糧 厘 倫 累 塁 零 霊 隷 齢 烈 錬
炉 浪 郎 廊 楼 湾

（＊印の字は1訓の文字）

(ロ)　音・訓をつくして読める字　254字

哀あわれ	握アクにぎる	偉イえらい	違イちがう	慰イなぐさめる	陰インかげ	羽ウはね は	映エイうつる	影エイかげ
鋭エイするどい	越エツこえる こす	炎エンほのお	煙エンけむり	鉛エンなまり	汚オけがす	奥オクオウ	穏オンおだやか	暇カひま
灰カイはい	怪カイあやしい	獲カクえる	岳ガクたけ	割カツわる	汗カンあせ	肝カンきも	巻カンまく	冠カンかんむり
貫カンつらぬく	換カンかえる	丸ガンまるい	企キくわだてる	危キあやうい	机キつくえ	鬼キおに	幾キいく	輝キかがやく
欺ギあざむく	戯ギたわむれる	及キュウおよぶ および	丘キュウおか	吸キュウすう	拠キョコ	狂キョウくるう	恐キョウおそれる おそろしい	狭キョウせまい
胸キョウむね	郷キョウゴウ	響キョウひびく	筋キンすじ	琴キンこと	愚グおろか	掘クツほる	茎ケイくき	恵ケイエめぐむ
掲ケイかかげる	傾ケイかたむく	継ケイつぐ	鶏ケイにわとり	迎ゲイむかえる	鯨ゲイくじら	激ゲキはげしい	撃ゲキうつ	肩ケンかた
堅ケンかたい	献ケンコン	賢ケンかしこい	剣ケンつるぎ	幻ゲンまぼろし	源ゲンみなもと	呼コよぶ	枯コかれる	雇コやとう
誇コほこる	互ゴたがい	悟ゴさとる	巧コウたくみ	甲コウカン	江コウえ	好コウこのむ すく	攻コウせめる	荒コウあらい あれる

降コウ ふる おりる　刻コク きざむ　骨コツ ほね　困コン こまる　魂コン たましい　砂サ シャ すな　鎖サ くさり　催サイ もよおす　載サイ のせる

歳サイ セイ　酢サク す　刺シ さす　姿シ すがた　紫シ むらさき　飼シ かう　雌シ めす　侍ジ さむらい　湿シツ しめる

捨シャ すてる　斜シャ ななめ　寂ジャク さびしい　狩シュ かり　舟シュウ ふね　柔ジュウ ニュウ やわらかい　縦ジュウ たて　獣ジュウ けもの　縮シュク ちぢむ

巡ジュン めぐる　床ショウ ゆか　松ショウ まつ　笑ショウ わらう　傷ショウ きず　償ショウ つぐなう　城ジョウ しろ　蒸ジョウ むす　畳ジョウ たたみ

触ショク ふれる　飾ショク かざる　伸シン のびる　振シン ふる　針シン はり　慎シン つつしむ　寝シン ねる　震シン ふるう　姓セイ ショウ

跡セキ あと　洗セン あらう　染セン そめる　泉セン いずみ　扇セン おうぎ　繕ゼン つくろう　訴ソ うったえる　掃ソウ はく　窓ソウ まど

捜ソウ さがす　霜ソウ しも　騒ソウ さわぐ　贈ゾウ おくる　束ソク たば　促ソク うながす　耐タイ たえる　沢タク さわ　濁ダク にごる

脱ダツ ぬぐ　探タン さぐる　淡タン あわい　端タン はし　嘆タン なげく　暖ダン あたたかい　値チ ね あたい　遅チ おくれる　仲チュウ なか

潮チョウ しお　澄チョウ すむ　彫チョウ ほる　沈チン しずむ　珍チン めずらしい　痛ツウ いたむ　笛テキ ふえ　殿テン デン との　吐ト はく

渡ト わたる　塗ト ぬる　豆トウ ズ まめ　倒トウ たおれる　凍トウ こおる　こごえる　桃トウ もも　逃トウ にげる　透トウ すく　筒トウ つつ

盗トウ ぬすむ　踏トウ ふむ　突トツ つく　豚トン ぶた　鈍ドン にぶい　乳ニュウ ち　忍ニン しのぶ　悩ノウ なやむ　濃ノウ こい

背ハイ せ　梅バイ うめ　拍ハク ヒョウ　迫ハク せまる　泊ハク とまる　幕マク バク　髪ハツ かみ　抜バツ ぬく　帆ハン ほ

伴ハン バン ともなう　彼ヒ かれ　かの　疲ヒ つかれる　尾ビ お　描ビョウ えがく　浜ヒン はま　浮フ うく　うかぶ　腐フ くさる　膚フ はだ

舞ブ まう　封フウ ほう　幅フク はば　腹フク はら　沸フツ わく　並ヘイ ホウ なみ　ならべる　ならびに　柄ヘイ がら　え　閉ヘイ とじる　壁ヘキ かべ

片ヘン かた　捕ホ とらえる　暮ボ くらす　くれる　宝ホウ たから　抱ホウ だく　訪ホウ おとずれる　縫ホウ ぬう　乏ボウ とぼしい　忙ボウ いそがしい

忘ボウ わすれる　紡ボウ つむぐ　翻ホン ひるがえる　麻マ あさ　眠ミン ねむる　夢ム ゆめ　霧ム きり　滅メツ ほろびる　模モ ボ

盲モウ めくら　黙モク だまる　雄ユウ おす　与ヨ あたえる　羊ヨウ ひつじ　幼ヨウ おさない　揚ヨウ あげる　溶ヨウ とける　揺ヨウ ゆれる

踊ヨウ おどる　翼ヨク つばさ　裸ラ はだか　雷ライ かみなり　頼ライ たのむ　卵ラン たまご　乱ラン みだれる　離リ はなれる　柳リュウ やなぎ

粒リュウ つぶ　涼リョウ すずしい　隣リン となり　励レイ はげむ　鈴レイ リン すず　麗レイ うるわしい　暦レキ こよみ　劣レツ おとる　恋レン こい　こいしい

露ロ つゆ　腕ワン うで

(ハ)　どちらかの音訓では読める字　147字

依(エ)5　隠(イン)7　沿(エン)7　縁(エン)7　押(おす)5　桜(オウ)7　嫁(か)7　戒(いましめる)5　皆(カイ)5

悔(カイ)5 (くいる) (くやむ)　隔(カク)7　干(カン)6 (ほす) (ひる)　甘(あまい)6　堪(たえる)5　含(ガン)6　祈(キ)5　飢(える)4　偽(ギ)6 (いつわる)

詰(キツ)7　弓(キュウ)7　泣(キュウ)2　拒(こばむ)7　虚(キョ)4　叫(キョウ)7　脅(おびやかす)7　驚(キョウ)5　仰(ギョウ)7 (おおせ)5

凝(こる)6　暁(キョウ)5　駆(かける)6　契(ちぎる)3　携(たずさえる)6　穴(ケツ)6　軒(のき)5　懸(ケン)7　弦(つる)2

鼓(つづみ)7　御(ギョ)5 (おん)3　更(さらに)7　香(か)7　紅(ク)6 (べに) (くれない)　控(ひかえる)7　綱(コウ)4　裁(たつ)6　削(サク)7

札(ふだ)7　旨(むね)1　伺(うかがう)6　枝(シ)7　施(ほどこす)4 (セ)　執(シュウ)4 (とる)2　漆(シツ)7　射(いる)5　煮(シャ)6

若(わかい) (もしくは)7　趣(おもむき)6　寿(ことぶき)6　臭(くさい)7　充(あてる)0　渋(しぶる)2 (ジュウ)　潤(うるおう)5　緒(お)3　如(ジョ)7

召(ショウ・めす) 5　沼(ねま・ショウ) 7　焦(ショウ・こげる) 5　鐘(ショウ) 7　譲(ジョウ・ゆずる) 6　辛(シン・からい) 6　侵(シン・おかす) 6　浸(シン・ひたす) 5　刃(ジン) 1

尋(ジン・たずねる) 5　尽(ジン・つくす) 4　吹(スイ・ふく) 6　穂(スイ・ほ) 1　酔(スイ・よう) 4　錘(スイ・つむ) 7　井(セイ・い) 3　盛(セイ・ジョウ・さかり・もる) 7　婿(セイ・むこ) 0

誓(セイ・ちかい) 7　請(セイ・シン・こう・うける) 7 3 6　昔(シャク・むかし・セキ) 3　惜(セキ・おしい) 4　占(セン・しめる・うらなう) 7　潜(セン・ひそむ) 7　礎(ソ・いしずえ) 7　桑(ソウ・くわ) 6　巣(ソウ・す) 6

葬(ソウ・ほうむる) 7　装(ソウ・ショウ・よそおう) 7 6　操(ソウ・みさお) 1　憎(ゾウ・にくむ) 3　怠(タイ・おこたる) 7　袋(タイ・ふくろ) 5　滞(タイ・とどこおる) 5　恥(チ・はじる) 7　鋳(チュウ・いる) 7

頂(チョウ・いただき) 7　堤(テイ・つつみ) 5　締(テイ・しまる) 7　摘(テキ・つむ) 4　添(テン・そえる) 7　怒(ド・いかる) 7　稲(トウ・いね) 6　曇(ドン・くもる) 7　尼(ニ・あま) 3

粘(ネン・ねばる) 5　杯(ハイ・さかずき) 6　薄(ハク・うすい) 7　縛(バク・しばる) 6　卑(ヒ・いやしい) 5　被(ヒ・こうむる) 3　避(ヒ・さける) 7　匹(ヒキ・ヒツ) 7　漂(ヒョウ・ただよう) 7

苗(ビョウ・なえ) 2　敷(フ・しく) 4　伏(フク・せる) 6　払(フツ・はらう) 3　紛(フン・まぎれる) 4　憤(フン・いきどおる) 2　浦(ホ・うら) 2　募(ボ・つのる) 3　慕(ボ・したう) 6

奉(ホウ・たてまつる) 6　峰(ホウ・みね) 7　飽(ホウ・あきる) 5　冒(ボウ・おかす) 4　妨(ボウ・さまたげる) 6　墨(ボク・すみ) 7　埋(マイ・うめる) 7　免(メン・まぬかれる) 3　茂(モ・しげる) 7

網(モウ・あみ) 7　誘(ユウ・さそう) 7　優(ユウ・やさしい) 6　憂(ユウ・うれい・うれえる) 6　誉(ヨ・ほまれ) 6　腰(ヨウ・こし) 5　謡(ヨウ・うたい) 3　裏(リ・うら) 6　涙(ルイ・なみだ) 4

裂(レツ・さく) 6　朗(ロウ・ほがらか) 7　惑(ワク・まどう) 7

〈注〉 文字の右横のルビは，読めた音訓を示し，( ) 内の読みは，成績の悪い音訓を示す。数字は読めた人数を示す。

2） 7人以下が読めた字

7人（87.5%）が読めた字　58字

(イ) 1音又は1訓の文字　39字

*卸 禍 *且 喚 閑 宣 斤 剛 克 唆 殉 宰 暫 嗣 疾 赦 叔 俊 祥 冗 醸 辱 崇 薦 漸 阻 措 双 堕 逮 抽 陳 艇 悼 媒 赴 謀 諭 猶

(ロ) 音訓をつくして読めた字　7字

顧(カエリみる) 恨(コン・うらむ) 衰(スイ・おとろえる) 替(タイ・かえる) 奪(ダツ・うばう) 鍛(タン・きたえる) 煩(ハン・わずらわしい)

(ハ) どちらかの音訓で読めた字。( )内の音又は訓ではさらに成績不振で，数字はその読めた人数を示す。

忌(キ・いむ) 3　窮(キュウ・きわめる) 1　繭(ケン・まゆ) 4　絞(コウ・しめる・しぼる) 4　醜(シュウ・みにくい) 5　襲(シュウ・おそう) 6　詳(ショウ・くわしい) 5　遂(スイ・とげる) 6　懲(チョウ・こらす) 5

侮(ブ・あなどる) 5　癖(ヘキ・くせ) 6　芳(ホウ・かんばしい) 2

6人（75.0%）が読めた字　24字

(イ) 1音又は1訓の字　15字

該 緩 糾 諮 囚 貞 逓 崩 某 庸 擁 抑 濫 吏 廉

(ハ) どちらかの音訓で読めた字　9字

陥(カン・おちいる) 5　既(キ・すでに) 3　朽(キュウ・くちる) 4　砕(サイ・くだく) 3　賜(シ・たまわる) 1　詔(ショウ・みことのり) 5　喪(ソウ・も) 4　陵(リョウ・みささぎ) 3　漏(ロウ・もる・もれる) 5

5人（62.5%）が読めた字　13字

(イ)　1音又は1訓の字　13字

嘯渇虐薫拘升嘱*畝逐迭篤頒*匁

4人（50.0%）が読めた字　8字

(イ)　1音又は1訓の字　7字

翁轄粛朕匿窯賄

(ロ)　どちらかの音訓で読めた字　1字　　弔(チョウ/とむらう)[1]

3人（37.5%）が読めた字　5字

(イ)　1音又は1訓の字　5字　　寡衷奔璽遷

2人（25.0%）が読めた字　5字

(イ)　1音又は1訓の字　5字　　謁*贋款遵嫡

1人（12.5%）が読めた字　1字

(イ)　1音又は1訓の字　1字　　勺

したがって教育漢字外当用漢字969字の3年卒業時の読みの力は，整理の観点によって，

8人平均正答字数　　940.3字

8人共通正答文字数　　863字

8人音訓正答文字数　　855字

8人音訓完全正答読字数708字（454＋254）

のようになる。音訓の観点からみた場合，その文字を音訓をつくして，全員が読めた708字は，完全正答の字といえるが，残る261字も，そのうち，147字はどちらかの音訓では，8人が読めている文字であるから，音訓を考慮に入れて読みに抵抗のあった問題のある字は114字である。

教育漢字の3年卒業時における難音訓数に比べて，教育漢字外当用漢字のこの数字は，多少意外の感がするであろうが，この成績は累積結果であるからである。教育漢字外当用漢字は，中学校に入学してから学習される漢字で，いわば学習過程中のものであるから，整理の方法も，現実の習得状況にてらした場合，習得完了という観点では，律し切れないものがあるので，ここでは一応，

累積結果をもとにしてみているからである。

教育漢字と教育漢字外当用漢字の卒業時に読みの上で抵抗を示した文字（音訓）の差は，実は数量の上ばかりではない。

2. 読めない字

(1) 読めない文字の特徴

1)　1音又は1訓の字

教育漢字外当用漢字の3年卒業時までに，読みの上で問題を残した字は，上の字種をみても明らかのように，1音又は1訓の文字に多い。すなわち，まだ文字そのものについて読みに抵抗があることである。これは，教育漢字が，3年卒業時に読みの上で問題を残したものは，その文字としては必ずしもむずかしい文字ではなく，他の読み方では100％読めていた，すなわち，音訓上に問題が残っていたのと比べて，大きな相違である。もちろん，教育漢字外当用漢字にも音訓上に問題を残した147字の例もあるが，読めない114字中85字は1音又は1訓の文字（1訓の文字は少ない）であるということは，教育漢字よりは文字そのものに問題のあることを示している。

2)　教科書に未提出の字

これは，中学3年卒業時までに未学習文字のあることとも関係があり，3年間に未学習文字として残るような文字に，1音又は1訓の文字が多いということにもよるからである。

一般に国語の教科書調査として，3年間に本文新出漢字として提出しきれなかった文字が示されているが，未提出漢字の共通性は高い。

この調査でできなかった114字中，1音又は1訓の文字は85字あるが，そのうち59字は未学習文字となっている。

1音又は1訓の文字　85字

卸[*7人] 禍 且[*△] 喚 閑 宣 斤 剛 克 唆 宰 暫 嗣 疾 赦 叔 俊 殉 祥 冗 醸 辱 崇 薦
漸 阻 措 双 堕 遠 抽 陳 艇 悼 媒 赴 謀 諭 猶 該[6人] 緩 糾 諮 囚 貞 遁[△] 崩 某

廉 擁 抑 △濫 吏 廉 5人△嚇 湯 虐 薫 拘 升 嘱 *畝 逐 迭 篤 △頒 *匁 4人翁 轄 粛 △朕 匿
窯 賄 3人△寡 △璽 遷 衷 弄 2人△謁 *△虞 款 △遵 嫡 1人勺

<注>　ゴチックの字は，国語教科書に1度も現われなかった字　59字。*印は訓の字。△印の字は当用漢字補正案で，削る候補の字として報告されたもの。

このように読めない文字に1音または1訓の文字が多く，しかもそれは未学習文字，提出しにくい，難文字であることが，一つの特徴となっていることがわかる。また，1音1訓以外の文字で成績の悪い字は29字あるが，そのうち，10字は未学習文字である。

7人顧 恨 衰 替 奪 鍛 △煩 忌 窮 繭 絞 醜 襲 詳 遂 懲 侮 癖 芳 6人陥 既 朽 砕 賜
詔 喪 陵 漏 5人弔

<注>ゴチックの字は国語教科書に1度も現われなかった字（10字）。

国語で学習した漢字で成績の悪い文字もあるが，このように提出しにくいむずかしい文字のために読めないものが多い。

教育漢字では，文字としての読みに抵抗のある字は皆無であるが，音訓上抵抗のある文字を残す，しかも，比較的，低学年用のやさしい文字が多いというところに特徴がみられたが，教育漢字外当用漢字では，むずかしく読みにくい文字そのものが残るというところに著しい特徴がある。小学校卒業時には未学習音訓が残され，中学校卒業時には未学習文字が残されるという現実が教育漢字及び教育漢字外当用漢字習得の実態（読み）として一つの大きな特徴であり，問題点の所在となっていると思われる。

3. 音訓習得のアンバランス

読みにくい字，読めない字は，前述のようであるが，教育漢字外当用漢字にも，教育漢字と同様に，読みの音訓反応にアンバランス現象が見られる。教育漢字と異なり，教育漢字外当用漢字は，中学入学後，文字学習が行なわれ，その全文字は提出されていないから，厳密には習得のアンバランスといえないであろうが，調査の結果としてみたとき，やはりアンバランス現象がある。卒業

時の読みの成績ではどうか。

どちらかの音訓では，8人（100%）読めているが，他の読み方では問題のあった文字が147字あったが，その147字についてみると，次のようである。

音・訓どちらかでは8人（100%）読めていて，他の音または訓の不振のもの

音訓についての読みの成績 読めた人数	〈音不振〉	〈訓不振〉
0人	婿セイ	充あてる
1人	刃ジン　穂スイ	旨むね　操みさお
2人	泣キュウ　渋ジュウ　苗ビョウ　浦ホ	弦つる　*執とる　憤いきどおる
3人	*御ギョ　井セイ　昔セキ　憎ゾウ　尼ニ	契ちぎる　緒お　*請こう　被こうむる　募つのる
	払フツ	免まぬかれる　謡うたい
4人	飢キ　虚コ　綱コウ　施セ　(*執シュウ)	摘つむ　紛まぎれる　冒おかす
	尽ジン　酔スイ　惜セキ　敷フ　涙ルイ	
5人	依ニ　押オウ　皆カイ　祈キ　驚キョウ	戒いましめる　悔くいる　堪たえる　*仰おおせ　軒のき
	暁ギョウ　尋ジン　袋タイ　腰ヨウ	(*御おん)　射いる　潤うるおす　召めす　焦こげる
		浸ひたす　滞とどこおる　堤つつみ　粘ねばる　卑いやしい
		飽あきる
6人	甘カン　含ガン　穴ケツ　紅ク　煮シャ	干ひる　偽いつわる　凝こる　駆かける　携たずさえる
	吹スイ　桑ソウ　巣ソウ　稲トウ　伏フク	裁たつ　伺うかがう　趣おもむき　寿ことぶき　譲ゆずる
	裏リ	辛からい　侵おかす　(*請うける)　*装よそおう　杯さかづき
		縛しばる　慕したう　奉たてまつる　妨さまたげる　優やさしい
		憂うれいうれえる　誉ほまれ　裂さく
7人	隠イン　桜オウ　嫁カ　隔カク　詰キツ	沿ソウ　緑ふち　拒こばむ　脅おびやかす　鼓つづみ
	弓キュウ　叫キョウ　(*仰ギョウ)　懸ケ　削サク	更さらに　香か　控ひかえる　札ふだ　若もしくは
	枝シ　漆シツ　如ジョ　沼ショウ　鐘ショウ	臭くさい　錘つむ　占うらなう　潜ひそむ　礎いしずえ
	盛ジョウ　誓セイ　(*請シン)　(*装ショウ)　恥チ	葬ほうむる　怠おこたる　頂いただき　漂ただよう　誘さそう
	鋳チュウ　締テイ　添テン　怒ド　曇ドン	朗ほがらか　惑まどう　79訓
	薄ハク　避ヒ　匹ヒツ　峰ホウ　墨ボク	
	埋マイ　茂モ　綱モウ　76音	

<注>1.　＊印の文字は，重出する音訓であることを示す。重出した場合は（＊　）で示す。

2.　文字の下に——のあるものは，当用漢字音訓表中「限られたことばに用いる音訓」特別音訓であることを示す。

なお，いずれの音訓でも8人(100%）は読めなかった文字についても，音訓のアンバランス現象がみられる。

	〈音不振〉	〈訓不振〉
1　人	賜シ	窮きわめる　弔とむらう
2　人		芳かんばしい
3　人	砕サイ	既すでに　陵みささぎ　忌いむ
4　人	繭ケン　喪ソウ　弔チョウ	紋しぼる　朽くちる
5　人	醜シュウ　詳ショウ　陥カン	懲こらす　侮あなどる　詔みことのり　漏しかばね
6　人	既キ　朽キュウ　詔ショウ　陵リョウ　漏ロウ	遂とげる　癖くせ　陥おちいる　砕くだく　賜たまわる
		喪も　襲かさねる
7　人	忌キ　窮キュウ　紋コウ　襲シュウ　遂スイ	繭まゆ　紋しめる　醜みにくい　詳くわしい
	懲チョウ　侮ブ　癖ヘキ　芳ホウ	

これら，読みに抵抗のある音訓をみると，教育漢字の場合もそうであったが，やはり共通の現象のあることがわかる。

(1)　読めない音訓にみられる現象

1)　音不振のもの

①特殊音のもの

当用漢字音訓表で，線引きの音訓（音が多い）は「音または訓に傍線をつけたものは限られた語に用いられるもの」として特殊音訓であることを示している。音の場合，呉音などにそれが多く，使用語例も乏しいから，当然読みの成績にも影響して読めないものが多い。教育漢字には，この系統の難音文字が多くあった（低学年用にある）が，教育漢字外当用漢字でも，この種の系統のもの——虚コ　依エ　紅グ　懸ケ　盛ジョ（他の読みでは100%）——は，虚空コクウ，帰依キエ，真紅(又は紅蓮)シンク，懸念・懸想ケネン・ケソウ，繁盛ハンジョウなど，仏語をはじめ特殊な用語に限られているためか，やはり読みに抵抗がある。

しかし，特殊音訓でありながら，井ジョ昔シャク仰コウのように，特殊音訓以外の音井セイ昔セキ仰ギョウの方が読みにくいという現象もあった。これなどは，天井，今昔（物語），信仰という語の方が，市井・油井，昔日・昔年・昔人，賛仰・仰天などの語より親近性があるからであろう。特殊音訓の拠コ 献コン歳セイ豆ズ 拍ヒョウ封ホウなどが，音不振の中にはいらなかったのは，証拠，献立，歳暮，大豆，拍子，封建的（社会・時代）などの用語が目にも耳にも親しいからと思われる。

②特殊な用語に用いられるもの

前例の井セイ仰ギョウなどのように，特殊音訓でなくとも，その音による語が，特殊な語に用いられるもの，使用語彙の範囲の狭いものは，音不振となる。

風袋フウタイ　種苗・育苗シュビョウ・イクビョウ　水稲スイトウ
繭糸ケンシ　曲浦キョクホ　布施・施主・施療フセ・セシュ・セリョウ
白刃・自刃・凶刃ハクジン・ジジン・キョウジン　など

産業用語など専門的なものをはじめとして，特殊な使われ方をしている語は，目にする機会が少ないから読みにくいということになる。生徒たちの居住地域名・校名が「稲付(いなつけ)」でありながら，その音読み「稲トウ」は不振なのである。

③しだいに用いられなくなっていく字音語に用いられるもの

婿むこは8人(100%) 読めても，セイは1人も読めないというのは，「女婿ジョセイ」より「むすめむこ」のほうが一般で，親しく使われることばであるからであろう。

近ごろは，話しことばでわかりやすいように，漢語使用，漢語表現をさけて和語で言いあらわそうとする傾向があり，また，当用漢字使用のための言いかえの影響からか生硬な漢語をさけて表現しようとする傾向もあって，しだいに使われなくなってきつつある一連の漢語がある。これらの字音語に使われることが多い音は親しさを欠くゆえか音不振となりやすい。

感泣カンキュウ→うれしなき　祈念・祈禱・祈願キネン・キトウ・キガン→いのり・ねがい　渋滞・渋面・難渋ジュウタイ・ジュウメン・ナンジュウ→とどこおり・しぶいかお・むずかしさ　尼僧ニソウ→あまさん　昔日・昔人

セキジツ・セキジン→むかし・むかしのひと　腰部ヨウブ→こし

「哀惜の情を禁じ得ません」「今払暁の火事は…」など，往時盛んに使われた表現も，現在ではまれにしか使用されていない。

賜シも音不振であったが，これなど，昔は「休暇願い」といわずに「賜暇願」という使い方をした場合があった。現在では，中学生などスポーツの賜杯などで多少の認識がある程度ではなかろうか。

④語彙力の未熟からくるもの

①～③のように，音不振のものは，それが熟語として構成された場合，使用範囲の限定された特殊な用語，あるいは，現在の日常語，話しことばとして親近性を欠くものであることが多いが，必ずしも特殊用語でなく，日常社会での使用性もある語に用いられている音で，不振の場合もある。

砕サイ　（砕石，破砕，粉砕，玉砕，砕身など）

尽ジン　（尽力，無尽〈会社〉，無尽蔵，倒尽など）

皆カイ　（皆勤，皆無，皆済，皆既食など）

詳ショウ　（詳細，詳解，詳述，不詳など）

これなどは，この段階での中学生としては，親近性を欠く用語であるからか，語彙力の未熟に起因すると思われるものもあって，語彙力との対応が考えられるものもある。

2)　訓不振のもの

訓不振のものにも，次のような現象・傾向がみられる。

①文章語的な訓

訓は意味の定着したもので，時に(は)音に先行して学習され，識字・理解に供される。しかし，文章語的なもの，現在の話しことばではあまり使用されない訓は，親近性に乏しいために読みにくい傾向がある，

例—充てる　被る　募る　悔いる　堪える

これらの訓は，漢語の話しことば的表現，和語化による音不振現象と反対に，和語としての読み（訓）よりも，その文字を含む同意の漢語（熟語）としての形の方が一般に使用されているためか，漢語のほうに親しさが持てるとみ

えて訓不振現象が起る。

訓「募る」では読めないが，音「募集する，応募する」ではよく読めるという反応があり，文字の意味を知る手がかりとなった訓が，時にその機能を失っている場合も少なくない。

契ちぎる →契約する　請こう→請求する　召めす→召集する　悔くいる →後悔する

旨むね→主旨　被こうむる→被害　憤いきどおる→憤慨する

これらは訓読みでよりも，むしろ同意の漢語としての定着度の方がはるかに強い。一般の使用率も高く，普及しているからである。

②別訓や俗訓のあるもの

前掲の憤いきどおるは憤慨の音読みの方に優位であったが，ほかに，「おこる，いかる」という訓読みの反応があって，「いきどおる」が少なかったことがあげられる。これと同じ傾向を示す一群の文字がある。

例—怒いかる →おこる　充あてる →みちる・みつる・みちてる　辛からい →つらい

巡めぐる →まわる　被こうむる→かぶる・きる　臭くさい →におい

これらは，当用漢字音訓表制定以前に，別訓や俗訓として使われたもので，現在でも，時に世間で使われることがあるからか，これらの音訓は，表内訓よりも，むしろ表外訓（別訓・俗訓）のほうに多く反応する傾向がある。（怒いかるは名詞形「怒り」にこの訓の名残りをとどめ，動詞形で読ませると「おこる」と読むものが多い。巡も「まわる」が優位なのは，「お巡りさん」の呼称もあって，一般的には親しい）

なお，漢文訓読や漢文脈の文章，あるいは書簡文などではよく用いられ，かつては，親しい語であった，旨むね既すでに 被こうむる請こう伺うかがう召めすなども，現在では読みにくい訓になっていることがわかる。

4. 読めない文字（音訓）と社会での使用度

(1) 文　　字

3年卒業時にも読みに抵抗を示した文字は，未学習文字（未学習音訓）であ

ると同時に，社会生活でも，使用度の低い文字（音訓）であるとみられるが，実際の社会での使用面に徴して調べてみよう。

1)　現代雑読九十種の調査結果との関係

卒業時に8人は読めなかった文字のうち，その多くは未学習文字（116ページ）であったが，これらの文字の多くは，社会一般でも使用度の低いものが多い。

教育漢字外当用漢字のうち，「現代雑誌九十種の用語用字　漢字表」で使用度数の少ない（使用度数8以下）教育漢字外当用漢字は（同報告書13ページ参照）次のように174字ある。（他に教育漢字を加えると177字）

度数0（13字）	*丙 *嗣 *墳 *弧 *斥 *朕 *殉 *△塁 *疫 *痘 *諮 *迭 *陪
度数1（21字）	*倹 *准 *△嚇 *塑 *墾 *庸 *拷 *款 *漆 *畔 *礁 *糾 *△繭 *△罷 *△脹 *△謄 *貢 *△迅 *△酪 *△錘 *△頒
度数2（19字）	*髄 *△隷 △錬 *△遷 *△醸 *△誂 *△虞 *肖 *緯 *△窯 *△潟 *△斤 *△悼 *△姻 *△墜 *叙 *△葯 *儒 *△倣
度数3（21字）	*△吏 *△嘱 *△弊 *△弔 *△惰 *△憩 *△擦 *△朽 *△棺 *△濫 *△猶 *△艇 *△薪 *△蛮 *△諭 *△謹 *△逓 *△遵 *△錠 *△飢 *△餓
度数4（23字）	*塊 *△婿 *△媒 *△寡 *△庶 *△憾 *△擬 *△枢 *△淑 *△畝 *△窃 *△篤 *△景 *△繕 *△翻 *△虜 *△蚊 *△哀 *△詔 *△賜 *△郭 *△鋳 *△鎮
度数5（20字）	*△侯 *△兆 *△剖 *△匿 *△奔 *△妃 *△嫡 *△帆 *△循 *△慈 *△搾 *△暦 *△浄 *△肯 *△芋 *△竈 *△賄 *△賓 *△閲 *△韻
度数6（21字）	*△且 *△享 *△伐 *△凶 *△勲 *△唆 *△堕 *△崇 *△廉 *△弦 *△扶 *△泌 *△班 *△禍 *△穏 *△窒 *△粘 *△耗 *△膨 *△轄 *△諄
度数7（19字）	*△倫 *△吟 *△喚 *△喪 *△噴 *△尼 *△搬 *△楼 *△滴 *△△煩 *△痢 *△詠 *△詐 *△賦 *△逐 *△鈍 *△陵 *△零 *△飽
度数8（17字）	*△冠 *△勺 *△坑 *△奨 *△尉 *△峡 *△彰 *△徐 *△懇 *△択 *△摂 *△欺 *△濁 *△牲 *△硝 *△翁 *△銑

＜注＞　文字の上△の印は当用漢字補正案で削除する候補になっている字。＊印は国語の教科書に提出されなかった字。ゴチックの字は文字として読めなかったもの。

上の諸印の字でもわかるように，これらの文字には，前掲の読みの成績の不振なもの，教科書でも提出されなかったものと重なる文字が多い。

また，使用度9度以上のものでも，成績の悪かった文字は，次のように一般

に使用度が低いことがわかる。

成績不振の字（8人そろっては完全に読めない字）の使用度

閑宰疾赦阻薫升*鍛°悔	使用度 9	*遂	〃 26
剛祥赴該擁°恨	〃 10	崩°奪	〃 27
*虐漏醜	〃 11	謀	〃 28
卸宜*懲癖	〃 12	匁	〃 32
緩拘粛*砕	〃 13	俊	〃 33
暫某*詳	〃 14	貞	〃 34
克辱*陥忌窮	〃 15	*既	〃 41
漸逮	〃 16	*襲	〃 43
抽°顧衰	〃 17	双	〃 44
叔措囚*芳絞	〃 18	瀬	〃 49
陳	〃 22	替	〃 77
抑	〃 25		

＜注＞　文字の印について—無印は1音または1訓の文字として，＊印はどちらかの音訓で（そのうちよいほうでも），°印は音訓ともに不振であることを示す。

このように，8人全員揃っては正答できなかった文字の使用度は，いずれも低い傾向であるということがわかる。

この漢字調査は，昭和31年ごろの現代雑誌についてのもので，8人の中学生の直接の読書対象ではないが，一般雑誌の文字使用の状況ということでは無関係ではなく，結果の比較からもそのことが認められよう。

(2)　音　　訓

音訓の面からも同様のことがみられる。

1)　読みにくい音訓とその音訓の使用状況

どちらかの読み方では8人全員読めていながら，他の音訓では読みに抵抗のある文字が147字あったが，その音訓習得のアンバランスを，まず，一般での使用状況と比べてみるとどうであろうか。（現代雑誌九十種での使われ方をみた「現代雑誌九十種の用語用字—漢字表—」による）

読みの成績の悪い音又は訓と雑誌における音訓使用状況

音又は訓の不振だった読みの成績—4人以下しか読めなかった音又は訓

テストの成績	文字としての使用度	その読み方での使用度	使用例
0人	充　79	あてる　3	充てる（1種）
1人	旨　31	むね　10	旨(1)
	刃　17	ジン　1	自刃(1)
	穂　38	スイ　2	出穂(1)
2人	泣　64	キュウ　0	
	執　32	とる　1	執る(1)
	渋　35	ジュウ　0	
	苗　27	ビョウ　5	育苗　幼苗(2)
	憤　20	いきどおる7	憤り　憤る(2)
	浦　58	ホ　1	黄浦江（1，地名）
3人	契　31	ちぎる　0	
	御　261	ギョ　8	御意　御苑　御刀　御史　制御　統御　防御(7)
	緒　87	お　4	下緒　鼻緒(2)
	井　292	セイ　4	井（石油井）　市井(2)
	昔　98	セキ　0	
	憎　30	ゾウ　5	憎悪　愛憎(2)
	被　71	こうむる1	被る(1)
	払　101	フッ　1	払拭(1)
	募　22	つのる　1	募る(1)
	免　39	まぬかれる4	免れる(1)
	謡　26	うたい　1	謡い声(1)

4人	虚　26	コ　3	虚無僧(1)
	綱　45	コウ　7	製綱　大綱　要綱(3)
	施　76	セ　5	施肥　布施(2)
	*執　32	シュウ　7	執着　執念(2)
	尽　21	ジン　8	尽力　大尽　打尽　無尽(4)
	酔　36	スイ　6	酔狂　心酔　陶酔　麻酔(4)
	惜　32	セキ　1	愛惜(1)
	摘　17	つむ　2	摘む(1)
	敷　60	フ　1	敷設(1)
	紛　11	まぎれる2	紛れ　紛れる(2)
	冒　17	おかす　1	冒す(1)
	涙　64	ルイ　3	血涙　声涙　落涙(3)

文字としての使用度に比べて，成績不振の音又は訓の使用度のほうが非常に低いことがわかる。中にはこの調査では使用度0（泣(キュウ)渋(ジュウ)契(ちぎ)昔(セキ)）の音訓もあり，こうした音又は訓は例外なしに読みの成績も不振である。もっとも中には，旨のむね，憤のいきどおる，尽のジンなど，不振の成績の音又は訓の使用度が全体使用度に比べて，使用度の低さの割合が比較的少ないものもあるが，これなどは，用語として，中学生になじみが少ないもの(例—旨，尽など)，別訓のあるもの（例—憤）など，それぞれ不振の他の因子が重複しているものと思われる。しかし，それにしても，使用度は少ないのである。

（参　考）

次に参考までにある読みでは8人読めるが，その他の音又は訓の読みでは，5人～7人の成績の音訓の雑誌での使用状況をあげておく。

8人／5人の字

（その文字の全体使用度）→（成績の不振の音訓での使用度）

依(42)→エ　（1）　押(122)→オウ　（3）　戒(28)→いましめる（4）

皆(78)→カイ　（2）　悔(18)→くいる（3）・くやむ（4）

堪(21)→たえる　（6）　祈(31)→キ　（8）　驚(67)→キョウ　（4）

*仰(43)→おおせ　（9）　暁(10)→ギョウ　（2）　軒(28)→のき　（3）

射(71)→いる　(3)　潤(18)→うるおう(1)　召(21)→めす　(12)
焦(36)→こげる　(9)　浸(23)→ひたす　(5)　尋(13)→ジン　(4)
袋(58)→タイ　(0)　滞(20)→とどこおる(1)　堤(12)→つつみ　(2)
卑(12)→いやしい(2)　腰(73)→ヨウ　(4)

8人／6人の字

(その文字の全体使用度→成績不振の音訓での使用度)

干(62)→ひる　(5)　甘(46)→カン　(6)　含(46)→ガン　(6)
偽(14)→いつわる(2)　凝(20)→こる　(9)　駆(32)→かける　(11)
携(9)→たずさえる(0)　穴(64)→ケツ　(2)　紅(35)→ク　(0)
裁(195)→たつ　(85)　伺(14)→うかがう(12)　煮(62)→シャ　(5)
趣(59)→おもむき(6)　寿(21)→ことぶき(0)　譲(20)→ゆずる　(9)
辛(25)→からい　(2)　侵(13)→おかす　(5)　吹(86)→スイ　(1)
桑(10)→ソウ　(0)　巣(30)→ソウ　(8)　稲(55)→トウ　(10)
杯(92)→さかずき(6)　縛(11)→しばる　(9)　伏(55)→フク　(7)
慕(10)→したう　(5)　奉(33)→たてまつる(3)　妨(9)→さまたげる(1)
優(179)→やさしい(10)　憂(12)→うれい(3)・うれえる(1)
誉(13)→ほまれ　(0)　裏(256)→リ　(14)　裂(24)→さく　(3)

8人／7人の字

(その文字の全体使用度→成績不振の音訓での使用度)

隠(34)→イン　(11)　沿(19)→そう　(12)　縁(86)→ふち　(26)
桜(34)→オウ　(1)　嫁(34)→カ　(2)　隔(13)→カク　(10)
詰(58)→キツ　(3)　弓(13)→キュウ　(3)　拒(18)→こばむ　(1)
叫(48)→キョウ　(3)　脅(13)→おびやかす(5)　*仰(43)→ギョウ　(6)
懸(29)→ケ　(6)　鼓(12)→つづみ　(1)　更(80)→さらに　(55)
香(72)→か　(7)　控(29)→ひかえる(26)　削(15)→サク　(4)
札(43)→ふだ　(24)　枝(65)→シ　(5)　若(375)→もしくは　(3)
臭(19)→くさい　(4)　如(89)→ジョ　(6)　沼(46)→ショウ　(2)
鐘(17)→ショウ　(1)　盛(99)→ジョウ　(2)　誓(12)→セイ　(1)

占(60)→うらなう(5)　潜(23)→ひそむ　(2)　礎(22)→いしずえ　(0)
怠(16)→おこたる(6)　恥(37)→チ　(9)　頂(63)→いただき　(1)
締(39)→テイ　(3)　添(33)→テン　(2)　怒(65)→ド　(14)
曇(9)→ドン　(0)　薄(74)→ハク　(9)　避(37)→ヒ　(19)
匹(14)→ヒツ　(1)　漂(18)→ただよう(9)　峰(23)→ホウ　(4)
墨(14)→ボク　(2)　埋(19)→マイ　(2)　茂(45)→モ　(3)
網(28)→モウ　(12)　誘(44)→さそう　(21)　朗(19)→ほがらか　(2)
惑(27)→まどう　(1)　(＊は音訓重出を示す)

上例からも，読み不振の音又は訓の方が，使用状況も少ないことがわかる。中には

＊伺(うかがう) 裁(たつ) ＊縛(しばる) 慕(したう) ＊沿(そう) ＊隔(カク) ＊更(さらに) ＊控(ひかえる) ＊札(ふだ) 漂(ただよう) 誘(さそう) のように，成績不振の音訓の使用状況のほうが，他音訓に比べると，低くないものもあり，ことに＊印の読みでは，半数以上の使用音訓をしめているものもあるが，これなど，調査の提出語形で代表されるように

伺候／伺う　束縛／縛る　沿岸／沿う　隔離・遠隔／隔てる　変更／更に
控訴／控室・控える　改札／名札・お札

その文字の使用度と関係なく，その時点での生徒にとって語彙的に親しいものを表わしていると思われる。

5. 漢字習得と使用教科書

（その2）　教育漢字外当用漢字の習得と教科書の文字使用

読みの成績と教科書の文字使用との関係を，中学生になってから新しく学習していく教育漢字外当用漢字について，具体的な字種に即しながら見ることにする。両者の関係は，従来国語教科書との対応で見られることが多いが，この調査では，「読み」の習得の機能・経路を考えて，広く他教科についても見た。

(1)　文字提出と読みの成績

1）文　字

1音1訓の文字も含めて（教育漢字外当用漢字ではこれが多い）いずれの読みかたでも，3年卒業時の読みの調査で，全員（8人）そろっては読めなかった文字は114字ある。（8人全員そろって読めたか否かという，きびしい見方をとってある。）

①読みの成績不振の文字

1人 勺 2 謁 虞 款 遊 嫡 3 寡 哀 奔 塁 遷 4 翁 轄 粛 朕 匿 窯 賄 5 嚇 渇 虐 薫 拘 升 嘱 畝 逐 迭 篤 頒 匁 6 該 緩 糾 諮 囚 貞 逓 崩 某 庸 擁 抑 濫 吏 廉 7 卸 禍 且 喚 閑 宜 斤 剛 克 唆 殉 宰 暫 嗣 疾 赦 叔 俊 祥 冗 醸 辱 崇 薦 漸 阻 措 双 堕 逮 抽 陳 艇 悼 媒 赴 謀 諭 猶　85字（1音又は1訓の字で）

4人 弔 6 陥 既 朽 砕 賜 詔 喪 陵 漏 7 忌 窮 繭 絞 醜 襲 詳 遂 懲 侮 癖 芳　22字（音あるいは訓が不振で，そのうち，成績良のほうの成績でも）

7人 顧 恨 衰 替 奪 鍛 煩　7字（音訓とも同成績で不振）

一方，使用教科書での文字使用状況は，8人が3年間使用した国語の教科書の教育漢字外当用漢字（969字）の未出漢字　165字

このうち，全教科の教科書未出漢字　44字

全教科の教科書とは，社会・数学・理科・英語・音楽・美術・体育，技術（男子）家庭（女子。男・女あわせて1とする）の8教科で，国語も入れると9教科となる。

国語科だけからみると165字が未出であるが，他教科ではそのうち121字出ていることになる。

②国語教科書の未出漢字　165字

亜 芋 姻 謁 宴 殴 翁 虞 乙 卸 佳 禍 寡 餓 悔 劾 該 嚇 渇 轄 喚 堪 款 憾 還 忌 棋 宜 虐 糾 窮 凶 恭 斤 謹 倹 呉 碁 坑 恒 拘 侯 慌 絞 酵 鋼 拷 剛 酷 獄 墾 債 搾 擦 暫 嗣 諮 塁 疾 漆 赦 匁 尺 囚 臭 愁 叔 淑 粛 循 遵 緒 升 匠 祥 詔 奨 礁 剰 錠 醸 嘱 辱 娠 紳 迅 帥 衰 陲 錘 畝 窃 旋 銑 阻 租 措 塑 喪 堕 胎 逮 諾 但 鍛 逐 嫡 衷 弔 兆 脹 朕 陳 坪 呈 遁 艇 迭 斗 奴 悼 痘 騰 匿 豚 軟 尿 妊 寧 肺 陪 媒 賠 閥 畔 頒 泌 苗 扶 附 赴 賦 侮 墳 丙 柄 遍 邦 奔 耗 紋 匁 幽 庸 窯 酪 濫 痢 履 硫 陵 厘 隷 廉 賄

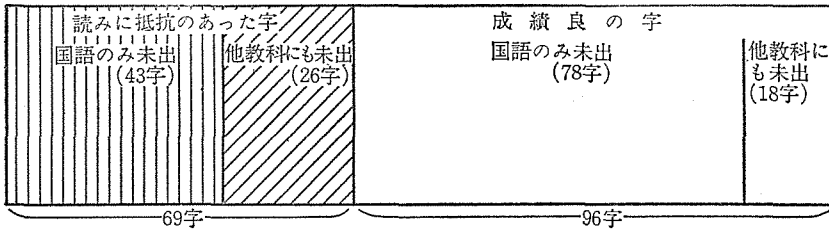
＜注＞ゴチック体の字は，結果から見た場合８人全員は読めなかった字　(69字)。

③成績と文字使用の関係

国語教科書に出なかった165字中，全員そろっては読めなかった文字は69字ある（ゴチック体の字)。教科書に出たか，出ないかという観点だけから(提出回数を一応のぞく）この69字との関係をみると，次のようになる。

国語教科書に，未出の字 165字
- （８人はよめない）読みに抵抗のあった 69字　国語科だけに未出の文字 43字　他教科でも未出の字 26字
- （８人ともよめる）成績良の文字 96字　〃　78字　〃　18字

国語教科書未出の165字



イ　国語科だけでなく，全教科未出で読みに抵抗のあった字

謁寡喚款忌糾暫嗣諮璽囚叔祥嘱逐嫡弔朕遁艇迭悼匿赴奔賄　26字

ロ　国語科のみ未出（他教科使用）で，読みに抵抗のあった字

翁廣卸禍該嚇渇轄宜虐窮斤拘絞剛疾赦勺粛遵升詔醸辱衰畝阻措喪堕逮鍛衷陳媒頒侮匁庸窯濫陵廉　43字

ハ　国語科では未出（他教科使用）であるが，成績良の字

亜姻宴乙劾還凶謹倹呉抗恒侯慌酵鋼拷酷獄墾債擦漆尺臭愁循緒匠奨礁剰迅帥睡錘旋銑租塑胎諾但兆坪呈斗奴痘騰豚軟尿妊寧肺陪賠閥泌苗扶附賦墳丙柄遍邦耗紋幽酪痢履硫厘隷　78字

ニ　国語科だけでなく全教科未出で，成績良の字

芋殴佳餓悔堪憾棋恭碁搾淑錠娠紳窃脹畔　18字

両者の関係を上の具体的な文字に即しながら見ていくと，量の上からだけでなく，読みの成績の良否は，国語の教科書との関係だけでなく，他教科での使

用漢字やその他の文字媒体が相当影響していることが認められる。

例えば「劾」の字は2年まで（2年前期までは0）読めなかったが，3年末になると全員読めるようになった。→（0人（テスト回期→）0 0 3 7 8）これは3年の社会科（政治・経済・社会的分野）で，「弾劾裁判(所)」として出てくるからで，どこで覚えたかたずねてみたら，生徒からも同じ解答が得られた。国語科では提出しにくい文字でも，他教科では学習の事項・内容の記述上必要な用語として使用される文字に，同じ例が多い。

全教科で使用されないが，全員読めたニの18字をみると，看板・品物・広告などで（芋錠娠など），娯楽ゲームなどで（棋碁など），人名・校名などで（佳恭淑など），読書などで（餓悔堪憾紳淑畔など），社会事象の報道などで（殴窃忌など），生活上，目にする機会が多い文字という要因が感じられる。

以上は，使用度数・出現回数を度外視して，教科書で使用されない文字と卒業時における読みの成績の関係だけを見た場合であるが，実際は，これに使用度数(出現回数)，その文字（語彙—背景にある事象）への興味・関心度，その文字に接近した際の心理的緊張度，印象の鮮明度など，さまざまの要因が相たすけ，相補って文字が習得されていくのであり，中学生もこの階段になると，単に国語の教科書による文字学習を通してだけでなく，他教科によって，その他一般の文字環境によって漢字が習得されていくことがわかる。ことに，読みにおいて，この傾向が強い。(教科書と成績の関係については，資料編の教科書調査の記述との重複をさけ，一部分にとどめた。後編を参照されたい。)

(2) 音　　訓

読みの上で抵抗のあった文字は，3年卒業時についてみた場合，114字あったが，その中には，前述のように音で抵抗のあるもの，訓で抵抗のあるものとがあり，この立場からすると抵抗音訓は299音訓（185音・114訓）ということになる。文字について，音訓の面から教科書との関係を見る。

1) 音

①音に抵抗のある文字

3年卒業までに，8人全員は読めなかった音に抵抗のある文字は，次の185音（185字）である。

0人 婿セイ　1刃ジン　穂スイ　2泣キュウ　渋ジュウ　苗ビョウ　浦ホ　3御ギョ　井セイ　昔セキ　憎ゾウ
尼ニ　払フツ　4飢キ　虚コ　綱コウ　施セ　執シュウ　尽ジン　酔スイ　惜セキ　敷フ
涙ルイ　5依エ　押オウ　皆カイ　祈キ　驚キョウ　暁ギョウ　尋ジン　袋タイ　腰ヨウ　6甘カン
含ガン　穴ケツ　紅グ　煮シャ　吹スイ　桑ソウ　巣ソウ　稲トウ　伏フク　裏リ　7隠イン
桜オウ　嫁カ　隔カク　詰キツ　弓キュウ　叫キョウ　仰ギョウ　懸ケ　削サク　枝シ　漆シツ
如ジョ　沼ショウ　鐘ショウ　盛ジョウ　誓セイ　請シン　装ショウ　恥チ　鋳チュウ　締テイ　添テン
怒ド　曇ドン　薄ハク　避ヒ　匹ヒツ　峰ホウ　墨ボク　埋マイ　茂モ　網モウ

76音（76字）（どちらかの音訓では全部読めた147字中，音不振のもの）

1人 賜シ　3砕サイ　4繭ケン　喪ソウ　弔チョウ　5醜シュウ　詳ショウ　陥カン　6既キ　朽キュウ　詔ショウ
陵リョウ　漏ロウ　7忌キ　窮キュウ　絞コウ　襲シュウ　遂スイ　懲チョウ　侮ブ　癖ヘキ　芳ホウ

22音（22字）　（音訓ともに不振の文字から）

7人 禍カ　喚カン　閑カン　宜ギ　斤キン　剛ゴウ　克コク　唆シュン　宰サイ　暫ザン　嗣シ
疾シツ　赦シャ　叔シュク　俊シュン　殉ジュン　祥ショウ　冗ジョウ　醸ジョウ　辱ジョク　崇スウ　薦セン
漸ゼン　阻ソ　措ソ　双ソウ　堕ダ　逮タイ　抽チュウ　陳チン　艇テイ　悼トウ　媒バイ
赴フ　謀ボウ　諭ユ　猶ユウ　37音（37字）（1音の文字で）
顧コ　恨コン　衰スイ　替クイ　奪ダツ　鍛タン　煩ハン　7音（7字）（音訓ともに）
6人 該ガイ　緩カン　糾キュウ　諮シ　囚シュウ　貞テイ　逓テイ　崩ホウ　某ボウ　庸ヨウ　擁ヨウ
抑ヨク　濫ラン　吏リ　廉レン　15音（15字）　（1音の字で）
5人 嚇カク　渇カツ　虐ギャク　薫クン　拘コウ　升ショウ　嘱ショク　逐チク　迭テツ　篤トク　頒ハン
11音（11字）　（1音の字で）
4人 翁オウ　轄カツ　粛シュク　朕チン　匿トク　窯ヨウ　賄ワイ　7音（7字）　（1音の字で）
3人 寡カ　衷チュウ　奔ホン　璽ジ　遷セン　5音（5字）　（1音の字で）
2人 謁エツ　款カン　遵ジュン　嫡チャク　4音（4字）　（　〃　）
1人 匂シャク　1音（1字）　（　〃　）
計　185音（185字）

②成績と使用音訓の関係

一方，使用教科書における字音（字音語）の提出状況は，国語教科書で未出のもの276音，全教科の教科書に現われなかったもの87音である。成績とこの未出音との関係をみると，読みに抵抗のあった185音中，教科書未出のものは，次の128音である。

依*エ　謁*エツ　押オウ　翁*オウ　嫁カ　禍カ　寡*カ　皆カイ　該ガイ　隔カク　嚇カク
渇カツ　轄カツ　甘カン　喚*カン　款*カン　含ガン　忌*キ　飢キ　宜ギ　虐ギャク　弓キュウ
泣*キュウ　糾*キュウ　窮キュウ　虚*コ　仰ギョウ　暁*ギョウ　斤キン　薫*クン　繭*ケン　懸*ケ　拘コウ
紅*ク　絞*コウ　綱コウ　剛ゴウ　砕サイ　搾サク　暫*ザン　嗣*シ　賜シ　諮*シ　璽*ジ
疾シツ　執*シュウ　漆シツ　赦シャ　煮シャ　勺シャク　囚*シュウ　醜*シュウ　渋ジュウ　叔*シュク　粛シュク
遵ジュン　升ショウ　沼ショウ　祥*ショウ　詔ショウ　鐘ショウ　醸ジョウ　嘱*ショク　辱ジョク　刃ジン　尋*ジン
尽*ジン　吹スイ　衰スイ　穂スイ　遂スイ　酔スイ　井セイ　盛ジョウ　婿*セイ　昔*セキ　阻ソ
措ソ　桑*ソウ　巣ソウ　喪*ソウ　憎*ソウ　堕ダ　逮タイ　袋タイ　奪ダツ　鍛タン　恥*チ
逐*チク　嫡*チャク　衷チュウ　弔*チョウ　懲チョウ　朕*チン　陳チン　貞*テイ　逓*テイ　艇*テイ　締テイ
迭*テツ　添*テン　悼*トウ　稲トウ　匿*トク　篤*トク　尼*ニ　媒バイ　薄ハク　頒ハン　匹*ヒツ
苗ビョウ　赴*フ　侮ブ　払*フツ　癖ヘキ　浦*ホ　奔*ホン　網モウ　庸ヨウ　腰ヨウ　窯ヨウ
濫ラン　裏リ　陵リョウ　涙*ルイ　廉レン　漏ロウ　賄*ワイ

〈注〉　＊印の字は全教科未出の音54音

読みに抵抗のあったものは，やはり，教科書でも提出されていない音に多いことがわかる。この教科書未出の128音を教科書の種類でみると，国語も含めて全教科の教科書に未出のものは54音，国語教科書にのみ未出のもの74音の割合となる。

(イ)　教科書未出で読みに抵抗のある音

読みの成績（読めた人数）	音数	全教科にわたる	国語のみ
0人	1音	1音	0音
1人	5	1	4
2人	8	5	3

読みに抵抗のある音の中には，8人全員は読めなかったが，7人は読めたという文字が$\frac{1}{8}$近くもあり，未学習としてはよく読めているとみることもできる。半数（4人）

3人	9	6	3
4人	17	11	6
5人	19	9	10
6人	21	7	14
7人	48	14	34
計	128音	54音	74音

以上のものが読めなかった音には，さすがに全教科にわたって使用されていない音のほうに多いこと，また，次に見るように，他の訓又は音では読めていながら，その音のみに抵抗のあることがわかる。

半数以上が読めなかった音

*婿(0人セイ) *謁(1人エツ) 賜シ 勺シャク 刃ジン 穂スイ *款(2人カン) *泣キュウ *昔セキ *嫡チャク *浦ホ
渋ジュウ 遵ジュン 苗ビョウ *寡(3人カ) *璽ジ *憎ゾウ *尼ニ *払フツ *奔ホン 砕サイ 井セイ
衷チュウ *翁(4人オウ) *虚コ *繭ケン *執シュウ *尽ジン *喪ソウ *弔チョウ *朕チン *匿トク *涙ルイ
*賄ワイ 轄カツ 飢キ 綱コウ 粛シュク 酔スイ 窯ヨウ

〈注〉 *印は未提出音

上述のように，未提出の音はすべて読みの上で抵抗があるかというと，文字と同様必ずしもそうではなく，教科書に提出されても，成績のわるい音もある。

(ロ) 教科書に使用されても読み不振の音

国語1教科だけに使用されたもの

4人惜セキ 4敷フ 5祈キ 6穴ケツ 7桜オウ 7詰キツ 7叫キョウ 7如ジョ 7請シン 7装ショウ 7怒ド
6朽キュウ 7俊シュン 7冗ジョウ 7薦セン 7漸ゼン 7顧コ 7恨コン 7煩ハン 6某ボウ 3遷セン (21音)

〈注〉 文字の左肩の数字は読めた成績（人数）を示す。

2教科使用のもの

3御ギョ (国・男女) 5驚キョウ (国・音) 7隠イン 7誓セイ 7曇ドン 7墨ボク 7埋マイ 7茂モ
(以上国・社) 5詳ショウ (国・男女) 7襲シュウ 7唆サ 7宰サイ 7殉ジュン 7崇スウ (国・社)
7抽チュウ (国・美) 7謀ボウ 7諭ユ 7猶ユウ 7替タイ 6崩ホウ 6擁ヨウ 6吏リ (国・社) (22音)

3教科使用のもの

4施セ 7枝シ (国・社・男) 7鋳チュウ (国・社・男女) 7峰ホウ (国・社・音) 5陥カン 7閑カン
7克コク (国・社・体) 6緩カン (国・社・男女) 6抑ヨク (国・社・男) (9音)

4教科使用のもの 7芳ホウ (国・数・社・理) (1音)

5教科使用のもの

⁶伏フク（国・社・理・体・男女）　⁷避ヒ　（国・社・美・体・男女）　⁷双ソウ（国・数・理・社・男）（3音）
6教科使用のもの　⁶既キ　（国・数・理・英・体・男女）　（1音）　（計57音）

教科書未出で読みに抵抗のある音は128音であるが，教科書に使用されていても不振の音は57音であるので，数の上からも半数に減る。しかし，使用音では，半数以上（4人以上）のものが読めなかった音は，御ギョ遷セン惜セキ敷フ 施セ といたって少なく，大半は7人まで読めている。

多くの教科にわたって使用されながら，全員（8人）は読めるに至らなかった，芳ホウ伏フク避ヒ双ソウ既キなどはなぜ読みの力がつかないのか。

＜文字＞　＜教科書での使用語例＞　＜問題の語形＞

芳　（芳香〔理〕　芳名〔国〕　芳崖〔社〕　薫芳〔数〕　芳一〔国〕）（芳名・芳香）
伏　（潜伏〔体〕　起伏〔理・女〕　降伏〔国・社〕　倒伏〔男〕　圧伏〔国〕）（伏線・降伏）
避　（逃避〔国・美〕　回避・不可避〔国〕　避難〔社・体〕）　（避難）
双　（双用〔男〕　双子葉〔理〕　双曲線〔数〕　双肩〔国〕　双樹〔社〕）（双方・双肩）
既　（既製〔男・女〕　既習〔英・女〕　既婚〔国〕　皆既食〔理〕
既陽性〔体〕　既約分数〔数〕）　（既報・既成）

たとえば，次のようなことが考えられはしないであろうか。

1)　使用されている語句との関連
2)　使用教科の幅と使用度の関係
3)　使用された語句と，調査問題の関係

1)　では，この音が教科書で使用された場合，耳なれない固有名詞（逆に親しい固有名詞からは読字力がつく），教科特有の語，中学生の日常の使用語彙としては生硬な漢語であったために，親しく身につかないで終わる。

2)　数教科にわたって使用されたとしても，使用度としてはさほど高くない。ことに，国語の教科書でも2～5回程度の使用度数である。

3)　教科書で使用されている語句と，調査の問題として提出した語句とが異なる場合も調査成績不振の原因としてあげられる。その文字の字義も理解した上で，他の語句にわたって一般化できるまでに至っていない親しくない文字（音）の場合は，ことにこの因子がはたらく。教科書では一度も見なかった初

見の語，伏線，双方，既報，既成などが，読みを困難にしたものと推定される。そしてさらにつけ加えるならば，

4）誤りやすい文字であること

その文字を正確に習得するまでには，字形や熟語の上から誤って読むことが多い。たとえば「既」など，後の誤答現象の章でのべるが概，慨などの類似からガイに読み誤る傾向がある。文字そのものの因子からの誤りも意外に多いのである。

③国語教科書以外の読みの習得経路

教科書で使用されたものが，成績にも作用して，よく読め，成績不振のものは，教科書でも用いられていないことが多いのが一般であるが，中学生のこの段階になると，教科書以外にも読みの習得経路がひらけてくる。

(イ)　国語科の教科書では未出でも成績良のもの　148音

亜ア　慰イ　姻イン　羽ウ　宴エン　欧オウ　奥オウ　乙オツ　佳カ　餓ガ　灰カイ
怪カイ　悔カイ　劾ガイ　割カツ　汗カン　堪カン　憾カン　還カン　棋キ　幾キ　輝キ
偽ギ　凶キョウ　恭キョウ　狭キョウ　胸キョウ　謹キン　駆ク　掘クツ　茎ケイ　倹ケン　枯コ
雇コ　呉ゴ　碁ゴ　甲コウ　坑コウ　恒コウ　侯コウ　控コウ　慌コウ　酵コウ　鋼コウ
拷ゴウ　酷コク　獄ゴク　魂コン　懇コン　砂シャ　債サイ　歳セイ　削サク　酢サク　擦サツ
伺シ　雌シ　捨シャ　尺シャク　狩シュ　臭シュウ　愁シュウ　淑シュク　盾ジュン　循ジュン　緒ショ
匠ショウ　奨ショウ　礁ショウ　剰ジョウ　錠ジョウ　伸シン　浸シン　娠シン　紳シン　迅ジン　帥スイ
睡スイ　錘スイ　窃セツ　旋セン　銑セン　租ソ　塑ソ　捜ソウ　贈ゾウ　促ソク　胎タイ
怠タイ　諾ダク　仲チュウ　兆チョウ　脹チョウ　珍チン　呈テイ　斗ト　吐ト　奴ド　桃トウ
痘トウ　騰トウ　豚トン　軟ナン　尿ニョウ　妊ニン　寧ネイ　肺ハイ　梅バイ　陪バイ　賠バイ
縛バク　抜バツ　閥バツ　伴ハン　畔ハン　彼ヒ　泌ヒツ　扶フ　附フ　浮フ　賦フ
幅フク　沸フツ　紛フン　墳フン　丙ヘイ　柄ヘイ　遍ヘン　募ボ　慕ボ　邦ホウ　飽ホウ
縫ホウ　妨ボウ　矛ム　耗モウ　紋モン　幽ユウ　憂ユウ　酪ラク　痢リ　履リ　柳リュウ
硫リュウ　厘リン　鈴リン　隷レイ　恋レン

上の148音は国語の教科書では未出でありながら，8人全員が読めた音である。それぞれの文字（音）は，国語科では学習されなかったが，他教科では事

項や用語として使用されたものであり，それらの学習を通して読める素因が培われたものと思われる。

教科書に使用されて成績不振であった55音に比べて，国語教科書に未出でも読めるものが148音もあるということは，読める音の習得経路として，他教科での学習がかなり作用していることを示している。

例—亜ア（亜鉛〔数・社・理・体・男・女〕　亜熱帯〔社〕　亜寒帯〔理〕　亜硫酸〔理〕　次亜塩素酸ソーダ〔女〕　亜麻〔社〕　亜墨利加〔社〕　5教科）

宴エン（宴会〔音〕　1教科）

奥オウ（奥羽〔国・社〕　奥州〔国・社〕　1教科）

割カツ（分割〔数・社〕　割譲〔社〕　割拠〔社〕　2教科）

汗カン（発汗〔体〕　汗せん〔理〕　2教科）

などの例をみると，それぞれ，次のような原因が考えられるのではなかろうか。

1）亜—特殊の専門用語として用いられているが，使用の幅が広くすでに一般化されている。

2）宴—使用教科書数としては少ないが，これなどはむしろ広告，宣伝をはじめ，一般読書の影響が考えられる。

3）奥—固名有詞として使用されているが，そのためにかえって親しまれている。

4）割—語彙としてはかなり生硬であるが，分割など2教科で用いられ，また，世間でも最近使われている。分割払いなど

5）汗—音としてはむずかしいが，訓では身近な語であり，つくりの干カンが読みやすくしている。

など，他教科で使用される文字や音が読みの習得に及ぼす要因を察知することができる。なお，国語は未出でも成績のよかったこれらの音は，他教科での学習の影響と同時に，一般読書その他のマスメディアからも習得経路を得ているものと考えられる。

全教科未出で成績良のもの

148音中，全教科未出で成績良のものは次のようであるが，これらを見ても

上の推定があまりはずれていないことがわかるであろう。

慰イ　殴オウ　佳カ　餓ガ　怪カイ　悔カイ　堪カン　憾カン　棋キ　偽ギ　恭キョウ
謹キン　碁ゴ　魂コン　歳セイ　削サク　伺シ　淑シュク　盾ジュン　錠ジョウ　娠シン　紳シン
窃セツ　贈ゾウ　怠タイ　脹チョク　桃トウ　畔ハン　彼ヒ　矛ム　憂ユウ　鈴リン　恋レン

（33音）

このように，中学校の過程では，単に国語の学習を通して漢字学習がなされるだけでなく，国語による漢字学習の不備が他教科の学習やその他一般の言語生活によって補充・強化されていることが認められる。

2）訓

3年卒業までに，8人全員は読めなかった訓に抵抗のある文字は，次の114訓（110字，音訓重複字を除くと76字）である。

①訓に抵抗のある文字

0人充あてる　1旨むね　操みさお　2弦つる　*執とる　憤いきどおる　3契ちぎる　緒お　*請こう　被こうむる　募つのる
免まぬかれる　謡うたい　4摘つむ　紛まぎれる　冒おかす　5戒いましめる　悔くやむ　堪たえる　*仰おおせ　軒のき　*御おん
射いる　潤うるおす　召めす　焦こげる　浸ひたす　滞とどこおる　堤つつみ　粘ねばる　卑いやしい　飽あきる　6干ひる
偽いつわる　凝こる　駆かける　携たずさえる　裁たつ　伺うかがう　趣おもむき　寿ことぶき　譲ゆずる　辛からい　侵おかす
請うける　*装よそおう　杯さかずき　縛しばる　慕したう　奉たてまつる　妨さまたげる　優やさしい　憂うれえる　誉ほまれ　裂さく
7沿そう　縁ふち　拒こばむ　脅おびやかす　鼓つづみ　更さらに　香か　控ひかえる　札ふだ　若もしくは　臭くさい
錘つむ　占うらなう　潜ひそむ　礎いしずえ　葬ほうむる　怠おこたる　頂いただき　漂ただよう　誘さそう　朗ほがらか　惑まどう

78訓（76字）（147字中，音ではよく読めるが，訓不振のもの）

〈注〉　*印の字は音の中にも抵抗のある文字。漢字の下の線は不振の訓が重出している文字のしるし。

1人*窮きわめる　*弔とむらう　*芳かんばしい　3*既すでに　*陵みささぎ　*忌いむ　4*絞しぼる　*朽くちる　5*懲こらす　*侮あなどる　*詔みことのり
*漏もれる　6*遂とげる　*癖くせ　*陥おちいる　*砕くだく　*賜たまわる　*喪も　*襲おそう　7*繭まゆ　*絞しめる　*醜みにくい
*詳くわしい　*顧かえりみる　*恨うらむ　*衰おとろえる　*替かえる　*奪うばう　*鍛きたえる　*煩わずらわしい

31訓（29字）（音・訓とも抵抗がある）

7人卸おろす　且かつ　5人畝せ　匁もんめ　2人虞おそれ　5訓（5字）（1訓の文字で抵抗がある）

計 114訓（110字）（76字　音訓重複字を除く）

使用教科書における訓の提出状況

国語教科書で未出のもの　59訓

全教科の教科書で未出のもの　31訓

②成績と使用音訓との関係

イ．国語の教科書に未出で読みに抵抗のあるもの

読みの成績不振の114訓中，国語の教科書未出のものは次の42訓である。

虞(おそれ) 卸(おろす) 悔(*くいる *くやむ) 堪(*たえる) *忌(いむ) 既(すでに) *窮(きわめる) *契(ちぎる) *弦(つる) 絞(しぼる *しめる) 裁(たつ) 旨(むね) *執(とる) 若(もしくは) *寿(ことぶき) *臭(くさい) *充(あてる) 緒(お) *詔(みことのり) 辛(からい) 侵(おかす) 衰(とろえる) 錘(つむ) 畝(せ) 請(うける) *礎(いしずえ) 喪(も) *装(よそおう) *操(みさお) *滞(とどこおる) *鍛(きたえる) *弔(とむらう) *杯(さかずき) 卑(いやしい) *侮(あなどる) 免(まぬかれる) 匁(もんめ) *誉(ほまれ) *陵(みさぎ) *朗(ほがらか)

＊印の字は全教科未出の訓　24訓

成績不振の訓の半数近いものが，国語教科書未出の訓，さらにその半数近いものが，全教科に未出の訓であることがわかる。

教科書未出で読みに抵抗のある訓

読みの成績（読めた人数）	訓の数	（全教科にわたる未出）	（国語のみ未出）
0人	1訓	1訓	0訓
1人	4	3	1
2人	3	2	1
3人	6	3	3
4人	1	0	1
5人	9	6	3
6人	9	4	5
7人	9	5	4
計	42訓	(24訓	18訓)

読みにくい訓と教科書との関係をみた場合，音に比べて興味があるのは，音では，成績不振音と提出音の関係が全教科〈国語であるのに対して，訓では全教科〉国語であることで，音に比べて訓の方が，国語教科書と読みの成績の関係が密であることを示しているものと思われる。

半数以上が読めなかった25訓のうち，国語を含めて全教科未出訓は9訓である。

0*充あてる 1旨むね *操みさお *窮きわめる *弔とむらう 2*弦つる *執とる 憤いきどおる 芳かんばしい 虞おそれ 3*契ちぎる 緒お 請こう 被こうむる 募つのる 免まぬかれる 謡うたい 既すでに *陵みささぎ *忌いむ 4摘つむ 紛まぎれる 冒おかす 絞しぼる 朽くちる　(25訓)

<注>　＊印は全教科に未出の訓

このように教科書に未出のために，読みに抵抗があるほか，教科書に提出されても，読みにくい訓もある。

ロ　教科書に使用されて読みに抵抗のある訓

1教科だけに使用されたもの〈国語〉

読みの成績	音良・訓不振のもの	音・訓ともに不振のもの	1訓の文字で不振
2　人	憤いきどおる	芳かんばしい	
3　人	請こう 被こうむる 募つのる 謡うたい		
4　人	摘つむ 紛まぎれる 冒おかす	朽くちる	
5　人	戒いましめる 仰おおせ 潤うるおす 焦こげる 浸ひたす 粘ねばる 飽あきる	懲こらす 漏もる	
6　人	偽いつわる 凝こる 駆かける 携たずさえる 伺うかがう 趣おもむき 縛しばる 慕したう 奉たてまつる 優やさしい 憂うれえる 裂さく	遂とげる 癖くせ 陥おちいる 砕くだく 賜たまわる 襲おそう	
7　人	脅おびやかす 鼓つづみ 控ひかえる 占うらなう 潜ひそむ 葬ほうむる 怠おこたる 漂ただよう 誘さそう 惑まどう	繭まゆ 醜みにくい 詳くわしい 顧かえりみる 恨うらむ	
	(37訓)	(15訓)	計52訓

〈社会・その他〉

1　人	旨むね　(社)		
2　人			虞おそれ (社)

3　人	緒(音)　免(社)	既(社)	
4　人		絞(男)	
5　人	卑(社)		
6　人	請　喪(社)		
	裁　辛(女)		
7　人	若　錘(社)		
	(10訓)	(2訓)	(1訓)
			(計13訓)

2教科使用

5　人	軒　御　射	漏(国・男)	畝　夙(数・社)
	堤(国・社)		
6　人	干　譲　妨		
	(国・社)		
	侵(社・男)		
7　人	沿(国・英)　拒	衰(社・音)　奪	且(国・社)
	更　札(国・社)	煩(国・社)	卸(社・女)
	(12訓)	(4訓)	(4訓)
			(計20訓)

3教科使用

5　人	召　(国・社・英)		
7　人	縁　(国・英・体)		
	頂　(国・数・理)		
	(3訓)		(計3訓)

4教科使用

7　人	香　(国・社・理・音)	誉　(国・社・理・音)	
	(1訓)	(1訓)	(計2訓)
			(総計90訓)

多くの教科にわたって提出された訓では，成績不振といっても，7人乃至6人は読めており，提出訓では，さすがに半数以上のものは読めている。

教科書に提出されながら，読みに抵抗のある訓をみると，

成績（よめた人数）	訓	出現教科	用例	出現箇所	回数
1人	旨むね	社会(「中学社会」3年)	規定に違反(いはん)した旨(むね)の申立	付録資料　労働組合法（抜）	1
2人	憤いきどおる	国語(「中等国語」3年)	その憤りが「悩み」となる	本文（新出）	2
			憤　いきどおーる	課末新出漢字例	
	芳かんばしい	国語（〃）	芳　かんばーしい	課末新出漢字例	1
				芳ホウ　の読みかえとして	
	虞おそれ	社会(「中学社会」3年)	風俗を害する虞(おそ)れがある	付録資料　日本国憲法	1
3人	請こう	国語(「中等国語」2年)	恵みを請いました	本文（新出）	5
			請　こーう	課末新出漢字例	
			請われるまま	本文	
		〃（〃）	請　こーう	課末新出漢字例	
				請シンの読みかえとして	
			案内を請う	本文	
	被こうむる	国語(「中等国語」3年)	迫害を被りながら	本文（新出）	2
			被　こうむーる	課末新出漢字例	
	募つのる	〃（〃）	吹き募る風	本文（新出）	2
			募　つのーる	課末新出漢字例	
	謡うたい	〃（〃）	能が謡(うたい)によって筋が展開……	参考教材・本文	3
			謡のほうは古典	〃　〃	
			地謡座	挿入図の説明	
	緒お	音楽(「中学音楽」2年)	緒園涼子	作詞者名（固）	1
	免まぬかれる	社会(「中学社会」3年)	欠乏(けつぼう)から免(まぬ)かれ平和……	付録資料　日本国憲法	1
	既すでに	〃（〃）	……又は既に罪とされた行為	〃　〃	1

4人	摘(つむ)	国語(「中等国語」3年)	摘　つ-む	課末新出漢字例 摘(テキ)の読みかえとして	1
	紛(まぎれる)	〃（　〃　）	言い紛らわす	本文（古典）	3
			かすみに紛れながら	〃（　〃　）	
			紛らわしくないこと	参考教材・本文	
	冒(おかす)	〃（　〃　）	危険を冒す	本文（新出）	5
			冒　おか-す	課末新出漢字例	
			病気を冒す	本文	
			困難を冒す	〃	
			苦心を冒す	（学習の手びき）	
	朽(くちる)	〃（　〃　）	春が薄朽葉(くちば)	注の説明中	1
	絞(しぼる)	（技術・家庭男子用）	調整して絞る	本文	5
			絞り弁	〃	
			絞り弁ワイヤ	図解説明	
			絞り弁軸	〃	
			絞り弁レバー	〃	

上のように，

1）本文での提出が少ない。（挿入図版や注で使われている）

2）付録の資料中に使われている漢字である。

3）新出漢字音の読み替えとして提示のもの。

4）読みの判然としない固有名詞に使われている。

5）使用度数が少ない。

などの理由で，文字として提出されたとはいえ，学習効果が期待されず，提出機能の粗いものといえる。したがって成績との関係も低い。上例は一例であるが，不振のものには，それなりの理由が潜在していると思われる。

なお，音が未出のために成績不振の音の方が，既出でも成績不振の音より多い（未出128音〉既出55音）のに対し，訓では，未出で不振より既出で不振の訓の方が多い（未出24〈既出90訓）という現象がある。これらは，それぞれの音訓の使われ方，出現のし方にもよるであろうが，物名，事項名など名詞に多

く使用される音に対し，動作性質などを表わす動詞・形容詞などに多く使われる訓のほうが，文字の知覚・認識・印象度が低いためであろうか，今後の研究にまつべきものがあると思われる。

ハ　全教科未出でよく読める訓

なお，国語科または，全教科に未出でも，よく読める訓もある。

*芋(いも)　危(あやう)い　剣(つるぎ)　*幻(まぼろし)　*紅(くれない)　*漆(うるし)　蒸(むす)　但(ただし)　坪(つぼ)　豚(ぶた)　苗(なえ)　*腐(くさる)　柄(え)　*紡(つむぐ)　*裸(はだか)　恋(こい)　(17訓)

〈注〉　*印の字は，そのうち，全教科にわたり，未出のもの。

これらの訓をみると，生活的なもの，関心の深いものが，他のマスメディアなどを媒介として覚えられていくことがわかる。たまたま国語科以外の他の教科に出ているものも，傾向的には同様である。

第3章　当用漢字の習得状況—書き

B　書　き

I　教育漢字　1年入学時書きの成績

前章の数量的観点からの書字の状況を，質的観点から具体的な文字に即して見ると，どうであろうか。

この調査が行なわれた当時の「学習指導要領」は教育漢字(881字）を書くことについては，義務教育終了段階（中学3年）を終えるまでに書けるようになることが要求されているので，中学1年入学時には読みと同程度の習得が期待されてはいないし，また，従来の習得調査結果でも読みに比べて習得力は低い。

1年入学時の教育漢字の書きの成績は，

8人全員が正しく書けた字		355字（40.3%）
7人が	〃	159字（18.0%）
6人〃	〃	118字（13.4%）
5人〃	〃	75字（ 8.5%）
4人〃	〃	73字（ 8.3%）
3人〃	〃	53字（ 6.0%）
2人〃	〃	30字（ 3.4%）
1人〃	〃	15字（ 1.7%）
0		3字（ 0.3%）

で，平均正答字数695.3字に比べると，全員が共通に正しく書ける漢字の数は355字で，意外に少ないことがわかる。また，半数以下の人たちが書けなかった字は174字ある。

以下字種に即して入学時の成績を見ることにする。

1. 書きの成績と字種

(1) 全員が書けた字

(ア) 8人（全員・100%）が正しく書けた字　355字

<注> 添えてある音訓は，正答できたほうの音訓であることを示す。・は1音または1訓の字。

愛アイ　以イ　意イ　育そだてる　一イチ　引ひく　員イン　雨あめ　雲くも　運はこぶ　絵エ
駅エキ　円エン　園エン　王オウ　横よこ　屋や　音おと　温オン　下した　火ひ　何なに
花はな　科カ　夏なつ　家いえ　歌カ　画ガ　賀ガ　回カイ　会カイ　改カイ　界カイ
海うみ　開ひらく　外そと　害ガイ　角カク　覚おぼえる　学ガク　活カツ　間カン　感カン　岸ガン
岩ガン　顔かお　願ねがう　希キ　季キ　気キ　記キ　起おきる　期キ　機キ　議ギ
客キャク　九キュウ　休やすむ　究キュウ　急いそぐ　宮みや　級キュウ　牛うし　去キョ　漁ギョ　教キョウ
強つよい　橋はし　業ギョウ　極キョク　玉たま　近ちかい　金キン　銀ギン　区ク　苦くるしい　空そら
君クン　兄あに　形ギョウ　係かかり　計ケイ　景ケイ　芸ゲイ　結むすぶ　月つき　犬いぬ　見みる
研ケン　県ケン　元ゲン　原はら　戸と　古ふるい　湖みずうみ　五ゴ　午ゴ　後ゴ　語ゴ
口くち　公コウ　光ひかる　行いく　幸コウ　校コウ　高たかい　康コウ　広ひろい　合あう　谷たに
国くに　黒くろい　今いま　根ね　左ひだり　西にし　細ほそい　最サイ　材ザイ　作サク　三サン
山やま　算サン　子こ　仕シ　司シ　四シ　市シ　示しめす　死しぬ　私わたくし　糸いと
姉あね　思おもう　指ゆび　紙かみ　寺てら　次つぐ　耳みみ　自ジ　事ジ　時ジ　式シキ
七しち　失うしなう　室シツ　質シツ　実み　車シャ　舎シャ　弱よわい　主シュ　守まもる　取とる
州シュウ　周シュウ　秋あき　習シュウ　週シュウ　終おわる　集あつまる　十ジュウ　重おもい　出でる　春はる
所ところ　書かく　女おんな　助たすける　小ちいさい　少すこし　昭ショウ　章ショウ　上うえ　乗のる　色いろ
食たべる　植ショク　心こころ　申もうす　臣シン　神かみ　森もり　進すすむ　親おや　人ひと　水みず
数スウ　世セ　生セイ　正ショウ　声こえ　青あおい　政セイ　星ほし　清きよい　晴はれる　勢いきおい
夕ゆう　石いし　赤あかい　責せき　切きる　雪ゆき　千セン　先セン　浅あさい　線セン　選セン

全ゼン　前まえ　組くむ　早はやい　走はしる　争ソウ　草くさ　足あし　村むら　他タ　大おおきい
太ふとい　対タイ　帯おび　代ダイ　台ダイ　第ダイ　炭タン　男おとこ　地チ　池いけ　知しる
竹たけ　中なか　注チュウ　柱はしら　町まち　長ながい　帳チョウ　鳥とり　朝あさ　通とおる　弟おとうと
定テイ　庭にわ　鉄テツ　天テン　店みせ　点テン　田た　電デン　土つち　図ズ　都みやこ
度ド　刀かたな　冬ふゆ　当トウ　東ひがし　島しま　登のぼる　答こたえる　頭あたま　同おなじ　動ドウ
働はたらく　読よむ　内ナイ　南みなみ　二ニ　肉ニク　日ひ　入いる　熱ネツ　年ネン　念ネン
農ノウ　馬うま　配ハイ　倍バイ　買かう　白しろい　麦むぎ　畑はたけ　八ハチ　発ハツ　反ハン
半ハン　板バン　番バン　飛とぶ　費ヒ　美うつくしい　百ヒャク　表ヒョウ　秒ビョウ　病ビョウ　品しな
父ちち　負まける　部ブ　風かぜ　服フク　物ブツ　文ブン　平ヘイ　米こめ　勉ベン　歩あるく
母はは　方ホウ　法ホウ　北きた　牧ボク　本ホン　毎マイ　万マン　脈ミャク　民ミン　名な
明あかるい　鳴なく　面メン　毛け　木き　目め　門モン　問モン　夜よる　野や　約ヤク
油ユ　友とも　右みぎ　由ユウ　有ユウ　遊あそぶ　予ヨ　要ヨウ　葉は　様さま　曜ヨウ
来くる　楽たのしい　里リ　力ちから　律リツ　流ながれる　緑みどり　林はやし　類ルイ　列レツ　練レン
路ロ　和ワ　話はなす

355字（40.3%）

(2)　7人以下が書けた字

(イ)　7人（87.5%）が正しく書けた字

悪わるい　圧アツ　安アン　暗くらい　囲イ　位イ　委イ　胃イ　印イン　院イン　飲のむ
英エイ　栄エイ　営エイ　遠とおい　化カ　加くわえる　荷に　過すぎる　貝かい　各カク　額ガク
官カン　寒さむい　漢カン　館カン　観カン　汽キ　帰かえる　規キ　器キ　久ひさしい　球キュウ
挙キョ　魚うお　共キョウ　京キョウ　協キョウ　鏡キョウ　競キョウ　局キョク　具グ　群グン　経ケイ
軽かるい　血ち　決ケツ　験ケン　言いう　故コ　個コ　庫コ　工コウ　交コウ　向むかう
考かんがえる　港みなと　黄き　査サ　才サイ　雑ザツ　参サン　産サン　賛サン　残ザン　至いたる
使つかう　始はじめる　歯は　字ジ　持もつ　写シャ　者もの　借かりる　手て　首くび　酒さけ
種たね　受うける　住すむ　暑あつい　諸ショ　勝かつ　情ジョウ　条ジョウ　場ば　織おる　職ショク
新シン　成セイ　性セイ　製セイ　静しずか　整セイ　席セキ　接セツ　川かわ　船ふね　然ゼン
素ソ　側かわ　卒ソツ　多おおい　体タイ　断ダン　談ダン　置チ　築チク　茶チャ　着きる
虫むし　直チョク　追おう　転テン　伝デン　湯ゆ　等トウ　道みち　銅ドウ　任ニン　波なみ

売ウる　坂さか　飯ハン　皮かわ　非ヒ　不フ　布ぬの　府フ　分ブン　粉こな　別ベツ
辺ヘン　弁ベン　豊ゆたか　望ボウ　妹いもうと　昧あじ　無ム　役ヤク　輸ユ　勇ユウ　洋ヨウ
容ヨウ　落おちる　利リ　理リ　陸リク　立たつ　旅たび　両リョウ　良リョウ　量リョウ　輪わ
例レイ　歴レキ　連つれる　六ロク　録ロク　159字（18.0%）

(ウ)　6人（75.0%）が正しく書けた字

案アン　衣イ　医イ　因イン　永エイ　液エキ　央オウ　往オウ　億オク　河カ　価カ
課カ　械カイ　株かぶ　関カン　紀キ　基キ　喜よろこぶ　技ギ　義ギ　旧キュウ　禁キン
句ク　郡グン　潔ケツ　件ケン　建たてる　健ケン　絹きぬ　限かぎる　現あらわれる　航コウ　鉱コウ
興キョウ　告コク　差サ　済サイ　罪ザイ　殺ころす　察サツ　散ちる　士シ　止とまる　史シ
試シ　児ジ　社シャ　宿やど　術ジュツ　初ショ　商ショウ　照てる　常ジョウ　身み　信シン
真シン　深ふかい　仁ジン　省セイ　積つむ　設セツ　説セツ　節セツ　祖ソ　倉ソウ　想ソウ
総ソウ　造ゾウ　則ソク　息いき　続つづく　尊ソン　打うつ　待まつ　態タイ　題ダイ　達タツ
短みじかい　団ダン　昼ひる　調しらべる　底そこ　的テキ　典テン　徒ト　投なげる　燈トウ　童ドウ
導みちびく　徳トク　毒ドク　独ドク　弐ニ　比くらべる　燃ネン　悲かなしい　筆ふで　標ヒョウ　貧まずしい
副フク　復フク　福フク　聞ブン　兵ヘイ　変かわる　保たもつ　放ホウ　貿ボウ　迷まよう　綿わた
余あまる　用ヨウ　陽ヨウ　養ヨウ　料リョウ　冷つめたい　老ロウ　労ロウ　118字（13.4%）

(エ)　5人（62.5%）が正しく書けた字

移うつる　泳およぐ　衛エイ　易エキ　塩しお　応オウ　恩オン　果カ　貨カ　芽め　快こころよい
階カイ　確カク　完カン　慣カン　眼ガン　曲まがる　型かた　敬ケイ　憲ケン　検ケン　固かためる
厚あつい　皇コウ　耕たがやす　号ゴウ　菜サイ　刷ツ　支シ　氏シ　詩シ　治チ　辞ジ
識シキ　収シュウ　捨ひろう　順ジュン　序ジョ　消きえる　是ゼ　聖セイ　精セイ　績セキ　舌ゼツ
銭セン　戦セン　宗シュウ　送おくる　像ゾウ　測ソク　速ソク　族ゾク　隊タイ　丁チョウ　党トウ
統トウ　特トク　破やぶる　博ハク　備ビ　必ヒツ　氷こおり　俵ヒョウ　夫フ　婦フ　複フク
編あむ　包つつむ　防ふせぐ　務ム　命メイ　盟メイ　薬くすり　留リュウ　礼レイ　75字（8.5%）

(オ)　4人（50.0%）が正しく書けた字

異イ　遺イ　壱イチ　演エン　我われ　刊カン　寄よる　貴キ　求もとめる　救すくう　居キョ
許ゆるす　軍グン　系ケイ　券ケン　減へる　功コウ　混コン　再ふたたび　妻つま　祭まつる　際サイ
在ザイ　昨サク　志シ　師シ　詞シ　似にる　授ジュ　修シュウ　祝いわう　述のべる　準ジュン

処ショ　除のぞく　招ショウ　唱ショウ　証ショウ　賞ショウ　状ジョウ　税ゼイ　絶ゼツ　俗ゾク　属ゾク
存ゾン　孫まご　退タイ　単タン　忠チュウ　低ひくい　適テキ　努ド　討トウ　堂ドウ　認みとめる
能ノウ　犯ハン　判ハン　肥こえる　票ヒョウ　評ヒョウ　武ブ　仏ブツ　返ヘン　便ベン　報ホウ
末すえ　満マン　未ミ　浴ヨク　略リャク　令レイ　論ロン　　73字（8.3%）

(カ)　3人（37.5%）が正しく書けた字

延のびる　格カク　幹みき　逆ギャク　給キュウ　均キン　訓クン　欠かける　兼かねる　権ケン　険ケン
護ゴ　后コウ　効コウ　候コウ　災サイ　蚕かいこ　酸サン　視シ　謝シャ　釈シャク　需ジュ
承ショウ　象ショウ　焼やく　制セイ　折おる　宣セン　専セン　善ゼン　増ゾウ　蔵ゾウ　損ソン
貸かす　著あらわす　張はる　腸チョウ　賃チン　停テイ　敵テキ　得トク　届とどける　難ナン　敗やぶれる
版ハン　鼻はな　富とむ　補ホ　暴ボウ　訳ヤク　預あずける　率リツ　領リョウ　　53字（6.0%）

(キ)　2人（25.0%）が正しく書けた字

益エキ　仮かりに　解カイ　革カク　拡カク　勧すすめる　歓カン　疑ギ　供そなえる　境キョウ　誤ゴ
構コウ　財ザイ　資シ　衆シュウ　就シュウ　従したがう　純ジュン　推スイ　相ソウ　創ソウ　貯チョ
提テイ　程テイ　展テン　納おさめる　拝ハイ　否いな　賠バイ　臨のぞむ　　30字（3.4%）

(ク)　1人（12.5%）が正しく書けた字

可カ　管カン　旗はた　勤つとめる　己コ　孝コウ　講コウ　穀コク　採サイ　称ショウ　誠セイ
派ハ　陛ヘイ　墓はか　欲ヨク　　15字（1.7%）

(ケ)　0の字

厳ゲン　策サク　付つける　　3字（0.3%）

2．書けた字の基本性

これら8人正答の文字は，漢数字を始めとし，形量・方角（大中小少太細広長円，上下前後左右，内外，東西南北など），自然・天文(天地空海山谷池湖林森，晴雨風雲雪日月星など)，身体（目耳口顔頭毛足指など)，人倫（人親子父母兄姉弟男女友先生臣君など)，時・四季（朝夕夜，日時秒，春夏秋冬など)，数（百千万など)，色彩（赤白黒青緑,色など)，七曜（日月火水木金土，曜)，動植物（犬牛鳥馬動物，草花竹根葉植物など)，衣・食・住（糸帯服,食米麦肉炭，家門柱紙室屋庭園畑車橋駅店など)，生活・行動（国県都市区町村，行来

歩走動休学遊働出入，生病死，出入，見話問読書思，心愛苦楽美強弱など）など，低学年用の文字を中心に，生活の基本的な文字，小学生の作文などで用いられているような文字がほとんどである。（まれに使用度は高いが，字形がとりにくいために書けないものもある。例—妹昼など）また，学校生活用語として多用される文字も自然に書けるようになっていることがわかる。

学校・学級・教室・…会・会議・生活・…係・組・国語・算数・音楽・歌・植物・終わる・…帳・週・勉強・練習・研究など。

抽象的な概念を表わすような語に使われる文字は，やはりまだ数が少ないことがわかる。

3. 書字成績と学年配当漢字との関係

上の正答反応の各文字群を当時の学年配当漢字との関係からみると次のようになる。

(ア)　100%書けた字

1年用漢字　一雨下火花九金月五口左三山子四耳七十女小上森人水生正青石赤先足大中田土二日白八本木目右　43字（93.5%）

2年用漢字　雲円王音何夏家会海外学間気休牛玉空犬見元戸古光行校高合谷国黒今西作糸思紙時車秋出春書少色心声夕切雪千前組早走草村男地池知竹町長鳥朝天冬東読南入年馬麦半百父風文米歩母方北名明毛門夜友来力林話　94字（89.5%）

3年用漢字　意引運絵駅園屋温科歌画回界開角活感岸岩顔記起期客究急級去教強橋近銀苦君兄形計研県原午後語公広根細算仕市死指寺次自事室実弱主取週終集重所助昭乗食申神進親数世星晴全太台第炭注柱通弟鉄店点電図都度刀当島答頭同動肉配買畑発板番美表病品負物平勉毎万鳴面野由遊葉様曜楽里流和

131字（70.1%）

4年用漢字　愛以育員横改害覚願季機宮業極係景芸結湖幸最材司

姉式失守州習章植臣清勢線選争他対代帳定庭登働内熱農反飛費秒部服法脈民問油有予緑類列練路　66字（32.2%）

5年用漢字　賀希議漁区康示質舎周政責浅帯念倍牧約要　19字（9.8%）

6年用漢字　私律　2字（1.4%）

(イ)　7人（87.5%）書けた字

1年用漢字　手川六　3字（6.5%）

2年用漢字　汽京工考字多虫道分立　10字（9.5%）

3年用漢字　悪安暗遠化荷貝寒帰球魚局決庫交向黄才使始持者首受住暑勝場新船体茶着追波売坂皮妹役落理旅両　44字（23.5%）

4年用漢字　囲位委印院飲英加官館観器挙共協鏡競具軽血言港産残歯写借酒種成静整席然卒談置直転湯等不府粉別望味勇洋利陸良輪歴連録　56字（27.3%）

5年用漢字　圧胃栄過各漢規久群経験個査雑参賛情織性製接素側築伝銅任飯非布辺弁無輸容量例　37字（19.1%）

6年用漢字　営額故至諸条職断豊　9字（6.2%）

(ウ)　6人（75.0%）書けた字

2年用漢字　用　1字（1.0%）

3年用漢字　止社身深待昼投闘　8字（4.3%）

4年用漢字　案衣医械関喜郡建航告差察散士史試初商照信真積節息続打題達短調底的徒燈童悲福変放陽料冷老労　44字（21.5%）

5年用漢字　因永液央往億河価課紀技義句件健限現鉱興殺宿術常省設説祖倉想総造則団典導毒独燃比筆標貧副復兵保貿迷綿余養　51字（26.3%）

6年用漢字　株基旧禁潔絹済罪児仁尊態徳弐　14字（9.7%）

(エ)　5人（62.5%）書けた字

3年用漢字　号送礼　3字（1.6%）

4年用漢字　泳塩貨芽階曲固菜刷詩治拾順消戦速族隊丁必氷夫包

命薬　25字（12.2%）

5年用漢字　移衛易応恩果快確完慣型厚支氏辞識収序精績銭像測統特破博備俵婦編防務留　34字（17.5%）

6年用漢字　眼敬憲検皇耕是聖舌宗党複盟　13字（9.0%）

(オ)　4人（50.0%）書けた字

3年用漢字　返　1字（0.5%）

4年用漢字　祭昨唱孫努堂便末　8字（3.9%）

5年用漢字　演寄求救居許軍功際在志師似修祝準賞単低適能肥票武仏報満浴令　29字（14.9%）

6年用漢字　異遺壱我刊貴系券減混再妻詞授述処除招証状税絶俗属存退忠討認犯判評未略論　35字（24.3%）

(カ)　3人（37.5%）書けた字

4年用漢字　焼停鼻　3字（1.5%）

5年用漢字　格給均欠護候蚕酸謝承象折増貸張腸敵敗領　19字（9.8%）

6年用漢字　延幹逆訓兼権険后効災視釈需制宣専善蔵損著賃得届難版富補暴訳預率　31字（21.5%）

(キ)　2人（25.0%）書けた字

4年用漢字　相　1字（0.5%）

5年用漢字　仮解貯　3字（1.5%）

6年用漢字　益革拡勧歓疑供境誤構財資衆就従純推創提程展納拝否奮臨　26字（18.1%）

(ク)　1人（12.5%）書けた字

4年用漢字　旗　1字（0.5%）

5年用漢字　管講　2字（1.0%）

6年用漢字　可勤己孝穀採称誠派陛墓欲　12字（8.3%）

(ケ)　0の字

4年用漢字　付　1字（0.5%）

6年用漢字　厳策　　2字（1.4%）

この入学時の教育漢字の書きの成績と学年配当漢字との関係は，下表のように，100%正答を中心に，皆が正しく書ける漢字は，低学年および中学年用漢字に多く，高学年用漢字はいたって少ない。100%正答の6年用漢字はわずか

入学時の教育漢字書きの成績の学年配当

	8人書けたもの	7人	6人	5人	4人	3人	2人	1人	0
1年用　46字	43字	3							
2　〃　105	94	10	1						
3　〃　187	131	44	8	3	1				
4　〃　205	66	56	44	25	8	3	1	1	1
5　〃　194	19	37	51	34	29	19	3	2	
6　〃　144	2	9	14	13	35	31	26	12	2
計　〃　881字	355	159	118	75	73	53	30	15	3

に2字（私・律）で，書きの成績の不振なものは，高学年用漢字に多いことがわかる。これは，低・中学年用漢字に，比較的に基本字形のもの，生活的なもの，やさしいものがあり，また，早く提出され，くり返して学習する機会も多いので，当然ではあるが，しかし読みに比べると，書くことの習得の度合がいかに低いものであるかがわかる。また，読みでは音訓の観点からすると，低学年用の文字に抵抗を示すものがあったのと，対照的である。

4. 1年入学時に読み書きできた漢字

したがって，1年入学時調査で，読み書きともに8人（全員 100%）共通に正答できた文字はというと，8人共通に書けた355字から，読みでは，8人共通には読めなかった8字（読み正答字数は813字）

雲画宮去勢帳負里（7人が読めた字）

をひいた347字ということになり，これらは小学校6年までに読み書きともにできるようになった，最も習得度の高い教育漢字といえよう。

1 年入学時に完全に読み書きできた　347字

愛以意育一引員雨運絵駅円園王横屋音温下火何花科夏家歌賀回
会改界海開外害角覚学活間感岸岩顔願希季気記起期機議客九休
究急級牛漁教強橋業極玉近金銀区苦空君兄形係計景芸結月犬見
研県元原戸古湖五午後語口公光行幸校高康広合谷国黒今根左西
細最材作三山算子仕司四市示死私糸姉思指紙寺次耳自事時式七
失室質実車舎弱主守取州周秋習週終集十重出春所書女助小少昭
章上乗色食植心申臣神森進親人水数世生正声青政星清晴夕石赤
責切雪千先浅線選全前組早走争草足村他大太対帯代台第炭男地
池知竹中注柱町長鳥朝通弟定庭鉄天店点田電土図都度刀冬当東
島登答頭同動働読内南二肉日入熱年念農馬配倍買白麦畑八発反
半板番飛費美百表秒病品父部風服物文平米勉歩母方法北牧本毎
万脈民名明鳴面毛木目門間夜野約油友右由有遊予要葉様曜来楽
力律流緑林類列練路和話

5. 書けない漢字

音訓をかっこに入れれば，小学校段階で読みの習得率がかなり高かったのに比べて，書くほうが低い，読みと書きの成績が開いているという結果は，従来の諸調査の結果でも同様である。国語研究所で，小学生の言語能力の発達について研究した際，小学校6年生に，卒業直前，教育漢字881字の全数の読み書き調査を実施した場合も，（昭和34年3月）

＜実験学校結果＞	cf.　今回誰査結果
読み—平均正答字数806.0字（91.5%）	870.6字（98.8%）
書き—平均正答字数577.1字（65.5%）	695.3字（78.9%）

（読み—最高879字　最低477字　書き—最高862字　最低198字）

というように，読みと書きの差は開いており，これは同時に実施した他の調査協力諸学校の結果でも，だいたい同じであることが認められた。

（国立国語研究所報告17「高学年の読み書き能力」・同報告26「小学生の言語能力の発達」参照）

(1)　書けない漢字の共通性

上の調査結果でも，書けない字は，中・高学年用（特に高学年用）の漢字に多かったが，試みに，当時の小学6年生が成績不振であった文字と比べてみよう。

この調査で，正答50%（4人）以下の文字と小学生調査で平均正答率50%以下の字との比較

4人（50%）　*1異 *2遺 *4壱 *4演 *4我 *2刊 *4寄 *1貴 *5求 *2救 *3居 *2許 *2軍 *2系 △券 *2滅 *5功 *3混 *3再 *1妻 *4祭 *1際 *5在 *2昨 *3志 *2師 △詞 *3似 *5授 *5修 *2祝 *4述 *2準 *2処 *2除 *5招 *4唱 *5証 *2賞 *2状 *3税 *3絶 *2俗 *3属 *4存 *4孫 *2退 *4単 *3忠 *1低 *3適 *5努 *4討 *4堂 *4認 *1能 *1犯 *1判 *1肥 *3票 *3評 *2武 仏 返 便 *4報 *4末 *3満 *2未 *5浴 *3略 *3令 *4論

3人（37.5%）　*1延 *2格 △幹 *1逆 *4給 *4均 *1訓 *1欠 *5兼 *4権 *3険 *2護 *3后 *1効 *1候 *4災 *3蚕 *3酸 *4視 *2謝 *2釈 *3需 *2承 *3象 *3焼 *4制 *4折 宣 *5尊 *2善 *1増 *3蔵 *4損 *2貸 △著 張 *3腸 *2賓 *1停 *1敵 *4得 *4届 *3難 *5敗 *2版 *5鼻 *2富 △補 *5暴 *1訳 △預 *4率 領

2人（25%）　*1益 仮 *3解 *3革 *3拡 *2勧 *2歓 *1疑 *2供 *2境 *5誤 *2構 *4財 *1資 △衆 *1就 *2従 *3純 *2推 相 *2創 *2貯 *3提 *1程 *1展 *2納 *3拝 否 *1奮 *4臨

1人（12.5%）　*3可 *2管 *2旗 *1勤 己 *3孝 講 *4穀 △採 △称 *5誠 *4派 △陛 *3墓 *1欲

0人（0%）　△厳 *1策 *1付

〈注〉＊5＝小学生の成績50%台の字。以下，＊4＝40%台，＊3＝30%台，＊2＝20%台，＊1＝10%台，△＝10%以下。
ゴチックの字は他の調査実施協力学校でも同様の結果であることを示す。
なお，文字の左の人数および%は，この調査の成績（正答人数・正答率）を示す。

174字中，22字を除いて，昭和39年度中学1年生調査結果と34年度小学6年生調査結果との間には，難易差に多少の出入があっても，書字力不振の文字にかなりの共通性のあることが認められる。

中学生が，正答率50％以下で，小学生が50％以上の次の文字の上に

壱再授忠犯評宣率否己	(10字)	6年用漢字
軍賞能仏報張仮講	(8)	5年用 〃
堂便相	(3)	4年用 〃
返	(1)	3年用 〃

いかなる意味・理由があるかは速断できないが，中学3年卒業時には，習得率が低くなる壱（弐）など，小学生のほうがかえって書けているのは，学習直後の記憶が反映しているのかもしれない。いっぽう，昨日・昨年の昨など，昔の小学生なら作文などで「昨日（きのうの意で使う）……に行きました。」と，たいていの者が書けた文字が，共通的にできないのは，「きのう」の熟字訓が認められず，かな書きで書く，「昨日サクジツ」というような生硬な言い方が激減している結果ではなかろうか。忠孝というような徳目に関する文字も時代の思潮の反映であろうと思われる。しかし，一部のそうした文字群を除いては，書けない文字，書きにくい文字の間に共通性の高いことがあるということがわかる。（書けない文字についての考察は，後章でふれることにする。）

Ⅱ　教育漢字　3年卒業時の書きの成績

当時の学習指導要預では，義務教育終了までに，教育漢字881字が書けるように要求されている（「当用漢字別表の漢字を使いこなすこと」中学校「学習指導要預」第3学年・内容・書くこと　参照）。

中学1年入学時の調査結果では，40％ほど（355字）の教育漢字が全員正しく書けただけで，相当量の未習得漢字を残していたが，その後3年間の学習によって，それが到達点にまで進むことができたかどうか。3年卒業時の書きの成績は次のようである。

全員（100％）が正しく書けた字	771字（87.5％）
7人（87.5％）　〃	74字（ 8.4％）

6人（75.0%）　〃　23字（ 2.6%）
5人（62.5%）　〃　9字（ 1.0%）
4人（50.0%）　〃　4字（ 0.5%）

これを，中学1年入学時の成績と比べてみよう。

1. 全員が書けるようになった字

全員が正しく書けた字は，881字中771字ある。

3年卒業時全員が正しく書けた字　771字

愛圧安案暗以衣囲位医委胃移異意育一引印因員院飲雨雲運絵永泳英栄営益液駅円延塩遠演園王央往横応屋億音恩温下火化加可仮何果河花科夏荷家貨過歌価課我画芽賀回会快改界海械開階貝外害各角確格覚学額活株完官寒間感慣漢管関館観岸岩眼顔願希汽季紀気記起基帰寄喜期器機技義疑議客九久旧休求究急宮級救球給牛去居挙許魚漁共供京協教強橋鏡競業曲局極玉近金勤銀区句苦具空君軍郡群兄形係型計敬景経軽芸欠血決結月犬件見研建健絹権憲県険検験元言原現己戸古故個庫湖五午後語誤口工公功交光后向考行効幸厚皇校耕航高港鉱構広興合告谷国黒今根混左査差才再災西菜細最済在材財罪作昨刷殺雑三山参蚕散産算賛残士子支止仕史司四市示死至志私糸使姉始思指師紙視詞詩試資字寺次耳自事治持時辞式七失室質実写車舎社者釈弱手主守取首酒種受授需州収周秋修習週終集十住重従出術春順所書暑諸女助序除小少承昭消唱商章象証照賞焼上状乗常情条場色食植織職心申臣新身信真神深森進親人水推数世生正成声性青政省星清晴勢聖精製誠静整税夕石赤席責積切折接設雪説節舌絶千川先浅船銭線選全前善然祖素組早走宗争草相倉送創想総造像増足則側測速俗族属続卒存村孫尊他多打大太体対待退帯隊態代台第題達炭短男断団談地池知置竹築茶着中虫忠注柱昼著町長帳張鳥朝腸調直賃

追通丁弟定底庭的鉄天店点転田伝電土図都努度刀冬当投東島討党登等答統燈頭同動堂童働道銅導特得徳毒独読届内南二肉日入任認熱年念燃納能農波派馬配敗倍買売白博麦畑八発反半犯判坂板番比皮否非飛悲費美備必筆百表評標秒病品貧不夫父付布府負富婦分部風服副復福仏物粉文聞平兵米別辺返変編弁便勉歩保母墓方包放法報豊防望貿北牧本毎妹末万味脈民務無名命明迷鳴面綿毛木目門問夜野役約訳薬油輸友右由有勇遊予余用洋要容葉陽様養浴曜来落楽利里理力陸立律略流留旅両良料量領輪緑林類令礼冷例歴列連練路老労六録論和話

これは，入学時全員正答字355字から1字（康。この字が，3年卒業時には7人正答となった。）除いた354字に，その後新しく習得された417字を加えた数である。

習得の内訳

(ア)　8人正答の771字

1年時成績	⟶	3年時成績	字数	1年時成績	⟶	3年時成績	字数
8人正答の字		8人正答の字	354字	3人正答の字		8人正答	29字
7人 〃		8 〃	151	2人		〃	14
6人 〃		8 〃	106	1人		〃	7
5人 〃		8 〃	60	0		〃	1
4人 〃		8 〃	49				

(イ)　7人正答の　74字

1年時	⟶	3年時	字数	1年時	⟶	3年時	字数
8人		7人	1字（康）	3人		7人	14字
7人		〃	7	2人		〃	7
6人		〃	10	1人		〃	3
5人		〃	14	0		〃	1
4人		〃	17				

(ウ)　6人正答の　23字

7人	⟶ 6人	1字（歯）	3人	⟶ 6人	7字
6人	〃	1　（潔）	2人	〃	7
4人	〃	6	1人	〃	1（欲）

(エ)　5人正答の　9字

5人	⟶ 5人	1字（複）	2人	⟶ 5人	1字（拝）
4人	〃	1（券）	1人	〃	2（旗・孝）
3人	〃	3（専・蔵・補）	0	〃	1（厳）

(オ)　4人正答の　4字

6人	⟶ 4人	1字（弐）
2人	〃	1（衆）
1人	〃	2（穀・陛）

2. 書けない教育漢字

教育漢字881字のうち771字（87.5%）は，中学卒業時までに全員が正しく書けるようになるが，残る110字（12.6%）は，何らかの意味で正しく書くことに抵抗があり，完全正答圏内からはずれた，習得度のより低い文字といえよう。

調査の結果から，中学3年卒業時においても，教育漢字は，完全には習得しきれない，書けない文字を残しているとみなければならない。

なお，上の110字は，累積成績として残った文字数である。これを習得完了の観点からすると，問題として残る文字数は160字となり，50字ほどふえることになる。したがって，読みに準じて，習得完了の観点で問題のある字種の検討や考察を行なうべきであるが，書字力の定着性不安定な現状および教育漢字外当用漢字との比較上，累積の成績をとりあげた。累積の成績と習得完了の成績については後にもふれるが，書けない文字として加わる50字は次のとおりである。

累積結果書けない字として残った　110字

悪遺壱衛易解革拡刊幹勧歓規貴旗逆境均禁訓系潔券兼限減厳固

護孝候康黄講号穀妻採祭際策察酸氏歯似児識謝借衆就拾祝宿述純準処初招称勝仁是制績宣専戦蔵息損貸単貯低停提程敵適典展徒湯難弐破拝版飯肥鼻氷俵票武複奮陛補暴満未盟預欲率臨

110字に加える50字

営億確管株許供検故誤功后効財罪蚕視資釈授需術暑除承象焼総増則俗属退張賃党徳燃博評返編便墓務余浴留領礼

(1)　書きにくい漢字と学年配当漢字との関係

未習得の110字を学年配当漢字と対応させてみると次のようになる。

卒業時未習得の110字と学年配当

学年配当漢字	7人正答	6人正答	5人正答	4人正答	未習得漢字
1年用漢字46字	字	字	字	字	0字
2年用　105					0
3年用　187	4				4
4年用　205	12	2	1		15
5年用　194	27	7			34
6年用　144	31	14	8	4	57
計　881	74	23	9	4	110

3年用漢字4字，4年用漢字15字，5年用漢字34字，6年用漢字57字が書きにくい漢字，習得が定着しにくい漢字として残ったことになる。1年入学時にも，配当漢字の高学年用の漢字が書けなかったが，3年を経た卒業時にも，教育漢字の全数は完全に書けるようには至り得ないこと，半数以上のものが書けなかった文字など，習得率の低い字はやはり高学年用漢字であることがわかる。

未習得文字

3年用漢字　悪(7人(書けた人数))黄勝号　4字

4年用漢字　借(7人)湯察初息徒固拾戦氷祭停歯(6人)鼻(5人)旗　15字

5年用漢字　規(7人)康飯限宿典衛易氏識績破俵際似準単適肥武満護酸謝貸解講祝(6人)低票均候敵貯　34字

6年用漢字　禁(7人)児仁是盟遣壱刊減妻処招未幹逆訓制宣損版預率革

勧歓境提奮採称策潔[6人]貴系述兼難暴拡就純程展臨欲複[5人]券専蔵
補拝孝厳弐衆穀陛　57字

書きにくい字を文字に即してみると，全員は書けなかったが，7人は書けた文字が，過半数（74字）もあること，書けない文字といっても，半数以上（4人以上）のものは書けていることがわかる。110字中，7人が書けているのは74字あるから，かなりの成績ともいえようが，しかし，書けるように義務づけられながら，なぜ完全には書けないのであろうか。

3. 書けない理由

上の字が書けない理由として，次のことが考えられる。

1.　これらの文字が正しく書けなかった原因として，個別的に見れば，それぞれの理由があげられるが，主因として，正しい字形が再生できないためが多い（後述「語答傾向」参照）。点画の有無・多少・方向などにより字形の誤りやすいもの，類似字形で誤りやすいものなど，字形が正しくとりにくい文字が多いということが，まず考えられる。

2.　読みの場合（音訓）と異なり，書きでは，小学校時代も何らかの語形で一応学習し，さらに，中学校段階でも用いられている漢字であるから，学習の密度が濃いはずであるが，しかし，必ずしも，そのすべてがつくされない場合も考えられる。

(1)　書けない文字と使用度

高学年用の漢字ができないのも，一つは字形の複雑さ，むずかしさにあるが，他には，使用度との関連がある。中学3年間の教育漢字の使用度を見た場合はどうであろうか。

1）書けない字と教科書使用度

書けない文字とその文字の使用国語教科書（1～3年間）出現回数

0回（書けた人数）4人 穀コク　衆シュ　6兼ケン　歯シ　難かたい　鼻ビ　7遺イ　解ゲ　幹みき　勧カン
逆さから　児ニ　借シャク　戦たたかう　貸タイ　湯トウ　盟メイ　預ヨ

3回以内 4弐ニ　陛ヘイ　5旗キ　券ケン　孝コウ　蔵ゾウ　拝おがむ　就ジュ　祝シュク　暴バク
7壱イチ　衛エイ　宿やどる　初はつ　招ショウ　肥こえる　俵ヒョウ　預あずける

5回以内 5蔵くら　6拡カク　就シュウ　祝いおう　票ヒョウ　欲ほっする　臨のぞむ　7妻つま　酸サン　似ジ
招まねく　是ゼ　損ソン　俵たわら　奮ふるう　率ソツ

9回以内 5厳ゲン・ゴン　拝ハイ　6均キン　兼かねる　貯チョ　敵テキ　7解とく　勧すすめる　易ニキ　境さかい
減ゲン　採とる　拾シュウ　処ショ　仁ジン　息ソク　武ム　奮フン　底テイ

10回以上 5補ホ　尊セン　系ケイ　潔ケツ　6候コウ　欲ヨク　低テイ　7遣イ　革カク　刊カン
歓カン　逆ギャク　禁キン　訓クン　限ゲン　減へる　固かためる　護ゴ　妻サイ　策サク　児ジ
謝シャ　宿やど・シュク　称ショウ　績セキ　宣セン　貸かす　停テイ　飯めし　武ブ　率リツ

20回以上 6貴キ　程テイ　鼻はな　7幹カン　境キョウ　採サイ　拾ひろう　制セイ　破ハ　氷ヒョウ
満みちる

30回以上 5旗はた　6純ジュン　低ひくい　暴ボウ　7講コウ　息いき　提テイ　満マン　未ミ　底そこ

40回以上 4衆シュウ　5複フク　6展テン　難ナン　7限かぎる　号ゴウ　察サツ　適テキ　氷こおり

50回以上 7際サイ　戦セン

60回以上 7似にる　初はじめて　版ハン

70回以上 6述ジュツ　臨リン　7氏シ　識シキ　初ショはじめ

80回以上 7準ジュン

100回以上 6述のべる　7祭まつる　典テン　徒ト

200回以上 7解カイ

280回 7単タン

〈注〉 ゴチック体の字は，その音又は訓で，問題を提出したことを示す。

入学時調査結果，よみかきとも習得安定とみなし，教科書調査対象から外した教育漢字（教科書調査の方では読み8人，書き7人正答までをとったため）で，その後の書字の成績が，8人全員は書けなかったものに 7悪わるい　黄き　康コウ　規キ　勝かつ　歯はがある。

上は，卒業時までに全員は正しく書けなかった文字と，その文字の，使用国語教科書における出現状況をみたものである。調査の問題はゴチック体の音ま

たは訓のほうで提出したのであるが，その文字を見た機会ということで，他の音訓で出現した場合もあげておいた。

読みに比べて，成績不振のものでも，文字自体としては，出現ゼロというのは少なかったが，これによると，ごく大ざっぱに言って，正答者の少ない文字は，やはり出現回数も少ない傾向がみられ，出現回数の多い字には7人正答のものが多い。しかし，穀弐陛券のように出現の多寡が成績に影響をするものもあるが，200回以上も出現されながら，解・単のように最後まで全員そろっては正答でき得なかったものもある。また，直接のその読み方でなく，音訓は異なっても，文字としては出現されているなど，必ずしも出現の多寡だけが，書字力の良否を決定するものでないこともあわせて認められた。

なお，1年入学時調査の結果，読み書きともに全員完全正答，または，読みは8人，書きは7人までは，成績良とみなして，教科書調査の対象文字から除いた（教科書調査のための，時間的，人員的制限から，中学校で学習する教育漢字外当用漢字調査を中心とし，教育漢字は，この調査範囲にとどめた）文字（悪黄など）でも，卒業時までの過程で，完全正答から後もどりをする（習得のゆれ，後章参照）現象もある。

2）　字形の再生力

以上のことから，教科書での出現度数と成績の関係を認める一方，正しく書くということの中に，その文字の読み，意味はわかりながら，なおかつ，字形として正しく再生し得ない因子の重要性が認められる。このことは後述の誤答現象の分析・考察とも関連するが，初学でない「教育漢字」が書けないということの一つの重要な因子として字形の正しい把握・再生力があげられると思う。

3）　社会の使用・関心度

弐壱陛孝旗難俵など成績不振の文字を見ると，教科書の出現度数もあまり多くないが，同時に，これらの文字・語・ことがらなどが，一般の生活でもあまり使用されていないことに気づく。そのため，中学生の関心も薄く，親しみにくい文字となったと思われる。この場合，教科書使用度がそのまま，社会での使用度を表わしており，それに生徒の関心度が結びついての書けない文字群で

あると考えることができよう。

4. 学習指導との関係

最後に，漢字の学習指導との関係をみておこう。8人の3年間の学習指導の状況は，後章に詳しいので参照されたいが，この研究所の調査前に調査校が行なった調査の結果，書く力の不振なことから，たまたま，この調査の初年度には，自主的に独自の漢字調査を行ない，国語の基礎として学校全体に漢字指導を強調する面もあったが，調査学級に対して特別なとりたて指導は行なわず，以後も，国語力全体の向上を図るという観点から，語句指導，ノートの使用，辞書の利用，読解・作文などを通しての漢字力の充実を目ざしてきたことがわかる。また，生徒自身でも，多少の学習上のくふうがなされていたこともわかる。上来みてきた調査の結果は，あるいは一般の調査結果に比べて良好と思われるが，学校におけるこのあるべき学習指導との関係も認めなければならない。

Ⅲ　教育漢字外当用漢字　1年入学時の書きの成績

1. 書きの成績と字種

1年入学時の教育漢字外当用漢字の書字調査の結果は，平均正答字数としては171.1字であるが，これを文字の側からみると，次のようになる。

1年入学時教育漢字外当用漢字の書きの成績

8人 (100%) 書けた字	7人 (87.5%) 〃	6人 (75.0%) 〃	5人 (62.5%) 〃	4人 (50.0%) 〃	3人 (37.5%) 〃	2人 (25.0%) 〃	1人 (12.5%) 〃	0人 〃
17字	22字	29字	34字	53字	64字	91字	149字	510字
(1.8%)	(2.3)	(3.0)	(3.5)	(5.5)	(6.6)	(9.4)	(15.4)	(52.6)

中学校に入学してから，新出漢字として初めて学習する漢字であり，書ける漢字としては，義務づけられていない漢字であるから，同じ状況下での読みの成績と比べると，かなりの開きがある。また，書字用漢字としての立場で学習されてもいないから，共通に書ける文字としては，非常に少なくなる。しかし1年の初めごろに書ける漢字が，この程度はあるということがわかる。

具体的な文字について見よう。

(ア)　8人（100%）が書けた字　17字

羽ハネ　机つくえ　吸すう　枝えだ　若わかい　松ショウまつ　沼ぬま　城ジョウ　井い　昔むかし　担タン
仲なか　稲いね　背せ　匹ヒキ　浦うら　枚マイ

（ルビは調査してできた音・訓を示す）

(イ)　7人（87.5%）が書けた字　22字

沿エン　鉛エン　肩かた　源ゲン　砂サ　針はり　瀬せ　束ソク　宅タク　頂チョウ　渡わたる
豆まめ　乳ニュウ　梅バイうめ　浮うく　片かた　宝ホウ　亡ボウ　又また　雷かみなり　郎ロウ　湾ワン

(ウ)　6人（75.0%）が書けた字　29字

沖おき　乙オツ　介カイ　閣カク　弓ゆみ　丘キュウ　巨キョ　刑ケイ　甲コウ　座ザ　飼かう
誌し　芝しば　寸スン　洗あらう　袋ふくろ　段ダン　兆チョウ　箱はこ　班ハン　尾お　姫ひめ
浜はま　棒ボウ　密ミツ　矢や　羊ひつじ　幼ヨウ　卵ラン

(エ)　5人（62.5%）が書けた字　34字

域イキ　鋭エイ　皆みな　岳ガク　汗あせ　儀ギ　峡キョウ　胸キョウ　偶グウ　恵エ　江コウ
紅コウ　佐サ　咲さく　湿シツ　尺シャク　珠シュ　趣シュ　寿ジュ　床とこ　晶ショウ　丈ジョウ
伸のびる　滝たき　卓タク　暖あたたかい　沈チンしずむ　斗ト　桃もも　腹はら　忘わすれる　盆ボン　埋うめる
涼すずしい

(オ)　4人（50.0%）が書けた字　53字

亜ア　映エイ　影エイかげ　押おす　佳カ　箇カ　割わる　甘あまい　丸まるい　菌キン　掘ほる
径ケイ　穴あな　玄ゲン　呼よぶ　好すく　郊コウ　項コウ　裁サイ　冊サツ　姿すがた　狩かり
笑わらう　紹ショウ　浄ジョウ　嬢ジョウ　刃は　酔よう　染そめる　鮮セン　桑くわ　掃ソウ　胎タイ
沢さわ　津つ　痛いたむ　帝テイ　忍ニン　濃こい　肺ハイ　抜ばつぬく　幅はば　並ならぶ　柄がら
紡ボウ　凡ボン　眠ミンねむる　雄ユウ　頼ライ　鈴すず　恋こい　浪ロウ　廊ロウ

(カ)　3人（37.5%）が書けた字　64字

依イ　維イ　宇ウ　越こえる　炎ほのお　煙エン　奥オク　菓カ　灰はい　街ガイ　企キ
輝かがやく　菊キク　叫さけぶ　駆かける　警ケイ　孔コウ　札サツ　侍さむらい　斜シャ　樹ジュ　秀シュウ
旬ジュン　署ショ　升ショウ　昇ショウ　鐘かね　振シン　診シン　審シン　垂スイ　盛さかり　荘ソウ
窓まど　臓ゾウ　託タク　稚チ　宙チュウ　抽チュウ　潮しお　庁チョウ　笛ふえ　殿どの　途ト
到トウ　唐トウ　峠とうげ　迫ハク　晩バン　譜フ　舞まう　伏フク　丙ヘイ　閉とじる　奉ホウ
訪ホウ　坊ボウ　帽ボウ　麻マ　娘むすめ　盲モウ　郵ユウ　腰こし　絡ラク

(キ)　2人（25.0%）が書けた字　91字

芋いも　援エン　桜さくら　架カ　嫁よめ　悔カイ　巻まく　貫カン　患カン　鑑カン　祈いのる
幾キ　脚キャク　恐おそろしい　茎くき　啓ケイ　鯨くじら　軒ケン　懸ケン　御ゴ　坑コウ　荒あらい
降ふる　香コウ　剛ゴウ　込こむ　祉シ　磁ジ　軸ジク　射シャ　儒ジュ　充ジュウ　銃ジュウ
縮ちぢむ　巡ジュン　徐ジョ　渉ショウ　症ショウ　陣ジン　吹ふく　穂ほ　占セン　泉セン　扇おおぎ
巣す　装ソウ　僧ソウ　層ソウ　霜しも　即ソク　耐タイ　丹タン　値ね　畜チク　駐チュウ
坪つぼ　逃にげる　胴ドウ　曇くもる　尼あま　俳ハイ　廃ハイ　培バイ　伯ハク　般ハン　藩ハン
彼かれ　批ヒ　秘ヒ　被ヒ　漂ヒョウ　苗なえ　払はらう　捕ホ　邦ホウ　胞ホウ　峰みね
冒ボウ　墨すみ　夢ゆめ　免メン　茂しげる　諭ユ　優ユウ　揚ヨウ　溶ヨウ　乱ラン　柳やなぎ
粒つぶ　厘リン　暦レキ

(ク)　1人（12.5%）が書けた字　149字

握アク　尉イ　緯イ　逸イツ　陰イン　閲エツ　縁エン　憶オク　餓ガ　戒カイ　滑カツ
刈かる　干ほす　肝カン　棺カン　監カン　環カン　簡カン　危キ　奇キ　岐キ　揮キ
騎キ　吉キチ　泣なく　拒キョ　狂キョウ　況キョウ　郷キョウ　驚おどろく　響キョウ　斤キン　琴こと
勲クン　掲ケイ　憩ケイ　圏ケン　賢ケン　剣ケン　枯かれる　互たがい　呉ゴ　悟ゴ　碁ゴ
抗コウ　更コウ　恒コウ　綱つな　稿コウ　鋼コウ　購コウ　酷コク　骨ほね　困コン　婚コン
剤ザイ　施シ　滋ジ　殊シュ　囚シュウ　舟ふね　愁シュウ　縦たて　召ショウ　肖ショウ　将ショウ
障ショウ　冗ジョウ　錠ジョウ　醸ジョウ　浸シン　慎シン　震シン　薪シン　征セイ　姓セイ　誓ちかい
跡セキ　銑セン　繊セン　租ソ　礎ソ　双ソウ　奏ソウ　燥ソウ　贈おくる　逮タイ　択タク
脱ダツ　淡タン　嘆タン　誕タン　恥はじる　蓄チク　窒チツ　脹チョウ　澄すむ　聴チョウ　陳チン
抵テイ　訂テイ　堤テイ　艇テイ　怒いかる　凍トウ　透トウ　突トツ　豚ぶた　鈍ドン　軟ナン

妊ニン　粘ネン　悩なやむ　拍ハク　幕マク　爆バク　伴バン　畔ハン　盤バン　描えがく　符フ
沸フツ　偏ヘン　募ボ　暮くらす　飽ホウ　妨ボウ　剖ボウ　撲ボク　没ボツ　妙ミョウ　誉ヨ
翌ヨク　翼ヨク　裸はだか　欄ラン　覧ラン　痢リ　履リ　離リ　硫リュウ　療リョウ　糧リョウ
累ルイ　齢レイ　劣おとる　裂レツ　露ロつゆ　腕うで

(ケ)　0人（誰も書けなかった）の字　510字

哀あわれ　扱あつかう　威イ　偉イ　為イ　違ちがう　慰イ　姻イン　隠イン　韻イン　詠エイ
疫エキ　悦エツ　謁エツ　宴エン　汚けがす　欧オウ　殴オウ　翁オウ　虞おそれ　卸おろす　穏オン
華カ　暇カ　禍カ　寡カ　蚊か　雅ガ　怪カイ　塊カイ　懐カイ　壊カイ　劾ガイ
慨ガイ　該ガイ　概ガイ　核カク　郭カク　隔へだてる　較カク　獲カク　嚇カク　穫カク　掛かける
括カツ　渇カツ　轄カツ　且かつ　冠カン　看カン　勘カン　陥カン　乾カン　換かえる　喚カン
閑カン　敢カン　堪カン　款カン　寛カン　憾カン　緩カン　還カン　艦カン　含ふくむ　忌キ
軌キ　鬼おに　既キ　飢うえる　棋キ　棄キ　宜ギ　欺ギ　偽ギ　戯ギ　擬ギ
犠ギ　詰つめる　喫キツ　却キャク　虐ギャク　及キュウ　朽キュウ　糾キュウ　窮キュウ　虚キョ　距キョ
拠コ　凶キョウ　享キョウ　恭キョウ　狭せまい　脅キョウ　仰あおぐ　凝ギョウ　暁あかつき　筋キン　緊キン
謹キン　吟ギン　愚グ　遇グウ　屈クツ　繰くる　薫クン　契ケイ　傾ケイ　携ケイ　継ケイ
慶ケイ　鶏にわとり　迎ゲイ　劇ゲキ　激ゲキ　撃ゲキ　傑ケツ　堅ケン　献コン　遣ケン　謙ケン
倹ケン　顕ケン　繭まゆ　幻ゲン　弦ゲン　孤コ　弧コ　雇やとう　誇ほこる　鼓コ　願コ
娯ゴ　巧コウ　攻コウ　拘コウ　肯コウ　侯コウ　貢コウ　控ひかえる　慌コウ　絞コウ　硬コウ
酵コウ　衡コウ　拷ゴウ　豪ゴウ　克コク　刻コク　獄ゴク　恨うらむ　紺コン　魂たましい　墾コン
懇コン　唆サ　詐サ　鎖サ　砕くだく　宰サイ　彩サイ　斎サイ　催サイ　栽サイ　債サイ
載サイ　歳サイ　削けずる　索サク　酢す　錯サク　搾サク　擦サツ　撮サツ　惨サン　暫ザン
旨シ　伺うかがう　刺さす　脂シ　紫シ　嗣シ　雌めす　賜シ　諮シ　慈ジ　璽ジ
疾シツ　執シツ　漆シツ　赦シャ　捨すてる　煮にる　邪ジャ　勺シャク　爵シャク　寂さびしい　朱シュ
臭シュウ　酬シュウ　醜みにくい　襲シュウ　柔ジュウ　渋しぶ　獣ジュウ　叔シュク　淑シュク　粛シュク　熟ジュク
俊シュン　瞬シュン　盾ジュン　殉ジュン　准ジュン　循ジュン　潤ジュン　遵ジュン　庶ショ　緒ショ　如ニョ
叙ジョ　匠ショウ　抄ショウ　訟ショウ　祥ショウ　粧ショウ　掌ショウ　詔ショウ　硝ショウ　焦ショウ　詳くわしい
彰ショウ　奨ショウ　衝ショウ　傷きず　礁ショウ　償ショウ　剰ジョウ　蒸ジョウ　畳ジョウ　譲ジョウ　殖ショク
触ショク　飾ショク　嘱ショク　辱ジョク　辛からい　侵シン　娠シン　紳シン　寝シン　迅ジン　尋たずねる

尽ツク　炊スイ　帥スイ　衰スイ　睡スイ　遂スイ　粋スイ　錘スイ　随ズイ　髄ズイ　枢スウ
崇スウ　畝セ　牲セイ　婿むこ　請セイ　斥セキ　析セキ　隻セキ　惜おしい　籍セキ　拙セツ
窃セツ　摂セツ　旋セン　践セン　潜セン　遷セン　薦セン　漸ゼン　禅ゼン　繕ゼン　阻ソ
粗ソ　措ソ　疎ソ　訴うったえる　塑ソ　壮ソウ　喪も　捜ソウ　葬ソウ　操ソウ　遭ソウ
騒ソウ　憎にくむ　促ソク　賊ゾク　妥ダ　惰ダ　堕ダ　怠タイ　泰タイ　替タイ　滞タイ
拓タク　諾ダク　濁にごる　但ただし　奪うばう　胆タン　探タン　端タン　鍛タン　弾ダン　壇ダン
致チ　痴チ　遅チ　逐チク　秩チツ　嫡チャク　衷チュウ　鋳いる　弔チョウ　彫チョウ　超チョウ
跳チョウ　徴チョウ　懲チョウ　勅チョク　珍めずらしい　朕チン　鎮チン　墜ツイ　廷テイ　邸テイ　貞テイ
逓テイ　締しまる　摘テキ　滴テキ　迭テツ　呈テイ　哲テツ　徹テツ　撤テツ　添そえる　吐ト
塗ぬる　奴ド　倒トウ　陶トウ　悼トウ　痘トウ　筒トウ　塔トウ　盗トウ　踏トウ　糖トウ
騰トウ　闘トウ　謄トウ　匿トク　督トク　篤トク　尿ニョウ　寧ネイ　脳ノウ　婆バ　杯ハイ
排ハイ　輩ハイ　陪バイ　媒バイ　賠バイ　泊ハク　舶ハク　薄うすい　縛バク　髪かみ　伐バツ
罰バツ　閥バツ　帆ほ　販ハン　煩ハン　頒ハン　搬ハン　範ハン　繁ハン　蛮バン　妃ヒ
卑いやしい　疲つかれる　碑ヒ　罷ヒ　避さける　微ビ　泌ヒツ　賓ヒン　敏ビン　扶フ　附フ
赴フ　普フ　腐フ　怖フ　敷しく　膚フ　賦フ　侮フ　封フウ　覆フク　紛フン
憤フン　墳フン　噴フン　併ヘイ　幣ヘイ　弊ヘイ　癖くせ　壁かべ　遍ヘン　舗ホ　慕ボ
簿ボ　芳ホウ　抱だく　砲ホウ　倣ホウ　崩ホウ　縫ホウ　乏ボウ　忙ボウ　房ボウ　肪ボウ
某ボウ　傍ボウ　謀ボウ　膨ボウ　奔ホン　翻ホン　摩マ　魔マ　膜マク　漫マン　慢マン
魅ミ　矛ム　霧きり　銘メイ　滅メツ　模モ　耗モウ　猛モウ　網モウ　黙モク　紋モン
匁もんめ　躍ヤク　愉ユ　唯ユイ　幽ユウ　裕ユウ　猶ユウ　誘ユウ　融ユウ　憂ユウ　与あたえる
庸ヨウ　揺ヨウ　窯ヨウ　踊おどり　謡ヨウ　擁ヨウ　抑ヨク　酪ラク　濫ラン　吏リ　裏うら
虜リョ　慮リョ　了リョウ　隆リュウ　猟リョウ　陵リョウ　僚リョウ　寮リョウ　倫リン　隣となり　涙なみだ
塁ルイ　励はげむ　零レイ　霊レイ　隷レイ　麗レイ　烈レツ　廉レン　錬レン　炉ロ　朗ロウ
楼ロウ　漏ロウ　賄ワイ　惑ワク

2. 書けた漢字と文字学習

上のように，1年入学時に，書くことまでは要求されていない教育漢字外当用漢字が，ある程度は書けており，4人以上が正答できた文字は155字もある。

もっとも，入学時の調査とはいっても，学校の都合，生徒の調査負担等の関係上，調査を4月中に一挙に完了することができず，また，調査実施の手順として，教育漢字の読み——→書き——→教育漢字外当用漢字の読み——→書き——→表外字の読みの順に調査を実施したため，教育漢字外当用漢字の書きの調査は，6月下旬（27日）からとなった。したがって，この書けた漢字の中には，読みと同様，中学入学後，国語で学習した新出当用漢字が相当数含まれていることになる。使用国語教科書と照合してみると，次のようになる。

読みでは，学習文字は全員またはそれに近い数の者が読めているのに対し，書きでは，学習文字は未学習文字より書ける率は高いが，中には1人も書けない，書けても，ごく少数というものもあって，書くことまでは要求されていないとはいえ読みに比べて書くことの習得しにくいことを示している。

(1)　入学時調査で書けた字と学習文字

＜調査までに国語で学習＞	＜国語では未学習＞
8人が書けた字	
羽机吸枝若背匹枚　8字	*松沼城井昔*担仲稲浦　9字
7人　肩束乳浮片　5字	沿鉛源砂針瀬宅頂渡豆梅宝亡又
	*雷郎湾　17字
6人　介丘座飼誌袋段箱棒矢幼	沖乙閣弓巨刑甲芝寸洗兆班尾姫
11字	浜密羊卵　18字
5人　汗儀胸恵咲丈伸暖桃腹忘	域鋭皆岳峡偶江紅佐湿尺殊趣*寿
涼　12字	*床晶滝卓沈斗盆埋　22字
4人　押箇割甘丸好項笑紹嬢酔	亜映影佳菌堀径穴玄呼郊裁冊姿
痛抜頼廊　15字	狩浄刃染鮮桑掃胎沢津帝忍濃肺
計51字	幅並柄紡凡眠雄鈴恋浪　38字

計104字

4人以上が書けた155字中，国語教科書で学習した文字で書けたものは51字，他は国語では未学習の文字で書けていることになる。（このうち*印の字は，7月にかけて学習した文字なので，あるいは，学習の影響を受けているものと考えられる。）

また，国語教科書で，調査時までに学習したが，4人以下のものしか書けなかった字もある。

3人　迫(せま)る帽(ボウ)舞(ブ)　（国語では舞う）　叫(さけ)び臓(ゾウ)伏(フク)（国語では伏せる）

2人　懸(ケン)鑑(カン)吹(ふく)夢(ゆめ)装(ソウ)御(ゴ)

1人　掲(ケイ)肝(カン)腕(うで)

0人　(索(サク))舗(ホ)

4人以上が書けた155字中，国語教科書での学習文字は51字であるから，残る104字は，他からの習得文字とみなすことができる。これらの文字は，居住地名であり，校名でもある「稲付」の「稲」を初めとし，他教科に用いられるもの，学校生活に関係の深いもの（鉛湾浜沖甲兆岳亜菌径裁肺胎仲班皆掃冊など），社会生活・日常生活に関係のあるもの（城井昔砂雷芝洗卵映眠など），一般読書その他のマスメディヤからと思われるもの（又宝巨刑姫密鋭偶紅趣卓狩浄姿恋など）の影響が考えられ，中学1年生のころには，読めるばかりでなく，すでに，この程度の教育漢字外当用漢字は書くことができるものがいることが認められる。4人以下の書けた字を見ると，さらに文字習得の範囲の拡大がわかる。ただ，学習した漢字でないために，また，正しく字形をとらなければならないために，読みに比べて，正答が集中しないのである。

3. 書けた漢字と読めた漢字

入学時の教育漢字外当用漢字の読み書きの成績を整理してみると，次ページの表のようになる。

→読み

入学時調査における書字対読字成績表

↓書き

	8人	7人	6人	5人	4人	小計	3人	2人	1人	0人	小計	総計
8人	15字	16	23	23	27	104	20	23	26	20	89	193
7人	2 沼昔	5 沿肩渡梅宝	4 刑芝寸浜	5 鋭皆偶床斗	11	27	16	23	21	33	93	120
6人		1 雷	1 沖	3 岳弄沈	9	14	13	16	25	44	98	112
5人				3 湿堙涼	3 亜刃柄	6	5 炎振審到鑑	12	13	44	74	80
4人			1 兆			1	2 企升	11	20	56	89	90
3人					2 佳浄	2	8	4 芋穂僧坪	20	53	85	87
2人					1 胎	1			14	61	75	76
1人								2 祈諭	8	73	83	83
0人									2 斤嘆	126	128	128
	17	22	29	34	53	155	64	91	149	510	814	969

入学時　8人（全員）読めた字　193字
　　8人（〃）書けた字　17字
　　8人（〃）読み書きできた字　15字

羽机吸枝若松城井担仲稲背匹浦校

8人全員が正しく読めた（文字として）教育漢字外当用漢字は193字あるのに対し，8人が正しく書けた字は17字，7人正読漢字120字／正書漢字22字というように両者の関係がわかる。もっとも中には，8人が正しく書けた17字中，

読みでは，沼と昔に正答数の減がみられるなど，書字の優位な場合も散見するが，やはり圧倒的に読字と書字の差が開いている。これは当然のこととはいえ，この時期の教育漢字外当用漢字の書字力の実態である。

Ⅳ　教育漢字外当用漢字　3年卒業時の書きの成績

1. 3年間で書けるようになった字

読みを中心とする教育漢字外当用漢字の文字学習を終えた3年卒業時に，書字の力はどの程度までつくものであろうか。文字を中心としてみると，次のようになる。

3年卒業時教育漢字外当用漢字の書きの成績

8人（100%）書けた字	7人（87.5%）〃	6人（75.0%）〃	5人（62.5%）〃	4人（50.0%）〃
205字（21.2%）	146字（15.1%）	157字（16.2%）	130字（13.4%）	112字（11.6%　）
3人（37.5%）書けた字	2人（25.0%）〃	1人（12.5%）〃	0　人	
79字（8.2%）	64字（6.6%）	55字（5.7%）	21字（2.2%）	

8人全員が正しく書けた文字が205字，半数以上のものが書けた字は750字（77.4%）という数になり，書くことを特に義務づけられない文字としては，相当に習得できていることが認められる。どのような文字が，書けるのであろうか。

2. 書きの成績と字種

(1)　全員が書けた字

8人（100%）が正しく書けた字　205字

亜ア　*陰イン　羽はね　*映エイ　影エイかげ　*鋭エイ　*沿エン　炎ほのお*鉛エン　*押おす　*沖おき
*乙オツ　菓カ　*介カイ　*灰はい　*皆みな　*悔カイ　*較カク　*汗あせ　巻まく　*企キ　机つくえ
鬼おに　*幾キ　輝かがやく*儀ギ　*犠ギ　*脚キャク　弓ゆみ　丘キュウ*泣なく　恐おそろしい　胸キョウ
暁あかつき　菌キン　*筋キン　*駆ク　屈クツ　径ケイ　*茎くき　恵めぐむ*傾ケイ　警ケイ　穴あな
肩かた　圏ケン　*玄ゲン　*源ゲン　*呼よぶ　*互たがい　悟ゴ　*孔コウ　*甲コウ　*江コウ　*好すく
抗コウ　郊コウ　*紅コウ　項コウ　*綱つな　刻コク　*骨ほね　砂サ　座ザ　*酢す　錯サク
*咲さく　*枝えだ　*姿すがた　飼かう　*誌シ　*軸ジク　*湿シツ　*芝しば　*斜シャ　*尺シャク*若わかい
*狩かり　*趣シュ　樹ジュ　秀シュウ*巡ジュン　召ショウ*床とこ　松まつ　沼ぬま　笑ショウ*将ショウ
*紹ショウ　硝ショウ*障ショウ*鐘かね　*城ジョウ*浄ジョウ*振シン　針はり　*診シン　*薪シン　*刃は
*寸スン　*井い　*征セイ　牲セイ　*盛さかり*昔むかし*洗あらう　染そめる*扇おおぎ*鮮セン　*訴うったえる
*窓まど　*装ソウ　層ソウ　*操ソウ　束ソク　*怠タイ　*袋ふくろ　滝たき　*探タン　*段ダン　暖あたたかい
*痴チ　*畜チク　*仲なか　*兆チョウ　頂チョウ　彫チョウ*潮しお　*澄すむ　*庁チョウ*痛いたむ　帝テイ
滴テキ　*斗ト　途ト　渡わたる　豆まめ　*唐トウ　*桃もも　*透トウ　*稲いね　糖トウ　*胴ドウ
*峠とうげ*軟ナン　*乳ニュウ*忍ニン　粘ネン　*濃ノウこい　*背せ　培バイ　*梅バイうめ　*拍ハク　*舶ハク
*箱はこ　班ハン　*晩バン　秘ヒ　*尾お　匹ヒキ　姫ひめ　*漂ヒョウ　浜はま　浮うく　幅はば
*沸フツ　*丙ヘイ　*閉とじる*片かた　*浦うら　*宝ホウ　*訪ホウ　*亡ボウ　*忘わすれる*肪ボウ　棒ボウ
紡ボウ　*凡ボン　*枚マイ　埋うめる　又また　*密ミツ　*妙ミョウ　眠ミンねむる　霧きり　*娘むすめ　模モ
*盲モウ　*唯ユイ　*雄ユウ　優ユウ　*羊ひつじ*溶ヨウ　踊おどる*雷かみなり頼ライ　乱ラン　*離リ
隆リュウ*硫リュウ*涼すずむ*鈴すず　*劣おとる*郎ロウ　湾ワン

（このうち*印の字は卒業テストで実際に書けたもの。130字。）

(2)　7人以下が書けた字

(ア)　7人（87.5%）が書けた字　146字

偉イ　域イキ　宇ウ　悦エツ　援エン　欧オウ　奥オク　桜さくら　憶オク　穏オン　架カ
箇カ　雅ガ　戒カイ　怪カイ　核カク　閣カク　岳ガク　滑カツ　甘あまい　乾カン　環カン
簡カン　丸まるい　含ふくむ　忌キ　奇キ　騎キ　菊キク　吉キチ　及キュウ　吸すう　巨キョ
凶キョウ　叫さけぶ　狂キョウ　享キョウ　郷キョウ　響キョウ　遇グウ　刑ケイ　激ゲキ　剣ケン　弦ゲン
雇やとう　呉ゴ　巧コウ　荒あらい　硬コウ　込こむ　恨うらむ　婚コン　佐サ　惨サン　旨シ

祉シ　脂シ　侍さむらい　磁ジ　射シャ　珠シュ　寿ジュ　舟ふね　渋しぶ　詳くわしい　飾かざる
伸のびる　浸シン　酔よう　瀬セ　誓ちかい　泉セン　奏ソウ　桑くわ　巣す　僧ソウ　霜しも
臓ゾウ　贈おくる　即ソク　耐タイ　胎タイ　替かえる　択タク　卓タク　脱ダツ　担タン　淡タン
端タン　誕タン　値ね　遅チ　沈しずむ　珍めずらしい　津つ　哲テツ　殿どの　吐ト　塗ぬる
奴ド　怒いかる　逃にげる　盗トウ　鈍ドン　曇くもる　尿ニョウ　肺ハイ　迫ハク　抜ぬく　伴バン
販ハン　繁ハン　盤バン　彼かれ　批ヒ　疲つかれる　普フ　怖フ　譜フ　舞ブ　封フウ
伏フク　腹はら　柄がら　暮くらす　奉ホウ　胞ホウ　墨すみ　没ボツ　盆ボン　夢ゆめ　銘メイ
滅メツ　茂しげる　矢や　腰こし　翌ヨク　絡ラク　卵たまご　痢り　柳やなぎ　厘リン　暦レキ
恋こい　炉ロ　露ろつゆ

(イ)　6人（75.0%）が書けた字　157字

哀あわれ　尉イ　維イ　緯イ　逸イツ　詠エイ　疫エキ　越こえる　煙エンけむり　縁エン　汚けがす
嫁よめ　街ガイ　獲カク　割わる　干ほす　肝カン　患カン　棺カン　監カン　艦カン　鑑カン
祈いのる　揮キ　欺ギ　却キャク　距キョ　拠コ　況キョウ　峡キョウ　凝ギョウ　継ケイ　鯨くじら
劇ゲキ　献コン　遣ケン　枯かれる　更コウ　降ふる　貢コウ　鋼コウ　剛ゴウ　克コク　困コン
紺コン　魂たましい　詐サ　鎖サ　砕くだく　栽サイ　債サイ　剤ザイ　冊サツ　施シ　紫シ
捨すてる　煮にる　充ジュウ　縮ちぢむ　瞬シュン　旬ジュン　盾ジュン　昇ショウ　渉ショウ　症ショウ　祥ショウ
晶ショウ　粧ショウ　償ショウ　丈ジョウ　冗ジョウ　触ショク　辛からい　寝シン　吹ふく　粋スイ　枢スウ
請セイ　籍セキ　摂セツ　践セン　銑セン　繊セン　租ソ　礎ソ　双ソウ　壮ソウ　掃ソウ
惰ダ　宅タク　沢さわ　嘆タン　弾ダン　宙チュウ　抽チュウ　駐チュウ　鋳いる　陳チン　抵テイ
訂テイ　締しまる　笛ふえ　倒トウ　凍トウ　筒トウ　突トツ　豚ぶた　尼あま　脳ノウ　俳ハイ
輩ハイ　賠バイ　幕マク　爆バク　髪かみ　伐バツ　罰バツ　般ハン　搬ハン　範ハン　藩ハン
蛮バン　苗なえ　描ビョウえがく　払はらう　紛フン　並ならべる　併ヘイ　募ボ　抱だく　峰みね　砲ホウ
倣ホウ　忙ボウいそがしい　坊ボウ　剖ボウ　麻マ　摩マ　膜マク　矛ム　免メン　融ユウ　与あたえる
誉ヨ　幼ヨウ　揚ヨウ　酪ラク　粒つぶ　了リョウ　糧リョウ　涙なみだ　齢レイ　麗レイ　烈レツ
裂レツ　浪ロウ　廊ロウ

(ウ)　5人（62.5%）が書けた字　130字

握アク　扱あつかう　威イ　為イ　違イ　芋いも　姻イン　閲エツ　殴オウ　括クワツ　勘カン
敢カン　緩カン　既キ　棋ギ　拒キョ　驚おどろく　琴こと　吟ギン　偶グウ　繰くる　掲ケイ

撃ゲキ　軒ケン　堅ケン　倹ケン　孤コ　弧コ　誇はこる　御ゴ　碁ゴ　恒コウ　肯コウ
香コウ　慌コウ　絞コウ　豪ゴウ　斎サイ　削けずる　札サツ　擦サツ　刺さす　慈ジ　執シツ
儒ジュ　愁シュウ　醜みにくい　柔ジュウ　銃ジュウ　縦たて　熟ジュク　如ニョ　徐ジョ　叙ジョ　掌ショウ
傷ショウ　剰ジョウ　嬢ジョウ　侵シン　娠シン　慎シン　審シン　震シン　炊スイ　垂スイ　髄ズイ
崇スウ　姓セイ　析セキ　惜セキ　占セン　旋セン　潜セン　措ソ　塑ソ　荘ソウ　騒ソウ
促ソク　妥ダ　拓タク　託タク　濁にごる　丹タン　胆タン　恥はじる　稚チ　秩チツ　超チョウ
聴チョウ　勅チョク　到トウ　塔トウ　踏トウ　闘トウ　妊ニン　悩なやむ　婆バ　廃ハイ　伯ハク
煩ハン　妃ヒ　微ビ　泌ヒツ　敏ビン　赴フ　符フ　噴フン　幣ヘイ　壁かべ　偏ヘン
捕ホ　慕ボ　飽ホウ　乏ボウ　帽ボウ　膨ボウ　翻ホン　猛モウ　網あみ　黙モク　躍ヤク
論ユ　郵ユウ　猶ユウ　翼ヨク　覧ラン　励はげむ　零レイ　霊レイ　惑ワク

(エ)　4人（50.0%）が書けた字　112字

依イ　隠かくれるイン　宴エン　佳カ　華カ　蚊カ　塊カイ　慨ガイ　穫カク　且かつ　冠カン
貫カン　換かえる　堪カン　寛カン　憾カン　還カン　危キ　岐キ　偽ギ　戯ギ　擬ギ
詰つめる　朽キュウ　狭せまい　掘ほる　契ケイ　慶ケイ　鶏にわとり　賢ケン　顕ケン　懸ケン　鼓コ
顧コ　控ひかえる　稿コウ　衡コウ　拷ゴウ　彩サイ　裁サイ　催サイ　載サイ　伺うかがうシ　漆シツ
邪ジャ　殊シュ　酬シュウ　獣ジュウ　潤ジュン　庶ショ　署ショ　升ショウ　肖ショウ　訟ショウ　蒸ジョウ
錠ジョウ　譲ジョウ　殖ショク　迅ジン　陣ジン　尽つくす　穂ほ　婿むこ　拙セツ　禅ゼン　粗ソ
疎ソ　捜ソウ　燥ソウ　憎にくむ　逮タイ　諾ダク　奪うばう　壇ダン　蓄チク　窒チツ　跳チョウ
徴チョウ　朕チン　墜ツイ　呈テイ　撤テツ　徹テツ　逗トウ　杯ハイ　排ハイ　媒バイ　薄うすい
畔ハン　被ヒ　扶フ　腐フ　侮ブ　墳フン　舗ホ　邦ホウ　芳ホウ　房ボウ　魅ミ
耗モウ　紋モン　愉ユ　誘ユウ　謡ヨウ　裸はだか　吏リ　履リ　慮リョ　僚リョウ　倫リン
隣となり　腕うで

(オ)　3人（37.5%）が書けた字　79字

慰イ　翁オウ　卸おろす　暇カ　餓ガ　該ガイ　概ガイ　刈かる　閑カン　軌キ　飢うえる
棄キ　喫キツ　糾キュウ　虚キョ　脅キョウ　仰あおぐ　緊キン　謹キン　薫クン　勲クン　啓ケイ
携ケイ　憩ケイ　幻ゲン　娯ゴ　攻コウ　侯コウ　酷コク　獄ゴク　墾コン　唆サ　歳サイ
撮サツ　暫ザン　嗣シ　雌めす　諮シ　滋ジ　臭シュウ　殉ジュン　循ジュン　匠ショウ　彰ショウ
衝ショウ　辱ジョク　睡スイ　遂スイ　斥セキ　隻セキ　跡セキ　繕ゼン　阻ソ　葬ソウ　堕ダ

致チ　懲チョウ　坪つぼ　堤テイ　摘テキ　迭テツ　寧ネイ　閥バツ　帆ほ　避さける　賓ヒン
附フ　敷しく　憤フン　縫ホウ　某ボウ　魔マ　匁もんめ　揺ヨウ　裏うら　累ルイ　廉レン
錬レン　楼ロウ

(カ)　2人（25.0%）が書けた字　64字

韻イン　禍カ　懐カイ　郭カク　隔へだてる　嚇カク　掛かける　轄カツ　看カン　陥カン　宜ギ
窮キュウ　恭キョウ　愚グ　酵コウ　購コウ　索サク　爵シャク　寂さびしい　囚シュウ　叔シュク　准ジュン
緒ショ　詔ショウ　焦ショウ　奨ショウ　礁ショウ　醸ジョウ　嘱ショク　帥スイ　錘スイ　随ズイ　窃セツ
漸ゼン　遭ソウ　賊ゾク　泰タイ　鍛タン　弔チョウ　廷テイ　邸テイ　貞テイ　逓テイ　添そえる
陶トウ　督トク　泊ハク　卑いやしい　碑ヒ　罷ヒ　膚フ　癖くせ　傍ボウ　撲ボク　慢マン
幽ユウ　庸ヨウ　虜リョ　猟リョウ　陵リョウ　寮リョウ　療リョウ　塁ルイ　朗ロウ

(キ)　1人（12.5%）が書けた字　55字

虞おそれ　寡カ　壊カイ　効ガイ　渇カツ　斤キン　迎ゲイ　傑ケツ　繭まゆ　坑コウ　拘コウ
懇コン　宰サイ　搾サク　疾シツ　朱シュ　襲シュウ　淑シュク　粛シュク　俊シュン　遵ジュン　抄ショウ
畳ジョウ　紳シン　衰スイ　畝セ　薦セン　滞タイ　但ただし　逐チク　鎮チン　艇テイ　悼トウ
騰トウ　謄トウ　匿トク　篤トク　縛バク　頒ハン　賦フ　弊ヘイ　遍ヘン　崩ホウ　冒ボウ
妨ボウ　謀ボウ　奔ホン　漫マン　裕ユウ　憂ユウ　擁ヨウ　抑ヨク　濫ラン　欄ラン　隷レイ

(ク)　0人（だれも書けなかった）の字　21字

謁エツ　喚カン　款カン　虐ギャク　謙ケン　賜シ　璽ジ　赦シャ　勺シャク　尋たずねる　遷セン
喪も　嫡チャク　衷チュウ　脹チョウ　陪バイ　覆フク　簿ボ　窯ヨウ　漏ロウ　賄ワイ

1年入学時の書けた漢字と比べると，相当の発達が認められる。

3. 教育漢字外当用漢字の書ける字

教育漢字外当用漢字を8人全員(100%）が書けた文字が205字(21.2%，この調査の集計方法による累積の成績）にのぼるということは，義務教育終了時までに書くことにおいても，正しく習得できる漢字が相当量あること，そのような文字は，正しく書ける必然性も高い字であろうと思われることである。この

ことと，義務教育終了時までに書けるように要望されている教育漢字(881字)に，卒業時までに全員は書けなかった文字，未習得漢字が110字もあることと比べて，考えさせられる問題を含んでいると思われる。

もっとも，この205字という数字は，累積の成績であり，習得完了という，観点からすれば，131字（習得を認めた後のゆれ現象を除くと，さらに減って76字となる）に減少するが，中学になって学習され，学習途上にある漢字で，しかも，書字漢字としては指導されない漢字であるから，ここでは，累積の数字によってみることにしたい。

なお，教育漢字の110字も，同様に累積成績によるもので，これも，習得完了の観点からすれば，書字の上で問題を残す漢字は数を増して，160字となる。このように，累積でみるか，習得完了で見るかによって，教育漢字の書きにくい文字として残るもの，教育漢字外当用漢字の書きやすい字として取り出せるもの，両者の間に多少の数的な相違はあるが，両者の関係としてみれば，やはり同じ問題点が認められる。

(1)　書ける字の性格の検討

教育漢字外当用漢字は新出漢字として国語教科書に提出され，読みを中心として学習されるが，書き取りなども同時に行なわれ，また，ノートなどに書き写す，その他，読むこと，書くことの学習作業化を通して，あるいはまた，他教科の学習活動を通して，教育漢字外当用漢字も書けるようになるものと思われる。この205字を検討すると，書字漢字として8人が正答できたことにかなりの信頼性と必然性が認められる。

1)　使用教科書の漢字出現状況から

①早く提出される　　205字の国語教科書提出状況

1年用　129字　　2年用　45字　　3年用　22字

未出のもの　9字（亜乙悔尺兆斗軟丙硫）

卒業時までに全員が書けた205字の使用国語教科書の提出状況を見ると上のようで，全体の6割（62.4%）は1年用の教科書に提出されたものであること

がわかる。早く提出され，くり返し見る機会のある方が，習熟の条件にかなうからであろう。なお，1年用の教科書に新出漢字として配当される種類の漢字は，教育漢字外当用漢字のうちでも，日常生活の上で親しく使われる字種が多く，書きやすいということもあずかっていると思われる（教科書編集の側からも，そうした配慮のもとに漢字提出がされている)。その意味では，他の2年用，3年用の教科書に出たほうの字も，いずれも日常性と関係のあるものである。

国語教科書に未出の9字も，次のように，

尺（数・社・理・音・体・男女）6教科
亜（数・社・理・体・男女）　5〃
軟（理・美・体・男女）　4〃
硫（社・理・体・男女）　4〃
乙（数・理・女）　2，3〃
兆（社・理）　2〃
斗（数・理）　2〃
丙（数）　1〃
（悔　0〃）

他教科では多出され，書く機会の多い字であることがわかる。「悔」のみ，全教科未出という字であったが，これが100%書けた原因は，やはり「後悔する，悔いる」など，日常生活に密着した語として作文・報告・日記などで書くことが経験されているからではなかろうか。

卒業時4人以上が書けた文字と国語教科書の提出状況をみると，

書字の成績(書けた人数)	8人	7人	6人	5人	4人	（計）
1年用（367字）	130字	72字	58字	40字	36字	（336字）
2年用（263）	44	48	54	45	24	（215）
3年用（174）	22	16	34	26	29	（127）
未　出（165）	9	10	11	19	23	（ 72）
	（205字）	（146）	（157）	（130）	（112）	（750）

やはり書ける漢字，書きやすい漢字の学年提出漢字との関係は，1年提出漢字

のほうが優位であることがわかる。中学校における教育漢字外当用漢字の教科書新出文字の配当は，教育漢字における学年配当のように，特別の基準はない。採用した著作品の文章が中心となるが，そのなかで易から難，基本的な字形優

8人正答漢字と教科書出現状況

国語教科書出現回数	字数	出現教科数									
		9教科	8教科	7教科	6教科	5教科	4教科	3教科	2教科	1教科	0教科
150回以上	2字		段郎								
101回以上	4		呼押		姿		昔				
81～100回	1					若					
51～80	15	座刻渡	井志好	窓源	頼盛脚浮		姫	泣笑			
41～50	11		優影棒	雄片装	背		潮	誌意	咲		
31～40	21	互途	巻離	尾晩胸傾	枝眠砂城江暖将	介輝	紹恐洗	皆			
21～30	27	箱	振隆	乱穴項羽	樹浦妙丘束乳飼松仲	操湿趣映鋼	痛班屈筋訴	娘			
11～20	56	頂	鮮斜密	陰模閉机	灰盲枚豆鏡床透甲抗骨	帝袋涼霧肩染彫秘浜踊障扇	沿紅秀宝層鈴炎探唐埋駆儀鐘	沖召征雷澄稲忍孔巡	匹凡悟鬼		
5～10	34		鉛較濃	羊幅針	溶警	沼寸庁玄畜菓径訪郊	幾沸亡芝滝劣	桃漂汗湾	唯峠痴犠牲拍	怠	
5回以下	25				軸培弓糖粘	浄胴診菌	狩刃肪茎硝梅舶	酢紡薪滴圏又企	錯	暁	
0	9				尺	亜	軟硫	乙	兆斗	丙	悔
	205	7	20	20	40	34	39	27	14	3	1

〈注〉1.出現回数は，音・訓出現度を含めたもの。

2.出現教科数は，国語科を含めた9教科にあたる。なお，男子技術，女子家庭のどちらかに出ている場合，便宜上，1教科として数えた。

3.ゴチック体の字は，累積正答の文字。

4.1教科のみ出現の3字中，怠・暁は国語，丙は数学に提出されたもの。

先の原則によって提出されるのが一般であり，最終学年ではとかく提出しにくい残りの漢字ということになりやすい。教育漢字の高学年用の漢字が「書き」漢字として定着しにくかったのと同じような現象が，教育漢字外当用漢字においては，いっそう強く出てくるわけである。

②教科書に使用されている文字

全員が書けた205字と，生徒が3年間に使用した教科書の漢字出現状況を調べると，次表のように，国語をはじめ他教科にも出現しなかった文字は「悔」1字だけである。読みでは，国語・他教科に出現しない文字でも正しく読めたものがかなりあったが，書字では教科書の使用文字との関係が深いことが認められる。

書ける文字は，国語教科書で出現度数が多いばかりでなく，他教科でも多くの教科にわたって出現される漢字に多い。

国語科出現度数の低い漢字でも，他教科での出現教科数が多く，それによって習得作用が助長されると思われるものがある。

国語科提出0でも書けている文字がある。そのほか，出現教科数1教科という「丙」(算数)もある。これなどは，一教科の出現度数が相当多いであろうし，ノートなどで実際に書く場合が多いはずである。これに類したことが他の文字についても想定される。甲乙丙はすべて書けるが，これなども評価用語としての甲乙丙でより，数学関係での用語としての習得経路のほうが考えられる。

以上，教科書に早く提出され，くり返し目にし，学習する機会があること，多教科にわたって用いられ，ノートなど記述に関係することが多いなど，教科書の出現が早く，しかも，多いということが，書ける漢字の一つの性格であるとみられる。

2)　多用される語の構成要素として

教科書の文字使用状況のほかに，教育漢字外当用漢字の多用される語の構成要素との関係も考えられる。

205字の調査文字は，読みの調査で，原則として正答反応の高いほう(生徒に親近性があると思われる)の音・訓による語形をとって問題とした。

訓の形のままで問題としたもの

羽(はね)　影(かげ)　炎(ほのお)　押(おす)　沖(おき)　汗(あせ)　巻(まく)　机(つくえ)　鬼(おに)　輝(かがやく)　弓(ゆみ)
泣(なく)　恐(おそろしい)　暁(あかつき)　駆(かける)　茎(くき)　恵(めぐみ)　穴(あな)　肩(かた)　呼(よぶ)　互(たがいに)　好(すき)
骨(ほね)　酢(す)　咲(さく)　枝(えだ)　姿(すがた)　飼(かう)　若(わかい)　狩(かり)　松(まつ)　沼(ぬま)　笑(わらう)
鐘(かね)　城(しろ)　針(はり)　刃(は)　昔(むかし)　洗(あらう)　染(そめる)　扇(おうぎ)　訴(うったえる)　窓(まど)　怠(おこたる)
袋(ふくろ)　滝(たき)　暖(あたたかい)　澄(すむ)　痛(いたむ)　渡(わたる)　豆(まめ)　峠(とうげ)　背(せ)　尾(お)　匹(ひき)
姫(ひめ)　浜(はま)　浮(うく)　幅(はば)　忘(わすれる)　埋(うめる)　又(また)　眠(ねむる)　霧(きり)　娘(むすめ)　踊(おどる)
羊(ひつじ)　雷(かみなり)　涼(すずしい)　劣(おとる)

〈注〉　ゴチック体の文字は，卒業時調査にあたり，全員が書けたもの。他は，累積方式で正答のもの。互は音でも調べたことを示す。

訓の基本形をそのまま問題とした70字（これらの文字〈ことば〉は，生活に密着したものが多い。中には，字音語の熟語でも同時に調べておいたものもある）のほかは，音による熟語の形で調査した(訓による熟語10字を除く)。

①教育漢字＋教育漢字外当用漢字

調査問題を作成する場合，なるべく生徒の日常生活・学校生活に密着した語という観点をとったが，正しく書けた文字を結果的にみると，その多くは，教育漢字＋教育漢字外当用漢字の組み合わせでできている語に使われた場合であることがわかる。

教育漢字＋教育漢字外当用漢字

陰(山[1]陰)　映(映[3]画)　鋭(鋭[3]角)　沿(沿[3]岸)
鉛(鉛[5]筆)　菓(菓[1]子)　灰(灰[2]色)　皆(皆[3]様)
悔(後[3]悔)　較(比[5]較)　企(企[3]画・企[4]業)　幾(幾[2]何)
儀(儀式[4]・礼[3]儀)　脚(脚[1]本)　胸(胸[4]囲)　菌(細[3]菌)
筋(筋[3]肉)　駆(駆[6]除)　屈(退[6]屈)　径(直[4]径・半[2]径)
恵(知[2]恵)　傾(傾[3]向)　警(警[4]察)　圏(北[2]極[4]圏・圏[4]内)
玄(玄[4]関)　源(源氏[5]・資[6]源)　互(相[4]互)　悟(覚[4]悟)
孔(孔[1]子)　郊(郊[2]外)　紅(紅[1]白)　項(項[1]目)
綱(横[4]綱)　刻(時[2]刻)　座(座[4]席)　錯(錯[4]覚)

誌(雑[5]誌)　軸(車[2]軸)　湿(湿[3]度)　芝(芝[5]居)
斜(斜[3]面)　操(体[3]操)　層(地[2]層)　装(装置[4]・服装[4])
鮮(新鮮[3]・朝鮮[2])　盛(花[1]盛り)　征(征[4]服)　井(井[2]戸)
寸(寸[4]法)　薪(薪[3]炭)　診(診察[4]・診断[6])　振(振[3]動)
浄(清浄[4]・浄化[3])　障(障子[1]・障害[4])　硝(硝[5]酸)　将(大将[1]・将来[2])
召(召[3]集)　巡(巡回[3]・巡査[5])　秀(秀[3]才)　樹(樹[1]木)
趣(趣[4]味)　尺(尺[3]度)　忍(忍[5]術)　乳(牛[2]乳)
軟(軟水[1]・軟体[3]動物[3])*　稲(稲[4]付)　胴(胴体[3]・胴中[1])　透(透[2]明)
桃(桃[2]色)　途(途中[1]・帰途[3])　斗(北斗星[2]・一斗[1])　潮(満[5]潮)
滴(一滴[1]の水・水滴[1])　帝(帝国[2]・皇帝[5])　庁(都庁[3]・県庁[3])　畜(牧畜[5]・家畜[2])
頂(頂上[1]・頂点[3])　兆(一[1]兆)　仲(仲間[*]・仲良し[4])　束(約[5]束)
痴(痴人[1]・白痴[1])　段(一段[1]・階段[4]・段落[3])　探(探求[5]・探検[6])　拍(拍[1]手)
粘(粘土[1]・粘着[3])　濃(濃[3]度)　梅(梅雨[1]・入梅[2])　晩(今[2]晩)
舶(舶来[2]・船舶[3])　箱(本箱[1]・木箱[1])　班(一班[1]・班長[2])　片(片手[1]・片方[2])
漂(漂[3]流)　沸(沸[3]点)　閉(閉[2]会)　亡(死[3]亡)
浦(浦[3]和)　宝(宝物[3]・宝石[1])　訪(訪[4]問)　枚(一[1]枚)
棒(鉄[3]棒)　紡(紡[5]績)　凡(平凡[3]・凡人[1])　眠(冬[2]眠)
模(模[3]様)　盲(盲目[1]・盲人[1])　唯(唯[1]一)　雄(英[4]雄)
優(優[3]勝)　溶(溶[5]液)　乱(混[6]乱)　頼(信[4]頼)
硫(硫[5]酸)　鈴(鈴虫[2]・風鈴[2])　郎(太[3]郎)　湾(○　○　湾)

(伊勢湾台風の直後なので，ルビつきで伊勢湾として提出。稲—稲付はこの中学の特殊例。なお，この中にも，教育漢字外当用漢字との組み合わせでも調べた語もある。)

＜注＞ 熟語の文字の右肩の数字は教育漢字の学年配当を示す。

これらは，日常の社会生活でも，こうした組み合わせの語として多用されており，生徒がその語に接近することが多く，また，書く機会や必要も多い。したがって，教育漢字外当用漢字であっても自然に書けるようになる。なお，他教科で多用される語（文字）も，次にみるように相当あり，よく目にふれる，ノートなどで書く機会も多いと思われる。

②教育漢字外当用漢字＋教育漢字外当用漢字

教育漢字外当用漢字との組み合わせの語（文字）は，前者に比べると，さすがに少ない。しかし，教育漢字外当用漢字であっても日常生活と密着しているもの，他教科に関するものという傾向は動かない。

亜(亜　鉛)	影(影　響)	乙(甲　乙　丙)	介(紹　介)
犠(犠　牲)	丘(砂　丘)	甲(甲　乙　丙)	江(揚　子　江)
砂(砂丘・砂糖)	紹(紹　介)	床(寝　床)	牲(犠　牲)
抵(抵　抗)	彫(彫　刻)	唐(遣　唐　使)	糖(砂　糖)
培(栽　培)	秘(秘　密)	丙(甲　乙　丙)	肪(脂　肪)
密(秘　密)	妙(奇　妙)	離(距　離)	隆(隆　盛)

これらは，国語科や他教科との関連がみられ，字数・字種に多少の異同があっても，中学生一般に共通する習得現象ではないかと思われる。

このように教育漢字外当用漢字でも，生活上，あるいは学習活動の上で，必要性の高いものは，書ける漢字が相当あること，そのような漢字は，語構成・語表記の上で，やはりまぜ書きよりも，漢字で書くことが望ましいし，同音語の誤りもさけられる。

中学の漢字学習では，書く力として定着しない教育漢字の指導も合わせて行なわれるであろうが，現実には，中学校の国語教科書で新出する漢字——教育漢字外当用漢字を中心に進められるのが一般のようである。その結果，上掲のように，書くことを義務づけられている教育漢字の中の文字が習得し残り，必ずしも書くことまでは義務づけられていない教育漢字外当用漢字の中にも，日常生活上，学習の必要上，習得能力上，書ける文字のあることに注目される。このことは，将来，読み書きともに習得の可能な漢字，習得すべき漢字ということを考える場合，参考になるのではなかろうか。（付　この漢字調査を終えて昭和43年，学習指導要領が改訂され，中学校の漢字学習についても，かなりの改訂をみた。教育漢字外当用漢字中，小学校段階におろされたいわゆる備考の漢字115字を含む約1000字が書く漢字として要求されるようになり，昭和47年新学習指導要領が実施されるころには，書く力も一段と強化されることにな

ると思われる。)

(2) 新しい学習指導要領における備考漢字との比較

なお参考までに，改訂された新学習指導要領で，新しく中学校卒業時までに書けるようにとされた，いわゆる備考の漢字115字と，この調査の卒業時の書きの成績とを比べてみると，

8人が書けたもの　羽映沿灰巻机弓泣胸筋径警穴源呼好紅刻骨砂座姿誌尺若樹将笑障城針寸染洗窓層操探段暖仲庁兆頂潮痛糖乳背班晩秘閉片宝訪亡忘棒枚密模優羊乱　(65)

7人　〃　域宇閣簡丸吸郷磁射泉奏臓担値肺批腹矢翌卵(20)

6人　〃　街割干揮劇降鋼困冊捨縮宅宙脳俳幕幼　(17)

5人　〃　縦熟傷垂郵覧　(6)

4人　〃　危裁署蒸　(4)

3人　〃　裏　(1)

2人　〃　看朗　(2)

書ける漢字として学習指導の対象にはされていなかった当時としても，相当書けており，両者にかなり共通性があることがわかる。

第4章　当用漢字の習得について

I　教育漢字の読み書き

この調査の対象になった中学生では，教育漢字の到達目標が，読みと書きとでは過程として異なっていたし，また，習得状況からみても差があるのが現実である。そこで，読み書きそれぞれの観点から，その習得状況を見てきたのである。しかし，本来ならば中学卒業時までには両者とも習得状況が一致すべきであり，またそのように要求されてもいる。

義務教育終了時までに，教育漢字の読み書きの習得状況はどのようであるか，読み書きともにできる漢字はどれかなどについて見ると次のようである。

1. 3年卒業時の教育漢字の読み書きの習得

(1) 文字中心・累積の結果という観点から

読みでは，従来一般に行なわれている音訓をはずした文字中心の観点をとり，この調査の方法としての累積の結果として，卒業時の読み書きの成績を見ると，（この場合，被調査者数が少ないこと，下位クラスの生徒がいないこと，全員正答数をもって，習得できた文字とみなすことなどにより，全員正答の文字という観点をとった）

全員（100%）正答の漢字

読み	書き	読み・書きとも
881字	771字	771字

読みの881字に対して，書きの771字，読み書きともに正答771字で，100字ほど書字が読字に伴わないことになる。

1)　具体的な字種

881字から3年最終時に書けなかった110字（159ページ参照，字種は省略）を除いた771字（157ページ）が，読み書きともに習得できた文字ということになる。

(2)　音訓および，習得完了という観点から

読みの場合，一つの文字に対し，音訓という観点をとり，全音訓が読めるまでは習得したとは認めない，また，各調査結果の反応からみて，正答が2回以上続かなければ習得完了とは認めない，しかも完了後に，誤答や無答反応があった場合は，習得のゆれとして習得完了から除く（書きの場合は，どちらか親しい音又は訓で書けるという立場に立っているが，続けて正答できるという観点では読みと同じ）など，きびしい整理方法によってみると，次のようになる。

全員習得完了の漢字

読み完了　716字　　書き完了　721字（*714）

読み書きともに完了　590字（*584）

（*　）内の数字は，ゆれ現象を除いた，きびしい観点からのもの

読み書きそれぞれの正答数が減る，しかも書きの成績の方が読みに比べてやや優位になる（読みでは音訓を整理の観点に入れるために），さらに，読み書きともに習得できる漢字となると，いっそう数が減ることが，前章の数量的観点からだけでなく，文字の字種に即してもみられる。このように見てくると，教育漢字の習得という場合にも，ある音（又は訓）で読める，その文字の音訓をつくして読める，いつでも正しく読めるだけでなく書ける，あるテスト時だけでなくいつでも正しく書ける，必要に応じて，実際の読み書きの場面でいつでも正しく読み，正しく使用できる，というように段階があることがわかる。ある時点での正答反応から，それが読み書きできる力として定着する，真の習得に達するまで螺旋的な習得過程をとることが認められる。（螺旋的な習得過程についてはさらに後述。）

1)　具体的な字種

読み書きとも完了（確実に習得が定着した字）　A群　　584字

（A群）　愛圧安案暗以囲位医委胃移意育一引員院飲雨雲運絵泳英栄益液駅円延塩演園王央往横応屋恩温火化加可果河花科夏荷家貨過歌課我画芽賀会快改界海械開階貝害角格覚学活完官寒間感慣漠関館観岸岩顔願希汽季紀記起帰寄喜器技義疑議客九旧休求究急級救球牛去挙魚共京協教強橋曲局極近金勤銀区句具空君軍郡群兄形係型計敬景軽芸血決月犬件見研建絹憲県験原現古個庫湖五午語口工交光向考幸厚校耕航高港鉱構広合告国黒根混左査差才再西菜細最在材作昨三山散産算賛残士子支止史司四市死志私糸使姉始思指師紙詞詩試寺次耳自事治持時辞式七失質実写車舎者弱手守取首酒種受収周秋習週終集十住重従春順所書諸序小少昭消章証照賞上状乗常情条場色植職心臣新身信真神深森進親人水数世正声性星清晴勢聖製誠静整税席積接雪節絶千先船銭線選全前善然祖素組早走争草倉送創想造足側測速族続卒存村孫尊他多打大対待隊態代台第題炭短男団談地池知置竹築茶着中虫忠注柱昼著町長帳鳥朝腸調直追通丁弟定庭鉄店点転田伝電土努度冬当投東島登等答燈頭同動堂童働道銅導特得毒独届南二肉日入任認熱年念能農派馬配倍買売畑八半犯判番比皮非飛悲美必筆百表標秒品貧不夫父付布府婦分部風服副復福仏物粉文聞平兵米別辺変弁勉保母方法豊防貿北牧本毎妹末万味脈無名明迷鳴綿毛目門問夜野役約薬油輸友右勇遊予用洋要容葉陽様養曜来落楽利里理力陸立律略旅両良料量輪林類令冷例歴列連路労六録論和話

読み完了（読みの観点からは習得完了のもの）　716字

A群（584字）＋B群（読み完了　書きゆれあり　6字）＋C群（読み完了　書き未完了　126字）

（B群）　永鏡像達底波

（C群）　悪壱営衛易億革確拡株刊幹歓規貴旗許均禁訓系券兼検限減固故誤護后孝効候康講号穀妻祭際財罪策察酸氏歯視資似児識謝釈需祝述術純準処暑除招称象勝仁制績宣専戦総増蔵則息俗

属損単貯張賃低停提程適敵典展徒党湯徳弐燃破博版飯肥鼻氷俵票評武複陛返編便補墓満未務盟余浴領礼

書き完了（書ける文字という観点からは習得完了のもの）　714字

A群（584字）＋D群（書き完了　読み未完了　130字）

（なお，ゆれの現象があって，書けた字7字を加えると　721字）

A群＋D群＋B群（読み完了　書きゆれあり　6字）＋E（読み未完了　書きゆれあり　1字）721字

（D群）　衣異印因遠音下仮何価回外各額眼気基期機久宮給居漁競業玉苦経欠結健権険元言己戸後公行皇興谷今災済刷殺雑参仕示至字室社主州修出女助唱商食織申推生成青政省精夕石赤責切折設説舌川浅宗相太体帯断的天図都刀討読内納敗白麦発反坂板否費備病負富歩包放報望民命面木訳由有流緑練老

（E）　統

読み書きとも未完了のもの　F群　　34字

（F群）　遣解勧管逆供境潔厳功黄採蚕借授衆就拾宿初承焼是退貸難拝畜暴預欲率留臨

Ⅱ　教育漢字外当用漢字の読み書き

1. 3年卒業時の数育漢字外当用漢字の読み書きの習得

教育漢字外当用漢字は，当時にあっては書くことまでは要求されていなかったが，漢字の学習指導の際，読みと同時に書く指導も行なわれることがあり，3年卒業時までには書ける教育漢字外当用漢字も意外にあることが認められた。読める漢字がどの程度書けるか，読み書きともにできる漢字はどのような漢字かなどについてみておくことにする。

(1)　文字中心・累積の結果という観点から

全員（100%）正答の漢字

読み　863字　　書き　205字　　読み書きとも　205字

（205字　172ページ参照）

読みの863字に対して，書きの205字，読み書きともに正答205字で，650字ほどは書字が読字に伴わないことになるが，教育漢字外当用漢字の2割強の文字は全員が読み書きできる字とみることができる。

1）　具体的な字種

3年卒業時に全員が書けた205字（字種は重複をさけて省略。173ページ参照）が読み書きともに習得できた文字ということになる。教育漢字外当用漢字は，中学入学後学習が進められる文字であるので，3年の205字に至る各学年の読み書き習得状況一覧および習得文字の具体例を参考までに掲げておこう。（教育漢字外当用漢字の読み書き習得状況一覧一次ページ参照）

各学年の読み書き正答字数・字種

全員が読み書きともに正答できた字

1年入学時　　15字

(A)　入学時の正答字　羽机吸枝若松城井担仲稲背匹浦枚　（15字）

1年終末時　　30字

(B)　1年終末時までに新しく読み書きできた字　鬼丘玄紅砂湿沼笑刃寸昔束袋豆乳箱班姫片羊湾（21字）

B（21字）＋A（9字）＝30字

ただしA（15字－6字）9字（机若松井仲稲背浦枚）

2年終末時　107字

(C)　2年終末時までに新しく読み・書きできた字　亜映影沿炎鉛押奥乙灰汗巻弓胸筋径警穴肩源甲好抗綱骨座咲姿飼誌芝尺珠樹伸針瀬洗鮮窓装段暖潮帝渡途唐桃濃梅秘尾浜宝奉忘棒紡凡埋密妙模雄溶踊頼翌雷乱隆郎（73字）

C（73字）＋A（13字）＋B（21字）＝107字

ただしA（15字－2字）13字（羽机枝若松城井仲稲背匹浦枚）

→ 書き　　教育漢字外当用漢字の

↓ 読み

	8人正答 100%	7人 87.5%	6人 75.0%	5人 62.5%	4人 50.0%
8人 正答 100%	①入学時 15字 ②1年末 30 ③2年末 107 ④3年末 205	① 16字 ② 32 ③ 99 ④ 143	① 23字 ② 39 ③ 108 ④ 149	① 23字 ② 40 ③ 85 ④ 121	① 27字 ② 58 ③ 89 ④ 103
7人 87.5%	① 2 ② 0 ③ 1 ④ 0	① 5 ③ 3 ④ 3	① 4 ② 2 ③ 13 ④ 7	① 5 ② 8 ③ 10 ④ 7	① 11 ② 12 ③ 7 ④ 5
6人 75.0%		① 1 ③ 1	① 1 ③ 4 ④ 1	① 3 ② 3 ③ 3 ④ 2	① 9 ② 2 ③ 4 ④ 2
5人 62.5%				① 3	① 3 ② 2 ③ 2 ④ 1
4人 50.0%			① 1 ② 1	③ 1	④ 1
3人 37.5%			③ 1		① 2 ③ 1
2人 25.0%					① 1
1人 12.5%					
0					
計	① 17 ② 30 ③ 108 ④ 205	① 22 ② 32 ③ 103 ④ 146	① 29 ② 42 ③ 126 ④ 157	① 34 ② 51 ③ 99 ④ 130	① 53 ② 74 ③ 103 ④ 112

読み書き習得状況一覧

3人　37.5%	2人　25.0%	1人　12.5%	0	計
①　20字	①　23字	①　26字	①　20字	①　193
②　56	②　53	②　57	②　37	②　402
③　75	③　58	③　42	③　15	③　678
④　59	④　46	④　30	④　7	④　863
①　16	①　23	①　21	①　33	①　120
②　14	②　34	②　32	②　39	②　141
③　11	③　15	③　20	③　10	③　90
④　11	④　7	④　9	④　2	④　51
①　13	①　16	①　25	①　44	①　112
②　8	②　10	②　36	②　47	②　106
③　11	③　15	③　10	③　11	③　59
④　5	④　7	④　4	④　2	④　23
①　5	①　12	①　13	①　44	①　80
②　2	②　12	②　23	②　39	②　78
③　4	③　8	③　11	③　9	③　34
④　3	④　2	④　6	④　1	④　13
①　2	①　11	①　20	①　56	①　90
	②　5	②　14	②　35	②　55
③　2	③　11	③　7	③　7	③　28
④　1	④　2	④　2	④　2	④　8
①　8	①　4	①　20	①　53	①　87
		②　6	②　39	②　45
③　1	③　2	③　8	③　10	③　23
		④　2	④　3	④　5
		①　14	①　61	①　76
	②　1	②　7	②　39	②　47
	③　3	③　6	③　9	③　18
		④　2	④　3	④　5
	①　2	①　8	①　73	①　83
		②　5	②　44	②　49
	③　3	③　8	③　12	③　23
			④　1	④　1
		①　2	①　126	①　128
			②　46	②　46
	③　1	③　1	③　14	③　16
				④　0
①　64	①　91	①　149	①　510	①　969
②　80	②　115	②　180	②　365	②　969
③　104	③　116	③　113	③　97	③　969
④　79	④　64	④　55	④　21	④　969

3年卒業時　　205字

(D)　3年終末時までに新しく読み書きできた字 陰鋭沖菓介皆悔較企幾輝儀犠脚泣恐暁菌駈屈茎恵傾圏呼互悟孔江郊項刻酢錯軸斜狩趣秀巡召床将紹硝障鐘浄振診薪征牲盛染扇訴層操怠滝探痴畜兆頂彫澄庁痛滴斗透糖胴峠軟忍粘培拍舶晩漂浮幅沸丙閉訪亡肪又眠霧娘盲唯優離硫涼鈴劣（104字）

D（104字）＋A（13字）＋B（21字）＋C（67字）＝205字

ただしA（15字—2字）13字　（除く字2字　吸担）

〃　C（73字—6字）67字　（除く字6字　奥珠伸瀬奉翌）

（参　考）　読めるが書けない字　658字

（卒業時全員正読できたが，全員は書けなかった字）

哀握扱依威尉偉為違維慰緯域逸芋姻隠韻宇詠疫悦越閲宴煙援縁汚欧殴奥桜憶穏佳架華暇嫁箇蚊雅餓戒怪塊懐壊劾慨概街核郭隔閣獲穫岳掛括割滑刈干甘肝冠看勘貫乾患換棺敢堪監寛憾環還簡艦鑑丸含危奇岐祈軌飢揮棋棄騎欺偽戯擬菊吉詰喫却及吸巨拒虚距拠凶叫狂況享峡恭狭脅郷驚響仰凝琴緊謹吟愚偶遇掘繰勲刑契啓掲携継慶憩鶏迎鯨劇激撃傑軒堅献遣倹賢剣謙顕懸幻弦枯孤弧雇誇鼓顧呉娯御碁巧坑攻更恒肯荒降香侯貢控慌硬酵稿鋼購衡拷豪酷獄込困恨婚紺魂墾懇佐詐鎖栽彩斎裁催債載歳剤削索搾冊札擦撮惨旨伺刺祉施脂紫雌侍慈滋磁執漆射捨煮邪爵寂朱珠殊儒寿舟臭愁酬襲充柔銃渋縦獣淑縮熟瞬旬盾准循潤庶署緒如徐叙匠抄肖昇渉症訟晶粧掌焦傷彰奨衝礁償丈剰蒸錠嬢畳譲殖触飾伸辛侵浸娠紳慎寝審震迅陣尋尽吹炊垂帥衰睡穂遂粋酔錘随髄枢瀬姓婿誓請斥析隻惜跡籍拙窃摂占泉旋践銑潜繊禅繕租粗疎塑礎壮奏桑荘掃巣喪捜葬僧遭燥霜騒憎臓贈促即賊妥惰耐胎泰滞宅沢択拓卓託諾濁但脱奪丹担胆淡端嘆誕弾壇値恥致遅稚蓄秩窒宙駐鋳超脹跳徴聴勅沈珍鎮津坪呈廷邸抵訂堤締笛摘哲撤徹添殿吐塗奴怒到倒凍逃陶痘筒塔盗踏騰闘謄督突豚鈍曇尼尿妊寧悩脳婆杯肺俳排

廃輩陪賠伯迫泊薄幕爆縛髪伐抜罰閥帆伴畔般販煩搬範繁藩蛮盤妃彼批卑被疲碑罷避微泌苗描賓敏扶附普符腐怖敷膚賦譜舞封伏腹覆払紛憤墳噴並併柄幣弊癖壁偏遍捕舗募慕暮簿邦奉抱胞峰砲倣飽縫乏忙坊冒坊房剖帽傍膨撲墨没翻盆麻摩魔膜漫慢魅矛夢銘滅免茂耗猛網黙紋矢躍愉郵幽裕誘融憂与誉幼揚腰揺謡翌翼裸絡酪卵欄覧痢履裏柳粒虜慮了猟僚寮療糧厘倫隣涙累塁励零霊隷齢麗暦烈裂蛮錬炉露浪朗廊楼惑腕

(2)　音訓および習得完了という観点から

一つの文字に対して音訓の観点をとり，しかも習得が固定完了したかというきびしい観点で整理してみると，読み書きできる文字は大量に減る。

中学入学後学習し，未学習文字をかかえている教育漢字外当用漢字について，教育漢字と同様のこの整理方法によることは，現実を無視し機械的にすぎるうらみがあるが，教育漢字外当用漢字の習得状況の実態を知るため，また教育漢字との比較のため，試みてみると，次のようになる。

全員習得完了の漢字

読み完了　451字　　書き完了　131字　(ゆれ現象を除くと*76字)

読み書きともに完了　84字 (*43字)

読み書きそれぞれの完了数はもちろん，読み書きともに習得が完了したとみなされる漢字のこの減量は，教育漢字外当用漢字が学習進行中の文字であり，未学習文字のあること，読み書き到達目標が違うこと，むずかしい字種のあることなどを明らかに示している。

1)　具体的な字種

読み書きとも完了 (確実に習得が定着した字) 43字(84字)

(A群)　亜映影鉛沖乙鬼傾玄江好姿芝尺松絽城寸征洗扇窓段仲豆唐胴峠忍濃背梅拍箱班尾閉片密盲羊溶郎 (43字)

(B群)　羽炎灰巻丘恐径呼抗砂座酢飼誌軸樹笑振針鮮層束滝暖庁帝途培舶晩姫浮幅亡棒枚又雷頼隆湾 (41字　読みは完了　書きにゆ

れがある）

読み完了（読みの観点からは習得完了のもの）　451字

A群（43字）＋B群（読み完了，書きゆれあり　41字）＋C群（読み完了書き未完了　367字）

（C群）　偉為違緯域芋宇悦閲煙援欧奥憶架華菓暇箇介懐壊概街核較閣獲岳掛滑刈冠看勘乾患換棺監寛環還簡艦鑑危奇揮騎戯儀擬犠菊吉喫却脚及吸巨拒狂峡胸郷響菌筋緊謹偶遇屈掘刑茎啓恵警鶏迎劇激圏遣倹顕枯孤弧呉娯孔坑攻荒郊降項硬酵稿購豪刻酷獄骨込婚懇佐栽彩斎歳剤咲冊擦撮惨刺祉脂紫慈滋磁捨斜爵珠殊儒秀愁酬銃縦獣熟瞬旬循庶署徐叙肖症将晶粧硝傷障彰奨衝礁丈蒸錠嬢畳殖触飾伸紳診寝審薪陣垂睡粋随髄瀬姓牲跡籍窃泉旋繊租粗塑壮奏荘僧遭燥騒臓耐胎宅択拓卓託但丹担胆探誕弾壇値致痴遅稚畜蓄秩窒宙駐彫跳徴沈津墜痛坪呈廷邸抵笛滴哲徹奴到倒凍逃陶痘筒塔糖督突軟妊脳婆肺俳排廃輩賠伯泊爆髪罰閥畔般販搬範繁藩蛮盤妃批秘疲碑微賓附普符腐怖賦譜舞腹墳噴丙幣壁偏暮簿邦胞砲訪坊房肪帽傍撲凡盆摩魔膜漫慢魅妙眠夢霧娘滅模猛紋矢愉唯郵裕幼揚翌絡酪卵欄覧痢離硫虜慮了猟僚寮療糧塁零霊隷齢暦烈炉浪廊　（367字）

書き完了（書ける文字という観点からは習得完了のもの）76字（*131字）

A群（43字）＋D群（書き完了　読み未完了　33字）　76字

なお，ゆれの現象があって，書けた字を加えると　131字

A群＋B群（読み完了　書きゆれあり　41字）＋D群（書き完了　読み未完了　33字）＋E群（書きゆれあり　14字）　131字

（D群）　鋭押汗机駆源甲紅枝湿若巡床沼鐘刃井盛昔装操袋兆潮渡稲乳漂浦宝雄涼鈴　（33字）

（E群）　沿皆弓泣穴肩召桃匹浜紡埋踊乱　（14字）

読み書きとも未完了のもの　F群　471字

（F群）　哀握扱依威尉維慰逸姻陰隠韻詠疫越謁宴縁汚殴翁桜虞

卸穏佳嫁禍寡蚊雅餓戒怪悔塊劾慨該郭隔嚇穫括割渇轄且干廿肝陥貫喚閑敢堪款憾緩丸含企忌岐祈軌既飢棋棄幾輝宜欺偽詰虐朽糾窮虚距拠凶叫況享恭狭脅驚仰凝暁斤琴吟愚繰薫勲契掲携継慶憩鯨撃傑軒堅献賢剣謙繭懸幻弦雇誇鼓顧互悟御碁巧更恒拘肯香侯貢控慌絞綱鋼衡拷剛克困恨紺魂懇唆詐鎖砕宰裁催債載削索錯搾札暫旨伺施嗣雌賜諮侍璽疾執漆射赦煮邪勺寂朱狩趣寿因舟臭醜襲充柔渋叔粛縮俊盾殉准潤遵緒如升匠抄昇渉訟祥掌詔焦詳償冗浄剰譲醸嘱辱辛侵浸娠慎震迅尋尽吹炊帥衰穂遂酔錘枢崇畝婿誓請斥析隻惜拙摂占染践銑潜遷薦漸禅繕阻措疎訴礎双桑掃巣喪捜葬霜憎贈促即賊妥惰堕怠泰逮替滞沢諾濁脱奪淡端嘆鍛恥逐嫡抽衷鋳弔頂超脹澄懲聴勅珍朕陳鎮訂貞逓堤艇締摘迭撤添殿斗吐塗怒透悼盗踏騰闘謄匿篤豚鈍曇尼尿寧粘悩杯陪媒迫薄幕縛伐抜帆伴煩頒彼卑被罷避泌苗描敏扶赴敷膚侮封伏覆払沸紛憤並併柄弊癖遍捕舗募慕芳奉抱峰倣崩飽縫乏忙冒妨忘剖某謀膨墨没奔翻麻矛銘免茂耗網黙匁躍論幽猶誘優融憂与誉庸腰揺窯謡擁抑翼裸濫吏履裏柳粒陵厘倫隣涙累励麗劣裂恋廉錬露朗楼漏賄惑腕

Ⅲ　習得のゆれ

1. 習得のゆれ現象

3年間の継続調査の結果，ある調査時には正答できても，その後の調査で誤る，あるいは無答という現象がままあることに注目される。これは，この調査が同一人を対象に同じ問題を継続して調査しているから，一度限りの調査では見ることのできない，習得過程上の現象まで出てくるからである。学習の忘却現象を考慮して，この調査の整理方法を，正答が2回続けて得られた場合は，習得が完了したとみなし正答漢字として整理することをたてまえとした。前章

でもふれたように，2回続けて正答できた漢字の相当数のものは，その後の調査結果でも変動を示さないために，この方法で問題がなかった。しかし，なかには，続けて2回正答し，正答が定着，習得したとみなされた後に，再び反正答反応（誤答あるいは無答）を示す場合が生ずる。

この現象は，小学生の漢字能力の発達について研究した際，すでに見られ，漢字習得上のゆれとして注意したが，今回は中学生であること，調査文字の負担量等のことを考えて，2回続けて正答という関門を設けたのである。しかしやはり，習得不安定なゆれ現象はあったのである。

既習，未習にかかわらず，何らかの刺激によって，その文字の印象が強烈な時に調査されれば正答できるが，時間が経過し，印象が不鮮明になったり，忘却されたりすると，その文字の形態や機能もあいまいとなる。調査時の印象や刺激によって正答が左右されるために，浮動的であり，固定しにくい。ゆれのある文字をみると，未学習文字(音訓)，学習されたとしても，ごく一時的，あるいはあまり日常的，生活的でないなどの文字である場合が多い。また，書字では，正しい字形がとりにくい，他と誤りやすい文字であることなどがわかる。

なお，ゆれの生ずる因子として，個人の能力・性格等が作用する面も大きい。

2. ゆれ現象の実際

具体的にゆれ現象についてみよう。

ゆれの現象を，ゆれの回数と人数によって示そうとした。ゆれの回数と人数とは同じでない場合がある。たとえば，書字で，2回続けて正答したあとの文字の誤りの回数がゆれの回数となり

	1回 2 3 4 5 6	ゆれの回数	人数
街	○○○御○○	1回	1人
昇	／空／○○仰	1	1

嬢　○○嬢譲嬢譲　　4回　　1人

菌　○○○箘箘○　　2　　1

さらに，同じ文字について何人かが誤っていれば，誤りの回数とその人数の和がゆれの回数ということにした。

(1)　読みにおける習得のゆれ

	＜教育漢字＞			＜教育漢字外当用漢字＞		
ゆれ	1回	36音・訓	2.2%	1回	99音・訓	6.8%
	2〃	11〃	0.7	2〃	26〃	1.8
	3〃	2〃	0.1	3〃	3〃	0.2
	4〃	2〃	0.1	4〃	0	
				5〃	2〃	0.1
計		51音・訓	3.1%		130音・訓	9.0%
ゆれのない音訓		1621音・訓	96.9%	ゆれのない音訓		1320音・訓 91.0%
ゆれのない字		833字	94.6%	ゆれのない字		846字 87.3%
ゆれのある字		48字	5.4%	ゆれのある字		123字 12.7%

(2)　書きにおける習得のゆれ

ゆれ	1回	92字	10.4%	1回	240字	24.8%
	2〃	19〃	2.2	2〃	111〃	11.5
	3〃	15〃	1.7	3〃	36〃	3.7
	4〃	2〃	0.2	4〃	10〃	10.3
	5〃	1〃	0.1	5〃	13〃	13.4
	6〃	0〃		6〃	6〃	6.2
	7〃	0〃		7〃	1〃	1.0
	8〃	1〃	0.1	8〃	1〃	1.0
計		130字	14.8%		418字	43.1%
ゆれのない字		751字	85.2%	ゆれのない字		551字 56.9%

読みでは，教育漢字は，文字としては問題がないが，51音・訓，約3％ほど

音訓の上でゆれの現象（文字に直すと48字 5.4%）があり，教育漢字外当用漢字では，ゆれのない字は846字。ゆれのある字は123字，130音・訓，9%ほど，習得不安定の音・訓があること，総じて読みは，一度読めるようになれば，習得度の安定性はかなりあるとみなされるが，書きでは，習得度の安定性が読みに比べると低い。ゆれのある字，教育漢字で130字，約14%（教育漢字外当用漢字418字，43.1%。もっとも，教育漢字外当用漢字は，書くことまでは要求されていない）で非常に不確かであることがわかる。習得が定着するまで，反復的な書字練習の必要が認められるゆえんである。

以下に，ゆれのある文字（音・訓）を示す。

＜注＞「蚕」はゆれ現象4回，3人のものに，ゆれの現象がみえるという意を示す。したがって3人のうち1人は，2回にわたり，ゆれ現象があったことになる。人数が多い字は多くのものが，習得定着しにくい文字，人数が少ないが，ゆれの回数の多い字は特定のだれかが，続けて誤っている個人の性格による誤りであることがわかる。

なお，ゆれのある字の反正答反応現象は，ここでは略したが，字形や熟語関係のものが多く，教育漢字外当用漢字では，無答反応をとるものも相当見られた。

3. ゆれのある文字

（読　み）

教育漢字

ゆれ　4回（2音訓）[3人]蚕(サン)　[2]留(とめる)

3〃（2　〃）[2]久(ク)　生(なま)

2〃（11　〃）勧(カン)　己(キ)　経(キョウ)　金(コン)　[2]織(ショク)　納(トウ)　木(ボク)　[2]供(そなえる)　[2]推(おす)　富(とむ)　放(はなつ)

＜注＞　漢字の下の線は，1回のほうでも読みにゆれのある字。漢字の上の数字は人数を示す。1人の時は省略。また，ゆれ1回の文字例は省略。以下同じ。

教育漢字外当用漢字

ゆれ　5回（2音訓）[2人]懸(ケ)　[4]緒(ショ)

3回（3音訓）　癖ヘキ　蚊カ　香カ

2〃（26〃）　依エ　韻イン　禍カ　憾カン　岐キ　泣キュウ2貢コウ　嗣シ
侍ジ　礁ショウ2帥スイ　拓タク　斗ト　陪バイ　柄ヘイ　2網モウ
涼リョウ2獲える　脅おびやかす　仰おおせ　撃うつ　困こまる　雌め　2床とこ
淡あわい2尾あま

（書　き）

教育漢字

ゆれ　8回　（1字）　底3人
5〃　（1〃）　刊3
4〃　（2〃）　像　弐
3〃　（15〃）　異3永2慣鏡券2殺氏3辞祝初2精達統波容3
2〃　（19〃）　系険検限故者織制2製2船適党2燈俵夫2復2輸連2料

教育漢字外当用漢字

ゆれ　8回　（1字）　嬢2人
7〃　（1〃）　涙
6〃　（6〃）　3峡5偶4斎5棒2矢4柳
5〃　（13〃）　4巻3穫4遇3径3恵2鶏3御ニ飼4伸4笛4培3紡4卵
4〃　（10〃）　3菓3街3束3暖2畜2沈1盆2埋茂湾
3〃　（36〃）　3偉3域3沿2羽3滑3環3祈3輝2儀2弓2丘2胸2郷2菌2掲2穴2圏2抗
2鋼2旨2症3硝2冗3択2桃3脳3痩3幅2腹2胞2没2麻2枚3厘3浪3慮
2維陰宇鋭越2炎宴2桜2乙箇餓2塊2核2郭獲割干2勘
憾2含2岐2棄幾狂2況恐2啓2肩2献2呉2悟香2項2綱2剛2酷
2紺座2酢錯札2誌2樹2充叔署2笑2晶2彰辛振針酔2井
2姓拙染2禅桑掃捜燥2替2滝沢遅庁2抵帝2滴途奴
到塔2踏2糖背俳2箱2伴2藩批匹2姫苗2浜2浮舞2墳2偏
2浦2舗奉2魅2眠2矛郵誘2優2幼翌2頼2絡2隆2硫2励2恋2郎
廊腕

＜注＞(1) ゆれの回数8回で，3人が誤る（教育漢字　底）2人が誤る（教育漢字外当用

漢字　嬢）などの文字は，共通に誤るものが多いことと同時に，1人が続けて誤っていることを示している。字形関係にその例が多い。

(2) ゆれ現象としての誤答の型は，字形に関するものが最も多い。また，習得（2回正答）後に再び無答反応を示すものも相当に見うけられる。教育漢字外当用漢字に多い。

4. 習得のゆれと個人差

二度続けて読めるようになり，書けるようになって，習得できたとみなされた文字が，その後，再び読み，書きの上で抵抗をみせる，すなわち，習得不安定な現象を習得のゆれと呼んできたが，このゆれ現象の生ずる要因として，文字そのもの学習の有無（学校教育の場に限らず）があげられるほか，個人の性格・能力が作用することも，前にみたとおりである。

2回続けて正答したあと，読みなり，書きなりで，どの程度の習得不安定な状況があるかを，次の数字でみると個人によって，一度読み書きできた後の安定度が相当異なっていることがわかる。

(1) 読字における習得のゆれ

	〈教育漢字〉		〈教育漢字外当用漢字〉	
（生徒）	（ゆれのある字数）	（ゆれの回数）	（ゆれのある字数）	（ゆれの回数）
男子1	0（1）字	0（1）回	0（1）字	0（1）回
2	2（4）	3（5）	5（17）	6（22）
3	3（7）	4（9）	6（17）	6（21）
4	1（6）	1（6）	0（10）	0（13）
女子1	2（5）	2（5）	3（8）	3（11）
2	4（15）	4（17）	5（21・22音訓）	5（24）
3	2（11）	2（16）	9（38・41）	9（49）
4	1（9）	1（13）	9（23）	10（28）

＜注＞ ゆれのある字数とゆれの回数とが同じでないものは，2回続けて正答した後に誤った，あるいは，無答した文字（ゆれのある文字）のその後の反正答箇所数を数

えたためである。

		回 1	2	3	4	5	6	
例：悔カイ	バイ	◎	◎	バイ	◎	◎		ゆれ　1字　1回
緒ショ		○	◎	◎	／	／	◎	ゆれ　1　2

なお，（ ）内の数字は，同じ正答でも，渋り読みをしたり，初め誤読して後，自分で訂正するなど，正答の度合が正しく速く正答反応のできた◎に比べると，やや劣る程度の正答○が2回続けて，あるいは○と◎との組み合わせで2回続けて正答した後のゆれの状況をみたもので，この場合は，ゆれの字数，回数が非常にふえてくる。

一度習得できたら，あとは非常に安定性のある男子1及び安定度の高い男子4，女子1に比べると，男子2，3，女子2は安定性が乏しく，また教育漢字と教育漢字外当用漢字とでは習得のゆれの状況が異なる女子2，3，4などがおり，人により字種によって，読みの習得の確度が違っているのがわかる。

		回 1	2	3	4	5	6	
ゆれの例	暁あかつき	／	◎	◎	やける	◎	◎	（男子2）
	蚊か	／	○	○	／	／	はえ	（男子3）
	脅おびやかす	うごかす ◎	○	おどろかす	おどろかす	○		（　〃　）
	貢コウ	○	○	フ	◎	○	◎	（男子2）
	井セイ	／	／	○	○	◎	ドン	（女子2）

1）　読みの成績とゆれの関係

3年終了時の読みの成績（習得完了の文字数）と，このゆれの状況とを比較してみると次のようで

（読　み）

	〈教育漢字〉		〈教育漢字外当用漢字〉	
（生徒）	（成績順位）	（習得のゆれ安定順位）	（成績）	（習得のゆれ安定順位）
男子1	1	1	1	1
2	3	5	6	5
3	4	6	4	6
4	2	2	3	2

女子1	5	4	2	3
2	7	7	7	4
3	8	4	8	7
4	6	3	5	8

これでみると，成績と習得の安定度が正比例しているものと反比例現象をおこしているものとがある。総体的に成績もよく，習得のゆれも少なくて安定しているものは，男子1，4　女子1，成績も悪く，習得の安定度も芳しくないもの女子2，3であり，成績と習得の安定度が必ずしも合っていないもの，男子2，3，女子4などがある。

また，注でも説明したが，速く確実な反応の仕方で正答した◎と，読みに渋滞を示したり，誤って答えたが，そのあとで誤りをみずから訂正して正答した○との間には，当然のことながら，習得のゆれの差がこれだけあることがわかる。これによって，読みでは速く，確実に正答できた◎が二回連続した後には，かなり習得の安定性があるが，速答できない，迷いのある正答には，誤答（無答）の潜在性を含んでいるために，習得不安定，ゆれの現象を伴いやすいということが確かめられた。原則として，確実な正答（音訓をつくして）◎が2回続いた文字は，習得が完了したとみなして，調査対象文字からはずしたこの調査方法は，読みに関しては，かなり信頼度が高いことが認められた。

2)　書字における習得のゆれ

		〈教育漢字〉		〈教育漢字外当用漢字〉	
（生徒）	（ゆれのある字数）		（ゆれの箇所数）	（ゆれのある字数）	（ゆれの箇所数）
男子	1	4字	4箇所	55字	63箇所
	2	38	44	83	111
	3	19	25	98	106
	4	33	46	62	76
女子	1	12	16	83	94
	2	15	22	75	85
	3	14	19	57	73

4　16　20　90　99

読字に比べると，書字のゆれの度合いは，非常に高いことがわかる。

1)　書きの成績とゆれの関係

読字でもそうであったが，1度覚えると，その後の習得の安定度が高い男子1，女子1(教育漢字)は，書字の成績とこの習得のゆれ状態とが一致するが，ゆれの少ない女子3（教育）男子3，女子2（教育漢字外当用漢字）などの書字成績は不振である。これは，ゆれの少ないことが＋と－の両極限にみられること，後者のゆれの少なさは，2度続けて正答できた字の少ないことを示していることがわかり，この点が，読みの場合と異なっている。

（書　き）

		〈教育漢字〉		〈教育漢字外当用漢字〉	
（生徒）		（成績順位）	（習得ゆれ安定順位）	（成　績）	（ゆれ安定順位）
男子	1	1	1	1	1
	2	6	8	8	6
	3	2	6	3	8
	4	7	7	7	3
女子	1	3	2	2	5
	2	*4	5	5	4
	3	8	3	6	2
	4	*4	4	4	7

＜注＞＊成績順位は一応卒業時の正答字数によったので，書字数の同じ女子2，4は順位も同位とした。

以上，全体的，個人的に，習得のゆれ現象を追究してみたが，文字により，人により仮習得→習得の過程があること，この現象があるために，習得の構造が単純に一方的な直線的な構造をとらず，螺旋的な複雑な構造をとることになり，漢字の真の習得をむずかしくしていることがわかる。

Ⅳ　漢字習得の螺旋的構造

1. 卒業時における正答文字数の多様性

今までに，当用漢字の読み書きについての習得状況を見てきたが，中学卒業時には読み書きともにできることが目標となっている教育漢字に例をとってみても，整理の観点によって，成績が次のように多様性を示した。このことは何を意味するのであろうか。

(1) 教育漢字

教育漢字の読み	平均正答字数	881字
	文字中心としてみた8人正答字数	881
	どちらかの音訓では8人正答字数	881
	音訓をつくしても8人正答字数	716
	習得完了の観点から平均正答字数	820
	音訓も加え，習得完了の観点から8人正答字数	716
教育漢字の書き	平均正答字数	860.6字
	文字を中心とした8人正答字数	771
	習得完了の観点から平均正答字数	847.6
	〃　〃　8人正答字数	714 (*721)
教育漢字の読み・書きとも	平均正答字数	860.6
	8人正答字数	771
	習得完了の観点から平均正答字数	790.4
	〃　〃　8人正答字数	584 (*590)

(*　　) は，ゆれ現象を入れた数

読み書きできるようにする目的の文字数は等しく881字（読みの場合，音訓数を入れると1672音訓）でありながら，同じ生徒について，同じ問題で調べても，平均の正答字数と8人全員が正答できる数とでは異なる，ことに読みでは文字中心（何らかの音訓で読めていれば，その文字は読めたものとみなす）か，全音訓の観点もとる（音訓をつくして読めるもの）かによって，さらに減じる。また読めるか，書けるかという観点からしても，それぞれの文字数は異なり，さらに，読めもするし，書けもするという観点をとると，いっそう異なる。

2. 各種正答文字数と習得過程における漸進性

このように，正答字数に段階があるということは，一見奇異であり，また煩雑ですらあるようであるが，教育漢字881字は，8人の生徒にとって，各人が読み書きできる字数からいっても，また，共通に読み書きできる文字としてみても，完全には習得されてはいないということを示しているにほかならない。漢字の習得に段階があることを示しているのである。

また，累積の成績と習得完了の文字数とに差があるということ，習得上のゆれ現象があるという事実は，一度習得したとみうる状態になっても，それが定着せずに，再び習得前の状態にもどることもあるということ，また中には，再習得することができるものもあるということ，いわば，真の習得における仮習得→習得の過程をとる場合があるということを示している。

同じ文字を，同じ人に，くり返し調査した結果，このような習得の過程をとることが認められたわけで，このことから，文字習得の過程は，直線的上昇型を志向しつつも，実際には漸進的曲線的螺旋型をとっているといえよう。

このたびの調査では，調査文字の提出語形は，中学生にわかりやすい，一般的な語，中学生相応の語を目標にして選んだが，中には，一字について，二，三の語で試みたものもある。その際，提出語によって，正答反応に差が見られる場合のあることも前章でふれておいた。

漢字の習得について考えるとき，このように語彙との関係があることも当然

出てくる。1文字について，音訓両面から読みを調べたことも，その点を考慮しての上であり，そこに習得上の差が現われたが，さらに，字音について種々の提出語によって調べると，提出語の難易によって，読み書きの成績に差が現われるであろう。書きの場合は音訓をはずしたが，音訓の観点をいれると，このことはさらに著しくなる。

3. 漢字習得の螺旋的構造

このようにみていくと，習得の時間的な過程の上で螺旋的な段階がみられるとともに，習得の質的な面，領域的な面においても，発達的な段階があることが認められる。

各観点による煩雑なまでの正答文字数の異なりも，漢字習得の螺旋的構造としてみた場合，了解できるであろう。

正答文字数の多様性からみると，教育漢字881字は，観点間による正答文字数が一致する場合（文字として見た場合，平均正答字数と8人正答字数，および，どちらかの音訓から見て8人正答の字数がともに881字である）もあり，また，各観点間の正答文字数も比較的接近している。このことは，教育漢字が，小学校から中学卒業までの9年間，読み書き漢字としてくり返し学習される機会が多く，また，より基本的な文字であるために，その文字使用の語句も次第に範囲が広く，質的にも高度になる（音訓使用もその一つ），生徒にとって，その文字を学習する回数が重なり，しかも，その文字のもついろいろな使われかたを学習するために，螺旋的な構造をもつ習得の機能が一応はたらくからであろう。いわば，教育漢字はこの螺旋的な構造をとる習得のための文字提出を整備するものといってよい。しかし，諸観点からみて正答文字数がすべて881字にならなかったのは，音訓などを含めると，未学習あるいは学習度少，むずかしい，忘却などの諸条件から，習得の螺旋的段階の中途にあること，卒業後もさらに習得すべき段階のあることを示していると解される。

いっぽう，学習の目標も読みと書きとでは異なり，学習の時期も遅く開始さ

れる教育漢字外当用漢字では，3年間の国語学習ではその全部を教科書に提出しきれないものがあるという状況だけに，すべての文字を学習する機会さえ与えられていない。しかも一般的にみて社会的にも使用度が少ない文字が多いから，生徒にとって，くり返しその文字に接する機会は，いっそう乏しい。習得の螺旋的な機能は，まだ緒についた段階とみられる点が多い，次に示すように教育漢字に比べて，各観点間による正答文字数の開きが大きい主たる理由はここにあると思われる。

このように漢字の習得は，学習すべき(対象としての)漢字の量と質，習得を効果的にするための学習の時期と方法，習得する側の生徒の能力の三者に，それぞれ段階的な螺旋的な機能が内包されており，しかも，それらが一つになって定着への螺旋的な段階をとりながら発達していく構造をもっているといえよう。

（参　考）

(1)　教育漢字外当用漢字

教育漢字外当用漢字の読み	平均正答字数	940.3字
	文字中心として見た8人正答字数	863
	どちらかの音訓では8人正答字数	855
	音訓をつくしても　8人正答字数	708
	習得完了の観点から平均正答字数	728.4
	音訓も加え，習得完了の観点から8人正答字数	451
教育外当用漢字の書き	平均正答字数	640.3
	文字を中心とした8人正答字数	205
	習得完了の観点から平均正答字数	536.3
	〃　〃　8人正答字数	76（*131）
教育外当用漢字の読み・書きとも	平均正答字数	639.3
	文字を中心とした8人正答字数	205
	習得完了の観点から平均正答字数	448.1
	〃　〃　8人正答字数	43（*84）

第5章　表外字の読みの力と習得経路

I　表外字の読みの調査

中学校教育では学習しないのがたてまえになっている表外字が，実際には，地名・人名・教科の特殊な専門用語等で，ルビつきで使用される場合が相当にあり，その他，親しい人名・地名，一般読書，テレビ，広告・宣伝等によって，児童・生徒が目にする表外字は意外に多い。したがって教育漢字に読めない字があっても，親しい表外字は，低学年の児童でも読めるという現象がある。かれらの言語環境――文字環境の中には，相当量の表外字が実在しているのである。

そこで，この調査でも，表外字の学習について見ておく意義と必要を感じ，表外字の調査をも合わせ行なうことにしたのであるが，教育本来の目的である当用漢字の音訓にわたる全数調査で，量的負担が多くなるので，表外字は付帯調査の域にとどめた。

1. 調査の方法

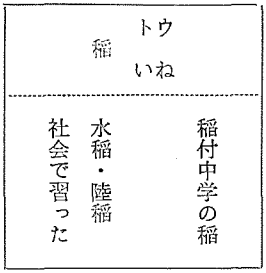
(1) 第1回めの調査

1) 調査の問題

中学生が習得できる表外字にはどのようなものがあるか，どの程度のひろがりをもっているか，また，直接，学校での学習対象ではない表外字はどのようにして生徒に習得されるか，その習得経路を推定しようとするために，なるべく，ありのままに表外字を読む力，表外字への接近の範囲，程度，習得経路な

どがわかるような調査方法を考えた。

＜問題例＞



（稲は表外字ではないが，便宜に用いてある）

次のそれぞれの漢字の読み方を知っていたら，例のように，横に書き出してください。なお，はっきり読めなくても，こんな意味で，この字が使われていたというようなことが思い出せたら，それも書いておいてください。（原文は縦がき）

（なお，生徒がその読みを書く場合は，音・訓の書きわけを，カタカナ，ひらがなによって示さなくともよいとした。問題例で，記入の仕方をよく理解させてから実施した。）

5 衿	4 袖	3 藤	2 云	1 頃
10 誰	9 脇	8 崎	7 岡	6 僕

上例のように，それぞれの文字を示し，その読みをたずね，さらに，その文字を，どこで，何によって知るようになったか，その文字の習得の経路を内省記入させる方法である。

習得経路を内省記入させるこの方法は，中学生の段階ならば，読書をはじめ，他のマスメディアによるその文字への接近，その文字の識字の経験がまだあまり複雑でないから，複雑な文字経験，言語生活を経た成人に比べてかなり習得経路の印象が鮮明と思われ，この調査方法をとったが，予期したとおり，相当効果を納めたと思われる。（後述参照）

2）調査文字

調査文字は「現代雑誌九十種の用語用字――漢字表」の表外字（使用度数9

度以上）の中から，使用度の高いもの100字を選んで，1年入学時の当用漢字全数調査の一環調査として行なった。

結果からみて，読みの反応，習得経路の記入などの状況から，対象の文字がふえれば，反応はさらに活発になり，調査の目的を達することができるであろうという見通しを得たので，調査可能な表外字の字数や字種をたしかめるために，昭和40年2月末（2月26日）に，被調査生徒の所属校・稲付中学の3年生（卒業前）に，表外字約1500字（雑誌九十種の調査で扱った表外字〈度数9度以下のものにも及ぶ〉を中心に，他の資料から）の表外字予備調査を行なった。

この3年生の予備調査結果によって，生徒の側からの表外字の調査の可能な数と字種を推定し，一方，社会での使用状況，要求という観点もあわせて考えて，表外字として調査すべき漢字の基礎を得ようとしたのである。

(2)　表外字の予備調査

1)　調査方法と結果

調査方法

表外字調査総字数	1535字（用紙31枚）
調査人員	3年生2学級分の生徒（1人が150～200字を分担実施）
所要時間	2時限分

調査結果

正しい反応を得たもの	818字
全員誤答のもの	420字（同じ文字を分担調査した全員の意）以下同じ。
全員無答のもの	297字字
全員正答の字	16　（藤僕岡崎誰阪杉吾彦靴塚潟亭亀柿柴）

上の調査結果などをも参考にし，調査字数を大体1000字前後と考えた。なお，調査にあたっては，一度に1000字とせず，徐々に増量することにした。最終的には，1018字を対象とすることになった。この中には，補正漢字（当用漢字表に加える候補の漢字として国語審議会で報告された字）も入れてある。

(3)　調査用表外字の選定

「康熙字典」によると漢字総数は40,545字あり，大量の漢字からどれを選定するかということは，実はたいへんな問題で，選定文字によって，表外字調査結果に変動が生じる。調査漢字の選定資料として，前掲，雑誌九十種の用語用字調査の漢字表をはじめ，使用したい表外字として要求度の高いもの，現実に使用度の高いもの，過去において使用度の高かったものなどを代表している10種の資料から共通度の高いもの，予備調査結果などを勘案して，約1000字の調査対象表外字を得た。この中には，書きかえ等ですでに代用漢字が使用されているものもあるが，その文字への接近状況をみるために入れたものもある。例―聯蒐戟（連収激）など。人名・地名用の特殊な字「嶋」も，特例として加えてみた。（調査の実施段階では，使用教科書調査が着手されていなかったので，教科書に出現する表外字という面からは特に字種が選ばれていない。）

調査用表外字選定の資料

書　　名	著　　者	文　字　数	調査(発行)時期
現代雑誌九十種の用語用字 ―漢字表―	国立国語研究所	度数９度以上 323字	昭和31年
(　〃　整理表未刊のもの)	(　　〃　　)	度数９度以下 1169	〃
留学生のための辞典の字母	文　部　省	755	昭和39年
新聞協会からの復活要求漢字	日本新聞協会	559	昭和28年
朝日新聞活字使用度数調査	朝日新聞社	456	昭和25年
漢字テレタイプ用表外字	共同・朝日・毎日・読売各新聞社	各社使用表外字種から225	
標準活字目録	日本活字鋳造KK	使用度の多い3000字を参考	昭和29年
標準漢字表	文　部　省	(1850字を除く)	昭和17年
国定国語教科書提出の表外字	〃	97	昭和７～14年
〃	〃	66	昭和16～18年
日本基本漢字	大西雅雄	(3000字から現行当用漢字を除く)	昭和16年

(4) 調査文字

第1回～第6回の表外字調査文字

・第1回（1年入学時）100字

頃 云 藤□袖 衿 僕△岡 崎 脇 誰 阪 之□伊□巾 廻 裾 糎 那 杉△竜△(龍□)鹿□頁 錦□或 戻△筈 吾□貰 唄 彦□旦 智□駄 呂□仙□俺 靴 阿 鶴□逢 頬 奈□嫌 眺 灯□ 坐 塚 熊□須□狙 於 綴 鳩 堀△籠 虎□弥□拭 汁△喰 斬 曽 殆 肌 叩 庄□笠 匂 縞 隅 駈 也□漬 蝶□訊 勿 唇 挨 揃 稼 股 蓋 鍋 雰 嬉 廿 拶 此 紐 桂□駒□ 昌□潟 濯 稽 葦 亭△泥△涯△芯

<注>「雑誌九十種の用語用字―漢字表―」より，表外字の使用度数順に100字。プリントの手違いで，集計では，99字として整理した。

△ 印の字は当用漢字補正案で，新たに加えられる候補漢字，□印の字は人名用漢字別表に掲げられた漢字。ともに採用字体によって調べた。なお，人名用漢字では龍，補正案では竜を採用しているので，両字で調べ，どちらをも正答とした。縄・繩も同種の扱いにした。

・第2回（1年後期）　218字

喧 尻 弘□尚△炒 釣△亀□据△皿 伎 偵△呆 瓶 磨□膝 菱 釦 鉢 雀 仇 厭 叱 嘩 悠 昇 椅 濡 甚□蓮 薩 醤 其 噌 崖 嶺 戴 栃 洞 蔭 僅 凄 叉 嘉□嘘 淳□湧 爺 猫 篇 粍 繍 胡 蘆 忽 播 洩 菅 裳 蹴 馴 呑 垣 妓 宏□巳□屏 斐 粟 溜 狼 窟 箸 縄(繩)腫 蒲 蛇 貌 辰□匙 喉 噂 幡 淋 猿 罐 葱 蒼 闇□貼 蹟 鎌□ 隙 頑 餌 馳 丞□伍 傘 巴 拐 拳 曹 朴△枕 桶 梶 棟 棚 槽 爪 狗 瓦 眉 瞳 膳 艶□荻 闇 鴨 乞 吊 吻 恰 披△挟 撒 旺 桐□泡 浩□淵 綜 綾□賑 限 鷹 丑□ 函 剃 厄△噛 壷 宛 宵△嵐 慄 扮 挑△李 沙 漠 臥 菩 覗 賭 釜 鈎 鍵 髭 斉△ 劫 咳 垢 妬 尤 峯 慾 戟 撫 柿 樽 歎 汰 洲 灌 焔 腎 苑 茹 萩 蒙 鞄 井 兜 剖 只□吠 呪 堺 姐 惹 憧 敦□柴 柏 梢 椎 椀 殻△渦△灸 燐 瘍 盃 睨 稀 糞 聯 肘 臆 茸 蒐 薇 蛋 靖□韓 顎 鼠

<注>「雑誌九十種の用語用字―漢字表―」の使用度数9度以上のもののうち，第1回のテスト100字を除いたもの。なお「漢字表」の印刷面により，乃，這，挺，及び胞を出し入れし，辻を脱したために，218字となる。

・第3回（2年前期）　322字

第1回の100字と第2回の218字に4字を加えたもの。

新しく加えた4字（這・挺・乃□・塀）

・第4回（2年後期）　667字

第1～3回共通の100字より　完全正答の10字さしかえ

殻	渦	灸	靖	燐	瘍	盃	韓	睨	稀
（藤）	（僕）	（岡）	（杉）	（鹿）	（吾）	（智）	（塚）	（堀）	（亭）

（カッコ外の字は，新しくカッコ内の字とさしかえたもの）

第2～3回共通の200字より第1～第3回までの8字さしかえ

糞	聯	肘	臆	茸	蒐	薇	蛋
（弘）	（亀）	（皿）	（洞）	（瞳）	（嵐）	（柿）	（堺）

・新しく加えた文字　362字

唖庵鞍寅□惟萎飴縊咽迂欝烏怨堰叡凹巌□瓜迦牙俄蛾斡
窪鷲楢芽娩鳳捉逗邁勃蔓沃傭拗瞭屡憐遁捺駁莫曖挽
訃聘駕諧凱碍溉骸廓烹褒姦醒癌陀樺霞芥檜苅樫葛串
諌頽憚牒逞塞毅□磯□杜欣□矯△旭毀窺濆屯臼澱疹獅痔峻瑞□
薯錐逝甥楯戚棲屑尖鹸煎詮腺僣箋槍藪粟鴻琢壕狐堆
蝉采托潰撹耽旱綻灘涵祇暢□鯛□鐡鯖汐脊吃卿遽慧舵頻
栓蘇烙爽挿蛙漕兎汝叢遜湊猪□註帖諜捗椿槌擢溺姪釘
梯竿蹄鵜顕淀鮎套玩樋杵硯妾秤聳娼嘗樟褐舷杖燭塵
夷櫛鷲曙埴壬溢琶曳茨駿肢掩斯蒋幟燕肋而悉嫉遮杓
麓渥羞嵩葺讐塾岬杭胤□媛糠榎橘□薨埼哉□桟△讃挫賽柵餐
燦笹箕爾□酌△壌△繋倦牽絃頸槻畿濠洪△幌乎糊勾篠榊梗溝
膏諏湘麹昆汲嗅鋸兇怯俠秦襟叶裔槇饅琉迄矩倶苫渓△
袈肇□詣螢蕩禱凸頓嶋銚筑楠□阜牟捻耶膿嚢覇磐把罵牌
鍬煤剣歿畠撥汎叛蜂斑抹蜜粕冥棉毬妄籾媚靡悶鋲疋
牝瀕冶祐□孵焚愈餅碧蔑癒鞭輔□卯□朋□陸□俸△萌牡捧邑輿遙
羅藍爛洛鯉□梨梁諒狸煉禄□濾櫓弄牢蠑聾辻

＜注＞　他の表外字選出資料の9種～4種までに載せられている字から選んだ字。

なお，3回までに抜けた「辻」を加えた。

・第5回（3年前期・後期〈第6回〉共通）　1000字（999字）

第5回め以降に，新しく加えた文字　332字

埃淫亦□襖喝闘檻翰蟹匡□掬芹徽圭□脛罫桁礦鮫轟肛乍祀酋竦捷鞘儘奢誦橇剪錫泄餞聡□梳蔬掻艘囃唾颱坦貪碇薹訥稔□箔氾鄙痺櫃斧焙妖熔楊螺磊顳簾櫟魯郁□奄亨□釧馨惣□蔦□麿□亮□驕寓些鑿稜穿纂輯醇竣寔曩牆廠哨蝕頑錆藉剎撰煽賎羨蟬疏遡藻鱒苔儲忝濤噸頗佩稗魄潑蕃誹逼屏抛鋒謗鰻緬麺沐裡浬礪侶諞伽苛絨軀訣菰跨昏裟滌蹂浚逡姑疼滲翠雛賛爼厨寵鼎屠弗狽瀑膠歪埠蕪捌斃哩味瞞擾凌黎鱗猥卅日什冽瑳宕亘碓戎揖驒劉宍珂簸萱訛悖嚊嗜彗咀楕褪痰胚絆攣哺瞑辣倭枢嚮醸誼眷贋謎痒埒寥詫閻瞼厩馼諦俚鑰墟嘔宋摑愕脆饑嬌撓痙虔譴眩猾拱閤咬甦吼狡猜截晒洒嘴灼瀉逎褥揉聚驟皺喘辿弛漲喋嘲躇汀啼籘躊撞咎禿徽飄屍誂轍倣紗枠粁蛤按鰯畏謂裔鷲峨恢晦偕赫柑渙雁懼詭冀饗僑禦渠禽鮭諺鰹藁傲痕鋼袴苛虹肱肴袷曠毫侈綬恤堵掠賂陋朧腑楓劈僻瞥吝尨梵沫娶

<注>　この調査文字は，表外字選定資料の3種に共通にとられたものを中心にし，2種共通のものも（107字）加えた。

1000字を目標としたが，印刷上のミスのため，集計等は999字として扱った。

(5)　調査の規模と実施

実施時期	調査文字数	
第1回（1年入学時） 昭和39年4～7月	100字 （99字）	「雑誌九十種の用語用字—漢字表」の表外字の使用順位の高いもの。
第2回（1年後期） 昭和40年2～3月	218字	同上の資料（使用度9以上のもの）から，第1回調査文字100字を除いたもの。
第3回（2年前期） 昭和40年7月	322字	第1・2回の調査文字に，印刷上漢字表脱の文字を加えたもの。(使用度9以上のもの)
第4回（2年後期） 昭和41年2～3月	667字	第3回までの調査文字に，新しく表外字選定資料からえらんだ362字を加えたも

		の。 なお，322字中から1～3回までの全員正答の18字を除き，新しい18字をさしかえてある。
第5回（3年前期） 昭和41年7月	1000字 (999字)	第4回テストの667字に，新しく表外字選定資料からえらんだ332字を加えたもの。(印刷上のミスのため，実際には999字となった)
第6回（3年卒業時） 昭和42年2～3月	1000字 (999)	第5回めと同じ。

(6) 調査の問題

第1回の調査で実施した，文字を示して読ませ，その習得経路を内省記入させる方法が適当のようであるので，1～6回とも，同じ調査形式によった。問題例（記入例。同一生徒の1年入学時・3年前期のもの）は，216・217ページ参照。

(7) 正答・誤答の判定

音・訓いずれの読みでも自由に書かせたので，反応も相当はばのあることを期待したが，これら表外字のそれぞれが使用され，生徒の目に入る経路は，この時期の段階としてはかなり基本的な形にしぼられるせいか，さほどの複雑な反応は見られなかった。

・音でも訓でも正しく読めていれば正答とした。音・訓はそれぞれ反応を整理表に記入したが，文字の正答数をいうときは，音でも訓でもどちらかが読めていればよいとした。
・音・訓の正答か否かは，漢和辞典によったが，判定に迷うほどの反応は少なかった。
・ただし，一部世間に行なわれている読み方によったものは，準正答として記録し，正答数に入れた。

漢字のよみ

1年 男女

男子1

[例] 稲（トウ いね）
稲付中学の稲
水稲陸稲理科の稲

次のそれぞれの漢字の読み方を知っていたら、例のように横に書きだしてください。なお、はっきり読めなくても、こんな意味で、この字が使われていたというようなことが、思い出せたら、それも書いておいてください。

1 頃 こう	6 僕 ぼく	11 阪 さか はん 大阪の阪 阪神工業地帯の阪	16 裾	21 鹿 しか か	26 筈 にが	31 旦 たん	36 俺	41 頬
2 云 い	7 岡 おか 名前で	12 え ゆき 友達の名前	17 糎 りん	22 頁	27 吾 ご 人の名前	32 智 ち 人の名前	37 靴 くつ	42 奈 な 地名
3 藤 とう ふじ 友達の名前	8 崎 ざき 地名、	13 伊 い 友達の名前	18 那 な 火山帯の名前	23 錦 にしき きん 相もう取りの名前 映画はいゆうの名前	28 貰	33 駄 た	38 阿 あ	43 嫌 きら
4 袖 ちゅう、	9 脇 きょう	14 巾 はば	19 杉 すぎ 友達の名前	24 或 いき りの流 或面積	29 唄 うた テレビで	34 呂 ろ 地名にあるので	39 鶴 つる すもう取りの名前で	44 眺 ちょう
5 衿	10 誰 だれ	15 廻	20 竜 (龍) りゅう	25 戻 なみだ	30 彦 ひこ 友達の名前	35 仙 せん 地名にあるので	40 逢 みね	45 灯 とう

漢字の読み

(男)　氏名　男子1

1	ころ こう 頃	6	うず か 渦	洗濯機の性質。	11	さか 阪	地名。	16	すそ 裾
2	いう 云	7	きゅう 灸	かんぼん	12	ゆき 之	名前。	17	りん 糎	歩合。
3	こく から 殻	8	さき 崎	地名。	13	い 伊	名前。	18	な 那	地名。
4	そで 袖	9	わけ 脇	相もう。	14	はば 巾		19	やす 靖	人名。
5	えり 衿	10	だれ 誰	本で。	15	かい 廻		20	りゅう りょう 竜(龍)	竜安寺。
21	りん 燐	理科	22	頁	23	きん にしき 錦	人名	24	ある 或	友達から。
26	筈	27	しょう 瘍	テレビの題名。	28	かん 貰		29	うた 唄	歌の名前で。
31	たん 旦	元旦。	32	ばい はい さかずき 盃	33	だ 駄	教科書	34	ろ 呂	地名。
36	おれ 俺	映画の題名。	37	くつ 靴	カンバン	38	あ 阿	人名。	39	つる 鶴	相もうとり。
41	ほほ 頬		42	な 奈	地名。	40	きらい けん 嫌	テレビ	44	ちょう 眺	
46	すゆる 坐		47	かん 韓	地名	48	くま 熊	地名	49	す 須	地名。
50	そ 狙		45	ともしび あかり 灯		40	あう 逢	映画の題名。	35	せん 仙	地名。
30	ひこ 彦	人名。	25	もどる 戻						

〔例〕丼(どん)　爺(じい)

「丼」のタンの音は，現実ではほとんど使われていない。国訓のどんぶりが辞典等では認められているが，天丼(てんどん)，カツ丼などの俗用も多い。「爺」音ヤ・訓ちち，国訓おやじ　が辞書的な扱いであるが，現実ではお爺(じい)さんの使われ方が多い。これらは，生徒が，これらの表外字に，どういう場合に接近しているか，接近の方向，ひろがりを知ることができるので，問題はあるが，（　）つきの正答として扱った。（将来，音訓関係の資料にもなろう。）

○　弥の「やよい」埴の「はにわ」のように，たずねる文字の読み以外まで反応した場合は，それが，下段の内省記入で「弥生式土器から」「はにわから」であり，習得経路も判然としていても，誤答として数えた。

したがって，正しくは読めなかったが，読める潜在性のある文字数は，もう少し上回ることになる。

○　文字構成の上でつくりなどの音符によって，既知の文字の同じ音符の類推による読みが中学生ともなると，多少は出てくる。しかし，そういう傾向も，下段の内省記入欄があるため，かなりセーブされているように見受けられた。

Ⅱ　表外字を読む力

1. 調査の成績

(1)　1年入学時の成績

1年入学時に，表外字100字について，その読みの反応を調べたところ，次

の結果を得た。

(ア)　8人（全員100%）が読めた字　16字

藤□僕△岡 崎 阪 伊□杉□鹿□吾□智□呂□鶴□塚 堀△昌□亭△

<注> △印の字は当用漢字補正案で新たに加えられる候補の漢字，□印は人名用漢字であることを示す。

(イ)　7人（87.5%）が読めた字　10字　錦□彦□靴，奈□灯△汁△曽 也□桂□潟

(ウ)　6人（75.0%）　〃　7字　竜△(龍□)仙□熊□肌 笠 隅 駒□

(エ)　5人（62.5%）　〃　11字　誰 巾 旦 駄 阿 須□鳩 虎□庄□漬

(オ)　4人（50.0%）　〃　10字　頃 脇 之□廻 那 唄 坐 蝶□濯 泥△

(カ)　3人（37.5%）　〃　5字　云 袖 嫌 弥□縞

(キ)　2人（25.0%）　〃　7字　眺 喰 斬 暦 稼 嬉 芯

(ク)　1人（12.5%）　〃　8字　衿 裾 頁 匂 揃 蓋 此 涯△

(ケ)　8人（全員）とも読めなかった字　25字

糎 或 戻△筈 貰 俺 逢 頬 狙 於 綴 籠 拭 殆 叩 駈 訊 勿 挨 股 雰 拶 紐 稽 葦

（なお，「研究所年報17」に読めない文字として掲げたもののうちで，その後の再整理によって，修正されたものがある。）

全員がそろって読めた字は16字にすぎないが，半数以上のものが読めた字として考えてみると，54字で，調査文字の半数は読めたことになる。これらの文字は，同時に，その反応の確度（推量読みかどうか）や，習得経路，領域を知るために，どこで，どのようなことから知ったかを内省記入させてあるので，照合してみると，あて推量の読み（一般に音に多い）ではなくて，相応に読みの根拠があり，一応信頼性があることが認められる。(後述参照)

半数以上のものが読めた54字をみると調査資料に用いた「雑誌九十種の用語用字—漢字表」の使用順位にも関係することになるが，人名に用いられる漢字が多く，人名用漢字との一致が認められる。

8人→ 藤伊杉鹿吾智呂鶴昌 7→ 錦彦奈也桂 6→ 竜仙熊駒 5→ 須虎庄 4→ 之蝶

次が地名に多く用いられる字であるが，8人→ 岡崎阪塚堀 7→ 曽潟 6 笠 5 阿 4 那，　これ

らの字は，又姓名にも用いられることが多いから，ほとんど固有名詞で占められるといってよい。また，表外字ではあるが，日常生活で多用され，当用漢字の補正用漢字として議されている漢字，僕杉堀亭灯汁竜泥も54字中にはいっている。他は靴濯漬肌唄鳩誰頃など，広告・歌謡・テレビ・一般読みものとの関係が深く，学習漢字に比べて，習得経路，習得領域が，より個人的である表外字も，正答反応が集中しているものは，共通の習得背景をもっていることがわかる。第1回調査の文字数は，わずか100字であるから，大体の傾向しか把握できなかったが，上例の字に比べて糎頁於殆此勿或など，現在では，かたかなやひらがなまじりの文字，漢文脈の文語的文章で，往年は多用された文字が，文体の変化・文字使用の改変につれて読めない傾向を示している。「糎」など，かつて，他の調査で，中・高校生に試みたことがあるが，高校生でも，ほとんど正答できていなかったほどである。(国語研究所実施　長岡地方における調査参照)

(2)　1年終末時の成績

前述のように表外字の調査文字は，調査のたびに文字数を増加していくので，字種も異なっている。ことに1年後期（終末時）の調査では，現代雑誌九十種の用語用字調査の漢字表の度数9度以上の表外字から，1年前期(入学時)に実施した100字の残りの文字について調査したので，前期の文字は重出されていない。新しく調べた218字の結果は次のようである。

(ア)　8人が読めた字　11字　弘□亀□皿 洞 狼 幡 瞳 嵐 釜 柿 堺

(イ)　7人が読めた字　8字　猫 甚□蓮 嘩 蔭 栗 傘 斉△

その他，半数（4人）以上のものが読めた字は47字ある。

偵△鈎△噌 菅 辰□垣 蘭□淋 棚 枕 泡 桐□萩 韓 殻△雀 栃 篇 淳□喉 蛇 繩(縄) 扉 猿 噂 爪 函 鷹 隈 淵 浩□挟 鍵 井 茹 靖□嶺 其 宏□伍 梶 柴 敦□只□洲 峯 稀

(ウ)　全員が読めなかった字　71字

据△呆 釦 鉢 厭 悠 昂 崖 戴 僅 凄 粍 藍 忽 洩 剛 呑 蒲 貌 罐 葱 蒼 隙 巴 拐 拳 棟 眉 艶□吊 吻 恰 綾□剃 厄△噛 宵△慄 扮 挑△沙 臥 覗 鈎 髭 劫 咳 妬

尤 戟 敲 焔 兜 剞 惹 憧 椀 渦 灸 盃 睨 糞 聯 肘 荻 臆 茸 蒐 薇 蛋 顎

この調査でも，人名用漢字や補正漢字が4人以上正答の文字の中に相当数はいっているが，しかし，前回100字圏内に比べると低く，人名用漢字では，磨嘉丑巳丞艶綾が，補正漢字では，据朴披厄宵挑渦が正答半数以下になっている。なお「柏」など全員が反応しながら「かしわ」と読んだもの3人，「かし」3人（その他，かす—1人，かしろ—1人，あわて読み）のように，「かしわ」と「かし」の区別が，文字に即して学習しないためにつかないもの，「鎌」を「くら」と読むなど，あわてて，あるいは，経験的に語全体としての知覚・認識はあっても，文字としての理解は乏しいための誤読などが散見し，表外字の読みの習得の様相を示している。半数以上の正答に洩れた人名漢字や補正漢字には，現在あまり用いられなくなっているもの，この時期の中学生には縁遠いものなどが見受けられる。もっとも「渦」など，その後電気洗濯機が急速に普及し，宣伝・広告が激しくなったために，読めるものが多くなったというような例もあり，また，「狼」というような字が，動物名としてはかながき，「狼藉・豺狼」というような語彙も使われない昨今，なぜ，全員正読（「おおかみ」）できたかと不審に思われたが，習得経路記入欄に，それぞれ「テレビ」「まんが」と記入してあり，表外字習得の一要因がつかめた思いであった。同様の例で爪があり，これは「うり」と誤読されることが多いが，「つめ」と読めたもの5人，うち，習得経路，テレビ1，映画，ポスター1，保健1，無記入2であった。教科書調査のほうでは，「爪」は理科に使用されており，解答者の記憶—「保健」と合わない点もあるが，これなど「保健」の学習を通しておぼえたという記憶が主で，必ずしも教科書を意味したものではなかったと思われる。218字の表外字群では，一般的な人名のほかには，地名，生活に関係ある物名，動植物名などに関連するもの，読書語彙と関連するものなどが，全員とまではいかなくとも半数以上のものが読める字の中に散在しているという状況であった。

(3)　3年卒業時の成績

表外字のその後の調査では，順次に調査対象文字をふやし（2年前期までの

3回の調査で，2度にわたり8人が正答できた18字（藤僕岡杉鹿吾智塚堀亭，弘亀皿洞瞳嵐柿堺）は，完全正答とみなして，他の文字とさしかえ，3年では1000字を対象とした。（前・後期共通）3年卒業時の表外字調査の成績を文字に即してみると，次のようになる。

(ア)　8人が読めた字　46字（4.6%）

阿 伊□咽 猿 梶 韓 菅 肌 崎 駒□隅 桂□螢 彦□宏□殻△坐 須□袖 汁△庄□壌△誰 潟 仙□湊 宋 蝶□椿 枕 辻 栃 柏 阪 幡 扉 猫 釜 蜜 熊□竜△(龍□)笠 菱 淋 燐 呂□

(イ)　7人が読めた字　62字（6.2%）

飴 蔭 垣 淵 俺 嘩 鍋 靴 牙 峨 鶴□磯□片 鳩 嘘 巾 狗 串 頃 鍵 壺 幌 嵯 笹 傘 蛇 雀 淳□塾 萩 裳 縄(繩) 憧 唇 辰□藉 椎 疏 曹 澱 駄 釣△偵△淀 桐□轟 那 奈□楠□唄 畠 糞 弥□菩 麿□也□梨 栗 嶺 鎌□蓮 狼

(ウ)　6人が読めた字　70字（7.0%）

闇 夷 郁□凹 鴨 俄 苅 芥 樫 雁 稀 祇 脇 錦□ 窟 嫌 糊 虎□溝 岬 浩□ 喉 柴 漬 之□只□痔 叱 篠 濡 鷲 樟 醤 尻 疹 芯 洲 靖□腺 膳 曽 蘇 爪 噂 苔 灘 筑 聾□鮎 灯△樋 凸 稔□粕 鉢 播 漠 披△琵 眉 鳳 磨□謎 熔 鷹 羅 狸 鯉□李 牢

(エ)　5人が読めた字　69字（6.9%）

云 衿 頁 或 旦 盃 逢 眺 拭 縞 嬉 昌□濯 泥△涯△喧 尚合薩 戴 篇 溜 蘭□貼 棚 荻 隈 函 宵△峯 苑 蒙 井 敦□寅□迦 蛾 陀 樺 蔦 旭 獅 楯 槍 鯛□蛙 兎 汝 遜 梯 褐 渥 橘□埼 哉□洪△榊 諏 叶 倶 蜂 塀 餅 虹 箔 麺 侶 胚 爺 倭

(オ)　4人が読めた字　82字（8.2%）

渦△裾 戻△喰 斬 匂 駈 揃 葦 炒 伎 瓶 椅 臆 僅 湧 巳□箸 貌 蒼 蹟 頑 餌 伍 朴△桶 檜 宛 樽 汰 茹 呪 唖 瓜 窪 逗 瞭 霞 檜 臼 澱 甥 乃□壕 狐 汐 卿 註 玩 舷 杖 曙 駿 蒔 讃 槻 畿 濠 俠 喬 槇 鍾 琉 磐 牝 朋□洛 鮭 腑 襖 蟹 鮫 酋 亮□藻 蕃 伽 厨 瑳 噂 鰯 叉

(カ)　3人が読めた字　107字（10.7%）

廻 狙 於 殆 勿 挨 稼 股 拶 稽 膝 仇 甚□噌 崖 嘉□胡 蹴 罐 拳 艶□乞 挟 撒 泡 綜 綾□剃 扮 挑△沙 賭 斉合劫 慾 撫 吠 蛋 鞍 茅 傭 拗 莫 駕 凱 溉 杜

欣□屯 薯 煎 鴻 舵 栓 猪□帖 挺 擢 竿 蹄 鵜 杵 燭 壬 茨 肢 遮 讐 杭 膏 湘
昆 兇 秦 迄 渓△詣 頓 阜 膿 把 斑 睦□俸△捧 爛 袴 圭□肛 坦 痺 釧 謗 訣 蕪
戎 驒 宍 眩 咬 吼 喋 籐 偕 僑 頰 襟

(キ)　2人が読めた字　88字（8.8%）

灸 籠 訊 蓋 据△悠 其 呑 腫 馳 丞□瓦 吻 旺 賑 丑□嚙 覗 咳 灌 腎 庵 烏 叡
斡 鷺 諧 廓 逞 毅□矯△屑 詮 僣 藪 琢□槌 釘 櫛 琶 嫉 榎 箕 麹 嶋 銚 牟 捻
嚢 煤 抹 祐□愈 輔□牡 遙 藍 煉 禄□藁 曠 綬 賂 僻 沫 埃 喝 闊 簾 撰 忝 稗
跨 姑 埠 鱗 悸 瞼 攀 拱 狡 逍 汀 啼 轍 粁 鶯 饗

(ク)　1人が読めた字　158字（15.8%）

筈 瘍 綴 叩 雰 廿 此 釦 凄 繍 斐 蒲 拐 棟 吊 臥 妬 歎 焔 兜 刳 惹 椀 鼠
萎 欝 巌□娩 捉 勃 醱 挽 碍 骸 姦 醒 塞 窺 冶 峻 錐 戚 棲 尖 鹸 粟 堆 采
暢□鯖 頻 烙 挿 諜 溺 姪 硯 秤 娼 塵 溢 燕 麓 媛 桟△挫 柵 爾□酌△倦 乎 嗅
鋸 苫 蕩 禱 耶 覇 罵 鍬 妄 悶 鋲 疋 瀕 卯□邑 梁 櫓 鰹 痕 錮 苟 肱 楓 劈
娶 檻 罫 桁 乍 鋤 囃 鮑 碇 斧 焙 妖 楊 癩 魯 亨□哨 蝕 錆 煽 蟬 濤 噸 誹
鋒 緬 裡 疼 翠 雛 弗 歪 哩 冽 劉 訛 彗 褪 唄 哺 嚮 閨 諦 俚 墟 嘔 嬌 甦
洒 褥 聚 弛 漲 躇 撞 誂 紗 按 恢 赫 詭 禦

(ケ)　0人の字　317字（31.7%）

糎 貰 睨 紐 聯 肘 呆 厭 昂 粍 蘆 忽 洩 馴 妓 匙 葱 隙 巴 茸 恰 厄△蒐 慄
鈎 髭 垢 尤 戟 蔽 聾 鞄 姐 梢 顎 惟 縊 迂 怨 堰 楢 邁 蔓 沃 屢 憐 遁 捺
駁 訃 聘 烹 褒 癌 諫 頽 憚 牒 毀 瀆 瑞□逝 箋 托 潰 攪 耽 旱 綻 涵 籤 脊
吃 遽 慧 爽 叢 捗 顛 套 妾 聳 嘗 埴 曳 這 掩 斯 幟 肋 而 悉 杓 羞 嵩 葺
媚 糠 薨 賽 餐 燦 繋 牽 絃 頸 勾 梗 汲 怯 矩 袈 牌 剝 歿 撥 汎 叛 冥 棉
籾 胤 靡 孵 焚 碧 蔑 癒 鞭 萠 輿 諒 濾 弄 蠟 諺 傲 肴 袷 毫 侈 恤 堵 掠
陋 朧 瞥 吝 尨 梵 淫 亦□翰 匡□掬 徽 脛 礦 祀 捷 鞘 儘 奢 誦 橇 剪 錫 泄
餞 聡□梳 蔬 搔 艘 唾 貪 董 訥 氾 鄙 櫃 螺 磊 轢 奄 馨□惣□蔦 驕 寓 些 鑿
稜 穿 纂 輯 醇 竣 寔 曩 牆 廠 頌 刹 賤 羨 遡 鱒 儲 頗 佩 魄 潑 逼 屏 抛
鰻 沐 浬 礪 謳 苛 緘 軀 菰 昏 裟 滌 蹂 浚 逡 滲 贅 爼 寵 鼎 屠 狽 瀑 膠
捌 斃 昧 瞞 擾 凌 黎 猥 卅 曰 什 宕 亘 碓 揖 珂 簸 萱 嗜 咀 楕 痰 攀 暝

辣 枢 醸 誼 巻 贋 痒 埒 寥 詫 厩 馼 鉾 愕 脆 饑 撓 痙 虔 謦 猾 閤 猜 截 晒 嘴 灼 瀉 揉 騒 皺 喘 辿 嘲 躊 咎 禿 徽 飄 屍 做 枠 蛤 畏 謂 裔 晦 柑 渙 懼 冀 渠 禽

<注> 調査文字は1000字であったが，印刷上のミスのため，整理対象文字は 999 字である。

2. 読める表外字

(1) 固有名詞

半数（4人）以上が読めた字は329字（32.9%3年後期)ある。この字種について見ると，1年の調査結果同様，固有名詞（人名・地名）として多用される字が，首位を占めている。正答の共通度の高いものの中には，人名用漢字が多く見える。

生徒が使用した各教科書の表外字調査（731ページ参照)によると，使用教科書に現われた表外字の総数（異なり字数）は 515 字，そのうち，固有名詞にしか現われなかったもの 211 字で，半数近くが，固有名詞として使われている。表外字の使用面，表記面としては当然のことであろうが，固有名詞が読める表外字の優位を占めている一つの理由もここにあると思われる。もっとも，正答の共通度の高い固有名詞は，人名・地名として，多くのものが知っているような知名度の高いもの，普遍性のあるものなどに多く，したがって，それらの中には，必ずしも教科書学習によらなくても読めるようになるものもある。身辺の親しい人名・地名や，一般的普遍的な固有名詞などは，親しい表外字として自然に読めるようになるし，また，特別な積極的な親近感から読める場合もある。一見，正答の集中を意外とするような文字，たとえば梶，嵯峨，灘が「人名・歌手」「人名・俳優（当時，テレビの機種名「嵯峨」はまだ行なわれていなかった)」「高校名（当時大学進学率の高い高校)」など，それぞれ，生徒にとっては習得の理由が判然としているものがあって，一般的，普遍的でない固

有名詞が意外に読めている場合は，知名度の高い芸能人の固有名詞であることが多い。

(2)　教科書関係の文字

(1)の固有名詞は，これに当たるものが多いが，この他，各教科の学習を通して習得される一連の表外字があることも，結果を通して，また，内省による記入例によって認められる。各教科で学習する学習事項や内容等，表外字をあてて使用するほうが便利，あるいは，どうしても使用せざるを得ない場合があり，教科書調査の結果では304字が固有名詞以外の用例の表外字としてあげられている。正答数の多い文字の中には，この種の教科書使用表外字が見られる。後述の習得経路と重複するので，省略するが，他の教科にも共通に出現するような使用度の高い表外字は，一般での使用状況も反映していて，やはりよく読める。

固有名詞に多用される崎・伊・阪・奈・彦などは数教科共通に用いられていて，全員正答文字であるが，固有名詞以外でも，「殻」は地殻の変動（国語・理科）「溝」は海溝・排水溝・下水溝・開溝・暗溝・溝（みぞ）（社会・体育・女子家庭），「菩」は菩薩（社会・美術）「琵・琶」は琵琶法師・平家琵琶・琵琶湖（国語・社会・理科・音楽）のように読める字になっている。その他，ある教科特有の用例の文字でも，知識・理解の上で必要なもの，興味・関心のあるものなどは，読めるようになる。宵（宵の口・宵宮—国），饑（飢饑—社），胚（胚乳—理），蒔（蒔絵—美），裳（衣裳—女子家庭）などは，それらが読めるようになった機会が，習得経路の記入のあるものはもちろんのこと，ないものでもなんとなく推察することができる。

(3)　興味関心領域からの文字

以上のほかに，学習と別系統に一連の読める表外字がある。

読める表外字の種類や傾向は，1年の調査とほとんど同じであるが，その後の調査文字数の増加とともに，生活の進歩向上，読書生活の拡充，テレビ，宣

伝，広告等マスメディアへの興味・関心の増大等によって，習得の領域・経路が広がったことが，正答文字を通して知ることができる。

1)　生活面から

たとえば，「塾」や「韓・縄（繩）」など，教科の学習を通して習得するものもある（内省記入による）が，多くは高校進学にそなえての学習塾として，日韓問題・沖縄返還問題など社会問題としての関心や親近性から読めるようになったことがわかる。

また，宣伝・広告・物品名などで多用される表外字は，目にする機会も多く，中には，生活上の必要性や興味の深いものもあっておのずから読める表外字となる。

「靴」など，社会科（1教科だけ出現）での使用例は，「製靴（セイカ）工場」一例であるが，正答のすべては「くつ」（「カ」と，音訓ともに読めたものもある）で，看板・広告・物品名との関連性のほうが高いことを示している。（「濯」も教科書では「あらう」―音楽―と固有名詞〈内藤　濯〉としてのみ出現しているが，正答は「タク」で，「洗濯」からと記入されている）螢飴汁など，同例の字であり，鍋鍵醤など，どの教科書にも未出でありながらよく読めており，別系統の習得要因があることを証明している。

2)　読書語彙としての文字

嘘淋憧叱嫌噂嬉謎瞳肌唇尻眉爪僕誰俺など，心情や人間関係を現わすことば，身体に関することば，人称代名詞などの一群の文字は，かながきだけでなく，一部では漢字が用いられているからでもあるが，意外に読めている。これらの文字は，文学書等をはじめ広く一般読みもの等に用いられる，いわば読書語彙的な性格の文字であるが，テレビ・映画・歌（題名・歌詞）などにも用いられる場合が多く，テロップ，字幕，レコード，看板などを通して目にする機会が多い。これらの文字が使用される情報媒体に興味や関心があるためか，ことがらやことばそのものに対する関心の反映からか，読める表外字の一面としてあげることができる。

(4)　動植物名の文字

なお，3年前・後期の1000字調査で，興味のあったことは，動植物名に関する文字が，正答反応の上位にあることである。

当用漢字制定後は，動植物名は特殊なものを除いては，かながきにすることがたてまえであるが（人名用漢字には，動植物関係の文字が入れられている），調査結果では，動植物に関する文字が多く読めている。4人以上正答のものをあげると，

動物関係

猿猫熊蛇狼虎狸兎狐（駒狗辰寅）鶴鳩雀鴨雁鷲鷹(鳳)蛙鮎鯉鯛鮭鮫鰐蟹螢蝶蛾蜂

植物関係

梶桂椿栃柏萩椎桐楠梨栗瓜樫樟欅橘榊朴檜槻槇菅菱芹蓮柴篠苔蘭荻葛葦笹

などである。これらは動植物名本来の文字としてよりも，地名・人名（芸名）をはじめ，すもうのしこ名(記入例—鶴が嶺・柏戸)，物品名（螢光灯・樟脳・笹飴・笹かまぼこ）会社名・寺院名（三菱銀行・苔寺・蟹満寺），題名・比喩表現（「夕鶴」「狼少年」「鞍馬天狗」「螢雪の功」「狸の腹つづみ」）などに用いられることが多く，動植物名による呼称・名づけをとる日本語の特性によるものと思われる。

3. 表外字を読む力の進歩

1～6回の調査を通して表外字の読みの成績は，読めた字数では，進歩発達が認められるが，正答率では伸びが認められない。これは，年とともに，調査文字，しかも使用度の少ない字が加わっていくための結果であろう。しかし，同種の文字を調査した3年前期と後期（卒業時）とでは，前期の調査の方に好成績を示している生徒もいて，平均読字数もやや下回っている。これは，表外字が学習漢字でないために，習得の安定性に欠ける場合もある，調査時期が高校進学試験（表外字との接近，関心は，当用漢字に比べて，疎遠になると推定

される）を終えた直後で，落ちつかない時期であったこと，漢字力の豊かな生徒に，調査当日心身の不調がみられたことなどにも起因しているようである。しかし，3年間を通じた表外字調査の全体の印象としては，読みの反応が学年なりの伸長を示しているように感じられた。

(1)　音訓反応の深化

その伸長の内容の一つに，一つの文字に対する音訓反応の深化ということがあると思われる。

たとえば，藤という字を読ませて，「トウ」と答えた場合と，「トウ・ふじ」と二様の読み方を示した場合とでは，一般にいって，後者の方が，藤という文字についての字義，はたらき，使用範囲についてよく知っているといえる。表外字の中には，一般に訓のみ（例えば，国字の榊（さかき）・笹（ささ）・辻（つじ）・鰯（いわし）など），音のみ（韓（カン），塾（ジュク），駄（ダ）など　）が用いられるのもあるが，ほとんどは，音訓両読みをもち，両者が読みわけられることは，どちらか一方が読めるより，その文字への親しさ，確かさを表わしていることになる。ことに，つくりや冠などの音符によってあて推量な音よみがなされる場合もなしとしない。「鍵」を健・建と共通する音符「建」によって，「ケン」とだけ読むより「かぎ」と読めた方が，この文字の字義も一応心得ての反応と解される場合が多い。このような観点でみた場合，表外字の読みの成績も学年による発達が認められるのである。

(2)　2年前期と3年後期の比較

同種の文字について比較するために，2年前期の第3回調査と3年卒業時の第6回調査に，共通に調査した304字（第4回め調査文字322字から出し入れのあった18字を除いたもの）についてみると，次のようになる。

第3回めと第6回めの調査結果では正答数の上昇は当然のこととして，音正答と訓正答の伸びの率が第6回では倍近くなっていることがわかり，それだけ同じ表外字に対しての親近の度合い，習熟度が高くなっていることが認められ，調査時の印象が確かめられたわけである。なお，個人的にみても，音優位

2年と3年の調査結果の比較

	2年前期（第3回め）			3年後期（第6回め）		
	音正答数	訓正答数	文字としての正答数	音正答数	訓正答数	文字としての正答数
男子1	91字 (29.9%)	105字 (34.5%)	175字 (57.6%)	119字 (39.1%)	142字 (46.7%)	236字 (77.6%)
2	53 (17.4)	50 (16.4)	100 (32.9)	101 (33.2)	81 (26.6)	168 (55.3)
3	59 (19.4)	49 (16.1)	102 (33.6)	56 (18.4)	72 (23.7)	125 (41.1)
4	61 (20.1)	79 (26.0)	133 (43.8)	89 (29.3)	119 (39.1)	201 (66.1)
女子1	52 (17.1)	71 (23.4)	120 (39.5)	77 (25.3)	118 (38.8)	184 (60.5)
2	69 (22.7)	46 (15.1)	114 (37.5)	54 (17.8)	46 (15.1)	99 (32.6)
3	34 (11.2)	44 (14.5)	77 (25.3)	53 (17.4)	58 (19.1)	109 (35.9)
4	58 (19.1)	85 (28.0)	141 (46.4)	74 (24.3)	111 (36.5)	184 (60.5)
平均	59.6 (19.6)	66.1 (21.7)	120.3 (39.6)	77.9 (25.6)	93.4 (30.7)	163.3 (53.7)

音正答は音のみの正答反応の文字数ならびに正答率
訓正答は訓のみの正答反応の文字数ならびに正答率
文字としての正答はどちらか一方でも正しく読めていた文字数とその正答率

のものより，訓優位のものの方が，表外字の読みの成績がすぐれている。

表外字の正答反応のうち，学年が進むにつれて音だけで答えるものより，訓で，あるいは音訓両様で答えるものの数がふえたことによって，表外字の読みの力が，より確実になったことの一証左と解したが，反応の仕方を具体的に，文字についてみると，さらにこのことが確かなものとして認められる。

(3)　文字による音訓の優位反応

3年後期（卒業時）第6回の表外字調査の結果から，4人（半数）以上が正答した文字について，音・訓どちらが優位であるかを見たのが次の例字であるが，音の反応が訓より多いもの150字，訓の反応が音より多いもの174字，音・訓の反応が相半ばしているもの5字となっている。しかも，音優位の字は，それが一般に使用される場合はやはり音での使用が多く，訓優位の字も，おおむね訓での使用面が多いというように，一般での使用面がかなり反映されていて(中に，多少問題のあるものもあるが)，表外字を読む力が，思ったよりは，信頼を置いて見ることができると思われる。

1)　音優位の字　150字

殻伊那竜燐旦駄呂仙阿奈坐韓須拭曽庄縞也蝶桂濯稀涯芯喧糞尚炒伎偵瓶磨嘩椅漣薩醤嶺戴臆蔭僅叉淳爺篇播裳溜窟蛇貌喉幡蘭蹟頑伍曹朴槽狗膳披浩李漠菩汰洲苑茹蒙憧唖咽迦俄蛾鳳逗瞭陀鳶澱疹獅痔楯腺壕嵯祇卿蘇濤遜註梯玩樟褐舷夷曙駿塾讃壌槻畿濠洪諏俠喬饅琉倶螢凸磐蜜琵塀羅洛牢腑酋箔熔郁筑亮藉疏蕃麺侶伽厨瑳噌胚倭宋峨雁(第6回テスト以前の正答字種18字は除く。以下同じ。)

2)　訓優位の字　174字

頃云袖衿渦崎脇誰阪之巾裾靖頁或戻唄彦盃俺靴鶴逢嫌灯熊鳩虎弥汁喰斬肌笠匂隅駈漬唇揃鍋嬉駒昌潟葦泥辻尻鈎菱鉢雀叱栃嘘湧猫菅垣宏巳扉栗狼箸縄辰噂淋猿蒼貼鎌餌傘枕桶梶棚爪眉荻闇鴨桐淵隈鷹函壷宛宵釜鍵峯樽萩井只呪敦柴柏椎寅飴凹瓜牙窪樺覆芥槍苅樫串磯旭臼甥槍乃狐灘鯛汐蛙兎汝湊椿淀鮎樋杖鷲蒔渥岬橘埼哉笹幌糊篠榊溝叶槇肇麿楠畠蜂粕牝餅朋鯉梨狸鰯虹襖蟹芹餃轟苔謎鰯

3)　音訓同数の字　5字

錦眺濡稔藻

4. 表外字と習得

表外字は，当用漢字のような学習漢字と異なり，習得の要因がより個人的なものであること，また，練習効果が期待されないことなどから，調査結果に固定性が少ないのではないかということが考えられる。6回の表外字調査中，第1・2回は同種の文字を調査していないが，他は文字数の増減があっても，同じ文字が調査対象文字の中に含まれている。したがって第4回調査には，完全正答文字として除いた18字を除くと，通算5回の調査を実施した文字は318字ある。それらを中心に，6回にわたる調査の正答反応をみると，次のような結果となり，表外字と習得の関係が考えられる。

(1)　正答反応が高く，しかも固定的な文字群　95字

1)　第1回～3回の調査で2回とも8人正答の字　18字

堺	亀	堀	吾	岡	弘	杉	柿	智	塚
2 290	107	54	27	7	103	19	270	32	47

亭	藤	洞	疃	皿	僕	嵐	鹿
97	3	138	214	109	6	245	21

<注>　文字の左上の数字は同反応回数を，下の数字は出題番号を示す。以下同じ。

2)　通算5回の調査で4回とも8人正答の字　8字

伊	彦	汁	潟	枕	阪	釜	呂
4 13	30	59	93	204	11	256	34

同じく4回とも7人正答の字　1字　4 29 唄

3)　5回の調査で，3回8人正答の字　17字

猿	靴	鶴	殻	崎	肌	桂	宏	須	誰	仙	栃	梶	猫	笠	菱	淋
3 184	37	39	300	8	64	90	164	49	10	35	137	206	148	67	116	183

同じく7人正答の字　7字

壺	傘	辰	桐	棚	也	鎌
3 242	198	178	228	208	72	191

4)　5回～2回の調査で，2回8人正答の字　20字

咽	韓	隅	螢	溝	坐	壌	湊	朱	駄	灯	釣	幡	扉	熊	鯉	梨	竜
2 333	317	70	559	532	46	615	477	951	33	45	106	182	166	48	682	683	20

(龍)蓮	狼
129	170

同じく7人正答の字　24字

蔭	俺	淵	巾	錦	糊	浩	幌	轟	笹	萩	藉	腺	疏	偵	泥	淀	那
2 139	36	231	14	23	527	230	525	747	511	281	820	430	827	111	98	495	18

弥	泡	鷹	羅	蘭	嶺
57	229	236	678	188	135

上に掲げた字は，正答反応も高く（8人又は7人），また固定している文字群である。調査回数は調査文字によって5回～2回と回数に幅があるが，表外字の場合，2回以上続けて正答できるということは，相当固定度の高い文字と考えられる。なお，これに属する文字は，いくつかの文字を除くと（螢，溝，壌，湊，宋，鯉，梨，糊，幌，轟，藉，腺，疏，淀，羅）表外字調査文字のうち，初めのころに提出された文字，換言すれば，「雑誌九十種の用語用字—漢字表」の使用度数9度以上の文字が多い。一般に使用度数が多いということは，文字を目にする，接近する機会も多いことになろう。両者の関連の深さを知ることができる。

読める表外字としての性格をもっている文字（前述）が，その多くを占めている。

(2)　正答反応は(1)に比べるとやや低いが，反応が固定的な文字群

1)　4回，6人が正答の字　2字

4
雀 119　漬 73

3回，6人が正答の字　4字

3
柴 295　闇 218　樋 499　粕 641

2回，6人が正答の字　19字

2
虎 56　噂 181　脇 9　廻 15　縞 69　芯 100　尻 102　叱 122　膳 215　樽 271　凹 340　疹 412　夷 513　肇 557　筑 566　琵 644　鷲 515　狸 686　榎 599

2)　3回，5人が正答の字　5字

3
衿 5　頁 22　樺 386　洪 524　湿 588

2回，5人が正答の字　11字

3
敦 294　荻 217　眺 44　戴 136　鯛 454　諏 534　叶 546　琶 520　乎 526　麺 851　倭 930

3)　4回，4人が正答の字　2字

箸 172　宛 243

3回，4人が正答の字　7字

3
挟 仇 斬 桶 餌 玩 槇
225 120 61 205 194 498 548

2回，4人が正答の字　25字

2
喰 瓶 叉 朴 湧 匂 揃 爺 臆 戻 蒼 窪 瞭 昆 頓 槻 爛 壕
60 113 142 203 146 68 79 147 311 25 187 348 362 537 563 621 680 439
檜 堆 麓 瓜 蟹 鮫 亮
489 441 587 342 736 746 801

半数（4人）以上のものが，正答反応を示した文字で，同じ反応の回数が多いものが，固定的であることになる。もっとも，この文字群の中には，調査回数が必ずしも多くないもの，後期になって調査した文字もあるから（番号の多いものは調査回数の少ない文字）同一反応の回数のみをもって，固定性を言い切れないものもあるが，概して，回数の多いものは正答反応の高い文字であるといえる。

(例)

調査時	1回	2	3	4	5	6
雀	×	5人	6	6	6	6
濱	5人	×	6	6	6	6
芯	2	×	3	5	6	6
凹	×	×	×	5	6	6
樽	×	3	5	6	6	4
噂	×	5	5	4	6	6
尻	×	3	4	4	6	6

×は調査をしないことを示す。

もっとも，上にみるように，同じ正答人数・正答回数であっても，正答反応の内実は，安定型，上昇型，下降型，不定型などがあり，必ずしも同じでない。この文字群では，まれに下降型もあるが，多くは上昇・安定型である。

(3)　ある調査時では，高い正答反応を示すが，それが持続あるいは，固定しない文字群（読めた人数は，5回の調査で最高の人数であったことを示す）

1)　5回の調査で，1回，8人正答の字　39字

1
阿 嚊 峨 菅 磯 鳩 旭 駒 串 頃 圭 喉 嵯 埼 蒔 袖 塾 篠
38 123 1012 157 401 53 405 91 393 1 741 180 442 602 578 4 593 529
庄 昌 洲 厨 芹 蝶 椿 辻 奈 罵 胚 柏 漠 播 磐 糞 菩 蜜
66 92 274 878 739 74 463 108 42 627 924 296 251 155 625 308 253 640
李 栗 燐
249 168 303

2)　5回の調査で1回，7人正答の字　53字

1															
椅	垣	鍋	迦	伽	牙	俄	茄	函	狗	窟	鍵	嘘	岬	虹	斉	哉	薩
126	162	83	543	858	344	345	390	238	211	171	258	144	594	704	260	603	130
只	飴	濡	淳	裳	縄	唇	甚	椎	井	靖	曾	蘇	曹	爪	漕	蛇	苔
287	331	127	145	158	173	77	128	298	284	316	62	467	202	210	472	176	831
旦	灘	憧	屯	楠	畠	餅	篇	峯	鳳	蜂	謎	蒙	麿	侶	隈	或	
31	450	293	409	567	633	659	149	266	353	637	937	282	800	856	235	24	

3)　5～2回の調査で，1回，6人正答の字　47字

1															
濯	鴨	槽	醤	稀	噌	嫌	磨	渦	蹟	涯	披	頑	盃	眉	逢	鉢	獅
94	219	209	131	307	133	43	114	301	190	99	224	193	305	213	40	118	413
槍	祇	倶	凸	榊	郁	雁	毫	樟	讃	杖	琉	畿	牢	腑	熔	尚	蛾
433	452	553	562	530	793	1019	392	507	605	510	550	622	692	718	785	104	346
芥	註	痔	肢	銚	逗	鮎	鋼	襟	樫	埴							
388	479	414	575	565	355	496	700	545	391	517							

4)　5～2回の調査で，1回5人正答の字　51字

1															
兎	襖	箔	藻	蓄	瑳	噂	伍	苑	茹	其	伎	云	溜	鼠	胡	吠	炒
473	731	777	829	842	903	917	197	279	280	132	110	2	169	319	152	288	105
挺	呪	乃	塀	嬉	殆	貼	喧	崖	拭	宵	綴	寅	陀	杜	鴻	帖	茨
322	289	323	324	85	63	189	101	134	58	244	52	328	385	402	436	480	522
橘	禄	梯	褐	釧	騨	宍	遜	洛	楯	牟	狐	蛙	汝	棉			
600	688	490	508	796	909	911	476	681	422	569	440	471	474	643			

5)　5～2回の調査で，1回，4人正答の字　63字

1															
傭	漑	澱	煎	栓	鵜	湘	杭	朋	肛	脅	坦	痺	蕪	戎	汰	乞	巳
360	377	411	428	465	493	535	595	666	748	751	771	780	888	907	273	220	165
慾	綜	裾	斐	霞	逞	臼	汐	卿	蹄	侠	迄	嶋	遮	濠	牝	祐	輔
267	232	16	167	387	398	410	457	460	492	543	551	564	585	623	651	654	664
唖	鞍	凱	鹸	曙	鮭	稗	翻	駿	捻	煤	舷	喬	饅	扮	賭	僅	葦
325	327	375	427	516	695	838	1007	523	570	630	509	547	549	343	255	140	96
閤	蛋	拳	覗	阮	腎	甥	劫	貌									
964	315	201	254	71	278	421	261	177									

1回のみ，高い正答反応を示した文字の中には，

菅（×6667 8）　袖（3×4778）　蝶（4×6678）

柏（×3477 8）　鍋（5×4667）　狗（×2346 7）

鍵（×4666 7）　嘘（×3455 7）

などのように，高い正反応の上昇固定型を含むもの（1又は2の文字群に入れてもよいものがある）

蜜（××× 678）　楠・畠（×××667）　麿（××××57）

のように，調査回数が少ないために，反応固定数の少ないものもあるが，反面に

昌（8×6765）　洲（×46586）　漠（×15586）

蹟（×２４２６４）　殆（０×５２３３）

などのように，ある調査時の高い正反応が必ずしも固定せず，浮動しているものもある。これらは，その調査時に，何等かの刺激によって，その文字が強く印象づけられたが，その後は持続しない，表外字的特徴をもったものといえよう。

(4)　正答反応が低く，しかもそれが固定的な文字群

1)　５回の調査で，５回とも正答０の字　21字

5
糎 貰 厭 廩 忽 洩 馴 葱 隙 巴 恰 厄 慄 髭 尤 戟 睨 聯
17 28 121 153 154 156 160 186 192 199 223 240 246 259 265 268 306 309
肘 蒐 顎
310 313 318

2)　３回の調査で，３回とも正答０の字　71字

3
惟 縊 迂 怨 堰 楢 邁 屡 遁 捺 駁 訃 聘 烹 褒 癌 諫 頽
329 332 334 337 338 350 356 363 365 366 367 371 372 380 381 384 394 395
憚 毀 濆 瑞 逝 濆 耽 旱 綻 涵 籤 脊 吃 遽 叢 捗 顚 套
396 406 408 417 420 445 447 448 449 451 455 458 459 461 475 482 494 497
妾 鐙 曳 勾 矩 掩 斯 幟 肋 杓 羞 葺 胤 賽 餐 燦 繋 牽
502 504 521 528 552 576 577 579 581 586 589 591 596 607 609 610 616 618
頸 牌 剝 歿 汎 籾 媚 靡 孵 焚 碧 蔑 鞭 輿 弄 蠟 聾 694
620 628 631 632 635 646 647 648 655 656 660 661 663 673 691 693

3)　２回の調査で，２回とも正答０の字　143字

2
諺 儆 肴 袷 毫 侈 恤 堵 陋 朧 瞥 吝 尨 梵 淫 亦 翰 掬
696 699 706 707 709 710 712 713 716 717 722 723 724 725 729 730 735 738
徽 脛 礦 祀 捷 鞘 儘 奢 誦 櫨 剪 泄 聡 梳 蔬 掻 艘 唾
740 742 745 750 753 754 755 756 757 758 759 761 763 764 765 766 767 769
貪 董 訥 鄙 櫃 螺 姦 轢 馨 惣 些 鑿 穿 纂 輯 醇 寔 曩
772 774 775 779 781 787 788 791 797 798 804 805 807 808 809 810 812 813
牆 廠 頌 剎 羨 儲 頗 佩 魄 遏 抛 沐 礪 謳 縅 軀 裟 滌
814 815 818 821 825 832 836 837 839 844 846 852 855 857 860 861 866 867
滲 贅 俎 寵 鼎 屠 狽 瀑 膠 捌 昧 瞞 擾 黎 猥 卅 曰 什
873 876 877 879 880 881 883 884 885 889 892 893 894 896 898 899 900 901
宕 亘 碓 揖 萱 嗜 痰 鑿 隕 辣 枢 醸 誼 贋 痒 埒 寥 詫
904 905 906 908 914 918 923 926 928 929 931 933 934 936 938 939 940 941
厩 馼 鍮 愕 脆 饑 撓 痙 虔 謎 猜 截 晒 嘴 灼 瀉 斃 喘
944 945 948 953 954 955 957 958 959 960 969 970 971 973 974 975 981 982
辿 躊 咎 禿 徽 倣 枠 蛤 畏 謂 裔 晦 渙 懼 糞 渠 禽
983 992 994 995 996 1001 1003 1005 1008 1009 1010 1014 1018 1020 1022 1026 1027

正答反応が皆無で，しかも，それが固定化している上の文字群は，第１の文字群と対照的に調査が後期に行なわれた文字，使用度が低い，字形も複雑でむ

ずかしい文字であることがわかる。もっとも，糎・貰をはじめ，厭忽洩馴隙巴恰厄慄尤睨髭肘顎葱戟聯蒐蘆などは，単に字形の複雑さ，むずかしさというよりは，現在では，かながきがたてまえで使用されないもの，他の文字で代用されているもの，略体のあるもの，又，抽象語に用いられる文字として，固有名詞，物名，その他これらの文字面にふれることの機会が少ないものなどであること，したがって，この期の中学生には縁の少ない字ということに所以していると思われる。他の文字で書きかえることが定着している聯（連合），蒐（収集），戟（刺激）など，その接近度を調べるために，特に調査してみたところ，やはり，反応は0で，書きかえ漢字としての連・収・激が，予想どおりの高い定着度をもっていることがわかった。

(5)　正答反応も概して不振，正答反応に浮動性のあるもの　359字

上掲1～4の文字群にはいらない，残りの文字群である。この文字群は，読みの成績からいえば4の文字群と大差ないが，0に固定せず，時に多少の正答反応もまじっており，偶然的な刺激や印象によって読めるが，それが身につかない，個人的な習得のばらつきがある，表外字らしい浮動性のあるものといえる。後半の調査文字に多い。これらの中には，教科書に出現した文字も多少含まれているが，教科書に出現したことが読みの力となってはいない文字である。

(5)の文字群359字

之 筈 頬 狙 於 籠 叩 訊 勿 挨 稼 股 蓋 雰 廿 拶 此 紐 稽（第1回から）
据 呆 膝 釦 悠 昂 凄 嘉 粍 繍 蹴 呑 妓 腫 蒲 匙 罐 馳 丞 拐 棟 瓦 艶 吊 吻 撒 旺 綾 賑 丑 剃 噛 挑 沙 臥 鈎 咳 垢 妬 撫 歎 濯 焔 鞄 兜 剞 姐 惹 梢 椀 灸 瘍 茸 蔽（第2回から）　這（第3回から）
庵 萎 欝 烏 叡 巌 斡 鷲 茅 娩 捉 勃 蔓 沃 拗 憐 茣 醱 挽 駕 諧 碍 骸 廓 姦 醒 牒 塞 毅 欣 矯 窺 峻 薯 錐 戚 棲 屑 尖 詮 僣 箋 藪 粟 琢 采 托 攪 暢 鯖 慧 舵 頻 烙 爽 挿 猪 諜 槌 擢 溺 姪 釘 竿 杵 硯 秤 娼 嘗 燭 塵 櫛 壬 溢 燕 而 悉 嫉 嵩 響 媛 糠 薨 桟 挫 柵 箕 爾 酌 倦 絃 梗 膏 麹 汲 嗅 鋸 兇 怯 秦 苫 渓 袈 詣 蕩 禱 阜 耶 膿 嚢 覇 把 鍬 撥 叛 斑 抹 冥 妄 悶 鋲 疋 瀕 冶 愈 卯 睦 俸 萌 牡 捧 邑 遙 藍 梁 諒 煉 濾 櫓 癒（第4回から）

埃喝闊檻匡罫桁乍鋤錫餞囃颪碇稔氾斧焙妖楊癪簾魯奄亨蔦驕寓稜竣哨蝕錆撰煽賤蟬遡鱒忝濤噸潑誹屏鋒謗鰻緬裡浬苛訣莵跨昏蹂浚逡姑疼翠雛弗歪埠鼈哩凌鱗冽劉珂簸訛悸彗咀楕褪絆哺嚮眷闥瞼諦俚墟嘔擱嬌眩猾拱咬甦吼狡洒逍褥揉聚鹸弛漲喋嘲汀啼籘躇撞飄屍誂轍紗粁按鴛恢偕赫柑詭饗僑禦鰹薫痕袴苟肱贋緩掠賂楓劈僻沫娶（第5回から）

Ⅲ　表外字の習得経路

1．1年入学時の調査から——習得経路の手がかり

上掲のように表外字調査では，単にその文字の読みを調べるだけでなく，どういう文字領域・文字背景を媒体として，その文字が読めるようになったか，習得経路，習得の媒体となった文字環境を内省記入させる方法をとったので，習得要因を推定する上で非常に効果的であった。

まず1年入学時の表外字の習得経路であるが，はたして習得経路を想起して記入してもらえるかどうかをあやぶむ気持も皆無ではなかった。にもかかわらず，よく想い出して記入してもらえた。表外字に接することは，他の教育漢字や教育漢字外当用漢字のように，多方面から，又しばしばではないために，接近した際の印象が，文字経験の複雑・雑多な成人に比べると鮮明であるからか，予想以上に，習得経路を知ることができた。反応のおもなものをあげると，

〔人　名〕

藤　伊（5人，習得経路を人名からと答えた人数を示す。以下同じ）　堀(4)　岡彦塚桂(3)　智阪杉袖（女性教師の名という注釈つき）熊也(2)　笠曽昌吾蝶弥鹿(1)

なお，錦きん（映画俳優の名），錦にしき（すもうとりの名……しこ名のこと）彦（マンガ・少年サンデー）というような反応もあった。人名と答えても，姓

に多いもの，名につけるものと別のあるものがあり，藤伊岡のように姓として一般的に普遍性の高いもの，特定の親しい人（親・きょうだい・友人・先生等）の姓や名，知名度が高い，また愛好するスポーツや芸能関係者の名，愛読書の著者名・主人公名などの種々相はあるが，いずれにしても人名に関するものが，表外字習得に大きな役割を果たしていることがまずあげられる。

〔地　名〕

仙奈(3)　塚潟(2)　岡崎呂曽熊(1)のように，同じ文字でも，あるものは親しく印象の強い人名からその文字に親しみ，あるものは「社会科の地理や地図帳の地名」からおぼえることがわかる。また，教科の学習の際に，その文字の読み方をおぼえたものは，次のように答えている。

〔国　語〕　堀(1)

〔社　会〕　阪(1)（用例として「阪神工業地帯」と具体例をあげている。）

那（火山帯の名２）　阿(2)　須(2)　鹿(2)　弥(1)（弥生式土器）　隅(1)

〔理　科〕　杉(1)　坐(1)

〔体　育〕　巾(2)

〔家　庭〕　袖 衿 汁 漬 鍋 濯（各１）

〔音楽・うた〕　灯(2)

など，他教科の学習が始まってあまり間のないころとしては，かなり，他教科の学習の影響がみられる。その他，

〔本・新聞など一般読書〕

肌(2)　灯 汁 喰 虎 笠 亭 涯（生涯）泥（各１）

〔テレビ〕

錦(2)　吾 誰 唄 斬 曽 蝶（各１）

〔看板〕　靴 鳩(1)　竜（日光見学の時）(1)

〔店頭〕　靴 鍋 (1)

〔表示・展示物・物品名・呼称等〕

呂（例—風呂）　漬 泥 唄（レコード），脇（例—すもうの位，関脇）　鳩（バス名）　鹿（ばかのか）

このようにして見ると，非常にしばしば，しかも，雑多な文字環境からその文字を見，おぼえるという習得経験のある成人の場合はともかくとして（成人でも，その文字の初見の際，非常に印象が強ければ，その文字とともに，その習得の経路も正確に，又は鮮明に想起できる），中学生の段階ではかなり正しく想起できることがわかる。ただし，8人共通に正答できた文字の中でも，あるものは人名で，あるものは地名でというように，習得経路が，必ずしも一様でないことが，学習漢字とは異なる表外字の習得要因の一つの特徴といえよう。

しかしそうした特徴をもちながら，反面に地名・人名など，その文字の使用領域が集中的なものは，共通の基盤からその文字に接近するためか，期せずして，その習得経路も共通してくるということをも示している。正答反応の多い文字に，後者の例をみることが多い。そしてこれらの習得経路の記入事項と照合してみた場合，表外字の読みの正答反応がそれぞれ何等かの必然性をもち，納得できるものを有していること，正答が，単なる偶然や推量読みの結果でないことがわかる。

2. 表外字の習得経路

1年の調査結果を通して，生徒たちは，その読みに答えたばかりでなく，その習得経路についても可能なかぎり記入することに協力，内省記入法の成果が認められたので，以後の5回の調査も引き続きこの方法によった。1年～3年，6回にわたるそれらの内省の記入によって，それぞれの文字とその習得経路の間に関連性のあることが認められた。

6回にわたる調査で，8人の生徒がその文字についての習得の経路・領域，習得の媒体となったことばとしてあげたものを整理してみると，次のようになる。8人それぞれ個性があり，文字環境も異なり，調査回数も6回にわたっているので，内省の反応も，集団調査の結果のように集中的でないものもあるが，文字習得の要因を考察する資料にもなるので，正答反応数の多少に関係なく，習得反応の実態を次に掲げることにする。（生徒が記入したそのままの形によ

って整理してある。）

(1) 人名から

藤之伊岡杉錦吾彦智鶴堀也蝶桂辻弘甚蓮栃淳嘉菅垣宏巳栗丞伍梶荻桐浩瞳淵綾壷斉萩敦柴柏椎靖乃寅芥樫毅杜欣臼獅琢嵯湊猪樋榎橘哉笹箕篠榊叶喬槇蟇嶋楠畠粕疋祐輔朋鯉匡芹圭稔楊蔦麿亮瑳亘宍汀峨鷹（以上主として人名のもの）*那鹿崎阿奈塚熊須虎弥曽庄笠稼駒昌亭尚雀悠嶺叉呑斐辰蘭朴桶膳鴨隈丑嵐李沙峯樽堺鞍瓜迦窪茅凱苅磯旭汐椿鵜淀鮎杵櫛鷲埴渥駿溝筑牟睦梨蟹鮫轟郁厨燕宕雁鳳（＊印以下は，人名のほかに他の経路も並存するもの）

〔学校名〕　桐淵駿郁塾

〔会社名など〕　菱（三菱銀行）旺（旺文社）

〔神社仏閣など〕　靖（靖国神社）　竜（竜安寺）　蟹（蟹満寺）

〔動植物名〕　（「動植物名から」とこたえたもの）熊狼兎　鳩鵜鷲雁蛾蛙鯛鮎鰯鯉　樺椿

「人名から覚えた」と生徒が記入したものは以上のようであるが，人名と書いても，その中には

1）一般に姓として用いられるもの　例―伊藤阿堀栗　辻茅荻斉菅

2）　〃　名として　〃　　智昌靖淳嘉　之吾弥彦也哉

（これらの中に，友人・先生・知人等，身辺の親しいものから，一般に多い姓・名として，目にふれる機会の多いものまで，いろいろある。「友だちの名」「先生の名」など，注記しているものもあって，それがわかる。）

3）スポーツ・芸能関係等で知名度の高い人名。

かれらにとって，親しい，これらの固有名詞から覚える表外字が意外に多い。

錦（にしき）「すもうとりの名」，錦（キン）「俳優の名」からなどは，前者は栃錦，後者が中村錦之助からであることが察せられる。

すもうの力士の名（四股名）は場所中くり返し放映され，しかもアナウンス

によって文字の音声化（よみ）が伴ない，新聞などでも見る機会があるから，生徒には表外字の取得マーケットということになる。

「栃，柏」などは特記されてはいないがそれであろう。鳳（力士名から），籠（すもうのへや），脇（すもうの位，関脇）などの記入が見られる。

桂（かつら）「落語から」「桂米丸」と明記したものもある。梶（かじ）「歌手の名」は梶光夫，嵯・峨（さ・が）も「映画・人名から」が多く嵯峨美智子からであろう。（3年になって，1人が「嵯峨天皇のお名前」に気づいて記入している。なお，当時はテレビの機種名「嵯峨」はまだ行なわれていなかった。）

このようにしてみると，あまり一般的でないもので，ただ人名からとしたものの中に，この系統のものが，相当あることが推察される。

4）古今の著名人，作家名や作品名からのもの

（記入例）――靖（井上靖）　壺（壺井栄）　蓮（日蓮）　蕪（蕪村）　叉（夜叉王）　厨（厨子王）　呑（ドン）（酒呑童子）

汀を「人名から」として，はま・ばまと読んだのが1例あったが，小汀利得氏を想起した特例であろう。

5）名づけ・呼称などに関係するもの

人名ではないが，名づけ，呼称などに関連して，親しいために覚えやすいものもある。

弥ヤ（汽車の名から）は，国鉄の特別列車名「弥彦」からであろう。（3年生の集団調査時にも同反応があった。）

6）その他，学校，会社，神社・仏閣，建造物などに名づけられた固有名詞，

学校名からとした「桐・淵」などは，学区内の出身小学校名「桐ケ丘」や「第三岩淵」からであろうし，「駿・郁」も地域に近い高校・中学校（駿台高校・郁文中・高校）などによってと思われる。「塾」は当世流行の学習塾で，事例生徒中にも利用者がある。

7）動植物名によるもの

かながきをたてまえとする動植物名が，(1)の人名の中だけでも相当数あって，それが読めていたことは，この調査の新しい発見であったが，同じ文字

でも，動植物名そのものから習得したと意識しているものが意外に少ないことがわかる。しかし，前述のように，動植物名に関する表外字の正答反応は多く（227ページ），またここでも「人名から」としてあげられた動植物名は，多種である。

鹿熊虎猪駒鶴雀鷹鵜鷲雁蝶鯉鯛鮎鮫蟹蓮蘭荻菅茅柴笹篠芹瓜蕪萩椿栗桐柏椎樫榎橘榊槇楠栃朴梶蔦籐

動植物名については次の地名以下の各領域・経路をみても，同様の傾向を示しており，先きにも述べたが，動植物名による命名・呼称の多様性，日本語の特性を表わしており，かながきがたてまえのこれらの文字が読めるのも，そのためであろう。

(2)　地名から

崎伊那仙阿阪奈熊隅潟栃曽幡鎌釜樽堺韓叡葛旭槍鴻灘祇汐蘇梯琶茨燕岬埼槻畿幌淀諏湘麹琉倶苫渓銚筑阜牟覇磐琵斧釧埠碓騨媛渥鷲（以上，主として地名）

岡呂塚須籠庄駒遥湧爺播斐溜縄蒲蘭鴨桐淵綜限函漠臥洲苑吠窪鷲茅鳳逗勃駕凱廓樺霞串磯顧麓桟薩溝鋸耶羅洛梨（地名および他の経路から）

「地名から」習得したと想起された表外字も相当ある。もっともこの中には，「人名から」としてあげられた文字と重複する文字（伊那庄駒遥など），社会科学習からとの印象が鮮明で，その方にあげた文字（潟庄樺函畿など）もあるが，人名と地名の関係は，地名即人名（逆の場合もある）で不即不離のものもあり，人によって，どちらか印象の強い方をあげるからであろう。社会科との関係も同様である。

1)　県名・都市名・地域名

潟（新潟）　奈（奈良）　鎌（鎌倉）　函（函館）　曽（木曽）　薩（薩摩）など，生徒に親しい県名・都市名・旧国名から，あるいは自分の周囲の地域名からのものが多いが，中には次のように山・川・湖などの名称による

ものもある。

2)　山・川・湖などの名

筑（筑波山）　叡（比叡山）　蘇（阿蘇山）　隅（隅田川）　隈（阿部隈川）　琵・琶（琵琶湖）

など，具体的記入によって，印象の強い山・川・湖などの名から習得することがわかる。「地名」関係の文字の内省記入に，地図又は地図帳というのがあり，漢字習得に一役買っていることが認められる。

「韓」は「国名」としてあげているものが多く，時勢の反映がみられた。

3)　場所・建造物など

同種の文字でも，「駅名から」（駿窪磯蒲汐〈汐留〉），「公園名，神宮外苑」（苑），「名所で」（衆）などと明記しているものもある。地名・人名に名づけられている表外字が数多く現存するかぎり，これらに関するものが，自然表外字習得の刺激となり，媒体となるわけである。

(3)　教科の学習を通して

表外字の習得経路として欠くことのできないものの一つに，各教科の学習—教科書の表外字使用——がある。各教科で表外字を使用する場合は，ルビをつけて出しているので，正しい読み方も覚えることができ，一種の表外字学習が行なわれるとみることもできる。これは前掲二者の文字と不即不離の関係にあるもの（特に社会科）もあるが，その教科独自の専門用語と関係の深い文字，その教科で多用される文字はやはり印象が強いせいか，教科の学習と結びつけてあげている。教科名をあげたもの，単に教科書からと記したもの（これはその所属が判然しないが）とがある。

1)　（社会科）　仙奈阪弥縄播漠蒙韓叡鳳傭葛旭屯蘇夷畿諏湘侶宋禿閤倭（主として社会科）曽庄隅潟鉢薩播蘭隈函李菩洲苑茅逗樺霞灘琶援茨岬埼筑耶蜂琵羅梨迦那鹿須（他と並列）

2)　（理科）　泥燐殻蛋胚褐斑稀澱昆虹凹洞亀泡糞腺疏樟熔

3)　（家庭科）　袖衿汁鍋枕濯蓋漬股芯炒皿鉢泡殻

4）（美術）　鳳埴蒔襖苔厨羅菩叡凱陀尖扉

5）（保健・体育）　腺爪腎疹疼咽喉悸巾肢

6）（技術）　鋸

7）（国語）　李杜魯秦昌綴堀灯匂揃稼崖嶺扉殻襟罵愈此

8）（教科書とだけ答えたもの）　僅胡峯洲腎烏檻酋疏藻濤誹稽溢宋弛偕壬簾麿蟬

9）（作文）　僕　（手紙）　拶兎

社会科関係では，主として地理や歴史に関係のある地名・人名で印象の強い文字が，あげられているが，その他，弥（弥生式）縄（縄文式）屯（屯田兵）夷（尊皇じょう夷）閤（太閤）蒙（蒙古）と明記されている例のように，歴史上の印象深い事象や事件が，その文字を覚えさせる鍵となっていることがわかる。このような文字は，主としてその教科特有の専門的な用語と関係のあるものにみられる。教科の特異性と関連のある文字という点では，次に掲げてある理科，家庭科，美術等の教科書で，あるいは学習でおぼえたと答えた一連の表外字をみると，それらが，たとえば，下のように，

〔理科〕蛋（蛋白質）　胚（胚乳）　稀（稀塩酸）　熔（熔鉱ロ）
　　澱（沈澱）　昆（昆虫）

〔家庭科〕汁（みそ汁）　濯（洗濯）　蓋（なべの蓋）　股（洋服の股）

〔美術〕埴（はにわ）　蒔（蒔絵）　襖（襖絵）
　　厨（玉虫の厨子）　菩（菩薩）　苔（苔寺）

〔保健体育〕咽（咽喉）　喉（咽喉）　悸（動悸）　肢（下肢）

それぞれの用語例を明記したものはいうまでもなく，用語例は示さなくとも，おのずからその教科専門の用語との関連が推定される。なお，家庭科で学習される文字は，総体的に男子よりは成績不振の女子の方に優位性がみられた。国語からと答えたものの中には，他の教科ほどの独自性は認められないが3年になって学習した中国の古典関係の李杜魯秦などが目立つ。秦（中国の昔の名）魯（中国時代）などと記入されている。単に教科書からと書いたものは，その文字や反応の仕方から，国語の教科書と推定されるものがある。「簾」

を「レン・すだれ」と音訓ともに読めたものがいて，これなど，「中国の詩」の学習（「水晶の簾　動いて微風起る」）からであること「濤」も国語での（波濤・怒濤）影響が考えらえる。壬の「壬生狂言から」は調べてみたら音楽からであった。その他，「作文から」の僕，「手紙から」の拶，兎（兎に角からか）など，作文における表外字「僕」の使用，古い書簡文の書式の慣用語「挨拶」の使用など，現実が反映されている。

なお，教科の学習からと答えたものの中に，必ずしも，明示した教科からでなく，他の教科からであるもの（例—爪・保健と答えたが実は理科），記入した教科では使用されていなかった字のもの（例—咽熔衿など）などが，時に見かけられる。これらは，教科の思い違い，あるいは，それらの教科に関連した参考書等によって読む手がかりを得たものが，そのまま教科と結びついて記憶されているからではないかと思われる。又，よく読めた表外字には，1教科だけでなく，数教科にわたって使用されている場合が多いので，同じ文字でも生徒によって，自分の印象の強い教科名をあげている場合もある。なお，各教科には出現していない文字でも，生徒からは何々の教科からと教科名が掲げられているものは，前述のようにその教科の参考書などを通して得たものであろうが，また，この段階になると，教科と結びつけてその文字を認識できるほど，文字感覚がついてくることを示しているとも考えられ，興味を覚えた。

(4)　一般読書（単行本・雑誌—小説・物語）

頃云誰頁戻嫌灯匂雰嬉偵磨膝其戴蔭嘘爺猫繍蛇噂淋猿頑艶闇頻蛙兎汝硯杖甥暢卿禄牢轟錫妖蟬疏伽戎噛絆謎験雁鮭鰹虹（一般読書中心のもの）

鶴頬竜綴鳩虎喰斬肌叩駈蝶唇股昌稽葦亭泥涯芯喧弘尚釣雀仇嘩椅濡蓮叉篇粍蹴呑巳扉溜窟蒲貌辰蒼餌傘曹朴枕槽狗眉瞳鴨旺壺嵐鍵慧帖椿溺梯鵜井呪渦瘍盃鞍巌牙俄夷鷲壬溢肢蒔笹壌楢鳳拗諧苅塞杜矯洪昆嗅秦襟饅螢罵蜜洛尖薮堆祇蜂蟹熔纈麿撰苔厨胚鰯唄（他と共通のもの）

新聞と明記したもの

勿稼涯宛渦肘韓瞭狐灘嫉洪湘陸撰苔劉

「一般読書から」のものも相当ある。中には前掲のものと重なる文字もあるが，

頃云誰戻頬嫌綴喰斬肌叩匂駈唇雰嬉稽涯喧偵膝鉢其嘘仇濡戴猫汝溢淋貌瞳矯藪罵俄

などは，より多く一般読書で接近する読書語彙的な文字群である。生徒の読書関係の文字群をみると，

(ア)　一般読みものに特有な表現として多用されるもの　頃其婚嬉淋嘘匂頑妖云

(イ)　文学的表現として印象にる残もの　例一葦（「葦の葉」）

(ウ)　作品の題名関係のもの　猫　嵐（「嵐」「嵐が丘」）　枕（「枕の草子」）伽（「お伽草子」）　羅（「羅生門」）　叉（「金色夜叉」）

(エ)　作中人物に関係のあるもの　轟（「マンガ」）　厨（「厨子王」）　鞍・狗（「くらま天狗」）　呑（「酒呑童子」）（このうち，あるものは，「人名」に入れているものもある。）

などのあることが，その具体的な記入例一（「　」内）によって察せられる。

(オ)　「新聞から」と明記した一群のものは，当時の新聞で，彼らにとって印象的なものが取り上げられているのであろうが，「韓」は当時の政治的，社会的問題への関心，「灘」は進学問題への関心（東大進学率上位高校名）等がうかがえる。

(5)　テレビ・映画・音楽

1)　テレビ

俺斬肌笠唇櫛曙餐瞼褄痕謎

逢嫌虎尻亀菱雀醤扉狼噂拳爪閻鷹壺宛慄沙

鍵只呪瘍鼠痔藉雛雁

マスコミのうち，一般読書関係の他に，テレビ・映画を通して，あるいは音楽等の趣味・娯楽面からの影響も相当多い。

前述の人名など，実はテレビを媒体としてのものも多いわけであるが，その他，(ア)テレビのコマーシャルを通しての宣伝関係のもの（これは宣伝からと明記してあるものは，その領域に入れてある）　(イ)テレビで放映されるテレビ番組名（例—扉（二十の扉））テレビ劇等の題名からのものがある。

亀菱醤麺などは前者(ア)に属し，俺逢嫌斬，笠（てなもんや三度笠）狼噂拳爪闇慄鍵呪験痕，瘍・謎（「テレビの題名」と明記）は後者(イ)に属する。表外字の調査を受けた女生徒が，問題の「櫛」を見て，「これきのうの晩のテレビドラマの題名だからわかる。」とつぶやいた事例もあり，調査時の「櫛」の正答反応も多かった。

2)　映画

篇壕凄賭焔兜壕舵諜絃燭麓讐侠禱謗歪

俺煩股涯喧仇嘩薩狼槽狗闇呪塞峨狙

映画や音楽も，題名関係のものが多い。字幕からのものもあろうが，ほとんどが題名からのようで，特に題名からと明記した「俺・賭」もあった。狗（クラマ天狗）の記入もある。総じて，冒険・探偵・怪奇・股旅もの的な表現にこの種の一連の表外字が結びつくものが多く，興味の対象になる内容だけに，印象も鮮明なのであろう。表外字を多く読めた男子生徒1・4は映画の鑑賞量も多い。

3)　音楽・歌謡

唄逢叱盃串槍杵讃螢虹挿（主として）

戻頬駈蝶昌悠蒼眉宛焔僕灯（他と共通）

音楽（歌曲，歌謡曲等全般）では印象的な歌詞の一部からのもの（駈・僕—「音楽から」）などもあるが，やはり題名（例…讃—讃美歌，串—串本節など明記）からのようである。

(6)　看板・広告・宣伝等

新しい製品にはかたかな表記のものが多いが，昔ながらの物品や製品名には表外字を用いたものが相当ある。表外字はかながきに改めて表記するのがたてまえで，かながき表記も相当行なわれるようになったが，昔ながらの看板や広告・宣伝には表外字がそのまま残存，使用されている。したがって，これらを通して表外字に接近，覚える場合が多い。

生徒が記入したものは，物品名そのもの，それらの伝達方法―看板・広告・宣伝等の表示方法によるもの，その場所・店頭・建物等が，受けた刺激や印象の強い度合いによって，とり上げられているから，同じ醤が，ある人は看板や広告からであり，ある人は，レッテルからであり，又ある人は前掲のように，テレビからということになる。しかし，このことは，前から見て来たように，その習得の機会が，学習漢字として，又，基準性をもった当用漢字に比べて個人性，偶然性の強い側面をもった表外字の本質を表わしたものであり，ことに，このグループに属するものは，その傾向が強いと思われる。参考のために，記載例を中心にあげておこう。

1)　看板・広告・宣伝

靴於喰此炒鈎瓶磨釦椅醤傘裳箸貼餌棚瓜鈎鍵鞄井炙庵鞍飴斡煎鯛漕註帖釘玩塾迄詣襖笠鳩肌唇蓋泥亀泡綜只燐盃仙捺臼樟塵柵糊咽疹娩治痔肛膏鮫麺濯蒲渦貼

2)　伝達の場所・箇所

食堂・料理屋・すしや（丼鯛）

式場（挨・拶）

駅（屑）

のれん（辰）

掲示・注意（此〈此ノ先〉　屑〈屑入れ〉　宛〈ポスト〉　貼〈貼り紙〉）

レッテル（漬醤飴）

3)　たべもの・食品名

汁（みそ汁）　漬（漬物）　噌（味噌）　栗（栗ようかん）　煎（おしるこ）

粟（おこし）　昆（こんぶ）　餅（菓子）

柿梨　鮎鯛鰯　（それぞれのものに添付された物品名や容器―箱・かごなど―の表示などによるか）

4）物品名

靴　駄（下駄）　汁（墨汁）　螢（螢光灯）　鹸（石けん）　蜂（蜂蜜）　蜜（蜂蜜）　呂（お風呂）

(7) 既知の文字から類推して

以上が生徒のあげた表外字の習得の経路・領域であるが，このほかに，既知の文字から類推して読む，「つくりから」という反応があった。これは，漢字学習法の基本的なものの一つであり，未知の語を知る手がかりの一つともなり，文字の一般化，応用化，文字の拡充のはたらきは，実はこれによることが多いのであるが，調査などに際して，いい加減にこれによられると，結果の判断に困る場合も出てくる。つくりの音符によって，適当に，音読みにされてしまうと，正しく読めての上か，あるいは，推量読みなのか判定の疑わしいものを往往にして見かけることがある。こんどのこの調査でも，その点を考慮したが，習得の内省記入という方法を併用したためか，この種の思わく読みの濫用は，あまりなかったようである。（1つの文字に対し，音訓両様で読むことが次第にふえている現象もある。228ページ参照。なお，この方法で答える傾向のものは，性格的な面も反映されることが多い。）ただし，「つくりから」と答えた一群の文字がある。

(ア) 遁棲梳訥醇擾弛汀做紗

(イ) 楯槙坦錆煽緬褪挫諦撞轍恢謗狡喋咬

実は「つくりから」と答えた生徒は，数が少なく，この調査では，ある特定の1人であったが（「つくりから」と答えなくとも，実際は多少ともその傾向のないものは皆無ではなかろうが），そのあげた文字を見ると，（以下，3年終了時テスト結果による）

(ア)では，「つくりから」わかったとしながら，実は，すべて誤答であるもの

遁ジュン（矛盾のジュンからジュンと誤読して，トンとは読めない）

棲サイ（サイと誤読して，セイとは読めない）

梳ソ（正答）（×リュウ・ル）　訥トツ（×ナイ）　醇ジュン（×キョウ）

擾ジョウ（×ユウ）　弛シ・チ（×ヤ）　汀テイ（×チョウ）　倣なす（×コす）　紗シャ・サ（×ショウ）

既知のつくりの音符によるあて推量読みは，往々にしてこの種の誤りを犯す（こうした反応を多くするものは，より性格的な面を表わす場合が多い。）この種の誤りは一見して，誤りの原因がわかるが，次の場合は，正答の根拠がつかみにくいことが多い。

(イ)　つくりの音符によって読んだものが正答であったもの

このうち，＊印の字は正答反応が1人で，他の人は読めなかった文字であるが，楯ジュン，槙シンなどは，楯では「ジュン・3人」「たて・2人」，槙では「まき・3人」「シン・1人」（上掲の反応者の他なし）というように，むしろ訓よみの方が多い文字もある。

もっとも　謗ボウ・3人　狡コウ・2人という反応，咬コウ・2人（かむ・1人）というような他の反応もあって，「つくりから」と答えなかった他の正答反応にも，実はこの系統からのものかと思われるものがないともいえないが，他の反応内省記入等にてらして，数としてはかなり少ないように思われる。

(8)　そ　の　他

なお，習得経路は判然としながら，結果の正答反応としては0という文字群もあった。たとえば埴の「はにわ」がそれで，埴を「はにわ―埴輪」からとしたものが3人いながら，埴を「はにわ」と答えたために，正答反応としては，0という結果（第6回テスト）となっている。

文字学習の対象とされない文字を印象的に把握する場合，こうした現象がおこりやすい例を示している。

なお，この項では，1～6回の調査にあたり，(ア)正答皆無で，その習得経路も誤認によるもの，(イ)ある生徒はその文字について誤答しており，その習得経路もその誤認にもとづくもの，あるいは，音読結果としては誤ってはいないが，

習得内省との対応で誤りと認められるものは，省略してある。

(ア)の例

<文字>	<誤答例>	<正答>	<経路記入>
糎	リン	0	(歩合，割り合，参考書)
粍	モウ	0	(消粍)

(イ)の例

貰	カン	(おふろのはかり，貫との誤認)
竜	たき	(けごんのたき)
慧	スイ	(慧星)
縞	コウ	(原縞)
詮	セン	(消化詮)
僅	キン	(僅賀新年)

(イ)の例には，個人的のものが多い。

(9)　表外字習得とことば

表外字の習得経路は，上来見て来たように，いくつかに分類されるが，最後に，それらの文字が，この期の生徒に認識される場合，どのようなことばと結びついているのか，語彙との対応で整理してみよう。

習得の領域・経路について記入してもらう際に，はっきりそれがわからない場合も想定されたので，どういうことば，表現を通してのものかをたずねたために，生徒によっては，ことばの面からのみ答えたもの，あるいは領域・経路と併せて，語例も記入したもの，さまざまであった。したがって前掲のものと重複するものもあるが，参考までに次に記しておこう。

記入語例（かっこ内は記入されたことば）

旦（元　旦）	仙（仙　人）	眺（眺　望）	鹿（ば　か）
駄（だ　め）	勿（勿　論）	丑（土用の丑）	涯（生　涯）
挨（あいさつ）	拶（あいさつ）	雰（雰囲気）	葦（葦の葉）
尻（船　尻）	伎（かぶき）	喧（けんか）	嘩（けんか）

磨（研　磨）　濯（洗　濯）　泥（泥水・泥沼）　濡（雨に濡れる）
灌（かんがい）　矯（矯　正）　湧（水が湧く）　蹟（奇　蹟）
拐（ゆうかい）　披（披　露）　撒（撒　水）　綜（綜　合）
宵（今　宵）　挑（挑　戦）　只（只　今）　響（復　響）
塞（閉　塞）　尖（尖　塔）　褐（褐　色）　洪（洪　水）
詣（初　詣）　罵（ばとう）　頓（整　頓）　裾（山の裾野）
濤（波　濤）　錮（禁　錮）　彗（彗　星）　禱（きとうし）
貌（容　貌）　頑（頑張り）　洒（洒　落）　倶（倶楽部）
吠（吠える）　吊（吊るす）　其（其の他）　磐（大磐石）
揃（品物が揃う）　疏（疏　水）　載（連　載）　凸（でこぼこ）
拳（拳　銃）　曹（軍　曹）　伍（伍　長）　漠（沙　漠）
苑（外　苑）　眉（眉毛・眉間）　肢（下　肢）　咽・喉（耳鼻咽喉）
悸（動　悸）　澱（沈　澱）　嗅（嗅　覚）　膝（伸膝前転）
堀（お　堀）

以下，物名等と重複・共通するもの

駄（下　駄）　栓（消火栓）　瓶（瓶　詰）　屑（屑入れ）
椅（椅　子）　槽（水　槽）　玩（玩　具）　帖（手　帖）
瓦（屋根瓦）　灯（照明灯）　熔（熔鉱炉）　羅（羅針盤）
襟（開襟シャツ）　磨（はみがき）　鹸（石けん）　裳（衣　裳）
汁（墨汁・みそ汁）　芯（鉛筆の芯）　餅（餅がし）　蒲（かまぼこ）
昆（こんぶ）　蜂・蜜（蜂蜜）　醤（醤　油）　燗（お　燗）
箔（金　箔）　襖（襖　絵）　燐（燐酸カルシューム）
稀（稀塩酸）　梗（桔　梗）　椎（椎の木）　蛇（大　蛇）
鳩（鳩小舎・鳩舎〈キュウシャ〉）　膏（なんこう）

Ⅳ　教科書に使用された表外字

1. 教科書の表外字

習得経路の内省で，「教科書から」「教科の学習から」と答えたものがかなりあったが，実際に教科書での出現状況はどうかを調べたのが資料Ⅰの「中学校の教科書における漢字の出現状況に関する研究」（3―表外字の場合）である。

各教科書に使用された表外字は，総計515字（異なり字数―使用字種数）で中には，9教科中1教科だけのものもあるが，いくつかの教科に共通に使用されるもの，記述の上で，あるいは挿絵・図表等で，くり返し使用され，使用度の高いものもある。

教科書で使用される表外字の多くは，教科の内容に必要な事項を掲げ，説明するために用いられ，固有名詞（地名・人名）と普通名詞がその大半を占めるが，この調査では，出現状況ということから，国語・音楽・美術などでは著・作家名もとられてある。固有名詞のために，表外字でも，時に特異な文字や読み方がされている場合があり，また教科内容のほうでも，鷲わし　オワセ，秦シン　ウズマサ，宕アタゴ，鳩はと　イカルガ，斑イカルガ，按アゼチなどをはじめ，鷲ビロード，盃コップ，鹸シャボン，莫メリヤス，雀カナリヤ など，特殊な読み方（用字法）が用いられている。いっぽう，「稀」など，ふつう「稀硫酸・稀酢酸」として使われるが，教科書では「稀」が未提出となっているので，不審に思われるむきもあろうが，教科書では「希硫酸・希酢酸」と「希」が代用されているために，出てこないという面もみられる。また家庭科（女子）の衿など，かなが使用されているために，漢字としては未出のものもあるなど，教科書の表外字使用状況は，雑誌九十種の表外字の使用状況と，共通しない面もあわせもっている。（使用教科書の調査は漢字習得調査のあとに実施したために，

表外字調査文字の資料外にある）

2. 調査の成績と教科書との関係

表外字調査の成績と，教科書での表外字使用との関係をみると，次のようになる。（3年卒業時，4人以上が読めたもの，及び第4回以降調査から省いた成績のよい18字について）

各教科書で使用された漢字で調査の成績のよいもの	教科書には未使用（又は使用少）であるが，調査の成績のよいもの
8 人が読めた字	
（7教科） 崎	（0教科） 咽肌宏坐誰湊椿瞳梶嵐淋0.1扉
6 伊岡洞阪　5.6須	1 堺菅螢辻柏猫皿僕蜜燐
5 阿猿杉竜　5.4鹿	2 殻韓駒桂柿袖汁壊智蝶枕亭幡
4 隅堀弘彦潟藤熊呂	
3 吾塚亀庄仙宋釜笠菱	
3.2 栃	
7 人が読めた字	
7　6.7 奈　垣	0 蔭俺嘩鍋峨嘘巾芹頃鍵轟蛙笹淳唇
5　4.5 鶴弥鎌　蛇	漕藉憤糞
4　3.4 縄那　也	1 飴靴鳩釣壺狗傘雀塾椎淀楠畠狼桐
3 串幌梨	1.2 疎裳
	2 淵牙磯萩辰曹駄偵唄菩麿栗嶺蓮
6 人が読めた字	
4 蘇琶鷹	0 郁鴨俄苅樫雁稀嫌糊浩喉尻痔叱濡
3 窟之筑鳳磨羅李	樟醤洲疹芯靖腺膳噂肇鮎灯粕披眉
3.2　2.3 播　溝	0.1 謎熔狸鯉牢
	1 闇虎漬只篠鷲爪菩灘　1.2凸
	2 夷凹芥祇脇錦岬柴曽樋稔鉢漠

5 人が読めた字

4
旭埼涯

3
蘭函迦樺葛梯諏

2.3
哉泥

0
云衿頁或逢眺拭縞嬉戴溜貼峯苑井

楯鯛蛙兎遜橘榊叶蜂塀餅麺

1
旦盃濯喧篇宵蒙蛾陀獅汝褐渥倶箔

胚爺倭

2
昌尚薩棚荻隈敦寅槍洪虹侶

4 人が読めた字

4
卿磐

3
伎讃

0
渦喰斬匂駈揃炒椅臆巳蒼蹟頑伍桶

宛汰茹瓜逗瞭槍澱乃壕狐汐註杖曙

俠喬槇牝鮭襖鮫亮厨瑳囁湧

1
裾戻葦僅箸貌呪唖霞臼甥玩舷駿蒔

槻濠鑓琉朋腑蟹酋蕃伽鰯叉　1.0 槽

2
瓶餌朴樽窪畿洛藻

<注>文字の上の数字は使用教科数を示す。

3. 読める表外字の二つの型

よく読める表外字を大別すると，二つの類型があることがわかる。

よく読める表外字のある種類のものは，各教科にも共通に使用されている字で，学習に関係する文字であるから，集中して正答できる。一方，各教科には一度も用いられないが，集中して読める一連の文字がある。これらは学習によらないので，全員正答の場合は，共通に教科に使用されている文字より少ない。しかし，この種のもので全員は読めないが，過半数は読める表外字となると，逆に数がふえてくる。

また，よく読める表外字を字種としてみると，各教科書に多用されるもの，教科書系統からのものと，教科書には使用されないが，一般からの習得系統のもの（マスメディア，一般読書，日常生活等）と，二つの習得因子があるように考えられる。

教科書系統のものは，普遍性のある地名・人名など固有名詞の系統のものに

多く，専門用語もまじっている程度である。（なお，教科書使用系統で成績上位の人名・地名に多用される文字の中にも，生徒の意識としては，教科の学習でよりも，むしろ，スポーツや芸能人の名まえ，一般読書からの著者名・作品名によるとされているものもあることは，上来見てきたとおりで，正答の集中する一連の文字は，目にする機会・度数が多いからであろう。）

したがって「人名用漢字」と共通する文字のあることも一つの特徴である。

なお，使用教科書数は少なくても，集中して用いられる場合――ことに国語科など――は，習得の率はあがることが多い。

一方，他の一般からの系統の文字は，教科書等では使用しがたいが，それでいて，現実には，読書，娯楽などの日常生活を通して習得されていく文字であり，普通名詞（物名など）・動詞・形容詞など，より広い範囲にわたっていることが認められる。肌眉瞳淋俺嘩唇憧嘘嫌叱噂闇など，固名有詞以外に使われる文字で，一見して，その背後にあることば，語句・文章，歌・場面などが想定されるようなもの，咽喉皿汁醤糊漬飴など，生活との結びつきが考えられるようなもの等，日常生活を通しての表外字の習得が意外に多く，習得の文字環境も広く展開されていることに注目される。

たとえば，次のように整理することもできる。（3年卒業時の成績）

よく読めた表外字と習得因子

＜多くの教科書に使用されている表外字＞	＜教科書に使用されていない，又は使用少の表外字＞
阿伊垣猿鹿鶴崎隅堀彦弘岡幌杉庄須	飴俺嘩靴肌峨螢鍵嘘狗嵯傘雀塾唇誰
潟仙宋塚藤洞奈那阪弥熊竜笠鎌	釣椿辻亭瞳憧柏梶糞僕皿嵐淋狼

3年卒業時調査でよく読めた表外字のうち，多くの教科書に使用されている表外字は，一般的な固有名詞用の漢字であるが，教科書に使用されていない，又は使用少の表外字は，固有名詞でも，あまり普遍的でないもの，より生活的，読書語彙的なものといえよう。「靴」は社会科1教科のみに使用され，しかも「製靴工場」の形で用いられているが，多くのものが「くつ」と読んで，「カ」は少ない。又「雀」も「金糸雀（カナリヤ）」という読みでのみ出ている（社会）が，正答反

応としては「すずめ」が多く，「ジャク」がそれに次ぐという状態で，習得の要因が異なっているのである。

以上，直接学習の対象にならない表外字も，表外字によらなければ表記の完全さを期せないために使用されている教科書を通して，また，われわれをとりまく日常生活のさまざまな文字環境を通して，相当量の表外字が習得されていることがわかったが，しかし，これらの表外字は，一方では固有名詞（地名・人名）用の文字が多く，他方では固有名詞以外のより現実の生活臭のある文字に多い。

昭和27～28年，1年間にわたる発行部数の多い綜合雑誌（4誌　文芸春秋・中央公論・改造・世界）の漢字調査の結果（標本抽出調査），使用された漢字の総数に対して，表外字の占める比率は，3.17%であり（すべての漢字の使用度数の96.83%は当用漢字によってまかなわれることになる），その少数の使用表外字（度数7度以上）を，(A)固有名詞以外に使われた度数　(B)固有名詞に使われた度数に分けて，その順位の関係をみてある。これによると，両者の度数関係が比較的に近いものも，時にあるが，ほとんどは対照的な開きをもっている。（昭和28年度　国立国語研究所年報5参照）

われわれは中学生の表外字習得調査の結果から，この両者の習得因子，習得経路が異なる面をもっていることを知ったが，上記の調査結果からも，期せずして同じことがみられたわけである。

中学生が習得しやすかった二つの型の表外字の谷間に，抽象的，思考的な語を表わすために不可欠な表外字があるかどうか，あるとすれば，それらはどのような字種であるかを検討することが，表外字について考える必要が生じた場合，今後に課せられた問題となると思われる。

第6章　習得における誤答

前述の漢字習得の実態で，習得の量的，質的観点から，義務教育期間中に，どれくらいの量の，どのような字種の文字が習得されるかの大体を見てきた。しかし，漢字習得をいう場合，習得できなかった文字，習得に抵抗を示す文字についても，その実態を知り，その原因を究明することが必要である。誤答の実態を知ることが，効果的な指導法を工夫し，習得の可能性を高めることに資するからである。

I　誤答傾向

1. 読　み

(1)　読みの成績と各反応

1)　文字の側からみた場合

8人の生徒の3年間の当用漢字全数の習得状況を，正答反応だけでなく，誤答・無答の消極的な反応面からみると，260ページのようになる。

第1表～第2表は，個人の成績を中心に，教育漢字・教育漢字外当用漢字の読みにおける，正・誤・無の各反応の状況をみたものである。

二つの表は，どちらか読めていれば正答という従来の調査・整理方法によったもので，消却方式の正答処理法によって整理された数字である。

これによると，教育漢字の文字としての読みでは（第1表），誤答反応はほとんどなくなる。教育漢字が，小学校で一応の学習を終え，その後も読む機会が多いこと，その上，中学生に親しい語形で調査したから，音訓どちらか親しい

方の読みをとって正答文字とするとこのような反応を呈する。しかし，現実の全数調査結果では，相当数の読みの誤答・無答反応もあったわけで，教育漢字の反正答反応（誤・無答反応）は，そのほとんどが音訓の側にあることがわかる。

2)　音訓の側からみた場合

教育漢字の3年卒業時の読みの調査を，音訓を入れた観点から整理すると第3表のような反応状況を示す。

文字として読みの成績をみた場合には，全員とも881字正答できる教育漢字が，音訓を考慮に入れると，全然読めない音訓が最低2～最高39音訓，誤って読む音訓が最低2～最高22音訓あって，音訓の読み関係に問題のあることがわかる。また，その音訓についての誤られかたをみると，

音	無答	0字～20字	平均	5.6字	(0.5%)
	誤答	0　～14	〃	4.9	(0.5%)
訓	無答	0　～19	平均	6.0	(0.9%)
	誤答	2　～10	〃	6.4	(1.0%)

両者大差はないが，漢字の音・訓数の比率に対しては，訓の方が誤答，無答とも上回っていることがわかる。

同様に教育漢字外当用漢字についてみても，音訓を外してみた場合は，かなりの好成績となる（第2表）が，第4表のように，音訓を考慮に入れると，誤答・無答の数は，かなり増してくる。

教育漢字外当用漢字では，969字全数は学習されていないから，文字としての誤答・無答反応のあることは当然としても，音訓の側からみると，それが，いっそう多くなること，また，学習漢字でさえ個人差があったが，未学習漢字も含むとなると，さらに個人差が多くなることなどがわかる。

漢字	無答	1字～61字	平均	13.0字 (1.3%)
	誤答	1　～34		15.8　(1.6%)
音	無答	3　～100		25.4　(2.6%)
	誤答	5　～54		29.6　(3.0%)

(第1表) 教育漢字 読字の各反応 (音訓どちらか読めたものは正答とした場合)〈注〉○は正答, ×は誤答, Nは無答を示す。

反応 / 生徒	第1回(中学入学時)			2 (1年後期)			3 (2年前期)			4 (2年後期)			5 (3年前期)			6(中学終了時)		
	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N
男子 1	880字 99.9%	0	1	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
2	875 99.3	3 0.3	3 0.3	880 99.9	0	1 0.1	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
3	877 99.5	1 0.1	3 0.3	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
4	880 99.9	1 0.1	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
女子 1	879 99.8	2 0.2	0	879 99.8	0	2 0.2	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
2	842 95.6	13 1.5	26 3.0	867 98.4	8 0.9	6 0.7	880 99.9	0	1 0.1	880 99.9	0	1 0.1	881 100	0	0	881 100	0	0
3	853 96.8	12 1.4	16 1.8	868 98.5	4 0.5	9 1.0	878 99.7	2 0.2	1 0.1	878 99.7	2 0.2	1 0.1	879 99.8	0	2 0.2	881 100	0	0
4	879 99.8	1 0.1	1 0.1	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0	881 100	0	0
平均	870.6 98.8	4.1 4.7	6.3 7.2	877.3 99.6	1.5 0.2	2.3 0.3	880.5 99.9	0.3 0.03	0.3 0.03	880.5 99.9	0.3 0.03	0.3 0.03	880.8 100		0.3 0.03	881 100		

(第2表)教育漢字外当用漢字 読字の各反応(音訓どちらか読めたものは正答とした場合)

反応 / 生徒	第1回(中学入学時)			2 (1年後期)			3 (2年前期)			4 (2年後期)			5 (3年前期)			6(中学終了時)		
	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N
男子 1	757字	16	196	886	34	49	908	25	36	935	11	23	955	6	8	964	1	4
	78.1%	1.7	20.2	91.4	3.5	5.1	93.7	2.6	3.7	96.5	1.1	2.4	98.6	0.6	0.8	99.5	0.1	0.4
2	604	137	228	774	152	43	816	132	21	881	60	28	904	53	12	934	34	1
	62.3	14.1	23.5	79.9	15.7	4.4	84.2	13.6	2.2	90.9	6.2	2.9	93.3	5.5	1.2	96.4	3.5	0.1
3	545	133	291	754	62	153	840	80	49	887	52	30	912	25	32	946	10	13
	56.2	13.7	30.0	77.8	6.4	15.8	86.7	8.3	5.1	91.5	5.4	3.1	94.1	2.6	3.3	97.6	1.0	1.3
4	720	41	208	818	61	90	853	77	39	894	47	28	909	44	16	953	13	3
	74.3	4.2	21.5	84.4	6.3	9.3	88.0	7.9	4.0	92.3	4.9	2.9	93.8	4.5	1.7	98.3	1.3	0.3
女子 1	497	17	455	703	12	254	786	21	162	860	20	89	932	10	27	962	2	5
	51.3	1.8	47.0	72.5	1.2	26.2	81.1	2.2	16.7	88.8	2.1	9.2	96.2	1.0	2.8	99.3	0.2	0.5
2	307	107	555	541	120	308	689	121	159	785	80	104	840	67	62	935	23	11
	31.7	11.0	57.3	55.8	12.4	31.8	71.1	12.5	16.4	81.0	8.3	10.7	86.7	6.9	6.4	96.5	2.4	1.1
3	352	54	563	528	62	379	609	55	305	737	62	170	797	40	132	881	27	61
	36.3	5.6	58.1	54.5	6.4	39.1	62.8	5.7	31.5	76.1	6.4	17.5	82.3	4.1	13.6	90.9	2.8	6.3
4	530	44	395	723	94	152	861	34	74	839	48	82	906	33	30	947	16	6
	54.7	4.5	40.8	74.6	9.7	15.7	88.9	3.5	7.6	86.6	5.0	8.5	93.5	3.4	3.1	97.7	1.7	0.6
平均	539.0	68.6	361.4	715.9	74.6	178.5	795.3	68.1	56.3	852.3	47.5	69.3	894.4	34.8	39.9	940.3	15.8	13.0
	55.6	7.1	37.3	73.9	7.7	18.4	82.1	7.0	5.8	88.0	4.9	7.2	92.3	3.6	4.1	97.0	1.6	1.3

(第3表) 音・訓の読みの成績を入れた中学校卒業時の教育漢字の読みの各反応

教育漢字　881字
1672音訓
(1030音・642訓)

		男子 1	2	3	4	女子 1	2	3	4	8人平均
正答	字数	881	881	881	881	881	881	881	881	881
	音訓数	1667	1661	1660	1662	1653	1631	1621	1638	1649.1
	%	(99.7)	(99.3)	(99.3)	(99.4)	(98.9)	(97.6)	(97.0)	(98.0)	(98.6)
誤答	字数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	音訓数	2	6	10	8	12	22	12	18	11.3
	%	(0.1)	(0.4)	(0.6)	(0.5)	(0.7)	(1.3)	(0.7)	(1.1)	(0.7)
無答	字数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	音訓数	3	5	2	2	7	19	39	16	11.6
	%	(0.2)	(0.3)	(0.1)	(0.1)	(0.4)	(1.1)	(2.3)	(1.0)	(0.7)
音(1030)	正答	1030	1026	1024	1026	1022	1007	1006	1015	1019.5
		(100)	(99.6)	(99.4)	(99.6)	(99.2)	(97.8)	(97.7)	(98.5)	(99.0)
	誤答	0	1	4	4	4	14	4	8	4.9
		(0)	(0.1)	(0.4)	(0.4)	(0.4)	(1.4)	(0.4)	(0.8)	(0.5)
	無答	0	3	2	0	4	9	20	7	5.6
		(0)	(0.3)	(0.2)	(0)	(0.4)	(0.9)	(1.9)	(0.7)	(0.5)
訓(642)	正答	637	635	636	636	631	624	615	623	629.6
		(99.2)	(98.9)	(99.1)	(99.1)	(98.3)	(97.2)	(95.8)	(97.0)	(98.1)
	誤答	2	5	6	4	8	8	8	10	6.4
		(0.3)	(0.8)	(0.9)	(0.6)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	(1.6)	(1.0)
	無答	3	2	0	2	3	10	19	9	6.0
		(0.5)	(0.3)	(0)	(0.3)	(0.5)	(1.6)	(3.0)	(1.4)	(0.9)

(第4表) 音・訓の読みの成績を入れた中学校卒業時の教育外当用漢字の読みの各反応

教育外当用漢字　969字
1450音訓
(976音・474訓)

		男子 1	2	3	4	女子 1	2	3	4	8人平均
正答	字数	964	934	946	953	962	935	881	947	940.3
	音訓数	1436	1363	1367	1384	1389	1317	1231	1365	1356.5
	%	(99.0)	(94.0)	(94.3)	(95.4)	(95.8)	(90.8)	(84.9)	(94.1)	(93.6)
誤答	字数	1	34	10	13	2	23	27	16	15.8
	音訓数	7	66	40	39	23	86	58	45	45.5
	%	(0.5)	(4.6)	(2.8)	(2.7)	(1.6)	(5.9)	(4.0)	(3.1)	(3.1)
無答	字数	4	1	13	3	5	11	61	6	13.0
	音訓数	7	21	43	27	38	47	161	40	48.0
	%	(0.5)	(1.4)	(3.0)	(1.9)	(2.6)	(3.2)	(11.1)	(2.8)	(3.3)
音 (976)	正答	968	924	932	939	937	900	830	938	921.0
		(99.2)	(94.7)	(95.5)	(96.2)	(96.0)	(92.2)	(85.0)	(96.1)	(94.4)
	誤答	5	47	22	21	16	54	46	26	29.6
		(0.5)	(4.8)	(2.3)	(2.2)	(1.6)	(5.5)	(4.7)	(2.7)	(3.0)
	無答	3	5	22	16	23	22	100	12	25.4
		(0.3)	(0.5)	(2.3)	(1.6)	(2.4)	(2.3)	(10.2)	(1.2)	(2.6)
訓 (474)	正答	468	439	435	445	452	417	401	427	435.5
		(98.7)	(92.6)	(91.8)	(93.9)	(95.4)	(88.0)	(84.6)	(90.1)	(91.9)
	誤答	2	19	18	18	7	32	12	19	15.9
		(0.4)	(4.0)	(3.8)	(3.8)	(1.5)	(6.8)	(2.5)	(4.0)	(3.4)
	無答	4	16	21	11	15	25	61	28	22.6
		(0.8)	(3.4)	(4.4)	(2.3)	(3.2)	(5.3)	(12.9)	(5.9)	(4.8)

訓 { 無答　4　～61　　22.6　(4.8%)
　 { 誤答　2　～32　　15.9　(3.4%)

(2)　読みにおける誤答

読めない文字，読めない音訓の誤答反応を次に見ていくことにする。

かつて実施した小学校の漢字力調査の結果から，読みの誤答現象を傾向的に分けると，

(1)　でたらめ読み

(2)　字形に関する読み誤り

(3)　意味に関する読み誤り

(4)　文脈・語形に関する読み誤り

(5)　不注意による読み誤り（表記や，発音に関するもの）

等があったが，この調査では，1対1方式のため，(5)の表記・発音に関する誤りは出なかったし，(1)の全くのでたらめ読みもかげをひそめていた。そのかわり，音訓上の誤りともいうべきものが新しく登場してきている。教育漢字は，中学生となると，小学校6年間の漢字学習の効果がみられて，さすがに小学校低学年でみられたような度外れな無意味な誤りはなくなるが，それでも音訓関係では，未学習音訓もあるため，誤答反応がみられ，教育漢字外当用漢字では，未学習文字，未学習音訓が多いので，誤答現象も活発である。また，ある文字について，かなり集中的な読み誤りがみられる（誤りの共通性）反面，個人によって字形に関連して誤るもの，意味に関して誤るものなど，誤りに個人差のあることが認められた。以下，それらの誤りを，傾向的にみていくことにする。

1)　字形に関する誤り

①　類似字形に誤って読む

（教育漢字）

（以下に示す，誤答反応は，中学3年間にわたって現われたものであり，むずかしい特殊な読みを残して，多くは，3年卒業までに，読めるようになってい

る。）

因(0)よる→こまる(困)　…の由(2)よし→キョク(曲)　遊説(0)ゼイ→エツ(悦)　各(0)おのおの→キャクキャク(客)　管(0)くだ→すが・つつ(菅・筒)　難(0)かた→なだ(灘)　経(2)へる→かるい(軽)　成就(2)ジュ→ジュク(塾)　仕(1)つかえる→そなえる(供)　勧(1)すすめる→つとめる(勤)

<注>1.　文字の右上の（ ）内の数字は，国語教科書で，その文字の読み（音又は訓）の提出学年を示す。（0）は3年間，一度も提出されなかった音又は訓である。

2.　難を「なだ」（灘）と読んだのは，当時の大学進学校として名高い灘高校についての字形印象のためと思われる。表外字調査の方で，「灘」が読めた生徒の「灘」の習得経路は，同校からと記入してあった。

字形に関する誤りは教育漢字が既習のためか，小学校時代の誤読反応と比べると，数は多くない。

（教育漢字外当用漢字）

未学習文字や未学習音訓が多く，学習過程上にあるため，教育漢字外当用漢字では，字形に関する誤りが多い。

宜(0)ギ→セン・カツ(宣・且)　薄(0)ハク→ボ(簿)　思賜(0)シ→ヨウ(陽)　該(0)ガイ→カク(核)　勾(0数)シャク→ク(句)　苗(0男)ビョ→ふえ(笛)　緒(0音)お→なぎさ(渚)　仰(0数)ギョウ→ゲイ(迎)　奪(0社)ダツ→フン(奮)　今暁(0)ギョウ→バン(晩)　忌(0)キ→タイ(怠)　後悔(0)カイ→バイ(梅)　寡(0)カ→ボ(募)　堕(0)ダ落→ツイ・ズイ(墜・随)　碁(0)ゴ→キ(基)（書字でも基とかく）　削(0男2)サク除→ショウ(消)　虐(0)ギャク待・殺→キョ(虚)　窯(0社)ヨウ業→チツ(窒)　斤(0数)キン・斥(3)社セキ→ショウ(升)　殴(0)オウ打→トウ(投)　幻(0)まぼろし→おさない(幼)　刃(0男)ジン→トウ(刀)　頒(0社)ハン→リヨウ(領)　拝謁(0社)エツ→カツ(褐)　渇(0社)カツ水・望→ダク・ケイ(濁・掲)　弾該(0社)ガイ→コク・カク(刻・核)　一升(0数)ショウ→ベン(弁)　嫡(0)チャク子→テキ(適・敵)　陳(0女)チン述・列→ジン(陣)　扶(0社)フ変→チツ(秩)　矛(0)ム盾→ヨ(予)　朕(0)チン→サク(咲)　捨(0数)シャ→ジュウ(拾)　帥(0)スイ→シ(師)　嗣(0)シ子→おどり(踊)　喪(0)ソウ失・喪(0社)モ中→カイ(懐)　衷(0社)チュウ心→カイ(懐)　懲(0社)チョウ悪→ビ(微)　恋(0)レン愛→ヘン(変)（書字でも変とかく）　充(0)あてる→そだてる(育)　辛(0)から→さいわい(幸)　綱(0)コウ目→モウ・あみ(網)　繭(0)ケン糸→ラン(蘭)　鈍(3数)ドンオ・感→ジュン(純)　喜悦(3)エツ→セツ(説)　緩(3)カン→ダン(暖)　隠(3社)イン居→オン(穏)　伺(3)うかがう→かう(飼)　抄(2社)ショウ本→ミョウ(妙)　醜(2)みにくい→たましい

(魂)　閑(3)社・体カン→カイ・ヘイ・コン(開・閉・因)　遷(3)セン→カン(還)　放棄(3)社・体キ→ヨウ(葉)　被(3)こうむる→やぶる(破)　享(3)社キョウ楽・保→アイ(哀)　揚(3)女あげる→かかげる(揭)　(揚子江を揭子江とかく者あり)　芳(3)かんばしい→くるしい(苦)　析(3)キ扁→セツ(折)　取り扱(3)あつかい→すい・すう(吸)　摧(3)ヨウ→スイ(推)　批准(3)ジュ→スイ(推)　幻(2)ゲン→ヨウ(幼)　分析(2)数・英セキ→セツ(折)　合併(2)数・社ヘイ合→ベン(弁)　中耳炎(2)理・音・体エン天→サイ(災)　(災の読みテストではエンの反応多く，炎の書字テストでは災の字多し)　載(2)英のせる→いただかせる(戴)　閉(2)社・理・体・男・女ヘイ会→カイ(開)　遂(2)とげる→にげる(逃)　哀(2)あわれ→あれ(荒)　悟(2)さとる→かたる(語)　朽(1)キュウ→コウ(巧)　願(1)ガン問→ガン・ライ(願・頼)　伐(1)社バツ→フク(伏)　暇(1)社・体カ→ダン(暖)　数論(1)ユ→ロン(論)　降伏(1)社・理・体・男・女フク→ジョウ(状)　侵(0)社・男おかす→ひたす(浸)　浸(2)ひたす→おかす(侵)　活躍(2)社・音・英カツ→ヨウ(曜)　妨(3)さまたげる→ふせげる(防)　紡(0)つむぐ→ふせぐ(防)　鋭(1)エイ角→エツ(悦)　捕(3)社・英とらえる→おぎなう(補)　倫(3)社リン→ロン(論)

<注>文字の右肩上の(　)内の数字は，前例のように，国語教科書での，その音・訓の提出状況を示し，(　)外の文字及び数字は，他教科での出現状況を示したもの。

教育漢字の誤読傾向と比べて，教育漢字外当用漢字の読みに，字形関係の誤りが多いことは，

(1)　教育漢字外当用漢字は，学習の日が浅く，その文字の字形に，なじみが薄い。

(2)　未学習文字，未学習音訓が多い。

したがって，既知の類似の字形にひきつけて読む（誤読される文字に教育漢字が多い。また，学習過程上の文字に当てて読む。さらに数は少ないが，親しい表外字と誤って読む例もある。渚，菅など)。

上例をみると，類似字形にも，その誤り方に種類がある。（教育漢字の場合も同様）

(a)　偏旁冠脚垂(たれ)構(かまえ)など，部首構造の一部が同じで，一部は異なるものに誤る。

旁が同じでも，偏によって意味が違う（浸・侵　防・妨）ように，偏旁をはじめ，冠脚垂構など，部首構造の一部の違いによって共通部分があっても，意味が違うもの，音までが違うもの（師・帥）等種々あるが，それらの知識が伴

わないために，字形の類似点にひかれて誤っている。これが，対象の字数が多くなるために，誤反応としても多くなっている。

〔例〕緩→暖　緒→渚　被→破　醜→魂　綱→網　捨→拾　陳→陣　師→帥
恋→変　享→哀　碁→基　奪→奮　雇→雀　顧→願　閉→開

(b)　字形全体が，なんとなく似ているために誤る。辛→幸　芳→苦　寡→募など。親しくなく，見慣れない文字のため，文字構造の認知の度合いが不確かで，そのため，なんとなく似通った文字と誤るものと思われる。

(c)　字形の一部認知により誤る

読む対象としての字形が，全体として認められず，その文字構造の一部を認知するために生ずる誤りがある。これは，字形の一部認知による誤りとして，従来，字形の不完全認知，知覚の不完全さによる誤りとされてきたものであるが，このたびの読字テストでは，教育漢字を除いて（教育漢字の例，舌ゼツ→チ・セン〈千〉授さずける→うける〈受〉），教育漢字外当用漢字では，この誤り現象が非常に多い。

遵(0)ジュン→ソン(尊)　虞(0)社おそ→ゴ・くれ(呉)　款(0)カン→ケツ(欠)　穂(0)男3スイ状→ケイ(恵)
濫(0)ラン→カン(監)　措(0)社3・体2ソ置→シャク(昔)　債(0)社2サイ→セキ(責)　草履(0)社リ歴・行→フク(復)　薫(0)クン→ジュウ(重)　媒(0)理・女バイ→ボウ(某)　収賄(0)ワイ賂→ユウ(有)　容赦(0)社シャ→セキ(赤)　赴(0)フ→ボク・ト(ト)　轄(0)カツ→ガイ(害)　哀・追悼(0)トウ→タク(卓)　拘(0)社コウ→ク・グ(句)　陳(0)女チン列・述→トウ(東)　感嚇(0)カク→セキ・シャク(赤)　更迭(0)テツ→シツ(失)　匿(0)トク名→シャク・ジャク(若)　拷(0)社コウ問→コウ(考)　偽(0)ギ造→イ(為)　感・号泣(0)キュウ→リツ(立)　佳(0)カ作→ケイ(圭)　醜(0)シュウ悪・醜→キ(鬼)　押(0)社オウ収・印→コウ(甲)　委属(0)ショク託→ゾク(属)　老翁(0)オウ→コウ(公)　含(0)理3・体2ガン有→コン(今)　控(0)社3コウ訴→クウ(空)　暁鏡(0)校2ショウ→ドウ(童)　危篤(0)トク→バ(馬)　侮・恥・屈辱(0)社3ジョク→シン(辰)　尼(0)ニ僧→ヒ(匕)　一畝(0)数1・社2セ→キュウ(久)　丁寧(0)社3ネイ→チョウ(丁)　女婿(0)セイ→テイ(定)　憎(0)ゾウ悪→ソウ(曽)　奔(0)ホン走→キ(卉)　御璽(0)ジ→ギョク(オウ)(玉)　廉(0)美1・音2レン→ケン(兼)　但(0)社ただし→タン(旦)　絞(0)男3しぼ→まじる・まじわる(交)　滞(0)とどこお→おびる(帯)　頒(0)社ハン布→プン(分)　繭(0)ケン糸→チュウ(虫)　詳(3)男ショウ細→ヨウ(羊)　罷(3)社3ヒ免→ノウ(能)　凝(3)0こる→うたぐる(疑)　曇(3)ドン天→ウン(雲)　晴(3)セイ請→セイ(ゼイ)(青)

(3)欺あざむく→かく(欠)　(3)鋳チュウ造・金→ジュ(寿)　(3)疎ソ外→ソク(束)　(3)蚊か→ぶん(文)　(3)澄チョウ清・最→トウ(登)　(3)抽チュウ出・象→ユ・ユウ(由)　(3)肯コウ(筆1)定→シ(止)　(3)軌キ道→シャ・キュウ(車・九)　(3)撲ボク打傷→ギョウ(業)（さらに字形を誤る）　(3)拙セツ者→シュツ・シツ(出)　(3)浜ヒン漆→ヘイ(兵)　(3)韻イン文→オン(音)　(3)患カン者→くし(串)　(3)偽いつわる→いる(為)　(3)陥カン欠→キュウ(旧)　(3)逸イツ話→メン・ベン(免)　(2社)崇スウ拝→シュウ・ソウ(宗)　(2)鎮チン→シン(真)　(2社)埋マイ蔵→さと・り(里)　(2)塊カイ金→キ(鬼)　(1)超チョウ越・過→ショウ(召)　(2)択タク選→ジャク・ヤク(尺・訳)　(2)訂テイ改正→チョウ・トウ(丁)　(2)勲クン章→ドウ(動)　(2)触ショク接→チュウ(虫)　(2)轡バイ先→シャ(車)　(2)蛮バン野→チュウ(虫)　(2)吟ギン詩→キン・コン(今)　(2)宰サイ相→シン(辛)　(1社)堪カン忍→ジン(甚)　(1社1・音2)涼リョウ清→キョウ(京)　(1)訟ショウ訴→コウ(公)　(1)枢スウ中→ク(区)　(1)廃ハイ止→ハツ(発)　(1)驚キョウ異→ケイ(敬)　(1)吏リ官→シ(史)

この現象は，結果的には，字形の一部認知という形をとるが，小学校段階でのそれと中学校段階でのそれとでは，反応の要因に違いがあるのではないかという疑義が持たれる。一部認知による誤反応は，教育漢字には少ないが，教育漢字外当用漢字には非常に多い。この反応をとった文字を見ると，多くは，その文字又は音訓では，国語では未学習だったもの，学習されても，あとの学年になってからというものに多いことが認められる。「罷面」の罷ヒをノウ（能）と読んだものも，3年になって，学習後(「罷免(国語)」「罷業(社会)」)は，8人全員が正読できるようになる，「請」の音読み請シンは請セイに比べると，使用度も少なく，使用語も特殊のため，他教科にも使用されない，3年で「普請」という語句が出て，請シンの音読が学習されるまでは，無答や「フセイ」（一部認知とも，字形ともとれるが）の反応であったが，学習後には全員正読できるなど，類似事例が多い。又，国語では遂に未学習に終ったが，他教科で使用されて，読みの力がついたために，他教科使用後は，正読できるものがふえた例（劾—弾劾裁判—社会）も多い。しかし，学習されるまで，あるいは，何等かの機会で，その語（字）が読まれ，理解されるまでは，実に，多くの旁をはじめ，その文字の構成上の主要部分を読むことによって，当面の目的を果たそうとして

いるのである。3年での集団調査で，文字を覚える手がかりをたずねた際，「偏旁」に着眼するものが相当数あったが(3年の集団調査問題8－1参照)，中学生ともなると，旁をはじめ，文字構成の主要部分がその文字の音を表わすことを知るようになる。形声文字などで，構成の文字の音符が，読みを表わすことから，その音符の読みが，そのまま，その文字の読みに当たる場合もあるが，ときには転音する場合もあり，又，現在通用のものにも，呉音，漢音，慣用音など，種々の音があり，義によって音が異なるなど，具体字例では一様でない場合がある。にもかかわらず，その文字が読めない，あるいは不確かな場合は，無答にする前に，まず，既知の構成部分の音符をとって推量読みをしてみるという傾向が，既知の音訓が小学校時代と比べて多くなり，多少とも，漢字の形・音（義）の一般的な知識をもつようになった中学生段階ではあるようである。中学生に一部認知の形の読み誤りが，未学習あるいは，使用寡少の文字（音訓）に多いのは，このためであろうと思われる。なお，不明の文字の旁又は構成部分が，等しく，親しい他の文字に使用されており，その文字のほかが，生徒にとって定着度の高い場合は，そちらにひかれて読む。

完遂(0)社3体3スイ→タイ(隊)　該(0)社3ガイ当→カク(核)　削(0)男2サク除→ショウ(消)　解雇(0)社3コ→ジャク・ジャン・ガン(雀・雁)　伺(0)うかがう→かう(飼)　悟(2)社2さとる→かたる(語)（書字でも覚・語多し）　被(3)こうむる→やぶる(破)　降伏(1)社2現3体3男3女3フク→ジョウ(状)　准(3)社3ジュン→スイ(推)

これらは，前掲，類似字形に誤る例であるが，誤反応の成因過程の一つとしてあげられよう。

なお，字形の一部認知と関連するものに，次のような一群のものがある。

その文字が，旁又は文字構成上の主要部分として使用される基本的な字形である場合，その文字が構成部分をなしている，親しい合成文字に誤って読む。

(教育漢字)

是ゼ→テイ(提)（書字でも提非とかく）

(教育外当用漢字)

与(0)社・男ヨ→シャ(写)　斥(3)社セキ→ソ(訴)　旨(0)社むね→ゆび(指)　既(3)社ほか6教材キ・既(0)社3すで→ガイ(概・慨)　卸(0)おろす売り→ゴ(御)　憂(1)社うれい→やさしい(優)

2)　意味に関する誤り

字形に関する誤りほど多くはないが，意味に連関した誤りも相当見うけられる。また教育漢字については，字形よりも意味的な誤りのほうが多い。

(教育漢字)

同意(a)　各(0)おのの→めいめい　宿(2)やど→とまる　お社(0)やしろ→おみや(宮)　価(0)あたい→ね　幸(1)さいわい→しあわせ・さち　競(0)きそう→あらそう

類意(b)　退(0)しりぞく→のく・ひく　預(0)金→チヨ　逆(0)さからう→ちがう　燃(1)ネン→やく　奮(1)ふるう→たかぶる　除(1)のぞく→はぶく　負(1)おう→せおう　備(1)そなえる→ととのえる　採る→あつめる

対意(c)　逆(1)ギャク→ジュン　災(2)わざわい→さいわい　苦(3)にがい→よい

連想(d)　社(0)やしろ→さかき(榊)　価(0)あたい→やすい　承(3)うけたまわる→やりました　健(3)すこやか→やすらか　基(3)もとい→いしずえ　…の由(2)よし→たとえ・わけ　設(2)もうける→たてる　潔(1)いさぎよい→あわい　欠(1)かける→とどける(欠席届か)　屋(2)オク→やね　練(0)ねる→なれる・きたえる

熟語(e)　①基(3)もとい→きち(基地)

②災(2)わざわい→テン(天災)　己(2)キ→コ(自己)　反(0)タン→タイ(反対)　勧(0)カン告→シン(申告)　申(3)シン告→ホウ(報告)・セン(宣告)・チュウ(忠告)・コウ(広告)　著(1)チョ者→ヒツ(筆者)　感(1)覚カク→ドウ(感動)　毒舌(0)ゼツ→ガ(毒牙)　一方(0)イッポウ→ポウ(一方)　討(1)トウ論会→ベン(弁論会)

訓が意味の固定したものであるからか，意味に関連した誤りは訓に多い。(a－c)。この場合にも，(a)同じ意味の語に読み誤るもの，(b)似通った意味の語に読み誤るもの，(c)その文字によって反対の意味の語が想起されるのか，反対概念の語として読むもの，(d) (a)～(c)のどれかともとれるが，それほど判然としておらず，その文字によって，なんとなく，想起・連想される語に読むものがある。また，同じく意味に関連する誤読であるが，訓に関する誤りに対して，音を中心とした一連の誤りがある。その対象の文字の読みがわからない時，その文字を含む熟語を想起して読もうとするものであって，

①熟語の構成文字としては読めないもの

その文字を熟語の形としては読めても，文字としては識別できない(基もと

い→キチ基地）

②熟語を構成する他の文字（音）と読み誤る（災わざわい→テン天災）

③熟語としてはわかるが，それを構成する単位としての文字の読みがわからない（天あめつ地ち）などがあるが，今回は，(1)はほとんどなく，又，(3)は，調査方式が，口頭による1対1方式のため，現れなかった。（調査方法，参照）

（教育漢字外当用漢字）

同意(a)　捕(3)とらえる→かまえる　淡(3)あわい→うすい　麗(3)うるわしい→うつくしい　獲(1)える→とる・とらえる

類意(b)　礎(0)いしずえ→もと　執(0)とる→にぎる　契(0)ちぎる→きめる　乏(3)とぼしい→まずしい　潜(3)ひそむ→しずむ　削(3)けずる→きる・ほる　企(3)くわだてる→たてる　翻(3)ひるがえる→かえる　射(3)いる→うつ　償(2)つぐなう→はらう　漂(2)ただよう→さまよう・まよう　縁(2)ふち→はじ　添(2)そえる→くわえる　凍(1)こごえる→ひるる

対意(c)　蚊(3)か→はえ　幾(3)いく→いつ　鈍(2)にぶい→するどい（鋭）（書字でも同様）　突(2)つく→ぬく（抜）　山の峰(2)みね→ふもと（同例の書字にも、麓とかく）　漆(0)シツ器→トウ（陶）　俊(3)シュンオ→ドン（鈍）

連想(d)　寿(0)ことぶき→いわう・たから　朗(0)ほがらか→あきらか　弦(0)つる→ゆみ　弦(2)数理音男ゲン→ゆみ　泣(0)キュウ→ルイ（涙か）　腰(0)女3・体3ヨウ部→キャク・キョウ（脚・胸）　陵(0)みささぎ→つつみ　悔(0)くやむ→なやむ・うらむ　忌(0)いむ→くやむ・いたむ・かなしい・やむ　衰(0)社3・音3おとろえる→ひえる・おびえる・うろたえる　緒(0)音2お→はじめ　既(0)社3すでに→さらに・ほかに・おおいに　朽(3)くちる→おちる　漏(3)もる(3)もれる(3)→たまる・ふる・ぬれる　忙(3)いそがしい→とぼしい・むずかしい・おしい・まずしい・さみしい・うらやましい　粘(3)ねばる→ねる・こねる　誘(3)さそう→さがす・ためす　駆(3)かける→さける・のける・どける　耐(3)たえる→きたえる・こたえる　欺(3)あざむく→あばく　偽(3)いつわる→かたる・あなどる　恨(3)うらむ→にくむ・あやしむ・なやむ・ねたむ　趣(3)おもむき→すき　謡(3)うたい→わらべうた・うた　頂(3)いただき→さき　双肩(3)ケン→ハイ・せ（背）　憎(3)にくむ→ねたむ・かなしむ・のぞむ　浸(2)ひたす→みたす　譲(2)ゆずる→あやまる　戒(2)いましめる→かためる　突(2)つく→おどろく　裂(2)さく→はぶく　占(2)しめる→せめる　嘆(2)なげく→おどろく　葬(2)ほうむる→まいる・かざる・おくる　乱(2)みだれる→あれる・やぶれる　奉(2)たてまつる→まいる・つとめる・まつる　優(2)やさしい→うつくしい・

うれしい・うるわしい・おおしい・すばらしい　惜(2)おし→かなしい・さびしい　醜(2)みにく→にくい・うたがい　賜(2)たまわる→うけたまわる・いたわる　響(1)ひび→とどろく　掃(1)はく→はぶく・かたずく　掲(1)かかげる→あげる　控(1)ひかえる室→あきべや　怪(1)あや→おそろしい　卑(1)社2いやしい→おそろしい・ちかしい・かなしい・めずらしい・むなしい　堤(1)つつみ→とりで

熟語(e)　②佳(0)カ作→ケッ(傑作)　赴(0)フ任→テン(転任)　恒(0)数2・理2・社3コウ星→ワク(惑星)　吐(0)体3ト血→カツ(喀血)　拝(0)謁エツ→ケイ(拝啓)　紛(0)糾キュウ→ソウ(紛争)　添(0)デン加→キョウ(強加)・ツイ(追加)・フ(付加)　婚(0)社3姻イン→ヤク(婚約)　紛(0)男3砕サイ→マツ(粉末)　諮(0)シ問→ジン(尋問)・グ(愚問)　分(0)数1・社1割カツ→リ(分離)・ジョウ(分譲)　恩(0)社3賜シ→ケイ(恩恵)　憎(0)ソウ悪→ケン(嫌悪)　捜(0)社3ソウ査→ケン(検査)・チョウ(調査)　奔(0)ホン走→シツ(疾失)　湖(0)社2沼ショウ→ハン(湖畔)・テイ(湖底)・スイ(湖水)・(ぬま)　一(0)数1勺シャク→キン(一斤)・カン(一貫)・テキ(一滴)　漆(0)社1・女1シツ器→トウ(陶器)　光(0)社2輝キ→エイ(光栄)　今(0)暁ギョウ→バン(今晩)　弔(0)チョウ電→テイ(停電)・ロウ(漏電)　一(0)匁もんめ→キン(一斤)・モン(一文)　卸(0)社1・女2おろし売り→おしうり(押し売り)　懸(0)ケ念→カン(観念)　疾(0)社3シツ病→ショウ(傷病)　暫(0)ザン時・定的→テツ(徹底)・ケツ(決定)・ゼン(漸次か)　破(3)壊カイ→ソン(破損)　机(3)キ上→タク(卓上)・バン(盤上)　惜(3)セキ別→ソウ(送別)　実(3)践セン→セキ(実績)　享(3)キョウ楽→ゴ(娯楽)　哀(3)アイ愁→リョ(旅愁)・バン(晩愁)　契(3)社1・男女3ケイ約→セイ(誓約・制約)　セツ(節約)・ケン(倹約)　一・総(3)括カツ→チ(一致)・セツ(一節)・ラン(一覧)　祈(3)キ願・禱→ネン(念願)　懇(3)コン談→ジョウ(冗談)・タイ(対談)・テイ(鼎談)　シン(?)　俊(3)シュン才→ドン(鈍才)　施(3)社1・男1セ療→チ(治療)　詳(3)女1・男3ショウ細→セイ(精細)　分(2)析セキ→レツ(分裂)　洞(2)穴ケツ→クツ(洞窟)　猟(2)リョウ師→ホウ(法師)　刑(2)ケイ事→ケン(検事)　交(1)換カン→サイ(交際)　吉(1)キツ報・凶・日→ヨ(予報)　渡(1)ト米・来→オウ(欧米)　繁(1)茂モ→エイ(繁栄)・ショク(繁殖)　継(1)ケイ続→ダン(断続)　舞(1)踏トウ→ヨウ(舞踊)　征(1)伐バツ→フク(征服)　草(1)刈カリ→とり(草取)

意味に関する誤りは，字形と同様，教育漢字外当用漢字では数も多く，多彩である。ことに連想に関するものが多い。中には，訓でたずねたものでも，そ

の文字を熟語として，読んだ記憶があり，それが逆に誤りの因子となっていると思われるものもある。

趣おもむき→すき　は「趣味」からであろうし，駆かける→どける・のける・さけるは駆除，卑いやしい→ちかしいに卑近を想定したものと思われる。いずれにしても，その文字，文字を含んだことば（訓）から想起される訓は，醜悪，不幸，悲哀の意味をもった文字には，それに関連した訓を，反対に，幸福，美的感情の意味をもった文字には，それに似通った訓をあてることが多く（対義を想起するものを除く），その文字によって触発される概念は，当たらずといえども遠からずであることがわかる。国語をはじめ，他教科の内容が多岐にわたるようになり，読書生活もより豊かになると，それが学習されない文字や音訓であっても，何等かの機会に目にした文字や語は，意味的連合をもって，意識下に累積されていくものとみえる。誤答の現象が，その過程や因子を物語っている。

又，教育漢字外当用漢字は，未学習文字や音訓が多いから，熟語に関連する誤りも目立つ。たずねられた文字（主として音読みで，熟語の形で示される）の読みがわからないとき，その文字と結合している他の文字の読みを手がかりにして，その文字と対応する熟語を想起しようとする。したがって，直接たずねる文字が中心ではなく，その文字と結合している熟語の他の構成文字の方が中心になって，問題の読みが求められる。いわば，問題の文字は副次的に扱われ，それとの構成文字である他の文字が結びつきやすい熟語をさがそうとするために，似通った熟語が想起されることもあるが，時に意外な熟語，読みがとび出してくる。これは純粋に意味に関する誤りというより，熟語構成による，対応文字の読みから規制されて生ずる読みとでもいうべきか，その意味では，次の文脈，語形など，問題提出に関連する誤りの中にも位置づけられよう。

この誤りは，その文字を含む熟語の領域で多用される熟語使用の範囲と，この段階での中学生の関心語彙の範囲がわかっておもしろい。

3）　提出語形による誤り

はっきり読めない文字に対した場合，与えられた文脈，語形に合うように自

分の観念の中で，ある語，語形を考え，その既有の語をあてはめて読むもので，小学校時代でも，訓読みの語の場合など，用言の活用形にあてはめて読むことが行なわれたが，中学生でも，この傾向がある。なお，音読の場合は，問題が熟語形式をとることが多いから，前述の熟語の構成文字による誤りの形をとることになる。この誤りは，字形にも，意味にもよらず，もっぱら語形(終止形)に合わせようとするのであるから，誤答のよりどころ，理由は稀薄で，勝手な多様な誤りが多い。

(教育漢字)

結(0)ゆう→かう　商(0)あきなう→やしなう　統(0)すべる→ならべる・くらべる・のべる　悔(0)くいる→むくいる　各(0)おのおの→すみずみ　推(3)おす→しめす・おかす・さがす・はたす・ためす　興(3)おこる→こまる・こる　承(3)うけたまわる→たよる・ことわる・たてまつる　否(3)いな→はばむ　あやうむ　経(2)へる→まわる・まがる・はかる・える　率(2)ひきいる→もちいる　責(2)せめる→もとめる・つとめる　設(2)もうける→つける・かける・とける・とどける・(さずける)　報(1)むくいる→ひきいる　留(1)とめる→つとめる・おさめる　参(1)まいる→さる・はかる・まさる　済(1)すむ→のむ・のぞむ・きざむ　負(1)おう→なう・あやう　討(1)うつ→たつ・はたつ

誤りの例としてあげられているこれらは，すべて読み不振の訓であることがわかる。教育漢字の中にも，意味や字形によらない，単に終止形を合わせようとするにすぎないこの種の誤りがあること，現実の読書に際して，これらが，どのように処理されているかは，単に誤字現象としてでなく，きわめて大切な問題をはらんでいるものと思われる。2・3年生の集団調査で，読みと語彙把握の関係をみようとした（2年　問題8，3年　問題7参照）のは，この問題を追究しようとした試みである。読めない，あるいは誤答の多かった訓と語彙理解との関係は相当深い。

(教育漢字外当用漢字)

頒(0)わかる→すすめる・いとめる・しめる・うめる・つめる・いましめる・いさめる　免(0)まぬかれる→くれる・とれる・(ゆるされる)　誉(0)ほまれ→たわむれ・いわれ　募(3)つのる→せまる・しめる・くばる・はいる・おくる・よる・とまる・(あつまる)　拒(3)こばむ→はばむ・ねたむ・のぞむ・いたむ　懲(3)こらす→おかす・へらす・ちらす・ただす

摘(3)つむ→さだむ・とむ・こばむ・ふくむ　焦(3)こげる→つげる・あげる・はげる
芳(3)かんばしい→はげしい・おしい・まずしい・いちぢるしい　且(3)かつ→たもつ・たつ・はなつ　更(3)さらに→つねに・べつに　携(3)たずさえる→むかえる・かえる・そなえる・おとろえる　駆(3)かける→とける・ふける・さける・つける　探(2)さぐる→ほる・はかる・たすける　誇(2)ほこる→おこる　載(2)のせる→きせる・させる・まかせる　控(1)ひかえる→ひるがえる・とらえる　顧(2)かえり→こころみる　詳(2)くわしい→めずらしい・むずかしい・やさしい・ひさしい　掲(1)かかげる→あげる・わげる・ささげる・つげる・さげる　召(1)めす→しめす　まかす

教育漢字外当用漢字では，学習過程にある文字が多いから，誤りかたも多岐にわたる。同じ訓の読みが，提出語形に関連して誤られているかと思えば，意味に関連しても誤られるなど，人によって，又，同一人によっても，調査時期で誤られかたが異っていることがある。たとえば詳くわなど，2年の国語で学習されるまでは，無答や，提出語形にひきよせたさまざまの読みがされたが，学習後の3年調査では，全員正読というように，学習時までの誤りの種々相でもある。

4)　音訓に関する誤り

①音訓を度外視した読み

提出語形で，前後の関係で，問われている文字の読み（音訓）が，おのずから規定されているにもかかわらず，正しい読みがわからないためにそれを無視して自分の知っている，親しい読みかたに反応するもので，この調査が，音訓のすべてにわたって（3122音訓）行なわれたためか，この種の誤りが非常に多いこと，又，あわて読みの結果というより，語形に即した正しい読みかたがわからないために，結果的に音訓を無視することになることが認められた。

（教育漢字）

〔音を訓に〕

貸(0)タイ借→かし・かす　湯(0)トウ→ゆ　急坂(0)ハン路→サカ・ザカ　舌(0)ゼツ→した・じた　織(0)シク機→おり　麦(0)バク秋→むぎ　一夕(0)セキ→ゆう　一切(0)サイ→きれ　包(0)ホウ装→つつみ　浅(0)セン→あさ　類似(3)ジ→に　河川(3)セン→がわ　宝玉(2)ギョク→たま　戸(1)コ数→

と・ど　末(1)マツ路→すえ　屋(1)オク上→やね・うえ

〔音を他の音に〕

遊説(0)ゼイ→セツ・ゼツ　功(0)ク徳→コウ　流(0)ル→リュウ　衆(0)シュ生→シュウ
解(0)ゲ毒→カイ　精(0)ショウ進→セイ　回(0)エ向→カイ　宗(0)ソウ匠・族→シュウ　行(0)アン即・燈→キョウ・ギョウ・コウ　出(0)スイ納→シュツ　断食(0)ジキ→ショク　一・合切(0)サイ→セツ・(キリ)　黒白(0)ビャク→ハク　赤(0)シャク銅→セキ・(あか)　最期(0)ゴ→キ　修(0)シュ行・業→シュウ　静(0)ジョウ脈→セイ　坊主(0)ズ→シュ　力(0)リキ説→リョク　歩(0)ブ合→ホ　大漁(0)リョウ→ギョ・ギョウ　一反(0)タン→ハン・パン　渓谷(0)コク→ヤ　暴(3)バク露→ボウ　緑青(3)ショウ→セイ・(あお)　発(3)ホツ起人→ハツ　悪業(3)ゴウ→ギョウ　有(3)ウ無→ユウ　首相(3)ショウ→ソウ　至極(3)ゴク楽→キョク・ゴ　権(3)ゴン現・化→ゲン　素(3)ス足→ソ(もと)　大・所・願望(3)モウ→ボウ　示(3)シ唆→ジ　中州(3)ス→シュウ・シュ　都(3)ツ合→ト　拾(2)シュウ→ジュウ　武(2)ム者→ブ　悲厳(2)ゴン→ゲン・ガン　成就(2)ジュ→シュウ　成(2)ジョウ就→セイ　一・百万石(2)コク→セキ　元(2)ガン金→ゲン　強(2)ゴウ情・迫→キョウ　商弟(2)テイ→ダイ　使・現役(2)エキ→ヤク　客(2)カク死→キャク　体(2)テイ裁→タイ　丁(2)テイ寧→チョウ　知己(2)キ→コ　復興(2)コウ行→キョウ　貧(2)ヒン困→ビン　境(1)ケイ内→キョウ　会(1)エ釈→カイ　読(1)トク本→ドク　久(1)ク遠→キュウ　宮(1)ク内庁→グウ　雑(1)ゾウ木→ザツ　参内(1)ダイ裏→ナイ・(うち)　古今(1)キン上→コン　作(1)サ法→サク　皇(1)オウ子→コウ　重(1)チョウ復→ジュウ　天女(1)ニョ→ジョ　万(1)バン物→マン　明(1)メイ白・治→ミョウ　板(1)ヘン木→バン・(いた)　容易(1)イ→エキ　率(1)ソツ先→リツ　供(1)グ→キョウ

〔訓を音に〕

字(0)あざ→ジ　民(0)たみ→ミン　欲(3)ほっする→ヨクする　面(3)おもて→メン　基(3)もとい→キ　推(3)おす→スイす　血眼(2)まなこ→ガン・(め)　…の由(2)よし→ユウ　費(2)ついやす→ヒやす　室(2)むろ咲き・闇→シツ　老(2)おいる→ロウ　経(2)へる→ケイる　仮(2)かりに→カ　竹の節(2)ふし→セツ　訳(1)わけ→ヤク　図(1)はかる→トる　額(1)ひたい→ガク　形(1)かた見→ケイケン　弓の的(1)まと→テキ　管(1)くだ→カン　和(1)やわらぐ→ワらぐ　公(1)おおやけ→コウ　社(0)やしろ→シャ・ジャ　各(0)おのおの→カクカク　政(0)まつりごと→セイ

〔訓を他の訓に〕

外(0)ほか→そと　苦(3)にがい→くるしい　基(3)もとい→もと

他の誤答反応が比較的少ない教育漢字に，この音訓を度外視した誤りが多いということは，教育漢字の読みの問題点が，音訓にかかわってあることを語っている。ことに，特殊の用語に使われる音，特別音訓は，それらの語になじみが薄いせいか，一般通用の音に読んでしまう傾向が相当あることがわかる。

（教育漢字外当用漢字）

〔音を訓に〕

綱(0)コウ目→つな　分割(0)数・社カツ→わり　茎・横柄(0)屋・女ヘイ→がら　風袋(0)社タイ→ふくろ（人名―花袋）　刀(0)男ジン→は　桜(3)オウ花・桃→さくら　婿(0)セイ→むこ　穂(0)スイ→ほ　井(0)屋3セイ→い　尼(0)ニ→あま　苗(0)男3ビョウ→なえ　浦(0)ホ→うら　巣(0)屋2ソウ→す　措(3)セキ→おしい　敷(1)フ→しき

〔音を他の音に〕

仰(0)ギョウ→コウ　執(0)シュウ着→シツ　帰(0)依エ→イ　懸(0)ケ念→ケン　市(0)屋井セイ田→ジョウ　繁盛(0)社ジョウ→セイ　深紅(0)ク→コウ　昔(0)セキ日→シャク　惜(3)セキ別→シャク　帆(3)社・理・美・女ハン船→ホ　普請(3)シン→セイ　施(3)社・男セ→シ　封(2)社ホウ建→フウ　柔(2)屋ニュウ和→ジュウ　挺(1)社コ→キョ　電鈴(1)屋レイ→リン

〔訓を音に〕

干(2)社ひる→カン　御(2)社おん中・もと→ご　忍(1)しのぶ→ニンぶ　乳(1)体ち飲み子→ニュウ　若(0)社もしくは→ジャク

〔訓を他の訓に〕

乳(1)体ち飲み子→ちち　若(0)社もしくは→わか　干(2)社ひる→ほす　かさの柄(0)屋・男・女え→がら

教育漢字外当用漢字は教育漢字に比べると，多音多訓の文字や特殊音訓が少ないためか，音訓に関する誤りは他の誤りと比べると比較的少ない。ただ，別訓，俗訓に読むものがかなりあること，それらが，多く未学習音訓についてであることは，一般読書が，それだけ行なわれていることを示しているとみられる。

②表外訓（別訓・俗訓等）で読む

当用漢字音訓表で認められている音訓以外の読みかたで読んでいるものが時にある。これらは，表内訓からみれば，はずれた読みかたであるが，別訓・俗訓として世間でも時に用いられている影響からであろうか。

また，名乗り訓として通用しているもの，まれに熟字訓に反応するものもあり，この期の中学生の表外訓に対する関心の度合い，影響がわかっておもしろい。

（教育漢字）

〔別訓・俗訓に〕

血眼(0)まなこ→め　後(0)のち世→あと　政(0)まつりごと→まさ　退(0)しりぞく→ひく　面(3)おも→つら　天(3)あめ→あま　経(2)へる→つね　室(2)むろ 咲き・閨→へや　和(1)やわらぐ→かず　潔(1)いさぎよい→きよい　尊(1)たっとい→とうとい（8人のうち，2人のみたっとい，他はとうとい。）公(0)おおやけ→きみ　一夕(0)セキ→ばた（七夕か）

（教育漢字外当用漢字）

紅(0)くれない→あか　装(0)よそおう→よそう　充(0)あてる→みてる・みちてる　陵(0)みささぎ→おか　尼(0)ニ 僧→ジ（孔子・仲尼か）　貞(0)テイ 節・女・操→ジョウ・さだ　操(0)みさお→あやつり（る）　弦(0)つる→いと　辛(0)女からい→つらい　臭(0)くさい→におい　完遂(0)スイ行→つい　緒(0)音2お→はじめ　免(0)社3まぬかれる→ゆるされる　危篤(0)トク→あつ　憤(3)いきどおる→おこる・いかる　凝(3)こる→かたまる　泰(3)タイ→やす　脅(3)おびやかす→おどかす・おどろかす　汚(3)社・体けがす→よごす　巡(3)めぐる→まわる　怒(2)いかる→おこる　克(3)社・体コク服→カツ　芳(3)かんばしい→よし　被(3)こうむる→きる・かぶる　惑(2)まどう→まよう・とまどう　訪(2)おとずれる→たずねる　香(2)社・理・音か→かおり　御(2)社おん→お・み　巻(1)社・英カン→ケン（巻雲か）

以上，読みにおける誤りの傾向を類別的に見てきたが，同一の文字でも，学習の有無，被調査者の個性などによって，現実には種々の角度から誤られている。

(3)　誤答反応に見られる習得過程

この調査は，3年間（6回）にわたり継続調査を実施したので，各人の反正答反応を継続的に観察することができた。その結果，（無答—誤答）から正答反応が漸層的，上昇的に定着していくのが習得の過程の典型であり，できる文字は，多くその反応過程を示しているが，中に，習得過程として注目しなければならない次のような現象が認められた。

1)　同じ誤りがくり返し続けられている――誤りが修正されない

同じ問題を継続して読ませてみると，ときに下のような結果がみられる。「滞」「潜」ともに，音ではタイ2年，セン3年で学習し(国語)，卒業までに全員が読めるようになるが，「とどこおる」「ひそむ」は学習する機会がなかったために，「おびる」「しずむ」が長期にわたって修正されることなく，くり返されている。「とどこおる」など，「滞納・滞在・沈滞・渋滞」と字音語の方が多用され，これがわかれば，「とどこおる」は読めなくても，わからなくてもさしつかえないようであるが，伝えられる，大学生に「交通の渋滞」と書かせたところ「交通の重体」と書いたというような誤りは，滞の訓の不振（字義の不

〔滞〕

音		1年	2年	3年	訓		1年	2年	3年
1.タイ	国	0	2	0	1.とどおこる	国	0	0	0
	他	0	理	社		他	0	0	0
2.	国				2.	国			
	他					他			
3.	国				3.	国			
	他					他			

音		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.タイ 滞納・沈滞	1	◎	◎	◎	○	／	／	／	／	4
	2	◎	◎	◎	◎	／	○	／	／	5
	3	◎	◎	◎	◎	◎	タン	／	◎	6
	4	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	8
	5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	8
	6		◎	◎	◎	◎	◎	☑	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.とどこおる 滞る	／	／	／	／	／	／	／	／	0
	／	おびる	おびる	／	／	／	／	／	0
	／	おびる	おびる	／	／	／	／	／	0
	◎	おびる	おびる	／	／	おびる	／	／	1
	◎	◎	おびる	／	○	おびる	おびる	／	3
		こる	○	○	◎	おびる	○	とる	5

〈注〉　上段は「滞」の字の音訓別の学習状況を示す。下段は8人の生徒の1～3年（6回）の調査結果を示す。

◎○は正答（◎は完全正答，○は正答反応に渋滞のみられたもの），／（斜線）は無答，誤答はそのまま記入。2回続けて正答◎のうち，空欄は習得できたものとみなす。☑は正答2回後の無答を示す。

〔潜〕

音		1年	2年	3年	訓		1年	2年	3年
1.セン	国	0	0	8	1.ひそむ	国	0	0	5
	他	社·体	0	0		他	0	0	0
2.	国				2.	国			
	他					他			
3.	国				3.	国			
	他					他			

音		生徒 男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
セン	1	◎	シン	◎	○	／	／	／	／	3
	2	◎	○	◎	◎	◎	／	／	シンスイ	5
	3	◎	◎	◎	◎	◎	タン	／	◎	6
潜水	4	◎	◎	◎	◎	◎	シン	／	◎	6
	5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	8
	6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	8

訓	生徒 男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
ひそむ	／	しず	／	しずむ	／	／	／	／	0
	／	しずむ	しずむ	しずむ	しず	／	／	しずむ	0
	○	◎	しずむ	しずむ	しずむ	／	／	／	2
潜む	／	しずむ	しずむ	しずむ	しずむ	／	すむ	しずむ	0
	◎	◎	○	しずむ	しずむ	しずむ	しずむ	しずむ	3
	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	しずむ	7

振でもある）につながるものであろうし，潜を「しずむ」と読むのは，潜に「しずむ」意もある（例→沈潜）ので，意味的に通じ，これなどは，「しずむ」で通用してしまいそうである。あきらかに誤りである，意味的には通じる，と否とを問わず，同じ誤りがくり返されていて，誤りが固定している——本人はそう思いこんでいると思われる場合が見うけられるのである。これらの誤りが学習によって，あるいは他の読書，何かのきっかけで正しい読みかたを知る機会を得ない場合があろう。それが中学卒業後の誤読にもつながるのではなかろうか。この現象は，学習されなかった文字に多い。また，学習途上にある教育漢字外当用漢字だけでなく，数は少なくなるが，教育漢字の問題のある読みにもみられる。この現象は，未学習文字・未学習音訓の場合に多く，また，個人的傾向というより，むずかしく，問題のある文字については，共通にみられる現象である。それに対して，次のような場合がある。

2)　テストの度に反応が異なる

同じできない場合でも，誤答が固定しているのに比べて，テストの度ごとに

〔説〕

音		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
2.ゼイ遊説	1	／	／	セツ	／	／	／	／	／	0
	2	セツ	／	◎	／	／	／	／	セツ	1
	3	○	セツ	◎	ゼツ	ゼツ	／	／	セツ	2
	4	／	／		／	／	／	／	／	1
	5	ゼツ	エツ		ゼツ	ゼツ	ゼツ	エツ	／	1
	6	◎	◎		◎	◎	／	○	／	6

〔因〕

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.よるに因る	こまる	おこる	こまる	／	／	／	／	こまる	0
	／	こまる	こまる	／	／	こまる	いる	こまる	0
	／	イン	こまる	おん	こまる	こまる	こまる	おこる	0
	／	いる	こまる	／	／	こまる	こまる	こまる	0
	／	○	いる	○	いる	こまる	こまる	／	2
	／	こ	こだわる	はかる	／	／	こまる	／	0

〈入学→卒業〉

				正答	正答
読み	音	セツ	説明・伝説	8人	8人
	訓	とく	説く	4人	8人
書き			伝説	6人	8人

〈入学→卒業〉

				正答	正答
読み	音	イン	原因	8人	8人
書き			原因	6人	8人

誤反応（無反応）が異なるもので，これは，誤る本人も，自分の反応が誤まっていることを意識しているものと思われる。そのために，テスト時のたびごとに，正反応に近づこうとして，いろいろな答えを試みるのであろう。

「優」は，音ユウでは，「優勝」で，入学時から，8人全員が正読できたが，訓「やさしい」では1人も読めない。（この場合，国語では，「ユウ」も未学習音であるが，「優勝」という語の一般性，親近性から，小学校時代に，この読み

〔優〕

音		1年	2年	3年
1.ユウ	国	0	8	10
	他	数	社など	体など
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

訓		1年	2年	3年
1.やさしい	国	0	23	1
	他	0	0	0
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.やさしい優しい	／	／	／	／	／	／	／		0
	／	／	／	すばら	／	／	／		0
	おおし	まさ	うつく	うれし	／	／	／	◎	1
	◎	うるわ	うつく,	◎	うれし	◎	うつく	◎	4
	◎	◎	うつく	◎	◎	◎	○		7
		うれし	／		○		○		6

〔学習した語〕
優雅（国・音・女）　優美（国・音・女）　優越（社）　優劣（国）　優勝（体）
女優・俳優（国）名優（社・音）

は習得されていたことがわかる。）

しかし，優勝をはじめとして，2年になって国語をはじめ，他教科などで優美・優雅・優越などの語を学習したり，目にする機会があったために，優の文字に対する語感（文字感）ともいうべきものはある。しかし，「優しい」の訓は学習していない。2年までの，無答や，すばらしい・おおしい・うつくしい・うれしい・まさ（人名　優まさる　などによったものであろう）などが，それを物語っている。2年生での国語学習で「やさしい」を学習したのちの3年前期で，7人のものがようやく正読できるようになったが，その後，伸びなやんでいるのは，この訓，「やさしい」に対応する熟語，「優美」の語の印象の方が強いからであろうし，又，この年代の中学生では，訓「やさしい」に対応する「優雅・優美」より，「すぐれる」意の優等・優勝・優秀や，役者の意の女優・俳優などの方に親しいからでもあろう。いずれにしても，一つの誤りのかたちに固定してしまわないで，正答へと模索している誤答反応の現象である。そしてこれは，学習の有無や文字にもよるが，また，性格によっても，この現象の出やすいものと，そうでないものとがある。

〔募〕

音		1年	2年	3年
1. ボ	国	0	0	0
	他	0	数	社
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

訓		1年	2年	3年
1. つのる	国	0	0	2
	他	0	0	0
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

（社）募集・応募
（数）募金

音		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. ボ 募集・応募	1	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	8
	2	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	8
	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. つのる									0
			◎						1
			しまる	おくる		◎			1
			はいる	あつまる	あつめる				0
	よる	しめる	せまる		◎	くばる		したる	1
	◎		せまる	◎	◎				3

〔賜〕

音		1年	2年	3年
1. シ	国	0	0	0
	他	0	0	社
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

訓		1年	2年	3年
1. たまわる	国	0	2	1
	他	0	0	0
2.	国			
	他			
3.	国			
	他			

（社）賜与
（国）賜物・賜わる

音		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. シ 恩賜	1	ハイ	ヨウ							0
	2	ヨウ							イ	0
	3	チョウ	ケイ		ショウ		イ		○	1
	4				ケイ	ヨウ	イ	ヨウ		0
	5				ケイ	ヨウ				0
	6	ヨウ	ショウ	シャ	ケイ		ショウ	キョウ	○	1

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. たまわる		いたわる							0
								いたわる	0
		あらわる							0
		◎			○				2
	◎		○	○	◎				4
	○	◎	◎	◎	うけたまわる			○	6

2. 書　き

(1)　書きの成績と各反応

教育漢字・教育漢字外当用漢字の書字の習得状況を正答反応だけでなく，誤答・無答の反応面も合わせてみると，284・285ページの表のようになる。

この表は，累積整理の方式によっているが，それでも，読みに比べてかなりの反正答反応が見られる。書くことまでは要請されていない教育外当用漢字に反正答反応があることは当然としても，その総てが書けるように要求されている教育漢字に，書きやすい，親しい語形によっても，3年卒業時に，なお，誤答最高34字　平均16.6字，無答最高15字　平均3.8字があるということは，漢字の書字のむずかしさを示しているものと思われる。しかも，これが，真に習得できたとする，習得完了の観点からでは，さらに反正答反応が多くなること

(第5表)　教育漢字　書字の各反応

反応 / 生徒	第1回(中学入学時)			2　(1年後期)			3　(2年前期)			4　(2年後期)			5　(3年前期)			6(中学終了時)		
	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N′
男子 1	843字 95.7%	27 3.1	11 1.2	864 98.1	14 1.6	3 0.3	875 99.3	6 0.7	0	879 99.8	2 0.2	0	880 99.9	1 0.1	0 0.1	881 100	0	0
2	689 78.2	175 19.9	17 1.9	721 81.8	125 14.2	35 39.7	775 88.0	72 8.2	34 3.9	828 94.0	43 4.9	10 1.1	832 94.9	45 5.1	4 0.5	851 96.6	25 2.8	5 0.6
3	802 91.0	68 7.7	11 1.2	839 95.2	39 4.4	3 0.3	868 98.5	13 1.5	0	874 99.2	4 0.5	3 0.3	879 99.8	1 0.1	1 0.1	878 99.7	3 0.3	0
4	646 73.3	96 10.9	139 15.8	713 80.9	83 9.4	85 9.6	770 87.4	76 8.6	35 4.0	794 90.1	60 6.8	27 3.1	819 93.0	46 5.2	16 1.8	840 95.3	34 3.9	7 0.8
女子 1	756 85.8	78 8.9	47 5.3	795 90.2	59 6.7	27 3.1	844 95.8	24 2.7	13 1.5	868 98.5	13 1.5	0	871 98.9	10 1.1	0 0.1	874 99.2	7 0.8	0
2	600 68.1	146 16.6	135 15.3	655 74.3	142 16.1	84 9.5	785 89.1	70 7.9	26 3.0	842 95.6	31 3.5	8 0.9	847 96.1	27 3.1	7 0.8	862 97.8	16 1.8	3 0.3
3	524 59.6	165 18.7	192 21.8	642 72.9	129 14.6	110 12.5	724 82.2	78 8.9	79 9.0	787 89.3	53 6.0	41 4.7	829 94.1	40 4.5	12 1.4	837 95.0	29 3.3	15 1.7
4	702 79.7	139 15.8	40 4.5	787 89.3	78 8.9	16 1.8	822 93.3	48 5.4	11 1.2	852 96.7	25 2.8	4 0.5	856 97.2	25 2.8	0 0.1	862 97.8	19 2.2	0
平　均	695.3 78.9	111.8 12.7	74.0 0.8	752.0 85.4	83.6 9.5	45.4 5.2	807.9 91.7	48.4 5.5	24.8 2.8	840.5 95.4	28.9 3.3	11.6 1.3	851.6 96.7	24.4 2.8	5.0 0.6	860.6 97.7	16.6 1.9	3.8 0.4

(第6表) 教育漢字外当用漢字 書字の各反応

反応 / 生徒	第1回(中学入学時)			2 (1年後期)			3 (2年前期)			4 (2年後期)			5 (3年前期)			6(中学終了時)		
	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N	○	×	N
男子 1	364字	150	455	490	180	299	628	133	208	751	125	93	853	83	33	894	59	16
	37.6%	15.5	47.0	50.6	18.6	30.9	64.8	13.7	21.5	77.5	12.9	9.6	88.0	8.6	3.4	92.3	6.1	1.7
2	122	393	454	170	424	375	242	408	319	305	316	348	379	401	189	443	297	229
	12.6	40.6	46.9	17.5	43.8	38.7	25.0	42.1	32.9	31.5	32.6	35.9	39.1	41.4	19.5	45.7	30.7	23.6
3	183	220	566	276	185	508	428	167	374	557	195	217	703	152	114	747	144	78
	18.9	22.7	58.4	28.5	19.1	52.4	44.2	17.2	38.6	57.5	20.1	22.4	72.5	15.7	11.8	77.1	14.9	8.0
4	141	111	717	181	187	601	246	220	503	337	214	418	384	224	361	464	203	302
	14.6	11.5	74.0	18.7	19.3	62.0	25.4	22.7	51.9	34.8	22.1	43.1	39.6	23.1	37.3	47.9	20.9	31.2
女子 1	204	168	597	303	151	515	420	132	417	645	142	182	772	122	75	821	111	37
	21.1	17.3	61.6	31.3	15.6	53.1	43.3	13.6	43.0	66.6	14.7	18.8	79.7	12.6	7.7	84.7	11.5	3.8
2	83	346	540	130	210	629	255	199	515	433	238	298	579	237	153	630	189	150
	8.6	35.7	55.7	13.4	21.7	64.9	26.3	20.5	53.1	44.7	24.6	30.8	59.8	24.5	15.8	65.0	19.5	15.5
3	82	346	541	132	310	527	198	203	568	344	194	431	422	263	284	478	223	268
	8.5	35.7	55.8	13.6	32.0	54.4	20.4	20.9	58.6	35.5	20.0	44.5	43.6	27.1	29.3	49.3	23.0	27.7
4	190	210	569	235	264	470	355	268	346	533	245	191	578	251	140	645	222	102
	19.6	21.7	58.7	24.3	27.2	48.5	36.6	27.7	35.7	55.0	25.3	19.7	59.6	25.9	14.4	66.6	22.9	10.5
平均	171.1	243.0	554.9	239.6	238.9	490.5	346.5	216.3	406.3	488.1	208.6	272.3	583.8	216.6	168.6	640.3	181.0	147.8
	17.7	25.1	57.3	24.7	24.7	50.6	35.8	22.3	41.9	50.4	21.5	28.1	60.2	22.4	17.4	66.1	18.7	15.3

は，前章に見たとおりである。

(2)　書きにおける誤答

教育漢字を中心に書きの誤答傾向についてみよう。

漢字が書けない場合には，その文字・字形が想起できない，無答によることも少なくないが，学習ずみの教育漢字では誤答が多く，しかも活発である。

誤答は大別すると，

①字形が正しくとれていない(形に関する誤り)

②意味と無関係に，同音の他の字をあてる(音に関する誤り)

③意味の類似，近似又は反対の文字，あるいは熟語構成上関係のある文字をあてる(義に関する誤り)

があり，人・場合によっては，④当用漢字の字体でない字体（旧字体や俗体）を誤答とすることもある（①～③とは誤りの性格がちがうが)。

これらの誤りは，文字により，人により，時に問題提出の前後の文脈や用語等によって，同一の文字でも，さまざまな誤答現象を呈するが，しかしまた，大きくみると，誤答現象の中にも，

1.　字形が正しく取りにくい文字群

2.　同音（訓）の他の文字，意味的類似（又は反対）等，他の文字を使いやすい文字群

3.　1・2の混合型文字群

の三つの傾向があるように思われる。もちろん，上の三つが整然と分かれて誤られるわけではなく，混然とする場合もあるが，文字によって，誤答傾向にも共通性・共通現象があることが認められる。

文字によっておのずから共通的な誤答現象が生ずること，どのような誤りをとりやすいかを，3年間の習得の過程からとり上げてみよう。

1)　字形が正しく取りにくい文字群

その文字を書く必要が生じた時（テスト，作文，記録，手紙その他）どのような文字を使用すべきか，その字は，どういう字形かを想起することはできる

が，それが完全でないために，正しい字形がとれない，再生しにくい字形の文字群である。その想起の確実さの程度・度合いにより，(1)字形の一部しか書けないもの，(2)大体似通った字形をとることができるもの，(3)その文字の主要なところが，どこか一か所正しさを欠くために完成しないものなどの段階があり，8人の調査結果，教育漢字では，字形がとりにくい反応が多くあった。字形のとりにくい原因として，次のことがあげられる。

①画数が多く，字形が複雑で，正しく書くのがむずかしいもの

例――：

(教育漢字)

厳衆潔鼻暴務臨属就

(教育漢字外当用漢字)

環戯劇墾懇獣瞬奨譲醸嬢織壇髪畜蓄遭慈慶慢漫蒸夢憩齢熟

画数が多く字形が複雑な文字は，一般的にいって書きにくい場合が多い。これらの文字の中には，旧字体に比べると，かなり画数が整理されて少なくなっているものもあるが，全体としてみた場合はやはり多く，したがって，書きにくい。教育漢字外当用漢字にみられる例であるが，偏が異なって旁が同じ系統の文字など，教育漢字の一般傾向でいくと偏を誤って旁の同系の字に反応する例が多いのに反して，つくりの方で同じように字形がとれないという現象がみられた。漫画の漫なども，よく目にする字であるので，字形全体の想起はできても細部で誤り，さまざまな誤字の形がとられている。

②字形はさして複雑ではないが，どこかに誤りやすい（点画上の有無・長短・方向・つけるかはなすか，とめるかはねるか，つきぬけるか，とどめるかなどの）難箇所があるもの。

(教育漢字)

衣逆均券黄術純初勝宣専低底展博複補未礼

(教育漢字外当用漢字)

為域越奥卸華暇危距胸郷謹撃迎叔淑傷睡衰賊秩督逃塔簿某裕郵裏柳廉朗廊

教育外当用漢字の場合は，傾向的に，教育漢字より画数が多いので，①との区別が判然とつけがたいが，比較的に誤りに共通点の多いものが，この中にあげられよう。

③なんとなく正しい字形のとりにくいもの

②に入れることもできようが，字形はさして複雑ではないが，偏旁冠脚などの形や音符などの特徴によって覚える手がかりのとらえにくいものに多い，

（教育漢字）

塩革確妻児宿真典

（教育漢字外当用漢字）

戒朽啓荒仰索伺執将畳沈垂晩邦之奔与誉幼卵励

④他に類似字形があって，誤りやすいもの

（教育漢字）

永功穀似底率

（教育漢字外当用漢字）

域沿悦桜穫勘堪却暁遣浸侵帥随徴徹微描腹墳幣舗撲*墨眠娘滅網揚揺庸塁隷烈楼惑（* 撲は表外字　僕と誤る）

などがある。これら四種も，具体的に現われる場合は，誤りの因子が他と重複する例もあり，たとえば，類似字形には，同音の文字が多いから，同音のもの，あるいは意味の類似などからと考えられる場合もあって，単純に字形からと峻別できない場合もあるが，傾向としてみた場合は，字形上の誤りの多いほうの字である。また，一歩をゆずって，字形上の誤りとしてみた場合も，上掲の4種に画然と類別できない場合があり，特徴的に分類してみた結果のものであることを注意したい。

なお，教育漢字外当用漢字は，総体的に字形が複雑でむずかしくなっているので，字形上の誤りが，圧倒的に多いかと思われたが，必ずしもそうではない現象がみられた。この現象は，次の誤答現象とあわせみた時，その原因が氷解された。

2)　同音（訓）の他の文字，同義・類義（又は対義，時には熟語構成の上で

の他の文字）の他の文字をあてて書くもの

この誤答傾向は，次のように分けられる。

①同じ音（又は訓）の異字をあてる誤り

（教育漢字）

例一営（栄と誤りやすい）　刊（間・慣）　管（官・菅）　給（級・球・久）　効（講・功・校・郊）　孝（考・行・幸・公）　災（才・最・西・再）　誤(互・語・吾・娯・護)

（教育漢字外当用漢字）

寛大（関・感・歓・拡大）　既報・成（期・気・記・季・希）　購売（公・構・講校）　幻燈（厳・源・弦・現・玄）　寡婦（家・仮・可・嫁・個）　喚声（歓・勧・観・完・管）　便宜(議・儀・義・疑)　示唆(左・差・刺・酸)　堅固（剣・健・賢・圏）　及第（救・級・球・旧・急・休・求・吸）　分析(積・績・責・席)　拷問（強・郊・郷・剛・豪）貞節（低・抵・定）禍福（化・加・仮・可）　恩賜(士・志・子・誌・師)　匿名（特・篤・得・徳）款待（観・歓・憾・関・循）　幼稚園（知・地・痴）　且っ（勝・滑）　虞(恐・怖)　但(正・只・唯)　姓名（性・精・生・正・証・説）

これらには漢字の表意性を無視・軽視しての誤りが多く（中には，意味的に多少の連関があるものもある），その文字の持つ意味は考えず，ただ単に既得の同音（訓）の文字をあてようとしている。

教育漢字では，求められた漢字が想起できる場合が多いからか，むしろ字形の誤りが多く，同音（訓）に関する誤りは少ないという傾向がみられたが，教育漢字外当用漢字では，字形に関する誤りとともに，この種の誤り，両者混合の誤りが全体的にみて上回っている。この場合，稚の「幼稚園」のように，比較的生徒が理解したり使用したりする誤彙の枠内のものには，無意味の同音（訓）の文字をあてることは傾向的に少なく，その場合でも，その

幼稚園（知地痴・児・雅・秘・維）　請求書(聖精清情青積)　一泊旅行(伯迫拍白舶船)　　cf. 連絡(格路結練)

文字の構成要素をとりこんだ誤り，何らかの観点で，字形と関連のある誤りが

多いように思われる。

しかし，その文字の使用される用語が，生徒にあまり親しくないものになると，実に大胆奔放に同音（訓）の字をあてる。したがって，この場合は，字形に関する誤りはあまり見受けられない。このことは，日常性の高い身近な語に使用される文字は使用度も高く，教科書をはじめ，読書その他で目にする機会も多い，したがって，その文字を視覚的に想起することができるので，字形に関連した誤りが多いが，この段階での生徒に親近性の乏しい文字(語)は，使用度使用範囲などから，かれらの目にする機会が少ない，したがって，その文字(ことに字形)に関連した誤りが少なく，また，字義をも離れて漢字の表意性を無視した，表音式使用が平気でなされるものと思われる。このことは，1・2年時に，比較的，同音（訓）の誤りが多く，学年が進む2・3年時に，字形関係の誤りがみられることで推定される。（後の誤答例参照）学年が進んで，目的の文字をどこかで見たり読んでいたりするため，どの字を書くべきかはわかる，そこで字形関係の誤りが出てきたものと思われる。

その文字を正しく知らず，どういう文字を書くべきかが想起できない，したがって，漢字調査の提出語形によって，書かせようとする目的の文字の誤答の様相も異ってくる。要するに，この種の誤りは文字に即さず，語の音によって反応し，浮動性をおびていて，固定していないのである。

たとえば，この書字力調査では，原則として，どちらか生徒に親しいほうの語形で書かせたが，文字によっては両方の読みでたずねたものもある。その場合，同一文字でも，問題によって，異なる反応を示している。

同一文字の書字テスト

テスト問題によって異なる反応を示す

例――：　→反応

		男1	2	3	4	女1(5)	2	3	4		
〔換〕	交換(コウカン)	○	N	○	N	(6)替○	視(鍼)	N	○		
	換(わ)える	替	替	替	変	(6)替(5)○	変	変	N(3)(返)		
		男2	女3	女4	(6)			女4(5)→(6)			
〔慕〕	慕情(ボジョウ)	母	N	母→○		〔狭〕	狭義(キョウギ)	共	○	〔堅〕	
	慕(した)う	親	親	親→○			狭(せま)い	峡	○	堅固(ケンゴ)	(5) (6) 賢 N

〔露〕露出(コシュツ)　暴露(バクロ)　女3　N　　〔替〕交替(コウタイ)　女3　対　　堅い(かた)　固い　N

露(つゆ)　朝露(あさつゆ)　霧(4・5)　霜(6)　　替(か)える　変

振替(ふりかえ)

なお，字音語――熟語形式で問題を提出した場合に，この誤答現象が多い。もっとも，訓の「且つ」などになると，その意味がわからないためか，「勝」「滑」などをあてるものまでもいる。

また，時には，同音（訓）の文字をあてようとして，その文字の字形を誤るという，誤りを重ねる場合もある。

忘却→肢(脚)　伏線→複(複)　西暦→歴(歴)　恩賜→帥(師)

また，中には

厚い氷→暑い氷　誤解→娯解　拾う→拡う・広う(教育漢字)　伴奏→番奏

詔勅→少勅・松勅　来賓席→来品席　元帥→元水　憎らしい→肉らしい

干す→欲す（教育漢字外当用漢字）

のような誤りも出やすい。徐行→除行など，街頭でも見かける誤りである。

②同音（訓）で意味内容の近接している字をあてる誤り

塩水→潮水　老婆→母　妨害→防害　技巧→工　表彰　→賞　収穫→獲　偽造→欺　即席→速　焦土→焼

これらは，とかく成人でも犯しやすい誤ちである。語にはルビをつけ，文脈や語脈を添えて問題を提出，他の同音語に誤解されないようにしたつもりであったが，

香水のにおい→硬・洪

ボールは窓ガラスを破壊した→戒

のような例が多い。

同音語で，しかも意味の似ている場合は，文脈が添えてあっても，適切な文字を使い分けにくい。次のような異字をとりやすい。

特徴→特長　喚声→歓声　貨物船→荷物船　平穏→平温　勤める→務める，努める　勧める(勧誘)→進める　納める(納税)→治める，収める　固める→

堅める　泣く→鳴く　恐ろしい→怖ろしい　寂しい→淋しい

同義・類義・対義の文字，時には，熟語の構成文字や，連想による文字などをあてるものには

③同義の他の字をあてる誤り

(教育漢字)　救→助

(教育漢字外当用漢字)　緒論→序　　さざ舟→船　餓死→飢死　俊才→秀才　休憩→休息　違う→異う

④類義の他の字をあてる誤り

(教育漢字)

預金→貯金　冷蔵庫→冷倉庫　解釈する→解訳する　焼く→燃(その反対も)

(教育漢字外当用漢字)

囚人→犯人・罪人　傑作→佳作　頒布→配布　幼稚園→幼児園　遂行→執行　侍→武　貧乏→貧困　割れる→破れる　尋ねる→訪ねる　翁→老　呼ぶ→叫ぶ(その反対も)　干す→燥　猟師→漁・狩師　抄本→謄本

⑤対義の他の字をあてる誤り

(教育漢字)

貸す→借す(その反対も)　拾う→捨う

(教育漢字外当用漢字)

吸う→吐　掘る→埋　彼→我　山の峰→麓(麓の誤字)　露→霜　捨てる→拾う

⑥熟語の他の文字，連想による他の文字に誤る

熟語(教育漢字)

蚕(かいこ)→養(字形の類似ともとれるが，養蚕からとも解される)　善悪→罪悪　易→貿　救→助

(教育漢字外当用漢字)

骨→背　申し込み→告(申告か)　依→頼　地獄→地国(3年間つづけて。天国と地国のつもりか)　針(はり)→釣り

連想(教育漢字)

誤解→疑解　増産→益産

(教育漢字外当用漢字)

尋ねる→聞　惜しい→負　恨む→憎　掃除→潔　繭→絹・麻　侮辱→恥辱　匿名→芳名　詔勅→承・朕　憎らしい→恨・怒・醜　汗をかく→額　滞納→出納　桑→蚕　刑事→警

意味に連関して誤るものは，音(訓)に関する誤りと比べて，漢字の義（意）についての理解(対義は別)，認識があるが，それが，形・音とは結びついていたために生ずるもので，誤りとしては，進んだ段階の誤りといえよう。対義（反対概念)，連想による他の字をあてる誤りなども，無意味な同音(訓）の字をあてるものより，何等かの意味で，その文字の義に通う意識があると見ることができる。例は少ない（今回の調査でこの種の誤りが，比較的に少なく出たのは，この書字力調査では，一部を除いて，熟語の場合は，相対する字が，与えられていることにもよるものと思われる）が，この種の誤りがあることによって，文字想起の過程の類型がわかる。

3)　字形1)と音・義2)の両種の誤りが混然としてあるもの

前にもふれたが，同じ文字でも，その文字についての問題の出し方，被調査者のその文字に対する記憶や認識の度合，その文字を含む語から想起される概念，その文字への熟合度等によって，反応の違いが生ずる。それが非常に共通する場合は1)となり，2)となることもあるが，多くは1)2)混然とした3)をとる時もある。上来述べてきたことと矛盾するようであるが，現実には，3)として現われる場合が多く，又，同一人を継続的に見た場は，習得の過程的現象としてもこの種類があることが認められる。

4)　字体に関するもの

字体に関するものは，それほど数は多くないが，桜(櫻)，涙(淚)，峡(峽)，掲(揭)，頼(賴)，瀬(瀨)，随(隨）など，旧字体を書くものがまれにあり，それも，教育漢字外当用漢字にみられる程度で，教育漢字にはほとんどない。前者では学校教育外からのものが，後者では，学校教育での学習指導が反映しているとみるべきであろう。（1年入学時テストで，「櫻」と書いた女子4は，そ

の後は5回とも，「桜」と新字体で正しく書いている。）

以上みてきたように，文字，書き手，場合などの諸要因がからみ合って，誤答現象があり，それが，截然とは分けがたいが，一種の傾向性を示すことが，8人の調査結果から見られたが，このことは，実は，8人だけに見られる傾向ではなく，他の調査，他の被調査者にも，また，同種の過去の諸調査にも，共通するものがあることが認められる。即ち，書けない文字，書きにくい文字には，時代や被調査者にかかわりなく，共通性があること，過去の調査と，書けない文字，書きにくい文字に共通する文字（字種）があったように（前章参照），その誤答現象・傾向にも，共通するものがあることである。

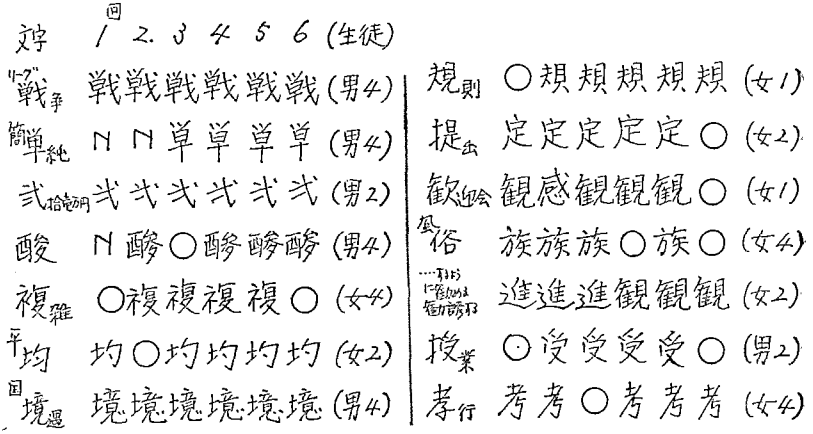
(3)　誤答反応に見られる習得過程

継続調査を通して誤答反応に見られる注目すべき習得過程として，読みの場合，(1)同じ誤りがくり返し続けられている　(2)テストの度に反応が異なる　の二点があげられたが，書きの場合は，さらにそれが顕著である。

1)　同じ誤りがくり返し続けられている

人ににより，文字によって，同一の誤りが修正されることなく，くり返して続けられている場合がある。

例一（教育漢字）



（教育漢字外当用漢字）

文字	1回	2	3	4	5	6	(生徒)
謎惑星	惑	惑	惑	惑	惑	惑	(女4)
冒険	冒	冒	冒	冒	○	冒	(男3)
笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛	(女1)
垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	(女4 他にも共通多し)
歓迎	迎	迎	迎	迎	迎	迎	(女2・4 その他多し)
仰ぐ	ＮＮ	仰	仰	仰	仰	仰	(女1・2)
虐待	逆	逆	逆	逆	逆	逆	(女4)

看板	Ｎ	甲	甲	甲	甲	甲	(女2 その他多し)
喚声	Ｎ	歓	歓	歓	歓	歓	(男1・2)
紫外線	紫	紫	紫	紫	紫	紫	(男4)
閉塞	ＮＮ	Ｎ	塞	塞	塞		(男4)
粗品	祖	祖	祖	祖	祖	祖	(男4)
礼儀	義	義	義	義	義	義	(女2)
恋人	変	変	変	変	変	変	(女2)
西暦	歴	歴	歴	歴	歴	歴	(男4 女3他)

小学校で一度学習された教育漢字の中にも，３年間，誤りを意識せず，修正されずに同じ誤りが続けられた字もある。この種の誤りは，それが修正される機会を失うと，そのまま固定してしまうおそれもなしとしない。また，途中で修正されても，正答が定着せずに，再びもとにもどる場合もあり，意外に根強いことが認められる。同じ誤りがくり返されることは，その文字の誤意識がないからであろう。たとえば，作文に書かれた誤字が，その前後のテスト時の誤字と同一であるという例がある。

(生徒)	3年後期自由作文の使用文字	(問題)	テスト時の誤字 1回	2	3	4	5	6
(男2)	生活環遠	国境 境遇	境	境	境	境	境	境
(〃)	戦争	戦争 リーグ戦	戦	戦	戦	戦	戦	戦
(〃)	簡単	簡単	Ｎ	Ｎ	単	単	単	単
(女子1)	交通規則	規則	○	規	規	規	規	規
(女子4)	最初	最初 初め	初	初	初	初	初	初
(〃)	宿題	宿屋	宿	宿	宿	宿	宿	宿
(〃)	先生に進められ	勧める 勧業銀行	○	進	進	○	○	

教育漢字は，小学校の段階で学習指導されており，中学校では，新しく教育漢字外当用漢字の指導に当たらなければならないので，教育漢字の一々の文字について再び入念な指導をする機会が，乏しいからであろうが，テスト結果，作文，学習ノート等を通して誤答をチェックし，根気よく修正の機会を与えることが，この種の誤りをなくすために必要であると思われる。

（この調査の場合には，特に，本人からの希望がないかぎり，事後に正しい文字については教えなかった）

教育漢字外当用漢字の場合は，中学になってから新たに学習する文字であるので，初めは無答も多く，教育漢字とは違う面もあるが，中には同様に3年間も誤りつづけているものもあり，又，文字によっては多くのものが同じ傾向を示している。

なお「瀬戸内海」で出した「瀬」の字を中学入学時から旧字体の「瀨」と書いたもの（男2）は，2年後期テストに新字体の「瀬」を書いたが，3年では，もとに戻って「瀨」になっているという例がみられる。

1 2 3 4 5 6
瀨瀨瀨瀬瀨瀨（「瀬」の字は1年国語で学習し，2年，3年でもひきつづき文字としては提出されており，他教科でも，〈社会・理科・音楽の教科書で提出〉読んでいるはずである）

字体などの細部になると，一度覚えこんだものは，意識下に根強く定着し，なかなか修正されにくいものであることがわかる。

2）テストの度に反応が異なる

テスト時によって種々な誤答反応をとるもので，前の固定的な誤りに対し，浮動性のある誤りである。

この現象は，前例と異なり，誤字を書いている本人も，その文字の正字意識は少ないものと思われる。それ故にこそ，誤字としても固定していないし，また調査の度ごとに，当てる字が変わるのである。同一の生徒の3年間（6回）の調査での誤りの度合，様相は，上例のように顕著な姿で現われるのを始めとして，書字上，問題になる字には，人によって深浅の差こそあれ，大なり小なり，こうした問題をかかえている。

（教育漢字）

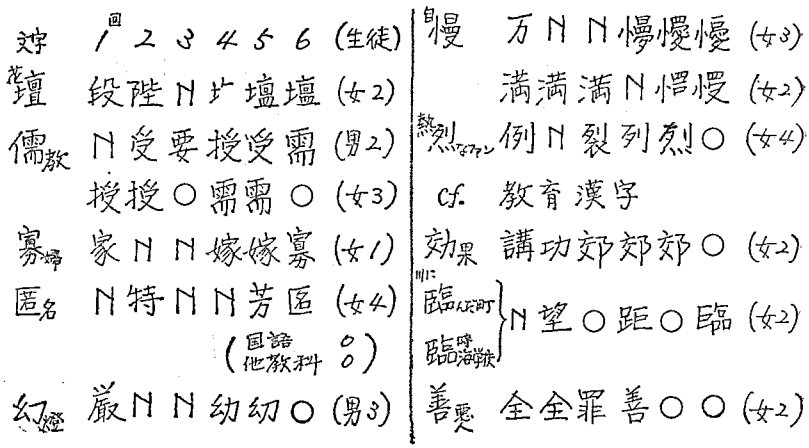
文字	1回	2	3	4	5	6	(生徒)
借りる	○	貨貸	○	貸供			(男2)
拾う	抬	広抬	抜	拡捨			(男2)
道徳	億	○	億	億憶	○		(男4)
会社に勤める	務	雛	勃	雛	○	○	(男2)
暴	暴	異	暴	○	爆	暴	(男4)
お祝い	礼	祝	○	祝	祝	○	(男2)
成功	功	○	巧	○	功	○	(男2)
増産加	造	増	益	○	塩	○	(男2)
詩	誌	詞	読	誌	○	○	(男2)
版木	発	発	掬	帆	○	○	(女2)
孝行	N	幸	公	N	○	N	(女3)
創作判	総	相	○	想	○	○	(男2)
善悪	全	全	罪	善	○	○	(女3)
延ばす期日	申	伸	伸	従	○	○	(男2)

（教育漢字外当用漢字）

文字	1回	2	3	4	5	6	(生徒)
請精	精	聖	速	積	精	青	(男2)
勘定	歓	甚	芭	劇	堪	甚	(男2)
隻	艘	責	N	集	焦	漫	(男2)
租税	N	祖	粗	粗	祖	○	(女3)
詐欺	木	義	儀	N	○	誤	(男2)
車掌	宇	停	N	挙	豪	N	(男2)
影響	N	供	○	境	響	○	(女3)
(cf)	京	京	京	京	○	○	(女2)
韻文	印	N	恩	劇	因	散	(男2)
購航御	構	講	構	謂	講	講	(女1)

3）低度の誤答からより高度の誤答へ

浮動性誤答反応をつぶさに見ていると，この中にも，低度の誤答から，より高度の誤答化への変化・発達の傾向がみられる。この傾向については，前述でもふれたが，ことに，中学で新しく学習するようになった教育漢字外当用漢字に多くみられる。



このように，初めは，未学習のために，その文字を知らない，語彙も理解できない。したがって，意味に関係なく，既知の同音の文字をあてる。やがて，国語をはじめ，他教科で，または他の読書その他で，その文字を学習したり，目にし，読む機会が得られたりするために，その文字・語彙に即して字形が想起できるようになる。しかし，不完全なために，字形に関する誤りが出てくるようになるという一種の習得の過程を示しているものと，理解される。その意味では，消極的ながら，漢字習得の一つの過程を誤答傾向によって見ることができるといえるのではなかろうか。

なお，数多くの漢字の中には，教育漢字でも，人によっては，教育漢字外当用漢字と同様な反応を呈するものもあり，また，教育漢字外当用漢字でも，年次の早いころに学習し，その時には正しく書ける，あるいは字形に近い誤りが見られるが，3年になってかえって低度の誤反応を示す逆の場合もあり，文字や人によって例外もある。

文字	テスト時とその反応			学習の関係
	1年	2年	3年	(教科・初出学年)
破壊	会解	壊悈滅戒	壊壊襃研懷戒壊	(○)3，(社・理)1
漆器	四	湿	漆漆漆湿漆N	(社)1，(女)3
影響	京供	京響興境	響	(国)1～3，(音・体)1，(美・社・理)2，(英・男・女)3
変更	交項更	郊功	便便	(国)1・3，(社・理)1，(体・女)2，(男)3
嗣子	氏子師	匹氏師	鼬嗣嗣	(国・他)0
弾絞	外涯	N	核刻該弦	(社)3
該当	外害解街	街N多し	慨既劾咳	(社)3
棄権	基危危	蘘危危	蘘棄棄危N	(国・社・体)3，(女)2
本籍	績責席	籍積箱績籍籍籍耤	耤	(国)3，(社・理)1
且(かつ)	加	務滑	亘	(国・社)3
繭(まゆ)	蚕(他はN)	蚕冐眉絹繭	絹麻眉繭	(国・まゆ)1
垂	毋垂水	毋重垂	重倕	(国)1・2，(社・数・理・美・体・男・女)1

4)　無答に潜在している正答意識

その文字が想起できない時に無答反応をとるのが一般であるが，時に，正答意識が働いた結果の無答，正答の潜在性をもった無答が，中学生の段階ではあるように見受けられた。かつて実施した小学校の同一児童の漢字調査では，一

般的にみて，無答よりも誤答のほうに，文字に対する積極的な意欲をみた段階があったが，中学生では，必ずしもそうではなく，むしろ，ある種の無答の中には，誤答反応よりは，正しい文字への意識が働いた結果とみなされるものがある。正しく再生できない場合，無答をとるか，誤答をとるかは，個人の性格による場合もあるが，単にそれだけの因子ではなさそうである。3年間の反応みると，次のようなケースが相当でてくる。

（文字）	1回	2	3	4	5	6	（生徒）	（文字）	1回	2	3	4	5	6	（生徒）
推定	N	N垂	N	○	○		（女3）	歌詞	○	詩	N	N	○	○	（女3）
善悪・人	全	全	N	○	○		（女2）	危険	灸	N	N	○	○		（女3）
創作・刊・立	N	N想	N	○	○		（女3）	測量	N	則	則	N	○	○	（男4）
楽隊	N	対	N	○	○		（女2）	財産	斉	N	N	○	○		（女3）
報告	N	服	服	N	○	○	（女3）	境国過	鏡	N	○	○			（女3）
	服	○月	N	○	○		（男2）	状態	重	N	○	○			（女2）
候補者	N	N修	N	○	○		（女2）	配給	N	球	N	○	○		（女3）

ふつうには，無答→誤答→正答（例―属→NN属属属○　武→NN無○○）の過程が多いが，上例のように，誤答→無答→正答と，最後の固定した正答の前に無答の段階のある場合が，かなりみられた。これらの無答は，初回の無答反応に比べると，前回で誤答したものの，自己のもつ潜在的な正答（意識下の正答）とは異なるという選別意識がはたらいて無答をとる，そして，次に，何らかの正字を覚える機会を得て，正答できるようになる過程と見ることはできないであろうか。

そして，この現象は，共通性をもつとともに，より個人的な特徴として作用することが多いようである。

(4)　誤答の個人的特徴

3年間の継続調査の結果，文字によって誤答傾向に共通性のある反面，人によって誤答の傾向，習得の過程にそれぞれ特徴があることも認められた。前項

で，同一の誤りをくり返している例をあげた際，期せずして，ある生徒に集中したことも，その生徒の特徴が現われたことにほかならない。

1)　正しい字形がとれない

男子4，女子4は○○ページでもみたように，茵見複鼻紮など同例多し字形に関する誤りが多く，それもその文字の構成要素のかなりの部分までは再生復元できるが，点画の主要部分のどこかに欠ける，あと一息というところで正答を逸する誤りが多い。意味を無視した同音の文字をあてる誤りは少ない。その原因は即断できないが，二人とも読書好きであること，読みの成績はよいこと（表外字の読める字も多い）と関連があるのではないかと思われる。

その文字に接近し，読む機会は多い，したがって，文字の認知度は高く，字形の印象は持っている。しかし，書くという作業化が伴わないために，細部までは想起できず，正しく再生することが困難となる。

その文字が初見のものでなく，その文字や文字を含む語を見たり，読んだりしたことがあれば，その文字が理解を超えた特殊なものでない限り，文字としての全体の印象はあるという，読書好き，多読型のものの文字認知の一面を示していると思われる。

なお，興味のあることは，男子は文字をおぼえる方法・手がかりとして，文字の構成要素（偏旁冠脚等）によらず,「文字を全体としておぼえる」とこたえていることである。(集団調査での質問の回答)

文字の全体的な認知，判別も大事であるが，これだけにたよる欠陥が一面にあるわけで，読書型の文字認知と相俟って書字の上では，上のような欠点として表われることになると思われる。

いっぽう，対照的な例がある。

読字数も書字数も最高である男子1は，正答の定着度が速く確実である。あまり読書はしない，ノートなどもとらないほうであるが，1字1字の文字に対する関心・意識の度合いが強い。表外字の読みの調査でも，習得経路をいちばん多く，充実して記入している。わからない字をじっと見ていて「もうおぼえた」などという場面もいく度かあり，事実，その後の調査で正答している場合

が多くあった。書字能力には，形態面に関する知覚能力や注意力といった因子がかなり作用するものと思われる。将来は，この面からの実験的研究が必要である。

2)　いろいろに誤って書く

字形の誤りのほかに，同音（訓）の他の字をあてる誤り，意味的類似の誤りが多く，また，誤答反応が調査の度ごとに異なる浮動的な誤りかたが多い。字形の誤りでも自己流の造字的な文字が目立つ。男子2は学校での国語の評価は高いほうであるのに，こうした誤りかたをしているのはなぜか。

文字（もんだい）	1回 2 3 4 5 6	文字（もんだい）	1回 2 3 4 5 6
増産する	造増益〇塩〇	臨む	
増加した		臨海学校	望願樞臨臨臨
創刊号		臨時休校	
創立記念日	総相〇想〇〇	拝見	N判伴邦排敬
創作		韻文	印N恩劇因敢
請求書	精聖述精精青		

性格が明かるく小事にこだわらない。書字力調査の時など，何かつぶやきながら，すいすいと漢字を書き入れていく，テストの所要時間もいちばん短い。漢字をおぼえる手がかりとして「書字」では，「自然に」と答えているが，漢字に対する態度，性格的なものが，反映しているようである。

3)　意味に関連した他の字をあてる

前例に比べると数の上では少なく，比較的この傾向のある男子3は，同時にあまり自信のない字は無答反応をとる傾向がある。書字力が比較的高いのに比べて，読字力はさほどでもない。平生も議論好きで，何事も納得しないとついて行けないふうが見える。

文字（もんだい）	1回 2 3 4 5 6	文字（もんだい）	1回 2 3 4 5 6
道を尋ねる	NN訪訪訪訪	捨てる	NNNN〇〇
月賦	払刮払払払払	侮辱	NNN恥悔恥

4）誤答も多く無答も多い

この他，字形がとりにくく，同音（訓）の字をあてやすい。誤りが修正されない。無答も多く，習得がおそい。

書字力不振の女子3などは，上のように，不振の因をなす誤りがいろいろ現れているところが一つの特徴となっている。

文字（もんだい）	1回	2	3	4	5	6
準備	準	N	○	準	準	準
効果	講	功	郊	郊	郊	○
成績	積	責	積	積	積	積
筒条書き	N	N	N	N	N	N
弓矢	失	失	失	○	○	N

文字（もんだい）	1回	2	3	4	5	6
身体検査 身うごき	N	身	身	身	○	○
停電	N	N	N	N	○	亭
発展	転	○	展	展	N	N
脚本	N	郷	御	却	N	○
空を仰ぐ	N	N	N	仰	迎	仰

入学時の漢字力不振を，少しずつ向上させた努力のあとが，誤答の上にも現われているが，どれということなくマイナスのいろいろの反応が出やすいところに，この生徒の誤答の特徴がみられる。

以上は，個人の誤答傾向を特徴的に見た場合で，もちろん，ここにあげた例以外の誤りかたはしないというのでなく，誤りの型を重点的にとり出してみたのである。

誤答における共通性とともに，生徒個人の誤答上の特徴，実態を知って，より適切な学習指導がほどこされれば，誤答を正答に導く可能性が期待されよう。

Ⅱ　漢字の読み書き調査の反応からみた習得(書字)の類型

この調査の一つの特色は，同一の大量文字を，同じ被調査者に，しかも読み書き同時に，継続して実施したことであるが，継続調査方法を用いたのは，習得の過程や要因が少しでも解明できないものかという目的があったからである。

正答率の上昇状況，早く読み書きできる文字はどれくらいあって，どういう文字であるかなど，正答を主とした側面も，習得の状況，過程を知る上で必要であるが，8人の生徒の読み書きの実態を3年間にわたって，つぶさに見てくると，正答だけでなく，無答や誤答の実態の中に，習得の過程や要因があることがわかる。

同一文字を，同一人に，くり返し調査した漢字調査結果を1字ごとに整理表に整理・記録した漢字表（40ページ参照）からも，漢字習得上の問題が考察される。

教育漢字の書字力を中心に，この問題をみよう。

前述のように，小学校段階で学習した教育漢字で，しかも，今回の書字力調査では，生徒に親しい読みの語形，社会でも一般に使用されている語形で書かせても，書けない字，書き誤りの多い字がある。中には，中学校を終えるまで，全員揃っては書けない，未習得の文字がある。これら書けない文字の中には，前章でみたように小学校調査で書けなかった文字や戦前の漢字調査結果と共通する文字があり，書けない文字の中には，時代や被調査者にかかわりなく共通性があることが認められる。それらの文字の誤りの原因を究明することができれば，書字力を一段と強化することも期待される。

前章で誤答傾向を調べ，誤答の分類や考察を加えたのもそのためであったが，さらに，誤りの成因を，読みの調査反応と対応させて書字の習得の過程の上でさぐってみることにする。

1. 具体例

漢字表に記録された読み書きの反応をみると，その文字が正しく読み書きできるようになる過程には，幾種類かの段階があることがわかる。ここではそれらの段階を便宜上，類型とよんでおく。

（例1）〔親〕（1音2訓の字）読みは音訓ともに読め，同時に，書くこともできる例。

音		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.シン*1親切・親類	1	*2◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	3									
	4									
	5									
	6									

訓		生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.おや親子	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	3									
	4									
	5									
	6									

2.したしい親しい	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	3									
	4									
	5									
	6									

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
親に孝行する	*3○	○	○	○	○	○	○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	8

＊1　音シンの読みを，親切・親類という語彙で調べたことを示す。訓，書字ともに同じ。

＊2　◎は，正読できたしるし。○とのちがいは，速く，よどみなく，正しく読めたことを示す。

＊3　正しく書けたことを示す。

「親」は1音2訓の文字で，今回の調査では，シン→親切・親類，おや→親子，したしい→親しいという語形をかりて読みの力を，〔親〕に孝行するという形で，書きの力を見たが，「親」は小学校3年用の漢字で，小学校段階で学習し，生徒にも親しい文字，また，使用語彙であるために，中学校入学時に，全員読み書きができた。少なくとも，この程度の語彙体系の中では，習得の定着度の確実な文字であるといえる。花・海・運・野・楽などをはじめ，低・中学年用のあまりむずかしくない教育漢字の大半は，多少の出入があっても，大体この習得段階をとる——類型に入るものといえる。入学時読み書きともに8人が正答した文字のうち読みに特殊音訓のあるものを除いて，多くの文字がこの類型にはいっている。

（例2）〔流〕（2音1訓）主要な音訓は読め，書ける例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.リュウ流行	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎			◎	◎	◎	◎	8
					◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ながれる 流れる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎			◎	◎	◎	◎	8
					◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎	◎	8

2.ル流人・流罪・遠流	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	／	リュウ	リュウ	リュウ	0
	リュウ	リュウ	◎	◎	／	／	／	リュウ	2
	◎	◎	◎	◎	リュウ	／	*○	リュウ	5
	◎	◎			◎	ロウ	／	○	6
					◎	◎	○	◎	8
						◎	／	◎	7

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
橋の上に立って川の流れを見る。	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	8

＊すぐ正しく読めない，一度誤って読み，誤りに気付いて自分で訂正するなど，正読までに渋滞のあったことを示す。

2音1訓の文字。第1音の流リュウ，訓の「ながれる」は読め，「流れ」という語形で正しく書くことができる。第2音の流ルの読みには抵抗があるが，

主要な音訓が読めれば，その主要な音訓の範囲内の語彙なら，書く力もあまり左右されないで書ける類型である。特別の音は読めなくても，書字には影響しないと思われるもので，訓の場合でも，特殊訓に，同様のものがある。遠のオン，音のイン，夕のセキ，読のトク，青ショウ，白ビャク，出スイなど，特殊音訓のあるもので，この類型に属するものがかなりある。

（例3）〔政〕（2音1訓）音は読め，訓は読めないが書ける例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.セイ 政治	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
2.ショウ 摂政	◎	／	◎	／	／	／	／	／	2
	◎	◎	◎	／	／	／	／	／	3
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.まつりごと 政	／	セイ	／	／	／	／	／	／	0
	まさ	／	／	／	／	／	／	／	0
	／	／	／	／	／	／	／	／	0
	／	／	／	／	／	／	／	／	0
	／	◎	まさ	まさ	／	まこと	／	／	1
	／	◎	○	まさ	まさ	／	／	／	2

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
政府	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	8

「政治」では読め，「政府」では書ける。しかし，その政治や政府の「政」と関連のある訓「まつりごと」は読めない。この現象は，訓読みの不振があまり書きに影響を及ぼさない例といえよう。「まつりごと」より，政治，政府のように，字音語の方が，一般的で，社会にも通用し，語としても定着しており，訓のほうが，すでに現代的でなくなりつつある場合は，生徒にとっても親近性がないから，当然読めないし，その訓不振が，書字力の方にもあまり影響しないということになるのであろう。

（例4）〔図〕（2音1訓）音は読めるが，訓は読めない。しかし書けるものがあり，同様に訓の不振が，書字に影響を及ぼさない場合のある例。

音	生徒 男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ズ 図画	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
			◎	◎			◎	◎	8

訓	生徒 男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.はかる 図る	◎	とる	／	／	／	◎	／	／	2
	◎	○	／	／		◎	／	／	3
		／	／	○	つくる		つくる	／	3
		◎	とる	○	◎		／	いと	5
		◎	とる	◎	◎		／	○	6
			◎	◎			／	○	7

2.ト 図書	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎		◎	◎	8
			◎	◎			◎	◎	8

書字	生徒 男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
工作と図画の時間	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	8

第1音ズ図画，第2音ト図書とともに読めるが，訓「はかる」では読めない，最後まで抵抗がある。しかし書く方は，図画で，彼等に親しい語であるから書ける。この場合も訓「はかる」の読みの不振は，書字の問題が，読めた音の方で調査する限り影響を及ぼさないものと考えられる。ことに訓「はかる」はこの場合，図画のズにも，図書のトにも，直接意味的に対応しない訓であるから，いっそう，訓の影響力がないものと思われる。なお，訓の対応がみられるものでもこの例にはいるものがある。（「商売」ショウとあきなう，「責任」セキとせめる，「平和」ワとやわらぐ，「自由」ジとみずから など）。これらの場合は，字音語としての熟語の方が，はるかに使用度も高く，生徒が熟知している。しかし，それらの訓は，ほとんどが文章語的なもので，日常使用の語からははずれている。あるいは，その訓が多用される代表的な字音語と対応するものではないという例に多い。

（例5）〔授〕（1音1訓）訓の不振が書字に影響すると思われる例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ジュ 授業	◎	◎	◎	◎	◎	／	◎	◎	7
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎		◎	◎	◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.さずける 授ける	◎	うける	◎	うける	うける	／	／	◎	3
	◎	うける	◎	うける	うける	うける	うける	／	2
		○		うける	◎	うける	うける	うける	4
		うける		うける	うける	うける	うける	○	3
		○		○	○	うける	うける	○	6
		◎		◎	◎	○	◎	◎	8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
きょうの授業はこれでおしまい	○	○	将	／	○	／	捜	○	4
	○	受	○	○	○	／	○	○	6
	○	受	○	受	○	○	○	○	6
		受		／		○			6
		受		○		○			7
		○		○					8

音ジュは「授業」で早く読めるが，訓「さずける」は「うける」と誤読されやすい。書字テストでは，よく読めた「授業」を書かせたにかかわらず，訓の誤読のうける—受の字をあてていることがわかる。この誤りは，授の字形の一部想起という解釈もできようが，訓の誤読と対応させた場合，訓が正しく読め，その字義が理解されていれば，こうした誤字を書くものが少なくなるものと思われる。「捕」は教育漢字外当用漢字であるが，「捕」を「おぎなう」と読んで，書字テストの「捕手」でも「補手」と書き，誤読が書字の誤りと一致している同例もある。（「とらえる」の読みは3年で学習）

同例—悟 さとる→かたる　と読み，書字「覚悟（読みでは 早くよく読める）」で，覚語と書くものが多くいた。（4人）また，妨と防，浸と侵なども，訓の誤読（妨＝ふせぐ・浸＝おかす　と誤読）が，そのまま書字にも及んで誤られている。これらの例は，同音でも偏のちがいによって，訓の読み・意味が違ってくることに気づかないための誤りである。

訳の訓「わけ」が読めない1年では，「通訳」を「通約，通解」などと書くものが多いが，「わけ」が読めるようになり，字義が理解できてからは，「通約」の誤字がなくなっている例もある。

なお,「説」のように，説明・伝説ではよく読めるが,「説く」では読めない。「伝説」と書かせると，申し合わせたように，設の字をあてている。これなどは，やはり，訓不振が影響しているものと思われる。この場合，第2音の説ゼイは直接，書字と関係がないことは，2例の「流」と同じで，このように，実際の誤答現象は，その文字によって，複雑な形で表われてくるが，これも，第5例の類型に入るものであろう。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.セツ 説明・伝説	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.とく 説く	◎	／	○	◎	／	／	◎	／	4
	◎	○	◎	◎	とどろく	／	／	／	4
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	8

2.ゼイ 遊説	／	／	セツ	／	／	／	／	セツ	0
	ゼツ	／	◎	／	／	／	セツ	ゼツ	1
	○	セツ	◎	ゼツ	／	／	セツ	エツ	2
	／	／		／	／	／	／	／	1
	ゼツ	エツ		ゼツ	ゼツ	エツ	／	ゼツ	1
	◎	◎		◎	／	○	／	ゼツ	5

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
伝説	○	設	○	○	設	○	○	○	6
	○	○	○	○	設	○	○	設	6
	○	○	○	○	設	○	○	○	7
					○			○	8
					○				8

（例6）〔講〕（1音）訓あるいは字義がわかれば，書きの力が向上すると思われるもの。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.コウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
講堂	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
○○講堂で会議を開く	行	構	○	／	構	校	講	横	1
	○	○	○	講	○	校	構	○	5
	○	○	○	○	○	○	講	○	7
				○		構	講		6
						構	構		6
						構	○		7

講コウは，早く読め，しかも定着している。しかし，書字の方では，同じ語形で書かせたにもかかわらず，同音の他の字の行・校などがあてられたり，偏の異なる，同音で，字形の似通っている木偏の構の字が使われたりする。偏は違うが，旁が同じで，字形が類似している同音の字を当てる誤りが，書字の誤りの中では非常に多いが，これなど，言偏の講の字に適当な訓がないことも一因であろうし，もし字義がわかっていれば，この種の誤りはもっと減るものと思われる。旁の音を表わす冓コウに，言偏や木偏や貝偏がつくことによって，それぞれ，字義が異なることが理解できれば，形声文字の多い，これら一連の漢字の誤りは，かなり防げるはずである。

成績の〔績〕が，禾偏の積と混同する，検と険の偏の違いを無視した混用，効と郊，制と製の誤用など，字形も近似してい，しかも同音のために，同音の他の字をあてる傾向が多い。また傾向的にみて一音の字に多いようである。

（例7）〔程〕（1音）

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.テイ	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
程度	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎							8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
読書がどの程度に好きか調査する	適	定	○	程	○	定	迂	定	2
	○	／	○	提	○	定	底	○	4
	○	／	○	程	○	○	○	○	6
		抵		程		○	○		6
		抵		程					6
		／		程					6

（例6）に類するものでもあるが，程度の「程」に訓「ほど」を中心とした，きまり・期限・かぎるなどの意味があることがわかれば，少なくとも定，抵，底（底）などの誤反応は出てこないものと思われる。程の訓は，当用漢字表にはなく，これも1音である。

〔提〕などもこの類で，提出ではよく読めながら，「定出」の反応が多く，1年では5人も「定」を書いている。

（例8）〔貸〕（1音1訓）訓読みだけでなく，音読みもできると，書字の力がますと思われる例。

音	生徒界1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.タイ貸借	／	／	／	かし	／	／	／	かし	0
	カ	／	／	／	／	／	／	かし	0
	かし	／	ダイ	カ	／	／	／	／	0
	◎	◎	／	カ	シ	／	／	／	2
	◎	○	カ	カ	／	／	／	／	2
		◎	／	カ	◎	／	／	／	3

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.かす貸す	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
本を貸す	○	貸	○	貸	借	○	借	借	3
	○	○	○	借	貸	○	借	借	4
	○	○	○	貸	○	○	借	○	6
				貸	○		○	○	7
				貸			○		7
				貸					7

「貸す」と「借りる」とでは，行為や意味概念の上では反対であるが，貸し借り，貸タイ借シャクなど，並列して使われることが多く，熟合度が高いために，1字についてよりも，熟語としての印象が強いのではないかと思われる。

「貸す」の形で読ませると読めるが，音読タイ—貸借は意外と読めない。中学生に「タイ」が読めないのは，なぜか。貸借をはじめ，貸与，賃貸などと使われるが，中学生にとっては，親近性に乏しい用語であると思われるので，社会

での使用度を参考までにみたところ，経済や法律などの専門的な用語としては不可欠の語であっても，一般の使用度は少ない。たとえば，雑誌九十種の用語用字調査での漢字表によると，「貸」の字の総使用度数46，うち「タイ」は3度，あとの43度はすべて「かす」という語形で使用されているという社会での使用状況の反映であり，さらに，それは，教科書での使用状況にも及ぼされていることがわかった。

8人の生徒たちが使用した国語の教科書では中学3年間，「タイ」も「シャク」も新出文字としての音としては未提出である。（小学校6年間を通しても同様）したがって，「貸借」が読めないわけである。しかし，この文字など，訓だけでなく，もし，文字に即した音がわかっていれば，書く上で，両者が混然とした時も，貸すほうはタイ(代)，借りるほうはシャク(昔)ということで，貸の字の借の字との混乱は，かなり防げるのではないかと思われる。（なお，貨の字をあてているのは，字形の類似からきたものである）

参考までに，「貸」に誤用される「借」の字の反応もあげておこう。「借りる」ほうでは書けている女子3・4は，「貸す」においても「借りる」をそのまま代用しているが，女子1など完全に両者が入れかわっている時期があり，意味連合の強いもの（同類はもちろん，反対のものでも）の誤答現象として，注意すべきである。

〔借〕（1音1訓）

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.シャク 借用・借金	◎	○	／	◎	○	／	／	◎	5
	◎	◎	◎	◎	◎	／	／	◎	6
		◎	◎		○	◎	／		7
					◎	◎	／		7
					◎		／		7
							◎		8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.かりる 借りる	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
		◎	◎		◎	◎	◎		8
					◎	◎	◎		8
					◎		◎		8
							◎		8

〔借〕総使用度　78

シャク（33度 10例）　借款　借金[15]　借財
借地　借家　借用
前借　貸借　賃借
拝借

かりる（45度 6例）　借り　借りる[26]　借入[12]　借り手　賃借
間借り

（「雑誌九十種の用語用字」－漢字表－）

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
ともだちの本を借りる	○	○	○	○	貸	○	○	○	7
	○	貸	○	○	貸	備	○	○	5
	○	貸	○	○	○	○	○	○	7
		○			○	貸			7
		貸				○			7
		供				○			7

教育漢字外当用漢字であるが，〔鈍〕なども同例である。

鈍にぶい→するどいと読み，書字でも早く読めるようになった音〔鈍角〕で書かせたところ，〔鋭〕を書いたものがいる。〔鈍角〕を鋭角と書いた2人とも鈍を「するどい」と読んでいる。これなども，字義および，エイとドンの音の区別が判然とすれば，かなり問題は解消できる。

（例9）〔拾〕（2音1訓）と〔捨〕（1音1訓）。

上例に関連した文字として，拾と捨がある。これも字形が非常に似通っているために，相反する語（文字）でありながら，混用されることが多い。

〔拾〕（2音1訓）

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.シュウ 拾得	ジュウ	／	ジュウ	◎	／	／	◎	ジュウ	2
	／	◎	○	◎	／	／	／	ジュウ	3
	◎	◎	○		シュ	／	○	ジュウ	5
	◎	◎	◎		／	／	／	／	4
			○		／	ゴウ	／	／	4
			◎		◎	／	○	ジュウ	6
2.ジュウ 拾円	◎	／	セン	◎	◎	ひろう	／	◎	4
	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	8
	◎	◎	◎		◎	◎	○	◎	8
	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	8
			◎		◎	◎	◎	◎	8
			◎		◎	◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ひろう 拾う	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	8
			◎		◎	◎	◎	◎	8
			◎		◎	◎	◎	◎	8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
かみくずを拾ってかたづける	○	抬	○	○	○	拡	／	○	5
	捨	広	○	○	○	弘	○	○	5
	○	抬	○	○	○	捨	○	○	6
	捨	扱				○			6
	○	拡				○			7
	○	捨							7

8人の生徒の場合も同様で，拾「ひろう」では読め，「ジュウ」では読めるようになるが，「シュウ」では，最後まで読めないものがある。「シュウ」が読めないのは一応おいて，よく読めた「拾う」という語形で書かせたところ，読めるほどには書けない。広，拡など同じ読みの他の字をあてる，あるいは字形の似通っている「抬」の字をあてている。ところが，2—3年になると，捨の字をあてるようになる。拾は教育漢字であるが，捨は教育漢字外当用漢字で，「捨てる」が中学2年で学習されるようになると，新しく学習した「捨」にひかれて，以後は誤りが，「捨」に傾斜している。

〔捨〕（1音1訓）

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.シャ 取捨・四捨	○	◎	ジュ	○	ジュウ	○	／	ジュウ	4
	◎	シャク	ジュウ	◎	○	○	◎	ジュウ	5
	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	8
		シャク	◎		◎	◎		◎	7
		◎	◎			◎			8
		◎							8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.すてる 捨てる	◎	たてる	／	○	／	○	／	◎	4
	◎	◎	／	◎	○	○	◎	◎	7
	◎	◎	／	◎	◎	◎	◎	◎	7
		○	◎		◎	◎		◎	8
		◎	◎			◎			8
		◎							8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
捨てる	／	／	／	／	余	抜	返	／	0
	○	／	／	／	／	／	／	拾	1
	○	拾	／	ま	／	ま	ま	○	2
	○	抜	／	○	拾	○	拾	○	4
	○	○	○	拾	○	○	拾	○	6
	○	○	○	○	拾	㊈	拾	○	6

一方，捨の字は，中学1年では学習していないから「すてる」という一般的な訓読みも，読む力の強い生徒しか読めていないが，2年で学習するようになると，読めるようになる。しかし，書く方は，1年では**すてる**の連想からか，余る，抜く，返すなどの文字をあて，2年で捨てるを学習した後も，書字テストの**拾う**のほうでは書けなかった「拾」の字が，書字テスト**捨てる**の方に当て

られているという，全く逆の様相を呈している。

これなどは，拾と捨の類似字形的性質，シュウ・シヤの類似音的性質など，いろいろの因子が作用し合って，逆転して誤られるものと思われる。書く場合には完全に拾と捨とが混同しておりながら，読む場合には，拾うと捨てるの区別がついているのはなぜかという疑問には，誤読の一タイプである，用言の終止形の場合，その終止の形（送りがな）にあてはめて読むという類型に属するものと思われる。拾と捨の字形の区別は判然とできないが，「拾う」「捨てる」と終止の形で，読みでは両者の別が，弁別できる。すなわち，送りがな（終止形）の補助的手段によって読みは弁別できるが，文字としては弁別できない，まだ習得過程中の文字であるということができよう。

防と妨などもこれに類した文字といえる。

（例10）〔旗〕（1音1訓）読みに関係なく（音訓ともに読める），字形がとりにくい例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.キ　国旗	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.はた　旗取り	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
日の丸の旗をあげる	旗	期	○	旗	期	旗	期	旗	1
	○	○	○	旗	○	旗	／	旗	4
	○	／	㊎	○	○	期	／	期	4
		旗	○	／		○	旗	旗	4
		期		○		○	欺	期	5
		旗		○				旗	5

「旗」は音キでも，訓はたでもよく読める。しかし，書くほうでは最後まで正

しく書きにくい文字として残った字である。

この場合，「はた」という語形でたずねられていても，畑のハタ，端のハタなどのあて字はされていない。〔旗〕という字を書くのだという字種そのものは想起されていることがこの誤答現象からわかる。ただ，〔旗〕という字を思いだすことはできるのであるが，正しい字形がとれないで，類似字形の〔期〕や〔欺〕に誤る，あるいは点画の足りない，または多すぎる造字的な誤りに終始しているという現象である。

「旗」という字は，日の丸の旗，国旗ということも含めて，今の児童・生徒の関心が低いから書けないのは当然だという見方もできよう。(事実，大正年代の森本氏調査—資料編参照—の場合は誤字率が低い。しかし，当時は毛筆習字などで「日の丸の旗」などと書き，正しい字形をとる練習が行なわれていたと思われる)。しかし，こんどの教育漢字の書字力調査で，最後まで全員は書けないで残った文字の中には，書くべき文字は全体的になんとなく想起できても，それが正しく再生できない，類似字形をあてる，どこか字形が不完全であるという誤りが多かったことで，この種のものは，読みとしては習得が定着していっても書きの上では定着しにくい文字として問題の残るものといえよう。歯，鼻，低，滅なども，身近なことばの文字で読みの成績はよいが，正しく書きにくい同類の字といえよう。また，「潔」のように，「清潔」ではよく読めるが，同じ「清潔」で，書けない。しかし，潔の字であることは想起できていて，正字に迫ろうとして種々の造字形反応がみられるものもある。この場合の訓，「いさぎよい」は，読み不振であるが，それにかかわりなく字形は想起できている。主要な音訓は読める場合も，どちらかの読みに欠陥のある場合でも，書字の問題では，その読める方の語形で書かせた場合，その書くべき文字は，想起できながら，正しい字形がとれないで誤るという例が，教育漢字では，かなり見受けられた。教育漢字のように，読みは，かなり定着しつつあるものでは，読みの成績とかかわりなく，字形のとりにくい一連の文字があるものと思われる。

これら一連の字形のとりにくい字は，文字を構造的に分析して(音・義→形)

教えるのも一方法であるが，昔，われわれが「ヒートワイツハヤメヌ→比叡」などと文字分解をして，機械的に覚えた方法も，時に，補助的手段として利用できるのではないかと思われる。

音も訓も読めながら，正しく書けない〔旗〕の類型に属するものともとれるが，誤字反応としては，異なる型をとる一連のものがある。たとえば，「燃」のような例である。

（例11）〔燃〕（1音1訓）音訓ともに読めるが，類似の意味に誤って書く例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. ネン 燃料	◎	◎	◎	◎	◎	ヤク	◎	◎	7
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎			8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1. もえる 燃える	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎			8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
ストーブの燃料	○	○	○	○	○	／	／	○	6
	○	○	然	○	○	／	焼	○	5
	○	○	○	○	○	焼	焼	○	6
火が燃える		○	○			○	○		8
						焼	○		7
						○			8

「燃える」訓と対応する「燃料」ネンも正しく読めていながら，「燃料」を書かせた場合，「焼」をあてるのである。女子2が，「燃」を「やく」と読んでいることで，書字反応の「焼」の誤因がわかったが，これなど，燃と焼の意味的な類似から誤るものと思われる。

「旗」の場合は，純粋に字形に関する誤りであるが，「燃」の場合では，意味内容にひかれた誤りである。教育漢字の場合，数としてはあまりないが，この種のものも散見する。

（例12）〔増〕（1音1訓）音訓ともに読めるが，読めるほどは書けない例。

音	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ゾウ 増産・増加	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎		8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ます 増す	◎	◎	◎	◎	◎	／	○	◎	7
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎		8

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
食糧を増産する	○	造	増	増	○	像	／	○	3
	○	増	○	○	○	倉	／	○	5
	○	益	○	○	○	○	○	○	7
人口が増加する		○				○	○		8
		埱							7
		○							8

音「ゾウ」でも，訓「ます」でも読めるが，読みの成績のよい増産，増加で書かせた場合，さほど書けない。（例10）〔旗〕の類型ともとれるが，この場合，「旗」では，書くべき文字「旗」が想起できたのに対し，「増」では，造，像など，同音の他の字をあてている。男子3・4は字形が想起できているが，男子2，女子2（女子3は，無答）は，問われた語の意味が，わからずに，任意に同音の文字をあてたものと思われる。例5の授の類型の変形ともとれようが，この種のものは，音に対応する訓でもよく読めているのである。したがって，増産，増加というような語彙が，読む場合に提示されれば読めるが，読めたほどには語彙としての理解ができていなかったのではなかろうか。「増す」が読めなかった女子2，正しく速読はできなかった女子3に書字の方に難点が見られるのも，その間の消息が語られていると思われる。音訓ともに読めた男子3・4は増の字形は想起できていて，これは例10「旗」の類型に属するものといえる。書字力を検するに当たり，同じ文字でも生徒に親しい語彙によるか否か

で正答反応に開きが生ずるということ（例「学校」では書けるが「校門」では書けない）は，既に知られているが，これなど，人によって語彙の理解度に深浅があり，それが，書字力に反映しているものとみられる。同音の他の文字を無意味にあてる誤答現象には，この類型に属するものが多い。

（例13）〔相〕（2音1訓）主要な音訓はともによく読めるが，書き誤る例。

「相談」のソウでは読め，「相手」の「あい」も読めるが，「相談」を書かせたところ，3人も想の字をあてている。途中で修正できたが，2年間，「想談」と思っている生徒もいたわけで，これなどは，（例10〔旗〕の正しい字形がとれない場合の類似字形に誤る方の例ともとれるが，しかしまた，（例11）〔増〕の語彙理解にも関連するものともとれる。「相談」という語は，話しことばでも始終使われ，生徒には小さい時から親しいことばであるはずであるが，それを文字化した「相談」が，「互いに意見を話し合う，話し合い」という字義に即しては理解されていないことを示していると思われる。わかりきったことばであるだけに，字義に分解した語彙の理解が伴わないことと，類形字形に誤るこ

音	生徒界1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.ソウ 相談	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎		8
						◎	◎		8
						◎			8
						◎			8

訓	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
1.あい 相手	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8
						◎	◎		8
						◎	◎		8
						◎			8
						◎			8

2.ショウ 首相	◎	◎	◎	◎	◎	ソウ	ソウ	◎	6
	◎	◎	◎	◎	◎	○	ソウ	◎	7
						ソウ	◎		7
						ソウ	◎		7
						○			8
						ソウ			7

書字	生徒男1	2	3	4	女1	2	3	4	計
母と相談する	○	想	○	想	想	放	／	／	2
	○	想	○	○	○	○	／	○	6
	○	想	○	○	想	○	○	○	6
		想			○		○		7
		○			○				8
		○							8

ととが，重なった場合とでも解されようか。

以上，読み書きの反応を対応させながら，書字の習得過程を類型的に見てきたが，教育漢字881字の中には，多音多訓のものもあり，上にあげた例字のように，すっきりと分析解釈できないものも多少は出てくる。しかし，上例は，説明の便宜上その典型的なものを示したものであり，文字によって，人によって，人の発達段階によって（書字力の低いものは，低度の誤りから，より高度の誤りへという形をとる）多少の変化型もある。しかし，これらの文字は，教育漢字で，小学校の段階で学習し，どちらかの読みでは，全員がすでに読めており，その使用語としても生徒はかなり親近性をもっているので，傾向的にみた場合は，上例のどれかに位置づけられるのではないかと思う。

教育漢字外当用漢字については，中学生になってから学習し，中には，中学3年間，一度も学習しない文字もあって，上例の教育漢字とは異なる類型も出てくるが，紙数の関係もあり，ここではとりあげない。

書字誤答例一覧

（参考までに，多数の誤答の中から問題の多いものを掲げる）

○教育漢字

(1)　字形の上で誤りやすいもの

	文字	提出語形	1　年	2　年	3　年
※	悪	わるい	悪悪要	悪	悪
※	遺	遺産	貴居	貴遣°	貴債
	泳	泳ぐ	逑永氷泳	逑氷	
※	易	貿易	昜貿	昜	昜
※	革	革命	革革革堇改	革革	車革
※	旗	旗 国旗	旗期期旗旗	期旗旗㫌°	期欺期旗旗
※	逆	逆の旬	辿逆逆	迎逆°	迍
※	均	平均	均夕	的均均均	均勺均
※	潔	清潔	（無答）	絜°潔潔	潔潔
※	減	減る 減点	感減減	減減減汀	減減減減
※	厳	厳重	厳厳原厳減源 現	厳厳厳厳肯	厳厳厳厳厳
※	穀	穀物	斡耕殻雑敎	雜敔殻	穀穀殻
※	妻	夫と妻	婊未妻妻妻	恵美毒妻妻妻°	妻妻
※○	衆	公衆道徳 〃電話	習集週衆修	衆衆衆	衆衆舉衆衆衆
	蚕	かいこ 蚕	養蚕蚕	虫蚕	
※	児	児童	児児自	児思	児
	謝	感謝	諏誨謝樹	誨謝謝射	謝謝
	釈	解釈	快訳尺謝糺	糾訳	
※	就	就職	別就就習修	就修°就	就

祝	お祝い	礼祝兄神祝祝	祝祝祝祝	祝祝
初	最初 初め	初	初	初
貯	貯金	貯額項貯預	預貯貯	貯貯
底	海の底辺	底底低	低底底低	底底底
難	災難	南嘆勤勤災	南難莫勤難	難
弐	弐拾を万円	弐二	弐拾	拾弐式式弐
否	認めるか否か	舌稲舌罪香舎		
鼻	鼻	皂鼻鼻鼻真	鼻鼻鼻鼻	鼻鼻鼻鼻
氷	こおり	永泳水	永永	永
補	候補補	イ補保備俑	俌補捕備補	俌補
暴	暴風雨	嵐防暴暴暴	爆暴暴	暴爆爆曝暴
率	能率	率卒	率卒	率卒

(2)　音(訓)や意味に関連して誤りやすいもの

文字	提出語形	1　年	2　年	3　年
壱	弐拾壱万円	弐一	弐弋	弐
益	純益	役益駅液	益	
延	期限を延ばす	伸申俾	伸廷従	
勧	～を勧める 勧誘	進	進讙歓観	観勤
歓	歓迎会	感観関解	勧観歓雑観	観
居	住居	去居教清衣共	居	
勤	勤める	務務努勤雑救	勤務勧雑勤勧	
		勧		
系	系統	係統敬	計	系係
厚	厚い氷	暑厘圧	厘	

祭	お祭	祭際察祭察	際祭	
財	財産	在則敗残吝	財賊	財
拾	拾う	抬拡捨広弦	抬捨扱	拡捨
称	～と称する 二人称	結証賞	紹	称称你
税	税金	祝鋭税	鋭	
善	善悪	全善善	罪善	
程	程度	適定程逞底堤	程抵	抵程
複	複雑	復複複複	復複復	複
盟	同盟	望明名	命益	盟血
預	預かる 預金	貯野項額	項予野寄	

(3)　(1)と(2)の混じた誤り

文字	提出語形	1　年	2　年	3　年
営	経営	栄税	栄	栄
険	危険	倹件検食	イ阪検°	
誤	誤解	誤互語吾娯悔護	梧娯	疑
孝	孝行	考行幸	考公	考ナ
講	講堂	行構校講構講	講構	構
災	災難	災才最	西災再	
借	借りる	貸貸備	貸	貸供
制	制度 制限	製政生	生°征	征
倉	倉庫	君創	蔵創°	
創	創作 創立記念日	想総操相	想	
待	待つ	持得	持得	

*	貸	貸す	貸貨借	貨借	貨
	燃	燃料 燃える	然焼	焼	焼
○	訳	通訳	約解採約	約°	
*	蔵	冷蔵庫	倉藏創臓蒼	倉臓橡	倉臓
	俗	風俗	斿族欲属	欲属族属°	族

○教育漢字外当用漢字

(1)　字形の上で誤りやすいもの

	文字	提出語形	1　年	2　年	3　年	無答の多いもの
*6	哀	哀れ		衰衰	衰哀	Non
*5	為	行為	意	為為	為偽為弟為	
*7	域	地域	堿域減域	減堿域弍°	減堿減弍°域°	
*7	奥	おく	奥恩増	奥奥	奥	
*7	桜	桜の花	桜楼椛櫻桜採桜	桜桜桜	桜桜楼°	
*3	卸	卸売り	下御	却御下御	卸御御郡却卸卸	
*4	華	中華とば	革華革革華華革革	革華華華華	革革華嘩革	
*3	暇	休暇	日置家課	暇福日暇福暇	暇暇暇暇暇	Non
*7	環	環境	環環環観感環環還環	環環環環環環還	環環環°環°	
*4	戯	戯曲	議次儀戯馨戯	戯戯戯戯戯戯凝劇戯	織戯渥戯戊戯	

*6	距	距離	雖 距 雖 拒	距 躍 離	距	
*6	峽	海峽	俠 夾 炔 漁	峽 峽 峽 夾 狹	峽 夾 狹 峽	
	胸	胸囲	胸 共 月	胸 胸	胞 胸 胸 胸	
*3	謹	謹賀	近 勤 謹 謹 勤 勤	蘿 謹 勤 謹 鑽	謹 鑽 勤 謹 勤 嗹 謹 言	
*5	揭	揭示板	揭 掖 掎 揭 袧 揭 揭 扣 胸	揭 綬 揭 揭 複 腸 揭	揭 礻 提	
*3	憩	休憩	憩 憩	憩 暇 白 憩 憩	息 憩 心 憩	
*1	迎	歓迎	仰 芸 迎	仰 仰 迎 迎	介 迎 迎 仰	
*5	誇	誇る	誘	誇 譫 誘	誇 誇 誘 言 誇 誇	
*3	墾	開墾	根	墾 墾 墾 墾 墾 墾 墾	墾 墾 墾 墾 墾 墾 墾	Non.
*4	載	連載	載 栽	載 栽 載 栽		Non.
*2	索	索引	索 案 索 率 索	率 索 索 案	索 索 索 率 索 索 案	
*5	慈	慈愛	地 自	地 自 滋 磁 滋	地 茲 滋 糸 慈	
*4	獣	猛獣	狪	戩 獪	獪 戩 煏 獣 煏 獪	Non.
*2	叔	叔父 叔母		淑 淑	淑 淑 叔 叔 叔 叔 淑	Non.
*6	瞬	瞬間	瞬 瞬 瞬 瞬	瞬 瞬 瞬 瞬 瞬 瞬 瞬	瞬 瞬 瞬 瞬	
*4	蒸	蒸気	蒸 烝 烝 蒸	蒸 蒸 蒸 蒸 蒸	薄 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸	
*5	嬢	お嬢さん	嬢 嬢 嬢 嬢 讓 娘 女	嬢 嬢 妖 嬢 嬢 嬢 娸 嬢 嬢 讓	護 嬢 讓 讓 嬢 嬢	

4	譲	譲歩	嬢情上嬢	讓譲少譲	嬢嬢醸浄讓譲 隻議譲	
3	睡	睡眠	垂床睡垂垂堆	僅陲陋郵重睡 郵睡	睡睡垂唾噩	
2	随	随筆	遣隋隋	遣隋邏隨逍髄	隨遡遣邏逍縋	
1	遭	遭難	遣	僧遭遣遭遭	隋遣遭曹曽迎	Non
5	濁	濁る		渭濁	ミ渥淘濁濁瞶	Nav
4	壇	花壇	段団担曜陛	嵩壇壇段壇壇 壇圹	壇壇壇壇壊亶 圹	
	畜	家畜	蕃蕾蓄	蓄蓄蓄飼畜	蓄蓄蓄	
5	秩	秩序	矢	敓	敓瘠敓秩朱	Non
7	沈	沈む	沈泌洗流	沈沈流	沈沈流沈	
7	逃	逃がす	逃仕逃	逃逃逃	悲逃逃	
2	陶	陶器	均門胸当綯十	陶胞掏石	陶淘匂唐胸萄 碗胸	
6	髪	髪の毛	眛髪髪髦髭髪	髪髪張髪髪	髪髪髪髪	
	晩	今晩	暖倪肥晩映肥	晩晩	晩	
6	猫	猫く	絵猫猫	猫描堆苗猫描 苗	猫描苗猫	
3	癖	くせ		疒卿	癌塑癖噓户	Non
10	薄	名薄	欅保篤淳薄撑	淳淳淳淮謀尊 慱薄薄廿廿	溥薄蔣篤簿護 薄薄溥篤	
	忘	忘れる	忘応	応惹	応	
1	冒	冒険	員冒防胃量	覚冒	冒冒防員	
7	滅	全滅	絶滅	滅滅滅成滅	滅滅	

第5	郵	郵便局	郵数動倅陲	郵倅陲郵卸	陲郵倅
第7	卵	たまご	卵卯卯	御卵卯卵°	卵卵°
第3	裏	うら	裏裏裏裏裏裏 裏裏裏	裏裏裏裏裏裏°	裏浦裏裏
第5	惑	惑星	惑感	憾戚謎惑惑戚 誘	感惑惑感惑°

(2)　音(訓)や意味に関連して誤りやすいもの

文字	提出語形	1　年	2　年	3　年	
	災	ほのお	淡災	淡	災°	
第1	虞	おそれ	恤恐	恐恟	恐怖虞	Non
第1	寡	寡婦	家着仮	仮家嫁	娼仮嫁寡	Non
第9	戒	警戒	回解械	式研滅碱		
第2	郭	輪郭	格角較額	刻画額輸郭	亡淳剳敦	Non
第4	且	かつ	加	勝滑	亘	Non
第6	干	干す	乾燥	燥汗	和汗欲	
第10	喚	喚声	歓管観完	歓勧観	歓勧叫	
第4	寛	寛大	関歓感歓寛	歓賢拡	観拡歓寛	
第4	憾	遺憾	感慣関	感	憾感惑	
第5	緩	緩和	慣感幹漢難	漢慣柔		Non
第5	既	既報	期気記季	気希期	遺既	Non
第6	却	忘却	脚去逆	脚郷	眩脚	
第8	況	実況	兄祝教響争	境況響克喨°	兄況	
第4	堀	掘る	堀掘	堀屈埋	堀	
第5	倹	倹約	健険絜契	険契契検	険検契	
第6	遣	派遣 遣唐使	遣推	遣	遣追遣	

*3	幻	幻燈	巌巌源	弦現玄巌幼源	源幼玄	Non
*7	巧	技巧	功工校	功朽攻	朽	
*4	縞	原縞	橋交文	橋橋縞	橋橋高	
*2	購	購売	公構講	校構販講	講貝	Non
*4	拷	拷問	強郊郷	強剛	豪	Non
*3	唆	示唆	左久差	差	差俊唆刺酸	Non
*0	賜	恩賜	士師志子誌師	師志士師	師賜志帥	
*0	赦	容赦	者	斜釈者	斜赦赦捨嚇赫	Non
*1	俊	俊才	修秀	秀	春俊	Non
*4	肖	肖像画	消象	消象像削	像消削描将	
*2	詔	詔勅	松少承	竹省奨朕	楼朕	Non
*4	殖	繁殖	植直食	植飾殖	植飾食	Non
*0	尋	尋わる	訪聞	訪言辱	辱温訪尋紡	Non
*2	帥	元帥	師水	師水卒	師垣	
*7	値	値段	植価直	価	価	
*2	貞	貞節	定低	低	抵	Non
*3	摘	指摘	敵適摘適的	適滴	適敵摘敵滴	
*0	陪	陪席	倍賠培	賠	賠培	Non
*6	賠	賠償	培賠倍	培倍	培倍賠	
*2	泊	一泊旅行	伯迫拍船	白迫拍舶伯	伯拍白船	
*1	頒	頒布	反半配	反恢販領	板領販繁	Non
*4	侮	侮辱	部無	無舞恥敏	悔恥恥	Non
*5	偏	偏食	変辺返編	編変	編遍	
*7	暦	西暦	歴	歴歴	歴暦。	
*7	露	つゆ	路炉	需雨霧	霜	

(3)　(1)と(2)の混じた誤り

	文字	提出語形	1　年	2　年	3　年	
第5	違	違う	異逸互違偉偉	異偉互	誤偉異遠	
第6	緯	緯度	黄偉井囲衛縴糸偉	囲違糸偉偉	偉緯	
第6	逸	逸話	言	説揺	免言 浼	NON
第1	劾	弾劾	外涯		核刻該弦	NON
第5	勘	勘定	歓甚勘朝	芭勘剳	堪甚歓	
第3	棄	棄権	基危危	蕖°危危	蕖°棄棄危	Non
	儀	礼儀	義	義穢°儀犠	儀義	
第3	喫	喫茶店	潔器	答潔	絜禁潔喫絜	Non
第0	虐	虐待	逆迸迸	逆	虐虐迸逆	
第4	狭	狭い	峡迫浹峡	峡峽峡峡	浹峡狭侠峡峽	
第5	驚	驚く	驚警	驚轟脅蔦警敬	篤	Non
第3	仰	仰ぐ	迎	抑仰仰	仰仰迎	
第3	啓	拝啓	敂敬敵啓	敬咨啓	敬咨誓啓啓啓啓°	
第3	娯	娯楽	設俣	呉誤娯娯	呉誤娯°	
第6	献	献立文献	皆混今根	辨	敵献°献°	
第6	魂	魂たましい	鬼磈勉	傀鬼魅塊霊	塊	
第7	磁	磁石	砦自玆砺磁	磅地滋	磁石	
第2	寂	寂しい	俳淋悲	淋淋寂	淋寂寂寇寂漱寂	
第6	縮	縮める縮尺	宿偐緒縮縮織宿	偐偐織縮織	縮	

※5	熟	熟語	誠諄	勢熟塾熟敦	逑熟熟熱熟塾塾°	
※3	循	循環	順紗徒	肴循順璁巡	儇巡盾盾瑨彳	
※5	侵	侵入	浸収深新侵	浸寝授隈	滞浸	
※6	籍	本籍 戸籍	績責席	箱積箱績籍籍耤	藉積籍籍耤	
※5	旋	旋律	方施,	方欽言徃旋	鍺旋施旋°	
※1	薦	推薦	選讐	選抽鳶應	撰鳶鳶選蔍	
※7	耐	忍耐	酎耐態体祀	酉態体酎而°	酎	
※0	衷	和洋 折衷	中	中柱	衷忠哀衷	Non.
※5	勅	勅語	直	勅刺	詔°敕	
※2	廷	法廷	韮帝定	帝庭延寧	擬帝挺延延帝挺	
※6	抵	抵抗	定底阺抵低	阺抗抵抵	低抵抵低°	
※2	添	添える	租備供添粗	粗祖粗湛㳄添	供洪粗㑚仕	
※4	薄	薄い色	淡	淡薄溥薄透	淡溥	
※7	彼	かれ	我徳彼	我彼彳°	彼	
※4	被	被害	波被皮非破	破被非被皮疲	被破排	
※6	苗	苗床	庙笛芽	苗笛楢笛	稲供苗°笛	
※3	賓	来賓席	品客賓	客品賓	皋臨宮	Non.
※5	噴	噴火	灰噴	墳熕墳墳	墳賁噴奮憤噴	
※4	邦	芒界 連邦	邦拜報法郡邦刊邦那邦那	邦那俸邢	半那邦邢	
※5	乏	貧乏	乏令榛之望貪房	坊之乏亡	之困貪	

米7	盆	お盆		杌	几凡	
米1	漫	漫画	満浸万映	版万漫浸漫圖慢澴	慢憾擾漫慢怬慢	
米5	網	網の目	綱網	網綱紉細綱	綱網	
米1	裕	余裕	雄袷	猶褣袷有裕	裕欲敬	
米6	誉	名誉	読挙名誉	挙誉	誉誉誉誉	
米6	揚	揚子江	暘揭抒様陽昜揚	殤陽陽揭揚湯	揭揚陽湯	
米3	揺	動揺	要様揺躍	謡謡揺援	謡揺援搖搖	
米1	濫	濫用	乱	乱	乱濫灠賢	
米2	虜	捕虜	旅慮廢	領虐慮慮	虜豦虚慮慮	Non
米2	猟	猟師が狩に行く	漁良	漁猟獁狩爿	猟獁狩漁猟擸猟犭 擸	
米2	寮	寮生活	淳旅寮療	賓隙寮療寮遼療	療俺寮寮寮領療	
米6	糧	水窓ホめ食糧難	料糧量	糧料量	料糧量	
米2	塁	一塁	墾塁壘疊晶墨類塁	鼎塁疊墨壘畏墨	壘墨塁畏畢墨	
米1	隷	奴隷	列命礼令嫌娯譲例	穀隷婊敖敷穀	諄隷敕穀嫌敖嫊嫂娵	
米6	齢	年齢	齡敵錞例令齢	齡鐺令齢齡酢	鐺令齡	
米6	烈	熱烈	裂列例	勢洌裂列梨	列洌烈列裂	
米3	廉	廉売	連運練	廉運連練廉	廉瘰廉廉連	
米3	楼	高楼	即郎	桜桜塔桜桜	橉桜桜	Non
米2	朗	朗読	郎続	郎朗	郎郎朗	

（芦沢　節）

第7章　習得上の問題点解明のための調査と結果

I　集団調査実施のねらいと方法

1.　この調査のねらい

(1)　当用漢字全数調査では，大量の文字を調査の対象とし，漢字習得についての数量的，質的な調査をはじめ，習得上の諸問題についてもできるだけ詳しく調べようとしたために，被調査者の数は，きわめて少数の特定者に限定したので，調査の結果・傾向の普遍性・妥当性を検証する必要がある。

(2)　1年で実施した当用漢字全数調査の結果から，読みにおける音訓の問題，書きにおける書けない漢字，誤答からみた読み書き上の諸問題，漢字と語の関係，読める表外字とその習得要因など，いろいろの問題が生じ，漢字習得上の問題点としての仮説が考えられるが，それが妥当か否かを検証する必要がある。

大別二つの目的のために，8人の生徒と同学年の中学生集団を対象として本調査の実施を計画した。したがって問題構成も二つに分かれている。

(一)　8人の漢字習得上の問題点として出たものをそのまま問題として，同学年の中学生一般にも共通するものであるか否かを確かめる。

(二)　8人の調査結果から習得上の問題点として考えられる仮説で，他の教育環境，教育条件の違った諸中学校生徒を調べてみる。

（なお，1年では，当時，並行して実施した言語能力の発達構造の研究のため，出身校の1年生348人の集団に，漢字も含めて言語能力テスト（漢字の読み・書き・語い・文法・読解・かなづかい・送りがな・作文）を2回にわたり実施したので，出身校生徒群に対して，ある程度の検証調査が行なわれたわけである。本格的な集団調査は2年生からである。）

2. 問題の構成

(1)　2年生

問　題	字　数	ねらいと構成	実施上の注意
1　教育漢字の読み	45字	8人の調査結果を参考にし，主として成績のわるいもの，問題のあるものを選び，音訓全部にわたり8人にテストしたと同じ語形で提出し，事例調査結果と比較できるようにする。	制限内の時間で答えさせるというより，全員が解答する時間を与えるように配慮する。 以下同じ。
2　教育漢字外当用漢字の読み	50字	ねらいは教育漢字の場合と同じ。なお，できない文字でも，既習（事例生徒の学校）文字を中心として構成した。	
3　表外字の読み	50字	8人の調査結果を参考にし，よく読めた字を中心に，50字の読みの力をみる。 なお，他教科と関連のある文字もいくつか入れてある。	
4　教育漢字の書き	50字	8人の調査結果を参考にし，(よくできた字も加えて) 成績の悪いもの，問題のあるものから文字を選び，8人にテストしたと同じ文脈・語句で提出する。 なお，読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
5　教育漢字外当用漢字の書き	47字	ねらいは，教育漢字の場合と同じ。 なお，その大半は，既習文字にしてあり，また，読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
6　書字力の分析	8字	文字を書く際の文字の構造（偏・旁・音符など）の知識の有無や，漢字の表意性の認識の有無などを，発問によって内省させながらたしかめる。	
7　漢字の訓読み	教育　38字 教外当　25字	8人の調査で，教育漢字・教育外当用漢字における訓読みで，問題のあるものをえらび，その読みの力，反応のしかたをみる。問題1・2と1部重複させてある。	問題8よりも先に実施する。
8　漢字の読み（訓）と意味理解	教育　15語 教外当　10語	漢字の問題のある訓読みが，ことばとしての理解と，どのような関係があるか，漢字の読み（訓）とその語の意味理解の関係をみる。 問題7および問題1・2と対応させてある。	
9　漢字の音読み	教育　33字 教外当　20字	8人の調査で，教育漢字・教育外当用漢字における音読みで，特に問題のあるものをえらび，その読みの力，反応のしかたをみる。問題4・5と1部重複させてある。	

10　漢字力（漢字の音と訓と義）の分析	10語	漢字の音・訓・義の三つの面の力を分析し，音で読め，訓で字義を知ることと，それらの文字の結合による単語の意味を理解する力との関係をみる。	

問題1～5は，8人の事例調査の結果や，問題の提出方法等の検証テストの性格をもち，問題の提出のしかたも，8人調査と同じ。問題6～10は，事例調査の結果，漢字習得上，問題となると思われる点を，追究するために，重点的，発展的に，問題を構成し調査するもの。問題は新しく案出作成。（問題用紙　10枚　所要時間約150分）

なお，調査の実施は，すべて研究室員があたり，調査を受けた生徒諸子のその場の状況などもくわしく知ることができた。

2年生の集団調査の結果では，8人の事例調査の結果，問題点として出たものが，集団でも，学校差（学級差）により正答率に多少の出入りはあるが，傾向的には同じことを示しており，この調査実施の意義が認められたので，3年生でも続けて調査することにした。なお，訓の問題について，地域性との関連をみるために，3年では，さらに調査の地域を関西圏にまで拡げた。

(2)　3年生　　問題の構成

調査の問題

問　　題	字　数	ね　ら　い　と　構　成	実施上の注意
1　教育漢字の読み	50字	8人の調査結果および2年の集団調査結果を参考にし，音訓に問題のある読みの力をみる。従来の調査結果から，音・訓どちらかの読みの力が，かなり定着していると思われるものは，この問題ではぶいて，難点のあるものについてしらべる。	制限内の時間で答えさせるというより，全員が解答できる時間を与えるように配慮する。以下同じ。
2　教育漢字外当用漢字の読み	45字	ねらいは1の教育漢字の場合と同じ。	
3　表外字の読み	50字	8人の調査結果を参考にし，よく読めた字（接近度の高い字）を中心に，50字の読みの力をみる。なお，他教科と関連のある文字もいくつか入れてある。なお，この問題には，その文字をいつ，何で見知るようになったか，接近の意識の内省も記入させて，習得の経路・領域もあわせてみる。	

4　教育漢字の書き	60字	8人の調査結果および2年の集団調査結果等を参考にし，成績のわるいもの，問題のあるものから文字をえらび，書く力をみる。なお，読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
5　教育漢字外当用漢字の書き	40字	ねらいは，4の教育漢字の場合と同じ。読みとの対応をみるために，文字上の配慮がしてある。	
6　特殊な音読み	教育 19字 教外当 18字	特殊な音読みの漢字（漢語）の読みの力をみる。 従来のテストで，また，日常生活的でないために読みに抵抗のあるものを27字選んである。他の読みかた，書きとりの力と比較できるように，一部文字上の配慮がしてある。	テスト実施の順序としては，問題1・2より後に行なう。
7　漢字の訓読みと意味把握(理解)	教育 10字 教外当 10字	問題のある訓読みが，ことばとしての理解とどのような関係があるか，漢字の読み（訓）とその語の意味理解の関係をみる。 問題1・2及び4・5と1部対応させてある。	〃
8　漢字学習の実態と意識・意見	15問	日ごろどのように漢字学習をしているか，漢字学習に対してどのような意識をもっているかなど，習得要因を解明する上で，関係のあることをたずねる。	

（問題用紙　10枚　　所要時間　約150分）

3. 調査の実施

1年の場合は，当時並行して行なった，「中学生の言語能力発達構造に関する研究」のために，8人の生徒及び出身校の1年生7学級分（348人）の中学生に，言語能力全般にわたってのテストを実施した（第1回6月〈1学期〉，第2回2月〈3学期〉）ので，その中の漢字力調査によって，同一学校の生徒ではあるが，他の多くの中学生との比較・検証等ができた。

2年・3年では，さらに，問題も8人の調査結果をふまえて作成し，被調査者も，調査のねらい・目的に沿うように選んで調査したが，2年時・3年時とも，なるべく学年相応の力がみられるように，各学年とも学年末を調査の時期に当てた。（年間1回）

2年時　昭和41年1月24日～2月18日の間に実施。

学校によって，2日にわたって実施したところ（稲付・砂町・教大附属の中学校）1日で調査を終えたところ（四谷第二・武蔵野第三中学校）がある。

3年時　昭和42年2月27日～3月9日の間に実施

卒業時期をひかえて諸行事があるため，稲付を除いて，他はすべて1日で調査を終了した。

調査の時期を，同時にいっせいにできなかったのは，各校での調査の実施（説明・実施・回収）を，すべて研究所側で行なったためである。

また，なるべく学年相応の力を見ようとして学年末を実施期にあてたが，3年生では，高校入試・卒業等の時期と重なるために，学校によっては好ましくない時期であったようである。（東京では入試実施時期が早く高校入試後，大阪では，入試直前であるなど，地域によって，入試の時期に遅速の差があり，テストを受ける生徒の心理的な違いも見受けられた。）

Ⅱ　調査の結果 ── 2年生

1. 教育漢字

教育漢字については，問題1で読みの力を，問題4で書く力を調べた。

(1)　教育漢字の読み調査の文字と結果

8人の調査結果を参考にし，教育漢字中，主として成績の悪いもの，問題のあるもの45字を選び，音訓の両面から，8人に調査したと全く同じ語形の問題で調べた。

45字は各学年配当から次のように選出配分した。

もんだい1～4（1年用漢字）目正川下

〃　5～7（2年用〃）用入歩

〃　8～13（3年用〃）葉配病顔和後

もんだい14～20（4年用漢字）改係商拾付焼幸

〃　21～32（5年用〃）想慣側報統経似価省留設管

〃　33～45（6年用〃）混条潔眼率境災衆授採犯険納

これらの文字は，1年入学時～2年前期までの8人の調査結果，ある読みでは習得率が高いが，他の読みでは低く，その読みかたに抵抗を示したものである。8人の調査では，カードによる1対1方式によったが，この集団調査ではそれをそのまま問題用紙に写しかえた。（なお，1語形で疑わしいものは，2種の語形で試みたものもある）

結果は339～342ページの表のようになる。

教育漢字の読みであるから，各校の平均正答率が90%以上読める文字がある。しかし，音訓ともに読める字は少なく（目・正・用・入・係・混など），他はどちらかに難点がある。

1年用漢字の「目」のモク，「正」のセイなど，問題のあった読みも，2年の学年末ごろになればさすがに，よく読めるようになるが，同じ1年用の川の「セン」，下の「もと」などは，正答率47.4%，27.7%と低い。しかも，漢字力の高い附属校にささえられての平均正答率である。この調査では，文字環境の特によい学校，わるい学校とりまぜて調査校としたので，学校または学級差が多少出ているが，しかし，大勢の傾向としては，8人の調査結果と共通するものをもっていることが認められた。

「歩」のブ，「顔」のガン，（同時にしらべた「顔色」は「かおいろ」とも読めるので，いっそう読めない。問題として「顔面」の方が適当であることがたしかめられた。）「後」のコウ，拾シュウ，付フ，焼ショウ，似ジ，率ソツ，境ケイ，衆シュ，納トウでは，音が，訓および，一般に用いられている他の音に比べると読みにくいこと，反対に，「病」のやむ，「和」のやわらぐ，「改」のあらためる，商あきなう，幸さいわい，報むくいる，統すべる，経へる，価あたい，省かえりみる・はぶく，留とめる，設もうける，管くだ，潔いさぎよい，眼まなこ，率ひきいる，境さかい，災わざわい，授さずける，採とる，犯おかす，険けわしい　では，訓が，音に比べると読みにくいことは8人の結果と同じで，

(問題1)　教育漢字の読み(平均正答率)

学校	学級	人数	平均正答率	1 目		2 正			3 川		4 下							
				モク	め	セイ	ショウ	ただ(しい)	セン	かわ	カ	ゲ 下旬	ゲ 下水	した	さげる	くだり	くだり 列車	もと
I	A	42名	95.2	100	97.6	90.5	97.6	23.8	100	95.2	81.0	88.1	92.9	92.9	88.1	95.2	19.0	
校	B	43	100	100	100	100	100	20.9	100	95.3	81.4	95.3	100	100	81.4	90.7	7.0	
Y	A	40	100	100	100	100	100	30.0	100	97.5	72.5	90.0	100	100	82.5	92.5	22.5	
校	B	39	100	100	100	100	100	53.8	97.4	100	82.1	100	100	100	84.6	100	7.7	
S	A	39	94.9	100	94.9	94.9	97.4	7.7	100	94.9	71.8	87.2	100	92.3	84.7	94.9	5.1	
校	B	37	89.2	97.3	89.2	86.5	97.3	10.8	97.3	81.1	54.1	73.0	94.6	91.9	75.6	89.2	8.1	
K	A	41	100	100	100	100	100	97.6	100	100	92.7	100	100	100	97.6	100	70.7	
校	B	41	100	100	100	100	100	95.1	100	97.6	100	97.6	100	100	97.5	100	73.2	
M	校	43	100	100	95.3	90.7	100	81.4	100	95.3	67.4	79.1	97.7	95.3	60.6	90.7	32.6	
平	均	365名	97.8	99.7	97.5	95.9	99.2	47.4	99.5	95.3	78.4	90.1	98.4	97.0	83.	94.8	27.7	

学校	学級	人数	平均正答率	5 用		6 入		7 歩					8 葉			9 配	
				ヨウ	もちいる	ニュウ	いれる	ホ	ポ	ブ	あゆむ	あるく	ヨウ 落葉	ヨウ 万葉	は	ハイ	くばる
I	A	42名	97.6	92.9	92.9	97.6	92.9	88.1	50.0	85.7	100	14.3	90.5	95.2	90.5	85.7	
校	B	43	97.7	93.0	97.7	97.7	95.3	90.7	34.9	95.3	100	9.3	93.0	100	100	95.3	
Y	A	40	100	97.5	100	97.5	92.5	82.5	62.5	85.0	100	27.5	95.0	100	95.0	77.5	
校	B	39	100	97.4	100	97.4	92.3	92.3	59.0	89.7	100	33.3	94.9	100	100	89.7	
S	A	39	89.7	89.7	94.9	92.5	74.4	84.6	12.8	87.2	97.4	5.1	79.5	100	87.2	87.2	
校	B	37	89.2	89.2	89.2	97.3	70.3	59.5	24.3	75.7	91.9	0	70.3	94.6	81.1	73.0	
K	A	41	100	100	100	97.6	100	95.1	90.2	100	100	41.5	92.7	100	100	100	
校	B	41	100	100	100	92.7	100	90.2	85.4	100	97.6	39.0	97.6	100	100	100	
M	校	43	97.7	93.0	95.3	95.3	86.0	93.0	79.1	90.7	100	55.8	95.3	100	90.7	88.4	
平	均	365名	97.0	94.8	96.7	96.2	89.6	86.6	55.9	90.1	98.6	25.5	90.1	98.9	94.0	88.8	

平均正答率 / 学校・学級・人数			10 病			11 顔			12 和		13 後			14 改		15 係	
			ビョウ	やむ	やまい	ガン 顔色	ガン 顔面	かお	ワ	やわらぐ	ゴ	コウ	うしろ	カイ	あらためる	ケイ	かかり
I	A	42名	92.9	50.0	57.1	2.4	47.6	97.6	95.2	81.0	95.2	66.7	95.2	85.7	69.0	95.2	97.6
校	B	43	93.0	23.3	41.9	0	55.8	95.3	97.7	79.1	100	60.5	100	90.7	72.1	97.7	97.7
Y	A	40	97.5	47.5	75.0	0	62.5	100	95.0	70.0	97.5	72.5	97.5	95.0	67.5	97.5	95.0
校	B	39	100	41.0	89.7	2.6	64.1	94.9	97.4	76.9	100	87.2	100	94.9	76.9	100.	97.4
S	A	39	84.6	25.6	53.8	0	71.8	97.4	100	59.0	97.4	51.3	84.6	82.1	53.9	92.3	94.9
校	B	37	83.8	16.2	54.1	0	59.5	91.9	94.6	64.9	94.6	37.8	81.1	73.0	48.6	89.2	86.5
K	A	41	100	87.8	90.2	2.4	97.6	100	100	80.5	100	95.1	100	100	97.6	100	100
校	B	41	100	82.9	100.0	4.9	90.2	92.7	100	82.9	100	90.2	100	100	95.1	100	100
M	校	43	100	81.4	81.4	4.7	67.2	93.0	100	86.0	95.3	79.1	97.7	90.7	74.4	95.3	97.7
平	均	365名	94.8	51.2	71.5	1.9	68.5	95.9	92.8	75.9	97.8	71.5	95.3	90.4	73.2	96.4	96.4

平均正答率 / 学校・学級・人数			16 商		17 拾			18 付		19 焼		20 幸		21 想	22 慣	
			ショウ	あきなう	シュウ	ジュウ	ひろう	フ	つける	ショウ	やく	コウ	さいわい	ソウ	カン	なれる
I	A	42名	95.2	31.0	26.2	95.2	81.0	54.8	83.3	66.7	95.2	97.6	73.8	88.1	83.3	76.2
校	B	43	100	18.6	32.6	88.4	86.0	46.5	83.7	72.1	100	97.7	53.5	95.3	88.4	81.4
Y	A	40	100	25.0	35.0	82.5	80.0	40.0	82.5	72.5	100	100	55.0	95.0	92.5	82.5
校	B	39	100	33.3	38.5	92.3	92.3	59.0	87.4	74.4	100	97.4	71.8	92.3	94.9	89.7
S	A	39	94.9	20.5	23.1	66.7	69.2	28.2	79.5	41.0	100	94.9	43.6	82.1	89.7	61.5
校	B	37	91.9	5.4	21.6	67.6	64.9	24.3	75.7	45.9	97.3	91.9	59.5	67.6	83.8	67.6
K	A	41	100	97.6	85.4	82.9	97.6	87.8	97.6	95.1	100	100	95.1	100	100	100
校	B	41	97.6	87.8	82.9	100	95.1	73.2	97.6	97.6	100	100	100	100	100	100
M	校	43	97.7	53.5	72.1	86.0	83.7	72.1	90.7	83.7	100	97.7	83.7	93.0	88.4	83.7
平	均	365名	97.5	41.9	46.8	84.9	83.6	54.5	86.6	72.6	99.2	97.5	71.0	90.7	91.2	82.7

学校	学級	人数	平均正答率	23 側		24 報		25 統		26 経			27 似		28 価		29 省	
				ソク	がわ	ホウ	むくいる	トウ	すべる	ケイ	キョウ	へる	ジ	にる	カ	あたい	セイ	ショウ
I	A	42名		85.7	76.2	92.9	23.8	78.6	2.4	95.2	45.2	21.4	66.7	88.1	97.6	19.0	97.6	83.3
校	B	43		93.0	97.7	100	16.3	90.7	0	100	58.1	16.3	53.5	90.7	97.7	7.0	100	86.0
Y	A	40		82.5	87.5	97.5	55.0	90.0	2.5	92.5	75.0	55.0	70.0	85.0	97.5	25.0	95.0	92.5
校	B	39		92.3	89.7	97.4	64.1	94.9	2.6	100	87.2	46.2	74.4	94.9	100	28.2	97.4	100
S	A	39		76.9	89.7	89.7	17.9	74.4	0	97.4	46.2	10.3	76.9	87.2	87.2	5.1	92.3	79.5
校	B	37		83.8	73.0	75.7	21.6	81.1	2.7	89.2	45.9	32.4	70.3	78.2	83.8	2.7	86.5	83.8
K	A	41		97.6	90.2	100	82.9	100	12.2	100	97.6	70.7	90.2	100	100	65.9	100	100
校	B	41		97.6	97.6	100	70.7	100	9.8	100	90.2	75.6	97.6	100	100	46.3	100	100
M	校	43		88.4	86.0	90.7	37.2	90.7	16.3	93.0	83.7	41.9	76.7	88.4	95.3	41.9	100	88.4
平	均	365名		88.8	87.7	94.0	43.3	89.0	5.5	96.4	70.1	41.1	75.1	90.4	95.6	27.1	96.7	90.4

学校	学級	人数	平均正答率	29 省		30 留			31 設		32 管		33 混		34条	35 潔	
				かえりみる	はぶく	リュウ	ル	とめる	セツ	もうける	カン	くだ	コン	まぜる	ジョウ	ケツ	いさぎよい
I	A	42名		23.8	71.4	81.0	57.1	54.8	90.5	35.7	100	47.6	88.1	92.9	95.2	90.5	2.4
校	B	43		18.6	58.1	88.4	46.5	30.2	90.7	30.2	100	37.2	95.3	100.	95.3	90.7	2.3
Y	A	40		25.0	45.0	97.5	57.5	52.5	95.0	62.5	100	40.0	90.0	87.5	97.5	85.0	2.5
校	B	39		46.2	53.8	97.4	76.9	64.1	97.4	87.2	97.4	49.7	87.2	89.7	97.4	89.7	0
S	A	39		17.9	69.2	82.1	61.5	35.9	84.6	48.7	97.4	25.6	84.6	92.3	92.3	97.4	0
校	B	37		21.6	67.6	64.9	59.5	32.4	78.4	51.4	83.8	27.0	81.1	86.5	86.5	81.1	0
K	A	41		82.9	95.1	100	97.6	78.0	95.1	100	100	87.8	100	100	100	100	31.7
校	B	41		63.4	97.6	95.1	90.2	68.3	100	100	100	73.2	100	97.6	100	100	24.4
M	校	43		51.2	55.8	81.4	79.1	60.5	83.7	67.4	97.7	72.1	90.7	93.0	93.0	88.4	14.0
平	均	365名		39.2	68.2	87.7	69.6	53.2	90.7	64.7	97.5	51.5	91.0	93.4	95.3	91.5	8.8

学校	学級	人数	平均正答率	36 眼		37 率			38 境			39 災		40 衆		41 授	
				ガン	まなこ	リツ	ソツ	ひきいる	キョウ	ケイ	さかい	サイ	わざわい	シュウ	シュ	ジュ	さずける
I	A	42名		83.3	16.7	90.5	47.6	35.7	90.5	66.7	73.8	81.0	21.4	92.9	7.1	85.7	16.7
校	B	43		86.0	9.3	100	41.9	30.2	97.9	65.1	48.8	86.0	11.6	95.3	4.7	74.4	14.0
Y	A	40		85.0	2.5	97.5	52.5	70.0	85.0	70.0	70.0	90.0	25.0	97.5	0	82.5	35.0
校	B	39		89.7	15.4	92.3	66.7	76.9	94.9	79.5	69.2	94.9	41.0	89.7	0	92.3	43.6
S	A	39		82.1	7.7	89.7	25.6	28.2	87.2	23.1	59.0	74.4	2.6	87.2	5.1	66.7	2.6
校	B	37		62.2	5.4	81.1	27.0	32.4	81.1	35.1	62.2	73.0	5.4	78.4	5.4	56.8	2.7
K	A	41		95.1	53.7	100	92.7	87.8	100	97.6	92.7	97.6	73.2	100	4.9	100	63.4
校	B	41		97.6	68.3	100	85.4	73.2	100	95.1	82.9	95.1	73.2	100	2.4	100	56.1
M	校	43		93.0	11.6	95.3	60.5	41.9	93.0	58.1	79.1	90.7	55.8	95.3	2.3	83.7	16.3
平	均	365名		86.3	21.4	94.2	55.9	52.9	92.3	66.0	71.0	87.1	34.8	93.2	3.6	82.7	27.9

学校	学級	人数	平均正答率	42 採		43 犯		44 険		45 納				平均
				サイ	とる	ハン	おかす	ケン	けわしい	ノウ	トウ	な 納屋	おさめる	
I	A	42名		95.2	31.0	92.9	61.9	97.6	78.6	61.9	28.6	52.4	73.8	72.7
校	B	43		97.7	14.0	95.3	46.5	100	76.7	62.8	9.3	62.8	72.1	71.9
Y	A	40		92.5	65.0	100	72.5	97.5	50.0	42.5	17.5	55.0	77.5	75.3
校	B	39		92.3	59.0	94.9	76.9	100	46.2	64.1	20.5	74.4	89.7	79.9
S	A	39		79.5	17.9	89.7	43.6	97.4	71.8	38.5	20.5	59.0	82.1	66.4
校	B	37		75.7	35.1	81.1	32.4	86.5	73.0	45.9	10.8	51.4	54.1	62.4
K	A	41		100	90.2	100	87.8	100	87.8	100	58.5	87.8	97.6	91.9
校	B	41		100	90.2	100	90.2	100	80.5	92.7	68.3	80.5	97.6	90.5
M	校	43		86.0	70.0	95.3	81.4	97.7	72.1	70.0	27.9	55.8	79.1	79.4
平	均	365名		91.2	52.6	94.5	66.3	97.5	71.0	64.7	29.3	64.4	80.5	76.9

(注) 平均正答率には二つの提出語形で試みた場合は，高低両方の結果を計算に入れてある。

調査の結果が，単に特定個人の漢字習得の実態や問題点を示しているばかりでなく，同じ学年の中学生に共通するものを表わしていることが認められよう。

(2)　教育漢字の書き――調査の文字と結果

8人の調査結果を参考にし，主として成績の悪いもの，問題のあるものから50字（熟語関係上実際には51字）を選び，事例調査と同じ文脈・語句で提出した。なお，読みとの対応をみるために，読みと共通する文字も入れてある。

読みと異なり，書くほうで問題のある字は，高学年用漢字に多い。51字の学年配当は，次のようになる。

3年用漢字　旅勝者

4年用漢字　案季育予族種良底害残借付係唱試

5年用漢字　側例責救移修省快低慣価

6年用漢字　衆歓補暴著臨眼率除称就異遺勧勤純災難派拡宣専

これらの文字は，それぞれ，正しい字形がとりにくい，類似字形と誤る，漢字の表意性を無視して音や訓の似通ったものに当てて書くなど，書けない，書きにくい文字である。なお，読みとの対応をみるために，次の文字が，他の問題と重複させてある。

付係側省慣衆眼率災価　（問題1　教育漢字の読みと共通）

旅付唱試省快衆率除異難価（問題7　訓読みの問題と共通）

唱暴　（問題8　漢字の読みと意味の理解と共通）

借救暴就　（問題9　漢字の音読みと共通）

平均正答率67.8%で，文字ごとの成績は，

正答率90%以上　案育省

〃　80%以上　旅予族種良害係側例責災価

〃　70%以上　者季底残付*試快低慣率

〃　60%以上　勝借救移修著眼異純

〃　50%以上　唱暴難拡宣

〃　40%以上　歓補臨除称就遺勤派

〃　30%以上　衆勧専

（問題）　教育漢字の書き（平均正答率）

学校	学級	人数	平均正答率	1 旅	2 勝	3 者	4 案	5 季	6 育		7 予	8 族	9 種		10 良	11 底		12 害
									イク	そだてる			シュ	たね		テイ	そこ	
I	A	42名	73.8	88.1	76.2	83.3	73.8	92.9	90.5	92.9	78.6	83.3	78.6	76.2	69.0	73.8	78.6	
校	B	43	83.7	55.8	86.0	88.4	72.1	100	97.7	90.7	81.4	79.1	79.1	86.0	51.2	39.5	88.4	
Y	A	40	85.0	80.0	67.5	90.0	75.0	95.0	90.0	87.5	75.0	80.0	82.5	92.5	67.5	57.5	77.5	
校	B	39	82.1	61.5	74.4	94.9	89.7	97.4	89.7	89.7	87.2	87.2	84.6	87.2	79.5	59.0	84.6	
S	A	39	56.4	48.7	59.0	89.7	53.8	97.4	92.3	79.5	69.2	76.9	76.9	76.9	71.8	61.5	84.6	
校	B	37	54.1	29.7	43.2	86.5	70.3	89.2	86.5	75.7	73.0	78.4	73.0	75.7	56.8	48.6	70.3	
K	A	41	97.6	85.4	97.6	100	92.7	100	100	97.6	90.2	97.6	97.6	97.6	97.6	87.8	97.6	
校	B	41	100	90.2	100	97.6	95.1	100	100	100	92.7	97.6	97.6	100	85.4	90.2	97.6	
M	校	43	83.7	69.8	76.7	97.7	67.4	100	97.7	90.7	76.7	88.4	88.4	90.7	83.7	62.8	86.0	
平	均	365名	80.0	68.2	76.2	92.1	76.7	97.0	94.0	89.6	80.5	85.5	84.4	87.1	73.7	64.7	85.2	

学校	学級	人数	平均正答率	13 残	14 借	15 付			16 係	17 唱	18 試	19 側	20 例	21 責	22 救		23 移	24 修	25 省
						フ	つけくわえる	うけつけ	がかり						キュウ	すくう			
I	A	42名	78.6	64.3	76.2	85.7	88.1	81.0	42.9	81.0	90.5	85.7	78.6	52.4	57.1	54.8	69.0	95.2	
校	B	43	72.1	58.1	62.8	90.7	95.3	79.1	30.2	53.5	97.7	93.0	95.3	46.5	44.2	46.5	58.1	90.7	
Y	A	40	82.5	65.0	60.0	80.0	85.0	80.0	60.0	77.5	87.5	82.5	77.5	65.0	67.5	70.0	57.5	85.0	
校	B	39	84.6	71.8	82.1	92.3	97.4	89.7	56.4	74.4	89.7	87.2	76.9	56.4	56.4	64.1	64.1	89.7	
S	A	39	66.7	59.0	53.8	92.3	89.7	82.1	25.6	51.3	76.9	82.1	66.7	35.9	33.3	35.9	64.1	89.7	
校	B	37	56.8	40.5	43.2	81.1	81.1	70.3	24.3	62.2	73.0	81.1	78.4	32.4	32.4	37.8	56.8	75.7	
K	A	41	90.2	90.2	85.4	97.6	100	90.2	92.7	97.6	97.6	100	95.1	92.7	90.2	95.1	90.2	100	
校	B	41	97.6	95.1	92.7	100	100	95.1	95.1	97.6	97.6	100	97.6	90.2	90.2	97.6	92.7	100	
M	校	43	62.8	72.1	79.1	88.4	86.0	90.7	72.1	81.4	90.7	93.0	76.7	65.1	65.1	79.1	72.1	90.7	
平	均	365名	77.0	68.8	71.0	89.9	91.5	84.4	55.9	75.3	89.3	89.6	82.7	60.0	60.0	64.9	69.6	91.0	

学校	学級	人数	平均正答率	26 快 カイ	26 快 こころよい	27 低	28 慣	29 衆	30 歓	31 補	32 暴	33 著	34 臨	35 眼 ガン	35 眼 ガン	36 率	37 除	38 称 ショウ	38 称 ショウ
I	A	42名		81.0	64.3	69.0	73.8	31.0	31.0	21.4	45.2	57.1	57.1	81.0	78.6	76.2	26.2	54.8	40.5
校	B	43		72.1	55.8	62.8	74.4	30.2	25.6	30.2	32.6	53.5	41.9	79.1	74.4	74.4	25.6	55.8	37.2
Y	A	40		72.5	67.5	72.5	62.5	17.5	62.5	47.5	55.0	75.0	32.5	75.0	72.5	65.0	35.0	37.5	30.0
校	B	39		66.7	56.4	76.9	76.9	30.8	53.8	41.0	59.0	66.7	33.3	79.5	79.5	66.7	51.3	53.8	38.5
S	A	39		64.1	46.2	61.5	74.4	10.3	5.1	23.1	33.3	28.2	30.8	46.2	46.2	61.5	10.3	2.6	5.1
校	B	37		59.5	32.4	48.6	51.4	13.5	13.5	27.0	45.9	37.8	24.3	45.9	43.2	48.6	8.1	5.4	5.4
K	A	41		100	100	97.6	97.6	61.0	70.7	58.5	78.0	92.7	73.2	75.6	70.7	92.7	80.5	65.9	70.7
校	B	41		97.6	100	90.2	95.1	68.3	63.4	61.0	65.9	95.1	85.4	85.4	85.4	100	78.0	90.2	87.8
M	校	43		76.7	62.8	79.1	79.1	46.5	39.5	48.8	58.1	74.4	46.5	48.8	46.5	79.1	55.8	39.5	34.9
平	均	365名		77.0	65.5	73.4	76.4	34.8	40.8	40.0	52.6	64.9	47.7	68.8	66.6	74.2	41.6	45.8	39.5

学校	学級	人数	平均正答率	39 就	40 異	41 遺	42 勧	43 勤	44 純	45 災	45 難	46 価	47 派	48 拡	49 宣	50 専	平均
I	A	42名		35.7	59.5	50.0	31.0	50.0	69.0	69.0	47.6	88.1	33.3	40.5	57.1	35.7	65.8
校	B	43		27.9	39.5	39.5	14.0	41.9	37.2	86.0	44.2	83.7	30.2	46.5	58.1	27.9	61.6
Y	A	40		27.5	75.0	40.0	22.5	37.5	42.5	87.5	55.0	92.5	50.0	40.0	67.5	30.0	65.5
校	B	39		28.5	71.8	56.4	33.3	38.5	51.3	87.2	53.8	89.7	53.8	51.3	61.5	51.3	69.0
S	A	39		30.8	35.9	12.8	7.7	35.9	69.2	76.9	20.5	66.7	15.4	20.5	61.5	30.8	52.2
校	B	37		32.4	29.7	18.9	10.8	32.4	43.2	56.8	32.4	70.3	21.6	24.3	29.7	18.9	47.8
K	A	41		75.6	92.7	63.4	65.9	53.8	100	95.1	70.7	92.7	73.2	82.9	80.5	39.0	86.9
校	B	41		73.2	97.6	82.9	61.0	78.0	95.1	90.2	80.5	82.9	68.3	90.2	75.6	68.3	89.6
M	校	43		34.9	60.5	67.4	25.6	55.8	62.8	81.4	46.5	83.7	44.2	58.1	44.2	48.8	69.3
平	均	365名		40.8	62.7	48.5	30.4	47.4	63.6	81.4	50.4	83.6	43.6	51.0	59.7	39.2	67.8

文字により，また，学校によって，多少の出入があるが，全体としてみた場合，書く上で問題のある字は，やはり，事例調査と傾向が同じであることが認められた。なお，

音・訓どちらにしても，ほとんどの差異のない　育イク97.0%　そだてる94.0　種シュ85.5　たね84.4　救キュウ60.0　すくう60.0

音・訓による優位差がややみられるもの　底そこ73.7　テイ64.7　快カイ77.0　こころよい65.5

があり，これらは読みの場合の音・訓反応の不均衡と対応している。「付」は音フと訓つけるとでは，反応に20%ほどの差があり，また「付つけ」では，「受け付け」という慣用語も，「付け加える」という日常語も，ともに親しいゆえか，両者に優位の差がみられない。むしろ，「付録」という彼らに親しいはず(雑誌の付録)の語でありながら，音フのほうに多少の抵抗があるようである。「称」では「人称代名詞」という術語と「東洋一と称する」という動詞の形で出した場合，後者の用法が，現在ではあまり使用されない故か，前者のほうがやや優位であった。(45.8/39.5) 結果の中で，読みとの関係から注目されることは，読みと書きの成績は読みのほうがよいのが一般であるが，読みにしても，習熟している読みのほうでないと，書く力のほうが上位のことがある。例―「反省」

		付	係	側	省	慣	衆	眼	率	災	価
かき	音	フ 71.0			セイ 91.0	76.4	シュウ 34.8	68.8	リツ 74.2	81.4	83.6
	訓	つける 91.5	84.4	89.3							
よみ	音	フ 54.5	96.4	88.8	セイ 96.7 ショウ 90.4	91.2	シュウ 93.2 シュ 3.6	86.3	リツ 94.2 ソツ 55.9	87.1	95.6
	訓	つける 86.6	96.4	87.7	かえりみる 39.2 はぶく 68.2	82.7		まなこ 21.4	ひきいる 52.9	わざわい 34.8	あたい 27.1

で読み書きさせると同傾向の正答反応を得るが，書きを反省，読みを「かえりみる」で試みると，書きのほうが優位になる。このことは，後述（習得に関する考察）するが，一般的な書く力を知りたい時は，どのような語形によるかを考えると同時に，音・訓の面からも考慮しなければならないことを示している。

なお，「側」のように読み書きの正答率がほとんど同率のものは，その文字の形・音・義に習熟できて，習得がかなり固定化してているといえそうである。反対に「衆」シュウのように，読みは高いが(93.2，シュは別)，書きは34.8と低い場合は，衆の字に，何らかの書きにくい要素（例一正しい字形がとりにくい）があるということが認められ，指導の重点の置き方が示唆されよう。

2．数育漢字外当用漢字

(1)　教育漢字外当用漢字の読み調査の文字と結果

教育漢字の読みの場合と同じ観点で，50字を選び，問題の提出のしかたも同様に8人に調査した語形と同じものを用いた。

教育漢字外当用漢字は969字あり，学習進行中の文字であり，教育漢字のように学年配当がされていないから，使用の教科書により既習未習のゆれがあろうが，8人調査結果を参考にして，次の観点から文字を選んだ。

音訓の読み反応のアンバランスなもの

音優位　沿汚悔危企偽戯掲顧香刻趣獣装頂伴憤募訪翻優誉

訓優位　机皆惜醜詳尋袋奪添浮閉忘

音訓ほぼ同じ　影捨飾促怠麗

2音または2訓あるもので，ある音または訓の不振のもの　懸値

社会的に使用されるもので，成績不振のもの　妥叙阻暫貢遂既恨

（なお，数ある該当字から，一般に社会的に多用される文字という点を考慮して50字を選んである）

結果は348～351ページの表のとおりである。

（問題2）　教育漢字外当用漢字の読み（平均正答率）

学校	学級	人数	平均正答率	1 影		2 企		3 優		4 机		5 危		6 恨		7 趣	
				エイ	かげ	キ	くわだてる	ユウ	やさしい	キ	つくえ	キ	あやうい	コン	うらむ	シュ	おもむき
I	A	42名		81.0	97.6	69.0	7.1	97.6	57.1	23.8	97.6	97.6	71.4	16.7	7.1	73.8	4.8
校	B	43		93.0	97.7	62.8	9.3	100	53.5	1.6	97.7	100	76.7	18.6	7.0	76.7	9.3
Y	A	40		87.5	95.0	70.0	32.5	97.5	72.5	10.0	100	100	70.0	32.5	45.0	77.5	55.0
校	B	39		97.4	89.7	79.5	43.6	100	71.8	10.3	100	97.4	82.1	25.6	56.4	87.2	53.8
S	A	39		82.1	87.2	51.3	0	94.9	64.1	0	97.4	92.3	61.5	15.4	2.6	59.0	0
校	B	37		64.9	91.9	43.2	0	89.2	64.9	10.8	75.7	86.5	45.9	10.8	5.4	64.9	0
K	A	41		100	100	85.4	68.3	100	56.1	51.2	100	100	95.1	65.9	43.9	100	46.3
校	B	41		97.6	100	85.4	53.7	100	36.6	68.3	100	100	97.6	39.0	39.0	100	48.8
M	校	43		90.7	93.0	62.8	25.6	95.3	18.6	11.6	95.3	97.7	88.4	20.9	14.0	86.0	37.2
平	均	365名		88.5	94.8	67.9	26.8	97.3	54.5	22.2	96.2	97.0	77.0	27.4	24.4	80.8	28.5

学校	学級	人数	平均正答率	8 募		9 捨			10 促		11 怠		12 沿		13 伴		
				ボ	つのる	シャ四捨	シャ取捨	すてる	ソク	うながす	タイ	おこたる	エン	そう	ハン	バン	ともなう
I	A	42名		95.2	2.4	33.3	28.6	90.5	57.1	35.7	9.5	23.8	85.7	14.3	64.3	73.8	40.5
校	B	43		97.7	2.3	34.9	14.0	97.7	34.9	23.3	4.7	14.0	81.4	20.9	79.1	81.4	30.2
Y	A	40		90.0	2.5	27.5	2.5	90.0	62.5	12.5	12.5	47.5	80.0	40.0	72.5	80.0	15.0
校	B	39		94.9	5.1	30.8	5.1	94.9	66.7	20.5	20.5	33.3	87.2	48.7	87.2	82.1	25.6
S	A	39		89.7	0	20.5	10.3	74.4	30.8	23.3	28.2	0	74.4	10.3	76.9	59.0	33.3
校	B	37		86.5	0	16.2	8.1	78.4	35.1	35.1	8.1	2.7	75.7	5.4	70.3	48.6	27.0
K	A	41		100	36.6	68.3	39.0	100	87.8	46.3	63.4	68.3	100	85.4	97.6	97.6	85.4
校	B	41		97.6	39.0	70.0	41.5	100	90.2	46.3	51.2	68.3	100	82.9	95.1	100	90.2
M	校	43		93.0	20.9	53.5	7.0	93.0	62.8	23.3	16.3	39.5	86.0	74.4	90.7	79.1	25.6
平	均	365名		94.0	12.3	40.0	17.5	91.2	58.9	30.7	23.9	33.4	85.8	43.0	81.6	78.4	41.6

平均正答率 / 学校 学級 人数	14 汚 オ 汚物	14 汚 オ 汚職	14 汚 けがす	15妥 ダ	16 値 チ	16 値 ね	16 値 あたい	17 頂 チョウ 頂上	17 頂 チョウ 頂点	17 頂 いただき	18 刻 コク	18 刻 きざむ	19 浮 フ	19 浮 うく	19 浮 うかぶ
I A 42名	81.0	66.7	0	19.0	81.0	76.2	61.9	90.5	90.5	52.4	95.2	64.3	90.5	95.2	95.2
校 B 43	69.8	62.8	2.3	7.0	76.7	74.4	60.5	97.7	93.0	41.9	97.7	74.4	76.7	100	97.7
Y A 40	35.0	47.5	2.5	5.0	85.0	87.5	65.0	97.5	97.5	72.5	95.0	92.5	82.5	100	95.0
校 B 39	61.5	66.7	0	7.7	84.6	94.9	74.4	94.9	92.3	71.8	100	94.9	87.2	97.4	100
S A 39	7.7	17.9	2.6	2.6	64.1	82.1	35.9	79.5	84.6	15.4	94.9	74.4	64.1	89.7	94.9
校 B 37	13.5	24.3	5.4	0	62.2	67.6	27.0	91.9	86.5	35.1	83.8	62.2	45.9	78.4	86.5
K A 41	100	97.6	7.3	70.7	95.1	100	87.8	100	100	87.8	100	85.4	100	100	100
校 B 41	95.1	97.6	4.9	68.3	100	95.1	87.8	97.6	100	82.9	100	85.4	100	100	97.6
M 校 43	79.1	76.7	2.3	20.9	81.4	81.4	76.7	95.3	93.0	76.7	97.7	65.1	90.7	95.3	93.0
平 均 365名	61.4	62.7	3.0	22.7	81.4	84.4	64.7	94.0	93.2	60.0	96.2	77.5	82.5	95.3	95.6

平均正答率 / 学校 学級 人数	20 掲 ケイ	20 掲 かかげる	21 麗 レイ	21 麗 うるわしい	22 遂 スイ	22 遂 とげる	23 顧 コ	23 顧 かえりみる	24 装 ソウ	24 装 ショウ	24 装 よそおう	25 懸 ケン	25 懸 ケ
I A 42名	90.5	57.1	9.5	0	7.1	4.8	45.2	4.8	95.2	54.8	16.7	92.9	4.8
校 B 43	97.7	39.5	14.0	7.0	9.3	11.6	30.2	2.3	100	65.1	27.9	95.3	7.0
Y A 40	80.0	52.5	32.5	45.0	12.5	15.0	67.5	37.5	85.0	82.5	25.0	95.0	7.5
校 B 39	94.9	64.1	28.2	33.3	7.7	15.4	76.9	38.5	97.4	84.6	30.8	89.7	17.9
S A 39	82.1	71.8	5.1	5.1	0	0	12.8	20.5	87.2	66.7	12.8	84.6	0
校 B 37	83.8	48.6	8.1	2.7	0	0	5.4	24.3	81.1	56.8	5.4	75.7	0
K A 41	97.6	68.3	85.4	61.0	53.7	41.5	73.2	53.7	100	92.7	61.0	100.	39.0
校 B 41	100	68.3	65.9	41.5	51.2	39.0	70.7	51.2	100	85.4	61.0	95.1	39.0
M 校 43	90.7	55.8	44.2	11.6	9.3	37.2	34.9	2.3	90.7	65.1	27.9	88.4	9.3
平 均 365名	91.0	58.4	32.9	23.0	17.0	18.6	46.6	25.8	93.2	72.6	30.1	91.0	14.0

学校	学級	人数 / 平均正答率	26 訪		27 袋			28 翻		29叙	30 惜		31 憤		32 詳	
			ホウ	おとずれる	タイ	ふくろ	ぶくろ	ホン	ひるがえる	ジョ	セキ	おしい	フン	いきどおる	ショウ	くわしい
I	A	42名	90.5	73.8	2.4	95.2	97.6	28.6	2.4	57.1	0	28.6	23.8	0	7.1	45.2
校	B	43	95.3	62.8	2.3	97.7	97.7	14.0	0	69.8	0	25.6	11.6	0	4.7	46.5
Y	A	40	97.5	72.5	15.0	97.5	97.5	72.5	62.5	75.0	30.0	62.5	57.5	0	12.5	72.5
校	B	39	97.4	84.6	5.1	100	100	87.2	38.5	74.4	15.4	71.8	56.4	0	15.4	84.6
S	A	39	84.6	51.3	0	92.3	94.9	7.7	0	38.5	2.6	10.3	20.5	0	12.8	43.6
校	B	37	75.7	29.7	5.4	83.8	89.2	13.5	0	27.0	0	8.1	5.4	0	5.4	37.8
K	A	41	100	90.2	17.1	97.6	100	90.2	14.6	100	4.9	85.4	92.7	19.5	26.8	90.2
校	B	41	100	85.4	7.3	100	100	87.8	2.4	100	4.9	80.5	87.8	22.0	19.5	80.5
M	校	43	93.0	72.1	9.3	95.3	93.0	41.9	7.0	55.8	4.7	34.9	30.2	2.3	11.6	76.7
平	均	365名	92.9	69.6	7.1	95.6	96.7	49.3	14.0	66.8	6.8	45.5	43.0	4.9	12.9	64.4

学校	学級	人数 / 平均正答率	33 尋		34 偽		35 添			36 悔			37 飾		38阻
			ジン	たずねる	ギ	いつわる	テン添加	テン添付	そえる	カイ	くいる	くやむ	ショク	かざる	ソ
I	A	42名	21.4	57.1	38.1	4.8	4.8	4.8	26.2	83.3	28.6	28.6	69.0	73.8	33.3
校	B	43	11.6	41.9	23.3	7.0	2.3	2.3	11.6	72.1	16.3	20.9	51.2	83.7	20.9
Y	A	40	20.0	92.5	27.5	7.5	7.5	2.5	52.5	90.0	37.5	52.5	70.0	87.5	27.5
校	B	39	35.9	94.9	41.0	5.1	10.3	5.1	61.5	97.4	38.5	51.3	84.6	89.7	41.0
S	A	39	2.6	53.8	5.1	0	25.6	15.4	15.4	59.0	10.3	12.8	53.4	84.6	12.8
校	B	37	5.4	48.6	8.1	0	29.7	5.4	8.1	51.4	8.1	8.1	54.1	75.7	8.1
K	A	41	63.4	100	85.4	56.1	17.1	14.6	78.0	100	51.2	65.9	95.1	100	61.0
校	B	41	61.0	95.1	90.2	43.9	41.5	34.1	75.6	100	58.5	73.2	95.1	100	70.7
M	校	43	8.6	86.0	30.2	11.6	23.3	9.3	32.6	83.7	30.2	27.9	76.7	84.4	41.9
平	均	365名	26.8	74.5	39.2	15.3	17.8	10.4	40.3	82.2	31.2	38.1	72.3	87.1	35.6

学校	学級	人数	平均正答率	39 醜		40 獣		41 戯		42 奪		43 暫	44 忘		45 閉	
				シュウ 醜態	シュウ 醜悪	みにくい	ジュウ	けもの	ギ	たわむれる	ダツ	うばう	ザン	ボウ	わすれる	ヘイ	とじる
I	A	42名		2.4	2.4	19.0	92.9	64.3	64.3	31.0	14.3	38.1	4.8	57.1	95.2	66.7	95.2
校	B	43		4.7	4.7	16.3	97.7	72.1	58.1	32.6	14.0	32.6	2.3	67.4	97.7	67.4	100
Y	A	40		7.5	7.5	20.0	97.5	57.5	60.0	10.0	7.5	45.0	0	80.0	95.0	80.0	92.5
校	B	39		20.5	10.3	28.2	100	84.6	69.2	5.1	25.6	71.8	2.6	87.2	97.4	87.2	89.7
S	A	39		2.6	2.6	28.2	87.2	61.5	66.7	15.4	0	17.9	0	59.0	87.2	48.7	84.6
校	B	37		0	0	5.4	78.4	64.9	62.2	8.1	5.4	18.9	0	51.4	83.8	51.4	75.7
K	A	41		43.9	39.0	53.7	100	87.8	85.4	56.1	61.0	80.5	34.1	95.1	97.6	100	97.6
校	B	41		29.3	24.4	41.5	100	85.4	87.8	34.1	51.2	73.2	34.1	98.1	100	97.6	100
M	校	43		2.3	2.3	18.6	93.0	72.1	53.5	9.3	11.6	37.2	23.3	76.7	93.0	79.1	95.3
平	均	365名		12.6	10.4	25.8	94.2	72.3	67.4	22.7	21.4	46.3	11.5	74.5	94.2	75.6	92.6

学校	学級	人数	平均正答率	46 誉		47 既 48		48 香		49 皆			50 貢	平均
				ヨ	ほまれ	キ	すでに	コウ	カ	カイ 皆勤	カイ 皆無	みな	コウ	
1	A	42名		85.7	31.0	7.1	0	97.6	19.0	14.3	1.9	92.9	33.3	47.4
校	B	43		69.8	23.3	9.3	7.0	95.3	14.0	4.7	4.7	93.0	27.9	45.6
Y	A	40		95.0	52.5	7.5	2.5	95.0	5.0	17.5	7.5	95.0	12.5	53.6
校	B	39		92.3	25.6	7.7	2.6	94.9	5.1	17.9	10.3	89.7	15.4	57.3
S	A	39		48.7	7.7	2.6	0	89.7	0	5.1	2.6	82.1	12.8	38.6
校	B	37		56.8	18.9	5.4	0	83.8	5.4	13.5	2.7	83.8	7.7	35.4
K	A	41		100	58.5	53.7	43.9	100	43.9	56.1	46.3	95.1	46.3	74.2
校	B	41		100	61.0	63.4	51.2	100	39.0	53.7	46.3	95.1	39.0	72.3
M	校	43		88.4	48.8	7.0	4.7	95.3	27.9	23.3	18.6	90.7	16.3	52.1
平	均	365		82.2	36.7	18.4	12.6	94.8	18.1	23.0	17.0	91.0	23.3	53.1

平均正答率53.1%，教育漢字外当用漢字ではあるが中には90%を上回るもの（影(かげ)　優(ユウ)　机(つくえ)　危(キ)　募(ボ)　捨(すてる)　頂(チョウ)　刻(コク)　浮(うく)かぶ　掲(ケイ)　装(ソウ)　懸(ケン)　訪(ホウ)　袋(ふくろ)　獣(ジュウ)　忘(わすれる)　閉(とじる)　香(コウ)　皆(みな)）が19字（38%）もある。しかし，90%以上読めている文字も音訓という観点からみると，他の音なり訓なりでは，読みが不振で，中には同一文字かと疑われるほど読めないものもある。

机(つくえ)	96.2%／キ 22.2%	募(ボ)	94.0%／つのる 12.3%
捨(すてる)	91.2%／シャ 17.5% 40.0%	掲(ケイ)	91.0%／かかげる 58.4%
袋(ふくろ) (ぶくろ)	96.7% 95.6%／タイ 7.1 %	装(ソウ)	93.2%／よそおう 30.1%
皆(みな)	91.0%／カイ 17.0% 23.0%	懸(ケン)	91.4%／ケ 14.0%

その他の文字も90%対2～30%という大差はなくとも，同じ傾向の結果を示している。事例調査の生徒が使用している国語教科書と集団調査の各校での使用教科書はすべて同じではない（I・S校<S社>，Y校<N社>，K校<T社>，M校<M社>の各中学校国語教科書）にもかかわらず，8人の調査結果で問題になっている音訓の読み反応のアンバランスは，集団調査結果でも同じ傾向を示していることがわかる。

なお，一音の字で，事例調査では，成績のよくなかった，妥　叙　阻　暫　貢などは22.7　66.8　35.6　11.5　23.3%とやはり概して読めない。また，「既キ　すでに」など，昔の中学生なら，漢文学習で，早期に習得できた字が，この調査では，音・訓ともに低くなっているのは，やはり，漢文及び漢文調の文章に接する機会が少ないからであろう。

(2)　教育漢字外当用漢字の書き調査の文字と結果

教育漢字と同様，事例調査の結果を参考にし，主として成績の悪いもの，問題のあるものから45字を選び，事例調査と同じ文脈・語句で問題を提出する。

45字の選定は，教育漢字外当用漢字はまだ学習進行中のものであり，書くこ

（問題）　教育外当用漢字の書き（平均正答率）

学校	学級	人数	1 優勝	2 趣味	3 机	4 全滅	5 募集	6 縁側	7 企画	8 掲示板	9 訪問	10 直径	11 忙しい	11 ご多忙	12 彫刻	12 時を刻む	13 補充テスト
I	A	43名	51.2	44.2	97.7	34.9	23.3	37.2	60.5	25.6	60.5	65.1	14.0	16.3	58.1	58.1	25.6
校	B	44	43.2	47.7	88.6	34.1	34.1	27.3	77.3	25.0	63.6	72.7	18.2	15.9	50.0	52.3	18.2
Y	A	40	52.5	42.5	85.0	52.5	50.0	12.5	85.0	25.0	65.0	50.0	32.5	30.0	77.5	80.0	17.5
校	B	39	59.0	41.0	89.7	43.6	28.2	20.5	76.9	25.6	71.8	53.8	43.6	33.3	74.4	74.4	33.3
S	A	39	20.5	20.5	82.1	12.8	30.8	15.4	79.5	17.9	53.8	28.2	20.5	10.3	56.4	53.8	30.8
校	B	35	31.4	37.1	74.3	8.6	22.9	14.3	40.0	22.9	42.9	51.4	14.3	2.9	65.7	51.4	31.4
K	A	41	48.8	73.2	92.7	65.9	46.3	58.5	68.3	22.0	90.2	90.2	51.2	56.1	73.2	80.5	75.6
校	B	41	51.2	78.0	97.6	53.7	58.5	75.6	80.5	43.9	73.2	78.0	65.9	73.2	92.7	82.9	70.7
M	校	43	37.2	37.2	79.1	25.6	39.5	18.6	69.8	30.2	58.1	83.7	16.3	16.3	67.4	58.1	20.9
平	均	365名	44.1	47.1	87.7	37.3	37.3	31.5	71.2	26.6	64.7	63.6	30.7	28.5	68.2	65.8	35.9

学校	学級	人数	14 戯曲	15 捕手	16 姓名	17 頂上	18 値段	19 袋	20 猛獣	21 …を怠る	22 …を開催する	23 携帯ラジオ	24 応援する	25 熟語	26 劇場	27 危険	28 危険
I	A	43名	16.3	32.6	25.6	81.4	55.8	74.4	27.9	20.9	7.0	9.3	37.2	11.6	34.9	34.9	53.5
校	B	44	13.6	22.7	18.2	86.4	65.9	79.5	13.6	13.6	11.4	2.3	45.5	11.4	9.1	22.7	52.3
Y	A	40	5.0	47.5	15.0	82.5	75.0	80.0	25.0	40.0	12.5	5.0	42.5	25.5	40.0	17.5	67.5
校	B	39	10.3	46.2	25.6	84.6	56.4	76.9	17.9	44.0	15.4	10.3	43.6	25.6	43.6	15.4	61.5
S	A	39	12.8	17.9	23.1	76.9	59.0	46.2	35.9	0	30.8	23.1	10.3	2.6	25.6	7.7	35.9
校	B	35	11.4	5.7	8.6	65.7	51.4	37.1	5.7	0	17.1	0	5.7	0	25.7	2.9	54.3
K	A	41	4.9	31.7	80.5	90.2	78.0	92.7	4.9	46.3	26.8	9.8	78.0	17.1	39.0	31.7	82.9
校	B	41	17.1	46.3	70.7	95.1	80.5	100	14.6	41.5	29.3	22.0	65.9	36.6	51.2	34.1	68.3
M	校	43	0	11.6	30.2	74.4	72.1	65.1	11.6	39.5	4.7	2.3	23.3	7.0	30.2	25.6	67.4
平	均	365名	10.1	29.3	33.4	82.2	66.3	73.2	17.5	29.4	17.0	9.3	39.7	15.1	33.2	21.9	60.5

学校	学級	人数	探検	探検	探検	怒り	29 花を描く	描写	30 …を汚す	31 名誉	32 接触	触角	33 沿岸	34 注意事項	35 稲	36 概する憤	37 服装
I	A	43名	72.1	44.2	30.2	23.3	18.6	14.0	11.6	34.9	20.9	20.9	72.1	37.2	69.8	7.0	51.2
校	B	44	40.9	43.2	34.1	22.7	15.9	11.4	13.6	20.5	22.7	25.0	68.2	43.2	81.8	6.8	45.5
Y	A	40	62.5	10.0	55.0	47.5	37.5	35.0	7.5	47.5	42.5	52.5	75.0	42.5	30.0	30.0	50.0
校	B	39	33.3	5.1	51.3	56.4	41.0	35.9	15.4	43.6	63.8	56.4	92.3	38.5	35.9	12.8	53.8
S	A	39	38.5	20.5	28.1	25.6	15.4	2.6	7.7	10.3	25.6	17.9	84.6	15.4	15.4	10.3	38.5
校	B	35	22.9	2.9	45.7	5.7	17.1	5.7	11.4	17.1	25.7	25.7	37.1	34.3	17.1	0	48.6
K	A	41	78.0	41.5	43.9	43.9	61.0	61.0	43.9	36.6	82.9	80.5	95.1	61.0	78.0	43.9	61.0
校	B	41	70.7	31.7	43.9	61.0	48.8	46.3	41.5	31.7	80.5	78.0	87.8	75.6	78.0	36.6	73.2
M	校	43	46.5	20.9	44.2	20.9	23.3	16.3	11.6	18.6	32.6	34.9	83.7	62.8	41.9	7.0	32.6
平	均	365名	52.3	25.2	41.1	34.2	31.0	25.4	18.4	29.0	43.0	43.6	77.8	46.0	51.0	17.3	50.4

学校	学級	人数	38 クラブの顧問	会社の顧問	39 四捨五入	40 噴火	41 詐欺	42 交通巡査	巡回する	43 …する傾向がある	44 施設	45 冒険	冒険	平均
I	A	43名	0	0	39.5	11.6	2.3	20.9	16.3	34.9	16.3	9.3	44.2	33.7
校	B	44	2.3	2.3	27.3	4.5	2.3	11.4	11.4	36.4	11.4	13.6	38.6	31.5
Y	A	40	35.0	35.0	50.0	10.0	2.5	35.0	32.5	32.5	12.5	17.5	52.5	39.9
校	B	39	28.2	23.1	51.3	2.6	0	41.0	43.6	33.3	20.5	10.3	61.5	40.1
S	A	39	2.6	2.6	23.1	2.6	0	38.5	35.9	30.8	10.3	5.1	23.1	25.7
校	B	35	2.9	2.9	28.6	0	0	8.6	2.9	31.4	14.3	8.6	48.6	22.3
K	A	41	9.8	9.8	63.4	9.8	24.4	68.3	65.9	92.7	70.7	22.0	68.3	54.7
校	B	41	14.6	14.6	78.0	24.4	12.2	68.3	68.3	82.9	73.2	14.6	58.5	56.9
M	校	43	0	0	46.5	4.7	0	18.6	18.6	41.9	30.2	20.9	55.8	32.6
平	均	365名	10.4	9.9	45.5	7.9	4.9	34.5	32.9	46.6	29.0	13.7	50.1	37.7

調査人数に異同があるのは，テスト実施日が前回と変わったため。以下同じ。

とは特に要求されていないので，教育漢字外当用漢字中，使用されることが多いもの，特に教育漢字との結合による熟語が多用されるもの，また，教育漢字外当用漢字との結合によるものでも一般に使用されることが多く，しかも誤用され易いもの（例—*値段，猛*獣，*危険，*探*検，*憤慨，詐*欺，*冒険）などから採った。

また，教育漢字と同様，他の問題と比較することも配慮して文字を選んである。

教育漢字外当用漢字の読み（問題1）と共通

優趣机募企掲訪刻戯頂値袋
獣怠汚沿憤顧

〃　の訓読み（問題7）　〃　募企掲訪忙刻戯捕催携怒危
探描触欺巡施

〃　読みと意味の理解（問題8）訪戯催携描汚触欺施

教育漢字外当用漢字であり，しかも，問題のある文字を選んだために，平均正答率は37.7%と低いが，中には，平均正答率50%以上の文字も15字はある。

平均正答率80%以上の字　机頂
〃　70%　〃　企袋沿
〃　60%　〃　訪径刻値(険)
〃　50%　〃　探稲装
〃　40%　〃　優趣触項捨傾
〃　30%　〃　滅募縁忙充姓援劇怒描巡
〃　20%　〃　掲捕怠催危誉施(検)
〃　10%　〃　戯獣催熟汚憤顧冒
〃　9～1%　携噴欺

音・訓どちらが書きやすいかをみた場合，多忙・忙しい，彫刻・刻むではほとんど大差なく，提出語形では，接触・触角，巡回・巡査など大差なく，同じ験でも冒険と危険では，冒の影響からか後者の方が低い程度である。

問題2の教育漢字外当用漢字の読みと比べると，

		優	越	机	募	企	掲	訪	刻	戯
か	音	44.1	47.1		37.3	71.2	26.6	64.7	68.2	10.1
き	訓			87.7						
よ	音	97.3	80.8	22.2	94.0	67.9	91.0	92.9	96.2	67.4
み	訓	54.5	28.5	96.2	12.3	26.8	58.4	69.6	77.5	22.7
		頂	値	袋	猷	怠	汚	沿	慣	願
か	音	82.2			17.5			77.8	17.3	10.4
き	訓		66.3	73.2		27.4	18.4			
よ	音	94.0	81.4	7.1	94.2	23.9	62.7	85.8	43.0	46.6
み	訓	93.2	84.4 64.7	95.6	72.3	33.4	3.0	43.0	4.9	25.8

読みに比べて，書きの劣るのは当然だが，両者の差が大きなものと，比較的少ないものがある。「企」のように，読みを上回って書けている例外もあるが，これは，どの学校でも平均的に書けており，あるいは，企画・計画など，学校生活用語（字）として，書く文字であることと関係があるのであろうか。

また，読みとの対比で興味のあることは，読みに比べて書くことが劣る一般の状況下で，読みの不振な方の音または訓の成績は，書きの成績よりもさらに落ちていることが，集団調査でも同様に認められたことである。

3. 表外字の読み

1年入学時及び1年後期，2年前期の3回の表外字調査の結果，学習しないことをたてまえとしている表外字も，それが人名・地名，その他他教科・一般読書，テレビ・映画，広告・宣伝等に多用されることによって，目にふれる機会の多い文字は，意外に読めることがわかったが，これが，8人の生徒の特殊な現象なのか，あるいはこの期の中学生に共通な現象であるのかを見るために，3回の表外字調査で成績のよかった文字50字を選んで，2年終了時に近い時期に2年生の集団にも調査を実施した。

調査文字　50字

藤僕頃岡杉鹿吾彦智靴塚須鳩堀汁潟亭弘釣亀皿菱洞枕梶瞳嵐
柿堺殻嘩崎阪伊鶴昌蓮狼釜幡呂奈鎌韓函岬洪漠禄甚

50字に対する調査方法は事例調査と同一方式によった。

結果は358～361ページの表のとおりである。

<注>1.　5校平均正答率の上段は音訓それぞれを，下段は両者を含んだその文字として読めた場合の平均正答率である。

2.　濁音化の形で答えたものも，表外字ということで正答に入れた。

各校平均正答率95%以上の文字		僕岡杉吾亀伊崎
〃	90%以上	藤彦靴堀亭嵐阪鶴狼鎌
〃	85%以上	智汁釣皿柿呂奈
〃	80%以上	鹿鳩潟瞳堺釜韓菱幡
〃	75%以上	塚須弘
〃	70%以上	洞枕梶蓮
〃	65%以上	殻嘩岬頃
〃	60%以上	昌洪
〃	50%以上	函漠
〃	40%以上	禄
〃	10%以上	甚

文字1字ずつを見れば，学校により，正答率に多少の出入はあるが，平均正答率80%以上の文字が32字と，半数を上回る好成績である。8人調査で共通によく読めた文字は，集団調査でもよく読めており，8人調査で，共通正答の度合いがやや低かったものは傾向的に低く，表外の字でありながら，読める字として共通度の高い文字のあることが認められた。8人の調査で成績のよかった「甚」は，生徒の入学時の校長さんの名前で，こうした特殊な習得要因をもつ文字は結果としても特殊であることがわかる。

なお，50字の正答反応を音訓いずれにこたえているか整理してみると，次のようになり，成績の信頼性が，この反応結果からも，認められる。

（問題3）

表外字の読みの平均正答率

学校	学級	人数	1 藤 トウ	1 藤 ふじ	1 藤 どう	2 僕 ぼく	3 頃 ケイ	3 頃 ころ	3 頃 ごろ	4 岡 コウ	4 岡 おか	5 杉 サン	5 杉 すぎ	6 鹿 ロク	6 鹿 しか	6 鹿 か
I	A	41名	80.5	87.8	0	97.6	0	43.9	22.0	2.4	95.1	0	92.7	2.4	82.9	53.7
校	B	43	81.4	88.4	4.7	100	2.3	39.5	20.9	0	97.7	0	93.0	4.7	88.4	72.1
Y	A	40	77.5	87.5	0	95.0	5 0	60.0	0	2.5	97.5	0	92.5	0	70.0	65.0
校	B	39	87.2	94.9	5.1	100	0	71.8	5.1	0	100	0	100	0	79.5	66.7
S	A	41	82.9	90.2	2.4	97.6	0	43.9	2.4	2.4	95.1	0	100	2.4	70.7	61.0
校	B	35	71.4	85.7	0	94.3	2.9	57.1	2.9	0	97.1	0	97.1	5.7	77.1	34.3
K	A	41	97.6	100	0	100	0	78.0	4.9	2.4	100	4.9	97.6	22.0	95.1	75.6
校	B	41	97.6	100	0	97.6	2.4	73.2	4.9	4.9	100	0	97.6	12.2	100	80.5
M	校	43	83.7	90.7	0	97.7	0	53.5	0	0	100	0	95.3	2.3	79.1	60.5
平	均	364名	84.6	91.8	1.4	97.8	1.4	57.7	7.4	1.6	98.1	0.5	96.2	5.8	82.7	63.7
			97.5			97.8	66.2			98.1		96.2		92.3		

学校	学級	人数	7 吾 ゴ	7 吾 われ(わが)	8 彦 ひこ	8 彦 びこ	9 智 チ	9 智 とも	10 靴 カ	10 靴 くつ	11 塚 つか	11 塚 づか	12 須 ス	12 須 すべからく
I	A	41名	92.7	4.9	85.4	2.4	85.4	24.4	9.8	90.2	73.2	22.0	80.5	0
校	B	43	95.3	4.7	83.7	0	90.7	18.6	4.7	100	69.8	25.6	72.1	0
Y	A	40	95.0	5.0	90.0	0	82.5	25.0	7.5	95.0	90.0	5.0	70.0	0
校	B	39	100	15.4	94.9	0	84.6	28.2	7.7	100	94.9	2.6	79.5	0
S	A	41	95.1	0	82.9	0	75.6	51.2	2.4	90.2	53.7	43.9	43.9	0
校	B	35	94.3	0	91.4	0	82.9	37.1	2.9	85.7	54.3	37.1	54.3	0
K	A	41	95.1	53.7	100	0	97.6	36.6	26.8	97.6	100	0	97.6	2.4
校	B	41	95.1	39.0	100	0	97.6	26.8	19.5	97.6	100	0	97.6	2.4
M	校	43	95.3	0	90.7	0	86.0	25.6	0	95.3	74.4	18.6	97.7	0
平	均	364名	95.3	13.7	90.9	0.3	87.1	30.2	9.1	94.8	79.1	17.0	77.5	0.5
			96.4		91.2		92.0		95.1		96.2		77.5	

学校	学級	人数	平均正答率	13 鳩 キュウ	鳩 はと	鳩 ばと	14 堀 クツ	堀 ほり	堀 ぼり	15 汁 ジュウ	汁 しる	16 潟 セキ	潟 かた	潟 がた	17 亭 テイ
I	A	41名		9.8	80.5	0	2.4	97.6	0	9.8	82.9	0	9.8	85.4	90.2
校	B	43		4.7	81.4	0	23.3	95.3	0	14.0	88.4	0	2.3	86.0	90.7
Y	A	40		5.0	70.0	2.5	5.0	97.5	0	17.5	80.0	0	5.0	85.0	90.0
校	B	39		2.6	76.9	0	15.4	89.7	0	35.9	92.3	0	2.6	94.9	100
S	A	41		0	75.6	0	26.8	73.2	9.8	0	80.5	0	0	78.0	87.8
校	B	35		0	68.6	0	25.7	68.6	2.9	2.9	74.3	0	2.9	74.3	80.0
K	A	41		22.0	100	0	41.5	100	0	68.3	97.6	2.4	24.4	75.6	100
校	B	41		17.1	95.1	0	22.0	100	0	68.3	95.1	0	26.8	73.2	100
M	校	43		20.9	90.7	0	32.6	88.4	0	7.0	88.4	0	14.0	79.1	90.7
平	均	364名		9.6	82.4	0.3	21.7	90.4	1.4	25.0	86.8	0.3	9.9	81.3	92.3
				83.0			96.2			87.4		91.2			92.3

学校	学級	人数	平均正答率	18 弘 コウ	弘 ひろ ひろし	19 釣 チョウ	釣 つり (つる)	20 亀 キ	亀 かめ	21 皿 さら	22 菱 リョウ	菱 ひし	菱 びし	23 洞 ドウ	洞 ほら	24 枕 チン	枕 まくら
I	A	41名		51.2	85.4	0	85.4	4.9	92.7	82.9	0	17.1	65.9	80.5	2.4	2.4	65.9
校	B	43		41.9	72.1	0	88.4	7.0	93.0	79.1	0	20.9	58.1	60.5	0	0	67.4
Y	A	40		27.5	82.5	0	90.0	10.0	95.0	87.5	0	30.0	65.0	72.5	2.5	2.5	82.5
校	B	39		56.4	84.6	0	84.6	28.2	94.9	89.7	0	28.2	61.5	76.9	10.3	2.6	89.7
S	A	41		29.3	70.7	0	82.9	4.9	97.6	85.4	0	31.7	34.1	51.2	0	19.5	43.9
校	B	35		14.3	85.7	0	82.9	0	97.1	80.0	0	45.7	22.9	48.6	2.9	8.6	40.0
K	A	41		80.5	78.0	4.9	95.1	24.4	100	97.6	12.2	70.7	17.1	100	9.8	19.5	95.1
校	B	41		75.6	80.5	0	95.1	36.6	100	100	4.9	61.0	36.6	100	19.5	12.2	90.2
M	校	43		48.8	72.1	0	79.1	2.3	95.3	88.4	0	44.2	46.5	72.1	11.6	4.7	79.1
平	均	364名		47.8	78.8	0.5	87.1	13.2	96.2	87.9	1.9	38.7	45.1	73.9	6.6	8.0	73.1
				90.4		87.4		96.2		87.9	84.6			75.3		77.5	

（問題3）

学校	学級	人数	平均正答率	25 梶 ビ	25 梶 かじ	26 瞳 ドウ	26 瞳 ひとみ	27 嵐 ラン	27 嵐 あらし	28 柿 シ	28 柿 かき	29 堺 カイ	29 堺 さかい	30 殻 カク(コク)	30 殻 から	30 殻 がら	31 華 カ
I	A	41名		2.4	68.3	14.6	78.0	0	90.2	0	80.5	7.3	82.9	73.2	0	0	65.9
校	B	43		2.3	48.8	7.0	76.7	0	86.0	0	83.7	32.6	67.4	62.8	0	0	48.8
Y	A	40		0	82.5	12.5	75.0	0	95.0	0	80.0	15.0	82.5	60.0	5.0	0	65.0
校	B	39		0	76.9	17.9	87.2	2.6	100	0	94.9	20.5	84.6	71.8	7.7	0	64.1
S	A	41		2.4	56.1	12.2	70.7	0	80.5	0	73.2	12.2	65.9	58.5	0	0	58.5
校	B	35		5.7	60.0	5.7	74.3	2.9	88.6	0	77.1	17.1	77.1	71.4	0	0	65.7
K	A	41		7.3	90.2	31.7	100	9.8	100	4.9	100	29.3	92.7	85.4	36.6	2.4	82.9
校	B	41		4.9	92.7	34.1	87.8	19.5	97.6	2.4	97.6	26.8	92.7	73.2	46.3	2.4	82.9
M	校	43		4.7	62.8	11.6	83.7	0	93.0	2.3	83.7	2.3	93.0	67.4	9.3	0	67.4
平	均	364名		3.3	70.9	16.5	81.6	3.8	92.3	1.1	85.7	18.1	82.1	69.2	11.8	0.5	66.8
				73.1		84.9		92.3		85.7		91.5		74.5			66.8

学校	学級	人数	平均正答率	32 崎 キ	32 崎 さき	32 崎 ざき	33 阪 ハン	33 阪 さか	33 阪 ざか	34 伊 イ	35 鶴 カク	35 鶴 つる	36 昌 ショウ	36 昌 まさ	37 蓮 レン	37 蓮 はす
I	A	41名		0	75.6	17.1	19.5	95.1	0	97.6	4.9	87.8	73.2	34.1	51.2	36.6
校	B	43		2.3	69.8	25.6	16.3	83.7	2.3	100	2.3	88.4	55.8	27.9	37.2	25.6
Y	A	40		0	82.5	17.5	17.5	90.0	0	97.5	2.5	87.5	37.5	42.5	80.0	2.5
校	B	39		2.6	92.3	7.7	38.5	87.2	0	100	5.1	87.2	53.8	51.3	92.3	0
S	A	41		0	68.3	24.4	14.6	90.2	0	92.7	0	92.7	58.5	31.7	41.5	2.4
校	B	35		0	88.6	5.7	20.0	97.1	0	91.4	0	97.1	71.4	28.6	57.1	2.9
K	A	41		2.4	100	0	56.1	87.8	0	100	29.3	100	80.5	61.0	97.6	39.0
校	B	41		0	100	0	56.1	92.7	0	100	34.1	97.6	87.8	48.8	97.6	36.6
M	校	43		0	90.7	4.7	34.9	97.7	0	97.7	7.0	88.4	62.8	25.6	79.1	4.7
平	均	364名		0.8	85.2	11.5	30.5	91.2	2.3	97.8	9.6	91.8	64.6	39.0	70.3	17.0
				96.7			97.0			97.8	91.8		80.2		78.3	

学校	学級	人数 / 平均正答率	38 狼 ロウ	38 狼 おおかみ	39 釜 フ	39 釜 かま	39 釜 がま	40 幡 ハン	40 幡 はた	40 幡 マン	41 呂 ロ	42 奈 ナ	43 鎌 レン
I	A	41名	7.3	82.9	2.4	75.6	4.9	26.8	48.8	7.3	87.8	75.6	2.4
校	B	43	4.7	93.0	0	65.1	0	23.3	37.2	14.0	83.7	86.0	0
Y	A	40	15.0	92.5	0	92.5	0	17.5	47.5	15.0	87.5	87.5	0
校	B	39	12.8	97.4	0	89.7	2.6	20.5	66.7	15.4	97.4	92.3	0
S	A	41	9.8	82.9	0	70.7	0	12.2	75.6	0	75.6	85.4	0
校	B	35	5.7	85.7	0	77.1	0	5.7	88.6	11.4	71.4	88.6	2.9
K	A	41	41.5	97.6	7.3	100	0	39.0	58.5	9.8	100	100	0
校	B	41	48.8	90.2	9.8	97.6	0	36.6	61.0	19.5	100	100	0
M	校	43	16.3	88.4	2.3	83.7	0	20.9	44.2	44.2	76.7	88.4	0
平	均	364名	18.1	90.1	2.5	83.5	0.8	22.8	58.0	15.4	86.8	88.5	0.5
			93.1		84.3			81.3			86.8	89.3	

学校	学級	人数 / 平均正答率	43 鎌 かま	44 韓 カン	45 函 カン	45 函 はこ	46 岬 コウ	46 岬 みさき	47 洪 コウ	48 漠 バク	49 禄 ロク	50 甚 ジン	50 甚 はなはだ
I	A	41名	80.5	73.2	0	51.2	7.3	58.5	61.0	36.6	43.9	24.4	0
校	B	43	88.4	76.7	2.3	34.9	0	48.8	60.5	39.5	37.2	11.6	0
Y	A	40	82.5	87.5	2.5	70.0	20.0	65.0	52.5	60.0	37.5	27.5	0
校	B	39	94.9	92.3	2.6	56.4	12.8	74.4	64.1	53.8	46.2	28.2	0
S	A	41	100	58.5	2.4	31.7	4.9	46.3	29.3	14.6	19.5	0	0
校	B	35	85.7	77.1	0	40.0	2.9	57.1	40.0	17.1	25.7	2.9	0
K	A	41	95.1	100	36.6	75.6	7.3	80.5	97.6	92.7	73.2	29.3	14.6
校	B	41	97.6	95.1	29.3	78.0	7.3	92.7	92.7	97.6	87.8	34.1	2.4
M	校	43	93.0	83.7	11.6	69.8	0	76.7	65.1	65.1	46.5	16.3	0
平	均	364名	90.9	82.7	9.9	56.6	6.9	66.7	62.6	53.6	46.7	19.5	1.9
			91.5	82.7	58.0		70.1		62.9	53.6	46.7	20.6	

音優位の漢字

僕吾智須亭洞殻嘩伊昌蓮呂奈韓洪漠禄甚

訓優位の漢字

頃岡杉鹿彦靴塚鳩堀汁潟弘釣亀皿菱枕梶瞳嵐柿堺崎阪鶴狼釜幡鎌函岬

音・訓同位の漢字

藤

「読み」とともに習得経路の内省記入も実施し，予想以上にこの効果も認められたが，集団調査の習得経路は，3年の調査の方で扱うことにする。

4. 漢字の知識

(1) 漢字の構造の知識

生徒の書字力テストの結果を見ると，漢字の構造（偏・旁・音符など）の知識，漢字の表意性の認識があれば，書字力は更に強化されるのではないかと思われることがままある。そこで，中学2年生ごろの段階で，どの程度の漢字に対する基礎的な知識や認識があるのかを，実際に文字を書かせ，発問によって書字の過程を内省させながら，たしかめたのが，問題6である。

もんだい1では「清」の字を書かせ（清は意味を表わす「水」と，音を表わす「青」とを合わせた形声文字），「清」がサンズイ偏であること，サンズイ偏（氵）は，水に関係のある字であること，清は氵偏に，青「セイ」という音をもち，青「あおい，にごらないで水が青く澄んでいるという意とをもつ，つくり（旁）が合同してできた字であるという文字の構成上の知識を持っているかどうか（イ—ハ），「清」の字をおぼえる時，偏・旁・意味を分析的に知識としておぼえるのか，あるいは，他の手がかり，方法によるのか（ニ—ホ）を，実際にその文字を書かせ，それを内省させながらたずねたものである。その結果は

次のように，

学校＼反応		イ　清はシ扁と知っている		ロ　シとセイ(青)からなり，意味はきよい		ハ　音はセイである		ニ　全体としておぼえた	
		は　い	いいえ	は　い	いいえ	は　い	いいえ	は　い	いいえ
I	A	37.2	60.5	46.5	53.5	79.1	16.3	74.4	25.6
	B	29.5	70.5	38.6	61.4	90.9	9.1	81.8	18.2
Y	A	55.0	45.0	52.5	47.5	80.0	20.0	67.5	32.5
	B	71.8	28.2	20.5	79.5	64.1	35.9	71.8	28.2
S	A	56.1	43.9	46.3	53.7	87.8	9.8	58.5	41.5
	B	74.3	25.7	51.4	45.7	82.9	17.1	77.1	22.9
K	A	63.4	31.7	63.4	36.6	87.8	8.8	68.3	24.4
	B	75.6	24.4	51.2	48.8	97.6	2.4	53.7	43.9
M		72.1	27.9	37.2	62.8	72.1	16.3	69.8	30.2
平　均		58.9	40.3	45.2	54.5	79.8	15.0	69.2	29.7

「清」の字きよい，の音は「セイ」と読むことは80%近くのものが知っていても，それがシ偏の文字であることを知っているのは60%近くにへり，さらに「セイ」の音と，青く澄んでいる意とをもつ青のつくりとの組合わせによる字であることを知っているものは，45%に減るというように，「へん」と「つくり」による文字の合成，その意味などに知識や関心をもつものは半数近くもあるかないかということが示されている。したがって，文字をおぼえる手がかりとしては，「全体としておぼえた」69.2% ということになるのである。文字を思い出す手がかりをたずね，それによって，文字をおぼえる過程をさらに詳しくたどろうとしたのが，つづく質問ホであるが，それに対しては，次のように答えており，この期の中学生の漢字をおぼえる方法の片鱗をうかがうことができよう。

(2)　忘れた字を思いだす手がかり

大勢としては，「へん」や「つくり」に関連させておぼえる手がかりとして

（もんだい1のホ）　**忘れた字を思い出す手がかり**

反応	I		Y		S		K		M	平均
	A	B	A	B	A	B	A	B		
へんに関係させて（水・氵）	23.3	29.5	27.5	33.3	17.1	20.0	9.8	31.7	9.3	22.3
つくり（青）に関係させて	14.0	18.2	10.0	17.9	17.1	14.3	4.9	2.4	25.6	13.9
へん・つくりを考える	11.6	11.4	25.0	7.7		2.9	4.4	9.8	4.7	8.7
字形(体)，大体の輪廓，感じを思い出す	2.3	2.3	2.5	7.7	4.9		2.4		4.7	3.0
よみかた，音を思い出す，音にあてはまる字を思い出す							9.8	4.9		1.6
音を思い出して，つくりを書く	2.3			2.6	2.4	2.9	7.3	19.5	2.3	4.4
同音の文字をいくつも書いてみる			5.0						2.3	0.8
字の意味を考える	7.0	6.8	17.5	7.7	12.2	14.3			14.0	8.7
意味を考えて，へんを加える				2.6			7.3	17.1		3.0
同じような意味，発音の文字を考え出す								4.9		0.5
熟語を考える	2.3	4.5	5.0	2.6	2.4	5.7	4.9	7.3	14.0	5.4
名前（人・地名）で思い出す	4.7	6.8		5.1	26.8	5.7	7.3	4.9	7.0	7.6
文章の前後関係・文脈から				5.1			2.4		4.7	1.4
最初に習った時のこと，その文字と接した時のことを思い出して	2.3		5.0				2.4	2.4		1.4
記憶に残っている字，関連があると思われるものをいろいろ書いてみる	4.7	2.6	2.4	2.9						1.4
なんとなく反射的にわかる	4.7	2.3				2.9	4.9			1.6
絶対に忘れない，よくおぼえている		15.9			4.9	2.9	26.8	7.3		6.5
手がかりなし，あきらめる			5.0	12.8	2.4	5.7	4.9	2.4	2.3	3.8
無答（「わからない」も含む）	23.3	4.5	12.5	5.1	14.6	22.9	7.3	4.9		10.4

＊ なるべく生徒の反応がそのままわかるように，書かれた表現を中心に分類整理した。

いると答えているが，「音を思い出す，音にあてはまる字を思い出す，同音の文字をいくつも書いてみる」という反応は，数はさほどでないが注目に価すると思われる。音を手がかりにすることも，つくりをおぼえる一つの決め手であるが，意味をともなったそれでないと，同音の文字（同訓の文字）を書いて平

気でいることになる。漢字の表意性を無視した誤りが多いのは，このケースが多いからではあるまいか。また，偏に着目するといっても，偏が有する，したがって偏の示すそれぞれの意味にはあまり頓着しないということもあるのではなかろうか。なお，「熟語を考える」という反応や，「文章の前後関係・文脈から」などは，むしろ「読み」についての記憶の手がかりのようでもあるが，書く場合にも，そうした文字の周辺の状況から記憶の糸をさぐろうとするものが，案外多いのではなかろうか。名前に連関しておぼえるなど，文字知覚，文字把握が心的印象面とかかわりの深いことを示しているように思われる。

(3)　持と待　増と贈　議と儀

問題2・3・4では，持・待（字形は似ているが，偏・音・意味がちがう）増・贈　議・儀（字形は似ているが，偏はちがい，音は同じだが，意味がちがう）のそれぞれの文字を書かせ，どのように区別しておぼえたり，書き分けたりしたか，文字に即して具体的にたずねたものである。（次ページ表）

正答はそれぞれの字が正しく書けたものを示し，以下は偏が違い，旁が同じであるそれぞれの字を区別する手がかりをたずねた反応である。(2)の「持」が手へんであることに気づくものはかなりいるが，「待」では，それが「彳べんである」ことに気づくものは少ない。中には「持は手へん，待は彳べん，彳はサムライ」，「持ジ支持，待タイ接待」のような用例による判別法をあげているものもあるが，ごく少数で，多くは無反応である。彳べんに気づく以外で，「持は手へんで，待は手へんでないものとして区別する」と答えて「待」に「特」(×)の字を書いているものもあった。その他「自然に」とか，「なんとなく」とかいうものもあり，これらの答えを一括して「その他」とした。

もんだい(3)増・贈になると，まず，字そのものが正しく書けない（ことに，贈）だけに，両者の区別は，持・待よりいっそう判別法があいまいになる。

増では「熟語でおぼえた，字全体でおぼえた，わからない，ただなんとなく，自然に，そのまま暗記」のその他に関するものが比較的多く，「贈」では，「おくるのは金に関係があるので，貝へん，貝で金に関係あり」などと貝へんに気づいたものは，ごくわずかで，多くは無反応である。

学校	2イ 持つ 正答	手偏に関係あるとこ知っても偏にあるとの	その他	ロ 待つ 正答	イ偏であるとで分ける	偏でこ見る	無反応	3イ 増 正答	へんに気づく	その他	無反応	ロ 贈 正答	へんに気づく	無反応	4イ 議 正答	へんに気づく	その他	ロ 儀 正答	へんに気づく	無反応
I校	76.7	58.1	7.0	67.4	14.0	69.8		67.4	11.6	14.0	60.5	11.6	2.3	90.7	81.4	51.2	16.3	39.5	7.0	79.1
	90.9	56.8	11.4	59.1	20.5	65.9		65.9	13.6	52.3	27.3	13.6	2.3	79.5	75.0	50.0	22.7	40.9	9.1	84.1
Y校	87.5	80.0	5.0	65.0	32.5	52.5		80.0	12.5	20.0	50.0	12.5	7.5	82.5	82.5	62.5	5.0	45.0	17.5	67.5
	87.2	82.1	10.3	71.8	12.8	61.5		79.5	17.9	43.6	35.9	12.8	7.7	87.9	87.2	59.0	20.5	41.0	23.1	66.7
S校	73.2	43.9	24.4	46.3	19.5	70.7		36.6	2.4	39.0	56.1	7.3	4.9	92.7	46.3	39.0	14.6	36.6	9.8	80.5
	80.0	37.1	25.7	45.7	17.1	74.3		60.0	5.7	22.9	62.9	11.4	5.7	91.4	71.4	31.4	17.1	37.1	2.9	85.7
K校	97.6	87.8	7.3	92.7	31.7	61.0		92.7	14.6	41.5	31.7	48.8	19.5	73.2	92.7	39.0	26.8	85.4	19.5	73.2
	92.7	87.8	7.3	90.2	19.5	58.5		90.2	0	36.6	61.0	19.5	9.8	85.4	87.8	56.1	19.5	70.7	19.5	65.9
M校	83.7	72.1	7.0	67.4	37.2	44.2		86.0	11.6	44.2	37.2	18.6	7.0	76.7	83.7	58.1	18.6	20.9	11.6	69.8
平均	85.6	67.8	11.4	67.6	22.8	61.9		73.3	10.1	35.1	46.6	17.4	7.4	84.4	78.7	50.1	18.0	46.3	13.4	76.3

正答率は正しくその文字が書けたものの平均正答率を，以下は，両字を区別する手がかりに対する反応を%で示したもの。文字が正しく書けなくても反応記入はあるので，両者の数字は一致していない。

もんだい(4)の議・儀では，「議」をただ，言べんによるとせずに，「議は会議の議，だから言べん，話し合うのだから言べん，ことばに関係するから言べん」のように，答えたものも相当あり，したがって正答数も70%を上回っている。しかし「儀」になると，「人べん」に気づいたものも少なく，なかには，「儀は人に関するので人べん，儀式は人が集って行なうので人べん」などの答えも稀れにあるが，多くは無反応である。また中には，「議はことばで言べん，儀は言べんのないの」として「義」の字をあてているもの，義理の義として「義」の字をあてているもの等があった。これらの反応及び，正答との関連からみると，非常に一般的で説明しやすい偏（例―氵，扌，言，木，金偏など）は，教室でもとり上げられ，生徒自身も納得しやすいが，そうでないものは，説明の対象にあまりとり上げられない，漢字学習の場合，多くは新出の読みとの対応で扱われ，文字の構造には，ふれられていないのが一般ではないかというような印象を受ける。

(4)　元気と元木――漢字表意性の認識

問題5では，意味を無視して同音の字をあてる誤字反応が多い実情にかんがみ，「元気」を「元木」と誤記してその誤りの理由を説明させるという方法によって，漢字の表意性の認識度をたしかめてみたが，元気ということばへの親近性，日常生活で使う場面も多いからか，二つの文字の別を言えたものは，さすがに多かった。「木は植物，気は気持の気に関係がある，ぼく→人間　木←植物，元気は人間の気持だから」というような説明が多いが，中には，「辞書をひかせる，もっと小さければひいてみせる，自分の弟はそんな字を書かない，気という字をノート1ページ分書かせる」などの反応も散見され，それらは，解答以前のこた

	元	気（木）		
	両字別をいえたもの	誤	無反応	解答以前のこたえ
I校	86.0 81.8	2.3 2.3	11.6 15.9	
Y	90.0 92.3	0 0	10.0 0	7.7
S	73.2 82.9	2.4 0	12.2 17.1	12.2
K	87.8 92.7	0 0	0 2.4	12.2 4.9
M	95.3	0	4.7	
平均	86.9	0.8	8.2	4.1

えとしてまとめた。問題6だけで書字上の問題のすべてをつくすことはできなかったが，上の5問を通して，この段階での中学生の書く立場からみた文字構造上の知識の実状，その問題点などが示唆されているといえよう。

5. 読みにくい訓

8人の事例調査の結果，漢字の読みの問題点として，音訓反応のアンバランスがあることがあげられ，そのたしかめを，教育漢字・教育漢字外当用漢字の読みで，問題のある訓以外の他の音訓も含めた中で調べたが，さらに，すでに事例調査で問題となった訓のみを取りあげて，集団調査によって検証しようとしたのが，問題7である。

(1)　教育漢字から38字（40訓）

(2)　教育漢字外当用漢字から25字（25訓）

（音と異なり，訓では提出語形がおのずから固定しているが，中には名詞など，1文字だけ提示すると，音読みにされるものもあるので，それらは，提出語形を二つ出してどちらが答えやすいか，試みたものもある。）

結果は，369～371ページの表のように，

(1)　教育漢字

平均正答率	90%以上	述(のべ)る　等(ひと)しい　豊(ゆた)か　飯(めし)(握(にぎ)り)
〃	80%　〃	断(ことわ)る　失(うしな)う　銭(ぜに)(銭(いれ))
〃	70%　〃	和(やわ)らぐ　肥(こえ)る　除(のぞ)く　営(いとな)む　異(こと)なる　旅(たび)　路(じ)
〃	60%　〃	老(おい)る　省(はぶ)く　設(もうけ)る　断(た)つ　試(こころ)みる　器(うつわ)
〃	50%　〃	競(きそ)う　率(ひき)いる　退(しりぞ)く　逆(さか)らう　健(すこ)やか　快(こころよ)い　民(たみ)
〃	40%　〃	唱(とな)える　商(あきな)う　臨(のぞ)む　経(へ)る　尊(たっと)い　魚(うお)
〃	30%　〃	省(かえり)みる　欲(ほっ)する　授(さず)ける　(*尊(とうと)い)
〃	20%　〃	入(い)る　承(うけたまわ)る
〃	10%　〃	潔(いさぎよ)い
〃	10%以下	統(すべ)る　難(かた)い

（問題7）

読みにくい訓の平均正答率

学校	学級	人数 / 平均正答率	1 入 いる	2 和 やわらぐ	3 老 おいる	4 唱 となえる	5 商 あきなう	6 統 すべる	7 競 きそう	8 省 かえりみる	8 省 はぶく	9 設 もうける	10 承 うけたまわる	11 肥 こえる
I	A	43名	14.0	88.4	51.2	34.9	34.9	2.3	51.2	30.2	67.4	37.2	18.6	69.8
校	B	44	0	79.5	56.8	25.0	34.1	0	34.1	18.2	56.8	58.6	20.5	68.2
Y	A	40	17.5	72.5	70.0	50.0	25.0	2.5	82.5	25.0	42.5	52.5	12.5	55.0
校	B	39	5.1	79.5	89.7	76.9	41.0	17.9	61.5	46.2	56.4	92.3	15.4	74.4
S	A	39	10.3	61.5	35.9	23.1	25.6	0	33.3	20.5	71.8	48.7	10.3	53.8
校	B	39	23.1	64.1	35.9	17.9	7.7	0	35.9	20.5	66.7	53.8	12.8	51.3
K	A	41	39.0	87.8	100	80.5	97.6	12.2	80.5	75.6	95.1	100	78.0	100
校	B	41	58.5	85.4	95.1	85.4	85.4	9.8	82.9	68.3	97.6	100	61.0	97.6
M	校	43	18.6	86.0	72.1	48.8	60.5	27.9	65.1	48.8	60.5	69.8	20.9	81.4
平	均	369名	20.6	78.6	67.5	49.1	46.1	8.1	58.5	39.3	68.3	66.7	27.9	72.6

学校	学級	人数 / 平均正答率	12 欲 ほっする	13 授 さずける	14 断 たつ	14 断 ことわる	15 率 ひきいる	16 述 のべる	17 臨 のぞむ	18 除 のぞく	19 失 うしなう	20 試 こころみる	21 退 しりぞく	22 営 いとなむ
I	A	43名	37.2	25.6	48.8	76.7	37.2	93.0	34.9	62.8	83.7	60.5	41.9	69.8
校	B	44	25.0	18.2	52.3	86.4	31.8	97.7	34.1	75.0	95.5	56.8	40.9	70.5
Y	A	40	32.5	40.0	50.0	87.5	72.5	87.5	25.0	77.5	80.0	90.0	77.5	67.5
校	B	39	41.0	53.8	71.8	92.3	87.2	89.7	30.8	84.6	84.6	92.3	97.4	71.8
S	A	39	7.7	0	28.2	87.2	28.2	82.1	30.8	56.4	74.4	12.8	15.4	74.4
校	B	39	2.6	2.6	25.6	84.6	33.3	82.1	43.6	46.2	69.2	20.5	20.5	61.5
K	A	41	78.0	65.9	95.1	97.6	90.2	97.6	85.4	85.4	95.1	100	95.1	95.1
校	B	41	68.3	56.1	100	100	78.0	97.6	61.0	82.9	90.2	100	92.7	92.7
M	校	43	62.8	20.9	67.4	81.4	46.5	93.0	30.2	76.7	88.4	83.7	51.2	79.1
平	均	369名	39.8	31.4	60.2	88.1	55.8	91.3	41.7	72.1	84.8	68.8	59.1	75.9

学校	学級	人数	平均正答率	23 経 へる	24 異 ことなる	25 逆 さからう	26 健 すこやか	27 難 かたい	28 潔 いさぎよい	29 等 ひとしい	30 豊 ゆたか	31 尊 たっとい	31 尊 (とうとい)	32 快 こころよい	33 魚 うお	33 魚 (さかな)
I	A	43名		23.3	72.1	44.2	58.1	2.3	4.7	88.4	97.7	30.2	30.2	55.8	20.9	76.8
校	B	44		18.2	65.9	40.9	40.9	0	6.8	97.7	97.7	50.0	31.8	54.5	40.9	56.8
Y	A	40		55.0	80.0	42.5	52.5	0	2.5	97.5	97.5	47.5	32.5	60.0	55.0	45.0
校	B	39		53.8	79.5	61.5	66.7	0	0	100	97.4	20.5	61.5	66.7	53.8	43.6
S	A	39		12.8	56.4	25.6	17.9	2.6	0	92.3	92.3	5.1	53.8	30.8	20.5	69.2
校	B	39		30.8	64.1	23.1	30.8	2.6	2.6	89.7	89.7	20.5	35.9	28.2	17.9	79.5
K	A	41		73.2	100	95.1	97.6	19.5	39.0	100	97.6	70.7	26.8	82.9	75.6	22.0
校	B	41		82.9	97.6	92.7	85.4	4.9	24.4	97.6	97.6	78.0	17.1	90.2	82.9	12.2
M	校	43		44.2	74.4	53.5	72.1	2.3	18.6	90.7	95.3	51.2	39.5	58.1	53.5	41.9
平	均	369名		43.6	76.7	53.4	58.3	3.8	11.1	94.9	95.9	42.0	36.3	58.8	46.9	49.6

学校	学級	人数	平均正答率	34 器 うつわ	34 器 りっぱなうつわ	34 器 (キ)	35 路 (旅)じ	36 飯 めしを食う	36 飯 にぎりめし	37 銭 ぜに入れ	37 銭 こぜに	38 民 たみ	平均
I	A	43名		53.5	60.5	37.2	69.8	86.0	93.0	76.7	74.4	55.8	48.7
校	B	44		50.0	61.4	40.9	68.2	86.4	100	93.2	84.1	36.4	48.0
Y	A	40		37.5	52.5	55.0	90.0	90.0	95.0	72.5	77.5	60.0	53.7
校	B	39		43.6	59.0	51.0	94.9	94.9	92.3	97.4	84.6	59.0	60.4
S	A	39		48.7	56.4	41.0	59.0	69.2	89.7	66.7	61.5	25.6	37.5
校	B	39		61.5	66.7	20.5	53.8	79.5	87.2	76.9	61.5	23.1	39.0
K	A	41		80.5	97.6	19.5	97.6	97.6	100	100	95.1	100	79.3
校	B	41		80.5	97.6	19.5	95.1	97.6	100	97.6	87.8	97.6	76.8
M	校	43		55.8	74.4	39.5	83.7	93.0	97.7	86.0	79.1	72.1	58.7
平	均	369名		56.9	69.6	36.0	79.1	88.3	95.1	85.4	78.6	59.1	55.9

（問題7）

読みにくい訓の平均正答率

学校	学級	人数	平均正答率	1 怒 いかる	1 怒 (おこる)	2 充 あてる	3 触 ふれる	4 描 えがく	5 捕 とらえる	6 汚 けがす	6 汚 (よごす)	7 巡 めぐる	7 巡 (まわる)	8 憤 いきどおる	9 訪 おとずれる	10 欺 あざむく	11 掲 かかげる	12 携 たずさえる
I	A	43名		53.5	20.9	2.3	65.1	72.1	48.8	7.0	60.5	4.7	55.8	0	65.1	0	53.5	0
校	B	44		65.9	20.5	2.3	75.0	68.2	36.4	6.8	59.1	0	61.4	0	65.9	2.3	47.7	2.3
Y	A	40		60.0	27.5	0	62.5	80.0	57.5	2.5	50.0	0	57.5	0	70.0	40.0	50.0	10.0
校	B	39		76.9	20.5	0	76.9	89.7	71.8	2.6	69.2	5.1	76.9	0	79.5	41.0	64.1	15.4
S	A	39		23.1	46.2	0	38.5	64.1	15.4	2.6	56.4	0	56.4	0	59.0	0	69.2	0
校	B	39		35.9	35.9	0	25.6	53.8	20.5	2.6	56.4	0	56.4	0	33.3	0	53.8	0
K	A	41		63.4	34.1	9.8	100	87.8	95.1	4.9	90.2	12.2	90.2	19.5	95.1	24.4	78.0	19.5
校	B	41		56.1	41.5	0	95.1	85.4	87.8	7.3	85.4	4.9	85.4	22.0	90.2	22.0	70.7	17.1
M	校	43		53.5	30.2	0	76.7	81.4	67.4	2.3	58.2	4.7	81.4	2.3	65.1	0	55.8	0
平	均	369名		54.5	30.6	1.6	68.8	75.9	55.8	4.3	65.0	3.5	65.0	4.9	69.4	14.1	60.2	7.0

学校	学級	人数	平均正答率	13 刻 きざむ	14 探 さぐる	15 忙 いそがしい	16 戯 たわむれる	17 企 くわだてる	18 催 もよおす	19 施 ほどこす	20 危 あやうい	21 侮 あなどる	22 募 つのる	23 炎 ほのお	24 仰 おおせ	25 更 さらに	平均
I	A	43名		74.4	51.2	32.6	34.9	7.0	41.9	7.0	72.1	0	2.3	93.0	20.9	23.3	33.3
校	B	44		77.3	65.9	34.1	38.6	9.1	31.8	2.3	84.1	0	2.3	93.2	11.4	20.5	33.7
Y	A	40		92.5	55.0	70.0	7.5	32.5	22.5	5.0	75.0	0	0	87.5	15.0	27.5	36.9
校	B	39		100	74.4	76.9	5.1	56.4	41.0	5.1	82.1	10.3	7.7	97.4	15.4	41.0	45.4
S	A	39		69.2	43.6	33.3	17.9	0	35.9	7.7	59.0	0	0	92.3	0	2.6	25.3
校	B	39		59.0	41.0	35.9	12.8	0	28.2	2.6	46.2	0	0	89.7	0	10.3	22.1
K	A	41		87.8	92.7	82.9	56.1	75.6	87.8	63.4	95.1	12.2	39.0	100	26.8	73.2	60.1
校	B	41		85.4	92.7	82.9	36.6	53.7	82.9	39.0	92.7	12.2	41.5	92.7	54.1	70.7	55.0
M	校	43		81.4	60.5	53.5	7.0	25.6	23.3	9.3	88.4	2.3	25.6	93.0	11.6	30.2	36.8
平	均	369名		80.8	64.2	55.6	24.4	28.7	43.9	15.7	77.5	4.1	13.3	93.2	15.2	33.3	38.8

(2)　教育漢字外当用漢字

平均正答率	90%以上	炎(ほのお)
〃	80% 〃	刻(きざむ)
〃	70% 〃	描(えが)　危(あやうい)
〃	60% 〃	触(ふれる)　訪(おとずれる)　掲(かかげる)　探(さぐる)
〃	50% 〃	怒(いかる)　捕(とらえる)　忙(いそがしい)
〃	40% 〃	催(もよおす)
〃	30% 〃	更(さらに)
〃	20% 〃	戯(たわむれる)　企(くわだてる)
〃	10% 〃	欺(あざむく)　施(ほどこす)　募(つのる)　仰(おお)
〃	10%以下	充(あてる)　汚(けがす)　巡(めぐる)　憤(いきどおる)　携(たずさえる)　侮(あなどる)

(1)の教育漢字，(2)の教育漢字外当用漢字とも，個々の字の正答率については事例調査と多少の出入はあるが，傾向的には同じであることがわかる。訓の不振は，前章でみたように，これらの訓が音に比べてはあまり行なわれていない，訓によっては未学習のものもあること，ことに，

(イ)　その文字を含む漢語の方が，現在では一般に多用されていて，話しことばなどでもあまり使用されていないもの，文章語的なもの，例―統(すべ)る（統一・統合・統治）　経(へ)る（経由・経過）　授(さず)ける（授業・授与・授賞）　欲(ほっ)する（欲求）省(かえり)る（反省・内省・自省）　民(たみ)（国民・民衆・民主主義）　募(つの)る（募集）　憤(いきどお)る（憤慨）　施(ほどこ)す（実施・施工）　催(もよお)す（開催）　訪(おとず)れる（訪問）

(ロ)　従来，俗訓，別訓などが行なわれていて，現在でも，それが一部では残存，行なわれているもの。例―入(い)る（はいる）　難(かた)い（むずかしい）　魚(うお)（さかな）　怒(いか)る（おこる）　潔(いさぎ)よい（きよい）　汚(けが)す（よごす）　巡(めぐ)る（まわる）　憤(いきどお)る（おこる・いかる）

の二つが，主たる要因をなしていると思われるが，集団調査の結果でも，そうした現状の反映がみられた。

たとえば，「入る」も，現在の話しことばでは，「はいる」が行なわれており，それを文字化した場合「入」の字をあてている掲示や看板等が随所に見受けら

れるが，調査の結果でも，それが反映されている。

「魚」の「うお」と「さかな」は，地域によって，「さかな」と称することが多く(関東方面)，他の訓で好成績を示した附属中学でも「さかな」の反応が多い。これなどは地域差を示すものといえる。

また,「尊」の訓は，現行では「たっとい」が認められているが，「たっとい」と読めるものは40%程度で，ふつう行なわれている「とうとい」を入れなければ，70%台にはならないというのが現状である。

なお，「欲する」「難い」など，昔は，漢文学習で早く習得する読みであるが現在ではあまり行なわれていないために，「ヨクする」「むずかしい」などの読みが多くみられた。

最後に，これは問題提出の仕方，語形に関することであるが，「飯(めし)」について「飯を食う」「にぎり飯」,「銭(ぜに)」について「小銭」「銭入れ」のように両様の形で試みたところ，結果に差が出ており，現代中学生の語としての親近度の違いを示すものとして興味がある。

6. 読みにくい音

訓不振のものがある反面に，音が読めない，音のうちでも，特にある音が読めないという現象のあることも事例調査で見られたが，ことに，最期のゴ，緑青のロクショウ，功徳のク，成就のジョウジュなど，呉音系統の音による特殊の読みや，漢音でも，体(テイ)，拾得(シュウトク)，重宝(チョウホウ)，境(ケイ)など読めないものが多い。また，「読」の字など，「ドク」はよく読めるが，「トク」とは読めない，「読本ドクホン」という反応の方が多いという結果もみられたので，事例調査での教育漢字，教育漢字外当用漢字における音読みで，特に問題のあるものを主として選び（中に，特に難音のものでないが，事例調査で成績不振のものもいつくか入れてある），その読みの力，反応のしかたをみたのが，問題9である。

教育漢字から33字，教育漢字外当用漢字から20字を選んだ。

（問題9）　　読みにくい音　平均正答率

学校	学級	人数	平均正答率	1 外	科	2 天	然	3 雑		4 読	本	5 作	法	作	業	6 出	納
				ゲ	カ	テン	ネン	ゾウ木	ゾウ巾	トク	ホン	サ	ホウ	サ	ギョウ	スイ	トウ
I	A	43名		65.1	97.7	100	90.7	53.5	58.1	25.6	93.0	86.0	97.7	95.3	95.3	25.6	32.6
校	B	44		63.6	97.7	100	97.7	56.8	56.8	20.5	90.9	86.4	95.5	97.7	97.7	11.4	13.6
Y	A	40		67.5	95.0	97.5	90.0	65.0	60.0	27.5	95.0	80.0	95.0	95.0	97.5	10.0	15.0
校	B	39		84.6	97.4	100	97.4	82.1	76.9	12.8	100	92.3	100	92.3	97.4	20.5	30.8
S	A	39		38.5	94.9	97.4	71.8	33.3	38.5	17.9	92.3	71.8	94.9	92.3	92.3	7.7	12.8
校	B	39		33.3	89.7	92.3	76.9	33.3	41.0	20.5	87.2	69.2	79.5	87.2	94.9	5.1	10.3
K	A	41		95.1	100	100	97.6	92.7	95.1	17.1	95.1	95.1	97.6	100	100	61.0	63.4
校	B	41		82.9	100	100	100	95.1	87.8	36.6	100	97.6	100	100	100	61.0	70.7
M	校	43		58.1	100	97.7	93.0	83.7	74.4	0	95.3	76.7	93.0	95.3	97.7	20.9	34.9
平	均	369名		65.6	97.0	98.4	90.8	66.4	65.6	19.8	94.3	84.0	94.9	95.1	97.0	24.9	31.7

学校	学級	人数	平均正答率	7 体	裁	8 重	複		9 顔	面	10 最	期	11 大	望		12 罪	業
				テイ	サイ	チョウ	ジュウ	フク	ガン	メン	サイ	ゴ	タイ	モウ	ボウ	ザイ	ゴウ
I	A	43名		55.8	72.1	2.3	76.7	69.8	51.2	93.0	93.0	25.6	83.7	9.3	79.1	55.8	0
校	B	44		29.5	70.5	2.3	79.5	86.4	61.4	84.1	90.9	15.9	81.8	6.8	86.4	56.8	6.8
Y	A	40		35.0	77.5	7.5	77.5	82.5	65.0	82.5	95.0	15.0	80.0	5.0	87.5	70.0	0
校	B	39		38.5	74.4	0	97.4	94.9	64.1	71.8	92.3	28.2	87.2	15.4	79.5	82.1	5.1
S	A	39		56.4	69.2	0	79.5	87.2	64.1	89.7	94.9	2.6	84.6	0	92.3	64.1	5.1
校	B	39		51.3	59.0	0	76.9	76.9	59.0	94.9	82.1	7.7	69.2	0	87.2	51.3	5.1
K	A	41		75.6	97.6	14.6	82.9	97.6	100	97.6	100	53.7	100	9.8	90.2	90.2	31.7
校	B	41		70.7	85.4	53.7	46.3	97.6	95.1	97.6	97.6	61.0	97.6	17.1	82.9	87.8	22.0
M	校	43		23.3	69.8	16.3	69.8	90.7	72.1	88.4	93.0	55.8	86.0	0	93.0	74.4	11.6
平	均	369名		48.2	75.1	10.8	76.2	87.0	70.2	88.9	93.2	29.8	85.6	7.0	86.4	70.2	9.8

学校	学級	人数	平均正答率	13 緑	13 青	14 捨	14 得	15 付	15 録	16 静	16 脈	17 焼	17 失	18 貸	18 借	19 功	19 徳
				ロク	ショウ	シュウ	トク	フ	ロク	ジョウ	ミャク	ショウ	シツ	タイ	シャク	ク	ドク
I	A	43名		7.0	7.0	20.9	65.1	81.4	86.0	83.7	90.7	65.1	67.4	4.7	18.6	20.9	30.2
校	B	44		2.3	4.5	25.0	70.5	88.6	93.2	90.9	95.5	59.1	63.6	2.3	25.0	4.5	6.8
Y	A	40		17.5	12.5	37.5	70.0	92.5	92.5	82.5	92.5	70.0	72.5	2.5	42.5	0	0
校	B	39		2.6	0	46.2	76.9	97.4	92.3	97.4	97.4	76.9	87.2	0	53.8	2.6	5.1
S	A	39		5.1	2.6	30.8	69.2	74.4	79.5	74.4	89.7	28.3	33.3	0	7.7	5.1	7.7
校	B	39		5.1	2.6	17.9	56.4	87.2	82.1	61.5	74.4	43.6	41.0	0	5.1	5.1	5.1
K	A	41		31.7	34.1	85.4	100	97.6	100	97.6	97.6	92.7	95.1	31.7	75.6	24.4	17.1
校	B	41		39.0	46.3	87.8	100	100	100	100	97.6	95.1	97.6	34.1	53.7	12.2	9.8
M	校	43		14.0	20.9	69.8	76.7	90.7	90.7	88.4	97.7	81.4	81.4	23.3	44.2	44.2	41.9
平	均	369名		13.8	14.6	46.9	76.2	90.0	90.8	86.4	92.7	68.3	71.3	11.1	36.3	13.6	14.1

学校	学級	人数	平均正答率	20 遊	20 説	21 留	21 守	22 類	22 似	23 貧	23 乏	24 大	24 漁	25 公	25 布	布	告
				ユウ	ゼイ	ル	ス	ルイ	ジ	ビン	ボウ	タイ	リョウ	コウ	フ	フ	コク
I	A	43名		76.7	9.3	60.5	60.5	88.4	67.4	74.4	72.1	83.7	48.8	83.7	76.7	81.4	81.4
校	B	44		68.2	6.8	54.5	54.5	84.1	59.1	81.8	79.5	88.6	59.1	86.4	77.3	63.6	75.0
Y	A	40		85.0	2.5	55.0	55.0	85.0	75.0	80.0	80.0	82.5	52.5	92.5	90.0	90.0	87.5
校	B	39		94.9	12.8	79.5	79.5	97.4	84.6	84.6	87.2	89.7	66.7	94.9	82.1	89.7	97.4
S	A	39		74.4	0	53.8	51.3	79.5	76.9	64.1	64.1	87.2	53.8	79.5	71.8	59.0	61.5
校	B	39		64.1	0	64.1	64.1	79.5	69.2	61.5	61.5	69.2	43.6	79.5	69.2	59.0	61.5
K	A	41		100	36.6	87.8	90.2	97.6	90.2	95.1	97.6	97.6	92.7	100	100	97.6	100
校	B	41		97.6	29.3	90.2	92.7	97.6	97.6	97.6	97.6	100	95.1	97.6	97.6	100	100
M	校	43		90.7	16.3	81.4	81.4	90.7	76.7	86.0	86.0	88.4	60.5	93.0	90.7	90.7	86.0
平	均	369名		83.5	12.7	69.6	69.9	88.9	77.2	80.8	80.8	87.5	63.7	89.7	84.0	81.3	83.5

（問題9）

読みにくい音　平均正答率

学校	学級	人数	26 荘 ソウ	厳 ゴン	27 暴 バク	露 ロ	28 成 ジョウ	就 ジュ	29 境 ケイ	内 ダイ	30 自 ジ	我 ガ
I	A	43名	81.4	20.9	16.3	69.8	32.6	34.9	62.8	53.5	69.8	44.2
校	B	44	70.5	20.5	4.5	54.5	20.5	18.2	63.6	54.5	79.5	50.0
Y	A	40	72.5	52.5	12.5	75.0	2.5	5.0	72.5	75.0	75.0	57.5
校	B	39	94.9	64.1	20.5	82.1	2.6	7.7	84.6	76.9	92.3	76.9
S	A	39	56.4	0	7.7	43.6	0	0	28.2	17.9	66.7	30.8
校	B	39	64.1	0	10.3	38.5	0	0	38.5	23.1	61.5	33.3
K	A	41	90.2	68.3	53.7	97.6	51.2	56.1	97.6	92.7	100	100
校	B	41	90.2	65.9	53.7	100	61.0	53.7	95.1	95.1	100	97.6
M	校	43	74.4	16.3	51.2	81.4	74.4	69.8	67.4	55.8	86.0	76.7
平	均	369名	77.2	34.1	25.7	71.5	27.9	27.9	68.0	60.7	81.3	63.1

学校	学級	人数	31 解 ゲ	毒 ドク	32 仮 ケ	病 ビョウ	33 極 ゴク	楽 ラク	平均
I	A	43名	11.6	76.7	76.7	93.0	44.2	79.1	58.7
校	B	44	6.8	88.6	70.5	90.9	34.1	84.1	56.6
Y	A	40	12.5	92.5	85.0	95.0	77.5	92.5	60.8
校	B	39	23.1	94.9	89.7	100	71.8	92.3	67.0
S	A	39	2.6	87.2	59.0	84.6	10.3	74.4	49.0
校	B	39	0	84.6	74.4	87.2	12.8	61.5	47.1
K	A	41	51.2	100	100	100	82.9	97.6	81.1
校	B	41	58.5	100	97.6	100	87.7	97.6	81.9
M	校	43	34.9	95.3	76.7	90.7	67.4	90.7	68.5
平	均	369名	22.5	91.1	81.0	93.5	54.5	85.6	63.5

（問題9）　読みにくい音　平均正答率

学校	学級	人数	1 柔 ニュウ	和 ワ	2 姓 セイ	名 メイ	百 ヒャク	姓 ショウ	3 拍 ヒョウ	子 シ	拍 ハク	手 シュ	4 甲 カン	板 バン	5 水 スイ	郷 ゴウ
I	A	43名	37.2	67.4	74.4	86.0	95.3	95.3	55.8	90.7	95.3	93.0	67.4	60.5	83.7	69.8
校	B	44	27.3	61.4	65.9	81.8	97.7	93.2	54.5	75.0	88.6	90.9	70.5	63.6	79.5	77.3
Y	A	40	12.5	72.5	85.0	92.5	97.5	100	67.5	90.0	92.5	87.5	35.0	32.5	95.0	85.0
校	B	39	15.4	64.1	84.6	92.3	94.9	97.4	82.1	97.4	94.9	89.7	51.3	43.6	87.2	76.9
S	A	39	12.8	53.8	64.1	87.2	87.2	89.7	20.5	79.5	79.5	66.7	56.4	41.0	92.3	79.5
校	B	39	7.7	53.8	61.5	74.4	84.6	84.6	38.5	76.9	74.4	74.4	56.4	43.6	84.6	61.5
K	A	41	24.4	92.7	97.6	97.6	100	100	87.8	95.1	97.6	97.6	80.5	73.2	97.6	100
校	B	41	26.8	97.6	97.6	97.6	100	100	87.8	100	95.1	95.1	80.5	73.2	95.1	95.1
M	校	43	25.6	76.7	83.7	93.0	100	95.3	69.8	97.7	95.3	93.0	60.5	53.5	90.7	83.7
平	均	369名	21.4	71.3	79.4	89.2	95.4	95.1	62.9	89.2	90.5	87.8	62.3	54.2	89.4	81.0

学校	学級	人数	6 真 シン	紅 ク	7 御 ゴ	殿 テン	8 彼 ヒ	岸 ガン	9 若 ジャク	干 カン	若 ジャク	輩 ハイ	10 開 カイ	催 サイ	11 衣 イ	装 ショウ
I	A	43名	46.5	25.6	88.4	79.1	37.2	44.2	16.3	25.6	9.3	41.9	65.1	48.8	83.7	60.5
校	B	44	18.2	9.1	68.2	68.2	29.5	40.9	15.9	20.5	11.4	38.6	65.9	47.7	86.4	65.9
Y	A	40	35.0	10.0	70.0	55.0	55.0	57.5	25.0	25.0	10.0	57.5	75.0	67.5	87.5	72.5
校	B	39	41.0	23.1	82.1	76.9	71.8	82.1	30.8	28.5	12.8	61.5	82.1	71.8	94.9	87.2
S	A	39	56.4	15.4	69.2	48.7	15.4	48.7	7.7	12.8	7.7	30.8	69.2	53.8	89.7	59.0
校	B	39	25.6	10.3	61.5	46.2	17.9	33.3	7.7	12.8	12.8	46.2	53.8	43.6	82.1	61.5
K	A	41	85.4	73.2	95.1	92.7	95.1	97.6	61.0	68.3	46.3	80.5	95.1	90.2	97.6	97.6
校	B	41	68.3	53.7	97.6	97.6	80.5	90.2	58.5	65.9	36.6	80.5	97.6	85.4	100	90.2
M	校	43	53.5	27.9	88.4	81.4	39.5	46.5	20.9	30.2	16.3	44.2	76.7	62.8	88.4	58.1
平	均	369名	47.7	27.6	80.2	72.1	49.1	59.9	27.1	33.3	18.2	53.4	75.6	63.4	90.0	72.4

学校	学級	人数 / 平均正答率	装 ソウ	飾 ショク	12 交 コウ	替 タイ	13 野 ヤ	獣 ジュウ	14 慰 イ	問 モン	15 霜 ソウ	葉 ヨウ	霜 ソウ	害 ガイ
I	A	43名	69.8	62.8	79.1	41.9	95.3	93.0	46.5	65.1	51.2	53.5	41.9	69.8
校	B	44	65.9	56.8	90.9	20.5	100	100	47.7	63.6	47.7	59.1	40.9	65.9
Y	A	40	82.5	75.0	87.5	5.0	100	100	52.5	72.5	12.5	17.5	17.5	60.0
校	B	39	76.9	82.1	94.9	20.5	100	100	59.0	82.1	20.5	23.1	20.5	59.0
S	A	39	43.6	48.7	89.7	53.8	92.3	87.2	17.9	46.2	23.1	20.5	23.1	43.6
校	B	39	64.1	53.8	82.1	41.0	87.2	79.5	17.9	35.9	28.2	25.6	23.1	46.2
K	A	41	92.7	92.7	100	53.7	100	100	97.6	100	34.1	43.9	53.7	75.6
校	B	41	100	100	100	41.5	100	100	90.2	100	43.9	53.7	51.2	78.0
M	校	43	83.7	74.4	86.0	23.3	97.7	90.7	46.5	76.7	11.6	23.3	11.6	41.9
平	均	369名	75.6	71.8	90.0	33.3	97.0	94.6	53.1	71.5	30.6	36.0	31.7	60.2

学校	学級	人数 / 平均正答率	16 譲 ジョウ	渡 ト	17 絶 ゼッ	叫 キョウ	18 封 ホウ	建 ケン	的 テキ	19 執 シュウ	着 チャク	20 献 コン	立 ダテ	平均
I	A	43名	41.9	25.6	67.4	30.2	79.1	88.4	93.0	9.3	58.1	60.5	60.5	61.3
校	B	44	38.6	18.2	54.5	29.5	79.5	95.5	95.5	2.3	27.3	68.2	68.2	57.8
Y	A	40	45.0	17.5	67.5	37.5	57.5	85.0	92.5	10.0	42.5	55.0	52.5	58.7
校	B	39	69.2	28.2	71.8	48.7	79.5	94.9	94.9	20.5	66.7	61.5	61.5	66.0
S	A	39	51.3	17.9	79.5	48.7	82.1	87.2	89.7	7.7	35.9	64.1	64.1	53.2
校	B	39	35.9	12.8	64.1	53.8	61.5	87.2	87.2	0	35.9	59.0	59.0	49.7
K	A	41	82.9	68.3	95.1	70.7	100	100	100	53.7	97.6	78.0	73.2	83.9
校	B	41	75.6	61.0	92.7	51.2	100	100	95.1	61.0	90.2	80.5	73.2	82.0
M	校	43	46.5	20.9	76.7	51.2	90.7	90.7	93.0	9.3	53.5	53.5	48.8	61.9
平	均	369名	53.9	30.1	74.3	46.6	81.3	92.1	93.5	19.2	56.4	64.5	62.3	63.9

結果から，やはり呉音系のものや，漢音でも一般的でないものなどは読みにくく，傾向的には共通性がみられた。

教育漢字

8人調査で，2年の前期までにはよく読めなかった然ネン作サ 付フ 乏ボウ布フ 仮ケ などは，このテストが2年後期であり，提出語形を修正したものもあり，また，優秀校が加わっているせいか，よく読めてい，静ジョなども86.4%読めるようになっているが，出*納ナトウ(慣用音) 期ゴ 業ゴウ 緑青ロクショウ 功ク 成就ジョウジュ 解ゲ 厳ゴンなど呉音系統の難音のものはシュツ　ノウ　キ　ギョウ　リョク　セイ　コウ　セイ　シュウ　カイ　ゲンと一般に使用度の多い漢音の読み方にひかれて，正答率が低くなっている。また，誤った音で読んでみると，なじまない，落ちつかないから，無答も相当にある。成就・荘厳など正答0の学校もある（学習の如何を示しているのか，学校によっては，正答優位のところも見受けられる)。反対に比較的読みやすい漢音系統のものでも，その読みが呉音の方が一般的に使われてい，中学生になじみのうすい読トクなどは，呉音のドクのほうで読んでいるという現象が集団調査でもみられた。「読本」は「ドクホン」と読むのが圧倒的に多く，まれに「ヨミホン」があり，「トク」の反応0の学校もあるほどで「〇〇読本」という複合形で専ら使用されている現状を反映している。「読書」を「トクショ」と読む明治時代の人もいるが，現在では「ドクショ」が一般であるように，中には時代による使用音の交替を示すものもある。重複ではチョウの反応を示すものは10%程度であるのに対して「ジュウ」は70%もあり，「大望」も「モウ」は10%以下であるが，「ボウ」は86%という数字を示している。

また，「遊説」のゼイ，「暴露」のバクなど，特定の語として定着している慣用音も，語として親近性が乏しいためか，「セツ」「ボウ」と他の音で読んで，非常にできがわるい。

なお，このように，現行の定着音で読めないもののほかに，「貸借」のように「かしかり」と訓読みの形が多用されているものは，「タイ」と読む場合が少ないせいか，訓読みに比べて音で読む力が乏しい傾向のものがある。頑ガン焼ショウ我ガ 似ジ などもその傾向の文字であるが，この調査では，かなりの成績をお

(一)　正誤反応の比較

反応学校	最期		罪業		緑		青			功徳		成			就
	キ	ゴ	ギョウ	ゴウ	リョク	ロク	セイ	ショウ	みどり あお	コウ	ク	セイ	ジョウ	シュウ	ジュ
I	67.4	25.6	79.1	0	27.9	7.0	27.9	7.0	37.2	55.8	20.9	42.0	32.6	4.7	34.9
	79.5	15.9	72.7	6.8	20.5	2.3	20.5	4.5	45.5	63.6	4.5	70.0	20.5	6.8	18.2
Y	82.5	15.0	80.0	0	25.0	17.5	25.0	12.5	22.5	85.0	0	82.5	2.5	27.5	5.0
	71.8	28.2	84.6	5.1	33.3	2.6	33.3	0	53.8	87.2	2.6	71.8	2.6	41.0	7.7
S	84.6	2.6	82.0	5.1	10.3	5.1	10.3	2.6	28.2	66.7	5.1	89.8	0	20.5	0
	74.4	7.7	66.7	5.1	15.4	5.1	15.4	2.6	41.0	59.0	5.1	79.4	0	25.6	0
K	46.3	53.7	58.5	31.7	53.7	31.7	53.7	34.1	4.9	73.2	24.4	48.8	51.2	17.1	56.1
	36.6	61.0	68.3	22.0	36.6	39.0	36.6	46.3	4.9	82.9	12.2	39.0	61.0	9.8	53.7
M	39.5	55.8	83.7	11.6	32.6	14.0	32.6	20.9	20.9	44.2	44.2	25.6	74.4	2.3	69.8
平均	64.5	29.8	75.1	9.8	28.5	13.8	28.5	14.6	28.7	68.3	13.6	65.5	27.9	16.8	27.9

反応学校		解毒		荘厳		読本		体裁		遊説		暴露		貸借	
	ジュク ショク	カイ	ゲ	ゲン	ゴン	ドク	トク	タイ	テイ	セツ	ゼイ	ボウ	バク	かし (かり)	タイ (シャク)
I	9.4	58.1	11.6	41.9	20.9	62.8	25.6	25.6	55.8	44.2	9.3	60.5	16.3	23.3	4.7
	22.9	75.0	6.8	43.2	20.5	72.9	20.5	63.6	29.5	54.5	1.8	68.2	4.5	40.9	2.3
Y	15.0	77.5	12.5	20.0	52.5	60.0	27.5	45.0	35.0	62.5	2.5	65.0	12.5	30.0	2.5
	12.8	71.8	23.1	20.5	64.1	84.6	12.8	59.0	38.5	61.5	12.8	66.7	20.5	17.9	0
S	46.6	84.6	2.6	46.2	0	71.8	17.9	30.8	56.4	66.7	0	48.7	7.7	41.0	0
	23.0	84.6	0	41.0	0	59.0	20.5	38.5	51.3	53.8	0	51.3	10.3	41.0	0
K	7.3	48.8	51.2	24.4	68.3	78.0	17.1	24.4	75.6	34.1	36.6	46.3	53.7	14.6	31.7
	17.0	39.0	58.5	26.8	65.9	63.4	36.6	26.8	70.7	39.0	29.3	46.3	53.7	26.8	34.1
M	4.6	58.1	34.9	48.8	16.3	95.3	0	58.1	23.3	37.2	16.3	34.9	51.2	25.6	23.3
平均	17.3	66.1	22.5	35.0	34.1	72.1	19.8	41.5	48.2	50.1	12.7	54.2	25.7	29.0	11.1

さめていた。

教育漢字外当用漢字

教育漢字外当用漢字は学習中であり，使用教科書によって提出状況も異なるので，8人の調査で不振だった音の中から，一般的な問題になりそうなものを選んだのであるが，問題に呉音系のものなど，特殊音が少なかったせいか（当用漢字表による特殊音・訓の数も教育漢字に比べると少ない）かなりの好成績を収めている。

姓の「ショウ」,拍の「ハク」,「郷」のゴウ,封の「ホウ」などは80%を上回る成績（95.4・90.5・81.0・81.3）であるが，これらは，一つには，それらの読みをもつ語が，生徒たちには，親しい語として定着しているからであろう。同じ文字「姓」の「セイ」，「拍」の「ヒョウ」などは，79.4%，62.9%と，低くなっている。「姓」など最近では「姓名」ということばの使用はよほど改まった場合にのみ表記使用されていて，多くは名前・名まえで代用されている現状の反映であろう。このようにことば・用語（もんだいの提出語形）との関係から音読みの親疎が規定されることが多い。たとえば，次の

よく読めた　水郷スイゴウ，野獣ヤジュウ

あまり読めなかった　慰問イモン，譲渡ジョウト

など，前者は観光ポスター，動物関係書などで目にしやすいために親しく，後者は，現代の中学生にとってはあるいは慰安，分譲のような語形で提出すれば正答率は上回ったものと思われる。同じ文字，同じ音でも時代に多用される語によって親疎の別が生じることが，8人の事例調査では，個々の反応の仕方（1対1方式なのでよくわかる），集団調査では集計の結果によって，たしかめられたように思われる。

「柔」の「ニュウ」（呉音），「紅」の「ク」（慣用音），「執」のシツ（慣用音）などは，「ジュウ」（漢音），「コウ」（漢音），「シュウ」（漢音）と，他の親しい音の方に置きかえて読むことが多い。これらの正答率は，それぞれ21.4%，27.6%，19.2%と低く，多く親しい他の音にかえて読まれている。

若ジャク替タイ霜ソウなどは音そのものの読みが不振の一群である。これらは訓のか

正誤反応 / 学校	柔和		真紅			執着		霜葉霜害			
	ジュウ	ニュウ	コウ	まっかべに	ク	シツ	シュウ	しも	ソウ	しも	ソウ
I	11.6	37.2	14.0	32.6	25.6	27.9	9.3	4.7	51.2	9.3	41.9
	27.3	27.3	15.9	47.7	9.1	18.2	2.3	6.8	47.7	9.1	40.9
Y	35.0	12.5	17.5	38.0	10.0	15.0	10.0	27.5	12.5	32.5	17.5
	35.9	15.4	12.8	43.6	23.1	23.1	20.5	28.2	20.5	35.9	20.5
S	33.3	12.8	28.2	30.8	15.4	15.4	7.7	12.8	23.1	7.7	23.1
	43.6	7.7	10.3	43.6	10.3	12.8	0	15.4	28.2	5.1	23.1
K	51.2	24.4	12.2	12.2	73.2	29.3	53.7	34.1	34.1	9.8	53.7
	58.5	26.8	14.6	29.3	53.7	29.3	61.0	26.8	43.9	14.6	51.2
M	39.5	25.6	25.6	25.6	27.9	23.3	9.3	27.9	11.6	16.2	11.6
平均	37.1	21.4	16.8	35.2	27.6	21.7	19.2	20.3	30.6	15.4	31.7

たちで多用されるために，生徒に親近感のある使用語が乏しい。「若干・若輩」ともに生徒にはなじみが少なく，無答反応が多く，まれに「わかぼし」「わがはい」などの誤答が目につく程度であり，交替→コウカン・コウサンの誤答のほか無答が多く，霜葉・霜害も無答，ロ，きり・つゆなどの反応がみられた。ただこの場合，学校によっては2年生の国語で「霜葉は二月の花よりも紅なり」という漢詩を学習している向きもあり，8人調査で「ソウ」が「しも」より読めなかったことが，修正されている。

8人および中学生の集団調査によって，結果としては同じ音不振現象を呈するものでも，その中に，他の親しい音に読み誤るための不振と，訓に比べて音そのものが読めないための不振とが，文字とその文字を含む語によって傾向的に在るということが認められる。

こうした現象を知って，文字学習の際に，重点的に指導助言することが習得をたしかにする上で必要と思われる。

7. 漢語とその構成文字の読みと語義の関係

漢字には，1字1義で単独に1文字だけで使用される場合もあるが，2字以上で構成される漢語として使用される場合も多い。

上来見て来たように，音では読めても訓では読めないという現象がある。字義を知る手がかりになる訓がもし読めない，わからない場合，それらの文字によって構成される漢語の意味がどの程度わかるのか，語として音で読み，訓で字義を知り，さらに構成された漢語の意味を把握する——中学生におけるこの三つの作用の関係をみようとしたのが問題10である。

音に比べて訓読みが不振であった字（語）及び，その反対の音読み不振の文字（語）を選び，語形としては特殊なものはさけて一般的なものにした。（練習問題を例示して，方法をたしかめさせてから問題にはいった。）

結果をみると，

	全体のよみ	その平均正答率	構成文字の訓よみの平均正答率		構成文字の訓よみの平均正答率		意味の平均正答率
1.	掲示ケイジ	96.5%	かかげる	57.5%	しめす	86.9%	50.1%
2.	危険キケン	97.8	あやうい	37.1	けわしい	50.1	93.7
3.	救助キュウジョ	91.6	すくう	81.2	たすける	93.2	92.1
4.	乗降(客)ジョウコウ(キャク)	54.0	のる	93.5	おりる	67.8	63.5
5.	採集サイシュウ	92.4	とる	46.3	あつめる	95.6	35.4
6.	犯罪ハンザイ	93.7	おかす	63.5	つみ	81.2	67.3
7.	冒険ボウケン	98.4	おかす	10.4	けわしい	48.8	34.1
8.	営業エイギョウ	90.2	いとなむ	79.8	*わざ	18.0	65.9
9.	定価テイカ	97.8	さだめる	77.9	あたい	29.7	54.0
10.	降雨コウウ	56.7	ふる	75.7	あめ	93.5	77.4

＊「業」の「訓わざ」は当用漢字音訓表外の訓である。

問題 10

学校	反応 / 学校・人数	1. 掲示 ケイジ	かかげる	しめす	意味	2. 危険 キケン	あやうい	けわしい	意味	3. 救助 キュウジョ	すくう	たすける	意味	4. 乗降客 ジョウコウキャク	のる	おりる	意味
I	43	93.0	48.8	83.7	37.2	97.7	41.9	51.2	97.7	90.7	74.4	93.0	86.0	39.5	93.0	72.1	55.8
	44	100	34.1	81.8	29.5	97.7	36.4	34.1	95.5	90.9	75.0	90.9	93.2	36.4	90.9	63.6	47.7
Y	40	97.5	50.0	82.5	47.5	100	37.5	45.0	92.5	95.0	77.5	95.0	92.5	42.5	90.0	60.0	65.0
	39	100	59.0	84.6	59.0	97.4	28.2	33.3	94.9	97.4	82.1	94.9	97.4	66.7	97.4	82.1	76.9
S	41	90.2	63.4	78.0	24.4	97.6	26.8	29.3	90.2	73.2	68.3	90.2	87.8	29.3	90.2	53.7	43.9
	35	94.3	54.3	82.9	40.0	91.4	14.3	51.4	82.9	85.7	77.1	80.0	82.9	20.0	82.9	31.4	37.1
K	41	97.6	73.2	100	85.4	100	34.1	78.0	100	100	95.1	100	97.6	92.7	100	92.7	95.1
	41	100	73.2	100	70.7	100	58.5	70.7	95.1	100	100	100	95.1	85.4	100	90.2	87.8
M	43	95.3	62.8	88.4	58.1	97.7	51.2	58.1	93.0	90.7	81.4	93.0	93.0	58.1	95.3	60.5	60.5
計	367	96.5	57.5	86.9	50.1	97.8	37.1	50.1	93.7	91.6	81.2	93.2	92.1	54.0	93.5	67.8	63.5

学校	反応 / 学校・人数	5. 採集 サイシュウ	5. 採集 とる	5. 採集 あつめる	5. 採集 意味	6. 犯罪 ハンザイ	6. 犯罪 おかす	6. 犯罪 つみ	6. 犯罪 意味	7. 冒険 ボウケン	7. 冒険 おかす	7. 冒険 けわしい	7. 冒険 意味	8. 営業 エイギョウ	8. 営業 いとなむ	8. 営業 わ*ざ	8. 営業 意味
I	43	93.0	14.0	95.3	14.0	90.7	53.5	74.4	69.8	90.9	2.3	50.0	29.5	88.6	68.2	9.1	63.6
	44	93.2	11.4	93.2	9.1	90.9	43.2	72.7	59.1	100	4.5	38.6	22.7	93.2	61.4	4.5	54.5
Y	40	90.0	50.0	97.5	42.5	97.5	60.0	77.5	52.5	97.5	20.0	45.0	25.0	90.0	75.0	10.0	67.5
	39	92.3	56.4	97.4	48.7	100	71.8	87.2	82.1	100	30.8	30.8	41.0	94.9	82.1	25.6	74.4
S	41	82.9	22.0	92.7	9.8	90.2	39.0	63.4	51.2	100	0	29.3	12.2	75.6	75.6	0	48.8
	35	88.6	22.9	85.7	25.7	80.0	42.9	71.4	42.9	94.3	0	45.7	20.0	77.1	77.1	0	48.6
K	41	100	87.8	100	75.6	100	87.8	100	82.9	100	22.0	75.6	63.4	97.6	97.6	58.5	87.8
	41	97.6	85.4	100	51.2	100	92.7	97.6	85.4	100	12.2	70.7	58.5	100	97.6	39.0	82.9
M	43	93.0	67.4	97.7	44.2	93.0	79.1	86.0	76.7	100	2.3	51.2	32.6	90.7	83.7	14.0	62.8
計	367	92.4	46.3	95.6	35.4	93.7	63.5	81.2	67.3	98.4	10.4	48.8	34.1	90.2	79.8	18.0	65.9

学校	学校・人数 ＼ 反応	9. 定価 テイカ	9. 定価 さだめる	9. 定価 あたい	9. 定価 意味	10. 降雨 コウウ	10. 降雨 ふる	10. 降雨 あめ	10. 降雨 意味
I	43	95.5	70.5	13.6	43.2	38.6	65.9	93.2	65.9
	44	100	68.2	11.4	47.7	31.8	72.7	88.6	72.7
Y	40	97.5	72.5	22.5	52.5	60.0	60.0	85.0	67.5
	39	100	84.6	33.3	66.7	71.8	79.5	97.4	82.1
S	41	97.6	61.0	4.9	31.7	29.3	73.2	87.8	63.4
	35	88.6	65.7	2.9	31.4	25.7	74.3	94.3	71.4
K	41	100	97.6	68.3	80.5	100	85.4	100	97.6
	41	100	97.6	61.0	80.5	90.2	82.9	100	95.1
M	43	97.7	81.4	46.5	48.8	60.5	86.0	93.0	79.1
計	367	97.8	77.9	29.7	54.0	56.7	75.7	93.5	77.4

語としての読みは，4の「乗降(客)」と10の「降雨」を除いて，他の語はすべて平均正答率90%以上のよいできであるが，それらの構成文字として分解した1字ずつの訓読みの成績をみると，語として読める（音読み）ほどには，それぞれ1字ずつの訓読みは読めていない。また，両文字の訓読みの正答率は必ずしも等しい成績ではない，かなりアンバランスな状態であることを示している。この問題では試みなかったが，訓募ぼ[20]では読めなくても，募集ではよく読め(問題2)，「つのる(募)」の語の意味理解では，使用例として「募集」という熟語をあげた生徒が多くいた（問題8）のも，これと同種の反応であろう。

さらにその語の意味を説明させると，これも語全体の読みの成績に比べて総体的に不振である。10問の語は，なるべく初見の語をさけて，親しい語を選んである。そのために，語としてはよく読めたわけであるが（問4・10は別）構成要素としての各文字の訓読みは不確かであった。

そのためか，語の意味理解の上で，なんとなくわかるようでありながら，意味を記述させてみると，字義を生かした正確な意味としては，理解，把握されていないことがわかる。

「危険」のように，二つの文字が重なって同義を示している(形容詞の役目)語は，それぞれの訓が，正しく読めなくても意味の理解はどちらかの字義でカバーして通じることができる。

＜語としての読み＞	＜文字としての読み＞								＜意味＞
危険	危				険				危険
きけん	○あやうい	あぶない	他の誤答	無答	○けわしい	あぶない	他の誤答	無答	○意味
平均正答率									
97.8%	37.1	41.7	2.7	18.5	50.1	2.7	15.0	32.2	95.5

（この場合，「危」の「あぶない」は正答の「あやうい」より反応率が多い。表内訓としては認められていないが，字義としては同じために，意味の理解には支障をきたさない。）

同じ険の字が用いられている冒険では，語構成上，動詞としての大切な役割をしている「冒」の字の訓読みができないために字義も不明確なためか，冒険

の正しい語義もいたって低い。

＜語としての読み＞	＜文字としての読み＞							＜意味＞
冒険	冒					険		冒険
ぼうけん	○おかす	まさ	しょう	他の誤答	無答	○けわしい	無答	○意味
98.4%	10.4	4.6	3.8	18.0	63.2	48.8	327	34.1

しかし，冒険という語の読みは98.4%で，10問中最高に読めている。

これなどは，冒険という語にあまり親しく，また，読めもするので，一つ一つの文字の訓とそれに対応させての字義が正しく学習されていなかったからではなかろうかという疑問も生ずるのである。冒険の正しい意味理解は34.1%で，他は部分正答11.2%，誤答18.2%，無答18.0%，その他冒険即探検とするものが18.5%ある。

「危険を冒してあえてする冒険」と「実地に探り検する（しらべる）探検」とが，同義として把握されている。二つの語は，実際に行動として現われる場合は，重なることが多く，探検に冒険的な行動を認めて探険と表記することもあり，読書関係の図書分類で冒険・探検ものなどと一括して使われている現実での並用・共用などが，生徒の意味把握の上にも影響したのであろうが，これなど，それぞれの字義と字訓をたしかに指導した上で語義を扱うと，字義に即した区別を知りいっそう正しく生徒に理解，習得されるのではなかろうかと思われるのである。

総じて意味把握の場合，構成文字のよく読める訓の方にひきつけて意味を把握しており，同義が重用されている場合はそれが目立たないが(例救助)，構成文字の一つ一つに熟語としての意味がかかっている場合は，意味の理解もかたよってくる。「採集」など，「集める」と同義に扱われており，「採」の字の意味は薄れている。

＜語としての読み＞	＜文字としての読み＞						＜意味＞
採集	採					集	採集
さいしゅう	○とる	さがす	あつめる	他の誤答	無答	○あつめる	意味
92.4	46.3	2.2	1.6	14.5	35.4	95.3	35.4

反対に「営業」など，最近では，これを，「業(わざ)を営む」といった文字分解

をして理解させなくても，むしろ，一般に通用している「営業」で通じる面がある。「わざ」と読めたもの18.0％（表内訓には「わざ」というよみはない。）他は「しごと」（4.1％），無答（45.8％）などで，訓読みの成績は悪いが，意味の方では，正答率65.9％という現象もある。

また，定価では，

＜語としての読み＞＜文字としての読み＞　　＜意味＞

定価	定	価				定価
ていか	○さだめる	○あたい	ねだん	ね	無答	○意味
97.8％	77.9	29.7	6.5	8.7	32.4	54.0

のように，日常生活語として誰でも知っている語であるために語としてはよく読めるが，それぞれの字義になると，読みの不確かさが，反映して語義もあいまいになる。

また，逆に「乗降客」「降雨」では，

＜語としての読み＞＜文字としての読み＞　　＜意味＞

乗降（客）	乗	降	
	○のる	○おりる	○意味
54.0％	93.5	67.8	63.5
降雨	降	雨	
	○ふる	○あめ	○意味
56.7％	75.7	93.5	77.4

それぞれの文字の読みや，語としての意味は，ある程度できながら，かえって語としての読みが，それよりも下回る成績という現象もある。これなどは，各文字の読みや意味を知っていすぎるために，それを構成する語の正しい読みかたをなおざりにするからではあるまいか。なお，降は音不振の文字で，日常生活でも，これらの語は，くだいて「乗り降りの客」とか「雨が降った量（降った雨の量）」などと言いかえていう――訓読み化のことばになっているからであろう。いずれにしても，この小問の反応から，語の構成単位である字の正しい訓読みが，正しい字義を知ることであり，ひいては，語義を正確に把握する手がかりとして大切なものであること，しかし，それらの構成文字の機能や

性質によって，多少その関係に異同があること，また，語の読みと構成文字の相互関係は必ずしも同じない場合があるなど，問題をかかえていることがわかった。

8．訓の読みと意味の関係

字訓と字義とは，同一であるとは言いがたいが，字訓は字義の定着したものとして関係があり，意味把握，ひいては，漢字習得の大切な手がかりとなるものである。漢字を効果的に習得するために，訓読みもできることが必要条件の一つとなるのであるが，事例調査も含めて，訓では読めなくても音ではよく読め，また，書けもするという一連の現象がある。この現象は，その訓のことばとしての親近性に関する問題であることは上来見てきたとおりであるが，読めないというのは，ことばとしてもその意味がわからないのか，あるいはことばとしては知っていても訓読みが行なわれないために，その文字との結びつきにおいて読めないのか，その関係を，漢字の問題のある字訓の読みとことば（意味）の理解の関係の上で確かめようとしたのが問題8のねらいである。

問題のある字訓の読みを，㈠教育漢字から15字，㈡教育漢字外当用漢字から10字選んだ。

それぞれの語（訓）を与え，その語の意味をたずねる。意味のたずね方は，その語の意味の理解度の深浅に応じて反応ができるように，

(1)　意味を書く

(2)　意味が書けない場合は，どういう時に使うか，または使用例などを書く

(3)　なんとなく意味はわかるがうまく表現できない場合は○印の符号づけ

(4)　どういう意味か全くわからない時は×印の符号づけ

の4段階に分け，練習問題を設けて，やり方をよくわからせてから実施した。

なお，実施に際し，片方の学級では漢字を消去して（ただし，もうける〈設〉すべる〈統〉へる〈経〉など，同音の他の文字と誤解されるものは除く）文字による意味の理解度の有無もあわせ見た。

意味理解の反応度の表は，まず，生徒が，自身でそれぞれの語（訓）についての理解度を主観的に判定した結果であるが，それによると，それぞれ反応はしているが，特にその段階の反応が目立つものとしては，

(1)　意味を書いたもの（70%以上）

(イ)　老いる　商う　競う　省く　承る　異なる

(ロ)　描く　訪れる　触れる

(2)　使用例をあげたもの（10%以上）

(イ)　唱える　和らぐ　設ける　率いる

(ロ)　欺く　催す

(3)　うまく言えないもの（20%以上）

(イ)　唱える　和らぐ　統べる　経る　潔い

(ロ)　携える　募る　戯れる　施す

(4)　意味がわからないもの（20%以上）

(イ)　統べる　欲する　経る

(ロ)　携える　募る

というように，語の意味理解の乏しいものは多く(3)(4)の反応をとっており，しかも，これら(3)(4)に反応した語（訓）が，大体従来の調査結果で訓読みの不振なものでもあるということがわかる。（例外　承るなど）

なお，語に漢字を添えることによって，語の意味が一段と明確になる，あるいは，理解を助けるであろうとの想定のもとに，初めは漢字を添えて問題を実施したが（I中の場合），他の3校（Y・S・K校）では，2学級分のうち，1学級は漢字を消去して調査した（＊印の学級）。学級によっては多少の有意差があるかに見える程度で，中には文字を消去した学級のほうが生徒判定の成績のよい語もある。しかしまた，個別的に記入内容をみると，意味がわかるとして意味や使用例をあげた誤答の中に，漢字消去のクラスの者が目立つということも見受けられる。

字訓とことばの関係は，そのことばの意味が理解された後は，それに伴なう漢字の有無は大勢に影響しないが，一方，そのことばの真の理解を得るまでに

(問題8)　　**意味理解の反応度**　　〈*印は漢字を消した学級〉

		1 老いる	2 商う	3 唱える	4 和らぐ	5 統べる	6 競う	7 省みる	7 省く	8 設ける	9 承る	10 欲する	11 率いる	12 経る	13 異なる	14 尊い	15 潔い
意味を書いたもの	I A43	72.1	53.3	34.9	39.5	11.6	81.4	39.5	81.4	44.2	58.1	39.5	30.2	27.9	55.8	55.8	37.2
	I B44	68.2	63.6	22.7	43.2	6.8	72.7	38.6	70.5	54.5	61.4	54.5	27.3	22.7	65.9	56.8	38.6
	*Y A40	87.5	72.5	37.5	55.0	20.8	100	80.0	90.0	77.5	75.0	60.0	80.0	37.5	77.5	70.0	65.0
	*Y B39	92.3	69.2	56.4	43.6	20.5	97.4	76.9	84.6	82.1	79.5	71.8	71.8	43.6	82.1	79.5	59.0
	*S A41	63.4	61.0	48.8	56.1	29.0	80.5	51.2	70.7	70.7	70.7	34.1	46.0	22.0	53.7	36.6	53.7
	*S B39	66.7	38.5	23.1	30.8	15.4	61.5	33.3	61.5	53.8	51.3	25.6	38.5	28.2	35.9	38.5	30.8
	K A41	97.6	97.6	53.7	63.4	24.4	90.2	92.7	97.6	75.6	82.9	92.7	73.2	65.9	97.6	80.5	68.3
	K *B41	100	100	61.0	82.9	34.1	95.1	100	97.6	92.7	87.8	97.6	80.5	70.7	100	92.7	73.2
	M 43	83.7	79.1	44.2	44.2	37.2	76.7	83.7	88.4	65.1	67.4	72.1	51.2	46.5	74.4	69.8	62.8
	平均371	81.1	70.6	42.3	50.9	22.1	83.8	66.0	82.5	68.2	70.3	60.9	55.0	40.4	71.4	64.4	54.2
使用例をあげたもの	I A43	4.7	7.0	14.0	11.6	9.3	9.3	7.0	9.3	16.3	20.9	7.0	7.0	4.7	9.3	9.3	7.0
	I B44	6.8	6.8	15.9	13.6	4.5	20.5	6.8	18.2	18.2	13.6	0	13.6	2.3	2.3	9.1	13.6
	*Y A40	0	2.5	25.0	15.0	2.5	0	2.5	2.5	5.0	7.5	0	7.5	12.5	2.5	2.5	2.5
	*Y B39	0	5.1	20.5	15.4	2.6	0	0	2.6	10.3	0	2.6	10.3	7.7	0	0	5.1
	*S A41	4.9	9.8	17.1	12.2	4.9	7.3	2.4	7.3	12.2	9.8	0	17.1	2.4	0	0	14.6
	*S B39	2.6	2.6	12.8	2.6	5.1	15.4	5.1	10.3	17.9	7.7	2.6	7.7	5.1	2.6	5.1	5.1
	K A41	2.4	2.4	29.3	29.3	4.9	7.3	7.3	2.4	12.2	7.3	2.4	22.0	19.5	2.4	9.8	12.2
	K *B41	0	0	36.6	9.8	2.4	4.9	0	2.4	7.3	12.2	0	14.6	19.5	0	2.4	12.2
	M 43	2.3	0	23.3	27.9	4.7	7.0	2.3	0	11.6	7.0	7.0	23.3	11.6	7.0	4.7	11.6
	平均371	2.7	4.0	21.6	15.4	4.6	8.1	3.8	6.2	12.4	9.7	2.4	13.7	9.4	3.0	4.9	9.4
うまく言えないもの	I A43	4.7	18.6	34.9	32.6	9.3	7.0	20.9	2.3	27.9	14.0	23.3	30.2	16.3	9.3	18.6	23.3
	I B44	9.1	11.4	43.2	43.2	27.3	2.3	31.8	6.8	20.5	20.5	15.9	40.9	34.1	22.7	27.3	27.3
	*Y A40	7.5	5.0	32.5	25.0	25.0	0	10.0	5.0	15.0	7.5	22.5	10.0	40.0	20.0	10.0	20.0
	*Y B39	5.1	15.4	23.1	33.3	33.3	0	12.8	7.7	7.7	12.8	15.4	10.3	23.1	7.7	10.3	20.5
	*S A41	19.5	17.1	24.4	22.0	17.1	7.3	26.8	14.6	14.6	14.6	17.1	24.4	12.2	31.7	24.4	24.4
	*S B39	10.3	28.2	46.2	59.0	28.2	12.8	23.1	23.1	25.6	35.9	5.1	33.3	23.1	38.5	35.9	46.2
	K A41	0	0	0	4.9	26.8	2.4	0	0	12.2	9.8	4.9	4.9	7.3	0	7.3	12.2
	K *B41	0	0	2.4	7.3	24.4	0	0	0	0	0	2.4	4.0	9.8	0	4.9	12.2
	M 43	2.3	9.3	25.6	18.6	23.3	9.3	9.3	7.0	23.3	18.6	14.0	14.0	18.6	4.7	16.3	25.6
	平均371	6.5	11.6	27.8	27.2	23.7	4.6	15.1	7.3	16.4	14.8	13.5	19.4	20.5	14.8	17.3	23.4
意味がわからないもの	I A43	18.6	20.9	16.3	16.3	69.7	2.3	32.6	7.0	11.6	7.0	30.3	51.1	51.1	25.6	16.3	32.6
	I B44	15.9	18.1	18.2	0	61.4	4.6	22.8	4.5	6.8	4.5	29.5	18.2	40.9	9.1	6.8	20.5
	*Y A40	5.0	20.0	5.0	5.0	52.5	0	7.5	2.5	2.5	10.0	17.5	2.5	10.0	0	17.5	12.5
	*Y B39	2.6	10.3	0	7.7	43.6	2.6	10.3	5.1	0	7.7	10.3	7.7	25.6	10.3	10.3	15.4
	*S A41	12.2	12.2	9.7	9.7	48.8	4.9	19.5	7.3	2.4	4.9	48.8	12.2	63.4	14.7	39.0	7.3
	*S B39	20.5	30.8	17.9	7.7	51.3	10.3	38.5	5.1	2.6	5.1	66.7	20.5	43.6	23.0	20.5	17.9
	K A41	0	0	17.1	2.4	43.9	0	0	0	0	0	0	0	7.3	0	2.4	7.3
	K *B41	0	0	0	0	39.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.4
	M 43	11.6	11.6	7.0	9.3	34.9	7.0	4.6	4.7	0	7.0	7.0	11.6	23.2	14.0	9.3	0
	平均371	9.7	13.7	8.3	6.5	49.5	3.5	15.0	4.0	2.9	5.2	23.1	11.9	29.6	10.8	13.5	12.9

			1 描く	2 訪れる	3 欺く	4 携える	5 募る	6 戯れる	7 催す	8 施す	9 汚す	10 触れる
意味を書いたもの	I	A 43	67.4	72.1	46.5	16.3	23.3	44.2	48.8	25.6	44.2	81.4
		B 44	61.4	84.1	31.8	11.4	20.5	34.1	31.8	22.7	56.8	84.1
	Y	*A 40	87.5	95.0	67.5	25.0	30.0	67.5	50.0	32.5	70.0	87.5
		B 39	84.6	94.9	69.2	48.7	38.5	53.8	51.3	51.3	66.7	97.4
	S	*A 41	75.6	87.8	68.3	22.0	39.0	56.1	70.7	31.7	68.3	78.0
		B 39	48.7	76.9	25.6	10.3	15.4	25.6	41.0	15.4	46.2	56.4
	K	A 41	90.2	87.8	78.0	73.2	61.0	80.5	85.4	75.6	82.9	85.4
		*B 41	92.7	97.6	95.1	82.9	70.7	75.6	75.6	78.0	82.9	97.6
	M	43	86.0	93.0	60.5	25.6	41.9	62.8	53.5	48.8	55.8	93.0
	平均	371	77.1	87.6	60.1	34.8	37.7	55.5	56.3	42.3	63.6	84.6
使用例をあげたもの	I	A 43	14.0	14.0	9.3	11.6	7.0	7.0	11.6	11.6	11.6	4.7
		B 44	18.2	9.1	13.6	0	11.4	15.9	25.6	4.5	9.1	6.8
	Y	*A 40	2.5	0	7.5	0	10.0	10.0	7.5	7.5	7.5	0
		B 39	12.8	0	7.7	0	0	2.6	5.1	2.6	2.6	0
	S	*A 41	9.8	4.9	9.8	2.5	4.9	4.9	7.3	4.9	4.9	7.3
		B 39	15.4	5.1	10.3	7.7	10.3	5.1	7.7	5.1	7.7	12.8
	K	A 41	7.3	12.2	14.6	2.4	14.6	9.8	12.2	9.8	14.6	12.2
		*B 41	2.4	2.4	2.4	2.4	17.1	19.5	22.0	12.2	14.6	0
	M	43	4.7	0	14.0	7.0	9.3	4.7	16.3	4.7	9.3	4.7
	平均	371	9.7	5.4	10.0	3.8	9.4	8.9	12.9	7.0	9.2	5.4
うまく言えないもの	I	A 43	11.6	7.0	23.3	11.6	32.6	34.9	20.9	30.2	18.6	9.3
		B 44	18.2	4.5	25.0	27.3	22.7	38.6	13.6	47.7	18.2	6.8
	Y	*A 40	7.5	2.5	15.0	45.0	27.5	12.5	12.5	27.5	10.0	5.0
		B 39	2.6	5.1	23.1	30.8	20.5	38.5	25.6	33.3	25.6	0
	S	*A 41	9.8	4.9	17.1	12.2	26.8	29.3	14.6	39.0	0	7.3
		B 39	28.2	17.9	33.3	15.4	23.1	30.8	17.9	46.2	20.5	23.1
	K	A 41	2.4	0	7.3	22.0	19.5	4.9	2.4	12.2	2.4	2.4
		*B 41	4.9	0	2.4	7.3	7.3	4.9	2.4	4.9	2.4	0
	M	43	7.0	7.0	16.3	34.9	20.9	14.0	18.6	34.9	23.3	2.3
	平均	371	10.2	5.4	18.1	22.9	22.4	23.2	14.3	30.7	13.5	6.5
意味がわからないもの	I	A 43	6.7	7.0	21.0	60.5	37.2	13.9	18.7	32.6	25.6	4.7
		B 44	2.3	2.3	29.5	61.3	45.4	11.4	29.6	25.0	15.9	2.3
	Y	*A 40	2.5	2.5	10.0	30.0	32.5	10.0	30.0	32.5	12.5	7.5
		B 39	0	0	0	20.5	41.0	5.1	17.9	12.8	5.1	2.6
	S	*A 41	4.8	2.4	4.9	63.4	29.3	9.7	7.3	29.7	26.9	7.3
		B 39	7.7	0	30.8	66.7	51.3	38.5	33.3	33.3	25.7	7.7
	K	A 41	0	0	0	2.4	4.9	4.9	0	2.4	0	0
		*B 41	0	0	0	7.3	4.9	0	0	4.9	0	2.4
	M	43	2.3	0	9.3	32.5	28.0	18.6	11.6	11.6	11.6	0
	平均	371	2.9	1.6	11.8	38.5	30.5	12.4	16.4	19.9	13.7	3.5

生徒の意味の理解とその評価

学校	学級	反応・評価	1おいる(老)	2あきなう(商)	3となえる(唱)	4やわらぐ(和)	5すべる(統)	6きそう(競)	7かえりみる(省)	7はぶく(省)	8もうける(設)	9うけたまわる(承)	10ほっする(欲)	11ひきいる(率)	12へる(経)	13ことなる(異)	14たっとい(尊)	15いさぎよい(潔)
I	A	生徒反応	72.1	53.5	34.9	39.5	11.6	81.4	39.5	81.4	44.2	58.1	39.5	30.2	27.9	55.8	55.8	37.2
		評価	62.8	41.9	9.3	30.2	7.0	81.4	34.9	69.8	18.6	39.5	39.5	23.3	9.3	46.5	34.9	20.9
	B	生徒反応	68.2	63.6	22.7	43.2	6.8	72.7	38.6	70.5	54.5	61.4	54.5	27.3	22.7	65.9	56.8	38.6
		評価	65.9	52.3	4.5	34.1	2.3	68.2	29.5	61.4	31.8	47.7	43.2	2.3	4.5	34.1	36.4	20.5
Y	A	生徒反応	87.5	72.9	37.5	55.0	20.0	100	80.0	90.0	77.5	75.0	60.0	80.0	37.5	77.5	70.0	65.0
		評価	85.0	62.5	5.0	30.0	5.0	97.5	77.5	82.5	35.0	50.0	45.0	47.5	20.0	57.5	45.0	40.0
	B	生徒反応	92.3	69.2	56.4	43.6	20.5	97.4	76.9	84.6	82.1	79.5	71.8	71.8	43.6	82.1	79.5	59.0
		評価	89.7	66.7	17.9	25.6	17.9	94.9	74.4	74.4	69.2	43.6	56.4	53.8	12.8	66.7	61.5	48.7
S	A	生徒反応	63.4	61.0	48.8	56.1	29.0	80.5	51.2	70.7	70.7	70.7	34.1	46.3	22.0	53.7	36.6	53.7
		評価	51.2	48.8	7.3	31.7	12.2	78.0	41.5	56.1	29.3	26.8	22.0	26.8	4.9	26.8	12.2	46.3
	B	生徒反応	66.7	38.5	23.1	30.8	15.4	61.5	33.3	61.5	53.8	51.3	25.6	38.5	28.2	35.9	38.5	30.8
		評価	53.8	20.5	5.1	12.8	0	61.5	25.6	41.0	23.1	33.3	15.4	12.8	2.6	17.9	15.4	7.7
K	A	生徒反応	97.6	97.6	53.7	63.4	24.4	90.2	92.7	97.6	75.6	82.9	92.7	73.2	65.9	97.6	80.5	68.3
		評価	97.6	97.6	46.3	56.1	24.4	85.4	92.7	95.1	70.7	58.5	92.7	53.7	51.2	95.1	75.6	58.5
	B	生徒反応	100	100	61.0	82.9	34.1	95.1	100	97.6	92.7	87.8	97.6	80.5	70.7	100	92.7	73.2
		評価	97.6	100	31.7	68.3	26.8	90.2	100	97.6	87.8	61.0	92.7	65.9	58.5	97.6	80.5	68.3
M		生徒反応	83.7	79.1	44.2	44.2	37.2	76.7	83.7	88.4	65.1	67.4	72.1	51.2	46.5	74.4	69.8	62.8
		評価	79.1	72.1	16.3	25.6	23.3	76.7	76.7	76.7	39.5	39.5	60.5	39.5	27.9	65.1	55.8	39.5
平均		生徒反応	81.1	70.6	42.3	50.9	22.1	83.8	66.0	82.5	68.2	70.3	60.9	55.0	40.4	71.4	64.4	54.2
		評価	75.7	62.5	15.9	35.0	13.2	81.4	61.2	72.8	44.7	44.5	52.0	35.8	21.3	56.3	46.4	38.8

〈注〉　生徒反応は生徒が(1)をとり，意味を記入した件数。評価は，そのうち，正答と認められた件数を百分率で示したもの。

学校	学級	反応／評価	1 え が く（描）	2 おとずれる（訪）	3 あざむく（欺）	4 たずさえる（携）	5 つのる（募）	6 たわむれる（戯）	7 もよおす（催）	8 ほどこす（施）	9 けがす（汚）	10 ふれる（触）
I	A	生徒反応	67.4	72.1	46.5	16.3	23.3	44.2	48.8	25.6	44.2	81.4
		評価	25.6	65.1	25.6	4.7	16.3	16.3	27.9	16.3	34.9	79.1
	B	生徒反応	61.4	84.1	31.8	11.4	20.5	34.1	31.8	22.7	56.8	84.1
		評価	34.1	65.9	6.8	6.8	18.2	9.1	22.7	18.2	45.5	81.8
Y	A	生徒反応	87.5	95.0	67.5	25.0	30.0	67.5	50.0	32.5	70.0	87.5
		評価	65.0	75.0	20.0	17.5	17.5	20.0	35.0	10.0	32.5	87.5
	B	生徒反応	84.6	94.9	69.2	48.7	38.5	53.8	51.3	51.3	66.7	97.4
		評価	46.2	79.5	20.5	41.0	33.3	15.4	38.5	33.3	53.8	92.3
S	A	生徒反応	75.6	87.8	68.3	22.0	39.0	56.1	70.7	31.7	68.3	78.0
		評価	26.8	53.7	29.3	2.4	19.5	19.5	48.8	7.3	43.9	75.6
	B	生徒反応	48.7	76.9	25.6	10.3	15.4	25.6	41.0	15.4	46.2	56.4
		評価	17.9	56.4	12.8	2.6	10.3	5.1	20.5	2.6	30.8	46.2
K	A	生徒反応	90.2	87.8	78.0	73.2	61.0	80.5	85.4	75.6	82.9	85.4
		評価	65.9	85.4	36.6	63.4	56.1	39.0	78.0	65.9	78.0	85.4
	B	生徒反応	92.7	97.6	95.1	82.9	70.7	75.6	75.6	78.0	82.9	97.6
		評価	58.5	87.8	34.1	53.7	61.0	31.7	70.7	58.5	78.0	97.6
M		生徒反応	86.0	93.0	60.5	25.6	41.9	62.8	53.5	48.8	55.8	93.0
		評価	44.2	69.8	18.6	11.6	32.6	27.9	39.5	23.3	41.9	88.4
平均		生徒反応	77.1	87.6	60.1	34.8	37.7	55.5	56.3	42.3	63.6	84.6
		評価	42.6	70.9	22.6	22.4	29.4	20.5	42.3	26.1	48.8	81.7

語 / 反応・評価	1 老いる		2 商う		3 唱える		4 和らぐ		5 続べる		6 競う		7 省みる		省く	
反応	A 生徒の反応	B 判定者の評価	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	81.1	75.7	70.6	62.5	42.3	15.9	50.9	35.0	22.1	13.2	83.8	81.4	66.0	61.2	82.5	72.8
使用例をあげたもの	2.7	1.8	4.0	3.2	21.6	18.9	15.4	14.0	4.0	2.2	8.1	7.3	3.8	3.8	6.2	5.7
うまくいえないもの	6.5		11.6		27.8		27.2		23.7		4.6		15.1		7.3	
意味がわからないもの	9.7		13.7		8.3		6.5		49.5		3.5		15.1		4.0	

語 / 反応・評価	8 設ける		9 承わる		10 欲する		11 率いる		12 経る		13 異なる		14 尊い		15 潔い	
反応	A 生徒の反応	B 判定者の評価	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	68.2	44.7	70.3	44.5	60.9	52.0	55.0	35.8	40.4	21.3	71.4	56.3	64.4	46.4	54.2	38.8
使用例をあげたもの	12.4	10.0	9.7	8.1	2.4	2.4	13.7	11.9	9.4	7.3	3.0	2.7	4.9	4.0	9.4	8.9
うまくいえないもの	16.4		14.8		13.5		19.4		20.5		14.8		17.3		23.4	
意味がわからないもの	2.9		5.2		23.1		11.8		29.6		10.8		13.5		12.9	

語 / 評価・反応	1 描く		2 訪れる		3 欺く		4 携える		5 募る		6 戯れる		7 催す		8 施す		9 汚す		10 触れる	
反応	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
意味を書いたもの	77.1	42.6	87.6	70.9	60.1	22.6	34.8	22.4	37.7	29.4	55.5	20.5	56.3	42.3	42.3	26.1	63.6	48.8	84.6	81.7
使用例をあげたもの	9.7	9.4	5.4	5.4	10.0	8.1	3.8	2.4	9.4	7.5	8.9	8.1	12.9	11.6	7.0	5.4	9.2	8.6	5.4	4.9
うまくいえないもの	10.2		5.4		18.1		22.9		22.4		23.2		14.3		30.7		13.5		6.5	
意味がわからないもの	2.9		1.6		11.8		38.5		30.5		12.4		16.4		19.9		13.7		3.5	

Aは生徒が示した反応数の百分比。Bは，生徒の反応(1・2)について，正否の判定をした結果，正しいと認めた数の百分比。

は，意味把握上やはり必要であることを示唆している一面が見られた。

なお，この調査で問題となるのは，(1)の段階，意味を書いたものの中に，実は正しくその語の意味が理解されていない，誤解・誤答があることである。

生徒がその語がわかるとみずから判定して意味を書いた(1)の反応に，誤まった意味の理解，意味把握がされているものがある。意味を書いたものと，その意味が正しく書けているものとの関係を比較したのが394・395ページの表である。（語を正しく定義することはむずかしいが，辞書等を参考にして，正・誤を判定した。この場合，語が文脈中にないので，1語のもつ多義のどれかにふれていれば，正答という立場をとった。）

誤　答　例　㈠

	意　味	使用語例
1. おいる(老)	おちぶれる	自動車のおいる
2. あきなう(商)	うる　かう　あきる　あきらめる　こどもをあやす	
3. となえる(唱)	おがむ　ねがう　祈る　ものをそなえること 説明する	
4. やわらぐ(和)	やすむ　くつろぐ　いい気持になる	
5. すべる(統)	すべる(滑)　ころぶ　おちる	スケートですべる 大学をすべる
6. きそう(競)	たたかう	
7. かえりみる(省)	いっぺんいって帰る　いえにもどる　反省をしない　ばかにする	文部省
はぶく(省)	じゃまにする　いらない　めんどくさい　関係ないこと	
8. もうける(設)	もうかる　とくをする　商売する　利益をあげる（〜があがる）手に入れる	
9. うけたまわる(承)	あずかる　だれかからさずかる　うけること　たのまれる　もらう	
10. ほっする(欲)	ほっとする　気持がさっぱりする	
11. ひきいる(率)	ひきうけること　引きこむこと	確率　能率
12. へる(経)	減る　なくなること　すくなくなる　ものがすりへる　たどる　損をする　なりたつ	鉛筆を使うとしんがへる　経済
13. ことなる(異)	それと同じということ　同じ　ことがすぎる　むずかしい	
14. たっとい(尊)	たとえばということ　りっぱ	
15. いさぎよい(潔)	はっきりしている　しまりがよい　けいきがよい	

生徒の意味の理解とその評価の表（394・395ページ）に，(2)～(4)までの反応を入れて，5校分を平均してみると，両者の関係が判然とする。(396ページの表)

生徒が意味あるいは使用例がわかるとして，意味・使用例を書いているものの中に，誤まっているものがあることがわかる。その具体例を示してみよう。

誤りの傾向として，語の音声面に関連させて誤るもの（同音の誤りもあるが，中には音の類似した語にひきうつして，いい加減な意味をとるものがある），正答とはいえないが，その語に関する何らかのイメージはもっていると思われるもの，その文字が使用されている語を想起することはできるが，その語の意味とは対応させることができない誤り――熟語に多い―などが見られる。（誤答例(一)(二)参照）

誤　答　例　(二)

	意　味	使用語例
1. えがく(描)	想像する	
2. おとずれる(訪)	あいに行く　よる	
3. あざむく(欺)	きずつける　さきをこす　人をけなすときに使う	
4. たずさえる(携)	ためること　そなえる	犬をたづさえる（馬を）
5. つのる(募)	いのる　ねがう　おもうこと　忘れられない　ひびきわたる	
6. たわむれる(戯)	むらがる　一つのところに集まる　集まる　たくさんのものがいりまじる　ごちゃまぜになる　おろかなこと	
7. もよおす(催)	おこなう　みせる	
8. ほどこす(施)	ほどにする　やってやる　手のつけようがない　手ほどきをするようなときに使う	
9. けがす(汚)	けがをする　けなす　ばかにする　きずをつける	
10. ふれる	ぶつかる　さむい　人の気にしていることをいう	

こうした誤答現象があることは，元来，漢字の意味を知る上での一つの手がかりとなる訓であるにもかかわらず，すでにことばの理解の上でも抵抗がある訓である，したがって字訓としてもその読み方がわかりにくい，そのために漢字力不振の一因をなすわけで語彙教育との連関が改めて考えられるのである。

Ⅲ　調査の結果—3年生

1. 教育漢字

(1)　教育漢字の読み(問題1)——調査の文字と結果

中学2年で，事例調査の結果，問題として残った教育漢字の読みについて，当該学年の2年生の集団に対して調査を実施（2年の学年末）したところ，傾向的には同じ問題をかかえていることが認められたので，その後，1年間の漢字学習を経た3年終了段階で，事例生徒がその後も問題として持ちこしているもの，2年の集団調査結果で，成績が不振で問題だったものを中心に，3年生に対しても，その終了段階で，集団調査を実施した。なお，教育漢字の読みだけでなく，他の調査も，2年生の集団調査結果と，事例調査の3年前期の結果を考慮して，問題の作成にあたった。（なお，紙数の関係上，その結果を2年時の調査結果同様には記述できないので，結果のあらましをごく簡単に記しておく。）

3年生では，3年最後まで問題の残った音訓の読みを対象に調べた。

川セン　下したし　（1年用漢字）　切サイ　出スイ　歩ブ　字あざ　（2年用）　坂バン　由よし　主ぬし　図はかる　仕つかえる　病やむ・やまい　（3年用）　拾シュウ　言ゴン　機はた　費ついやす　失うしなう　結ゆう　商あきなう　唱となえる・ショウ　（4年用）　貸タイ　漁リョウ　蚕サン　織ショク　留とめる・リュウ　報むくいる　統すべる　健すこやか　経へる　興おこる　価あたい　承うけたまわる　責せめる　魚うお　省かえりみる　（5年用）　納トウ　暴バク　舌ゼツ　已キ　退しりぞく　難かたい　奮ふるう　否いなむ　災わざわい　採とる　欲ほっする　授さずける　眼まなこ　断たつ　潔いさぎよい　（6年用）　(50字)

7校（497人）平均正答率

90%以上　主ぬし　言ゴン　（唱ショウ）（留リュウ）

70%　〃　下しも　歩ブ　図はかる　病やまい　費ついやす　健すこやか　断たつ

60%　〃　川セン　出スイ　納トウ　遺ユイ　唱となえる　漁リョウ　蚕サン　報むくいる　責せめる

退(しりぞく)

50%〃　切(サイ)　仕(つかえる)　病(やむ)　留(とめる)　経(へる)　魚(うお)　暴(バク)　奮(ふるう)　採(とる)

40%〃　下(もと)　拾(シュウ)　商(あきなう)　価(あたい)　承(うけたまわる)　省(かえりみる)　己(キ)　難(かたい)　欲(ほっする)

30%〃　字(あざ)　機(はた)　結(ゆう)　舌(ゼツ)　授(さずける)

20%〃　坂(ハン)　織(ショク)　興(おこる)　災(わざわい)　潔(いさぎよい)

10%〃　由(よし)　貸(タイ)　統(すべる)　否(いなむ)　眼(まなこ)

2年の調査結果と比べると，その後の進歩発達がみられるが，中には，2年の調査時の方がよいもの(災眼拾)，ほとんど発達の認められないもの（病商貸漁留統退採授）もある。そして，これらの現象は，事例調査にみられた現象と同じである。仔細に見れば，学校，学級により多少の出入はあるが，傾向としては共通性が認められた。

反応の中で，注意されることは，つい先ごろまでは，「承われば……の由」の書簡文の一つの型として読み書きともに必要だった「由(よし)」も，義務教育終了段階で11.3%，中には0の学級もあり，書簡文の推移変化を示している。

従来の調査結果で「字(あざ)」は読み不振であり，調査の対象地域が東京中心であったからと理解していたが，今回の調査でも，平均38.4%と低い。しかし東京両校の10%台に比べ，大阪，名古屋は高く，ことに名古屋は70～80%台で有意差を示している。「字」が現実のものとして活用されている地域性を示しているといえよう。もっとも次の「魚(うお)」のように，関東圏ではなじみの薄い「うお」（「さかな」が一般）は，2年では教育大の附属中学が参加していて平均46.9%であり，関西圏も加えた今回の調査結果を期待したが，関西圏でも（86.7%～55.3%）であり，総平均68.4%と，地域性が顕著には出ていない。テスト後に生徒諸子にたずねてみたら，話しことばとしては多く「さかな」に移っていることがわかり，訓とことばの年代的変化・推移について考えさせられるものがあった。

その他，音は読めても訓では不振（唱，留を試みに調べたところ，唱(ショクとなえる)音98.8／訓61.2　留(リュウとどめる)93.2／56.3）あるいはその逆（川，下）という音訓のアンバランス現象は，事例調査と同様依然としてみられ，問題を残していること

が認められる。

(2)　教育漢字の書き（問題4）——調査の文字と結果

義務教育終了段階までに，教育漢字が書けるようにと要請されながら，事例調査結果でも，また，他の諸調査の結果でも，それが達成されていないことを認めないわけにはいかない。

事例調査結果や2年時の集団調査の結果，成績不振のものを中心に問題を作成した。

3年用漢字　2字
4年用　〃　5字
5年用　〃　18字
6年用　〃　35字　計60字

（各文字の提出語形は，なるべく生徒に親しい，書きやすいことば（音・訓）で書かせ，中には，他の音訓・刺激語でも書かせてみた。）

結果は次のようで，50%以下の字が$\frac{1}{3}$もある。

90%以上　供ども　（供キョウ 68.6%）
80%　〃　礼レイ　唱ショウ　歯は　留リュウ　総ソウ　災サイ　（火災。災難76.7%）　株かぶ
70%　〃　待まつ　底そこ（テイ61.6）　易エキ　報ホウ　蚕かいこ　承ショウ　婦フ　備ビ　低ひくい　張チョウ　候コウ　派ハ（流派。派遣68.8）　眼ガン　招まねく　拡カク　（拡大。拡張67.6）
60%　〃　借かりる　拾ひろう　貸かす　象ショウ　票ヒョウ　均キン　臨リン　難ナン（困難。災難51.5）　暴ボウ　宣セン　除のぞく　純ジュン　減ゲン（へる58.6）　欲ヨク　誤ゴ（誤解・誤答）　未ミ
50%　〃　救キュウ　すくう　祝いわう　遺イ　補ホ　尊セン　衆シュウ　潔ケツ　勤キン　退タイ　複フク　述ジュツ
40%　〃　歓カン　就シュウ　版バン　奮フン　妻つま　異イ
30%　〃　貯チョ　厳ゲン
20%　〃　称ショウ　穀コク

音訓いずれでも正答率に大差のない字（低除救）もあるが，結果に差の生ずるもの（供底減）もある。災派拡難誤の字は，今までの調査で，不振であったために，提出語形を変えたものを加えたところ，誤答＝誤解とほとんど差のないものもあるが，困難〉災難，火災〉災難　流派〉派遣　拡大〉拡張と，生徒に親しい語形は10%近く正答率が上回っているものもあり，教育漢字でも，中学3年生のこの段階では，文字によっては提出語形の親近の差によって，この程度成績が左右されること，まだ教育漢字を十分に使いこなすまでに至っていないことがわかる。しかし，2年時の集団調査の結果と比べると，唱底臨遺暴補宣専除衆歓勤就派眼拡などはやはり進歩発達が認められる。（変化のないもの→借低難純，2年のほうがよいもの→救災称異）

問題1の教育漢字の難読のものと比べると，読める字の6～8割が書けるというのが通常の読字対書字の関係であるが，読めない字であるだけに，次のように，奮遺退の3字を除いては，すべて書くほうが成績がよい（読みやすいものはその逆，唱留など）ことがわかる。

〈文字〉	拾	唱		留		報	貸
〈読み〉	シュウ	となえる	ショウ	とめる	リュウ	むくいる	タイ
<問題>	拾得物	唱	合唱	留める	留学	報いる	貸与
<正答率>	42.9	61.2	98.8	56.3	93.2	65.1	18.5
〈書き〉	ひろう		ショウ		リュウ	ホウ	かす
<問題>	拾う		合唱		留学	報告	貸す
<正答率>	69.2		88.9		87.1	75.3	63.0

〈文字〉	蚕	承	難	暴	潔	眼
〈読み〉	サン	うけたまわる	かたい	バク	いさぎよい	まなこ
	養蚕	承る	たえ難い	暴露	潔い	血眼になる
	63.0	43.1	49.5	55.5	24.3	21.4
〈書き〉	かいこ	ショウ	ナン	ボウ	ケツ	ガン
	蚕	承知	困難・災難	暴風雨	清潔	近眼
	72.6	74.2	63.5　51.5	60.6	54.1	74.2

〈文字〉奮　遺　災　退　欲

〈読み〉	ふるう	ユイ	わざわい	しりぞく	ほっする
	奮う	遺言	災い	退く	欲する
	54.7	66.0	28.4	63.0	46.9
〈書き〉	フン	イ	サイ	タイ	ヨク
	奮闘	遺産	火災・災難	退学	欲ばり
	45.1	55.9	89.1　76.1	54.9	63.8

2.　教育漢字外当用漢字

(1)　教育漢字外当用漢字の読み（問題2）——調査の文字と結果

教育漢字の読みと同様のねらいで問題を作った。

一　1～20　　音はよいが訓の不振のもの　20字

二21～40　(イ)訓がよくて音不振のもの

(ロ)1音の文字で読み不振のもの

(ハ)音訓ともに成績不振のもの

41～50　二の(ハ)のうち訓その他。　　計45字（51音訓）

中学生になってから学習の対象になる文字であるだけに，教育漢字に比べて，3年生なりの発達のあとがみえる。（2・3年調査共通文字について。悔恨は除く）しかし，調査対象の文字（読み）が，それぞれ，問題もちこしのものであるだけに成績としては総体的に不振で，平均正答率80%以上の文字は危ぶ1字だけである。

ことに払・泣（4.2　4.4%）から，20%台の文字は2年時に比べると多少の伸びは認められるが，依然として読みにくい。

80%以上　危(あやうい)

70%　〃　忙(いそがしい)　捕(とらえる)　麗(レイ)

60%　〃　怒(いかる)　怠(タイ)

50%　〃　慕(したう)　戯(たわむれる)　施(ほどこす)　妥(ダ)　既(キ)　怠(おこたる)　奪(うばう)

40% 〃　顧(かえりみる) 企(くわだてる) 趣(おもむき) 皆(カイ) 麗(うるわしい) 醜(みにくい) 欺(あざむく)

30% 〃　卑(いやしい) 惑(まどう) 請(こう) 机(キ) 添(テン) 煩(ハン) 該(ガイ) 恨(うらむ)

20% 〃　汚(けがす) 募(つのる) 仰(おおせ) 巡(めぐる) 茂(モ) 詳(ショウ) 奪(ダツ) 堕(ダ) 醜(シュウ) 暫(ザン)
悔(カイ) 恨(コン) 煩(わずらわしい) 携(たずさえる)

10% 〃　憤(いきどおる) 侮(あなどる) 袋(タイ) 衷(チュウ) 既(すでに) 堪(たえる)

10%以下　充(あてる) 泣(キュウ) 払(フツ)

これら音・訓の読めないのは，やはり次のようなことが原因であろう。

① その文字（語）が教科書で使用されていない，また，日常生活でも目にする機会が乏しい。

教育漢字外当用漢字全数は，国語の教科書で出しにくく，したがって，教科書によって多少の違いがあるが，提出しきれない文字は巻末などに補充されているのが現状である。したがって，音訓を度外視しても読めない漢字がいくつかある（例—匳朕贋など）。この調査では特殊なものはさけて日常生活で知っておいたほうが望ましいものをいくつか出題したが，結果としてはやはりそれが出ている（憤暫悔詳煩恨醜堪など）。音訓によって多少の出入があるもの（煩既醜）もあるが，やはりあまり成績がよくない。これらの文字は，教科書の文章としても用いられにくいから新出漢字としても提出されにくいのである。

② その文字が，音訓どちらかでは多用され，それが教科書をはじめ他のものから読めるようになれるが，他の日常生活でも使われない，学習もされないでいる読みのほうはますます不振となる。

泣(キュウ)　払(フツ)　袋(タイ)　茂(モ)　詳(ショウ)　などは，他の訓では十分よく読める，反対に　充(あてる)　侮(あなどる)　汚(けがす)　募(つのる)　巡(めぐる)　請(こう)　惑(まどう)　なども，他の音では，十分読める。

泣(キュウ)　払(フツ)　袋(タイ)　などの読みを問題化する場合，どのような語形で提出したら今の中学生諸子の語彙力に堪えるか，迷うほどである。

泣(キュウ)——→感泣，号泣　　払(フツ)——→払底，払暁　　袋(タイ)——風袋，魚袋

「既(キ)」も誤答が多く，ほとんど既(ガイ)（成(セイ)）と読んでいる。

訓読みの場合でも，充(あ)て→充当する　侮る→軽蔑する（他の語でいいかえ），募る→募集する　請う→請求する　惑う→当惑・困惑する　巡る→巡回する　汚す→汚＋○（漢語化）

のように用いられることが多く，親近性がないからである。

さらに，それら親しくない訓のほかに，別訓や俗訓が行なわれていれば，その読みに従いがちであることも従来みてきた通りである。憤(いきどお)る→おこる　汚(けが)す→よごす　巡(めぐ)る→まわる　怒(いか)る→おこる　の反応が，3年のこの調査でも多く見受けられた。

既の訓「すでに」は，「キ」の音読みよりさらに読めない。中学での漢文学習では口語訳などが多く，漢文脈の文章に接することがいたって少ない現状を反映していると思われる。大学受験生の答案の文章の中で，「既に」と書くつもりで「がいに」と書き採点の教師の判読を迷わせたという挿話は実態を語っている。

(2)　教育漢字外当用漢字の書き（問題4）——調査の文字と結果

事例調査および2年集団調査結果を参考にし，成績のわるい，問題のあるものから文字を選んだ。なお，書けるようには要求されていない教育漢字外当用漢字であるから，比較的生活上必要と思われる文字を選択した。

(一)　25字（前回と同じ文字）

(二)　15字（新しく加えた文字）　計40字

問題のある文字を対象としただけに，全般的に成績は不振であるが，中には，ある種の教育漢字よりも書けるものがあり（忙，趣，巡，施），平均正答率50%以上のものが14字，約$\frac{1}{3}$ある。

(一)の部は，2年時の集団調査結果と比べていずれも成績が上昇しており，学年としての発達がみられた。

音訓をかえると成績の異なる(忙(いそが)しい＞多忙　醜悪〈醜い)，音訓によってほ

70%以上　忙(いそがしい)(多忙56.1%)　巡(ジュン)　施(シ)　(実施67.8)　趣(シュ)

60%　〃　怒(いかり)　劇(ゲキ)　描(ビョウ)(えがく)　充(ジュウ)　払(はらう)

50%　〃　怠(おこたる)　募(ボ)　危(キ)　汚(けがす)　(汚職48.9)　畜(チク)　(畜産業45.3)

40%　〃　捕(とらえる)(捕手34.6)　誉(ヨ)　欺(いつわる)(詐欺38.0)　滅(メツ)

30%　〃　姓(セイ)　籍(セキ)　携(ケイ)　捨(すてる)　醜(みにくい)(醜悪20.1)　啓(ケイ)　迎(ゲイ)(むかえる)　雇(やとう)　掘(クツ)(ほる)

20%　〃　催(サイ)　顧(コ)　憤(フン)　倹(ケン)　謹(キン)　傷(ショウ)

10%　〃　噴(フン)　履(リ)　暇(カ)　契(ケイ)　衰(おとろえる)　宜(ギ)

10%以下　簿(ボ)

とんど変化のないもの（描く—描写　汚す—汚職　歓迎会—迎える　掘る—発掘）がある。後者より前者の音から構成される語に親近性が乏しいからであろう。また，同じ文字を含む熟語—提出語形によって成績に変化のないもの(劇場・演劇戸籍・本籍）と，提出語形によって成績に変化のあるもの（巡査〉巡回　家畜〉畜産業）とがあり，これもこの階段での中学生の語彙としての親しさの度合いの反映と受け取られる。

事例調査の結果では，3年終了時までに8人全員が書けるようになる教育漢字外当用漢字が$\frac{1}{5}$強あり，この調査でも70%以上の文字が多少はある。しかし又同時に，書くことまでは要求されていない教育漢字外当用漢字ではあっても，日常生活で，早晩，書くことが予想され，書ければ生活に役立つ，義務教育終了段階までに書けるようになってほしい漢字でも書けないものもある。40字の中には，そうした性格の文字も入れておいたが，3年生集団に試みて，やはり事例調査と同様の傾向，結果がみられた。

姓名の姓，本籍・戸籍の籍，拝啓の啓，謹賀新年・謹啓・謹んで……の謹，履歴書の履，休暇願（届）契約，簿記・家計簿などは，いずれも平均正答率30%以下の成績である。昨今は姓名は氏名に，履歴書などは印刷して，直接手書きの必要性が少なくなっているためか，進学率が上昇して，社会生活への関心や必要感が乏しいためか，社会生活の上で書くことの必要性の高い文字，書ける文字の性格や様相・実態も，時代によって変化するもののようである。

3. 表 外 字

(1) 読 み の 成 績

2年生の集団に表外字の読みの調査を実施した結果，事例調査の結果との共通性が認められたので，さらに表外字の読みについて確かめるため，3年生集団にも実施した。

調査文字は2年生に実施した50字中，平均正答率の高かった僕・阪・伊及び甚・吾（事例調査校の校長名のためよく読めたが，一般性が少ない）の5文字を瓶菅隅濯播とかえた。

平均正答率　84.1%，それぞれの文字も，よく読めている。

95%以上　藤岡杉鹿彦靴塚亭亀嵐堺崎

90% 〃　菅智堀潟釣皿枕柿鶴奈

85% 〃　汁弘菱洞狼呂鎌韓

80% 〃　須鳩梶瞳隅蓮釜岬

75% 〃　頃

70% 〃　殻嘩昌幡

60% 〃　函洪

50% 〃　濯漠禄播

40% 〃　瓶

個々別々にみれば，多少の個人差，学校差（学級差）があるが，全体としてみると，集団調査の結果も，事例調査の結果も共通性があること，特に成績のよい文字に，それが認められる。50%前後のものでは，濯を除いては他の文字は事例調査でも成績はあまりよくないほうで，「瓶」など試みにこの表外字群に入れてみて，やはり，同様の結果であることがわかり，総体的に事例調査結果の信憑性が高いことが確かめられた。（昭和40・41年，文部省国語課で地名・人名関係の表外字の読みを調査〈小学校6年，中学校3年生〉した結果でも，地名・人名の正答率の高い一連の文字・岡潟鹿藤杉鶴鳩亀などは共通してよく

読めている。）

なお2年生でもみたが，これらの反応，読まれかたによって，音の読みが多いもの音優位，訓の読みが多いもの訓優位，音訓ともに読まれていて両者の差がない音・訓同位に分けてみると，次のようになって，それぞれの文字の読まれかたが，その文字の一般の使われかたとの対応を示していて，反応への信頼性があることが認められる。

音優位の字　　智須亭洞殻嘩濯昌蓮呂奈韓洪漠禄播

訓優位の字　　瓶頃岡杉鹿彦靴塚鳩堀汁潟釣亀皿菱枕梶瞳嵐柿堺崎鶴狼釜幡函岬鎌

音・訓同位の字　藤菅弘隅

(2)　表外字の習得経路

事例調査の方で読みの成績だけでなく，表外字の習得経路をたずねたことが，表外字の習得の実態を知る上に効果的であったので，集団調査でも同様の方法によって調査した。内省記入は強制はしなかったが，生徒諸子は非常に協力的であったので，興味ある結果が得られた。

この調査では文字数が50字であること，しかも正答反応度の高い文字を多く選んであるためか，習得経路も相当に集中化されていること，それぞれの文字の使われ方が，生徒の文字接近の経路を反映していることなどが認められた。

それぞれの文字について，その習得経路を答えたものを，多い順に並べると，文字によって習得経路に特異性のあることがわかる。（記入の仕方は自由なので整理にあたっては，一応，次のようにまとめた。分類の仕方には多少問題も残るが，次に従った）

・人名（社名・法名も含む）
地名（国名も含む）
物名（動・植物名，製品名等）
学習（社会・国語・理科等の各教科及び辞書・図鑑等）
一般読書（単行本その他の一般よみものマンガも含む）
マスコミ（テレビ・新聞）
趣味・娯楽（歌・舞踊・映画等）
宣伝（看板・広告・宣伝その他）

ことば

1～5位まで，反応の高い順に示し，5位以下は省略

＜表外字習得経路例＞

経路	反応率	記入例
藤（98.8%）		
人名	69.5	
物名	13.5	(植物名・藤の花)
学習	5.9	(社会・詩俳句・辞典・図鑑)
趣味娯楽	5.1	(舞踊・映画)
地名	2.2	
智（92.9）		
人名	58.0	
学習	17.0	(社会・地図・教科書)
一般読書	5.2	
地名	3.3	
マスコミ	2.8	(テレビ・新聞)
梶（82.6）		
人名	70.8	
マスコミ	6.6	(テレビ・新聞)
一般読書	1.0	
学習	0.7	
宣伝	0.2	(看板)
鎌（85.8）		
地名	44.6	
学習	30.2	(社会・地図・理科)
人名	14.2	
一般読書	6.4	(本)
マスコミ	0.5	(新聞)
呂（87.7）		
地名	25.2	(地名・登呂・下呂)
物名	25.2	(風呂)
人名	18.2	(人名・店名を含む)
一般読書	6.9	(本)
学習	4.2	(地図・音楽・社会)
宣伝	1.8	(看板)
マスコミ	1.8	(テレビ・新聞)
瓶（40.3）		
物名	30.7	(花瓶・まほう瓶・商品名・水瓶)
読書	12.6	
宣伝	10.1	(広告・看板)
学習	9.5	(美術・教科書・理科社会・詩俳句・英語)
マスコミ	8.0	(テレビ・新聞)

潟（94.1）

地　　名　63.0(新潟・八郎潟)
学　　習　30.3(地図・社会・国語・理科)
マスコミ　0.9(新聞・テレビ)
人　　名　0.4
宣　　伝　0.2(看板)

枕（91.5）

学　　習　67.0(枕草子・国語・草枕詩歌<枕ことば>・社会・地図・美術)
一般読書　12.4
物　　名　4.0(枕・水枕・枕木)
地　　名　2.2
人　　名　1.8

禄（50.0）

学　　習　59.1(社会・地図)
一般読書　23.9(本)
こ と ば　4.0(奉禄・家禄・禄高)
マスコミ　3.2
趣味娯楽　3.2(長唄・曲名)
人　　名　2.8

瞳（83.4）

一般読書　44.7(二十四の瞳・本・マンガ)
趣味娯楽　16.3(歌<黒いひとみ>・曲名・映画
学　　習　6.1(国語・理科<瞳孔>・辞典・詩)
人　　名　3.4
マスコミ　2.9(テレビ・新聞)

漠（57.3）

物　　名
(現象名)　59.0(砂漠)
一般読書　19.8(本)
学　　習　14.1(地図・国語・辞典)
地　　名　7.8
こ と ば　4.6(漠然)

狼（89.7）

一般読書　37.9(本・マンガ・狼少年)
マスコミ　13.8(テレビ・新聞)
物　　名　5.9(動物名)
趣味娯楽　4.1(映画・音楽)
こ と ば　3.6(一匹狼・狼人間)

亭（95.3）

宣　　伝　16.8(看板・その他)
人　　名　13.4(落語家)
物　　名　12.3(料亭)

マスコミ　10.0(テレビ・新聞)	一般読書　10.3(本)
こ と ば　7.2(亭主)	趣味娯楽　4.2(映画・歌)
嘩 (72.5)	マスコミ　3.9(テレビ・新聞)
こ と ば　22.9(喧嘩・日常語)	宣　伝　3.1(看板・広告)

<注>習得経路の反応数は各文字についての正答数に対する比率。なお，正しく読めていて，内省のほうは，無記入のものもある。

集団調査による表外字の習得経路を整理してみると，上のように，文字によって，それぞれ習得経路の特殊性，特徴があり，しかもこの段階の中学生徒にとって，相応なものを感じさせられる。

「藤」は正答率も高いが，習得経路も，人名が半数以上を占めており，次は，藤の花という植物名から，学習関係からは，第三位であることがわかる。学習関係の中には，社会科からと答えたもの（社会—歴史で，藤原氏など記入）詩や俳句で，あるいは植物図鑑等でおぼえたとしたものがあり，学習の効果が想定されるので学習関係の領域内に一括した。学習外のものとしては映画・音楽・舞踊等に関連するものをとりあげて，一応，趣味・娯楽とした。「藤」では，舞踊の「藤娘」が相当あげられており（記入例おどり—藤娘），踊りの種目名からとわかる。このように整理してみると，藤という字は人名関係からの習得が他からのものと比べて多いということがわかる。伊藤・佐藤・斎藤・加藤・藤沢・藤原等のように，日本に藤の字を用いた姓の多いことを思い合わせると，かなりの信頼性が感じられる。しかも五位内の順位，相互関係，引用例などを勘案して見ると，さらにその感を深くする。同様に他の諸例の文字とその習得経路との関係も，かなり相関関係の高いものであることが認められよう。ここにあげなかった他の例も同様で，中学生が，これらの表外字にどのように接近し，どのようにして習得していくかが察せられる。

このようにして集団反応の経路の多い字を順次に整理してみると，人名系統の字，地名系統，学習系統の字というように，大ざっぱに類別することができる。以下は，50字を類別したものである。（　）内の数字は，類別に属する習得経路の反応の%…最高反応の%である。

(人名)

藤(69.5)　杉(37.1)　菅(40.7)　岡(44.4)　彦(55.8)　智(58.0)　塚(35.5)
堀(30.5)　弘(56.7)　梶(70.8)　柿(23.3)　菱(社名70.4)　崎(37.7)
鶴(21.3)　蓮(44.4)　昌(36.8)

(地名)

須(36.8)　潟(63.0)　堺(44.7)　隅(29.0)　釜(48.3)　幡(37.3)　呂(25.2)
鎌(44.6)　函(78.8)　奈(69.1)　韓(60.0)　播(19.1)

(物名)

瓶(30.7)　鳩(31.1)　汁(37.7)　皿(16.7)　殻(30.4)　濯(67.1)

(学習)

枕(67.0)　嵐(23.6)　禄(59.1)　岬(39.7)

(一般読書)

亀(18.2)　瞳(44.7)　狼(37.9)

(宣伝)

靴(55.7)　亭(16.8)　釣(31.5)

(ことば)

頃(28.6)　鹿(21.0)　洞(31.8)　嘩(22.9)　洪(洪水という現象名　54.7)
漠(砂漠という現象名　59.0)

8人の事例調査の場合にも，傾向的にはその文字の習得経路がとらえられたが，500人に近い集団調査では，それがさらに集中化されるため，上のような結果が出たわけで，直接学習の対象でない——表外字——文字習得の一つの側面を示唆するものとして興味深い。

4. 読みにくい音

漢字の音読みのうちで，呉音をはじめ漢音のある種のものなど，現在日常使われている音では読めない特殊な音読みのもの，いわゆる難読の漢字（語）がいくつかある。これらは特殊なものであるが，その語が使用されている現在，

やはり読めることが望ましい。8人の事例調査結果で，また，2年の集団調査結果で，特殊音も含めた読みにくい音読みの語の調査を実施し，やはり読むことに相当抵抗のあることがわかったが，義務教育終了段階で，どの程度それらが読めるようになったか，あるいは，特殊音（の語）にどの程度接近しているかをみようとしたのが，この問題である。今までのテスト結果で，読みにくかったものを，教育漢字から19字（21語），教育漢字外当用漢字から8字（10語），計27字（31語）えらんで問題を構成した。

教育漢字から19字（21語）　もんだい一

緑青　一朝一夕　会釈　読本　回向　最期　久遠　尊重する　罪業　成就

対句　解毒・解脱　遊説　精進　衆生　荘厳な　権化・権現　遺言　供物

教育漢字外当用漢字から18字（10語）　もんだい二

懸念　お布施・施療　繁盛　虚空　帰依　昔日　普請　仰天・仰山

（実施にあたっては，「出納」の語を板書し「シュツノウ」でなく「スイトウ」という特殊な読みかたであることを説明，問題を理解させてからこたえさせた）。

	教育漢字	教育漢字外当用漢字
90%台	尊重(93.4)　遺言(91.5)	
70　〃	会釈(79.5)　対句(75.1)	
60　〃	荘厳(60.6)	お布施(60.0)　(施療12.7)
		仰天(60.0，仰山45.5)
50　〃	久・遠(55.5, 42.9)	
	供・物(51.5, 50.5)	
40　〃	精進(45.9)　成・就(40.6, 42.3)	繁盛(48.1)
30　〃	緑青(39.2)　最期(31.0)　解毒(解脱21.5)　権化(36.8，権現26.8)	懸念(35.4)
	読本(33.0)	
20　〃	一夕(25.2)　回向(24.3)	
	遊説(26.6)　権化(29.2)	
10　〃	罪業(19.1)　衆・生(11.7, 16.1)	普請(17.9)　帰依(13.5)
		虚空(10.3)
10%以下		昔日(9.9)

左のような結果となる。昔日，虚空，帰依，衆生，罪業など10%台でしか読めないものもあるが，尊重，遺言は90%台，会釈，対句70%台など，より日常性のあるものはかなり読めている。また，2年実施の共通問題と比べると，3年生なりの進歩が見られ，古典その他の学習や一般読書を通じてこの種の特殊音の語への接近がわかる。

ここにとりあげた27音（31語）は，社会では行なわれているとはいえ，次第に特殊用語として使われる場合も限られているものが多く，ことに，業ゴウ，衆生，帰依，虚空，回向など仏教関係のものは，生徒に無縁なゆえか読みにくい。もっとも，お布施は意外に読めているので，大阪府の布施市，居住地の隣接地名の影響かと思ったが，他の地域でも一様に読める。調査実施中「布施明（歌手名）」という私語がきかれ，これなどは，仏教語としての布施ではなく，親しい人名からの習得であることがわかる。同じ音，施療の方は10%台で，有意の差を示している。

同じ音でも，親しさの有無・程度によって読みが左右される例ではこの他，解毒〉解脱，権化〉権現　仰天〉仰山がある。「仰山」は話しことばの「ぎょうさん」と通ずるものとして，関西圏での高い反応を期待したが，「仰天」の方が読めていた。読本はやはり「ドクホン」と濁音化して読む傾向があり，3年生では，社会科や文学史の影響から「よみほん」と読むものも少数あって，「トク」の読みは次第に減少していくものと思われる。

古典や漢文の学習が，現行の国語学習ではあまり行なわれていないから特殊な音読みは読みにくくなろう。義務教育終了段階で現状だとすると，こうした一連のものは，高校教育をまって抵抗なく読めるようになるのであろうか，たしかめておきたいものである。

5.　訓の読みと意味把握

漢字の訓の読みと意味把握の関係についての調査を2年の集団調査で試みたところ，読みに抵抗のある訓は，意味把握もあいまいで低い傾向がある。語彙

問題7の反応

語の理解度 / 両年度の比較反応	1．ついやす〈費〉					2．きそう〈競〉					3．となえる〈唱〉				
	イ意味をかく		ロ使用例など	ハなんとなくわかる	ニ意味がわからない	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A意味をかく	Bそのうち正答				A	B				A	B			
3年生計497人	69.2	54.5	69.8	21.5	3.6	85.1	83.3	68.6	14.9	0.8	38.2	20.3	66.0	36.8	9.3
2年生計369人						83.8	81.4	8.1	4.6	3.5	42.3	15.9	21.6	27.8	8.3

語の理解度 / 両年度の比較反応	4．むくいる〈報〉					5．すべる〈統〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B			
3年生計497人	30.4	16.7	50.3	47.7	12.5	17.5	12.1	26.4	21.1	54.9
2年生計369人						22.1	13.2	4.6	23.7	49.5

語の理解度 / 両年度の比較反応	6．うけたまわる〈承〉					7．かえりみる〈省〉					8．しりぞく〈退〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B				A	B			
3年生計497人	69.6	45.5	58.1	21.9	4.4	67.6	50.3	52.1	20.1	10.9	77.9	64.8	56.9	21.7	2.4
2年生計369人	70.3	44.5	9.7	14.8	5.2	66.0	61.2	3.8	15.1	15.1					

語の理解度 / 両年度の比較反応	9．もうける〈設〉					10．さからう〈逆〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B			
3年生計497人	67.0	51.3	69.4	22.7	2.4	82.3	76.7	64.2	14.1	1.2
2年生計369人	68.2	44.7	12.4	16.4	2.9					

語の理解度 / 両年度の比較反応	1．つのる〈募〉					2．けがす〈汚〉					3．ほどこす〈施〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B				A	B			
3年生計497人	40.0	28.6	43.3	23.9	28.4	70.4	60.4	52.3	24.1	6.2	43.5	29.8	41.2	38.2	10.5
2年生計369人	37.7	29.4	9.4	22.4	30.5	63.6	48.8	9.2	13.5	13.7	42.3	26.1	7.0	30.7	19.9

語の理解度 / 両年度の比較反応	4．たわむれる〈戯〉					5．まどう〈惑〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B			
3年生計497人	44.9	19.3	51.7	31.2	9.7	62.8	58.1	36.6	23.9	12.3
2年生計369人	55.5	20.5	8.9	23.2	12.4					

語の理解度 / 両年度の比較反応	6．いきどおる〈憤〉					7．わずらわしい〈煩〉					8．あなどる〈侮〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B				A	B			
3年生計497人	25.8	15.3	17.7	20.7	48.1	54.5	34.4	39.0	25.2	15.3	35.6	26.8	27.8	18.7	40.6
2年生計369人															

語の理解度 / 両年度の比較反応	9．つぐなう〈償〉					10．まぬかれる〈免〉				
	イ		ロ	ハ	ニ	イ		ロ	ハ	ニ
	A	B				A	B			
3年生計497人	50.5	35.8	60.8	29.8	1.4	53.5	42.5	52.5	29.6	8.0
2年生計369人										

力の増大するはずの3年生について読みとの関係を調べたのが，問題7である。

3年前期までに訓の読みに抵抗のあったものを教育漢字から10語，教育漢字外当用漢字から10語，計20語えらび，それぞれの語について，

(イ)　意味の書けるものは意味を書く（使用例がわかったら使用例も書く）

(ロ)　意味が書けない場合は，どういう時に使うか，または使用例を書く。

(ハ)　なんとなく意味はわかるが，うまく言えない場合は○印

(ニ)　どういう意味かわからない場合は×印の4通りに反応させた。（やり方は練習問題によってよく理解させてから実施した。）

反応結果のうち，(イ)の意味を書いたもので，使用例をあげたものと，(ロ)の使用例のものとの理解度の差を判別できないものがあり，また，(ハ)に反応したものの中にも同時に使用例などをあげているものもあって，(ロ)と重複するものも多少はあるが，いずれにしても，統べる，募る，憤る，侮るなどは(ニ)の反応が多く，総じて，(ハ)(ニ)の反応の多いものは読みの結果も不振である。同時に実施した読みの調査結果と対照してみると，反応と読みの関係がわかる。（415ページ参照）

読みの正答率（実施したもののみ）

(一)実施両年度正答率比較	(1)費やす	(2)競う	(3)唱える	(4)報いる	(5)統べる	(6)承る	(7)省みる	(8)退く	(9)設ける	(10)逆らう
3年生(497人)	78.3%		61.2	65.6	10.1	43.1	49.5	63.0		
2年生(365人)		58.5	49.1		8.1	27.9	39.3	59.1	64.7	53.4

(二)実施両年度正答率比較	(1)募る	(2)汚す	(3)施す	(4)戯れる	(5)惑う	(6)憤る	(7)煩わし	(8)侮る		
3年生(497人)	24.7	22.9	57.9	50.1	30.8	14.1	20.7	16.7		
2年生(365人)	12.3	4.3	15.7	24.4		4.9		4.1		

読みの正答率はいずれも3年がよい。一方，語の意味理解度の反応（イロハニ）は，必ずしも3年が優位ではないかにみえるものがある。たとえば，(ハ)(ニ)

の反応が2年より多いものがあり，(イ)の反応に2年とほとんど変らないものがあるなど。しかし，これは，2年の場合は，(ロ)の使用例が少なく，(イ)に反応したものでも，意味を誤っているものが相当あったのに対し，3年では，(ロ)の使用例を書いたものが，どの語にも多く，しかも正しく使われているものが多くなってきたこと，(ハ)に反応しながら使用例も書いているものがあったこと，(ニ)の反応も3年生としての判断の結果であることなどによると思われる。なお，2年に比べて，3年の調査結果の特徴として，

①　(ロ)の反応で，使用例を書いたものが多く，しかも正答が多くなったことである。生徒の主観的判断による(イ)(ハ)(ニ)の反応数は，2年と比べてあまり好ましくないにかかわらず，これらの語の読みの成績はいずれも3年の方がよいというのは，実はこの(ロ)の反応と関係するからであろう。意味の定義づけができるもの(イ)と，意味がわからないもの(ニ)と上下二層にはあまり学年差がなく，文字を読めるようになったものと，その語の使用例をあげることができるものとの層が3年の進歩者の層，発達現象とみれば，両者の関係が了解できる。

②　次に，語の意味の記述，説明のしかた，使用例の示し方が，2年と比べて範囲が拡がり，用語も豊富になってきたことである。

各語の意味を説明する，使用例をあげる時，2年時の同種の調査では，うまく説明できないためか，その文字をとりこんだ熟語を記入してすますことが多かったが，その熟語の種類は1・2に限られて乏しかった。3年では，熟語の種類が多く，範囲も広いことが一つの特徴といえる。一つの語・文字によって触発・連想される語が広く多種になるということはそれだけ，その文字に対する認識が深くなり，応用化ができてきたということ，習得の程度が深くなったということ，換言すれば語彙の理解がましたということにもなる。

(1)　意味把握の増大・深化

1)　熟語として

3年の調査で，意味の説明や使用例を熟語で答えた例

一の(1)　ついやす（費）　漢字の熟語で答えた率　21.6%（7校平均）

費用（15.9）　消費　浪費　空費　（会費・食費・雑費・出費）

(2)　きそう（競）28.7%

競争（21.1）　競走　競技　競馬　競輪

(3)　となえる（唱）22.9%

合唱（16.8）　提唱（唱歌・独唱・歌唱・絶唱）　×水唱

(4)　むくいる（報）28.8%

報酬（4.8%）　報復　報賞(償)　応報（*報告12.8%，報道・予報）

*報いるの意の使用例は少なく，知らせる意味の使用が多い。

(5)　すべる（統）60.3%

統一（46.6）　統率　統計　大統領　伝統　×統実・統充・中統

(6)　うけたまわる（承）26.3%

承知（20.8）　承認　承諾　×承織・承話

(7)　かえりみる（省）32.4%

反省（26.3）　×*省略・*文部省・大蔵省・厚生省

*かえりみる（セイ）意は反省1本で，他ははぶく意と役所の意（ショウ）に使っている。

(8)　しりぞく（退）26.1%

後退（4.6）　退学　退却　退場　引退　退歩　退職　退散　退部　退団　退陣　退院　辞退　退治　退化　進退　撤退

(9)　もうける（設）22.9%

建設（7.0）　施設　設置　設計　設備　設立　設定　敷設　×築設

(10)　さからう（逆）18.2%

反（叛）逆（4.1）　逆流　逆説　逆接　逆境　逆転　逆行　逆数　逆光　逆手　逆風　逆上　逆三角形　×逆退・逆体・逆待・逆殺

二の(1)　つのる（募）42.3%

募集（33.0）　募金　応募　公募　×募人・募黙

(2)　けがす（汚）17.3%

汚職（9.2）　汚染　汚水　汚物　汚名　？汚流　汚手

(3)　ほどこす（施）29.8%

施設（22.0）　施行　実施　施工　施肥　×設施　施置

(4)　たわむれる（戯）17.1%

遊戯（5.4）　戯曲（10.5）　×戯像

＊たわむれるの本義より「しばい」の意の戯曲に多く反応

(5)　まどう（惑）29.1%

誘惑（10.4）　迷惑　惑星　疑惑　当惑　困惑　惑心　惑乱　不惑

(6)　いきどおる（憤）33.0%

憤慨（6.8）　憤まん（懣）　激憤　憤然　×慎起・感憤・憤火・憤水・憤煙・憤出・古憤

(7)　わずらわしい（煩）18.0%

煩雑（17.0）　煩悩　×雑煩

(8)　あなどる（侮）15.2%

侮辱（5.8）　侮べつ　×侮恨　後侮

(9)　つぐなう（償）15.9%

弁償（7.0）　賠償　補償　代償　×償品

(10)　まぬかれる（免）16.9%

免許（4.2）　免許証（書）　免状　免除　免罪　罷(ひ)免　免疫　免税　免職　放免　任免　×免話　免訴　述免

＊「まぬかれる」意より「ゆるす」「しりぞける」の意に多く使われている。

中には，その訓読みと対応しない他訓の誤用の熟語もある。「憤る」など読みの正答率の低いものには，使用例も乏しく誤用も多いという因果関係がみられる。

2)　訓として

訓そのものを使用例にすることができるのは，その訓の読みと意味がわかっていることである。2年ではこの使用例はほとんど見当らなかった。

（例）○となえる（唱）—お経を，経文を，経典を，題目を，念仏を，聖書のことばを，コーランを，仏語を，平和を，自由を，○○説を，自説を，

民主主義を，人権宣言を，新しい学説を，奴れい解放を，天動説・地道説を，じゅもんを，ねがいごとを。×神仏に，仏壇に，一語一語，人々に，演説を，主張を，本を，証文を～。

○すべる（統）―国家を，国を，天下を，人民を，人々を，全体を，クラスを，軍を，政を～。×選挙に，試験に，高校を，なにかを，紙がよく～。

○うけたまわる（承）―お話を，おことばを，仰せを，伝言を，ご意見を，返事を，命令を，用件を，注文を，申しこみを，印刷を，修理を，名前を～。主人から，先生から～。うけたまわりましたところ…×ほうびを，お金を，殿からうけたまわった本（受け賜わるの意の誤用もある）

○もうける（設）―学校を，校舎を，建物を，ビルを，遊び場を，プールを，支店を，会場を，席を，新しい機関を，役所を，学校群制度を，委員会を～。×お金を，本をもう一冊～。

○つのる（募）―寄付を，お金を，資金を，有志を，希望者を，生徒を，会員を，店員を，人を，作品を，論文を，原稿を～。苦情が，かなしさが，うらみが，思いが～。つのる思い。×つのる話（つもる話）もあるだろう。金が，利子が，借金が，ほこりが，雪が～。ちりもつのれば山となる。

いきどおる（憤）―無礼に，発言に，あまりの無理に，今の社会に～。いきどおりの涙を流した。～を感ずる。×いきどおりがする。まっすぐ行くと行きどおる。試験にとおって～。事件が～。あしたは運動会，彼は大へん～。

○あなどる（侮）―他の人を，敵を，人を，相手を，彼を，自分を，やさしい問題を，テストを，意見を～。×あとであなどる（後悔か）

上の例でもわかるように，訓そのものの適切な使用例が見られる。中には誤用もあり，また上例も集中的な答えというより少数者の解答によるもの（中には，数のまとまったものもあるが）であるが，正しい語彙把握がされてきたこと，それだけ訓読みの力も2年よりは定着してきていることを示している。しかし読みにくい訓に誤用があるように，(イ)の意味記述で，相変らず誤答のある

ことも見逃せない。

(2) 意味把握の誤り

1) 意味記述の誤答例

費やす→加える　つけ加える　追加する　何かをつぎこむ　お金を出す　ふやす　おぎなう　あたえるなど。

報いる→～をつたえる　人から人へ言う　そむく　ほうびをもらう　思いかえす　ねらわれる　服従する　やりとげる　しなくてはならないなど。

統べる→おちる　ころぶ　失敗する　やぶれる　すべて　全部ためす　はかるなど。

省みる→みとめる　最初をみる　短かくする（熟語例として略省）　はぶく　もう一度同じことをやりかえす　たしかめる　かえってみる　いったんかえる　裏切る　心みるなど。

募る→ねがうこと　名のる　応募する　納める　出す　ほしがる　したう　ためる　寄付する　心配するなど。

戯れる→集まってむらがること　集まる　悪にとりつかれる　たのしむ　うれしいこと　群れをなして遊ぶこと　そのことばかりに熱中する　ばらばらになっている　きずつく　うろうろするなど。

憤る→よろこびいさむ　わくわくする　いきすぎる　いきづまる　一休みする　つまる　いきとどく　おどろく　つらぬく　精神的ないきづまり　いきいきとした　元気づく　勢いづく　ファイトをもやす　いばる　通りすぎる　もうここまで　終りなど

悔る→しまったと思う　後悔する　くいる　いさめる　なじる　失敗する　うたがう　はかる　なまける　だます　知ったふりをする　自慢する　たどる　あざむく　はかどるなど

誤答の中には，思いもよらないようなものもあるが，大方は，似通った文字，字形，よみ（音声），意味などとの関連において誤りの原因が察せられ，意味がわかるとした中にも，こうした語彙把握のものがいることもわかる。

(3)　読みと意味把握の関係

調査の結果から，読みと意味（把握）との関係をみると，読み正答＝意味（定義又は使用例）正答，読み誤答（無答）＝意味誤答（無答）が一般であるが，このほかに，読み正答≠意味誤答（無答），読み誤答（無答）≠意味正答という場合もある。

（例）　○印＝正答，×印＝誤答，N印＝無答

募る

読み	意味（定義	使用例）
（つのる）		
○	○広く求める	○募金
○	○募集する	
○		○寄付をつのる
N	○募集する	
○	×お金などを納める	×寄付をする
○		×よびかけにつのる
○		×借金をつのる
○		×雪がつのる
（あつめる）×		×お金がつのる
（あつめる）×	○募集する	
（もとめる）×	×名のりでる	○社員の募集
（くばる）×	○募集する	
（あつめる）×		○募る思い
N	×多くなる	×利子がつめる
N		×つのる話が山ほどある
N		×皆の気持がつのる
（くばる・よせる・まくる・はかる）×		N㈠の反応多し
N		〃

憤る

読み	意味（定義	使用例）
（いきどおる）		
○	○憤慨する	
○		○あの人の態度に憤りを感じた
○	×気持が興憤する	×彼はけんかをすると非常にいきどおる
○		×事件が憤る
（おこる）×	○憤まん	
（ふん）×	×いきいきとした	×いきどおる人間
（いかる）×	×興憤する	
（ほとる）×		×憤水
N	×つまる	×まっすぐいくといきどおる
N	×つまる	×意見をのべる時途中でつまる
N	はりきる	×君はいきどおっている
（つまる・なれる・ほこる）×		N㈠の反応多し

上の二例は，読みにくい訓であるから両者の関係が入り乱れているが，他の語も同じような様相である。

正しく読めても意味は誤って理解しているということ及び，意味は理解しその使用能力もありながらその文字が正しく読めないということはなぜか，話しことばなどを通して，その語を音声として知り，意味も知ることができても，その語にあたる文字を知らない場合がままある。語を理解する場合，文字を先行させて，その文字の字義から語の認識・理解にはいる場合と，ことばが先行して，その語の理解のあとに，文字があてはまる場合とがあると思われる。そうした文字と語の理解・認識の関係を，上例が示していると思われる。

文字提出——新出文字——は多用される語（音又は訓）によってまずなされる。したがって訓が先行するとは限らない。訓としての語が現在用いられない文章語的，古典的な字訓は，むしろ多用されている熟語——字音の形で新出され，学習される。音での読み方は習得されても，訓はとり残され，訓読みの語の意味もわからないことが多い。しかし，会話・テレビ・ラジオ等の話しことばを通してその語に接する機会が得られ，語義への接近が，時に字訓や字義の学習より先行する場合，文字の読みと語の意味理解（使用）の不均衡が生ずるものと思われる。

2年時の語彙の意味把握の狭さ低さに比べると，3年では一段と進歩が見られたが，このように意味理解の素地のできた時に学習したほうが効果があがる一連のものがあることも注意しなければならない。

6.　生徒の漢字学習に関する内省・実態・感想・意見など

今までの調査は，漢字習得の実態・結果を見たもの(問題1～7)であるが，最後に，習得と関連がありそうな事項について確かめてみる，漢字学習に対する関心や卒直な意見をきかせてもらうなど，直接ひとりひとりにたずねてみたいことをアンケートによって答えてもらう方法をとったのが問題8である。

(1)　漢字をおぼえる手がかり

一　次の質問にこたえてください。

漢字をおぼえるとき，あなたがおもに手がかりにするものはなんですか。二つ以上あるときは，順位をつけて書いてください。

（　　）

漢字の読みかたをおぼえるときと，書きかたをおぼえるときとでは，手がかりにするものがちがいますか。ちがうと思う人は，読みかた・書きかたそれぞれの下に，手がかりにするものを書き入れてください。

読み（　　）

書き（　　）

漢字をおぼえる際の手がかりとするものは何か，これがわかれば漢字学習を効果的にすることができる。また，読みと書きの成績の差は，両者の機能の差によるものか，あるいは，学習の方法によるものか，それは文字をおぼえる手がかりにも及んでいるかなどをたずねたのが第1問である。（次ページ参照）

反応を見ると，漢字をおぼえる手がかりとして，(イ)　教科書の新出漢字，練習帳・辞典等によるとして，漢字学習の資料的なものをあげたもの，(ロ)　本・新聞・テレビ等，漢字習得の媒体となるものをあげたもの，(ハ)　漢字の形・音・義の構造面，機能面からとするもの　(ニ)　練習作業によるとするもの，(ホ)　自然におぼえるとするもの，(ヘ)　無答に大別できる。(イ)(ロ)による文字を(ハ)(ニ)の方法によっておぼえるということもあって，同一に並列できない反応であるが，生徒にとって，重要の観点が異なっている点，興味があり，参考になる。

(ハ)では，文字を偏・旁に分けて手がかりにするものが多いが，他面，字形全体としての知覚的なまとまりを手がかりとするものもある。分析からするものも最後は全体としての知覚認識が必要であるから両者を判別することはむずかしい。続いて意味から覚えるとするものも多く，熟語としておぼえるというのもある。問題7で，熟語で意味を答える傾向は，これと関連するのであろうか。同音のものを手がかりとするというのは，旁の音符の意であろうし，音訓

1　漢字をおぼえる手がかり

学校 人数 / 手がかり	I 校 41人		B 36		M 46		M 41		T 16	M 40		N 38		平均 498
	41	42	36	34	46	45	41	39	16	40	42	38	38	498
教科書の新出漢字	2.4	4.8	5.6	2.9	2.2	0	0	5.1	37.5	0	0	0	0	3.0
漢字表、練習帳、漢字の本、漢字カード	0	0	0	0	4.3	0	0	0	6.3	0	0	0	0	0.6
辞　典	12.2	0	5.6	2.9	4.3	2.2	7.3	7.7	56.3	5.0	0	0	0	7.6
国語辞典・漢和辞典	9.8 2.4	0 0	5.6 0	0 2.9	4.3 0	2.2 0	7.3 0	5.1 2.6	25.0 31.3	2.5 2.5	0 0	0 0	0 0	3.8 3.8
本・新聞・週刊誌・テレビ等	4.9	2.4	2.8	2.9	2.2	0	4.9	2.6	43.8	2.5	0	2.6	0	3.6
漢字を分解する (部首、文字の構成部分に分ける)	4.9	11.9	2.8	8.8	13.0	8.9	7.3	5.1	0	7.5	2.4	5.3	18.4	9.8
へん・つくり	29.3	35.8	27.8	35.3	21.7	46.7	19.5	20.5	0	32.5	38.1	7.9	36.8	28.5
字形字体	22.0	54.8	41.7	23.5	21.7	17.8	36.6	20.5	0	27.5	23.8	55.3	7.9	28.3
読みからおぼえる同じ読みのもの(音訓)	2.4	2.4	8.3	5.9	8.7	0	7.3	10.3	0	7.5	19.0	2.6	10.5	6.8
意味からおぼえる	41.5	7.1	41.7	11.8	45.7	20.0	17.1	5.1	6.3	17.5	16.7	2.6	2.6	19.1
熟語にしておぼえる	12.2	0	13.9	0	4.3	15.6	34.1	7.7	0	10.0	7.1	13.2	5.3	10.0
何回も書いておぼえる(書き取り)	7.3	0	8.3	11.8	10.9	6.7	17.1	12.8	0	35.0	14.3	10.5	2.6	11.0
別になし・なんとなく自然におぼえる	7.3	7.1	0	11.8	2.2	6.7	2.4	2.6	0	0	2.4	2.6	7.9	4.2
回答なし	2.4	0	2.8	2.9	0	6.7	0	15.4	6.3	0	0	2.6	15.8	4.0

＜注＞「二つ以上あるときは順位をつけて書く」ように指示したが，判然と順位をつけにくいためか，守られず，あげた反応は全部とりあげて整理した。

1　漢字をおぼえる手がかり　1の1　読みでは

学校 / 手がかり	I		B		M		M		T	M		N		平均
漢字をよく読む 教科書　漢字表	4.9	2.4	5.6	0	15.2	4.4	4.9	5.1	0	7.5	7.1	5.3	0	5.2
辞　典	0	0	5.6	0	4.3	8.9	4.9	5.1	18.8	10.0	0	5.3	5.3	4.6
本・新聞・文章をよく読む	2.4	0	2.8	0	6.5	0	2.4	2.6	25.0	2.5	0	2.6	2.6	2.8
へん・つくり	4.9	9.5	19.4	17.6	8.7	8.9	4.9	12.8	0	15.0	11.9	0	0	9.0
字形全体	12.2	11.9	13.9	8.8	8.7	0	0	0	0	12.5	4.8	18.4	2.6	7.4
音をあらわすもの・読める部分	4.9	4.8	5.6	5.9	0	0	0	2.6	0	5.0	0	0	0	2.2
音と訓	2.4	2.4	2.8	5.9	0	2.2	4.9	5.1	0	10.0	0	0	0	2.8
送りがなから見当	2.4	0	0	0	2.2	6.7	2.4	0	0	0	4.8	2.6	5.3	2.2
意　味	2.4	2.4	11.1	0	8.7	2.2	12.2	0	0	10.0	0	0	0	4.0
熟　語	9.8	0	11.1	5.9	10.9	8.9	14.6	7.7	0	10.0	4.8	5.3	0	7.2
文全体から、文の前後関係から	4.9	4.8	8.3	2.9	4.3	4.4	4.9	2.6	0	12.5	4.8	7.9	0	5.0
似た字，同じような語句を思いだす。	2.4	0	2.8	2.9	6.5	2.2	2.4	5.1	0	0	11.9	13.2	0	4.0
書きながらおぼえる	0	0	0	2.9	2.2	2.2	2.4	0	0	7.5	0	2.6	0	1.6
別になし・なんとなく	7.3	2.4	0	14.7	8.7	8.9	4.9	10.3	6.3	0	0	5.3	0	5.2
回答なし	46.3	61.9	16.7	32.4	15.2	42.2	41.5	41.0	56.3	15.0	42.9	47.4	84.2	41.0

1　漢字をおぼえる手がかり　1の2　書きでは

学校 / 手がかり	I		B		M		M		T	M		N		平均
教科書・漢字表	2.4	0	0	0	4.3	0	2.4	2.6	18.8	0	0	0	0	1.6
辞　典	4.9	0	5.6	0	0	0	2.4	2.6	12.5	2.5	0	0	5.3	2.2
へん・つくり	7.3	11.9	25.0	5.9	15.2	11.1	2.4	2.6	0	17.5	21.4	5.3	5.3	10.6
部　首	0	0	2.8	2.9	2.2	0	0	0	0	0	4.8	0	0	1.0
点　画	0	0	5.6	0	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6
分解し，特徴をおぼえる	7.3	0	0	2.9	0	2.2	0	0	0	2.5	2.4	5.3	0	1.8
字形全体	4.9	9.5	19.4	8.8	8.7	4.4	7.3	0	0	7.5	7.1	26.3	0	8.2
音・訓	0	0	2.8	0	0	2.2	0	5.1	0	2.5	0	0	0	1.0
意　味	9.8	4.8	13.9	0	15.2	8.9	9.8	5.1	0	5.0	7.1	2.6	0	6.8
熟　語	2.4	0	5.6	0	2.2	2.2	7.3	5.1	0	10.0	4.8	5.3	2.6	3.8
似たような字，読みの同じものを思い出す	2.4	4.8	2.8	8.8	0	2.2	2.4	5.1	0	0	7.1	0	0	2.8
感覚で	7.3	0	0	2.9	0	0	2.4	0	0	0	0	0	0	1.0
何回も書く	9.8	2.4	13.9	8.8	30.4	17.8	9.8	17.9	25.0	30.0	16.7	10.5	2.6	14.9
別になし・なんとなく	2.4	2.4	0	17.6	4.3	4.4	4.9	5.1	0	2.5	2.4	2.6	0	3.8
回答なし	43.9	66.7	16.7	44.1	26.1	53.3	51.2	48.7	37.5	30.0	35.7	44.7	81.6	45.0

からというのは自分の親しい音訓に関係づけて覚える手がかりとするものと思われる。

読みと書きとでは，覚える手がかりの上で差異があるかどうかをたずねたのが小問2である。小問の読み・書きでは，読み書きそれぞれの場合で，手がかとするものに違いがあるか否かを分けてたずねたのに対し，回答なし（手がかりにするものが違わないとみる場合）が両方に40%以上もあった。この限りでは，読み・書きの手がかりは変らないことになりそうであるが，違うとして答えた半数以上の反応の中には，読み書きそれぞれの機能の差を示すものが，わずかながら見られる。

偏旁や字形全体の形を手がかりとするものは読み書きの差はあまり認められないが，熟語による，漢字をよく読むことによるなどは読み的であるし，何回も書くというドリル的な方法は書きにあげられている。少数回答であるが，読み書きの特徴から反応の理由がよく理解されるものがある。

習得の手がかりを内省させるだけでなく，実際に文字を読み書きさせ，作業化によって反応をみたのが第二問である。

イ漂う　ロ霧（きり）ハ翼（つばさ）の3字（語）を読み(イ)　書き(ロ・ハ)させて，その結果どうであったかをたずねる。

正読できたもののうち，偏旁に着眼するものが約$\frac{1}{4}$，字形全体からが$\frac{1}{4}$，意味（熟語）から，暗記するがそれぞれ$\frac{1}{4}$ほどで大勢を占めている。

この中で，「漂流」という熟語の意味からと答えたものに，読みの習得過程の一つの型が示されている。

「漂う」という問題に対して，まず

イ〔漂〕（読み）　（7校平均）

正答数（正しく読めた数）	71.1%
教科書	0.8
辞　典	2.8
氵で（偏で）	13.6
氵と票（偏・旁で）	1.7
票（旁で）	3.4
ヒョウの音から訓を思い出す	2.0
字形全体で	13.0
意味（漂流）から・熟語から	16.7
暗記，覚えていた	16.4
送りがなに注意	2.5
本・新聞をよく読む	1.7
別になし，なんとなく	10.2
回答なし	20.1

<注>各反応の%は，正答数に対するもの。漂の字が読めないほうの反応は省略。

ロ　〔霧〕（書き）

正答数	57.2%
教科書	1.4
（理科で）	0.4
辞　典	2.5
雨（冠）で	31.6
務	2.5
音　で	1.8
雨かんむりにムという音	3.2
雨に務	2.8
字形全体	13.0
意味・熟語（濃霧・霧氷・霧島・霧の湖）	6.3
雨のつく字をいっしょにして覚えた（露・霜・雪・雲）	1.1
覚えていた，暗記	12.3
本・新聞で	2.5
歌　で	0.4
別になし，なんとなく	6.3
回答なし	13.7

ハ　〔翼〕（書き）

正答数	40.2%
教科書	1.5
辞　典	2.5
羽	38.5
羽と異	6.0
字形全体	12.0
意　味	2.5
覚えていた，暗記	10.5
本・新聞	3.5
歌の題名	2.0
別になし，なんとなく	5.5
回答なし	16.5

「漂流」という親しい熟語が想起され，それとの意味上の連合から「ただよう」の意味・読みが想起されるという過程で，教科書の新出漢字の提出法，その文字の使用語形の多用性，生徒のその語に対する親近性などの結果からこのような過程をとるに至ったこと，その結果，音優位の文字（その逆も）が生ずる必然性が認められて興味深い。

書きでは2年生で，「偏」による文字を調べたので，今回は「冠」について調べた。文字の主たる構成要素・冠（雨・羽）に注意するものが多く，つづいて構成要素を分解（雨と務，羽と異）しておぼえることがわかる。字形全体というのが10%強あるが，「意味から」は，読みに比べて少なくなっている。

（事例調査女子4は，読み書きの成績がかなりよいほうであるが，「『漂』は『さんずいに，西の下に示がある』，『霧』は『雨の下に事務の務がある』というようにして」と答えており，中学生なりの方法を工夫していることがわか

る）

(2)　新出漢字の学習法

新出漢字をおぼえるには，学習の方法によるところが多い。中学校での文字学習は，生徒の側からみて，どのようであるか，学習のやり方を生徒はどのように受けとめているかをたずねたのが，小問3である。

新出漢字をおぼえるとき，あなたはおもにどのような学習をしてきましたか。

イ　その文章の中で，読みと意味を学習する

ロ　〃　中の読みのほかの読みも学習する

〈例　音ｵﾝの造ｿｳで出てきたら　訓ｸﾝの（造るく）の読みかたも〉

ハ　その漢字の読みだけでなく，意味や使い方もいっしょに学習する

ニ　漢字の書き方や筆順もいっしょに学習する

ホ　あとでではなく，そのとき，いっしょに書取り練習もする

ヘ　その他

7校平均でイ＝40.6%　ロ＝19.7%　ハ＝29.9%　ニ＝14.9%　ホ＝19.5%　ヘ＝6.2%

回答は，同じ学校でも学級によって多少異なるところもあるが，傾向としては，文脈の中での読みと意味，その使用法が大勢を占めてい，提出語形としての読みのほかに，その文字が有する他の音・訓の学習はあまり行なわれていないこと，筆順や書き取りは，教育漢字外当用漢字の学習であるためか，読みに比べると積極的ではないことがわかる。少なくとも生徒たちは，上のようなウエイトをつけて漢字の学習をしてきたと思っていることがわかる。

熟語の学習と構成文字の読みと意味

熟語を読ませると，それが多用されている場合はよく読めるが，構成単位である文字1字ずつでは読み（訓）や意味が不振であることは，2年の調査（問題10）などで見てきたとおりである。学習の際の熟語と構成文字としての読みと意味の関係を調べたのが質問4である。

新出漢字の熟語の学習のとき，その熟語を構成しているそれぞれの漢字の読みと意味をたしかめますか。

イ　全体の読みと意味だけを学習する　　7校平均　　75.5%

ロ　それぞれの構成文字の読みと意味もたしかめる　　〃　　23.1%

イはよく行なわれているが，ロはあまり行なわれていないことがわかり，今まで見てきた調査結果と応ずる面があると思われる。

(3)　漢字使用の態度化

書字力の低下を耳にするが，中学生に，学習した漢字はなるべく書くという態度化ができているかどうかをたずねたのが質問5である。

あなたは作文（記録・報告なども），手紙などを書くとき，なるべく漢字を書くようにしていますか。

はい　イ　知っている漢字はなるべく使う　　56.0%（7校平均）

ロ　わからない字は，辞書をひいたり，聞いたりして，漢字で書くようにしている　　38.6%

いいえ　イ　どちらかというと，漢字を使わないほう　　2.2%

ロ　あまり漢字で書くということに，気をつかわない　　7.8%

結果としては，知っている漢字はなるべく使う（56.0%）もの，さらに，わからない字は，辞書をひいたり，人にたずねたりして書くという積極的な態度化（38.6%）も見られ，使用の意志は高いが，消極的な「いいえ」の反応も10%近くある。知っている漢字は使おうと思うが，現実にものを書くときには書けない字が多く，つい書かないというのが実情であろう。

(4)　日常の読書生活と読めない漢字

義務教育終了段階までに当用漢字を一応学習するたてまえからすれば，当用漢字でまかなわれているはずの本や新聞は読めるわけである。しかし，中学3年卒業時までに，当用漢字全数は提出し切れていないのが現状であり，音訓の観点からすれば，読めない漢字の数はさらに増加する。地名・人名その他の表

外字や特殊の読みはルビが施されているとしても，表内の文字は読める文字として扱われている。そうした現実に立って，義務教育終了段階の漢字力――（読字）ではどの程度読めない漢字を残しているか（質問六），その場合，どのような対策を講じているか（質問七），そういう現象に対してどう思うか（質問八），現実の読書生活上の読みの問題をたずねてみた。

六（問い）　あなたは本や新聞などを読んでいて，読みかたのわからない漢字がありますか。

イ　よくある	7校平均（497人）	27.1%
ロ　ときどきある		60.8
ハ　あまりない		10.2
ニ　気がつかない		2.0
ホ　ない		0.2

七（問い）　本や新聞などを読んでいて，読みかたがわからないときはどうしますか。次のどれにあたりますか。

イ　人にたずねる	37.1%
ロ　辞典などをひく	22.1
ハ　前後の文章の関係でなんとか読んでしまう	47.8
ニ　正しい読みがわからなくても，なんとなく意味がわかるので，そのままますぎる	27.5
ホ　読めない字はそのままにして，とばし読みをする。	9.4

八（問い）　あなたは本などを読んでいて，わからない字がでてきたとき，気にするほうですか。

イ　とても気になる	26.1%
ロ　あまり気にしない	69.7
ハ　すこしも気にならない	3.4

本や新聞などを読んでいて，読みかたのわからない漢字が「よくある」「ときどきある」とで，87.9%もあることがわかる。そうした場合，人にたずねたり，辞典をひいたりすることもある（59.2%）が，前後の文章の関係でなんと

なく読んでしまう，正しい読みがわからなくても，なんとなく意味がわかるのでそのまま過ぎてしまう（75.3%）ことが多い。反応数では，後者が多少多い程度であるが，問い八で，わからない字が出た時，あまり気にしないという数のほうが多い（69.7%）ことと合わせて考えると，現実では，わからない字に出あっても，そのまま過ぎる場合のほうが多いものと思われる。

本や新聞は，原則としては，当用漢字のワク内で表記するのがたてまえであるから，「読みかたがわからない」と答えた字が，すべて表外字ではないはずで（表外字なら，ルビをつけるのが原則である。），これら読み方のわからない漢字というのは，当用漢字内でのものが，相当部分を占めていると思われる。調査結果の習得不振の文字，音訓習得のアンバランス現象などが，この現実の読みの生活上の問題と呼応している。

そして，このことは，現行の漢字使用，漢字表記の原則に立って，中学校で未学習未習得の漢字の読みを，新しく，正しく獲得していく場が，その後どこに求められるかという問題にもつながるのである。

(5)　辞書の利用状況

読書中に，読めない文字に出あった時の対応策として，辞典の利用をあげたものが22.1%いたが，辞書の活用は，漢字力を強くする重要な方法の一つである。辞書（字書）の利用状況をたずねたのが，質問九～十一である。

漢字の字書を持っているものは92.0%（もっていない 7.0%）で，ほとんどのものが，何等かのかたちで漢字関係の字書を持っている。

質問十　あなたは漢字の辞書（字書）を使いますか。

イ	はい	よく使う	7校平均　18.3%
		ときどき使う	59.4
	＊はい		10.2
ロ	いいえ		10.6

＊「はい」にのみ反応して，利用の程度のわからないもの

質問十一　わからない文字の読みを漢字の辞書（字書）でひくとき

(1)(イ)へんやかんむりなどによる部首索引でひく7校平均　67.5%

(ロ)　〃　ひかない　24.7

(2)(イ)画数を数えて総画索引でひく　56.8

(ロ)　〃　ひかない　29.9

(3)(イ)だいたいの読みの見当をつけて，うしろのほうについている　音訓索引でひく　50.8

(ロ)　ひかない　33.9

(4)　その他　2.8

そして，1割近くのものを除いては，ときどき使う程度である。

辞書（字書）をひく場合，(1)部首索引でひくか(2)総画索引でひくか(3)音訓索引によるか，ひき方によって，漢字の字書の扱い方の慣れ，あるいは，読みの力の有無など，ある程度推定される。結果はあまり大差ないが，部首索引が一番多く，音訓索引が最も少ない。1字を総画によってひく場合よりも，部首に分けて，その文字を認識できるから，それだけ字書の利用化ができているものと思われる。また，その文字のどちらかの音訓を知っていて，それを手がかりにする，あるいは旁などの音符から読みの見当を大体つけて，音訓索引によって新しく漢字の読みを調べる方法（成人はこの方法を利用することが多い）も，卒業時の中学生では，かなり態度化できていることがわかる。

その他の欄の記入者はわずかだが，知っている人に読み方をきき，字書で確認する，国語辞典で読みの見当をつけるなどがあり，辞書（字書）も持たず，使ったこともないと答えたものが1人だけあった。

(6)　漢字学習への興味・関心

中学生活を終えるに際し，漢字学習に対する興味・関心・感想・意見をたずねたのが質問十二～十五である。

漢字をおぼえることの難易をたずねた問い（十二）に対しては，それほどむずかしくないと答えたものが57.0%，やさしいと答えたものが3.2%，半数を越えるものが，漢字をおぼえることに抵抗を感じていないことがわかる。漢字

の読み書き調査を実施してよく経験することであるが，読みの調査では協調的な態度が強いが，書字力調査となると，ひとしきり教室が騒然となることが多い。読み書き両面に分けて，漢字をおぼえることの難易をたずねると，両者の差は判然と出てくる。

	〈むずかしい〉	〈それほどでもない〉	〈やさしい〉
読みでは	18.7%	64.5%	14.9%
書きでは	52.8%	40.2%	4.4%

この反応は，漢字の読みに比べて，書きが習得しにくい現実をそのまま表わしている。

したがって漢字学習に対する好悪の感情は，あまり好きでない（56.7%）きらい（14.5%）となりがちである。（質問十三）

質問十四　あなたは漢字の学習について，どのように考えますか

イ　漢字を読み書きできることは，国語の学習の基礎になるから大事だと思う。　72.5%

ロ　漢字の読み書きよりも，国語の学習としてもっと大切なことがあると思う　17.3

ハ　漢字の読み書きより，英語や数学の学習に力をいれたほうがよいと思う。　2.8

ニ　その他

漢字学習の意義については，「国語の学習としてもっと大切なものがある（17.3%）」「他教科の学習に力をいれたほうがよい（2.8%）」と思っているものも2割近くはいるが，大多数のものが，国語の学習の基礎になるとして，学習の意義を認めていることがわかる。その意義は認めながら，漢字学習にはあまり興味がもてない。ここに，漢字指導の方法を開発する鍵が蔵されているものと思われる。

(7)　漢字学習への感想・意見など

最後に，自分の今までの漢字学習をふりかえってみて，漢字の力が身につく

15. 漢字学習のための要望・意見

1 〔漢字学習を重視してほしい〕	A 1 41人	B 42	A B 36	B 34	A M 46	B 45	A M 41	B 39	T 16	A M 40	B 42	A N 38	B 38	平均
先生ももっと漢字に関心をもってほしい 漢字学習を重視してほしい	0	4.8	0	0	2.2	0	2.4	2.6	0	5.0	0	0	0	1.4
ていねいにくりかえし教え、わからせてほしい 確実に覚えさせてほしい	2.4	2.4	2.8	2.9	0	2.2	2.4	0	0	2.5	2.4	0	0	1.6
重点的な授業をしてほしい	0	2.4	0	0	4.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6
漢字だけの時間・特別授業時間を設けてほしい	7.3	7.1	2.8	11.8	4.3	4.4	14.6	2.6	0	0	0	0	0	4.4
漢字学習を毎日やってほしい （朝礼のあと、空き時間）	7.3	7.1	11.1	8.8	13.0	2.2	12.2	0	0	2.5	7.1	2.6	5.3	6.4
練習ノート・問題集カードその他を作ってほしい	2.4	0	11.1	0	6.5	0	7.3	5.1	0	10.0	4.8	5.3	7.9	4.8
興味をもって覚えられるよう，覚えやすいような工夫をしてほしい	4.9	2.4	2.8	0	2.2	0	7.3	0	0	5.0	2.4	13.2	2.6	3.4
辞(字)書をもっと使わせてほしい	0	0	0	0	0	2.2	2.4	0	6.3	2.5	0	0	0	0.8
漢和辞典をもっと引きやすいように教えてほしい，部首などわからないことがある	0	0	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
いろいろな辞書を購入してほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0	0.2
板書に旧字体を使わないでほしい	0	0	5.6	0	2.2	2.2	2.4	0	6.3	0	0	0	2.6	1.4
漢字を書くチャンスを多くし,文章・作文・手紙などを書かせてほしい	2.4	2.4	2.8	5.9	2.2	2.2	0	0	0	0	0	0	0	1.4
小学校で当用漢字は全部おわらせ，中学ではもっと高度化してもらいたい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0	0	0	0.4
小学校で，教育漢字をすべてしっかり覚えさせてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0.1
小学生の頃から，指導法をしっかりしてもらいたい	0	0	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

2 〔教えてほしいこと・指導法への注文〕	A 41	B 42	A 36	B 34	A 46	B 45	A 41	B 39	T 16	A 40	B 42	A 38	B 38	平均
その字をみれば大体見当がつくような，手がかり応用のできるこつを教えてほしい	0	0	0	0	2.2	0	0	0	0	2.5	0	2.6	0	0.6
へん・つくりなどをくわしく教えてほしい	0	0	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
新出漢字をしっかりおぼえさせてほしい。新出漢字の意味も。	2.4	9.5	2.8	5.9	0	0	0	2.6	0	0	0	0	0	1.8
同じ読みの漢字，同じようなものは系統だててまとめてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.1	0	0	0.6
誤りやすい字・まぎらわしい字・似た字・画数の多い字は，はっきり区別させてほしい	4.9	0	2.8	2.9	2.2	0	4.9	0	0	0	2.4	0	2.6	1.8
その読みのほかの読みかた，音訓共に教えてほしい	2.4	2.4	2.8	0	0	0	2.4	0	0	0	0	0	0	0.8
書き順も教えてほしい	0	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
1字の意味と熟語	0	0	2.8	0	0	4.4	0	0	0	2.5	0	0	0	0.8
意味の由来，意味をくわしく	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0	0	0.4
象形文字を教えてほしい	0	0	0	0	0	2.2	0	0	0	0	2.4	0	0	0.4
教育・当用・表外の区別を教えてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0.2
特殊な漢字を教えてほしい	0	0	0	0	0	2.2	2.4	0	0	2.5	0	0	0	0.6

3 〔テストをやってほしい〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
テストや問題集をやってほしい	14.6	2.4	5.6	5.9	4.3	2.2	0	10.3	0	5.0	0	5.3	10.5	5.2
テスト回数をふやす	4.9	9.5	2.8	0	17.4	4.4	4.9	0	0	2.5	14.3	2.6	2.6	5.6
毎日テストしてほしい（朝礼時や空時間に）	12.2	2.4	2.8	0	2.2	0	2.4	2.6	12.5	2.5	4.8	2.6	2.6	3.4
国語の毎授業時にテストしてほしい	9.8	0	5.6	0	2.2	2.2	7.3	0	0	0	0	5.3	0	2.6
1週に1度テストしてほしい	7.3	4.8	0	2.9	8.7	2.2	2.4	7.7	6.3	0	0	0	0	3.2
1と月に1度テストしてほしい	0	0	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0	0.4
ときどきテストしてほしい	2.4	2.4	0	0	0	4.4	2.4	5.1	6.3	2.5	0	0	0	1.8
定期的にテストしてほしい	0	0	0	0	4.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4
新出漢字が出るたびにテストしてほしい	0	2.4	2.8	0	2.2	0	2.4	0	0	2.5	0	2.6	0	1.2
単元が終るごとにテストしてほしい	0	0	0	0	0	2.2	0	0	6.3	2.5	0	0	0	0.6
範囲をきめたテストをしてほしい	2.4	4.8	0	0	0	0	0	2.6	0	0	0	0	0	0.8
文部省が，5か月に1回ぐらい今までのまとめのテストをすればよい	0	0	0	0	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
今回のようなテストをたびたびやってほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0	0.2
1年のうち，3回ぐらい大きなテストをしてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	6.3	0	0	0	0	0.2

4 〔教科書への要望〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
新出漢字・難語に文中でふりがなをつけてもらいたい	0	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
教科書に当用漢字以外の字，むずかしい字をたくさん入れてほしい	0	7.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	2.6	1.0
教科書の活字ではっきりしないものがある	0	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
教科書の後に，音・訓・意味・熟語をまとめてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0.2
教科書の前編はやさしい字，後編にむずかしい字というようにまとめてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0.2

5 〔漢字そのものへの注文〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
漢字の数・種類を減らしてほしい	7.3	2.4	2.8	8.8	6.5	4.4	2.4	0	0	2.5	9.5	0	2.6	4.0
画数の多いものを減らしてほしい	0	0	0	2.9	2.2	2.2	0	0	0	2.5	2.4	0	0	1.0
日常の漢字だけ学習，むずかしいものは覚えなくてもいいようにしてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0.2
特殊読み，むずかしいのを，やさしく覚えやすく改めてほしい	4.9	2.4	16.7	2.9	10.9	13.3	9.8	0	0	7.5	11.9	0	13.2	7.6
音・訓の読みをなくす，1字の読みは1つに	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	2.4	0	2.6	0.6
同じ読みの漢字はなくしてほしい，同音異義のもの改良	0	0	0	2.9	0	0	0	0	0	2.5	2.4	0	2.6	0.8
漢字は名詞・代名詞以外は使わないときめてほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	0.2
日本はカタカナ・ひらがな・ローマ字，漢字と，いろいろあるから，どれか一つにまとめたらどうか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0	0	0	0.4
送りがなを統一してほしい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	0.2

6 〔生活の中で漢字力を身につける〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
日常，漢字を多く使う	0	4.8	0	0	0	0	4.9	0	0	0	2.4	0	0	1.0
物語，小説，新聞等をたくさん読む	2.4	4.8	13.9	8.8	6.5	0	2.4	0	6.3	5.0	0	2.6	5.3	4.2
テレビで漢字の時間を作ってほしい	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	0	0	0	0	0.2
睡眠学習で覚えてみたい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0.2
漢字にふりがなをつけてほしい	0	0	0	0	0	2.2	2.4	0	0	2.5	0	0	0	0.6
小説・雑誌のふりがなは覚える上で役に立たないからやめてほしい	0	0	0	0	0	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2

7 〔自分で〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
自分自身でつとめてやる	0	0	0	8.8	0	4.4	0	0	0	0	0	0	0	1.0
自分でやるほかない，本人の自覚がなければだめ	2.4	2.4	0	0	6.5	2.2	0	2.6	0	15.0	2.4	2.6	0	3.0
個人のやりかたにまかせる	0	0	2.8	0	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4

8 〔今のままで十分〕	A	B	A	B	A	B	A	B	T	A	B	A	B	平均
今のままで十分	0	0	0	0	2.2	2.2	0	2.6	0	0	4.8	2.6	0	1.2
別にない	2.4	2.4	0	5.9	0	4.4	0	28.2	18.8	0	4.8	5.3	0	4.8
わからない	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	2.5	2.4	0	0	0.6

9 〔回答なし〕	2.4	9.5	0	14.7	2.2	22.2	9.8	20.5	18.8	0	11.9	28.9	39.5	13.5

ように学習するためにどんなことをしてほしいか，どうすればよいと思うか，感想・意見を自由に記入してもらった（十五問）。

この種の質問に馴れていないためか，初めは記入者が少なかったが，協力を願った結果，少数意見ではあるが，漢字学習指導について示唆に富む感想・意見が出た。（436〜440ページの表参照）

回答を整理すると次のようになる。

1　漢字学習を重視してほしい
2　教えてほしいこと，指導法への注文
3　テストをやってほしい
4　教科書への要望・注文
5　現行当用漢字への意見・注文
6　生活の中で漢字力を身につける
7　自力で習得を心がけるという考え方
8　今のままでよしとするもの，その他
9　回答なし

中学校の漢字学習指導の実態に関する調査（第5編参照）によれば，教師の側では，それぞれ意を用いて，漢字の学習指導を実施しているわけであるが，国語学習が多岐にわたっていること，漢字学習が，比較的家庭学習に比重がかけられていることなどから，生徒側では，このような印象・実感をもつのであろうか。あるいは十分に指導されても，生徒自身にその気がなければ学習効果があがらない点を，指導法に転嫁するためであろうか。少数であるが，自分でやらなければだめと自覚反省している卓見もある。

教えてほしいことは，特に自分の弱いところをあげたものであろうか，見るべきものがある。テスト実施の要請があったことは思いがけなかったが，習得の定着と練習の関係を考えれば，生徒の体験から生まれた価値ある意見として受け取るべきであろう。

教科書への要望・意見はいちばん少なかったが，少数意見としておもしろいものがある。現行の当用漢字に対する意見も，数は少ないがみられる。日常の

経験を通してのものであろうか，国語施策への一つの意見として参考にすべきであろう。

他に対する要望をうちに向けて，日常，漢字を多く使う，物語・小説・新聞等をたくさん読むことが漢字学習の実をあげるものとしているもの，ルビをつけてほしいと思うものがある半面，ルビは覚える上で役に立たないとする対立意見もある。今のままで十分，別にないなどの肯定的意見や消極的意見もあって，さまざまな感想・意見に接することができた。

これらの回答がすべて適正であるとはいいがたいが，虚心に，生徒の側の意見・感想を参考にすることも，漢字学習をいっそう効果的にするために役立つのではないかと思われる。

（参考）

2 年生　集団調査問題

（問題は縦書き，以下同じ）

（問題　1）

次の文字の読みを（　）の中に書き入れてください。

一　1〔目〕（　）（　）目的・目の上　　2〔正〕（　）（　）（　）正確・正面・正しい

3〔川〕（　）（　）河川・川の中　　4〔下〕（　）（　）（　）（　）天下・下旬・下水・下書き・下げる・下り・下り列車・会は……の主催の下に行なわれた。

二　5〔用〕（　）（　）用事・用いる　　6〔入〕（　）（　）入場・入れる

7〔歩〕（　）（　）（　）（　）（　）歩行・散歩・歩合・歩む・歩く

三　8〔葉〕（　）（　）（　）落葉・万葉・木の葉　　9〔配〕（　）（　）配達・配る

10〔病〕（　）（　）（　）病院・病む・病い　　11〔顔〕（　）（　）（　）顔色・顔面・まるい顔

12〔和〕 平和・和らぐ

13〔後〕 午後・後悔・後ろ

四 14〔改〕 改良・改める

15〔係〕 関係・係り

16〔商〕 商売・商う

17〔拾〕 拾得する・五拾円。拾う

18〔付〕 付加する・付ける

19〔焼〕 焼失・焼く

20〔幸〕 幸福・幸い

五 21〔想〕 思想

22〔慣〕 習慣・慣れる

23〔側〕 側面・両側

24〔報〕 報告・報いる

25〔統〕 統計・統べる

26〔経〕 経済・お経・経る

27〔似〕 類似・似る

28〔価〕 定価・価い

29〔省〕 反省・省略・省みる・省く

30〔留〕 留学・留守・留める

31〔設〕 設計・設ける

32〔管〕 鉄管・管をまく

六 33〔混〕 混雑・混ぜる

34〔条〕 条件

35〔潔〕 清潔・潔い

36〔眼〕 近視眼・血眼になる

37〔率〕 能率・引率する・率いる

38〔境〕 環境・境内・境い

39〔災〕 災難・災い

40〔衆〕 公衆・衆生

41〔授〕 授業・授ける

42〔採〕 採集・採る

43〔犯〕 犯罪・犯す

44〔険〕 危険・険しい

45〔納〕 納入・出納・納屋・納める

（問題　2）

次の文字の読みを，（　）の中に書きいれてください。

1〔影〕（　）（　）影響・影

2〔企〕（　）（　）企画・企てる

3〔優〕（　）（　）優勝・優しい

4〔机〕（　）（　）机上・机の上

5〔危〕（　）（　）危険・危うい

6〔恨〕（　）（　）悔恨・恨む

7〔趣〕（　）（　）趣味・趣き

8〔募〕（　）（　）募集・募る

9〔捨〕（　）（　）（　）四捨・取捨・捨てる

10〔促〕（　）（　）催促・促す

11〔怠〕（　）（　）怠惰・怠る

12〔沿〕（　）（　）沿岸・沿う

13〔伴〕（　）（　）（　）同伴・伴奏・伴う

14〔汚〕（　）（　）（　）汚物・汚職・汚す

15〔妥〕（　）妥協

16〔値〕（　）（　）（　）価値・値段……に値する

17〔頂〕（　）（　）（　）頂上・頂点・頂き

18〔刻〕（　）（　）時刻・刻む

19〔浮〕（　）（　）（　）浮力・浮く・浮かぶ

20〔掲〕（　）（　）掲示・掲げる

21〔麗〕（　）（　）美麗・麗しい

22〔遂〕（　）（　）遂行・遂げる

23〔顧〕（　）（　）顧問・顧みる

24〔装〕（　）（　）（　）服装・衣装・装う

25〔懸〕（　）（　）懸賞・懸念

26〔訪〕（　）（　）訪問・訪れる

27〔袋〕（　）（　）（　）風袋・袋・手袋

28〔翻〕（　）（　）翻訳・翻える

29〔叙〕（　）叙事詩

30〔惜〕（　）（　）惜別・惜しい

31〔憤〕（　）（　）憤慨・憤る

32〔詳〕（　）（　）詳細・詳しい

33〔尋〕（　）（　）尋問・尋ねる

34〔偽〕（　）（　）偽造・偽る

35〔添〕（　）（　）（　）添加・添付・添える

36〔悔〕（　）（　）（　）後悔・悔いる・悔やむ

37〔飾〕（　）（　）装飾・飾る

38〔阻〕（　）阻止

39〔醜〕（　）（　）（　）醜態・醜悪・醜い

40〔獣〕（　）（　）野獣・獣のむれ

41〔戯〕（　）（　）戯曲・戯れる

42〔奪〕（　）（　）争奪・奪う

43〔暫〕（　）暫定

44〔忘〕（　）（　）忘年・忘れる

45〔閉〕（　）（　）閉会・閉じる

46〔誉〕（　）（　）名誉・誉れ

47〔既〕（　）（　）既成・既に

48〔香〕（　）（　）香水・花の香

49〔皆〕（　）（　）（　）皆勤・皆無・皆様

50〔貢〕（　）貢献

（問題　3）

雀　ジャク　すずめ
雀 おとぎ話で。 一茶の句で見たことがある。 孔雀の雀

次のそれぞれの漢字の読みかたを知っていたら，例のように横に書きだしてください。なお，はっきり読めなくても，こんな意味で，この字が使われていたというようなことが思い出せたら，それを書いておいてください。

1 藤	2 僕	3 頃	4 岡	5 杉	6 鹿	7 吾	8 彦
9 智	10 靴	11 塚	12 須	13 鳩	14 堀	15 汁	16 潟
17 亭	18 弘	19 釣	20 亀	21 皿	22 菱	23 洞	24 枕
25 梶	26 瞳	27 嵐	28 柿	29 堺	30 殻	31 嘩	32 崎
33 阪	34 伊	35 鶴	36 昌	37 蓮	38 狼	39 釜	40 幡
41 呂	42 奈	43 鎌	44 韓	45 函	46 岬	47 洪	48 漠
49 禄	50 甚						

（問題　4）

次のもんだいの□の中に，漢字を書きいれてください。

1　□(りょ)行に出る。　　2　あかぐみが□(か)った。3　あわて□(もの)。

4　道の□内をする。　5　□節のかわりめ。　6　体□の時間。こどもを□てる。　7　あしたの会に出席する□定です。

8　家□は三人です。　9　いろいろな□類の□をまく。

10　品質を改□する。　11　水がすんで川の□まで見える。三角形の□辺。

12　たばこの□はこわい。　13　□念です。

14　本を□りる。　15　雑誌の□録。　16　受□の□りです。□け加える。　17　□歌をうたう。　18　□験はむずかしかった。

19　道の両□。　20　□をあげて説明する。

21　自分のすることに□任をもつ。　22　けが人を□助する。□いを求める。　23あちらへ場所を□す。　24　こわれた機械を□理する。

25　反□する。　26　愉□なおじさん。□いメロデー。

27　せいが□い。　28　よい習□をつける。29　公□電話をかける。

30　□迎会をひらく。　31　候□者は○○さん。32　あしたは□風雨になりそうだ。　33　「坊ちゃん」の□者は夏目漱石だ。

34　あしたは□時テストがある。　35　近視□(近□)のめがね。

36　能□をあげる。　37　欠点はとり□くようにしよう。

38　人□代名詞。東洋一と□する長い橋。　39　□職する。

40　べつに□状なし。　41　文化□産。　42　勉強するように□めた。

43　父は会社に□務している。　44　□粋な気持ち。

45　ひどい□□にあっても，平気で立ちあがった人たち。

46　定□二百円の本。　47　りっ□な建築。　48　□声器から大きな音がながれだす。　49　「安くておいしい。」と□伝している。

50　彼は数学の□(せん)門家だ。

＜注＞音・訓どちらの読みに親近性があるか疑問のものは，両方の語形を試みた。（例　育・種・救・快・付）また，同じ読みでも，提出語形との関係をみるために，二種以上の語形で試みたものもある。

（問題　5）

次のもんだいの□の中に，漢字を書きいれてください。

1　テニスの試合に□(ゆう)勝する。　2　私の□(しゅ)味は音楽です。

3　□(つくえ)と本箱。　4　くすりをまいて虫を全□(めつ)させた。

5　□(ぼ)集する。　6　日あたりのよい□(えん)側。

7　□(き)画会議を開く。　8　□(けい)示板を見る。　9　あした□(ほう)問します。

10　直□(けい)50センチの円。11　とても□(いそが)しい。　ご多□(ぼう)のところをすみません。

12　ロダンの彫□(こく)。時を□(きざ)む。　13　補□(じゅう)テストをする。

14　□(ぎ)曲を読む。　15　投手と□(ほ)手。　16　きみの□(せい)名を書いてください。　17　山の□(ちょう)上。　18　安い□(ね)段。

19　□(ふくろ)につめる。　20　猛□(じゅう)狩り。　21　義務を□(おこた)る。

22　講演会を開□(さい)する。23　□(けい)帯ラジオ。　24　応□(えん)する。

25　□(じゅく)語の意味をしらべる。　26　○○□(げき)場で映画をみる。

27　□□(きけん)をおかして無人島を□□(たんけん)する。　28　□(いか)り（おこりたい気持ち）をおさえる。　29　花を□(えが)く。□(びょう)写がこまかい。

30　名を□(けが)す。　31　名□(よ)を高める。　32　接□(しょく)する。かたつむりの□(しょっ)角。　33　□(えん)岸の港。　34　注意事□(こう)を守る。

35　□(いね)をかる。　36　ひどいめにあったので□(ふん)慨するのがあたりまえだ。

37　きちんとした服□(そう)。38　クラブの□(こ)問となる。○○会社□(こ)問。

39　四□五入。　　40　阿蘇山が□火した。41　詐□にかかる。

42　交通□査。□回する。　　43　……する□向がある。

44　□設の子どもにプレゼントする。　　45　□□物語を読むのがすき。

（問題　6）

次のもんだいにこたえてください。

1　〔　〕い水の流れ

イ　あなたは〔清〕いという字を書くとき，〔きよ〕いは水に関係のある字だから，氵（へん）であるということを知って，氵を書きますか。

（はい　いいえ）（←どちらかに○印をつける。）

ロ　次に〔清〕いという字は，氵（へん）に〔セイ．青〕（あおい）という音と意味をもつ，つくりが，いっしょになってできた字だから，水が青くすんでいる―きよいということを知っていますか。（はい　いいえ）

ハ　だから，〔清〕いという字は，〔セイ〕とも読むのだということも知っていますか。（はい　いいえ）

ニ　それとも，〔清〕いという字をおぼえる時，へんやつくりを一つ一つ気にしないで，〔清〕の字の形をなんとなく，全体としておぼえてしまいましたか。（はい　いいえ）

ホ　〔清〕いという字を書きなさいといわれて，どんな字か忘れてしまって，すぐ書けない時は，その字のどういうところを手がかりにして，思い出しますか。

（　　）

○では，次の字について，書いたり考えたりしてください。

2イ　重いにもつは私が□ちます。

ロ　あなたが来るまで□ちましょう。

上の二つの字は，どのように区別して，おぼえたり，書き分けたりします

か。

（　　）

3イ　日本の人口は年ごとに□加している。

ロ　記念品を□呈します。

上の2つの□の字は，どのように区別しておぼえたり書き分けたりしますか。

（　　）

4イ　□長が開会を宣言した。

ロ　□式はおごそかに進行した。

上の二つの□の字は，どのように区別しておぼえたり，書き分けたりしますか。

（　　）

5　あなたの弟さんが，作文に，「ぼくはとても元木です」と書いたとき，あなたは，「き」の字がまちがっていることを，どのように，弟さんに説明してあげますか。次の（　）の中で，説明してあげてください。

（　　）

（問題　7）

次の漢字のよみがなを（　）の中に，いれてください。

一　1（　）入る。　2（　）和らぐ。　3（　）老いる。　4（　）唱える。

5（　）商う。　6（　）統べる。　7（　）競う。　8（　）（　）省みる。省く。

9（　）設ける。　10（　）承る。　11（　）肥える。　12（　）欲する。

13（　）授ける。　14（　）（　）断つ。断わる。　15（　）率いる。　16（　）述べる。

17（　）臨む。　18（　）除く。　19（　）失う。　20（　）試みる。

21（　）退く。　22（　）営む。　23（　）経る。　24（　）異なる。

25 逆らう。（　）　26 健やか。（　）　27 難い。（　）　28 潔い。（　）

29 等しい。（　）　30 豊かな。（　）　31 尊い。（　）　32 快い。（　）

33 魚。（　）　34 器。りっぱな器。（　）（　）　35 旅路。（　）

36 飯をくう。（　）にぎり飯。（　）　37 銭入れ。（　）小銭。（　）

38 民の願い。（　）

二　1 怒る。（　）　2 充てる。（　）　3 触れる。（　）　4 描く。（　）

5 捕える。（　）　6 汚す。（　）　7 巡る。（　）　8 憤る。（　）

9 訪れる。（　）　10 欺く。（　）　11 掲げる。（　）　12 携える。（　）

13 刻む。（　）　14 探る。（　）　15 忙しい。（　）　16 戯れる。（　）

17 企てる。（　）　18 催す。（　）　19 施す。（　）　20 危うい。（　）

21 侮る。（　）　22 募る。（　）　23 もえる炎。（　）　24 仰せ。（　）

25 更に。（　）

（問題　3）

次のことばの意味を例にならって（　）の中に書きいれてください。

（例）　　意味を書く	意味が書けない場合は，どういう時に使うか，または，使用例などを書く。	なんとなく意味はわかるがうまくいえない。	どういう意味かわからない
1　くわだてる<企>（おもいたつ 計画する）	2（あいてをばかにするようなときに使う。人をあなどる。）	3　○	4　×
2　あなどる　<侮>（　　）			
3　とどこおる<滞>（　　）			
4　うるわしい<麗>（　　）			

一　1　おいる　　<老>（　　）

2　あきなう　　<商>（　　）

3　となえる　〈唱〉（　　）
4　やわらぐ　〈和〉（　　）
5　すべる　〈統〉（　　）
6　きそう　〈競〉（　　）
7　かえりみる　〈省〉（　　）
　　はぶく　〈省〉（　　）
8　もうける　〈設〉（　　）
9　うけたまわる　〈承〉（　　）
10　ほっする　〈欲〉（　　）
11　ひきいる　〈率〉（　　）
12　へる　〈経〉（　　）
13　ことなる　〈異〉（　　）
14　たっとい　〈尊〉（　　）
15　いさぎよい　〈潔〉（　　）

二　1　えがく　〈描〉（　　）
2　おとずれる　〈訪〉（　　）
3　あざむく　〈欺〉（　　）
4　たずさえる　〈携〉（　　）
5　つのる　〈募〉（　　）
6　たわむれる　〈戯〉（　　）
7　もよおす　〈催〉（　　）
8　ほどこす　〈施〉（　　）
9　けがす　〈汚〉（　　）
10　ふれる　〈触〉（　　）

（問題　9）

次のことばの読みがなを（　）の中に書きいれてください。

一　1　外科(　　)。　2　天然(　　)。　3　雑木(　　)。雑巾(　　)。　4　読本(　　)。

5 (　)(　)作法。作業。　6 (　)出納係　7 (　)体裁。　8 (　)重複する。

9 (　)顔面。　10 (　)最期。　11 (　)大望。　12 (　)罪業。

13 (　)緑青。　14 (　)拾得する。　15 (　)付録。　16 (　)静脈。

17 (　)焼失。　18 (　)貸借。　19 (　)功徳。　20 (　)遊説。

21 (　)留守。　22 (　)類似。　23 (　)貧乏。　24 (　)大漁。

25 (　)公布する。(　)布告。　26 (　)荘厳。　27 (　)暴露。

28 (　)成就。　29 (　)境内。　30 (　)自我。　31 (　)解毒。

32 (　)仮病。　33 (　)極楽。

二　1 (　)柔和。　2 (　)(　)姓名。百姓。　3 (　)(　)拍子。拍手。　4 (　)甲板。

5 (　)水郷。　6 (　)真紅。　7 (　)御殿。　8 (　)彼岸。

9 (　)(　)若干。若輩。　10 (　)開催。　11 (　)(　)衣装。装飾。　12 (　)交替。

13 (　)野獣。　14 (　)慰問。　15 (　)(　)霜葉。霜害。　16 (　)譲渡。

17 (　)絶叫。　18 (　)封建的。　19 (　)執着。　20 (　)献上。

（問題　10）

次のことばに，例にならって読みがなをつけ，その下の（　）の中に意味を書きいれてください。

例　　左の読みかたでない，もう一つの読み。読みがわからなければ意味を書く

1（きょうこく）　強（つよい）　強国（強い勢力をもっている国。強い国。）
　強　国　国（く　に）

2（せん　がん）　洗（あらう）　洗顔（かおをあらうこと。）
　洗　顔　顔（か　お）

3（ぞう　か）　増（ます　（よみ））　増加（ふえること。多くなること。）
　増　加　（ふえる（いみ））
　加（くわえる）

1（　　）　掲（　　）　掲示（　　）
　掲示　示（　　）

2（　　）　危（　　）　危険（　　）
　危険　険（　　）

3（　　）　救（　　）　救助（　　）
　救助　助（　　）

4（　　）　乗（　　）　乗降（　　）
　乗降客　降（　　）

5（　　）　採（　　）　採集（　　）
　採集　集（　　）

6（　　）　犯（　　）　犯罪（　　）
　犯罪　罪（　　）

7（　　）　冒（　　）　冒険（　　）
　冒険　険（　　）

8（　　）　営（　　）　営業（　　）
　営業　業（　　）

9（　　）　定（　　）　定価（　　）
　定価　価（　　）

10（　　）　降（　　）　降雨（　　）
　降雨　雨（　　）

＜注＞「業」の訓は，当用漢字表では認めていないが，どのような反応を示すか，問題としてとりあげてみた。

3年生　集団調査問題（問題8のみ）

（問題　8）

一　次の質問にこたえてください。

漢字をおぼえるとき，あなたがおもに手がかりにするものはなんですか。二つ以上あるときは，順位をつけて書いてください。

（　　）
（　　）

漢字の読みかたをおぼえるときと，書きかたをおぼえるときとでは，手がかりにするものがちがいますか。ちがうと思う人は，次の読み・書きそれぞれの下に，手がかりにするものを書きいれてください。

読み（　　）

書き（　　）

二　次のそれぞれの字を読んだり，書いたりしてください。そのとき，あなたは，何を手がかりにして，読んだり，書いたりしましたか。

イ　漂（ ）う　　〔漂〕→

ロ　深い〔　（きり）　〕がたちこめて，先の見通しがつかない　〔　（きり）　〕→

ハ　〔　（つばさ）　〕をひろげる　〔　（つばさ）　〕→

三　新出漢字をおぼえるとき，あなたはおもにどのような学習をしてきましたか。

イ　その文章の中で，その読みと意味を学習する。

ロ　その文章の中の読みのほかの読みをも学習する。
〈例　音（オン）の（造（ゾウ））で出てきたら，訓（クン）の（造（つく）る）の読みかたも〉

ハ　その漢字の読みだけでなく，意味や使い方もいっしょに学習する。

ニ　漢字の書き方や筆順もいっしょに学習する。

ホ　あとでではなく，そのとき，いっしょに書取り練習もする。

ヘ　その他（　　）

四　新出漢字の熟語の学習のとき，その熟語をつくっている，それぞれの漢字の読みとか意味とかをたしかめますか。

全体の読み　全体の意味　それぞれの読み・意味

例　救助　キュウジョ〈すくいたすけること〉〈救　キュウ　すくう／助　ジョ　たすける〉

イ　全体の読みと意味だけ

ロ　それぞれの漢字の読みと意味をたしかめる

五　あなたは作文（記録・報告なども），手紙などを書くとき，なるべく漢字を書くようにしていますか。

〔はい〕
イ　知っている漢字はなるべく使う。
ロ　わからない字は辞書をひいたり聞いたりして，漢字で書くようにしている。

〔いいえ〕
イ　どちらかというと，漢字を使わないほう。
ロ　あまり漢字で書くということに，気をつかわない。

六　あなたは本や新聞などを読んでいて，読みかたのわからない漢字がありますか。

イ　よくある　ロ　ときどきある　ハ　あまりない
ニ　気がつかない　ホ　ない

七　本や新聞などを読んでいて，読みかたがわからないときは，どうしますか。次のどれにあたりますか。

イ　人にたずねる

ロ　辞典などをひく

ハ　前後の文章の関係で，なんとか読んでしまう。

ニ　正しい読みがわからなくても，なんとなく意味がわかるので，そのままですぎる。

ホ　読めない字は，そのままにしてとばし読みをする。

八　あなたは本などを読んでいて，わからない字が出てきたとき，気にするほうですか。

イとても気になる。　ロあまり気にしない。　ハすこしも気にならない。

九　あなたは漢字の辞書（字書）をもっていますか。

イ　は　い　　ロ　いいえ

十　あなたは漢字の辞書（字書）を使いますか。

イ　は　いく(よく使う / ときどき使う)　　ロ　いいえ

十一　わからない文字の読みを漢字の辞書（字書）でひくとき，

(1)　へんやかんむりなどによる部首索引でひきますか。

イ　は　い　　ロ　いいえ

(2)　画数を数えて総画索引でひきますか。

イ　は　い　　ロ　いいえ

(3)　大体の読みの見当をつけて，うしろのほうについている音訓索引でひきますか。

イ　は　い　　ロ　いいえ

(4)　その他（　　）

十二　あなたは漢字をおぼえるのは，むずかしいと思いますか。

イ　むずかしい　　ロ　それほどでもない　　ハ　やさしい

漢字の読みでは

イ　むずかしい　　ロ　それほどでもない　　ハ　やさしい

漢字の書きでは

イ　むずかしい　　ロ　それほどでもない　　ハ　やさしい

十三　あなたは漢字の学習がすきなほうですか。

イ　すき　　ロ　すきなほう　　ハ　あまりすきでない　　ニ　きらい

十四　あなたは漢字の学習について，どのように考えますか。

イ　漢字を読み書きできることは，国語の学習の基礎になるから，大事だと思う。

ロ　漢字の読み書きよりも，国語の学習として，もっとたいせつなことがあると思う。

ハ　漢字の読み書きより，英語や数学の学習に力をいれたほうがよいと思う。

ニ　その他（　　）

十五　あなたは漢字の力が身につくように学習するために，どんなことをしてほしいと思いますか。

（　　）

（芦沢　節）

第 3 編

漢字の習得要因に関する研究

はじめに

第1・2編では，8人の生徒を中心とした漢字の習得状況——習得の実態・過程などについて見てきた。ここでは，8人の生徒の知能・学力・言語生活環境などはどうか。また，どのような学習指導を受けてきたのか，どのような教科書で，直接間接に漢字学習をしてきたかなど，漢字習得上の要因として作用しているであろうと思われることがらを取り上げ，その面から，漢字習得について，いっそうはっきりと把握することを目がけたい。また，習得上の要因相互の関係もできるだけ明らかにしておきたい。

以上のような観点から，中学生の漢字習得の解明に接近しようというのが，第3編における主たるねらいであり，内容である。

このうち，学習指導に関する研究のために収集した資料には，それぞれのところに述べてあるように，われわれが直接に調査して得たものと，学校側（稲付中学校），主として吉村安夫先生から提供を仰いだ資料とがある。終始快くご協力くださった吉村先生に心から謝意を表したい。

第1章　被調査生徒の側面
——要因資料から見た8人像——

1. 知　　能

入学時から卒業までの3年間に，われわれとして1回，学校側で3回，計4回の知能検査を行なった。検査結果は次表のとおりである。

(1) 研究所で実施した知能検査

学年	検査年月日	検査の名称	知能偏差値	
			男$_1$ 男$_2$ 男$_3$ 男$_4$	女$_1$ 女$_2$ 女$_3$ 女$_4$
2	40. 12. 21	京大NX9—15知能検査	61 61 52 59	58 50 57 60

(2) 学校で実施した知能検査

学年	検査年月日	検査の名称	知能偏差値	
			男$_1$ 男$_2$ 男$_3$ 男$_4$	女$_1$ 女$_2$ 女$_3$ 女$_4$
1	39. 4. 13	教研式知能検査	59 67 61 55	63 45 51 49
2	40. 4. 13	教研式知能検査	63 65 52 67	64 49 55 53
3	41. 4. 13	教研式知能検査	67 67 53 64	66 50 55 48

(3) 上記4回の検査結果の平均値

	男$_1$	男$_2$	男$_3$	男$_4$	女$_1$	女$_2$	女$_3$	女$_4$
偏差値	62.5	65.0	54.5	61.3	62.8	48.5	54.5	52.5

学校では，毎年4月に定期的に実施し，われわれは2年時の12月に実施した。その結果は女子4のごとく，偏差値において49，53，60，48というように，時期による変動の大きい者もあるが，概して安定した数値を示している。そして，非常に遅れた者もなく，また非常にとびはなれてすぐれた者もない。ほぼ中位に属する8人が選ばれていたと判断される。便宜的に8人のそれぞれを一つの数値で示すことを考えて，4回の平均を求めたのが前表(3)の数値である。

2. 学　　力

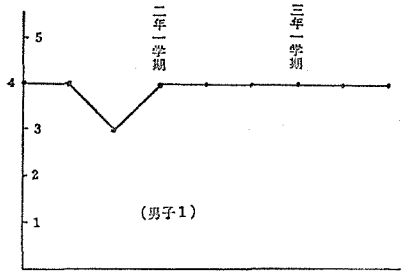
(1) 学校における国語の学力（1年～3年）

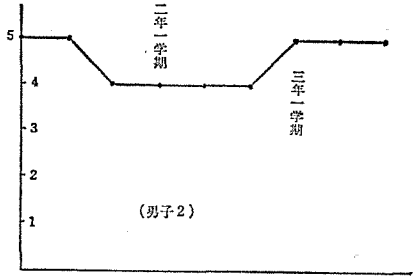
8人の生徒の，学校における国語科の成績を5段階評価によって示すと次のとおりである。

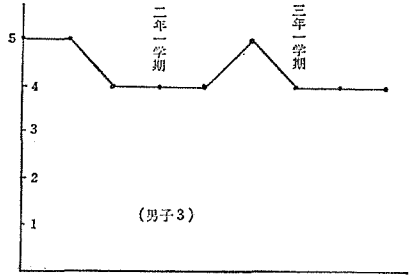
学年	1年			2年			3年		
学期	1	2	3	1	2	3	1	2	3
男子 1	4	4	3	4	4	4	4	4	4
〃 2	5	5	4	4	4	4	4	5	5
〃 3	5	5	4	4	4	4	3	3	3
女子 1	5	4	5	5	4	5	5	5	5
〃 2	3	4	4	3	3	3	3	3	3
〃 3	3	3	4	3	3	4	3	4	4
〃 4	3	3	2	3	3	3	3	2	2

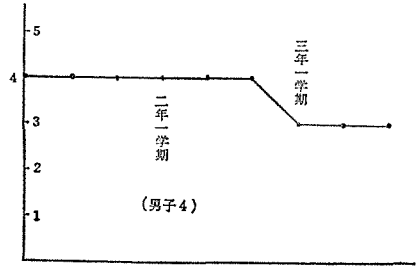
これを視覚にうったえやすく，折れ線グラフとして表わすと，次ページのようになる（縦軸は評価段階，横軸は学年・学期の推移を示す）。

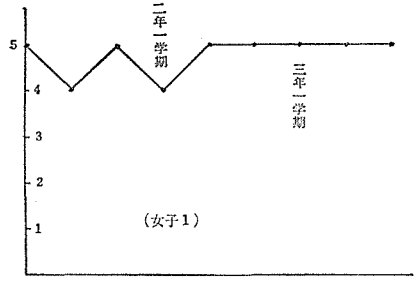
図表からわかるように，全体として男子のほうが女子に比べていく分成績がよい。そして，全期間を通じて，評価段階2を取ったことのあるのは女子4だけで，あとの7人はそれぞれ3以上である。しかし，5で通した者は1人もい

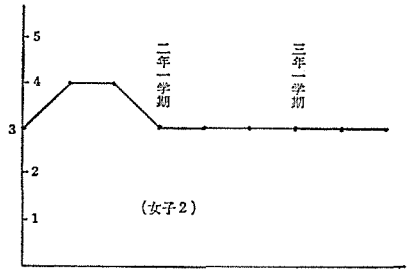

二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（男子1）

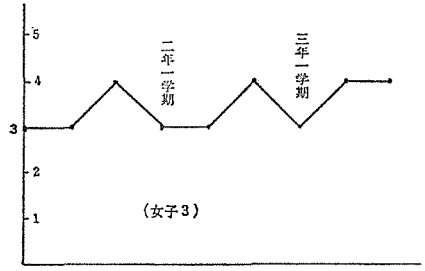

二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（男子2）

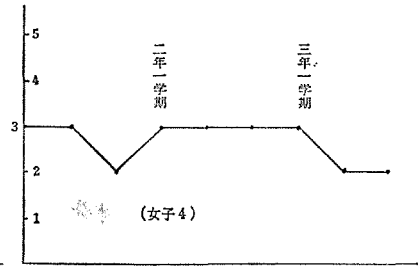

二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（男子3）


三年一学期
二年一学期
5
4
3
2
1
（男子4）


二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（女子1）


二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（女子2）


二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（女子3）


二年一学期
三年一学期
5
4
3
2
1
（女子4）

ない。

個別に変動の様相を追っていくと，それぞれ異なっているが，女子3に上昇傾向，男子4，女子4に下降傾向が認められる。男子1は8人の中では最も安定した形で上位を占めている。男子2，女子2は途中で一時的に下降したが，それぞれ3年1学期，2年2学期に5を取りもどし，その状態を保持した。

以上のような次第で，学校の国語科の学力という観点で見たばあい，被調査者は3年間を通じてほぼ中・上位に属していたということができる。

(2)　実施した国語の標準学力検査などとその結果

われわれが，または学校が実施した標準学力検査などにはつぎのようなものがある。

①　われわれが実施したもの

「新・標準綜合学力検査(国語)」(右表)，このほかに「クローズ式読書力検査（中学1～3年)」「教研式全国標準総合読書力診断テスト」があるが，これらについては後述する。

「新・標準綜合学力検査（国語)」

	得点	偏差値	評価段階
男子 1	83	73	5
〃 2	69	63	4
〃 3	72	65	5
〃 4	74	66	5
女子 1	68	62	4
〃 2	64	59	4
〃 3	61	57	4
〃 4	54	52	3

2年2学期末(昭40. 12)実施

②　学校側で実施したもの

(男子1)

学年	検査年月日	検　査　の　名　称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39. 10. 16	教研式学年別標準学力検査（ＳＳ）	67	74	74	85	63
2	40. 6. 16	文部省全国中学校一せい学力調査	96	97	99	98	100
3	41. 6. 24	文部省全国中学校一せい学力調査	94		88		技94 家

（男子2）

学年	検査年月日	検　査　の　名　称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（ＳＳ）	64	55	75	80	63
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	82	84	84	94	76
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	87		82		技94 家

（男子3）

学年	検査年月日	検　査　の　名　称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（ＳＳ）	77	67	62	71	60
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	59	88	80	75	79
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	89		93		技90 家

（男子4）

学年	検査年月日	検　査　の　名　称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（ＳＳ）	61	67	60	82	52
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	92	97	65	85	83
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	94		61		技50 家

（女子1）

学年	検査年月日	検　査　の　名　称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（ＳＳ）	65	58	62	66	64
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	79	75	57	69	83
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	87		57		技 43家

（女子2）

学年	検査年月日	検査の名称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（SS）	58	53	54	56	58
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	51	54	72		76
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	78		33		技 54家

（女子3）

学年	検査年月日	検査の名称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（SS）	51	43	54	46	51
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	75	62	45	69	47
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	55		53		技 43家

（女子4）

学年	検査年月日	検査の名称	国語	社会	数学	理科	英語
1	39.10.16	教研式学年別標準学力検査（SS）	57	47	48	48	47
2	40. 6.16	文部省全国中学校一せい学力調査	72	16	25	62	47
3	41. 6.24	文部省全国中学校一せい学力調査	73		11		技 54家

3.　身体・性格・行動など

(1) 概　　観

8人には身体的欠陥の認められる者はいなかった。われわれの調査に支障が生じるほど休んだ者はなく，また学校の欠席日数も男子1が2年時に11日休ん

でいるのが最高で，他は年間0～7日以内である。総じて8人は調査期間中健康であった。

また，性格的には明るいほうであった。少なくともわれわれが彼らから受ける印象はそうであった。調査時はわれわれのうちのだれかが学校まで迎えに行き，済んだら学校まで送り届けるということを3年間続けた。その道々，男子は男子同志で，女子は女子同志で4人ずつ腕を組んで歩くことがしばしばであった。だれがボスということも，だれが仲間はずれということもなかった。ただ男子1，男子2には全体の世話係的な役割を果たしている面があった。

(2)　P. C. T (Pupil Counseling Test) による診断

学校が実施したものに P. C. T (Pupil Counseling Test) がある。第3学年時に実施したもので結果は次のとおりである。

			男子1	〃2	〃3	〃4	女子1	〃2	〃3	〃4
性格診断	① 情緒		11	4	19	5	7	8	3	23
	② 劣等感		6	1	5	3	8	4	2	15
	③ 非社会性		0	0	7	0	6	7	0	4
	④ 反社会性		10	2	11	1	4	5	2	15
	⑤ 生活態度		5	2	10	0	6	5	1	6
	⑥ 神経質		11	8	7	0	2	3	1	13
	⑦ 異常性		4	4	5	0	9	2	0	15
A 性格			47	21	64	9	42	34	9	91
適応性診断	家庭	⑧ 両親との関係	1	4	5	2	11	2	0	28
		⑨ 家庭への感情	2	0	3	0	5	0	1	18
	B 家族関係		3	4	8	2	16	2	1	46
	学校	⑩ 学校での個人	8	0	2	4	4	1	0	7
		⑪ 学校への態度	1	0	5	1	0	1	0	2
		⑫ 教師との関係	2	0	5	0	5	4	0	5

		男子1	〃2	〃3	〃4	女子1	〃2	〃3	〃4
適応性診断	C 学校関係	11	0	12	5	9	6	0	14
	社会 ⑬ 集団での個人	6	2	12	2	12	5	3	16
	社会 ⑭ 対人関係	2	0	11	0	3	1	4	8
	D 社会関係	8	2	23	2	15	6	7	24
	⑮ 健康・身体	9	2	8	1	3	6	0	13
	⑯ 異性・性	7	2	4	1	7	3	2	9
E 適応性		38	10	55	11	50	23	10	106
⑰ 非行性		14	0	9	6	0	1	2	16
D カウンセリングの必要性		99	31	128	26	102	58	21	213
⑱ 回答の信頼性		○	×	○	×	○	△	△	○

〈注〉 カウンセリングの必要性はD項160以上，したがって，該当者は女子4のみ。なお，表中「男子2と男子4はその解答に故意な面が見られ，評価の対象にならなかった」（吉村先生の話）ということである。

(3) 行　動

次に，学校側の資料によって8人の生徒の行動面を見てみよう。

次表は8人の生徒の3年間の生活行動について，基本的な生活習慣，自主性責任感，根気強さ，自省心，向上心，公正さ，指導性，協調性，同情心，公共心，積極性，情緒の安定の10項に分け，それぞれにA，B，C三段階評価を加えたものである。評価段階Cの該当項に問題があると見てよい。

8人の生徒の行動の記録

（男子1）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B
	2年	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B
	3年	B	B	B	B	B	A	A	A	A	B	B	B	B

（男子2）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	A	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B
	2年	A	A	B	B	B	A	A	B	A	A	B	A	B
	3年	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	B	B	B

（男子3）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	B	B	A
	2年	A	A	B	A	A	A	B	A	A	B	B	B	B
	3年	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B

（男子4）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	A	B
	2年	C	B	B	C	C	B	B	B	C	B	B	B	B
	3年	C	B	C	B	C	B	C	B	C	C	C	C	C

（女子1）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	A	B	A	B	A	B	B	A	A	A	A	B	A
	2年	A	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A
	3年	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	B

（女子2）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	A
	2年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	3年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

（女子3）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	2年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	3年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

（女子4）

学年＼項目		基本的な生活習慣	自主性	責任感	根気強さ	自省心	向上心	公正さ	指導性	協調性	同情心	公共心	積極性	情緒の安定
評定	1年	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C
	2年	C	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	C
	3年	C	C	C	B	B	B	C	B	B	B	B	C	C

この結果では男子4，女子4にそれぞれCの該当項がある。男子4の場合，自制心において最も問題があり，基本的な生活習慣，協調性においてB→C→Cという経過をたどっている。また積極性ではA→B→Cと学年が進むにつれて低下している。しかし，研究所へ来てテストを受けたり，対話をしたりするときの男子4は，学年が進むにつれてむしろ積極的になって来たのではないかという印象を受けた。

このように，われわれの評価と学校の「行動の記録」による評価との間に多少の差異が感じられる部分もある。しかしこれは，限られた場面での現われと，学校生活全体の中での現われとの相違であるかもしれない。

4.　家庭環境・学習状況など

(1) 家 庭 環 境

被調査者8人の，それぞれの家庭環境のあらましについて，3年時を中心にふれてみる。

（男子 1）

父親は都内某デパートの幹部職員で，経済的に恵まれたほうである。家族は父母，祖母，3人の姉と本人の7人。上の姉2人はすでに就職しており，一番下の姉が都内の私立女子高校に在学中。

（男子 2）

家業は呉服店で父親が経営者。家族は父母，弟と本人の4人。ほかに住込みの店員が2人いる。経営は順調であり，生活は豊かなほうに属する。小学生の時から家庭教師について学習指導を受けていた。

（男子 3）

両親ともに中学校教員，長兄は高校教員という教員一家。家族は前記のほかに兄，姉がおり，本人を入れて6人。家族同志で話し合う機会が割合に多く，それだけに，精神生活のうえで家族の者から受けた影響が大きかったようである。

（男子 4）

父親は都交通局の職員。家族は父母，兄，妹，本人の5人。経済面で特に困るということはない。しかし，本人は自発的に新聞配達のアルバイトを続けていた。

（女子 1）

父親は国税庁に勤める公務員。家族は父母，兄，本人の人4人。兄は大学1年生。

（女子 2）

父親は某製薬会社に勤務。家族は父母，兄，妹，本人の5人。このほかに祖

母がいたが，中学1年時ごろ死別した。兄は高校3年生で，工科系大学に合格，進学の予定。

（女子 3）

父親は車両製造会社につとめる会社員。家族は父母，姉，本人の4人。姉は高校卒業の後貿易会社に勤務，かたわら夜間の英語学校で会話を勉強中。女子3にはこの姉の影響を，勉強のうえで受けているらしいところがあった。

（女子 4）

父親は会社員。家庭的にはやや複雑な面があった。4人兄弟の三番目。経済的には恵まれているとはいえない。ことに住生活の面でそうであった。

8人については以上のごとくである。なお，稲付中学の近くには赤羽団地など数千世帯からなる大団地があり，それらの団地の子女も相当数通学しているが8人の中には含まれていない。これには，調査期間中に転出というようなことにならないように，転出の可能性の大きい団地生活者の子女はあらかじめ避けたという事情などがあったことを付記しておく。

(2)　学習状況など——担任教員から見た8人の生徒——

われわれは，この3年間，被調査者である8人の生徒とつきあってきた。その間，学校や家庭における彼等の学習状況をじかに確かめることはしなかった。そういうわけで，この点について発言する基盤は弱い。しかし，さいわいにして，8人のクラスの担任として3年間国語科指導に当たられた吉村安夫先生がおられ，同先生から情報を得ることに努めた。以下は，担当教員の目に映じた8人像とでもいうべきものである。主として学習生活をとおしての8人の生徒のプロフィールである。

被調査生徒は入学時より卒業時まで，同一学級科在籍，入学時の2か月間を除き，同一教師が国語を指導した。

次に，被調査生徒の学習状況，性格などの一端にふれよう。

（男子 1）

卒業時，体重 90 kg をこす肥満生徒，体育を除き一応何事もこなす生徒であった。入学以来，卒業まで学級委員に選ばれていたが，指導力そのものはすぐれているとはいえない。学習に対しては意欲的であるが，学習方法そのものは雑なほうである。頭の回転ははやく，理解力も相当なものであったが，ノートをきちんととったり，整理したりすることは苦手であり，特に自分の身の回りを整備することを好まなかった。「雑然とした中でないと，頭の回転がにぶる」と当人がいっていたごとく，物事にこだわらない性格の生徒であった。が，意外な点は，自分が努力して解いた問題などは，人に教えるというのをあまり好まない面があったことである。

国語学習時は，自ら，自己の考えや感想を述べるということはない。指示されると，一応，その見解を述べるが，終始一貫しないことが多かった。国語科そのものに対する熱意は比較的うすく，むしろ，数学，理科などに興味を有していた。ノートはさきに述べたごとく，まとまりがなく，いわゆる練習帳という印象を与えるものであった。字体などきちんと書くというのは困難であったらしい。

家庭は，両親，祖母，三人の姉という構成であり，図体の大きいわりに女性的な面をもっていた。はずかしがり屋でありなかなか人の前に立とうとしない。そのくせ，ありあまる体力，こういう二律背反的な精神的肉体的事象が，ものごとに集中できなかったり，ときおり爆発的な行動に出たりする因子をふくんでいた。

卒業時都立小石川高校，早大付属早稲田高等学院の両者に合格，早稲田高等学院に進学した。

（男子 2）

表面的には温和であるが，芯はがんこである。積極性・気力にとぼしい面があった。経済的にめぐまれ，小学校時代より，家庭教師につき（ピアノ・教科）指導をうけていた。家庭は商店経営者であり，教育に対してはきわめて理解がある。しかし，忙しさのあまり，細部にわたっては，家庭教師にたよることが少なくなかったようである。

学習意欲は強いほうとはいえない。義務的に学習を続けるという型であり，命ぜられたことはきちんと果たしていたが，進んで学習するという域には到達していない。

国語学習に対しては，定見を有していた。読解力にしても，作文にしても，学級中で上位に属し，優秀な成績を得たことも少なくない。が，進んで発言するというのではなく，傍観者的な態度で学習にのぞんでいた。ノートはよく整理されていたが，くふうのあとはみられなかった。

学級内で，指導的位置にあったが，指導力そのものとしては，特に評価の対象になるようなものはなく，与えられた義務だけを果たしているという感じが強かった。

釣りに凝り，相当遠くまで出かけていたようである。ごく親しい友人もあり，そのために進路先を変えようかとまで考えたくらいであり，友情関係はあつい。

卒業時，都立北高校，私立立教大学付属志木高校に合格，立教高校に進学した。

（男子 4）

小学校時代の成績は，学級のトップクラスにあった。が，小学校6年ごろから徐々に成績の下降がめだちはじめた。そのころから，アルバイトに興味をもつようになったらしい。新聞，牛乳，キャディなど，特にアルバイトの必要性がなかったにもかかわらず，手をそめていた。

性格は明るいが，妙に世なれた面と，衝動的な行動に出る一面をもっていた。

学習に対しては，上記のような経緯があり，徐々に興味を失い，学力の低下をきたした。

国語学習については，担任が国語教師であった理由もあろうが，一応まじめな態度がみられた。書き取り，作文などにみるべきものがあった。話し合い，ことに討論では，筋の通った発言が多かったが，そのうらづけとなる行為にとぼしかった。ノートは，気ままな傾向もみられたが，部分的にはよく整理され

ていた。

交友関係では，一方のボスであり，本人をとりまく何人かのグループがあった。中心的人物として，陰に陽に影響を与えていた。

別表P．C．Tの調査にみられるよう，自分の性格が試されることは，極度にきらっていたようである。というのは，ボス的な存在でありながらどこか，自分自身でその愚劣さに気づいていたのであろう。

卒業時，船員になることを望んだが，親の反対などもあり，都立赤羽商業高校に進学した。

（男子 3）

両親ともに中学教師であり，教育に対してじゅうぶんな理解はあったが，それなりにカギッ子的な面があった。兄姉みな優秀な成績で一流校に進んでいた。本人は，この家庭の中でコンプレックス的なものをもっていたようである。ややノイローゼ気味であった。そのため，学校を休んだり，遅刻したりすることがあった。

物の考え方は筋道が通っていたようであるが，その考え方にやや独善的傾向があり，多くの者を説得するにはいたらなかった。行動はどちらかというと鈍い面があった。

社会科に対して興味をもち，いろいろな面で研究をしていた。特に歴史に興味をもっていた。下級生に対してはよき指導者という面があったようである。

国語学習に対しては，並以上の努力があったとは考えられない。が，ときおり，鋭どい透徹した推論をしたり，論理を追求することもあった。ノートは濃い鉛筆を使用し，比較的よくまとまっていた。作文は，提出におくれることが多く，内容はやや幼稚であった。口頭では相当に高度な事象が説明できたり，推論できたりするわりには，文章はつたなかった。

運動能力は低いほう。意欲はもっていたがよい成績をあげるにはいたらなかった。

この生徒には，上記にもみえるように，きわめてすぐれている面と，その逆の面が見られた。ややノイローゼ気味である点は，蓄膿気味であったことが最

大の原因であろう。明暗が，病状や家庭の状況などに応じて現われ，それが成績を左右していたといってよいだろう。

卒業時，都立城北高校に合格，そのころから，やや明るいきざしがみられ，希望をもって巣立っていった。

（女子 1）

中学3年間在学中，幾度か学級委員をしたことがある。この例にみられるように，適度に話せる生徒であった。「ビートルズが好きだ。」といっていることなどに見られるごとく，おとなしそうにみえる反面，強烈な面をもっていた。ときおりみられる感情の起伏は，その一端を物語っていた。

学習は特にすぐれてはいない。ただ，何事にもまじめに対処していたということはいえる。

音楽に興味をもち，バイオリンにひいでていた。が，人前で発表するほどの勇気はもちあわせていなかったようである。

国語学習に対しては，比較的興味をもっていたほうである。着実に予習や復習をしていたが成績そのものはあまりふるわなかった。話し聞く生活は，他の領域に比べてややすぐれていたようであるが，書くことの面は，それほどあげるべきものはない。

運動能力はすぐれ，学級対抗などでは，学級の中心人物として活動していた。

卒業時都立北高校に合格，同校に進学した。

（女子 2）

教室ではほとんど発言しない。しかし友人どうしではけっこう楽しくつきあっていたようである。

学習時，教師に指示されて発言する場合，よく聞き取れずはっきりしないことが多かった。回答そのものがまちがっているというのではなく，何か発言することそのものに抵抗を感じていたようである。はにかみ屋というせいもあるかもしれないが，反面プライドの高い生徒であり，はにかみのみが発言を封じる因子ではなかったようである。

全教科を通じて女子の中の上くらいの位置にあった。とりたててすぐれた教科はない。綿密な思考力，創造力に劣るきらいがあった。また，宿題としての家庭学習など，ときどき忘れて教師の指導をうけたこともあった。

国語の学習に対しては，本人の持つ他教科への努力以上にそそがれたとは思われない。ただ，与えられたことをほぼ全面的にうけいれ着実に学習していたとはいえるだろう。作文については特に印象づけられるようなよい作品はなかった。

しかし，さきにもふれたように友人間では相当な人気があったらしく，いろいろな場合話題にのぼっていた。本人のもつかくれた一面であろう。この面にはやく着目し指導したならば，ちがった面での発展があったかもしれない。

卒業時，都立赤羽商業を受験合格，同校に進学した。

（女子 3）

一見，病身のようにみえるが芯は強い生徒である。体育，生徒会の活動に活躍した。家庭的にはあまり恵まれていなかった（住居）が，本人にはそのようなかげはみあたらなかった。

学習成績はほどほどであったが，態度そのものはまじめであった。彼女にとって国語科はことに興味ある教科であった。教室における学習，家庭学習とも，本人のもつ能力をじゅうぶんに発揮していたといってもよいであろう。特にノートのとり方，成績物の提出などには本人のもつ個性が現われていた。

与えられた仕事には忠実で，会計委員など幾度か重要な役割りをもたされ，ほぼ完全にその責務を果たした。

卒業時，本人が国学院大付属高校をえらび受験合格，同校に進学した。

（女子 4）

8名の被調査生徒の中の唯一の就職者である。学級内においても，ただひとりの就職者であった。が，そのこと自身には，少しもひがみをもたず，愉快に日々を送っていたようである。

住居に恵まれず，家族全員が一部屋に起居，家庭状況も複雑であるなどのことのためか，行動面で教師の指導を受けたこともあった。一時的な現象とはい

え，担任教師を憂慮させたことは事実である。

学習成績は全般的にふるわなかったが，国語科には興味をもっていた。他教科の学習はさておいても，国語だけは，というのが本人のかまえであったらしい。発言は活発であった。が，要を得た話をすることは苦手だった。

この生徒は，学級内でただひとりの就職者という位置におかれていたため，就職指導はきわめてていねいに受けた。同時に進学指導も受け，進路に対しては，ほぼ完全に近いかたちの指導を受けている。

これらの進路の指導を，本人はどのように理解したか明らかでないが，いずれにしても，ややもすれば，非行に走りがちであった生徒が，無事卒業し，新しい進路を求めて巣立って行ったことは，学校としての喜びでもあった。卒業後は大手の製薬会社に就職した。

以上のとおりである。そしてその結果は，だいたいにおいてわれわれの印象や評価と一致している。

しかし，なかには男子3，男子4，女子4の場合のごとく，どちらかと言えば明朗で素直な面だけがわれわれの前に映り，その反対の面が見落とされていたのではないかと思われる点があるなど，多少違っているところもある。

5.　読書状況および読書力

(1)　「読書調査」について

8人の生徒の中学校3年間の読書生活的な側面について知るために「読書調査」を実施した。調査票はこの調査のために特別に作ったものを使用した。調査は8人だけでなく，8人の属する1クラスを対象として実施した。

実施についてのあらまし，および調査内容などは以下に示すとおりである。

1)　被調査者

稲付中学校3年生で，被調査者の8人の生徒を含むクラス（クラス全員を予定したが，私立高校入試手続き期と重なったため，一部の者が欠けて

回答者は男21名，女17名，計38名となった）

2）　実施の時期

昭和42年1月20日～30日

3）　調査の方法

家で記入してきてよいという条件で調査票を生徒に渡し，記入終了を待って回収した。

4）　調査の内容

調査には，中学生になってから読んだ一般の単行本・雑誌・学習参考書，これから読みたい本，新聞の閲読状況，テレビの視聴や映画（テレビ映画でない）の鑑賞状況などを含めた。具体的には次に示す調査票のとおりである。

5）　読書調査調査票

読　書　調　査

昭和42年1月　国立国語研究所国語教育研究室

女 男	氏名	

A　一般の単行本・雑誌

あなたは中学生になってから，現在までに，どんな本を読みましたか。わかるはんいで，思い出して書いてください。単行本を書く欄と，雑誌を書く欄とがあります。単行本については，学校の勉強と直接関係のないものを書いてください。雑誌についてはどんな種類のでもかまいません。著者名，発行所名がわからないときは，書名だけでもかまいません。

	1年生のとき		2年生のとき		3年生になってから	
単行本	書名	著者名	書名	著者名	書名	著者名
雑誌	書名	発行所名	書名	発行所名	書名	発行所名

B　学習参考書

学校の勉強に直接関係のある本で，教科書以外のもの，たとえば，英語・社会科・数学の……参考書などでは，どういう本を利用してきましたか。辞典なども含めて，家で勉強するときに使用してきたものを中心に書いてください。

	1年生のとき		2年生のとき		3年生になってから	
	書名	著者名・発行所名	書名	著者名・発行所名	書名	著者名・発行所名
国語科以外の勉強のために						
国語科の勉強のために						

C　これから読みたい本

まだ読んではいないが，読んでみたいと思っている本がありますか。どんな種類のものでもかまいません。よみたい本の名まえ（できれば著者名も）を書いてください。

書　　名	著　者　名（発行所名）

D 新　　聞

あなたは，現在，新聞をよんでいるでしょうか。（「現在」というのは3年生になってからという意味です）よんでいるばあい，つぎの問いに答えてください。

よんでいる新聞の名まえ	＊ よ み か た	＊ 好 き な 紙 面
	毎日よむ　ときどきよむ	
	毎日よむ　ときどきよむ	
	毎日よむ　ときどきよむ	
	毎日よむ　ときどきよむ	
	毎日よむ　ときどきよむ	
	毎日よむ　ときどきよむ	

＊ 「よみかた」のところは，毎日よむ，ときどきよむのどちらかあてはまる方を○でかこんでください。

＊ 「好きな紙面」については，小説（奇病連盟），社会欄，漫画（サザエさん），……というように，なるべくわかりやすく具体的に書いてください。

E テ レ ビ

1 テレビの番組で好きな番組があったら，好きな順に5つぐらい番組のなまえをあげてください。

1.	4.
2.	5.
3.	6.

2　テレビをみている人は答えてください。日曜日をのぞいて考えて，1日平均およそ何時間（何分）ぐらいみるでしょうか。

＿＿＿＿時間　＿＿＿＿分ぐらい　　。

F　映　画

3年生になってから，映画をみましたか（テレビ映画はふくまない）

1. みた　（　　回ぐらい）　2. みない

みた人は，答えてください。それはどんな映画でしたか。おぼえていたらその映画の題名を書いてください。

1.	6.
2.	7.
3.	8.
4.	9.
5.	10.

(2)　「読書調査」結果の概要

調査結果について，その概要を項目ごとに以下にしるす。

なお，調査結果のうち，ここでは主として8人の生徒についてのものを報告するにとどめる。

1)　一般の単行本の閲読状況

（男　1）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
南総里見八犬伝	滝沢馬琴	ＡＢＣ怪事件	クリスティー	風と共に去りぬ	ミッチェル
平家物語		ピラミッドの秘密	ルブラン	高　瀬　舟	森　鷗外
		種の起源	ダーウイン		

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
		はな			
		虎の牙	ルブラン		

（男　2）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
次郎物語	下村湖人	坊っちゃん	夏目漱石	高瀬舟	森　鷗外
路傍の石	山本有三	50の有名な話（英語）		唄えない敵	
父帰る	菊池　寛	狼王ロボ	シートン		
蜘蛛の糸	芥川竜之介				
ああ無情	ユーゴー				
青い鳥	メーテルリンク				
昆虫記	ファーブル				
イソップ物語	イソップ				
アンクルトムの小屋	ストウ				
イワンのばか	トルストイ				

（男　3）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
		君たちの天分を生かそう	松田道雄	寺田寅彦集	寺田寅彦
		路傍の石	山本有三	古典文学入門	円地文子
		ああ無情	ユーゴー	平家物語	
		ナポレオン	江口　清	愛の一家	ザッパー
		海底二万マイル	ベルヌ	荒野の呼び声	

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	名　書	著者名
		トム・ソーヤの冒険	マーク・トウェーン	トルストイ	
		狭き門	ジイド	リヤ王	シェークスピア
		ナポレオン・ソロ		ツルゲーネフ名作集	ツルゲーネフ
		アンクルトムの小屋	ストウ	ニュートンの発明発見物語	
		ポー名作集	アラン・ポー		
		フランクリン	細田民樹		
		火星とその観測	佐伯恒夫		
		星　座			
		天体望遠鏡の作り方			
		北極にいどむ			

（男　4）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
幕末風雲録		坊っちゃん	夏目漱石	日本の英雄	
曽我兄弟	河竹繁俊	推理小説		宮本武蔵	
宮沢賢治(詩集)	宮沢賢治	世界少年少女文学全集			
リンカーン伝		コンチキ号漂流記	ハイエルダール		
ああ無情	ユーゴー	海底二万マイル	ベルヌ		
三銃士	デューマ	怪盗ルパン	ルブラン		
		ルパン対ホームズ			
		ヘレン・ケラー	村岡花子		

（女　1）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
二宮金次郎		ビルマの竪琴	竹山道雄	星の牧場	庄野英二
南総里見八犬伝	滝沢馬琴	二十四の瞳	壺井　栄	羅生門	芥川竜之介
今昔物語		母のない子と子のない母と	壺井　栄	野菊の墓	伊藤左千夫
平家物語		路傍の石	山本有三	風立ちぬ	堀　辰雄
竹取物語		啄木歌集	石川啄木	吾輩は猫である	夏目漱石
黒いチューリップ		蒼き狼	井上　靖	坊っちゃん	夏目漱石
オリバー・ツイスト		小泉八雲集		源氏物語	
宝　島	スチーブンソン	ユーモア全集		私たちはどう生きるか	（シリーズ物）
若草物語	オルコット	世界文学全集		ドストエフスキー	
レ・ミゼラブル	ユーゴー	宇宙戦争	ウエルズ	ハムレット	シェークスピア
ドリトル先生	ロフティング	アンネの日記	アンネ・フランク	ロミオとジュリエット	シェークスピア
ふたりのロッテ	ケストナー	ＡＢＣ怪事件	クリスティー	月と六ペンス	モーム
シェイクスピア物語	チャールズ・ラム	シャーロック・ホームズ	ドイル	嵐が丘	E・ブロンテ
クリスマス・キャロル	ディケンズ	ジャン・クリストフ	ロマン・ローラン	戦争と平和	トルストイ
クマのプーさん	ディズニー	狭き門	ジイド	モンテ・クリスト伯	デューマ
メリーポピンズ	ディズニー	田園交響楽	ジイド	プー横丁にたった家	A.A.ミルン
車輪の下	ヘッセ	大　地	パールバック	ルナール名作集	
足ながおじさん	ウェブスター	ベニスの商人	シェイクスピア	星のギリシャ神話	ヴァルト
赤毛のアン	モンゴメリー	世界名詩集		世界のなぞとふしぎ物語	庄司浅水
美しいポリー	オルコット	罪と罰	ドストエフスキー		
クオレ	アミーチス	若きヴェルテルの悩み	ゲーテ		
三銃士	デューマ	おちゃめなピッピ	リンドグレーン		
怪盗ルパン	ルブラン	世にもふしぎな話	日本児童文学協会編		
ロビンソン漂流記	デフォー	ルパン全集			
		たのしい手芸	藤田　桜		

（女　2）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
あすなろ物語	井上　靖	次郎物語	下村湖人	伊豆の踊り子	川端康成
ベンハー物語	ウォーレス	吾輩は猫である	夏目漱石	花のワルツ	川端康成
クオレ物語	アミーチス	嵐が丘	ブロンテ	三四郎	夏目漱石
ソロモンの洞窟	ハガード	若草物語	オルコット	坊っちゃん	夏目漱石
アンネの日記	アンネ・フランク	ベートーベン		草　枕	夏目漱石
にんじん	ルナール	黒　猫	ポー	電話は知っていた	
王女カルレラ		黄金虫	ポー	足ながおじさん	ウェブスター
車輪の下	ヘッセ	ロミオとジュリエット	シェークスピア	アンの青春	モンゴメリー
赤毛のアン	モンゴメリー	ハムレット	シェークスピア		
		ヴェニスの商人	シェークスピア		

（女　3）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
路傍の石	山本有三	次郎物語	下村湖人	生れ出づる悩み	有島武郎
真実一路	山本有三	野菊の墓	伊藤左千夫	知と愛	ヘッセ
坊っちゃん	夏目漱石	ビルマの竪琴	竹山道雄	ベートーベンの生涯	ロマン・ローラン
雨ニモ負ケズ	宮沢賢治	羅生門	芥川竜之介		
ああ無情	ユーゴー	吾輩は猫である	夏目漱石		
		暗夜行路	志賀直哉		
		道　程	高村光太郎		
		アンネの日記	アンネ・フランク		

（女　4）

1　年　時		2　年　時		3　年　時	
書　名	著者名	書　名	著者名	書　名	著者名
		世界少年少女詩集		世界詩歌	
		おかあさん	サトー・ハチロー	ドストエフスキー	
		中学生詩集		世界の名作	
		坊っちゃん	夏目漱石	文学全集	
		路傍の石	山本有三	ルナール名作集	
		次郎物語	下村湖人	星の牧場	庄野英二
		芥川竜之介全集	芥川竜之介	おちゃめなピッピ	リンドグレーン
		石川啄木		人生案内	岡　一太
		島崎藤村		私たちはどう生きるか	ポプラ社シリーズ物
		出家とその弟子	倉田百三	生活のくふう	吉沢久子
		まごころ		世界の旅	
		ユーモア文学全集		エジプト王ののろい	ヴァン・ダイン
		赤い屋根の家		じょうずな話し方	石田佐久馬
		ああ無情	ユーゴー	ことばと生活	
		罪と罰	ドストエフスキー		
		私の幼年時代			
		世界の旅			

一般の単行本の閲読状況は具体的には以上のようである。男4，女4の一年時の記入がないが，読んだことがなかったのではなく，思い出す手がかりがじゅうぶんでなかったことによる無記入であると思われる。

2年時と3年時とを比較すると，やや，2年時により多く本を読んでいる者が多い。3年生になると，高校受験の準備などのために，2年時より一般の読書のために使える時間が少なくなるのであろう。

また，何を読むかという観点では翻訳物も含めて文学書が最も多い。たとえ

ば，女1は8人の中での最多読家であるが，そのほとんどが文学書である。

男女差という観点では，学年が進むに従って読む本の共通度が高まっていくように思われる。女の子の読み物，男の子の読み物というのでなく，男女ともに人間や社会を考えさせるような読み物を選択していく傾向が見られる。

ちなみに，クラスの者（38人）についての各学年での上位書（男女合わせて4人以上によって読まれたもの）をあげると次のとおりである。

1年時

＜書　名＞	＜著者名＞	＜男＞	＜女＞	計
次郎物語	下村湖人	6人	4人	10人
路傍の石	山本有三	3	3	6
ああ無情	ユーゴー	3	2	5
赤毛のアン	モンゴメリー		4	4
アンネの日記	アンネ・フランク		4	4
車輪の下	ヘッセ		4	4

2時年

＜書　名＞	＜著者名＞	＜男＞	＜女＞	計
大地	パール・バック	5人	7人	12人
次郎物語	下村湖人	1	7	8
路傍の石	山本有三	2	6	8
蒼き狼	井上靖	3	3	6
坊ちゃん	夏目漱石	4	2	6
ビルマの竪琴	竹山道雄	1	4	5
A.B.C怪事件		2	3	5
海底二万マイル		4	1	5
野菊の墓	伊藤左千夫		4	4
アンネの日記	アンネ・フランク	1	3	4

3年時

＜書　名＞	＜著者名＞	＜男＞	＜女＞	計

坊っちゃん　　夏目漱石　　1人　3人　4人

なお，男女どちらがより読書をするかというと，この調査の結果では，女子のほうが男子よりいく分読書家であるという傾向が認められる。

2)　雑誌の閲読状況

	1　年　時	2　年　時	3　年　時
男1			中三時代（旺文社）
男2			中三時代（旺文社）
男3	中学一年コース（学習研究社）	中学二年コース（学習研究社）	中学三年コース（学習研究社）
男4	少年サンデー（小学館） 少年マガジン（講談社）	少年サンデー（小学館） 少年マガジン（講談社）	中学三年コース（学習研究社）
女1	中一時代（旺文社）	中二時代（旺文社） 女学生の友（小学館） 科　学（学習研究社）	中三時代（旺文社） 女学生の友（小学館）
女2	中学一年コース（学習研究社）	中学二年コース（学習研究社）	中学三年コース（学習研究社）
女3	中一時代（旺文社）	中二時代（旺文社）	中三時代（旺文社）
女4	小説ジュニア（集英社）		

雑誌の閲読では，『中○時代』（旺文社）がクラスとして各学年を通じて最も読まれている。その次に読まれているのが『中○コース』（学習研究社）で，ともに学習雑誌である。そのほかに傾向的なのは，学年が進むにつれて漫画雑誌の地位が下降状態をたどること，読む対象（雑誌の種類）が多様化していくなどがあげられよう。

クラスとしての各学年の閲読状況を示すと次のとおりである。（男21　女17　計38人）

1年時

<雑誌名>	<発行所名>	<男>	<女>	計
中一時代	旺　文　社	7人	7人	14人
中一コース	学習研究社	4	4	8

少年マガジン	講談社	4		4
少年サンデー	小学館	3	1	4
中一の科学	学習研究社	1		1
女学生の友	小学館		1	1
希望の友	潮出版社		1	1
小説ジュニア	集英社		1	1
	計	19	15	34

2年時

<雑誌名>	<発行所名>	<男>	<女>	計
中二時代	旺文社	8人	7人	15人
中二コース	学習研究社	3	6	9
女学生の友	小学館		4	4
少年サンデー	小学館	3		3
小年マガジン	講談社	3		3
ボーイズライフ		1		1
中学二年の科学	学習研究社		1	1
希望の友	潮出版社		1	1
マーガレット	集英社		1	1
	計	18人	20人	38人

3年時

<雑誌名>	<発行所名>	<男>	<女>	計
中三時代	旺文社	9人		9人
中三コース	学習研究社	4	5	9
女学生の友	小学館		5	5
少年サンデー	少学館	1		1
少年マガジン	講談社	1		1
小説ジュニア	集英社	1		1
CARグラフィック	二玄社	1		1

ミュージィックライフ	新興楽譜出版社	1		1
少女フレンド	講談社		1	1
ジュニア文芸	小学館		1	1
小説ジュニア	集英社		1	1
希望の友	潮出版社		1	1
主婦の友	主婦の友社		1	1
これが新しい世界だ	国際情報社		1	1
	計	18人	16人	34人

この平均冊数は，1年時，2年時，3年時それぞれ1人当たり0.9冊，1.0冊，0.9冊となる。したがって，各学年とも，ほぼひとり一種の雑誌に接していると見ることができる。

8人の場合もだいたい同様の傾向が認められる。ただし，男1，男2の1年時，2年時，女4の2年時，3年時に記入がなかった。これがほんとうに読まなかったことを表わしているかどうかは定かでない。

3)　国語の学習のために使った参考書

	1　年　時	2　年　時	3　年　時
男1	国語辞典（三省堂） 漢和辞典	国語の整理と研究 （暁教育図書） 国語の整理と対策 （明治図書）	作文の書き方 模擬テスト
男2	新制国文法（日教社） 辞　書 ワークブック<上、下>	ワークブック<上、下>	記述式テスト 征服国語 国語自由自在 （受験研究社） ワークブック<上、下> 国語完成（文理書院）
男3	国語辞典（三省堂） 新制国文法（日教社） 国語自由自在 （受験研究社）		国語完成（文理書院）
男4	国話辞典 漢和辞典	国語辞典 漢和辞典	国語辞典 漢和辞典 国語の整理と研究 （暁教育図書）

	1　年　時	2　年　時	3　年　時
女1	国文法 国語辞典（角川書店） 漢和辞典（角川書店）		国語完成（文理書院）
女2	漢和辞典 国語辞典 国文法		国語完成（文理書院）
女3	中学国語（新興出版社） 漢和辞典（三省堂） 国語の急所（旺文社）	国語辞典（角川書店） 中学国語（新興出版社）	当用漢字の読み方書き方（大晶堂） 国語完成（文理書院） 国語辞典（三省堂）
女4	国語辞典（三省堂） 漢和辞典（三省堂）		国語完成（文理書院）

国語の学習のために使った参考書は，8人については③の表のとおりで，1年時に国語辞典・漢和辞典，2年時には目立ったものがなく，3年時に高校受験対策と思われるものという傾向が見られる。

クラスとして見た場合も同傾向である。各学年の上位数種について具体的にあげると，次のとおりである。

1年時

<書　名>	<行発所名>	<男>	<女>	計
国語辞典	角川・三省堂ほか（不詳）	12人	10人	22人
漢和辞典	角川・三省堂ほか（不詳）	9	7	16
新制国文法	日教社	5		5
国語自由自在	受験研究社	1	2	3

（以下略）

2年時

<書　名>	<発行所名>	<男>	<女>	計
国語辞典	角川ほか(不詳)	2人	2人	4人
国語の整理と研究	暁教育図書	1	1	2
国語の整理と対策	明治図書	1	1	2

（以下略）

3年時

<書　名>	<発行所名>	<男>	<女>	計
国語完成	文理書院	4人	10人	14人
国語の整理と研究	暁教育図書	6		6
国語問題集	文理書院	2	1	3

（以下略）

上表で「以下略」としたものを含めて，クラスとして見た場合，ひとり当たりの冊数は1年時1.7冊，2年時0.4冊，3年時1.3冊である。

4)　これから読みたい本

	書名（著者名または発行所名）
男1	
男2	草　　枕（夏目漱石） 破　　戒（島崎藤村） 五重の塔（幸田露伴） 奥の細道（松尾芭蕉） 囲碁の本
男3	日本文学全集（河出書房）
男4	
女1	破　　戒（島崎藤村） たけくらべ（樋口一葉） にごりえ（樋口一葉） 風と共に去りぬ（ミッチエル） ピエールとジャン（ロマン・ローラン） あじさいの歌（石坂洋次郎） 何処へ（石坂洋次郎）
女2	風と共に去りぬ（ミッチェル） 誰がために鐘は鳴る（ヘミングウェイ） 老人と海（ヘミングウェイ） 郷　　愁（ヘッセ） 心　　（夏目漱石）
女3	ジャン・クリストフ（ロマン・ローラン） 風と共に去りぬ（ミッチェル）
女4	クリスマス・キャロル（ディッケンズ） 風と共に去りぬ（ミッチェル） にごりえ（樋口一葉） たけくらべ（樋口一葉） 嵐が丘（ブロンデ） 何処へ（石坂洋次郎） 大　　地（パール・バック）

これから読みたい本として8人（ただし，男1，男4は無記入）によってあげられたものは，男2の「囲碁の本」を除いてはことごとく文学書である。このことはクラスとして見た場合もほとんど同様である。クラスとして選択が集中したものの順にいくつかあげると次のとおりである。

『風と共に去りぬ』（ミッチェル）（男4人　女5人　計9人）

『戦争と平和』（トルストイ）　（　1　　4　　5　）

『南総里見八犬伝』（滝沢馬琴）　（　1　　2　　3　）

5）　新聞の閲読状況

	新聞名	よみかた	閲読欄
男1	朝日新聞 産経新聞	毎日読む 毎日読む	スポーツ欄、社会欄 スポーツ欄、社会欄
男2	朝日新聞 東京新聞	毎日読む 毎日読む	漫画、スポーツ欄 スポーツ欄
男3	毎日新聞	ときどき読む	社説，娯楽，文芸，政治経済欄
男4	朝日新聞 東京タイムス 日刊スポーツ	毎日読む 毎日読む ときどき読む	天声人語、投書欄、漫画 ヤングタウン、趣味のコーナー
女1	読売新聞	毎日読む	漫画、家庭欄
女2	読売新聞	ときどき読む	
女3	読売新聞 東京新聞	ときどき読む ときどき読む	社説 社説
女4	朝日新聞	毎日読む	社会欄

新聞については，8人の場合も，クラスとしての場合も，毎日よむか，ときどき読むかのいずれかであって，読まない者はなかった。そしてクラスとして

みた場合，38名のうち，

毎日よむ	男	23人	女	9人	計	32人
ときどきよむ	男	6	女	11	計	17
	計	29		20		49

＜注＞1人で2紙以上読む場合が含まれているので実人数よりも多くなっている。

である。この数字で見ると，男子のほうが，女子よりも新聞への接近の度合はやや高いと言える。

なお，読む欄では，社会面，漫画，スポーツ，娯楽（趣味）欄が上位にある。そしてこの傾向は男女ともに同様である。

6）　テレビの愛好番組

男　生　徒		女　生　徒	
男1	1. 銭形平次 2. ザ・ガードマン 3. これが青春だ 4. サザエさん 5. ナポレオン・ソロ 6. 笑　点	女1	1. 大正テレビ寄席 2. アンディー・ウィリアムズ・ショー 3. ナポレオン・ソロ 4. 池田大助捕物帳 5. おはなはん 6. 三匹の侍
男2	1. 逃亡者 2. これが青春だ 3. 遊撃戦 4. 寄席（なんでも）	女2	1. 太　郎 2. あしたの家族 3. 真田幸村
男3	1. 愛の一家 2. 逃亡者 3. 一直線 4. 学園は大騒ぎ 5. お茶の間寄席	女3	1. 生活の知恵 2. 太　郎 3. 池田大助捕物帳 4. これが青春だ 5. 中学生時代

男　生　徒		女　生　徒	
	6. ひょっこりひょうたん島		
男4	1. ローハイド 2. コンバット 3. ターザン 4. てなもんや三度笠 5. ナポレオン・ソロ	女4	1. ヤング・ジャンボリー 2. 事件記者 3. テレビ寄席 4. 宴 5. 七人の刑事 6. 何処へ

7)　1日のテレビ鑑賞時間（日曜日を除く）〈3年時〉

A，8人について

	時間 分	
男1	2：30	平均　2：30
男2	1：30	
男3	3：00	
男4	3：00	

	時間 分	
女1	1：30	平均　1：30
女2	1：00	
女3	1：30	
女4	2：00	

男女計平均　2：00

B，クラスについて（この項への回答のあった者，男21名，女15名，計36名）

時間 分	男	女	計
1：00	0人	2人	2人（5.56%）
1：30	7	5	12　(33.33%)

2：00	7	6	13　(36.11%)
2：30	1	1	2　(5.56%)
3：00	6	1	7　(19.44%)
計	21人	15人	36人

男　(21人) 平均　2時間08分

女　(15人) 平均　1時間48分

男女計 (36人) 平均　2時間00分

テレビの愛好番組，1日のテレビ鑑賞時間は⑥⑦の表に見るとおりである。⑥の表中の数字は愛好順位を示している。

1日の鑑賞時間については，ウィークデーの中でどの程度であるかを知るために，日曜日を除外して記入してもらった。その結果は，

8人の場合

男平均　2時間30分

女平均　1時間30分

で，男子のほうが女子より1時間ほど多く見ていることがわかった。

この傾向はクラスとしてみた場合も，⑦—B表でわかるように，ほぼ同様である。

8) 映画（テレビ映画を除く）の過去1年間における鑑賞回数〈3年時〉

A，8人について

男1	12回	女1	5回
男2	2	女2	2
男3	0	女3	2
男4	10	女4	2

男平均　6回　　女平均　2.5回

男女計（8人）平均　4.4回

映画については，テレビで見るのと映画館へ行って見るのとではその行動の質において違いがあるので，テレビ映画を除いて調べた。しかし映画の内容にはふれず，回数についてのみ調査した。その結果は⑧のとおりである。

これを見ると，まったく見ないか，見るとしても年間2回程度の者が多い。8人の場合，0～2回が4人で50.0%，クラスの場合0～2回は24人で63.2%を占めている。平均値としては，8人→4.4回，クラス→3.0回となっているが，これは10回以上も見ている者4人の存在が大きく作用して平均値を高めているわけである。

したがって，一部の特殊愛好者を除いた大部分についていえば，まったく見ないグループと，見ることは見るがせいぜい2か月に1回止まりのグループとに分かれていると判断される。

B

回数	男(人)	女(人)	計(人)	延べ回数
0	3	7	10	0
1	2	3	5	5
2	5	4	9	18
3	1	1	2	6
4	2	1	3	12
5	2	1	3	15
6	2	—	2	12
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	2	—	2	20
11	—	—	—	—
12	1	—	1	12
13	—	—	—	—
14	1	—	1	14
計	21人	17人	38人	114回

男（21人）平均　4.3回
女（17人）平均　1.4回
計　（38）　3.0

(3)　読書力について

前述のように，「読書調査」を3年3学期に実施したが，これに先行して，2年2学期末（昭40年12月）に読書力に関する検査を二種行なった。二つとも市販の標準化されたものであって，具体的には次のとおりである。

①　クローズ式読書力検査（中学1～3年用）

②　教研式全国標準「総合読書力診断テスト」

この検査は研究所の一室で実施した。二つの検査の結果では，ことに後者の診断テストによる読書学年では，男子1，男子2，男子4，女子1，女子4の5名が中3の3学期以上，男子3，女子2の2名が中3の3学期相当，女子3が中2の3学期相当ということで，かなりよい結果を示している。

なお，検査の内容について概説すると，「クローズ式読書力検査」は，読字力・語彙力・文法力・文意把握力などを融合的に溶け込ませてあり，結果が因子別にわかるようにはなっていない。作業的には文章完成法に近いものである。問題文章のちがいによって21問（小問数219，各1点配当で219点満点）に

分けてある。正確度指数は$\frac{\text{正答数}}{\text{正答数}+\text{誤答数}}\times 100$によって算出される。

「総合読書力診断テスト」は，総合力による読書学年と，読速・読字・読解・語彙の各因子の評価段階がわかるように構成されている。

結果は次表のとおりである。

① クローズ式読書力検査（中学1～3年）の結果

	素点 (219)	読書力偏差値	評価段階	正確度指数	評価段階
男子1	174	66	5	84.1	4
2	172	66	5	78.5	4
3	149	59	4	82.8	4
4	176	67	5	80.4	4
女子1	160	63	4	73.4	4
2	152	60	4	69.7	3
3	141	56	3	75.0	4
4	125	51	3	57.1	3

② 教研式全国標準「総合読書力診断テスト」の結果

	読速	読字	読解	語い	総合	読書学年
男子1	3	5	5	5	5	中3－3以上
2	4	4	5	5	5	中3－3以上
3	1	4	4	4	4	中3－3
4	5	5	5	5	5	中3－3以上
女子1	4	4	5	4	4	中3－3以上
2	3	3	4	4	4	中3－3
3	2	3	3	4	4	中2－3
4	4	5	5	3	4	中3－3以上

②の中の読速において男子3が評価段階1で飛び離れて低い値を示している。この生徒には読みにおいて必要以上に慎重な面（たとえば，読解力のテス

トなどで，はじめ正解しながら，考えこんで手を加えているうちに結局誤答に反応してしまうなど）が認められ，この場合もこうした性格的なものが，マイナスの作用を及ぼしたのではないかと思われる。

第2章　国語科学習指導の実際

1.　学校における国語科学習指導とわれわれとの関係

今回の調査の実施期間であった昭和39年度から昭和41年度までの3年間，学校の学習指導計画や指導方法について，われわれの立場から特に注文を出したり，意見をさしはさんだりするということはなかった。そして，3年間の学習指導は，学校の自主的な計画によって進められた。特別に行なった集団調査の際はわれわれが教室に行って調査を実施した。しかし，その他の時において教室や授業を特に観察することはしなかった。

そこで，指導計画や授業の実際にに関しては，被調査者を含むクラスの担任であり，同校（稲付中学校）の国語科主任である吉村安夫先生から，口頭で，または文書で，必要な情報の提供を受けることによって，われわれの足りない部分を補うよう努力した。

稲付中学校の年間の国語科の指導が，ことに漢字指導が，われわれの調査があるという理由で強化されたというようなことはなかった。学校の通常の指導形態の中での漢字習得の結果がこの調査には反映しているものと思われる。

2.　国語科担当教員（吉村安夫氏）の漢字指導――「中学校の漢字学習指導の実態に関する質問紙調査」から――

「漢字指導の実態に関する質問紙調査」（別項）は，吉村先生にも回答者になっていただいた。この調査は主として指導者個人の漢字指導についての質問事項からなっている。なお，被調査者の8人の生徒は，入学時から卒業まで，吉村先生の指導の下にあった。回答の概略は次のようである。

まず，漢字の指導過程について。吉村先生の場合，

① 教科書の読みをとおしての正確な音声化
↓
② 摘出しての語句単位での理解
↓
③ 文章中での文脈的理解
↓
④ 分解による文字単位での理解
↓
⑤ 応用的，発展的理解と練習
↓
⑥ 練習による態度化

という過程で行なわれている。

また，漢字の取りたて指導という観点では，教科書と関係のないワーク・ブーク，テスト・ブックを使用されていた。テストでは教科書に提出されている漢字の中から出題する方針をとられた。

音・訓などの指導については，教科書の文脈での読みが音だけである場合には，なるべくその字の訓も指導し，訓だけである場合には，なるべくその字の音も指導されている。

また，作文では，事後処理として誤字・誤用字は訂正して返し，書くときは辞書を使わせて，自信のない字は確かめてから書くように指導しておられた。

部首に関する指導については，部首についての知識を与えるようにし，また，部首の知識を利用した漢字の指導もされている。

熟語の語構成の面については計画的に指導されている。

また，他教科で使われると思われる漢字については，それを意識して指導されている。

漢和辞典については，授業中に自由に使わせるようにし，漢和辞典を利用した授業（熟語の語構成，熟語の読みなど）を実施された。

家庭学習については，月に2回～3回の宿題を課して，漢字の書きの練習，難語句調べなどの作業を課している。

特別に行なっている漢字の指導という観点では，先生個人として「語句の意味を調べたのち，その語を使って短文を作り，意味，文字とも定着させる」ことを試み，学校としては，「教育漢字を全員が書けるようにくり返し練習（特に1，2年時）」が行なわれてきた。

漢字指導のあるべき姿として，吉村先生は，「書けるというだけでなく，文の中で確実に使えるようになること。したがって，独立した形態で学習させるよりも，文中の一語として指導し定着させる。それでも定着しない場合は，単元終了後，練習時間を設定して練習させる。」という見解を示されている。

吉村先生の漢字指導は，概略以上のような方針によって行なわれた。

この指導形態は，質問紙調査の結果（全国的）から見て，国語科教育に熱心な教員（だいたい10年以上の経験者）によって行なわれている部類に属するといえる。

3.　被調査生徒の国語科学習指導の歩み

被調査者を含むクラスの3年間の国語科の学習指導が，どのような指導計画のもとに，どのように行なわれてきたか。この点について，吉村情報を中心に見てみよう。

(1)　学習指導計画

被調査生徒は，学校で計画された国語科学習指導計画展開のもとに指導された。同計画は教科書中心に編成され，指導要領に示されている指導事項は，一応全部もられている。計画は学期を一単位とし，三つの大きな部分に分けて編成されている。内容は，指導期間，目標，指導事項，学習活動，留意点，他教科との関連，評価，準備という構成で，各単元ごとに要点を明記してある。

(2)　1週の国語科配当時間数

1年5時間（うち書写1），2年4時間，3年5時間(うち，1時間は，作文・ことばのきまりを主体とする）で，法定最低時数である。

(3)　被調査生徒の使用教科書

使用教科書は次の表にみられるとおりであるが,第3学年時から,区全体が一括して教科書を採用することになったため，ほぼ全面的に変わっている。

国語科については，教科書名は同じであるが，第3学年時からは新訂版で

あり，内容も2年時と重複しているものもあった。次表は，各教科における1年時　3年時までの使用教科書の一覧表である。

被調査生徒の使用教科書一覧（昭和39～41年度）

学　年	第　1　学　年	第　2　学　年	第　3　学　年
年　度	39	40	41
国　語	中等国語一（三省堂） 新中学書写一年用（春潮）	中等国語二（三省堂） 新中学書写2・3年用（春潮）	中等国語三（三省堂） 中学習字2・3（日書）
社　会	中学校社会地理上・下（三省堂） 中学校社会科地図最新版（帝国書院）	中学社会歴史上・下（教出）	中学社会3（日書）
数　学	中学数学一数量編（教出） 中学数学一図形編（教出）	中学数学一数量編（教出） 中学数学一図形編（教出）	中学新数学（啓林館）
理　科	中学校理科一年（大日本図書）	中学校理科二年（大日本図書）	新しい科学（東書）
音　楽	中学音楽一（教芸）	中学音楽二（教芸）	中学生の音楽3（音楽之友社）
保健体育	中学保健体育（大修館）	中学保健体育(大修館)	中学校体育実技（学研）
美　術	中学校美術（学図）	中学校美術（学図）	美術3（日本文教出版）
技術男 家庭女	実教技術家庭男子一（実教） 実教技術家庭女子一（実教）	実教技術家庭男子二（実教） 実教技術家庭女子二（実教）	技術家庭3（開隆堂） 中学技術家庭3女子向（学研）
英　語	New Prince Readers（開隆堂）	New Prince Readers（開隆堂）	The Junior Crown 3（三省堂） わかりやすい英文法中級用（黎明）
採択主管者	稲付中学校	稲付中学校	北区教育委員会

また，国語科の副読本，ワーク・ブックなどでは次のものを使用した。

○第1学年

準教ワーク・ブック，上・下（三省堂）

5分間テスト　国語（1週1回学校作成）

漢字自由自在（日教社）

○第2学年

準教ワーク・ブック　上・下（三省堂）

新制国文法（日教社）

○第3学年

準教ワーク・ブック　上・下（三省堂）

新制国文法（日教社）

国語完成（文理書院）

長文読解10分間テスト（日教社）

5分間テスト（正進社）

以上のほか，ノート類について次のような特別なものを持たせた。

第1学年時　作文ノート（200字詰原稿用紙ノート）

第2～3学年時　語句ノート（語句とその読み，意味，類語，対語，文例などを1行にまとめたもの）

(4)　指導の実際

○第1学年

当初2か月間，非常勤講師が担当，書写は一時的に中止（教員事故，補充がつかないため），以後卒業時まで，同一教員が国語を担当した。

第1学年時における国語科指導は，国語能力の基礎の充実につとめ，指導要領にしたがい，表現について留意した。

漢字については，単元終了ごとにテストを施行，練習学習を行なった。

作文は年間を通じて，ほぼ指導要預に示される時間を充足している。

○第2学年

語句指導と漢字指導を重視，特に辞書の活発な利用をすすめた。書写は適

宜指導することにし，主として休業中の課題として提出し，鑑賞指導を主体とした。

読むことの指導については，主として段落の要旨，段落と段落の関係などをつかむ作業を重視し，自主的に学習をすすめるよう指導した。

読書指導については，図書館の利用を高度なものにするよう配慮，読書相談にも応じ，読書意欲の進展をはかった。

○第3学年

入学試験をひかえているため，教科で実施する学習以外に，復習，練習的課題を多く用いた。例年のように補習に類する指導は行なわれなかったが，それでも，継続的，計画的な課外の指導が行なわれた。指導時間は，夏期に毎日朝20分間ずつ2週間，冬期に1日4時間ずつ3日間である。

第3学年で最も重視したことは，従来の○×式テスト学習をとりやめ，文章表現を主体とする練習学習を行なうことだった。

これは，課外のみでなく，教科の学習の中に時々とりいれて行なうようにした。

漢字，語句の学習については，教科外の練習も多くなり，実質的指導時数は，法定時数よりも多い。

以上のようである。このうち，主として管理上の必要からであるが，被調査者8人は，3年間を通じて同一クラスに在籍し，またそのクラス担任は3年間を通じて吉村先生であった。国語科の指導についても同様で，入学時の2か月を除いては，卒業まで吉村先生の指導を受けた。

4.　学校における国語科教育研究活動など

稲付中学校は，どちらかといえば，国語教育の研究に熱心なほうであり，われわれの調査の実施期間中も自主的な研究が進められていた。以下にその概略を示す。

(1)　「漢字能力調査とその指導法の研究」（昭和39年度）

昭和37・38年度における文部省学力検査（学年別，国語科）などの結果を見たところ，同校の生徒の国語の能力のうち文字力――漢字を書く力が他の能力に比してやや劣っていることがわかり，これを補うために，標記のような研究課題が設定され，次のような仕事がなされた。

ア．教育漢字のうち小学校3学年配当（2学年配当のものも若干ふくむ）以上の750字の書きの調査とその分析

イ．漢字指導法の研究（いわゆる取りたて指導を除く）

このうち，アについては，全校一斉に実施し，各学年男女各50名ずつを抽出して行なわれた。その結果は，正答率で1年63%，2年68%，3年75%であった。

イについては取り立て指導は避けて，読解時や作文の中で以前よりも漢字指導を強調するという形で進められた。また，辞書の利用の日常化，語句指導の強調，ドリル・ブック，スキル・ブックなどの併用も考えられた。

(2)　「読解指導における辞書利用による語句指導はいかにすべきか」

昭和(40・41年度)

40・41年度は39年度の研究を受けて，標記のような課題と取り組み，具体的には，

ア．辞書の基本的指導（2か月）

イ．辞書利用の習慣化（2か月）

ウ．辞書利用の能率化（2か月）

エ．読解指導への辞書の効果的な利用と語句指導（6か月）

―以上40年度―

オ．辞書利用による読解時の語句指導ならびに漢字指導　―41年度―

が実施された。

アでは，文脈からの意味把握が困難な語句について辞書によらせた。ここで

は，辞書の使い方，凡例の見方から出発し，辞書の利用と語句学習の意義について理解させることをねらった。

イ，ウの習慣化と能率化については，辞書にふれるよう配慮し，能率をあげるために，凡例の再認識や複合語・連語・慣用句などのひき方に習熟させることをねらった。また，グループでの辞書利用をとりあげて，その効率化と習慣化の努力がはらわれた。

エ，オの読解指導への面では，文章の主題，要旨に接近することを前提として，重要語句を読み取り，その中の難解語句を即座に辞書利用によって解明する，もしその語句に対してさらに練習を要するものがあれば，それは終結の段階において練習をするという方法がとられた。

このほか，辞書利用の日常化と多様化という観点では，1年間の辞書による語句指導の結果，辞書利用の習慣がだいぶ身につき，能率的にもなった。また，それまであいまいな形ですましてきた漢字に対する理解については，生徒が正確さを要求するようになり，他教科への学習についても，この基本的な学習態度が好影響を及ぼすようになっていった。

以上のような経過であって，学校としての国語科指導のうえで，いわゆる特殊な教育はなされなかったが，全体として熱心な指導の中で教育されたということができよう。ことに語句指導や辞書利用の指導が重視されたということは，彼等が研究所でわれわれの調査を受ける際に多少有利な条件として作用していたとも考えられる。

第3章　漢字習得と諸要因との関係

1. 知能と漢字習得

知能検査は，漢字習得調査期間の 3 年間に，われわれが 1 回（2年2学期末），学校で3回（毎学年4月に1回）の計4回実施している。

われわれが行なったのは京大ＮＸ知能検査（9歳～15歳用）で，その結果は次のとおりである。

京大ＮＸ知能検査の結果（2年2学期末）

	知能偏差値	知能指数	評価段階
男子 1	61	121	4
〃 2	61	121	4
〃 3	52	104	3
〃 4	59	117	4
女子 1	58	115	4
〃 2	50	100	3
〃 3	57	113	4
〃 4	60	119	4

この結果による知能指数と漢字習得調査の最終回（第6回）における各漢字力との相関係数を次に示す。

〈注〉＊完了字数とは，習得調査で2回以上連続して正答し，習得が定着したとみられる漢字の字数をさす。

知能指数と各漢字力との相関

第6回調査までの各完了字数＊	教育漢字の読み	教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き
京大NX知能検査	0.800	0.649	0.649	0.869	0.089	−0.030	−0.030

これを見ると，相関度は読みのほうが書きに比べて高く，それぞれの平均は，読み0.767，書き0.001である。

なお，この相関係数は順位差法によるものである。以下の諸項についても同様である。

ところで，知能検査の結果には4回の間に多少のゆれがある。そこで，このゆれによる影響を少なくするために，4回の平均（知能偏差値の平均）を求めた。そしてその結果と漢字習得調査の最終回（第6回）における字種別の読みの完了字数，書きの完了字数との相関を見たのが次表である。

知能偏差値（4回の平均）と各漢字力との相関

第6回調査までの各完了字数	教育漢字の読み	教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き
知能偏差値（4回）の平均	0.804	0.804	0.899	0.679	0.065	0.006	−0.030

これを見ると，読みの平均が0.797，書きの平均が0.014で，京大NXの場合と非常に近い数値を示している。これらのことから，中学段階では漢字の読みと知能とは深い正の関係にあるが，漢字の書きと知能との相関関係は深くないということが考えられる。小学生，特に低学年の場合には，知能と漢字の書きとの相関係数はもっと高い数値を示すと言われている。これらの点を考察すると，小学生と中学生との間には知能と漢字力との関係に多少質的な相違があるとも考えられる。

しかし，われわれの場合，8人という限定された数であることに影響されているのかもしれない。これは，この調査による相関係数の解釈のうえで留意すべき点であろう。

2. 国語学力と漢字習得

国語学力と漢字習得との関係について，ここでは主として総合的な国語の学力と漢字習得調査に現われた各漢字力との相関という観点で見てみたい。

総合的な国語の学力としては，

① 2年2学期末に研究所で実施した「新標準綜合学力検査（国語）」（辰見敏夫・下田多七共著，中学2年用）

② 3年時に学校で行なった1学期・2学期それぞれの国語科の中期および期末試験（計4回）の平均得点

の二つを使用した。①に見合う漢字力として漢字習得調査の第4回目の結果を，②に見合うものとしては同じく漢字習得調査の第6回目の結果を使用した。その結果を示すと次のとおりである。

綜合学力検査（国語，2年）と各漢字力との相関

第4回調査までの各完了学数	教育漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き
新標準綜合学力検査（国語）	0.833	0.833	0.857	0.548	0.382	0.382	0.382

3年時の国語学力に各漢字力との相関

第6回調査までの各完了学数	教育漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き
3年時までの学校の国語科の成績（4回の平均）	0.530	0.643	0.643	0.327	0.214	0.167	0.167

これを見ると，習得調査の第4回めの漢字の読み・書きと国語学力との相関係数の平均は，それぞれ0.768，0.382である。また，第6回めの調査の場合はそれぞれ0.536，0.183で，両者とも，知能の場合に見られたとほぼ同様の関係を示している。つまり，国語学力との相関関係は漢字の読みの力のほうが書きの力よりも高い。

これは，国語学力が読解力・語い力・文法力・文字力等の総合力であり，かつその中でウェイトの大きい読解力や語い力などにとって，直接的に作用する漢字力は読みの力であるということを示しているものと思われる。

3.　読書・読書力と漢字習得

第3編第1章ですでに述べてあるように，3年時に読書調査を行なった。

その調査項目は大別して

A　一般の単行本・雑誌

B　学習参考書（国語科のための，国語科以外のための）

C　これから読みたい本

D　新聞

E　テレビ

F　映画

の6項目であった。

実施の際は，学校を通じて8人を含むクラスの全員に渡し，約1週間後に回収した。

A，Bについては学年別に記入欄を設け，それぞれの学年時にどのような本を読んできたかを記入してもらった。それでだいたいをつかむことができた。しかし，中には1年時，2年時についての記入がなかった（実際にはかなり読んでいたと思われる生徒で）者がいたりして，信頼度の高いものとはいえない面がある。C・D・E・Fの四項については，質問内容が単純であったためか回答状況がよかった。

回答率の高いもののうち，雑誌への接近および新聞への接近を中心として各漢字力との関係を概観すると，漢字の書きとの相関よりは読みとの相関のほうが高い。ことに表外字の読みとの相関が高い。これは雑誌や新聞などを読むことが漢字を読む力に与える影響を物語っているものと思われる。

また，2年時に行なったクローズ式読書力検査（阪本一郎）と各漢字力（第4回めまでの完了字数）との相関は次に示すとおりである。

読書力と各漢字力との相関

第4回調査までの各完了字数	教育漢字の読み	教育漢字の読み＋当用漢字外の読み	教育漢字の読み＋当用漢字外の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字の書き＋当用漢字外の書き	教育漢字の書き＋当用漢字外の書き
クローズ式読書力検査	0.524	0.714	0.643	0.452	0.048	0.143	0.206

この結果も傾向として他の場合と同様で，読字力との相関が高く，書字力との相関は相対的に低い。6回終了時の完了字数との場合においても，ほぼ同傾向であった。

4.　漢字学習上のくふうと漢字習得

3学年の末に，研究所の一室で，1対1の対話形式で8人の生徒といくつかの点について話し合った。（これについては「8人の生徒の，この調査および中学校3年間の学習生活などについての感想・意見」の項参照）

その中に，「漢字の学習に関して，何かくふうしてきたことがありますか？」という意味の質問事項を含めた。この質問に対する回答の概要は次のとおりであった。

漢字学習についてのくふう一覧

男　1	○似ている漢字は，まとめて覚えるようにしている。 ○辞書で引くとき，目的の字だけでなく，わからない字はついでに調べる。 ○特別な読み方の字を覚えたりするのが好きで，よく覚えた（たとえば「帰依」）。 ○市販の練習帳を買って勉強した。
男　2	○特にくふうというほどのことはないが，なるべく，「つくり」を覚えるようにしてきた。
男　3	○くふうなど全然していない。 ○『国語自由自在』(受験研究社)を使ってきた。 ○熟語の変わった読み方，たとえば「桑港」などを覚えるのが好きだ。
男　4	○看板などを注意して見るようにしてきた。 ○本をたくさん読んだ。 ○わからない漢字は，なるべく，辞書（国語辞典，漢和辞典）でひくようにしてきた。
女　1	○書いて覚えるのが一番だと思う。 ○いったん書いたものも，何回も見返すようにしてきた。 ○ときどきではあるが，わからない字は家の人に聞くようにしてきた。
女　2	○漢字のテストがあるときは，いい点をとりたいから勉強した。(学校で漢字のテストをもっとやってもらいたかった。)
女　3	○試験のときは，教科書から漢字を用紙に書き出して，ほかの紙に練習して確かめた。 ○練習帳を買ってやりだしたけど，長続きしなかった。
女　4	○漢字の部分（たとえば，峠は山に上下）と全体の関連に注意して覚えるようにしてきた。 ○最近，語句ノートを作った。辞書で調べて，書き入れるようにしている。

これを見ると，「似ている漢字（この場合は，似た漢字が使われている熟語という意味のようであるが）はまとめて覚える。」「辞書をひく場合，目的の字のほかの字もついでに調べる。」「特別なよみの字を覚えるのが好きだ。」「市販の練習帳を買って勉強した。」というように，全体として，最も学習効果が期

待できると思われるようなくふうをしていたのは男1である。男1は，漢字の所有量において，8人中最上位であった。このことは，学習のしかたと到達度との関係を物語っていると思われる。

男3は「全然していない。」と答えているが，これを額面どおりに受けとってよいとは思われない。おそらく「自分は，かくかくのくふうをしてきたと言えるほどのくふうはして来なかった。」という意味の表現であると思われた。

女3の「試験のときは，教科書から漢字を拾い出して，レポート用紙に書き出して，ほかの紙に練習して確かめた。」というのは，この生徒の性格の一面をあらわしているように思える。

8人の生徒の3年終了時（第6回め）の当用漢字（1850字）の読み書きともの習得完了字数は，字数の多い生徒の順に示すと，

①男1　1636字（88.4%）
②女1　1448〃（77.7%）
③男3　1367〃（73.8%）
④女4　1214〃（65.6%）
⑤男2　1095〃（59.2%）
⑨女2　1092〃（59.0%）
⑦男4　1090〃（58.9%）
⑧女3　966〃（52.2%）

である。

この結果とさきほどの漢字学習についてのくふうの一覧表とを照合してみると，あたりまえのことながら，より多くくふうし，努力してきた者が，やはり漢字習得の結果もよいようである。

5.　漢字学習の好ききらいと漢字習得

前記の「漢字学習上のくふう」についての質問のおりに，「漢字を学ぶことは好きか，きらいか」ということも尋ねた。この問いに対する回答は，おおよ

そ次のようなものであった。（注・できるだけ本人のことばに忠実に書いてある。なお，この表には男1の回答がないが，これは聞き手の不注意によって問いかけを忘れたことによる。）

漢字学習の好ききらい

男　1	＊質問者が質問するのを落としてしまったので，はっきりしないが，他の質問の中から感じられるところでは，きらいではなさそうである。
男　2	○きらい。 ○覚えるのに時間がかかるから。 ○試験なんかで書けても，数学のように問題が解けたという喜びを感じられないから。 ○覚えるのがめんどうくさいから。
男　3	○あまり好きでない。 ○漢字はあまり重要な気がしない。それよりも人間の生き方，考え方などを知ったり，文としてきちんとまとまっていることばを使えることの学習のほうがたいせつだと思うから。
男　4	○あまり好きでない。 ○数がたくさんあって覚えるのがめんどうくさいから。
女　1	○あまり好きでない。 ○数がたくさんあって，覚えるのにめんどうくさいから。
女　2	○苦にならない。 ○覚えるのはそんなにめんどうくさくないから。 ○覚えるのにそんなにむずかしいことでもないから。
女　3	○きらい。 ○同じような字が多いから。　　○要するに覚えるのがきらい。 ○数がたくさんあるから。
女　4	○好きでもきらいでもない。

この結果をみると，「きらい。」とはっきり言い切った者2名，「あまり好き

でない。」3名，「好きでもきらいでもない。」1名，「苦にならない。」1名である。漢字学習はあまり歓迎されないもののようである。歓迎されない理由として共通度の高いのは「覚えるのがめんどうくさいから。」ということである。男生徒の中に，「試験なんかで書けても，数学のように問題が解けたという喜びを感じられない。」と述べた生徒があった（男2）。これと同様のことを別の機会に男4も言ったことがある。この意識はかなり共通性のあるもののように思われる。学習者に問題解決の喜びを味わわせることは指導上重要なことであろう。これを漢字指導上の問題としてとらえ，正しく位置づけて具体化していくことが今後の大きな課題の一つであろう。

6. 作文と漢字習得

(1) 被調査者から得た作文資料

8人の生徒の作文資料としては，1年時（昭和39年6月）に書いた課題作文「私」と，3年3学期に書いた自由作文との2種がある。前者は当方（当時の担当者　村石昭三）が意図的に書かせたものであり，後者は学校の授業の中で書かれたものである。

(2) 作文の文字量

上記二つの作文は，それぞれ教室で一時間以内の所要時間で書かれた。それぞれの総字数（年・組・氏名に用いられた文字は除いた。また，「　」、。などの記号類は省いた。）は次のとおりである。なお，8人のうち，女子2の3年時の作文は，本人欠席のため得られていない。また，男子3と女子3の3年時の作文は詩・短歌で，比較上問題があるので除外し，残りの5名の資料をここでは対象とした。

	〈1年時〉	〈3年時〉
男子1	361字	498字
〃 2	291	295
〃 4	123	745

女子1	487	620
〃 4	326	679
平　均	317.6字	627.4字

以上のようで，課題作文と自由作文との違いはあるが，一定時間内に書く分量はこの5人の場合，平均で，3年時は1年時の約2.0倍である。

(3)　漢字の使用量

漢字の使用量という観点で見ると，本文と文題の中での使用延べ字数は，次のとおりである。

	〈1年時〉	〈3年時〉
男子1	110字	138字
〃 2	66	120
〃 4	39	221
女子1	86	129
〃 4	89	165
平　均	78.0字	168.4字

また，使用漢字の異なり字数はつぎのとおりである。

	〈1年時〉	〈3年時〉
男子1	56字	91字
〃 2	25	85
〃 4	30	96
女子1	43	111
〃 4	53	78
平　均	41.4字	92.2字

このように，3年時の使用漢字は，個人差はあるが，平均して延べ字数で1年時の2.2倍，異なり字数でも2.2倍である。この5人の場合，総字数が1年時の2.0倍であるので，漢字の延べ字数も異なり字数もそれにつれて約2倍に

なったのであろう。漢字の含有率は1年時24.6%，3年時26.2%でわずかながら上昇傾向を示している。

(4)　個人別に見た使用異なり漢字数と漢字習得

ひとりひとりの生徒が，使用できる漢字としてどれだけ所有しているかは，実際に書かれた文章の中での異なり漢字数の多寡として反映すると思われる。また，一定期間内における所有漢字の伸びは，その期間の初めと終わりの使用異なり漢字数の差である程度測定することができると思われる。

このような観点から，上記5人の生徒について，（3年時の使用異なり漢字数）－（1年時の使用異なり漢字数）を計算してみた。

男子1	91字	−56字	＝35字
〃 2	85	−25	＝60
〃 4	96	−30	＝66
女子1	111	−43	＝68
〃 4	78	−53	＝25

平均　50.8字

その結果は上記のとおりで，男子2，男子4，女子1の3名の伸びが著しい。男子1の場合は別項でも述べているように，漢字の読みについても書きについても1年当初からすぐれていた。したがって，習得すべき総量にある限界のある中では，1年時と3年時の差としては大きく現われてこない。このような事情を考慮して解釈すると，男子2，男子4，女子1の3名の場合，出発はおくれていたが，使用し得る漢字の量を急速に増していったということができよう。

5)　作文における漢字の誤字・誤用と漢字習得

これまでに述べてきたところでは，使用された漢字が誤字でも誤用字でも同じ漢字として扱ってきた。つまり，漢字として書かれたと思われる字はすべて正字と同様の資格において扱ってきたわけである。そこで，ここでは，漢字の誤字・誤用という観点で見てみよう。

①　「私」（1年時）における誤字・誤用

男子1　　なし

〃　2　　お母さん(2)

〃　4　　僕(1)

女子1　　～ようなことが大(おお)いような～(1)

女子4　　担人，自分自信，母（はは）

②　自由作文（3年時）における誤字・誤用

男子1　　林間学国(1)

〃　2　　精心的(1)

〃　4　　なし

女子1　　なし

〃　4　　聞新聞(3)，，先生に進められ(1)，内要(4)

〈注〉　右側の数字は使用度数。＿線は誤字，～線は誤用。

以上に見られるとおりで，誤字・誤用は比較的少ないという印象を受けた。ちなみに，8人を含むクラスの同作文についての漢字の使用延べ字数に対する「誤字＋誤用」の割合の平均は1年時2.08%，3年時1.21%である。

誤字を書く，誤用するという現象には，習得過程における学習者の習得意欲のあらわれであるという一面がある。そこで，評価的観点をあまり入れずに，ひとりひとりの現象を見ていってみよう。

まず男子1について，彼の場合，われわれが観察し得たかぎり，どちらかといえば，あわてずに着実に事を処理していくほうである。3年時の作文で，林間学園の園を→国としているが，園という漢字をを知らなかったのではなく，単なる書き損じと見られる。

男子2は，適当に物を処理してこだわらないようなところがあった。3年時の「精心的」などの使用のうえにこのような性格的なものの反映が認められる。

男子4の1年時の「僕」は，当用漢字外の漢字であって，いわば自然習得的

漢字である。「僕」についての男子4と同様の誤りは，他の生徒においても，また他の学年においても見られる。3年時では，延べ221字の漢字を使う中で，誤字・誤用はなかった。女子1にも誤字・誤用はなかった。

女子4は，以上の5人の中では最も誤字・誤用が多い。そして1年時も3年時もともにこの傾向が目立っている。ことに3年時にあっては，使用漢字の異なり字数が78字で，少ないにもかかわらず誤字・誤用が多い。

だいたい以上のようであるが，わたしの見解としては，漢字の誤字・誤用には，性格的，あるいは，学習態度的なものが作用しているように思われる。たとえば，よく知っていて自信のある文字だけを使う者と，とにかくそれらしい字だということで使用してしまう者とがあるように思われるのである。

なお，残りの3人についての誤字・誤用は次のとおりである。

① 1年時「私」の場合

男子3　天体観側(3)，～に観する(1)，気特(1)

女子2　自分自信(1)，貴重面(3)，理個しゅぎ(3)，悲(3)

〃 3　初めて(1)，希望(2)，勉強(1)，期末(1)

② 3年時“自由作文”の場合

男子3　碓水峠

女子2　——

〃 3　胸（むね）

次に，文字使用の状況を知るための参考資料として，男子2，女子1の1年時および3年時の作文を原文のまま（漢字の誤字のみ訂正）示してみる。

6) 男子2，女子1の作文資料

私　男子2（1年）

ぼくは，小学生のころは「大きくなったら，学者になりたい。」と，思っていた。

しかし，中学生になると急に，「学校の先生になるんだ。」というふうに

なってしまった。先生というものは，りっぱな社会人を育てていく上に，大切なものだということに，気づいたからだ。それに，ぼくは，商ばいがあまりすきではないからだ。

それは，先生になるのは，大変だと思う，でもぼくは，それをのりこえて先生になってやろうと思う。

ぼくの，おかあさんも，先生になろうと思ったらしいが，残念ながらならなかった。いまも，お母さんは，「先生になてれば，よかったねえ。」と言うのだ。ほんとうに，商人生活は，いそがしくてむずかしいのだ。

ぼくは，お母さんのかわりに，先生になって，りっぱな，「社会人」を，育てていくのだと思った。

ぼくの日記より　　男子2（3年）

ある晩，ぼくと父がテレビを見ている時のことだ。父が，「T，しっかり勉強しているな。」と言った。ぼくは急にこんなことをたずねられてすっかりめんくらってしまった。そして「うん」となま返事をし，ただちにぼくの室に退散した。室でぼくは考えた。そしてこんな事をぼくに言ったのは初めてだ。そのことばは静かにぼくの心にはいり　み，そしてぼくの心をゆさぶった。そしてあることばをぼくに思い出させてくれた。それは「人間はその制約されない努力が自分に限界を定めないうちは幸福になれない。」ということばである。

それはある人がぼくに教えてくれたことばである，その人は又次のようなことばも教えてくれた。それは「百里の道を行こうとする者は，九十九里を中ばとせよ」ということばである。その時は別に心に感じるものはなかった。しかし今はちがう。ぼくはこのことばを征服するべく未来に夢と希望をもっがんばるのだ。父のことばは，ぼくの芽に，水と空気をあたえてくれた。ある人のことばは，ぼくの芽に光をあたえてくれた。その元気な芽は，これからもどんどん精心的，知的財産をとり入れ，たくわえて太く大きくなるだろう。ぼくはその小さな芽をだいじに，そだてねばならな

い。それは確かに大変なことだろう。しかし精いっぱい努力し，又，決して途中でいやになったりはしない。明日，いや今から今までのなまけ者のぼくととは違う。みなさん見ていて下さい。ぼくは，努力により成功するということを理解し，そして成功してみせる。そう，三つのことばを忘れずに。

私　　女子1（1年）

私は，生まれて来てから，こんなに大きくなった。その間にはいろいろなことがあった。何かの失敗した時でも，反省をした回数は少ないようだ。今考えてみるとあの時は，ああすればよかったと思う。でもその時は，はずかしい気持とえんりょうをしてしまって何も出きない。そんなことは，もう何回も経験してしまったので今では，そんなことはないようにしている。もっと自分を深く考えてみよう。私はとても自分のいしが，弱いと思う。だから友達に言われると，それに対しての意見もなく友達にさそいこまれてしまいそうな気がする。また，自分の悪いことをたなにおいて友達の悪いことをいっているようなことが，大いような気がする。今度からはそういうことは，なるべく言わないようにしたい。このことは，だれにでも一度は経験をしたことがあると思う。みんなが他の人のいい所を見つけ出し，おたがいが気をつければそんなことは，なくなるのだ。

私は友達に「Eちゃんておもしろいね。」といわれたことがある。私は，そういわれて「ほんとうにおもしろいかな。」と考えこんでしまう。でも私はそうは思わない。まず自分の短所を直すことが，今の望みだ。それを直すことは，たいへんなことだろう。だが私はそれをりっぱに直してみせたいです。

交通事故を考える　　女子1（3年）

戦後，日本の産業の発達とともに自動車の普及もめざましく発達した。そして現代では華やかな自動車ショーがさかんに催されている。それに比

例して増加しているのが交通事故である。華やかさの裏には暗い陰ができるものである。1日に何百人もの人が傷つき，1ヵ月では相当な数となり，1年では想像もつかぬ数となる。その数は満州戦争の時死亡した数とほぼ同数という。「交通戦争」ということばがぴったりように，戦争なみの激しさである。

ある車が老人をよけそこなってお堀に落ちた。これが一番最初の交通事故である。これならまだこっけいな感じがする。しかし現代のは見るも無残な物である。こういう今の交通事故に対して私は反撥したくなる。道のまん中も歩けないほどの車の量。おまけに道がせまいときている。それも原因の一つであると思う。特に若い人の事故が多い。エネルギッシュな力を車にぶつけているような運転ぶりでむやみやたらにスピードをだし，交通規則も守らないのであるから事故が多いのだと思う。それからちょっとした不注意でおこることが多い。

今，政府も色々と法律をきびしくしているようだが，あまり効果がないように感じる。私は去年「交通事故と気象」ということについて研究をした。気象にも関係がないとはいえないが，一番大切なことはやはり自分自身の自覚であると思う。交通規則をよく守り，お互いに注意し合い，譲りあう心をもつ。それが私たちにできることだと思う。

こう話しているうちに何人かの人が亡くなっている。1日も早く私たちの手で事故を防ぎたいものである。

7.　各漢字力相互の関係と漢字習得の類型

(1)　各漢字力間の相関

調査の全期間に調査の対象とした漢字は，教育漢字の全部，教育漢字外当用漢字の全部，表外漢字若干である。

これらには，学習の時期や目にふれる機会などに違いがある。教育漢字は小

学校で提出されているし，表外字は原則として自然的習得または自発学習にゆだねられている。このようなことから中学校で学習する漢字の主たる対象は教育漢字外当用漢字ということになっている。

そこで，これら三者が生徒の漢字力の中でどのように関連しているかを見てみよう。字種別に読みと書きとに分け，その間の相関係数を求めたのが次表である。

②第6回調査(3年3学期末)時点における各完了字数

	教育漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み＋教育漢字の読み	表外漢字の読み	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き＋教育漢字の書き
教育漢字の読み		0.875	0.875	0.923	0.551	0.113	0.551
教育漢字外当用漢字の読み	0.875		1.000	0.815	0.476	0.405	0.405
教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	0.875	1.000		0.815	0.476	0.405	0.405
表外漢字の読み	0.923	0.815	0.815		0.137	0.101	0.101
教育漢字の書き	0.551	0.476	0.476	0.137		0.905	0.905
教育漢字外当用漢字の書き	0.113	0.405	0.405	0.101	0.905		1.000
教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き	0.551	0.405	0.405	0.101	0.905	1.000	

各漢字力間の相関

①第4回調査(2年3学期末)時点における各完了字数

	教育漢字の読み	教育漢字外当用漢字の読み	教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	表外漢字のよみ	教育漢字の書き	教育漢字外当用漢字の書き	教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き
教育漢字の読み		0.940	0.976	0.714	0.595	0.524	0.595
教育漢字外当用漢字の読み	0.940		0.976	0.762	0.381	0.357	0.381
教育漢字の読み＋教育漢字外当用漢字の読み	0.976	0.976		0.786	0.476	0.452	0.476
表外漢字の読み	0.714	0.762	0.786		0.452	0.571	0.452
教育漢字の書き	0.595	0.381	0.476	0.452		0.952	1.000
教育漢字外当用漢字の書き	0.524	0.357	0.452	0.571	0.952		0.952
教育漢字の書き＋教育漢字外当用漢字の書き	0.595	0.381	0.476	0.452	1.000	0.952	

(2)　漢字習得の類型について

表1を見ると，読み相互および書き相互の相関はそれぞれ平均で 0.884，0.937 という数値を示している。これに対して読み×書きの相関はその平均値

が 0.344 である。

このように両者の差の大きいことは，中学生にとって，漢字を読む能力と漢字を書く能力とは別の能力であるという可能性と，漢字を読む力がまさっているわりには書く力が劣っている型，反対に漢字が書けるわりには漢字を読む力において劣っている型があるという可能性の両様を含んでいると見られる。

これらの点，ことに後者について8人の生徒の結果から考えてみよう。字種を，中学生としての漢字学習にとって主たる対象となる教育漢字外当用漢字（969字）に限定して，その読み書きにしぼってみると，6回目の調査を終了した段階での，各人の習得完了字数と，読みに対する書きの割合は次のとおりである。

	Ⓐ 読み完了	Ⓑ 書き完了	Ⓑ/Ⓐ×100
男子　1	895 字	831 字	92.8%
〃　2	767	326	42.5
〃　2	745	651	87.4
〃　4	765	353	46.1
女子　1	794	736	92.7
〃　2	617	497	80.6
〃　3	529	356	67.3
〃　4	715	540	75.5

Ⓑ／Ⓐ×100 すなわち読みの完了字数に対する書きの完了字数の百分率は上表右端の欄のようになる。そして8人の平均値は73.1%である。

これを数値の大きい順に示してみると，

ⓐ92.8（男子1），　92.7（女子1），　87.4（男子3），　80.6（女子2）

ⓑ75.5（女子4），　67.3（女子3），　46.1（男子4），　42.5（男子2）

となる。8人を4人ずつにして上位グループ，下位グループの2グループに分けると，横線の上ⓐ，下ⓑがそれぞれに当てはまる。これらをⓐグループ，ⓑグループと仮に名づける。ⓐグループは書ける字数が読める字数に相対的に近いグループであり，ⓑグループはそれが離れているグループである。ⓑグループはどちらかといえば「読み型」であり，ⓐグループは「書き型」あるいは「読み書き並行型」ということができるだろう。

しかし，男子1を書き型・読み書き並行型と言ってよいかどうか，多少問題がある。男子1の場合のような，いわば当用漢字習得としては頭打ちに近い生徒については，たとえば表外字をも含めて考えるという操作が必要であろう。

8.　8人の生徒の，この調査および中学校3年間の学習生活などについての感想・意見

(1)　対話による質問調査のあらまし

われわれの調査に被調査者がどのような意識をもって対してきたか。また，3年間の学習生活をどのように受け止めてきたか。さらに，彼らの言語生活的環境がどうなっていたかなどを，より明らかにするため，次の①～⑥の事項について質問し，答えてもらった。

実施は，42年3月中旬。所要時間は，ひとりにつき約10分～15分。

① 研究所の漢字習得調査についての感想

② 漢字の学習について

　i　漢字の学習上，自分として，何かくふうしてきたことの有無，あればその内容

　ii　漢字学習の好ききらいと，その理由

③ 好きな学科，きらいな学科

④　クラブ活動で行なってきたこと（所属クラブおよび活動内容）

⑤　趣味と将来の希望

⑥　家族関係（兄弟関係を中心に）

調査は，研究所の一室で，質問者（根本）と一対一の対話形式で行なった。その内容は全部録音し，あとで文字化，考察した。

実施の時点で，8人ともすでに卒業後の進路がほぼ確定していた。そのためか，心理的に安定した状態での対話となったようである。

なお，この結果については部分的にすでに述べてきた。そこで，ここでは「漢字習得調査についての感想」についてのみ報告する。

対話の具体的内容については男子4，男子1，女子3のものを参考資料として載せてあるので，それを参照されたい。

(2)　漢字習得調査についての感想をめぐって

3年間の感想について，質問者のほうで特にどの点についてということはなるべく避けて，思うままを話してもらうようにした。

1)　調査のために研究所へ来ることについて

これについては，8人とも，「来るのがいやだということはなかった。まあふつう。」という意味の感想を述べた。ただ，「どうしてわれわれ8人だけが来ることになったのか，その理由がよくわからなかったので，友だちに聞かれて困ったことがある。」と言ったものが女子に1名（女2）いた。この点については，1年時に一応説明はしてあったが，全員にとってじゅうぶん納得がいくところとはなっていなかったもののようである。

3年生になってから，調査の作業の終了後などに，所内の卓球台を使って卓球をすることを許してきた。これは，研究所へ来ることの魅力として意外に役立っていたようである。

2)　この調査をとおして漢字に対する意識や関心が変わったか。

この調査が，彼等の漢字に対する意識や関心にどのような影響を与えたか。この点について，彼らは次のように述べている。

（男1）　調査されたことによって，しぜんと漢字を覚えるようになったと

思う。

（男2）　最初のころ，自分では漢字をよく知っていると思っていたのに，そうでないことがだんだんわかってきた。

（男4）　ここへ来て恥をかかないように勉強していた。

少し漢字に関心を持つようになった。

本を読んでいて，わからない漢字にぶつかったとき調べるようになった。

（女1）　ここへ来るようになってから，漢字に気をつけて物を読むようになった。

わりと漢字を覚えられたように思う。

（女2）　ここへ来るようになってから，一生懸命に漢字を覚えようとするようになった。

みんな（この調査に参加しなかった級友）より漢字を覚えられたように思う。

（女4）　自分が漢字をすごく知らないってことがよくわかった。

高校へ行ったら漢字をもっと勉強しようと思っている。

以上のごとくで，定期的に漢字だけの調査を，しかも相当多量の文字について実施してきたことは，自然的に彼らの漢字に対する意識を深め，関心を高めることに何がしかの役割を果たして来たようである。（男3）（女4）の2名はこの点に言及していないが，あえて問えば，他の6名とほぼ同様の回答が得られたであろうと思われる。

（参考）

この調査および中学校3年間の学習生活等についての対話（録音資料）

(1)　男子4の録音資料

Q　これから10分か15分ぐらいの時間で，五つ六つの事がらについて質問しますから簡単に答えてください。かたくならずに，気楽に答えてください。

まず初めに，この3年間，研究所まで足を運んで調査に協力してもらったわ

けですが，それについての感想を聞かせてください。

男4　そうですね。うんと。

Q　大きな声で，遠慮しないで。

男4　うんと，ここへ来てね……まあ，少しは漢字ちゅうのをね，まあ，ここで恥かかないように勉強したしね，まず。

Q　（笑い）恥かかないようにね。

男4　それから，少し漢字に関心持ってね。

Q　うん。

男4　それで，ま，本なんかも読めなかったところは今までとばしてたけど，まあ一応調べるようになったし，町ん中歩いてても，看板なんかもね，よく見たし。だから，普通に学校へ来ているより漢字をたくさん覚えたような気がする。

Q　自分があまり注意向けなかったようなところにも注意をするようになったという利点があったわけね。

男4　はい。

Q　じゃ，二つめの質問として，学校の漢字学習のことも含めてだけれど，ふだんの漢字学習について，自分としてこういうくふうをしてきたということない？　読み・書きとも。

男4　はい。

Q　3年間をふり返ってみて，何かあるんじゃあない。さっきの，看板を見るなんてこともひとつのくふうだけれども，そのほかに。

男4　ええ，あとはね……ええと，うん，本をいっぱい読んだってことだね。

Q　いま印象に残ってるのにどういう本がある？

男4　うんと……冒険とかね，推理小説てのは好きなんだ，ぼくはね。

Q　うん。

男4　それで……『コンチキ号漂流記』とかね。あと冒険物では『怪盗ルパン』なんか全部読んだしね。それから『シャーロックホームズ』ですね。そう

そう，そいから，『世界少年少女文学全集』かな。

Q　うん。

男4　だけど，本で漢字を覚えたのは覚えたけど，わかんなかったのはおかあさんに聞いたりね。だいたい，わかんないと普通はとばしていくけど，意味がさ。うんといいところで漢字がわかんなくなって，その意味がわかんなくなるってのはちょっと変な感じがするからね。そういうのは調べるけどね。

Q　それは辞書で？

男4　うん。

Q　それは国語辞典，漢和辞典？

男4　国語辞典でも，漢和辞典でも。

Q　それはいい習慣だね。ところで，漢字を勉強するってことね，それは自分では好きだと思う？　あまりそうでもないと思う？　そのへんどう？

男4　あまり好きじゃないです。

Q　好きでないという理由を説明するとすればどういうことになる？

男4　そうねえ，英語なんかと違って，漢字はたくさんあるでしょ。まあ，ひとくちに言っちゃえば，めんどうくさいということ。

Q　それじゃね，学校にいま，9科目あるでしょう。

男4　はい。

Q　その中では，男4君としては，比較的好きな学科とか，きらいな学科とかいうのある？

男4　好きなのは，ま，国語，社会。

Q　うん。

男4　きらいなのはね，数学です。

Q　数学にも幾何と代数とあるでしょう。

男4　うん，代数のほう。幾何のほうはだいたい推理していけるでしょう。幾何は好きです。

Q　はい，わかりました。ええとそれではね，3年間のクラブ活動は何をやってきたっけ。

男4　サッカーと……いっぱいあるんですけどいいですか。

Q　どうぞ。

男4　1年のときはサッカーとバスケット。2年のときはサッカーに剣道に水泳。3年のときがバスケットに水泳です。

Q　いろいろやってきたね。その中で一番おもしろかったのは？

男4　サッカーです。

Q　はい。さて，それではねえ。趣味っていうか，まあ，そういうものとしてはどういうのがある？

男4　釣りとかね，それから野球を見ること。それからね，あと，なんかね，自然へ出て行くのね。キャンプとか，山登りとか，そういうのです。

Q　それで，これは趣味じゃないけど，船乗りになりたいって言ってたね。あれ，どうなった？

男4　一応受けたけど……まだわかんない。

Q　発表はいつ？

男4　7日に発表。

Q　合格してるといいね。男4君のマドロス姿なんてカッコイイだろうね。

男4　そうなることを望んでいる。

Q　兄弟は何人でした？

男4　3人，兄と妹がいるの。

Q　じゃあ次男坊ってわけだね。

男4　ええ，そうです。ぼくの場合，下が女だからぼくのものが着られないでしょ，洋服なんか。だから新しいのを買うでしょう。兄さんは兄さんで新しいものを買うでしょ。ぼくは兄さんのお下がりで，ダメになるまで着なくちゃならない。だからつまんないね。

Q　下げる相手がいないもんね（笑）。ところで，いままで話したことのほかに，何かこの際男4君のほうから言っておきたいっていうことはない？　なんかひとことでも言っておきたいってことない？

男4　別にない。

Q　では，どうもありがとう。

(2) **男子1の録音資料**

Q　男1君，いよいよ卒業だけになって，気分的に落ち着いたところで質問に答えてもらいたいんですが。

まず，3年間の感想について。われわれと3年間いっしょにやってきて，漢字というものを中心につき合ってもらったわけですね。その間いろいろありましたが，とにかく協力的にやっていただきました。その3年間についての感想を，言いにくいことでもなんでけっこうです。なんでもザックバランに言ってください。

男1　感想？

Q　そう。そう言っても，ただ「感想を」では言いにくいかもしれないね。たとえば，こういう点はためになったとか，こういう点はいやだったとかいうようなことでもいいですよ。

男1　ためになったのはねえ……。別に家ではあまり漢字なんか勉強しないでしょう。

Q　はい。

男1　なんか，テストがあってもなかなかやるひまがなかったの。漢字とか，単語とかね，英語でも。で，ここでやったから，だんだん覚えてきていたので，みんなはあせってるけど，ぼくなんかゆっくりできたように思う。

Q　うん。

男1　そして，早稲田なんか特に漢字がいっぱい出たんです。(注―この生徒は早稲田高等学院を受験，合格し進学した。)

Q　そうだったの。

男1　はい。漢字けっこうわかったからおもしろかった。(笑い)

Q　それじゃ，もうけたわけだね。

男1　ほとんど漢字，ほとんど漢字。

Q　何科目だった？

男1　3科目です。

Q　都立と同じ3科目？

男1　そう。それに作文。

Q　作文で何を書かされた？

男1　ええとね，「命」っての。

Q　「いのち」ね。

男1　ずいぶんむずかしいの。

Q　それはそれとして，研究所のほうの感想は？

男1　そうね，からだの調子の悪いときとか，気が向かないときとか，やっぱり来たくないときがあった。でも，卓球場があるからなんかよかった。

Q　でも，君たちがやりたいと思うほどさせられなかったね，時間の制約などがあって。それじゃ次の話題に移しましょう。学校の勉強を中心とした中で，漢字の学習について，自分としては特にこういうふうにくふうしてきたとか，こういう点に注意してやってきたというようなことはない？

男1　ええと，特別あまりないです。

Q　なにもない？

男1　似てるのがあるんですよ，よく，漢字でも。そういうときはまとめて覚えます。

Q　似ているっていうと，たとえば「沼」と「湖」のようなもの？

男1　そういうんじゃなくて，あのう，「精神」とう字があるでしょう。あれと「精進」とちょっと似ているでしょう。そういうのでちょっと似たような漢字を辞書で調べて。

Q　はあ，はい。

男1　学校でよくそういうの辞書で調べさすんですよ。そういうの。

Q　そうですか。

男1　なんか，意味調べるときでも，ほかになんか知っているような，わからないようなのが出て来たら，ついでに調べたりしてます。辞書でけっこう覚えた。

Q　家でもよく辞書引いてた？

男1　家ではあんまり……。なんか出てくると，おかあさんに聞く。

Q　生き辞引きがあるわけね(笑い)。ええと，それから，男1君の場合，漢字を勉強するってことは，ほかの勉強についての作業に比べてどうですか。

男1　特別な読み方とか，ああいうのがあるでしょう。

Q　特別な読み方っていうと，たとえば「帰依」とか「回向」とかいうようなもの？

男1　そう。そういうの覚えるの大好き。おもしろいから大好き，ああいうの。

Q　ううん。男3君がね，『国語自由自在』ってのを使って勉強したって言ってたけど，そういうのとしては何を使った？

男1　学校のテキスト（注—教科書以外のもののことらしい）と，それから自分で買ったテキスト。で，漢字とかああいうの出ているやつ。

Q　早稲田なんかの場合，あそこの入試の問題集みたいなものあるんじゃない？

男1　はい。

Q　それ使った？

男1　はい。使いました。それでね，4字の熟語，たとえばイッチョウイッセキとか，そういうのがあって，その横の四角いマスになっているところへ全部漢字で書き入れるの。それが今までの傾向だったんです。だから，それをやっていったんです。それから文学の作者みたいなやつ。だいたいは記憶力のばっかり。

Q　とにかくそういうものが出た？　いくらか。

男1　それがね，今度，ガラッと変わってしまって，全然出ない。全然！(笑い)

Q　何が出たの？

男1　結局はね，漢字1字で，あることを表わす，そういう字を書かされた。だいたいまわりの，文脈っていうのかな，そういうので見当はついたけ

と，ずいぶん考えたりした。

Q　文法は？

男1　前はけっこう出てたんだけど，今度は確か出なかった。その分だけ漢字がふえたような感じ。

Q　文法は好き？

男1　まあまあってとこです。

Q　ところで，学校の勉強のほうはどう？　男1君なんか，きらいな科目なんてのはないんじゃない？

男1　違う！　あるんです。

Q　どういうの？

男1　きらいって，あのう，実技なんかも入れたらね，体育はあまり好きじゃない。(笑い) バスケットとかバレーボールとか，ああいうのはおもしろいんだけど，走ったりするの，特にマラソンなんてきたら大きらい。だいたい，からだが重くて続かない。(笑い) たいへんですよ。ビリから4番目とっちゃったりして。

Q　ほかの科目については？

男1　うん……音楽が，ま，普通。

Q　好きな科目は？

男1　英語が好きです。数学……普通。

Q　クラブ活動はどういうことやってきたの？　1年のとき，2年のとき，3年のときと分けて教えてください。

男1　1年のときは科学クラブにはいってたんです。そしたら，なんか，ビーカー洗ったりなんかするばっかりで，なんにもやらせてくれない。男3君と最初はいっていたのかな。そして，そんなことばっかやっているうちにつまらなくなったんで，2年になって，同じクラスの友だちなんかと数学クラブへはいったの。

Q　ううん。

男1　そしたら，またサエないこと。なんかあんまりよく動かないの，クラ

ブの中が。それで3年になって卓球クラブへはいった。男2君といっしょにはいったの。

Q　うん。

男1　それで，今度あんまり出なかった。卓球クラブ。

Q　3年になると，いろいろ忙しくなっちゃうからね。3年のときは卓球クラブだけ？

男1　そうです。

Q　早稲田へ行って何をやるつもり？　大学では。

男1　そうね，はっきりわからない。

Q　いまの段階では，こういう方向へ進めたらいいなとかいうのない？

男1　自分の良さが全然わかんないもの，まだ。

Q　いま聞くのはまだ無理かもしれないね。いま決めてみても変わるかもしれないし。じゃ，今度は，自分で好きでやっているようなもの。ひまなときなんかにね。つまり，趣味といったようなものだけど，そういうものとしてはどういうことをしているの。

男1　ええと。卓球やったり，映画見に行ったりする。

Q　映画は洋画，日本のものどっちのほう？

男1　両方行くんだけど，なんていうか，喜劇みたいのが好きなの。それから，ちょっとアクション的なもの。それにスパイ物も大好き。

Q　男1君のところ，兄弟は何人だった？

男1　4人です。ぼくが4番目。

Q　上の人は？

男1　3人とも女ばかり。

Q　おねえさんが3人，それじゃいろいろ世話してもらえていいでしょう。

男1　それがね，しごかれちゃう。(笑い)

Q　君のように大きいのしごくのたいへんだろう。

男1　敵は3人だから，とても，とても。

Q　おねえさんたちはなにしてるんですか。

男1　いちばん上のねえさんが働いてるの。短大出て。23かな。その次に2^の姉がいる。働いてる。その下がいま17かな，高校生。

Q　じゃあ，こんどは高校生が2人になるわけだね。

男1　そうです。

Q　勉強のことでおねえさんに聞いたりすることある？

男1　あんまり聞かない。そう，3か月にいっぺんぐらいかな。

Q　自力で解決しちゃう？　みんな。

男1　参考書かなんかあるからそれでだいたいわかる。聞いたってあんまり当てになんない。適当なことばかり言ってて。(笑い)

Q　ところで，いろいろ聞いたけど，やっぱり最後なんだから，一言私たちなり研究所なりに対して言っておきたいってこと何かない？

男1　……別にない。

Q　そう。じゃ，ここまでにしておきましょう。どうもありがとう。

(3) 女子3の録音資料

Q　まずね，私たちといっしょに3年間やってきたでしょう，それについて感想のようなものがあったら話してください。よかったと思うことでも，そうでないことでも，遠慮しないで言ってください。

女3　別にいやなことなんてなかった。でもね，ここで漢字やったでしょう。で，すごくね，自分たちがなんかこう，字をすごく知らないっていうのがよくわかってね，高校へ行ってひまがあったら，漢字の勉強やってみたいと思う。

Q　そう。

女3　別にないけど，なにしろ，ここへ来てね，自分たちがすごく知らないっていうことが，よくわかってよかったと思う。

Q　ずいぶん教育的に受けとってくれたんだね。たいへんうれしい。それじゃこの話題はこのぐらいにしましょう。漢字を勉強するときの問題で，ふだんの勉強の中で，いろいろくふうしてきたことがあるんじゃないかと思います。

研究所の調査のことはひとまず切り離しておいて。くふうしたといっても，特別に，くふうしようと思ってしたっていうことじゃなくてもいいんですよ。こういうふうにやってきたっていうことで，なにかありませんか。

女3　くふう？　別にないけどね。覚えるとき？

Q　そう。

女3　そうね。たいがい試験のときはね，教科書から拾い出して，レポート用紙に読みがな書いて，折ってほかの紙に練習して。

Q　うん。

女3　それから，あとは，夏休みなんかね，練習帳を使って，ひまがあるときやるんだけど，いやになっちゃうの。（笑い）なんか混乱しちゃって，わかんなくなっちゃう。

Q　その練習帳っていうのは，そのへんで売っているもの？

女3　ええ。

Q　市販されている，なになに練習帳っていう系統のものね。

女3　そうです。それ買ってきたんだけど，ほとんどやってないんです。

Q　でも，見るだけは見た？

女3　ええ，たまに持って来る，学校に。それでひまがあるとね，めくってみたりするけどね。なんか，同じようなつくりのばっかりでしょう。いやんなっちゃう。

Q　はあ。

女3　だからあんまりやらない。なにか，本よんで適当に覚えたりする程度ですね。

Q　うんうん。それじゃあ，漢字を勉強することが好きかきらいかというふうに聞かれたら，女3さんの場合どう答える？

女3　きらい。

Q　きらい。きらいだと思う理由はどういうこと。

女3　そうね。同じような字がたくさんあるでしょ。そして，なにしろ数がたくさんあるでしょう。だから，なかなか覚えられない。だけど，漢字そのも

のはね，全部読めて書けたらいいなと思う。

Q　うんうん。

女3　だけど，やっぱりきらい。要するに覚えることがきらいなの。

Q　漢字は無数にあると思う？　どのくらいあると思う？　文字数でいうと。

女3　わかんない。うふっ。

Q　わかんない。

女3　もう何千字もすごくあると思う。(笑い)

Q　うん，何千字あることはたしかだ。だけどね，われわれがふだん使っている漢字の数はだいたい二千字から三千字ぐらいかな。

女3　でも，こう，いろいろ組み合わせられるでしょう。熟語とか。だから覚えきれない。

Q　その場合でも無原則に組み合わされるわけではないですよ。ところで，女3さん高校は国学院へ行くことにしたんだって？

女3　はい。

Q　高等学校へ行ったら，いままでよりは国語の勉強をみっちりさせられることになるかもしれないね。

女3　そうね。古典なんかも特に。

Q　そうだね，そういう点覚悟を決めておく必要がありそうだね。話は違うけど，今の学校の勉強，9科目あるでしょう。その9科目の中で，あの科目はなんとなくきらいだとか，あれは好きだとかいうことある？

女3　社会がきらい。

Q　社会。社会の中で分けた場合は？

女3　政治。先生のこともいくらか関係ある。丸暗記的な勉強はいやなの。

Q　だれにとっても丸暗記的な勉強はいやですね。逆にいうと，丸暗記するような勉強法はさけるべきだということでしょうね。じゃ，次に，3年間のクラブ活動のことを，1年の時，2年の時，3年の時というふうに分けて説明してくれませんか。

女3　そうね，1年生の時ね，テニスクラブへはいったの。それからもずっ

と続けて，1年の時から試合出たりして。2年になってもずっとやってたの。3年になってね，なんかちょっとばかみたいにね，運動ばかりやっていたんではだめだと思って1回やめたの。だけど，それまで2年間やっていたでしょう。家へ帰ってラケット見ると，なんとなくやりたくなっちゃってね。そういうことでちょっとさみしかった。卒業の記念に写真とるのに，みんながもどれっていうの。それでも意地があるからもどんないってがんばってたけど，あんまり言われるのでもどったの。今もまたちょっと続けてるんですけど，これからもずっとやっていきたいと思う。

Q　女3さんは1年生当時と今と比べて，ずいぶん丈夫になったなあって感じるんだけど，自分でそういうように思わない？

女3　わかんない，あんまり。そう……だいたい細っこいから弱く見える。あまり弱くはないんですけど。

Q　病気で寝こんだなんてことなかった？

女3　あんまりないです。ただ，試験で徹夜なんかすると疲れるでしょう。そういうときかぜを引いて熱が出たり，扁桃腺がはれるなんてことがあるけど，それ以外の病気ってのは別に。あと，たべ過ぎたりしてね。

Q　そう，じゃ丈夫なほうなんですね。あと二つばかり聞きたいことが残ってる。その一つはね，ひまなとき，なにか自分で好きなことをやっているっていうような場合のこと。

女3　はい。

Q　趣味みたいなものだけれど，そういうものとしてはどういうことがあるの？

女3　そうね。ひまがあるとね，自分のへや片づけるのが好きなの。

Q　へやの片づけ！

女3　そうそう。机の中から全部ひっぱり出してね，もう全部あけっちゃう。へやん中，足の踏み場もないほど散らかすの。それでね（笑い）一日じゅうね，片づけて，そこでお菓子食べたり，それで，へやじゅうに風景画はるの好き。

Q　へえ。

女3　本は好きなことは好きなんだけど，家では，なんか読む気しない。せいぜい漫画をどっかから引っぱり出して来るぐらい。あとはね，植木ね。あのう，花屋さんへ行ってね，毎日見るんだけど，1週間のうちで一番安い時に買うの。

Q　ううん。

女3　買って来て，自分のへやの前に植えるのね。でね，柵つくってやったり。あと，犬小屋のペンキ塗りかえたり。

Q　ずいぶん家庭的で，経済的で……。

女3　（笑い）

Q　それじゃ，あともう一つね。兄弟何人でしたっけ，女3さんは。

女3　ねえさんがひとり。いま19です。高校卒業して，英語の専門学校みたいなところへ行ってるの。神田の外語学院とか言ってた。

Q　そう。

女3　それは夜だけど，昼間は貿易会社に勤めているのね。ねえさんは英語すきだから。

Q　あなたは英語はどう？

女3　別に好きじゃない。きらいでもないけど。しゃべれるようになりたい。でも，それはちょっと先の長い話。（笑い）

Q　先の長い話が出たついでに，高校卒業したらどういうふうにするつもり？

女3　まだわかんないけど，教師になりたい。だけど，今のようじゃだめだから，もっと勉強してね。

Q　教師にもいろいろあるけど，どういう方面の教師になりたいの？

女3　そうね，数学かなんかの教師に。

Q　はあ。

女3　授業受けていてね，あのう，黒板なんかに問題出したりするんじゃなくて，教科書中心でやってるでしょ。そして，アンチョコなんか写してくる答

えで済ませちゃう先生がいるでしょう。そういうんでやってるから，テストやってもできない子もいるし，そういう差がいっぱいあるでしょう。そういうのは教えてもらっていてすごくいやだからね。自分の教えるときは，なおしてやる，なおしてやりたいと思う。

Q　はい。

女3　だからね，みんな同じようにできるようになる。それで，そのためには大学へ行かなければならないでしょう。

Q　数学の先生になるためには，数学を専攻しなくちゃいけないということも……，

女3　だけど，それはちょっと……どっちかっていうと国語が好きなんです。詩なんか好きでいろいろ集めてるんです。図書館へ行ったりして。だからそういうほうにもできたら行きたいと思う。

Q　うん。

女3　でも，案外，高校出たら普通の事務員さんかなんかで終わっちゃうかもしれない。

Q　それはまだわかんないもんね。しかし，こうなりたいとか，こうしたいとかいうことは今だって持っていていいものね。がんばってください。どうもありがとう。　（根本今朝男）

第4編

事例研究

—1生徒の3年間の漢字習得—

この研究は，8人の生徒の事例研究という方法によって進められたが，事例生徒の漢字の習得状況を通して，中学生一般の漢字習得についてみようとしたために，第2編では，調査結果をもとにして，中学生の漢字習得の状況を全体的総合的観点から整理統括し，第3編では，調査対象となった8人の生徒は，それぞれどのような固有の知能・性格・学力をもち，どのような家庭，言語環境にあるか，どのような教材（「教科書調査」結果の記述は，便宜上資料編に収めてある）で，どのような学習指導（指導の実際）をされてきたかなど，漢字習得とかかわりのある習得諸要因について調査の結果を記述した。したがって，第2編の漢字習得状況は第3編のような習得要因のもとに生じたものとして見ていただきたい。

しかし，この調査は事例研究の方法によって進めてきたのであるから，本来ならば8人各自の事例調査として，3年間の漢字習得の状況をそれぞれ記述する必要も考えられるが，ここでは紙面の関係もあり，特定の1人を取り上げて，3年間の漢字習得の真相を追ってみることにする。

〈事例　女子 2〉

入学時，8人の生徒を選抜する基本的条件は同じであったが，漢字学習という立場からみただけでも各人各様，個人差がある。記述対象の生徒として女子2を選んだ理由は，習得量も多く，習得の定着度も速く確実な生徒や，比較的習得状況のよいものはさけて，漢字力は不振であるが（8人の中では下位に近い）3年間少しずつ進歩が見られる生徒の例としてみたかったからである。（対照的な事例生徒として男子1も予定したが，紙数の関係で省略。）

1. 習得した漢字

(1) 1年入学時の漢字力

中学入学時（4月～7月）の当用漢字全数読み書き調査（付，表外字）の結果，女子2は次のような成績を示した。（読みについては，音訓どちらか読め

ていれば，その文字を正答とした場合）

	教育漢字(881字)		教育漢字外当用漢字(969字)		計　当用漢字(1850字)		表外字(100字)
	読み	書き	読み	書き	読み	書き	読み
女子2	842字	600字	307字	83字	1149字	683字	(37字)
8人平均	870.6	695.3	539.0	171.1	1409.6	866.4	(46.8)

小学校時代に学習した教育漢字は，読みを39字，書きでは281字ほどを習得し残しているが，いっぽう，未習の教育漢字外当用漢字（このうち，何字かは中学入学後学習している）は307字読め，83字書ける，つまり1150字くらいの字が読め，680字くらいの字は書けるという漢字力（漢字習得歴。漢字の字種，読み書き，いずれについても8人平均より下回った成績）をもって入学したことになる。この文字歴が，その後3年間の中学生活（学習生活をはじめ，校外・家庭のいっさいの生活）によって，どのように展開されるか，それは，何に由来するかなど，できうる限り，調べてみたいと思う。

(2)　3年間の習得文字量

3年間の習得文字量を，第2編で見たと同じように，A　読みでは音訓いずれか読めていれば文字として正答と認め，累積集計方式で整理する場合，B　音訓を考慮し，音訓のあるものは，音訓を尽くして読め，2回続けて正答できる，習得完了というきびしい観点で整理した場合の二つの観点から見ると次ページのようになる。

Aの立場でみると，教育漢字全数が読み書きできるという到達目標には達し得ないが，教育漢字外当用漢字の全数近くが読め，過半数が書け，その他に，使用度の高い表外字が180字ほど読めるという文字量（当用漢字<1,850字>としてみると1,816字が読め，1,492字が書ける）となり，調査生徒中では，成績のよくない女子2にしては，意外の成績を収めていることになる。しかし，この数字は正答の累積数であって，彼女の3年間の真の習得の相を伝えたもの

3年間の文字習得量

		教育漢字 (881字)							教育漢字外当用漢字 (969字)						
		入学時 (1回)	1年後期 (2回)	2年前期 (3回)	2年後期 (4回)	3年前期 (5回)	卒業時 (6回)	卒業時習得残の字	入学時 (1回)	1年後期 (2回)	2年前期 (3回)	2年後期 (4回)	3年前期 (5回)	卒業時 (6回)	卒業時習得残の字
読み	A 女子2	842字 (95.6%)	867	880	880	881	881 (100)	0	307 (31.7)	541	689	785	840	935 (96.5)	34 (35.1)
	8人平均	870.6 (98.8)	877.3	880.5	880.5	880.8	881 (100)	0	539 (55.6)	715.9	795.3	852.3	894.4	940.3 (97.0)	28.7 (29.6)
	B 女子2		458 (52.0)	620	697	739	761 (86.4)	120 (13.6)		74 (7.6)	242	379	534	617 (63.7)	352 (36.3)
	8人平均		608.6 (69.1)	709.0	767.3	796.8	820 (93.1)	61.0 (6.9)		264.4 (27.3)	454.1	568.3	657.0	728.4 (75.2)	240.6 (24.8)
書き	A 女子2	600 (68.1)	651	785	842	847	862 (97.8)	19 (21.6)	83 (8.6)	130	255	433	579	630 (65.0)	339 (35.0)
	8人平均	695.3 (78.9)	752.0	807.9	840.5	851.6	860.6 (97.7)	20.4 (23.2)	171.1 (17.7)	239.6	346.5	488.1	583.8	640.3 (66.1)	328.7 (33.9)
	B 女子2		545 (61.9)	640	770	827	844 (95.8)	37 (4.2)		57 (5.9)	109	223	376	497 (51.3)	472 (48.7)
	8人平均		659.3 (74.8)	735.6	796.3	832.9	847.6 (96.2)	33.4 (3.8)		129.5 (13.4)	210.9	313.9	442.4	536.3 (55.3)	432.8 (44.7)
読み書きとも	A 女子2	594 (67.4)	652 (74.0)	785 (89.1)	842 (95.6)	847 (96.1)	862 (97.8)	19 (2.2)	72 (7.4)	125 (12.9)	252 (26.0)	420 (43.3)	549 (56.7)	629 (64.9)	340 (35.1)
	8人平均	693.6 (78.6)	751.6 (85.3)	807.9 (91.7)	840.5 (95.4)	851.6 (96.7)	860.6 (97.7)	20.4 (2.3)	163.8 (16.9)	237.5 (24.5)	344.5 (35.6)	480.8 (49.6)	560.5 (57.8)	639.2 (66.0)	329.8 (34.0)
	B 女子2		309 (35.1)	462	610	695	730 (82.9)	151 (17.1)		12 (1.2)	56	130	260	362 (37.4)	607 (62.6)
	8人平均		479.9 (54.5)	604.4	700.3	758.4	790.4 (89.7)	90.6 (10.3)		68.4 (7.1)	148.4	242.6	353.1	448.1 (46.2)	520.9 (53.8)

B 調査時ごとの習得完了の文字数

女子2	読み		458	162	77	42	22	(120)		74	168	137	155	83	(352)
	書き		545	95	130	57	17	(37)		57	52	114	153	121	(472)
	読み書き		309	153	148	85	35	(151)		12	44	74	130	102	(607)
8人平均	読み		608.6	100.4	58.3	29.5	23.3	(61.0)		264.4	189.8	114.1	88.8	71.4	(240.6)
	書き		659.3	76.4	60.6	36.6	14.8	(33.4)		129.5	81.4	103.0	128.5	93.9	(432.8)
	読み書き		479.9	124.5	95.9	58.1	32.0	(90.6)		68.4	80.0	94.3	110.3	95.3	(520.9)

調査時にみられる習得文字数

		当用漢字としてみた場合				
		2年前期（3回）	2年後期（4回）	3年前期（5回）	3年後期（6回）	残り
女子2	読み	330	214	197	105	472
	書き	147	244	210	138	509
	読み書き	197	222	215	137	758
8人平均	読み	290.1	172.4	118.3	94.6	301.6
	書き	157.8	163.6	165.1	108.6	466.1
	読み書き	204.5	190.1	168.4	127.3	611.5

	表外字					
	入学時（1回）	1年後期（2回）	2年前期（3回）	3年後期（4回）	3年前期（5回）	卒業時（6回）
女子2	37字	40	132	159 (141+18)	265 (247+18)	179 (161+18)
8人平均	46.8	66.1	139.3	255.9 (237.9+18)	345 (327+18)	336.8 (318.8+18)

ではない。習得完了というBの観点からみると，各調査時の正答文字数（習得完了文字数）は減少し，卒業時に習得し残した文字数が増加し，相当量の習得文字数・文字量の修正を余儀なくされる。卒業時，どちらかの読み方では881字全数が読めた教育漢字でさえ，120字もの未習得分を残すということになり，読み書き合わせると，150字も未習得文字をかかえて卒業するということになる。学習進行中であった教育漢字外当用漢字では，この文字の性格上，習得未完了の文字が多くなるのは当然とはいいながら，驚くばかりの数である。

しかし，上来見てきたように，この両者の数字の開きの上に，文字習得の実相・本質が蔵されているのであって，その差が，人によって多いか少ないか，その差が早く縮少するか否かに，習得上の問題点があるのである。

(3) 習　得　の　型

前表で，女子2の習得文字量のほかに，8人平均の文字量もあげておいたが，両者を比較することによって，事例生徒の3年間の文字習得の過程，習得の型等がわかる。

女子2は，教育漢字の読みでは，入学時は平均字数を下回り最低である。2年時，3年時と徐々に伸びていって，文字としての読みでは，全員と同じ水準に達したが，音・訓関係では伸び悩みがあって習得未完了の文字を，平均61.0字（6.9%）に対し120字（13.6%　8人中，残りの量がいちばん多い）も残している。しかし書きのほうでは，入学時の全員との差を，その後の学習・努力によって縮めていき，卒業時には累積正答では，わずかながら平均を抜き，完了の場合でも，平均の847.6字（96.2%）に対し，844字（95.8%）までになっている。したがって書き未完了の文字も37字（4,2%）で，平均33.4字（3.8%）に迫っている。このことは，女子2が教育漢字の入学時の読み書きの不振を，その後の学習態度や努力によって挽回しようとしたこと，書字のほうはその効果が見えたが（他が書き不振であることにもよる），読みのほうでは効果があがらない，いわば読み不振の型に属すること，この読み不振は多く，音訓に関してのものであるということがわかる。

教育漢字外当用漢字はというと，これも入学時の読み書きは一般に不振，ことに読みにそれが著しく，この関係は「書き」がその後，徐々に上昇して，卒業時には，平均536.3字（55.3%）に対し497字(51.3%)，習得し残した字平均432.8字（44.7%）に対し，472字（48.7%）と，平均完了書字数に迫ったのに対し，「読み」は常に，平均との間に，10%以上の差を残しながら，卒業時まで，ついにその差を破ることなく，平均728.4字（75.2%）に対し617字（63.7%），習得残の字352字（36.3%　平均は240字<24.8%>）を持ち越している。もっとも最下位からは脱することができたし，この場合，音訓を無視し，完了を考えなければ，卒業時の読字数は平均940.3字（97.0%）に対し935字（96.5%）と，かなり平均値に近い数字を示している。彼女が，一般的に書字に比べて，読字，ことに音訓関係に弱いこと，しかも，読めない音訓の読みが定着しにくいことを物語っている。したがって読み書きともに習得が完了する文字も少なくなり，平均字数を下回るということになる。

表外字の読みでは入学時には，100字中37字，卒業時には1000字中161字，前

		教育漢字 読み	教育漢字外当用漢字読み	教育漢字 書き	教育漢字外当用漢字書き
正答	字数	881字 (100)	935 (96.5)	862 (97.8)	630 (65.0)
	音訓数 (%)	1631 (97.6)	1315 (90.7)		
誤答	字数	0 (0)	23 (2.4)	16 (1.8)	189 (19.5)
	音訓数 (%)	22 (1.3)	87 (6.0)		
無答	字数	0 (0)	11 (1.1)	3 (0.3)	150 (15.5)
	音訓数 (%)	19 (1.1)	48 (3.3)		

〈注〉　音訓数
教育漢字　1672音訓
教育漢字外当用漢字　1450音訓

回に完了の18字を入れて179字を読んでいるが（3年前期には247字も読めているが，卒業時にはそれが86字も減少している。）常に平均字数を下回り，3年卒業時には最下位で，表外字を読む力も振わない。

最後に，女子2の中学卒業時（第6回）の当用漢字の読み書きの調査の結果を，正答・誤答・無答の反応別にみると，前ページの表のようで，正答以外の反応では，読み書きともに無答反応よりも，誤答反応のほうが多いことがわかる（人によっては，無答反応が多いものもいる）。また，卒業時の当用漢字の読み書き調査結果を，8人の成績によって順位づけをしてみると，次のようになる。

教育漢字

		読み（順位）		書き（順位）	
		<男子>	<女子>	<男子>	<女子>
		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
正答	（文字としては）	（全員同位）		（文字として）	1 6 2 7 3 ④ 8 4
	（音訓では）	1 3 3 2	5 ⑦ 8 6		
誤答	（文字としては）	（全員同位）		（文字として）	8 3 7 1 6 ⑤ 2 4
	（音訓では）	8 7 5 6	3 ① 3 2		
無答	（文字としては）	（全員同位）		（文字として）	―3―2―④1 1
	（音訓では）	8 5 6 6	4 ② 1 3		

位

<注>　順位は，各反応で数字の多いものから等級をつけた。したがって，順位の数字は，正答では1が最高，誤・無答では1が最低ということになる。

教育漢字外当用漢字

		読み（順位）		書き（順位）	
		<男子>	<女子>	<男子>	<女子>
		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
正答	（文字としては）	1 7 5 3	2 ⑥ 8 4	（文字として）	1 8 3 7 2 ⑤ 6 4
	（音訓では）	1 6 4 3	2 ⑦ 8 5		

誤答 (文字としては) 8 1 6 5 7 ③ 2 4　　(文字として) 8 1 6 4 7 ⑤ 2 3
誤答 (音訓では) 8 2 5 6 7 ① 3 4

無答 (文字としては) 7 8 2 6 5 ③ 1 4　　(文字として) 8 3 6 1 4 ⑦ 2 5
無答 (音訓では) 8 7 3 6 5 ② 1 4

読みに比べては，書きのほうが優位，その読みでは文字としてよりも，音訓関係に問題があることがわかる。

以上，女子2は，総体的に漢字力が不振なほうであるが，彼女なりに向上しようという努力はしており，それが書字力には結果として表われているが，読字力には及ばないで終わっている。読めるが書けないという一般に見うけられる型に反して，むしろ書字型の傾向をもっていると推定される。努力のわりに読字が不振なのは，どこかに不振の原因——現象としては音訓関係がその一つである——があると思われる。3年間の漢字習得状況から，以上のように診断される。

(4)　習得の具体的状況

1)　教育漢字の読み書き

①　教育漢字の読み

女子2は入学時，教育漢字は842字読めたが，これは文字としての読みで，音訓の観点からすると，完全に読めなかった音訓は359音訓（309字）ある。もっとも入学時に読めない音訓があるのは，小学校時代の未学習音訓があるから当然としても，このなかには，小学校で学習したが読めないものも145音訓ある。壱(イチ)称(ショウ)届(トドケる)など，高学年用の文字のため，まだ読めないものはおいて，中には声(こえ)　銭(セン)　田(デン)　送(ソウ)　皮(ヒ)　招(まね)く　導(みちび)く　造(つく)る　炭(すみ)　祝(いわ)う　など，生活に密着した，やさしい音訓も相当含まれていて，読みの習得度のおそいことを示している。この359音訓をはじめ他の諸音訓がその後3年間どのように読まれるようになるかをみると，

入学時には読めなかったが，（記憶がもどる，中学校の教科書でその文字（音・訓）が再出現して，しだいに読めるようになり，定着する

	各調査時と反応	音	訓	音訓(*)	文字
					字
1年後期から読める	$\underset{\times}{N}$○○○○○	94	42	136(91)	127
2年前期から	$\underset{\times\times}{NN}$○○○○	52	23	75(29)	64
2年後期から	$\underset{\times\times\times}{NNN}$○○○	14	13	27(6)	24
3年前期から	$\underset{\times\times\times\times}{NNNN}$○○	12	6	18(5)	13
3年後期から	$\underset{\times\times\times\times\times}{NNNNN}$○	15	18	33(5)	27
教科書出現後も読めず，出現のくり返し後に読めるようになる	$\underset{\times}{N}$(×○N)→○	15	10	25(7)	19
入学時には読めるが，また読めず，再出現をまって読めるようになる	○(N×○)→○	4	8	12	8
	$\underset{NN}{\overset{\times\times}{○}}$○○○	16	15	31	25
教科書出現後，読めることもあるが，最後には読めない	$\overset{\times}{\underset{N}{N}}$(×○N)→$\overset{\times}{\underset{N}{N}}$	7	6	13(0)	9
	○(×○N)→$\underset{\times}{N}$	1	0	1	1
	○(○○○)→×	1	0	1	1
出現後も最後まで正しく読めない	$\underset{NNNNNN}{\times\times\times\times\times\times}$	13	8	21	21
未出現のため読めないで終る	$\underset{NNNNNN}{\times\times\times\times\times\times}$	4	6	10	10

＜注＞　音訓の（*）内の数は，小学校で学習した音訓数。早く読みが定着するものは小学校時代に学習したものが，傾向的には多い。

のような経過で，無答に終わった46音訓が残るが，これがさらに，習得完了というきびしい観点からすると，中学校卒業時までに，120音訓を残すことになる。120音訓の中には

*回エ　*期ゴ　業ゴウ　供ク　権ゴン　功ク　*行アン　*殺サイ　*衆シュ　拾シュウ　織シク　*精シン

*夕セキ　*切サイ　*舌ゼツ　川セン　*宗ソウ　*貸タイ　望ボウ　*因よる　*各おのおの　供そなえる　基もと

*結ゆう　公おおやけ　字あざ　*社やしろ　*政まつりごと　天あめ　*統すべる　*難かたい　由よし

＜注＞　＊印は，国語の教科書に未出の音訓。

など，読みの抵抗度が共通に高かった音訓（その中の多くは教科書未出音訓である）で，最後まで読めなかった音訓もあるが，中には，教科書に提出され，学習ずみの音訓で，だいたいのものがしだいに読めるようになっても，女子2だけが読めないもの（相ショウ　刀トウ　訳ヤク　など），読字不振のものとともに読めないもの（内ダイ　就ジュ　望モク　潔いさぎよい　済すむ　責せめる　推おす　的まと　など），未学習の音訓でも，他のほとんどは読めるようになるが読めないもの（反タン　管くだ　生き　など）などがあって，生活に親近性のある音訓外には弱いことを示している。

なお，最後に読めなかった音訓数と習得未完了の音訓数の開きが大きいことは，学習直後には正読できても，一定の時間を経過すると読めなくなる習得のゆれ現象が多いことも，彼女の読み不振の因となっている。

また，責せめる　の例に見られるように，小学校でも学習し，中学2年前期にも学習しているにかかわらず，

責せめる→つとめる→つとめる→つとめる→みとめる→おさめる→つとめる

終始誤答をくり返し，修正の機会を逸すると，誤りが訂正されにくい点もある。3年間の読みの反応傾向を見ると，無答のあとの正答のほうが，誤答のあとの正答より定着しやすい傾向があり，誤答では，誤答のくり返し，誤答→正答→誤答の反応を示すことが時にある。性格，あるいは，誤答の心理的因子に関連するものであろうか。

② 教育漢字の書き

女子2の入学時の教育漢字の書字数は600字であるから，書けなかった文字は281字である。

入学時，誤答（146字）または無答（135字）に反応した281字のその後の反応ぶりを見ると，

1回→2 3 4 5 6

誤答×
無答N　→○○○○○　1年後期から正答○となる　52字
43字　95字

×/N →×/N ○○○○	2年前期から正答○となる	40/49	89
×/N →×/N ○○○	2年後期から正答○	19/23	42
×/N ⟶ ×/N ○○	3年前期から正答○	4/1	5 （刷堂版婦候）
×/N ⟶ ×/N ○	3年後期から正答○	6/0	6 （供衆焼提張党）
×/N →(×○N)○	途中正誤無の出入あるも最後○	15/11	26 （億資識謝釈儒術仁積則貨転能標礼壱勤効罪述処招称創達燃）
×/N →(×○N)×/N	途中○あるも　× 最後は誤・無答N	7/5	12 （易均厳講児祝複）（刊弐票未臨）
×/N →×/N　×/N	全回無誤答×N	3/3	6 （勧妻俵）（訓低補）

なかには，最後まで問題を残す字もあるが，全体としては漸進的ではあるが，比較的順調な発達のあとが看取される。男子2・4にみられたような6回の調査時とも，誤答または無答に終わるものは6字あったが，他は，しだいに正答となって定着していく傾向のものが多い。

また，1年入学時には正しく書けていながら2回め（1年後期）の調査時には，誤答（41字）または無答（16字）にもどったものも，その後は順次，正答をとりもどし，最後は「穀」1字を残すのみ

1回→2回→3 4 5 6

○ →×/N →○○○○	2年前期から正答○となる	31字/14字	45字
○ ×/N (×○N)○	途中正誤無の出入あるも最後は正答○となる	9/2	11 （泳営開禁借待念犯論）（官続）
○ ×/N (×○N)×	途中正答あるも最後は誤答となる×	1/0	1 （穀）

となり，卒業時は，正しく書けなかった計19字を残している。

この19字は2回続けて正答できた習得完了の数ではないが，習得完了という観点でも，卒業時37字を余すだけで，義務教育期間中に教育漢字に習熟する（書く）というまでには至らないが，漢字力にあまり強くないほうの女子2，

読字力が低い女子2にしては，他と比べて，書字力のほうに努力のあとがみられる成績といえよう。

2)　教育漢字外当用漢字の読み書き

①　教育漢字外当用漢字の読み

女子2は入学時に，教育漢字外当用漢字は307字読めている。未学習漢字（このうち一部は学習時期にかかっている）にしては読めていると思われるが，平均読字数からは下回り，最下位であった。その後の習得状況をみると，教育漢字でもそうであったが，文字としての累積の成績は，学年ごとに上昇して最低群を抜き，平均値に迫っているのに対し，音訓の観点，習得完了の観点をとると，平均値との間に，相当の開きを生じてくる。そこで，音訓の観点から3年間の読みの習得状況を見，なお，教育漢字外当用漢字は原則として中学生になってから学習される漢字でもあるので，教科書での文字提出と読めるようになった漢字(音訓)との関係をおさえて整理してみると，560ページの表のようになる。

入学時読めた307字は音訓からすると341音訓となる。この341音訓について教科書の文字使用との関係をみると，341音訓中，62音訓は，当用漢字の読みの調査が実施されるまでに，国語の教科書に使用された音訓であり，341音訓中の117音訓は，国語の教科書で，以後1年末までに提出，学習される漢字ということになり，入学時の調査の時点では未習でありながら読めた字ということになる。以下2年3年は，ともに，以後2年用漢字，3年用漢字として使用されるものであるが，すでに1年入学時に読めた音訓ということがわかり，その字の読めるに至った経路が国語教科書外であるということを示している。下段の他教科初出学年1・2・3年というのは，国語教科書には未出で，国語科以外の他の教科に出現していた1年初出16音訓，2年初出10音訓，3年初出9音訓が，それぞれ入学時に読めたということになる。最下段の全教科未提出というのは教科書以外の文字刺激，経路から2音訓読めたことを示している。このようにして，3年間の女子2の音訓習得の状況がわかる。

卒業までに読めた文字数は935字。1～3年国語教科書での出現総字数は804字（未出165字）であるから，読字に強くない彼女でも，国語の教科書以外

教育漢字外当用漢字（1450音訓）の各調査時の音訓読みの成績

教科書音訓出現数 ＼ 調査時正答音訓数			入学時	1年末	2年前期	2年末
			音訓 341	音訓＊ 656 内訳（A・B）	881（A・B）	1040（A・B）
国語教科書	初出学年 1年の初	425	62	67（6・61）	69（2・67）	70（1・69）
	初出学年 1年の後	425	117	239（126・113）	288（58・230）	325（43・282）
	初出学年 2年	372	79	159（83・76）	240（88・152）	314（78・236）
	初出学年 3年	318	46	105（64・41）	152（50・102）	177（35・142）
	小計		304	570（279・291）	749（198・551）	886（157・729）
他教科書	初出学年 1年	1128	16	33（18・15）	49（18・31）	52（6・46）
	初出学年 2年	1060	10	24（14・10）	33（10・23）	39（7・32）
	初出学年 3年	997	9	12（4・8）	23（11・12）	26（9・17）
	小計		35	69（36・33）	105（39・66）	117（22・95）
教科未出			2	17（15・2）	27（12・15）	37（14・23）

		3年前期	3年卒業時
		1136（A・B）	1315（A・B）
国語教科書	初出学年 1年の初	70（0・70）	70（0・70）
	初出学年 1年の後	332（14・318）	345（13・332）
	初出学年 2年	324（27・297）	357（34・323）
	初出学年 3年	229（60・169）	291（65・226）
	小計	955（101・854）	1063（112・951）
他教科書	初出学年 1年	59（9・50）	66（8・58）
	初出学年 2年	45（9・36）	56（14・42）
	初出学年 3年	38（14・24）	58（22・36）
	小計	142（32・110）	180（44・136）
教科未出		39（10・29）	72（36・36）

〈注〉＊内訳は，その学年で読めた音訓の種類を示したもの。
Aは新しく正答できたもの。
Bは前回までに正答できたもので，その調査時にも正答できたもの。

から読めるようになったと思われるものが131字もあることになる。

まず国語教科書出現の文字との関係でみると，1位1年用の教科書に出ている漢字，2位2年用漢字というように，学年の低い漢字が多く読まれている。これは下学年で，早くから日常性の高い一般的な漢字が提出されるからで，たとえば1年入学時に，未学習文字で正しく読めた1年用の漢字（調査時までに学習した残り）や，2，3年用漢字をみると，映エイ　菓カ　灰はい　街ガイ　泣なく　劇げき　姿すがた　松まつ　城ジョウ　針はり　洗セン　窓まど　暖ダン　班ハン　晩バン　浮うく　郵ユウ　卵たまご　郎ロウ（以上1年用）などをはじめ，巨キョ　砂すな　脂シ　煮にる　沼ぬま　城しろ　畜チク　宙チュウ　庁チョウ　彼かの　浜はま　亡ボウ　優ユウ　雷ライ　涙なみだ　（以上2年用），鉛なまり　嫁よめ　皆みな　冠カン　艦カン　菊キク　弓ゆみ　筋キン　滝たき　尼あま　乳ニュウ　眠ミン　羊ヨウ　卵ラン　塁ルイ　恋こい（以上3年用）など，いずれも日常の生活性の濃い漢字（音訓）であることがわかる。この傾向は3年間変わらないが，学年が進み，語彙が多様化されるにつれて，文章語的な音や訓もしだいに読めるようになる。しかし，前表でもわかるように，学年が進むにつれて，各学年用の漢字の新しく読めるようになる漢字数は減少する。これは前回までの読みを持続させることと，学年の進行に伴い，新出の漢字はしだいに日常性から離れた用字（用語）となるからであろう。3年終了時（6回め）に新しく読めた漢字は112音訓で脅キョウ　誇コ　涼リョウ　乳ち　抑ヨク　干カン　朽キュウ（1年用），雅ガ　郭カク　詰キツ　宰サイ　巧たくみ　謄トウ　卑ヒ　埋マイ　鷹セン　訂テイ（2年用），机キ　既キ　肩ケン　欺あざむく　偽いつわる　凝こる　携たずさえる　幻ゲン　衡コウ　克コク　准ジュン　潤ジュンうるおう　斥セキ　拙セツ　漸ゼン　妥ダ　鋳チュウ　懲こらす　塗ト　煩ハン　罷ヒ　崩ホウ　翻ひるがえる　麗うるわしい　惑まどう　況キョウ　粒リュウ　唆サ　弊ヘイ　錯サク　請シン（3年用）など，しだいにむずかしい漢字，より専門的な語彙や文章語に用いられる文字(音訓)であることがわかる。

なお女子2には，他と比べて，総体的にA　新規習得の文字（音訓）が徐々に少しずつ累加されていく，B　習得持続の文字（音訓）数が少ない傾向があり，このことが読みの成績を不振にしている。上の傾向は，他教科で出現する文字（音訓）についてみても同じである。3年間，他教科の教科に出現，その学習を通して読めるようになったと思われるものは179音訓あるが，1年用の

教科書に出現，第1・2回の調査で読めたものに，甲コウ　乙オツ　丙ヘイ　尺シャク　斗ト　硫リュウ　礁ショウ　縫ホウ　3年の卒業期では，詔ショウ　雇コ　捜ソウ　赦シャ　迅ジン　懲チョウ　疾シツ　虞おそれ　若もしくは　侵おか　既すで　卸おろ　漆シツ　債サイ　媒バイ　癖ヘキ　措ソ　匠ショウ　履リ　沼ショウ　盛ジョウ　削サク　衰おとろえる　などがあって，教科の内容・学年が，そのまま反映されており，女子2の他教科学習からの習得の状況が示されている。このように，国語及び他教科の教科書の漢字出現に即して，早い反応ではないが，少しずつ習得していくというのが女子2の文字習得（読み）の型であると見うけられる。

なお，国語，他教科とも出現しなかった文字（音訓）については，女子2は3年間で，72音訓（cf. 男子1：117音訓）読めており，ことに，3年後期で多くを読んでいる。（1回め 2音訓 →2 3 4 5 6 / 13 8 8 5 36）畔ハン　悔カイ　憾カン　錠ジョウ　贈ゾウ　紳シン　怪カイ　彼ヒ　娠シン　慰イ　偽ギ　堪たえる　忌いむ　恥チ　契ちぎる　幻まぼろし　紅くれない　魂コン　侮あなどる　憂ユウ　恋レン　など，教科の学習では出現しにくいような音訓が読めているのを見ると，その読書範囲や文字環境などの影響がわかる。

読めなかった文字（音訓）には，御ギョ　賜シ　璽ジ　勺シャク　刃ジン　穂スイ　井セイ　婿セイ　昔セキ　朕チン　苗ビョウ　浦ホ　陵リョウ　充あてる　賜たまう　緒お　憤いきどおる　陵みささぎ　募つのる　芳かんばしい　免まぬかれる　など，教科書にも未出だったり，反日常生活的な用語の音訓だったりで，共通に読めない種類の音訓もあるが，他の者は全部読めていて女子2のみ読めない音訓もある。

桜オウ　懸ケ　顧コ　剛ゴウ　詳ショウ　鐘ショウ　衰スイ　請シン　鍛タン　抽チュウ　陳チン　添テン　怒ド　避ヒ　香か　控ひかえる　恨うらむ　札ふだ　臭くさい　装よそおう　怠おこたる　奪うばう　鍛きたえる　漂ただよう　誘さそう　朗ほがらか

これらは，二，三を除いては音訓ともに，さほど特殊なむずかしいものではなく，他は全員読めるようになっていながら，女子2のみ読めていない。このことは，女子2が確実に読めない場合，音では，「旁」などの音符で読むことから類推して，既知の音で誤読しやすいこと（例—避ヒ→ヘキ　女子2は漢字を覚える手がかりとして偏旁に分けて覚えるとしている—後述）。訓では，終止形の送りがなにあてはめて読む傾向のあること，熟語にしても，訓にしても，

誤読に抵抗を感じない，語彙力にも問題があることを示している。

② 教育漢字外当用漢字の書き

読みと同様の観点から，教育漢字外当用漢字の書きについてみると，書くことまでは要求されていないこの種の漢字が，卒業時までに630字(累積) 書けたことは，やはり書字力に優位であることを示している。

教育漢字外当用漢字（969字）の書き

正答漢字数 ＼ 教科書文字と関係		入学時	1年末		2年末		3年卒業時	
		83字	130		433		630	
国語	1年の初	27	29	(A) (B) 13・16	55	(A) (B) 9・46	62	(A) (B) 1・61
	1年の後	39	64	35・29	171	56・115	214	16・198
	2年	11	22	14・8	130	76・54	181	20・161
	3年	3	10	8・2	48	32・16	104	28・76
他教科	1年	1	3	2・1	14	7・7	20	4・16
	2年	2	1	0・1	10	8・2	22	7・15
	3年				3	3・0	13	9・4
全教科未提出			1	1・0	2	1・1	14	7・7

しかも国語教科書に出ている文字との対応で見ると，2年末など，新しく書けるようになった文字と，読めるようになった音訓との差がほとんどなく，多い場合さえあって，書字への努力と，書字に強いことを示している。

入学時に書けた文字は83字あるが，そのうち，調査時までに学習した27字（うち，25字は正読できた）を除いた56字は未学習文字でも書けたことになる。もっともこのうち，26字は次回の調査では誤答や無答反応（鋭沿瀬密廊などは誤答，岳源芝洗抜などは無答に）にもどって，第1回調査結果が，すべて習得した文字というよりは，調査当時の文字刺激の影響による瞬時的なものであることを示しているものもあるが，教育漢字外当用漢字の1割近くの文字が

書けたことになる。

学習その他で文字刺激の強い時は書けるが，時間が経過し，新規に他の文字刺激が加わることによって，前に覚えた文字の忘却，後退現象なども加えながら，3年卒業時には，630字が書けるようになる。630字の内訳をみると，国語の教科書提出の文字と対応するもの561字，他教科の教科書出現の文字と対応するもの55字（謹倹債墾豚賠媒苗柄邦など），全教科未出のもの14字(芋殴寡堪忌棋碁糾嗣など）という割合いになっている。

中学卒業時まで書けなかった文字は339字で，さすがにむずかしい字(款虐脅繭賜璽爵粛薦窯隷漏賄など）が多いが，中には必ずしもむずかしくはないが，字形がとりにくいもの，類似字形に誤りやすいもの，意味に関連して誤るものなど，それぞれ正しく書けない原因をもった字種であることがわかる。そのうち，ある時期には正しく書けた文字に比べて，どの調査でも書けなかったものは，やはり，字種としても，使用度が低く，難文字が多い。常に無答だったもの（例—餓掛渇轄冠宜恭控佐搾囚俊殉匠抄奨衰帥堕逐衷弔朕坪貞遁陪迫縛卑某撲奔憂抑陵廉），常に誤答であったもの（例—迎込裁侵泰堤泊簿坊郵揺恋）などで，他は誤答と無答が錯綜してできていない。また，常に誤答の文字では，文字そのもののむずかしさより，点画等の細部や類似字形との思惑ちがいで，誤りが修正されずに持続されるもので，男子群に比べて，比較的学習に忠実な女子2にも，無修正による継続的な誤りがみられる。

読み書きの習得の具体的な経過は以上のようであるが，前編の「習得のゆれ」のところでみたように，女子2の「習得のゆれ」現象は，

	教育漢字		教育漢字外当用漢字	
	ゆれのある字数	ゆれの回数	ゆれのある字数	ゆれの回数
（読み）	4(15)字	4(17)回	5(21)字 22音訓	5(24)回
（書き）	15	22	75	85

成績と習得の安定の順位

	成績の順位	安定順位	成績順位	安定順位
（読み）	7	7	7	4
（書き）	4	5	5	4

「読み」に比べると「書き」の方が成績の順位も安定の順位もよく，「読み」では最下位に近いが，「書き」では中位にまで至ることができ，累積の成績からも，習得のゆれ現象から見ても，書きに比べて，読みが劣っていることが認められよう。（なお，教育漢字外当用漢字の読みで，成績順位は7位なのに安定順位は4位というのは，読みが一応完了した後にゆれが生ずるというところにまでは至らない，すなわち，習得が完了した後に誤るのではなく，誤答・無答反応が多いために，完了にまでは至り得ないからである。）

③　表外字の読み

1年入学時に読めた表外字（前表参照）は37字（藤僕岡崎阪伊廻杉竜鹿錦吾旦智駄呂仙靴鶴奈塚堀曽隅也桂駒昌潟亭頁灯坐肌縞稼鍋）であるが，読めた字は，身近の先生や友人名，日常生活で目にする場所，教科書（社会など）に出現する文字が，そのほとんどである。読めた数も少ないほうで(下位の次ぎ)，しかも，正答に至る前に，他の読み方と迷う傾向（一度答えて，消してある）があるなど，数多く読め，内省の記述も盛んな男子に比べると総じて不振であるが，読めない文字を投げ出してしまわないで，偏旁など既知の読み方から類推して答えようという積極的な態度も半面に見られる。

このことは，女子2の文字習得要因として，言語生活，言語環境（文字環境）が，比較的狭く限られていること，どちらかというと，学習を中心とした文字習得型であること，読みの不振を文字構造の知識でカバーして読もうとする意欲は強いことなどを物語っているものと思われる。

この傾向は，その後の表外字の読みの調査結果にも現われているが，学年が進むにつれて，一連の読書語彙系の文字が読めるようになっている。たとえば，3年では，嫌嬉歎淋噂嘘叱覗慾謎唇肌挨拶曄蒼濡牙梢杖のようなものが読めていて，愛読しているという物語・小説類の影響が見られる。

漢字のよみ

1年 男 ㊙　女子2

〔例〕稲 トウ いね　稲 稲 漢字の稲 水稲 陸稲 理科 [illegible]

次のそれぞれの漢字の読み方を知っていたら、例のように横に書きだしてください。なお、はっきり読めなくても、こんな意味で、この字が使われていたというようなことが思い出せたら、それも書いておいてください。

1 頃 こう	6 僕 ぼく	11 阪 さか 社会	16 裾 こ	21 鹿 か 社会	26 筈 した	31 旦 たん	36 俺 りゅう	41 頬	46 坐 ざ
2 云 でん	7 岡 おか 岡野さんという人のみよいでした。	12 えしば	17 糎 さと	22 頁 ページ ページ かい	27 吾 ご	32 智 ち	37 靴 くつ	42 奈 な 奈良という所のよみ方でした。	47 塚 つか 近はの家
3 藤 ふじ とう 藤井さんのみよじでした。	8 崎 さき 崎というのでした。	13 伊 い 小学校の友だちの名	18 那 なす	23 錦 きん	28 貰 が	33 駄 た	38 阿 こう が 阿野君のみよじでした。	43 嫌	48 熊 たい のう
4 袖 ゆ	9 脇	14 巾 めん	19 杉 すぎ 小学校の時の杉本先生というみよじでおぼえた。	24 或 いき 社会	29 唄 しょう 音楽	34 呂 ろ 風呂やでおぼえた。	39 鶴 つる 鶴ケ丘マーケットというところでした。	44 眺 はく	49 須 なす
5 衿 こん	10 誰 いせん	15 廻 かい	20 竜(龍) りゅう 日光に行っておぼえた。	25 戻 けん	30 彦 ひで さん	35 仙 せん	40 逢	45 灯 とう	50 狙

漢字の読み

1 頃 こう	6 渦 か	11 阪 さか 地名	16 裾 い	21 燐 りん	26 筈 したこ	31 旦 たん	36 俺 ぼく	41 頬	46 坐 ざ
2 云 でん	7 灸	12 之 ぼう	17 糎 りん	22 頁	27 瘍	32 盃 とう	37 靴	42 奈 な 地名	47 韓 かん 国名
3 殻 こく 殻物の殻	8 崎 さき 地名や人名で	13 伊 い 地名	18 那 な	23 錦 きん	28 貰	33 駄 だ	38 阿 こう か あ 人名	43 嫌 きらり	48 熊 くま
4 袖 そで	9 脇 きょう	14 巾 はば	19 靖 はる 人名	24 或 わく	29 唄	34 呂 ろ りょ	39 鶴 つる	44 眺	49 須 す
5 衿 えり	10 誰 だれ	15 廻	20 竜(龍) りゅう	25 戾	30 彦 ひこ 人名	35 仙 せん 地名	40 逢	45 灯	50 狙

男 女 氏名 女子 2

また，内省の記入例は少ないが，教科の出現文字との対応がみられるものがふえていること，第1回調査（1年1学期）では読めなかったものが読めている（袖衿嫌など），語として漠然とわかる程度であったものが，文字として把握できるようになった（那→な　須→す），誤って認識していたり，誤読したものが，正しく読めるようになった（彦熊など），一つの文字を二つ以上の読み方で読めるようになった（呂など。他の例では，音訓二様に読めるようになる）など，進歩が見られるが，また，依然として誤読していたり，前回は読めていながら，3年になってから読めていないという例もあって，表外字の読みの特質を現わしている。

卒業時に読めた表外字数は179字あるが，このうち，諸教科の教科書出現文字との対応が見られる字は123字で，$^{2}/_{3}$は，教科書の学習との関連が見られる。前例のほか，笠駒磨嶺僅扉斐函壺李蒙串屯蘇梯淀磐溝燕宋驒閤などは，特に教科との関連が考えられる字である。もっとも，これらの文字の習得経路が，すべて他教科学習によるか否か，いちいち克明に内省記入がされていないからわからないが，第1回調査の習得経路として，友人の名前があげられているものが，以後の記入では，「人名」・「社会」というような記入に変わっている例，3年前期の同調査で，「袖」に「家庭科の授業」などという記入例もあるところをみると，表外字習得の因子として，女子2の場合は，まず他教科の学習に，相当の比重があり，続いて読書といった習得要因が考えられる。

なお，彼女の場合，3年前期（265字）に比べて3年後期（179字）の数がかなり減少している。これは，心身の不安定な卒業時に調査を実施したという，調査時の関係にもよるが（全般的に同じ傾向が認められる），他と比べて，両回の差が開きすぎているのは，進学に必要な教科（この年から，東京都では高校の入試に必要な教科を国・英・数の教科にしぼった）が3教科になったために，学習の中心が3教科におかれ，表外字習得の市場であった他の教科の学習が多少とも手薄となったからではないかと推定される。教科の学習と結びついた表外字の習得であるだけに，左右されることも大きいのではあるまいか。

4）　集団調査での結果

全数調査から見た以上のことは，学年末に実施した集団調査（漢字習得上の問題点解明のためのテスト）結果にも現われている。

（読み）

2年集団調査で，女子2は，教育漢字の読み　素点111を84点（8人中7位），教育漢字外当用漢字の読み　素点107を51点（8人中7位）で，教育漢字では 川(セン)　下(もと)　後(ゴ)　商(あきな)う　拾(シュウ)　付(フ)　焼(ショウ)　報(むく)いる　統(トウ)べる　経(へ)る　設(もう)ける　管(くだ)　潔(いさぎ)よい　眼(まなこ)　卒(ソツ)　境(ケイ)　災(わざわ)い　衆(シュ)　授(さず)ける　納(ノウ)　などが，教育漢字外当用漢字では　企(くわだ)てる　趣(おもむき)　募(つの)る　伴(ハン)　汚(けが)す　妥(ダ)　頂(いただき)　顧(コ)　装(ショウそお)う　懸(ケ)　袋(タイふくろ)　翻(ホン)　詳(ショウ)　皆(カイ)　憤(いきどお)る　飾(かざ)る　奪(ダツうば)う　暫(ザン)　戯(たわむ)れる　誉(ほま)れ　既(キすでに)　などが正読できなかった。（教育漢字外当用漢字では，上のほかに，机(キ)　恨(コン)　捨(シャ)　沿(そう)　怠(タイ)　麗(うるわ)しい　惜(キお)しい　尋(ジン)　など無答のものもある）この誤読は3年卒業時までに修正されたものもあったが，同じく集団調査3年卒業時の読みのテストでも，

（教　育）川(セン)　商(あきな)う　拾(シュウ)　報(むく)いる　統(す)べ　経(へ)る　眼(まなこ)　潔(いさぎ)よい

（教育外）奪(うば)う　詳(ショウ)　戯(たわむ)れる　憤(いきどお)る　醜(シュウ)　皆(カイ)　麗(うるわ)しい　袋(タイ)　顧(かえり)みる

など正読できないで終わっている。しかも，誤り方も，

川(かわ)　商(〈2年〉うらなう→〈3年〉まかなう)　報(ふくいる)　統(のべる)　経(はかる)　潔(きれい→きよい)

奪(ふるう)　袋(イ)　詳(モウ)　戯(はなれる→たまむれる)　皆勤(キンロウ)　麗(N→うれわしい)　憤いきどおる(N→N)　醜(ヒ→N)　顧（顧問・ジンモン→N)(教育漢字外当用漢字のほうが学習途上のためか，誤答・無答が入り乱れた形で出ている）など，同じ誤りがくり返されているものもあって，学習や特殊の経験によって正しい読みが教えられないかぎり誤読が固定しているものがある。

また，問題のある音訓の読みテストの結果（全数調査で，同傾向がすでに見られたが)，誤りの型（傾向）として，

音読の場合は，

(1)　その語の特殊音訓を無視した音（既習・既知の音）で読むことが多い。

〔例〕〈2年〉出納(シュツノウ)　最期(サイキ)　緑青(リョクセイ)　大漁(タイギョ)　荘厳(ソウゲン)　暴露(ボウロ)　解毒(カイドク)　境内(キョウナイ)　成就(セイシュウ)　遊説(ユウセツ)

〈3年〉一切(イッセツ)　最期(サイキ)　緑青(リョクセイ)　成就(セイシュウ)　遊説(ユウセツ)　解脱(カイセツ)　精進(セイシン)　権化(ケンカ)　懸念(ケンネン)　施療(シリョウ)　普請(フセイ)　仰山(コウサン)　衆生(シュウセイ)　虚空(キョクウ)

(2)　その文字の構成要素の既知の一部分（偏旁に多い）をもって代読する傾向がある。中には字形の類似もあるが，文字の構成要素のどれかを手がかりに読もうとする傾向が多い。

例〈2年〉　拾 シュウ→ゴウ・ガツ(合)　翻 ホン→バン(番)　似 ジ→イ(以)

〈3年〉　袋 タイ→イ(衣)　怠 タイ→ダイ(台)　醜 シュウ→ヒ(卑と鬼とを誤る)

(3)　多く熟語の場合など，その文字の意味，音や構成文字の意味・音などのうち，何かを手がかりにして，任意な読みを試みる。

例〈2年〉　体裁→キュウサイ　罪業→ハイギョウ　仮病→カンビョウ　極楽→ゴラク　柔和→ジュウナン　慰問→ジンモン　絶叫→ゼット

〈3年〉　払底→コウテイ　該当→カクトウ　供物クモツ→コウブツ　詳細→モウサイ

訓読の場合は，送りがな，終止形などによる任意な誤読がいっそう多くなっている。

例〈2年〉　統 すべる→のべる　経 へる→はかる　潔 いさぎよい→きれい　設 もうける→かける　趣 おもむき→すき　快 こころよい→かるい　汚 けがす→よごす　忙 いそがしい→まずしい　施 ほどこす→たくす　怠 おこたる→あやまる　健 すこやか→おだやか　企 くわだてる→たてる　催 もよおす→おす　戯 たわむれる→はなれる　更 さらに→べつに　誉 ほまれ→おのれ

〈3年〉　商 あきなう→うらなう　留 とめる→つとめる　由 よし→さえ　価 あたい→ねだん　字 あざ→うじ　戯 たわむれる→たまむれる　携 たずさえる→そなえる　仰 おおせ→あわせ　恨 うらむ→なやむ　捕 とらえる→つかまえる

これらの中には，意味が近似していて，正しく読めないものもあるが，また，中には，音の場合に見られたように，構成要素のある部分（音符）の読みをも加味した誤読も見られる。

報むくいる→ふくいる(服)　侮あなどる→まいる　欺あざむく→かく

読めない訓とその語義の関係をみた集団調査の女子2の結果では，読めない訓はやはりその語義もあいまい，又は，はっきりしないものが多い。

〈2年〉	商う	唱える	和らぐ	統べる	設ける	率いる	経る	潔い	描く	欺く	携える	募る	戯れる	催す	施す	汚す
読み	×	×	○	×	×	×	×	×	(○)	×	×	×	×	×	×	×
意味	○	△	△	×	△	△	×	△	×	△	×	△	△	△	○	○

<注>　○は正答，△はよくわからない，×は読みでは誤答・無答を，意味では全然わからない，又は誤答を示す。(　)内の○は，集団調査では読字テストを実施していないが，該当時の全数調査の読字結果。

（読めなくても意味はわかるというものは，その訓が，その文字の字音語・熟語の語義に対応していて，しかも，彼女にとって親近性のあるもの，例，商う→商売　施す→実施する　汚す→汚物などの場合である）

3年でも同種の問題を実施したが，2年と共通の「唱える」（よみ×いみ×）「統べる」（×△）「募る」（○×）「戯れる」（×○）や，新しく調べた「報いる」（××）「憤る」（××），「侮る」（△×）「免れる」（〈×〉○）など，2年でみられたと同じような読み対意味の関係がみられた。したがって，日常性の高い読み（語）ではよく読めるが，反面そうでない読み，学習しなかった，あるいは非日常的な読み（語）に対しては，時に意外と思われるような誤読もやってのける場合がある。

女子2の誤読傾向・読字力の不振は，総体的に語彙力の乏しさ，語彙の層の

薄さに関連するところがあることが認められる。

なお，彼女の読みの欠陥を端的に表わしているのが表外字の読みである。表外字は学習しないから，ある意味では読めないのが当然であるともいえるが，彼女の場合男子2についで，はっきりわからない字に対しては，当用漢字の誤読傾向で見られた文字の構成要素の部分をもって代読する読み方，近似した字形による誤読などがあるほか，1字に対し，正しく読めていながら，なお，誤読も並存しているという場合が時々見かけられる。

例〈2年〉　嵐 ○あらし×フウ　柿 ○かき×いち　鳩 ○はと×チョウ
梶 ○かじ×オ

〈3年〉　枕 ○まくら×ショウ　瞳 ○ひとみ×ショウ　梶 ○かじ×オ

全数調査の表外字の場合は，この誤答部分が消されていたりした場合もあったが，集団調査では，時間の関係上，正誤共存しているものがあり，漢字についての知識の低さが示されている。

(書　き)

集団調査2年の書字力関係のテストでは，教育漢字素点60中，51点（8人中3位），教育漢字外当用漢字素点57中26点（8人中4位）で，読みの下位に比べると中位を保っており，全数調査でみたと同様に，読字力に対して，書字力の優位性を示している。

書けない字は，集団調査では，ほとんど字形に関する誤りが多く見られたのは，問題として，比較的ポピュラーな文字を出したので，書くべき文字が想起

例〈2年〉旅(旅)　係(係)　冒(唱)　衆(衆)　補(補)　勤(勤)　尊(尊)　掲(掲)　径(経)　捕(補)　塾(熟)　危(危)　描(描)　触(触)　墳(噴)　旋(施)

〈3年〉補(補)　衆(衆)　儘(備)　底(底)　低(低)　祝(祝)　難(難)　易(易)　妻(妻)　均(均)　張(張)　末(未)　危(危)　捕(補)　捨(捨)　暇(暇)　籍(籍)

<注>　(　)内が正字

しやすいからでもあろうが，なお，女子2の書字における誤答傾向の一面を示

している。その他，教育漢字では，無答は2年で，遺・純のみといたって少なく，同音の誤りでは，2年—写(正答　移)　3年—障(称)　殻(穀)　帆(版)　熟(述)　意(異)と少ないが，教育漢字外当用漢字のほうでは，無答も多く，2年→充獣怠劇汚憤捨欺　3年→充顧倹啓履謹傷衰，また，音や意に関連した誤りも目だっている。

2年→再(催)　個(顧)　順(巡)　暴(冒)　急(忙)

3年→奮(憤)　堀(掘)　儀(宜)

中には2・3年引き続いて同様に無答したり，誤ったりしている文字も見られるが，読みに種々の問題を示しているわりには，ひどい誤り方をしているものは少ない。

全数調査でみられた女子2の特徴は集団調査のほうでも端的に示されているといえる。

2年集団調査の8人の成績順位

問題＼生徒	問1 教育読み	2 教当外読み	3 表外読み	4 教育書き	5 教当外書き	7 特殊訓読み1	〃 2	8 読みと意味	9 特殊音読み1	〃 2	10 読みと熟語
男1	1位	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	5	3	3	6	7	4	5	2	2	3	6
3	2	4	5	8	2	2	4	2	3	3	4
4	4	2	2	7	6	5	2	7	3	2	4
女1	3	6	5	2	3	2	3	4	5	5	6
2	7	7	7	3	4	6	6	4	6	6	2
3	8	8	8	5	5	7	7	6	7	7	7
4	6	4	3	3	—	—	—	—	—	—	2

5)　作文での使用例

書字のほうにすぐれている女子2の文字使用の実態を見る資料として，作文があげられるが，前章「8人像」で見られたように，女子2の作文は1年前期の課題作文のみである。(3年時欠席)　作文の詳細は前章に譲るが，使用漢字を見ると，

点　気　多い　少し　しんけい質　悲しくて々（おどり字の誤用）　短気な
所　母　何　静かに　そんな物　平気　考える　悪い　乗る　気持　人達
家　足一面　赤い　ずい分　毎日　苦しむ　妹　兄　平気　話す　広い

など，教育漢字で，日常生活に多用される漢字は一応正しく使われているが，自分自信(身)，貴重面(几帳面)　理個主義(利己)などの同音による誤用や，組(組)悲(悲)のような誤り字形，あわてて誤ったものか「で来ない」などの誤用もあって，用語が多少かたい表現になると，語の理解が伴なわないためか，まだ正しく漢字を使いこなすことができない。

2.　学習者としての女子2

Iにおけるような漢字習得者としての女子2は，どのような知能・学力・性格の持ち主で，どのような家庭，言語環境に在るかなど，できるかぎり，客観的な情報によって紹介してみよう。

「8人の人間像」がすでに詳述されているので，記述を進める上で，時に「8人の人間像」の一部を再録する場合も生ずるが，多くは該当ページをふまえて（該当ページを参照されたい）考察を加えることにし，ここでは必要部分にとどめておく。

(女子 2)

昭和26年4月3日生
出身校　北区立桐ケ丘小学校（8人中同校からは女子2 が1名のみ）
住　所　北区赤羽町内

(1)　家族構成

父母，兄（電波関係の高校生），妹（小学校5年生），祖母の家族構成で，本人は長女。祖母は女子2が中学1年生の時に死亡。父は会社員，家庭の状況は，順次，好転している。（担当教員からの情報）

(2) 知　　能

学校で実施した教研式知能検査結果

1年（39年4月13日）　偏差値　　45（8人中最低）

2年（40　4　13　）　〃　　49（　〃　）

3年（41　4　13　）　〃　　50（　〃下位から2番め）

国研実施の京大NX9―15知能検査結果

2年（40.12.21）　偏差値　　50（8人中最低）

両者で，両種の検査法によって調べた結果いずれも学級中位クラスの8人中最低であった。漢字習得の面で，知能は女子より高い女子3よりも，優性ではあるが，読みなど，他の学友を抜けないで下位にとどまっていたのは，やはり知能との関係を無視することができない。前章知能と読字力・書字力の相関からも，このことが裏書きされる。

(3) 学　　力

学校の報告から

①国語科の成績

〈1年〉〈2年〉〈3年〉

学期　1 2 3　1 2 3　1 2 3

評価　3 4 4　3 3 3　3 3 3

国語科の成績では中間クラス。

1年中期ごろに比べると，後退気味であるが，3年間，あまり変動が認められない。

②標準学力検査など

国研実施　新標準総合学力検査（国語）(40.12.13)

得点64　偏差値59　評価段階 4　最低ではないが，男子より低い。（素点101）8人中6位，

学校実施〈1年〉教研式学年別標準学力検査（39.10.16）国58　社53　数54

理56　英58

〈2年〉文部省全国中学校一せい学力調査（40. 6.16）国51　社54　数72

理 9　英76

〈3年〉　〃　〃　（41. 6.24）国78　数33　家54

このうち国語は，2年は最低（8人中），1・3年はややよくて，3年では3位になっている。

③学校での成績

学校での成績（通知表）

学年＼教科 / 学期		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保・体	技・家	英語
1　年	1	3	3	3	3	4	4	5	4	4
	2	4	2	3	4	3	4	4	4	4
	3	4	3	3	3	3	4	4	4	4
2　年	1	3	4	4	3	3	4	4	4	4
	2	3	4	4	4	3	4	4	4	4
	3	3	3	3	4	3	4	4	3	4
3　年	1	3	3	3	3	3	4	4	3	4
	2	3	3	4	3	3	4	4	4	4
	3	3	3	3	3	3	4	4	3	4

学校の通知表によると，他教科の成績は特に悪いものも，格別によいものもなく，中間のやや上といえる。英語が3年間を通じて4を保っていることは，語学的な能力があることを示しているかと思われる。国語科はむしろ他教科より低めである。

3年間，国語の指導を担当された吉村先生は，「全教科を通じて，女子の中の上くらい。綿密な思考力・創造力に劣り，家庭学習も忘れることが多い。国語の学習に対して特に努力を注いだとは思えない。」と報告しているが，同時に，「ただ，与えられたことは，ほぼ全面的に受け入れ，着実に学習していた。」と認めてもおられる。

これらの学習能力，学習態度などが，漢字習得とどのように結びついている

かは，判然と断じがたいが，読みよりも書きにすぐれているという特徴の中に，多少の要因となるものが感じ取られる。なお，「国語学力と漢字習得」（前章）との関係からすれば，読字不振・書字優位についても了解することができる。

(4)　身体・性格・行動など

①身　体

学校側からの一般的所見として，「特別に身体的欠陥なし。休みもそれほど多くない，性格も明かるい」としるされている。欠席日数も少ない。3年間調査者として親しくつきあったわれわれの印象としては，1年のころの弱そうな暗い感じがしだいにとれて，3年では，しっかりしたからだつきになってき，慣れたせいか，話しかければ，応答するようになった。なお，漢字の調査時にさしつかえがあって欠席し，あとからテストを受けたこともある。

②性格・行動など

3年時に学校側で行なったP・C・Tによる性格・適応性の診断では，特記するほどのこともないようであるが，性格診断のほうで，情緒や非社会性・反社会性，生活態度などに，やや平常でない面も見えるようである。しかし，適応性診断ではそれほどでもない。ただ，家庭や両親，学校への態度に比べて，教師との関係，社会・集団での個人には，性格診断と結びつく何かがあるようである。また，健康・身体についての診断結果は，われわれの第三者的所見とむしろ合う面があるようである。口数が少なく，一見おとなしそうであるが，読みテストなど一対一での調査では，わからない字でも，すぐあきらめたり，投げだしたり(cf. 男子にはその傾向がある）しないで，調査者に気がねせず時間をかけて考え，なんとか答えようとするねばり強い性質が見られる。調査は8人いっせいに開始，着手されるが，終了の時期は常に女子2・3が遅くなるのも，消却方式を用いたためだけではなく，反応が遅いために時間を要するからである。また，反応の型として，無答より誤答が多かったこと，表外字の調査に正答と誤答とが並存することが多いなどは，こうした性格の反映であろうか。

(行動の記録)

学校側の調べによるものでは，1～3年を通じて基本的な生活習慣，自主性，責任感，根気強さ，自省心，向上心，公正さ，指導性，協調性，同情心，積極性，情緒の安定，すべてB（1年時に，同情心，情緒の安定のみA）である。また，3年間，担当教師の所見としては，「教室では，ほとんど発言しない。しかし，友人同志でのつき合いがよい。はにかみ屋の反面，プライドが高い」という報告もある。

集団調査の中での女子2の行動や，教室内ではほとんど発言しないという女子2にも，彼女だけをとり出してたずねてみると，彼女なりの向上心があることが認められる。このことはあとにふれる3年間の感想にも現われている。

(5) 言　語　生　活

①読　書

文字習得と関係のある読書活動は，資料としては，中学3年時の調べによるが，

〈1年〉	〈2年〉	〈3年〉
あすなろ物語	次郎物語	伊豆の踊り子
ベンハー	吾輩は猫である	花のワルツ
クオレ	嵐ケ丘	三四郎
車輪の下など	若草物語	坊ちゃん
	ハムレット	足ながおじさんなど
	ヴェニスの商人など	

など，ほとんど物語・小説系統のものばかりである。教育漢字外当用漢字や表外字の読める字種の中に，比較すれば文学的な用語に多用される文字が見られたことは，これら読書内容と何らかの関連があるものと思われる。しかしまた，彼女が趣味として読書をあげているが，「むずかしいものは読む気がなくなるので，簡単なものを読んでいる」と答えているので，上のものが，すべて原作ではなく，わかりやすく編集されたいわゆる名作ものが多いと思われる。文章

語的な音訓に弱いのは，少年少女向きに用語・用字もやさしくわかりやすく表現しなおしているものに接しているからではないかと推察される。

雑誌では各学年相当のコースものを，参考書では漢和辞典・国語辞典や「国語完成」を使用していたようであるが，辞典などの利用は，「時々ひく（内省記入，後述）」程度であり，あまり積極的ではないらしく，また，新聞も「ときどき読む」程度で，閲読欄の記入もなく（新聞を毎日読むという男子では，「社会・スポーツ・娯楽・天声人語」などがあげられていた。いずれも読字力が高い），これもあまり積極的ではない。また，「テレビ」でのよくみる番組は「太郎・あしたの家族・真田幸村」と，新旧にわたっているが，テレビを見る時間は1日1時間と，いちばん少ない（男女平均2時間）。さらに映画の鑑賞では1年間の鑑賞回数2回でこれもいちばん少ない（クラスの平均1人3回）。

テレビや映画を多くみることが，漢字の習得を活発にするとはいえないが（マイナスの場合もある），一般に，テレビのテロップや映画の字幕などは漢字に接近する媒体となり，漢字を覚える(特に読み)手がかりになることは，表外字の習得経路によっても明らかであり，この意味において，女子2の文字習得の背景・経路は消極的であり，狭小であると見ることができよう。今回の漢字調査が，学習漢字（音訓）のみを対象としなかったこと，そういう条件下での調査結果として，女子2の習得状況が，書きよりも読みに劣り，しかも，音訓関係に問題があり，また，表外字の習得量が最も少なかったことなどを考え合わせると，物語・小説類に偏した読書活動を除いては，女子2の言語生活は，文字環境として積極的なものであったとは言い難いといえよう。

②読書力について

2年2学期末，国語研究所で実施した二つの読書力検査の結果では，

クローズ式　読書力検査

素点(219点中)152点　読書力偏差値60　評価段階 4　正確度指数69.7　評価段階3

教研式　全国標準総合読書力診断テスト

読速3　読字3　読解4　語い4　総合4　読書学年　中3—3

で，クローズ式では正確度がやや劣るが，一般的な読書力よりはやや高く，総合読書力診断テストでは，中学3年相当の読書力ありと診断される。従来のテスト結果では8人中では下位に近い（書字は別）女子2であるが，この8人は中位級をもって編成されているからで，学級全体としてみた場合は，この標準化の評価相当になるのであろう。また，全国的な標準テストであるから，問題なども特殊なものでなく，一般的なものであるからであろう。主要な文字の読みはできる彼女であった。なお，「総合読書力」で，「読速・読字」が他に比べて3に評価されているのも，習得調査での所見・結果と通じるものがある。

3. 自身の経験

最後に，本人自身の態度・経験・意見をとおして，漢字習得の要因となると思われるものをあげてみよう。

集団調査の中で，漢字習得とかかわりのある諸因子について質問に内省記入させたもの，卒業時の回想問答などによって，本人の経験を知ることができる。

(1) 漢字学習に対する好悪

漢字学習に対しては「あまり好きではない」（3年集団調査）と答えているが，同時に，漢字を覚えることは「やさしく」，読み書きとも「それほどむずかしくない」と答えているので，積極的に好きではないが，漢字学習に対して，嫌悪や負担を感じていないことがわかる。ことに，漢字をおぼえることが「やさしい」と反応したのは，8人中，女子2だけであって，問答による直接の質問に対しても「漢字の勉強は，そんなにめんどくさくないし，覚えるのもいやでない。勉強になった。」（録音資料）と漢字学習への好感の情を述べており，また，集団調査の問いでは，漢字学習について，「大事だと思う。」と，その意義を認めている。したがって，3年間の漢字調査に対しても，「今まで，

本なんか読んでいても，漢字に興味をもたなかったが，ここへ来て，読まされたり書かされたりしたから，漢字に対して興味をもつようになり，漢字に対する見方が変わった。みんなよりたくさん漢字を覚えたと思う。」と回想している。

総体的に漢字力不振であった女子2が，書字力では中位にまで上ったことは，やはり，漢字学習への関心・興味が作用していたと見ることができる。

(2)　漢字に対する関心・態度

日常生活の場で，漢字にかかわりのあることが読み書きともに多くなるが，そうした場合，漢字への関心度はどうか。新聞など，読み方のわからない字は「よくある」が，その時には，「人にたずねたり」，「前後で何となく読んだり」，また「意味はなんとなくわかるのでそのまま過ごして」しまい，読書中のわからない字に対して「あまり気にしない」たちである。女子2が主要な読みでは読めていながら，音訓関係に弱く，また，時に意外な読み方をしているのは，こうしたことと無縁ではなさそうである。（これと対照的なのが，漢字調査で，読み書きともに第1位，大量の習得字をあげている男子1である。彼は，「読み方のわからない字がよくあり」，そのことが，「とても気になる」のであるが，わからない字に対しては，「人にたずねる」とだけ回答されている。

このことは一般的には習得因子としては消極的であるように思われるが，あとで，問答によるほうの回答で，人にたずねるのは，家での自由読書の時であり，学校では，結構積極的に辞書を利用して効果をあげていたことがわかる。なお，彼にとっては「人にたずねる」態度が実に積極的，合目的的で，たずねた結果，その場で覚えてしまうという態度と能力があるように見うけられた。漢字調査のあとでわからない字を質問され，次回は，それが正答できているというケースがしばしばあった。また，読み書きともに順調に習得していった女子1は典型的な学習者型であるが，「読み方のわからない字がよくあり」，「人にきいたり」「前後で何となく読む」ほか，「辞書などもひいて」たしかめ

ている。）

読めない字があることに気づくことが，すでに漢字への関心の現われ（読字力の最も劣っている女子3にとっては「読めない字はときどきある程度」なのである）であるが，それに対処する態度・習慣が，基本的な漢字学習をささえ，さらに漢字力を高める一つの鍵になっていることがわかる。彼女の3年間の漢字調査に対する前記の感想は，この原則を体験として感じ取ったものといえる。

(3) 漢字の使用

学習した漢字を使用するという習慣・態度に乏しいのが一般であるが，女子2は作文や手紙など実際に書くことの活動の中で「知っている漢字はなるべく書く」ようにしている。（前掲実際の作文では漢字使用数は少ないが）ここにも彼女が書字に優位性があったことの遠因があるように思われる。

(4) 辞書の利用

辞書の利用は，漢字力を身につける一つの方法といえるが，女子2は漢字の辞書を「持ってはいる」が，その利用状況は「ときどき使う」程度で，あまり積極的ではない。もっとも，部首・総画・音訓の三つの索引方法を利用していると答えているので，辞書の利用に無縁でないことはわかる。

(5) 漢字学習のくふう

漢字に対する関心が育ってきた女子2は，漢字学習へのくふうをどのようにしたであろうか。「学校で漢字テストをすると，よい点をとりたいと思って勉強したり，練習したりした。1・2年の時はよくしたが，3年の時はあまり漢字のテストをしなかったので，つまらなかった。（中略）学校で，もう少し漢字のテストなどをしてほしい」というのが彼女の意見である。これは漢字学習のくふうというより，テストの成績をあげるために勉強・練習をし，その結果，漢字の力がつくという因果関係の学習方法で，主体的な学習態度・方法とは言

い難いが，それでもこれをくり返しているうちに，いつのまにか漢字の読み書きができるようになるという学習状況である。したがって，漢字の基本的な勉強というより，習った漢字の読み書きのくり返し練習が中心となったと思われる。主要な漢字の読みや書字の成績がよいのは，その一つの現われであろう。

具体的な文字を示し，漢字を覚える手がかりをたずねた集団調査の一連の質問に対し，（2年）〔清〕という字が，水に関係のある文字であること，氵偏と音セイとから成り，意味は清いという文字の知識・構造は知っていたが，「持と待」「増と贈」「議と儀」の一対の同音文字については，「持・待・増・議」の4字の読み書きができただけで，これらの文字の偏や意義に関する区別はあげることができなかったという程度であった。

（3年）同じく3年では，漢字をおぼえる手がかりとして，(1) 意味全体 (2) へん・つくりからと，文字としての構成を知り，ひとかどのくふうがあるかにみえたが，読みや書きの場合の手がかりはあげておらず，具体例として示した，漂う（読み）霧・翼（書き）は，ただ「おぼえていた」とのみで，全般的に消極的である。

学習のくふうは別として，最後に自分の中学生としての漢字学習を振り返って，将来の漢字学習への要望に対する意見・感想を書かせたところ，「授業で時々漢字の書き取りの試験をやってほしい」と，ここでも問答の場合と同じ回答が得られた。

学校でのテストが，否応なく学習行動を起こさせ，その結果漢字の力がつく。女子2の3年間の漢字学習の経験から，この平凡な方法に落ち着いたようであるが，多くのものが，同様の経験・主張をもっている。

知能・学力・性格・家庭環境・言語生活など，いずれも，とりたてていうほどのこともない女子2にとっては，教師の指導による学習を中心としながら，上来見てきたような習得過程をとってきたことがわかる。

今まで見てきた習得の因子と思われる諸要因が，どのような力関係で，女子2の漢字習得の上にかかわり合ったかを数字に示して速断するというようなことはできないが，それらのいずれもが，遠因・近因として作用したことも認め

ずにはいられない。同一の教科書，同一の指導によっても，受け手としての学習者によって，漢字習得の状況・実態が，おのずから異なることを，女子2をとおして，改めて知ることができる。　（芦沢　節）

第5編

漢字学習指導の実態に関する調査

1. 調査の目的

この調査は，「中学生の漢字習得に関する研究」の一環として，

① 中学校の漢字学習指導は実際にどのように行なわれているのか。

② 実践の場にある先生方は，漢字学習指導についてどうあるべきだと考えているか。

③ 指導上の問題点はどんなところにあるのか。

などについて，全国的な規模においてその実態を少しでも明らかにし，中学校漢字学習指導の改善に資そうとするものである。

2. 調査の方法

調査は質問紙法によった。質問は主として選択肢法で行ない，不足のところは自由に記入してもらうようにした。

質問紙による調査は，結果として意見調査的な性格をおびやすいので，質問の作成にあたって次のような点に特に留意した。

① 事実と意見とをはっきり区別して答えてもらえるようにすること。

② 事実については，昭和41年度に実施したことを中心に記入してもらうこと。

③ 学校または地域の代表としてではなく，国語科教員のひとりという立場で答えてもらうこと。

3. 調査の内容

調査に含めた質問事項のあらましは次のとおりである。

質問 1　学校の環境と国語科学習指導

a　学校の地域環境

b　学校の全学級数

c　国語科教員数（専任・兼任の別）

d　毛筆習字の指導担当者

e　国語科の受持ち時間

f　e以外の校務

質問 2　漢字学習指導の方法

a　教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程

b　教科書以外の漢字のとりたて指導

質問 3　漢字学習指導の内容

a　熟語指導の場合の漢字一字一字の意味の指導

b　当用漢字の指導での，音訓表外の読みの扱い

c　教科書による授業で，取り出して指導している漢字

d　cの場合，音訓の指導

e　筆順指導

f　作文の中での漢字指導

g　漢字を正しく書くような態度化についての指導

h　部首の知識を利用した漢字の指導

i　部首についての指導事項

j　語構成についての指導

k　他教科へのサービスを意識した指導

l　国語科以外の教科での漢字の学習指導

質問 4　その他の指導

a　辞書指導（漢和辞典）

b　副教科書，ワーク・ブック

c　家庭学習

d　特別に行なつている漢字の学習指導

質問 5　漢字学習指導に対するあなたのご意見

a　中学校卒業までに身につけさせたい漢字力は？

b　漢字学習指導のあるべき姿について

c　漢字学習指導の観点からの小学校への要望事項

4.　調査地域・実施の時期・回収率など

(1)　調査地域

調査は全国的な規模で行ない，その中を

A　県内の全公立中学校の国語科教員（1学校1名ずつ）に回答を依頼した地域（神奈川・千葉・青森の3県）

B　教育委員会等を通じて，県内から5～6名（東京は10名ぐらい）の中学校国語科教員の推薦を願い，そこで推薦された人々に回答を依頼した地域（上記3県と，推薦のなかった埼玉・島根・徳島の3県とを除く40都道府県）

Aは，悉皆調査に近い形でその地域の漢字学習指導の実態に迫ることをねらいとした。また，神奈川・千葉・青森の三県の選定については，一応の基準として過去3か年間の高校進学率を考え，全都道府県を上・中・下の三つにグルーピングした中からそれぞれ選んだ。

Bは，全国的な状況を把握することを主眼とし，どちらかといえば，国語科学習指導に熱心である人の漢字学習指導の実態に迫ることをねらった。推薦依頼のときに，あらかじめ，ある程度このような意味をこめた依頼をしておいた。

Aの場合も，Bの場合も質問紙は同一のものを用いたが，回答内容には両者の間にいくらかの相違が見られるようである。（便宜上，以後，Aの場合をA地域，Bの場合をB地域とよぶことにする）こういうわけで，整理・集計はA地域・B地域に分けて進めた。

(2)　実施の時期

調査実施の時期は次のとおりである。

A地域

神奈川県　昭和41年12月～42年1月

千葉県　昭和42年2月

青森県　昭和42年2月

B地域

全域同時　昭和42年2月～3月

(3) 回収率

依頼（発送）部数，回収部数，回収率は次の表のとおりである。

A地域

県名	発送部数	回収部数	回収率
神奈川	225	118	52.4%
千葉	267	131	49.1
青森	307	188	61.2
計	799	437	54.7

B地域

県名	発送部数	回収部数	回収率	県名	発送部数	回収部数	回収率
1 北海道	6	4	66.7%	12 富山県	6	4	66.7%
2 秋田県	6	5	83.3	13 石川県	6	4	66.7
3 岩手県	1	1	100.0	14 福井県	6	5	83.3
4 山形県	6	6	100.0	15 長野県	6	5	83.3
5 宮城県	6	6	100.0	16 山梨県	6	5	83.3
6 福島県	6	6	100.0	17 静岡県	6	6	100.0
7 栃木県	6	6	100.0	18 岐阜県	6	6	100.0
8 茨城県	6	4	66.7	19 愛知県	8	7	87.5
9 群馬県	6	5	83.3	20 滋賀県	6	3	50.0
10 東京都	13	10	76.9	21 京都府	6	5	83.3
11 新潟県	6	5	83.3	22 大阪府	8	6	75.0

23 奈良県	6	5	83.3%	33 愛媛県	6	6	100.0%
24 和歌山県	6	5	83.3	34 福岡県	5	5	100.0
25 三重県	6	6	100.0	35 長崎県	5	4	80.0
26 岡山県	6	6	100.0	36 佐賀県	6	5	83.3
27 兵庫県	6	6	100.0	37 大分県	6	5	83.3
28 鳥取県	6	5	83.3	38 熊本県	6	5	83.3
29 広島県	6	6	100.0	39 宮崎県	6	6	100.0
30 山口県	6	6	100.0	40 鹿児島県	5	3	60.0
31 高知県	6	3	50.0	計	243	206	84.8
32 香川県	6	5	83.3				

この調査を行なうにあたって，直接回答者として御協力くださった643名の先生方，ならびに回答者推薦の労をおとりくださった各都道府県教育委員会のかたがたの御厚意にあつく御礼を申しあげる。

また，次のかたがたには，種々の面で格別のご協力をたまわった。ここにしるして，心から謝意を表する。(官職名は調査実施当時のもの)

飯塚正八　青森県教育委員会指導課長
伊藤秀雄　千葉県教育委員会指導課長
岩淵寛二　青森県指導主事
大山正幸　神奈川県中学校国語教育研究会長
寒川英希　文部省特殊教育課長
鈴木康之　東京成徳短期大学専任講師
須藤久幸　神奈川県指導主事
田島　均　富山県派遣国立国語研究所留学生
戸川　昂　千葉県指導主事

5.　調査事項と結果の概要

以上，この調査に含めた質問事項と調査の結果について，考察を加えながらそのあらましを報告する。

なお，以下の記述の中での数字については，

① 各質問事項のあとに二つずつ示した数字はいずれも百分率（項目によっては平均値）で，それぞれ，前者はA地域について，後者の（ ）で示した数字はB地域についての百分率を表わしている。

② 項目によっては二つ以上の選択肢に○印がつくものがある。この場合には，その事項に関するパーセンテージの和が100を越えている。

③ 項目によっては，その事項に関するパーセンテージの和が100になってよいはずであるのに100に満たないものがある。この場合の差は「無答」による。

というようになっている。

質問 1　学校の環境と国語科学習指導

a　あなたの現在の学校の地域環境（二つにまたがっている場合は，その両方を囲む）

1. 住宅市街 18.8(28.2)　2. 商業市街 9.2(17.0)　3. 工業市街 4.3(6.8)　4. 鉱業市街 0(1.5)　5. その他の市街 3.2(6.8)　6. 小都市 7.1(17.5)　7. 都市近郊農村 15.8(17,5)　8. 普通農村 24.7(18.0)　9. 農山村 19.0(14.1)　10. 農漁村 12.6(17.5)　11. 漁村 4.1(0.5)　12. 鉱山 0.2(0.5)　13. 山村 3.0(1.9)　14. その他 2.7(1.9)

地域類型は14に分けてあるが，これは原則的に，文部省が行なってきた学力調査の分け方に準じた。しかし，住宅市街とはかくかくしかじかの地域をいうというような形での定義は行なっていない。そして，回答者の属する学校がどの地域類型に属すると見るかは，回答者の判断にゆだねた。このような分類結

果では，A地域は別として，B地域については，文部省の学力調査でサンプリングされた地域類型の割合に比べて，都市的傾向がいくらか強いようである。

b　あなたの現在の学校の全学級数

12.5（19.8）学級

c　あなたの現在の学校の国語科教員数

1.　専任者　2.2（3.5）名

2.　兼任者　1.7（1.7）名

d　あなたの現在の学校の毛筆習字担当者

1.　国語科教員全員で指導　29.7（23.3）

2.　国語科教員のうちの一部で指導　43.5（56.3）

3.　国語科以外の教員が指導　23.8（24.8）

4.　特別の非常勤講師を依頼　1.1（1.9）

5.　校長または校務主任が指導　6.9（2.9）

e　あなた自身の現在の国語科のうけもち

一年生　1.2（1.3）学級　43.7（53.8）名
二年生　1.2（1.4）学級　43.3（55.7）名　} 総時間数　1週17.5（21.0）時間
三年生　1.6（2.2）学級　53.8（91.8）名

bからeまでの回答の結果は上記のとおりである。「あなたの現在の学校の全学級数」を見ると，A地域の平均が12.5学級，B地域が19.8学級となっている。『日本統計年鑑』（昭和42年版）によると，昭和41年5月における日本の中学校の1校あたりの平均学級数は11.8である。したがってこの面から見た場合，A地域の平均がほぼ日本の平均に等しいと言える。B地域はこの点からもやや都市的性格の強い地域であると判断される。

dの「あなたの現在の学校の毛筆習字担当者」という項は，毛筆習字が漢字学習に多少かかわりがあると見て，その指導をだれが担当しているかを聞いたものである。その結果は，「国語科教員全員で指導」するというのが意外に低く，29.7（23.3）％であった。半面，「国語科以外の教員が指導」23.8(24.8)％というのが注目される。また,「校長や校務主任が指導」する場合もあるよう

である。回答結果から判断すると，毛筆習字は“国語科教員のうち得意なものが指導することが多いが，校長まで含めて，とにかく得意な者が指導する。場合によっては特別の非常勤講師を依頼して行なうこともある”ということになる。

f　あなた自身の，その他（e以外）の校務分掌

国語科教員として国語科の授業を行なうという主たる業務のほかに，どのような校務を分掌しているかを尋ねたものである。

結果を見ると，教務主任，学年主任，図書館主任，国語科主任，研究指導主任，ＰＴＡ会計係，校内カウンセラー，生活委員会顧問，学校警察連絡協議会担当……などなど，Ａ・Ｂ両地域とも数十種に及ぶ分掌業務があげられている。そしてひとり１業務ということはほとんどなく，だいたいにおいて２～４種のｅ以外の校務を分掌しているようである。Ａ地域およびＢ地域のひとり当たりの分掌数はそれぞれ2.6（3.1）である。

質問 2　漢字学習指導の方法

a　教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程

教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程の例として，つぎのようなものを考えました，あなたの場合，実際にはこれがどうなっているでしょうか。例にならってお書きください。

（例）
① 教科書の読みをとおしての正確な音声化(A)
↓
② 文章中での文脈的理解(B)
↓
③ 摘出しての語句単位での理解(C)
↓
④ 分解による文字単位での理解(D)
↓
⑤ 応用的，発展的理解と練習(E)
↓
⑥ 練習による態度化(F)

（記入欄１）

上の例をごらんになって，あなたの場合は，つぎのどれでしょうか。

イ　内容順序とも例と同じ　54.7(53.4)

ロ　内容はほぼ同じになるが，順序がちがう　35.7(35.4)

この場合は，A，B……の記号で，その順序を下にお書きください。

ハ　例とは違った指導過程をとっている　7.8(11.2)

この場合は，(記入欄2)にお書きください。

(記入欄2)

①(　　)
↓
②(　　)
↓
③(　　)
↓
④(　　)
↓
⑤(　　)
↓
⑥(　　)
↓
⑦(　　)

中学校の漢字指導では，どのような指導過程がとられているのか。各人各様で類型化がむずかしいものなのか，それとも，おのずとある一定の型ができているものなのか。このような点を知るべくこの質問を設けた。この目的のためには，記入者が自分の授業を分析してその結果を自由に書きこむというようにしたほうがよかったかもしれない。しかし，そのようにした場合，どの程度の詳しさで過程を考えればよいのかなど，記入上の混乱が生じるおそれがあること，また記入結果の分類整理等に関する当方の能力なども考えて，ここではその方法をとらなかった。そして，一つの指導過程を例として示し，記入者の場合例と同じか違うか，違うとすればどこがどう違うかをはっきりさせていくという方法をとった。

その結果，例示した指導過程は，A地域，B地域ともに50%を越える割合で採られていることがわかった。そしてロの，「内容はほぼ同じになるが，順序がちがう」というのが両地域とも35%台を示している。したがって，イ，ロを合わせて考えた場合，いわば，例示した指導過程を原則的に採用している割合はA地域90.4%，B地域88.8%ということになる。

もっとも，ロの場合，その組み合わせはいろいろであって，一定の傾向性と

いうものは容易に見いだせない。その中で，比較的まとまりのある組み合わせはA→C→D→B→E→Fである。つまり，「文章中での文脈的理解」を「摘出しての語句単位での理解」→「分解による文字単位での理解」のあとに位置づけたものである。その割合はA地域9.8%，B地域7.8%である。この型を別言すれば，新出語彙，新出漢字などの取り立て的指導を通読段階の次に位置づける場合かと思われる。

あとは，A→C→B→D→E→F（A地域4.3%，B地域9.2%），A→D→C→B→E→F（A地域2.7%，B地域2.4%）が多少まとまりを示しているだけで，残りは各種各様である。

また，ハの「例とは違った指導過程をとっている」というのは，A地域 7.8%，B地域11.2%である。調査票が回収される以前の段階の予測では，この欄に記入されるケースがもっと多くなると思っていたが，事実は予測よりずっと少なかった。そして，記入された過程のほとんどは，例示したＡＢＣＤＥＦの中のどれかを省いた方式，またはＡ～Ｆまでのうちのどれかの内容を多少変えたもので占められている。その他のものとしては，「単元にはいる前に，主要漢字について家庭学習として調べさせる」をＡの前に位置づけているもの，「ノート検査」「テストによる定着度の評価」をＦのあとに加えたものなどが見られた。

以上のような次第で，例示の指導過程，またはそれに近い指導過程をとる場合が圧倒的に多いということがわかった。しかし，中には，例が示されていたために，記入の際，それに影響されたというケースがあるかもしれない。

なお，例示した指導過程は，質問紙作成の際新しく作ったものではなく，『国語指導法事典』（明治図書，昭和37年刊）の中ですでに提示されていたものによった。

b　教科書以外の漢字の取り立て指導

1.　教科書の読解の場合以外の漢字の学習指導

教科書の読解の場合に指導する以外に，次のような指導をしているでしょうか。

イ　主として教科書で習ったものの練習学習

（i）　その教材なり，単元なりが終わったところでの練習学習　75.7(80.6)

（ii）　1週間に何回かの特別の時間をきめての練習学習　13.3(13.6)

（iii）　ある時，まとめて（期末，その他）の練習学習　15.8(20.4)

ロ　教科書と関係のない，ワーク・ブック，テスト・ブックなどを使っての練習学習

（i）　している　54.0(50.0)

（ii）　していない　39.6(44.2)

ハ　自分で組み立てたり，あるいは，何かの参考書を利用して作ったりの，漢字についての知識や技能を増すための特別なレッスン

（i）　している　37.8(50.5)

（ii）　していない　49.9(44.7)

「取り立て指導」ということばの意味は一義的でない。ここでは「教科書の読解の場合以外の指導」という意味で扱った。

イは「主として教科書で習った漢字の練習学習」をいつ，どんな機会にしているかをたずねたものである。そして(i)(ii)(iii)は独立した事柄であるので，(i)を選んだら(ii)(iii)を選ぶことができないというものではない。同一の回答者が(i)(ii)(iii)の全部に○印をつける場合もありうる性質のものである。

結果は，(i)の，ある教材なり単元なりが終わったところで漢字の練習学習を行なうというのが最も多く，A地域75.7%，B地域80.6%である。この方法は，教材なり，単元なりの学習のまとめの一部としての性格があるので，多くの人に広く実践されているのではないかと思われる。

ロは，“教科書と関係のない，ワーク・ブック，テスト・ブックなどで，内容として漢字だけのもの，または漢字を含むものを使っているかどうか”をたずねたものである。その結果は“使っての練習学習をしている”という反応がA・B両地域それぞれ54.0%(50.0%)で，半数が使用していることがわかった。

しかし，この質問は「教科書と関係のない……」であるから，教科書に関係

ある（付属したもの）をいれると，この使用率はもっと高くなるはずである。昭和38年度に国語研究所が行なった「中学校国語科学習指導の実態調査」の結果によると，「教科書に付属するワーク・ブックを使っている」が，都会（東京・横浜）地で35.2%，東京・横浜を除く全国的地域で54.3%と報告されている。したがって，この比率が42年の段階でもそれほど変わらないものとするならば，全国的に見て80～90%ぐらいが，ワーク・ブック，テスト・ブックなどを使用しているものと推定される。

ロは主として市販されているものによることになるが，ハではさらに突っこんで個人的な努力，くふうによる面をたずねようとした。したがって，質問も「自分で組み立てたり，あるいは，何かの参考書を利用して作ったりの，漢字についての知識や技能を増すための特別なレッスン」というふうにした。

その結果を見ると，「している」がA地域37.8%，B地域50.5%となっている。B地域では，回答者の半数を越える人々が行なっているのに対し，A地域ではその数が4割に満たない。これはおそらく，B地域での回答者が概して漢字教育に熱心である人々であるということによるものと思われる。その意味では，A地域の37.8%というのが，全国的な平均値により近いのではないだろうか。

2.　テストの時機，ソース，略字・旧字の処理

イ　漢字のテストは，どういう時機に行なっているでしょうか。

（i）　毎週行なっている　20.4(16.5)

（ii）　小単元が終わったところで行なっている　43.0(43.7)

（iii）　単元の終わったところで行なっている　21.5(25.7)

（iv）　その他　25.4(34.5)

テスト実施の時機は以上のような結果である。このうち(iv)の「その他」の中では

・毎時間（おそらく国語科の時間という意味であろうと思われる）5分～10分間の小テストを実施している　6.8(5.8)

・朝自習の時間に5分～10分の小テストを実施している1.1　(5.3)

などが比較的まとまりのあるものとしてあげられている。また，「毎月1回」「毎日放課後に」「毎学期1回」……などなど，「その他」のところではいろいろなくふうが見られる。

ロ　テストに出す漢字のソース

（i）　教科書に提出されている漢字の中から　86.7(85.9)

（ii）　教科書以外の教材の中から　11.0(9.2)

（iii）　当用漢字の中から　19.9(26.7)

（iv）　当用漢字以外の漢字から　3.7(1.5)

（v）　その他　5.3(11.2)

テストに出す漢字のソースについて，教科書と教科書以外の教材，当用漢字と表外漢字という観点で質問した。その他の観点もあり得るとして「その他」の項を加えておいたが，これは蛇足に近く，回答者を混乱させることになってしまったようである。「その他」の欄への回答の大部分は(i)(ii)(iii)，ことに(i)と(iii)に還元される性質のものであった。しかし，上記の数字にはこの点の修正をしていない。

「当用漢字以外の漢字から」というのが，A域地で3.7%　B地域で1.5%ある。この漢字がどういう漢字なのかはわからないが，人名・地名などに関するものが多いのではないかと想像される。

ハ　答案に，略字・旧字体の漢字が出てきた場合の処理はどうしていますか。

（i）　略字（　　）

（ii）　旧字体（　　）

「略字」については，「認めない」「不可とする」などとだけ記入された回答が少しはあるが，

「採点する場合は誤答として処理するが，そのとき，正字を添書するか，あるいは事後に指導するなどしている。」

というのが大部分である。

また，「旧字体」の処理についてもほぼ同様で，A・B両地域とも大別し

て，

①　正答として許容するが，あとで新旧字体について説明する。

②　誤答として処理し，あとで全体指導を行なう。

のいずれかに属する仕方で行なわれている。①と②とは約半々である。なお，旧字体の処理では①②のほかに，「答案に旧字体の漢字が出てきたことがない（のでなんとも言えない）」という回答がある。これは割合多く，A地域17名(8.3%)，B地域65名(14.9%)にのぼっている。①②の場合でも，実際に処理しなければならないことはめったにないという注つきのものが多い。このようなことから判断すると，現在の中学生で旧字体の漢字を使ったりする者はほとんどいないと考えてよさそうである。

質問 3　漢字学習指導の内容

a　漢字一字一字の意味の指導

熟語の指導の場合，その語を構成している漢字の一字一字の意味を指導しているでしょうか。

1. 一字一字の意味の指導が，その語の理解に必要と判断したとき指導している。　68.0(69.4)
2. 語としては指導しているが，一字一字の意味にはふれない。6.6(1.9)
3. その熟語が音よみの熟語で，一字一字の意味の指導がその語の理解に必要と判断したときに指導している。23.6(32.5)
4. 指導するかしないかは，その時の事情による。13.3(7.3)
5. その他　4.6(8.3)

漢字一字一字の意味について指導するのは，一般には，語彙指導の必要上からである場合が多いのではないかと思われる。そこで，語彙，ことに熟語の指導の際，どういうときに漢字一字一字が持つ意味にふれているかをたずねたのがこの質問である。

b　当用漢字の音訓表外の読みの指導

当用漢字の指導で，音訓表に示された以外の読みにふれることがあるで

しょうか。

1・　ふれたことがある。44.2(69.4)

あるとすれば，それはどんな漢字の場合でしたか。できれば，それらの漢字をいくつかお示しください。

（　　）

また，その理由としては，どんなことが考えられるでしょうか。

（　　）

2.　ふれたことがあるように思う。40.3(20.9)

2.　ふれたことはない　14.2(8.7)

音訓表外の読みについては，上記のとおりである。「ふれたことがある」「ふれたことがあるように思う」を合わせると，A・B両地域とも，それぞれ84.5%(90.3%)という高率を示している。

このうち「できれば，その漢字をいくつかお示しください」に対して例示してくれた人は，

A地域　174人

B地域　136人

である。これは，「ふれたことがある」と答えた人の，

A地域　174/193＝90.2%

B地域　136/143＝95.1%

にあたる。

例示された文字とふれられた読みについては，両地域とも共通した面がかなりあるようである。ここでは，B地域での指導例について，表にして示してみる。A・B両地域全体のものは（参考）IIを参照されたい。

〈注〉①　表中 1～129 番までの漢字は2人以上が指導した字。配列は頻度順。

②　漢字のすぐ右側のかなは，音訓表での読み。

③　右端のかなは，指導した表外の音や訓。

④　右端空欄は，どのような読みを指導したのかが不明なもの。

⑤　熟字訓と見られるものでも，漢字が単独でしか示されていない場合はここに含めた。

（表1）　当用漢字音訓表外のよみの指導例(B 地域)

1	魚	ギョ うお	さかな
2	父	フ ちち	とう
3	尊	ソン たっとい	とうとい
4	母	ボ はは	かあ
5	入	ニュウ いる	ジュ はいる
6	汚	オ けがす	よごす
7	緒	ショ お	チョ
8	歓	カン	よろこぶ
9	御	ギョ・ゴ おん	お・み
10	悪	アク わるい	オ
11	達	タツ	タチ・ダチ
12	懐	カイ	ふところ なつかしい
13	私	シ わたくし	わたし
14	体	タイ・テイ	からだ
15	遣	ケン	つかわす
16	燈	トウ	ドン ひ
17	昇	ショウ	のぼる
18	鮮	セン	あざやか すくない
19	在	ザイ	ある
20	厳	ゲン・ゴン	きびしい
21	己	キ・コ	おのれ
22	緩	カン	ゆるやか
23	観	カン	みる
24	傍	ボウ	かたわら
25	挙	キョ	あげる
26	家	カ・ケ いえ・や	うち
27	脚	キャク	ギャ あし
28	棄	キ	すてる
29	為	イ	ため
30	頭	トウ・ズ あたま	ジュウ かしら
31	就	ショウ・ジュ	つく なかんずく
33	謹	キン	つつしむ
33	街	ガイ	まち
34	硬	コウ	かたい
35	憩	ケイ	いこう
36	究	キュウ	きわめる
37	渇	カツ かわく	
38	故	コ	ゆえ
39	閑	カン	
40	奴	ド	やっこ
41	塊	カイ	かたまり
42	殴	オウ	なぐる
43	程	テイ	ほど
44	時	ジ とき	ト
45	諭	ユ	さとす
46	候	コウ	そうろう
47	除	ジョ のぞく	ジ
48	空	クウ そら	から
49	角	カク つの	かど
50	愛	アイ	めでる え
51	永	エイ	ながい
52	翁	オウ	おきな
53	恭	キョウ	うやうやしい
54	美	ビ うつくしい	ミ うるわしい
55	傑	ケツ	
56	禍	カ	わざわい
57	看	カン	みる
58	慮	リョ	おもんばかる
59	秀	シュウ	ひいでる
60	華	カ	はな
61	転	テン	ころぶ
62	勉	ベン	つとめる
63	依	イ・エ	よる
64	技	ギ	わざ
65	跳	チョウ	とぶ
66	自	ジ・シ みずから	おのずから

67 香 コウ / か　かおる
68 暫 ザン　しばらく
69 致 チ　いたす
70 樹 ジュ　き
71 漸 ゼン　ようやく
72 斉 セイ
73 壊 カイ　こわす
74 徐 ジョ　おもむろ
75 寂 ジャク / さびしい　セキ
76 記 キ　しるす
77 独 ドク
78 如 ジョ・ニョ　ごとし
79 即 ソク　すなわち
80 垂 スイ　たれる
81 兵 ヘイ　つわもの
82 建 ケン / たてる　コン
83 立 リツ / たつ　リュウ
84 園 エン / その　オン
85 乙 オツ　イツ・オト
86 兄 ケイ・キョウ / あに
87 遺 イ・ユイ　のこす
88 伐 バツ　きる
89 後 ゴ・コウ / のち・うしろ　あと
90 崩 ホウ　くずれる
91 想 ソウ
92 囚 シュウ　とらえる
93 易 エキ・イ　やすい
94 奇 キ
95 文 ブン・モン　ふみ・ふ
96 乾 カン　かわく
97 稚 チ　おさない / わかい
98 詠 エイ　よむ
99 普 フ
100 白 ハク・ビャク　しら / しろ・しろい
101 地 チ・ジ　つち
102 悦 エツ　よろこぶ
103 慶 ケイ　よろこぶ
104 魅 ミ　ひく
105 貢 コウ　みつぐ
106 指 シ / ゆび　ゆびさす
107 烈 レツ　はげしい
108 酷 コク　むごい
109 拡 カク　ひろげる
110 女 ジョ・ニョ / おんな　め
111 生 セイ・ショウ / うまれる・い / き る・き・なま　はえる
112 糧 リョウ　かて
113 宣 セン　のべる
114 括 カツ　くくる
115 処 ショ
116 併 ヘイ　あわせる
117 部 ブ
118 亡 ボウ　ほろびる
119 遭 ソウ　あう
120 唯 ユイ
121 滑 カツ　なめらか
122 殺 サツ・サイ / ころす　セツ
123 赴 フ　おもむく
124 薪 シン
125 来 ライ / くる　きたる
126 験 ケン　ためす
127 后 コウ　きさき
128 副 フク　そう
129 隠 イン / かくれる　オン

（2人以上）

130 亜 ア
131 扱 あつかう
132 印 イン / しるし
133 宴 エン

134 憶 オク
135 奥 オク・オウ
136 下 カ・ゲ おろす
した・しも・
くだ・さげる
137 雅 ガ
138 餓 ガ
139 怪 カイ
あやしい
140 慨 ガイ なげく
141 外 ガイ・ゲ
そと・ほか
142 較 カク くらべる
143 活 カツ
144 寛 カン
145 勧 カン
すすめる
146 患 カン わずらう
147 官 カン ガン
148 還 カン ゲン
149 環 カン
150 陥 カン
おちいる
151 巻 カン ケン
まく
152 眼 ガン め
まなこ
153 希 キ
154 擬 ギ
155 宜 ギ
156 却 キャク かえる
157 虐 ギャク しいたげる
158 拠 キョ・コ よりどころ
159 享 キョウ うける
160 京 キョウ・ケイ キン
161 業 ギョウ・ゴウ わざ
162 極 キョク・ゴク
163 遇 グウ
164 偶 グウ
165 屈 クツ かがう
166 勲 クン いさお
167 薫 クン かおる
168 啓 ケイ もうす
169 検 ケン
170 研 ケン とぐ
171 顕 ケン あらわす
172 懸 ケン・ケ
173 現 ゲン うつつ
あらわれる
あらわす
174 湖 コ うみ
みずうみ
175 弧 コ
176 護 ゴ
177 康 コウ やす
178 幸 コウ さち
さいわい
179 孔 コウ あな
180 肯 コウ うべなう
181 慌 コウ
181 坑 コウ あな
183 谷 コク ヤ
たに
184 詐 サ
185 唆 サ
186 裁 サイ さばく
187 際 サイ きわ
188 歳 サイ・セイ とし
189 搾 サク
190 擦 サツ さする
191 惨 サン
192 産 サン うぶ
うむ
193 賛 サン たたえる
194 視 シ
195 姉 シ
あね
196 支 シ
197 師 シ
198 止 シ
とまる(とめる) やむ
199 詞 シ ことば
200 市 シ まち
いち
201 辞 ジ ことば
202 慈 ジ いつくしむ

203 滋 ジ
204 疾 シツ
205 赦 シャ ゆるす
206 邪 ジャ よこしま
207 朱 シュ あけ
208 首 シュ こうべ
209 主 シュ・ス ぬし あるじ
210 守 シュ・ス まもる もり
211 周 シュウ
212 出 シュツ・スイ でる・だす いずる
213 瞬 シュン
214 盾 ジュン たて
215 初 ショ はじめ・はつ・はじめて そめる
216 諸 ショ もろ
217 小 ショウ ちいさい・こ・お さ
218 奨 ショウ すすめる
219 昭 ショウ
220 笑 ショウ わらう え
221 掌 ショウ たなごころ
222 丈 ジョウ たけ
223 殖 ショク
224 食 ショク・ジキ くう・たべる はむ
225 辱 ジョク はずかしめる
226 心 シン こころ ここ
227 診 シン みる
228 数 スウ かず・かぞえる ズ
229 随 ズイ
230 夕 セキ ゆう ゆうべ
231 績 セキ
232 拙 セツ つたない
233 潜 セン
234 専 セン もっぱら
235 薦 セン すすめる
236 早 ソウ はやい(はやめる・はやまる) さ
237 創 ソウ はじめる
238 双 ソウ
239 奏 ソウ かなでる
240 他 タ
241 堕 ダ おちる
242 怠 タイ おこたる なまける
243 代 ダイ かわる(かえる)よ しろ
244 探 タン さぐる さがす
245 淡 タン あわい うすい
246 炭 タン すみ す
247 弾 ダン たま
248 男 ダン・ナン おとこ お
249 遅 チ おくれる おそい
250 茶 チャ
251 抽 チュウ
252 中 チュウ なか あたる
253 朝 チョウ あさ あした
254 聴 チョウ きく
255 徴 チョウ
256 兆 チョウ きざし
257 勅 チョク みことのり
258 鎮 チン しずめる
259 津 つ
260 停 テイ
261 滴 テキ
261 点 テン ともす
263 怒 ド いかる おこる
264 闘 トウ
265 到 トウ たおれる いたる
266 東 トウ ひがし あずま
267 騰 トウ あがる
268 唐 トウ
269 悼 トウ
270 篤 トク あつい
271 得 トク える うる

272	匿	トク	かくす
273	読	ドク・トク よむ	トウ
274	難	ナン かたい	むずかしい
275	軟	ナン	やわらかい
276	乳	ニュウ ちち・ち	ジュ
277	寧	ネイ	むしろ
278	廃	ハイ	
279	箱	はこ	
280	繁	ハン	しげる
281	畔	ハン	あぜ
282	反	ハン・タン	ホ
283	判	ハン	
284	碑	ヒ	いしぶみ
285	非	ヒ	
286	微	ビ	
287	病	ビョウ やむ・やまい	ベイ
288	扶	フ	
289	夫	フ おっと	フウ
290	偏	ヘン	かたよる
291	豊	ホウ ゆたか	とよ
292	紡	ボウ つむぐ	
293	木	ボク・モク き	こ
294	凡	ボン	ハン
295	未	ミ	いまだ
296	妙	ミョウ	たえ
297	矛	ム	ほこ
298	娘	むすめ	こ
299	躍	ヤク	おどる
300	愉	ユ	
301	遊	ユウ あそぶ	ユ
302	融	ユウ	とける
303	予	ヨ	
304	抑	ヨク	おさえる
305	欲	ヨク ほっする	ほる
306	履	リ	ふむ
307	陸	リク	くが・おか
308	柳	リュウ やなぎ	
309	虜	リョ	とりこ
310	了	リョウ	おわる
311	類	ルイ	
312	例	レイ	たとえ
313	路	ロ じ	
314	露	ロ つゆ	ロウ
315	楼	ロウ	
316	腕	ワン うで	かいな

表に示したほかに，「明日（あす）」「大人（おとな）」などのように明らかな熟字訓に類するものなどが23例ほどあるがここではふれない。

指導された読みが音であるか訓であるかというと，表に用いたデータに基づいた計算では，訓が約87%，音が約13%である。つまり，音訓表外の読みの指導は，大部分が訓読みについての指導である。

「その理由としてはどんなことが考えられるでしょうか」という問いに対する回答として示されたものを類別して，おもなものをあげると次のようになる。

① 語句の意味の指導のとき訓を使うと便利なので，しぜんと表外訓にもふれる。

② 現に社会の中で生きていることばであり，音訓表で狭く規定できないことがあるから。

③ 文学作品を読む場合などで，音訓表外の読みが要求されることがあるから。

④ 地名・人名などの個有名詞の読みのとき，ふれなければならないことがあるから。

⑤ 日常生活上よく目にふれるものは，覚えさせておいたほうがよいと思われるから。

⑥ その読み方が，音訓表で認められたものでないことをはっきりさせるため。

その他，理由の表現の仕方はいろいろであるが，だいたいは上記の中のどれかに含まれそうである。理由としてあげられた事がらは，両地域ともほぼ同じである。

c　取り出して扱う，教科書提出の漢字

教科書による授業の中で，取り出して指導している漢字はどれでしょうか。

1. 新出漢字の全部　　57.2（49.0）

2. 新出漢字のうち，生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの

33.9（45.6）

3. 既習漢字のうち，習得率の低いもの　50.8（57.8）

4. その他　6.6（12.6）

教科書提出漢字のうち，どういうものを取り出して指導するかをたずねたものである。回答結果によると，その順位は，

A地域　① 新出漢字の全部

② 既習漢字のうち，習得率の低いもの

③ 新出漢字のうち，生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの

④ その他

である。B地域では，この②と①が入れかわって，「既習漢字のうち，生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの」が1位，「新出漢字の全部」が2位となっている。両地域の間のこの順位に有意差があるかどうかは別として，共通してわかることは，新出漢字や習得率の低い漢字には力を入れて指導しているということである。「新出漢字のうち，生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの」を見分けることは，それまでの生徒の漢字力についての実態をよくおさえておかなければむずかしいであろう。こういう観点からすれば，これがB地域において11.7%高いということは意味のある差であるかもしれない。

「その他」に回答し，具体的に記入してくれたかたは，それぞれ

A地域　32名（神奈川10，千葉9，青森13）

B地域　25名

である。これらについては，分類して傾向性を明らかにできるほどにはまとまっていないが，参考としていくつかあげると次のようなものである。

- 読解の際の共通のつまずきとなる字
- その漢字が，構造的に漢字学習を進めていくうえにたいせつだと思われる字
- 新出既出にとらわれず，理解させたいと思う重要漢字
- 日常生活で欠かせないと判断される重要な字
- 筆順のあやまりやすい字

・やさしい漢字だが，度忘れしやすい字

d　cの場合の音訓の指導

上記，cの場合，音訓についてはどうなっているでしょうか。

1. 教科書の文脈での読みだけを指導している。　5.3（1.9）
2. 教科書の文脈での読みが音だけである場合，なるべくその漢字の訓（それがあれば）も指導するようにしている。　82.6（92.3）
3. 教科書の読みが訓だけの場合，なるべくその漢字の音(それがあれば)も指導するようにしている。　66.6（83.0）
4. 教科書の文脈での読みが訓であれば，音にふれることはほとんどない。　1.4（0.5）
5. その他　8.0（7.8）

教科書提出の漢字を取り出して指導する際の音訓の取り扱いについての質問である。質問者の予想としては，1の「教科書の文脈での読みだけを指導している」という回答がもっと多くなるのではないかと思っていたが，これは完全にはずれた。回答の結果からすれば，教科書での文脈が音であっても訓であっても，その字のもつ音訓については相当の高率で指導されているということになる。これは前述の表外音訓の指導などとも関係があるものと思われる。

e　筆順の指導

筆順について，なにか指導しなければならないようなことがあったでしょうか。

1. あった　79.6（87.9）

あったとすれば，それは筆順のどういう点についてでしょうか。なるべく具体的にお示しください。

（　　）

2. なかった　17.8（11.7）

筆順指導に関して，33年度指導要領では，小学校第1学年～第3学年までの

「書くこと」の指導事項の中で，

1学年「文字の形に注意し，筆順に従って書くこと」

2学年「文字の形や筆順に注意して正しく書くこと」

3学年「文字の組立方の基本に注意して，形を整えて書くこと」

と規定しているだけで，他の学年で特にとりあげた部分はない。したがって，筆順については，小学校3学年までにその基本を身につけさせることをねらっていたと解される。

しかし，現実にはなかなか簡単にはいかず，中学校段階でも指導の手を加える必要があるということをしばしば耳にする。こういうところから，中学校段階における筆順指導では，小学校とは多少質的に異なった指導がなされているのではないか，それはなにかというねらいでこの質問を設けた。したがって質問の内容も，「あったとすれば，それは筆順のどういう点についてでしょうか」というものにした。

結果は，指導の必要があったというのがA地域79.6%，B地域87.9%という高率を示している。そして具体例については，回答の内容を，

- 漢字そのもの
- 部首および部首に類するもの
- かたかな・ひらがな

の三つに分けることができる。「門」のように，独立した文字としても，部首としても使われるものがあるが，このような場合は「漢字そのもの」の中にふくめて扱うことにして，次にその内容を示してみる。

① 漢字そのもの（A・B両地域とも相当数にのぼるので，5人以上によって指摘された字例について掲げる）

A地域

必	飛	右	左	馬	有	方	女	田	肅	医	耳	九	衆	門	学	母	国	感
人																		
60	41	33	23	20	10	9	9	8	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5

B地域

必	飛	右	左	馬	田	発	門	女	方	九	衆	健	有	王
人														
82	82	48	37	20	15	13	9	9	8	6	5	5	5	5

② 部首および部首に類するもの

A地域

小	扌	犭	忄	辶	口	隹	氵	氵	灬	阝	疒	走	雷	辶	戝	牛	礻	帯
人																		
15	14	13	13	12	10	10	5	5	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1

亜	雀
1	1

B地域

隹	扌	犭	扌	辶	氵	氵	忄	礻	刂	迷	小	口	食	吾	虫	丑	阝	疒
人																		
10	10	7	5	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

禽	斤	戈	呂	亜
1	1	1	1	1

③ かたかな・ひらがな

A地域

シ	ツ	イ	カ	ヲ	も	よ	か	け	せ	ぬ	は	む	め	ら	わ
人															
4	3	1	1	1	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1

B地域

シ	ツ	よ	と	は	ま	も	や
人							
1	1	2	1	1	1	1	1

以上のとおりである。漢字として示したもの，部首および部首に類するものとして示したもの，ともに共通したものが多い。中学段階で指導の必要のある筆順のだいたいが見渡せる。部首関係の筆順では，部首内部の順序が問題になる場合と，辶と走のように，部分としてのまとまり全体が，他の部分に対して先に書かれるかあとに書かれるかという場合とがあるだろう。しかしその内訳についてはわからない。

かたかな・ひらがなについての例が出てくるとは予測しなかった。しかし結果はごらんのとおりとなった。この調査全体が漢字指導についてのことであるからという認識に立って，かたかな・ひらがなに関しては記入されなかったかたがこのほかにあると思われる。したがって，実際の指導例はここにあげた数よりもかなり多いはずだと推察される。

f　作文の中での漢字指導

作文の中で漢字を指導しているでしょうか。

1. 事後処理として，誤字・誤用などの漢字を訂正して返している。
   87.4（85.3）
   （i）　かならず　　30.0（21.8）
   （ii）　だいたい　　42.1（41.7）
   （iii）　その時の事情による　　15.3（21.8）
2. 知っている漢字は，なるべく多く使って書くように指導している
   46.9（50.0）
3. 漢字を使うときは，たしかに知っている字を使うように指導している
   12.6（9.2）
4. 書くときに辞書を使わせて，自信のない字は確かめてから書くように指導している　　31.1（38.3）
5. 書く意欲をそぐので，作文での漢字指導はなるべくしないことにしている。　7.8（8.3）

6.　その他　　6.6（24.3）

生徒が，習得した漢字を実際に使用する重要な場の一つが作文である。作文の作業のどこで指導するのが多いか，それはどういう手だてによってなされるのかなどについてたずねてみた。結果を見ると，事後処理の段階で，誤字・誤用などを訂正して返すというのが最も多い。その中には，「その時の事情による」と答えた人が15.3%（21.8%）あるが」「かならず」と答えた人が30.0%（21.8%）もおり，大勢からみて9割に近い人が，事後における漢字指導を行なっているといえる。2と3とは，作文での漢字使用の態度指導に近いものであるが，「知っている漢字は，なるべく多く使って書くように指導している」人は，A・B両地域とも約50%である。3が12.6%（9.2%）と低い数字であることは事柄の内容からみて自然な姿であろうかと思う。4の作業中に辞書を使わせて字を確かめてから書くように指導しているというのは割合に高く，31.1%（38.3%）である。これは5の「書く意欲をそぐので……」7.8%(8.3%）という低い数字と対応していると受けとれる。総じて，作文における漢字指導は，事後処理を中心としてかなり行なわれているといえよう。

「その他」の欄への反応がB地域において24%と割合に高い数字を示している。その内容を見ていくと，だいたいつぎのようなものである。

① 下書きの際は内容に重点をおいて，文字については大まかに扱い，推敲・清書の段階で意識的に2と4の指導をしている。

② 事後処理として，生徒の相互に訂正させている。

③ 作文に子供のいつわらない実態が出てくる。いい指導の資料なので，プリントにして渡してやる。

以上のようなもので，反応の大部分（約7割ぐらい）は①またはそれに類するもので占められている。

なお，今回は作文回数については調べなかったが，昭和39年春（1月～2月）に国語研究所国語教育研究室が行なった「中学校国語科学習指導の実態調査」の結果によると，作文を書かせる回数は年間5～6回である。現時点では，いくらかこれよりも多くなっている可能性はあるが，だいたいは同じぐらいと思

われる。

g　漢字使用の態度化の指導

ふだん，漢字を正しく書くよう，その態度化について，どんな指導をしていますか。

1. 書くときは正しい漢字を書くよう心がけさせている。　46.7（43.2）
2. 字画をきちんと書くよう指導している。　31.6（42.7）
3. 漢和辞典・国語辞典等をおっくうがらずにひいてみる習慣をつけるように指導している。　59.0（64.6）
4. 自信のない字は，知っている人に聞くなり，辞書でひくなり，なるべく確かめてから書くように指導している。　22.7（27.7）
5. ノート検査によって，正しく書くことの態度化をはかっている。　41.0（41.3）
6. その他　7.6（13.1）

漢字使用についての態度化の指導では，「漢和辞典・国語辞典等をおっくうがらずにひく習慣をつける」というのが最も多く，59.0%（64.6%）である。この数字が示すことを裏返してみると，辞典使用の習慣はなかなかつかないものであるということを物語っているように思われる。ノート検査については，質問では，どの程度の検査かを何も規定していない。したがって寄せられた回答についても，検査の質的な面はわからないが，A・B両地域とも，4割強の人によって，漢字を正しく書く態度化の観点で検査が行なわれていることがわかった。

h　部首の知識を利用した指導

部首の知識を利用した漢字の指導をなさっているでしょうか。

1. した　83.7（89.3）
2. しなかった　14.4（9.7）

i　部首についての指導

部首についてなにか指導をなさったでしょうか。

1. まとめて行なっていないが，必要に応じてふれてきた。61.1（54.9）

2.　漢和辞典を利用して指導してきた。　35.0（39.8）

3.　生徒の自発学習にまかせてきた。　4.1（2.4）

4.　その他　6.9（16.5）

「部首の知識を利用した……」と質問したが，「部首の知識の利用」について厳密に規定したわけではない。広い意味で，漢字の部分の名称・機能・類型などに関する知識を利用した指導をしてきたどうかという内容として質問したつもりである。「しなかった」という回答は14.4%（9.7%）である。だいたいにおいて，8割～9割の方が指導をしていることがわかった。

iの部首そのものについての指導では，「ある時期にまとめて指導した」という選択肢を設けなかった。これは，そのようなことがあるとしても，きわめてまれであろうという想定によったためであるが，「ある時期にまとめて」（たとえば，教科書の単元にあったので）実施したような例が見られる。これらの場合は，反応としては「その他」の欄に含まれている。

部首についての指導の項で，指導することがなかったというのは，3の「生徒の自発学習にまかせてきた」という項目への反応だけであると判断できる。したがって，両地域とも95%を越える人々によって，なんらかの形で指導がなされているといえる。

j　熟語の語構成についての指導

熟語の語構成（たとえば，登山・下山　春雨・春風　先端・道路……などの語の中に見られる構成上の共通点や相違点）についての指導はどうなさっているでしょうか。

1.　計画的に指導している。　5.5（18.9）

2.　必要に応じて，そのときどきに指導してきた。　89.2（77.2）

3.　それにはふれない。　3.0（0.5）

4.　その他　4.3（13.6）

熟語の語構成，つまり熟語のでき方，作り方についての指導の面についての質問である。質問の内容と結果は上記のとおりである。

「計画的に指導している」というのは，現在の教科書のたてまえからして困

難な面が多いと思われるので，少ない数字になるだろうと予測していた。たしかに，予測のとおりであるが，それでもB地域では18.9%が計画的に指導していると反応している。「必要に応じて，そのときどきに……」が圧倒的多数で89.2%（77.2%）を占めている。そして「それにはふれない」は3.0%（0.5%）の小さな数字であるにすぎない。これらのことは，熟語の語構成に関する指導の必要性と，現に行なっている指導の形態をはっきりと示しているものであるといえよう。

なお，「その他」の欄への記入者がB地域で割合に多く13.6%あるが，これらの内容はだいたい次のようなものである。

① 必要に応じてプリントし，練習問題形式で指導してきた。

② 3年時に計画的に実施の予定

③ 教科書の単元の中に組み込まれているので，そこでふれた。

④ 特別のテキストを用意して指導してきた。

⑤ 辞典のひき方の指導と関連づけて指導してきた。

k　他教科へのサービスを意識した指導

他教科へのサービス（たとえば「この漢字は理科の用語に使われる字だからよく教えておいてやろう」というようなこと）として指導したりすることがありますか。

1. サービスを意識して指導したことがあり11.2(20.9)，その対象はおもに　　科　　科である。
2. その事実はあるが，特にどの教科ということはない。　43.5（44.7）
3. 他教科へのサービスを意識して指導したことはない。　43.9（32.5）
4. その他　3.7（5.3）

国語科は基礎教科であるのだから，本質的に他教科へのサービスとしての性格を持っているのである，という見方がなり立つ。2と3とで全反応の大部分を占めているということは，これを物語っているのかもしれない。しかし一方，国語科で提出される漢字やその使われた形と他教科のそれとはおのずから違いが出てくることは事実である。また，1の他教科における漢字指導と表裏

をなすという面もある。こういう意味で，サービスを意識するとすれば，特にどの教科に向けられるかを把握したかった。

「サービスを意識して指導したことがある」と答えた人はA地域11.2%，B地域21.5%である。教科の内訳は次のとおりである。

A地域

社会科	44	46.9%
理　科	42	44.5
数学科	6	6.4
保健体育科	1	1.1
技術家庭科	1	1.1

B地域

社会科	36	46.1%
理　科	35	44.9
数学科	2	2.6
全教科	3	3.8
音楽科	1	1.3
保健体育科	1	1.3

質問紙には，二教科ずつ記入できるように欄を設けておいた。したがって，サービスを意識して指導した教科の上位二教科ずつの記入が原則として行なわれたことになる。上表は，そこで指摘された数と，その数の合計を100とした場合の百分率とを示したものである。

この表からすぐわかるように，サービスを意識して指導される教科は，社会科と理科の二教科が他を引き離して多い。そして三位には数学科があげられるが，前二教科に比べると非常に少ない。

l　他教科における漢字の学習指導

あなたの学校の国語科以外の教科で，漢字の学習指導が行なわれているでしょうか。

1. 指導しているということを他教科の人などから聞いたこと（見たこと）がある。(　　科　　科)　28.8 (40.3)
2. 指導しているかどうかわからない。　22.2 (14.6)
3. 指導していないらしい。　37.8 (34.0)
4. その他　9.4 (14.1)

この事項は，内容的にkの裏返しになる。しかし，kの場合とは違って，他

教科でのことであるから，回答者にとっては間接的な問題である。質問紙への回答としては，聞いたり（見たり）したことがある場合，二教科まで書けるようにしておいた。その結果をkにならってしるすと次のとおりである。

A地域

社会科	63	49.1%
理　科	42	32.8
技術家庭科	2	1.6
保健体育科	2	1.6
美術科	1	0.8
学級活動	1	0.8
日　記	1	0.8
ノート	1	0.8
分野の指定のなかつたもの	15	11.7

B地域

社会科	71	57.4%
理　科	31	25.0
数学科	5	4.0
美術科	4	3.2
英語科	2	1.6
音楽科	2	1.6
道徳科	2	1.6
保健体育科	1	0.8
学級活動	2	1.6
日　記	1	0.8
分野の指定のなかつたもの	3	2.4

これを見ると，いわゆる教科目以外のものも含まれていて，kの場合よりも幅広い分野にわたっている。しかし，この場合も，主役は社会科と理科の二教科となっている。k・lを通じてまずわかることは，サービスをする場合も，される場合も，主たる対象教科は社会科と理科とであるということである。

「指導しているかどうかわからない」という回答を全部「指導しているらしい」と考えたとしても，なお37.8（34.0）は「指導していないらしい」と判定されている。

漢字指導の問題として，国語科と他教科との関連をどうつければよいのか，どうあるのが最もよいのか，これをどう処理し，解決するかは今後の課題として残されている。

質問 4　その他の指導

a　辞書指導（漢和辞典について）

1.　使い方についての指導

あなたは，今年度になってから，漢和辞典の使い方について指導されたでしょうか。

イ　指導した。　60.6（64.6）

その学年は？

1年生　46.2（38.3）

2年生　12.8（18.4）

3年生　11.0（18.0）

ロ　指導の必要を認めているが，まだやっていない。　7.8（3.9）

ハ　使用の仕方について生徒がすでに知っていたので，指導の必要がなかった。　26.8（26.2）

ニ　その他　5.7（5.3）

「中学校国語科学習指導の実態調査」（昭和38年度実施，前出）で見ると，公立中学校における辞典使用の環境は，生徒持参約50%，学校備えつけ約50%となっている。したがって，教室で使用させる場合，両者を併用すれば（国語辞典，漢和辞典を含む）ひとり一冊ずつ使えることになる。

しかし，このときの調査では，どのように使われているかまではわからなかった。そこで，今回は辞典使用の指導という観点で，特に漢和辞典について調べたわけである。

その結果は上記のとおりで，「指導した」という回答者が，A・B両地域とも6割強である。これに，「指導の必要を認めているがまだやっていない」を加えると，A地域68.4%，B地域68.5%となり，両地域とも，ほぼ7割の人が指導の必要を認めていることになる。

なお，「指導した」と答えた人について，その対象学年は何年であったかをたずねた。この結果は前記イのとおりである。この場合，対象学年について，ひとりで二つ，または三つにまたがって回答されたかたがある（当然起こり得

ることであるが）ので，この数字の合計は，「指導した」というところで示した数字を少し上まわっている。

「使用の仕方について生徒がすでに知っていたので，指導の必要がなかった」という回答が26.8%（26.2%）ある。この項に回答したかたは，だいたいにおいて，2年生，3年生の担当者が多い。このことは，「その他」の欄への回答の中で，最もまとまりのあるのが，両地域とも「1年時に指導することにしている。現在は2(3)年生担当なので指導しなかった」であるのと符合する。「その他」の欄への回答で，次に多いのは，「1年のときやっているはずであるが，不慣れな生徒に対しては，そのつど個別的に指導している」である。

これらのことから総合的に判断すると，中学校における漢和辞典の使い方の指導については，「1年時に全体に対して指導し，定着しない者にはその後も個別的に指導していく」というのが現在における一般的なありかたであると見られる。

2.　漢和辞典を利用した授業

漢和辞典を利用した授業をなさっているでしょうか。

イ　してきた。　　52.2（60.7）

その場合，どんなふうに利用されましたか。

（　　）

ロ　してこなかった　　35.7（26.7）

ハ　その他　　9.8（8.3）

漢和辞典を積極的に授業に取り入れたことがあるかないか。あるとすれば，それはどう利用されたかについて質問した。

その結果は「してきた」という回答がA地域52.2%，B地域60.7%であった。そして，その場合どんなふうに利用されたかを自由に書き込んでもらった。それを分類したのが次の表である。回答の中には，「してきた」とだけ答えて，その具体的内容を記入していない場合，ひとりで数項目にわって内容を記述している場合などがある。

漢和辞典を利用した授業

利用の内容			A地域 神奈川	A地域 千葉	A地域 青森	B地域	計 A＋B	計 %
一、利用目的に関するもの	A 問題解決のため	A1（漢字の読み，意味の指導のため）						
		1. 新出漢字の読みや意味を調べる	3	10	23	9	45	8.2
		2. 漢字の読みを調べる	7	6	9	12	34	6.2
		3. 漢字の1字1字の意味を調べる	5	4	7	22	38	7.0
		A2（熟語，語構成等の指導のため）						
		1. 熟語(語句)の意味を調べる	12	10	19	21	62	11.3
		2. 熟語づくり	2	1	5	6	14	2.6
		3. 熟語の語構成の理解	2			10	12	2.2
		4. 類義語・反対語等の理解	1	2	2	9	14	2.6
		A3（漢字の構造等の指導のため）						
		1. 漢字の構造，字形，字体等の理解を深める	4	3	2	10	19	3.5
		2. 部首・画数・音訓等の理解（それによる辞書のひき方練習）	10	9	18	31	68	12.4
		計					306	56.0
	B 辞典理解・使用訓練等のため	B1（辞典のひき方の理解と訓練等のため）						
		1. ひき方そのものの指導に利用			2	7	9	1.7
		2. 目的の字を早くひく訓練	5	2	6	5	18	3.3
		3. 教科書教材にある辞書に関する単元の扱いで（だいたい1年時）	12	11	11	24	58	10.6
		B2（辞典使用の態度化のため）						
		1. 辞典使用の習慣づけのため	2		4		6	1.1
		計					91	16.7
二、利用の場に関するもの	C 利用の場	C1（学習活動の領域など）						
		1. 読解指導の際	2		2	2	6	1.1
		2. 作文，短文づくりの際	2	1	3	2	8	1.5
		3. 漢文指導の際		1		4	5	0.9
		C2（利用の時期）						
		1. 授業中	6	6	7	9	28	5.1
		2. 自習の際	1	3		7	11	2.0
		3. 必要に応じて	2	3	1		6	1.1
		計					64	11.7

三、その他	D その他	D1（だれの辞典を使うか） 1. 図書室に備えつけの辞典をクラス全員に貸し出して利用	7	8	4	4	23	4.2
		D2（その他） 1. A～D1 以外のもろもろ	6	10	17	29	62	11.4
							85	15.6
合　計							546	100

（注）　百分率はA・B両地域で書かれた事項の総数（546）を100として計算してある。

自由記入の欄への質問を「どんなふうに利用されましたか」という，多少あいまいな問い方にしたためか，記入された内容は多岐にわたった。分類にあたって，便宜的ではあるが，

・利用目的に関するもの

・利用の場に関するもの

・その他

に大別してみた。「利用目的」をさらに「問題解決のため」「辞典理解・使用訓練等のため」という，いわば，内容的な目的と形式的な目的に分けて扱った。

問題解決という内容的な目的のために利用される場合が全体の56%を占めているが，「ひき方そのものの指導」「辞典使用の習慣づけのため」といった形式的な事がらの指導のための利用が16.7%ある。

このことは，ハの「使用の仕方について生徒がすでに知っていたので指導の必要がなかった」26.8（26.2）という数字に照らして，中学段階でも，漢和辞典使用の能力や習慣を生徒につけるのは容易でないことを物語っているようである。

3.　漢和辞典の使わせ方

漢和辞典を生徒にどのように使わせていますか。

イ　授業中自由に使わせている。　57.0（51.5）

ロ　休み時間や放課後などに使わせている。　7.6（8.7）

ハ　家で予習，復習のときに使わせている。　56.1（67.5）

ニ　その他　12.1（13.1）

漢和辞典を生徒にどのように使わせているかという見出しであるが，選択肢としては，主として，いつ，どこで使わせているかに重点をおいた質問となっている。その結果は，「授業中自由に」「家で予習，復習のときに」というのがA・B両地域とも高く，50%を越える割合となっている。このうち，「授業中自由に」というのは，強制はしなくても指導者の管理のもとに置かれていて実行されやすいとみられる。しかし，「家で予習，復習のときに」というのは，生徒の自主性に任されることになるので，指導のたてまえと結果の保証とは別問題となる。

「休み時間や放課後に」については，管理しての場合と，自由にの場合との両方を含んでいるが，これは割合に低く，8～9%であった。

「その他」の欄に回答されたかたは，A地域12.1%，B地域13.1%でほぼ同率であった。これらの中には「ほとんど使わせていない」「国語辞典をおもに使わせている」その他など種々の内容のものがまざっている。それらの中で最もまとまりの高い反応は，

・学校で授業中必要な場合に使わせる

である。これはA・B両地域とも共通的で，「その他」の欄に記入したものの約40%にあたる。したがって全体からみれば，約5%が「授業中必要な場合に使わせる」を選んだことになる。

b　副教科書，ワーク・ブック

1.　漢字学習中心のものの使用

漢字中心の副教科書，ワーク・ブックなどを使わせていますか。

イ　使わてせいる。　39.1（37.4）

ロ　使わせていない。　54.7（55.3）

2.　漢字学習を含むものの使用

漢字学習を含む副教科書，ワーク・ブックなどを使わせていますか。

イ　使わせている。　42.3（48.1）

ロ　使わせていない。　43.9（37.9）

最近は，特別に学校で作成したもの，郡・市などの地域ぐるみで作成したもの，市販のものなど漢字中心のワーク・ブックが出されるようになってきた。また，従前のような，漢字学習を部分として含んでいる副教科書，ワーク・ブックの類もある。これらがどの程度使用されているかをたずねてみた。

その結果をA地域から見ていくと，「使わせている」という回答は，

漢字中心のもの　　39.1%

漢字学習をふくむもの　　42.3%

となっている。したがって，「漢字学習を含むもの」の使用率のほうが，3.2%ほど高いことになる。そして，とにかく“漢字学習に関係ある”ものの使用という観点では，81.4%が使わせていることになる。

B地域のほうは

漢字中心のもの　　37.4%

漢字学習を含むもの　48.1%

で，こちらは「漢字を含むもの」を使わせる率が約10%ほど高くなっている。この計は85.5%となって，A地域よりもわずかに（4.3%）高い。

ただし，ここでの質問の仕方が「使わせているか・いないか」ということなので，生徒が自主的に使っている分については含まれていないことになる。

この点について，参考までに38年度の調査（「中学校国語科学習指導の実態調査」）の結果を示してみる。このときは，「あなたの受け持ちの生徒は，現在家庭で国語の参考書やワーク・ブックのようなものを使って勉強しているでしょうか」という問いに対して，

1. しているらしい　　（84.7%　86.7%）

その全員に対する比率（20.2%　48.4%）

2. ほとんどない　　（15.3%　13.3%）

（　）内の数字の前者は都市部，後者は農村部。

という回答を得た。

この結果を今回の調査結果と照らし合わせて見ると，ほとんどすべての中学生が，副教科書，ワーク・ブック，参考書に類ものするを持っているという推

論がなりたつ。しかし，その生徒たちが，どのように実際に使って役立てているのかについてははっきりしない。

c　家庭学習

1.　宿題としての漢字の学習指導

漢字学習を宿題として家でやらせていますか。

イ　やらせている　　82.4（91.3）

ロ　やらせていない　　16.9（6.3）

2.　宿題としての漢字学習指導の内容

やらせている場合，それは主として漢字学習のどういうことについてですか。

イ　書きの練習　　41.6（46.6）

ロ　難語句の読みや意味を調べる一環として　　51.3（61.7）

ハ　その他　　11.2（22.3）

宿題として家でやらせる漢字学習は両地域ともほとんどが行なっていると見てよいだろう。宿題の内容は，“難語句の読みや意味を調べる一環として”が高い数字を示している。ここでの具体的なことがらとしては，単語やその構成要素としての漢字の読みや意味を調べる仕事ということになるだろう。

次が“書きの練習”である。しかし，この回答からは，中学生に課する漢字の書きの練習として，どういう具体的作業となっているかは不明である。

「その他」への回答がA地域11.2%，B地域22.3%ある。A地域：B地域≒1：2で，B地域が倍近く高くなっているが，内容的にさほど違いはない。新出漢字の読みや意味について調べさせるというのが比較的多いほかは，特にこれという内容的なまとまりはない。そして，この欄への記入の特徴は，漢字に関してほとんど全部の領域の作業がとりあげられているということだといえそうである。

d　特別に行なっている漢字の学習指導

漢字の学習指導上，なにか特別に行なっていることがあるでしょうか。ありましたら，それをお書きください。

この質問では，

1.　先生個人として

2.　学校または地域として

の二つの観点から，それぞれどのようなくふうがなされているかをたずねた。

その結果を見ると，A地域よりもB地域のほうがやや回答率が高く，内容の広がりも多かった。そこで，ここでは，B地域における回答のおもなものをあげてだいたいの傾向を示すことにする。

1.　先生個人として

①　テスト，ドリルの実施（朝自習，国語の時間，放課後，補欠授業等を利用して）

②　指導のための，各種の調査，研究，研修

③　一字一字についての字源的，解字的指導

④　語句ノートによる指導

⑤　熟語の語構成についての指導

2.　学校または地域として

①　テストの定期的な実施

②　朝の自習時を利用したドリル学習

③　進級式の漢字力検定制度の採用

④　市販または自作の漢字練習帳の使用

⑤　指導のための，各種の調査，研究，研修

以上，まとまりのあるもの5項目ずつあげてみた。このうち，「学校または地域として」のほうは，学校としてなのか，地域としてなのか，その区別が明白ではない。しかし，記述の内容からみて，学校としてやっているというのが大部分を占めていると思われる。

質問 5　漢字学習指導に対するあなたのご意見

a　中学校卒業までに身につけさせたい漢字力は？

1.　別表外当用漢字（969字）について

イ　読み，書きともに完全に身につけさせたい。　46.5（43.2）

ロ　読みだけは完全に身につけさせたい。　49.2（51.0）

ハ　その他　　4.3（5.8）

この質問に関して上記のような反応があった。別表外当用漢字については，卒業までに，その読みだけは完全に身につけさせたいと考えている人と，読み・書きともに完全に身につけさせたいと考えている人とに大別される。イに反応した割合よりもロに反応した割合が大きいということは，読み・書きともに完全にマスターさせるということが容易ではないということを物語っているようである。

「その他」の欄への回答には，

・読む漢字，書く漢字と整理して，それによって，読み・書きを身につけさせたい（B地域）

・読みは完全に身につけさせるようにし，書きでは必要度の高いものは身につけさせたい（B地域）

・当用漢字の中にも使用度の少ない漢字がある。それを除く漢字は，読み書きともに身につけさせたい（A地域）

・当然イであるべきだが，現状としてはロ（A地域）

などによって代表されるような意見が示されている。

2.　当用漢字外の漢字について

イ　ルビつきで出してあればよい。特に指導する必要はない。　45.8（54.4）

ロ　必要のある漢字については指導しなければならない。45.1（36.4）

〔だいたい　　字ぐらい〕

ハ　その他　　3.9（10.2）

ここでは，表外字の指導について質問した。質問内容はかなりあらいものであるが，意見のだいたいの傾向をつかむことをねらった。

「ルビつきで出してあればよい……」という意見がA地域45.8%，B地域54.4%である。B地域がA地域に比べて8.6%ほど高くなっているが，とにか

く，全体的に概数で把握すれば約50%の人がこの意見であると見られる。

「必要のある漢字については……」という質問についてはA地域45.1%，B地域36.4%であった。イ，ロの結果を照合すると，表外字の指導に関してはB地域に比べてA地域のほうがいくぶん積極的であるということになる。

ロでは，その場合，指導の対象となる漢字はおよそ何字ぐらいであると考えているかを続けて質問した。この質問にこたえて字数を記入してくれたかたは，A地域66名，B地域39名であった。そして，あげられた字数の平均はA地域の66名については289.2字，B地域の39名については211.2字である。また，あげられた字数の最高および最低は右の表のとおりである。

	A地域	B地域
最高字数	1800字	2000字
最低字数	10字	10字

実際に指導するという観点，また国語国字問題的な観点などからは，どれどれの字がその対象となるかまで明らかに知る必要がある。しかし，この調査ではそこまではわからない。

b　漢字学習指導のあるべき姿について

漢字学習指導のあるべき姿について，あなたはどうお考えでしょうか。400字以内ぐらいでお書きください。

漢字指導のあるべき姿という観点で，上記のような質問をした。これに対して，延べで約1000の意見が示された。これらのうち，漢字指導と必ずしも結びつかないものを除いた956項について分類したのが次ページの表である。

この結果では，「漢字指導の場に関する意見（233)」「一字一字の指導の原則に関する意見（160)」「練習学習に関する意見（122)」の三分野が目だっている。

意見は多岐にわたっているので，一定方向の結論を求めることはむずかしいが，一字一字の指導をもっとだいじにすべきだということ，単語指導との関連において取り扱うことに留意すべきだということ，漢字指導の体系についてもっと考えるべきだということ，これらの点については，かなり共通的に出ているように受けとれる。

練習学習については，その効果の大きいこと，もっと重視すべきだとする意

見など，かなりのまとまりを示している。それは，そのとおりだと思われるが，「練習学習の方法をもっとくふうすべきだ」という意見とも照らし合わせて受けとるべきだろう。

また，数はそう多くはないが，両地域からほぼ一様に出ているもののひとつに「漢字指導には全教科の協力がぜひ必要」というのがある。これは，正確には「全教科の教員の……」という意味と受けとるべきものであろう。そして，「国語科の者としてはぜひそうありたいと思う。しかし，実現はなかなかむずかしい」という問題のように思われる。

その他，これらの意見には，問題の所在を指摘しているもの，解決の方向を示唆しているものなどが含まれている。

次表はその一覧表である。

漢字学習指導のあるべき姿についての意見一覧表

		A地域								B地域		合計	
		神奈川(118人)		千葉(131人)		青森(188人)		計(437人)		40県(206人)		(643人)	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1. 漢字指導の全般にかかわる意見(計67)	① 漢字指導をもっと体系化すべきだ	8		6		9		23	5.3	21	10.2	44	6.8
	② 漢字指導をもっと強化すべきだ	6		2		3		11	2.5	12	5.8	23	3.6
2. 一字一字の指導の原則に関する意見(計160)	① 各字の形・音・義をおさえた指導が必要だ	4		9		23		36	8.2	45	21.8	81	12.6
	② 表意文字としての性格をふまえた指導が必要	12		8		11		31	7.1	15	7.3	46	7.2
	③ 訓よみをおさえた指導を重視すべきだ	3				2		5	1.1	11	5.3	16	2.5
	④ 筆順をもっとしっかり指導すべきだ	1		2		4		7	1.6	6	2.9	13	2.0
	⑤ 点画についてうるさく言わないようにしたい									4	1.9	4	0.6

3. 漢字指導の場に関する意見（計233）	① 熟語・類義語・反対語の指導語構成の指導等を通じての指導をもっとすべきだ	7		12		21		40	9.2	32	15.5	72	11.2
	② 作文（短文づくりをふくむ）の中での指導をもっとすべきだ	5		2		25		32	7.3	17	8.3	49	7.6
	③ 読書指導を通じての漢字指導をもっと重視すべきだ	4		6		16		26	5.9	9	4.4	35	5.4
	④ 読解指導の中で，漢字指導をもっとやってよい	5		7		12		24	5.5	7	3.4	31	4.8
	⑤ 取り立てて行なう漢字指導をもっとすべきだ	2		2		12		16	3.7	9	4.4	25	3.9
	⑥ 書写に漢字のドリル的学習の意味をもっと持たせるべきだ	2		1		4		7	1.6	3	1.5	10	1.6
	⑦ いろんな機会をとらえて指導すべきだ	4		1		1		6	1.4	1	0.5	7	1.1
	⑧ 国語科では毎時間（5分でも3分でも）指導すべきだ			1		1		2	0.5	2	1.0	4	0.6
4. 練習学習に関する意見（計122）	① ドリル学習の効果は大きい，と重視すべきだ	12		23		26		61	14.0	19	9.2	80	12.4
	② 練習学習を，もっと系統的，継続的に実施すべきだ	3				6		9	2.1	8	3.9	17	2.6
	③ ワーク・ブックの使用が必要だ	3		3		3		9	2.1	7	3.4	16	2.5
	④ 練習学習の方法をもっとくふうすべきだ					1		1	0.2	8	3.9	9	1.4
5. 漢字使用の指導に関する意見	① 既習漢字使用の徹底化をはかる必要がある			8		11		19	4.3	4	1.9	23	3.6

(計60)	② 日常生活の中でもっと漢字を使用できるようにさせたい	3		3		2		8	1.8	12	5.8	20	3.1
	③ 漢字を正確に使用することの態度化の指導が必要だ			3		2		5	1.1	12	5.8	17	2.6
6. 辞書指導に関する意見 (計44)	① 辞書使用の習慣の養成にもっと力を入れるべきだ	3		5		16		24	5.5	15	7.3	39	6.1
	② 辞書の引き方に習熟させるべきだ	1		1		3		5	1.1			5	0.8
7. 教育課程に関する意見など (計90)	① 当用漢字の乾書きは中卒までに完全にマスターさせるようにしたい	7		5		11		23	5.3	6	2.9	29	4.5
	② ルビをつけるなどして，もっと漢字を提出してよい	2		3		2		7	1.6	9	4.4	16	2.5
	③ 教育漢字だけについて，中卒までに完全に書ける程度にしたい	4				3		7	1.6	4	1.9	11	1.7
	④ 当用漢字の，中学での学年配当を考えるべきだ	3		1		1		5	1.1	4	1.9	9	1.4
	⑤ 読めればよい漢字と書けるまで漢字を要求する漢字の分離が必要	3				2		5	1.1	1	0.5	6	0.9
	⑥ 漢字提出をもっと計画的・体系的にすべきだ									5	2.4	5	0.8
	⑦ 漢字提出は，もっとくりかえし出すことが必要だ	1				3		4	0.9			4	0.6
	⑧ 教材量が多すぎる	1		2		1		4	0.9			4	0.6
	⑨ 中学校での必須漢字を制定すべきだ									3	1.5	3	0.5

	⑩ 中学生にも漢文教材を与えるのがよい			1		2		3	0.7			3	0.5
8. 正書法などに関する意見（計40）	① 当用漢字の再検討が必要だ	4				4		8	1.8	13	6.3	21	3.3
	② 字体・筆順・送りがなの統一をはかれ	3				4		7	1.6	12	5.8	19	3.0
9. 漢字指導からみた，他教科との関連についての意見（計55）	① 漢字指導には全教科の協力がぜひ必要だ	7		8		10		25	5.7	30	14.6	55	8.6
10. 国語科の時間数に関する意見（計61）	① 国語科の時間数が足りない，もっとふやすべきだ	7		8		14		29	6.6	32	15.5	61	9.5
11. 小学校との関連についての意見（計17）	① 漢字指導に，小，中の一貫性をもっと持たせるべきだ	6		1		4		11	2.5	6	2.9	17	2.6
12. 指導法の研究に関する意見（計17）	① 学習のつまずきの原因を探究して，それを指導に活用すべきだ	3		4		5		12	2.7	5	2.4	17	2.6

c　漢字学習指導の観点からの小学校への要望

漢字学習指導の観点から，小学校に要望したいことがありましたら，簡単にお書きください。

この質問に対しては，無記入の回答者が両地域に何人かずつはあったが，概して回答率はよかった。中にはひとりで数項にわたる要望を示されたかたもあ

り，要望事項は延べで，A地域529項，B地域328項，計857項目にわたっている。

これを分類整理したのが次表「小学校への要望一覧表である。

全体を通じて，小学校への要望として最も多かったのは，漢字指導の内容・方法に直接的に関係したものであり，その中でも，「筆順指導を徹底的にやってほしい」という意見が目だつ（A地域37.1%，B地域47.6%，全体では40.4%）。その次には，「教育漢字の読み・書きを完全に身につけさせてほしい」，という意見であった（A地域16.9%，B地域21.8%，全体で18.5%）。

その他，比較的まとまりのあるものとしては，「漢字の書きの指導をもっとじゅう分に」（全体で7.6%），「漢字指導をもっと徹底してやってほしい」（全体で6.4%）などがある。

また，教育課程に関するものとして，「小学校段階（特に低学年で）もっと漢字を提出してもよい」という意見がまとまりを見せている。

小学校への要望一覧表

		A地域								B地域		合計	
		神奈川(118人)		千葉(131人)		青森(188人)		計(437人)		40県(206人)		(643人)	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1. 漢字指導一般に関するもの（計41）	① 漢字指導をもっと徹底してやってほしい	7		14		3		24	5.5	17	8.3	41	6.4
2. 漢字指導の内容方法に関するもの（計656）	① 筆順指導を徹底的にやってほしい	36		50		76		162	37.1	98	47.6	260	40.4
	② 教育漢字の読み・書きを完全に	15		25		34		74	16.9	45	21.8	119	18.5
	③ 漢字の書きの指導をもっとじゅうぶんに	6		6		12		24	5.5	25	12.1	49	7.6
	④ 配当漢字はその学年で習得させよ	3		9		7		19	4.3	15	7.3	34	5.3
	⑤ 一字一字の意味をもっと指導してほしい	4		5		10		19	4.3	13	6.3	32	5.0

	⑥　音訓両面をおさえた指導をもっと	2		6		10		18	4.1	8	3.9	26	4.0
	⑦　漢字使用の習慣化・態度化	4		10		6		20	4.6	6	2.9	26	4.0
	⑧　部首についての指導をもっとしっかり	1		3		14		18	4.1	7	3.4	25	3.9
	⑨　熟語・語句指導に関連づけた指導をもっと	6		6		3		15	3.4	10	4.9	25	3.9
	⑩　漢字の構成についての知識を与えてほしい	2		4		7		13	3.0	10	4.9	23	3.6
	⑪　練習学習をもっと計画的に	1		3		7		11	2.5	5	2.4	16	2.5
	⑫　正しく読む力をもっとつけてほしい	1		3		3		7	1.6	4	1.9	11	1.7
	⑬　漢字の表意性に基づいた指導をもっと									6	2.9	6	0.9
	⑭　送りがなの指導をもっとしっかり					2		2	0.5	2	1.0	4	0.6
3. 辞書指導に関するもの（計29）	①　国語辞典，漢和辞典を自由にひけるように指導してほしい	1		1		2		4	0.9	7	3.4	11	1.7
	②　辞書を引くことの習慣化・態度化	1		3		5		9	2.1	4	1.9	13	2.0
	③　辞書の利用のしかたをじゅうぶんに	1				2		3	0.7	2	1.0	5	0.8
4. 書写との関連するもの（計12）	①　書写に漢字指導の意味をもっともたせよ	5				4		9	2.1	3	1.5	12	1.9
5. 読書指導との関連するもの（計 9）	①　漢字指導の観点から読書指導をもっと	3		6				9	2.1			9	1.4
6. 教育課程に関するもの（計42）	①　小学校6年までにもっと提出してよい	2		1		6		9	2.1	6	2.9	15	2.3

	② 低学年のうちにもっと提出してよい	6		1		1		8	1.8	6	2.9	14	2.2
	③ 別表外当用漢字をもっと学習させよ	2				2		4	0.9	5	2.4	9	1.4
	④ 教科書以外の範囲でもどんどん漢字指導を	2				2		4	0.9			4	0.6
7. 国語科の時間数に関するもの（計11）	① 国語科の時間数をふやし，漢字指導にもっと時間をかけるべきだ	2		2		3		7	1.6	4	1.9	11	1.7
8. 作文における漢字指導に関するもの（計25）	① 作文の中で漢字指導をもっと	2		2		1		5	1.1			5	0.8
9. 指導者側の問題に関するもの（計23）	① 効果的な指導法の開発が必要	3		1		5		9	2.1	5	2.4	14	2.2
	② 漢字について教師の知識・意識を高める必要がある	1		2		1		4	0.9	5	2.4	9	1.4
10. その他（計29）		7		9		3		19	4.3	10	4.9	29	4.5
合　　計		126		172		231		529		328		857	

（参　考）1

漢字学習指導の実態に関する質問紙調査

（調査票）

昭和41年12月

国立国語研究所国語教育研究室

ま え が き

a　この調査には，学校の代表としてではなく，国語科教員のひとりという立

場でお答えください。

b　この調査は，内容を事実と意見とに分けると，どちらかといえば，事実を主にした調査です。ご意見を記入していただくために設けた欄以外のところは「こうしてきた」「こうしている」「こうなっている」というような事実について，だいたい今年度になってからのことを中心にしてご記入願います。

c　項目によって，先生おひとりについての事項と，学校全体に関する事項とがあります。

d　答え方は，だいたい，該当する項目を○で囲み（質問によっては該当する項目が二つ以上になることがあります），さらに，たりないと思われることがあったら，それぞれ適宜書き込んでいただくようになっています。

質問の内容

質問 1　学校の環境と国語科学習指導

a　あなたの現在の学校の地域環境（二つにまたがっている場合は，その両方をかこむ）

1. 住宅市街　2. 商業市街　3. 工業市街　4. 鉱業市街　5. その他の市街　6. 小都市　7. 都市近郊農村　8. 普通農村　9. 農山村　10. 農漁村　11. 漁村　12. 鉱山　13. 山村　14. その他

b　あなたの現在の学校の全学級数

c　あなたの現在の学校の国語科教員数

1. 専任者　　名　2. 兼任者　　名

d　あなたの現在の学校の毛筆習字は

1. 国語科教員全員で指導
2. 国語科教員のうちの一部で指導
3. 国語科以外の教員が指導
4. 特別の非常勤講師を依頼
5. 校長または校務主任が指導

e　あなた自身の現在の国語科の受持ち

1年生　　学級　　名
2年生　　学級　　名　｝総時間数……週　　時間
3年生　　学級　　名

f　あなた自身の，その他（e以外）の校務分掌

（　　）

質問 2　漢字学習指導の方法

a　教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程

教科書による，ふつうの国語の授業における漢字学習指導の過程の例として，次のようなものを考えました。あなたの場合，実際にはこれがどうなっているでしょうか。例にならってお書きください。

（例）
① 教科書の読みをとおしての正確な音声化（A）
↓
② 文章中での文脈的理解（B）
↓
③ 摘出しての語句単位での理解（C）
↓
④ 分解による文字単位での理解（D）
↓
⑤ 応用的，発展的理解と練習（E）
↓
⑥ 練習による態度化（F）

（記入欄　1）

上の例をごらんになって，あなたの場合は，次のどれでしょうか。

イ　内容，順序とも例と同じ

ロ　内容はほぼ同じになるが，順序が違う（この場合は，A・B……の記号でその順序を下にお書きください。）

（　　）

ハ　例とは違った指導過程をとっている。

〔この場合は（記入欄　2）にお書きください〕

（記入欄　2）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）
⑥（　　）
○（　　）

b　教科書以外の漢字の取り立て指導

1.　教科書の読解の場合に指導する以外に，次のような指導をしているでしょうか。

イ　主として教科書で習ったものの練習学習

（i）　その教材なり，単元なりが終わったところでの練習学習

（ii）　1週間に何回かの特別の時間をきめての練習学習

（iii）　ある時まとめて（期末，その他）の練習学習

ロ　教科書と関係のない，ワーク・ブック，テスト・ブックなどを使っての練習学習

（i）　している　　（ii）　していない

ハ　自分で組み立てたり，あるいは，何かの参考書を利用して作ったりの，漢字についての知識や技能を増すための特別なレッスン

（i）　している　　（ii）　していない

2.　テスト

イ　漢字のテストは，どういう時機に行なっているでしょうか。

（i）　毎週行なっている。

（ii）　小単元が終わったところで行なっている。

（iii）　単元の終わったところで行なっている。

（iv）　その他

ロ　テストに出す漢字のソース

（i）　教科書に提出されている漢字の中から

（ii）　教科書以外の教材の中から

（iii）　当用漢字の中から

（iv）　当用漢字以外の漢字から

（v）　その他

ハ　答案に，略字・旧字体の漢字が出てきた場合の処理はどうしていますか。

（i）　略字

（　　）

（ii）　旧字体の字

（　　）

質問 3　漢字学習指導の内容

a　熟語の指導の場合，その語を構成している漢字の一字一字の意味を指導しているでしょうか。

1.　一字一字の意味の指導が，その語の理解に必要と判断したとき指導している。

2.　語としては指導しているが，一字一字の意味にはふれない。

3.　その熟語が音読みの熟語で，一字一字の意味の指導がその語の理解に必要と判断したときに指導している。

4.　指導するかしないかは，その時の事情による。

5.　その他

b　当用漢字の指導で，音訓表に示された以外の読みにふれることがあるでしょうか。

1.　ふれたことがある。

あるとすれば，それはどんな漢字の場合でしたか。できれば，それら

の漢字をいくつかお示しください。

（　　）

また，その理由としては，どんなことが考えられるでしょうか。

（　　）

2. ふれたことがあるように思う。
3. ふれたことはない。

c　教科書による授業の中で，取り出して指導している漢字はどれでしょうか。

1. 新出漢字の全部
2. 新出漢字のうち，生徒にとって抵抗が大きいと思われるもの
3. 既習漢字のうち，習得率の低いもの
4. その他（　　）

d　上記cの指導の場合，音訓についてはどうなっているでしょうか。

1. 教科書の文脈での読みだけを指導している。
2. 教科書の文脈での読みが音だけであるばあい，なるべくその漢字の訓（それがあれば）も指導するようにしている。
3. 教科書の文脈での読みが訓だけの場合，なるべくその漢字の音（それがあれば）も指導するようにしている。
4. 教科書の文脈での読みが訓であれば，音にふれることはほとんどない。
5. その他（　　）

e　筆順について，なにか指導しなければならないようなことがあったでしょうか。

1. あった。

あったとすれば，それは筆順のどういう点についてでしょうか。な

るべく具体的にお示しください。

（　　）

2. なかった。

f　作文の中で漢字を指導しているでしょうか。

1. 事後処理として，誤字・誤用などの漢字を訂正して返している。
（i） かならず　（ii） だいたい　（iii） その時の事情による
2. 知っている漢字は，なるべく多く使って書くように指導している。
3. 漢字を使うときは，たしかに知っている字を使うように指導している。
4. 自信のない字は，知っている人に聞くなり，辞書で引くなり，なるべく確かめてから書くように指導している。
5. ノート検査によって，正しく書くことの態度化を図っている。
6. その他（　　）

h　部首の知識を利用した漢字の指導をなさっているでしょうか。

1. した。
2. しなかった。

i　部首についてなにか指導をなさったでしょうか。

1. まとめては行なってはいないが，必要に応じてふれてきた。
2. 漢和辞典を利用して指導してきた。
3. 生徒の自発学習にまかせてきた。
4. その他（　　）

j　熟語の語構成（たとえば，登山・下山，春雨・春風，先端・道路……などの語の中に見られる構成上の共通点や相異点）についての指導はどうなさっているでしょうか。

1. 計画的に指導している。
2. 必要に応じて，そのときどきに指導してきた。
3. それにはふれていない。

4. その他（　　）

k　他教科へのサービス（たとえば，「この漢字は理科の用語に使われる字だからよく教えておいてやろう」というようなこと）として指導したりすることがありますか。

1. サービスを意識して指導したことがあり，その対象はおもに　　科　　科である。
2. その事実はあるが，特にどの教科ということはない。
3. 他教科へのサービスを意識して指導したことはない。
4. その他（　　）

l　あなたの学校の国語科以外の教科で，漢字の学習指導が行なわれているでしょうか。

1. 指導しているということを他教科の人などから聞いたこと（見たこと）がある（　　科　　科）
2. 指導しているかどうかわからない。
3. 指導していないらしい。
4. その他（　　）

質問 4　その他の指導

a　辞書指導（漢和辞典について）

1. あなたは，今年度になってから，漢和辞典の使い方について指導されたでしょうか。
   - イ　指導した（その学年は　1年生，2年生，3年生）
   - ロ　指導の必要を認めているがまだやっていない。
   - ハ　使用の仕方については，生徒がすでに知っていたので指導の必要がなかった。
   - ニ　その他（　　）
2. 漢和辞典を利用した授業をなさっているでしょうか。
   - イ　してきた。

その場合，どんなふうに利用されましたか。

（　　）

ロ　してこなかった

ハ　その他（　　）

3.　漢和辞典を生徒にどのように使わせていますか。

イ　授業中自由に使わせている。

ロ　休み時間や放課後などに使わせている。

ハ　家で予習・復習のときに使わせている。

ニ　その他（　　）

b　副教科書，ワーク・ブック

1.　漢字学習中心の副教科書，ワーク・ブックなどを使わせていますか。

イ　使わせている

ロ　使わせていない

2.　漢字学習を含む副教科書，ワーク・ブックなどを使わせていますか。

イ　使わせている

ロ　使わせていない

c　家庭学習

1.　漢字学習を宿題として家でやらせていますか。

イ　やらせている（月に　　回ぐらい）

ロ　やらせていない。

2.　やらせている場合，それは主として漢字学習のどういうことについてですか。

イ　書きの練習

ロ　難語句の読みや意味を調べる一環として

ハ　その他（　　）

3.　特別に行なっている漢字の学習指導

漢字の学習指導上，なにか特別に行なっていることがあるでしょう

か。ありましたら，それをお書きください。

イ　先生個人として

（　　）

ロ　学校，または地域として

（　　）

質問 5　漢字学習指導に対するあなたのご意見

a　中学校卒業までに身につけさせたい漢字力は？

1.　別表外当用漢字（969字）について

イ　読み，書きともに完全に身につけさせたい。

ロ　読みだけは完全に身につけさせたい。

ハ　その他（　　）

2.　当用漢字外の漢字について

イ　ルビつきで出してあればよい。特に指導する必要はない。

ロ　必要のある漢字については指導しなければならない。（だいたい　字ぐらい）

ハ　その他（　　）

b　漢字学習指導のあるべき姿について，あなたはどうお考えでしょうか。400字以内ぐらいでお書きください。

（　　）

c　漢字学習指導の観点から，小学校に要望したいことがありましたら，簡単にお書きください。

（　　）

◎　回答者の氏名・所属など（1，2，5については，さしつかえなかったらお書きください）

1.　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿　2.　年齢＿＿＿＿

3.　学校名　　県　　市・郡　　中学校

4.　教職経験年数　　年（うち中学校　　年）

5.　何かの研究団体に所属している場合，
その所属団体名

（　　）

（参　考）　II

当用漢字の音訓表外のよみについての指導

漢字学習指導の実態に関する質問紙調査 質問 3—bに「当用漢字の指導で，音訓表に示された以外の読みにふれることがあるでしょうか」という質問がある。これに対して「ふれたことがある」と答え，かつ例示してくれた漢字とその読みをA・B両地域について一覧できるようにしたのがこの表〈表1，表2〉である。

表中の数字は頻度数を示し，○印は，音訓表以外の読みにふれたことまではわかっているが，どういう読みについてなのかがわかっていないことを示す。

〈表1〉は一字一字についての読みの指導の場合の例であり，〈表2〉は，いわゆる熟字訓としての指導の例である。

＜表1＞一字一字の読み

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
亜ア	○	1							1
哀アイ・あわれ			○	1			○	1	2
愛アイ	めでる・え	3	いとしい	1					4
悪アク・わるい	オ	6	オ	1	オ	1	オ	2	10
扱あつかう	○	1							1
暗アン・くらい			やみ	1					1
依イ・エ	よる	3	○	1	よる	1	○	1	6
委イ			○	1					1
慰イ							○	1	1
為イ	ため	4			○	1	ため・なす	3	8
遺イ・ユイ	のこす	2					○	1	3
育イク・そだてる							はぐくむ	2	2
一イチ・イツ・ひとつ					はじめ	1			1
印イン・しるし	○	1							
隠イン・かくれる	オン	2	オン	2					4
永エイ	ながい	3	○	1			○	1	5
詠エイ	よむ	2			○	1	よむ・うたう	3	6
衛エイ			○	1					1
易エキ・イ	やすい	2	○	1			やすい	2	5
益エキ					ます	1			1
悦エツ	よろこぶ	2					○	1	3
閲エツ					○	1			1
園エン・その	オン	2							2
円エン			○	2					2
宴エン	○	1	うたげ	2	うたげ	2		1	6

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
援エン			○	1			○	2	3
汚オ（けがす）	よごす	7	よごす	1			よごす・きたない	7	15
央オウ			○	1					1
往オウ			○	1	ゆく	1	○	2	4
殴オウ	なぐる	3	○	1					4
翁オウ	おきな	3					おきな	2	5
憶オク	○	1							1
乙オツ	イツ・オト	2							2
下カ・ゲ（した・しも・もと・くだる・さげる）	おろす	1							1
佳カ			○	1					1
夏カ（なつ）			ゲ	1					1
家カ・ケ（いえ・や）	うち	4			うち	1	うち	4	9
河カ			かわ	2			○	1	3
禍カ	わざわい	3	○	1			○	1	5
寡カ					○	1			1
華カ	はな	3			○	1	はな	2	6
画ガ・カク							えがく	1	1
雅ガ	○	1	○	1					2
餓ガ	○	1							1
介カイ			○	1					1
塊カイ	かたまり	3	○	1			○	1	5
壊カイ	こわす	2			○	1			3
怪カイ（あやしい（あやしむ））	○	1	○	1					2
懐カイ	ふところ・なつかしい	6	ふところ	3	○	1	なつかしい	3	13
外ガイ・ゲ（そと・ほか）	○	1							1
慨ガイ	なげく	1							1

	B地域		A地域						計
			神奈川		千葉		青森		
街ガイ	まち	4	まち	2			まち	3	9
拡カク	ひろげる	2	ひろげる	2			○	1	5
角カク つの	かど	3			かど	1	かど・すみ	2	6
較カク	くらべる	1							1
革カク			○	1	○	1			2
括カツ	くくる	2					○	1	3
活カツ	○	1							1
渇カツ かわく	○	3					○	1	4
滑カツ	なめらか	2	○	1			○	1	4
乾カン	かわく	2	○	1					3
勧カン すすめる	○	1							1
巻カン まく	ケン	1							1
喚カン							わめく	1	1
寛カン	○	1	○	1			○	1	3
患カン	わずらう	1	○	1					2
敢カン							○	1	1
歓カン	よろこび	6	よろこび	2	○	1	○	1	10
環カン	○	1					わ	1	2
看カン	みる	3	○	1	みる	1			5
緩カン	ゆるやか	4					ゆるい	2	6
観カン	みる	4	みる	2			○	1	7
還カン	ゲン	1	○	1			○	1	3
閑カン	○	3	○	1	○	1	○	1	6
間カン・ケン あいだ・ま							○	1	1
眼ガン まなこ	め	1							1
奇キ	○	2							2

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
希キ	○	1							1
棄キ	すてる	4							4
記キ	しるす	2	しるす	1	しるす	2	○	1	6
貴キ			○	1			○	1	2
宜ギ	○	1	○	1					2
技ギ	わざ	3					○	1	4
擬ギ	○	1							1
義ギ			○	1					1
議ギ			○	1					1
吉キチ			○	1					1
却キャク	かえって	1	○	1					2
脚キャク	ギャ あし	4	○	1	ギャ	1	ギャ あし	5	11
虐ギャク	しいたげる	1							1
球キュウ							○	1	1
究キュウ	きわめる	3							3
窮キュウ きわめる（きわまる）							○	1	1
拒キョ こばむ							○	1	1
拠キョ・コ	よりどころ	1							1
挙キョ	あげる	4			あげる	1	あげる	2	7
虚キョ・コ							むなしい	1	1
御ギョ・ゴ おん	お・み	6	お	3	○	1	○	1	11
魚ギョ うお	さかな	16	さかな	5	さかな	3	さかな	10	34
享キョウ	うける	1					○	1	2
京キョウ・ケイ	キン	1							1
強キョウ・ゴウ つよい（つよめる）							しいる	1	1
恐キョウ おそれる・おそろしい							こわい	1	1

	B 地域		A 地域 神奈川		A 地域 千葉		A 地域 青森		計
恭キョウ	うやうやしい	3							3
郷キョウ・ゴウ					○	1			1
業ギョウ・ゴウ	わざ	1							1
極キョク・ゴク	○	1							1
勤キン つとめる（つとまる）							ゴン	1	1
均キン							○	1	1
謹キン	つつしむ	4	つつしむ	2					6
具グ			○	1					1
空クウ そら	から	3					むなしい	2	5
遇グウ	○	1			あう	1			2
屈クツ	かがむ	1							1
勲クン	いさお	1			○	1			2
薫クン	かおる	1					○	1	2
径ケイ			○	1	○	1			2
兄ケイ・キョウ あに	○	2	にい	1			○	1	4
慶ケイ	よろこぶ	2					よろこぶ	1	3
啓ケイ	もうす	1							1
憩ケイ	いこう	4							4
傑ケツ	○	3							3
検ケン	○	1	○	1			○	1	3
懸ケン・ケ	○	1			○	1			2
験ケン	ためす	2	ためす	2					4
顕ケン	あらわす	1	○	1					2
研ケン	とぐ	1							1
遣ケン	つかわす	5							5
厳ゲン・ゴン	きびしい	5					○	2	7

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
現ゲン あらわれる（あらわす）	うつつ	1							1
己コ・キ	おのれ	4	おのれ	2			○	1	7
故コ	ゆえ	3			○	1			4
弧コ	○	1							1
湖コ みずうみ	うみ	1							1
護ゴ	○	1	○	1			○	1	3
午ゴ			うま	1			うま	3	4
香コウ か	かおり	2	○	1			○	1	4
購コウ			○	1	○	1			2
鋼コウ			○	1			○	1	2
後コウ・ゴ のち・うしろ	あと	2			○	1	あと	2	5
硬コウ	かたい	4	かたい	1			かたい	1	6
后コウ	きさき	2	きさき	1					3
孔コウ	あな	1	○	1					2
恒コウ			○	1					1
功コウ・ク			○	1					1
講コウ			○	1					1
肯コウ	うべなう	1	○	1					2
甲コウ					○	1			1
抗コウ					○	1			1
慌コウ	○	1			あわてる	1			2
貢コウ	みつぐ	2					みつぐ	1	3
稿コウ							○	1	1
効コウ							○	1	1
更コウ さらに			○	1					1
候コウ	そうろう	3							3

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
坑コウ	あな	1							1
幸コウ さいわい	さち	1							1
康コウ	やす	1							1
剛ゴウ							○	1	1
合ゴウ あう							カッ	1	1
克コク			○	1					1
谷コク たに	ヤ	1							1
酷コク	むごい	2							2
詐サ	○	1	○	1					2
唆サ	○	1							1
座ザ					すわる	1			1
最サイ もっとも			○	1	も	2			3
際サイ	きわ	1							1
歳サイ・セイ	とし	1							1
裁サイ たつ	さばく	1							1
在ザイ	ある	5							5
搾サク	○	1							1
擦サツ	さする	1							1
惨サン	○	1							1
賛サン	たたえる	1							1
産サン うぶ	うぶ	1							1
暫ザン	しばらく	2	○	1					3
私シ わたくし	わたし	6	わたし	4	○	1	わたし	2	13
視シ	○	1	みる	2			○	1	4
詞シ	ことば	1			○	1	ことば	1	3
司シ					○	1			1

	B 地域		A 地域 神奈川		A 地域 千葉		A 地域 青森		計
姉シ・あね	○	1					○	1	2
士シ			さむらい	2					2
市シ・いち	まち	1							1
支シ	○	1							1
止シ・とまる（とめる）	やむ	1							1
師シ	○	1							1
辞ジ	ことば	1			○	1	ことば	1	3
慈ジ	いつくしむ	1	いつくしむ	2					3
侍ジ・さむらい			○	1					1
滋ジ	○	1							1
時ジ・とき	ト	3							3
自ジ・シ・みずから	おのずから	2							2
室シツ・むろ							へや	1	1
疾シツ	○	1							1
質シツ・シチ			○	1					1
赦シャ	ゆるす	1			○	1			2
邪ジャ	よこしま	1							1
若ジャク・わかい・もしくは	○	1			ニャク	1			2
寂ジャク・さびしい	セキ	2							2
主シュ・ス・ぬし	あるじ	1					おも	1	2
守シュ・ス・まもる	もり	1							1
首シュ・くび	こうべ	1							1
朱シュ	あけ	1							1
樹ジュ	き	2							2
寿ジュ・ことぶき			○	1					1
愁シュウ			うれえる	1					1

	B 地域		A 地域 神奈川		A 地域 千葉		A 地域 青森		計
周シュウ	○	1							1
秀シュウ	ひいでる	3					すぐれる	1	4
酬シュウ							○	1	1
就シュウ・ジュ	つく	4							4
囚シュウ	とらえる	2							2
従ジュウ したがう			ショウ	1			○	1	2
淑シュク					ショウ	1			1
出シュツ・スイ でる・だす	いずる	1			いずる いだす	2			3
瞬シュン	○	1					またたく	1	2
俊シュン					○	1			1
盾ジュン	たて	1	○	1	○	1			3
書ショ							ふみ	1	1
緒ショ お	チョ	7	チョ	2					9
諸ショ	もろもろ	1							1
初ショ はじめ・はつ・はじめて	そめる	1							1
処ショ	○	2							2
女ジョ・ニョ おんな					おな	1			1
除ジョ のぞく	ジ	3					ジ	3	6
徐ジョ	おもむろ	2							2
如ジョ・ニョ	ゴトシ	2							2
焦ショウ こげる（こがす）			あせる	1					1
賞ショウ					○	1			1
昇ショウ	のぼる	5					のぼる	1	6
匠ショウ							○	1	1
粧ショウ					よそおう	1			1
掌ショウ	たなごころ	1							1

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
昭ショウ	あきらか	1							1
笑ショウ わらう	え	1							1
小ショウ ちいさい・こ・お	さ	1							1
奨ショウ	すすめる	1							1
丈ジョウ	たけ	1					たけ	1	2
浄ジョウ							○	1	1
醸ジョウ					○	1			1
殖ショク	○	1							1
食ショク・ジキ くう・たべる	はむ	1							1
辱ジョク	はずかしめる	1							1
信シン					まこと	1	のぶ	1	2
診シン	みる	1							1
審シン			○	1					1
親シン おや・したしい			○	1					1
辛シン からい			つらい	1					1
薪シン	○	2							2
仁ジン							○	1	1
垂スイ	たれ	2					○	2	4
炊スイ							○	1	1
随ズイ	○	1							1
数スウ かず・かぞえる	ズ	1							1
生セイ・ショウ いきる・うまれる・き・なま	はえる	2					○	1	3
績セキ	○	1							1
拙セツ	つたない	1					○	1	2
節セツ ふし					セチ	1			1
先セン さき（さきんずる）					まず	2			2

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
宣セン	のべる	2	のべる	1					3
鮮セン	あざやか・すくない	5					あざやか	3	8
薦セン	すすめる	1							1
専セン	もっぱら	1							1
践セン							○	1	1
潜セン ひそひ(ひそめる ひそまる)	○	1							1
遷セン			うつす						1
全ゼン まったく							すべて	1	1
然ゼン・ネン			○	1					1
漸ゼン	ようやく	2							2
素ソ・ス			もと	1			○	1	2
粗ソ					○	1	あらい	1	2
遭ソウ	あう	2			あう	2	○	1	5
想ソウ	○	2	○	1	おもう	1			4
操ソウ みさお					○	1			1
創ソウ	はじめる	1					○	1	2
総ソウ							すべて	1	1
荘ソウ							ショウ	1	1
双ソウ	○	1							1
早ソウ はやい(はやめる はやまる)	さ	1							1
奏ソウ	かなでる	1							1
即ソク	すなわち	2	すなわち	1			すなわち	1	4
尊ソン たっとい	とうとい	3	とうとい	5	とうとい	2	とうとい	3	13
他タ	○	1			○	1			2
堕ダ	おちる	1							1
体タイ・テイ	からだ	5			からだ	1	からだ	4	10

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
対タイ・ツイ							○	1	1
怠タイ おこたる	なまける	1					なまける	1	2
代ダイ かわる（かえる）・よ	しろ	1							1
達タツ	ダチ・タチ	6			タチ	1	ダチ	1	8
担タン							になう・かつぐ	2	2
探タン さぐる	さがす	1							1
淡タン あわい	うすい	1							1
男ダン・ナン おとこ	お	1							1
弾ダン	たま	1							1
遅チ おくれる	おそい	1					おそい	2	3
稚チ	おさない・わかい	2	○	1					3
地チ・ジ	つち	2							2
致チ	いたす	2							2
蓄チク			たくわえる	1					1
沢タク さわ					○	1			1
築チク きずく							つく	1	1
茶チャ	○	1	サ	2	サ	1			4
駐チュウ			○	1					1
抽チュウ	○	1							1
中チュウ なか	あたる	1							1
貯チョ			たくわえる	1					1
跳チョウ	とぶ	3	○	1			とぶ	2	6
超チョウ			○	1			○	1	2
脹チョウ			○	1					1
聴チョウ	きく	1	きく	1					2
朝チョウ あさ	あした	1							1

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
徴チョウ	○	1							1
勅チョク	みことのり	1							1
鎮テン	しずめる	1	しずめる	1	○	1			3
津つ	○	1							1
墜ツイ							○	1	1
程テイ	ほど	3					ほど	1	4
邸テイ							○	1	1
貞テイ							○	1	1
停テイ	○	1							1
弟テイ・ダイ おとうと			○	1					1
敵テキ			かたき	1					1
滴テキ	○	1							1
点テン	ともす	1							1
転テン	ころぶ	3							3
怒ド いかる	おこる	1	おこる	1			○	1	3
奴ド	やっこ	3					○	3	6
凍トウ こおる・こごえる			いてる	1					1
頭トウ・ズ あたま	ジュウ かしら	4	○	1					5
東トウ ひがし	あずま	1			あずま	1			2
兆チョウ	きざし	1							1
等トウ ひとしい					ら・など	2			2
燈トウ	ドン ひ	5					ドン	1	6
到トウ	いたる	1	○	1					2
闘トウ	○	1			○	1			2
唐トウ	○	1							1
騰トウ	あがる	1							1

	B 地域		A 地域 神奈川		A 地域 千葉		A 地域 青森		計
悼トウ	○	1							1
銅ドウ					○	1	あかがね	1	2
得トク・える	うる	1							1
匿トク	かくす	1							1
篤トク	あつい	1							1
読ドク・トク・よむ	トウ	1			トウ	2			3
独ドク	○	2					○	1	3
難ナン・かたい	むずかしい	1					むずかしい	2	3
軟ナン	やわらかい	1							1
入ニュウ・いる	ジュ・ニッ はいる	8	はいる	2	ジュ はいる	3	ジュ はいる	7	20
乳ニュウ・ち	ジュ	1							1
寧ネイ	むしろ	1							1
能ノウ							○	1	1
箱はこ	○	1							1
伐バツ	きる	2							2
繁ハン	しげる	1	しげる	1	○	1			3
判ハン	○	1					ホウ	1	2
畔ハン	あぜ	1			ほとり・あぜ	2			3
反ハン・タン	ホ	1							1
煩ハン・わずらわしい(わずらわす・おずらう)					○	1			1
番バン			つがい	1					1
碑ヒ	いしぶみ	1							1
非ヒ	○	1							1
美ビ・うつくしい	ミ うるわしい	3					ミ	1	4
廃ハイ	○	1							1
微ビ	○	1	○	1			かすか	1	3

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
泌ヒツ			ヒ	1					1
百ヒヤク					もも	3			3
病ビョウやむ・やまい	ペイ	1							1
敏ビン							さとい	1	1
父フちち	とう	15	とう	3	とう	5	とう	1	24
扶フ	○	1			たすける	1			2
赴フ	おもむく	2							2
普フ	○	2							2
部ブ	へ	2							2
副フク	そえる	2							2
文ブン・モン	ふみ・ふ	2							2
併ヘイ	あわせる	2					あわせる	1	3
兵ヘイ	つわもの	2							2
遍ヘン			○	1			○	1	2
辺ヘン					べ	1	べ	1	2
偏ヘン	かたよる	1							1
勉ベン	つとめる	3							3
母ボはは	かあ	12	かあ	3	かあ	7	かあ	1	23
豊ホウゆたか	とよ	1							1
崩ホウ	くずれる	2							2
奉ホウたてまつる							べ	1	1
亡ボウ	ほろびる	2			○	1	○	1	4
傍ボウ	ホウ かたわら	4	○	1					5
暴ボウ・バク					○	1			1
凡ボン	ハン	1	ハン	1			ハン	1	3
毎マイ					ごと	1			1

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
未ミ	いまだ	1	○	1					2
魅ミ	ひく	2							2
妙ミョウ	たえ	1	たえ	1					2
矛ム	ほこ	1	ほこ	2	○	1			4
娘むすめ	こ	1							1
明メイ・ミョウ あきらか・あける・あかるい			ミン	1					1
面メン おも・おもて					つら	3	つら	1	4
盲モウ めくら			めしい	1					1
躍ヤク	おどる	1							1
諭ユ	さとす	3							3
愉ユ	○	1							1
優ユウ やさしい			○	1			○	1	2
融ユウ	とける	1			○	1			2
遊ユウ あそぶ	ユ	1							1
唯ユイ	○	2							2
予ヨ	○	1							1
抑ヨク	おさえる	1							1
欲ヨク ほっする	ほる	1							1
来ライ くる	きたる	2							2
濫ラン			○	1	○	1			2
理リ			ことわり・みち	2					2
履リ	ふむ	1							1
陸リク	くが・おか	2					くが	1	3
立リツ たつ	リュウ	2							2
柳リュウ やなぎ	○	1							1
慮リョ	おもんばかる	3							3

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
虜リョ	とりこ	1							1
糧リョウ	かて	2			かて	1			3
領リョウ			○	1					1
了リョウ	おわる	1							1
類ルイ	○	1							1
例レイ	たとえ	1							1
烈レツ	はげしい	2							2
露ロつゆ	ロウ	1							1
路ロじ	○	1					○	1	2
浪ロウ					○	1	○	1	2
楼ロウ	○	1							1
腕ワンうで	かいな	1					かいな	1	2

＜表2＞熟字訓としての読み

	B 地域		A 地域 神奈川		千葉		青森		計
馬酔木					あしび	1			1
明日					あす	2	あす	1	3
貴方	あなた	1							1
海女					あま	1			1
十六夜					いざよい	1			1
田舎					いなか	1			1
所謂	いわゆる	1							1
団扇					うちわ	1			1
美味(しい)					おいしい	1			1
叔父	おじ	1	おじ	1					2

	B 地域		A 地域						計
			神奈川		千葉		青森		
伯父	おじ	1	おじ	1					2
大人	おとな	1					おとな	1	2
叔母	おば	1							1
女郎花			おみなえし	1					1
風邪							かぜ	2	2
如月	ききさらぎ	1			ききさらぎ	1			2
昨日					きのう	2	きのう	1	3
今日			きょう	4	きょう	2	きょう	1	7
姉妹	きょうだい	1							1
郷里	くに	1							1
小人							こども	1	1
流石			さすが	1					1
五月雨	さみだれ	1			さみだれ	2			3
上手							じょうず	1	1
相撲	すもう	1							1
台詞					せりふ	1			1
松明			たいまつ	1					1
七夕	たなばた	1							1
煙草					たばこ	1	たばこ	2	3
足袋	たび	2	たび	1					3
梅雨	つゆ	1							1
何処							どこ	1	1
就中							なかんずく	1	1
雪崩			なだれ	1					1
長閑							のどか	1	1
鋼鉄	はがね	1							1

	B 地域		A 地域						計
			神奈川		千葉		青森		
等閑	ひっそり	1							1
吹雪	ふぶき	1							1
下手							へた	1	1
土産					みやげ	1			1
百足					むかで	1			1
陸奥							むつ	1	1
山羊					やぎ	1			1
浴衣	ゆかた	1			ゆかた	1			2
山葵					わさび	1			1

（根本今朝男）

資　料　I

教科書における漢字の出現状況に関する研究

1. 調査の目的

中学生が漢字を習得する要因も，小学生の場合と基本的に異なるものではない。学校で先生にならうほかに，家庭で両親や兄・姉たちに教えられることもあるであろうし，本やテレビをとおして自分でおぼえることもあるにちがいない。そのほか，町で見かける看板や標識，それに，家族や親戚や知人・友人の名とか住所とかに使われている漢字をいつのまにか記憶したりすることも考えられる。また，そのときにおぼえなくても，のちに学んだおりに，そういった経験がその漢字の習得に役だつこともあるかもしれない。中学生になれば，その行動範囲がいっそう広がるので，思いもよらない習得経路をとるケースがますますふえてきて，習得過程がそれだけ複雑になる。しかも，習得は１つの要因によってきまるというよりも，実際には，習得を可能にするいくつかの因子がたがいにかかわりあって作用していることが多いであろう。その因子の組合わせも，またその力関係も，それぞれに異なるであろう。こういった外的な条件のほかに，それをうけとめる人間の側の問題もある。内的な条件，たとえば，個人的な経験とか性質とか知能とかも，いろいろな度あいではたらくであろう。また画数が多いか少ないか，偏旁冠脚への分解が容易かどうか，類意の異字や，形の酷似した別字などが多いかどうか，あるいは，点があるかどうか，つきぬけるかどうか，はねるかとめるかなど，字形のとりやすさの程度といった，漢字そのものの側の条件も，ある場合には強く，ある場合には弱く，習得の難易にひびくであろう。習得を規定する条件には，大きくわければ，以上の３つの面がある，と考えられる。すなわち，１つは，漢字そのものの条件，１つは人間の側の条件，もう１つは，その両者の接触の条件である。

とはいえ，漢字を意識的にとりあげる国語科はもちろん，その他の教科においても，ともかく教科書をとおしての経験が，漢字習得のかなりの部分をしめることも確かである。そして，常識的には，もっとも強い因子であると考えられる。また，上にあげた諸要因のうちでは，他がいちじるしく個人差があるこ

とを考えあわせると，もっとも集団的にとらえやすく，比較的，調査の容易な因子であると推測される。

そういう意味から，ここでは，中学生の漢字習得に関する調査および研究の一環として，習得状況の追跡調査の対象となった生徒たちが使用した教科書における漢字出現の状況を調べ，読み書きテストの成績との連関を示すことにより，その習得要因の考察に1つの参考資料を提出しようとするものである。したがって，上にあげた習得を規定する条件の3つの面のうちの3番め，すなわち，漢字と人間との接触の条件の一部に関係することとなる。

2. 調査結果の意義と限界

この調査は，あくまで習得要因の1つをさぐるためのものであり，けっして，中学校の教科書における漢字使用状況の一般的な実態をおさえようとしたものではないし，各教科書における漢字提出の問題点を指摘することによってその改善をはかるものでもない。まして，一つの理想をうちだそうとする姿勢などはまったくなかった。このことを明記しておく。「提出状況」とも「使用状況」ともせずに，「出現状況」としたのも，この調査の目的と方法からみて，調査内容をできるだけ忠実に表現しようとしたからにほかならない。「提出」という語が，なにかを教えるために人の前にさしだすことだとすれば，「漢字提出」といえるのは，国語教科書の本文の場合ぐらいのものであると考えたのである。また，「使用」という語は，「提出」ほど目的意識があらわではないにしても，多分に意識的であることにかわりはない。しかし，この調査では，国語以外の教科書にもわたるし，また，いわゆる本文にかぎらず，説明図や年表，それに参考資料や表紙をも調査範囲としたので，「意識」が問題とならない「出現状況」としたわけである。

調査目的からいって，この結果から，中学校の教科書における漢字出現状況の一般的傾向を知るためには，次の諸点で適性を欠くと考えられる。

① 被調査者である8人が用いた教科書に限ったこと，しかもその8人が同一

校の同一学年の生徒であることのために，調査の対象となった教科書の種類が少ない。

② 8人の被調査者の在学中に，ほとんどの教科において，使用教科書の採用に変更があったので，調査対象となった教科書に，資料としての系統性がない。

③ 教育漢字のうち，被調査者のほとんど全員が中学入学時のテストで読み書きともに正しく答えた漢字については，小学校時代に習得できたと考えられるので，中学校時代の習得要因の探索には無意味と判断し，今回は調査しなかったことから，個人的な結果にもとづいて選択された字種をあつかい，一般的には問題の多い字種を対象からはずした危険もないとはいいきれない。

ただし，上のような点をわりびけば，厳密にではないまでも，一般的状況のおおよその傾向をつかむことはできる，ということにもなるであろう。

3. 調 査 の 資 料

まず，追跡調査の対象になった8人の生徒が，中学校在学中にどういう漢字をどのように学んだかを知るためにもっとも重要だと推測される国語の教科書を詳細に調べる必要がある。そこで，8人の被調査者が使用した次の3冊をとりあげた。

『中等国語』1年用（三省堂・昭和38年版）

『中等国語』2年用（三省堂・昭和38年版）

『中等国語』〈新訂版〉3年用（三省堂・昭和41年版）

また，いっぽうで，もう少し広く考え，8人の被調査者が中学校在学中にどういう漢字にどういう形で接したかの一端を知るために，他教科，すなわち国語以外の教科書についても調べることが必要である。そこで，被調査者の8人が使用した次の8教科29冊の教科書をもとりあげることにした。

数学：5冊

『中学数学』〈数量編〉1年用（教育出版・昭和39年版）

『中学数学』〈図形編〉1年用（教育出版・昭和39年版）

『中学数学』〈数量編〉2年用（教育出版・昭和39年版）

『中学数学』〈図形編〉2年用（教育出版・昭和39年版）

『中学新数学』3年用（啓林館・昭和41年版）

社会：5冊

『中学社会』1年用〈地理〉上（三省堂・昭和39年版）

『中学社会』1年用〈地理〉下（三省堂・昭和39年版）

『中学社会』2年用〈歴史〉上（三省堂・昭和39年版）

『中学社会』2年用〈歴史〉下（三省堂・昭和39年版）

『中学社会』3年用（日本書籍・昭和41年版）

理科：3冊

『中学校理科』1年用（大日本図書・昭和39年版）

『中学校理科』2年用（大日本図書・昭和39年版）

『新しい科学』3年用（東京書籍・昭和41年版）

英語：3冊

'NEW PRINCE READERS' 1年用（開隆堂・昭和38年版）

'NEW PRINCE READERS' 2年用（開隆堂・昭和38年版）

'THE JUNIOR CROWN ENGLISH COURSE' 3年C用（三省堂・昭和42年版）

音楽：3冊

『中学音楽』1年用（教育芸術社・昭和38年版）

『中学音楽』2年用（教育芸術社・昭和38年版）

『中学生の音楽』3年用（音楽之友社・昭和40年版）

美術：3冊

『中学校美術』1年用（学校図書・昭和39年版）

『中学校美術』2年用（学校図書・昭和39年版）

『美術』3年用（日本文教出版・昭和41年版）

技術・家庭：6冊

『技術・家庭』〈男子用〉１年用（実教出版・昭和39年版）
『技術・家庭』〈男子用〉２年用（実教出版・昭和39年版）
『技術・家庭』〈男子用〉３年用（開隆堂・昭和41年版）
『技術・家庭』〈女子用〉１年用（実教出版・昭和39年版）
『技術・家庭』〈女子用〉２年用（実教出版・昭和39年版）
『技術・家庭』〈女子用〉３年用（学研書籍・昭和41年版）

保健体育・１冊

『中学保健体育』１～３年用（大修館・昭和39年版）

以上の９教科32冊のなかには，被調査者である８人の生徒の使用時期と，すなわち，１年用が昭和39年，２年用が昭和40年，３年用が昭和41年と，それぞれくいちがう年度の版もいくつかふくまれているが，被調査者の目にふれたものと内容面での違いはまったくない。また，後述するように，奥付は調査範囲からはずしたので，発行年度のくいちがいが調査の対象をゆがめるという問題は残らないはずである。

4. 調 査 の 範 囲

(1) 調査の対象とした漢字の範囲

出現する全漢字をとりあげることは，労力の関係でむりなので，対象が中学生であることを考え，教育漢字外当用漢字を中心にし，これに表外字を加える，という範囲を予定したのであるが，教育漢字についても，小学校卒業時までに習得しきれないのが現状だから調査の要ありとの声があったので，テスト結果から問題のありそうな漢字や音訓を，漢字との接触という点でもっとも重要な教科と思われる国語の教科書について調べることにした。したがって，ほとんどの生徒が正しく読み書きできたものはあつかっていない。「ほとんどの生徒が正しく読み書きできた」という判定には次の規準をもうけた。

中学入学時（４～７月）のテスト（ただし，てちがいでテストもれになった

いくつかについては，翌年の２～３月におこなった２回目のテスト）において，被調査者８人のうち７人以上が正しく書けた漢字について，７人以上が正しく読めた字音や字訓を調査対象から除外する。

ここで７人以上としたのは，１人ならまったく個人的な事情でまちがえたとも考えられるが，２人以上がまちがえた場合には意味のある誤りであると推測したからである。また，読み書きともに７人以上が正答，という条件なので，読むほうと書くほうとのどちらかに問題のある漢字や音訓は，すべて調査対象として残ることになる。具体的にいうと，「化」は７人が正しく書け，「カ」「ケ」「ばける」という２音１訓のどれも７人以上が正しく読めたので，習得したと判定し，その漢字については，仮に音訓表外の特殊な用法で出現したとしても，いっさい調査しなかった。しかし，「経」は７人が正しく書け，「キョウ」も「ケイ」も７人以上が正しく読めたが，「へる」という字訓は当初２人しか正しく読めなかったので，「キョウ」および「ケイ」と読む用例だけを捨て，その他の用法はすべて対象にとることにした。したがって，「へる」はもちろん，音訓表に認められていない「義経」の「つね」などの用例も拾うことになった。また，「再」は，字音の「サイ」も字訓の「ふたたび」もともに７人が正しく読めたが，書くほうで誤った者が４人あったので，「サイ」「ふたたび」をふくむすべての用法を調査の対象とした。逆に，正しく書けるのにどの音訓も正しく読めないというケースはほとんどなかったが，もしあれば，もちろん全用法について調査することにした。このほか，「型」のように「かた」は全員正しく読めたが「ケイ」は２人誤り，書くほうでも２人以上誤ったものと，「派」のように読みでも書きでも２人以上誤ったものとがあるが，いずれの場合も，ともかく書きにおいて条件を満たしていないので，読みの成績のいかんをとわず，全用例を調査の対象として残すことになるわけである。

いっぽう，教育漢字を除いた当用漢字については，それが中学生になってから学習される漢字なので，すべて，全教科の教科書にわたって調べることにした。

また，表外字についても，全教科の教科書を調査し，出現するものはすべて

あつかうことにした。

以上のべた，あつかう漢字の範囲をまとめると，次のようになる。

	教育漢字	教育漢字外当用漢字	表　外　字
国語科	*以外をあつかう	すべてあつかう	すべてあつかう
他教科	いっさいあつかわない	すべてあつかう	すべてあつかう

＊＝　①被調査者８人のうち７人以上が正しく書け，音訓表に認められている全音訓を７人以上が正しく読めた漢字の，いっさいの用例　②被調査者８人のうち７人以上が正しく書けた漢字の，音訓表に認められている音訓のうち，７人以上が正しく読めた字音や字訓の用例

調査する漢字の範囲は上にのべたとおりであるが，その範囲内の漢字であっても，次のような場合は除くことにした。

① たとえば，「相違」が正しく，「相異」と書いてはいけない，というときの「相異」とか，「除行」は誤りで，「徐行」が正しい，というときの「除行」とかのように，誤用の例を示したものはとらない。ただし，単なる誤植などの場合はそのまま拾い，注記する。

② たとえば，「挙」という漢字を漢和辞典で調べるというときの「挙」のように，読みを要求しない場合は，原カードにとるだけで，集計にはふくまず用例としても出さない。

③ たとえば，「開」の「門」や「鏡」の「竟」のように，偏旁冠脚を示しただけのものはとらない。

④ 国語の教科書で，たとえば，「うるさい」を昔は「五月蠅い」と書いたというときのように，古い表記法の見本を示したものはとらない。

⑤ 国語教科書で，変体がなの例を示したものはとらない。たとえば，「志」は「志」と，「古」は「古」と区別し，捨てる。

⑥ 国語教科書で，たとえば，「国→國」とか「変→變」とかのように，旧字体の見本を示したものはとらない。ただし，説明としてとりたてたものではなく，特にそう表記したもの，あるいはまぎれこんだものは，別にのべるようなあつかいをした。

調査する範囲の漢字であっても，上にあげた①～⑥のどれかに該当するものは，原則としてあつかわないことにしたわけである。

なお，字体の異なるものの処置について，ここでふれておく。1冊の本のなかに，同じ語が異なった字体で表記された例が出てくることもある。1例をあげると，数学の3年用の教科書では，187ページに「灯台」とあり，すこしあとの194ページには「燈台」とある。この調査の結果を整理する段階では，上のような字体の異なりは無視して集計などをすることにした。つまり，「灯」は「燈」と同じあつかいをうけるわけである。仮に，「燈」が5回出現し，「灯」が2回出現したとすれば，「燈」が7回出現したということになるし，「燈」が調査範囲外の漢字であれば，「灯」についても調査しないということになる。ただし，一覧表の用例欄には，両者を区別してかかげ，注記することにした。この類には，次のようなものがある。

殻と殼　缺と欠　圀と国　珎と珍　傳と伝　灯と燈　佛と仏　竜と龍

(2)　漢字の調査範囲

(1)でのべたことにもとづいて調査の対象になった漢字については，次のような項目を調査した。ただし，教育漢字で，音訓の一部を調査対象からはずした漢字の場合，はずれた字音や字訓についてはどの項目をも調べないことにした。

まず，教育漢字については，前述したように，国語の教科書だけの調査であるが，それぞれの漢字の全使用例を拾い，当該字の音訓ごとに分類し，各用例の学年別出現回数を調べた。たとえば，「育」は，字音「イク」も字訓「そだてる」も7人以上が正答を出しているので，この漢字についてはいっさい調査しない，「芽」は，「芽(め)」や「芽ばえ」として，1年に5回，3年に2回の計7回出ているが，「ガ」という字音の用例はなかった，「参」は，字音の「サン」は7人以上が正答を出しているので「サン」の用例については調査しないが，字訓の「まいる」を使ったものとしては，1年に「お参り」という形で1回出た，といったことがわかるように調査したわけである。

次に，教育漢字外当用漢字については，全教科の教科書を調べるわけであるが，969字の1字1字について，しかも，当用漢字音訓表に認められた各音訓にわたって，国語教科書では，上と同様の項目を調べた。この場合は全音訓にわたっているので，各音訓ごとの出現回数のほかに，その漢字としての出現回数もおさえることができる。他教科においても同様に調査すべきなのであるが，時間や労力の関係で，出現度数の調査は割愛し，用例ごとの教科別初出をおさえるにとどめた。たとえば，「侮」は，「ブ」としては「軽侮」という形で社会科の3年にあらわれただけであり，「あなどる」という訓の用例はどの教科にもあらわれなかったとか，「遂」は，「スイ」という音の用例としては，「遂行」として社会科の3年に，「未遂」の形で保健体育の3年の箇所にあらわれ，「とげる」のほうは，「遂げる」のほか「し遂げる」「なし遂げる」として，国語の2年用に5回，3年用に3回の計8回あらわれたとかいったことがわかるような調べかたである。

また，表外字は，出現した各字について，出現した各音訓ごとに，教育漢字外当用漢字と同じ項目を調査した。

以上をまとめると次のようになる。

国語科	各漢字・各音訓・各用例の学年別出現回数
他教科	各漢字・各音訓・各用例の教科別初出学年

(3)　教科書の調査範囲

2でのべたように，調査目的が，国語科における漢字提出の状況を把握するところにではなく，また，教科書の執筆者や編者の漢字使用の実態をおさえるところにでもなく，あくまで，被調査者である8人の生徒の目にどういう形でふれたかを知るところにあるので，調査範囲も，いわゆる本文の部分に限らず，できるだけ広く考えることにし，3にかかげた各資料について，次のようなものを除くすべてを調査することにした。

①　奥付は調査しない。ただし，表紙や扉，それに裏表紙などは，生徒の目に

かなりふれるものと考え，調べることにした。

② さし絵や写真のなか，つまり，絵として描かれている看板の字だとか，写真にうつっているプラカードの字だとかは調査しない。ただし，その絵や写真の説明部分については調べる。なお，国語における辞書見本の部分や，社会科のなかの地図や大日本帝国憲法の見本などは，ここでは写真あつかいにした。

③ 国語教科書の各巻末にのっている当用漢字の一覧表は調査しない。3年用は新訂版なので系統の違いによる多少のもれはあるにしても，この一覧表を調査範囲にいれると，ほとんどの当用漢字を機械的にふくむことになってしまうからである。

④ 国語教科書の各章末についている新出漢字一覧のうち，見出し字の部分は，文字をかかげただけで語として使用していないので，調査しない。ただし，その用例を示した部分は，当然拾うことになる。

⑤ 国語教科書において，漢文の部分は調査しない。ただし，書き下し文の部分は調査する。なお，古文の場合は，原文・訳文ともに本文としてあつかう。

5. 調査の細則

(1) 読みを決定するさいの方針

① 通常の辞書に1種類の読みかたしか見あたらない場合は，多少の疑問が残っても，辞書に登録されているものを優先する。

② いくつかの読みが可能であり，かつ通常の辞書にも2種類以上の読みかたが出ている場合は，まず，なるべく当用漢字音訓表に反しない読みを選ぶ。

③ ②で区別できない場合は，その資料における他の表記法や，その語の使用されている文脈，それに文体などを考え，より適切な読みを選ぶ。

④ ②でも③でも区別できない場合，あるいは判断のむずかしい場合は，現代

の一般社会において通例と思われるほうの読みを選ぶ。

⑤　いろいろな辞書や文献類を調べても正確な読みかたが不明なものについては，執筆者や出版社あるいは研究所などに問いあわせることにし，それでも解明されない場合は，推量読みをするなど，いくらかの疑いが残っても，きょくりょく読むようにし，その旨を注記する。

(2)　誤用例の処置

誤りにもいろいろあり，その種類によってここでのあつかいも違ってくる。

①　記載事項の内容の誤りについては，調査目的からもずれるし，また，その余裕もないので，当然ここではふれない。

②　調査範囲の項でものべたように，このように書き誤ってはならないなどとして誤用の例を示したものについては調査しない。この場合，漢字の組合せの誤りであっても，漢字そのものの誤りであっても，あつかいは同様である。

③　単なる誤植や，原資料を忠実に示すために，誤用に気がついてもあえて原表記に従ったものは調査の対象にし，その旨を注記する。

(3)　用例の所属する音訓の決定

ある語を読んだときに，それを構成している個々の漢字をどう読んだことになるのか，という点に疑問のおこることがある。たとえば，「学校」の「学」を「ガク」とするか「ガッ」とするかとか，「巫女」を「みこ」と読んだときに「巫」を「み」と読んだとしていいかどうかといった問題である。また，ある語を読み，そのうちのある漢字をどう読んだかをきめたあとで，その読みはどの音訓に属するか，あるいは特殊な用法なのかといった問題もある。そこで，いちおう，次のような規則をもうけた。

①　実際に読んでいる部分が違っても，音訓表で区別のない場合は，同一欄であつかう。たとえば，「光」の字訓は「ひかる」しか認めていないが，当用漢字音訓表のまえがき「使用上の注意事項」に「動詞にも名詞にも使われる

ものについては，おおむね動詞の形のみを掲げてあるが，名詞に使ってさしつかえない」とあるので，「光」を「ひかり」と読んで名詞に使うことができる。この場合，動詞のほうは「る」を送るので「光」の部分は「ひか」に相当するだけであるが，名詞のほうは「光」だけで「ひかり」と読むので，漢字に対応するかなの部分が違うわけである。しかし，両方を同じ「ひかる」の欄にいれ，用例のところで「光る」「光」と区別する，という意味である。なお，「集」を「あつまる」という自動詞形でたてているが「あつめる」という他動詞形で使ってもいいというときや，「清」を「きよい」という形容詞としてでなく，「きよらか」といういわゆる形容動詞にしたり，「きよめる」という動詞にして使っているときなどは，漢字に対応するかなの部分も同じであるから，当然，「集まる」も「集める」も「あつまる」の欄で，「清い」も「清らか」も「清める」も「きよい」の欄であつかい，用例として区別する，ということになる。

② ①とは逆に，実際に読んでいる部分が同じでも，音訓表に品詞などによる区別がある場合は，それぞれの欄に区別してあつかう。たとえば，「赤」を名詞として使う場合も，形容詞として使う場合も，ともに漢字1字は「あか」という2字のかなに対応するわけであるが，音訓表に両方とも認められているので，それぞれの欄に属する用例とするのである。

③ 連濁・連声・音便など，2字の連合などによって生ずる音変化の場合は，原則として，変化する前の形であつかい，ふりがなをつける。たとえば，「大空（おおぞら）」の「空」は「そら」，「切迫（せっぱく）」の「迫」は「ハク」，「天皇（てんのう）」の「皇」は「オウ」，「三位一体（さんみいったい）」の「位」は「イ」，「借金（しゃっきん）」の「借」は「シャク」，「酒屋（さかや）」の「酒」は「さけ」，「金棒（かなぼう）」の「金」は「かね」，「詩歌（しいか）」の「詩」は「シ」，「夫婦（ふうふ）」の「夫」は「フ」の欄におさめ，ルビをつけることになる。

④ 当用漢字の場合は，音訓表で認めている字音や字訓，および，その許容範囲の変化と考えられる用法を，音訓の行における集計の対象にするわけであるが，それ以外の例は特殊用法の欄に用例を示し，漢字としての集計にだけ加える。

表外字の場合は，当用漢字のような音訓表による制約がないので，通常の漢和辞書にのっているかどうかを規準にする。この調査では，『角川漢和中辞典』の音訓索引および本文の説明の「参考」の項に「人名・姓氏」としてあげてある読みをふつうの用法として欄をもうけ，それ以外を特殊用法として一括することにした。

実例をあげると，当用漢字のほうでは，「印」を「印す」として「しるす」と読ませる場合は，音訓表で「しるし」の名詞形しかあげておらず，「注意事項」に，名詞の形のみを掲げてあるものは動詞に使わない旨をことわってあるので，特殊用法になるし，「大徳（だいとこ）」の「徳」，「句読点（くとうてん）」の「読」，「染」を「そめる」でなく「しみる」と読んだときなども特殊というあつかいになり，「為替（かわせ）」は「為」も「替」も特殊，「浪」を「なみ」と読むときも，一般に用いられてはいるが音訓表に認められていないということで，やはり特殊用法としてあつかうことになる。そのほか，「氷る」「務める」などは「印す」と，「博士」を「ハカセ」と読むときは「大徳」と，それぞれ同様にあつかうことにしたわけである。

表外字のほうからも実例を少しあげると，「樺太（からふと）」「天鵞絨（ビロード）」「流鏑馬（やぶさめ）」などのほか，「木曽（きそ）」の「曽」や「筑紫（つくし）」の「筑」なども特殊用法になるが，一見特殊用法にみえる「家斉（いえなり）」の「斉」，「義詮（よしあきら）」の「詮」などは辞書にあるのでふつう用法となり，「燕」を「つばくろ」と読んだときも，同様の理由で特殊用法にはならない。

(4) 用例の単位

漢字の用法をくわしく知るためには，できるだけ長く切りとって文脈がわかるようにしたほうがいいであろうし，読み書きだけを問題にする今回のような場合には，文法論や語彙論とは違ったそれなりの独自の単位切りが必要なのかもしれないが，ここでは，便宜的に次のような方法をとった。

① 用例は原則として語の単位で示す。

② 語の認定は，便宜上，『岩波国語辞典』〈初版〉を正，『広辞苑』〈初版〉を

副とし，その親見出しにたつもっとも長い形を規準にする。問題となる具体例については後述するが，一例をあげると，「不健全」は親見出しにあるので「健全・不健全」となり，「不健康」は見あたらないので「健康（～・不～）」とくくることになるわけである。

③　活用のある語は終止形で示す。たとえば，「来（こ）（ない）」も「来（き）（ます）」もみな「くる」の欄に「来る」としてしるし，「美しけれ（ば）」は「うつくしい」の欄に「美しい」としておさめることになる。

ただし，2字以上の漢語に「する」のついたサ行変格活用の複合動詞と，いわゆる形容動詞とは，語幹の形で示す。たとえば，「勉強する」は「勉強」，「緊張した」は「緊張」に，「元気だ」は「元気」，「健やかな」は「健やか」にして記載するわけである。

なお，現代語と異なる語形の文語の動詞の終止形は別にたてる。たとえば，「落つ」は「落ちる」でくくらず，別に並べることにするわけである。

④　意味が違っても同じ読みかたをするかぎり，同一欄であつかい，「亀の甲」の「甲」と「甲乙丙」の「甲」のようにあきらかに別語と考えられるものにはその旨の注記をほどこすことにするが，厳密は期せない。

⑤　固有名詞の判定規準については別にのべるが，その場合の用例の切りかたを略述しておく。いわゆる固有名詞も必ずしも一語とはせず，切れないものだけそのまましるし，小単位をとりだせるものはなるべくとりだし，部分であっても独立できるものはぬきだす。したがって，人名の場合は姓と名とにわけてあつかい，そろわないとわかりにくいものだけ注で説明することになるし，地名などに，山・峰・岳・峡・山脈・山地・平野・盆地・島・半島・岬・潟・港・湾・湖・川・池・地方・県・郡・市・町・村・省〈中国の〉などがついた用例においても，「新潟」や「富山」のように地名として固定し切りはなせないものを除き，すべてそこで切り，結合例として示すにとどめる。また，作品名においても，たとえば，「吾輩は猫である」の場合は，「輩」の用例として「吾輩は猫である」全体をしるすのではなく，いちおう「吾輩」で切り，「吾輩（～は猫である〈固〉）」とし，「吾」や「猫」についても同

様にあつかう。長い用例の切りかたを具体的に示すと，たとえば「ベートーベン作曲交響曲第五番ハ短調運命」の場合は，「ベートーベン／作曲／交響曲／第五番／ハ短調／運命」という6単位に切り，必要に応じて各単位の用法がわかるように注記することになる。

(5) 固有名詞の判定

ある漢字がある固有名詞のなかにしかあらわれない場合，その語に対応する事実がなくなったり，あるいはかえりみられなくなったりすれば，その漢字の重要性・必要性が失われることになる。極端な場合を除いても，固有名詞を区別しておくことはあつかいを便利にするであろう。そこで，用例には固有名詞の表示をすることにした。しかし，固有名詞の範囲については，地名・人名を除くと，異説が多いので，ここでは次のような規準を考えた。

① 地名・人名・作品名・流派名・国名・言語名はすべて固有名詞あつかいとする。したがって，普通名詞に見えても作品名であるために〈固〉と表示された用例もいくつかある。

② 品種の名，神仏の名，省や庁などの役所の名，政党名などについては，『研究社国語新辞典』で語頭が大文字表記になっているかどうかを規準にし，収録されていない語は類推してきめる。問題となった具体例については後述するが，一例をあげると，「共産党」は普通名詞，「日本共産党」は固有名詞のあつかいとなる。

③ 時代名については，「時代」を除いた部分によって判断し，その部分が地名や年号の場合は固有名詞とする。したがって，「平安時代」は「平安〈固〉(～時代)」，「江戸時代」は「江戸〈固〉(～時代)」，「明治時代」は「明治〈固〉(～時代)」となるが，「縄文式時代」などはふつうに表記されることになる。

6. 漢字出現状況一覧表の見かた

被調査者である8人の生徒が，中学時代の3年間に学んだ全教科の教科書に

漢字番号 書㋑－㊫	漢字	音　訓	読㋑－㊫	出現度数 1年	2年	3年	計	用　例
210 ⑦－⑧	決	ケツ きめる	⑧－⑧ ⑧－⑧					
211 ⑧－⑧	結	ケツ むすぶ ゆう	⑦－⑧ ⑧－⑧ ①－⑦	0	0	0	0	
212 ⑥－⑥	潔	ケツ いさぎよい	⑧－⑧ ③－⑤	5 2	4 0	8 0	17 2	清潔・不潔・簡潔 潔い・潔し
213 ⑧－⑧	月	ガツ ゲツ つき	⑧－⑧ ⑧－⑧ ⑧－⑧					
214 ⑧－⑧	犬	ケン いぬ	⑧－⑧ ⑧－⑧					
215 ⑥～⑧	件	ケン	⑧－⑧	6	8	14	28	事件(～・大～・画期的～)・条件(～・立地～)・用件・要件
216 ⑧－⑧	見	ケン みる	⑧－⑧ ⑧－⑧					
217 ④－⑤	券	ケン	⑧－⑧	0	0	2	2	券(無賃乗車～)
218 ⑧－⑧	研	ケン	⑧－⑧					
219 ⑥－⑧	建	ケン たてる	⑧－⑧ ⑧－⑧	1 2	13 11	10 8	24 21	建設(～・～中・～者)・建築(～・～家・木材～・木造～)・封建(～時代・～的・～制・～制度)など 建てる・建つ・建物・建て(二階～)
220 ③－⑥	兼	ケン かねる	②－⑧ ⑦－⑧	0 1	0 0	0 5	0 6	 兼ねる
221 ⑥－⑧	健	ケン すこやか	⑧－⑧ ⑥－⑧	2 0	15 0	3 2	20 2	健康(～・～診断・不～)・健全・不健全・剛健・健治〈固〉健一〈固〉 健やか
222 ⑥－⑧	絹	ケン きぬ	⑧－⑧ ⑧－⑧	0 1	0 0	0 0	0 1	 絹
223 ③－⑧	権	ケン ゴン	⑦－⑧ ①－⑥	0 0	8 0	10 1	18 1	権勢(～者)・権利・権威・人権(～・～侵害)特権(～・～者)・棄権など 権二〈国〉
224 ⑤－⑧	憲	ケン	⑧－⑧	0	1	0	1	憲法
225 ⑧－⑧	県	ケン	⑧－⑧					

漢字番号 書㋑-㋕	漢字	音訓	読㋑-㋕	出現度数 1年	2年	3年	計	用例
226 ③-⑧	険	ケン けわしい	⑦-⑧ ⑥-⑧	6 5	4 0	11 1	21 6	危険・冒険(～・～心・～的)・険悪 険しい
227 ⑤-⑧	検	ケン	⑧-⑧	4	8	11	23	探検(～・北極～)・検討・検分・検閲・検査・検定
228 ⑦-⑧	験	ケン	⑧-⑧					
229 ⑧-⑧	元	ガン ゲン もと	④-⑧ ⑧-⑧ ④-⑧	0 2	3 2	5 18	8 22	元来 元(製造～)・元〈以前, 意〉(～・～どおり)・元麿〈固〉・元輔〈固〉など
230 ⑦-⑧	言	ゲン ゴン いう こと	⑤-⑧ ⑥-⑧ ⑧-⑧ ⑦-⑧	48 9	82 0	43 28	173 37	発言(～・～者)・予言(～・～者)・断言・方言・言論・言語(～・～発表・～生活)など言論 無言・大納言(～・侍従～・按察～・按察使～)・中納言(堤～物語〈固〉)・少納言(～・清～〈固〉)・真言宗
231 ⑥-⑦	限	ゲン かぎる	⑧-⑧ ⑤-⑧	2 4	3 11	8 30	13 45	際限・無限・制限・限界・限定 限る・限り・限りない・根限り
232 ⑧-⑧	原	ゲン はら	⑧-⑧ ⑧-⑧					
233 ⑥-⑧	現	ゲン あらわれる	⑧-⑧ ⑧-⑧	40 7	65 31	113 22	218 60	現代(～・かなづかい・～文学など)・現場・現実(～・～化・～的)・実現・出現など 現われる(～・～われ出る)・現われ・現わす
234 ④-⑦	減	ゲン へる	⑦-⑧ ⑥-⑧	2 3	2 3	4 4	8 10	加減・増減・減少・減じる 減る(～・～り方)・減らす
235 ⓪-⑤	厳	ゲン ゴン	⑦-⑧ ⓪-⑧	1 0	0 5	5 4	6 9	厳格・厳重・厳禁・冷厳(透徹～・) 壮厳(～・～さ)
236 ①-⑧	己	キ コ	⓪-⑧ ⑧-⑧	0 2	4 6	0 15	4 23	知己 自己(～・紹介・一批判・～探求)・利己(～的)
237 ⑧-⑧	戸	コ と	⑥-⑧ ⑧-⑧	3	0	3	6	戸外・戸籍 神戸(コウベ)〈固〉(～市)
238 ⑧-⑧	古	コ ふるい	⑧-⑧ ⑧-⑧					
239 ⑤-⑦	固	コ かためる	⑧-⑧ ⑧-⑧	1 3	8 6	10 7	19 16	固執・固有(～・～名詞)・断固・凝固・堅固 固める(～・踏み～〈ふみ～トモ〉)・固まる 固まり・固い(カタ)

	漢字番号	漢字	音訓	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
				1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
トウ	351	塘	トウ	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	池塘㋙・瞿塘〈固〉(～峡)㋙
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
トウ	352	橈	トウ	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	撓骨(～動脈)㋟
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
トウ	353	鞜	トウ	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	青鞜〈固〉㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
トウ	354	濤	トウ	0	0	18	18	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	波濤㋙・怒濤㋙
			〈字〉	0	0	18	18	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
トウ	355	藤	トウ	0	4	14	18	1	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	4	斎藤〈固〉㋙㋛・佐藤〈固〉㋙・伊藤〈固〉㋛㋒・藤村〈固〉㋛㋔・藤十郎〈固〉㋛・藤式部〈固〉㋙など
			ふじ	2	6	11	19	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	藤㋙・藤原〈固〉㋙㋛・藤沢〈固〉㋛・藤枝〈固〉㋛・藤田〈固〉(～村)㋛
			〈字〉	2	10	25	37	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	4	
トウ	356	禱	トウ	0	2	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	祈禱㋙・黙禱㋛
			〈字〉	0	2	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
ドウ	357	洞	ドウ	0	0	2	2	1	3	3	1	0	3	0	2	0	0	0	5	洞窟(～・～壁画)㋛㋓㋒・洞察(～・～カ)㋙㋜・洞海〈固〉(～湾)㋛・洞庭〈固〉(～秋月)㋒
			トウ	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	洞爺〈固〉(～湖)㋑・曹洞宗〈固〉㋛
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	3	1	1	3	0	2	0	0	0	6	
とち	358	栃	とち	0	1	1	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3.2	栃木〈固〉(～・～県)㋙㋛㋥
			〈字〉	0	1	1	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3.2	

おける漢字の出現状況を一覧できるように，漢字出現状況一覧表としてまとめた。これは教育漢字・教育漢字外当用漢字・表外字の3部にわかれているが，本書ではページ数の関係で，中学校における漢字教育の中心である教育漢字外当用漢字の部だけを掲載し，他は割愛したので，その一部を見本としてかかげておく。(pp. 681-2は教育漢字，p. 683は表外字)

これまでは，どういう目的のもとに，どういう資料を，どういう方法で調査したかを略述してきたわけであるが，その結果をどうまとめ，どう記載したかをここで説明しておく。ただし，その一覧表から何がわかるか，という点についてはあらためてのべる。また，その結果をどう解すべきか，そこにははたして因果関係があるのか，というあたりになると，この調査結果の示しうる限界をこえてしまうので本稿ではふれない。教育漢字・教育漢字外当用漢字・表外字のそれぞれにおいて，次のように整理した。

(1)　字種・音訓の配列順

当用漢字の配列は，次のような原則に従った。

① 音読みを五十音順に整理し，その早いほうから並べる。たとえば，「渡」と「卑」とでは，ふつうに使う字訓が「わたる」と「いやしい」であるが，字音が「ト」と「ヒ」で，五十音順では「ト」のほうが早いので，「渡」が「卑」より前に並ぶわけである。

② 当用漢字音訓表で字音の認められていない漢字の場合は，字訓をもって順位を考える。たとえば，「矢」と「桃」とでは，音読みが「シ」と「トウ」で，「シ」のほうが早いわけであるが，音訓表で「矢」の字音の「シ」が認められていないので，この字に関しては字訓の「や」を「桃」の「トウ」と比べ，「トウ」よりおそいので，「矢」は「桃」より後ろに配列されることになる。

③ 当用漢字音訓表で2つ以上の字音を認められた字の場合は，より一般的に用いられる字音を規準にする。たとえば，「納」の場合は，「トウ」，「ナ」，「ノウ」という3つの字音が認められているが，一般的という点からすれば

「出納」の「トウ」や「納屋」の「ナ」よりも，「納入」「納税」などの「ノウ」がふさわしいと考え，「納」は「ノウ」を規準に配列することになる。

④　同音の場合は，教育漢字と教育漢字外当用漢字とのそれぞれのなかを画数の少ない順に配列する。たとえば，「告」と「黒」とはともに「コク」であり，ともにいわゆる教育漢字であるが，7画の「告」のほうが11画の「黒」より前に並ぶわけである。表外字の場合も原則的には同様の考えで配列したが，当用漢字音訓表のような制限がないので，前述したように，『角川漢和中辞典』の音訓索引および「人名・姓氏」に認められているかどうかをその制限にあて，その範囲内で，同様の規準を適用した。たとえば，「崎」と「幌」とでは，字音があれば，実際に出現するしないにかかわらず，それを配列の規準にとることにした関係上，よく使われる「さき」と「ほろ」という字訓ではなく，あまりあらわれない「キ」と「コウ」によって配列がきまる，というような不合理な例も出てくるが，使用度を考慮にいれると複雑になるので，字音の五十音順，同音の場合は画数，といった原則をつらぬくことにした。

なお，字音・字訓の表示は，次の規準に従った。

①　字音はかたかな，字訓はひらがなで表記する。

②　字音を先に，字訓をあとに配列する。

③　字音や字訓が2つ以上ある場合は，それぞれにおいて五十音順に並べる。

④　表外字においては，教科書に実際に現われた音訓についてだけ欄をもうける。たとえば「廻」の用例は「めぐる」しか出ないので，「カイ」とか「まわる」とかの欄はもうけないことになる。

(2)　各欄記載要領の解説

①　表外字の場合だけ，検出の便を考えて欄外にしるした字音または字訓は，(1)でふれたように，その漢字の配列の規準となった，いわば代表音である。このきめかたについては，原則として，その漢字の字音をたてることにしたが，字音が2種以上ある場合は，より一般的なほうをとることにし，字音の

ない場合は通常用いられる字訓で代表させることにした。なお，音訓の欄とは異なり，教科書に実際に出現するかどうかは考慮にいれなかった。

② 左端の欄内の上部の数字は，教育漢字の部，教育漢字外当用漢字の部，表外字の部のそれぞれにおける漢字番号で，前記の規準で配列した順番を示す。たとえば，「願」は教育漢字の初めから123番め，「丸」は教育漢字外当用漢字の123番め，「桂」は表外字の123番めという意味を，各字の左上にある「123」という数字があらわしているわけである。

③ 漢字番号の下に「書㋩—㊫」という欄があるが，これは，被調査者の漢字テストのうち，書きのほうの成績をあらわしている。㋩は「入学時」という意味で，具体的には中学1年の4月中旬から7月上旬にかけて行なったテストを，また，卒は「卒業時」の意味で，具体的には中学卒業のまぎわである2月下旬から3月にかけて実施したテストを，それぞれさしている。この場合，書きのテストは音訓別にはおこなわず，生徒にもっとも親近性があると予想される語形を提出したので，あとでのべる読みの成績のように，音訓別の結果は得られないわけである。そこで，○のなかの数字は，その漢字をある語形において正しく書くことのできた人数を示すにとどまる。たとえば，⑤とある場合は，被調査者8人のうち5人が，その漢字をある提出語形において正しく書いたという意味をあらわす。

実例で説明すると，「殺」の前に「⑥—⑧」とあるのは，「殺」をある語形において，入学時には，6人が正しく書け，2人はまちがえたか，答えなかったかであったのが，卒業時には，8人全員が正しく書けた，という意味である。

それから，前のほうの数字に○のついていない場合は，入学時のテストでもれたために，2回めのテスト結果をしるしたことをあらわしている。たとえば，「傷」の「2—⑤」は，2回めのテストで2人しか正しく書けなかったが，卒業時のテストでは5人の正答者があった，という意味をあらわすわけである。

なお，表外字に関しては，書きのテストを実施しなかったので，その部分

は空白になっている。

④　次は「漢字」の欄であるが，その配列の順序などについては，すでに(1)で説明したので，くりかえさない。

⑤　その右の欄に「音訓」とあるが，当用漢字については，音訓表で認められた各音訓を，表外字については，教科書に実際に出現した各音訓を，(1)で説明した順序に並べたものである。

⑥　次は，「読㊀—㊅」という欄であるが，これは，被調査者の漢字テストのうち，読みのほうの成績をあらわす。他の約束は，書きを示した部分と同様である。たとえば，「拾」の「シュウ」のところに「②—⑥」とあるのは，「拾得」などを正しく読めた生徒が，中学入学時には8人のうち2人しかいなかったのが，卒業時には，6人の正答者が得られたこと，つまり，逆に正しく読めない生徒が2人しかいなかったことを示す。

それから，○にかこまれていない数字，たとえば，「虚」の「コ」のところに「2—④」とあるのは，書きでも説明したように，第1回のテストのさいにもれたので第2回の成績をしるしたもので，その1年の終わりごろに「虚空」などを正しく読めたのは2人だけだったが，卒業時になっても8人中4人という半数にすぎなかった，という意味である。

なお，表外字についてのテストは，知っている音訓をひきだす程度にとどめたため，音訓ごとに整理しても，当用漢字の場合と数字の意味が違うことを考え，表外字においてはこの欄をもうけなかった。

⑦　〈字〉という表記は，その行のそれより右側の数字が，各音訓についてではなく，漢字としての出現状況を示す，という意味である。たとえば，「矛」の「出現度数（国語）」の2年のところをみると，「ム」の行は0なのに，〈字〉の行は15とある。これは，「矛」という漢字が，音訓表で認められている「ム」という字音を用いた語形では1度も出てこなかったが，それ以外の形（用例欄を見れば「ほこ」で出たことがわかる）で，つまりその漢字としては，15回出た，ということをあらわしている。

なお，教育漢字については，前述のように調査しなかった音訓があるの

で，この欄はあまり意味がないと考え，省略した。

⑧　次は，⑦でふれた「出現度数（国語）」という欄である。前述のように，出現度数については国語の教科書に限って調べたので，この欄の数字はいずれも国語教科書における出現度数を示している。

たとえば，「乳」のところでは，まず，「ニュウ」は左から0，0，3，3だから，「ニュウ」という字音の語例は，1年用と2年用には見あたらず，3年用に3回あらわれたから，結局合計3回となる，という意味であり，「ち」は2，0，3，5だから，「ち」という字訓の語例は，1年用に2回あらわれ，2年用にはあらわれず，3年用にまた3回あらわれたので，合計5回となる，という意味であり，「ちち」のほうは9，4，3，16だから，「ちち」という字訓を用いた語例は，1年用に9回，2年用に4回，3年用に3回あらわれたので，3年間の合計が16回となる，という意味である。

もうひとつ〈字〉の行があるが，これは，⑦でも説明したように，漢字としての出現を問題にしたものであり，この場合は，文字としての出現度数を示すことになる。ふつうは各音訓の出現度数を加えた数字になるはずであるが，そうでない場合も出てくる。この例でいくと，「ニュウ」「ち」「ちち」の各音訓の出現度数は，1年のところでは0，2，9であるからその下の11はその和と等しく，2年のところも0，0，4でその下が4であるから合致するわけであるが，3年のところは3，3，3なのにその下は9とならずに11となっている。これは，この「乳」という漢字を，「ニュウ」でも「ち」でも「ちち」でもない別の形で使用した語例が2つあることを示すのである。それがどういう語形であるかは用例欄にあきらかであり，この場合は，「乳母」を「うば」と読ませたのと「めのと」と読ませたのとの2つであることがわかる。計の列が3，5，16なのに，その下が24とならず26となっているのは，今のべた3年用のいわゆる特殊用法2例のせいであり，〈字〉の行の各学年の数字（横に11，4，11）を加えた結果，つまり「乳」という漢字が国語教科書にあらわれた総度数を示している。

なお，教育漢字のうち前述の理由で調査しなかったものは斜線であらわし

た。

⑨　次は「初出学年」の欄である。ここでいう「初出学年」とは，その漢字，あるいはその字音なり字訓なりが，どの学年の教科書に初めてあらわれたか，つまり，教科書をとおして初めて被調査者の目にふれたのは何年生のときかをあらわすものである。教育漢字の部にこの欄がないのは，前述のように，調査しない字や音訓があるためにその点をおさえられないものがあるし，また，本来小学校段階で学習すべきものだから，その数字が得られたところで生徒にとって「初出」の意味をもたないからである。

例をあげて説明する。まず「礎」をみると，「ソ」が1，「いしずえ」が0〈字〉が1とあるから，「礎」が「ソ」という字音の用例でどの教科書かの1年用にすでにあらわれた，「いしずえ」という字訓を使った例は結局3学年をつうじてどの教科書にもあらわれなかった，特殊用法の例もない，したがって，「礎」という漢字が教科書をとおして生徒の目に最初にふれたのは1年のときである，ということがわかる。また，「詳」では，「ショウ」が3・1，「くわしい」が2で，〈字〉が2・1となっている。この場合のように，中点をはさんで2つの数字が並んでいる場合は，前つまり左のほうが男子にとって，後ろつまり右のほうが女子にとって，という意味である。このように，男子と女子とで違いがみられるのは，技術家庭の教科書が男子用と女子用とにわかれているために，男子と女子とで接する部分に違いがあるからである。そこで，「詳」に関しては，「ショウ」と音読みする用例に，男子は3年になって初めて接したが，女子はすでに1年で接していた，また，「くわしい」と訓読みした例に接したのは，男女とも2年になってからである，そしてこれ以外の特殊な用法の例がないので，結局，「詳」という漢字が教科書をとおして被調査者の目に最初にふれたのは，男子の場合は2年，女子の場合は1年のときである，という意味になるわけである。

なお，「滋」の「ジ」が2なのに〈字〉として1とあるのは「滋賀」といった音訓表外の用法が国語や社会の1年に出ているからであるが，このように音訓表に認められたどの音訓の初出よりも〈字〉の初出がさらに早くなっ

ているのは，そういった特殊用法例があるためである。

⑩　その右の「教科別初出学年」の欄は，⑨にのべたことを教科別に示したものである。ここで，「国」は国語，「数」は数学，「社」は社会科，「理」は理科，「英」は英語，「音」は音楽，「美」は美術，「体」は保健体育，「男」は技術家庭の男子用，「女」は同じく女子用をそれぞれあらわす。一例として「染」の場合を説明しておく。まず，横にみると，「セン」という字音を用いた語例は，国語では3年，理科と保健体育では2年，社会科・技術家庭〈男子用〉・同〈女子用〉ではそれぞれ1年に初めてあらわれ，その他の教科には3学年をつうじて一度もあらわれなかった，ということを，各教科の列にある3とか2とか1とか0とかの数字から読みとることができるようになっている。⑨でのべた「初出学年」を示す前欄の数字が1になっているのは，教科別初出学年のもっとも早いのが1年だからである。同様にして，「そめる」という字訓の語例は，国語と技術家庭の女子用とでは1年，理科では3年にそれぞれ初めて出たが，その他の教科にはあらわれなかった，ということを読みとることができ，そのうちもっとも早いのが1年だから，各教科書をつうじての初出を示す前欄が1となっている，ということも理解できるであろう。なお，この場合，男子と女子とで条件が違うのに全体としての初出を示す数字が一つに統一されているのは，男女共通である国語にすでに1年用にあらわれているからである。

さらに，〈字〉のところをみると，国語・社会科・技術家庭の男子用と女子用とで1年に初出，理科と保健体育とで2年に初出，数学・英語・音楽・美術にはついにあらわれなかった，ということがわかる。

いっぽう，縦にみると，たとえば，国語では，「セン」として3年に，「そめる」として1年に，初めて出たわけであるから，漢字としての初出は1年となり，理科では，「セン」が2年に初出，「そめる」が3年に初出で，ほかに特殊用法がないから，漢字としては2年に初めて出たことになり，保健体育では，「セン」が2年に初出，「そめる」は出なかったし，特殊用法もなかったので，結局漢字としては2年に初めてあらわれた，といったようなこと

がわかるようになっている。

なお，⑨でも軽くふれたが，「荘」の社会科の場合，「ソウ」が0で，ほかに音訓表で認められた音訓がないのに，〈字〉が2年に初めて出たことになっているのは，用例欄にかかげたように，音訓表で認められていないために特殊用法あつかいにした「ショウ」の「荘」や「荘園」などが社会科の2年に出ているからであり，「晩」の技術家庭の男子用の場合，音訓表に認められた唯一の音訓である「バン」が3年初出となっているのに，〈字〉としては1年初出とあるのも，「晩生（おくて）」という特殊用法が1年用に出てくるためであるように，〈字〉の初出学年が，音訓表で認められたどの音訓のそれよりも早くなっているのは，そういった表外の用法が最初に出るからである。

⑪　次が「出現教科数」の欄である。これは，その漢字，あるいはその字音や字訓が，どの教科にあらわれ，どの教科にはあらわれなかった，ということを示した前欄の「教科別初出学年」をまとめ，結局いくつの教科にわたってあらわれたかをしるしたものである。つまり，出現のある面における幅を示すわけである。

なお，教育漢字については，国語以外の教科書を調査しなかったので，当然，この欄はもうけられていない。

次に，実例をあげて説明することになるが，その前に，男子用と女子用とにわかれている技術家庭のあつかいについてのべておく。

ここでは，教科書の冊数や種類の数を問題とするよりも，被調査者がいくつの教科において，その漢字や音訓にふれたか，という点に眼目がおかれているので，男子用と女子用の両方に出た場合は，2とせずに1としてあつかい，片方だけの場合は，中点をはさんだ2つの数字のうち，男子用のときは前，女子用のときは後ろのほうの数字に1をふくませる，というように，男子にとっての教科数と女子にとっての教科数とが違う場合には，それぞれをわけてあらわすことにした。たとえば，国語と社会科にあらわれ，技術家庭を除くその他の6教科にあらわれなかった場合，技術家庭の男子用と女子用とにともにあらわれなければ2，男子用だけにあらわれれば3・2，女子用

だけなら2・3，両方にあらわれれば3となるわけである。

実例をあげる。「締」の「テイ」は国語と技術家庭の男子用とにあらわれただけなので，男子は2教科，女子は1教科において，その用例をみたわけであるから，出現教科数は2・1となっている。また，「しまる」のほうは，国語・社会科，それに，技術家庭の男子用と女子用の両方に出ているので，男子にとっても女子にとっても3教科にわたっていることになるから，出現教科数は3となっている。しかし，「締」という漢字が出現した教科数を出すには，むろん，単純に両者を加えて5・4とするわけにはいかない。この場合の国語や技術家庭の男子用のように，重複する教科があるからである。「締」という字の出現教科数が3となっているのは，「教科別初出学年」の〈字〉の行を横にみると，国語と社会科と技術家庭の男子用と女子用とにあらわれたことがわかるように，その欄をまとめたものである。

なお，「貞」において，「テイ」が0であり，ほかに認められた音訓がないのに，〈字〉として2となっているのは「貞永（じょうえい）」や「義貞（よしさだ）」などの音訓表外の例が国語と社会科とに出ているからであるが，このように各音訓の出現教科欄を縦に総括したものとくいちがう場合のあるのは，そういった特殊用法があるためであって，いずれの場合も，〈字〉の教科別初出学年の部分をまとめたものとは一致するはずである。

⑫　最後に，「用例」の欄であるが，区切りかたについては5の(4)にのべたし，問題のある具体例については後述するので，ここでは，記号の意味などを例をあげながら説明する程度にとどめる。

1：〈　〉は，そのなかが補足的説明などの注記であることをあらわす。たとえば，「淡」の「タン」の用例に「淡白〈淡泊トモ〉」とあるのは，「淡白」のほかに「淡泊」と表記した例もあるがいっしょにあつかった，ということを参考のためにことわったものである。また，「元」の「もと」の用例に「元〈以前ノ意〉」とあるのは，「元（もと）」には「製造元」などの使いかたもあるが，これは「以前」という意味の用例だ，とことわったものである。なお，このような場合の「トモ」や「ノ意」などのように，下部に小さく，か

たかな，あるいは漢字まじりのかたかなでしるした部分は，引用部と区別する必要のあるときの注記の本文，いわば地の文にあたるものである。もう一例をあげると，「供」の「ク」の用例に「供日（クンチ）〈一語原説〉」とあるのは，「おくんち」の語原を「お供日」と考える説を紹介したさいに出た用例だ，ということをあらわしたものである。このように，〈　〉のなかはいろいろな役割をもっているが，要するに，補足的説明の最小限の表記なのである。

2：〈固〉は，その前の部分が固有名詞であることを示す。どういう範囲を固有名詞としてあつかったかについては5の(5)にのべたし，具体例の処理に関する問題点についてはあとでのべるので，ここではふれない。

3：語例の後ろにある（　）は，そのなかが，実際にあらわれた結合の例であることを示す。

4：また，その（　）内の～印は，その前に記載した語形がその部分にあらわれることを示す。たとえば，「身」の「シン」の用例欄の初めに「出身（～・～者・～学校）」とあるが，これは，「出身」「出身者」「出身学校」という3つの形であらわれた，という意味である。

なお，「～」だけの部分がない場合は，その形が単独ではあらわれなかったことを示す。たとえば，「盲」の「モウ」の用例欄に「夜盲（～症）」とあるのは，「夜盲症」という形であらわれ，「夜盲」だけの形ではあらわれなかった，という意味である。

5：同じ（　）内に，～のほかに…印のある場合もあるが，これは，その部分に，数字や英字のあらわれた用例であることを示す。たとえば，「壱」の「イチ」の用例欄に「壱百（～…円也）」とあるのは，「壱百弐拾参円也」といった用例をあらわすわけである。

6：（　）内に結合の例を列挙した末尾に，小さく「ナド」とあるのは，紙幅の関係で全用例をあげきれなかったか，あるいは，ほとんど同様の例なのですべてを示してもあまり意味がないと考えて省略した，ということをあらわす。たとえば，「睡」の「スイ」の用例欄に「睡眠（～・～不足・～時間ナド）」とあるのは，「睡眠」「睡眠不足」「睡眠時間」のほかに，その他の

「○○睡眠」や「睡眠○○」といった形でもあらわれた，という意味である。

7：（　）内ではなく，用例欄の最後に，小さく「など」とあるのは，まだほかの語形での用例があるが，紙幅の関係でのせきれないために割愛したか，あるいは，類似の語形で漢字の用法を示すには，これ以上かかげてもむだだと判断し，途中でうちきった，ということをあらわす。たとえば，「離」の「リ」の用例欄をみると，「分離」「距離」「離婚」と並んだあとに「など」とあるから，その3つの語形以外にも「離脱」とか「隔離」といったなにかほかの語形でもあらわれたことがわかる。

なお，この場合は，「距離」の結合例を示した（　）内にも「ナド」とあるので，そこにあげた3例以外に「○○距離」といった例があるわけであり，結局，語形においても結合例においてもつくしていないことになる。

8：○のなかは，その語例のあらわれた教科を示す。教科名の示しかたは欄外の注にしるしたとおりで，⑩で説明した「教科別初出学年」と同じ順序にした。たとえば，「璃」の「リ」の用例欄に「浄瑠璃㋓㋕」とあるのは，「浄瑠璃」という用例が社会科と音楽とにあらわれた，という意味である。

9：用例のうち，当用漢字においては音訓表外の用法例，表外字においては，5の(3)の④にのべた範囲を出る用法の例のすべてと，読みかたのむずかしいもの，および，まぎらわしいものには，音読み訓読みをとわずかたかなで，その場合の読みかたを示した。たとえば，「段（タン）」とあるのは，「段に上る」などの「だん」ではなく，「反」とも書く面積の単位の「たん」であることを示したものである。

10：用例の切りかたについてはすでにふれたが，規準にした辞典の親見出しにどういう形でたつかにより，記載形式はいろいろになるので，次に例をあげて説明しておく。その形で親見出しにたっている場合を○，そのままの形ではかかげられていない場合を×で示すと，たとえば，「貸し出し」と「貸し出す」とにおいては，次の4つのケースが考えられ，それぞれの条件によって，その右側に示したような記載形式をとることにした。

貸し出し	貸し出す	用例欄の記載形式
○	○	貸し出し・貸し出す
○	×	貸し出し（　～　・　～　す）
×	○	貸し出す（　～　・　～　し）
×	×	貸す（～し出す・～し出し）

11：用例は，そこに用いられている音訓によって，それぞれの欄にわけて記載した。たとえば，「殿」の用例のうち，「御殿」は「テン」，「宮殿」は「デン」，「殿（様）」は「との」，「夢殿」は「どの」の用例欄におさめた。

12：なお，〈字〉の用例欄にある用例は，前述の規準により特殊用法としてあつかった用例である。たとえば，「若」の用例で「老若（男女）」とある場合，「ロウジャク（ダンジョ）」と読めば「ジャク」の欄になるが，「ロウニャク（ナンニョ）」と読むべきものは，当用漢字音訓表に「ニャク」という字音が認められていないので，特殊用法というあつかいになり，〈字〉の用例欄におさめられることになる。また，表外字においては，「鏑」の「流鏑馬（やぶさめ）」や「秦」の「太秦（うずまさ）」などはもちろん，「筑」の「筑紫（つくし）」や「梯」の「梯子（はしご）」なども，前述の規準に従えば特殊用法となるので，〈字〉の用例欄におさめられているわけである。

7. 実例処理に関する注記

あらかじめもうけた規則でおおいきれない場合は，ケースごとにそのあつかいを考えるしかないわけであるが，実際にどのような問題があり，それをどう処理したのかを示すために，問題の種類ごとに整理して，その具体例を次にあげておく。もちろん，問題にも程度があり，ここに例をつくすわけにはいかないので，あとはこのようなぐあいにそのあつかいをきめたものと解されたい。

(1)　読みの決定に関して

① むずかしい読み，または，異例の読みをする例

・「犬童」（いんどう）〈姓〉
・「三亥」（かずい）〈名〉
・「千顕」（ちかい）〈名〉
・「忱」（まこと）〈名〉
・「耽介」（とうすけ）〈名〉
・「田峰田楽」（だみねでんがく）
・「浮立」（ふりゅう）

② 辞典類を調べても正確な読みかたが明らかでないため，問合せ先（執筆者，編者，監修者，出版社，放送局，各専門の学者や研究者など）の意見なども参考にしながら，いちおう推測で読んだ例

・「右針」（みぎばり）〈「うしん」としない〉
・「水粒」（みずつぶ）〈「すいりゅう」としない〉
・「獣鳥肉」（じゅうとりにく）〈「じゅう（にく）」と「とりにく」との意味に考える〉
・「穴径」（あなけい）〈「穴」の「(直) 径」とわけて考える〉
・「単用…段犂」（たんよう…だんり）〈「単用犂」から推測〉
・「主巻線」（しゅまきせん）〈「主」なる「まきせん」と考える〉
・「柱壁記号」（はしらかべきごう）〈柱や壁の記号という意味の臨時造語と考える〉
・「堅木林」（かたぎばやし）〈「けんぼく」という読みが見あたらない〉
・「雨谷」（あまだに）〈ほかの読みは考えにくい〉
・「郷土民踊」（きょうどみんよう）〈「郷土民謡」と同じになるが，他の適当な読みかたが考えつかない〉

③ 正しい読みかたがいくつかある場合で，当用漢字音訓表に従った読みのほうを選んでもいちじるしく不自然にはならないと判断して，その読みでとった例

・「分泌」（ぶんぴつ）〈「ぶんぴ」としない〉

・「情緒」（じょうしょ）〈「じょうちょ」としない〉
・「尊い」（たっとい）〈ルビのないかぎり「とうとい」としない〉
・「文字」（もんじ）〈単独の場合ルビがなければ「もじ」としない。「文字どおり」として使われても同様。複合名詞になった場合は「表意文字」「表音文字」などは「もんじ」と読み，「大文字」「小文字」「花文字」「キャピタル文字」「ギリシャ文字」「かな文字」などでは「もじ」と読む〉

④　正しい読みかたがいくつかある場合で，③によっても区別ができないために，文脈や文体，あるいは，他の表記傾向などから類推して，一つに決定した例――：

・「両端」（りょうはし）〈同じ資料の他の箇所に「両端（たん）」のルビつき表記の例のある場合〉
・「両端」（りょうたん）〈同じ資料の他の箇所に「両はし」という表記例のある場合〉
・「帆船」（はんせん）〈「ほぶね」とせず，他の教科のルビつき表記の例に従う〉
・「足跡」（そくせき・あしあと）〈文脈や文体によって読みわける〉
・「牧場」（ぼくじょう）〈「まきば」としない〉
・「金色」（きんいろ）〈「こんじき」としない〉
・「弓形」（ゆみがた）〈「きゅうけい」としない〉
・「音」（おん・おと・ね）〈文脈や文体によって読みわける〉
・「音色」（ねいろ）〈「おんしょく」としない〉
・「縦横」（たてよこ）〈「じゅうおう」としない〉
・「腹痛」（ふくつう）・「腰痛」（ようつう）・「胸痛」（きょうつう）・「耳痛」（じつう）〈「はらいた」「こしいた」「むねいた」「みみいた」としない〉
・「雅楽寮」（ががくりょう）〈「うたりょう」としない〉
・「和笛」（わてき）・「和琴」（わごん）〈「やまとぶえ」「やまとごと」としない〉

・「(斎藤) 茂吉」(しげよし・もきち) 〈ルビがある場合はそれに従い，なければ本名と筆名で読みわける〉
・「(菊池) 寛」(かん) 〈「ひろし」とせず，ルビに従う〉
・「老若男女」(ろうじゃくだんじょ・ろうにゃくなんにょ) 〈文脈や文体によって読み分ける〉

⑤　正しい読みかたがいくつかある場合で，③でも④でも区別ができないために，現代においてより一般的におこなわれている読みかたを選んだ例
・「朝飯」(あさはん)・「夕飯」(ゆうはん) 〈「あさめし」「ゆうめし」としない〉
・「昼食」(ちゅうしょく) 〈「ちゅうじき」としない〉
・「人文」(じんぶん)・「本文」(ほんぶん) 〈「じんもん」「ほんもん」としない〉
・「風体」(ふうたい) 〈「ふうてい」としない〉
・「固執」(こしつ) 〈「こしゅう」としない〉
・「唐風」(とうふう) 〈「からふう」・「からぶり」としない〉
・「百葉箱」(ひゃくようばこ) 〈「ひゃくようそう」としない〉
・「吉」(きち) 〈「きつ」としない〉
・「大時鐘」(だいじしょう) 〈「おおどけい」としない〉
・「男衆」(おとこしゅう) 〈「おとこしゅ」としない〉
・「若い衆」(わかいしゅ) 〈「わかいしゅう」としない〉
・「目深」(まぶか) 〈「めぶか」としない〉
・「胸くそ」(むねくそ) 〈「むなくそ」としない〉

⑥　誤用などの処理例
・「(石桁) 真札生」は「真礼生」の誤りであろうが，生徒の立場から考えると，そのままの形で目にふれることになるので，訂正せず，「札」の特殊用法欄に「まれお」と記載してその旨を注記した。
・「小谷 (兼晃)」は，事実は「水谷」である旨の情報を偶然得たが，各種の人名辞典に見いだされないため，生徒にはそのままの形で目にふれ，し

かも「こたに」と読んで疑わないものと判断し，訂正せずに，「小谷」（こたに）としてあつかった。

・「熜田津」（にぎたず）の「熜」については不詳なので，いちおう「熟」とは切りはなし，「にぎ」としてたて，表外字あつかいにした。

(2) 用例の所属する音訓の決定に関して

① 一見，連濁にみえなくもないが，理論的にそうは考えにくいので，濁点をとりさることなく，そのままの形であつかった例

・「指示」を「しじ」と読んだ場合の「示」は呉音の「ジ」とする。「しし」という読みかたもあったようであるが，「しじ」がそれの連濁現象であるとは考えにくいからである。

・「富士（ふじ）」の「士」のばあいも，「富」が漢音の「ふう」ではなく呉音の「ふ」であることもあり，漢音の「し」が連濁によって「じ」となったと考えるよりは，呉音と呉音の組合わせを借りたと考えるほうが自然だと判断し，「じ」であつかう。

② 一見，清音から変化したとあつかえなくもないが，清音の用例がほとんどないので，本濁の音変化としてあつかった例

・「天平（てんぴょう）」の「平」の場合は，音訓表で認められた字音としては「ヘイ」と「ビョウ」だけなので，「ヒョウ」の連濁と考えれば音訓表外の特殊用法となるわけであるが，「平」が「ヒョウ」として使われる例はほとんどないし，また，「天平」が「てんびょう」とも読まれたことをも考えあわせ，結局，「てんびょう」から「てんぴょう」に移ったか，両方が同時期におこなわれていたとしても清濁が問題とならなかったかで，いずれにしても「ぴょう」は「びょう」と密接なつながりがあると判断し，「ぴょう」の用例としてあつかう。

③ 各種の音変化をふくむ用例を，その変化以前の本来の字音や字訓のもとで処理した例

・「反応（はんのう）」の「応」は連声現象なので，「のう」という特殊用法とはせずに，

「おう」とてしあつかう。

- 「夫婦（ふうふ）」の「夫」は「ふ」の長音化と考え，「ふう」という特殊用法とはせずに，「ふ」としてあつかう。
- 「詩歌（しいか）」も，「六日」の「むか」が「むいか」となったような，いわゆる延音化と考え，「しい」という特殊用法とはせずに，「し」としてあつかう。
- 「おくんち」の一語原説として「お宮日」をあげたときの「宮」は，「日」の「にち」が「んち」と変化したと考え，「くん」という特殊用法とはせずに，「く」としてあつかう。
- 「何」を「なん」と読むときも，「なに」が音変化をおこしたものと考え，「なん」という特殊用法とはせずに，「なに」のなかであつかう。
- 「修」を人名として「おさむ」と読ませる場合は，「おさめる」の文語形を用いたものと考え，「おさむ」という特殊用法とはせずに，「おさめる」のなかであつかう。
- 「延」を「延べる」と使った場合は，「のびる」が音訓表に認められているので，その他動詞形ということで当然認められるわけであるが，ほかに「のべ」という形でも音訓表にあげてあるので，この「延べる」という用例を「のびる」であつかうか「のべ」であつかうかが問題となる。しかしここでは，「のべ」がむしろ「のべる」から出たのだとすれば，「のべる」を「のべ」のなかであつかうのは逆だと考え，「のびる」のほうであつかうことにする。
- 「若い衆」の「衆」を「しゅ」と読んだ場合，音訓表に認められている「しゅ」と「しゅう」のどちらであつかうべきかという問題があるが，音訓表の「しゅ」は「衆生（しゅじょう）」などという特定の語に用いられる呉音であり，この場合の「衆（しゅ）」は，漢音の「しゅう」が音変化したものであると考え，現象として一致する「しゅ」としてではなく，「しゅう」のほうであつかうことにする。
- 「納得（なっとく）」の「納」を「な」のなかであつかうことには抵抗があるので，「なふとく」からの音変化と考え，歴史的かなづかいの「なふ」にあたる

「のう」であつかうことにする。

・「甲斐」の「斐」や「由比」の「比」は，「阿波」の「波」が「は」の音変化とすれば音訓表に反せずに使えるという立場をとり，「ひ」が音変化をおこして「い」となったと考え，本来の「ひ」のなかであつかう。

・「一羽」「出羽」の「羽」も前例同様の理由で「は」という音訓表内の用法とし，「琵琶」の「琶」も「は」としてあつかう。

④　音変化でも，元にもどすにはかなり抵抗があると考え，特殊用法のあつかいにした例

・「文字」を「もじ」と読んだときの「文」。

・「越中」の「越」を「えつ」にもどすか「えち」にもどすかは問題となるが，ここでは，いちおう「越前」や「越後」と合わせるために，「えち」という特殊用法のあつかいとする。

・「狩野（永徳）」の「狩」。「野」も同様であるが，調査対象外であるから問題とはならない。

・「（太郎）冠者」の「冠」。

⑤　漢字で表記した外国の地名を，ルビがあるかどうかによってあつかいをきめた例

・「京城」というルビつき表記なら特殊用法になるが，単に「京城」とある場合には「けいじょう」と読み，特殊用法とはしない。

・ルビつきで「瀋陽」とある場合には，「しんよう」としてはあつかわず，特殊用法のあつかいにする。

(3)　用例の提示のしかたに関して

①　同一部分が同一の用法でくりかえしあらわれても，現代語において単独で意味をもたないために，より大きな単位でたてた例

・「越（中～・～後・～後山脈）」とせず，「越中・越後（～・～山脈）」とする。

・「為（～時・～義・～朝）」とせず，「為時・為義・為朝」とする。

・「湿（～地・～地帯）」とせず，「湿地（～・～帯）とする。

② 5の(4)にのべた規準に従ったために，類似の語構成であるにもかかわらずまとめかたが違った例

・「不可能」や「不健全」は辞書の親見出しにあるが，「不健康」の形ではたっていないので，「可能・不可能」，「健全・不健全」となるものと，「健康（～・不～）」の形になるものとが出る。

・「願い」は辞書の親見出しにあるが，「救い」の形ではたっていないので，前者においては「願う・願い」となるが，後者の場合は「救う（～・～い）」という形になる。

③ そのままの形では辞書の親見出しにたたないが，二種類の分割が可能で，そのどちらによっても，見出しにたつ語形が得られる場合の処理例

・「一瞬間」は「一」プラス「瞬間」とも，「一瞬」プラス「間」とも考えられるが，「一瞬時」と同様に，後者の形で成立したものと推測し，「一瞬」の用例としてあつかい，「瞬間」の用例とは区別する。

・「腰をかける」の形の用例は，助詞「を」の存在を無視することなく，「腰」であつかい，「腰かける」とは区別する。

・「大喜び」は，「小走り」などと違って，そのままの形では見出しにたたないので，「大」をとりさった「喜び」の形であつかう。ただし，「喜びよう」などの「喜び」はそのような名詞形としてではなく，「喜ぶ」の用例とする。

④ 形をかえていろいろな品詞に使われるものを5の(4)の③の規則を適用して1つにまとめた例

・「堂々」の形で名詞や副詞に使われた用例も，「堂々と」の形で副詞に使われた用例も，「堂々たる」の形で連体詞に使われた用例も，すべて「堂々」で代表させる。

⑤ 単独ではあまり使われないが，造語成分としてはたらくために，語の構成部分をぬきだして用例にたてた例

・船舶の愛称に用いられる「丸」

・「粗銅」や「粗糖」などの「粗」
・「文化庁」や「警視庁」などの「庁」

⑥　用例整理のつごうで，辞書の見出しよりも小さな単位で切った例
・「皆既食」の場合，このままで見出しにあるが，「皆既日食」とまとめるために，辞書にはない「皆既」の形でたて，「皆既（～食・～日食）」と記載する。

⑦　かなり慣用句的に固定した形で用いられるものでも，辞書の見出しにないために，その成分をぬきだしてたてた例
・「計画立案」はそのままの形でたてず，「計画」と「立案」とにわけて，たとえば「案」については，「立案（計画～）」とする。
・「仲よく」は一語の副詞とはせず，「仲」という名詞でとる。
・「鼻であしらう」は，「鼻」の部分を他の名詞におきかえることができることをも考えあわせ，「鼻」という名詞の用例にふくめる。
・「並び称される」は，このままで受身をはずすと「並び称す」となるが，そういう形では使わないことをも考えあわせ，「並ぶ」と「称す」とに分けてたてる。

⑧　動詞起原の副詞と考えられ，辞書の見出しには元の動詞形しかたてていないが，意味的にかなりの変化が認められるので，動詞形から独立させて，一つの副詞として用例にたてた例
・「絶えず」は「絶える」という動詞と別に，その形で副詞にたててあるが，「改めて」も，いちおうの規準とした『岩波国語辞典』にはそのままの形でたてられていない。しかし，『広辞苑』では副詞として認めていることをも考慮して，「絶えず」に準ずるものとしてあつかい，「改める」から独立させる。したがって，「改める（～・～めて）」ではなく，「改める・改めて」という形に整理される。

⑨　語を構成している部分として漢字をぬきだした場合の，そのぬきだされた漢字の用例欄におけるとりあつかいの例
・「豊旗雲の豊」とある場合には，いちおう「豊」をたててまとめ，単独用

法をしるしたところに注記をほどこす。したがって，「豊(～〈部分抽出〉・～旗雲)」となる。

(4)　固有名詞あつかいに関して

5の(5)にのべた規準でだいたい処理でき，あまり問題とはならなかったので，いくつかの処理例をあげるにとどめる。

① 神仏の名は原則として固有名詞にする約束であるから，たとえば，「薬師如来」も固有名詞になるわけであるが，語構成からは「薬師」と「如来」とにわけて考えられ，その部分部分は固有名詞とは呼びにくいので，結局，いっしょになったときに固有名詞になるのだという意味を「薬師(～如来〈固〉)」という形であらわす。

② 逆に，ぬきだした部分がそれだけで固有名詞であるときに，それに他の成分が結合した複合名詞もやはり固有名詞であるかどうかという点には異論があると思われる。たとえば，「日本」は固有名詞であるが，「日本刀」や「日本料理」も固有名詞なのかとか，「神戸」は固有名詞だとしても「神戸牛」は普通名詞なのではないかとかいった問題である。このような場合，個々の例を吟味して決定することはひかえ，ぬきだされた部分に固有名詞の表示をするにとどめ，(　)内の部分と結合した長い単位が全体として固有名詞であるのかどうかという点にはふれないことにする。一例をあげると，「百済(くだら)〈固〉(～・～観音)」という記載形式をとるわけである。

③ 政党名は前掲の規準に従い，固有名詞あつかいになるものとならないものとが出てくるが，「大政翼賛会」は対応する組織が1つしか考えられないため；また，「労働党」はこれだけでイギリスの the Labour party をさすものと考え，ともに固有名詞としてあつかう。

④ 「倭(わ)」は「日本」という意味に用いられるので，単独でたてた用例を固有名詞あつかいにする。

⑤ 一見，人名にみえるが，「太郎冠者」の場合の「太郎」は，シナリオにおける「学生A，学生B，学生C……」の「A」ように，「最初に登場する」と

いう順番程度の意味しかないものと考え，固有名詞からはずす。

⑥　郷土芸能などについては，地名のついた「阿蘇虎舞」などの場合は固有名詞にするが，「虎舞」だけでは「釜石の虎舞」もあるので固有名詞あつかいにしない。

⑦　「絶句類選」などといった普通名詞に近いものでも，それが作品名を示すかぎり，固有名詞のあつかいをする。

⑧　「遣唐使」「遣隋使」「渡欧」などは，「唐」「隋」「欧」だけをとりだせば固有名詞のあつかいになるが，ここでは，用例をこのままの形でたて，固有名詞のあつかいにはしない。

⑨　「南蛮」は本来は普通名詞であっても，特定の国をさす場合は，「南米」や「西欧」と同様に固有名詞のあつかいとする。

8．漢字出現状況一覧表の使いかた

調査結果をまとめた漢字出現状況一覧表は，被調査者の漢字習得要因をさぐる基礎資料の一部をなすものである。と同時に，2でのべた限界があるにもかかわらず，巨視的には，中学生が教科書をつうじてどういう漢字にどう接しているのか，換言すれば，中学の教科書ではどういう漢字がどういうふうに使われているのかといった点に関する概況を報ずるものであるともいえよう。個々の漢字や音訓についての出現状況を知るには，6の(1)の説明を参照して，一覧表の該当する欄を検出し，6の(2)の説明によって各欄や項目の意味を確かめながら，その記載事項を追えばいいわけであり，少しなれてくれば，そういった説明をいちいち参照しなくとも，該当欄を横に読むだけで目的を達するであろう。しかし，ある数の漢字や音訓，あるいはいくつかの項目にまたがるある状況やその傾向を知るには，この表を使ってある操作をほどこさなければならない。そういった操作をかさねることにより，この表からひきだされる情報はそれにつれて豊富になるわけである。その意味でも基礎資料なのである。したがって，ある項目のある欄とまた別のある項目のある欄とをつきあわせると，あ

る条件における漢字なりその音訓なりのグループが得られる，というふうに，この表を利用していろいろなことが導けるはずである。

そこで，この一覧表からひきだせるそういったいろいろな情報のうち，調査目的であり，したがってその動機ともなった「漢字習得の要因」に関連をもちそうな諸項目についてかんたんな操作をほどこし，その一次的な結果だけを整理してかかげておくことにする。この結果にまた操作を加えれば，二次的な別の情報が得られるわけであり，また，基準をかえてやや性質の違う情報を得たり，それによっておこる変化を調べたりすることもできるわけであるが，ここでは見本を示すにとどめる。ここで「関連をもちそうな」というその範囲は，研究報告をもとにして厳密にきめたものではなく，きわめて常識的な観点から考えついた項目を並べたものにすぎない。しかし，逆に，この結果がその「関連をもちそうな」項目の選定に一役買うこともありそうである。しかしまた，厳密を期さなかったということは，実際には全然関連のない項目をとりあげたり，逆に，重要な観点が欠けていたりすることにもなるであろう。表からひきだせるもので欠けているところは，表をもとにして補うなど，積極的な運用を期待する。

なお，すでにことわったように，教育漢字と表外字の漢字出現状況一覧表は掲載できないので，次の結果を導きだす手順の詳細については，実際の表で確かめられる教育漢字外当用漢字の部に限ってのべることにする。

0—準備的資料

0－0　調査結果の数字の相対的な大小を理解するための参考資料，特に教育漢字およびその字音・字訓についての調査の分量を示す資料である。

0－1　当用漢字音訓表の整理

0－2　教育漢字のうち，調査した漢字の数と，調査しない漢字の数

0－3　教育漢字のうち調査した字音・字訓の数と，調査しない字音・字訓の数

1—教育漢字の場合

1－0　教育漢字の場合は，音訓の一部を除いて調査したものもあり，まっ

（0－1）

字音	字訓	別表	別表外	当用漢字
1	0	272	513	785
2	0	43	16	59
0	1	3	26	29
0	2	1	0	1
1	1	417	369	786
1	2	37	27	64
1	3	2	1	3
1	4	1	0	1
2	1	78	12	90
2	2	18	5	23
2	3	2	0	2
2	4	1	0	1
2	5	1	0	1
3	1	4	0	4
3	3	1	0	1
計		881	969	1850
字音		1030	976	2006
字訓		642	474	1116
計		1672	1450	3122

（0－2）

調査した漢字 { 全音訓にわたって　365字 { 音訓の一部をのぞいて　160字	525字
調査しなかった漢字	356字
計	881字

（0－3）

	字音	字訓	計
調査した	517	269	786
調査しない	513	373	886
計	1030	642	1672

たく調査しなかったものもあるので，以下の記述においては，特にことわらないかぎり，漢字については，全音訓にわたって調査した漢字のうちで，字音と字訓については，調査した字音と字訓のうちで，という条件がつねについているものとする。したがって，出現教科数欄に斜線のあるものは除外する。

〔出現量に関する面〕

1－1　国語にあらわれなかった漢字・字音・字訓

〔結　果〕

○漢字

穀税盟（計　3字）

○字音

遺イ　飲イン　音イン　何カ　荷カ　芽ガ　回カイ　解ゲ　外ゲ　勧カン　顔ガン　期ゴ
漁リョウ　京ケイ　兼ケン　絹ケン　功ク　行アン　厚コウ　谷コク　穀コク　殺サイ　至シ　歯シ
児ニ　借シャク　主ス　修シュ　衆シュ　出スイ　焼ショウ　食ジキ　織ショク　精ショウ　静ジョウ　税ゼイ
夕セキ　赤シャク　切サイ　説ゼイ　舌ゼツ　浅セン　宗ソウ　貸タイ　湯トウ　納トウ　白ビャク　麦バク
反タン　犯ハン　坂ハン　鼻ビ　歩ブ　包ホウ　盟メイ　預ヨ　力リキ　流ル　緑ロク

（計　59）

○字訓

因よる　延のべ　下もと　価あたい　外はか　各おのおの　幹みき　管くだ　眼まなこ　機はた　逆さからう　競きそう
結ゆう　後のち　差さす　災わざわい　字あざ　社やしろ　商あきなう　生き　政まつりごと　省かえりみる　戦たたかう　退しりぞく
続つづく　難かたい　敗やぶれる　民たみ　無ない　（計　29）

1－2　国語にあらわれた回数の多い漢字・字音・字訓

〔基準〕　漢字・字音は100回以上，字訓は50回以上とする。

〔結果〕

○漢字

（出現回数100～199）案演果確供告祭社術常身信深節相想待短典徒特能比必富返放末命論　（計　30字）

（同　200～299）解関句現詩修述初説送続単変　（計　13字）

（同　300～399）詞題用　（計　3字）

（同　400～499）的　（計　1字）

（同　500～599）調　（計　1字）

（同　600～　）聞　（計　1字）　（総計　49字）

○字音

（出現回数　100～199）案アン　演エン　果カ　言ゲン　行ギョウ　社シャ　術ジュツ　信シン　節セツ　送ソウ　想ソウ　太タ　調チョウ　典テン　徒ト　特トク　能ノウ　必ヒツ　文モン　放ホウ　命メイ　論ロン　（計　22）

（同　200～299）解カイ　関カン　句ク　現ゲン　詩シ　修シュウ　説セツ　単タン　聞ブン　明メイ　（計　10）

（同　300～399）間ケン　詞シ　題ダイ　用ヨウ　（計　4）

（同　400～482）的テキ　（計　1）　　（総計　37）

○字訓

（出現回数　50～99）　寄よる　喜よろこぶ　曲まがる　現あらわれる　止とまる　似にる　初はじめ　はじめて　消きえる　相あい　送おくる　打うつ　待まつ　得える　比くらべる　富とむ　末すえ　用もちいる　（計　18）

（同　100～199）供とも　祭まつる　述のべる　身み　深ふかい　先さき　続つづく　返かえす　変かわる　（計　9）

（同　200～299）なし

（同　300～399）聞きく　（計　1）

（同　400～405）調しらべる　（計　1）

〔出現間隔に関する面〕

1－3　国語にあらわれた回数がどの学年でも多い漢字・字音・字訓

〔基準〕　漢字・字音は10回以上，字訓は5回以上とする。

〔結果〕

○漢字

案因演応果解確格慣寄喜供曲句型敬現興号告混際在止詞詩治辞社修従述順準初消照常身信真深省積説節先戦相送想造続打待態題単著調底的適典徒特得比悲備必筆評夫文聞返変編放報末命訳余用礼冷論（計　90字）

○字音

案アン　因イン　演エン　応オウ　果カ　解カイ　確カク　格カク　間ケン　関カン　句ク　敬ケイ
言ゲン　現ゲン　行ギョウ　興キョウ　号ゴウ　告コク　際サイ　在ザイ　詞シ　詩シ　治ジ　辞ジ
社シャ　修シュウ　順ジュン　準ジュン　初ショ　照ショウ　身シン　信シン　省セイ　説セツ　節セツ　戦セン
相ソウ　想ソウ　続ゾク　態タイ　題ダイ　単タン　調チョウ　的テキ　適テキ　典テン　徒ト　特トク
備ビ　必ヒツ　筆ヒツ　評ヒョウ　夫フ　文モン　聞ブン　返ヘン　変ヘン　編ヘン　放ホウ　報ホウ
命メイ　明メイ　訳ヤク　用ヨウ　礼レイ　論ロン　（計　66）

○字訓

移うつる　改あらためる　確たしか　慣なれる　寄よる　喜よろこぶ　居いる　供とも　曲まがる　型かた　現あらわれる　混まぜる

再(ふたたび)　止(とまる)　似(にる)　従(したがう)　述(のべる)　初(はじめて)　助(すけ)　消(けす)　照(てる)　身(み)　真(ま)　深(ふかい)
積(つむ)　折(おる)　先(さき)　相(あい)　送(おくる)　造(つくる)　足(たりる)　息(いき)　続(つづく)　打(うつ)　待(まつ)　短(みじかい)
調(しらべる)　低(ひくい)　底(そこ)　得(える)　比(くらべる)　悲(かなしい)　必(かならず)　氷(こおり)　聞(きく)　返(かえす)　変(かわる)　命(いのち)
用(もちいる)　連(つれる)　（計　53）

〔出現傾向に関する面〕

1－4　特殊用法としてしかあらわれなかった漢字

〔結果〕なし

1－5　きまった語形でしかあらわれなかった漢字

〔基準〕　2回以上あらわれながらすべて同一語形であった漢字とする。

<注>結合例は同語の異用法とする。特にことわらないかぎり，以下，同様のあつかいとする。

〔結果〕

央（中央）　億（億）　拡（拡大）　勧（勧める）　券（券）　貯（貯水）
腸（胃腸）　犯（犯す）　（計8字）

1－6　固有名詞にしかあらわれなかった漢字・字音・字訓

〔結果〕

○漢字

是（如是閑）　蔵（達蔵・大蔵・武蔵坊）　（計2字）

○字音

久(ク)（大久保）　今(キン)（古今集・新古今集）　是(ゼ)（如是閑）　蔵(ゾウ)（達蔵）
右(ウ)（右馬助）　（計5）

○字訓

関(せき)（関根・下関）　室(むろ)（室町・根室）　修(おさ)（修）　倉(くら)（鎌倉・小倉）
蔵(くら)（大蔵）　孫(まご)（孫一）　（計6）

〔出現状況と成績との平均的対比〕

<注0>次の諸注は，特にことわらないかぎり以下の同類の操作に共通のものとする。

<注1>入学時と卒業時のテスト結果の差を問題にする。

<注2>入学時のテストでもれたものについては第2回のテスト結果で代用させる。

＜注３＞途中で習得したと判断して以後テストしなかったものも卒業時に正答のあつかいとする。

＜注４＞漢字については読み・書き，字音・字訓については読みのテストで判断する。

＜注５＞被調査者８人中の正答者数であらわす。

1－7　国語にあらわれた漢字・字音・字訓の成績の変化と，あらわれなかった漢字・字音・字訓の成績の変化

〔結果〕

○漢字

漢字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
あらわれた	4.4	7.6	6.7	7.8
あらわれなかった	3.3	6.3	7.7	8.0

○字音

字音	入学時	卒業時
あらわれた	6.6	8.0
あらわれなかった	3.5	6.9

○字訓

字音	入学時	卒業時
あらわれた	6.8	7.8
あらわれなかった	3.1	6.2

1－8　国語にあらわれた回数の多い漢字・字音・字訓の成績の変化と，少ない漢字・字音・字訓の成績の変化

〔基準〕　多いほうは１－２と同じ。少ないほうは，１回以上10回以下とする。

＜注＞０をふくむと１－７の観点がはいりこみ対比の性格が複雑になるのではぶく。特にことわらないかぎり，以下，同様のあつかいとする。

〔結果〕

○漢字

漢字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
多い	5.2	7.8	7.0	7.8
少ない	4.1	7.0	6.8	7.9

○字音

字音	入学時	卒業時
多い	7.2	8.0
少ない	5.0	7.9

○字訓

字訓	入学時	卒業時
多い	7.6	8.0
少ない	4.9	7.6

1—9　国語にあらわれた回数がどの学年でも多い漢字・字音・字訓の成績の変化と，ある学年でだけ多い漢字・字音・字訓の成績の変化

〔基準〕　1—2の基準にも1—3の基準にもあてはまるものと，1—2の基準にあてはまるが2つの学年で1—3の基準にみたないものとにする。

〔結果〕省略。

〔出現状況と成績との個別的対比〕

1—10　国語にあらわれなくても習得した漢字・字音・字訓

〔基準〕　入学時に正答者7人以下で，卒業時に全員が正答を出したものとする。

〔結果〕

○漢字

入学時	卒業時	漢字
読み書きとも7以下	読み書きとも8	なし
書きだけ7以下	〃 8	税
読みだけ7以下	〃 8	なし

○字音

穀コク　麦バク　歩ブ　漁リョウ　京ケイ　音イン　借シャク　何カ　飲イン　遺ユイ　湯トウ　鼻ビ
坂ハン　食ジキ　顔ガン　芽ガ　静ジョウ　出スイ　修シュ　厚コウ　歯シ　納トウ　至シ　兼ケン
緑ロク　焼ショウ　荷カ　預ヨ　包ホウ　力リキ　外ゲ　（計　31）

○字訓

敗やぶれる　無ない　省かえりみる　逆さからう　後のち　退しりぞく　民たみ　（計　7）

1—11　国語にあらわれた回数が多くても習得しきれなかった漢字・字音・字訓

〔基準〕　「回数が多い」の判定は1—2と同一基準とし，「習得しきれない」の判断は卒業時のテストで全員が正答を出すにはいたらなかった場合とする。

〔結果〕

○漢字

卒業時	漢字
読み書きともに7以下	解〴
書きだけ7以下	祭典徒述初単
読みだけ7以下	供な社し相ジョ説ゼイ的まと

○字音　なし
○字訓　なし

2—教育漢字外当用漢字の場合

〔初出に関する面〕

2—1　学年別の新出漢字・字音・字訓数

〔方法〕　各漢字の初出学年欄の字音・字訓・〈字〉の各行における，0を除く数字の度数を調べる。

〔結果〕

学年	字音	字訓	漢字	学年	字音	字訓	漢字
1年	510	242	611	1・2	9	2	7
2年	227	105	202	2・1	15	1	10
3年	109	86	85	1・3	0	0	0
0・1	0	2	0	3・1	5	2	2
1・0	1	0	0	2・3	4	0	5
0・2	2	0	2	3・2	2	0	0
2・0	1	0	0	0	87	31	44
0・3	0	2	0				
3・0	4	1	1	計	976	474	969

2—2　教科別・学年別の新出漢字・字音・字訓数

〔方法〕　各漢字の教科別初出学年欄の字音・字訓・〈字〉の各行における，0を除く数字の度数を教科ごとに調べる。

〔結果〕

○漢字

教科／学年	国語	数学	社会	理科	英語	音楽	美術	体育	男	女
1	367	102	318	81	37	77	61	94	128	154
2	263	23	290	198	68	49	68	163	44	50
3	174	53	121	106	96	109	51	68	129	98
計	804	178	729	385	201	235	180	325	301	302

○字音

教科／学年	国語	数学	社会	理科	英語	音楽	美術	体育	男	女
1	258	75	267	51	19	46	33	74	107	131
2	236	17	265	176	34	26	47	146	38	47
3	206	45	130	117	70	75	40	65	102	83
計	700	137	662	344	123	147	120	285	247	261

○字訓

教科／学年	国語	数学	社会	理科	英語	音楽	美術	体育	男	女
1	167	42	79	35	18	26	30	27	29	39
2	136	6	72	49	38	23	18	39	9	10
3	112	12	38	16	36	48	18	12	58	32
計	415	60	189	100	92	97	66	78	96	81

2－3　国語より先に他教科にあらわれた漢字・字音・字訓

〔基準〕　同学年の場合は，その先後を断じがたいので，すべて除外する。特にことわらないかぎり，以下の同種の考察においても同様のあつかいとする。国語にあらわれなかったものについては，他教科にあらわれればすべて該当するものとする。

〔方法〕　初出学年欄が教科別初出学年欄の「国」より小さい数値である漢字・字音・字訓を求める。ただし，後者が0であれば，前者も0である場合を除き，すべて拾う。

〔結果〕　ふりがなは，その字音・字訓としての初出が，＊印は，その漢字としての初出も，国語以外であったことを示す。

亜ア　握にぎる　扱あつかう　違ちがう　維イ　緯イ　逸イツ　姻イン　陰イン かげ　隠特　羽ウ　鋭するどい
疫エキ　悦エツ　越エツ こえる こす　沿エン そう　炎エン　宴エン　煙エン けむり　援エン　鉛エン なまり　汚オ　押オウ　欧オウ
翁特　奥オウ　憶オク　虞おそれ　乙オツ　卸おろす　穏オン　架カ　嫁カ　禍カ　雅ガ　灰カイ
皆カイ　懐カイ　壊カイ　劾ガイ　該ガイ　概ガイ　核カク　郭カク　隔カク　獲カク　嚇カク　岳ガク たけ
掛かける　割カツ　渇カツ　滑カツ　轄カツ　干ひる　甘カン　汗カン　冠カン かんむり　陥カン　貫カン　乾カン
患カン　閑カン　緩カン　環カン　還カン　艦カン　丸ガン　含ガン ふくむ　企キ　危キ あやうい　奇キ　岐キ
軌キ　鬼キ　既キ すでに　飢キ うえる　揮キ　棄キ　幾キ　輝キ かがやく　宜ギ　菊キク　虐ギャク　弓キュウ
及およぶ　丘キュウ　吸キュウ　窮キュウ　凶キョウ　況キョウ　享キョウ　狭キョウ　胸キョウ　驚キョウ おどろく　仰ギョウ　凝ギョウ
斤キン　菌キン　筋キン すじ　琴キン　謹特　駆ク　愚グ　偶グウ　掘クツ　繰くる　薫特　勲クン
茎ケイ くき　契ケイ　鯨ゲイ くじら　肩ケン　軒のき　圏ケン　遣ケン　倹ケン　剣ケン つるぎ　顕ケン　幻ゲン　弦ゲン
呼コ よぶ　枯かれる　弧コ　雇コ　互ゴ たがい　呉ゴ　孔コウ　巧コウ　甲コウ　江コウ　坑コウ　攻コウ
更さらに　恒コウ　拘コウ　肯コウ　荒あれる　降コウ ふる　香か　候コウ　紅コウ べに　控コウ　慌コウ　絞しぼる
硬コウ　酵コウ　綱コウ　鋼コウ　購コウ　衡コウ　拷ゴウ　剛ゴウ　酷コク　獄ゴク　骨コツ　婚コン
墾コン　懇特　佐サ　砂サ シャ すな　鎖サ　砕サイ　宰サイ　栽サイ　彩サイ　裁サイ たつ　催サイ もよおす　債サイ
剤ザイ　削サク　酢サク　錯サク　札サツ　擦サツ　撮サツ　旨むね　枝シ　姿シ　施シ　脂シ
紫シ　飼シ　雌シ　賜シ　侍さむらい　磁ジ　疾シツ　漆シツ　射シャ いる　赦シャ　捨シャ すてる　斜ななめ
煮シャ にる　邪特　勺シャク　尺シャク　若もしくは　狩シュ かり　珠シュ　殊シュ　儒ジュ　樹ジュ　舟シュウ ふね　秀シュウ
臭シュウ　愁シュウ　襲シュウ　柔ジュウ　銃ジュウ　渋ジュウ しぶ　縦ジュウ　獣ジュウ　粛シュク　縮シュク　熟ジュク　俊特
巡ジュン　循ジュン　潤ジュン　遵ジュン　署ショ　緒ショ お　徐ショ　升ショウ　匠ショウ　床ショウ ゆか　松ショウ　昇ショウ
沼ショウ ぬま　症ショウ　詔ショウ　硝ショウ　詳ショウ　彰特　奨ショウ　衝ショウ　礁ショウ　鐘ショウ　城しろ　剰ジョウ
蒸むす　畳ジョウ たたみ　醸ジョウ　殖ショク　触ショク　辱ジョク　伸シン　辛からい　侵シン おかす　振シン ふる　浸シン　針シン
診シン　刃ジン　薪シン　迅ジン　陣ジン　尽つくす　吹スイ　炊スイ　帥スイ　衰スイ おとろえる　睡スイ　穂スイ
遂スイ　酔スイ　錘スイ つむ　寸スン　畝セ　井ショウ セイ　姓セイ　盛ジョウ　誓セイ　請セイ うける　斥セキ　隻セキ
跡セキ　籍セキ　染セン　泉いずみ　扇セン　旋セン　銑セン　潜セン　繊セン　禅ゼン　阻ソ　租ソ
措ソ　塑ソ　双ソウ　掃ソウ　巣ソウ　喪も　捜ソウ　僧ソウ　燥ソウ　騒ソウ　促ソク　即ソク
堕ダ　耐タイ　胎タイ　泰特　逮タイ　袋タイ　滝タキ　宅タク　沢タク　択タク　拓タク　託タク
諾ダク　但ただし　脱ダツ　奪ダツ うばう　淡あわい　端タン　鍛タン　値チ あたい ね　致チ　遅チ　稚チ　畜チク
秩特　仲チュウ　宙チュウ　抽チュウ　衷チュウ　鋳チュウ いる　兆チョウ　頂いただき　彫ほる　跳チョウ　澄チョウ すむ　懲チョウ

庁チョウ　沈チン（しずむ）　珍チン　陳チン　痛ツウ　坪つぼ　呈テイ　廷テイ　堤テイ　締テイ　摘テキ　滴テキ
斗ト　塗ト（ぬる）　奴ド　怒特　到トウ　倒トウ（たおれる）　凍トウ　唐トウ　透トウ　陶トウ　痘トウ　筒トウ
塔トウ　稲トウ　踏トウ（ふむ）　糖トウ　騰トウ　闘トウ　胴ドウ　突トツ（つく）　豚トン（ぶた）　鈍ドン　曇ドン　較ナン
尼あま　乳ニュウ　尿ニョウ　妊ニン　寧ネイ　粘ネン　濃ノウ（こい）　肺ハイ　背ハイ　排ハイ　培バイ　梅バイ
陪バイ　媒バイ　賠バイ　拍ハク（ヒョウシ）　迫ハク　舶ハク　薄ハク　幕バク　爆バク　縛バク　抜バツ　閥バツ
帆ハン　伴ハン（バン）　販ハン　煩ハン（わずらわしい）　頒ハン　藩ハン　卑いやしい　被ヒ　疲ヒ（つかれる）　碑ヒ　避ヒ　泌ヒツ
漂ヒョウ　苗ビョウ（なえ）　描ビョウ　浜ヒン（はま）　敏ビン　扶フ　附フ　浮フ　腐フ　敷しく　膚フ　賦フ
侮フ　幅フク（はば）　沸フツ　紛フン　墳フン　噴フン　丙ヘイ　併ヘイ　柄ヘイ（え　がら）　閉ヘイ　弊ヘイ　癖ヘキ
壁ヘキ（かべ）　遍ヘン　捕ホ（とらえる）　浦ホ（うら）　募ボ　慕ボ　簿ボ　邦ホウ　宝ホウ　峰ホウ　飽ホウ　縫ホウ
妨ボウ　剖ボウ　肪ボウ　紡ボウ　膨ボウ　墨ボク　没ボツ　麻マ（あさ）　魔マ　埋マイ　膜マク　漫マン
眠ミン　霧ム（きり）　免まぬがれる　茂しげる　盲モウ　耗モウ　網モウ（あみ）　紋モン　匁もんめ　躍ヤク　唯ユイ　幽ユウ
誘ユウ　優ユウ　与あたえる　誉ヨ　羊ヨウ（ひつじ）　庸ヨウ　揚あげる　溶ヨウ　腰ヨウ　揺ヨウ　窯ヨウ　謡ヨウ
擁ヨウ　翼ヨク　酪ラク　卵ラン　濫ラン　痢リ　履リ　裏リ　柳リュウ（やなぎ）　粒リュウ（つぶ）　硫リュウ　猟リョウ
陵リョウ　僚リョウ　療リョウ　糧リョウ　厘リン　倫リン　隣リン　累ルイ　零レイ　隷レイ　麗特　暦レキ（こよみ）
劣レツ（おとる）　裂レツ　恋レン　廉レン　錬レン　露ロ　浪ロウ　楼ロウ　漏ロウ　腕ワン

（計　漢字401，字音462，字訓116，特殊用法12）

〔出現量に関する面〕

2－4　国語にあらわれなかった漢字・字音・字訓

〔方法〕　出現度数欄の計が0である漢字・字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

亜芋姻謁宴殴翁虞乙卸佳禍寡餓悔劾該嚇渇轄喚堪款憾還忌棋宜虐糾窮凶恭斤謹倹呉碁坑恒拘侯慌絞酵鋼拷剛酷獄墾債搾擦暫嗣諮璽疾漆赦勺尺囚臭愁叔淑粛循遵緒升匠祥詔奨礁剰錠醸嘱辱娠紳迅帥衰睡錘畝窃旋銑阻租措塑喪堕胎逮諾但鍛逐嫡哀弔兆脹朕陳坪呈遁艇迭斗奴悼痘騰匿豚軟尿妊寧肺陪媒賠閥畔頒泌苗扶附赴賦侮墳丙柄遍邦奔耗紋匁幽庸窯酪濫痢履硫陵厘隷廉賄（計165字）

○字音

亜ア　依エ　慰イ　姻イン　羽ウ　謁エツ　宴エン　押オウ　殴オウ　翁オウ　奥オウ　乙オツ
佳カ　嫁カ　禍カ　寡カ　餓ガ　灰カイ　怪カイ　皆カイ　悔カイ　劾ガイ　該ガイ　隔カク
嚇カク　割カツ　渇カツ　轄カツ　甘カン　汗カン　喚カン　堪カン　款カン　憾カン　還カン　含ガン
忌キ　飢キ　棋キ　幾キ　輝キ　宜ギ　偽ギ　虐ギャク　弓キュウ　泣キュウ　糾キュウ　窮キュウ
虚コ　凶キョウ　恭キョウ　狭キョウ　胸キョウ　仰ギョウ　暁ギョウ　斤キン　謹キン　駆ク　掘クツ　薫クン
茎ケイ　倹ケン　繭ケン　懸ケ　枯コ　雇コ　呉ゴ　碁ゴ　甲コウ　坑コウ　恒コウ　拘コウ
候コウ　紅ク　控コウ　慌コウ　絞コウ　酵コウ　綱コウ　鋼コウ　拷ゴウ　剛ゴウ　酷コク　獄ゴク
魂コン　墾コン　砂シャ　砕サイ　債サイ　歳セイ　削サク　酢サク　搾サク　擦サツ　暫ザン　伺シ
嗣シ　雌シ　賜シ　諮シ　璽ジ　疾シツ　執シュウ　漆シツ　赦シャ　捨シャ　煮シャ　勺シャク
尺シャク　狩シュ　囚シュウ　臭シュウ　愁シュウ　醜シュウ　渋ジュウ　叔シュク　淑シュク　粛シュク　盾ジュン　循ジュン
遵ジュン　緒ショ　升ショウ　匠ショウ　沼ショウ　祥ショウ　詔ショウ　奨ショウ　礁ショウ　鐘ショウ　剰ジョウ　錠ジョウ
醸ジョウ　嘱ショク　辱ジョク　伸シン　浸シン　娠シン　紳シン　刃ジン　迅ジン　尋ジン　尽ジン　吹スイ
帥スイ　衰スイ　睡スイ　穂スイ　遂スイ　酔スイ　錘スイ　井セイ　盛ジョウ　婿セイ　昔セキ　窃セツ
旋セン　銑セン　阻ソ　租ソ　措ソ　塑ソ　桑ソウ　巣ソウ　喪ソウ　捜ソウ　憎ゾウ　贈ゾウ
促ソク　堕ダ　胎タイ　怠タイ　逮タイ　袋タイ　諾ダク　奪ダツ　鍛タン　恥チ　逐チク　嫡チャク
仲チュウ　衷チュウ　弔チュウ　兆チョウ　脹チョウ　懲チョウ　珍チン　朕チン　陳チン　呈テイ　貞テイ　遜テイ
艇テイ　締テイ　迭テツ　添テン　斗ト　吐ト　奴ド　桃トウ　悼トウ　痘トウ　稲トウ　騰トウ
匿トク　篤トク　豚トン　軟ナン　尼ニ　尿ニョウ　妊ニン　寧ネイ　肺ハイ　梅バイ　陪バイ　媒バイ
賠バイ　薄ハク　縛バク　抜バツ　閥バツ　伴ハン　畔ハン　頒ハン　彼ヒ　匹ヒツ　泌ヒツ　苗ビョウ
扶フ　附フ　赴フ　浮フ　賦フ　侮ブ　幅フク　払フツ　沸フツ　紛フン　墳フン　丙ヘイ
柄ヘイ　癖ヘキ　遍ヘン　浦ホ　募ボ　慕ボ　邦ホウ　飽ホウ　縫ホウ　妨ボウ　奔ホン　矛ム
耗モウ　網モウ　紋モン　幽ユウ　憂ユウ　庸ヨウ　腰ヨウ　窯ヨウ　酪ラク　濫ラン　痢リ　履リ
裏リ　柳リュウ　硫リュウ　陵リョウ　厘リン　涙ルイ　鈴リン　隷レイ　恋レン　廉レン　漏ロウ　賄ワイ

（計　276）

○字訓

芋いも　虞おそれ　卸おろす　悔くいる　くやむ　堪たえる　危あやう　忌いむ　既すでに　窮きわめる　契ちぎる　剣つるぎ　幻まぼろし
弦つる　紅くれない　絞しぼる　しめる　裁たつ　旨むね　執とる　漆うるし　若もしくは　寿ことぶき　臭くさい　充あてる　緒お
詔みことのり　蒸むす　辛からい　侵おかす　衰おとろえる　錘つむ　畝せ　請うける　礎いしずえ　喪も　装よそおう　操みさお

滞(とどこお)る 但(ただし) 鍛(きた)える 甲(とり) 坪(つぼ) 豚(ぶた) 杯(さかずき) 卑(いやし)い 苗(なえ) 腐(くさ)る 侮(あなど)る 柄(がら) 紡(つむ)ぐ 免(まぬが)れる 匁(もんめ) 誉(ほまれ) 裸(はだか) 陵(みささぎ) 恋(こい) 朗(ほがらか)（計 59）

2－5　国語にあらわれた回数の多い漢字・字音・字訓

〔基準〕　漢字は40回以上，字音・字訓は20回以上とする。

〔方法〕　出現度数欄の計が40以上の漢字，20以上の字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

（出現回数40～59）　偉影箇丸吉泣叫狂響恵傾激荒刻込座咲紫誌晶吹井窓装端潮突背片棒雄優与腰頼（計35字）

（同　60～79）　越簡脚源旨笑盛霜渡悩抜姫浮普並暮忘夢覧隣（計20字）

（同　80～99）　御好若寝（計4字）

（同　100～149）　押呼降姿昔舞（計6字）

（同　150～199）　違飾彼（計3字）

（同　200～261）　劇段郎（計3字）　（総計71字）

○字訓

（出現回数20～59）偉イ　影エイ　奥オク　箇カ　介カイ　鑑カン　儀ギ　吉キチ　拠キョ　狂キョウ　郷キョウ　響キョウ　屈クツ　恵エ　傾ケイ　激ゲキ　懸ケン　項コウ　刻コク　砂サ　座ザ　索サク　誌シ　侍ジ　湿シツ　射シャ　趣シュ　樹ジュ　将ショウ　晶ショウ　紹ショウ　掌ショウ　丈ジョウ　蒸ジョウ　昔シャク　装ソウ　僧ソウ　操ソウ　値チ　蓄チク　途ト　突トツ　俳ハイ　班ハン　般ハン　晩バン　批ヒ　尾ビ　並ヘイ　房ボウ　棒ボウ　翻ホン　妙ミョウ　躍ヤク　隆リュウ　慮リョ　隣リン　朗ロウ　惑ワク　（計 59）

（ 60～ 99）簡カン　脚キャク　源ゲン　御ゴ　旨シ　普フ　覧ラン　（計 7）

（100～149）舞ブ　（計 1）

（150～199）飾ショク　（計 1）

（200～261）劇ゲキ　段ダン　郎ロウ　（計 3）　（総計 71）

○字　訓

（出現回数20～59）影かげ　越こえる　桜さくら　皆みな　掛かける　割わる　巻まく　換かえる　丸まるい

輝(かがやく)　泣(なく)　叫(さけぶ)　胸(むね)　響(ひびく)　筋(すじ)　琴(こと)　迎(むかえる)　激(はげしい)　穴(あな)　互(たがい)　江(え)
好(すく)　荒(あれる)　降(ふる)　綱(つな)　込(こむ)　咲(さく)　枝(えだ)　紫(むらさき)　飼(かう)　捨(てる)　舟(ふね)　松(まつ)
鐘(かね)　飾(かざる)　伸(のびる)　尽(つくす)　吹(ふく)　井(い)　盛(さかりる)　洗(あらう)　訴(うったえる)　窓(まど)　贈(おくる)　端(はし)
暖(あたたかい)　遅(おくれる)　仲(なか)　潮(しお)　笛(ふえ)　添(そえる)　逃(にげる)　踏(ふむ)　突(つく)　背(せ)　迫(せまる)　箱(はこ)
髪(かみ)　帆(ほ)　描(えがく)　浮(うかぶ)　伏(ふせる)　並(ならべる)　片(かた)　浦(うら)　暮(くらすくれる)　忘(わすれる)　眠(ねむる)　夢(ゆめ)
娘(むすめ)　綱(あみ)　優(やさしい)　与(あたえる)　腰(こし)　頼(たのむ)　離(はなれる)　隣(となり)　腕(うで)　(計　81)

(60～99)　呼(よぶ)　降(おりる)　若(わかい)　笑(わらう)　寝(ねる)　霜(しも)　渡(わたる)　悩(なやむ)　抜(ぬく)　姫(ひめ)
(計　10)

(100～149)　違(ちがう)　押(おす)　姿(すがた)　昔(むかし)　(計　4)

(150～178)　彼(かれ)　(計　1)　(総計　96)

〔出現間隔に関する面〕

2－6　国語にあらわれた回数がどの学年でも多い漢字・字音・字訓

〔基準〕　漢字は10回以上，字音・字訓は5回以上とする。

〔方法〕　出現度数欄がどの学年でも10以上の漢字，5以上の字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

偉押割簡丸脚叫響傾劇御好刻咲旨姿若笑飾寝昔装端段途渡背抜浮舞並片暮忘夢雄朗郎(計　38字)

○字音

偉(イ)　奥(オク)　箇(カ)　簡(カン)　脚(キャク)　響(キョウ)　屈(クツ)　傾(ケイ)　劇(ゲキ)　激(ゲキ)　御(ゴ)　項(コウ)
刻(コク)　旨(シ)　将(ショウ)　晶(ショウ)　飾(ショク)　装(ソウ)　段(ダン)　途(ト)　班(ハン)　般(ハン)　晩(バン)　批(ヒ)
舞(ブ)　棒(ボウ)　翻(ホン)　覧(ラン)　朗(ロウ)　郎(ロウ)　(計　30)

○字訓

押(おす)　割(わる)　干(ほす)　丸(まるい)　泣(なく)　叫(さけぶ)　胸(むね)　迎(むかえる)　穴(あな)　好(すく)　綱(つな)　咲(さく)
姿(すがた)　若(わかい)　笑(わらう)　飾(かざる)　寝(ねる)　吹(ふく)　盛(さかり)　昔(むかし)　窓(まど)　暖(あたたかい)　背(せ)　迫(せまる)
抜(ぬく)　浮(うかぶ)　並(ならべる)　片(かた)　暮(くれる)　忘(わすれる)　眠(ねむる)　夢(ゆめ)　雄(お)　腰(こし)　頼(たのむ)　隣(となり)
腕(うで)　(計　37)

〔出現幅に関する面〕

2－7　各漢字・字音・字訓のあらわれた教科の幅

〔方法〕　各漢字の出現教科数欄の字音・字訓・〈字〉の各行における数字の度数を調べる。

〔結果〕

○漢字

教科数	漢字数	教科数	漢字数	教科数	漢字数	教科数	漢字数
0	44	2・3	15	5・4	28	7	35
0・1	2	3・2	13	5	79	7・8	4
1・0	1	3	132	5・6	26	8・7	5
1	113	3・4	23	6・5	15	8	20
1・2	11	4・3	27	6	60	8・9	0
2・1	9	4	94	6・7	5	9・8	2
2	170	4・5	22	7・6	6	9	8

（計　969字）

○字音

教科数	字音数	教科数	字音数	教科数	字音数	教科数	字音数
0	87	2・3	22	5・4	23	7	18
0・1	2	3・2	15	5	75	7・8	3
1・0	6	3	127	5・6	17	8・7	0
1	162	3・4	29	6・5	7	8	10
1・2	12	4・3	22	6	38	8・9	0
2・1	9	4	83	6・7	3	9・8	1
2	179	4・5	17	7・6	5	9	4

（計　976）

○字訓

教科数	字訓数	教科数	字訓数	教科数	字訓数	教科数	字訓数
0	31	2・3	4	5・4	11	7	8
0・1	4	3・2	9	5	26	7・8	0
1・0	1	3	46	5・6	2	8・7	3
1	136	3・4	8	6・5	4	8	1
1・2	8	4・3	14	6	13	8・9	0
2・1	9	4	33	6・7	4	9・8	0
2	88	4・5	7	7・6	2	9	2

（計　474）

2－8　ほとんどの教科にあらわれなかった漢字・字音・字訓

〔基準〕　1教科にあらわれただけのものまでとする。ただし，男子と女子とで条件の違う場合は，多いほうで2教科までとする。

〔方法〕　出現教科数欄が，0か1かをふくむ数値である漢字・字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

（0教科）芋謁殴佳寡餓悔喚堪款憾忌棋糾恭碁搾晢嗣諮璽囚叔淑祥錠嘱娠紳窃逐嫡弔脹朕逓艇迭悼匿畔赴奔賄（計44字）

（0･1 教科）陳妊（計2字）

（1･0 教科）絞（計1字）

（1教科）尉(国)　慰(国)　姻(社)　韻(国)　宴(音)　翁(音)　虞(社)　禍(社)　蚊(国)　怪(国)　劾(社)　慨(国)　該(社)　嚇(社)　渇(社)　轄(社)　敢(国)　還(社)　欺(国)　偽(国)　擬(国)　虐(社)　朽(国)　窮(社)　暁(国)　斤(数)　謹(社)　倹(社)　繭(国)　顧(国)　呉(社)　拘(社)　候(社)　慌(社)　酵(理)　拷(社)　酷(社)　恨(国)　墾(社)　詐(国)　債(社)　伺(国)　疾(社)　赦(社)　勺(数)　愁(音)　醜(国)　粛(社)　盾(国)　遵(社)　升(数)　匠(音)　詔(社)　礁(社)　冗(国)　剰(社)　醸(社)　辱(社)　迅(社)　尋(国)　帥(社)　錘(社)　惜(国)　拙(国)　遷(国)　薦(国)　漸(国)　租(社)　疎(国)　喪(社)　堕(社)　胎(理)　怠(国)　諾(社)　但(社)　恥(国)　衷(社)　墜(国)　添(国)　奴(社)　痘(社)　謄(国)　寧(社)　婆(国)　杯(国)　陪(社)　賠(社)　閥(社)　頒(社)　妃(国)　賓(国)　扶(社)　附(社)　賦(社)　侮(社)　憤(国)　丙(数)　遍(社)　某(国)　撲(国)　慢(国)　矛(国)　庸(社)　窯(社)　酪(社)　濫(社)　痢(体)　履(社)　虜(国)　陵(社)　厘(数)　塁(国)　隷(社)　（計　113字）

（1・2教科）卸(社･女)　詰(国･女)　紺(国･女)　漆(社･女)　臭(理･女)　睡(体･女)　践(国･女)　呈(社･女)　豚(理･女)　媒(理･女)　凡(国･女)　（計　11字）

（2・1教科）郭(国･男)　砕(国･男)　削(国･男)　擦(理･男)　旬(国･男)　阻(社･男)　惰(国･男)　摘(国･男)　耗(社･男)　（計　9字）　（総計　180字）

○字音

（0教科）　依ニ　慰イ　謁エツ　殴オウ　翁オウ　佳カ　寡カ　餓ガ　怪カイ　悔カイ

喚カン　堪カン　款カン　憾カン　忌キ　棋キ　偽ギ　泣キュウ　糾キュウ　虚コ　恭キョウ　暁ギョウ
謹キン　薫クン　繭ケン　懸ケ　碁ゴ　紅ク　絞コウ　魂コン　歳セイ　搾サク　暫ザン　伺シ
嗣シ　諮シ　璽ジ　執シュウ　囚シュウ　醜シュウ　叔シュク　淑シュク　盾ジュン　祥ショウ　錠ジョウ　嘱ショク
娠シン　紳シン　尋ジン　尽ジン　婿セイ　昔セキ　窃セツ　桑ソウ　喪ソウ　憎ゾウ　贈ゾウ　怠タイ
恥チ　逐チク　嫡チャク　弔チョウ　脹チョウ　朕チン　貞テイ　逓テイ　艇テイ　迭テツ　添テン　桃トウ
悼トウ　匿トク　篤トク　尼ニ　畔ハン　彼ヒ　匹ヒツ　赴フ　払フツ　浦ホ　奔ホン　予ム
憂ユウ　涙ルイ　鈴リン　恋レン　賄ワイ　（計　87）

（0・1教科）陳チン　妊ニン　（計　2）

（1・0教科）枯コ　砕サイ　削サク　刃ジン　穂スイ　苗ビョウ　（計　6）

（　1　教科）尉(国)　姻(社)　韻(国)　宴(社)　押(社)　奥(社)
桜(国)　嫁(社)　禍(社)　劾(社)　慨(国)　該(社)　嚇(社)　渇(社)
轄(社)　敢(国)　還(社)　祈(国)　飢(社)　輝(社)　欺(国)　擬(国)
詰(国)　虐(社)　弓(音)　朽(国)　窮(社)　叫(国)　狭(社)　仰(数)
斤(数)　茎(理)　穴(国)　倹(国)　懸(国)　雇(社)　顧(国)　呉(社)
甲(国)　拘(社)　候(社)　控(社)　慌(社)　酵(理)　綱(理)　拷(社)
酷(社)　恨(国)　墾(社)　悉(国)　詐(国)　債(社)　雌(理)　賜(社)
侍(国)　滋(国)　疾(社)　赦(社)　捨(数)　勺(数)　寂(国)　狩(社)
愁(音)　渋(社)　粛(社)　俊(国)　遵(社)　緒(体)　如(国)　升(数)
匠(音)　沼(社)　詔(社)　彰(国)　礁(社)　鐘(美)　冗(国)　剰(社)
醸(社)　辱(社)　迅(社)　帥(社)　酔(理)　錘(社)　井(理)　盛(社)
請(国)　惜(国)　拙(国)　遷(国)　薦(国)　漸(国)　租(社)　疎(国)
荘(国)　巣(理)　窓(国)　捜(社)　装(国)　霜(国)　堕(社)　胎(理)
泰(国)　袋(社)　諾(社)　奪(社)　鍛(男・女)　仲(社)　衷(社)　懲(社)
珍(社)　墜(国)　殿(国)　吐(体)　奴(社)　怒(国)　豆(国)　痘(社)
稲(社)　謄(国)　豚(理)　寧(社)　婆(国)　杯(国)　陪(社)　賠(社)
縛(社)　閥(社)　伴(社)　煩(国)　頒(社)　妃(国)　賓(国)　扶(社)
附(社)　敷(国)　賦(社)　侮(社)　慣(国)　丙(数)　癖(体)　遍(社)
慕(社)　暮(国)　抱(国)　飽(理)　縫(男・女)　某(国)　撲(国)　慢(国)

庸(ヨウ)(社)　窯(ヨウ)(社)　酪(ラク)(社)　濫(ラン)(社)　痢(リ)(体)　履(リ)(社)　虜(リョ)(国)　陵(リョウ)(社)
厘(リン)(数)　塁(ルイ)(国)　隷(レイ)(社)　漏(ロウ)(男・女)　（計　162）

（１・２教科）　献(コン)(国・女)　紺(コン)(国・女)　漆(シツ)(社・女)　臭(シュウ)(理・女)　睡(スイ)(体・女)　践(セン)(国・女)
呈(テイ)(社・女)　媒(バイ)(理・女)　紛(フン)(社・女)　柄(ヘイ)(理・女)　凡(ボン)(国・女)　腰(ヨウ)(体・女)
（計　12）

（２・１教科）　郭(カク)(国・男)　擦(サツ)(理・男)　旬(ジュン)(国・男)　阻(ソ)(社・男)　惰(ダ)(国・男)　締(テイ)(社・男)
摘(テキ)(国・男)　幅(フク)(理・男)　耗(モウ)(社・男)　（計　9）　（総計　278）

○字訓

（０教科）　芋(いも)　悔(くいる)(くやむ)　堪(たえる)　忌(いむ)　窮(きわめる)　契(ちぎる)　幻(まぼろし)　弦(つる)　紅(くれない)　絞(しめる)
執(とる)　漆(うるし)　寿(ことぶき)　臭(くさい)　充(あてる)　詔(みことのり)　礎(いしずえ)　装(よそおう)　操(みさお)　滞(とどこおる)　鍛(きたえる)　弔(とむらう)
杯(さかづき)　腐(くさる)　侮(あなどる)　紡(つむぐ)　誉(ほまれ)　裸(はだか)　陵(みささぎ)　朗(ほがらか)　（計　31）

（０・１教科）　裁(たつ)　蒸(むす)　辛(からい)　豚(ぶた)　（計　4）

（１・０教科）　絞(しぼる)　（計　1）

（　1　教科）　哀(あわれ)(国)　偉(えらい)(国)　慰(なぐさめる)(国)　隠(かくれる)(国)　映(うつる)(国)　汚(けがす)(国)
謙(おそれ)(社)　穏(おだやか)(国)　暇(ひま)(国)　蚊(か)(国)　戒(いましめる)(国)　怪(あやしい)(国)　皆(みな)(国)　隔(へだてる)(国)
肝(きも)(国)　陥(おちいる)(国)　貫(つらぬく)(国)　企(くわだてる)(国)　危(あやうい)(社)　鬼(おに)(国)　既(すでに)(社)　欺(あざむく)(国)
偽(いつわる)(国)　戯(たわむれる)(国)　朽(くちる)(国)　狂(くるう)(国)　恐(おそろしい)(国)　脅(おびやかす)(国)　仰(おおせ)(国)　凝(こる)(国)
暁(あかつき)(国)　駆(かける)(国)　愚(おろか)(国)　恵(めぐむ)(国)　携(たずさえる)(国)　撃(うつ)(国)　剣(つるぎ)(音)　繭(まゆ)(国)
鼓(つづみ)(国)　顧(かえりみる)(国)　悟(さとる)(国)　控(ひかえる)(国)　困(こまる)(国)　恨(うらむ)(国)　鎖(くさり)(国)　砕(くだく)(国)
削(けずる)(国)　旨(むね)(社)　伺(うかがう)(国)　賜(たまわる)(国)　若(もしくは)(社)　趣(おもむき)(国)　醜(みにくい)(国)　襲(おそう)(国)
柔(やわらかい)(国)　渋(しぶい)(国)　縮(ちぢむ)(国)　巡(めぐる)(国)　潤(うるおう)(国)　緒(お)(音)　焦(こげる)(国)　詳(くわしい)(国)
償(つぐなう)(国)　浸(ひたす)(国)　震(ふるう)(国)　尋(たずねる)(国)　遂(とげる)(国)　錘(つむ)(社)　請(うける)(社)　こう(国)
惜(おしい)(国)　占(うらなう)(国)　潜(ひそむ)(国)　繕(つくろう)(国)　掃(はく)(国)　喪(も)(社)　捜(さがす)(国)　葬(ほうむる)(国)
騒(さわぐ)(国)　束(たば)(国)　怠(おこたる)(国)　濁(にごる)(国)　但(ただし)(社)　脱(ぬぐ)(国)　探(さぐる)(国)　嘆(なげく)(国)
恥(はじる)(国)　懲(こらす)(国)　摘(つむ)(国)　添(そえる)(国)　殿(との)(国)　吐(はく)(国)　凍(こおる)(こごえる)(国)
透(すく)(国)　忍(しのぶ)(国)　粘(ねばる)(国)　悩(なやむ)(国)　迫(せまる)(国)　泊(とまる)(国)　縛(しばる)(国)　卑(いやしい)(社)
被(こうむる)(国)　漂(ただよう)(国)　膚(はだ)(国)　沸(わく)(国)　紛(まぎれる)(国)　憤(いきどおる)(国)　癖(くせ)(国)　募(つのる)(国)
慕(したう)(国)　芳(かんばしい)(国)　奉(たてまつる)(国)　訪(おとずれる)(国)　飽(あきる)(国)　乏(とぼしい)(国)　忙(いそがしい)(国)　冒(おかす)(国)

翻(国)　免(社)　盲(国)　黙(国)　誘(国)　優(国)　憂(国)　幼(国)
謡(国)　翼(国)　雷(国)　励(国)　麗(国)　裂(国)　恋(音)　(国)
漏(国)　惑(国)　（計　136）

（1・2教科）　卸(社・女)　詰(国・女)　鶏(国・女)　紅(国・女)　飾(国・女)　柄(社・女)
縫(国・女)　揚(国・女)　（計　8）

（2・1教科）　換(国・男)　狭(国・男)　施(国・男)　侵(社・男)　促(国・男)　避(国・男)
暮(国・男)　劣(国・男)　漏(国・男)　（計　9）　（総計　189）

2－9　いろいろな教科にあらわれた漢字・字音・字訓

〔基準〕　男子・女子のどちらにとっても6教科以上とする。

〔方法〕　出現教科数欄が6であるか，7以上の数をふくむ数値である漢字・字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

（9教科）　割互刻座途箱般並（計8字）

（9･8 教科）　頂渡（計2字）

（8･9 教科）　（計0字）

（8教科）　影鉛押較巻簡響呼好射斜振井段徴濃壁棒密離（計20字）

（8･7 教科）　降吹忘与隆（計5字）

（7･8 教科）　鮮優卵郎（計4字）

（7教科）羽縁奥換丸机既距傾穴源項鎖充縦針垂礎装値沈突範晩尾普幅閉片房模雄誘裏腕（計35字）

（7･6 教科）　陰越郷偶撃微（計6字）

（6･7 教科）　域胸窓羊乱（計5字）

（6教科）　為違維憶灰隔穫乾寛環鑑危丘吸警激甲江抗硬骨斎枝姿飼軸尺樹縮熟床松傷蒸触伸盛耐択淡端致仲津抵豆透塔闘粘背培髪浮伏浦麻枚妙溶（計60字）　（総計　145字）

○字音

（　9　教科）刻コク　座ザ　途ト　般ハン　（計　4）
（9・8教科）頂チョウ　（計　1）
（8・9教科）（計　0）
（　8　教科）影エイ　較カク　簡カン　響キョウ　射シャ　段ダン　徴チョウ　棒ボウ　密ミツ　離リ　（計　10）
（8・7教科）（計　0）
（7・8教科）鮮セン　優ユウ　郎ロウ　（計　3）
（　7　教科）鉛エン　奥オク　換カン　距キョ　傾ケイ　互ゴ　項コウ　鎖サ　斜シャ　充ジュウ　垂スイ　礎ソ　装ソウ　範ハン　晩バン　普フ　模モ　誘ユウ　（計　18）
（7・6教科）陰イン　偶グウ　撃ゲキ　微ビ　隆リュウ　（計　5）
（6・7教科）域イキ　濃ノウ　乱ラン　（計　3）
（　6　教科）維イ　縁エン　憶オク　穫カク　鑑カン　危キ　既キ　吸キュウ　警ケイ　源ゲン　抗コウ　骨コツ　斎サイ　軸ジク　尺シャク　樹ジュ　縮シュク　熟ジュク　蒸ジョウ　針シン　択タク　端タン　値チ　致チ　沈チン　抵テイ　透トウ　塔トウ　闘トウ　突トツ　粘ネン　培バイ　壁ヘキ　片ヘン　房ボウ　枚マイ　妙ミョウ　雄ユウ　（計　38）　（総計　82）

○字訓
（　9　教科）割わる　箱はこ　（計　2）
（9・8教科）（計　0）
（8・9教科）（計　0）
（　8　教科）井い　（計　1）
（8・7教科）振ふる　渡わたる　忘わすれる　（計　3）
（7・8教科）（計　0）
（　7　教科）押おす　巻まく　机つくえ　穴あな　幅はば　壁かべ　与あたえる　裏うら　（計　8）
（7・6教科）呼よぶ　吹ふく　（計　2）
（6・7教科）好このむ　窓まど　尾お　卵たまご　（計　4）

（　6　教科）灰(はい)　丸(まるい)　互(たがい)　江(え)　縦(たて)　床(ゆか)　松(まつ)　津(つ)　豆(まめ)
背(せ)　並(ならべ)　片(かた)　雄(お)　（計　13）　（総計　33）

〔出現傾向に関する面〕

2—10　特殊用法としてしかあらわれなかった漢字

〔方法〕　出現教科数欄がとの音訓の行も0で，〈字〉の行だけが1以上の漢字を求める。または，用例欄が〈字〉の行にだけ記載のある漢字を求める。

〔結果〕

翁(翁舞)　謹(謹む)　薫(薫)　盾(盾)　貞(貞永・義貞など)　篤(実篤・篤胤)　矛(矛)　（計7字）

2—11　きまった語形でしかあらわれなかった漢字

〔基準〕　2教科以上にあらわれながらすべて同一語形であった漢字とする。

＜注＞1—5の教育漢字の場合は，国語についてだけの調査なので，国語における出現度数を基準にとったが，教育漢字外当用漢字および表外字の場合は，全教科にわたる調査ではあっても，出現度数を調べたのは国語だけなので，このような条件をもって代用させることにする。

〔方法〕　出現教科数欄の〈字〉の行が2以上の数をふくむ数値で，用例欄に用例が1つしか記載されておらず，「など」の表示もない漢字を求める。

〔結果〕

乙(乙)　卸(卸す)　郭(輪郭)　穫(収穫)　且(且つ)　犠(犠牲)　勲(勲章)　憩(休憩)　圏(圏)　娯(娯楽)　肯(肯定)　克(克服)　唆(示唆)　錯(錯覚)　咲(咲く)　冊(冊)　擦(摩擦)　祉(福祉)　漆(漆器)　酬(報酬)　准(批准)　循(循環)　抄(抄)　肖(肖像)　粧(化粧)　紹(紹介)　畝(畝)　牲(犠牲)　斥(排斥)　践(実践)　措(措置)　礎(基礎)　遭(遭難)　妥(妥当)　誕(誕生)　宙(宇宙)　抽(抽象)　呈(呈する)　抵(抵抗)　峠(峠)　杯(杯)　匹(匹)　怖(恐怖)　倣(模倣)　崩(崩壊)　剖(解剖)　肪(脂肪)　魅(魅力)　匁(匁)　唯(唯一)　猶

（猶予）　糧（食糧）　廊（廊下）　　（計　53字）

2—12　固有名詞にしかあらわれなかった漢字・字音・字訓

〔方法〕　用例欄に〈固〉印の用例しか記載されておらず，「など」の表示もない漢字・字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

尉（大尉の娘）　薫（薫）　慶（慶応・弁慶・慶喜など）　愁（旅愁）　抄（十訓抄・春琴抄など）　貞（貞永・義貞）　篤（実篤・篤胤）　廉（廉太郎・廉）（計　8字）

○字音

尉イ（大尉の娘）　奥オウ（奥羽・奥州）　桜オウ（秋桜子）　輝キ（清輝）　慶ケイ（慶応・弁慶など）　舟シュウ（雪舟・海舟）　愁シュウ（旅愁）　抄ショウ（十訓抄・春琴抄など）　松ショウ（松輪島・松陰など）　袋タイ（花袋）　珍チン〈珎〉（和同開珎）　伴ハン（露伴）　暮ボ（暮鳥）　茂モ（賀茂・茂吉）　廉レン（廉太郎・廉）　　（計15）

○字訓

岳たけ（谷川岳など）　剣つるぎ（剣の舞）　緒お（緒園）　恋こい（恋は魔術師）（計４）

〔出現状況と成績との平均的対比〕

2—13　国語にあらわれた漢字・字音・字訓の成績の変化と，あらわれなかった漢字・字音・字訓の成績の変化

〔方法〕　出現度数欄の計が１以上のものと０のものとのそれぞれにおいて，漢字については「書㊀—㊅」・「読㊀—㊅」，字音・字訓については「読㊀—㊅」の㊀・㊅にあたる数値の各平均を算出し，それぞれの差を比べる。

〔結果〕

○漢字

漢　字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
あらわれた	1.7	5.7	3.8	7.6
あらわれなかった	0.6	3.4	2.3	6.7

字音・字訓については省略。

2—14　国語にあらわれた回数の多い漢字・字音・字訓の成績の変化と，少ない漢字・字音・字訓の成績の変化

〔基準〕　多いほうは2—5と同じに，少ないほうは，1回以上5回以下とする。

〔方法〕　出現度数欄の計が40以上の漢字，20以上の字音・字訓と，1以上5以下の漢字・字音・字訓とのそれぞれにおいて，2—13と同様の箇所を比べる。

〔結果〕

○漢字

漢字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
多い	3.0	7.2	4.8	7.7
少ない	0.9	4.8	3.2	7.4

字音・字訓については省略。

2—15　国語にあらわれた回数がどの学年でも多い漢字・字音・字訓の成績の変化と，ある学年でだけ多い漢字・字音・字訓の成績の変化

〔基準〕　2—5の基準にも2—6の基準にもあてはまるものと，2—5の基準にはあてはまるが，2つの学年で2—6の基準にみたないものとにする。

〔方法〕　2—5の結果と2—6の結果とに共通する漢字・字音・字訓と，2—5の結果のうち出現度数欄の1つの学年だけが，10以上の漢字，5以上の字音・字訓とを選び，それぞれにおいて2—13と同様の箇所を比べる。

〔結果〕

○漢字

漢字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
どの学年でも多い	2.0	7.	4.8	7.6
1つの学年でだけ多い	2.6	6.7	5.8	8.0

字音・字訓については省略。

2—16　初出が国語であった漢字・字音・字訓の成績の変化と，他教科であった漢字・字音・字訓の成績の変化

＜注＞国語にあらわれなかった場合，国語にしかあらわれなかった場合は，比較が成り立たないので，いずれも除外する。

〔方法〕　初出学年欄が教科別初出学年欄の「国」とだけ同じ数値である漢字・字音・字訓と，2—3の結果とにおいて，2—13と同様の箇所を比べる。

ただし，「国」が0であるか，「国」以外がすべて0であるかの場合は除く。

〔結果〕　省略。

2—17　1年初出の漢字・字音・字訓の成績の変化と，2年初出の漢字・字音・字訓の成績の変化と，3年初出の漢字・字音・字訓の成績の変化

<注>あらわれなかった漢字・字音・字訓は除外する。

〔方法〕　初出学年欄が1の漢字・字音・字訓，2の漢字・字音・字訓，3の漢字・字音・字訓のそれぞれにおいて，2—13と同様の箇所を比べる。

〔結果〕　省略。

2—18　いろいろな教科にあらわれた漢字・字音・字訓の成績の変化と，ほとんどの教科にあらわれなかった漢字・字音・字訓の成績の変化

〔基準〕　「いろいろな教科にあらわれた」の判定は2—9，「ほとんどの教科にあらわれなかった」の判定は2—8と同一基準とする。

〔方法〕　2—9の結果と2—8の結果とにおいて，2—13と同様の箇所を比べる。

〔結果〕

○漢字

漢字	書き		読み	
	入学時	卒業時	入学時	卒業時
いろいろな教科にあらわれた	2.9	6.9	5.0	7.8
ほとんどの教科にあらわれなかった	0.3	3.3	1.8	6.7

字音・字訓については省略。

〔出現状況と成績との個別的対比〕

2—19　国語にあらわれなくても習得度の高い漢字・字音・字訓

〔基準〕　入学時に正答者4人以下で，卒業時に7人以上のものとする。

<注>4人は被調査者の半数であり，7人としたのは，1人は例外と考えたからである。特にことわらないかぎり，以下，同様のあつかいとする。

〔方法〕　2—4の結果のうち，「書㋑—㋕」・「読㋑—㋕」の㋑にあたる部分に④以下の数値を含み，㋕にあたる数値がすべて⑦以上である漢字，「読㋑—㋕」の㋑が④以下で，㋕が⑦以上である字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

亜呉兆軟尿肺丙柄痢硫厘（計11字）

○字音

亜ア　慰イ　姻イン　羽ウ　宴エン　殴オウ　奥オウ　乙オツ　佳カ　嫁カ　禍カ　餓ガ
灰カイ　怪カイ　悔カイ　劾ガイ　隔カク　割カツ　汗カン　喚カン　堪カン　憾カン　還カン　忌キ
棋キ　幾キ　輝キ　宜ギ　偽ギ　弓キュウ　窮キュウ　凶キョウ　恭キョウ　狭キョウ　胸キョウ　仰ギョウ
斤キン　謹キン　駆ク　掘クツ　茎ケイ　倹ケン　懸ケ　枯コ　雇コ　呉ゴ　碁ゴ　甲コウ
坑コウ　恒コウ　候コウ　控コウ　絞コウ　酵コウ　鋼コウ　拷ゴウ　剛ゴウ　酷コク　獄ゴク　魂コン
墾コン　砂シャ　債サイ　歳セイ　削サク　酢サク　搾サク　擦サツ　暫ザン　伺シ　嗣シ　雌シ
疾シツ　漆シツ　赦シャ　捨シャ　尺シャク　狩シュ　臭シュウ　愁シュウ　淑シュク　盾ジュン　循ジュン　緒ショ
匠ショウ　沼ショウ　祥ショウ　奨ショウ　礁ショウ　鐘ショウ　剰ジョウ　錠ジョウ　醸ジョウ　辱ジョク　伸シン　浸シン
娠シン　紳シン　迅ジン　帥スイ　衰スイ　睡スイ　遂スイ　錘スイ　盛ジョウ　窃セツ　旋セン　銑セン
阻ソ　租ソ　措ソ　塑ソ　捜ソウ　贈ゾウ　促ソク　堕ダ　胎タイ　怠タイ　逮タイ　諾ダク
奪ダツ　鍛ダン　恥チ　仲チュウ　兆チョウ　脹チョウ　懲チョウ　珍チン　陳チン　呈テイ　艇テイ　締テイ
添テン　斗ト　吐ト　奴ド　桃トウ　悼トウ　痘トウ　騰トウ　豚トン　軟ナン　尿ニョウ　妊ニン
寧ネイ　肺ハイ　梅バイ　陪バイ　媒バイ　賠バイ　薄ハク　縛バク　抜バツ　閥バツ　伴ハン　畔ハン
彼ヒ　匹ヒツ　泌ヒツ　扶フ　附フ　赴フ　浮フ　賦フ　侮ブ　幅フク　沸フツ　紛フン
墳フン　丙ヘイ　柄ヘイ　癖ヘキ　遍ヘン　募ボ　慕ボ　邦ホウ　飽ホウ　縫ホウ　妨ボウ　矛ム
耗モウ　綱モウ　紋モン　幽ユウ　憂ユウ　酪ラク　痢リ　履リ　柳リュウ　硫リュウ　厘リ　鈴リン
隷レイ　恋レン　（計　194）

○字訓

芋いも　卸おろす　危あやうい　剣つるぎ　幻まぼろし　紅くれない　絞しめる　漆うるし　若もしくは　臭くさい　蒸むす　衰おとろえる
錘つむ　礎いしずえ　但ただし　鍛きたえる　坪つぼ　豚ぶた　苗なえ　腐くさる　柄えがら　紡つむぐ　裸はだか　恋こい
朗ほがらか　（計　21）

2—20　国語にあらわれた回数が多くても習得度の高くない漢字・字音・字訓

〔基準〕　「回数が多い」の判定は2—5と同一基準とし，「習得度の高くな

い」の判断は卒業時に正答者6人以下の場合とする。

〔方法〕　2—5の結果のうち，「書㊅—㊉」・「読㊅—㊉」の㊉にあたる部分に⑥以下の数値をふくむ漢字，「読㊅—㊉」の㊉にあたる数値が⑥以下である字音・字訓を求める。

〔結果〕

○漢字

違越押泣劇御降旨紫晶飾寝吹井昔装突悩並優与腰覧隣（計24字）

○字音　なし

○字訓

優（やさしい）（計　1）

2—21　ほとんどの教科にあらわれなくても習得度の高い漢字・字音・字訓

〔基準〕　「ほとんどの教科にあらわれなかった」の判定は2—8と，「習得度の高い」の判断は2—19と同一基準とする。

〔方法〕　2—8の結果から，2—19と同様の方法で求める。

〔結果〕

○漢字

怪呉恨胎怠奴丙凡痢厘　（計　10字）

○字音

尉イ	慰イ	姻イン	韻イン	宴エン	殴オウ	奥オウ	桜オウ	佳カ	嫁カ	禍カ	餓ガ
怪カイ	悔カイ	劾ガイ	慨ガイ	郭カク	喚カン	敢カン	堪カン	憾カン	還カン	忌キ	棋キ
輝キ、	欺ギ	偽ギ	擬ギ	詰キツ	弓キュウ	窮キュウ	叫キョウ	恭キョウ	狭キョウ	仰ギョウ	斤キン
謹キン	茎ケイ	献コン	倹ケン	懸ケ ケン	枯コ	雇コ	顧コ	呉ゴ	碁ゴ	甲カン	候コウ
控コウ	絞コウ	酵コウ	拷ゴウ	酷コク	恨コン	紺コン	魂コン	墾コン	懇コン	詐サ	債サイ
歳セイ	削サク	搾サク	擦サツ	暫ザン	伺シ	嗣シ	雌シ	侍ジ	滋ジ	疾シツ	漆シツ
赦シャ	捨シャ	寂ジャク	狩シュ	臭シュウ	愁シュウ	淑シュク	俊シュン	旬ジュン	盾ジュン	緒ショ	如ジョ
匠ショウ	沼ショウ	祥ショウ	彰ショウ	礁ショウ	鐘ショウ	冗ジョウ	剰ジョウ	錠ジョウ	醸ジョウ	辱ジョク	娠シン
紳シン	迅ジン	帥スイ	睡スイ	錘スイ	盛ジョウ	請シン	拙セツ	窃セツ	践セン	薦セン	漸ゼン
阻ソ	租ソ	疎ソ	荘ソウ	窓ソウ	捜ソウ	装ショウ	霜ソウ	贈ゾウ	惰ダ	堕ダ	胎タイ

怠タイ　泰タイ　諾ダク　奪ダツ　鍛タン　恥チ　仲チュウ　脹チョウ　懲チョウ　珍チン　陳チン　墜ツイ
呈テイ　艇テイ　締テイ　摘テキ　添テン　殿テン　吐ト　奴ド　怒ド　豆トウ　桃トウ　悼トウ
痘トウ　謄トウ　豚トン　妊ニン　寧ネイ　婆バ　杯ハイ　陪バイ　媒バイ　賠バイ　縛バク　閥バツ
伴ハン　畔ハン　煩ハン　妃ヒ　彼ヒ　匹ヒツ　賓ヒン　扶フ　附フ　赴フ　賦フ　侮ブ
幅フク　紛フン　憤フン　丙ヘイ　柄ヘイ　癖ヘキ　遍ヘン　慕ボ　暮ボ　抱ホウ　飽ホウ　縫ホウ
撲ボク　凡ボン　慢マン　矛ム　耗モウ　憂ユウ　酪ラク　痢リ　履リ　虜リョ　厘リン　鈴リン
塁ルイ　隷レイ　恋レン　（計　196）

○字訓

哀あわれ　偉えらい　慰なぐさめる　芋いも　隠かくれる　映うつる　汚けがす　卸おろす　穏おだやか　暇ひま　蚊か　怪かやしい
皆みな　隔へだてる　肝きも　貫つらぬく　換かえる　企くわだてる　危あやうい　鬼おに　欺あざむく　戯たわむれる　詰つめる　狂くるう
恐おそろしい　狭せまい　脅おびやかす　暁あかつき　愚おろか　恵めぐむ　鶏にわとり　撃うつ　剣つるぎ　繭まゆ　幻まぼろし　鼓つづみ
悟さとる　紅くれない　控ひかえる　絞しめる　困こまる　恨うらむ　鎖くさり　削けずる　施ほどこす　漆うるし　若もしくは　臭くさい
醜みにくい　柔やわらかい　渋しぶい　縮ちぢむ　巡めぐる　詳くわしい　償つぐなう　蒸むす　飾かざる　震ふるう　尋たずねる　錘つむ
惜おしい　占うらなう　潜ひそむ　繕つくろう　礎いしずえ　掃はく　捜さがす　葬ほうむる　騒さわぐ　束たば　促うながす　怠おこたる
濁にごる　但ただし　脱ぬぐ　探さぐる　嘆なげく　鍛きたえる　恥はじる　添そえる　殿との　吐はく　凍こおる　凝こごえる　透すく
豚ぶた　忍しのぶ　悩なやむ　迫せまる　泊とまる　避さける　漂ただよう　腐くさる　膚はだ　沸わく　柄がら　暮くらす
訪おとずれる　縫ぬう　乏とぼしい　忙いそがしい　紡つむぐ　翻ひるがえる　盲めくら　黙だまる　誘さそう　幼おさない　揚あげる　翼つばさ
裸はだか　雷かみなり　励はげむ　麗うるわしい　劣おとる　恋こいしい　朗ほがらか　惑まどう　（計　119）

2—22　いろいろな教科にあらわれても習得度の高くない漢字・字音・字訓

〔基準〕「いろいろな教科にあらわれた」の判定は2—9，「習得度の高くない」の判断は2—20と同一基準とする。

〔方法〕　2—9の結果から，2—20と同様の方法で求める。

〔結果〕

○漢字

為違維越縁押隔穫割換寛鑑危既距偶撃穴降鎖斎射充縦熟傷蒸触吹垂井礎装致徴抵塔闘突粘髪般範微伏並壁浦房麻誘優与裏腕（計　55字）

○字音

既* （計　1）

○字訓　なし。

3—表外字の場合

〔初出に関する面〕

3—1　学年別の新出漢字・字音・字訓数

〔結果〕

○漢字

学年	漢字
1年	181
2年	219
3年	103
0・1	3
1・0	0
0・2	0
2・0	0
0・3	4
3・0	3
1・2	0
2・1	0
1・3	0
3・1	2
2・3	0
3・2	0
計	515

字音・字訓については省略。

3—2　教科別・学年別の新出漢字・字音・字訓数

〔結果〕

○漢字

学年＼教科	国	数	社	理	英	音	美	体	男	女
1	56	8	138	24	0	23	6	8	2	7
2	57	4	198	14	2	21	32	4	0	1
3	115	6	25	9	23	33	10	8	11	11
計	228	18	361	47	25	77	48	20	13	19

字音・字訓については省略。

〔出現量に関する面〕

3—3　国語にあらわれた回数の多い漢字・字音・字訓

〔基準〕　5回以上とする。

〔結果〕

○漢字

（出現回数5～9）　葦芥涯串韓几襟堀溪喧彦柴牀壌辰潟楚宋槍噪塚杜碁琵燕俣暦弥李龍麟呂鹿　（計　33字）

（同　10～14）　脇之奈阪蘭　（計　5字）

（同　15～19）　岡梓蕉濤芭　（計　5字）

（同　20～24）　咸伎崎螢　（計　4字）

（同　25～29）　なし

（同　30～87）　吾萩枕亭藤　（計　5字）　　（総計　52字）

○字音

（出現回数5～9）涯ガイ　韓カン　几キ　襟キン　渓ケイ　喧ケン　柴サイ　牀ショウ　壌ジョウ
楚ソ　宋ソウ　噪ソウ　杜ト　菅ヘ　琵ビ　蕪ブ　李リ　龍リュウ　麟リン　呂ロ　鹿ロク
（計　21）

（同10～14）奈ナ　蘭ラン　（計　2）

（同15～19）蕪ショウ　濤トウ　藤トウ　芭バ　（計　4）

（同20～24）咸カン　伎キ　螢ケイ　（計　3）

（同25～29）なし

（同30～87）吾ゴ　亭テイ　（計　2）　　（総計　32）

○字訓

（出現回数5～9）葦あし　芥あくた　串くし　堀ほり　彦ひこ　辰たつ　潟かた　槍やり　塚つか
俣また　麿まろ　弥や　（計12）

（同10～14）脇わき　之の　阪さか　（計　3）

（同15～19）岡おか　梓あずさ　藤ふじ　（計　3）

（同20～24）崎さき　（計　1）

（同25～29）なし

（同30～39）萩はぎ　枕まくら　（計　2）　　（総計　21）

〔出現間隔に関する面〕

3－4　国語のどの学年にもあらわれた漢字・字音・字訓

＜注＞　当用漢字の場合のように「回数がどの学年でも多い」とすると，表外字ではほとんど例がないので，このように条件をゆるめることにした。

〔結果〕

○漢字

伊崎岡昆之潟塚藤奈阪　（計　10字）

○字音

伊イ　昆コン　奈ナ　（計　3）

○字訓

崎(さき)　岡(おか)　之(の)　潟(かた)　塚(つか)　藤(ふじ)　阪(さか)（計　7）

〔出現幅に関する面〕

3－5　各漢字・字音・字訓のあらわれた教科の幅。

〔結果〕

○漢字

教科数	漢字数	教科数	漢字数	教科数	漢字数	教科数	漢字数
0・1	7	3・2	2	5	7	7・8	0
1・0	3	3	36	5・6	1	8・7	0
1	310	3・4	1	6・5	0	8	0
1・2	3	4・3	1	6	4	8・9	0
2・1	5	4	19	6・7	1	9・8	0
2	107	4・5	1	7・6	0	9	0
2・3	4	5・4	1	7	2		

（計　515字）

○字音

教科数	字音数	教科数	字音数	教科数	字音数	教科数	字音数
0・1	7	3・2	0	5	2	7・8	0
1・0	3	3	24	5・6	1	8・7	0
1	234	3・4	1	6・5	0	8	0
1・2	2	4・3	0	6	1	8・9	0
2・1	6	4	10	6・7	0	9・8	0
2	59	4・5	0	7・6	0	9	0
2・3	2	5・4	0	7	1		

（計　353）

○字訓

教科数	字訓数	教科数	字訓数	教科数	字訓数	教科数	字訓数
0・1	2	3・2	1	5	3	7・8	0
1・0	1	3	9	5・6	0	8・7	0
1	124	3・4	0	6・5	0	8	0
1・2	1	4・3	1	6	2	8・9	0
2・1	0	4	9	6・7	1	9・8	0
2	38	4・5	0	7・6	0	9	0
2・3	1	5・4	1	7	1		

（計　195）

3－6　いろいろな教科にあらわれた漢字・字音・字訓

〔基準〕　男子・女子のどちらにとっても4教科以上とする。

〔結果〕

○漢字

（7教科）　崎奈　（計　2字）

（7・6 教科）　なし

（6・7 教科）　垣　（計　1字）

（6教科）　伊岡洞阪　（計　4字）

（6・5 教科）　なし

（5・6 教科）　須　（計　1字）

（5教科）　阿猿鶴杉弥龍鎌　（計　7字）

（5・4 教科）　鹿　（計　1字）

（4・5 教科）　蛇　（計　1字）

（4教科）　涯埼卿旭隅堀彦弘縄潟蘇藤那琶磐琵熊鷹呂（計　19字）

（総計　36字）

○字音

（7教科）　奈ナ　（計　1）

（7・6 教科）　なし

（6・7 教科）　なし

（6教科）　伊イ　（計　1）

（6・5 教科）　なし

（5・6 教科　須ス　（計　1）

（5教科）　阿ア 洞ドウ（計　2）

（5・4 教科）　なし

（4・5 教科）　なし

（4教科）　涯ガイ 卿キョウ 縄ジョウ 蘇ソ 藤トウ 那ナ 琶ハ 磐バン 琵ビ 龍リュウ（計　10）

（総計　15）

○字訓

（7教科）　崎(さき)（計　1）
（7•6 教科）　なし
（6•7 教科）　垣(かき)（計　1）
（6教科）　岡(おか)　阪(さか)　（計　2）
（6•5 教科）　なし
（5•6 教科）　なし
（5教科）　杉(すぎ)　弥(や)　鎌(かま)（計　3）
（5•4 教科）　鹿(か)（計　1）
（4•5 教科）　なし
（4教科）埼(さき)　旭(あさ)　隅(すみ)　堀(ほり)　彦(ひこ)　弘(ひろ)　潟(かた)　熊(くま)　鷹(たか)（計　9）
（総計　17）

〔出現偏向に関する面〕

3－7　特殊用法としてしかあらわれなかった漢字

〔結果〕

按(按察)　鰯(干鰯)　允(孝允)　頴(千頴)　奄(奄美)　決(決)　蝦(蝦夷)　鷲(天鷲絨)　鹼(石鹼)　雀(金糸雀)　絨(天鷲絨)　俶(俶)　駿(駿河)　秤(天秤)　蕭(甘蕭省)　潘(潘陽)　帚(帚木)　綜(綜芸種智院)　捉(択捉)　濯(濯)　吮(吮介)　蠹(蠹)　宕(愛宕)　桐(桐生)　嚢(背嚢)　盃(盃)　莫(莫大小)　斑(斑鳩)　萍(萍郷)　撫(撫順)　濼(開濼)　（計　31字）

3－8　きまった語形でしかあらわれなかった漢字

〔基準〕　2－11と同一基準とする。

〔結果〕

叡(比叡)　奄(奄美)　媛(愛媛)　凰(鳳凰)　迦(釈迦)　嶺(嶺山)　蝦(蝦夷)　芥(芥川)　廻(廻る)　諧(俳諧)　殻(地殻)　葛(葛飾)　伎(歌舞伎)　埼(埼玉)　窟(洞窟)　牙(象牙)　桂(桂)　幌(札幌)　萩(萩)　晋(晋)　諏(諏訪)　翠(晩翠)　隋(隋)　錫(錫)　楚(楚)　宋(宋)　漱(漱石)　啄(啄木)　鐸(銅鐸)　銚(銚子)　偵(探偵)　杜(杜甫)　樋(樋口)　栃(栃木)　覇(那覇)　琶(琵琶)　芭(蕉芭)　漠(砂漠)　鉢(鉢)　斐(甲斐)　琵(琵琶)　屏(屏風)　阜(岐阜)　蕪

(蕪村)　甫(杜甫)　菩(菩薩)　朴(素朴)　洛(洛)　李(李)　梨(山梨)　璃(浄瑠璃)　侶(僧侶)　琳(光琳)　瑠(浄瑠璃)　勒(弥勒)　(計　55字)

3－9　固有名詞にしかあらわれなかった漢字

〈注〉　表外字の場合は，固有名詞に使われる割合がひじょうに多く，しかもほとんどが1音か1訓しかあらわれないので，字音・字訓については省略する。

〔結果〕

〈注1〉　異なる読みをする用例はつくす。

〈注2〉　同じ読みについては2例までとし，それ以上ある場合は，省略の印として「ナド」と表示する。

渥(渥美)　闇(闇斎)　鞍(鞍山・乗鞍)　伊(伊勢・伊藤・伊達ナド)　惟(惟謙・惟光)　允(孝允)　寅(寅二・寅彦)　殷(殷)　胤(車胤・篤胤)　曳(曳山祭)　頴(千頴)　叡(比叡)　奄(奄美)　袁(袁)　媛(愛媛)　決(決)　堰(堰)　鷗(鷗外)　鴨(鴨緑江・鴨)　珂(玖珂)　迦(釈迦)　崋(崋山)　蝦(蝦夷)　樺(白樺・樺太)　嘉(嘉永・嘉納・嘉雄ナド)　霞(霞ガ浦・霞ケ関)　芥(芥川)　堺(堺)　蟹(蟹工船)　亥(辛亥・三亥)　崖(芳崖)　凱(世凱・凱風)　鶴(西鶴・観音猿鶴図・鶴賀・鶴田ナド)　葛(葛飾)　串(串本・串田)　咸(咸臨丸)　菅(菅井)　桓(桓武)　諫(諫早)　玩(悲しき玩具)　埼(埼玉)　崎(川崎・尾崎ナド)　熙(康熙)　畿(近畿・畿内)　槻(高槻・若槻)　磯(磯部・小磯)　騏(騏一郎)　毅(弘毅・正毅・毅)　魏(魏・魏志)　邱(青邱)　疆(新疆)　鳩(鳩山・斑鳩)　旭(旭・旭川)　僉(男僉)　玖(伊玖磨・玖珂)　瞿(瞿塘峡)　駒(駒沢・駒競行幸絵巻)　狗(天狗草子絵巻)　桂(桂)　奎(奎吾)　馨(馨)　谿(牧谿)　蕨(蕨)　彦(彦根・赤彦ナド)　醐(後醍醐)　岡(岡山・岡倉ナド)　崗(雲崗)　晃(兼晃)　幌(札幌)　弘(弘法大師・弘安・弘・弘前ナド)　鴻(鴻章)　礦(礦一)　薇(薇芳)　蔡(蔡)　哉(直哉・哲哉)　朔(朔風)　祚(耕祚)　薩(薩摩・菩薩ナド)　杉(杉田・杉全ナド)　讃(讃州・讃岐)　之(牧之・中之島・龍之介・貫之ナド)　只(只見川)　茨(茨城・茨木)　梓(梓〈の流れナド〉・梓川)　蒔(蒔絵八ッ橋図手箱)　趾(茶屋船交趾渡航貿易絵巻)　膝(東海道中膝栗毛)　聚(聚楽第)　鷲(鷲羽山・尾鷲)　譽(恩譽の彼方に)　俶(俶)　駿(駿河)　杵(杵屋)　摺(足摺岬)　昌(昌益・昌平

坂・一昌）篠(長篠・篠津)　逍(逍遙)　湘(湘南)　椒(山椒魚・胡椒海岸)　蒋(蒋)　蕭(甘蕭省)　襄(襄)　蜀(蜀山人)　秦(秦・太秦)　辰(辰韓・辰雄・辰之助)　晋(晋)　瀋(瀋陽)　忱(忱)　榛(榛名)　壬(壬申・壬生)　稔(稔・稔彦)　諏(諏訪)　翠(晩翠)　隋(隋)　隧(関門隧道)　栖(来栖)　潟(新潟・八郎潟)　苫(苫小牧)　仙(雲仙・中仙道ナド)　釧(根釧・釧路)　徂(徂徠)　楚(楚)　蘇(蘇我・阿蘇)　宋(宋)　曽(曽太郎・木曽)　帚(帚木の巻)　綜(綜芸種智院)　漱(漱石)　藻(懐風藻・藻岩山)　捉(択捉)　粟(粟津)　鱒(鱒二)　驒(飛驒)　醍(後醍醐)　啄(啄木)　濯(濯)　耽(耽介)　灘(灘・播磨灘)　筑(筑前・筑豊・筑紫ナド)　蠶(蠶)　猪(猪飼・猪苗代湖)　銚(銚子)　稙(義稙)　荻(荻原・荻生)　顚(酒顚童子)　杜(杜甫)　宕(愛宕)　桐(桐生)　樋(樋口)　靭(青靭)　栃(栃木)　敦(敦盛・敦賀)　奈(奈良・神奈川)　那(那須・丹那ナド)　楠(楠木)　廻(東久廻宮)　熒(熒田津)　禰(美禰)　覇(那覇)　芭(芭蕉)　阪(阪神・大阪・松阪ナド)　斑(斑鳩)　樊(樊川)　蕃(蕃山)　弼(直弼)　萍(萍郷)　猫(黒い猫)　釜(釜山・釜石・塩釜)　阜(岐阜)　溥(溥儀)　蕪(蕪村)　撫(撫順)　碧(碧南)　駢(高駢)　甫(杜甫)　輔(元輔・良輔ナド)　蒲(蒲原・蒲郡)　菩(菩薩)　姥(姥山)　朋(有朋)　澎(澎湖(ホウコ)・澎湖(ポンフー))　茅(茅舎・茅・茅ケ崎)　渤(渤海)　俣(水俣・木俣)　麿(歌麿・稲麿)　蜜(六波羅蜜寺)　牟(大牟田)　爺(洞爺湖)　煬(煬帝)　遙(逍遙)　徠(徂徠)　洛(洛中洛外図)　蘭(蘭〈オランダ〉・室蘭ナド)　濼(開濼)　鸞(親鸞)　李(李)　梨(山梨)　栗(東海道中膝栗毛・金栗)　琉(琉球)　椋(椋野)　遼(遼東・遼)　琳(光琳)　霖(作霖)　麟(麟太郎)　黎(黎明会蔵)　鎌(鎌倉・鎌足)　芦(芦の湖・芦屋)　倭(倭)　窪(水窪・窪田)　隈(大隈・阿武隈)　碗(やりうめ茶碗)　（計　211字）

〔出現形態に関する面〕

3—10　固有名詞以外の用例

〈注〉　ここにかかげる用例の広がりが，その漢字の造語力の一面を示し，各語例の必要度と，その語の表記における当該字の重要度とが，その表外字の存在価値を側面から規定することになる。

〔結果〕

〈注１〉 各漢字における固有名詞以外の用例はつくす。

〈注２〉 その漢字にほかに固有名詞の用例もある場合は「ナド」と表示する。

阿(南無阿弥陀仏・阿ナド)　唖(盲唖)　斡(斡旋)　按(按察)　夷(攘夷・征夷ナド)　萼(萼)　飴(飴)　籾(語籾)　鰯(干鰯)　允(孝允)　嬰(嬰)　亦(亦)　垣(垣根・石垣・垣・菱垣回船ナド)　淵(海淵ナド)　燕(燕ナド)　猿(猿人・類人猿・猿楽ナド)　艶(優艶)　於(於)　凹(凹・凸凹)　凰(鳳凰ナド)　謳(謳歌)　戈(銅戈)　靴(製靴)　蛾(誘蛾燈)　伽(お伽話・お伽草子)　羚(天羚絨)　廻(廻る)　諧(俳諧)　涯(生涯・境涯)　漑(灌漑)　殻(地殻・地殻)　濁(濁葉)　褐(褐炭)　羯(羯鼓)　疳(疳性)　函(函数ナド)　稈(稈・麦稈)　灌(灌漑・灌水)　艱(艱難)　韓(征韓論ナド)　檻(檻)　几(几帳・床几)　其(其)　伎(歌舞伎)　揆(一揆)　亀(亀裂ナド)　祇(神祇ナド)　臼(臼)　裾(裾)　墟(廃墟ナド)　夾(夾角・夾辺)　脇(脇息・脇・脇役・脇指)　僑(華僑)　卿(卿〈宮内～ナド〉・群卿・公卿)　僅(僅々)　欽(欽定)　錦(錦絵ナド)　襟(開襟)　饉(飢饉)　垢(無垢)　倶(倶楽部)　隅(一隅ナド)　窟(洞窟)　堀(堀ナド)　牙(象牙)　渓(渓流・雪渓ナド)　螢(螢光)　臆(臆測)　喧(喧噪)　鹸(石鹸)　舷(左舷)　胡(胡弓ナド)　錮(禁錮)　壺(壺)　虎(虎舞)　袴(袴)　吾(吾ナド)　勾(勾配)　虹(虹ナド)　洪(洪水ナド)　肭(肩肭骨)　岬(岬ナド)　膠(膠質)　藁(藁)　閘(閘門)　閤(太閤)　溝(海溝・溝(コウ)・溝(みぞ))　敲(推敲)　寇(倭寇ナド)　濠(水濠)　剋(下剋上)　笏(笏)　昆(昆虫)　梱(梱)　叉(交叉)　沙(沙羅)　紗(更紗・羅紗)　挫(挫折)　猜(猜疑心)　柴(鹿柴・柴垣ナド)　柵(柵ナド)　傘(落下傘)　纂(編纂)　漬(漬ける)　此(此)　柿(柿)　弛(弛緩)　祀(祭祀)　肢(上肢・下肢)　獅(獅子舞)　餌(餌・餌袋)　櫛(櫛)　蛇(蛇口・蛇皮線・大蛇・蛇行)　雀(金糸雀)　呪(呪文)　竪(竪琴・竪穴)　袖(袖・ふり袖・小袖)　萩(萩)　酋(酋長)　汁(汁・灰汁)　絨(天羚絨)　孰(孰れ)　塾(塾ナド)　汝(汝)　秤(天秤)　庄(庄屋ナド)　尚(高尚・好尚ナド)　笙(笙)　牀(牀)　宵(宵宮・宵の口)　翔(飛翔)　鉦(鉦鼓)　誦(口誦・誦じる)　裳(衣裳・裳)　蕉(蕉風ナド)　薔(薔薇)　帖(帖)　縄(縄文・縄・火縄ナド)　壌(土壌ナド)　攘(攘夷)　燭(燭台)　埴(埴輪)　簪(簪)　腎(腎臓)　須(必須ナド)　趨(趨勢)　甥(甥)　斉(斉唱・書斉ナド)　貰(貰う)　錫(錫)　尖(尖塔)　羨(羨望)　僭(僭

取）　賤(貴賤)　撰(民撰)　詮(詮ナド)　梳(梳く)　疏(疏水)　遡(遡及)　爪(爪)　槍(槍ナド)　挿(挿入・挿話)　箏(箏曲)　槽(油槽)　噪(喧噪)　糟(糟湯酒)　曹(御曹司ナド)　樽(樽ナド)　兌(兌換)　陀(南無阿弥陀仏ナド)　駄(駄菓子・駄獣)　苔(青苔)　堆(堆肥)　梯(梯子ナド)　鐸(銅鐸)　旦(元旦)　湛(湛水・湛田ナド)　智(才智ナド)　緻(緻密)　鍮(真鍮)　苧(苧)　杼(杼)　箸(箸)　塚(貝塚ナド)　釣(釣り・釣る)　蝶(白蝶貝ナド)　枕(葉枕・枕詞ナド)　椎(上椎葉)　辻(辻)　亭(亭主ナド)　悌(悌)　偵(探偵)　蹄(蹄鉄屋)　泥(泥状・泥炭・泥)　鏑(流鏑馬)　綴(綴る)　淀(淀ナド)　釦(螺釦)　屠(屠殺)　賭(賭す)　棟(棟梁)　董(骨董)　塘(池塘ナド)　橈(橈骨)　濤(波濤・怒濤)　藤(藤ナド)　禱(祈禱・黙禱)　洞(洞窟・洞察ナド)　凸(凹凸・凸形)　屯(屯田・屯倉)　呑(水呑)　捺(捺染)　爾(爾)　嚢(背嚢)　播(播種・伝播ナド)　琶(琵琶)　罵(罵倒)　胚(胚)　盃(盃)　煤(煤煙)　唄(唄・小唄・長唄・地唄ナド)　魄(気魄)　箔(金箔)　柏(柏)　莫(莫大小)　漠(砂漠)　畠(田畠ナド)　鉢(鉢)　幡(八幡ナド)　磐(磐石ナド)　扉(扉)　斐(甲斐)　痺(麻痺)　匙(石匙)　婢(奴婢・婢)　琵(琵琶)　薇(薔薇)　屏(屏風)　廟(廟・霊廟)　頻(最頻値)　瓶(瓶・水瓶)　巫(巫女)　腑(腑)　楓(楓林)　扮(扮する)　皿(皿)　蔑(軽蔑)　襖(襖)　篇(遣篇)　泡(気泡)　俸(俸禄)　棚(棚・棚田)　袍(袍)　烽(烽火)　鳳(鳳凰ナド)　硼(硼素)　鉾(銅鉾)　貌(容貌)　朴(素朴)　僕(公僕)　梵(梵字)　磨(磨製ナド)　桝(桝)　弥(南無阿弥陀仏・弥生ナド)　蒙(啓蒙・蒙るナド)　也(也ナド)　厄(災厄)　喩(比喩)　熊(熊ナド)　輿(輿)　鷹(鷹狩ナド)　徭(雑徭)　沃(肥沃・沃野)　羅(羅針盤・沙羅ナド)　螺(螺釦)　懶(懶惰)　攬(総攬)　璃(浄瑠璃)　犂(犂・すき)　笠(笠懸・笠ナド)　龍(龍笛・龍骨車・龍船ナド)　侶(僧侶)　廬(盧)　綾(綾子舞ナド)　梁(棟梁)　菱(菱垣ナド)　綸(綸旨)　燐(燐)　瑠(浄瑠璃)　戻(戻る)　嶺(高嶺ナド)　蓮(蓮台ナド)　煉(煉獄)　簾(簾)　鷺(鷺ナド)　呂(呂旋法・風呂ナド)　狼(狼)　牢(堅牢)　籠(くず籠・伏籠)　撈(漁撈)　朧(朧額)　鹿(鹿柴・鹿(しし)・八つ鹿(しか)ナド)　禄(俸禄・禄ナド)　麓(山麓)　（計　304字・378例）

（中村　明）

資　料　II

教科書の漢字出現一覧表

（教育漢字外当用漢字）

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
1 ④—⑧	亜	ア	⑤—⑧	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	2	1	1	5	亜鉛(～・硫酸～ナド)㋜㋛㋷㋟㊚㊛・亜熱帯(～性ナド)㋛・亜寒帯(～性)㋷・亜硫酸㋷・次亜(～塩素酸ソーダ)㊛・亜麻㋛・亜墨利加〈固〉(～船)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	2	1	1	5	
2 ⓪—⑥	哀	アイ	⓪—⑧	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	哀歓㋙・喜怒哀楽㋙・悲哀㋛
		あわれ	⓪—⑧	0	4	5	9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	哀れ(～・～さ・～っぽい)㋙・哀れがる㋙
			〈字〉	0	4	9	13	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
3 ①—⑤	握	アク	②—⑧	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	握力(～・～計)㋟・握手㋛・一握(～の砂〈固〉)㋙
		にぎる	②—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	握る㋙・握りこぶし㋛
			〈字〉	0	1	2	3	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	
④ ⓪—⑤	扱	あつかう	③—⑧	0	0	3	3	1	3	3	3	0	0	0	0	1	3	0	5・4	扱う(～・～えるナド)㋙㋛㋟・取り扱う(～・～いナド)㋜㋟㊚
			〈字〉	0	0	3	3	1	3	3	3	0	0	0	0	1	3	0	5・4	
5 ③—④	依	イ	③—⑧	0	8	6	14	2	2	0	3	0	0	3	0	0	0	3	3・4	依頼㋙㋛㋔㊛・依然㋙・依存(～・～率ナド)㋛
		エ	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	8	6	14	2	2	0	3	0	0	3	0	0	0	3	3・4	
6 ⓪—⑤	威	イ	②—⑧	1	2	3	6	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	威力㋙㋛・威嚇㋛・威厳㋛・威信㋛・脅威㋙㋛・暴威㋙・権威㋙㋛・示威㋛
			〈字〉	1	2	3	6	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
7 ①—⑥	尉	イ	⑤—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	大尉(～の娘〈固〉㋙)
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
8 ⓪—⑦	偉	イ	⑥—⑧	6	13	8	27	1	1	0	2	0	2	3	0	0	0	0	4	偉大(～・～さ)㋙㋛㋓㋔
		えらい	③—⑧	5	9	2	16	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	偉い(～・お～)㋙
			〈字〉	11	22	10	43	1	1	0	2	0	2	3	0	0	0	0	4	
9 ⓪—⑤	為	イ	②—⑧	0	5	7	12	2	2	0	2	3	2	0	0	3	0	0	5	所為㋙・人為(～分類)㋷・行為(～・犯罪～・～者ナド)
			〈字〉	0	6	8	14	2	2	0	2	3	2	3	0	3	0	0	6	ナす㋛・カワセ(～・～手形ナド)㋛・タメトモ〈固〉など
10 ⓪—⑤	違	イ	③—⑧	0	3	3	6	2	2	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	相違㋙㋛・違憲(～・～立法ナド)㋛・違反(～・選挙～ナド)㋙㋛㋟・違法㋛
		ちがう	⑤—⑧	0	55	92	147	1	2	0	0	0	2	1	1	2	0	0	5	違う〈違ふトモ〉(～・～い方ナド)㋙㋓㋔㋪㋟・違い㋙㋔㋪・お門違い㋙・気違い㋙・すれ違う㋙・見違える㋙・食い違う(～い)㋙・間違う㋓・違える(読み～)㋙
			〈字〉	0	58	95	153	1	2	0	3	0	2	1	1	2	0	0	6	
11 ③—⑥	維	イ	⑥—⑧	0	4	1	5	1	2	0	1	2	0	0	2	2	1	1	6	維新(明治〈固〉～)㋛㋪・維持(～・治安～法)㋛㋷㋟㊛・維管束㋷・繊維(～・化学～・筋～・～類・～品ナド)㋙㋛㋷㋪㋟㊚㊛・王維〈固〉㋙
			〈字〉	0	4	1	5	1	2	0	1	2	0	0	2	2	1	1	6	コレモリ〈固〉㋛

漢字番号 書㋐—㋢	漢字	音訓	読 ㋐—㋢	出現度数(国語)				初出学年	国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
12	慰	イ	②—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—③		なぐさめる	⓪—⑧	0	10	3	13	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	慰める(〜・〜め)㋙・慰み㋙
			〈字〉	0	10	3	13	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
13	緯	イ	⑦—⑧	0	3	1	4	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	緯度㋙㋛㋷・緯線㋛㋷・北緯㋙㋛㋷・南緯㋛㋷
①—⑥			〈字〉	0	3	1	4	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
14	域	イキ	⑧—⑧	5	0	12	17	1	1	0	1	2	0	3	3	1	0	1	6・7	音域㋔・声域㋔・流域㋙㋛㋪・区域(〜・通学〜ナド)㋙㋛㋟・域㋙・領域㋙・全域㋛・海域㋛・地域(〜・〜社会・開発〜ナド)㋙㋛㋷㋪㋟㊛
⑤—⑦			〈字〉	5	0	12	17	1	1	0	1	2	0	3	3	1	0	1	6・7	
15	逸	イツ	①—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	安逸㋙・逸仙〈固〉㋛
①—⑥			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
16	芋	いも	③—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②—⑤			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17	姻	イン	①—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	婚姻㋛・姻族㋛
⓪—⑤			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
18	陰	イン	⑧—⑧	0	1	5	6	1	2	0	1	3	0	2	2	3	3	0	7・6	陰影㋪・陰性㋟・陰極(〜・〜線)㋷㊚・陰暦㋙・陰(〜旋法・〜イオン)㋷㋔・陰惨㋙・光陰㋙・山陰〈固〉(〜・〜地方ナド)㋛太陰暦㋛・松陰〈固〉㋛
①—⑧		かげ	③—⑧	0	0	9	9	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	陰(〜・山〜・森〜)㋙㋷・木陰㋙
			〈字〉	0	1	14	15	1	2	0	1	2	0	2	2	3	3	0	7・6	
19	隠	イン	①—⑦	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	隠君(胡〈固〉〜)㋙・隠居㋛
⓪—④		かくれる	①—⑧	0	0	8	8	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	隠れる(〜・〜れ)㋙・隠す(〜・おおい〜・塗り〜)㋙・包み隠す(〜し)㋙
			〈字〉	0	0	11	11	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	隠岐オキ〈固〉㋛
20	韻	イン	⓪—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	余韻㋙
⓪—②			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	01	
21	宇	ウ	⑧—⑧	1	11	4	16	1	1	0	1	3	0	0	1	0	3	0	5・4	宇宙(〜・〜飛行・〜線ナド)㋙㋛㋷㋪㊚・宇治〈固〉(〜・〜茶ナド)㋙㋛・宇〈文字〉㋛・宇吉郎〈固〉㋙㋛など
③—⑦			〈字〉	1	11	4	16	1	1	0	1	3	0	0	1	0	3	0	5・4	
22	羽	ウ	⑥—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	1	0	3	0	1	5・6	羽毛㋷㋓㋟㊛・奥羽〈固〉(〜・〜山脈・〜本線)㋛・羽越(〈固〉〜本線)㋛・陸羽〈固〉㋛㋷・鷲羽〈固〉(〜山)㋛・羽後〈固〉㋔羽二重(〜・〜系)㋛㊛羽衣㋙・羽織㋛・羽音㋙・羽衣〈固〉㋔・羽根(〜・〜車・矢〜)㋷㊚・合羽カッパ㋛・羽ばたく㋙・羽子板(〜ボルト)㊛・羽ワ〈助数詞〉㋙・刈羽カリワ〈固〉(〜郡㋙, 出羽デワ〈固〉(〜山地)㋛
⑧—⑧		は	④—⑧	6	3	9	18	1	1	0	1	2	0	3	0	0	3	1	5	
		はね	⑧—⑧	4	6	2	12	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	羽(〜・〜ぶとん)㋙・羽田〈固〉㋛
			〈字〉	10	9	11	30	1	1	0	1	2	2	1	0	3	3	1	7	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書入—卒	漢字	音訓	読 入—卒	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
23 ④—⑧	映	エイ	⑧—⑧	5	6	3	14	1	1	1	2	0	2	0	0	3	0	0	5	映画(～・劇～・～館)㋙㋜㋛㋓㋗・映像㋙・反映㋙㋛・映じる(～・相～)・㋙
		うつる	③—⑧	0	5	8	13	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	映る(～・～り合う)㋙・映す㋙
			〈字〉	5	11	11	27	1	1	1	2	0	2	0	0	3	0	0	5	
24 ⓪—⑥	詠	エイ	①—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	詠唱㋔・詠じる㋙・朗詠㋔
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	
25 ④—⑧	影	エイ	④—⑧	2	7	13	22	1	1	1	1	2	0	3	2	1	1	1	8	影響(～・悪～・～カナド)㋙㋛㋷㋔㋪㋗㊚㊛・撮影(～写真～・直接～ナド)㋙㋛㋷㋟・投影(～・～図・～法ナド)㋜㋛㋷㊚㊛など
		かげ	⑦—⑧	3	3	16	22	1	1	1	0	3	0	0	0	2	0	0	4	影㋙㋜㋷㋟・影絵㋙・人影㋙・星影㋙
			〈字〉	5	10	29	44	1	1	1	1	2	0	3	2	1	1	1	8	
26 ⑤—⑧	鋭	エイ	⑦—⑧	3	0	2	5	1	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	4	新鋭(～・最～)㋙㋛・鋭敏㋙㋷・鋭角(～・～三角形)㋜
		するどい	③—⑧	0	5	7	12	1	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3・2	鋭い(～・～さ)㋙㋪㊚
			〈字〉	3	5	9	17	1	1	1	2	3	0	0	1	0	3	0	6・5	
27 ⓪—⑥	疫	エキ	①—⑧	0	0	3	3	1	3	0	0	3	0	0	0	3	1	0	4・3	疫病㋙(男)・防疫㋗・免疫(～血清)㋷
			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	0	3	0	0	0	3	1	0	4・3	
28 ⓪—⑦	悦	エツ	⑤—⑧	0	0	2	2	2	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	満悦(大～)㋙・風悦〈固〉㋔
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
29 ③—⑥	越	エツ	③—⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	信越〈固〉(～本線)㋛・超越㋙・優越㋛
		こえる	⑦—⑧	0	21	25	46	1	2	0	1	0	2	3	0	2	0	0	5	越える(～・踏み～ナド)㋙㋛㋓㋔㋟・乗り越える㋙・川越〈固〉(～・～街道ナド)
		こす	⑦—⑧	0	1	8	9	1・2	2	3	0	0	0	3	0	2	1	0	5・4	越す(～・飛び～)㋙㋟㊚・追い越す(～・～し)㋙㋜㋗・越し(窓～)㋔
			〈字〉	0	27	36	62	1	2	3	1	0	2	3	0	2	1	0	7・6	越後エチゴ〈固〉(～・～じし・～山脈)㋙㋛㋔・越中エッチュウ〈固〉㋙越天楽エテンラク〈固〉㋔
30 ⓪—⓪	謁	エツ	①—②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
31 ①—⑤	閲	エツ	⑦—⑧	4	0	5	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	閲覧(～・～所)㋙・閲兵㋛・検閲㋙㋛
			〈字〉	4	0	5	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
32 ⑦—⑧	沿	エン	⑦—⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	沿道㋙・沿岸(～・太平洋～ナド)㋛㋷・沿線(～・横浜線〈固〉～ナド)㋛・沿海(～州)㋛
		そう	⓪—⑨	0	0	9	9	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	沿う(～・川～いナド)㋙㋓
			〈字〉	0	0	12	12	1	3	0	1	2	1	0	0	0	0	0	4	
33 ③—⑧	炎	エン	③—⑧	0	4	3	7	1	2	0	0	3	0	3	0	1	0	0	4	炎症㋟・脳炎(日本～)㋟・肺炎(～・～菌)㋟・炎(神経～・胃～ナド)㋗・炎色(～反応)㋙・炎天)㋙・炎(内～・外～・酸化～ナド)㋷・火炎(～太鼓)㋔
		ほのお	⑤—⑧	0	8	1	9	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	炎㋙㋷
			〈字〉	0	12	4	16	1	2	0	0	2	0	3	0	1	0	0	4	

漢字番号 書㊅−㊇	漢字	音訓	読 ㊅−㊇	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
34 ⓪−④	宴	エン	④−⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	宴会㋔
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	
35 ③−⑥	煙	エン	⑥−⑧	0	0	11	11	1	3	2	1	1	0	0	0	2	0	0	5	煙突㋙㋜㋛㋷㋟・煙霧㋙・煙害㋛・煙管㋷・煤煙〈ばい煙トモ〉(〜・〜防止装置ナド)㋛㋟・油煙㋷・無煙└(〜炭)㋛など
		けむり	⑥−⑧	0	14	5	19	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	3	3・4	煙㋙㋛㋷㊛・水煙㋷
			〈字〉	0	14	16	30	1	2	2	1	1	0	0	0	2	0	3	5・6	煙草タバコ㋛
36 ②−⑦	援	エン	④−⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2・3	援助(〜・災害援助ナド)㋛㊛・援用㋛・応援㋙・支援㋛・救援(〜作業)㋙
			〈字〉	0	3	0	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
37 ⑦−⑧	鉛	エン	⑧−⑧	0	2	0	2	1	2	1	1	2	1	0	3	0	1	2	7	鉛筆㋙㋜㋛㋷㋓㋪㊚・亜鉛(〜・〜片ナド)㋜㋛㋷㊚㊛ 鉛管㋷・鉛直(〜・〜線)㋜㋷・鉛白㊚・鉛板㊚・└黒鉛㋷
		なまり	④−⑧	0	0	3	3	2	3	2	0	2	0	0	0	2	3	2	5	鉛(〜・〜活字・硫化〜ナド)㋙㋜㋷㋟㊚㊛
			〈字〉	0	2	3	5	1	2	1	1	2	1	0	3	2	1	2	8	
38 ①−⑥	縁	エン	④−⑧	4	10	5	19	1	1	0	2	1	0	0	1	2	3	3	6	縁側㋙㋟㊛・縁起 信貴山〈固〉〜ナド)㋛㋪・縁㋙㋛㋷・造縁㋙・縁組み㋛・絶縁(〜・〜電線ナド)㋷㊚└㊛・血縁(〜・〜関係)㋛・因縁インネン㋙・ぬれ縁㊛
		ふち	⓪−⑦	0	2	3	5	2	2	0	0	0	3	0	0	2	0	0	3	縁(〜・上〜)㋙㋓㋟
			〈字〉	4	12	8	24	1	1	0	2	1	3	0	1	2	3	3	7	
39 ⓪−⑥	汚	オ	①−⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	汚水(〜・〜処理場ナド)㋛㋟・汚物(〜・〜すて場ナド)㋙㋛㋟・汚染㋛㋟
		けがす	⓪−⑧	0	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	汚れ㋙・汚れる㋙・汚す㋙
			〈字〉	0	4	3	7	1	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	
40 ④−⑧	押	オウ	⓪−⑤	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	押印(記名〜)㋛・押収㋛
		おさえる	⑦−⑧	2	4	2	8	1	1	0	0	1	0	3	0	0	1	3	4	押える(押さえるトモ)(〜・〜え金・板〜えナド)㋙㋷㊚㊛㋔・押え〈押さえノミ〉㋙・押えつける└押えつけるトモ〉㋙㊛
		おす	⑦−⑧	43	10	66	119	1	1	1	0	1	3	1	2	0	1	3	7	押す(〜・〜し洗い・〜し花ナド)㋙㋜㋷㋓㋔㋪㊚㊛・押しだす㊚㊛・押し入れ㊛・押しこむ㋷・押しつ└ける㋙・押し葉㋷など
			〈字〉	45	14	68	127	1	1	1	3	1	3	1	2	0	1	3	8	
41 ⓪−⑦	欧	オウ	①−⑧	0	2	9	11	1	2	3	1	1	0	0	0	3	0	0	5	欧米〈固〉(〜・〜人ナド)㋙㋛㋷㋟・北欧〈固〉(〜・〜諸国)㋟・西欧〈固〉(〜・〜販ナド)㋙㋜・東欧〈固〉└(〜・〜諸国ナド)㋛・遣欧(〜使節)㋛など
			〈字〉	0	2	9	11	1	2	3	1	1	0	0	0	3	0	0	5	
42 ⓪−⑤	殴	オウ	⓪−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
43 ⓪−③	翁	オウ	⓪−④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	翁舞オキナマイ㋔
44 ③−⑦	奥	オウ	⑤−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	奥羽〈固〉(〜・〜本線ナド)㋛・奥州〈固〉(〜・〜街道)㋛
		オク	⑦−⑧	7	13	11	31	1	1	0	1	2	3	0	2	2	1	1	7	奥まる㋙・奥さん㋙・奥深い㋙・奥(〜・〜の間ナド)㋙㋛㋷㊛・奥行き〈奥ゆきトモ〉㋙㋟・奥歯㋷・奥└地(〜・〜開拓)㋙㋛・山奥㋙㋛など
			〈字〉	7	13	11	31	1	1	0	1	2	3	0	2	2	1	1	7	陸奥ムツ〈固〉㋛

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋐－㋒	漢字	音訓	読 ㋐－㋒	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
45	桜	オウ	⓪－⑦	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	秋桜子〈固〉㋙
②－⑦		さくら	⑦－⑧	3	9	8	20	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	桜(～・～木・～形ナド)㋙㋔・山桜(～・～花)㋙・桜田門〈固〉(～外)㋙桜井〈固〉㋙など
			〈字〉	3	9	12	24	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	
46	沖	おき	⑥－⑧	1	4	7	12	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	沖(～・三陸〈固〉～ナド)㋙㋛・沖合(～・～漁業)㋛・沖縄〈固〉(～・～県・～諸島)㋙㋛
⑥－⑧			〈字〉	1	4	7	12	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	沖積チュウセキ(～平野・～層)㋑・契沖ケイチュウ〈固〉㋛
47	憶	オク	⑦－⑧	0	1	12	13	1	2	3	2	0	0	3	1	2	0	0	6	記憶(～・～力)㋙㋜㋟㋛・追憶㋔・憶良〈固〉㋙㋛
①－⑦			〈字〉	0	1	12	13	1	2	3	2	0	0	3	1	2	0	0	6	
48	虞	おそれ	⓪－②	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	虞れ㋛
⓪－①			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	英虞アゴ〈固〉(～湾)㋛
49	乙	オツ	⑧－⑧	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	3	2・3	乙(～・～形ナド)㋜㋑㋕
⑥－⑧			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	3	2・3	
50	卸	おろす	⓪－⑦	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1・2	卸す(～・～売・～小売業・地方～ナド)㋛㋕
⓪－③			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1・2	
51	穏	オン	①－⑧	0	0	3	3	1	3	1	2	0	3	0	0	0	0	0	4	穏和㋙㋔・平穏(～・～無事)㋙㋛・穏健㋛・静穏㋑
⓪－⑦		おだやか	⓪－⑧	0	4	2	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	穏やか㋙
			〈字〉	0	4	5	9	1	2	0	1	2	0	3	0	0	0	0	4	
52	佳	カ	③－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④－④			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
53	架	カ	⑦－⑧	0	9	0	9	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	架(十字～・枝条～)㋙㋛・架空(～線)㋙
②－⑦			〈字〉	0	9	0	9	1	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3・2	架る(～干し)㋕
54	華	カ	⑧－⑧	2	4	4	10	1	1	3	1	1	0	0	0	0	0	3	4・5	中華〈固〉～(民国・～風ナド)㋛㋕・栄華(～・～物語〈固〉)㋙㋛・豪華㋙㋛・繁華(～街)㋛・昇華㋑・華
⓪－④			〈字〉	3	4	5	12	1	1	3	1	1	0	0	0	0	0	3	4・5	法華ホッケ〈固〉(～宗)㋛・龍華リュウゲ(～寺〈固〉)㋙・華ハナ(雪の～〈固〉)㋙し族(～・～制度)㋛など
55	菓	カ	⑧－⑧	8	0	1	9	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	3	4・5	菓子(～・～包み・むし～ナド)㋙㋜㋛㋓㋕・駄菓子㋙
③－⑧			〈字〉	8	0	1	9	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	3	4・5	
56	暇	カ	③－⑧	2	1	1	4	1	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	3	余暇(～・～時間)㋙㋛・休暇(～・有給～・長期～ナド)㋙㋛㋛
⓪－③		ひま	⓪－⑧	2	3	3	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	暇(～・～々)㋙
			〈字〉	4	4	4	12	1	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	3	

漢字番号 書入―学	漢字	音訓	読 Ⓐ―学	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
57 ②−6	嫁	カ	①−⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	嫁す㋛
		よめ	⑦−⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	嫁㋛・花嫁㋙㋔
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	
58 ⓪−②	禍	カ	④−⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	惨禍㋛.
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
59 ④−⑦	箇	カ	⑧−⑧	19	17	9	45	1	1	0	2	3	0	0	0	0	1	1	4	箇所(〜・故障〜ナド)㋙㊚㊛・箇条(〜・〜書きナド)㋙㋛㋷
			〈字〉	19	17	9	45	1	1	0	2	3	0	0	0	0	1	1	4	
60 ⓪−①	寡	カ	⓪−③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
61 ⓪−④	蚊	か	⓪−⑧	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	蚊(〜・マラリヤ〈固〉〜)㋙
			〈字〉	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
62 ⓪−⑦	雅	ガ	①−⑧	0	2	3	5	1	2	3	2	0	0	1	2	0	0	3	5・6	雅楽(〜・〜器・〜祭)㋙㋔・雅量㋙・優雅㋙㋔㋪・大雅〈固〉㋛㋪など
			〈字〉	0	2	3	5	1	2	3	2	0	0	1	2	0	0	3	5・6	伝蘭雅 ジョン・フライヤー〈固〉㋜
63 ①−③	餓	ガ	③−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
64 ⑥−⑧	介	カイ	⑧−⑧	8	21	2	31	1	1	0	2	0	3	3	0	0	0	3	4・5	紹介(〜・自己〜・〜状ナド)㋙㋛㋓㋔・媒介㊛・介入㋛・介在㋛・介石〈固〉(蒋〜)㋛
			〈字〉	13	22	2	37	1	1	0	2	0	3	2	0	0	0	3	4・5	龍之介リュウノスケ〈固〉㋙㋛など
65 ③−⑧	灰	カイ	④−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	1	1	4	石灰(〜・〜水・〜石ナド)㋛㋷㋟㊚㊛・灰白(〜質・〜髄炎)㋷㋟・灰分㋷
		はい	⑥−⑧	2	5	5	12	1	2	9	1	2	2	0	0	2	1	1	6	灰色㋙㋷㋓㊛・灰(〜・火山〜・〜・火山〜・〜白色ナド)㋙㋛㋷㋟㊛
			〈字〉	2	5	5	12	1	2	0	1	2	2	0	0	2	1	1	6	灰汁アク㋷
66 ①−⑦	戒	カイ	④−⑧	0	2	1	3	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	警戒㋙㋛㋷・破戒〈固〉㋛・懲戒(〜処分)㋛・戒律㋛・戒厳(〜司令部)㋛
		いましめる	⓪−⑤	0	3	1	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	戒める(〜・相〜)㋙
			〈字〉	0	5	2	7	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
67 ⓪−⑦	怪	カイ	⑥−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		あやしい	①−⑧	3	2	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	怪しい(〜・〜しげ)㋙・怪しむ㋙
			〈字〉	3	2	1	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	物怪モノノケ(御〜)㋙
68 ⑤−⑧	皆	カイ	⓪−⑤	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	2	皆兵(国民〜)㋛・皆既(〜食・〜日食)㋷
		みな	⑦−⑧	0	0	38	38	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	皆(〜・〜さん・〜々)㋙
			〈字〉	0	0	38	38	2	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)―(卒)	漢字	音訓	読 (入)―(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
69	悔	カイ	④―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②―⑧		くいる	②―⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		くやむ	①―⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
70	塊	カイ	①―⑧	0	9	5	14	2	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3・2	塊村㋪・土塊㊚・氷塊㋙
⓪―④			〈字〉	0	9	5	14	2	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3・2	
71	懐	カイ	①―⑧	0	4	0	4	1	2	0	2	2	1	0	0	0	3	0	5・4	懐中(～電燈・～時計)㋙㋛㋷㋓㊚・懐風藻〈固〉㋛
⓪―②			〈字〉	0	4	0	4	1	2	0	2	2	1	0	0	0	3	0	5・4	
72	壊	カイ	①―⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	崩壊㋙㋛・破壊(～・～力・～的)㋙㋛㋷・全壊㋛・半壊㋛・壊血病㋷
⓪―①			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
73	劾	ガイ	⓪―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	弾劾(～裁判ナド)㋛
⓪―①			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
74	慨	ガイ	②―⑧	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	憤慨㋙
⓪―④			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
75	該	ガイ	⓪―⑥	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	該当㋛・当該㋛
⓪―③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
76	概	ガイ	④―⑧	0	0	2	2	1	3	1	1	0	0	0	0	0	3	0	4・3	概略㊚：概要㋙㋛・概算㋜・概数(人口～)㋛
⓪―③			〈字〉	0	0	2	2	1	3	1	1	0	0	0	0	0	3	0	4・3	
77	街	ガイ	⑦―⑧	2	7	0	9	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	街頭㋙・街(商店～・中心～ナド)㋙㋛・市街(～・～地・～戦)㋛
③―⑥			〈字〉	3	9	0	12	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	街道 カイドウ(～・～すじ・甲州〈固〉～ナド)㋙㋛㋪・街マチ㋙
78	核	カク	⑤―⑧	0	7	3	10	1	2	0	1	3	0	0	0	1	0	3	4・5	結核(～・肺～・～療養所ナド)㋙㋛㋟㊛・核心㋙・核(～・～兵器・～分裂ナド)㋛㋷
⓪―⑦			〈字〉	0	7	3	10	1	2	0	1	3	0	0	0	1	0	3	4・5	
79	郭	カク	⓪―⑧	0	2	2	4	1・2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	輪郭(～・～線・～どり)㋙㊚
⓪―②			〈字〉	0	2	2	4	1・2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	
80	隔	カク	⓪―⑦	0	0	0	0	1	0	3	3	2	0	0	0	1	1	1	5	間隔(～・等～ナド)㋷㋟㊚㊛・横隔膜㋷・隔離㋛㋷㋟
⓪―②		へだてる	⓪―⑧	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	隔てる㋙・隔たる㋙・隔たり㋙
			〈字〉	0	0	5	5	1	3	3	3	2	0	0	0	1	1	1	6	
81	較	カク	③―⑧	1	4	7	12	1	1	3	2	2	1	3	0	1	3	1	8	比較(～・～的・～級ナド)㋙㋜㋛㋷㋓㋔㋟㊚㊛・較差㋷
⓪―⑧			〈字〉	1	4	7	12	1	1	3	2	2	1	3	0	1	3	1	8	

漢字番号 音(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
82 ⑥−⑦	閣	カク	⑧−⑧	1	0	2	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	閣下㋙・閣議(～・～室)㋛・内閣(～政党～・～法ナド)㋙㋛・組閣㋛・金閣〈固〉㋛・天守閣㋛・飛雲閣〈固〉 L㋛・閣僚㋛など
			〈字〉	1	0	2	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
83 ⓪−⑥	獲	カク える	①−⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	獲得(～・～形質ナド)㋙㋛㋷・漁獲(～高・全～量)㋛㋷
			①−⑧	1	3	0	4	1	1	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3	獲物㋙㋛㋪・獲る㋙
			〈字〉	1	3	2	6	1	1	0	1	3	0	0	3	0	0	0	4	
84 ⓪−②	嚇	カク	⓪−⑤	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	威嚇㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
85 ⓪−④	穫	カク	⑤−⑧	4	0	2	6	1	1	3	1	3	0	0	2	0	3	2	6	収穫(～・～量ナド)㋙㋜㋛㋷
			〈字〉	4	0	2	6	1	1	3	1	3	0	0	2	0	3	2	6	
86 ⑤−⑦	岳	ガク たけ	③−⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	山岳(～・～地帯ナド)㋙㋛㋷・富岳〈固〉(～三十六景)㋛
			⑥−⑧	0	1	8	9	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	岳(谷川～〈固〉・八ヶ～〈固〉ナド)㋙㋛㋷
			〈字〉	0	1	9	10	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	
87 ⓪−②	掛	かける	④−⑧	0	5	17	22	1	2	2	1	0	1	3	0	0	3	0	6・5	仕掛け(ダ)・掛ける(～・～け木)㋙㋜・掛かる㋙・掛図㋙・腰掛け㋙・腰掛る㋙・掛け㋛・掛時計㋓・掛川 L〈固〉㋛・掛カカリ(音楽取調～)㋔〈固〉
			〈字〉	0	5	17	22	1	2	2	1	0	1	3	0	0	3	0	6・5	
88 ⓪−⑤	括	カツ	①−⑧	0	0	2	2	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	総括㋙・括弧㋜
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
89 ④−⑥	割	カツ わる	⑥−⑧	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	分割㋜㋛・割譲(～地)㋛・割拠㋛
			⑧−⑧	14	13	10	37	1	1	1	2	1	2	3	1	2	1	1	9	割る(～・くるみ～り人形〈固〉ナド)㋜㋛㋷㋪(ダ)・割りあてる㋙・割りふる(～・～りふり)㋙・割㋜・ L割合(～・混合～ナド)㋜㋛㋷㋪㋟(ダ)㋕・役割㋙など
			〈字〉	14	13	10	37	1	1	1	1	1	2	3	1	2	1	1	9	
90 ⓪−①	渇	カツ	①−⑤	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	渇水(～期)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
91 ①−⑦	滑	カツ	②−⑧	0	2	3	5	1	2	0	1	2	0	0	0	0	2	2	4	円滑㋙㋛㋕・潤滑(～・～油・～作用ナド)(ダ)・平滑(～・～回路ナド)㋷(ダ)・滑車(～・動～ナド) L㋙㋷・滑走(～路)㋛など
			〈字〉	0	2	3	5	1	2	0	1	2	0	0	0	0	2	2	4	常滑トコナメ〈固〉㋛
92 ⓪−②	轄	カツ	⓪−④	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	直轄(～地)㋛・管轄(～権・～下ナド)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
93 ⓪−④	且	かつ	⓪−⑦	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	且つ㋙㋛
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
94 ①−③	刈	かる	⑥−⑧	1	3	4	8	1	1	0	1	0	2	3	0	0	3	0	5・4	刈る㋙㋔・刈り取る(～・～り・～り機ナド)(ダ)・草刈り㋙・芝刈(～機)㋓・刈羽〈固〉(～郡)㋙・刈谷 L〈固〉㋛
			〈字〉	1	3	4	8	1	1	0	1	0	2	3	0	0	3	0	5・4	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　(ダ)＝技術・家庭〈男子用〉　㋕＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
95 ①—⑥	干	カン	④—⑧	2	0	4	6	1	1	0	1	3	0	0	0	0	3	0	4・3	干渉(~・内政~ナド)㋛㋷・干拓(~・~地ナド)㋛・干満㋷・水干(~ばかま)㋙・若干㋙・欄干㋙
		ひる	①—⑥	0	1	1	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	干る㋙・満ち干㋛
		ほす	⑥—⑧	5	8	5	18	1	1	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3・2	干す(~・網~しナド)㋙・干し草㋙・干鰯ホシカ㋛
			〈字〉	7	9	10	26	1	1	0	1	3	0	0	0	0	3	0	4・3	
96 ④—⑦	甘	カン	④—⑥	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0	0	3	2・3	甘美㋔・甘味(~料)㋕・甘蔗〈固〉(~省)㋛
		あまい	⑧—⑧	7	3	1	11	1	1	0	0	1	0	0	0	2	0	3	3・4	甘い(~・~酢)㋙㋷㋟㋕・甘み〈甘味トモ〉㋷・甘やかす㋙・甘える㋙・甘ずっぱい㋷・甘酒㋙
			〈字〉	7	3	1	11	1	1	0	2	1	0	3	0	2	0	3	5・6	
97 ⑤—⑧	汗	カン	⑤—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	2	発汗㋟・汗せん㋷
		あせ	⑥—⑧	5	1	3	9	1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	3	汗㋙㋷㋟・汗水㋙・汗ばむ㋷・ひや汗㋟
			〈字〉	5	1	3	9	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	
98 ①—⑥	肝	カン	⑧—⑧	3	0	0	3	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	肝油㋙㋷・肝臓㋷・肝(~静脈)㋷・肝心㋛
		きも	⓪—⑧	2	2	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	肝㋙・肝ったま㋙
			〈字〉	5	2	0	7	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
99 ②—⑧	巻	カン	②—⑧	3	7	3	13	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	4	万巻㋙・巻(下~ナド)㋙㋜㋛・巻頭㋛・巻末(~・~資料)㋙㋜㋛㋓・山水長巻〈固〉㋛
		まく	⑧—⑧	5	4	11	20	1	1	1	1	2	0	1	0	2	3	3	7	巻線(~・界磁~ナド)㋷㋕・巻く(~・~き付ける・逆~きナド)㋙㋷㋟㋷㋕・絵巻(~・~物ナド)㋛・はち巻き㋙・石巻〈固〉㋛㋷
			〈字〉	8	11	14	33	1	1	1	1	2	3	1	0	2	3	3	8	巻積雲ケンセキウン㋷など
100 ⓪—④	冠	カン	⑧—⑧	0	0	2	2	1	3	0	2	2	1	0	0	3	0	3	5・6	王冠㋙・帝冠㋛・冠詞(~・定~ナド)㋓・冠婚葬祭㋕・根冠㋷・冠位(~十二階)㋛・冠状(~動脈)㋟
		かんむり	①—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	冠㋙㋛
			〈字〉	0	0	31	31	1	3	0	2	2	1	0	0	3	0	3	5・6	冠者カジャ(太郎~)㋙
101 ⓪—②	看	カン	⑦—⑧	3	6	3	12	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	2	3・4	看護(~・~婦)㋙㋓㋟㋕・看病㋙・看守(~人)㋙・看板㋙㋓
			〈字〉	3	6	3	12	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	2	3・4	
102 ⓪—⑤	勘	カン	③—⑧	3	1	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	勘定(~・~奉行)㋙㋛・勘合(~符~貿易)㋛
			〈字〉	3	1	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
103 ⓪—②	陥	カン	⓪—⑤	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	欠陥㋙㋟・陥落㋛
		おちいる	⓪—⑥	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	陥る㋙
			〈字〉	0	0	7	7	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	
104 ②—④	貫	カン	⑤—⑧	0	0	2	2	1	3	1	1	0	0	0	3	0	2	3	5	一貫〈する〉㋙㋜㋪㋕・貫㋜・貫通㋷・縦貫(~・~鉄道)㋛・尺貫法㋜・貫太郎〈固〉㋛
		つらぬく	⓪—⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	貫く㋙
			〈字〉	0	0	6	6	1	3	1	1	0	0	0	3	0	2	3	5	貫之ツラユキ〈固〉㋛

漢字番号 書㊇―㊅	漢字	音訓	読 ㊇―㊅	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
105 ⓪―⑦	乾	カン	⑧―⑧	0	2	1	3	1	3	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	乾燥〈乾そうトモ〉(～・～機ナド)㋙㋛㋷㋟㊚㊛・乾物・乾季㋛・乾電池㋷・乾板(～・写真～)㋙㋷など
			〈字〉	0	2	1	3	1	3	0	1	2	0	0	2	2	1	1	6	乾山ケンザン〈固〉㋪・乾隆ケンリュウ(～帝〈固〉)㋛
106 ②―⑥	患	カン	④―⑧	0	0	2	2	2	3	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	患者(～・赤痢～ナド)㋙㋛㋟・り患(～率・～件数)㋟
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	
107 ⓪―④	換	カン	③―⑧	3	1	5	9	1	1	1	1	1	3	0	0	2	3	1	7	換気(～・～筒・～扇ナド)㋛㋟㊚・換算(～・～量ナド)㋜㋛㊛・交換(～・～経済ナド)㋜㋛㋷・転換㋙㋓㋟ナド
		かえる	⑤―⑧	0	5	19	24	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	換える(～・言い～ナド)㋙・切換㊚
			〈字〉	3	6	24	33	1	1	1	1	1	3	0	0	2	3	1	7	
108 ⓪―⓪	喚	カン	⓪―⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
109 ①―⑥	棺	カン	④―⑧	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	寝棺㋙・棺おけ(～・～屋)㋙・棺㋛
			〈字〉	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
110 ⓪―③	閑	カン	⓪―⑦	0	0	6	6	2	3	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	農閑期㋛㋟・閑静㋟・消閑(～・享楽的～)㋙・如是閑〈固〉㋙
			〈字〉	0	0	6	6	2	3	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	
111 ⓪―⑤	敢	カン	③―⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	勇敢㋙
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
112 ⓪―④	堪	カン	⓪―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		たえる	⓪―⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
113 ⓪―⓪	款	カン	⓪―②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
114 ①―⑥	監	カン	⑧―⑧	2	0	11	13	1	1	0	2	0	3	1	0	3	0	3	5・6	監修(～・～～者)㋙㋛㋔㊛・監督(～・指揮～ナド)㋙㋛㋟・監視㋙㋛・監獄㋛㋓・監査(～・～役ナド)㋛など
			〈字〉	2	0	11	13	1	1	0	2	0	3	1	0	3	0	3	5・6	
115 ⓪―④	寛	カン	⑥―⑧	1	0	6	7	1	1	0	2	0	3	0	0	2	0	0	4	寛容㋛・寛大(～・～さ)㋛㋓・良寛〈固〉㋙・寛カン〈固〉㋙㋛・寛永〈固〉㋛・寛政〈固〉㋛
			〈字〉	1	0	6	7	1	1	0	2	0	3	3	0	2	1	1	6	寛ヒロシ〈固〉㋔㊚㊛・利寛トシヒロ〈固〉㋟
116 ⓪―④	憾	カン	④―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
117 ⓪―⑤	緩	カン	⓪―⑥	0	0	5	5	2・3	3	0	3	0	0	0	0	0	2	3	3	緩染(～剤)㊛・緩衝(～剤)㊚・緩慢㋙・緩和(～・緊張～)㋙㋛・弛緩㋙
			〈字〉	0	0	5	5	2・3	3	0	3	0	0	0	0	0	2	3	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋩—㊫	漢字	音訓	読 ㋩—㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
118	環	カン	⑦—⑧	0	6	2	8	1	2	0	1	2	0	0	1	1	1	0	6・5	環境(～・生活～ナド)㊁㋛㋚㋟㋠㋬・循環(～・～器ナド)㋛㋚㋟・金環(～食)㋚・環状㋚・環(短絡～ Lナド)㋚など
①—⑦			〈字〉	0	6	2	8	1	2	0	1	2	0	0	1	1	1	3	6	環ワ㋝
119	還	カン	⑥—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	奉還(大政～・版籍～)㋛
⓪—④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
120	簡	カン	⑧—⑧	10	17	36	63	1	1	1	2	3	0	2	1	2	2	1	8	簡単㊁㋜㋚㋟㋠㋬・簡易(～保険ナド)㋜㋛㋟㋝・簡素(～・～化) ㋛㋟㋝・簡便(～・～ナット) L㋜㋛㋬など
①—⑦			〈字〉	10	17	36	63	1	1	1	2	3	0	2	1	2	2	1	8	
121	艦	カン	⑦—⑧	0	0	17	17	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	軍艦(～・～奉行ナド)㊁㋛㋔・艦(潜水～・～隊・～長ナド)㊁㋛
⓪—⑥			〈字〉	0	0	17	17	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	
122	鑑	カン	⑧—⑧	10	2	18	30	1	1	1	1	0	0	1	1	2	0	0	6	鑑賞(～・～力ナド)㊁㋔㋟㋟・図鑑(～・植物～)㊁・年鑑(～・統計～ナド)㊁㋜㋛・鑑三〈固〉㋛
②—⑥			〈字〉	10	2	18	30	1	1	1	1	0	0	1	1	2	0	0	6	鑑真ガンジン〈固〉(～・～和上像)㋛㋟・通鑑ツガン(本朝～〈固〉)㋛・鑑子アキコ〈固〉㋔
123	丸	ガン	④—⑧	0	0	4	4	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	弾丸㊁・砲丸(～投げ)㊁㋟
④—⑦		まるい	⑧—⑧	11	10	31	52	1	1	3	1	1	0	3	0	0	1	1	6	丸い(～・～み・～形ナド)㊁㋬㋝・丸(～・威臨～〈固〉・白～ナド)㊁㋚㋬㋝問丸㋛・丸太(～・～小屋) L㊁㋜㋬・丸める㊁㋬・石丸〈固〉㋔など
			〈字〉	11	10	35	56	1	1	3	1	1	0	3	0	1	1	1	7	
124	含	ガン	⓪—⑥	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	2	含有(～量)㋚㋟
⓪—⑦		ふくむ	③—⑧	0	0	7	7	1	3	1	0	2	3	0	0	0	3	0	5・4	含む㊁㋜㋚㋛㋬・含める㊁
			〈字〉	0	0	7	7	1	3	1	0	2	3	0	0	2	3	0	6・5	
125	企	キ	④—⑧	0	2	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	企業(～・大～・独占～ナド)㋛㋟・企画(～・経済～庁ナド)㊁㋛㋟
③—⑧		くわだてる	⓪—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	企てる(～・～て)㊁
			〈字〉	0	2	2	4	1	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	
126	危	キ	⑧—⑧	0	6	12	18	1	2	0	1	2	3	0	0	1	2	1	6	危険(～・～性ナド)㊁㋛㋚㋛㋟㋬㋝・危害㋛㋝・危機㊁㋛・危難㊁
①—④		あやうい	④—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	危い㋛
			〈字〉	0	6	12	18	1	2	0	1	2	3	0	0	1	2	1	6	
127	机	キ	⓪—⑧	0	0	2	2	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	机上㊁㋜
⑧—⑧		つくえ	⑧—⑧	12	3	3	18	1	1	1	0	2	1	0	1	2	1	3	7	机(～・仕事～・～ごし)㊁㋜㋚㋛㋟㋟㋬㋝
			〈字〉	12	3	5	20	1	1	1	0	2	1	0	1	2	1	3	7	
128	忌	キ	②—⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—⑦		いむ	⓪—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

漢字番号 書㋩－㊫	漢字	音訓	読 ㋩－㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
129	奇	キ	⑥－⑧	0	3	2	5	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4・3	奇数(～・～枚・～個)㋓㋕・奇妙㋒・奇㋒・奇勝㋒・奇形㋑・奇岩㋑・奇テイ目㋑
①－⑦			〈字〉	0	3	2	5	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4・3	
130	岐	キ	⑥－⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	2	0	0	3	3	4	分岐(～回路・～ソケット)㋕㋖・壱岐〈固〉㋜・隠岐〈固〉㋜・讃岐〈固〉(～・～平野・～山脈)㋒㋜・土岐〈固〉㋜・三岐夫〈固〉㋔
①－④			〈字〉	1	2	1	4	1	1	0	1	0	0	2	0	0	3	3	4	岐阜〈固〉㋒㋜
131	祈	キ	⑩－⑤	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	祈禱㋒
②－⑥		いのる	①－⑧	8	6	3	17	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	祈る㋒㋜・祈り(～・お～)㋒㋜
			〈字〉	8	6	4	18	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
132	軌	キ	③－⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	3	0	4・3	軌道(～・～面・円～ナド)㋒㋜㋑㋕・広軌㋜・狭軌㋜
⓪－③			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	3	0	4・3	
133	鬼	キ	③－⑧	0	6	3	9	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	鬼神㋒・鬼城〈固〉㋒・鬼怒〈固〉(～川)㋜
⓪－⑧		おに	⑦－⑧	9	1	1	11	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	鬼(～・赤～・青～)㋒
			〈字〉	9	7	4	20	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
134	既	キ	①－⑥	0	0	2	2	1・2	3	3	0	3	3	0	0	2	1	3	6	既製(～・～品ナド)㋕㋖・既習㋓㋖・既婚㋒・皆既食㋑・既陽性㋗・既約(～分数)㋓
⓪－⑤		すでに	⓪－③	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	既に㋜
			〈字〉	0	0	2	2	1・2	3	3	3	3	3	0	0	2	1	3	7	
135	飢	キ	⓪－④	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	飢饉㋜
⓪－③		うえる	⓪－⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	飢える㋜・飢え㋒㋜
			〈字〉	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
136	揮	キ	④－⑧	0	2	2	4	1	2	0	2	2	0	1	0	0	1	1	5	指揮(～・～者ナド)㋜㋔・発揮㋒㋜㋔㋕㋖・揮発(～油・～性)㋜㋑㋕㋖
①－⑥			〈字〉	0	2	2	4	1	2	0	2	2	0	1	0	0	1	1	5	
137	棋	キ	⑥－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－⑤			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
138	棄	キ	①－⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	2	3・4	廃棄(～・～物・～量ナド)㋜㋗㋖・放棄(～・戦争～)㋜
⓪－③			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	2	3・4	
139	幾	キ	⑤－⑧	0	0	0	0	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	幾〈文字〉㋜・幾何(～学原論)〈固〉㋓
②－⑧		いく	①－⑧	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	幾(～千・～月・～曲がり)㋒㋔
			〈字〉	0	0	6	6	2	3	3	2	0	0	3	0	0	0	0	4	

㋒＝国語　㋓＝数学　㋜＝社会　㋑＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋖＝美術　㋗＝保健体育　㋕＝技術・家庭〈男子用〉　㋖＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋮	漢字	音訓	読 ㋑－㋮	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
140	輝	キ	①－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	清輝〈固〉㋒
③－⑧		かがやく	⑥－⑧	0	22	16	38	1	2	0	0	0	3	1	0	3	0	0	4	輝く(～・～き・照り～ナド)㋐㋑㋓・輝かす㋐・輝かしい㋖
			〈字〉	0	22	16	38	1	2	0	2	0	3	1	0	3	0	0	5	義輝ヨシテル〈固〉㋒
141	騎	キ	⑥－⑧	3	9	2	14	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	一騎当千㋐・騎〈助数詞〉㋐・一騎打ち㋒・騎馬(～戦)㋐・騎士(～・～道)㋒・騎兵㋒
①－⑦			〈字〉	3	9	2	14	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
142	宜	ギ	⓪－⑦	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	2	適宜㋒㋕・便宜㋘・時宜㋒
⓪－②			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	2	
143	欺	ギ	⓪－⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	詐欺(～・～行為)㋐
⓪－⑥		あざむく	⓪－⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	欺く㋐
			〈字〉	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
144	偽	ギ	②－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－④		いつわる	⓪－⑥	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	偽り㋐・偽る㋐
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
145	戯	ギ	①－⑧	5	4	4	13	1	1	0	2	0	3	0	2	2	0	0	5	戯画(鳥獣～〈固〉)㋒㋓・戯曲(～・～家)㋐㋒・遊戯(～・路上～・～的)㋐㋑㋖
⓪－④		たわむれる	⓪－⑧	3	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	戯れる㋐
			〈字〉	8	4	4	16	1	1	0	2	0	3	0	2	2	0	0	5	
146	儀	ギ	⑧－⑧	10	3	7	20	1	1	0	1	0	0	2	0	3	0	0	4	儀式㋐㋒㋗・礼儀㋐㋒㋖・行儀(～・他人～)㋐・儀(地球～・天体～ナド)㋐㋒・儀〈…の～ナド〉㋒・非儀㋙
⑤－⑧			〈字〉	10	3	7	20	1	1	0	1	0	0	2	0	3	0	0	4	
147	擬	ギ	⑥－⑧	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	擬声語㋐・擬態語㋐・擬音㋐
⓪－④			〈字〉	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
148	犠	ギ	⑦－⑧	0	8	1	9	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	犠牲(～・～者・～的精神)㋐㋒
⓪－⑧			〈字〉	0	8	1	9	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
149	菊	キク	⑧－⑧	0	0	5	5	1	3	0	1	0	0	0	3	0	0	3	3・4	菊㋕・菊花(～かぶ)㋕・除虫菊㋒・菊池〈固〉㋐㋒・菊竹〈固〉㋓
③－⑦			〈字〉	0	0	5	5	1	3	0	1	0	0	0	3	0	0	3	3・4	
150	吉	キチ	③－⑧	10	2	23	35	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	吉㋐・吉凶㋒・諭吉〈固〉㋐㋒・三重吉〈固〉㋐など
①－⑦			〈字〉	12	6	27	45	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4	住吉スミヨシ〈固〉(～神社・～おどり)㋖・吉野ヨシノ〈固〉(～地方)㋐・吉宗ヨシムネ〈固〉㋐㋒・吉良キラ〈固〉㋐など
151	詰	キツ	⓪－⑦	0	1	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	詰問㋐・摩詰㋐
⓪－④		つめる	③－⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	重詰(～・～料理)㋕・詰める㋐・詰め込む(～み)㋐・すし詰め㋐
			〈字〉	0	1	6	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1・2	

漢字番号 書㋑－㋾	漢字	音訓	読 ㋑－㋾	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
152 ⓪－③	喫	キツ	⑤－⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	喫煙(～・～禁止法)㋐㋖・喫す㋒
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	
153 ⓪－⑥	却	キャク	⑤－⑧	0	2	3	5	2	2	0	3	2	0	0	0	2	3	0	5・4	焼却㋖・冷却(～・～水ナド)㋑㋭・退却㋒・忘却㋒㋖・償却(減価～費)㋖
			〈字〉	0	2	3	5	2	2	0	3	2	0	0	0	2	3	0	5・4	
154 ②－⑧	脚	キャク	⑦－⑧	33	29	11	73	1	1	1	2	1	0	0	0	1	0	3	5・6	脚力㋖・脚部㋭・三脚(～・～いす)㋒㋑・脚本(～・～家・～作家)㋒・脚色㋒・飛脚㋖・立脚㋒㋖・脚 └注㋖・脚〈助数詞〉㋒㋕・等脚(～台形)㋕
			〈字〉	33	29	11	73	1	1	1	2	1	0	0	0	1	0	3	5・6	
155 ⓪－⑦	虐	ギャク	①－⑤	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	虐待㋖・残虐(～・～刑)㋖
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
156 ⑥－⑧	弓	キュウ	②－⑦	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	胡弓㋓
		ゆみ	⑧－⑧	0	0	4	4	1	3	1	2	2	0	0	0	0	2	0	5・4	弓(～・～のこ)㋒㋖㋑㋭・弓矢㋖・弓形㋒㋕
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	1	2	2	0	3	0	0	2	0	6・5	
157 ⓪－⑦	及	キュウ	③－⑧	2	6	5	13	1	1	0	1	0	0	3	0	3	0	1	4・5	普及(～・～率・～度ナド)㋒㋖㋓㋐㋭・遍及(～処調)㋖
		および	①－⑧	0	3	0	3	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	及び㋒㋖
		およぶ	①－⑧	0	3	12	15	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	及ぶ(～・開き～)㋒㋑・及ぼす㋒
			〈字〉	2	12	17	31	1	1	0	1	1	0	3	0	3	0	1	5・6	
158 ⑥－⑧	丘	キュウ	⑦－⑧	0	9	0	9	1	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	砂丘(～・～地帯)㋒㋖・丘陵(～・～性ナド)㋖・段丘(海岸～)㋑・火口丘(中央～)㋖
		おか	⑧－⑧	9	5	2	16	1	1	3	2	0	2	3	0	0	0	0	5	丘(～・～々)㋒㋖㋓㋕㋐
			〈字〉	9	14	2	25	1	1	3	1	3	2	3	0	0	0	0	6	
159 ⑧－⑦	吸	キュウ	⑥－⑧	0	4	6	10	1	2	0	2	2	0	2	0	1	1	1	6	呼吸(～・～数・人工～ナド)㋒㋑㋐㋖㋭・吸収(～・～力・消化～)㋒㋖㋑㋗㋭㋮・吸気(～・～中) └㋮・吸湿(～性)㋮㋭ など
		すう	⑧－⑧	9	1	5	15	1	1	0	0	3	0	0	0	2	3	3	4	吸う(～・～い上げるナド)㋒㋖㋮㋭・吸い込む〈吸い
			〈字〉	9	5	11	25	1	1	0	2	2	0	2	0	1	1	1	6	└こむトモ〉(～・～口・～量ナド)㋒㋑㋗㋮・吸い㋒
160 ⓪－④	朽	キュウ	①－⑥	4	2	0	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	不朽㋒・老朽(～・～化・～機関車)㋒
		くちる	⑩－④	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	朽葉(褐～色)㋒
			〈字〉	4	2	1	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
161 ①－⑧	泣	キュウ	⑩－②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		なく	⑦－⑧	35	16	7	58	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	泣く(～・～き通し・～き声ナド)㋒㋖㋓・泣きねいり㋖・泣きはらす㋒・泣きじゃくる㋒・泣き虫㋒
			〈字〉	35	16	7	58	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	
162 ⓪－③	糾	キュウ	⑩－⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

㋒＝国語　㋖＝数学　㋗＝社会　㋑＝理科　㋓＝英語　㋐＝音楽　㋕＝美術　㋭＝保健体育　㋮＝技術・家庭〈男子用〉　㋬＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
163 ⓪—②	窮	キュウ	⓪—⑦	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	窮局(～的)㋛・困窮(生活～者)㋛・貧窮(～問答歌〈固〉㋛
		きわめる	⓪—①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
164 ⑥—⑦	巨	キョ	⑧—⑧	0	9	3	12	2	2	0	2	3	0	3	0	0	0	0	4	巨匠㋔・巨星㋙・巨人㋙㋛㋷・巨象㋙・巨万㋙・巨神㋙・巨頭(～・～会議)㋛・巨大(～・～企業)㋙㋛
			〈字〉	0	9	3	12	2	2	0	2	3	0	3	0	3	0	2	5	巨摩コマ〈固〉(北～郡)㋟
165 ①—⑤	拒	キョ	④—⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	拒否(～・～権)㋙㋛㋓
		こばむ	⓪—⑦	0	0	1	1	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	拒む㋙㋛
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	
166 ⓪—③	虚	キョ	①—⑧	0	2	4	6	2	2	0	0	3	0	0	0	3	0	0	3	虚栄(～心)㋟・虚勢㋙・虚像㋷・虚子〈固〉㋙
		コ	2—④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	2	4	6	2	2	0	0	3	0	0	0	3	0	0	3	
167 ⓪—⑥	距	キョ	⑦—⑧	3	2	4	9	1	1	1	1	1	2	0	0	1	1	3	7	距離(～・長～・最短～・焦点～ナド)㋙㋜㋛㋷㋓㋟ⓐⓑ・正距(～方位図法)㋛
			〈字〉	3	2	4	9	1	1	1	1	1	2	0	0	1	1	3	7	
168 ⓪—⑥	拠	キョ	⑥—⑧	3	8	16	27	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	根拠(～・～地)㋙㋷・本拠(～・～地)㋛・割拠㋛
		コ	⓪—⑧	1	2	3	6	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	証拠(～・～能力・～裁判主義)㋛
			〈字〉	4	10	19	33	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	
169 ⓪—⑦	凶	キョ	②—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	2	凶悪㋟・吉凶㋛・凶荒(～図録〈固〉)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	2	
170 ③—⑦	叫	キョウ	⓪—⑦	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	絶叫㋙
		さけぶ	⑥—⑧	15	27	15	57	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	叫ぶ(～・～び・～び声・～び立てる)㋙㋓
			〈字〉	15	29	15	59	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
171 ①—⑦	狂	キョウ	⑤—⑧	1	4	38	43	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	4	狂言(～・～座・～集ナド)㋙㋛㋔・狂乱㋙㋔・狂詩曲(ハンガリー～〈固〉)㋔・狂犬(～・～病)㋟・狂歌㋛ └・狂人㋙・狂熱(～的)㋙・熱狂㋙
		くるう	④—⑧	0	4	2	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	狂う(～・荒れ～・たけり～)㋙
			〈字〉	1	8	40	49	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	4	
172 ①—⑥	況	キョウ	③—⑧	0	0	8	8	2	3	3	2	0	0	0	0	3	0	0	4	情況(～・衛生～)㋛㋟・状況(～・進行～・就業～)㋙㋜㋛・近況㋙・活況㋛
			〈字〉	0	0	8	8	2	3	3	2	0	0	0	0	3	0	0	4	
173 ⓪—⑦	享	キョウ	①—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	享楽(～・～的)㋙・享受㋛・享有㋛・享保〈固〉㋛など
			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	

漢字番号 書(入)―(卒)	漢字	音訓	書 (入)―(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	的	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
174 ⑤―⑥	峡	キョウ	⑧―⑧	4	0	1	5	1	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	4	海峡(～・津軽〈固〉～ナド)㋙㋛㋷㋓・峡湾㋛・峡谷(黒部〈固〉～ナド)㋛㋷・峡(瞿塘 クトウ ～〈固〉)㋙
			〈字〉	4	0	1	5	1	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	4	
175 ②―⑧	恐	キョウ	⑤―⑧	7	3	2	12	1	1	0	2	0	3	0	0	2	0	0	4	恐怖(～・～感)㋙㋛㋓㋟・恐慌(～・大～・世界～ナド)㋛・恐縮㋙
		おそれる	⑦―⑧	0	5	4	9	2	2	0	3	0	2	0	0	0	0	0	3	恐れる㋙㋛㋓・恐れ㋙・恐る恐る㋙
		おそろしい	⑦―⑧	0	4	8	12	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	恐ろしい㋙
			〈字〉	7	12	14	33	1	1	0	2	0	2	0	0	2	0	0	4	
176 ⓪―②	恭	キョウ	②―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
177 ⓪―④	狭	キョウ	③―⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	狭軌㋛・偏狭㋛
		せまい	②―⑧	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	狭い㋙㊚・狭苦しい㋙
			〈字〉	0	0	7	7	1	3	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3・2	若狭ワカサ〈固〉(～湾)㋛
178 ⓪―③	脅	キョウ	②―⑧	1	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	脅威㋙㋛・脅迫㋛
		おびやかす	⓪―⑦	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	脅かす㋙
			〈字〉	1	0	2	3	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
179 ⑤―⑧	胸	キョウ	⑦―⑧	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	1	0	0	3	胸囲(～・～表)㋜㋟・胸部㋷㋟・胸骨㋷・胸管㋷・胸痛㋟・胸こう㋟・胸かく㋟・頭胸部㋷
		むね	⑧―⑧	15	18	5	38	1	1	0	0	2	3	3	0	1	0	1	5・6	胸(～・～回り)㋙㋷㋓㋔㋟㊛・胸当て〈胸あてトモ〉(～・～布)㊛・胸くそ㋙・胸ムナもと㋙・胸毛ムナゲ㋙
			〈字〉	15	18	5	38	1	1	3	0	1	3	3	0	1	0	1	6・7	
180 ①―⑦	郷	キョウ	⑧―⑧	8	9	4	21	1	1	0	1	0	2	1	0	3	1	0	6・5	郷土(～・～誌・～民謡ナド)㋙㋛㋔㋟㊚・郷(温泉～)㋛・故郷㋙㋛㋓㋔・異郷㋙㋔
		ゴウ	⑥―⑧	3	0	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	水郷(～風景ナド)㋛・郷㋛・助郷役㋛・郷村㋛・西郷〈固〉㋛㋷など
			〈字〉	11	9	4	24	1	1	0	1	2	2	1	0	3	1	0	7・6	三郷ミサト〈固〉(～村)㋛・萍郷ピンシャン〈固〉㋛
181 ①―⑤	驚	キョウ	③―⑤	0	0	4	4	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	驚がく〈固〉㋔・一驚㋙・驚異(～的)㋙
		おどろく	③―⑧	0	0	18	18	2	3	0	0	0	3	2	0	0	3	0	4・3	驚く(～・～き)㋙㋓㋔㊚
			〈字〉	0	0	22	22	1	3	0	0	0	3	1	0	0	3	0	4・3	
182 ①―⑦	響	キョウ	⑥―⑧	9	8	16	33	1	1	0	3	2	3	1	2	1	3	3	8	交響曲㋔・交響詩㋔・交響詩曲㋔・音響(～・～効果)㋙・影響(～・悪～・～力ナド)㋙㋛㋷㋔㋪㋟㊚㊛・反響㋓
		ひびく	③―⑧	3	5	14	22	1	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	響く(～・鳴り～)㋙・響き〈響トモ〉㋙㋛㋔
			〈字〉	12	13	30	55	1	1	0	2	2	3	1	2	1	3	3	8	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋐—㊥	漢字	音訓	読 ㋐—㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	教	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
183	仰	ギョウ	①—⑦	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	仰角㋓
⓪—③		コウ	③—⑧	4	0	2	6	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	信仰(～・原始～)㋺㋛
		あおぐ	②—⑧	2	2	7	11	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	仰ぐ(～・ふり～)㋺㋔
		おおせ	⓪—⑤	0	0	10	10	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	仰せ(～・～上ぐ)㋺・仰す㋺
			〈字〉	6	2	19	27	1	1	2	1	0	0	3	0	0	0	0	4	
184	凝	ギョウ	①—⑧	0	0	5	5	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	凝固㋺㋑・凝視㋺・凝結㋑
⓪—⑥		こる	⓪—⑥	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	凝る㋺・凝らす㋺
			〈字〉	0	0	8	8	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
185	暁	ギョウ	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—⑧		あかつき	⓪—⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	暁㋺・暁やみ㋺
			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
186	斤	キン	⓪—⑦	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	斤〈単位〉㋓
①—①			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
187	菌	キン	⑧—⑧	0	2	2	4	1	2	0	1	2	0	0	0	2	3	2	5	菌(～・病原～・大腸～ナド)㋛㋑㋗ ㋙㋕ ・細菌(～・～類・～学・～数)㋛㋑㋗ ・殺菌(～・～燈ナド)㋺
④—⑧			〈字〉	0	2	2	4	1	2	0	1	2	0	0	0	2	3	2	5	L㋗㋑㋕・菌子㋑など
188	筋	キン	⑦—⑧	0	0	3	3	1	3	0	0	2	0	0	0	1	0	1	3・4	筋肉(～・～質ナド)㋺㋑㋗㋕・筋(横紋～・～繊維ナド)㋑・鉄筋(～・～コンクリート)㋺㋕・心筋
⓪—⑧		すじ	①—⑧	0	8	16	24	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	L(～・～炎)㋗・筋性(～疲労)㋗など
			〈字〉	0	8	19	27	1	2	0	0	2	0	0	0	1	0	1	3・4	筋㋺㋗・鼻筋㋺・あら筋㋺・道筋㋺・筋道㋺
189	琴	キン	③—⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	木琴㋔・鉄琴㋔・春琴〈固〉(～抄)㋺・馬琴〈固〉㋛
①—⑤		こと	⑦—⑧	1	25	0	26	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	琴㋛・竪琴〈たて琴トモ〉(～・ビルマの～〈固〉)㋺・琴平〈固〉(～町)㋔
			〈字〉	1	25	0	26	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	和琴ワゴン㋔・自鳴琴オルゴール㋛
190	緊	キン	③—⑧	2	5	2	9	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	緊張(～・～緩和)㋺㋛㋗・緊急(～集会)㋛・緊密㋛
⓪—③			〈字〉	2	5	2	9	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	
191	謹	キン	④—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—③			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	謹むツツシ㋛
192	吟	ギン	⓪—⑧	0	4	3	7	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	吟遊(～詩人)㋔・吟ず㋺・吟ずる㋺・吟味㋺
⓪—⑤			〈字〉	0	4	3	7	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	

漢字番号 書㊇一㊥	漢字	音訓	読 ㊇一㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
193 ③一⑧	駆	ク	②一⑧	0	0	0	0	1·2	0	0	0	0	0	3	0	2	1	0	3・2	先駆(～者)㋔・駆除㋟㊚・駆虫㋟・駆動(～・～軸・～型ナド)㊚
		かける	②一⑥	0	0	19	19	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	駆ける(～け寄る・～け抜けるナド)㋙・駆け出す〈駆けだすトモ〉㋙・駆け込む㋙・駆けつける㋙
			〈字〉	0	0	19	19	1·2	3	0	0	0	0	3	0	2	1	0	4・3	
194 ⓪一②	愚	グ	②一⑧	0	0	7	7	2	3	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	痴愚㋟・愚痴㋙・愚鈍㋙・暗愚㋛・愚管〈固〉(～抄)㋛
		おろか	⓪一⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	愚か㋙
			〈字〉	0	0	9	9	2	3	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	
195 ⑤一⑤	偶	グウ	⑦一⑧	0	3	1	4	1	2	1	2	3	0	0	2	2	2	0	7・6	土偶㋛㋪・偶然㋙㋛㋟・偶数㋜㊚・偶テイ(～目)㋷・偶成㋙・配偶(～者)㋛
			〈字〉	0	3	1	4	1	2	1	2	3	0	0	2	2	2	0	7・6	
196 ⓪一⑦	遇	グウ	②一⑧	1	2	1	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	境遇㋙・不遇㋙・待遇(～・～改善・差別～)㋛
			〈字〉	1	2	1	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
197 ⓪一⑧	屈	クツ	②一⑧	7	13	5	25	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	0	4	屈する㋙・屈伸㋟・屈折(～・～光線・～率ナド)㋙㋷・屈指㋛・理屈(～・～っぽい)㋙・卑屈㋙・不屈㋙・退屈㋙など
			〈字〉	7	13	5	25	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	0	4	
198 ④一④	掘	クツ	④一⑧	0	0	0	0	1	0	3	1	3	0	0	0	0	0	0	3	採掘(～・～船)㋛㋷・発掘(～・～物)㋜㋛・掘取(最高～点)㋛
		ほる	⑧一⑧	5	2	2	9	1	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0	3・2	掘り(穴～・鉱山～)㋙㋪・掘る(～・～り返すナド)㋙㋪㊚・掘り下げる㋙
			〈字〉	5	2	2	9	1	1	3	1	3	0	0	2	0	3	0	6・5	
199 ⓪一⑤	繰	くる	⓪一⑧	0	0	16	16	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	繰り返す(～・～し)㋙㋔・繰り広げる㋙・繰綿機㋛
			〈字〉	0	0	16	16	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	
200 ⓪一③	薫	クン	⓪一⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	薫カオル〈固〉(～・～大将)㋙㋛
201 ①一③	勲	クン	④一⑧	0	0	2	2	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	勲章㋙㋛㋔
			〈字〉	0	0	2	2	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	
202 ⑥一⑦	刑	ケイ	⑦一⑧	0	3	2	5	2	2	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	刑法㋛㋟・刑罰㋙㋛・刑務所㋓・刑事(～上・～訴訟法ナド)㋛・刑(～・残虐～)㋛・死刑(～・～場)㋙㋛など
			〈字〉	0	3	2	5	2	2	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	刑部官ギョウブカン㋛
203 ④一⑧	径	ケイ	⑧一⑧	5	2	0	7	1	1	3	2	0	0	0	0	2	1	1	5	直径㋙㋜㋷㋟㊚㊛・半径(～・有効～・公転～ナド)㋙㋜㋛㊚・口径㊛・径路㋷・径㊚など
			〈字〉	5	4	0	9	1	1	3	2	0	0	0	0	2	1	1	5	小径コミチ㋙
204 ②一⑧	茎	ケイ	⑦一⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	地下茎㋷・花茎㋷
		くき	⑦一⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	茎(～・～数)㋙㋛㋷㊚
			〈字〉	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋖	漢字	音訓	読 ㋑－㋖	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
205	契	ケイ	②－⑧	0	0	4	4	1	3	0	1	0	0	0	0	0	3	3	3	契約(～・～電流ナド)㋺㋛㋩㋝・契機㋺㋛・契沖〈固〉㋛
⓪－④		ちぎる	⓪－③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	0	1	0	0	0	0	0	3	3	3	
206	啓	ケイ	⑦－⑧	0	2	4	6	2	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	啓発㋺・啓蒙(～思想ナド)㋛・拝啓㋺・高啓〈固〉㋺・啓介〈固〉㋛・啓林館〈固〉㋜
②－③			〈字〉	0	2	4	6	2	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	
207	恵	エ	④－⑧	2	13	7	22	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	知恵㋺・恵那〈固〉(～文楽)㋔
⑤－⑧		ケイ	③－⑧	0	2	2	4	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	恩恵㋺・恵沢㋛
		めぐむ	⑧－⑧	4	8	6	18	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	恵む㋺・恵み㋺
			〈字〉	6	23	15	44	1	1	0	3	0	0	2	0	0	0	0	3	
208	掲	ケイ	⑧－⑧	12	6	1	19	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	掲示(～・～板・～文)㋺㋩・掲載(～・～承認)㋺㋑
①－⑤		かかげる	⓪－⑧	4	7	4	15	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	掲げる㋺㋜
			〈字〉	16	13	5	34	1	1	3	0	1	0	0	1	0	0	0	4	
209	傾	ケイ	①－⑧	8	6	11	25	1	1	3	1	3	0	3	0	2	1	1	7	傾向(～・…的～ナド)㋺㋛㋔㋟・傾斜(～・急～・～面ナド)㋺㋜㋛㋑㋟㋩㋝
⓪－⑧		かたむく	①－⑧	3	7	5	15	1	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	4・3	傾く㋺㋜㋑・傾き㋜・傾ける㋺㋩
			〈字〉	11	13	16	40	1	1	1	1	2	0	3	0	2	1	1	7	
210	携	ケイ	①－⑧	0	3	0	3	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	携帯(～用)㋺・必携(畳地～〈固〉)㋜
⓪－⑧		たずさえる	⓪－⑥	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	携える㋺・携わる㋺
			〈字〉	0	3	3	6	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
211	継	ケイ	①－⑧	4	2	2	8	1	1	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3・2	中継(～・～放送ナド)㋺㋛・継続(～・～審査)㋛・継承㋛
⓪－⑥		つぐ	①－⑧	2	4	2	8	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	4・3	継ぐ㋺・継ぎめ㋩・継ぎ合わせる㋩・受け継ぐ㋺㋩・家継〈固〉㋛・仲継(～貿易ナド)㋛
			〈字〉	6	6	4	16	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	4・3	
212	慶	ケイ	⑦－⑧	2	2	7	11	1	1	0	2	0	0	2	2	0	0	0	4	慶応〈固〉(～・～義塾ナド)㋺㋛・慶長〈固〉(～年間ナド)㋺㋛・弁慶〈固〉㋺㋔・運慶〈固〉㋺㋛㋩など
⓪－④			〈字〉	2	2	7	11	1	1	0	2	0	0	2	2	0	0	0	4	慶喜ヨシノブ〈固〉㋛・重慶チョンチン〈固〉㋛
213	憩	ケイ	⑧－⑧	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	休憩(～・～時間)㋺㋛
①－③			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
214	警	ケイ	⑦－⑧	1	4	2	7	1	1	0	1	2	3	0	3	2	0	0	6	夜警㋩・警官㋓・警察(～・～庁・署ナド)㋺㋛㋓㋟・警戒㋺㋛㋑・警笛㋺・警報(気象～)㋑など
③－⑧			〈字〉	1	4	2	7	1	1	0	1	2	3	0	3	2	0	0	6	

漢字番号 書(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
215 ⓪−④	鶏	ケイ	④−⑧	3	3	0	6	1	1	0	3	0	0	0	0	2	1	1	4	鶏卵㋛㋟㊛・鶏肉㊛・鶏ふん㊚・養鶏㋙㋛・金鶏〈固〉㋙
		にわとり	④−⑧	12	0	0	12	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	鶏（〜・〜係長）㋙㊛
			〈字〉	15	3	1	19	1	1	0	3	0	0	0	0	2	1	1	4	鶏トリ㋙
216 ⓪−①	迎	ゲイ	⑥−⑧	0	3	0	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	歓迎（〜・大〜）㋙㋛・迎合㋛
		むかえる	⑤−⑧	9	19	5	33	1	1	0	3	0	0	0	3	2	0	0	4	迎える㋙㋛㋪㋟・迎え㋙・迎い㋙
			〈字〉	9	22	5	36	1	1	0	2	0	0	0	3	2	0	0	4	
217 ②−⑥	鯨	ゲイ	⑤−⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2・3	鯨肉㊛・捕鯨（〜・〜船・〜業ナド）㋙㋛
		くじら	⑥−⑧	0	2	1	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	鯨㋙㋛・鯨湾〈固〉㋛
			〈字〉	0	2	4	6	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
218 ⓪−⑥	劇	ゲキ	⑧−⑧	94	75	43	212	1	1	0	2	0	2	1	0	2	3	0	6・5	歌劇（〜・〜場・〜団ナド）㋙㋛㋓㋔・劇（〜・放送〜・〜作家・〜音楽ナド）㋙㋛㋓㋔・喜劇（〜・〜作家・〜的）㋙㋛㋔など
			〈字〉	94	75	43	212	1	1	0	2	0	2	1	0	2	3	0	6・5	
219 ②−⑦	激	ゲキ	④−⑧	6	10	7	23	1	1	0	1	2	0	0	0	2	3	0	5・4	感激㋙㋛㋟・急激㋙㋛㋷㋟㊚・刺激（〜・〜性ナド）㋙㋛㋷・激励㋙・激増㋛・激する㋙など
		はげしい	①−⑧	2	9	24	35	1	1	0	0	0	0	0	3	1	0	3	3・4	激しい㋙㋪㋟㊛
			〈字〉	8	19	31	58	1	1	0	1	2	0	0	3	1	3	3	6	
220 ⓪−⑤	撃	ゲキ	④−⑧	1	3	3	7	1	1	1	2	3	0	1	0	1	1	0	7・6	射撃（〜・〜大会）㋛㋔・攻撃（〜・軍事〜ナド）㋙㋛㋟・打撃（〜・〜率・〜音・大〜ナド）㋙㋜㋛㋷㊚・反撃㋛など
		うつ	③−⑧	4	1	1	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	撃つ㋙・撃ち殺す㋙
			〈字〉	5	4	4	13	1	1	1	2	3	0	1	0	1	1	0	7・6	
221 ⓪−①	傑	ケツ	③−⑧	2	0	5	7	1	1	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	傑作（〜…大〜）㋙㋛㋪・豪傑㋙
			〈字〉	2	0	5	7	1	1	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	
222 ④−⑧	穴	ケツ	①−⑥	0	3	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	氷穴㋙
		あな	⑦−⑧	13	6	5	24	1	1	2	2	0	3	2	0	2	1	1	7	はら穴㋙㋛・竪穴（〜式・〜住居）㋛・穴（〜・針〜・〜掘り・〜あけナド）㋙㋜㋛㋓㋔㊚㊛・穴山〈固〉（〜村）㋟
			〈字〉	13	9	5	27	1	1	2	2	0	3	2	0	2	1	1	7	
223 ⑦−⑧	肩	ケン	③−⑧	0	0	2	2	2・1	3	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2・3	肩胛骨〈肩こう骨トモ〉㋟㊛・双肩㋙
		かた	⑦−⑧	3	4	7	14	1	1	0	1	0	2	0	0	1	1	1	5	肩（〜・〜こり・〜関節ナド）㋙㋛㋓㋟㊚㊛・肩幅㋟㊛・肩当て（〜・〜布ナド）㊛・肩先㊛・肩代わり㋙など
			〈字〉	3	4	9	16	1	1	0	1	0	2	0	0	1	1	1	5	
224 ②−⑤	軒	ケン	⑥−⑧	6	2	1	9	1	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	軒〈助数詞〉㋙・一軒家㋙・益軒〈固〉㋛・文楽軒〈固〉㋔
		のき	①−⑤	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	軒㋙㋛
			〈字〉	6	2	2	10	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋩－㊫	漢字	音訓	読 ㋩－㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
225	堅	ケン	②－⑧	0	2	3	5	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	3	2・3	堅牢～(度)㋕・堅固㊁・堅持㋛・
⓪－⑤		かたい	①－⑧	1	9	7	17	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	堅い(～・～雪・～木・～塩ナド)㊁㋛・堅苦しい㊁
			〈字〉	1	11	10	22	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
226	圏	ケン	⑤－⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	圏(首都～・共産～・成層～ナド)㊁㋛㋥
①－⑧			〈字〉	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
227	献	ケン	⓪－⑧	0	6	4	10	2	2	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	貢献㊁㋛㋗・文献㊁・献身㊁㋛・献じる㊁
⓪－⑥		コン	②－⑧	2	5	0	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1・2	献立(～・～表ナド)㊁㋕
			〈字〉	2	11	4	17	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	3・4	
228	遣	ケン	⑤－⑧	0	0	9	9	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	派遣(～・軍艦～)㊁㋛・遣唐使㊁㋛・遣随使㋛・遣欧(～使節)㋛
⓪－⑥			〈字〉	0	0	9	9	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
229	倹	ケン	⑥－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	倹約㋛
1－⑤			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
230	賢	ケン	②－⑧	7	6	1	14	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	賢明㊁㋓・賢人㊁・賢治〈固〉㊁
①－④		かしこい	⓪－⑧	0	6	3	9	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	賢い(～・～さ)㊁㋓
			〈字〉	7	12	4	23	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	
231	剣	ケン	⑧－⑧	0	0	2	2	1	3	0	2	0	0	0	0	1	1	0	4・3	剣道㋗・真剣㊁㋗・剣ごて㋚・鋼剣㋛・刀剣㋛
①－⑦		つるぎ	③－⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	剣(～の舞〈固〉)㋔
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	2	0	0	3	0	1	1	0	5・4	
232	謙	ケン	①－⑧	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	謙譲㊁・謙信〈固〉㋛・惟謙〈固〉㋛
⓪－⓪			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
233	顕	ケン	④－⑧	0	0	4	4	2	3	0	3	2	0	0	2	0	2	0	5・4	顕微鏡(～・電子～ナド)㋛㋥㋩㋕・顕著㊁・顕現㊁
⓪－4			〈字〉	0	0	4	4	2	3	0	3	2	0	0	2	0	2	0	5・4	
234	繭	ケン	⓪－④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－①		まゆ	⓪－⑦	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	繭㊁
			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
235	懸	ケ	③－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②－④		ケン	⑧－⑧	18	12	1	31	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	懸命(一生～)㊁
			〈字〉	18	12	1	31	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	笠懸カサカケ㋛

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
236 ⓪—③	幻	ゲン	④—⑧	0	0	3	3	2	3	0	0	3	0	3	2	0	0	0	4	幻想(~的・~交響曲〈固〉)㋙㋔㋪・幻滅㋙・幻灯(~機)㋷
		まぼろし	①—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	0	3	0	3	2	0	0	0	4	
237 ④—⑧	玄	ゲン	⑥—⑧	3	4	1	8	1	1	0	1	2	0	0	0	2	3	3	5	玄関(~・~口)㋙㋛㋷㋟㊚㊛・玄米㋙㋷・玄白〈固〉㋙㋛・信玄〈固〉㋛・利玄〈固〉㋙
			〈字〉	3	4	1	8	1	1	0	1	2	0	0	0	2	3	3	5	
238 ⓪—⑨	弦	ゲン	⑧—⑧	0	2	0	2	1	2	1	0	3	0	1	0	0	1	0	5・4	弦楽(~合奏ナド)㋔・弦㋜㋔㊚・管弦(~・~楽ナド)㋔・弦楽器(~・~群)㋔・和弦㋙・上弦㋷・正弦㋜など
		つる	②—②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	2	0	2	1	2	1	0	3	0	1	0	0	1	0	5・4	
239 ⑦—⑧	源	ゲン	⑧—⑧	4	10	48	62	1	1	0	1	2	0	3	0	2	3	1	6	光源㋷㋪㋟㊚㊛・資源(~・水産~ナド)㋛㋷㋟㊛・電源(~・~回路ナド)㋛㋷㊚㊛・源氏〈固〉(~・~物語ナド)㋙㋛など
		みなもと	④—⑧	2	5	4	11	1	1	0	2	0	0	0	2	0	3	3	4	源㋙㊚㊛・源〈固〉㋙㋛
			〈字〉	6	15	52	73	1	1	0	1	2	0	3	2	2	3	1	7	
240 ④—⑧	呼	コ	⑤—⑧	0	4	1	5	1	2	0	2	2	0	2	0	1	0	1	5・6	呼吸(~・人工~・~器ナド)㋙㋷㋔㋟㊛・呼気㋷㋟・卑弥呼〈固〉㋛
		よぶ	⑧—⑧	0	58	38	96	1	2	0	2	0	2	3	1	3	3	0	7・6	呼ぶ(~・~び起こすナド)㋙㋛㋓㋔㋪㊚・呼びかける㋙㋪㋟・呼びすて㋙・呼び子㋙・呼び寄せる㋙など
			〈字〉	0	62	39	101	1	2	0	2	2	2	2	1	1	3	1	8	
241 ①—⑥	枯	コ	③—⑧	0	0	0	0	3・0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	枯死㊚
		かれる	③—⑧	0	3	12	15	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	枯れる(~・~れ野〈~野トモ〉・~れ草)㋙㋪・枯れ枝㋙
			〈字〉	0	3	12	15	1	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3・2	
242 ⓪—⑤	孤	コ	④—⑧	0	4	5	9	2	2	2	0	2	0	3	0	0	2	0	4	孤独(~・~感)㋙㋓㋟・孤児(~・~院)㋙㋛・孤立㋛・孤島㋛
			〈字〉	0	4	5	9	2	2	0	2	0	3	0	0	2	0	0	4	
243 ⓪—⑤	弧	コ	④—⑧	0	3	0	3	1	2	1	0	3	0	0	0	0	1	1	4	弧(~・円~・劣~・優~・~上)㋙㋜㋷㊚㊛・括弧㋜
			〈字〉	0	3	0	3	1	2	1	0	3	0	0	0	0	1	1	4	
244 ⓪—⑦	雇	コ	⓪ ⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	雇用(~・~者・完全~ナド)㋛・解雇㋛
		やとう	⓪—⑧	0	3	0	3	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	雇う(~・~入)㋙㋛・雇い人㋙・雇い主㋛・日雇い㋛
			〈字〉	0	3	0	3	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
245 ⓪—⑤	誇	コ	⓪ ⑧	1	0	3	4	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	誇張㋙・誇大㋛
		ほこる	①—⑧	0	6	5	11	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	誇る(~・~れる)㋙㋟・誇らしい(~・~らしげ)㋙・誇り㋙
			〈字〉	1	6	8	15	1	1	0	3	0	0	0	0	2	0	0	3	

㋙=国語 ㋜=数学 ㋛=社会 ㋷=理科 ㋓=英語 ㋔=音楽 ㋪=美術 ㋟=保健体育 ㊚=技術・家庭〈男子用〉 ㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋕	漢字	音訓	読 ㋑－㋕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
246	鼓	コ	㋔－㋑	9	1	4	14	1	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	鼓面㋒・鞨鼓㋒・鉦鼓(～・大～)㋒・太鼓(～・大～・小～・祭り～・火炎～)㋭㋒・鼓膜㋭⑪
⓪－④		つづみ	⓪－⑦	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	鼓(～・大～・小～)㋭
			〈字〉	9	1	9	19	1	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	
247	顧	コ	⓪－⑦	1	2	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	顧問(～・恩～・後～)㋭
⓪－④		かえりみる	⓪－⑥	0	3	2	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	顧みる㋭
			〈字〉	1	5	2	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
248	互	ゴ	㋔－㋒	0	0	8	8	1	3	1	2	1	3	0	0	2	1	1	7	相互(～・～扶助・～理解ナド)㋭㋬㋮㋰㋲㋳・交互㋭㋬㋮㋭㋲㋳㋴・互選㋲・互生⑪
①－㋒		たがい	⑤－㋒	0	0	28	28	1	3	0	2	0	2	3	3	1	0	0	6	互い〈互トモ〉(～・お～)㋭㋬㋳㋴㋵㋷
			〈字〉	0	0	36	36	1	3	1	2	1	2	3	3	1	1	1	9	
249	呉	ゴ	⑥－㋒	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	呉服(～・～屋・～店)㋲
①－⑦			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	呉クレ〈固〉㋲
250	娯	ゴ	⑤－㋒	4	5	0	9	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	娯楽(～・～的・～番組・～施設)㋭㋲㋷
⓪－③			〈字〉	4	5	0	9	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	
251	悟	ゴ	⑥－㋒	0	4	4	8	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	覚悟㋭㋲
①－㋒		さとる	⓪－㋒	0	4	3	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	悟る㋭・悟り㋭
			〈字〉	0	8	7	15	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
252	御	ゴ	⑥－㋒	10	25	30	65	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3・2	御(～主人・～住所・～迷惑ナド)㋭㋯・御飯㋭・御殿㋭・御所㋲・御家人㋲・御成敗式目〈固〉㋲
②－⑤		ギョ	①－③	12	0	3	15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	制御(～・自動～装置ナド)㋮㋰・御者㋲・御意㋭・御馬㋭・渡御(海上～)㋭
		おん	⓪－⑤	0	4	5	9	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	御(～物怪ナド)㋭㋲・御曹子㋭・御中㋭
			〈字〉	22	29	38	89	1	1	0	1	2	0	2	0	0	1	3	5	御オ(～田植祭・公事方～定書)㋲㋴・御前崎 オマエザキ〈固〉⑪
253	碁	ゴ	㋔－㋒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
①－⑤			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
254	孔	コウ	③－㋒	0	0	18	18	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	気孔⑪・孔辺(～細胞)⑪・孔子〈固〉(～・～廟大成殿)㋭㋲
③－㋒			〈字〉	0	0	18	18	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
255	功	コウ	③－㋒	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	3	3・4	技巧(～・～的)㋲㋴㋬・巧妙㋭
⓪－⑦		たくみ	①－⑦	0	2	2	4	2	2	0	0	0	0	3	2	0	0	0	3	巧み㋭㋴㋵
			〈字〉	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	3	2	0	0	3	4・5	

漢字番号 書(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
256 ⑥−⑧	甲	カン コウ	②−⑧	6	0	11	17	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	甲板㋙
			⑧−⑧	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	2	1	1	5	甲(〜・〜個ナド)㋜㋛㋷ ㊚㊛・甲状せん㋷㋟・甲骨(〜文字)㋛・甲皮㋷・甲府〈固〉(〜・〜盆地)㋛・ L甲州〈固〉(〜街道ナド)
			〈字〉	6	1	11	18	1	1	1	1	1	0	0	0	2	1	1	6	甲斐カイ(生き〜)㋙
257 ⑤−⑧	江	コウ え	⑧−⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	江上㋙・揚子〈固〉(〜江・〜上流・〜流域)㋛・江蘇〈固〉(〜島)㋛・鴨緑〈固〉(〜江)㋛・江東〈固〉(〜地区)㋛
			⑧−⑧	4	4	20	28	1	1	3	1	1	0	1	2	0	0	0	6	江戸〈固〉(〜・〜時代・〜川ナド)㋙㋜㋛㋷㋔㋪・江差〈固〉(〜；〜追分ナド)㋔・江㋛・入り江㋛㋷・中 L江〈固〉㋛など
			〈字〉	4	4	27	35	1	1	3	1	1	0	1	2	0	0	0	6	近江オウミ〈固〉(〜・〜八景ナド)㋙㋛㋷・珠江チュー川〈固〉㋛
258 ④−⑧	好	コウ このむ すく	⑤−⑧	1	4	6	11	1	1	0	2	0	0	0	2	2	3	3	5	好感㋙㋪・好転㋛㋟・好意㋙・友好(〜・〜関係)㋛㋟・愛好(〜・〜者・〜家)㋙㋟・良好㋙㋟(男)(女) Lなど
			③−⑧	4	5	7	16	1	1	0	2	1	1	3	2	0	0	3	6・7	好む㋙㋛㋷㋓㋔㋪(女)・好み㋙(女)・好ましい㋙(女)
			⑦−⑧	28	20	5	53	1	1	0	0	0	2	0	3	1	0	0	4	好く㋙・好き(〜・大〜・遊び〜ナド)㋙㋓㋪㋟
			〈字〉	33	29	18	80	1	1	0	2	1	1	3	2	2	3	3	8	好夫ヨシオ〈固〉㋟
259 ①−⑧	抗	コウ	⑦−⑧	3	7	8	18	1	1	2	2	2	0	0	0	1	3	1	6	対抗(〜・学級〜ナド)㋙㋛㋟・抵抗(〜・〜器・〜力・路面〜ナド)㋙㋜㋛㋷㋟ ㊚㊛・抗生(〜物質) L㋷㋟など
			〈字〉	3	7	8	18	1	1	2	2	2	0	0	0	1	3	1	6	
260 ②−①	坑	コウ	⑧−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	3	0	0	3	坑夫㋟・坑内(〜・〜労働)㋛・坑木㋛・坑道㋛㋷・立坑㋛・炭坑㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	3	0	0	3	
261 ⓪−③	攻	コウ せめる	⑤−⑧	0	4	2	6	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	攻撃(〜・反対〜ナド)㋙㋛㋟・専攻㋙・進攻㋛
			③−⑧	0	6	3	9	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	攻める(〜・めいるナド)㋙㋛・攻めよせる㋛
			〈字〉	0	10	5	15	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	
262 ①−⑥	更	コウ さらに	②−⑧	2	0	9	11	1	1	0	3	1	0	0	0	2	3	2	5	更衣(〜室)㋟・更生(女)・変更㋙㋛㋷(男)・更新㋛
			⓪−⑦	0	0	4	4	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	更に㋙㋛・更紗㋛・木更津〈固〉㋛・更級日記〈固〉㋙
			〈字〉	2	0	13	15	1	1	0	1	1	0	0	0	2	3	2	5	
263 ①−⑤	恒	コウ	③−⑧	0	0	0	0	2	0	2	3	2	0	0	0	0	0	0	3	恒星㋜㋷・恒等式㋜・恒久㋛・恒春〈固〉㋷
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	2	3	2	0	0	0	0	0	0	3	
264 ⓪−①	拘	コウ	⓪−⑤	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	拘束(〜・奴隷的〜)㋛・拘禁㋛・拘留㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
265 ⓪−⑤	肯	コウ	⓪−⑧	0	0	3	3	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	肯定(〜・〜文)㋙㋓
			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋐－㋓	漢字	音訓	読 ㋐－㋓	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
266	荒	コウ	④－⑧	6	2	4	12	1	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	荒野㋒・荒涼㋒・荒廃㋒・国荒(～国録〈固〉)㋒・荒城(～の月〈固〉)㋓
②－⑦		あらい	④－⑧	5	4	6	15	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3・4	荒い(～・～とぎ)㋒㋐・荒けずり㋐・荒と㋐・荒海㋒・荒らす〈荒すトモ〉(～・食い～)㋒㋐荒川〈固〉L(～・～放水路)㋒㊀など
		あれる	⑦－⑧	0	3	17	20	1	2	0	1	0	3	1	0	0	0	1	4・5	荒れる(～・～れ狂う・～れ模様ナド)㋒㋓㋔㋓㋐・荒れ地〈荒地トモ〉㋓
			〈字〉	11	9	27	47	1	1	0	1	1	3	1	0	0	0	1	5・6	
267	郊	コウ	⑧－⑧	2	3	5	10	1	1	0	1	0	2	3	0	0	0	3	4・5	郊外(～・～電車)㋒㋓㋔㋐・近郊(～・農業ナド)㋒㋓・東郊㋒
④－⑧			〈字〉	2	3	5	10	1	1	0	1	0	2	3	0	0	0	3	4・5	
268	降	コウ	③－⑧	0	3	5	8	1	2	0	1	2	0	0	0	2	1	0	5・4	昇降(～・～台ナド)㋒㋑・降伏(～・～文書ナド)㋒㋓・降参㋒・降水量(～・月平均～ナド)㋓㋑・以L降㋓㋐など
②－⑥		おりる	7－⑧	0	14	46	60	2	2	3	0	0	0	0	0	2	0	0	3	降りる(～・乗り～り・ころげ～ナド)㋒㋔㋐・降ろす(～・引きずり～)㋑・飛び降りる㋒・降り立つ㋒
		ふる	⑦－⑧	0	13	28	41	1・2	2	0	0	0	3	2	0	0	1	0	4・3	降る(～・～りやむ・土砂～りナド)㋒㋔㋐㋑・降りしきる㋒・降り注ぐ㋒・降り積もる㋒
			〈字〉	0	30	79	109	1	2	3	1	2	3	2	0	2	1	0	8・7	
269	香	コウ	⑦－⑧	0	2	8	10	2	2	0	2	3	0	0	0	0	0	3	3・4	香しん料㋐・香料㋒㋑㋐・香気㋒・香水㋒・香香(～・蚊とり～)㋒㋑・芳香㋑・香炉〈固〉(～峰)㋒
②－⑤		か	②－⑦	0	2	11	13	1	2	0	1	1	0	1	0	0	0	0	4	L・香西〈固〉㋒ 香㋒・香具〈固〉(～山)㋒・香川〈固〉(～県)㋒㋑㋔
			〈字〉	0	4	21	25	1	2	0	1	1	0	1	0	0	0	3	4・5	香りカオ㋔・香しカンパ㋒・香港 ホンコン〈固〉㋑
270	候	コウ	⑧－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	候㋒・諸候㋓
⑨－③			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
271	貢	コウ	②－⑧	0	3	2	5	2	2	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	貢献㋒㋓㋐・貢税㋒・貢租㋓
⑨－⑥			〈字〉	0	3	2	5	2	2	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	年貢ネング(～・～米ナド)㋓
272	紅	ク	⑨－⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑤－⑧		コウ	⑧－⑧	0	6	1	7	2・1	2	0	2	2	0	0	0	0	0	1	3・4	鮮紅色㋑㋐・紅茶(～・～ぢゃわん)㋒㋐・紅潮㋒・紅白(～リレー)㋒・紅炎㋑・紅葉(～・尾崎～L〈固〉)㋒㋓など
		くれない	①－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		べに	⑥－⑧	0	2	1	3	2・1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1・2	紅しょうが㋐・食紅㋐・紅㋒
			〈字〉	0	8	4	12	2・1	2	0	2	2	0	0	0	0	0	1	3・4	紅いアカ㋒
273	控	コウ	⑨－⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	控訴㋓
⑨－④		ひかえる	④－⑦	2	1	2	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	控える㋒・控えめ㋒
			〈字〉	2	1	2	5	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
274	慌	コウ	⑨－⑤	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	恐慌(～・大～・金融～ナド)㋓
⑨－⑤			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
275	項	コウ	⑧－⑧	7	15	7	29	1	1	1	2	2	3	0	0	3	1	3	7	項目(～・検査～ナド)㋒㋓㋓㋑・項(～・内～・移・同類～ナド)㋒㋔㋑㋐・事項(～・説明～ナL ド)㋒㋔㋓㋒㋒㋑など
④－⑧			〈字〉	7	15	7	29	1	1	1	2	2	3	0	0	3	1	3	7	

漢字番号 書(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
276 ⓪−⑤	絞	ウ	③−⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		しぼる	⓪−④	0	0	0	0	3·0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	絞る(〜・〜り弁)㊚
		しめる	②−⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	3·0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	
277 ⓪−⑦	硬	コウ	④−⑧	0	2	0	2	1	2	0	0	1	2	0	0	3	1	1	5	硬化(〜・〜剤ナド)㋟㊚㊛・硬水㊛・硬度㋷・硬貨㋓・硬鋼(〜・半〜)㊚㊛・硬質(〜・〜ビニル)㋷㊚㊛・強硬㋙など
			〈字〉	0	2	0	2	1	2	0	0	1	2	0	3	3	1	6	6	硬いカタ㋪
278 ⓪−②	酵	コウ	②−⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	酵母(〜・〜菌)㋷・発酵(〜・〜作用ナド)㋷・酵素(〜・消化〜)㋷
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	
279 ①−⑧	綱	コウ	⓪−④	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	綱㋷
		つな	⑤−⑧	11	6	12	29	1	1	1	2	2	0	1	0	0	0	0	5	綱(〜・帆〜)㋙㋜㋷・綱わたり㋔・綱引き㋙・綱吉〈固〉㋛・信綱〈固〉㋙㋔
			〈字〉	11	6	12	29	1	1	1	2	2	0	1	0	0	0	0	5	
280 ①−④	稿	コウ	⑤−⑧	0	6	4	10	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	原稿㋙・投稿㋙・遺稿(〜集)㋜
			〈字〉	0	6	4	10	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
281 ①−⑥	鋼	コウ	④−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1	4	鋼鉄(〜・〜製)㋛㋪・鉄鋼(〜・〜製品ナド)㋛㊚㊛・鋼板(〜・亜鉛めっき〜ナド)㋛㊚㊛・鋼管(〜・炭素鋼〜)㊚・粗鋼㋛など
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1	4	
282 ①−②	購	コウ	⑦−⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	3	3	3	購入(〜・共同〜ナド)㋙㋛㊛・購買(〜事業・〜力)㋛
			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	3	3	3	
283 ⓪−④	衡	コウ	⓪−⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	2	2	3	0	5・4	均衡(〜・不〜)㋛㋪㊚・平衡(〜・〜性)㋙㋟・度量衡㋛
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	2	2	3	0	5・4	重衡シゲヒラ〈固〉㋛
284 ⓪−④	拷	ゴウ	①−⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	拷問㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
285 ②−⑥	剛	ゴウ	④−⑦	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	2	金剛(〜・〜砂・〜力士像)〈固〉㋛㊚㊛・金剛峰寺〈固〉㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	2	
286 ⓪−⑤	豪	ゴウ	⑥−⑧	3	0	10	13	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	豪華㋙㋛・豪傑㋙・豪胆㋙・豪快㋙・豪雨㋛・豪族㋛・豪壮㋛・白豪(〜主義)㋛・文豪㋙
			〈字〉	3	6	10	13	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
287 ⓪−⑥	克	コク	①−⑦	0	0	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	克服㋙㋛㋟
			〈字〉	0	0	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号	漢字	音訓	読	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
書㊇－㊅			㊇－㊅	1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
288	刻	コク	⑧－⑧	11	13	28	52	1	1	1	2	2	1	3	1	2	3	3	9	一刻㋔・彫刻(～・～刀ナド)㋙㋛㋪・時刻(～・～表ナド)㋙㋝㋛㋷㋓㋟㋷㋕・遅刻(～・無～)㋙㋝・深刻㋙㋛など
⓪－⑧		きざむ	②－⑧	3	2	1	6	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	刻む(～・～み込む〈～みこむトモ〉・彫り～)㋙㋔
			〈字〉	14	15	29	58	1	1	1	2	2	1	3	1	2	3	3	9	
289	酷	コク	⑦－⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	冷酷㋛・残酷㋛・酷使(～・児童～)㋛
①－③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
290	獄	ゴク	⑥－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	2	監獄㋛㋓・地獄㋛・煉獄㋛・大獄㋛・獄死㋛
⓪－③			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	2	
291	骨	コツ	④－⑧	0	2	2	4	1	2	0	2	1	0	0	1	1	1	1	6	骨格(～・～筋ナド)㋷㋪・骨折(～・～部)㋷㋟・白骨㋙・鉄骨㋷・軟骨㋷・甲骨(～文字)㋛・骨肉㋛・肩胛骨〈肩こう骨トモ〉㋖㋕・骨董(～的)㋙など
①－⑧		ほね	⑦－⑧	3	4	8	15	1	1	0	0	0	0	0	1	2	2	1	4	骨(～・腰ナド)㋙㋪㋖㋷㋕・骨組み㋪・骨折る(～・～り)㋙
			〈字〉	3	6	10	19	1	1	0	2	1	0	0	1	1	1	1	6	
292	込	こむ	⑧－⑧	1	0	57	58	1	1	1	1	0	2	1	0	0	3	0	6・5	込む(考え～・はいり～ナド)㋙㋷・折り込む㋙・飛び込む㋙・飛び込み(～・～台ナド)㋙・見込み㋙㋛など
②－⑦			〈字〉	1	0	57	58	1	1	1	1	0	2	1	0	0	3	0	6・5	
293	困	コン	⑤－⑧	2	4	9	15	1	1	2	1	0	2	0	0	1	3	0	6・5	困難(～・呼吸～ナド)㋙㋝㋛㋓㋟㋷・貧困(～・～者)㋛・困窮(生活～者)㋛
①－⑥		こまる	⑥－⑧	0	2	7	9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	困る㋙
			〈字〉	2	6	16	24	1	1	2	1	0	2	0	0	1	3	0	6・5	
294	恨	コン	⓪－⑦	0	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	痛恨㋙
⓪－⑦		うらむ	⓪－⑦	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	恨む㋙
			〈字〉	0	4	3	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
295	婚	コン	⑧－⑧	0	7	8	15	1	2	0	2	0	1	1	0	0	0	3	4・5	結婚(～・～式・～生活)㋙㋛㋓㋔・冠婚葬祭㋕・新婚(～・～旅行・～夫婦ナド)㋙・婚姻㋛・未婚㋙㋓など
①－⑦			〈字〉	0	7	8	15	1	2	0	2	0	1	1	0	0	0	3	4・5	
296	紺	コン	③－⑧	1	0	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	紺(～・～色)㋙㋕・紺青㋙・紫紺(～色)㋙
⓪－⑥			〈字〉	1	0	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	
297	魂	コン	①－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－⑥		たましい	②－⑧	0	12	0	12	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	魂㋙㋛
			〈字〉	0	12	0	12	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
298	墾	コン	⓪－⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	開墾(～・機械～)㋛
⓪－③			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
299	懇	コン	⓪－⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	懇意㋙
⓪－①			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	懇ネンゴロ㋛

漢字番号 書㋐−㋫	漢字	音訓	読 ㋐−㋫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
300 ⑤−⑦	佐	サ	⑧−⑧	0	9	5	14	1	2	0	1	1	0	1	0	1	0	0	5	補佐(〜役)㋛・佐々木〈固〉㋙㋔㋟・佐藤〈固〉㋙・土佐〈固〉(〜・〜藩・〜日記・〜湾ナド)㋛・佐渡〈固〉
			〈字〉	0	9	5	14	1	2	0	1	1	0	1	0	1	0	0	5	└(〜・〜島・〜おけさ)㋙㋛㋷㋔ など
301 ⑦−⑧	砂	サ	⑧−⑧	0	17	3	20	1	2	0	1	2	0	0	3	0	0	0	4	砂糖(〜・〜入れ・〜溶液ナド)㋙㋛㋷㋪・砂丘(〜・〜地帯)㋙㋛・防砂(〜・〜林・〜柵)㋛・砂のう㋷ └など
		シャ	⑧−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	2	2・3	金剛砂(〜と)(女)・土砂㋛㋷
		すな	⑧−⑧	0	9	4	13	1	2	0	1	2	0	0	0	2	0	2	4・5	砂(〜・〜ほこりナド)㋙㋛㋷㋟㊛・砂山㋙・砂場㋟・砂浜㋙㋛㋷・砂粒㋙㋷など
			〈字〉	0	26	7	33	1	2	0	1	2	0	0	3	2	0	2	5・6	高砂タカサゴ〈固〉㋛
302 ⓪−③	唆	サ	⓪−⑦	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	示唆(〜・〜的表現)㋙㋛
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
303 ⓪−⑥	詐	サ	②−⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	詐欺(〜・〜行為)㋙
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
304 ⓪−⑥	鎖	サ	⑤−⑧	0	0	5	5	1	3	1	1	2	0	0	2	2	1	1	7	鎖国(〜・〜令ナド)㋙㋛㋪・鎖骨㋷・封鎖(〜・経済〜)㋛・連鎖(〜反応)㋷・鎖線(〜・一点〜ナド) └㋜㊚㊛ など
		くさり	①−⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	鎖㋙
			〈字〉	0	2	5	7	1	2	1	1	2	0	0	2	2	1	1	7	鎖すトザ㋛
305 ⓪−⑧	座	ザ	⑧−⑧	3	7	43	53	1	1	2	1	3	3	1	3	2	1	2	9	星座㋷㋔・座(〜・こと〜・船〜・魚〜ナド)㋙㋛㋷・座する㋙・座標(〜・〜軸・横〜ナド)㋜・一座㋙・
			〈字〉	3	7	43	53	1	1	2	1	3	3	1	3	2	1	2	9	└座金㊚㊛・座席㋙㋓など
306 ⓪−⑥	砕	サイ	⓪−③	0	0	0	0	3・0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	粉砕(〜機)㊚・砕土(〜・〜性能・〜機ナド)㊚
		くだく	⓪−⑥	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	砕く㋙・砕ける(〜・〜けかかる)㋙
			〈字〉	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	
307 ⓪−①	宰	サイ	⓪−⑦	0	1	2	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	宰相(〜・平民〜)㋙㋛・主宰㋙㋛・大宰府〈固〉㋛
			〈字〉	0	1	2	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
308 2−⑥	栽	サイ	⑧−⑧	0	0	2	2	1	3	3	1	2	0	0	0	0	1	2	5	栽培(〜・〜技術・移植〜ナド)㋙㋛㋷㊚㊛・境栽(〜花だん)㊚・栽植(〜密度)・盆栽㋛
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	3	1	2	0	0	0	0	1	2	5	
309 ⓪−④	彩	サイ	④−⑧	0	6	9	15	1	2	0	1	3	0	0	1	0	3	2	5	彩度(〜・〜差・〜関係ナド)㋪・彩色(〜・有〜・無〜)㋙㋪・色彩(〜・〜効果)㋙㋛㋪㊚㊛・多彩
			〈字〉	0	6	9	15	1	2	0	1	3	0	0	1	0	3	2	5	└㋙㋪・生彩㋙など
310 ⓪−⑤	斎	サイ	⑥−⑧	3	2	6	11	1	1	0	2	0	2	2	2	2	0	0	6	書斎㋛㋓㋟・北斎〈固〉㋙㋛㋪・斎院㋙・斎藤〈固〉㋙㋛・六斎〈固〉(〜念仏おどり)㋔など
			〈字〉	3	2	6	11	1	1	0	2	0	2	2	2	2	0	0	6	
311 ④−④	裁	サイ	⑧−⑧	0	2	1	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	3	1	3	裁縫(〜・〜用具ナド)㊚㊛・裁判(〜・〜官・最高〜所ナド)㋛・総裁㋛・独裁(〜的ナド)㋛・仲裁 └(〜・〜裁判)㋛など
		たつ	①−⑥	0	0	0	0	0・1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0・1	裁つ(〜・〜ち方・〜ち目ナド)㊛・裁ち切る(〜・〜りたけナド㊛
			〈字〉	0	2	1	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	3	1	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊇－㊥	漢字	音訓	読 ㊇－㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
312	催	サイ	②－⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	3	0	3	0	0	4	開催(～・～地・～年)㋛㋟・主催㋙㋛㋟・催馬楽㋔
⓪－④		もよおす	⓪－⑧	0	8	4	12	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	催す㋙・催し㋙㋟
			〈字〉	0	8	6	14	1	2	0	2	0	0	3	0	1	0	0	4	
313	債	サイ	⓪－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	公債(～・～証書)㋛・国債(～・～費)㋛・社債㋛・地方債㋛・外債㋛・債務(～・～負担)㋛
⓪－⑥			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
314	載	サイ	④－⑧	1	0	0	1	1	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	3	掲載㋙㋷・記載㋛
⓪－④		のせる	⓪－⑧	0	1	5	6	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	載せる㋙㋓・載る㋙
			〈字〉	1	1	5	7	1	1	0	3	1	3	0	0	0	0	0	4	
315	歳	サイ	⑤－⑧	5	6	1	12	1	1	0	1	0	0	1	0	2	0	1	4・5	歳〈年齢〉㋙㋛㋔㋟㊛・歳月㋙・歳役㋛・歳費㋛・歳入㋛・歳出㋛
⓪－③		セイ	③－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	5	6	1	12	1	1	0	1	0	0	1	0	2	0	1	4・5	千歳 チトセ〈固〉(～高校)㋛
316	剤	ザイ	⑧－⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	薬剤(～・～師)㋟㊚㊛・溶剤㊚㊛・洗剤(～・～液ナド)㋷㊛・剤(覚せい～・ホルモン～・乾燥～・殺虫～ナド)㋙㋛㋷㋟㊚㊛
①－⑥			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	
317	削	サク	⓪－⑦	0	0	0	0	2・0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1・0	切削(～・～盤ナド)㊚・研削㊚・旋削(軸～作業ナド)㊚
⓪－⑤		けずる	⓪－⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	削る㋙
			〈字〉	0	0	3	3	2・3	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2・1	
318	索	サク	④－⑧	19	4	3	26	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	思索㋙㋜・捜索㋛・索引(～・部首～・音訓～ナド)㋙
⓪－②			〈字〉	19	4	3	26	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
319	酢	サク	②－⑧	0	0	0	0	1・2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	2	酢酸(～・希～・氷～ナド)㋷㊚㊛
⓪－⑧		す	④－⑧	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2・3	酢(～・合わせ～・～味・甘～・～づけ)㋙㋷㊛・酢の物㊛
			〈字〉	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	2	3	
320	錯	サク	③－⑧	0	0	3	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	錯覚㋙㋜
⓪－⑧			〈字〉	0	0	3	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
321	搾	サク	①－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－①			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
322	咲	さく	⑧－⑧	14	12	24	50	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	咲く(～・～きみだれる・～きいづナド)㋙㋪
⑤－⑧			〈字〉	14	12	24	50	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
323	冊	サツ	⑥－⑧	2	4	2	8	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	冊〈助数詞〉㋙㋜
④－⑥			〈字〉	2	4	2	8	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	

漢字番号 書㊇−㊄	漢字	音訓	読 ㊇−㊄	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
324 ③−⑤	札	サツ	⑥−⑧	0	0	4	4	1	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4	落札㋛・札(…円〜ナド)㋜㋛・札幌〈固〉(〜・〜駅・〜市ナド)㋙㋛㋷
		ふだ	⑦−⑦	0	2	4	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	札(〜・お〜ナド)㋙㋛・立て札㋙・荷札㋙
			〈字〉	0	2	8	10	1	2	1	1	2	0	1	0	0	0	0	5	真札生マレオ〈固〉〈札ノ誤リ〉㋔
325 ⓪−⑤	擦	サツ	③−⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	2・1	摩擦(〜・〜力・〜部分ナド)㋷㊚
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	2・1	
326 ⓪−③	撮	サツ	⑤−⑧	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	0	3	0	0	4	撮影(〜・写真〜・間接〜ナド)㋙㋷㋟
			〈字〉	0	1	0	1	1	2	0	1	3	3	0	0	3	0	0	5	撮るト㋓
327 ⓪−⑦	惨	サン	⑤−⑧	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	悲惨㋙㋛・惨禍㋛・惨害㋛・陰惨㋙
			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
328 ⓪−③	暫	ザン	⓪−⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
329 ⓪−⑦	旨	シ	①−⑧	11	27	26	64	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	趣旨(〜・御〜)㋙㋛・本旨㋛・論旨㋙・要旨㋙・綸旨リンジ(謀〜)㋛
		むね	⓪−①	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	旨㋛
			〈字〉	11	27	26	64	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
330 ⓪−④	伺	シ	②−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		うかがう	⓪−⑥	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	伺う㋙
			〈字〉	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
331 ⑧−⑧	枝	シ	③−⑦	0	0	5	5	1	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3・2	主枝㊚・枝条(〜架)㋛・一枝㋙
		えだ	⑧−⑧	6	3	18	27	1	1	0	1	1	0	3	1	0	0	3	5・6	枝(〜・小〜・〜分かれナド)㋙㋛㋷㋔㋪㊛・蔀枝〈固〉㋛・枯れ枝㋙
			〈字〉	6	3	23	32	1	1	0	1	1	0	3	1	0	1	3	6	枝盛エモリ〈固〉㋛
332 ⓪−⑤	刺	シ	③−⑧	5	0	0	5	1	1	0	2	2	0	0	3	0	0	3	4・5	風刺(〜・〜画)㋙㋛㋔・刺激〈刺げきトモ〉(〜・〜性ナド)㋙㋛㋷㊛
		さす	⑤−⑧	0	6	1	7	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	刺す㋙・突き刺り㋙㋓・刺さる㋙
			〈字〉	5	6	1	12	1	1	0	2	2	3	0	3	0	0	3	5・6	
333 ④−⑧	姿	シ	⑤−⑧	0	2	4	6	2・1	2	0	0	0	0	3	2	2	2	1	5	姿勢(〜・正常〜ナド)㋙㋔㋪㋟㊚㊛・姿態㋙・容姿㋙
		すがた	⑧−⑧	23	37	40	100	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2	3・4	姿(〜・船頭〜ナド)㋙㋛㋪・姿見(〜台)㊛
			〈字〉	23	39	44	106	1	1	0	1	0	0	3	1	2	2	1	6	
334 ②−⑦	祉	シ	⑥−⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	福祉(〜・社会〜・〜施設ナド)㋙㋛㋟
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
335 ①—⑥	施	シ	⑤—⑧	0	9	8	17	1	2	0	1	0	0	0	3	1	1	1	5	施設(～・運動～ナド)㋛㋪㋟㊚㊛・実施(～・～者ナド)㋙㋛㋟㊚・施行㋙㋛・施政(～権)㋛
		セ	⓪—④	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3・2	施肥(～・～量・～時期ナド)㊚・施薬(～院)㋛・布施㋙㋛
		ほどこす	⓪—⑧	0	4	8	12	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	施す㋙㊚
			〈字〉	0	13	17	30	1	2	0	1	0	0	0	3	1	1	1	5	
336 ⓪—⑦	脂	シ	⑦—⑧	0	5	0	5	1	2	0	3	1	0	0	0	1	1	1	5	脂肪(～・皮下～・～体ナド)㋙㋷㋟㊛・油脂(～・～類)㋷㋟㊛・脱脂(～綿・～粉乳ナド)㋷㊛・
			〈字〉	0	5	0	5	1	2	0	3	1	0	0	0	1	1	1	5	└樹脂(～・天然～・～加工ナド)㋙㋷㊚㊛など
337 ⓪—⑥	紫	シ	⑧—⑧	0	2	2	4	1	2	0	1	3	0	0	0	2	3	3	5	紫外線㋙㋷㋟㊚㊛・紫紺(～色)㋙・筑紫〈固〉(～山地・～平野)㋙㋛㋷
		むらさき	⑦—⑧	3	7	37	47	1	1	0	2	2	0	0	0	2	3	3	5	紫(～・～色・青～・赤～・うす～色ナド)㋙㋷㋟㊚㊛・紫式部〈固〉(～・～日記)㋙㋛・紫の上〈紫上ト
			〈字〉	3	9	39	51	1	1	0	1	2	0	0	0	2	3	3	5	└モ〉〈固〉㋙など
338 ⓪—③	嗣	シ	①—⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
339 ⑥—⑧	飼	シ	④—⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	飼料(～・～作物)㋙㋛㋷・飼育㋷
		かう	⑧—⑧	12	8	4	24	1	1	0	1	0	2	0	1	2	0	0	5	飼う(～・～いならす・放し～い・羊～いナド)㋙㋛㋓㋪・猪飼〈固〉㋟
			〈字〉	12	8	7	27	1	1	0	1	3	2	0	1	2	0	0	6	
340 ⓪—③	雌	シ	⓪—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	雌㋷
		め	①—⑧	0	0	2	2	2	3	0	3	0	0	3	2	0	0	0	030	雌花㋷・雌牛㋙㋓
		めす	①—⑧	8	0	0	8	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	雌㋙㋷
			〈字〉	8	0	2	10	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	3	
341 ⑥—⑧	誌	シ	⑧—⑧	29	4	10	43	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	雑誌(～・～社・～記事ナド)㋙㋜㋛・日誌(航海～)㋛・誌(郷土～・週刊誌ナド)㋙㋛
			〈字〉	29	4	10	43	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	
342 ⓪—⓪	賜	シ	⓪—①	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	賜与㋛
		たまわる	⓪—⑥	0	2	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	賜物㋙・賜わる㋙
			〈字〉	0	2	1	3	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
343 ⓪—③	諮	シ	①—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
344 ③—⑦	侍	ジ	②—⑧	13	0	7	20	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	侍女㋙・侍従(～・～大納言)㋙
		さむらい	②—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	侍㋙・侍所㋛
			〈字〉	13	0	10	23	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
345	慈	シ	②—⑧	0	6	0	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	慈悲㋛・慈善㋛・慈愛㋙・慈円〈固〉㋛・慈照寺〈固〉㋛
⓪—⑤			〈字〉	0	6	0	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
346	滋	ジ	⑥—⑧	0	2	3	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	滋味㋙
①—③			〈字〉	1	4	4	9	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	滋賀シガ〈固〉(〜県)㋙㋛
347	磁	ジ	⑥—⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	2	0	2	1	5	磁器(〜・陶〜ナド)㋛㋷㋪㊚㊛・磁界(〜・回転〜ナド)㋷㊚㊛・磁石(〜・永久〜・電〜ナド)㋷㊚㊛・磁気(〜・地〜)㋙㋛など
②—⑦			〈字〉	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	2	0	2	1	5	
348	璽	ジ	⓪—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—⓪			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
349	軸	ジク	④—⑧	2	0	0	2	1	1	1	2	2	0	0	0	2	1	1	6	軸(〜・回転〜・〜心・座標〜ナド)㋙㋜㋷㋗㊚㊛・車軸(〜・車軸(〜・〜油ナド)㋷㊚・地軸㋷
②—⑧			〈字〉	2	0	0	2	1	1	1	2	2	0	0	0	2	1	1	6	
350	疾	シツ	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	疾病㋛
⓪—①			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
351	執	シツ	①—⑧	1	2	2	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	執権㋛・執政㋛・執行(〜・〜猶予・〜機関)㋛・執筆㋙・固執㋙
⓪—⑤		シュウ	⓪—④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		とる	⓪—②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	1	2	2	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
352	漆	シツ	⓪—⑦	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1・2	漆器(〜・〜素地材)㋛㊛
⓪—④		うるし	②—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1・2	
353	湿	シツ	⑤—⑧	20	0	0	20	1	1	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	湿度(〜・平均〜・〜計ナド)㋙㋷㋗㊚㊛・湿気㋙㋛㋷㋗㊚㊛・湿地(〜・〜帯)㋛㋷㊚・吸湿(〜性)㊛など
⑤—⑧		しめる	①—⑧	3	0	0	3	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	湿る㋙㋷・湿す㋙
			〈字〉	23	0	0	23	1	1	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	
354	芝	しば	⑦—⑧	4	2	3	9	1	1	0	0	0	2	3	0	2	0	0	4	芝居(〜・人形〜・〜小屋・紙〜ナド)㋙㋔・芝刈(〜機)㋓・芝浦〈固〉㋗
⑥—⑧			〈字〉	4	2	3	9	1	1	0	0	0	2	3	0	2	0	0	4	
355	射	シャ	⑧—⑧	0	23	2	25	1	2	3	2	2	0	1	3	2	1	1	8	射撃(〜・〜大会)㋛㋔・日射(〜・〜量・〜病)㋷㋗・反射(〜・〜光線・〜型ナド)㋙㋷㋪㋗㊚㊛・注射(〜・予防〜・〜器)㋷㋗など
②—⑦		いる	①—⑤	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	射る㋙㋛
			〈字〉	0	23	4	27	1	2	3	2	2	0	1	3	2	1	1	8	
356	赦	シャ	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	大赦㋛・特赦㋛
⓪—⓪			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋗=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	書 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
357 ⓪—⑥	捨	シャ	④—⑧	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	四捨五入㋜
		すてる	④—⑧	0	10	11	21	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	捨てる(〜・打ち〜・ごみ〜て場)㋙・見捨てる㋙・言い捨てる㋙・切り捨てる㋜・捨吉〈固〉㋙
			〈字〉	0	10	11	12	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
358 ③—⑧	斜	シャ	⑧—⑧	3	2	7	12	1	1	1	1	2	1	0	0	2	1	1	7	斜線㋜㊚㊛・傾斜(〜・急〜・〜地ナド)㋙㋜㋛㋷㊚㊛・斜面(〜・〜上ナド)㋙㋜㋛㋷㊚・斜体㋓など
		ななめ	④—⑧	0	6	1	7	1	2	1	1	0	0	0	2	0	3	0	5・4	斜め(〜・〜写真)㋙㋜㋛㋪㊚
			〈字〉	3	8	8	19	1	1	1	1	2	1	0	2	2	1	1	8	
359 ⓪—⑥	煮	シャ	①—⑥	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	3	2・3	煮沸(〜・〜消毒・〜用容器)㋷㋟㊛
		にる	⑦—⑧	0	1	3	4	1	2	0	1	2	3	0	0	0	0	1	4・5	煮る(〜・〜かげんナド)㋙㋷㋓㊛・煮つめる㋙㋛㋷㊛・煮ほし㊛・雑煮㊛・煮出す(〜・〜しじる)㋷㊛・煮豆㊛など
			〈字〉	0	1	3	4	1	2	0	1	2	3	0	0	2	0	1	5・6	
360 ⓪—④	邪	ジャ	②—⑧	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	邪教㋛・無邪気(〜・〜さ)㋙
			〈字〉	0	0	4	4	2	3	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	邪馬台ヤマタイ〈固〉(〜㋙)㋛・風邪カゼ㋓
361 ⓪—⓪	勺	シャク	①—①	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	勺㋜
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
362 ⑤—⑧	尺	シャク	⑧—⑧	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	1	0	2	1	1	6	尺八(〜・〜二重奏)㋛㋔・巻尺〈まき尺トモ・巻き尺トモ〉㋟㊚㊛・尺度㋛㋷㊚㊛・縮尺(〜・大〜ナド)㋜㋛㊚㊛・尺貫法㋜など
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	1	0	2	1	1	6	
363 ⓪—②	爵	シャク	④—⑧	2	0	0	2	1	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	伯爵(〜・〜夫人)㋙㋓・男爵(準〜)㋓・五爵㋛
			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	
364 ⑧—⑧	若	ジャク	①—⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	老若(〜男女)㋟・若年(〜労働者)㋛・若干㋙
		もしくは	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	若しくは㋛
		わかい	⑧—⑧	23	20	46	89	1	1	0	1	0	3	3	0	1	0	0	5	若い(〜・〜さ)㋙㋓㋔㋟・若し㋙㋔・若者㋙・若葉(〜・〜緑)㋙・若紫〈固〉㋙・若菜集〈固〉㋛・若い衆㋙など
			〈字〉	23	22	46	91	1	1	0	1	0	3	3	0	1	0	0	5	般若ハンニャ㋛・老若ロウニャク㋙
365 ⓪—②	寂	ジャク	⓪—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	静寂㋙
		さびしい	⓪—⑧	0	0	8	8	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	寂しい㋙㋓・寂し㋙
			〈字〉	0	0	11	11	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
366 ⓪—①	朱	シュ	③—⑧	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	朱㋛・朱子〈固〉(〜・〜学・〜学者)㋙㋛・朱印(〜・〜船ナド)㋛・朱〈金の単位〉(一〜銀)㋛
			〈字〉	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
367 ④—⑧	狩	シュ	④—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	狩猟㋛
		かり	⑦—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	1	0	0	3	0	0	0	4	狩り(〜・〜り人・刀〜りナド)㋛㋪・石狩〈固〉(〜・〜川・〜平野ナド)㋛㋷・鷹狩㋛
			〈字〉	0	0	1	1	1	3	0	1	1	0	0	2	0	0	0	4	狩野カノウ〈固〉(〜・〜派)㋛㋪

漢字番号 書㊁—㊕	漢字	音訓	読 ㊁—㊕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	教	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
368	珠	シュ	⑧—⑧	0	3	3	6	1	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	3	真珠(～・～貝・～養殖)㋙㋛㋷・胚珠㋷・珠玉(～・金銀～)㋙
⑤—⑦			〈字〉	0	3	3	6	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	有珠ウス〈固〉(～岳)㋷・珠江チュー川〈固〉㋛
369	殊	シュ	⑤—⑧	0	0	3	3	2·1	3	3	0	3	0	0	0	2	2	1	5	特殊(～・～鋼・～栄養食品ナド)㋙㋜㋷㋟㊚㊛
①—④			〈字〉	0	0	3	3	2·1	3	3	0	3	0	0	0	2	2	1	5	
370	趣	シュ	⑧—⑧	1	16	5	22	1	1	0	2	0	2	0	3	1	0	0	5	趣味(～・貴族～)㋙㋛㋓㋪㋟・趣旨㋙㋛・趣意㋛・情趣㋙
⑤—⑧		おもむき	⓪—⑥	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	趣㋙
			〈字〉	1	16	9	26	1	1	0	2	0	2	0	3	1	0	0	5	
371	儒	ジュ	⑥—⑧	0	0	9	9	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	儒教(～・原始～)㋙㋛・儒学(～・～者)㋛
②—⑤			〈字〉	0	0	9	9	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
372	寿	ジュ	⑤—⑧	3	1	0	4	1	1	0	2	0	0	3	0	3	1	3	5	長寿㋟㊛・寿命(～・平均～ナド)㋙㋟㊚㊛・寿永〈固〉㋛・福寿(～一号〈固〉)㊚・延寿太夫〈固〉㋔
⑤—⑦		ことぶき	④—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	3	1	1	5	1	1	0	2	0	0	3	0	0	1	3	5	満寿二マスジ〈固〉㋙
373	樹	ジュ	⑦—⑧	0	8	14	22	1	2	0	1	1	0	2	1	0	1	1	6	樹脂(～・～加工・合成～ナド)㋙㋛㋷㊚㊛・樹木㋙㋛㋷㋪㊚・広葉樹㋛㊚㊛・果樹(～・～園ナド)└㋙㋛㋷など
③—⑧			〈字〉	0	8	14	22	1	2	0	1	1	0	2	1	0	1	1	6	樹キ㋛・秀樹ヒデキ〈固〉㋛など
374	囚	シュウ	②—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
①—②			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
375	舟	シュウ	⑤—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	2	0	0	0	3	雪舟〈固〉㋙㋛㋪・海舟〈固〉㋙
①—⑦		ふね	⑤—⑧	0	3	30	33	1	2	0	1	0	2	3	0	0	0	0	4	舟(～・小～・助け～)㋙㋛㋓㋔・浮舟〈固〉㋙・舟人フナビト㋔
			〈字〉	0	3	32	35	1	2	0	1	0	2	3	2	0	0	0	5	
376	秀	シュウ	⑦—⑧	0	3	4	7	1	2	0	1	0	2	3	0	0	0	0	4	優秀(～・最～ナド)㋙㋓㋔・秀峰㋛・秀全〈固〉㋛・秀作〈固〉㋛
③—⑧			〈字〉	3	5	4	12	1	1	0	1	0	2	3	0	0	0	0	4	秀ホ㋙・秀吉ヒデヨシ〈固〉㋛・秀樹ヒデキ〈固〉㋙など
377	臭	シュウ	③—⑧	0	0	0	0	3·1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1・2	臭気㊛・悪臭㋷・無臭(～・無色～)㋷・臭(石油～)㊛
⓪—③		くさい	①—⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	3·1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1・2	
378	愁	シュウ	③—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	旅愁〈固〉㋔
①—⑤			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
379	酬	シュウ	⑤—⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	報酬(～・無～・物質的～)㋙㋛㋟
⓪—④			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書Ⓐ—㊫	漢字	音訓	読 Ⓐ—㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
380 ⓪—⑤	醜	シュウ	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		みにくい	⓪—⑦	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	醜い㋙
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
381 ⓪—①	襲	シュウ	③—⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	襲来(〜・蒙古〈固〉〜)㋛・来襲㋙㋛・空襲㋛・世襲㋛・夜襲㋛
		おそう	③—⑥	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	襲う(〜いかかる)㋙
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
382 ②—⑥	充	ジュウ	④—⑧	6	3	3	12	1	1	1	3	2	3	0	0	2	1	1	7	充実(〜・〜期)㋙㋛㋗㊚・充電(〜・〜電流)㋙㋷㊚・補充(〜・〜問題ナド)㋙㋜㋛㋷㋓・充満㋷・拡充㋛・充分㋛
		あてる	⓪—⓪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	6	3	3	12	1	1	1	3	2	3	0	0	2	1	1	7	充ミたす㋛
383 ⓪—⑤	柔	ジュウ	⑦—⑧	0	0	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	柔軟(〜・〜さ・〜性)㋟・柔道(〜・世界〜選手権大会)㋙㋟
		ニュウ	⓪—⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	柔突起㋷・柔和㋙
		やわらかい	①—⑧	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	柔らかい㋙
			〈字〉	0	2	7	9	1	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	
384 ②—⑤	銃	ジュウ	⑥—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	銃(空気〜・火縄〜・旋条〜)㋛㋷・小銃㋛・銃火㋙
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
385 ⓪—⑦	渋	ジュウ	⓪—②	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	難渋㋛
		しぶ	④—⑧	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	渋(〜・かき〜)㋙・渋谷〈固〉(〜駅)㋙・渋川〈固〉㋛
		しぶい	④—⑧	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	渋い㋙
			〈字〉	0	0	5	5	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
386 ①—⑤	縦	ジュウ	④—⑧	0	0	5	5	1	3	0	1	2	3	0	0	0	0	0	4	縦貫(〜・〜鉄道)㋛・縦断(〜切片・〜面)㋷・縦横㋙㋛・操縦(〜・〜士)㋙㋓
		たて	⓪—⑧	3	1	2	6	1	1	2	2	2	0	0	1	0	3	1	6	縦(〜・〜横・〜線・〜軸・〜波・〜びきナド)㋙㋜㋛㋷㋪㊚㊛
			〈字〉	3	1	7	11	1	1	2	1	2	3	0	1	0	3	1	7	
387 ⓪—④	獣	ジュウ	⑤—⑥	0	3	1	4	1	2	0	1	0	0	0	2	2	0	3	4・5	獣肉(〜・〜類)㋟・駄獣㋛・野獣(〜・〜派〈固〉)㋙㋪・鳥獣(〜・〜内・〜戯画〈固〉)㋛㋪㊛・獣㋛
		けもの	①—⑧	3	2	4	9	1	1	0	2	2	0	0	3	0	0	0	4	獣㋙㋛㋷㋪
			〈字〉	3	5	5	13	1	1	0	1	2	0	0	2	2	0	3	5・6	
388 ⓪—②	叔	シュク	②—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
389 ⓪—①	淑	シュク	①—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

漢字番号 書㊀－㊈	漢字	音訓	読 ㊀－㊈	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
390 ⓪－①	粛	シュク	①－④	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	厳粛㋒
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
391 ②－⑥	縮	シュク ちぢむ	⑧－⑧	0	3	2	5	1	2	1	1	2	0	0	3	0	1	1	6	縮小(～・軍備～ナド)㋐㋑㋒㋓・縮尺(～・水平～ナド)㋐㋒㋖㋘・圧縮(～・～比ナド)㋑㋖㋘・伸縮L(～・～性ナド)㋘など
			②－⑧	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	縮む㋓・縮める㋓・縮まる㋓
			〈字〉	0	3	8	11	1	2	1	1	2	0	0	3	0	1	1	6	
392 ⓪－⑤	熟	ジュク	⑤－⑧	0	2	10	12	1	2	0	3	2	0	0	2	1	1	1	6	熟す㋓㋑㋔㋖・熟練(～・未～)㋓㋒㋖㋗・成熟(～・～期)㋑㋗・熟睡㋐・熟語㋓・半熟(～・～卵)L㋘など
			〈字〉	0	2	10	12	1	2	0	3	0	0	2	1	1	1		6	
393 ⓪－①	俊	シュン	②－⑦	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	俊敏㋓
			〈字〉	0	3	3	6	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	俊成トシナリ〈固〉㋓・俊子トシコ〈固〉㋕など
394 ⓪－⑥	瞬	シュン	①－⑧	3	6	10	19	1	1	0	3	3	0	0	0	0	3	3	4	瞬間(～・～的)㋓㋑㋗㋖・・・瞬(～・～間)㋓㋒㋗
			〈字〉	3	6	10	19	1	1	0	3	3	0	0	0	0	3	3	4	
395 ③－⑥	旬	ジュン	⑥－⑧	9	0	0	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	上旬㋓㋗・中旬㋒・下旬㋓㋗・初旬㋓
			〈字〉	9	0	0	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	
396 ②－⑧	巡	ジュン めぐる	⑤－⑧	0	0	7	7	1	3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	巡回㋐・巡礼㋐・巡視㋒
			⓪－⑧	0	0	11	11	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	巡る㋓・張り巡らす㋓
			〈字〉	0	0	18	18	1	3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	
397 ⓪－⑥	盾	ジュン	⓪－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	14	0	14	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	盾タテ㋒
398 ⓪－③	殉	ジュン	⓪－⑦	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	殉死(～者)㋐・殉教(～者)㋓
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
399 ⓪－②	准	ジュン	⓪－⑧	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	批准(～・～数・～書・～交換)㋓㋐
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
400 ⓪－③	循	ジュン	①－⑧	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	1	0	0	3	循環(～・～器・腸～ナド)㋐㋑㋒
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	1	0	0	3	
401 ⓪－④	潤	シュン	⓪－⑧	0	0	5	5	2・3	3	0	3	0	0	0	0	0	2	0	3・2	潤滑(～・～油・～作用ナド)㋗・利潤(～・～率ナド)㋒・潤一郎〈固〉㋓
		うるおう	⓪－⑤	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	潤う㋓・潤い㋓
			〈字〉	0	0	8	8	2・3	3	0	3	0	0	0	0	0	2	0	3・2	
402 ⓪－①	遵	ジュン	⓪－②	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	遵守㋒
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	

㋐＝国語　㋑＝数学　㋒＝社会　㋓＝理科　㋔＝英語　㋕＝音楽　㋖＝美術　㋗＝保健体育　㋘＝技術・家庭〈男子用〉　㋙＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
403 ⓪—④	庶	ショ	②—⑧	1	2	6	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	庶民(～・～階級ナド)㋙㋛・庶務(～課)㋛
			〈字〉	1	2	6	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
404 ③—④	署	ショ	⑧—⑧	0	2	2	4	1	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	署(消防～・税務～・警察～ナド)㋙㋛㋟・署名(～・～入り・～運動)㋙㋛
			〈字〉	0	2	2	4	1	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	
405 ⓪—②	緒	ショ	⑤—⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	情緒㋟
		お	⓪—③	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	緒園 オゾノ〈固〉㋔
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	
406 ⓪—⑤	如	ジョ	⓪—⑦	0	0	9	9	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	突如㋙・欠如㋙・躍如㋙
		ニョ	③—⑧	1	0	8	9	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	不如意㋙・如意輪(～観音〈固〉)㋙㋜・如来(薬師～〈固〉㋙・如是閑〈固〉(～・～全集)・信如〈固〉㋙・真如(～堂〈固〉)㋛
			〈字〉	1	0	17	18	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	如何 イカン㋛
407 ②—⑤	徐	ジョ	⑤—⑧	0	3	2	5	1	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	3・2	徐走㋟・徐行(～違反)㋟・徐々㋙㊚
			〈字〉	0	3	2	5	1	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	3・2	
408 ⓪—⑤	叙	ジョ	④—⑧	0	4	6	10	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	叙唱㋔・叙事(～詩)㋙・叙情(～・～性)㋙・叙景㋙
			〈字〉	0	4	6	10	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	
409 ③—④	升	ショウ	④—⑤	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	升〈単位〉㋜
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
410 ①—⑧	召	ショウ	④—⑧	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	召集(～・～係・国会～)㋙㋛
		めす	①—⑤	4	3	4	11	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	召使〈召し使いトモ〉(～・～たち)㋙㋓・召す(～・～し使う)㋙・召人メシュウド㋛
			〈字〉	4	5	4	13	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	
411 ⓪—③	匠	ショウ	①—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	巨匠㋔
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	
412 ⓪—①	抄	ショウ	②—⑧	0	1	1	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	抄(愚管～〈固〉・十訓～〈固〉・春琴～〈固〉)㋙㋛
			〈字〉	0	1	1	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
413 ⑤—⑧	床	ショウ	⑤—⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	1	0	4・3	温床(～・～苗代)㋛㊚・鉱床(～・金属～)㋷・床几㋙
		とこ	⑥—⑧	3	3	4	10	1	1	0	2	0	3	0	0	0	1	0	4・3	苗床㊚・床(～・～まき～・～作りナド)㋙㋓㊚・川床㋙・寝床㋙・床屋㋙・床の間㋛
		ゆか	④—⑧	0	4	1	5	1	2	0	2	2	3	0	0	1	1	3	6	床(～・～板・～面・高～式ナド)㋙㋛㋷㋓㋟㊚㊛・床下㊛
			〈字〉	3	7	7	17	1	1	0	1	2	3	0	0	1	1	3	6	
414 ①—④	肖	ショウ	⑥—⑧	0	1	3	4	2	2	3	2	0	0	3	0	0	0	0	4	肖像(～・～画・～彫刻)㋙㋜㋛㋔
			〈字〉	0	1	3	4	2	2	3	2	0	0	3	0	0	0	0	4	

漢字番号 書㊇―㊄	漢字	音訓	読 ㊇―㊄	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
415 ⑧―⑧	松	ショウ まつ	⑥―⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	2	0	0	2	0	0	0	4	松林(～図〈固〉ナド)㋪・松輪島〈固〉㋷・松陰〈固〉㋛など
			⑧―⑧	3	9	16	28	1	1	1	1	1	0	0	2	1	0	0	6	松林㋪・松㋙・門松㋙・松原㋷・高松〈固〉(～・～市)㋛・近松〈固〉㋙㋛など
			〈字〉	3	9	17	29	1	1	1	1	1	0	0	2	1	0	0	6	
416 ③―⑥	昇	ショウ	③―⑧	0	0	3	3	1	3	3	0	1	0	0	0	2	1	1	5	上昇(～・～期・～運動)㋜㋷㊚㊛・昇降(～・～台ナド)㋙㊚・昇圧(～トランス)㊚・昇華㋷・昇こう水㋟・昇進㋙
			〈字〉	0	0	3	3	1	3	3	0	1	0	0	0	2	1	1	5	
417 ⑧―⑧	沼	ショウ ぬま	①―⑦	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	湖沼㋛・沼沢(～地)㋛
			⑦―⑧	0	4	1	5	1	2	1	1	3	0	0	0	0	1	0	5・4	沼(～・～地)㋙㋛・鹿沼〈固〉(～・～地方ナド)㋛㊚・沼津〈固〉(～・～付近)㋜㋛㋷・田沼〈固〉㋛など
			〈字〉	0	4	1	5	1	2	1	1	3	0	0	0	0	1	0	5・4	
418 ②―⑥	渉	ショウ	⑤―⑧	0	1	4	5	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	4・3	交渉(～・団体～ナド)㋙㋛㋪・干渉(～・三国～・内政～)㋛㊚・役交渉㋙
			〈字〉	0	1	4	5	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	4・3	
419 ④―⑧	笑	ショウ わらう	⑤―⑧	1	3	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	談笑㋙㋟・苦笑㋙
			⑧―⑧	28	35	10	73	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	笑う(～・～いこける・～いものナド)㋙㋓・笑い〈笑ひトモ〉(～・大～)㋙・もの笑い㋙・せせら笑う(～い)㋙・あざ笑う㋙
			〈字〉	29	38	11	78	1	1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	3	
420 ②―⑥	症	ショウ	⑦―⑧	0	0	2	2	1	3	0	0	2	0	0	0	1	0	2	3・4	症状(～・自覚～ナド)㋟㊛・症(欠乏～・夜盲～・蓄のう～ナド)㋷㋟㊛・重症㋙㋟・炎症㋟
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	0	2	0	0	0	1	0	2	3・4	
421 ⓪―④	訟	ショウ	①―⑧	4	0	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	訴訟(～・刑事～法ナド)㋙㋛・争訟(資格～)㋛
			〈字〉	4	0	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
422 ①―⑧	将	ショウ	⑧―⑧	10	9	20	39	1	1	3	1	3	0	0	0	1	0	2	5・6	将来㋙㋜㋛㋷㋟㊛・将軍(～・～家・征夷大～)㋛・将校(～・青年～ナド)㋙㋛・武将㋙㋛・勇将㋙など
			〈字〉	10	9	20	39	1	1	3	1	3	0	0	0	1	0	2	5・6	将門マサカド〈固〉㋛
423 ⓪―⑥	祥	ショウ	①―⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
424 ⑤―⑥	晶	ショウ	⑧―⑧	5	6	32	43	1	1	0	1	2	0	0	0	0	3	0	4・3	結晶(～・～質・～板ナド)㋙㋛㋷㊚・水晶(～・～発振器)㋙
			〈字〉	5	8	32	45	1	1	0	1	2	0	0	0	0	3	0	4・3	晶子アキコ〈固〉㋙
425 ⓪―⑥	粧	ショウ	⑦―⑧	2	0	0	2	1	1	0	0	3	0	0	0	2	0	0	3	化粧(～室・～品)㋙㋷㋟
			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	0	3	0	0	0	2	0	0	3	
426 ④―⑧	紹	ショウ	⑧―⑧	9	21	2	32	1	1	0	2	0	3	3	0	0	0	0	4	紹介(～・職業～・自己～・～状ナド)㋙㋛㋓㋔
			〈字〉	9	21	2	32	1	1	0	2	0	3	3	0	0	0	0	4	
427 ⓪―⑤	掌	ショウ	④―⑧	0	12	19	31	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	車掌(～・～台)㋙・掌理㋛
			〈字〉	0	12	19	31	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㊫	漢字	音・訓	読 ㋑－㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
428	詔	ショウ	②－⑥	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	詔勅㋛
⓪－②		みことのり	⓪－⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
429	硝	ショウ	④－⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	2	3・4	硝酸(～濃～・～塩ナド)㊀㋛㋚・硝石(～・チリ〈固〉)㋛・硝化綿(～・～系接着剤)㋝
⓪－⑧			〈字〉	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	2	3・4	
430	焦	ショウ	③－⑧	0	3	4	7	2	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	焦土㋛・焦点(～・～距離)㊀㋚・焦燥㊀
⓪－②		こげる	⓪－⑤	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	焦げる(黒～げ)㊀
			〈字〉	0	3	6	9	2	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	
431	傷	ショウ	⑧－⑧	0	6	0	6	2	2	0	2	0	0	0	0	2	3	0	4・3	外傷㋗・負傷(～・～者・～兵)㊀㋛㋗・凍傷(～・全身～)㋗・損傷(～・血管～)㋗㋝・感傷(～的) L㊀・傷害(～・～事件)㋗など
2－⑤		きず	⑥－⑧	0	5	5	10	2	2	0	0	2	2	0	0	2	0	3	4・5	傷(～・かすり～・～口ナド)㊀㋚㋗㋝・傷つく㊀・傷つける㋓
			〈字〉	0	11	5	16	2	2	0	2	2	2	0	0	2	3	3	6	
432	詳	ショウ	⓪－⑤	0	0	1	1	3・1	3	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	詳細(～図)㋝㋝・不詳(作者～)㊀
⓪－⑦		くわしい	⓪－⑦	0	5	14	19	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	詳しい㊀
			〈字〉	0	5	15	20	2・1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	
433	障	ショウ	⑦－⑧	2	8	9	19	1	1	0	2	3	0	0	0	1	2	1	5	保障(～・社会～・安全～ナド)㊀㋛㋗・障害(～・精神～ナド)㊀㋛㋗・故障(～・～箇所ナド)㊀㋛㋚㋗ L㋝㋝など
①－⑧			〈字〉	2	8	9	19	1	1	0	2	3	0	0	0	1	2	1	5	
434	彰	ショウ	⑦－⑧	0	2	3	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	表彰㊀・彰子〈固〉㊀
⓪－③			〈字〉	0	2	3	5	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	彰アキラ〈固〉㋔
435	奨	ショウ	④－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	奨励(～・～会)㋛㋓・奨学㋛
⓪－②			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	
436	衝	ショウ	④－⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	3	0	0	0	3	2	0	5・4	衝突(～・～事件ナド)㋛㋚㋝・衝撃㊀・衝動㋗・緩衝(～材)㋝
⓪－③			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	3	0	0	0	3	2	0	5・4	
437	礁	ショウ	⑥－⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	環礁㋛・さんご礁㋛
⓪－②			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
438	償	ショウ	⑤－⑧	3	1	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	賠償(～・～金ナド)㋛・補償(～・災害～ナド)㋛・償還(～・～期限)㋛・償金㋛・償却(減価～費)㋛・ L弁償㊀など
⓪－⑥		つぐなう	⓪－⑧	0	5	0	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	償う㊀・償い㊀
			〈字〉	3	7	0	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	

漢字番号 書㋥―㋸	漢字	音訓	読 ㋥―㋸	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
439 ③―⑧	鐘	ジョウ	②―⑦	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	時鐘(大~)㋓
		かね	⑥―⑧	0	3	17	20	2	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	鐘(~・一番~)㋙㋛㋔
			〈字〉	0	3	17	20	2	2	0	2	0	2	2	0	0	0	0	4	
440 ⑤―⑥	丈	ジョウ	⑧―⑧	10	10	2	22	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4	丈〈単位〉㋙㋜・丈夫㋙・気丈夫㋙・大丈夫㋙・方丈記〈固〉㋛・八丈〈固〉(~島)㋷
			〈字〉	10	10	3	23	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4	丈夫タケオ〈固〉㋛・丈部ハセツカベ〈固〉㋙
441 ①―⑥	冗	ジョウ	③―⑦	4	0	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	冗談㋙
			〈字〉	4	0	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
442 ⑧―⑧	城	ジョウ	⑧―⑧	3	10	4	17	1	1	0	1	0	3	1	2	0	0	0	5	城(姫路~〈固〉・江戸~〈固〉ナド)㋛・平城京〈固〉㋛・築城㋔・宮城㋛・城門㋙・城壁㋓・城下(~町)㋛など
		しろ	⑧―⑧	0	5	2	7	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	城(~・~あと)㋙㋛㋔・山城〈固〉㋛
			〈字〉	4	19	10	33	1	1	0	1	0	3	1	2	0	3	0	6・5	宮城ミヤギ〈固〉(~・~県・~野ナド)茨城イバラキ〈固〉(~・~県ナド)㋙㋛㊚・赤城アカギ〈固〉(~山)㋛など
443 ④―⑧	浄	ジョウ	③―⑧	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	3	0	2	2	3	5	浄瑠璃㋛㋔・浄土(~・~宗〈固〉ナド)㋛・洗浄(~・~剤・~方法ナド)㊚㊛・清浄(~・無垢~ナド)㋙㋟㊚など
			〈字〉	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	3	0	2	2	3	5	
444 ⓪―⑤	剰	ジョウ	②―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	過剰(生産~・~生産・人口~ナド)㋛・剰余(~金)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
445 ⓪―④	蒸	ジョウ	⑦―⑧	20	6	4	30	1	1	2	1	2	0	0	0	2	1	1	6	蒸気(~・~船・~機関ナド)㋙㋛㋷㋟㊚㊛・水蒸気㋙㋷㊚㊛・蒸発(~・~ざらナド)㋜㋛㋷㊚㊛・蒸留(~・~水ナド)㋷など
		むす	③―⑧	0	0	0	0	0・1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0・1	蒸す(~・~し器・~しパンナド)㊛・蒸らす㊛
			〈字〉	20	6	4	30	1	1	2	1	2	0	0	0	2	1	1	6	
446 ①―④	錠	ジョウ	⑥―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
447 ④―⑤	嬢	ジョウ	⑥―⑧	5	0	0	5	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	嬢〈敬称〉㋓・お嬢さん㋙
			〈字〉	5	0	0	5	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
448 ⓪―①	畳	ジョウ	⑤―⑧	0	2	0	2	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	3	3・4	畳〈単位〉(~・…~間)㋙㋜㋛㊛
		たたみ	④―⑧	0	0	1	1	1	3	1	0	0	3	0	0	0	0	0	3	畳(~・~数)㋙㋜㋓
			〈字〉	0	2	1	3	1	2	1	2	0	3	0	0	0	0	3	4・5	
449 ⓪―④	譲	ジョウ	②―⑧	0	4	3	7	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	割譲(~地)㋛・謙譲㋙・敬譲㋙・不可譲㋛・譲歩㋙
		ゆずる	⓪―⑥	0	10	2	12	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	譲る(~・~りかける)㋙㋛
			〈字〉	0	14	5	19	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
450 ①―②	醸	ジョウ	③―⑦	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	醸造(~業)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋬—㋺	漢字	音訓	読 ㋬—㋺	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
451	殖	ショク	④—⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	2	3	0	5・4	繁殖㋙㋷㋟・生殖(～・～器・有性～ナド)㋷・養殖(～・～真珠・～場ナド)㋷・増殖(～力)㋷
⓪—④			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	2	3	0	5・4	
452	触	ショク	②—⑧	0	5	2	7	2・1	2	0	2	3	0	0	3	0	3	1	5	触覚㋕・接触(～・～点・～抵抗ナド)㋙㋛㊚㋕・筆触㋪・感触㋙㋕・触媒㋷㋕
⓪—⑥		ふれる	①—⑧	0	4	5	9	2	2	0	2	0	0	3	0	0	3	0	4・3	触れる(～・慶安御～書〈固〉)㋙㋛㋔㊚
			〈字〉	0	9	7	16	2・1	2	0	2	3	0	3	3	0	3	1	6	
453	飾	ショク	②—⑧	38	15	110	163	1	1	0	1	0	2	1	3	0	0	2	5・6	装飾(～・～的・室内～ナド)㋙㋛㋔㋪㋕・修飾(～・～語ナド)㋙㋓・服飾㋕・電飾㋙
⓪—⑦		かざる	③—⑧	13	5	6	24	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	飾る㋙・飾り㋙・飾りつける(～・～りつけ)㋙㋕・着飾る㋙
			〈字〉	51	20	117	188	1	1	0	1	0	2	1	2	0	0	2	5・6	葛飾カツシカ〈固〉㋙㋛㋪
454	嘱	ショク	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—②			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
455	辱	ジョク	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	屈辱(～・～的)㋛
⓪—③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
456	伸	シン	④—⑧	0	0	0	0	2・1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	2	屈伸㋟・伸縮(～・～性ナド)㋕・伸長(～期・～曲線ナド)㋟㊚
⑤—⑦		のびる	⑧—⑧	9	4	15	28	1	1	2	2	0	0	0	1	1	0	0	5	伸びる㋙・伸べる㋙・伸び縮む㋙・伸ぶ㋛・伸ばす㋙㋪㋟・引き伸ばす㋜
			〈字〉	9	4	15	28	1	1	2	2	0	0	0	1	1	3	1	6	
457	辛	シン	⓪—⑧	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	辛苦(～・艱難～)㋙・辛亥(～革命〈固〉)㋛
⓪—⑥		からい	②—⑥	0	0	0	0	0・3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0・1	辛味(～成分)㋕
			〈字〉	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
458	侵	シン	②—⑧	0	5	3	8	1	2	0	1	2	0	0	0	3	0	0	4	侵入㋙㋛㋷㋟・侵略(～・～行為・～戦争ナド)㋙㋛・不可侵(～・～条約)㋛・侵犯(領空～・人権～事件)㋛など
⓪—⑤		おかす	⓪—⑥	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	2・1	侵す㋛㊚
			〈字〉	0	5	3	8	1	2	0	1	2	0	0	0	3	3	0	5・4	
459	振	シン	⑤—⑧	0	4	2	6	1・2	2	0	3	2	0	0	0	3	1	0	5	振興㋛㋟・振動(～・～音・～数ナド)㋙㋷㊚㋕・振幅㋷㊚・不振(食欲～・経営～ナド)㋙㋛㋕など
③—⑧		ふる	⑤—⑧	0	0	16	16	1	3	0	3	2	3	2	1	2	1	0	8・7	振る(～・～り切るナド)㋙㋓㋔㋟㊚・振り子〈振子トモ〉㋷㋪・振り回す㋓・振り分け㋙・振出し(～人)㋛など
			〈字〉	0	4	18	22	1	2	0	3	2	3	2	1	2	1	2	8	
460	浸	シン	③—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	3	1	3	浸水(～・～地域ナド)㋛㋕・浸食(～・～作用ナド)㋛㋷・浸入㋛㋷・浸種㊚・浸法(冷水温湯～ナド)
①—⑦		ひたす	⓪—⑤	0	3	1	4	1	2	0	1	3	0	0	0	0	3	1	1	浸る㋙・浸す㋙
			〈字〉	0	3	1	4	1	2	0	1	3	0	0	0	0	3	1	4	

漢字番号 書(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
461 ⑦−⑧	針	シン	⑥−⑧	0	0	6	6	1	3	1	1	3	0	0	0	3	1	1	6	方針(〜・運営〜・外交〜ナド)㋛㋟㊚㊛・針葉樹(〜・〜材・〜林)㋛㊚㊛・羅針盤㋙㋛・短針㋜・指針㊚㊛など
		はり	⑧−⑧	2	0	1	3	1	1	1	0	2	0	0	1	0	1	1	5	針(〜・ひと〜・〜穴・ミシン〜・〜先・〜目ナド)㋜㋷㋪㊚㊛㋙・縫い針㊛・まち針㊛・針金㋜㋷㋪㊚など
			〈字〉	2	0	7	9	1	1	1	1	2	0	0	1	3	1	1	7	
462 ⓪−⑤	娠	シン	②−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
463 ⓪−①	紳	シン	⑥−⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
464 ③−⑧	診	シン	⑦−⑧	0	0	3	3	2	3	3	0	3	0	0	0	2	3	0	5・4	診療(〜・〜室)㋟・診断(〜・健康〜ナド)㋜㋟㊚・診察(〜中)㋙・検診(集団〜)㋟・打診㋷㋟・聴診㋟など
			〈字〉	0	0	3	3	2	3	3	0	3	0	0	0	2	3	0	5・4	
465 ①−⑤	慎	シン	③−⑧	3	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	慎重㋛・慎太郎〈固〉㋙㋛
		つつしむ	⓪−⑥	0	4	1	5	2	2	0	3	9	0	0	0	0	0	0	2	慎む㋙㋛・慎み(〜深い)㋙
			〈字〉	3	4	1	8	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
466 ⓪−⑥	寝	シン	⑦−⑧	0	5	1	6	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	2	3・4	寝室㋙㋟㊛・寝具(〜・〜類)㋟㊛・寝台㋙㊛・就寝(〜前)㊛・寝殿(〜・〜造り)㋛
		ねる	⑤−⑧	17	35	23	75	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	2	3・4	昼寝㋓・朝寝(〜・〜ぼう)㋙・寝床㋙・寝袋㋙・寝起き㋙・寝ころぶ㋙・寝ぼける㋙・寝る㋙㋓など
			〈字〉	17	40	25	82	1	1	0	2	0	1	0	0	2	0	2	4・5	安寝ヤスイ㋙
467 ③−⑤	審	シン	⑤−⑧	2	5	7	14	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	審判(〜・〜員ナド)㋙㋛㋟・審議(〜・予算〜ナド)㋙㋛㋟・審査(〜・再〜・国民ナド)㋛・陪審(〜員ナド)㋛・不審㋙など
			〈字〉	2	5	7	14	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	
468 ①−⑤	震	シン	⑦−⑧	1	0	4	5	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	地震(〜・大〜・〜学・〜波)㋙㋛㋷・震災(関東大〜〈固〉)㋛・震源㋷・震動㋙
		ふるう	⓪−⑧	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	震う〈震るうトモ〉㋙・震える㋙・震わす㋙
			〈字〉	1	0	11	12	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
469 ①−⑧	薪	シン	⑤−⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	薪炭(〜・〜用)㋙㋛・薪水㋛
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	0	3	0	0	0	0	0	3	薪マキ㋓
470 ④−⑧	刃	ジン	⓪−①	0	0	0	0	1・0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1・0	刀刃㊚
		は	⑤−⑧	2	0	0	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	4	刃物(〜・〜台ナド)㋙㋛㊚㊛・刃わたり㊛・両刃モロハ㊚・刃(〜・〜こぼれナド)㋷㊚㊛・片刃㊛・出刃ぼうちょう㊛など
			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	4	
471 ⓪−④	迅	ジン	⓪−⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	迅速㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
472 ②−④	陣	ジン	⑤−⑧	0	5	0	5	1	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	出陣㋔・陣営(二大〜・両〜)㋛・陣地㋛・敵陣㋛・先陣㋙・後陣㋙・西陣〈固〉(〜織)㋛
			〈字〉	0	5	0	5	1	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
473		ジン	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—⓪	尋	たずねる	⓪—⑧	0	1	6	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	尋ねる㋙・尋ぬ㋙
			〈字〉	0	1	6	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
474		ジン	⓪—④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—④	尽	つくす	①—⑧	0	20	12	32	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	尽くす〈尽すトモ〉(〜・出〜・言い〜・落ち〜ナド)㋙㋔・尽きる(〜・力〜)㋙
			〈字〉	0	20	12	32	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	不尽 フジ〈固〉㋛
475		スイ	②—⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	3	0	0	0	0	3	吹奏(〜楽)㋔・吹管㋷・吹田〈固〉㋛
②—⑥	吹	ふく	⑥—⑧	24	5	29	58	1	1	1	0	2	0	1	1	2	3	0	7・6	吹く(〜・〜きつのる・〜きわたるナド)㋙㋜㋷㋔㋪・霧吹き(男)・吹きすさぶ㋙・吹き込む〈吹きこむトモ〉㋙㋟など
			〈字〉	24	5	29	58	1	1	1	1	2	0	1	1	2	3	0	8・7	
476	炊	スイ	②—⑧	0	0	1	1	2・1	3	0	3	0	0	0	0	2	2	1	4	炊事(〜・〜場ナド)㋙㋟㋰㋛・炊飯(〜・〜器ナド)㊚㋰
⓪—⑤			〈字〉	0	0	1	1	2・1	3	0	2	0	0	0	0	2	2	1	4	炊ぐカシ㋛
477	垂	スイ	⑧—⑧	4	3	0	7	1	1	1	1	1	0	0	2	1	1	1	7	垂線㋙㋜㋷㊚・垂直(〜・〜線・〜二等分線ナド)㋙㋜㋛㋷㋟㋪㊚㋰・胃下垂㋟・脳下垂体㋷㋟・虫垂(〜・〜炎)㋷㋟など
③—⑤			〈字〉	4	3	1	8	1	1	1	1	1	0	0	2	1	1	1	7	垂水 タルミ〈固〉㋙
478	帥	スイ	②—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	統帥〈固〉(〜・〜権)㋛・元帥㋛
⓪—②			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
479		スイ	②—⑦	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	2	衰弱㋟・老衰㋟・必衰(盛者〜)㋛・盛衰(源平〜記〈固〉)㋛
⓪—①	衰	おとろえる	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	衰える(〜・〜え始める)㋛㋔
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	3	0	3	0	0	3	
480	睡	スイ	⑦—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1・2	熟睡㋟・睡眠(〜・〜不足・〜時間ナド)㋟㊛
⓪—③			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1・2	
481		スイ	⓪—①	0	0	0	0	3・0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	出穂(〜・〜期ナド)㊚・幼穂(〜形成記)㊚・穂肥㊚
②—④	穂	ほ	③—⑧	0	2	11	13	1	2	0	1	3	0	2	0	0	3	0	5・4	穂(〜・〜先〈〜さきトモ〉・〜ぞろい期ナド)㋙㋛㋷㊚・落穂(〜・〜拾い〈固〉)㋛・高千穂〈固〉㋔など
			〈字〉	1	2	11	14	1	1	0	1	3	0	2	0	0	3	0	5・4	赤穂アコウ〈固〉(〜・〜浪士)㋛㋙
482		スイ	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	2	未遂㋟・遂行㋛
⓪—③	遂	とげる	⓪—⑥	0	5	3	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	遂げる(〜・し〜・なし〜)㋙
			〈字〉	0	5	3	8	2	2	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	
483	粋	スイ	⓪—⑧	0	5	3	8	2	2	0	0	2	2	0	0	0	2	0	4・3	純粋㋙㋛㋷㊚・粋㋛・抜粋㋛・国粋(〜主義ナド)㋛
⓪—⑥			〈字〉	0	5	3	8	2	2	0	2	2	0	0	0	0	2	0	4・3	

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
484 ④—⑦	酔	スイ	⓪—④	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	麻酔㋷
		よう	⑥—⑧	4	0	2	6	1	1	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	酔う㋙㋓㋟・酔っぱらう㋙・酔っぱらい㋙
			〈字〉	4	0	2	6	1	1	0	0	2	3	0	0	3	0	0	4	
485 ⓪—②	錘	スイ	④—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	走錘精紡機㋛
		つむ	①—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	錘㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
486 ⓪—②	随	ズイ	③—⑧	4	4	11	19	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	随筆(～・～家・～集)㋙㋛・随意(～筋・不～筋)㋷・随一㋙
			〈字〉	4	4	11	19	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
487 ⓪—⑤	髄	ズイ	⓪—⑧	0	4	0	4	2	2	0	2	2	0	0	0	3	0	0	4	脳せき髄まく炎(流行性～)㋟・せき髄(～・～炎・～神経)㋷㋟・髄㋷・骨髄㋷・延髄㋷㋟・脳髄㋙・神髄(小説～〈同〉)㋛など
			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	2	2	0	0	0	3	0	0	4	
488 ⓪—⑥	枢	スウ	⓪—⑧	1	0	0	1	1	1	0	2	2	0	0	3	3	0	0	5	中枢(～・～神経ナド)㋟㋷・枢機(～卿〈固〉)㋪・枢密(～院・～顧問官)㋙㋛・枢軸(～国ナド)㋛
			〈字〉	1	0	0	1	1	1	0	2	2	0	0	3	3	0	0	5	
489 ⓪—⑤	崇	スウ	⓪—⑦	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	崇拝(自然～)㋛・崇高㋙㋛
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
490 ⓪—⑧	寸	スン	⑦—⑧	0	6	1	7	1	2	1	2	1	0	0	0	0	1	1	5	寸法(～・不足～・標準～ナド)㋙㋜㋷㊚㊛・寸〈単位〉(～・一～先・…～くぎナド)・一寸法師〈固〉㋛
			〈字〉	0	6	1	7	1	2	1	2	1	0	0	0	0	1	1	5	
491 ⓪—①	畝	せ	①—⑤	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	畝〈単位〉㋜㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
492 ⑦—⑦	瀬	せ	⑧—⑧	3	1	6	10	1	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	4	川瀬㋙・浅瀬㋙・瀬㋙・瀬戸〈固〉(～・～内・～内海ナド)㋙㋛㋷・尾瀬〈固〉㋔・白瀬〈固〉㋛・名瀬〈固〉㋛㋷
			〈字〉	3	1	6	10	1	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	4	
493 ⑧—⑧	井	ショウ	⑤—⑧	0	3	3	6	1	2	0	1	0	0	0	3	0	3	0	4・3	天井(～・～裏・～桟・～川)㋙㋛㋪㊚
		セイ	⓪—③	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	油井㋷
		い	⑧—⑧	2	38	11	51	1	1	1	1	1	0	2	2	1	2	3	8	井戸(～・～水・ほりぬき～・～ばた)㋙㋛㋷㋟・井げた㊚・福井〈固〉(～・～県・～藩)㋜㋛・大井〈固〉(～川)㋙㋛・新井〈固〉㋛など
			〈字〉	2	41	14	57	1	1	1	1	1	0	2	2	1	2	3	8	
494 ①—⑧	征	セイ	⑥—⑧	6	2	6	14	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	征服㋙㋛・遠征(～・～軍ナド)㋙㋛・征夷(～大将軍)㋛・征伐㋙㋛・征韓(～論)㋛・東征㋔
			〈字〉	6	2	6	14	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	
495 ①—⑤	姓	ショウ	⑧—⑧	2	2	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	百姓(～・本～・～一揆・～家ナド)㋙㋛
		セイ	⑤—⑧	0	0	6	6	1	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	氏姓(～制度)㋛・姓名㋙・姓㋙㋓
			〈字〉	2	2	6	10	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋕	漢字	音訓	読 ㋑－㋕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
496	牲	セイ	⑥－⑧	0	8	1	9	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	犠牲(～・～者・～的精神)㋒㋺
⓪－⑧			〈字〉	0	8	1	9	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
497	盛	ジョウ	⓪－⑦	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	盛者(～必衰)㋺
③－⑧		セイ	②－⑧	0	5	4	9	2	2	0	2	0	0	3	0	3	0	0	4	降盛㋑㋕・盛大㋒㋺・盛夏㋒・全盛(～・～期・～時代)・最盛(～期)㋒㋺・盛衰(源平～記〈国〉)㋺
		さかり	③－⑧	6	14	16	36	1	1	0	0	0	0	1	0	1	3	3	4	盛り(～・目～・花～・働き～)㋒・盛ん㋒㋑㋺㋭㋬
		もる	⑦－⑧	3	12	7	22	1	1	0	1	2	0	1	0	0	1	1	5	盛る(～・～りつける・～込むナド)㋒㋑㋬・目盛り〈目盛トモ〉(～・時間～)㋭㋬・盛り返す㋒・清盛L〈国〉㋒㋺など
			〈字〉	9	31	27	67	1	1	0	1	2	0	1	0	1	1	1	6	
498	婿	セイ	⓪－⓪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－④		むこ	⓪－⑧	2	0	2	4	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	婿(～・～養子)㋒㋺・花婿㋒
			〈字〉	2	0	2	4	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
499	誓	セイ	①－⑦	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	誓文(御～)㋺・誓字〈国〉㋒
①－⑦		ちかう	⑤－⑧	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	誓う〈誓ふトモ〉㋒㋺
			〈字〉	0	2	3	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
500	請	シン	⓪－⑦	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	普請㋒
⓪－⑥		セイ	④－⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	請求(～・～権)㋺・申請㋒・請願(～・～権)㋺・要請㋒㋺
		うける	⓪－⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	下請け(～・～工場)㋺・請負う㋺・請負い(～仕事)㋺
		こう	⓪－③	0	3	2	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	請う㋒
			〈字〉	0	3	7	10	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
501	斥	セキ	⓪－⑧	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	排斥㋒㋺
⓪－③			〈字〉	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
502	析	セキ	①－⑧	0	3	3	6	2	2	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	分析㋒㋬・解析㋭
⓪－⑤			〈字〉	0	3	3	6	2	2	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	
503	昔	シャク	③－⑧	5	0	20	25	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	今昔(～・～物語〈国〉ナド)㋒㋺
⑧－⑧		セキ	⓪－③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		むかし	⑥－⑧	43	28	39	110	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	昔(～・～風・大～)㋑㋭㋮・昔話㋒・昔かたぎ㋒・昔なじみ㋒
			〈字〉	48	28	59	135	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	4	
504	隻	セキ	②－⑧	0	4	2	6	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	隻〈助数詞〉㋒㋺・隻語(片言～)㋓
⓪－③			〈字〉	0	4	2	6	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	

漢字番号 書(入)―(卒)	漢字	音訓	読 (入)―(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
505 ⓪―⑤	惜	セキ	⓪―④	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	惜春㋙
		おしい	①―⑧	0	5	7	12	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	惜しい㋙・なごり惜しい㋙・惜しむ(～・出し～しみ)㋙
			〈字〉	0	5	8	13	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
506 ①―③	跡	セキ	④―⑧	0	7	5	12	1	2	0	1	0	3	0	0	1	0	0	4	史跡㋛㋟・旧跡(～・名所～)㋙・遺跡(～・登呂〈固〉～)㋙㋛㋓・足跡㋙・手跡㋙・筆跡㋙
		あと	④―⑧	3	2	7	12	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	跡㋙㋛・足跡㋙・跡かた㋙
			〈字〉	3	9	12	24	1	1	0	1	0	3	0	0	1	0	0	4	
507 ⓪―⑥	籍	セキ	⑤―⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	3	3・4	国籍(～・～法・～離脱)㋛・臣籍㋙・戸籍㋛・版籍(～奉還)㋛・書籍(学研～〈固〉ナド)
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	3	3・4	
508 ⓪―④	拙	セツ	①―⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	拙劣㋙
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
509 ⓪―②	窃	セツ	①―⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
510 ⓪―⑥	摂	セツ	④―⑧	1	2	6	9	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3・4	摂取(～・～量ナド)㋙㋛㋟㋕・摂生㋟・不摂生㋟・摂政㋛・摂関(～政治)㋛・摂津〈固〉㋙㋛
			〈字〉	1	2	6	9	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3・4	
511 ②―⑤	占	セン	④―⑧	1	2	2	5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	独占(～・～企業・～禁止法ナド)㋙㋛・占領(～・～地ナド)㋙㋛・占有(市場～)㋛
		うらなう	6―⑦	6	2	1	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	占う(～・～いばあさん)㋙
		しめる	2―⑧	0	5	5	10	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	占める㋙㋛
			〈字〉	7	9	8	24	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
512 ⑥―⑧	洗	セン	⑧―⑧	5	1	4	10	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	3	水洗(～便所・～式ナド)㋟㋕・洗たく(～・～そう・～ばさみナド)㋟㊚㋕・洗剤(～・合成～ナド)㊚㋕・洗浄(～・～剤ナド)㊚㋕など
		あらう	⑧―⑧	6	14	4	24	1	1	0	0	0	1	0	0	2	3	3	4	洗う(～・水～いナド)㋙㋓㊚㋕・手洗(～・～所・～い器ナド)㋟㋕
			〈字〉	11	15	8	34	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	1	4	
513 ④―⑧	染	セン	④―⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	伝染(～・～病・～性ナド)㋙㋛㋷㋟㋕・汚染・感染(～・～経路ナド)㋟・染料(～・合成～ナド)㋛㋷㊚㋕など
		そめる	⑦―⑧	3	0	10	13	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	2・3	染める(～・～めむら・～めあがりナド)㋙㋕・染めもの㋷・染まる㋙㋕・血染め㋙
			〈字〉	3	2	11	16	1	1	0	1	2	0	0	0	2	1	1	5	染シみる㋙・染シむ㋙
514 ②―⑦	泉	セン	⑧―⑧	1	0	2	3	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	温泉(～・～地・～郷ナド)㋙㋛・源泉(～・～徴収)㋛・泉地㋛・玉泉寺〈固〉㋛・泉石〈固〉㋙㋪
		いずみ	⑧―⑧	0	3	3	6	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	泉㋙・小泉〈固〉㋙・平泉〈固〉㋛
			〈字〉	1	3	5	9	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	和泉 イズミ〈固〉(～・～山脈・～流)㋙㋛

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㋕＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑—㊫	漢字	音訓	読 ㋑—㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
515	扇	セン	⑦—⑧	0	2	0	2	1	2	0	1	3	0	0	0	2	0	3	4・5	扇風機㊁㋛㋚㋟㋩・扇面(～・～写経)㋛・扇状(～地)㋛・換気扇㋩
②—⑧		おうぎ	⑤—⑧	4	5	9	18	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	扇㊁㋛・扇谷〈固〉㊁
			〈字〉	4	7	9	20	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	3	4・5	
516	旋	セン	③—⑧	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	3・2	旋律(～・～法・～楽器ナド)㋔・旋法(陰～・陽・律～・呂～ナド)㋔・旋盤(～・～作業ナド)㋪・斡旋
⓪—⑤			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	3・2	L(～・～貝)㋛・旋条銃㋛など
517	践	セン	①—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	実践(～・～的・～教育)㊁㋩
①—⑥			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	
518	銃	セン	④—⑧	0	0	0	0	1	9	9	1	3	0	0	0	0	2	0	3・2	銑鉄(～・～生産量ナド)㋛㋚㋪・溶銑㋪・銑十郎〈固〉㋛
①—⑥			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	2	0	3・2	
519	潜	セン	③—⑧	0	0	8	8	1	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	潜水(～・～夫・～艦ナド)㊁㋛㋟・潜伏(～期)㋟・潜かん病㋟・潜在(～失業所)㋛・潜航㋛
⓪—⑤		ひそむ	⓪—⑦	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	潜む㊁
			〈字〉	0	0	13	13	1	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
520	遷	セン	⓪—③	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	変遷㊁
⓪—⓪			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
521	薦	セン	⓪—⑦	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	推薦(～図書ナド)㊁
⓪—①			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
522	鮮	セン	⑥—⑧	3	1	10	14	1	1	0	1	1	1	3	2	2	0	1	7・8	新鮮(～・～度・～味)㊁㋛㋓㋛㋟㋩・鮮魚㋛・鮮紅色㋚㋩・生鮮(～食料品)㋛・朝鮮〈固〉(～・北
④—⑧			〈字〉	3	1	10	14	1	1	0	1	1	1	3	2	2	0	1	7・8	L～・～人・～動乱ナド)㊁㋛など 鮮かアザヤ㋓
523	繊	セン	⑤—⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	2	0	1	1	5	繊維(～・化学～・～品ナド)㊁㋛㋚㋓㋪㋩・繊細㊁・化繊(～・～織物・～系)㋛㋩
①—⑥			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	2	0	1	1	5	
524	漸	ゼン	⓪—⑦	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	漸次㊁
⓪—②			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
525	禅	セン	②—⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	禅宗〈固〉(～・～風〈～ふうトモ〉)㊁㋛・友弾(～染)㋛・中禅寺〈固〉(～湖)㋚
⓪—④			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	
526	繕	ゼン	⑤—⑧	0	3	6	9	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	修繕㊁㋓
⓪—③		つくろう	⓪—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	繕う㊁
			〈字〉	0	3	9	12	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	
527	阻	ソ	③—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	2・1	阻止(～・直流～)㋛㋪・阻害㋛
⓪—③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2・3	

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
528	租	ソ	⑤—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	租(～庸調)㋛・租税(～・～負担率ナド)㋛・地租(～・～改正)㋛・租借(～・～地)㋛・貢租㋛
①—⑥			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
529	粗	ソ	④—⑧	5	7	1	3	13	1	1	0	1	1	0	0	0	2	0	04	粗(～・～トウ〈糖ノ意〉・～鋼・農業～収入)㋛㋷㋟・粗暴㋟・粗末(～・お～)㋙
⓪—④			〈字〉	5	7	1	13	1	1	0	1	1	0	0	0	2	0	0	4	粗布ズック㋛
530	措	ソ	⓪—⑦	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	措置(～・応急～・強制～ナド)㋛㋟
⓪—⑤			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	
531	疎	ソ	①—⑧	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	疎開(～画家)㋙・疎通㋙・疎外㋙
⓪—④			〈字〉	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
532	訴	ソ	⓪—⑧	4	0	4	8	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	訴訟(～・民事～法ナド)㋙㋛・起訴(～・不～処分)㋛・訴追(～・～委員会)㋛・控訴㋛・上訴㋛・直訴㋙
⓪—⑧		うったえる	①—⑧	2	5	13	20	1	1	0	3	0	0	0	3	3	0	0	4	訴える㋙㋛㋪㋟・訴え㋙㋛
			〈字〉	6	5	17	28	1	1	0	2	0	0	0	3	3	0	0	4	
533	塑	ソ	③—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	彫塑(～・～作品)㋪・塑性㋷
⓪—⑤			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	
534	礎	ソ	③—⑧	2	3	1	6	1	1	3	1	0	0	3	2	1	1	1	7	基礎(～・～的・～食品ナド)㋙㋜㋛㋔㋪㋟㊚㊛
①—⑥		いしずえ	⓪—⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	2	3	1	6	1	1	3	1	0	0	3	2	1	1	1	7	
535	双	ソウ	④—⑦	0	0	2	2	2	3	2	2	2	0	0	0	0	3	0	5・4	双用(～～帯ナド)㊚・双子葉(～植物・～類)㋷・双曲線㋜・双肩㋙・双樹(沙羅～)㋛
①—⑥			〈字〉	0	0	2	2	2	3	2	2	2	0	0	0	0	3	0	5・4	
536	壮	ソウ	②—⑧	4	3	12	19	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	豪壮㋛・壮年(～・青～)㋙㋛・壮麗㋙㋛・悲壮㋙・壮観㋙・壮大㋙・広壮㋙
⓪—⑥			〈字〉	4	3	12	19	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
537	奏	ソウ	⑧—⑧	4	4	3	11	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	演奏(～・～記号ナド)㋙㋔・伴奏(～・～形ナド)㋙㋔・合奏(～・弦楽～)㋔・重奏(～・～楽器・二～ナド)㋔・奏する㋓㋔など
①—⑦			〈字〉	4	4	3	11	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	
538	桑	ソウ	⓪—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④—⑦		くわ	⑧—⑧	2	3	0	5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	桑㋙・桑名〈固〉㋛・桑原〈固〉㋙
			〈字〉	2	3	0	5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	桑折コオリ〈固〉㋛
539	荘	ソウ	⑧—⑧	0	6	5	11	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	荘厳㋙・荘重㋙・別荘㋙
③—⑤			〈字〉	0	6	5	11	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	荘園ショウエン(～・～内ナド)㋛・荘ショウ㋛
540	掃	ソウ	⑦—⑧	0	0	4	4	3·2	3	0	3	0	0	0	0	3	3	2	4	清掃(～・～法・共同～ナド)㋛㊛・掃除(～・無ブ～)㋙㊛・掃気(～口・～作用)㊚
④—⑥		はく	⓪—⑧	3	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	掃く(～き清める)㋙
			〈字〉	3	0	4	7	1	1	0	3	0	0	0	0	3	3	2	4	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊇―㊥	漢字	音訓	読 ㊇―㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
541	巣	ソウ	⓪―⑥	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	卵巣㋷・精巣㋷・生殖巣(〜・〜刺激ホルモン)㋷
②―⑦		す	⑤―⑧	0	4	2	6	1	2	0	0	1	2	0	0	0	3	0	4・3	巣㋙㋓㋷ ㊚・巣箱㋙・巣立つ㋙
			〈字〉	0	4	2	6	1	2	0	0	1	2	0	0	0	3	0	4・3	
542	窓	ソウ	⑤―⑧	0	3	3	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	学窓㋙・車窓㋙・窓外㋙
③―⑧		まど	⑧―⑧	6	22	18	46	1	1	0	2	3	1	3	0	2	0	3	6・7	窓(〜・〜べ・〜わくナド)㋙㋛㋷㋓㋔㋟ ㊛・天窓㋟
			〈字〉	6	25	21	52	1	1	0	2	3	1	3	0	2	0	3	6・7	
543	喪	ソウ	⓪―④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪―⓪		も	⓪―⑥	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	喪㋛・喪主㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
544	捜	ソウ	⑤―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	捜査㋛・捜索㋛
⓪―④		さがす	④―⑧	0	0	9	9	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	捜す(〜・〜し出す・〜し求める)㋙
			〈字〉	0	0	9	9	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
545	葬	ソウ	④―⑧	0	8	2	10	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2・3	葬祭㋛・冠婚葬祭 ㊛・葬式㋙㋛・埋葬㋙・合葬㋙・火葬(〜場)㋙・副葬(〜品)㋛
⓪―③		ほうむる	⓪―⑦	0	6	0	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	葬る㋙
			〈字〉	0	14	2	16	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
546	装	ショウ	④―⑦	0	3	1	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	衣装㋙
②―⑧		ソウ	⑧―⑧	13	12	19	44	1	1	0	1	2	0	1	2	1	1	1	7	装飾(〜・〜音符・室内〜品ナド)㋙㋛㋔㋪ ㊛・装置(〜・保温〜ナド)㋙㋷㋟ ㊚㊛・服装㋙㋛㋟ ㊛ 1など
		よそおう	⓪―⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	13	15	20	48	1	1	0	1	2	0	1	2	1	1	1	7	
547	僧	ソウ	③―⑧	0	28	4	32	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	僧(〜・画〜・旅〜・学問〜ナド)㋙㋛・僧侶㋙㋛・僧兵㋛・僧院㋙・僧正(鳥羽〜〈固〉)㋛
②―⑦			〈字〉	0	28	4	32	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
548	遭	ソウ	③―⑧	0	3	1	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	遭難㋙㋛
⓪―②			〈字〉	0	3	1	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
549	層	ソウ	⑦―⑧	8	4	2	14	1	1	0	1	2	0	0	0	0	2	1	4	層(〜・電離〜・若行〜ナド)㋙㋛㋷ ㊚㊛・皮層㋷ ㊛・階層(社会〜)㋛・断層㋷・層雲㋷など
②―⑧			〈字〉	8	4	2	14	1	1	0	1	2	0	0	0	0	2	1	4	
550	操	ソウ	⑧―⑧	14	3	4	11	1	1	0	3	0	3	0	0	1	1	1	5.	体操(〜・器械〜・徒手〜ナド)㋙㋛㋟・操作(〜・〜上ナド)㋓ ㊚㊛・操縦(〜・〜士)㋙㋓など
7―⑧		みさお	⓪―①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	14	3	4	21	1	1	0	3	0	3	0	0	1	1	1	5	

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
551 ①—④	燥	ソウ	⑦—⑧	0	0	4	4	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	1	4	乾燥(～・～剤・～炉・～帯ナド)㋙㋛㋷(ダ)(ジ)・焦燥㋙
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	1	4	
552 ②—⑦	霜	ソウ	①—⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	霜葉㋙
		しも	⑤—⑧	47	3	10	60	1	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	4・3	霜(～・初～)㋙㋛㋔(ダ)・霜夜㋙・霜柱㋙(ダ)・霜月(～かぐら〈固〉)㋔
			〈字〉	47	5	10	62	1	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	4・3	
553 ⓪—⑤	騒	ソウ	④—⑧	0	4	0	4	1	2	0	1	2	0	0	0	2	3	0	5・4	騒音(～・～防止・～計)㋙㋛㋷㋟(ダ)・騒動(米～)㋛・騒々しい㋙
		さわぐ	③—⑧	0	6	5	11	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	騒ぐ(～・～ぎ立てるナド)㋙・騒ぎ(～・大～)㋙・騒がしい㋙
			〈字〉	0	10	5	15	1	2	0	1	2	0	0	0	2	3	0	5・4	
554 ⓪—④	憎	ゾウ	②—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		にくむ	②—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	憎む㋓・憎しみ㋙
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	
555 ③—⑦	臓	ゾウ	⑧—⑧	3	1	0	4	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	3・4	内臓(～・～筋・～器官)㋙㋷㋟(ジ)・心臓(～・～部・～病ナド)㋙㋷㋟・肝臓〈臓ノ代字〉㋷・臓器㋟など
			〈字〉	3	1	0	4	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	3・4	
556 ①—⑦	贈	ゾウ	⑤—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		おくる	⑤—⑧	3	24	8	35	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	贈る㋙・贈り物㋙㋓
			〈字〉	3	24	8	35	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	
557 ⑦—⑧	束	ソク	⑧—⑧	9	2	5	16	1	1	1	2	2	3	0	0	0	2	0	6・5	約束(～・～手形)㋙㋜㋛㋓(ダ)・磁束(ダ)・拘束(～・奴隷的～)㋛・維管束㋷・幣束㋙
		たば	③—⑧	2	1	6	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	束(～・わら～)㋙
			〈字〉	11	3	11	25	1	1	1	2	2	3	0	0	0	2	0	6・5	
558 ⓪—⑤	促	ソク	③—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	3	2	促染剤(ジ)・促進㋛(ダ)・促成(～栽培)㋛
		うながす	⓪—⑧	0	7	0	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	促す㋙(ダ)
			〈字〉	0	7	0	7	1	2	0	1	0	0	0	0	0	3	3	3	
559 ②—⑦	即	ソク	④—⑧	0	0	3	3	2・1	3	0	2	0	0	3	0	0	0	1	3・4	即興(～風)㋔・即位㋛・即席(～・～づけナド)(ジ)・即応(ジ)・即時(～・～釈放)㋛・即座㋙・即す㋙
			〈字〉	0	0	3	3	2・1	3	0	2	0	0	3	0	0	0	1	3・4	
560 ⓪—②	賊	ゾク	⑥—⑧	1	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	山賊㋛・海賊㋛・盗賊㋙
			〈字〉	1	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
561 ⓪—⑤	妥	ダ	⓪—⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	妥当㋙㋛
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　(ダ)=技術・家庭〈男子用〉　(ジ)=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋒	漢字	音訓	読 ㋑－㋒	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
562	惰	ダ	⓪－⑧	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	惰力㊊・惰惰㊁
⓪－⑥			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	
563	堕	ダ	⓪－⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	堕落㋒
⓪－③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
564	耐	タイ	④－⑧	0	0	5	5	1	3	0	1	3	3	0	0	0	1	1	5	耐水(～紙・～性)㊊㊋・耐寒(～性)㋒㋓・耐火㋓・耐熱(～性・～鋼)㊊㊋・忍耐㊁㋒㋓・耐久(～力ナLド)㋒㊊など
②－⑦		たえる	③－⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	3	3	0	0	0	3	4・5	耐える㊁㋒㋓㋔㊋
			〈字〉	0	0	7	7	1	3	0	1	3	3	3	0	0	1	1	6	
565	胎	タイ	②－⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	胎生㋓・胎児㋓
④－⑦			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	
566	怠	タイ	⓪－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－⑧		おこたる	⓪－⑦	0	2	6	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	怠る㊁
			〈字〉	0	2	6	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
567	泰	タイ	④－⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	安泰㊁
⓪－②			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	泰時ヤストキ〈固〉㋒など
568	逮	タイ	④－⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	2	逮捕(～・～状ナド)㋒㋓
①－④			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	2	
569	袋	タイ	⓪－⑤	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	花袋〈固〉㋒
⑥－⑧		ふくろ	⑧－⑧	12	1	0	13	1	1	0	2	2	1	0	0	0	3	3	5	袋(～・～状・買い物～ナド)㊁㋒㋓㋓㊊㊋・寝～㊁・手～㊁
			〈字〉	12	1	0	13	1	1	0	2	2	1	0	0	0	3	3	5	
570	替	タイ	①－⑦	2	1	0	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	交替(～・～制)㊁㋒
⓪－⑦		かえる	①－⑦	0	6	10	16	2	2	0	2	2	0	3	0	0	0	0	4	切り替える㊁・引き替え㊁・取り替える㊁・替える(～・～指・ぬり～ナド)㊁㋓㋔・両替(～・～屋)㋒なLど
			〈字〉	2	7	10	19	1	1	0	1	2	0	3	0	0	0	0	4	為替カワセ(～・～商・～手形・送金～ナド)㋒
571	滞	タイ	④－⑧	0	2	0	2	2	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	3	滞貨㋒・滞在㊁㋒・停滞(～・～前線)㋒㋓
⓪－①		とどこおる	⓪－⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	3	
572	滝	たき	⑧－⑧	0	0	9	9	1	3	0	1	0	3	2	0	0	0	0	4	滝㊁㋒㋓・滝〈固〉㋔・滝沢〈固〉㋒・鳴滝〈固〉㋒など
⑤－⑧			〈字〉	0	0	9	9	1	3	0	1	0	3	2	0	0	0	0	4	
573	宅	タク	⑧－⑧	0	5	2	7	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	1	3・4	住宅(～・～街・～問題ナド)㊁㋒㊋・宅地㋒・在宅㋓・宅(お～)㊁・邸宅(～・大～)㊁
⑦－⑥			〈字〉	0	5	2	7	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	1	3・4	

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
574	沢	タク	①—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	3	0	0	0	0	0	3	3・4	光沢㋙㋷㊛・沼沢(～地)㋛・恵沢㋛・良沢〈固〉㋙㋛・沢東〈固〉(毛～)㋛
④—⑥		さわ	⑦—⑧	10	0	7	17	1	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	3	沢水㋙・金沢〈固〉(～・～平野・～文庫ナド)㋙㋛・駒沢〈固〉㋪・田沢〈固〉(～湖)㋛・福沢〈固〉㋙㋛など
			〈字〉	10	0	10	20	1	1	0	1	3	0	0	3	0	0	3	4・5	
575	択	タク	①—⑧	0	4	3	7	2・1	2	3	3	3	0	3	0	0	3	1	6	選択(～・～曲・～法ナド)㋙㋜㋛㋷㋔㊚㊛・採択㋛
①—⑦			〈字〉	0	4	3	7	1	2	3	1	3	0	3	0	0	3	1	6	択捉 エトロフ〈固〉(～島)㋛
576	拓	タク	⑦—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	開拓(～・～者・未～ナド)㋙㋛㋔・干拓(～・～地ナド)㋛
⓪—⑤			〈字〉	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	
577	卓	タク	⑧—⑧	3	2	0	5	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	4	卓球(～・～場ナド)㋟・食卓㋙㊛・教卓㋙㋜・卓上(～・～旋盤ナド)㊚㊛
⑤—⑦			〈字〉	3	2	0	5	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	4	
578	託	タク	⑦—⑧	0	6	2	8	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2・3	委託㊛・信託(～・～統治ナド)㋛・付託㋛・託児(～所)㋙㋛・託す㋙
③—⑤			〈字〉	0	6	2	8	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2・3	
579	諾	ダク	①—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	承諾㋛・受諾㋛
⓪—④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
580	濁	ダク	⓪—⑧	0	1	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	濁度(～・～計)㋟・比濁(～票ナド)㋟・濁流㋙
⓪—⑤		にごる	⓪—⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	濁る(～・～り出す)㋙・濁り㋙
			〈字〉	0	1	6	7	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
581	但	ただし	⓪—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	但㋛・但書㋛
⓪—①			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
582	脱	ダツ	⑥—⑧	0	2	2	4	1	2	0	1	2	0	0	2	0	3	1	5	脱穀(～・動力～機)㋛㋪㊚・脱脂(～乳・～性・～綿ナド)㋷㊛・脱皮㋷・脱線㋙・離脱㋙など
①—⑦		ぬぐ	②—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	脱ぐ㋙
			〈字〉	0	2	5	7	1	2	0	1	2	0	0	2	0	3	1	5	
583	奪	ダツ	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	強奪㋛
⓪—④		うばう	②—⑦	0	0	5	5	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	奪う(～・～いあい)㋙㋛
			〈字〉	0	0	5	5	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
584	丹	タン	⑧—⑧	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	3	1	2	0	5・4	丹下〈固〉㋪㋟・丹那〈固〉(～トンネル)㋙・色丹 シコタン〈固〉(～島)㋛・光明丹㊚・丹波〈固〉(～山地)㋛
②—⑤			〈字〉	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	3	1	2	0	5・4	伊丹 イタミ〈固〉㋛
585	担	タン	⑧—⑧	5	9	1	15	1	1	0	2	0	0	0	1	1	2	0	5・4	分担(～・～者)㋙㋛㋪㋟㊚・負担(～・国庫～金ナド)㋛㋟・担任(～・学級～)㋙㋟・担当(～・製作～者)㋛㊚・担保㋛
⑧—⑦			〈字〉	5	9	1	15	1	1	0	2	0	0	0	1	1	2	0	5・4	

㋙＝国語 ㋜＝数学 ㋛＝社会 ㋷＝理科 ㋓＝英語 ㋔＝音楽 ㋪＝美術 ㋟＝保健体育 ㊚＝技術・家庭〈男子用〉 ㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋐－㋖	漢字	音訓	読 ㋐－㋖	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
586	胆	タン	②－⑧	2	1	2	5	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	胆のう㋑・胆じゅう㋑・胆液㋑・落胆㋒・豪胆㋒・大胆㋒
⓪－⑤			〈字〉	2	1	2	5	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
587	探	タン	⑦－⑧	3	5	6	14	1	1	0	1	0	3	0	3	0	0	0	4	探求(～・～者ナド)㋒㋓・探検(～・～隊ナド)㋒㋐・探偵(～・～小説ナド)㋒㋓・探題(六波羅～〈固〉)
⓪－⑧		さぐる	②－⑧	0	2	2	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	探る㋒ L㋐など
			〈字〉	3	7	8	18	1	1	0	1	0	3	0	3	0	0	0	4	
588	淡	タン	②－⑧	7	0	3	10	1	1	0	1	2	0	0	2	0	3	1	5	淡白〈淡泊トモ〉㋒㋐・淡水(～・～魚・～湖)㋐㋑㋐・淡色(～・～野菜)㋐・濃淡㋓・冷淡㋒・淡黄色㋑ L㋐
①－⑦		あわい	①－⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	淡い㋒・淡路〈国〉(～島・～人形)㋐㋑
			〈字〉	7	0	5	12	1	1	0	1	2	0	2	2	0	3	1	6	淡海オウミ〈国〉㋐
589	端	タン	③－⑧	0	8	3	11	1	2	1	1	1	2	0	0	0	1	1	6	両端㋐㋑㋐㋐・先端(～・～諸ナド)㋒㋐㋑㋒㋐・発端㋐・端子(～・出力～・～右ナド)㋑㋐㋐
①－⑦		はし	①－⑧	12	4	14	30	1	1	1	2	1	0	0	0	0	1	1	5	端(～・両～ナド)㋒㋐㋑㋐㋐・端々㋒ L～端㋒㋐㋑㋐など
			〈字〉	12	12	20	44	1	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	6	端金ハタガネ㋐・川端カワバタ〈固〉㋒・端ハ(山の～・上ウワバ～ナド)㋒㋐・端数ハスウ㋑
590	嘆	タン	⑩－⑧	5	4	5	14	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	感嘆(～・～文・～符)㋒㋓・嘆息㋒・嘆賞㋒
①－⑥		なげく	⑩－⑦	0	3	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	嘆く㋒・嘆き㋒
			〈字〉	5	7	5	17	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
591	誕	タン	⑦－⑧	1	4	0	5	1	1	0	2	3	3	3	0	0	0	3	5・6	誕生(～・～日)㋒㋐㋑㋓㋐
①－⑦			〈字〉	1	4	0	5	1	1	0	2	3	3	3	0	0	0	3	5・6	
592	鍛	タン	⑩－⑦	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	鍛接㋐・鍛造㋐
⓪－②		きたえる	⑩－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	2	鍛冶カジ㋒
593	段	ダン	⑧－⑧	80	81	76	237	1	1	3	1	1	3	0	1	1	1	1	8	段(～・上段・～目ナド)㋒㋒㋐㋐・階段(～・らせん～・非常～)㋒㋓㋒㋐・段階(～・発達～ナド)
⑥－⑧			〈字〉	80	81	76	237	1	1	3	1	1	3	0	1	1	1	1	8	段タン〈単位〉㋒ L㋒㋐㋓㋒㋐・値段㋒㋒㋐㋓㋐など
594	暖	ダン	⑧－⑧	3	1	1	5	1	1	0	1	1	0	0	1	2	3	0	6・5	寒暖(～・～計)㋒㋓㋓・暖流㋒㋑・暖房(～・～用ナド)㋒㋒㋐・温暖(～・～前線)㋒㋑・暖色㋓など
⑤－⑧		あたたかい	⑧－⑧	14	12	7	33	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3	0	3・2	暖める㋒㋒㋐・暖まる㋒㋐・暖か㋒・暖かい㋒
			〈字〉	17	13	8	38	1	1	0	1	1	0	0	1	2	3	0	6・5	
595	弾	ダン	⑧－⑧	3	3	5	11	1	1	0	2	2	0	1	0	0	1	1	5	弾力(～・～性)㋑㋐・弾性(～・～体)㋑㋐・弾圧㋒・弾劾(～裁判ナド)㋒・爆弾(～・原子～ナド)
⓪－⑥			〈字〉	3	3	5	11	1	1	0	2	2	0	1	0	0	1	1	5	弾物ヒキモノ㋓ L㋒㋒など
596	壇	ダン	⑥－⑧	0	9	2	11	2	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	4	花壇㋒㋖・教壇㋒㋒・俳壇㋒・仏壇㋒㋒・壇㋒・壇の浦〈固〉㋒㋒
⓪－④			〈字〉	0	9	2	11	2	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	4	

漢字番号 書Ⓐ―㊫	漢字	音訓	読 Ⓐ―㊫	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
597 ②―⑦	値	チ	②―⑧	0	3	23	26	1	2	1	1	2	0	0	0	2	1	3	6	値(平均～・測定～・最大～・絶対～・近似～・最頻～ナド)㋜㋷㋟㊚㊛・価値(～・利用～ナド)㋙㋛㋷㊚・数値㋛㋷㋟
		あたい	③―⑧	0	0	1	1	1	2	1	2	1	0	0	0	0	2	2	5	値㋷㋜㋛㋷㊚㊛
		ね	③―⑧	0	6	5	11	1	2	1	1	3	3	0	0	0	3	0	6・5	値㋙・値上げ㋜㋛・値上がり㋛・売り値㋜㋛・値引き㋜・値うち㋙㋓
			〈字〉	0	9	29	38	1	2	1	1	1	3	0	0	2	1	2	7	
598 ①―⑤	恥	チ	⓪―⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		はじる	③―⑧	0	12	2	14	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	恥じる㋙・恥づ㋙
			〈字〉	0	12	2	14	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
599 ⓪―③	致	チ	③―⑧	0	2	3	5	1	2	1	1	3	0	0	0	2	2	2	6	一致(～・不～・全員～・～協力)㋙㋜㋛㋷㋟㊚㊛
			〈字〉	0	2	3	5	1	2	1	1	3	0	0	0	2	2	2	6	
600 ⓪―⑧	痴	チ	④―⑧	0	4	4	8	2	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	痴患㋟・愚痴㋙・白痴(～・～化ナド)㋙㋟
			〈字〉	0	4	4	8	2	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	
601 ⓪―⑦	遅	チ	⑤―⑧	0	10	2	12	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	遅刻(～・～者・無～)㋙㋜
		おくれる	④―⑧	0	18	9	27	2	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3・2	遅れる㋙㋪・遅らす㊚・立ち遅れる㋙・手遅れ㋙
			〈字〉	0	28	11	39	1	2	1	0	0	0	0	3	0	3	0	4・3	遅いオソ㊚
602 ③―⑤	稚	チ	⑧―⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2・3	幼稚(～・～園)㋛　・稚児チゴ㋙・丁稚デッチ㋛
			〈字〉	0	0	1	1	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	3	3・4	稚内ワッカナイ〈固〉㋷
603 ⓪―①	逐	チク	⓪―⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
604 ②―⑧	畜	チク	⑧―⑧	0	2	6	8	1	2	0	1	3	0	0	0	2	1	0	5・4	家畜(～・～肉類)㋙㋛㋷㋟㊚・畜産(～物・～農業ナド)㋛・人畜㋙㋛㊚・畜生(～・～道)㋙・牧畜(～・～国)㋛・畜力㋛㊚など
			〈字〉	0	2	6	8	1	2	0	1	3	0	0	0	2	1	0	5・4	
605 ①―④	蓄	チク	⑧―⑧	4	0	20	24	1	1	0	1	2	0	0	0	3	3	3	5	蓄のう症㋟・蓄電池(～・～式ナド)㋙㋷㋟㊚・蓄音機(～・電気～)㋛㊛・貯蓄(～・～率)㋛・蓄積(～・知的～ナド)㋙㋛
			〈字〉	4	0	20	24	1	1	0	1	2	0	0	0	3	3	3	5	
606 ⓪―⑤	秩	チツ	②―⑧	0	3	3	6	2	2	0	2	0	0	0	3	3	0	0	4	秩序(～・無～・社会～ナド)㋙㋛㋪㋟
			〈字〉	0	3	3	6	1	2	0	1	0	0	2	3	3	0	0	5	秩父チチブ〈固〉㋛㋔
607 ①―④	窒	チツ	②―⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	2	0	0	0	2	3	0	4・3	窒息㋷㋟・窒素(～・石炭・～肥料)㋙㋷㊚
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	2	0	0	0	2	3	0	4・3	
608 ⓪―⓪	嫡	チャク	⓪―②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋮	漢字	音訓	読 ㋑－㋮	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
609	仲	チュウ	②－③	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	仲裁(～・～裁判)㋑・仲介㋑
③－⑧		なか	⑧－⑧	8	19	2	29	1	1	0	0	1	3	0	1	2	0	0	5	仲(～・～よい)㋐㋑・仲間(～・株～ナド)㋐㋑㋓㋕・仲継(～貿易ナド)㋑・仲買(～・～人)㋑・仲たがい㋒・義仲〈固〉㋐㋑
			〈字〉	8	19	2	29	1	1	0	2	1	3	0	1	2	0	0	6	
610	宙	チュウ	⑧－⑧	0	5	1	6	1	2	0	1	3	0	0	1	0	3	0	5・4	宇宙(～・～旅行・～通信・大～ナド)㋑㋑㋐㋕㋚
③－⑥			〈字〉	0	5	1	6	1	2	0	1	3	0	0	1	0	3	0	5・4	
611	抽	チュウ	③－⑦	0	0	5	5	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	抽象(～化・～的・～形・～主義)㋐㋕
③－⑥			〈字〉	0	0	5	5	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
612	衷	チュウ	⓪－③	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	折衷(保温～苗代)㋑
⓪－⓪			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
613	駐	チュウ	⑦－⑧	0	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	進駐㋑・駐留㋑・駐在㋒
②－⑥			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
614	鋳	チュウ	⓪－⑦	0	0	5	5	2	3	0	3	0	0	0	0	0	2	2	3	鋳鉄(～・～管・～用)㋐㋖・鋳造(～・～法)㋐㋑㋚・鋳貨㋑
⓪－⑥		いる	⓪－⑧	0	0	7	7	1	3	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3 2	鋳型㋐㋚・鋳物㋑㋚・鋳る㋒・鋳込む㋚
			〈字〉	0	0	12	12	1	3	0	1	0	0	0	0	0	2	2	3	
615	弔	チョウ	⓪－④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－②		とむらう	⓪－①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
616	兆	チョウ	④－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	2	兆〈単位〉(～円ナド)㋑㋚・兆民〈固〉㋑
⑥－⑧			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	2	
617	頂	チョウ	⑧－⑧	2	7	8	17	1	1	1	1	1	2	3	3	1	1	0	9・8	頂上㋐㋓㋔㋕㋑・絶頂㋔・山頂㋐㋑・登頂㋐・頂点㋐㋓㋑㋐㋚・対頂角㋓など
⑦－⑧		いただき	⓪－⑦	0	0	1	1	2	3	3	0	2	0	0	0	0	0	0	3	頂㋐㋓㋚
			〈字〉	2	7	9	18	1	1	1	1	1	2	3	3	1	1	0	9・8	
618	彫	チョウ	⑥－⑧	2	0	6	8	1	1	0	2	0	3	0	1	0	0	1	4・5	彫刻(～・～刀・～家・肖像～ナド)㋑㋑㋓㋕㋚・木彫㋑・彫塑(～・～作品 ㋕・彫像㋕
⓪－⑧		ほる	④－⑧	0	6	2	8	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	彫る(～・～り刻むナド)㋐㋕・浮き彫り㋕・彫り(鉄針～・高肉～ナド)㋕
			〈字〉	2	6	8	16	1	1	0	2	0	3	0	1	0	0	1	4・5	
619	超	チョウ	③－⑧	3	2	4	9	1	1	0	3	2	0	0	3	0	0	0	4	超越㋒・超人(～・～的)㋒・超過(輸出～ナド)㋑・超(～音波・～特急・～現実主義ナド)㋑㋐㋕
⓪－⑤			〈字〉	3	2	4	9	1	1	0	3	2	0	0	3	0	0	0	4	
620	脹	チョウ	①－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
①－⓪			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

漢字番号 書㋩—㊌	漢字	音訓	読 ㋩—㊌	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
621	跳	チョウ	③—⑧	0	0	2	2	1	3	0	0	0	0	3	0	1	0	0	3	跳躍㋙㋔㋟、跳力㋟・跳㋟
⓪—④			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	0	0	3	3	0	1	0	0	4	跳ぶ(～・～び上がる・～び下りる)㋓
622	徴	チョウ	⑤—⑧	4	2	17	23	1	1	3	2	2	0	1	1	1	1	3	8	特徴㋙㋜㋛㋷㋔㋪㋟㊚㊛・象徴(～・～的記号)㋛㋪・徴候㊚・徴収(～・源泉～)㋛・徴兵(～令ナド)㋛など
⓪—④			〈字〉	4	2	17	23	1	1	3	2	2	0	1	1	1	1	3	8	
623	潮	チョウ	③—⑧	0	6	3	9	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	風潮㋙㋛・満潮㋷・潮流㋙・潮解(～・～性)㋷・紅潮㋙・潮音館〈固〉㋙
③—⑧		しお	⑧—⑧	1	30	3	34	1	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	4	潮(～・大～・～鳴りナド)㋙㋛㋷㋔・黒潮〈固〉㋙㋛㋷・親潮〈固〉㋛㋷・高潮㋛㋷・血潮㋙など
			〈字〉	1	36	6	43	1	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	4	
624	澄	チョウ	②—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	清澄㋙・澄明㋙・故澄〈固〉㋛
①—⑧		すむ	②—⑧	0	5	7	12	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	澄む㋙㋔・澄ます㋙・澄み渡る㋙・義澄〈固〉㋛
			〈字〉	0	5	10	15	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	
625	懲	チョウ	②—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	懲役㋛・懲罰㋛・懲戒(～処分)㋛
⓪—③		こらす	⓪—⑤	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	懲りる㋙
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
626	聴	チョウ	⑥—⑧	0	17	1	18	2	2	0	3	2	0	0	0	2	0	0	4	聴力㋟・聴衆㋙・聴診㋟・聴竹㋷・聴神経㋷・難聴㋟・傍聴(～・～人)㋛・聴取(～者・～率ナド)㋙など
①—⑤			〈字〉	0	17	1	18	2	2	0	3	2	0	0	0	2	0	0	4	
627	庁	チョウ	⑧—⑧	0	4	3	7	1	2	0	1	2	0	0	0	2	2	1	5	官庁(～・行政～・～街ナド)㋙㋛・県庁㋙㋛・庁(～・気象～・警察～ナド)㋙㋛㋷㋟㊚㊛・支庁㋛
③—⑧			〈字〉	0	4	3	7	1	2	0	1	2	0	0	0	2	2	1	5	
628	勅	チョク	⓪—⑧	3	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	勅語(教育～)㋛・勅令㋛・勅輸㋛・詔勅㋛・勅任㋛・勅使㋙
⓪—⑤			〈字〉	3	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
629	沈	チン	⑥—⑧	0	4	0	4	1	2	0	1	2	3	1	0	2	0	0	6	沈黙㋙㋛㋓㋔・沈降(～・～速度ナド)㋛㋷㋟・沈下(～・地盤～)㋛㋷・沈殿㋷
⑤—⑦		しずむ	⑥—⑧	0	7	7	14	1	2	1	0	0	2	3	0	0	0	0	4	沈む㋙㋓㋔・沈める㋙㋜
			〈字〉	0	11	7	18	1	2	1	1	2	2	1	0	2	0	0	7	
630	珍	チン	⑤—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	〈開珍〉(和同〈固〉～)㋛
⓪—⑦		めずらしい	④—⑧	0	9	6	15	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	珍しい(～・もの～・お～)㋙・珍し㋛
			〈字〉	0	9	6	15	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
631	朕	チン	⓪—④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—④			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
632	陳	チン	②—⑦	0	0	0	0	0·2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0・1	陳列(～ケース)㊛
①—⑥			〈字〉	0	0	0	0	0·2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0・1	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋐—㊉	漢字	音訓	読 ㋐—㊉	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
633	鎮	チン	⓪—⑧	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3・2	鎮圧㋛㋷・鎮守㋝
⓪—①			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3・2	
634	津	つ	⑧—⑧	2	4	12	18	1	1	1	1	1	0	1	3	0	0	0	6	津軽〈固〉㋔・会津(～・～若松)〈固〉㋝㋛・新津〈固〉㋛・大津〈固〉(～・～市)㋝㋛・島津〈固〉(～氏)㋛・L津波㋛など
④—⑦			〈字〉	2	4	12	18	1	1	1	1	1	0	1	3	0	0	0	6	
635	墜	ツイ	③—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	墜落㋝
⓪—④			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
636	痛	ツウ	⑦—⑧	0	5	2	7	1	2	0	0	2	0	3	0	1	0	0	4	腹痛㋗・頭痛㋗・神経痛(～・座骨～・ろっ間～)㋗・苦痛㋝・悲痛㋔・痛倶○・痛烈㋝・痛点㋑など
④—⑧		いたむ	⑧—⑧	8	4	2	14	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	痛む㋝㋗・痛い㋝・痛み㋝㋑㋗・痛める㋝㋗
			〈字〉	8	9	4	21	1	1	0	0	2	0	3	0	1	0	0	4	
637	坪	つぼ	③—⑧	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	坪〈単位〉㋜・坪内〈固〉㋛
②—③			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
638	呈	テイ	⑥—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1・2	呈する㋛㋐
2—④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1・2	
639	廷	テイ	⑦—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	3	3	0	0	0	4	朝廷(～・～軍・大和～〈固〉)㋛㋔・法廷(～・民事～・小～ナド)㋛・宮廷(～・～音楽)㋝㋔㋓・廷吏㋛
⓪—②			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	3	3	0	0	0	4	
640	邸	テイ	⑤—⑧	⓪	⑤	⓪	⑤	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	官邸(首相～)㋛・邸宅(～・大～)㋝
⓪—②			〈字〉	0	5	0	5	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
641	抵	テイ	⑦—⑧	1	2	3	6	1	1	2	2	2	0	0	0	1	3	1	6	抵抗(～・～力・負荷～・無～主義ナド)㋝㋜㋛㋑㋗㋷㋐
①—⑥			〈字〉	1	2	3	6	1	1	2	2	2	0	0	0	1	3	1	6	
642	帝	テイ	⑦—⑧	2	2	6	10	1	1	0	1	3	0	1	0	3	0	0	5	皇帝(～・～賛歌・～円舞曲〈固〉・始～〈固〉ナド)㋝㋛㋑㋔・帝国(～・大～・～憲法・～主義ナド)㋝㋛L㋗など
④—⑧			〈字〉	2	2	7	11	1	1	0	1	3	0	1	0	3	0	0	5	帝ダイ(煬ヨウ〈固〉～)㋛・帝ミカド㋝
643	訂	テイ	①—⑧	0	2	4	6	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	2・3	訂正㋝・改訂㋝㋜㋐・新訂(～・～版)㋝㋐
①—⑥			〈字〉	0	2	4	6	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
644	貞	テイ	②—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—②			〈字〉	1	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	貞永ジョウエイ〈固〉(～・～式目)㋛・義貞ヨシサダ〈固〉㋛など
645	逓	テイ	⓪—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—②			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

漢字番号 書㋑－㋒	漢字	音訓	読 ㋑－㋒	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
646	堤	テイ	⑧－⑧	0	9	0	9	1	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	長堤㋔・堤防(～・～工事)㋛㋔・防波堤㋙
①－③		つつみ	①－⑤	4	0	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	堤(～・～中納言物語〈周〉)㋙㋛
			〈字〉	4	9	0	13	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	
647	艇	テイ	③－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
①－①			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
648	締	テイ	① ⑦	0	0	0	0	2・3	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2・1	締結(～・～用)㋛㋟・締約(～国)㋛
⓪－⑥		しまる	③－⑧	0	0	10	10	3	3	0	3	0	0	0	0	0	3	3	3	締める(～・～め直す・～めぐあいナド)㋙㋟・取り締まり〈取締トモ〉(～・～役)㋙㋛・締まる㋟・踏み締める㋙など
			〈字〉	0	0	10	10	2・3	3	0	3	0	0	0	0	0	2	3	3	
649	笛	テキ	⑥－⑧	4	0	4	8	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	3	龍笛㋔・複笛㋔・和笛㋔・汽笛㋙㋓・警笛㋙
③－⑥		ふえ	⑧－⑧	5	1	15	21	1	1	0	0	0	0	3	3	0	0	0	3	笛(～・角～・高麗～・～座ナド)㋙㋔㋟・横笛㋔・アシ笛㋙
			〈字〉	9	1	19	29	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	3	
650	摘	テキ	⑦－⑧	0	2	3	5	1・2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	摘花㋟・摘心㋟・摘録㋙・指摘㋙
⓪－③		つむ	⓪－④	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	摘む㋙
			〈字〉	0	2	4	6	1・2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2・1	
651	滴	テキ	⑧－⑧	0	0	2	2	2・1	3	0	0	3	0	0	0	0	2	1	3	滴〈単位〉㋚㋝・水滴㋝・滴下㋟・滴々㋙
⓪－⑧			〈字〉	0	0	2	2	2・1	3	0	0	3	0	0	0	0	2	1	3	
652	迭	テツ	⓪－⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－③			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
653	哲	テツ	④－⑧	2	1	13	16	1	1	0	2	3	3	2	0	0	0	3	5・6	哲学(～・～者・近代～ナド)㋙㋛㋚㋓・哲〈周〉㋛・哲夫〈周〉㋔など
⓪－⑦			〈字〉	2	1	13	16	1	1	0	2	3	3	2	0	0	0	3	5・6	
654	撤	テツ	⓪－⑧	0	3	0	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	撤廃㋛・撤回㋙㋛・撤兵㋛・撤去㋛
⓪－④			〈字〉	0	3	0	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
655	徹	テツ	①－⑧	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	徹底㋙㋛・透徹(～・～冷厳)㋙
⓪－④			〈字〉	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
656	添	テン	⓪－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－②		そえる	⓪－⑧	0	3	17	20	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	添える(～・書き～・お力～え)㋙・付き添う㋙・寄り添う㋙・添う(降り～)㋙
			〈字〉	0	3	17	20	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

㋙＝国語　㋛＝数学　㋛＝社会　㋚＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋟＝美術　㋗＝保健体育　㋟＝技術・家庭〈男子用〉　㋝＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
657 ③—⑦	殿	テン	③—⑧	0	4	1	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	御殿㋙
		デン	③—⑧	3	3	2	8	1	1	0	1	2	3	0	2	0	0	0	5	神殿㋛㋪・仏殿㋛・社殿㋙・宮殿㋙㋛㋓・寝殿(～・～造り)㋛・沈殿㋷など
		との	⑦—⑧	3	1	3	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	殿(～・～がた・～様)㋙
		どの	⑧—⑧	0	2	6	8	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	夢殿〈固〉㋙㋪・高殿㋙・殿〈敬称〉㋙
			〈字〉	6	10	12	28	1	1	0	1	2	3	0	2	0	0	0	5	
658 ⑤—⑧	斗	ト	⑦—⑧	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	2	北斗(～七星〈固〉)㋷・斗〈単位〉㋜
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	2	
659 ⓪—⑦	吐	ト	②—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	吐血㋟
		はく	①—⑧	4	0	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	吐く㋙
			〈字〉	4	0	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	
660 ③—⑧	途	ト	③—⑧	12	11	13	36	1	1	2	1	1	3	1	2	2	1	1	9	途中㋙㋜㋛㋷㋓㋔㋟㊚㊛・中途(～・～はんぱ)㋙・途上㋛・使途㋛・用途㋛㋷㋪㊚㊛・前途㋙・途次㋙など
			〈字〉	12	11	13	36	1	1	2	1	1	3	1	2	2	1	1	9	
661 ⑦—⑧	渡	ト	④—⑧	9	0	6	15	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	4	渡来㋙・渡航(～・～者ナド)㋙㋛・渡御(海上～)㋙・渡欧㋛・佐渡〈固〉(～・～島・～おけさ)㋙㋛㋷㋔
		わたる	⑦—⑧	2	17	43	62	1	1	3	2	0	2	1	2	3	2	0	8・7	綱渡り㋔・橋渡し㋔・渡り鳥㋙㋟・見渡す㋙・手渡す㋙・渡る(～・知れ～ナド)㋙㋛㋓・渡辺〈固〉㋛など
			〈字〉	11	17	49	77	1	1	3	2	1	2	1	2	3	2	0	9・8	渡島オシマ〈固〉(～半島)㋛
662 ⓪—⑦	塗	ト	④—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	3	0	0	0	0	1	1	4	塗料(～・透明～ナド)㋙㋛㋷㊚㊛・塗装(～・～ばえナド)㊚㊛・塗膜㊚・塗面㊚㊛
		ぬる	④—⑧	0	0	8	8	2	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	塗る(～・～り分けるナド)㋙㋪・塗り㋙
			〈字〉	0	0	9	9	1	3	0	1	3	0	0	2	0	1	1	5	
663 ⓪—⑦	奴	ド	①—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	奴隷(～・～制度・～解放令ナド)㋛・農奴(～・～解放)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	奴ナ(漢の委の～の国王・～国)㋛
664 ①—⑦	怒	ド	①—⑦	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	怒濤㋙・喜怒哀楽㋙
		いかる	②—⑧	0	3	1	4	2	2	0	0	0	2	0	0	3	0	0	3	怒る(～・～れる)㋙㋓㋟・怒り㋙
			〈字〉	0	3	6	9	1	2	0	1	0	2	0	0	3	0	0	4	鬼怒キヌ〈固〉(～川ガワ)㋛・怒るオコ(～りっぽい)㋓
665 ⑦—⑧	豆	ズ	⑧—⑧	2	1	0	3	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	3・4	大豆(～・～油)㋛㋷㊛・伊豆〈固〉(～・～諸島ナド)㋙㋛㋷
		トウ	⑥—⑧	0	3	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	豆腐㋙
		まめ	⑧—⑧	8	2	0	10	1	1	1	1	1	0	0	0	2	3	1	6	豆(～・～類・～粒・～製品・黒～・～電球ナド)㋙㋜㋛㋷㋟㊚㊛
			〈字〉	10	6	0	16	1	1	1	1	1	0	0	0	2	3	1	6	
666 ③—⑤	到	トウ	⑤—⑧	0	2	2	4	1	2	0	1	3	2	0	0	0	0	0	4	到着㋙㋛㋓・到達㋛㋷・到来㋙
			〈字〉	0	2	2	4	1	2	0	1	3	2	0	0	0	0	0	4	

漢字番号 書㊥－㊥	漢字	音訓	読 ㊦－㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
667	倒	トウ	④－⑧	0	1	1	2	2	2	0	2	3	0	0	0	2	3	0	5・4	倒産㋛・倒かい㋟・倒幕(～派・～運動)㋛・倒立㋑・圧倒(～的)㋒㋛・転倒㋟など
⓪－⑥		たおれる	③－⑧	0	0	10	10	1	3	0	3	0	0	1	0	1	0	0	4	倒れる(～・～れかかる)㋒㋛㋔㋟・倒す㋛㋟・共倒れ㋛
			〈字〉	0	1	11	12	1	2	0	2	3	0	1	0	1	3	0	6・5	
668	凍	トウ	⑧－⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	2	0	0	0	2	2	2	5	凍傷㋟・凍死㋟・冷凍(～・～法・～食品・～船ナド)㋒㋛㋑㋟㋩㋭
①－⑥		こおる	③－⑧	3	1	3	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	凍る㋒・凍りつく㋒
		こごえる	①－⑧	3	0	4	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	凍える(～・～え死にナド)㋒
			〈字〉	6	1	8	15	1	1	0	1	2	0	0	0	2	2	2	5	
669	唐	トウ	⑦－⑧	0	4	11	15	1	2	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	唐〈固〉(～・～風・～詩ナド)㋒㋛㋩・李唐〈固〉㋩・遣唐使㋒㋛・唐招提寺〈固〉㋛
③－⑧			〈字〉	0	7	11	18	1	2	0	1	0	0	1	2	0	0	0	4	唐津カラツ〈固〉㋛㋔・唐衣カラギヌ㋛・唐子カラコ㋒
670	桃	トウ	⑤－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑤－⑧		もも	⑧－⑧	3	0	2	5	1	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	3	桃山〈固〉(～・～時代・～文化ナド)㋒㋛㋩・桃(～・～の木・～畑)㋒
			〈字〉	3	0	2	5	1	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	3	
671	逃	トウ	③－⑧	0	4	2	6	2	2	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3	逃避㋒㋩・逃散㋛・逃亡㋒
②－⑦		にげる	⑥－⑧	7	12	4	23	1	1	0	0	0	2	0	0	0	3	0	3・2	逃げる(～・～げ込む・～げ場ナド)㋒㋓㋩・逃がす㋒
			〈字〉	7	16	6	29	1	1	0	3	0	2	0	3	0	3	0	5・4	逃ノガれる㋓
672	透	トウ	④－⑧	0	3	2	5	1	2	0	2	1	0	0	2	2	1	1	6	透明(～・不～・半～・無色～・～度ナド)㋒㋑㋩㋟㋭㋭・透視(一点～・～図ナド)㋩㋭・透過㋑・透谷 L〈固〉㋛など
①－⑧		すく	⓪－⑧	0	5	3	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	透く㋒・透かす㋒・透き通る㋒
			〈字〉	0	12	5	17	1	2	0	2	1	0	0	2	2	1	1	6	透るトオ㋒
673	陶	トウ	⑤－⑧	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	3	0	1	1	5	陶器(～・～工場ナド)㋛㋩㋭㋭・陶磁器㋛㋑㋭・陶土㋛・製陶術㋛・陶〈固〉㋒
⓪－②			〈字〉	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	3	0	1	1	5	
674	悼	トウ	①－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－1			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
675	痘	トウ	⑧－⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	天然痘㋛
⓪－④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
676	筒	トウ	⑦－⑧	0	4	2	6	2・1	2	0	0	2	0	0	0	3	2	1	4	円筒(～・～状・～形ナド)㋒㋑㋩㋭・換気筒㋟㋭・外筒(糸調子～)㋭・封筒㋒
⓪－⑥		つつ	③－⑧	0	5	0	5	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	筒(～・～型・打ち上げ～)㋒㋑
			〈字〉	0	9	2	11	2・1	2	0	0	2	0	0	0	3	2	1	4	
677	塔	トウ	⑥－⑧	0	0	1	1	2	3	3	2	2	2	0	2	0	0	0	6	塔(～・～上・管制～・尖～ナド)㋜㋛㋑㋓㋩・五重塔㋛㋩・鉄塔㋑・卒塔婆㋒
⓪－⑤			〈字〉	0	0	1	1	2	3	3	2	2	2	0	2	0	0	0	6	

㋒＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋑＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋩＝美術　㋟＝保健体育　㋭＝技術・家庭〈男子用〉　㋭＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋕	漢字	音訓	読 ㋑－㋕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
678	盗	トウ	⑥－⑧	1	5	1	7	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	強盗㋒㋓㋔・盗賊㋒ほか
⓪－⑦		ぬすむ	⑤－⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	盗む(～・～み)㋒㋖
			〈字〉	1	5	3	9	1	1	0	2	0	2	0	0	3	0	0	4	
679	稲	トウ	⓪－⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	陸稲㋒・水稲(～・～収穫量)㋒
⑧－⑧		いね	⑧－⑧	6	0	4	10	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	稲㋒㋒・稲かり㋒・稲イナ作㋒・稲イナ田㋒・稲イナ垣〈圃〉㋖・稲イナ磨〈圃〉㋒など
			〈字〉	7	3	5	15	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	早稲ワセ㋒・早稲田ワセダ〈図〉(～大学)㋒㋒
680	踏	トウ	⓪－⑧	3	3	0	6	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	舞踏(～・～家・～学校)㋒㋖・雑踏㋒・踏査(単身～)㋒
⓪－⑤		ふむ	④－⑧	0	14	13	27	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	踏切㋒㋖・踏み出す㋒・踏み込む㋒・踏みしめる㋒・踏んばる㋒・踏む(～・～みくだくナド)㋒・踏絵㋒など
			〈字〉	3	17	13	33	1	1	0	2	0	0	3	0	1	0	0	4	
681	糖	トウ	⑦－⑧	0	4	0	4	1	2	0	1	2	0	0	3	2	0	1	5・6	砂糖(～・～水・～入れナド)㋒㋒㋓・糖分㋐㋖・糖類㋐・金平糖㋒・糖尿病㋕・製糖(～・～工場)など
⓪－⑧			⑭字〉	0	4	0	4	1	2	0	1	2	0	0	3	2	0	1	5・6	
682	騰	トウ	①－⑧	0	0	0	0	2	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	2	騰貴(物価～)㋒・沸騰㋐
⓪－①			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	2	
683	闘	トウ	⑤－⑧	0	0	5	5	2	3	0	3	0	3	3	3	2	0	0	6	闘牛(～・～士)㋔㋖㋕・健闘㋒・戦闘(非～員)㋒・奮闘㋒・苦闘(悪戦～㋒・闘争㋒
⓪－⑤			〈字〉	0	0	5	5	2	3	0	3	0	3	3	3	2	0	0	6	
684	謄	トウ	⓪－⑧	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	謄写(～版)㋒
⓪－①			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
685	胴	ドウ	⑧－⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	1	1	1	5	胴体(～・～部)㋒㋒・胴回り(～・～線・～寸法ナド)㋕・胴(～・～付き・～はぎナド)㋒㋐㋖㋕
②－⑧			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	1	1	1	5	
686	峠	とうげ	⑦－⑧	2	0	5	7	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	峠(～・人形～〈岡〉・徳本トクゴウの～〈岡〉)㋒㋒
③－⑧			〈字〉	2	0	5	7	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
687	匿	トク	⓪－④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－①			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
688	督	トク	⑤－⑧	2	0	5	7	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	監督(～・指揮～ナド)㋒㋒・提督㋒・家督(～相続)㋒
⓪－②			〈字〉	2	0	5	7	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
689	篤	トク	⓪－⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－①			〈字〉	0	5	0	5	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	実篤サネアツ〈岡〉㋒㋒・篤胤アツタネ〈岡〉㋒

漢字番号 改㊇—㊅	漢字	音訓	読 ㊇—㊅	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
690	突	トツ	④—⑧	0	9	15	24	1	2	2	1	2	0	0	0	2	3	2	6	煙突㋙㋜㋛㋷㋟・衝突(～・武力～ナド)㋛㋷㋻・突起(～・条～)㋷㋕・突然(～・～変異)㋙㋷など
①—⑥		つく	②—⑧	0	15	8	23	1	2	0	0	1	3	0	0	0	2	0	4・3	突く(～・～き進むナド)㋙㋷・突き刺す㋙㋓・突き飛ばす㋙・突き放す㋙・突き止める㋙など
			〈字〉	0	24	23	47	1	2	2	1	1	3	0	0	2	2	2	7	
691	豚	トン	④—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	豚脂㋷
①—⑥		ぶた	⑧—⑧	0	0	0	0	0·3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0・1	豚(～肉)㋕
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	1・2	
692	鈍	ドン	②—⑧	0	0	3	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	鈍角(～・～三角形)㋜・愚鈍㋙
①—⑦		にぶい	⓪—⑧	0	2	1	3	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	鈍い㋙・鈍る㋛
			〈字〉	0	2	4	6	1	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
693	曇	ドン	③—⑦	0	0	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	曇天㋙㋛
②—⑦		くもる	⑦—⑧	0	7	1	8	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	曇る(～・～り始める・～り空)㋙㋷・曇り㋙㋷
			〈字〉	0	7	3	10	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
694	軟	ナン	①—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3	1	1	1	4	軟石㋪・軟鋼(～・～板ナド)㋷㋻㋕・軟骨㋷・軟水㋕・軟体動物㋷・軟食㋕・軟材(～・～用)㋕・柔軟(～・～さ・～性)㋟など
①—⑧			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3	1	1	1	4	
695	尼	ニ	①—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②—⑥		あま	⑦—⑧	0	0	8	8	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	尼(～・～君)㋙・尼崎〈固〉(～・～市)㋛
			〈字〉	0	0	8	8	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
696	乳	ニュウ	⑧—⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	1	2	0	1	5・6	牛乳(～・～列車〈固〉㋪㋟・乳牛㋛・乳幼児㋟・乳児(～・～死亡率)㋟・胚乳㋷・乳歯㋷・授乳(～・～中ナド)㋟㋕など
⑦—⑧		ち	⓪—⑧	2	0	3	5	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	乳房㋟・乳のみ子㋙・乳児チゴ㋙
		ちち	⑧—⑧	9	4	3	16	1	1	0	0	2	0	0	0	3	0	1	3・4	乳(～・生ナマ～・～色・～下)㋙㋷㋟㋕
			〈字〉	11	4	11	26	1	1	0	1	2	0	0	1	2	0	1	5・6	乳母ウバ㋙㋛・乳母メノト㋙
697	尿	ニョウ	②—⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	2・3	尿㋷㋟・尿器㋟・尿素(～・～樹脂ナド)㋷㋕・ふん尿㋟・糖尿病㋕・輸尿管㋷
⓪—⑦			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	2・3	
698	妊	ニン	③—⑧	0	0	0	0	0·2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0・1	妊婦㋕
①—⑤			〈字〉	0	0	0	0	0·2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0・1	
699	忍	ニン	⑧—⑧	0	2	5	7	2	2	0	3	3	3	0	0	0	0	0	3	忍耐㋙㋛㋓・忍苦㋙
④—⑧		しのぶ	⓪—⑧	1	5	3	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	忍ぶ(～・～び声)㋙・忍び㋙・忍〈固〉㋙・不忍シノバズ〈固〉(～池)㋙
			〈字〉	1	7	8	16	1	1	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㋻＝技術・家庭〈男子用〉　㋕＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)―(卒)	漢字	音訓	読 (入)―(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
700 ⓪―③	寧	ネイ	⓪―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	安寧(～秩序)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
701 ①―⑧	粘	ネン	⑦―⑧	0	0	2	2	1	3	3	1	2	0	0	1	0	1	1	6	粘土(～・油～・～板・～質)㋙㋜㋷㋪㊚㊛・粘度㊚・粘液㋙・粘膜㋷・粘結炭㋛㊚
		ねばる	②―⑤	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	粘る㋙・粘り(～け)㋙
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	3	1	2	0	0	1	0	1	1	6	
702 ①―⑤	悩	ノウ	②―⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	苦悩㋙㋛
		なやむ	③―⑧	0	5	55	60	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	悩み㋙・悩む(～・～み抜くナド)㋙・伸び悩む㋙・悩ます㋙
			〈字〉	0	5	57	62	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
703 ⓪―⑥	脳	ノウ	⑥―⑧	0	6	3	9	2	2	0	3	2	0	0	0	2	3	2	5	脳(～・～神経・～出血ナド)㋷㋟㊛・大脳(～・～皮質)㋟・頭脳(～・～労働者・人工～)㋙㋛㊚など
			〈字〉	0	6	3	9	2	2	0	3	2	0	0	0	2	3	2	5	
704 ④―⑧	濃	ノウ	⑥―⑧	0	2	0	2	1	2	1	1	2	0	0	2	2	0	2	6・7	濃厚㋪㊛・濃度㋜㋷㋟㊛・濃霧㋙㋛・濃色㊛・濃(～硫酸ナド)㋷・濃尾〈固〉㋛
		こい	④―⑧	0	0	4	4	1	3	1	0	0	0	0	0	0	3	1	3	濃い(～・～すぎる・～め)㋜㋛㊚㊛
			〈字〉	0	3	5	8	1	2	1	1	2	0	1	2	2	3	1	8	信濃シナノ〈固〉(～・～川・～追分ナド)㋙㋛㋔
705 ⓪―⑤	婆	バ	④―⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	老婆㋙・卒塔婆㋙
			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
706 ⓪―④	杯	ハイ	⑥―⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	杯(一～)㋙
		さかずき	①―⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
707 ④―⑦	肺	ハイ	⑥―⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	肺(～・～呼吸・～循環ナド)㋷㋟・肺結核(～・～患者ナド)㋟・肺炎(～・～菌)㋟・肺胞(～・～内)㋷・肺活量㋟
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	
708 ⑧―⑧	背	ハイ	③―⑧	0	2	8	10	1	2	0	1	3	3	0	0	2	0	0	5	背筋力(～・～計)㋟・背景(～・社会的～)㋙㋛・後背地㋛・背斜㋷・背後㋙㋛㋓
		せ	⑧―⑧	10	10	13	33	1	1	0	1	2	2	0	0	1	1	1	6	背(～・～板・びらきナド)㋟㊚㊛・背中㋙㋟・背たけ㋙㊛・背広㋙・背骨〈背ぼねトモ〉㋙㋷・背負う㋙㋟など
			〈字〉	10	12	21	43	1	1	0	1	2	2	0	0	1	1	1	6	背嚢ランドセル㋛
709 ②―⑥	俳	ハイ	⑧―⑧	0	3	35	38	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	俳諧㋙㋛・俳人㋙㋛・俳句㋙㋛・俳壇㋙・俳優㋙
			〈字〉	0	3	35	38	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
710 ⓪―④	排	ハイ	⑤―⑧	0	3	9	12	1	2	0	1	2	0	1	2	0	3	3	5	排出(～・～溝ナド)㋷㋟㊚・排水(～・～口ナド)㋛㊚㊛・排気(～ガスナド)㋷㊚・排除(～・弊害～)㋙㋛など
			〈字〉	0	3	9	12	1	2	0	1	2	0	0	0	2	3	3	5	
711 ②―⑤	廃	ハイ	④―⑧	3	0	4	7	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	2	4・5	廃棄(～・～量・～分ナド)㋛㋟㊛・廃止㋙㋛・廃墟㋛・廃刀(～令)㋛・退廃㋙㋛・廃す㋛など
			〈字〉	3	0	4	7	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	2	4・5	

漢字番号 書㋑－㋕	漢字	音・訓	読 ㋑－㋕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
712	輩	ハイ	㋔－㋑	0	5	1	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	吾輩(～は猫である〈国〉)㋒・先輩㋓・後輩㋓
⓪－⑥			〈字〉	0	5	1	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
713	培	バイ	㋒－㋒	0	0	2	2	1	3	3	1	2	0	0	0	2	1	2	6	培養(～・～基・～土ナド)㋑㋒㋘・栽培(～・～中・～法・早期～ナド)㋔㋒㋑㋘㋙・培土(～・～板)㋘
②－⑧			〈字〉	0	0	2	2	1	3	3	1	2	0	0	0	2	1	2	6	
714	梅	バイ	㋖－㋒	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	梅雨(～・～前線)㋒㋑・梅岩〈固〉㋒
⑦－⑧		うめ	㋖－㋒	3	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2・3	梅(～・～型)㋓㋙・梅田〈固〉㋒・梅太郎〈固〉㋒
			〈字〉	3	0	0	3	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	3・4	青梅オウメ〈固〉㋒
715	陪	バイ	㋓－㋒	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	陪審(～員・～名簿)㋒
⓪－⓪			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
716	媒	バイ	⓪－㋖	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	1・2	媒介㋙・溶媒㋑・触媒㋑・虫媒花㋑・風媒花㋑
⓪－④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	1・2	
717	賠	バイ	㋗－㋒	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	賠償(～・損害～・～金ナド)㋒
⓪－⑥			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
718	伯	ハク	㋖－㋓	2	0	0	2	1	1	0	2	0	3	0	2	0	0	0	4	伯爵(～・～夫人)㋓㋔・伯〈伯爵ノ略〉㋒・等伯〈固〉㋒㋔
②－⑤			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	1	0	3	1	2	0	0	0	5	佐伯サエキ〈固〉㋒㋔
719	拍	ハク	㋗－㋓	0	2	4	6	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	拍(～・強～)㋕・拍手㋓
①－⑧		ヒョウ	⑥－㋓	0	1	2	3	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	拍子(～・銅ド～ナド)㋓㋕・手拍子㋕・拍子抜け㋓
			〈字〉	0	3	6	9	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
720	迫	ハク	㋔－㋓	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	迫害㋓㋒・圧迫㋓㋒・脅迫㋒
③－⑦		せまる	③－㋓	10	6	7	23	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	迫る㋓
			〈字〉	10	6	9	25	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
721	泊	ハク	㋓－㋓	0	3	2	5	2	2	0	0	0	0	0	0	3	0	2	2・3	宿泊(～所)㋒・泊㋓・漂泊㋓・淡泊㋙
⓪－②		とまる	⑤－㋓	13	5	1	19	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	泊める㋓・泊まる㋓・大泊〈固〉㋓
			〈字〉	13	8	3	24	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	2	2・3	
722	舶	ハク	㋒－㋓	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	0	0	3	1	4	船舶(～・中小～ナド)㋓㋒㋑㋘㋙・停舶㋓
⓪－⑧			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	1	2	0	0	0	0	3	1	4	
723	薄	ハク	①－㋖	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	2	2・3	薄弱(精神～ナド)㋒・薄力粉㋙・希薄①
⓪－④		うすい	②－㋓	1	0	8	9	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3	1	3	薄める㋓㋒㋘・薄い(～・～暗い・～やみ・～氷ナド)㋓㋘㋙・薄地㋙・薄刃㋙・薄れる㋓など
			〈字〉	1	0	8	9	1	1	0	0	3	0	0	0	2	3	1	4	

㋓＝国語　㋔＝数学　㋒＝社会　㋑＝理科　㋕＝英語　㋗＝音楽　㋖＝美術　㋙＝保健体育　㋘＝技術・家庭〈男子用〉　㋚＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋇―㋟	漢字	音訓	読 ㋇―㋟	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
724 ①―⑥	幕	バク	⑤―⑧	0	0	13	13	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	幕府(～・～政治・鎌倉～〈固〉ナド)㋙㋛㋔・幕末㋙㋛・倒幕(～運動・～派)㋛
		マク	⑤―⑧	1	4	8	13	1	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	3	幕(～・ふち～ナド)㋙㋓㋔・開幕(～時)㋔・除幕(～式)㋙
			〈字〉	1	4	21	26	1	1	0	2	0	3	1	0	0	0	0	4	
725 ①―⑥	爆	バク	⑦―⑧	0	13	3	16	1	2	0	1	2	3	0	0	0	3	1	5	爆発(～・～行程・～音ナド)㋙㋛㋷㋓㊚㊛・爆薬㋙㋷・爆弾(～・原子～・水素～)㋙㋛・原水爆(～・実験ナド)㋙㋛など
			〈字〉	0	13	3	16	1	2	0	1	2	3	0	0	0	3	1	5	
726 ⓪―①	縛	バク	②―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	束縛㋛
		しばる	⓪―⑥	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	縛る㋙
			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
727 ⑥―⑧	箱	はこ	⑧―⑧	21	0	5	26	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	9	箱(～・救急～・くず～・マッチ～・あき～ナド)㋙㋜㋛㋷㋓㋪㋟㊚㊛・箱入り㋙㊚㊛・針箱㊛・巣箱㋙・箱根〈固〉(～・～用水ナド)㋛㋔など
			〈字〉	21	0	5	26	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	9	
728 ⓪―⑥	髪	ハツ	⑥―⑧	0	3	3	6	2	2	0	0	2	0	3	0	2	0	0	4	白髪㋙・毛髪(～湿度計)㋷㋟・理髪(～師)㋔・金髪㋙
		かみ	⑧―⑧	3	7	11	21	1	1	0	1	3	2	0	0	3	0	0	5	髪(～・～の毛・たれ～)㋙㋛㋷㋓㋟
			〈字〉	3	10	14	27	1	1	0	1	2	2	3	0	2	0	0	6	
729 ⓪―⑥	伐	バツ	⓪―⑧	3	0	2	5	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	2	3・4	征伐㋙㋛・伐採(～・～量ナド)㋙㋛㋷・伐木(～夫)㊛・乱伐㋷
			〈字〉	3	0	2	5	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	2	3・4	
730 ④―⑦	抜	バツ	③―⑧	3	0	2	5	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	2	4	海抜㋜㋷・抜粋㋛・選抜㋟
		ぬく	⑧―⑧	20	19	28	67	1	1	1	2	0	0	0	0	0	3	0	4・3	抜く(～・～き書き・戦い～ナド)㋙㋜㋛㊚・抜ける(～・～け出すナド)㋙㊚・抜けがら㋙・目抜き(～通り)㋙・抜け目㋙など
			〈字〉	20	19	28	67	1	1	1	2	2	0	0	0	3	3	0	6・5	
731 ⓪―⑥	罰	バツ	⑤―⑧	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	ごう罰㋔・罰金㋙㋛・罰則㋛・刑㋛・処罰(～・遡及～)㋛・賞罰㋛・懲罰㋛・罰す㋛・罰する㋛
			〈字〉	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	
732 ⓪―③	閥	バツ	①―⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	藩閥(～・～政治)㋛・財閥㋛・軍閥㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
733 ⓪―③	帆	ハン	④―⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	2	0	0	0	0	3		4・5	帆布㋷㊛・帆船㋛㋷㋓・機帆船㋛・出帆㋙
		ほ	⑥―⑧	9	0	17	26	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	帆㋙㋓・帆げた㋙・帆柱㋙・帆綱㋙
			〈字〉	9	0	19	28	1	1	0	1	3	2	0	0	0	0	3	4・5	
734 ①―⑦	伴	ハン	⑤―⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	露伴〈固〉㋛
		バン	⑤―⑧	0	4	3	7	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	伴奏(～・～楽器ナド)㋙㋔
		ともなう	①―⑧	0	5	9	14	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	伴う〈伴なうトモ〉㋙㋛
			〈字〉	0	9	14	23	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	伴トモ㋛・大伴オオトモ〈固〉(～・～氏・～家)㋙㋛・伴天連バテレン㋛

漢字番号	漢字	音訓	読	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
書㋑—㋖			㋑—㋖	1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
735	班	ハン	⑧—⑧	5	9	9	23	1	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	4	班(～・宣伝～・～会議ナド)㋺㋩㋭㋮・班員㋺・班長㋺・班田(～収授・～制度)㋭
⑥—⑧			〈字〉	5	9	9	23	1	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	4	
736	畔	ハン	⑧—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
①—④			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
737	般	ハン	⑧—⑧	9	12	15	36	1	1	1	2	1	1	1	2	2	1	3	9	・般(～・～化・～的・～民衆ナド)㋺㋩㋭㋥㋬㋔㋯㋮㋫・全般(～・世界～ナド)㋺㋭㋐・般若㋭
②—⑥			〈字〉	9	12	15	36	1	1	1	2	1	1	1	2	2	1	3	9	
738	販	ハン	⑦—⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	3	1	4	市販(～・～品)㋺㋥㋫㋐・販売(～・額・～方法ナド)㋭・販路㋺㋭
⓪—⑦			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	1	3	0	0	0	0	3	1	4	
739	煩	ハン	⓪—⑦	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	煩雑㋺
⓪—⑤		わずら	⓪—⑦	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	煩い〈煩ひトモ〉㋺㋭・煩う(思い～)㋺
		わしい	〈字〉	0	0	5	5	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
740	頒	ハン	⓪—⑤	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	頒布㋭
⓪—①			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
741	搬	ハン	⑦—⑧	3	0	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	運搬(～・～量)㋺㋭㋥㋫・搬出㋭
⓪—⑥			〈字〉	3	0	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	
742	範	ハン	④—⑧	4	10	3	17	1	1	1	1	2	3	0	0	2	2	1	7	範囲(～・広～・～内・勢力～・活動～ナド)㋺㋩㋭㋥㋬㋫㋐・模範(～・～工場)㋺㋭㋓㋫・師範(学校)L㋺㋭など
⓪—⑥			〈字〉	4	13	3	20	1	1	1	1	2	3	0	0	2	2	1	7	範頼ノリヨリ〈固〉㋭・範行ノリユキ〈固〉㋺
743	繁	ハン	②—⑧	2	0	2	4	1	1	0	1	3	0	0	2	2	0	1	5・6	繁殖㋺㋥㋮・繁雑㋭㋐・繁栄㋭㋐・繁華(～街)㋭・農繁(～期・～休暇)㋭㋮㋐・繁二郎〈固〉㋯
⓪—⑦			〈字〉	2	1	2	5	1	1	0	1	3	0	0	2	2	0	1	5・6	繁シゲル〈固〉㋺
744	藩	ハン	⑥—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	藩(～・諸～・～内・土佐～〈固〉ナド)㋺㋭・藩閥(～・～政府)㋭・藩主(～・前～ナド)㋭・藩士㋭・廃藩L(～置県)㋭など
②—⑥			〈字〉	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
745	晩	バン	⑧—⑧	9	5	19	33	1	1	0	2	3	1	1	0	2	3	1	7	晩㋺㋭㋥㋓㋮㋐・晩年㋺・晩学㋺・晩夏㋺・今晩(～・～は)㋺㋓・翌晩㋥・毎晩㋺など
③—⑧			〈字〉	9	5	19	23	1	1	0	2	3	1	1	0	2	1	1	7	晩生オクテ㋫
746	蛮	バン	②—⑧	0	5	2	7	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	南蛮〈固〉(～人・～船・～貿易ナド)㋭・蛮人㋺・野蛮(～・～人)㋺
⓪—⑥			〈字〉	0	5	2	7	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
747	盤	バン	⑦—⑧	2	0	3	5	1	1	0	1	2	0	3	0	0	1	1	5	盤(SP～・糸のこ～ナド)㋔㋫㋐・水盤㋺・基盤㋭・旋盤(～・～作業ナド)㋫・地盤㋭㋥・羅針盤㋺㋭なLど
①—⑦			〈字〉	2	0	3	5	1	1	0	1	2	0	3	0	0	1	1	5	
748	妃	ヒ	⑤—⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	后妃㋺
⓪—⑤			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

㋺=国語　㋩=数学　㋭=社会　㋥=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋯=美術　㋮=保健体育　㋫=技術・家庭〈男子用〉　㋐=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㋑－㋕	漢字	音訓	読 ㋑－㋕	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
749	彼	ヒ	②－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②－⑦		かの	⑦－⑧	0	3	3	6	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	彼女(～・～自身)㋒㋓
		かれ	④－⑧	0	114	64	178	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	彼(～・～自身・～ら)㋒㋓
			〈字〉	0	117	68	185	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	彼方カナタ(思響の～に〈固〉)㋒
750	批	ヒ	⑥－⑧	9	9	17	35	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	3・4	批判(～・～的・自己～・無～)㋒㋒㋒・批評(～・～家)㋒㋕・批准(～・～数・～書・～交換)㋒㋒
②－⑦			〈字〉	9	9	17	35	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	3・4	
751	卑	ヒ	⑤－⑧	0	1	5	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	卑俗㋒・卑屈㋒・卑下㋒・卑近㋒・官尊民卑㋒・卑弥呼〈固〉㋒
⑤－②		いやしい	⑤－⑤	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	卑しも㋒
			〈字〉	0	1	5	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
752	秘	ヒ	⑧－⑧	3	9	4	16	1	1	0	2	3	3	3	0	0	0	0	5	神秘(～・～性・～的)㋒㋐㋓・秘密(～・～会・～投票)㋒㋒㋓
②－⑧			〈字〉	3	9	4	16	1	1	0	2	3	3	3	0	0	0	0	5	
753	被	ヒ	⑧－⑧	0	2	1	3	1	2	0	1	2	0	0	0	1	3	1	5	被害(～・～国ナド)㋒㋒㋐・被服(～・～費・～設計ナド)㋒㋕・被子植物㋑・被告(～・～人)㋒など
②－④		こうむる	⑤－③	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	被る㋒
			〈字〉	0	2	3	5	1	2	0	1	2	0	0	0	1	3	1	5	
754	疲	ヒ	⑦－⑧	0	0	3	3	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	疲労(～・～回復・～感・局所～ナド)㋒㋒
⑤－⑦		つかれる	⑥－⑧	0	7	9	16	1	2	2	0	0	3	0	0	1	0	3	4・5	疲れる(～・～れきるナド)㋒㋓㋒㋕
			〈字〉	0	7	12	19	1	2	2	0	0	3	0	0	1	0	3	4・5	
755	碑	ヒ	⑥－⑧	0	0	4	4	2	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	碑(～・記念～)㋒㋒㋒・石碑㋒・句碑㋒
⑤－②			〈字〉	0	0	4	4	2	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	
756	罷	ヒ	⑤－⑧	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	罷免㋒㋒・罷業㋒
⑤－②			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
757	避	ヒ	①－⑦	0	0	5	5	1	3	0	1	0	0	0	3	2	3	0	5・4	逃避㋒㋕・回避㋑・忌避㋒・不可避(～的)㋒・避難(～・～壮)㋒㋐
⑤－③		さける	①－⑧	0	3	3	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	避ける(～・～けそこなう)㋒㋑
			〈字〉	0	3	8	11	1	2	0	1	0	0	0	3	2	3	0	5・4	
758	尾	ビ	⑦－⑧	4	10	9	23	1	1	0	1	0	3	0	0	0	3	0	4・3	尾輪(～・ハンドル)㋑・語尾㋒・接尾語㋒・追尾(～用)㋑・濃尾〈固〉(～平野)㋒㋒・尾西〈固〉㋒
⑥－⑧		お	⑧－⑧	1	4	4	9	1	1	0	1	1	3	2	2	0	0	3	6・7	尾びれ㋑・尾根㋑・尾㋒㋐㋓・尾張〈固〉(～・～国・～家・～藩ナド)㋒・尾形〈固〉㋒㋕・松尾〈固〉㋒㋒ Lなど
			〈字〉	5	14	13	32	1	1	0	1	1	3	2	2	0	3	3	7	
759	微	ビ	⑦－⑧	1	4	12	17	1	1	0	3	2	2	0	2	1	1	0	7・6	微妙㋒㋕・微風㋒㋓㋒・微笑㋒・微弱㋑・微細㋑・微熱㋒・微分(～法)㋒・微生物㋒㋑㋒など
⑤－⑤			〈字〉	1	4	12	17	1	1	0	3	2	2	0	2	1	1	0	7・6	

漢字番号	漢字	音訓	読	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
書㋑－㋺			㋑－㋺	1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
760	匹	ヒキ	⑧－⑧	6	5	2	13	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	匹〈助数詞〉㋐㋑
⑧－⑧		ヒツ	④－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	6	5	2	13	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
761	泌	ヒツ	④－⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	分泌(～・内～・内～せん・内～器官)㊀㋑
⑨－⑤			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	2	
762	姫	ひめ	⑧－⑧	64	0	7	71	1	1	0	1	0	0	3	2	0	0	0	4	つばき姫〈固〉㋓・姫(～・お～様)㋒・姫君(～・故～・お～)㋒・姫路〈固〉(～・～市・～平野・～城)㋑㋒
⑥－⑧			〈字〉	64	0	7	71	1	1	0	1	0	0	3	2	0	0	0	4	
763	漂	ヒョウ	⑦－⑧	0	0	2	2	3・1	3	0	0	3	0	0	0	0	0	1	2・3	漂白(～・～作用)㋐㋓・漂流(ジョン万次郎～記〈固〉)㋒・漂泊㋒
②－⑧		ただよう	②－⑦	0	4	2	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	漂う(～・～い始める)㋒
			〈字〉	0	4	4	8	2・1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	2・3	
764	苗	ビョウ	⑨－②	0	0	0	0	3・0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1・0	育苗(電熱～箱)㋓
②－⑥		なえ	⑤－⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	3・2	苗(～・～取り)㋐㋑㋓・苗床㋓・苗木㋒・苗村〈固〉㋐
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	3・2	苗代ナワシロ(～・温床～ナド)㋒・猪苗代イナワシロ〈固〉(～湖)㋒・苗字ミョウジ㋒
765	描	ビョウ	⑨－⑧	0	0	7	7	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	素描㋓・描写(～・性格～)㋒㋓
①－⑥		えがく	①－⑧	0	9	17	26	2	2	0	0	0	0	3	0	3	0	0	3	描く(～・～き出す)㋑㋐㋒
			〈字〉	0	9	24	33	1	2	0	0	0	0	3	1	3	0	0	4	
766	浜	ヒン	①－⑧	0	0	2	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	海浜㋑㋒㋓・京浜〈固〉(～・～地方・～工業地帯・～運河)㋒・雲浜ウンピン〈固〉㋒
⑥－⑧		はま	⑦－⑧	0	8	7	15	1	2	1	1	1	0	3	0	0	0	0	5	浜㋑㋓・浜べ(～の歌〈固〉)㋐・砂浜くすな浜トモ㋑㋒㋓・横浜〈固〉(～・～港ナド)㋑㋒㋒・浜松〈固〉㋒など
			〈字〉	0	8	9	17	1	2	1	1	1	0	3	0	0	0	0	5	
7 767	資	ヒン	②－⑧	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	来資㋑
⑨－③			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
768	敏	ビン	③－⑧	0	2	4	6	1	2	0	3	3	0	0	0	1	1	0	5・4	敏速㋒・敏しょう(～さ・～性)㋒・敏感㋒㋑㋓・俊敏㋑・機敏㋒・鋭敏㋑㋑・過敏㋒
⑨－⑤			〈字〉	0	2	4	6	1	2	0	3	3	0	1	0	1	1	0	6・5	敏明トシアキ〈固〉㋐
769	扶	フ	①－⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	扶助(～料・相互～・社会～ナド)㋒・扶養㋒
⑨－④			〈字〉	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
770	附	フ	⑧－⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	附する㋒・寄附㋒
⑨－③			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
771	赴	フ	⑨－⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑨－⑤			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

㋐＝国語　㋑＝数学　㋒＝社会　㋓＝理科　㋔＝英語　㋕＝音楽　㋖＝美術　㋗＝保健体育　㋘＝技術・家庭〈男子用〉　㋙＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊅—㊄	漢字	音訓	読 ㊅—㊄	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
772 ⑦—⑧	浮	フ	⑦—⑧	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	浮浪人㋛・浮力㋷・浮石㋷・浮心㋷・浮立フリュウ(～・面～)㋔
		うかぶ	⑧—⑧	11	14	19	44	1	1	0	0	1	3	1	0	0	0	0	4	浮かぶ(～・～かび上がるナド)㋙㋷㋓㋔・浮かべる(～・思い～)㋙㋷
		うく	⑧—⑧	4	2	24	30	1	1	0	2	1	3	0	2	0	0	0	5	浮く(～・～き上がるナド)㋙㋷㋓㋪・浮きしずみ㋷・浮かす㋙㋷・浮世(～絵・～草子ナド)㋙㋛・浮船〈固〉㋙など
			〈字〉	15	16	43	74	1	1	0	2	1	3	1	2	0	0	0	6	
773 ⓪—⑦	普	フ	⑦—⑧	2	25	33	60	1	1	1	1	0	3	2	0	3	1	1	7	普通(～・～選挙・～料金・～名詞ナド)㋙㋜㋛㋓㋔㋭・普及(～・～率・～度ナド)㋙㋛㋔㋟㋭㋤など
			〈字〉	2	25	33	60	1	1	1	1	0	3	2	0	3	1	1	7	
774 ①—⑤	符	フ	⑧—⑧	12	1	2	15	1	1	1	2	0	1	3	0	0	0	3	5・6	符号(～・異～ナド)㋙㋜㋤・音符(～・装飾～)㋔・切符(～・～制)㋙㋛・勘合符㋛・疑問符㋙㋓など
			〈字〉	12	1	2	15	1	1	1	2	0	1	3	0	0	0	3	5・6	
775 ⓪—④	腐	フ	⑥—⑧	0	5	1	6	1・2	2	0	2	2	0	0	0	0	1	2	4	腐敗㋛㋷㋤・腐食(～性)㋷・豆腐㋙・防腐(～性塗料)㋙・腐葉土㋭
		くさる	③—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	5	1	6	1・2	2	0	2	2	0	0	0	0	1	2	4	
776 ⓪—⑦	怖	フ	⑥—⑧	7	1	0	8	1	1	0	2	0	3	0	0	2	0	0	4	恐怖(～・～感)㋙㋛㋓㋟
			〈字〉	7	1	0	8	1	1	0	2	0	3	0	0	2	0	0	4	
777 ⓪—③	敷	フ	⓪—④	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	敷設㋙
		しく	④—⑧	0	3	7	10	1	2	1	1	0	0	0	1	0	2	0	5・4	敷く(～・～き足すナド)㋙・敷石㋙㋪・敷地㋜㋛・下敷き〈下敷トモ〉㋜㋭・屋敷(～・倉～ナド)㋙㋛・座敷㋙など
			〈字〉	2	3	7	12	1	1	1	1	0	0	0	1	0	2	0	5・4	
778 ⓪—②	膚	フ	③—⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	2	0	0	0	0	0	4	皮膚(～・～感覚)㋙㋛㋷㋓
		はだ	①—⑧	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	地膚㋙
			〈字〉	0	3	1	4	1	2	0	1	2	2	0	0	0	0	0	4	
779 ⓪—①	賦	フ	③—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	賦与㋛・月賦(～販売)㋛・天賦㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
780 ③—⑦	譜	フ	⑥—⑧	3	0	0	3	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	記譜(～・～法)㋔・系譜㋛・図譜(貝類～ナド)㋙・楽譜㋙㋔・譜表㋔・五線譜㋔・譜代(～・～大名)㋛など
			〈字〉	3	0	0	3	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	
781 ⓪—④	侮	ブ	⓪—⑦	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	軽侮㋛
		あなどる	⓪—⑤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
782 ③—⑦	舞	ブ	⑦—⑧	21	18	63	102	1	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	4	舞曲㋔・舞楽㋔・歌舞伎㋙㋛㋔・舞踊(～・～家・～組曲・郷土～ナド)㋙㋛㋔・舞台(～・回り～・～劇ナド)㋙㋛㋔㋪など
		まう	⑧—⑧	3	6	3	12	1	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	4	舞(～・しし～・田楽～ナド)㋙㋔・舞う〈舞ふトモ〉(～・～い上がるナド)㋙㋷・きりきり舞い㋙・舞鶴〈固〉㋛など
			〈字〉	24	24	66	114	1	1	0	1	2	0	1	2	0	0	0	5	

漢字番号 書(入)−(卒)	漢字	音訓	読 (入)−(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
783	封	フウ	⑥−⑧	2	8	6	16	1	1	1	2	1	0	0	0	0	3	3	5	封入(〜・〜ガスナド)㋙㊚㊛・封㋙㋷・封じる(〜・〜じこめる)㋙㋷・封書㋜・封鎖(〜・経済〜)㋛・
⓪−⑦		ホウ	①−⑧	0	8	2	10	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	封建(〜的・〜制度・〜時代ナド)㋙㋛
			〈字〉	2	16	8	26	1	1	1	2	1	0	0	0	0	3	3	5	└同封㋙・封筒㋙
784	伏	フク	⓪−⑥	2	3	0	5	1	1	0	2	3	0	0	0	3	3	3	5	潜伏(〜期)㋟・起伏㋷㊛・降伏(〜・無条件〜ナド)㋙㋛・倒伏㊚・圧伏㋙
③−⑦		ふせる	③−⑧	5	4	14	23	1	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	4	伏せる㋙・待ち伏せる㋙・組み伏せる㋙・説き伏せる㋙・伏字㋛・山伏ヤマブシ(〜・〜かぐら)㋙㋔・
			〈字〉	7	7	14	28	1	1	0	1	3	0	2	0	1	3	3	6	└伏し目㋙など
785	幅	フク	③−⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	2・1	増幅(〜・〜回路・〜作用ナド)㋷㊚・半幅㊚・振幅㊚・振幅㋷㊚
④−⑧		はば	⑤−⑧	0	3	5	8	1	2	1	1	2	0	3	0	1	3	1	7	幅(〜・おくみ〜・道〜ナド)㋙㋜㋛㋷㋔㊚㊛・肩幅㋟㊛・幅飛び〈幅とびトモ〉(走り〈走トモ〉〜・立〜)
			〈字〉	0	3	5	8	1	2	1	1	2	0	3	0	1	3	1	7	└㋙㋟・大幅㋛
786	腹	フク	⑦−⑧	3	7	2	12	1	1	0	0	1	2	0	0	1	0	1	4・5	腹痛㋟・腹部㋷㋟㊛・腹まく(〜炎)㋟・空腹(〜・〜時)㋙㋓㋟・満腹㋙・山腹㋙・中腹㋙など
⑤−⑦		はら	⑧−⑧	8	6	4	18	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3・4	腹(〜・〜びれナド)㋙㋷㋟㊛・背腹㋟・腹わた㊛
			〈字〉	11	13	6	30	1	1	0	0	1	2	0	0	1	0	1	4・5	
787	覆	フク	⑥−⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	3・2	覆土㊚・転覆㋙・初覆㋷㊚
⓪−⓪			〈字〉	0	0	3	3	3	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	3・2	
788	払	フツ	⓪−③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②−⑥		はらう	⑦−⑧	5	2	10	17	1	1	1	2	0	3	0	0	0	0	0	4	払う(〜・〜い去るナド)㋙㋜㋛・追い払う〈追っ払うモ〉㋙・支払う㋜㋛㋓・出払う㋙・払い
			〈字〉	5	2	10	17	1	1	1	2	0	3	0	0	0	0	0	4	└もどす㋛など
789	沸	フツ	①−⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	3	2・3	煮沸(〜・〜消毒ナド)㋷㋟㊛・沸騰〈沸とうトモ〉㋷㋟・沸点㋷
①−⑧		わく	②−⑧	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	沸く㋙・沸かす(〜・湯〜かし器)㋙
			〈字〉	0	0	7	7	2	3	0	0	2	0	0	0	2	0	3	3・4	
790	紛	フン	④−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1・2	紛失㊛・紛争(〜・国際〜)㋛
⓪−⑥		まぎれる	⓪−④	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	紛らわす(言い〜)㋙・紛れる㋙・紛らわしい㋙
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2・3	
791	憤	フン	①−⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	私憤㋙・憤慨㋙
⓪−③		いきどおる	⓪−②	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	憤る(〜り)㋙
			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
792	墳	フン	⑥−⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	古墳(〜・〜時代)㋛㋪・円墳㋛・方墳㋛・前方後円墳㋛・上円下方墳㋛・墳墓㋛
⓪−④			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	

㋙=国語　㋜=数学　㋛=社会　㋷=理科　㋓=英語　㋔=音楽　㋪=美術　㋟=保健体育　㊚=技術・家庭〈男子用〉　㊛=技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
793 ⓪—⑤	噴	フン	④—⑧	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	3	0	3	0	5・4	噴水㋷㋪・噴出(～・～口・～量)㋛㋷㊚・噴火(～・～山)㋙㋛㋷・噴煙㋛・噴射(～・～弁ナド)㊚など
			〈字〉	0	1	0	1	1	2	0	1	3	0	0	3	0	3	0	5・4	
794 ③—⑧	丙	ヘイ	⑥—⑧	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	丙㋜
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
795 ④—⑥	並	ヘイ	⓪—⑧	1	0	24	25	1	1	0	0	2	0	0	0	0	3	3	3	並列(～・～接続ナド)㋷㊚㊛・並立(～・～関係)㋙・並行㋙・並(～4受信機ナド)㊚
		なみ	⑧—⑧	2	3	3	8	1	1	0	0	0	0	0	2	0	3	1	3	並木〈並み木トモ〉(～・～道ナド)㋙㋪㊚・家並み㋙・人並み㋙・並み(アメリカ〈固〉～)㋙・並太(～・～毛糸)㊛
		ならびに	⑤—⑧	1	0	1	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	並びに〈並トモ〉(・禁中～公家諸法度)㋙㋛
		ならべる	⑤—⑧	14	10	10	34	1	1	1	0	0	1	3	0	2	3	2	6	並ぶ(～・～び方・～びナド)㋙㋜㋔㋟・並べる(～・～べかえる)㋙㋜㋓㊚㊛
			〈字〉	18	13	38	69	1	1	1	2	2	1	3	2	2	3	1	9	
796 ⓪—⑥	併	ヘイ	⓪—⑧	0	2	2	4	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3・4	併用㋙㊛・併行㋜・併合㋛・合併(～・町村～)㋙㋛
			〈字〉	0	2	2	4	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3・4	
797 ④—⑦	柄	ヘイ	①—⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	1・2	葉柄㋷㊛
		え	①—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	2	柄㋷㊚㊛
		がら	④—⑧	0	0	0	0	3・1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1・2	柄(～・花～ナド)㊛・柄物(～・色～)㊛・大柄㊛・銘柄㋛・身柄㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	1	1	3	
798 ③—⑧	閉	ヘイ	④—⑧	0	3	0	3	2・1	2	0	3	2	0	0	0	2	3	1	5	密閉(～・～形)㋷㋟㊛・開閉(～・～器ナド)㋷㊚㊛・閉会㋙㋛・閉鎖(工場～)㋛など
		とじる	⑥—⑧	7	4	4	15	1	1	3	0	0	1	0	0	3	3	0	5・4	閉じる(～・～じすぎ)㋙㋜㋓㋟㊚・閉じこめる㋙・閉ざす㋙
			〈字〉	7	7	4	18	1	1	3	3	2	1	0	0	2	3	1	7	
799 ⓪—⑤	幣	ヘイ	④—⑧	4	0	2	6	1	1	0	2	2	3	0	0	2	0	0	5	貨幣(～・～経済・物品～・～制度・～価値ナド)㋙㋛㋷㋓㋟・紙幣(～・不換～ナド)㋛・幣束㋙など
			〈字〉	4	0	2	6	1	1	0	2	2	3	0	0	2	0	0	5	幣原シデハラ〈固〉㋛
800 ⓪—①	弊	ヘイ	⓪—⑧	0	0	2	2	1	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	弊害(～・～排除)㋛㋟・悪弊㋙
			〈字〉	0	0	2	2	1	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	
801 ⓪—②	癖	ヘキ	⓪—⑦	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	固癖㋟
		くせ	⓪—⑥	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	癖㋙
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
802 ⓪—⑤	壁	ヘキ	⑤—⑧	0	1	7	8	1	2	0	1	0	3	3	1	3	0	0	6	壁(両～・内～・腸～ナド)㋙㋔㋟・壁画(～・洞窟～ナド)㋙㋛㋪・岩壁㋛㋪・城壁㋛㋓
		かべ	④—⑧	0	3	0	3	1	2	0	2	2	1	0	1	2	3	3	7	壁(～・～側・ブロック～ナド)㋙㋛㋷㋓㋪㋟㊚㊛・壁かけ㋪・白壁㋪など
			〈字〉	0	4	7	11	1	2	0	1	2	1	3	1	2	3	3	8	

漢字番号 書㋨−㋲	漢字	音訓	読 ㋨−㋲	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
803 ⑦−⑧	片	ヘン	⑦−⑧	5	11	2	18	1	1	1	0	1	0	2	0	2	1	1	6	木片㋜㋷㋔㋟㊚㊛・切片(〜・横断〜ナド)㋜㋷・片言(〜隻語)㋙・小片㋷㊚・片々㋙など
		かた	⑧−⑧	9	7	9	25	1	1	1	2	1	0	0	0	2	1	1	6	片方〈片ほうトモ〉㋙㋷㊚㊛・片側〈片がわトモ〉㋙㋜㋷㊚㊛・片手㋙㋟㊚・片すみ㋙㋜㋷㊛など
			〈字〉	14	18	11	43	1	1	1	2	1	0	2	0	2	1	1	7	
804 ①−⑤	偏	ヘン	⑧−⑧	0	0	1	1	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	3	3・4	偏食㋟㊛・偏狭㋛・偏見㋙㋛
			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	3	3・4	
805 ⓪−①	遍	ヘン	⑥−⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	一遍〈固〉(〜・〜上人)㋛・普遍(〜・〜的・〜性)㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
806 ②−⑤	捕	ホ	⑤−⑧	0	4	3	7	1	2	0	1	3	3	0	0	1	0	0	5	捕球㋟・捕鯨(〜・〜船・〜業ナド)㋙㋛・逮捕(〜・〜状ナド)㋛㋓・捕集(〜方法)㋷・捕虜(〜・〜収容所)㋙
		とらえる	②−⑧	0	0	1	1	2	3	0	2	0	3	0	0	0	0	0	3	捕える〈捕らえるトモ〉㋙㋛㋓
			〈字〉	0	4	4	8	1	2	0	1	3	3	0	0	1	0	0	5	
807 ⑧−⑧	浦	ホ	⓪−②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		うら	⑧−⑧	0	10	12	22	1	2	0	1	2	0	0	1	2	0	0	5	浦㋙㋛・霞ヶ浦〈固〉㋛・三浦〈固〉(〜・〜市・〜半島)㋙㋛・浦波㋙・浦賀〈固〉㋙㋛・浦和〈固〉㋛など
			〈字〉	0	10	12	22	1	2	0	1	2	0	2	1	2	0	0	6	西浦ニシウレ〈固〉(〜・〜田楽)㋔
808 ⓪−④	舗	ホ	③−⑧	3	0	0	3	1	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	舗装㋙㋛㋷
			〈字〉	3	0	0	3	1	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	
809 ①−⑥	募	ボ	⑧−⑧	0	0	0	0	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	2	募集㋛・募金㋜・応募㋛
		つのる	⓪−③	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	募る(〜・吹き〜)㋙
			〈字〉	0	0	2	2	2	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
810 ⓪−⑤	慕	ボ	⑦−⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	慕帰絵ボキエ㋛
		したう	⓪−⑥	0	0	7	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	慕う㋙・慕わしい㋙
			〈字〉	0	0	7	7	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
811 ①−⑦	暮	ボ	③−⑧	3	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	暮鳥〈固〉㋙
		くらす	④−⑧	4	14	15	33	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	暮らす(〜・〜らし方)㋙・暮らし(〜・七人〜)㋙㊚・その日暮らし㋙・暮らし向き㋙
		くれる	④−⑧	13	9	17	39	1	1	0	0	3	0	2	0	0	3	0	・3	暮れる(〜・〜れかかる)㋙・暮る〈文語〉㋙㋔・日暮れ(〜・〜時)㋙・夕暮れ㋙㋔・暮れ〈暮トモ〉㋙㋷㋔など
			〈字〉	20	23	32	75	1	1	0	0	3	0	2	0	0	3	0	4・3	
812 ⓪−⓪	簿	ボ	⑦−⑧	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	2	3・4	家計簿㊛・番号簿(〜・電話〜)㋙・通信簿㋟・名簿(〜・選挙人〜・陪審〜)㋙㋛・族簿㋛・補助簿㊛
			〈字〉	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	2	3・4	
813 ②−④	邦	ホウ	⑦−⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	0	0	2	0	0	3	邦人㋟・連邦(〜・〜議会・〜院・ソビエト〜〈固〉ナド)㋛㋓・隣邦㋛・雅邦〈固〉㋛
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	2	0	2	1	2	5	忠邦タダクニ〈固〉㋛・邦三クニゾウ〈固〉㋔など

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊇―㊍	漢字	音訓	読 ㊇―㊍	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
814 ⓪―④	芳	ホウ	⓪―⑦	1	0	4	5	1	1	3	2	3	0	0	0	0	0	0	4	芳香㋷・芳名㋙・芳韻〈同〉㋛・衛芳〈同〉㋜・芳一〈同〉(耳なし～)㋙・芳〈芳名ノ部分抽出〉㋙
		かんばしい	⓪―②	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	芳しい㋙
			〈字〉	1	0	5	6	1	1	3	2	3	0	0	0	0	1	0	5・4	芳男ヨシオ〈同〉㋙
815 ⑦―⑧	宝	ホウ	⑦―⑧	0	0	3	3	1	3	3	1	0	3	0	0	0	0	0	4	宝庫㋛・宝物㋙・宝石(～・～川・～入リナド)㋜㋛・財宝㋓・三宝㋛・国宝㋙・通宝(永楽〈同〉～ナド)㋛ など
		たから	⑦―⑧	1	6	2	9	1	1	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	宝㋙㋛㋓・宝島〈㋙・宝塚〈同〉(～歌劇団)㋙
			〈字〉	1	6	5	12	1	1	3	1	0	3	0	0	0	0	0	4	
816 ③―⑦	奉	ホウ	⑥―⑧	9	2	3	14	1	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	奉仕(～・～者)㋙㋛㋟・奉公(～・～人・女中～・徒弟～)㋙㋛・奉納㋙・奉幣㋙・奉還(大政～・版籍～)㋛ 奉天〈同〉㋛
		たてまつる	⓪―⑥	0	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	奉る㋙
			〈字〉	9	6	6	21	1	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	奉行ブギョウ(寺～・勘定～・町～所ナド)㋙㋛
817 ⓪―⑥	抱	ホウ	②―⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	抱負㋙・抱擁(～力)㋙
		だく	②―⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	抱く(～・～き合う)㋙㋓・抱き締める〈抱きしめるトモ〉㋙㋔
			〈字〉	0	3	8	7	2	2	0	0	0	2	3	0	0	0	0	3	
818 ②―⑦	胞	ホウ	⑦―⑧	0	6	4	10	2	2	0	3	2	0	0	0	2	0	0	4	細胞(～・～膜・単～・孔辺～・～質・～分裂ナド)㋙㋷㋟・肺胞㋷・胞子㋷・・液胞㋷・同胞㋛
			〈字〉	0	6	4	10	2	2	0	3	2	0	0	0	2	0	0	4	
819 ②―⑥	峰	ホウ	②―⑦	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	最高峰㋔・秀峰㋛・峰(喜望〈同〉～・香炉〈同〉～)㋛㋙
		みね	⑦―⑧	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	3	0	1	0	0	3	峰(～・～々)㋙・高峰〈同〉㋛・旧峰ダミネ〈同〉(～田楽)㋔
			〈字〉	0	2	2	4	2	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4	金剛峰寺コンゴウブジ〈同〉㋛
820 ⓪―⑥	砲	ホウ	⑥―⑧	5	3	5	13	1	1	0	2	0	0	3	0	1	0	0	4	大砲㋙㋛㋔・鉄砲(～・～隊)㋙㋛・砲丸(～投げ〈～投トモ〉)㋙㋟・砲撃㋛・号砲㋙・砲台㋛・砲弾㋙
			〈字〉	5	3	5	13	1	1	0	2	0	0	3	0	1	0	0	4	
821 ⓪―⑥	倣	ホウ	②―⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	模倣(～・～文化)㋙㋛
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
822 ⓪―①	崩	ホウ	⓪―⑥	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	崩壊㋙㋛
			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
823 ③―⑧	訪	ホウ	⑦―⑧	0	2	0	2	2	2	0	2	0	2	0	0	0	0	3	3・4	訪問(～・～客)㋙㋛㋓㋗
		おとずれる	④―⑧	0	4	1	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	訪れる㋙
			〈字〉	2	6	1	9	1	1	0	1	1	2	0	0	0	0	3	4・5	諏訪スワ〈同〉(～湖・～盆地・神社)㋙㋛㋷
824 ①―⑤	飽	ホウ	①―⑧	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	飽和(～・～水蒸気量)㋷
		あきる	⓪―⑤	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	飽きる㋙・飽く〈文語〉(見～)㋙
			〈字〉	0	0	5	5	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	塩飽シアク〈同〉(～島シマ)㋙

漢字番号 書(入)―(卒)	漢字	音訓	読 (入)―(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
825	縫	ホウ	①―⑧	0	0	0	0	3·1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	裁縫(〜・用具・〜づくえナド)㊚㊛
⓪―③		ぬう	①―⑧	3	0	5	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1・2	縫う(〜・〜いもよう・〜い合わせ・本〜いナド)㋙㊛・仮縫い㊛・縫い針㊛・縫いしろ㊛・手縫い㊛など
			〈字〉	3	0	5	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	
826	亡	ボウ	⑧―⑧	0	8	0	8	2	2	0	2	3	0	0	0	2	0	0	4	死亡(〜・〜率・〜原因ナド)㋛㋟・滅亡㋙㋛㋷・逃亡㋙・興亡㋙・亡命㋛
⑦―⑧			〈字〉	0	8	0	8	2	2	0	2	3	0	0	0	2	0	0	4	
827	乏	ボウ	②―⑧	0	4	2	6	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	欠乏(〜・〜症)㋛㋟・貧乏(〜・〜人・〜神・大漁〜)㋙㋛
⓪―⑤		とぼしい	①―⑧	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	乏しい㋙
			〈字〉	0	4	5	9	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	
828	忙	ボウ	③―⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	多忙㋙㋟
⓪―⑥		いそがしい	②―⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	忙しい㋙
			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	
829	坊	ボウ	⑧―⑧	7	2	1	10	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	3	坊(〜さん・お〜さん)㋙・坊主(银〜〈同〉)㋷・坊や㋙・赤ん坊㋙㋓・武蔵坊(〜弁慶〈同〉)㋙
③―⑥			〈字〉	7	2	1	10	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	3	
830	冒	ボウ	⑦―⑧	6	0	0	6	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	感冒(〜・流行性〜)㋟・冒険(〜・〜的・〜心)㋙
②―①		おかす	⓪―④	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	冒す㋙
			〈字〉	6	0	5	11	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	
831	妨	ボウ	⑥―⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	2	妨害㋛㋟
①―①		さまたげる	②―⑥	0	0	1	1	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	妨げる㋙・妨サマタゲ㋛
			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	
832	忘	ボウ	④―⑧	0	0	3	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	忘却㋙㋛
⑤―⑧		わすれる	⑧―⑧	19	17	23	59	1	1	1	2	0	3	1	3	1	3	0	8・7	忘れる(〜・〜れ物・〜れかねるナド)㋙㋜㋛㋓㋔㋪㋟㊚・忘る〈文語〉㋙・忘れ形見㋙
			〈字〉	19	17	26	62	1	1	1	2	0	3	1	3	1	3	0	8・7	
833	房	ボウ	⑧―⑧	2	1	22	25	1	1	2	1	1	0	0	0	2	1	3	6	暖房(〜・〜用)㋛㋟㊛・冷房(電気〜装置)㋟・官房(内閣〜)㋛・文房具(〜店)㋜・女房(〜・〜車)㋙㋛・心房(〜・右〜ナド)㋷など
⓪―④			〈字〉	2	1	22	25	1	1	2	1	1	0	3	0	2	1	3	7	房フサ(〜ぶどう)㋔・乳房チブサ㋟・親房チカフサ〈同〉㋛・安房アワ〈同〉㋙
834	剖	ボウ	②―⑧	0	0	6	6	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	解剖(〜・〜書・〜ざら・〜図)㋙㋛㋷
①―⑥			〈字〉	0	0	6	6	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	
835	肪	ボウ	⑥―⑧	0	2	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3・4	脂肪(〜・皮下〜・〜酸・〜体)㋙㋷㋟㊛
⓪―⑧			〈字〉	0	2	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3・4	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
836	某	ボウ	①—⑥	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	某(～会社ナド)㋙
⓪—③			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
837	帽	ボウ	⑧—⑧	9	3	4	16	1	1	1	2	0	1	0	3	0	0	0	5	帽子㋙㋜㋛㋓㋪・帽(麦わら～・ボンネット～)㋙㋛
③—⑤			〈字〉	9	3	4	16	1	1	1	2	0	1	0	3	0	0	0	5	
838	傍	ボウ	①—⑧	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3・2	傍聴(～・～人)㋛・傍観(～的)㋙・傍記㊚・傍熱(～形)㊚
⓪—②			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	3	0	0	0	0	3	3	0	3・2	
839	棒	ボウ	⑧—⑧	23	14	8	45	1	1	1	1	2	3	0	1	1	1	1	8	棒(～・炭素～・～磁石・～きれ・マッチ～ナド)㋙㋜㋛㋷㋓㊚㊛・心棒㋪・鉄棒㋙㋟・棒引㋛など
⑥—⑧			〈字〉	23	14	8	45	1	1	1	1	2	3	0	1	1	1	1	8	
840	紡	ボウ	⑧—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	2	1	3	混紡(～・～率)㊛・紡績(～・～機械・～業・～工場ナド)㋙㋛㊚㊛・紡織(～・～工業・～機)㋛など
④—⑧		つむぐ	①—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	2	1	3	
841	謀	ボウ	①—⑦	0	3	0	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	参謀(軍事～委員会)㋛・無謀㋙・謀(～綸旨リンジ)㋛
⓪—①			〈字〉	0	3	0	3	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
842	膨	ボウ	①—⑧	0	0	4	4	1·2	3	0	0	2	0	0	3	0	1	0	4・3	膨脹(～・熱～・～行程・～係数ナド)㋷㋪㊚・膨大㋙
⓪—⑤			〈字〉	0	0	4	4	1·2	3	0	0	2	0	0	3	0	1	0	4・3	
843	撲	ボク	②—⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	撲滅㋙
①—②			〈字〉	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
844	墨	ボク	③—⑦	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	水墨画㋙㋛・白墨㋙
②—⑦		すみ	④—⑧	0	4	3	7	2	2	0	2	0	0	0	2	0	3	0	4・3	墨(～・～流し)㋙㋛㋪㊚・墨絵㋪・入れ墨㋙
			〈字〉	0	4	7	11	2	2	0	2	0	0	0	2	0	3	0	4・3	亜墨利加アメリカ〈国〉(～船)㋛
845	没	ボツ	③—⑧	0	0	7	7	2	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	没落㋙㋛・日没(～・～時)㋷・没収㋙㋛・没交渉㋙・生没(～年)㋙
①—⑦			〈字〉	0	0	7	7	2	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	
846	奔	ホン	⓪—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—①			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
847	翻	ホン	⓪—⑧	6	6	9	21	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	翻訳(～・～劇・～口調・～書・～家)㋙㋛
⓪—⑤		ひるがえる	⓪—⑦	0	0	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	翻る㋙・翻す㋙
			〈字〉	6	6	15	27	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
848	凡	ボン	⑦—⑧	4	1	8	13	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	平凡㋙㊛・非凡(～・～人)㋙・凡人㋙
④—⑧			〈字〉	5	1	8	14	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1・2	凡例ハンレイ㋙

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
849	盆	ボン	⑧—⑧	5	0	1	6	1	1	0	1	1	0	2	0	3	0	3	5・6	盆(～・うら～・お～)㋙㋔㋟㊛・盆栽㋛・盆地(～・奈良～〈固〉・山形～〈固〉ナド)㋙㋛㋷
⑤—⑦			〈字〉	5	0	1	6	1	1	0	1	1	0	2	0	3	0	3	5・6	
850	麻	マ	⑥—⑧	0	0	12	12	1	3	0	1	1	0	2	0	3	0	0	4	麻薬㋛㋟・亜麻㋛・麻痺㋙・麻酔㋷・麻しん㋟・製麻(～工場)㋛・大麻㋛・人麻呂〈固〉㋙㋛など
③—⑥		あさ	⑤—⑧	0	2	0	2	1	2	0	1	3	0	0	3	0	2	2	5	麻(～・マニラ～・～くず・～糸ナド)㋙㋛㋷㋪㊚㊛
			〈字〉	0	2	12	14	1	2	0	1	2	0	0	3	3	2	2	6	麻布アザブ〈固〉㊛
851	摩	マ	③—⑧	2	1	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	2	1	0	5・4	研摩㊚・摩耗(～・～量)㊚・摩天楼㋛・摩擦(～・～力・～電気ナド)㋷㊚・多摩〈固〉(～川)㋙㋛・薩摩〈固〉(～・～藩)㋛など
⓪—⑥			〈字〉	2	1	0	3	1	1	0	1	2	0	0	0	2	1	0	5・4	
852	魔	マ	⑦—⑧	0	6	0	6	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	魔王〈固〉㋔・悪魔㋛㋔・魔法(～・～使い)㋙㋔・魔女㋔・魔術(恋は～師〈固〉)㋔・魔弾(～の射手〈固〉)㋔・魔㋙㋛
⓪—③			〈字〉	0	6	0	6	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	
853	枚	マイ	⑧—⑧	6	4	4	14	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	6	枚〈助数詞〉㋙㋜㋛㋪㊚㊛・枚数㋜㋟㊚㊛
⑧—⑧			〈字〉	6	4	4	14	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	6	枚岡ヒラオカ〈固〉㋛・枚方ヒラカタ〈固〉㋛
854	埋	マイ	⓪—⑦	0	6	0	6	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	埋蔵(～・～量)㋛・埋葬㋙
⑤—⑧		うめる	⑤—⑧	4	4	4	12	1	0	0	0	0	2	1	0	2	1	0	4・3	埋める(～・～めこむナド)㋙㋛㋟・埋まる㋙・埋め立てる(～・～て・～て地)㋛・埋もれる㋙㋛
			〈字〉	4	10	4	18	1	1	0	1	0	0	0	0	2	1	0	4・3	
855	膜	マク	②—⑧	0	3	2	5	1・2	2	0	0	2	0	0	0	0	1	2	3	膜(～・塗～・細胞～・横隔～ナド)㋙㋷㊚㊛・弁膜㋷・粘膜㋷・骨膜㋷・網膜㋷・鼓膜㋙㋷など
⓪—⑥			〈字〉	0	3	2	5	1・2	2	0	0	2	0	0	0	0	1	2	3	
856	又	また	⑧—⑧	3	0	0	3	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	又㋛・又三郎(風の～〈固〉)㋙・又兵衛〈固〉㋔・倉又〈固〉㋛
⑦—⑧			〈字〉	3	0	0	3	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	
857	漫	マン	⑦—⑧	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	漫画㋛・漫然㋙
⓪—①			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
858	慢	マン	⑤—⑧	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	緩慢㋙・自慢(～話)㋙・高慢㋙
⓪—②			〈字〉	0	0	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
859	魅	ミ	④—⑧	2	4	1	7	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	3	2・3	魅力(～・～的)㋙㋪㊛
⓪—④			〈字〉	2	4	1	7	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	3	2・3	
860	密	ミツ	⑧—⑧	4	11	4	19	1	1	1	1	2	3	0	1	2	1	1	8	精密(～・～検査・～機械ナド)㋙㋜㋛㋷㋪㋟㊚・厳密㋛㋷・秘密(～・～投票ナド)㋙㋛㋓・密度(～・人口～ナド)㋜㋛㊚など
⑥—⑧			〈字〉	4	11	4	19	1	1	1	1	2	3	0	1	2	1	1	8	密ヒソカ〈固〉㋛
861	妙	ミョウ	③—⑧	3	11	9	23	1	1	0	2	1	2	3	2	0	0	0	6	妙㋙㋓㋔・微妙㋙㋪・奇妙㋙・神妙㋙・巧妙㋙・妙齢㋙・妙用㋙・妙義山〈固〉㋷など
①—⑧			〈字〉	3	11	9	23	1	1	0	2	1	2	3	2	0	0	0	6	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊀—㊉	漢字	音訓	読 ㊀—㊉	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
862	眠	ミン	⑧—⑧	0	0	3	3	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2・3	睡眠(～・～不足・～時間ナド)㋒㋑・安眠㋒㋒・冬眠㋒
④—⑧		ねむる	⑥—⑧	8	7	14	29	1	1	0	3	0	2	2	0	0	0	0	4	眠る(～・～り続けるナド)㋒㋓㋓㋔・眠り㋒㋔・眠い㋒・眠け㋒
			〈字〉	8	7	17	32	1	1	0	3	0	2	2	0	1	0	3	5・6	
863	矛	ム	⓪—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪—⑥			〈字〉	0	15	0	15	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	矛ホコ㋒
864	夢	ム	⑤—⑧	8	4	4	16	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	夢中(～・無我～)㋒㋒・夢想㋒・悪夢㋒
②—⑦		ゆめ	⑧—⑧	11	18	15	44	1	1	0	2	0	0	2	1	0	0	0	4	夢㋒㋓㋔㋕・夢みる㋒・夢殿〈固〉㋒㋕
			〈字〉	19	22	19	60	1	1	0	2	0	0	2	1	2	0	0	5	
865	霧	ム	③—⑧	0	3	0	3	1	2	0	1	2	0	0	0	0	3	0	4・3	噴霧(～・～機)㋓㋕・濃霧㋒㋓・煙霧㋑・氷霧㋑
⓪—⑧		きり	⑥—⑧	0	4	8	12	1	2	0	1	1	0	1	0	0	2	1	5	霧(～・～状・～粒・山～)㋒㋓㋑㋔㋕㋑・霧吹き〈霧ふきトモ〉(～・～器)㋕㋑・霧雨㋑・霧島〈固〉(～・～L火山帯ナド)㋓㋑
			〈字〉	0	7	8	15	1	2	0	1	1	0	1	0	0	2	1	5	
866	娘	むすめ	⑧—⑧	4	4	22	30	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	娘(～・～ご・ひとり～・大尉の～〈固〉)㋒㋓㋔・小娘㋒
③—⑧			〈字〉	4	4	22	30	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	
867	銘	メイ	④—⑧	0	5	0	5	2	2	0	3	0	0	0	0	0	3	3	3	銘(～・～板)㋒㋕㋑・銘柄㋓・感銘㋒・正銘(正真～)㋒
⓪—⑦			〈字〉	0	5	0	5	2	2	0	3	0	0	0	0	0	3	3	3	
868	滅	メツ	①—⑧	2	5	7	14	1	1	0	2	3	0	0	0	2	3	3	5	死滅㋒㋒・不滅㋓・自滅㋒・破滅㋒・撲滅㋒・絶滅㋑・消滅㋑・全滅㋒㋓・滅亡㋒㋓など
⓪—⑦		ほろびる	①—⑧	0	9	2	11	2	2	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	滅ぶ(～・～び去る)㋒㋓・滅びる㋒㋒・滅ぼす㋒
			〈字〉	2	14	9	25	1	1	0	2	3	0	0	0	2	3	3	5	
869	免	メン	④—⑧	0	2	0	2	2	2	0	2	3	0	0	0	2	0	0	4	免許(～証・無～運転)㋓㋒・放免(～・無罪～)㋒・免疫(～血清)㋑・任免㋓・免除㋓・罷免㋓など
②—⑥		まぬがれる	⓪—③	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	免かれる㋓
			〈字〉	0	2	0	2	2	2	0	2	3	0	0	0	2	0	0	4	免すユル㋓
870	茂	モ	⓪—⑦	4	2	1	7	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	賀茂〈固〉(～・～神社)㋒㋓・茂吉モキチ〈固〉㋒
②—⑦		しげる	⑤—⑧	0	4	5	9	1	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	茂る(～・おい～)㋒㋔・茂み㋒㋓・茂〈固〉㋓・茂吉シゲヨシ〈固〉㋒など
			〈字〉	4	6	6	16	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	家茂イエモチ〈固〉㋓
871	模	ボ	③—⑧	3	2	7	12	1	1	0	1	1	0	0	3	0	3	0	5・4	規模(～・大～・経営～ナド)㋒㋓㋑㋕㋕
⓪—⑧		モ	③—⑧	2	0	2	4	1	1	0	1	2	3	0	1	3	1	1	7	模様(～・空～・荒れ～ナド)㋒㋕・模型(～・～材・復原～ナド)㋒㋓㋑㋕㋕㋑・模範(～・～製糸工場)㋓・L模倣(～・～文化)㋒㋓
			〈字〉	5	2	9	16	1	1	0	1	1	3	0	1	3	1	1	7	相模サガミ〈固〉(～・～原・～川・～湾)㋓

漢字番号 書㋥—㋭	漢字	音訓	読 ㋥—㋭	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
872	盲	モウ	⑥—⑧	0	3	4	7	1	2	0	0	2	3	1	0	2	0	2	5・6	盲人㋔・夜盲(～症)㋷㋟㊛・盲腸㋷・盲目(～・～的)㋙㋓・文盲(～率・～政策)・盲唖(～学校)㋓
③—⑧		めくら	①—⑧	0	4	1	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	盲㋙
			〈字〉	0	7	5	12	2	0	0	2	3	1	0	2	0	0	2	5・6	
873	耗	モウ	④—⑧	0	0	0	0	2·3	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	2・1	消耗(～・～品ナド)㋛㊚・摩耗(～・～量)㊚・損耗(～費)㊚
⓪—④			〈字〉	0	0	0	0	2·3	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	2・1	
874	猛	モウ	⑤—⑧	2	3	5	10	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	猛(～ふぶき)㋙・猛烈㋙㋷・勇猛(～心)㋙
⓪—⑤			〈字〉	2	3	5	10	1	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	3	猛タケし㋛
875	網	モウ	③—⑦	0	0	9	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2	網(道路～・交通～・通信～ナド)㋛・網膜㋷・網状(～星雲)㋷・漁網㋷
⓪—⑤		あみ	③—⑧	0	20	0	20	1	2	0	1	1	0	0	1	0	3	0	5・4	網(～・～の目・～干し場・トロール～ナド)㋙㋛㋷㊚・金網㋛㋷㋪㊚
			〈字〉	0	20	0	20	1	2	0	1	1	0	0	1	0	3	0	5・4	
876	黙	モク	①—⑧	3	6	0	9	1	1	0	2	0	3	1	0	0	0	0	4	沈黙㋙㋛㋓㋔・黙劇㋔・黙認㋛・黙禱㋙・黙読㋙・黙々㋙
⓪—⑤		だまる	①—⑧	0	16	3	19	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	黙る㋙・黙りこくる㋙
			〈字〉	3	22	3	28	1	1	0	2	0	3	1	0	0	0	0	4	
877	紋	モン	⑤—⑧	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	波紋㋪・横紋筋㋷
⓪—④			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	
878	匁	もんめ	⓪—⑤	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	匁〈助数詞〉㋜㋛
⓪—③			〈字〉	0	0	9	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
879	矢	や	⑧—⑧	3	1	7	11	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	5	矢㋙㋷㊛・矢印〈矢じるしトモ〉㋙㋜㋛㋷㊚㊛・弓矢㋛・矢じり㋛・矢立て㋙・矢車草㋙・矢羽根㋷など
⑥—⑦			〈字〉	3	1	7	11	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	5	
880	躍	ヤク	⑥—⑧	0	3	22	25	1	2	0	2	0	0	3	2	1	3	0	6・5	活躍㋙㋛㋔㋪・跳躍㋙㋔㋟・飛躍(～・～的)㋙㋛㊚・躍動(～・～感)㋙・躍如㋙
⓪—⑤			〈字〉	0	3	22	25	1	2	0	2	0	0	3	2	1	3	0	6・5	
881	愉	ユ	③—⑧	4	12	2	18	1	1	0	0	2	2	1	0	1	0	0	5	愉快㋙㋓㋔・不愉快㋙㋷㋟
⓪—④			〈字〉	4	12	2	18	1	1	0	0	2	2	1	0	1	0	0	5	
882	諭	ユ	①—⑦	1	0	7	8	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	教諭㋙・勅諭㋛・諭吉〈固〉㋙㋛
②—⑤			〈字〉	1	0	7	8	1	1	0	2	0	0	9	0	0	0	0	2	
883	唯	ユイ	⓪—⑧	0	5	0	5	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	唯一㋙㋛
⓪—⑧			〈字〉	0	5	0	5	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
884	郵	ユウ	⑦—⑧	4	0	0	4	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	2	4・5	郵便(～・～貯金・～局・～物ナド)㋙㋜㋛㋓㊛・郵送㋙・郵政省〈固〉㋛
③—⑤			〈字〉	4	0	0	4	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	2	4・5	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊇—㊥	漢字	音訓	読 ㊇—㊥	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
885 ⓪—②	幽	ユウ	③—⑧	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	2	幽霊㋓・探幽〈固〉㋛
			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3	2	0	0	0	0	2	
886 ④—⑧	雄	ユウ	⑧—⑧	4	8	0	12	1	1	0	1	2	3	3	0	1	0	0	6	雄大(～・～積雲)㋙㋛㋷㋓㋟・英雄(～・～的)㋙㋔・雄飛㋛・離雄㋷・雄弁㋙・雄〈固〉㋛
		お	⑥—⑧	6	4	10	20	1	1	0	1	3	0	3	1	1	0	0	6	雄牛㋙・雄花㋷・雄幸〈固〉㋛・辰雄〈固〉㋙・靜雄〈固〉㋟など
		おす	③—⑧	10	0	0	10	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	雄㋙㋷
			〈字〉	20	12	10	42	1	1	0	1	2	3	3	1	1	0	0	7	雄タケシ〈固〉㋟・高雄カイシュン〈固〉㋛
887 ⓪—①	裕	ユウ	③—⑧	0	4	2	6	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	富裕㋛・余裕㋙
			〈字〉	0	4	2	6	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	
888 ⓪—⑤	猶	ユウ	⓪—⑦	0	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	猶予(～・執行～・～期間)㋙㋛
			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
889 ⓪—④	誘	ユウ	②—⑧	0	4	0	4	1	2	0	3	3	1	3	0	2	3	3	7	誘因㋟・誘導(電磁～ナド)㋷㋷㋕・誘蛾燈㋙・誘惑〈誘わくトモ〉㋙㋛㋟・勧誘㋓㋔
		さそう	⓪—⑦	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	誘う〈誘ふトモ〉(～・～い込む)㋙
			〈字〉	0	4	3	7	1	2	0	3	3	1	3	0	2	3	3	7	
890 ②—⑧	優	ユウ	⑧—⑧	0	8	10	18	1	2	1	2	3	2	2	0	3	0	2	7・8	名優㋛㋔・俳優㋙・女優㋙・優雅㋙㋔㋕・優越㋛・優劣㋙・優勝㋟・優美㋙㋔㋕など
		やさしい	⓪—⑥	0	23	1	24	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	優しい(～・～しさ)㋙
			〈字〉	0	31	11	42	1	2	1	2	3	2	2	0	3	0	2	7・8	
891 ⓪—⑥	融	ユウ	①—⑧	0	4	1	5	2	2	0	2	2	0	3	0	0	0	0	4	金融(～・～恐慌・～業・～機関ナド)㋛・融資㋛・融通㋙㋛・融和㋙・融合㋷㋔など
			〈字〉	0	4	1	5	2	2	0	2	2	0	3	0	0	0	0	4	
892 ⓪—①	憂	ユウ	④—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.0	
		うれい	①—⑥	0	1	0	1	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	憂い〈憂トモ〉㋙㋛
		うれえる	①—⑥	0	3	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	憂える㋙・憂わし(～げ)㋙
			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
893 ⓪—⑥	与	ヨ	②—⑧	0	5	1	6	2	2	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3・2	寄与㋛㋷・与党㋛・天与㋙・投与㋛・給与㋛・賦与㋛・参与㋛・与謝〈固〉㋙㋛・与一〈固〉㋙など
		あたえる	③—⑧	0	10	27	37	1	2	1	3	1	2	1	1	0	0	0	7	与える㋙㋜㋛㋷㋓㋔㋪
			〈字〉	0	15	28	43	1	2	1	2	1	2	1	1	0	3	0	8・7	
894 ①—⑥	誉	ヨ	④—⑧	0	3	3	6	1	2	0	2	0	2	0	0	1	0	0	3	名誉(～・～革命)㋙㋛㋔・栄誉㋛
		ほまれ	①—⑥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	3	3	6	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	

漢字番号 書㊇−㊇	漢字	音訓	読 ㊇−㊇	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
895	羊	ヨウ	⑧−⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	1	3・4	羊毛(～・～工業)㋛㋷㊛・羊皮(～紙)㋙
⑥−⑧		ひつじ	⑦−⑧	0	2	4	6	1	2	0	1	0	2	1	0	0	0	0	5	羊㋙㋛㋓・羊飼い〈羊かいトモ〉㋙㋓㋔㋪・羊番㋙
			〈字〉	0	2	5	7	1	2	0	1	3	1	2	1	0	0	1	6・7	
896	幼	ヨウ	⑧−⑧	2	0	4	6	1	1	0	2	3	0	0	0	2	3	1	5	幼児(～・乳～・～食ナド)㋙㋟㊛・幼稚(～・～園)㋛㊛・幼年(～・～時代)㋙・幼虫㋙㋷㊛など
⑥−⑥		おさない	⑧−⑧	5	4	6	15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	幼い㋙・幼な心(ママ)㋙
			〈字〉	7	4	10	21	1	1	0	2	3	0	0	0	2	3	1	5	
897	庸	ヨウ	⓪−⑥	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	庸(租～調)㋛
⓪−②			〈字〉	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
898	揚	ヨウ	⑧−⑧	6	0	1	7	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	4・3	揚水(～・動力～機)㋛㊚・揚力㋷・抑揚㋙・揚子〈同〉(～江・～流域)㋙㋛
②−⑥		あげる	⑤−⑧	0	0	2	2	3·1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1・2	揚げる(～・～けがす・精進～・さつま～ナド)㋙㊛・揚げもの(～・～用具)㊛・から揚げ㊛・揚がる㊛など
			〈字〉	6	0	3	9	1	1	0	1	3	0	0	0	0	3	1	4	揚カカグ㋛
899	溶	ヨウ	⑦−⑧	0	0	2	2	1	3	0	2	1	0	0	0	2	1	2	5	溶液(～・リトマス～ナド)㋷・溶解(～・～度ナド)㋙㋷・溶媒〈溶ばいトモ〉㋷・溶鉱炉㋛㋷㊚など
②−⑧		とける	②−⑧	0	0	4	4	3	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	溶ける(～・～け込む・～け合う)㋙㋔・溶く㋙・雪溶け㋙
			〈字〉	0	0	6	6	1	3	0	2	1	0	3	0	2	1	2	6	
900	腰	ヨウ	②−⑤	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1・2	腰痛㋟・腰部㊛
③−⑦		こし	④−⑧	8	16	16	40	1	1	0	2	2	0	0	0	2	0	1	4・5	腰(～・～曲がり・～回り・けんか～ナド)㋙㋛㋷㋟㊛・腰かけ(～・丸～ナド)㋙㊛・腰掛ける〈腰かけるトモ〉㋙・腰骨㊛
			〈字〉	8	16	16	40	1	1	0	2	2	0	0	0	2	0	1	4・5	
901	揺	ヨウ	①−⑧	0	0	3	3	2	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	動揺㋙㋟
⓪−③		ゆれる	⓪−⑧	0	0	6	6	3	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	3・2	揺れる(～・一～れ・～れかたナド)㋙㋓㊚・揺する㋙
			〈字〉	0	0	9	9	2	3	0	0	0	3	0	0	2	3	0	4・3	
902	窯	ヨウ	①−④	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	窯業㋛
⓪−⓪			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
903	踊	ヨウ	④−⑧	4	0	3	7	1	1	0	3	0	0	2	0	3	0	0	4	舞踊(～・～家・～化ナド)㋙㋛㋔・民踊(郷土～)㋛㋟
⓪−⑧		おどる	⑥−⑧	6	2	3	11	1	1	0	2	0	0	3	3	0	0	0	4	踊る㋙㋔・踊り(～・へび～ナド)㋙㋛㋔・踊子〈同〉㋪
			〈字〉	10	2	6	18	1	1	0	2	0	0	2	3	3	0	0	5	
904	謡	ヨウ	⑦−⑧	0	2	1	3	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	民謡(～・地方～ナド)㋛㋔・古謡(日本～〈同〉ナド)㋙㋔・歌謡㋙㋔・謡曲㋛
⓪−④		うたい	⓪−③	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	謡(～・地～座)㋙
			〈字〉	0	2	4	6	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書㊇—㊄	漢字	音訓	読 ㊇—㊄	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
905	擁	ヨウ	⓪—⑥	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	擁護(～・憲政～・人権～局ナド)㋛・抱擁(～力)㋙
⓪—①			〈字〉	0	0	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
906	抑	ヨク	⓪—⑥	6	0	2	8	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3・2	抑制(～・栽培)㋛㊚・抑留㋛・抑揚㋙・抑圧㋙
⓪—①			〈字〉	6	0	2	8	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3・2	
907	翌	ヨク	⑥—⑧	2	8	4	14	1	1	1	1	1	0	0	0	2	0	0	5	翌朝㋙㋜㋟・翌年㋙㋷・翌晩㋷・翌(～…年・～…日・～…曜日)㋛
①—⑦			〈字〉	2	8	4	14	1	1	1	1	1	0	0	0	2	0	0	5	
908	翼	ヨク	⑤—⑧	0	0	1	1	2・1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2・3	右翼(～・～団体)㋛・翼(～・かくはん～)㋙㊛・大政翼賛会〈固〉㋛
①—⑤		つばさ	①—⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	翼㋙
			〈字〉	0	0	3	3	2・1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2・3	
909	裸	ラ	③—⑧	0	4	0	4	2	2	0	2	2	0	0	0	0	3	0	4・3	裸体㋛・裸地(乾田～直まき)㊚・裸子植物㋷・半裸㋙
①—④		はだか	④—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	2	2	0	0	0	0	3	0	4・3	
910	雷	ライ	⑥—⑧	0	7	4	11	2	2	0	0	2	0	3	0	0	0	0	3	雷㋙・雷雨㋷㋔・機雷㋙・遠雷㋙・雷同(付和～)㋙
⑦—⑧		かみなり	④—⑧	2	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	雷㋙
			〈字〉	2	8	4	14	1	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	3	
911	頼	ライ	⑥—⑧	3	8	0	11	1	1	0	2	0	0	3	0	0	0	3	3・4	依頼㋙㋛㋔㊛・信頼㋙㋛・頼〈固〉㋛
④—⑧		たのむ	⑧—⑧	20	8	7	35	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	頼む(～・～みごとナド)㋙㋓・頼み㋙・頼もしい(～・～もしげ)㋙
			〈字〉	29	18	7	54	1	1	0	2	0	2	3	2	0	0	3	5・6	頼朝ヨリトモ〈固〉㋙㋛㋪・時頼トキヨリ〈固〉㋛など
912	絡	ラク	⑥—⑧	2	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	0	3	2	2	5	連絡(～・～地・～船ナド)㋙㋛㋷㋟㊚㊛・短絡(～・～環ナド)㋷㊚
③—⑦			〈字〉	2	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	0	3	2	2	5	
913	酪	ラク	⑤—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	酪農(～・～地帯・～農家・～国)㋛
⓪—⑥			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
914	卵	ラン	④—⑧	0	0	2	2	2・1	3	0	3	2	0	0	0	2	0	1	4・5	鶏卵㋛㋟・卵生㋷・卵黄㋷㊛・卵白㊛・産卵(～・～期ナド)㋙㋷・卵(～・受精～・寄生虫～ナド)㋷㋟㊛など
⑥—⑦		たまご	⑧—⑧	3	1	3	7	1	1	3	0	2	1	0	2	2	0	1	6・7	卵(～・～類・～たて・～形・～とじ・半熟～ナド)㋙㋜㋷㋓㋪㋟㊛
			〈字〉	3	1	5	9	1	1	3	3	2	1	0	2	2	0	1	7・8	
915	乱	ラン	⑥—⑧	2	8	8	18	1	1	0	2	2	3	2	0	2	0	1	6・7	狂乱㋙㋔・混乱㋙㋛㋟・反乱(～・～軍)㋙㋛・戦乱㋛・動乱(～・朝鮮～〈固〉)㋛・乱暴(～・～者)㋙㋛㋓㋟など
②—⑧		みだれる	②—⑧	0	5	0	5	2	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	乱れる(～・～れ・入り～)㋙㋛・乱す(かき～)㋙
			〈字〉	2	13	8	23	1	1	0	2	2	3	2	0	2	0	1	6・7	

漢字番号 書入—㊎	漢字	音訓	読 ㊅—㊎	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
916 ⓪—①	濫	ラン	⓪—⑥	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	濫用㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
917 ①—①	欄	ラン	⑥—⑧	1	3	5	9	1	1	3	3	3	2	0	0	0	0	0	5	欄(～・～外・空～・経済～・投書～)㋙㋜㋷㋓・欄干㋙
			〈字〉	1	3	5	9	1	1	3	3	3	2	0	0	0	0	0	5	
918 ①—⑤	覧	ラン	⑥—⑧	31	29	7	67	1	1	3	1	0	0	3	3	0	0	0	5	展覧(～会)㋙㋜㋛㋔㋪・遊覧(～船)㋛・要覧(経済～ナド)㋛・一覧(～表ナド)㋙㋛㋔・閲覧(～・～所)㋙など
			〈字〉	31	29	7	67	1	1	3	1	0	0	3	3	0	0	0	5	
919 ⓪—④	吏	リ	⓪—⑥	1	0	4	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	官吏(～・中級～)㋙㋛・廷吏㋛・吏党㋛・吏員㋛
			〈字〉	1	0	4	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
920 ①—⑦	痢	リ	⑥—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	赤痢(～・～菌・～患者)㋟・えき痢㋟・下痢(～・伝染性～症)㋟
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	
921 ①—④	履	リ	①—⑧	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	履行㋛
			〈字〉	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	
922 ①—⑧	離	リ	⑧—⑧	3	2	3	8	1	1	1	1	1	2	3	0	1	1	3	8	分離(～・～液・神仏～令)㋛㋷㊚㊛・距離(～・直線～・最短～・焦点～ナド)㋙㋜㋛㋷㋓㋟㊚㊛・離婚㋛など
		はなれる	③—⑧	2	16	11	29	1	1	1	0	0	2	3	0	1	3	0	6・5	離れる㋙㋜㋓㋟㊚・かけ離れる㋙・離る〈文語〉㋔・離す㋙㊚・切り離す㋙㊚
			〈字〉	5	18	14	37	1	1	1	1	1	2	3	0	1	1	3	8	
923 ⓪—③	裏	リ	⓪—⑥	0	0	0	0	2·1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	2・3	裏面㋷㊛・内裏㋛
		うら	⑧—⑧	3	8	6	17	1	1	0	1	3	3	1	3	0	1	1	7	裏(～・屋根～・～ごし・～側・～編みナド)㋙㋛㋪㊚㊛・裏表㊛・裏目㊛・裏返す〈裏がえすトモ〉(～・～し)㋔㊚㊛など
			〈字〉	3	8	6	17	1	1	0	1	2	3	1	3	0	1	1	7	
924 ②—⑦	柳	リュウ	①—⑧	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	川柳㋛・柳虹〈固〉㋔
		やなぎ	⑥—⑧	0	0	4	4	1	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	柳㋙㋔・柳原〈固〉㋪
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	0	2	0	0	1	1	0	0	0	4	青柳アオヤギ㋔
925 ②—⑥	粒	リュウ	③—⑧	0	0	3	3	3·2	3	0	0	3	0	0	0	0	3	2	3	粒子㋷㊛・微粒子(～・～土壌)㋙・脱粒㊚・散粒(～機)㊚・根粒(～細菌)㋷・粒(でんぷん～)㊛
		つぶ	⑥—⑧	0	0	2	2	2	3	3	0	2	0	0	0	0	3	0	4・3	粒(～・砂～・雨～・～状・大～ナド)㋙㋜㋷㊚
			〈字〉	0	0	5	5	2	3	3	0	2	0	0	0	0	3	2	4	
926 1—⑧	隆	リュウ	②—⑧	2	1	19	22	1	1	0	1	3	1	3	2	0	3	0	7・6	隆盛㋙㋔・隆起㋷・法隆寺〈固〉㋙㋛㋪・広隆寺〈固〉㋙㋪・隆之助〈固〉㋙など
			〈字〉	2	1	20	23	1	1	0	1	3	1	3	2	2	3	0	8・7	隆盛タカモリ〈固〉㋛・道隆ミチタカ〈固〉㋙・基隆キールン〈固〉㋛など
927 ①—⑧	硫	リュウ	⑧—⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	1	1	4	硫酸(～・～銅・希～・亜～ナド)㋛㋷㋟㊛・硫安(～・～工場)㋛㋷㊚・硫化(～鉱ナド)㋛㋷
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	1	1	4	硫黄イオウ〈固〉(～島トウ)㋷

㋙＝国語　㋜＝数学　㋛＝社会　㋷＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋪＝美術　㋟＝保健体育　㊚＝技術・家庭〈男子用〉　㊛＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号 書(入)—(卒)	漢字	音訓	読 (入)—(卒)	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
928	虜	リョ	①—⑧	0	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	捕虜(～・～収容所)㋙
⓪—②			〈字〉	0	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
929	慮	リョ	③—⑧	4	11	11	26	1	1	1	3	0	0	0	0	3	3	2	5	不慮㋟・配慮㋙㋜㋕・考慮㋙㋛㊚㋕・思慮(～・無～)㋙・遠慮(～・無～)㋙・慮外㋙
⓪—④			〈字〉	4	11	11	26	1	1	1	3	0	0	0	0	3	3	2	5	
930	了	リョウ	⑤—⑧	0	5	1	6	2	2	0	2	0	2	0	0	2	0	0	4	終了㋛㋟・完了(～・～形・現在～ナド)㋙㋓・満了(期間～)㋛・未了(審査～)㋛・了解㋙
⓪—⑥			〈字〉	0	5	1	6	2	2	0	2	0	2	0	0	2	0	0	4	
931	涼	リョウ	⓪—⑧	3	1	0	4	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	冷涼㋛・荒涼㋙・〈俗字体トシテ〉涼子リョウシ〈固〉㋔
⑤—⑧		すずしい	⑤—⑧	4	3	2	9	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2・3	涼しい(～・～しさ)㋙㋓㋕・涼し〈文語〉㋙・涼む㋙
			〈字〉	7	4	2	13	1	1	0	1	0	1	2	0	0	0	3	4・5	
932	猟	リョウ	③—⑧	0	8	1	9	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3	猟(～・～仲間)㋙・猟する㋙・狩猟㋛・猟師㋙㋛㋪・猟人(～日記〈固〉)㋙
⓪—②			〈字〉	0	8	1	9	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3	
933	陵	リョウ	①—⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	丘陵(～・～性ナド)㋛・陵(～・仁徳天皇～〈固〉)㋛
⓪—②		みささぎ	⓪—③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
934	僚	リョウ	⑥—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	官僚(～・～主義・～政治・～出身)㋛・同僚㋙㋛・閣僚㋛
⓪—④			〈字〉	0	0	3	3	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
935	寮	リョウ	⑥—⑧	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	寮(～・造幣～・雅楽～ナド)㋙㋛㋔・寮母㋙
⓪—②			〈字〉	0	2	2	4	2	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	
936	療	リョウ	⑥—⑧	0	5	1	6	1	2	1	1	3	0	0	0	1	0	0	5	医療(～・～品・～施設ナド)㋛㋟・治療(～・早期～)㋙㋜㋛㋷㋟・療養(～・～所・長期～ナド)㋟など
①—②			〈字〉	0	5	1	6	1	2	1	1	3	0	0	0	1	9	9	5	
937	糧	リョウ	⑥—⑧	0	2	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	食糧(～・～管理)㋙㋛㋟
①—⑥			〈字〉	0	2	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	
938	厘	リン	⑧—⑧	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	厘〈単位〉㋜
②—⑦			〈字〉	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
939	倫	リン	⓪—⑧	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	倫理(～的・～学)・絶倫㋙・倫〈固〉(葬～)㋛
⓪—④			〈字〉	0	0	4	4	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
940	隣	リン	⓪—⑧	0	5	24	29	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	3・4	隣接㋛・隣人㋙㋛㋕・隣家㋙・隣国㋙㋛・隣邦㋛・隣辺㋜・近隣㋙㋛
⓪—④		となり	⑤—⑧	5	9	27	41	1	1	1	0	2	0	3	0	0	0	0	4	隣〈隣リトモ〉(～・お～・～村・両～ナド)㋙㋛㋷㋔
			〈字〉	5	14	51	70	1	1	1	1	2	0	3	0	0	0	3	5・6	

漢字番号 書㋩－㊉	漢字	音訓	読 ㋩－㊉	出現度数(国語) 1年	2年	3年	計	初出学年	教科別初出学年 国	数	社	理	英	音	美	体	男	女	出現教科数	用例
941	涙	ルイ	①－④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－⑥		なみだ	⑦－⑧	0	5	8	13	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	波㊁㋔・涙ぐましい㊁
			〈字〉	0	5	8	13	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	
942	累	ルイ	②－⑧	0	0	2	2	1	3	1	3	0	0	0	0	0	3	0	4・3	累進(～税)㋛・累年(～統計表)㊉・累乗㋓・累積㊁
①－③			〈字〉	0	0	2	2	1	3	1	3	0	0	0	0	0	3	0	4・3	
943	塁	ルイ	⑧－⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	本塁㊁
⓪－②			〈字〉	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
944	励	レイ	⓪－⑧	0	2	0	2	2	2	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	奨励(～・青少年読書～会ナド)㋛㋩・激励㊁
⓪－⑤		はげむ	①－⑧	0	7	1	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	励む(～・～み立つ)㊁・励ます㊁
			〈字〉	0	9	1	10	2	2	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	
945	零	レイ	⑥－⑧	0	4	0	4	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	零下㊁㋛・零細(～企業・～工業・～経営)㋛・零点㊁
⓪－⑤			〈字〉	0	4	0	4	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	零フル㋛
946	鈴	リン	⑥－⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④－⑧		レイ	①－⑧	1	2	0	3	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	電鈴㋑・銀銀㊁
		すず	⑧－⑧	8	3	1	12	1	1	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	鈴㊁・鈴木〈固〉㊁㋛㋩
			〈字〉	9	5	1	15	1	1	0	2	3	0	0	3	0	0	0	4	
947	霊	レイ	④－⑧	0	5	0	5	2	2	0	2	3	3	0	0	0	0	0	4	幽霊㊄・精霊㋛㊄・霊㊁㊄・霊廟㋛㊄・全霊(全身～)㊁・遺霊㊁・霊長(～類・～目)㋑
⓪－⑤			〈字〉	0	5	3	8	2	2	0	2	3	3	0	0	0	0	0	4	死霊シリョウ㊁・生霊イキリョウ㊁・悪霊アクリョウ㊁
948	隷	レイ	①－⑧	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	奴隷(～・～制度・～商人・～解放令ナド)㋛・隷従㋛
⓪－①			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
949	齢	レイ	⑦－⑧	3	1	3	7	1	1	0	1	3	3	0	0	1	0	1	5・6	年齢(～・～別・～区分・生産～ナド)㊁㋛㋑㋓㋗㋘・老齢㋛・妙齢㊁
①－⑥			〈字〉	3	1	3	7	1	1	0	1	3	3	0	0	1	0	1	5・6	
950	麗	レイ	⓪－⑧	0	0	11	11	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	壮麗㊁㋛・豊麗㊁
⓪－⑥		うるわしい	⓪－⑧	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	麗しい㊁
			〈字〉	0	0	13	13	2	3	0	2	0	0	3	0	0	0	0	3	高麗コマ〈固〉(～笛)㋔・高句麗コウクリ〈固〉㋛・高麗コウライ〈固〉㋛
951	暦	レキ	⑤－⑧	0	1	2	3	1	2	0	1	3	3	0	0	0	0	0	4	暦(太陽～・太陰～)㋛㋑・旧暦㋛・西暦(～・～年・～年数)㊁㋛㊄・陰暦㊁・宝暦〈固〉㋛
②－⑦		こよみ	⓪－⑧	0	0	3	3	1	3	0	2	3	1	0	0	0	0	0	4	暦㊁㋛㋑㊄
			〈字〉	0	3	5	8	1	2	0	1	3	1	0	0	0	0	0	4	延暦エンリャク〈固〉(～・～寺)㊁㋛

㊁＝国語　㋩＝数学　㋛＝社会　㋑＝理科　㊄＝英語　㋔＝音楽　㋩＝美術　㋗＝保健体育　㋙＝技術・家庭〈男子用〉　㋘＝技術・家庭〈女子用〉

漢字番号	漢字	音訓	読	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
書㋤—㋮			㋤—㋮	1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
952 ①—⑧	劣	レツ	①—⑧	0	2	2	4	1	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	劣性㋷・劣角㋜・劣弧㋜・拙劣㋙・優劣㋙
		おとる	①—⑧	9	3	2	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	劣る㋙㊚
			〈字〉	0	5	4	9	1	2	1	0	3	0	0	0	0	3	0	4・3	
953 ⓪—⑥	烈	レツ	⑤—⑧	1	0	10	11	1	1	9	9	3	0	3	0	0	0	0	3	強烈㋔・猛烈㋙㋷・烈風㋙・痛烈㋙
			〈字〉	1	0	10	11	1	1	0	0	3	0	3	0	0	0	0	3	
954 ①—⑥	裂	レツ	④—⑧	0	7	4	11	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	分裂(～・核～・細胞～・無糸～ナド)㋛㋷・破裂㋙㋷・亀裂㋙・断裂(～図法)㋛
		さく	⓪—⑥	0	2	6	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	裂く㋙・裂ける(～・～け始める)㋙
			〈字〉	0	9	10	19	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	
955 ④—⑦	恋	レン	①—⑧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		こい	⑦—⑧	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	恋(～は魔術師〈固〉)㋔
		こいしい	⑦—⑧	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	恋しい(～しさ)㋙
			〈字〉	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	
956 ⓪—③	廉	レン	⓪—⑥	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	廉太郎〈固〉㋔・廉〈固〉㋪
			〈字〉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	
957 ⓪—③	錬	レン	④—⑧	0	0	4	4	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	錬鉄㊚・精錬(～・～所)㋙㋛㋷・製錬㋷
			〈字〉	0	0	4	4	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4・3	
958 ⓪—⑦	炉	ロ	⑥—⑧	4	2	3	9	1	1	0	2	3	0	0	0	0	2	0	4・3	炉(～・平～・原子～・溶鉱～・～だなナド)㋙㋛㋷㊚・炉ばた㋙・香炉〈固〉(～峰)㋙
			〈字〉	4	2	3	9	1	1	0	2	3	0	0	0	0	2	0	4・3	
959 ①—⑦	露	ロ	③—⑧	0	0	1	1	1	3	0	1	2	0	0	0	0	3	3	4	露〈ロシア〉〈固〉㋛・露出(～・～形・～配線ナド)㋷㊚㊛・露点(～温度)㋷・露天(～採鉱)㋷・露頭㋷・暴露(～地帯)㋙など
		つゆ	①—⑧	0	3	1	4	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	露(～・朝～)㋙㋔
			〈字〉	0	3	2	5	1	2	0	1	2	0	3	0	0	3	3	5	
960 ④—⑥	浪	ロウ	⑥—⑧	0	0	3	3	2	3	0	2	0	3	2	0	0	0	0	4	流浪(～の民〈固〉)㋔・浮浪(～人)㋛・波浪㋙・激浪㋙・浪費㋓・楽浪〈固〉(～郡)㋛
			〈字〉	0	3	3	6	2	2	0	2	0	3	2	0	0	0	0	4	浪花ナミハナ〈固〉㋷
961 ⓪—②	朗	ロウ	⑤—⑧	14	10	12	36	1	1	0	0	0	0	2	0	3	0	0	3	朗読㋙㋔・朗詠㋔・朗唱㋙・明朗㋙㋟
		ほがらか	①—⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			〈字〉	14	10	12	36	1	1	0	0	0	0	2	0	3	0	0	3	
962 ⑦—⑧	郎	ロウ	⑧—⑧	15	94	152	261	1	1	3	1	1	0	1	2	1	0	2	7・8	野郎㋙・太郎(～冠者)㋙・八郎〈固〉(～潟)㋛㋷・太郎〈固〉㋙・一郎〈固〉㋛・平八郎〈固〉㋛など
			〈字〉	15	94	152	261	1	1	3	1	1	0	1	2	1	0	2	7・8	武郎タケオ〈固〉㋛

漢字番号	漢字	音訓	読	出現度数(国語)				初出学年	教科別初出学年										出現教科数	用例
書㋐－㋖			㋐－㋖	1年	2年	3年	計		国	数	社	理	英	音	美	体	男	女		
963	廊	ロウ	⑧－⑧	3	0	2	5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	2・3	廊下(～・中～式・～様)㋙㋓㋕
④－⑥			〈字〉	3	0	2	5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	2・3	
964	楼	ロウ	①－⑧	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	楼台㋙・摩天楼㋛
⓪－③			〈字〉	0	0	3	3	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
965	漏	ロウ	⓪－⑥	0	0	0	0	3・1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	漏電㋕ 漏水㋚
⓪－⓪		もる	⓪－⑤	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	雨漏り㋙
		もれる	⓪－⑤	0	0	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2・1	漏れる(～・～れ・ガス～れ)㋙㋚
			〈字〉	0	0	4	4	3・1	3	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	
966	賄	ワイ	⓪－④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⓪－⓪			〈字〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
967	惑	ワク	③－⑧	0	19	5	24	2	2	0	3	3	0	0	0	0	0	0	3	誘惑㋙㋛・疑惑㋛・迷惑(～・はた～・～千万ナド)㋙・当惑㋙・惑星(～・内～・～運動ナド)㋙㋓
⓪－⑤		まどう	⓪－⑦	0	0	2	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	惑う㋙
			〈字〉	0	19	7	26	2	2	0	3	3	0	0	0	0	0	0	3	
968	腕	ワン	④－⑧	0	0	2	2	2	3	0	3	0	0	0	2	2	0	0	4	腕(右～・前～・上～)㋗㋔・手腕㋙㋛
①－④		うで	⑦－⑧	7	5	13	25	1	1	0	0	2	1	0	0	1	3	1	5	腕(～・～立てふくが・～回り・両～ナド)㋙㋓㋓㋗㋚㋕・腕前㋙・腕きき㋙・腕組み㋙・二の腕㋙・腕時計L㋓
			〈字〉	7	5	15	27	1	1	0	3	2	1	0	2	1	3	1	7	
969	湾	ワン	⑧－⑧	6	0	3	9	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	湾(～・東京～〈固〉・～内・内～ナド)㋙㋛㋓・港湾(～・～施設)㋛・峡湾㋛・台湾〈固〉(～・～島・～産Lナド)・石湾〈固〉(～産)㋙
⑦－⑧			〈字〉	6	0	3	9	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	

㋙＝国語　㋓＝数学　㋛＝社会　㋓＝理科　㋓＝英語　㋔＝音楽　㋔＝美術　㋗＝保健体育　㋚＝技術・家庭〈男子用〉　㋕＝技術・家庭〈女子用〉

（中村　明）

資　料　Ⅲ

当用漢字全数調査問題提出語形一覧

1. 教育漢字（提出語形）

＊文字の上の数字はその文字の配当学年を示す。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
文字	4 愛	3 悪	5 圧	3 安	4 案	3 暗	4 以	4 衣	4 囲	4 位	4 医	4 委
音訓	アイ	アク	わるい	アツ	アン	やすい	アン	アン	くらい	イ	かこむ	イ	くらい	イ	イ
提出語形	愛する	悪人	悪い	圧力	安心	安い	案内	暗黒	暗い	以上	衣類	衣・羽衣	周囲	囲む	位置	位・位取り	医者	委員

番号	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
文字	5 胃	5 移	6 異	3 意	6 遺	4 育	1 一	6 壱	3 引	4 印	5 因	4 員	4 院	4 飲
音訓	イ	イ	うつる	イ	ことなる	イ	ユイ	イク	そだてる	イチ	イツ	ひとつ	イチ	イン	ひく	イン	しるし	イン	よる	イン	イン	イン	のむ
提出語形	胃	移転	移る	異状	異なる	注意	遺産	遺言	教育	育てる	一日	一等	一つ	壱円	引力	引く	印刷・印象	印・目印	原因	：に因る	委員	病院	飲食	飲む

番号	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
文字	1 雨	2 雲	3 運	3 絵	5 永	4 泳	4 英	5 栄	5 営	5 衛	5 易	5 益	5 液	3 駅	2 円	6 延
音訓	ウ	あめ	ウン	くも	ウン	はこぶ	エ	カイ	エイ	エイ	エイ	およぐ	エイ	エイ	さかえる	いとなむ	エイ	エキ	エキ	エキ	エキ	エン	エン
提出語形	雨天	雨雲	雲母・暗雲	雲動	運ぶ	絵をかく・絵本	絵画	永久	水泳	泳ぐ	英語	栄養	栄える	経営・営業	営む	衛生	貿易	容易	純益・利益	液体	駅	円	延長・延期

番号			43	44		45	46	47	48	49	50	51	52	53	54			55
文字			4 塩	3 遠		5 演	3 園	2 王	5 央	5 往	4 横	5 応	3 屋	5 億	2 音			5 恩
音訓	のべ	オン	エン	しお	エン	オン	とおい	エン	エン	そのう	オウ	オウ	よこ	オウ	オク	やク	オン	イン	おと	ねオン
提出語形	延べる	延べる	食塩	塩	遠足	久遠	遠い	演芸会	公園	花園	王様	中央	往復	横断	横	応接室・応用	屋上	宿屋	一億年・億万	音楽	母音	音色	恩人
番号	56	57					58	59			60	61	62		63		64		65	
文字	3 温	1 下					1 火	3 化			4 加	6 可	5 仮		2 何		5 果		5 河	
音訓	オン	カ	ゲ	しも	もと	くだる	さげる	カ	ひ	カ	ケ	ばける	カ	くわえる	カ	カ	ケ	かり	カ	なに	カ	はたす	カ
提出語形	温度	天下	下旬・上下	下書き	下の句	下り坂	下げる	火事	火	文化	化粧	化ける・化け物	加入	加える	許可	仮面・仮説	仮病	仮に	幾何	何	結果	果たす	運河・河口	
番号	66		67	68	69			70		71	72	73			74		75	76	77	
文字	1 花		3 科	2 夏	2 家			3 荷		4 貨	5 過	3 歌			5 価		5 課	5 我	3 画	
音訓	カ	はな	カ	カ	カ	なつ	ケ	いえ	や	カ	に	カ	すぎる	カ	うた	うたう	カ	あたい	カ	ガ	われ	ガ	カク	
提出語形	花壇・花粉	花	社会科・科学	夏季・初夏	家族・国家	夏休み	家来・分家	家	家賃・貸家	荷物	過去	過ぎる	唱歌		歌う	歌	定価	価い	放課後・学課	自我	我	図画・画家	画	計画	

番号	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
文字	4 芽	5 賀	3 回	2 会	5 快	4 改	3 界	2 海	4 械	3 開	4 階	5 解	3 貝
音訓	ガ	ガ め	カ イ エ	カ イ エ まわす	カ イ あう	カ イ こころよい	カ イ あらためる	カ イ うみ	カ イ	カ イ ひらく	カ イ	カ イ ゲ とく	かい
提出語形	発芽	芽が出る 年賀状	三回 回向 回す	会場・会議 会釈	会う・出会う 快晴	快い 改良	改める 世界	海岸 海械	機械	開始 開く	階段・二階	解釈・理解 解毒	解く・解きわける 貝・貝がら
番号	91		92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105
文字	2 外		4 害	5 各	3 角	6 革	5 確	5 格	6 拡	4 覚	2 学	6 額	3 活	6 株	6 刊	5 完
音訓	ガイ ゲ ほか		ガイ そと	カク おのおの	カク つの	カク	カク たしか	カク	カク	カク おぼえる	ガク まなぶ	ガク ひたい	カツ	かぶ	カン	カン
提出語形	外国 外科 その外		外回 虫の害・害虫	各地	三角 角笛・牛の角	革命	正確 確かに	資格・人格	拡声機・拡大	感覚 覚える	学校 学ぶ	金額 額・額ぎわ	生活	株式・切り株	週刊誌	完成
番号	106	107	108		109	110	111	112		113	114	115	116	117	118	119
文字	4 官	3 寒	2 間		6 幹	3 感	6 勧	5 慣		5 漢	5 管	4 関	6 歓	4 館	4 観	3 岸
音訓	カン	カン さむい	カン ケン あいだ		カン まき	カン みき	カン すすめる	カン なれる		カン	カン くだ	カン せき	カン	カン	カン	ガン きし
提出語形	裁判官・官立	寒暖計・寒中 寒い	時間 世間 この間		幹線・幹事 床の間・昼間	木の幹 感心	勧告	勧める 習慣		漢字	鉄管 管をまく	関係 関所	歓迎会	図書館	観察	海岸

番号	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133
文字	3 岩	6 眼	3 顔	4 願	5 希	2 汽	4 季	5 紀	2 気	3 記	3 起	6 基	3 帰	5 寄
音訓	ガン	ガン まなこ	ガン かお	ガン ねがう	キ	キ	キ	キ	キ ケ	キ	キ おこる	キ おきる もとづく	キ もとい	キ かえる
提出語形	岩石	岩 近視眼	顔色 顔面	顔 願望	お願い 希望	汽車	季節	二十世紀	気持 気高い	日記	起床・起立 起こる	基本 基づく	国の基	帰国・帰宅 帰る	寄宿・寄生虫
番号	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147
文字	5 規	4 喜	3 期	6 貴	4 旗	4 器	4 機	5 技	5 義	6 疑	5 議	3 客	6 逆	1 九
音訓	キ よる	キ よろこぶ	キ ゴ	キ	キ はた	キ うつわ	キ はた	ギ	ギ	ギ うたがう	ギ	キャク カク	ギャク さからう	キュウ ク
提出語形	寄る 規則	喜劇 喜ぶ	学期 最期	貴金属・貴族	国旗 旗・旗取り	食器 りっぱな器	機械 機を織る	技術	正義・義理	疑問	会議 疑う	お客 客死	逆算	逆う・逆さま 九州・九死	九年
番号	148		149	150	151	152	153	154			155	156	157	158	159	160
文字	5 久		6 旧	2 休	5 求	3 究	3 急	4 宮			3 級	5 救	3 球	5 給	2 牛	3 去
音訓	キュウ ク ひさしい		キュウ	キュウ やすむ	キュウ もとめる	キュウ	キュウ いそぐ	キュウ グウ			キュウ	キュウ すくう	キュウ	キュウ	ギュウ うし	キョ
提出語形	九つ 永久 久しい 久遠		旧式・新旧	休日 休む	要求・求職 求める	研究	急用 急ぐ	宮城 神宮		宮内庁	お宮 学級	救助 救う	野球	配給	牛乳 牛の皮	去年

番号	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171
文字	5 居	4 挙	5 許	3 魚	5 漁	4 共	6 供	2 京	4 協	3 教	3 強
音訓	コ さ・る	キ ヨ	い・る	キ ヨ	キ ゆる・す	ギ ヨ	ギ うお・ヨ	リ ヨウ	キ ヨウ	と・も	キ ヨウ	ク そなえる	キ ヨウ	ケイ	キ ヨウ	キ ヨウ	キ おしえる	キ ヨウ	ゴウ
提出語形	過去 去る	去住 居る	住居 居る	選挙 挙る	許可 許す	魚類 魚つり	漁村・漁船 大漁	共通 共に	共供 供出・供述	供物 供える	供子 供	東京 京浜・京阪	協力 教室	教える 教国	強情・強盗
番号	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183
文字	6 境	3 橋	4 鏡	4 競	4 業	4 曲	3 局	4 極	2 玉	3 近	5 均	1 金
音訓	つよい キョウ	ケイ さかい	キョウ	は・し	キョウ	かがみ	キョウ	ケイ きそう	ギョウ	ゴウ	キョク まがる	キョク	キョク	ギョク たま	キン	キン ちかい	キン	キン
提出語形	強い	環境 境内	境い	鉄橋 橋	望遠鏡 鏡	競争 競馬	競う	卒業式 業火・悪業	曲線 曲り道	郵便局 南極	極楽・至極 宝玉・玉座	玉 近所	近い 平均	金額
番号	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197
文字	6 勤	6 禁	3 銀	5 区	5 句	3 苦	4 具	2 空	3 君	6 訓	5 軍	4 郡	5 群	3 兄
音訓	コン かね	キン つとめる	キン ギン	ク	ク	ク にがい・くるしい	グ	クウ そら	クン きみ	クン	グン	グン むれる・むらがる	グン	ケイ	キョウ
提出語形	金持ち・金もうけ 金色・黄金	勤務・勤勉 勤める	禁じる 銀行	区別	俳句	苦労・苦心 苦い	苦しい 具合	空気 空	○○君 君が代	教訓	軍隊・軍人	○○郡 いなごの大群	群れる 群がる	父兄 兄弟

番号	198			199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209
文字	3 形			6 系	4 係	5 型	3 計	6 敬	4 景	5 経	4 軽	4 芸	5 欠	4 血
音訓	あ に	ケイ	ギョウ	かた ち	ケイ	かかる	ケイ	うやまう	ケイ	ケイ キョウ	へる	ケイ	かるい	ゲイ	ケツ	かける
提出語形	兄	形式	人形	形見	系統	関係	係り	原型	型紙・大型	計算	計る	尊敬	敬う	風景	経済・経験	お経	軽快	軽い	芸術	欠点	欠ける	血液

番号	210	211		212	213		214	215	216	217	218	219	220	221	
文字	3 決	4 結		6 潔	1 月		2 犬	5 件	2 見	6 券	3 研	4 建	6 兼	5 健	
音訓	ち ケツ	ケツ	きめる	ケツ	むすぶ	ゆう	ケツ	いさぎよい	ガツ	ゲツ	つき	ケン	いぬ	ケン	ケン	みる	ケン	ケン	たてる	ケン	かねる	ケン	すこやか
提出語形	血	決心	決める	結晶	結ぶ	結う・結納	清潔	潔い	一月	月曜日	月	愛犬	犬	事件	意見	見る	見入る	券	研究	建築	建てる	兼用	兼ねる	健康	健やか

番号	222	223		224	225	226	227	228	229		230			231	232	233	234
文字	6 絹	6 権		6 憲	3 県	6 険	6 検	5 験	2 元		4 言			5 限	3 原	5 現	5 減
音訓	ケン	きぬ	ケン	ゴン	ケン	ケン	ケン	けわしい	ケン	ケン	ガン	もと	ゲン	ゴン	こと	いう	ゲン	かぎる	ゲン	はら	ゲン	あらわれる	ゲン
提出語形	絹糸・人絹	絹織物	権利	権化・権現	憲法	○県	危険	険しい	検査	試験	元気	元・元日	元手	言語	伝言	言葉	言う	制限	限る	草原・野原	原因	現在	現われる	減少

番号	文字	音訓	提出語形
235	6 厳	ゴン	減る
236	6 己	ゴン	厳重
237	2 戸	コ	自己
238	2 古	キ	知己
239	4 固	コ	戸数
240	6 故	コ	固める
241	5 個	コ	事故
242	2 庫	コ	個人
243	4 湖	コ	文庫
244	1 五	みずうみ	湖水
245	3 午	ゴ	五日
246	3 後	ゴ	午後
247	3 語	ゴ	国語
248	6 誤	ゴ	物語・語る
249	5 護	あやまる	誤解
250	1 口	コウ	看護婦
251	2 工	ク	口調
252	3 公	コウ	人口
253	5 功	おおやけ	公にする
254	3 交	コウ	成功
255	2 光	コウ	交通
256	6 后	まじわる	交わる
257	3 向	コウ	皇后陛下
258	2 考	むかう	向かう
259	2 行	ギョウ	行列
260	4 孝	コウ	行脚
261	6 効	コウ	旅行
262	4 幸	コウ	行なう
263	5 厚	さいわい	幸い
264	6 皇	コウ	皇后陛下・皇帝
265	2 校	オウ	学校
266	6 耕	コウ	耕作
267	4 航	たがやす	耕す
268	5 候	コウ	気候
269	2 高	コウ	高原
270	5 康	たかい	高い
271	4 港	コウ	健康
272	3 語	みなと	港内・入港

番号	272		273	274	275	276		277	278	279	280	281	282	283		
文字	3 黄		5 鉱	6 構	3 広	5 興		5 講	2 合	3 号	4 告	2 谷	2 国	2 黒		
音訓	コウ	オウ	キ	コウ	コウ	コウ	キョウ	コウ	ゴウ	ゴウ	コク	コク	コク	コク	くろい	くろ
提出語形	黄河	黄金	黄色	鉱山	構造	広告	復興・興行	興味	講堂	合計	合う	番号	報告	告げる	谷渓	国家	黒点	黒い	黒

番号	284	285		286	287	288		289	290	291	292		293	294	295		296
文字	6 穀	2 今		3 根	6 混	1 左		5 査	4 差	3 才	6 再		6 災	6 妻	2 西		6 採
音訓	コク	コン	キン / いま	コン	コン	サ / まぜる	ひだり	サ	サ / さす	サイ	サイ	ふたたび	サイ / わざわい	サイ	サイ / つま	セイ	サイ / にし	サイ
提出語形	穀物	今度・今回	今上・古今集	今ごろ	木の根	混雑	混ぜる	左右	検査	差し引き	天才・才能	再会・再起	再び	災難	妻子・夫妻	夫と妻	東西・関西	西洋	西	採集

番号	297		298		299		300	301	302	303	304	305	306	307		308	309	310
文字	4 菜		4 祭		3 細		4 最	6 済	5 際	5 在	4 材	6 財	6 罪	2 作		4 昨	6 策	4 刷
音訓	サイ	な / とる	サイ	まつる	サイ	こまかい / ほそい	サイ	もっとも	サイ	すむ	ザイ	ザイ	ザイ	サク	つくる / つくり	サク	サク	サツ
提出語形	菜野	菜の花	祭典	お祭り	細工	細かい	最初	最も	経済	実際	現在	材料	財産	犯罪	罪	作文・工作	作法	昨年	政策	印刷

番号	文字	音訓	提出語形
311	5 殺	サイ	色刷り
		サツ	殺人
		サイ	相殺
312	4 察	ころす	殺す
		サツ	観察
313	5 雑	ザツ	雑誌
		ゾウ	雑木林
314	1 三	サン	三年
		みつ	三つ
315	1 山	サン	山脈
		やま	山
316	5 参	サン	参考書
		まいる	参る
317	5 蚕	サン	蚕糸
		かいこ	蚕
318	4 散	サン	散歩
		ちる	散る
319	4 産	サン	財産・生産
		うむ	産む
320	3 算	サン	計算・算数
321	5 賛	サン	賛成
322	5 酸	サン	酸素
323	4 残	ザン	残念
		のこる	残る
324	4 士	シ	名士・武士
325	1 子	シ	子孫
		ス	椅子
		こ	子
326	5 支	シ	支出・支店
327	3 止	シ	中止・停止
		とまる	止まる
328	5 氏	シ	氏名
		うじ	氏神
329	3 仕	シ	仕事
		つかえる	仕える・宮仕え
330	4 史	シ	歴史
331	4 司	シ	司会者
332	1 四	シ	四国
		よつ	四日
333	3 市	シ	都市
		いち	市場
334	5 示	シ	示唆
		ジ	掲示・暗示
		しめす	示す
335	3 死	シ	死亡
		しぬ	死ぬ
336	6 至	シ	至急
		いたる	至る
337	5 志	シ	志願者
		こころざす	志す
		シ	私立・私有
338	6 私	シ	私
		わたくし	製糸・絹糸
339	2 糸	シ	糸
		いと	糸
340	3 使	シ	使用
		つかう	使う
341	4 姉	シ	姉妹
		あね	姉
342	3 始	シ	始業
		はじめる	始める
343	2 思	シ	思想
		おもう	思う
344	3 指	シ	指導・指示
		ゆび	指
345	5 師	シ	技師
346	2 紙	シ	紙面
		かみ	紙
347	4 歯	シ	歯科
		は	歯医者
348	6 視	シ	近視眼
349	6 詞	シ	歌詞
350	4 詩	シ	詩集

番号	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361
文字	4 試	6 資	2 字	3 寺	3 次	1 耳	3 自	5 似	3 事	4 治	6 児
音訓	シ	シ ジ こころみる	ジ	ジ あざ	ジ てら	ジ シ つぐ	ジ みみ	ジ シ みずから	ジ にる	ジ こと	チ おさめる	ジ ニ
提出語形	試験	試みる	資格	漢字	○○町字○○	寺院	次男・目次	次第	中耳炎・耳鼻科	次の日・…に次ぐ	自由	自然	自ら	類似	似る	事件・返事	事	政治	自治	治める	児童	小児科
番号	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375
文字	3 持	2 時	5 辞	4 式	5 識	1 七	4 失	3 室	5 質	3 実	4 写	2 車	5 舎	3 社
音訓	ジ もつ	ジ とき	ジ	シキ	シキ	シチ	シツ なな うしなう	シツ	むろ	シツ	チ	ジツ みのる	シャ うつす	シャ くるま	シャ	シ
提出語形	持参	持つ	時間	時	辞書	卒業式	知識	七つ	七	失う	失望・失敗	教室・室内	室蘭・室咲き	性質	質屋	実験・実権	実	実る	写真	写す	汽車・車内	車	校舎	社会科
番号	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387
文字	5 謝	3 者	4 借	6 釈	3 弱	1 手	3 主	4 守	3 取	3 首	4 酒	4 種
音訓	シャ やしろ	シャ もの	シャク かりる	シャク	ジャク よわい	シュ て	シュ ス	シュ ス ぬし	シュ まもる	シュ と	シュ くび	シュ さけ	シュ
提出語形	お社・社の森	感謝	医者	あわて者	借用・借金	借りる	解釈	弱点・強弱	弱い	手術・手段	手紙	主人・主義	坊主	持ち主・地主	守備	留守	守る	取材・先取点	取る	首相・首位	首	梅酒・酒宴	お酒	類

番号	388	389	390	391	392	393	394	395		396	397	398	399	400
文字	3 受	6 授	6 需	4 州	5 収	5 周	2 秋	5 修		4 習	3 週	6 衆	3 終	3 集
音訓	ジュ たね	ジュ うける	ジュ さずける	シュウ ス	シュウ おさめる	シュウ シュウ	シュウ あき	シュウ シュ		シュウ おさめる	シュウ シュウ	シュウ シュ	シュウ おわる	シュウ シュウ
提出語形	種まき	受験	授業	授ける	九州	中州	収入	収める	周囲・一周	立秋	修学旅行・修理	修行・修業	修める	習練習	習う	今週・週番	公衆・大衆	衆生	終点・終着	終る	集合
番号	401	402	403	404		405				406	407	408		409	
文字	6 就	1 十	3 住	4 拾		3 重				6 従	5 祝	5 宿		2 出	
音訓	シュウ あつまる	ジュウ とお	ジュウ すむ	シュウ ジュウ	ジュウ ひろう	ジュウ チョウ	チョウ かさねる	おもい え		ジュウ したがう	シュク いわう	シュク やど	やどる	シュツ スイ	
提出語形	集まる	就職	成就	十・十字	十日	住所	住む	拾得	拾円	拾う	重大	重複	重ねる	重い	八重桜	従来	服従・従う	祝日	お祝い・祝う	宿題	宿屋	宿る	出席	出納	
番号	410	411	412	413	414	415	516	417		418	419	420	421	422	
文字	6 述	5 術	2 春	6 純	4 順	5 準	6 処	4 初		3 所	2 書	3 暑	6 諸	1 女	
音訓	ジュツ のべる	ジュツ	シュン はる	ジュン	ジュン	ジュン	ショ	ショ はつ	はじめて	ショ ところ	ショ かく	ショ あつい	ショ	ジョ	ニョ
提出語形	述べる	手術	立春・青春	純益	順番	準備	処理	初日・初期	初荷	初めて	月初め	所場所	読書	書く	暑中	暑い	諸国	女子・少女	女	

番号	423			424	425	426				427			428		429	430	431				432	433
文字	3 助			5 序	6 除	1 小				2 少			6 招		5 承	3 昭	4 消				6 称	4 唱
音訓	おんな	ジョ	たすける	ジョ	ジョ	ショウ	おこ	ちいさい	すくない	ショウ	すこし	まねく	ショウ	うけたまわる	ショウ	ショウ	ショウ	けす	きえる		ショウ	ショウ
提出語形	女の人	助言・補助	助ける	助太刀	順序	除外	除く	小川	小鳥	小さい	少年	少ない	少し	招待	招く	承知	承る	昭和	消化・消防	消す	消える	○○と称する・名称	唱歌
番号	434			435	436	437		438	439	440		441	442						443	444	445		
文字	4 商			4 章	5 象	3 勝		6 証	4 照	5 賞		4 焼	1 上						6 状	3 乗	5 常		
音訓	となえる	ショウ	あきなう	ショウ	ショウ	ショウ	かつ	ショウ	ショウ	ショウ		ショウ	ジョウ	うえ	かみ	のぼる	あげる		ジョウ	ジョウ	ジョウ		つね
提出語形	唱える	商売	商う	文章	気象・印象	勝利	勝つ	証明書	照明・参照	照る	賞品・ノーベル賞	焼失	焼く	上下	上手	上り列車	上げる		状態・年賀状	乗客	乗る	常識・非常	常に
番号	446		447	448		449			450			451	452			453	454		455		456	457
文字	5 情		6 条	3 場		2 色			3 食			4 植	5 織			6 職	2 心		3 申		4 臣	3 新
音訓	ジョウ		ジョウ	ジョウ		ショク	シキ	いろ	ショク	ジキ	くう	ショク	ショク	シキ	おる	ショク	シン	こころ	シン	もうす	シン	シン
提出語形	同情	情け	条件	工場		原色・変色	色彩	色	食物	断食・(乞食)	食う	食べる	植物	植える	織機	組織	職業	心配	心	申し上げる・申す	大臣・臣民		新聞

番号	文字	音訓	提出語形
458	3 身	あらた	新た・新手
459	4 信	シン	身体
460	4 真	シン	信用・信じる
461	3 神	ま	身動き・身分
462	3 深	シン	写真
463	1 森	ふかい	深い
464	3 進	シン	森林
465	3 親	もり	進歩
466	1 人	シン	親類・親切
467	6 仁	ジン	親しい
		ひと	人間
		ニン	人口
		ジン	親子
		おや	人間
		したしい	親しい
		シン	親類・親切
		すすむ	進む
		シン	進歩
		もり	森
		シン	森林
		ふかい	深い
		シン	深山
		かみ	神様
		ジン	神社
		シン	神秘・神仏
		ま	真心
		シン	写真
		シン	信用・信じる
		み	身動き・身分
		シン	身体
		あたらしい	新しい
		あらた	新た・新手

番号	文字	音訓	提出語形
468	1 水	スイ	水道
469	6 推	みず	水
470	3 数	おす	推理
471	3 世	かぞえる	数
472	6 是	ゼ	是非
473	1 生	よ	世の中
474	1 正	セイ	世紀
475	4 成	セイ	世界
476	2 声	セイ	名声
		なる	成る
		ジョウ	成就
		セイ	成功・成長
		ただしい	正しい
		ショウ	正面・正直
		セイ	正確
		き	生糸
		いきる	生きる
		うまれる	生まれる
		なま	生意気
		ショウ	一生
		セイ	先生・生活
		ゼ	是非
		よ	世の中
		セイ	世紀
		セ	世界
		かぞえる	数える
		かず	数
		スウ	点数
		おす	推す
		スイ	推理
		みず	水
		スイ	水道

番号	文字	音訓	提出語形
477	6 制	こえ	声
478	5 性	セイ	制度・制服
479	1 青	ショウ	性質
480	5 政	セイ	気性
		あおい	青葉
		あお	青
		ショウ	緑青
		セイ	青年
		ショウ	性質
		セイ	制度・制服
		セイ	勢力
		いきおい	勢い
481	5 省	まつりごと	政
		ショウ	摂政
		セイ	政治・政府
		あおい	青い
		あお	青葉
		ショウ	緑青
		セイ	青年
		ショウ	気性
		セイ	性質
		セイ	制度・制服
		セイ	勢力
		はれる	晴れ
		セイ	晴天
		きよい	清い・清らか
		セイ	清潔
		ほし	銀の星
		ショウ	明星
		セイ	星座
		かえりみる	省みる
		はぶく	省く
		ショウ	省略
		セイ	反省
		まつりごと	政
		ショウ	摂政
		セイ	政治・政府
		あおい	青い
		あお	青葉
		ショウ	緑青
		セイ	青年
		ショウ	気性
		セイ	性質
		セイ	制度・制服
		セイ	勢力
		いきおい	勢い

番号	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497
文字	6 聖	5 精	5 製	6 誠	4 静	4 整	6 税	2 夕	1 石	1 赤	4 席	5 責
音訓	セイ	セイ ショウ	セイ	セイ まこと	セイ ジョウ	セイ しずか ととのえる	ゼイ	セキ ゆう	セキ コク	シャク セキ シャク いし セキ あか あかい	セキ	セキ セ
提出語形	聖書	精神	精進 製造	誠実 誠の道・誠さん	静止 静物・静脈	整理 整える	税金	一夕 夕日・夕方	石炭 百石万石	磁石 赤外線 赤銅 赤い 赤	出席	責任 責める
番号	498		499	500		501	502	503	504	505	506	507	508	
文字	4 積		5 績	2 切		5 折	5 接	5 設	2 雪	5 説	4 節	6 舌	6 絶	
音訓	セキ つむ つもる せめる		セキ	セツ サイ きる		セツ おる	セツ セツ	セツ もうける	セツ ゆき	セツ ゼイ とく	セツ	ゼツ した	ゼツ たえる	
提出語形	積極 積む 積もる		成績	親切 一切合切 切る		折角・曲折 折る	応接室・接近	設計 設ける	風雪 雪	説明・伝説 遊説 説く	季節 竹の節・節穴	毒舌 舌	絶対 絶える	
番号	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522
文字	2 千	1 川	1 先	6 宣	5 浅	6 専	3 船	5 銭	4 線	4 戦	4 選	3 全	2 前	6 善
音訓	セン	セン かわ	セン さき	セン	セン あさい	セン	セン ふね	セン ぜに	セン	セン たたかう	セン えらぶ	ゼン まったく	ゼン まえ	ゼン
提出語形	千年・千万	千鳥 河川	先生	宣伝	浅水・浅薄 浅い	専門	船長 船	金銭	小銭入れ・銭箱 無線・地平線	戦争 戦う	選挙・選手 選ぶ	全体 全く	前後 五年前	善悪

番号	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534
文字	4 然	5 祖	5 素	2 組	2 早	2 走	6 宗	4 争	2 草	4 相	5 倉	3 送
音訓	ゼン	ネン	ソ	ソ ス	ソ くむ	ソウ はやい	ソウ はしる	ソウ	ソウ あらそう	ソウ くさ	ソウ あい	ソウ らう	ソウ おくる
提出語形	自然	天然	祖先	酸素・要素	素足	組織	組む・組合	早春	早い	競走・暴走	走る	宗匠・宗族	宗教	競争	争う	草原・草履	草履	相談	首相	相手	倉庫	お倉	送別	送る

番号	535	536	537	538	539	540	541	542		543	544	545	546	547	548	549
文字	6 創	5 想	5 総	5 造	5 像	5 増	6 蔵	1 足		5 則	4 息	5 側	5 測	4 速	6 俗	4 族
音訓	ソウ	ソウ	ソウ	ゾウ つくる	ゾウ	ゾウ ます	ゾウ くら	ソク たりる あし		ソク	ソク いき	ソク かわ	ソク はかる	ソク はやい	ゾク	ゾク
提出語形	創作	想像	総額・総合	製造	造る	増産・増加	増す	冷蔵庫	蔵	遠足・満足	足りる	足	規則	休息	息	側面	両側	測量	測る	速力・速度	速い	風俗	家族

番号	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562		
文字	6 属	4 続	4 卒	6 存	2 村	4 孫	6 尊	6 損	4 他	2 多	4 打	1 大	3 太		
音訓	ゾク	ゾク	つづく ソツ	ソン	ソン むら	ソン まご	ソン たっとい	ソン	タ	タ おおい	ダ うつ	タイ	ダイ おおきい	タイ	タ	ふとい
提出語形	貴金属・附属	連続	続く・続ける	卒業式	存在	保存	村民	村	子孫	孫	尊敬	尊い	損害	その他	多少	多い	打撃・安打	打つ	大陸	大小・大事	大きい・大型	太陽	太郎・太刀	太い

番号	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576
文字	3 体	4 対	3 待	6 退	5 帯	4 隊	5 貸	6 態	4 代	3 台	3 第	4 題	4 達	3 炭
音訓	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	タツ	タン
提出語形	体育・体操	体裁	反対・対立	一対	期待	待つ	退学	退く	熱帯	帯びる	帯びる	隊長	貸借	貸す	態度・状態	代表・時代	神代・代々木	代わる・身代わり	台所・時計台	台湾	第一	題名・問題	配達・発達	石炭

番号	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588
文字	5 単	4 短	2 男	6 断	5 団	4 談	2 地	2 池	2 知	4 置	2 竹	5 築
音訓	すみ	タン	タン	みじかい	ナン	おとこ	ダン	ダン	たつ	ダン	ジ	チ	いけ	チ	しる	チ	おく	チク	たけ	チク	きずく
提出語形	炭	単純	短所	短い	男女	長男	判断	断わる	断つ	団体・団長	相談	地上	地震	電池	池	知識	知る	位置	置く	松竹梅	竹竿	建築	築く

番号	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601
文字	3 茶	3 着	1 中	2 虫	6 忠	3 注	3 柱	3 昼	5 貯	6 著	2 町	2 長	4 帳
音訓	チャ	チャク	つく	きる	チュウ	なか	チュウ	むし	チュウ	チュウ	そそぐ	チュウ	はしら	チュウ	ひる	チョ	いちじるしい	チョ	あらわす	チョウ	まち	チョウ	ながい	チョウ
提出語形	お茶	着用・一着	着く	着る	中心	虫害	虫干し	忠告	注意	注ぐ	電柱	柱	昼夜	昼	貯金	著者	著しい	著わす	町村	町	成長	長い	帳面・手帳

番号	文字	音訓	提出語形
602	5 張	チョウ	主張
603	2 鳥	チョウ	鳥類
604	2 朝	チョウ	朝刊
605	5 腸	チョウ	胃腸
606	4 調	チョウ	調和
607	4 直	しらべる	調べる
		チョク	直接
		ジキ	正直
		なおす	直す
		ただちに	直ちに
608	6 賃	チン	汽車賃・賃金
609	3 追	ツイ	追求・追放
		おう	追う
610	3 通	ツウ	通信
		とおる	通る
		かよう	通う
611	4 丁	テイ	丁寧
		チョウ	一丁目・丁度
612	5 低	テイ	低気圧
		ひくい	低い
613	3 弟	テイ	高弟
614	4 定	ダイ	兄弟
		おとうと	
		テイ	予定
		ジョウ	定規・定石
		さだめる	定める
615	4 底	テイ	海底
		そこ	湖の底
616	4 庭	テイ	家庭
		にわ	庭
617	4 停	テイ	停電
618	6 提	テイ	提出
619	6 程	テイ	程度
620	4 的	テキ	目的
		まと	弓の的
621	5 敵	テキ	敵・敵国
622	5 適	テキ	適当
623	3 鉄	テツ	鉄道
624	2 天	テン	天気
		あめ	天地
625	5 典	テン	辞典
626	3 店	テン	商店・店員
		みせ	店
627	3 点	テン	点数
628	6 展	テン	発展
629	4 転	テン	自転車
630	1 田	デン	田園
		た	田
631	5 伝	デン	伝説
		つたえる	伝える
632	3 電	デン	電信
633	1 土	ト	土地
		ド	国土
		つち	土・赤土
634	3 図	ト	図書
		ズ	図画
		はかる	図る
635	4 徒	ト	生徒
636	3 都	ト	都市
		ツ	都合
		みやこ	都
637	4 努	ド	努力
		つとめる	努める
638	3 度	ド	温度
639	3 刀	トウ	刀剣・木刀
		かたな	刀
640	2 冬	トウ	冬眠・冬至
		ふゆ	冬
641	3 当	トウ	当番

番号	642	643	644	645	646	647	648		649	650	651	652	653
文字	3 投	2 東	3 島	6 討	6 党	4 湯	4 登		4 等	3 答	5 統	4 燈	3 頭
音訓	トウ なげる あたる	トウ ひがし	トウ しま	トウ うつ	トウ	トウ	トウ ゆ	ト のぼる	トウ ひとしい	トウ こたえる	トウ すべる	トウ	トウ ズ
提出語形	投手 投げる 当たる	東洋 東	半島 島	討論会 討つ	社会党・党主	熱湯 湯	お湯 登録	登山 登る	一等 等しい	答案 答える	大統領・統一 統べる	電燈 頭部・頭取	頭痛・頭上
番号	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668
文字	3 同	3 動	4 堂	4 童	4 働	2 道	5 銅	5 導	5 特	6 得	6 徳	5 毒	5 独	2 読	6 届
音訓	ドウ あたま	ドウ おなじ	ドウ うごく	ドウ	ドウ はたらく	ドウ みち	ドウ	ドウ みちびく	トク	トク える	トク	ドク	ドク	ドク トク よむ	とどける
提出語形	合同・同窓会 同じ	動物 動く	講堂 動く	童話 童	労働 働く	道路 道	銅・銅像 銅	指導 導く	特別 特に	得意 得る・得手	道徳 道	毒虫・害毒 毒	独立 独り	読書 読む	読本 読む	届ける
番号	669	670	671	672	673	674	675		676	677	678	679	680
文字	4 内	2 南	6 難	1 二	6 弐	3 肉	1 日		2 入	5 任	6 認	4 熱	2 年
音訓	ナイ ダイ うち	ナン みなみ	ナン かたい	ニ ふたつ	ニ	ニク	ニチ ジツ	ひ	か ニュウ いる	ニン まかせる	ニン みとめる	ネツ あつい	ネン
提出語形	案内・内外 参内・内裏 内気	南北・南部 南	困難 たえ難い	二階 二つ	弐拾 弐	肉 肉	日用品 日	元日・日月 月日・日の丸	入場 入る	責任・任意 任せる	認識 認める	熱心 熱い	百年 年

番号	681	682	683			684	685	686	687	688	689	690	691	692	693
文字	5 念	5 燃	6 納			5 能	4 農	3 波	6 派	5 破	2 馬	6 拝	3 配	5 敗	5 倍
音訓	ネン とし	ネン もえる	ノウ トウ	ナ おさめる		ノウ	ノウ	ハ なみ	ハ	ハ やぶる	バ うま	ハイ おがむ	ハイ くばる	ハイ やぶれる	バイ
提出語形	年の初め・年頃 念	残 燃料	燃える 納入	出納 納屋	納める	能率・能力	農業	電波・波浪	いろいろな派 立派・派出	破壊	馬車	拝見	配達・心配む 配る	敗戦 敗れる	倍増・倍加
番号	694	695	696			697	698	699	700	701	702	703	704	705	
文字	3 買	3 売	1 白			5 博	2 麦	3 畑	1 八	3 発	4 反	2 半	6 犯	6 判	
音訓	バイ かう	バイ うる	ハク ビャク	しろい しろ		ハク	バク むぎ	はた はたけ	ハチ	ハツ ホツ	ハン タン	ハン なかば	ハン おかす	ハン	
提出語形	買収・売買 買う	売店 売る	明白 黒白	白・白地 白い		博物館	麦秋・麦芽	麦 畑作	畑 八秒	八つ 発達	発起人 反対	一反 半分	半ば 犯罪	犯す	判断・裁判
番号	706	707		708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	
文字	3 坂	3 板		6 版	5 飯	3 番	5 比	3 皮	6 否	5 肥	5 非	4 飛	4 悲	4 費	
音訓	ハン さか	ハン バン	いた	ハン	ハン めし	バン	ヒ くらべる	ヒ かわ	ヒ いな	ヒ こえる	ヒ	ヒ とぶ	ヒ かなしい	ヒ ついやす	
提出語形	坂路・急坂 坂道	板木・甲板	黒板	版画	ご飯 握り飯・朝飯	当番	比較	比べる 皮下・皮肉	毛皮 否定	否 肥料	肥える	非常識・非行 飛行	飛ぶ 悲哀・悲劇	悲しい 費用	費やす

番号	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732
文字	美 5	備 5	鼻 4	必 4	筆 5	百 2	表 3	氷 4	俵 5	票 5	評 6	標 5	秒 4	病 3
音訓	ビ うつくしい	ビ そなえる	ビ はな	ヒツ かならず	ヒツ ふで	ヒャク	ヒョウ おもて	ヒョウ あらわす	ヒョウ こおり	ヒョウ たわら	ヒョウ	ヒョウ	ビョウ	ビョウ やむ
提出語形	美術	美しい 準備	備える 鼻耳	必要	必ず 筆記	筆年	百表 表紙	表側 表わす	氷山 氷俵	土米 投票	評判・批評	標本	八秒	病院・病気 病む
番号	733	734		735	736	737	738	739	740	741	742		743	744
文字	品 3	貧 5		不 4	夫 4	父 2	付 4	布 5	府 4	負 3	富 6		婦 5	分 2
音訓	ヒン やまい	ヒン しな	ビン まずしい	フ	フ おっと	フ ちち	フ つける	フ ぬの	フ	フ まける	フ おう	フ とむ	フ	ブ フン
提出語形	品質 病・…の病	品物	貧乏 貧しい	不平	農夫・夫妻	父母・実父	付加	付ける 布告	政府	負傷・勝負	負う 豊富・富豪	富む	看護婦	大分・五分五分 分別
番号	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	
文字	武 5	部 4	風 2	服 4	副 5	復 5	福 4	複 6	仏 5	物 3	粉 4	奮 6	文 2	
音訓	ブ ムわける	ブ	フウ	フク かぜ	フク	フク	フク	フク	ブツ ほとけ	ブツ モツ	フン もの	フン こな	ブン モン	
提出語形	武器・武力 武者（修行） 半分	全部	風景	洋服 風	副産物	往復 幸福	複雑 仏像	仏 植物	食物 物語り	粉末 小麦粉	粉薬 興奮	奮う	作文・文章 文字・文部省	

番号	758	759		760	761	762		763	764	765	766	767	768	769		770
文字	3 聞	3 平		5 兵	6 陸	2 米		4 別	5 辺	3 返	4 変	5 編	5 弁	4 便	3 勉	
音訓	ブン	キく	ヘイ	ヘイ	ヘイ	ベイ	マイ	こめ	ベツ	わかれる	ヘン	ヘン	かえす	ヘン	かわる	ヘン	あむ	ベン	ベン	ビン	ベン	
提出語形	新聞	聞く	平気	平等	平たい	平ら	兵士	天皇陛下	米国	白米	米別	特別	別れる	この辺・底辺	返事	返す	変化	変わる	編集	編む	お弁当・弁別	便利	郵便	勉強	
番号	771			772	773	774		775	776	777	778		779	780		781		
文字	2 歩			5 保	6 補	2 母		6 墓	2 方	4 包	4 放		4 法	5 報		6 豊		
音訓	ホ	ブ	あるく	あゆむ	ホ	たもつ	ホ	おぎなう	ボ	はは	ボ	はか	ホウ	かた	ホウ	つつむ	ホウ	はなす	ホウ	はなつ	ホウ	むくいる	ホウ	ゆたか		
提出語形	歩行・散歩	歩合	歩く	歩む	保証・保護	保つ	候補者	補う	父母	母親	墓地	お墓	方面	仕方・殺り方	包装	包む	放送	放す	放つ	法律	報告	報いる	豊年	豊か		
番号	782	783		784	785	786		787	788	789	790	791	792	793		794	795	
文字	5 防	4 望		5 貿	6 暴	2 北		5 牧	1 本	3 毎	3 妹	4 末	3 万	5 満		6 未	4 味	
音訓	ボウ	ふせぐ	ボウ	モウ	のぞむ	ボウ	ボウ	バク	ホク	きた	ボク	まき	ホン	マイ	マイ	いもうと	マツ	すえ	マン	バン	マン	みちる	ミ	ミ		
提出語形	防火	防ぐ	希望	所望・願望	望む・望み事	貿易	暴風雨	暴露	北極	北	牧場	牧	本箱	毎朝	姉妹	妹	末路	末の子・行く末	万年筆	万物・万歳	満足	満ちる	未来	意味		

番号	文字	音訓	提出語形
805	3 鳴	メイ	共鳴・悲鳴
804	6 盟	メイ	同盟
		まよう	迷う
803	5 迷	メイ	迷信
		あける	夜明け
		あかるい	明るい
		あきらか	明らか
		ミョウ	明日
802	2 明	メイ	明白
		いのち	命・命取り
		ミョウ	寿命
801	4 命	メイ	命令・運命
		な	名まえ
		ミョウ	大名・本名
800	2 名	メイ	有名
		ない	無い
		ブ	無事
799	5 無	ム	無線電信・無理
		つとめ	努め
		ム	事務
798	5 務	たみ	民草・流浪の民
797	4 民	ミン	国民
796	4 脈	ミャク	山脈
		あじ	味

番号	文字	音訓	提出語形
815	3 役	ヤク	役に立つ・役所
		の	野原・野山
814	3 野	ヤ	野球
		よる	夜
		よ	夜中
813	2 夜	ヤ	夜半・昼夜
		とう	問う
812	4 問	モン	問題
		かど	門出
811	2 門	モン	門・入門
		め	目
810	1 目	モク	目的
		き	木
		ボク	大木・木刀
809	1 木	モク	木目
		け	毛
808	2 毛	モウ	毛布
		わた	綿
807	5 綿	メン	綿糸
		おも	面長・水の面
		おもて	細面・能の面
806	3 面	メン	面積
		なる	鳴る
		なく	鳴く

番号	文字	音訓	提出語形
826	3 遊	あそぶ	遊ぶ
		ユウ	遊戯
		いさましい	勇ましい
825	4 勇	ユウ	勇気
		ある	有る
		ウ	有無
824	4 有	ユウ	有名
		よし	……の由
		ユ	経由・由来
823	3 由	ユウ	自由
		みぎ	右
		ウ	右折
822	1 右	ユウ	左右
		とも	友だち
821	2 友	ユウ	友情・友人
820	5 輸	ユ	輸入
		あぶら	油紙
819	4 油	ユ	石油
		くすり	薬
818	4 薬	ヤク	薬品
		わけ	訳・訳を話す
817	6 訳	ヤク	通訳
816	5 約	ヤク	約束
		エキ	現役・使役

番号	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	
文字	4 予	5 余	6 預	2 用	4 洋	5 要	5 容	3 葉	4 陽	3 様	5 養	3 曜	5 浴	6 欲	2 来	
音訓	ヨ	ヨ あまる	ヨ あずける	ヨウ もちいる	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	は ヨウ	ヨウ	ヨウ やしなう	ヨウ	ヨク	ヨク あびる	ほっする ライ	く る
提出語形	予定	余計・余分	余る	預金	預ける	用事	用いる	洋服	要素	内容	万葉・落葉	木の葉	太陽	様子	王様	栄養	養う	日曜日	入浴	水浴び	欲望	欲する	来客・来未来	来る
番号	842		843			844	845		846	847			848	849		850	851			852	853			854
文字	3 落		3 楽			4 利	3 里		3 理	2 力			4 陸	2 立		6 律	6 率			6 略	3 流			5 留
音訓	ラク		おちる ラク			ガク たのしい リ	リ		さと リ	リキ			ちから リョク	リツ たつ		リツ	リツ			ソツ ひきいる	リャク	リュウ ルル	ながれる	リュウ
提出語形	落日・段落		落ちる	楽園		音楽 楽しい	便利	一里	里帰り	整理	力説	視力	大陸	成立	立つ	法律	能率	引率・率先	率いる	省略・略字	流行	流罪・流人・遠流	流れる	留学
番号			855		856	857		858	859		860	861		862		863		864		865	866	867	868	
文字			3 旅		3 両	4 良		4 料	5 量		5 領	4 緑		2 林		4 輪		6 臨		4 類	5 令	3 礼	4 冷	
音訓			リョ		リョウ	リョウ		リョウ	リョウ		リョウ	ロク リョク		リン みどり		リン はやし わ		リン		ルイ のぞむ	レイ	レイ	レイ	
提出語形			旅行		両手	改良		良い	材料		測量	大統領・領地	新緑	緑青	森林	林色	車輪	輪	臨時	臨む	種類	命令	礼儀	冷水	
			留める																					
			留守																					

番号	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881
文字	5 例	4 歴	4 列	4 連	4 練	4 路	4 老	4 労	1 六	4 録	6 論	3 和	2 話
音訓	ひえる	つめたい	レイ	レキ	レツ	レン	つれる	つらなる	レン	ねる	ロ	じ	ロウ	ロ	おいる	ロウ	ロク	む つ	ロク	ロン	ワ	和らぐ	ワ	はなす
提出語形	冷える	冷たい	例をあげる	歴史	行列	連続・連絡	連れる	連なる	練習する	道路	大路	老人	老いる	労働	六月・六法全書	六つ・六日	記録	議論	昭和・平和	和らぐ	会話・話題	話す

<注>　この一覧表は，当用漢字全数読み書き調査で，問題として提出した語を示したものである。調査の実際にあたっては，上掲の順序でなく，無作為にとりあげ，（読み）各文字ごとに語例とともにカード化して読ませる（書き）原則として生徒に親しいほうの読み方での語で書かせるが，時には，音訓二様，あるいは複数の提出語形で書かせることもある。なお，読み・書きともに初案の語形では正答が出にいくいものは，テスト中，一部，生徒に親しい語をさし加えた場合もある。

表内の全音訓を問題化しようとすると，中学生の親しい用語では提出しにくい場合があり，初案の語形のほかに連濁音の形（例—板ﾍﾝ→甲板，主ｽ→坊主，星ｼｮｳ→明星），地名・人名（例—室ﾑﾛ→室蘭，舟ｼｭｳ→雪舟 <教外字>）表外字との組み合わせ（例—谷ｺｸ→渓谷）などの語によって，問題とした場合もある。

傍線の添えてあるものは，特殊音訓である。

「2. 教育漢字外当用漢字」についても同じ。

2. 教育漢字外当用漢字（提出語形）

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
文字	亜	哀	握	扱	依	威	尉	偉	為	違	維
音訓	ア	アイ	あわれ・アク	にぎる・あつかう	イ・エ	イ	イ	イ・えらい	イ	イ・ちがう	イ・キ
提出語形	亜鉛	哀愁・悲哀	哀れ・握手	握る・取り扱い	依頼・帰依	権威・威力	大尉	偉人・偉い	行為・為替	相違・違う	維新・維持

番号	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
文字	慰	緯	域	逸	芋	姻	陰	隠	韻	宇	羽	映	詠	影	鋭	疫
音訓	イ・なぐさめる	イ	イキ	イツ	いも	インン	インン・かげ	イン・かくれる	イン	ウ	ウ・は・ね	エイ	エイ・うつる	エイ・かげ	エイ・するどい	エキ
提出語形	慰安	慰める・緯度	地域・区域	逸話	焼き芋・里芋	婚姻	山陰・陰気	陰険・隠居	隠れる・韻文	宇宙	羽毛・奥羽	羽根・映画	映る・詠歎・吟詠	影響	影・鋭角・鋭敏	鋭い・免疫・疫病

番号	28	29		30	31	32		33		34	35	36	37	38	39		40			41
文字	悦	越		謁	閲	沿		炎		宴	煙	援	鉛	縁	汚		押			欧
音訓	エツ	エツ・こえる		エツ・こす	エツ	エン・そう		エン・ほのお		エン	エン・けむり	エン	エン・なまり	エン	オ・ふち		オウ・おす		おさえる	オウ
提出語形	喜悦・満悦	越冬・超越・越える	越す	拝謁・謁見	閲覧	沿岸・沿う		炎天・中耳炎	炎	宴会・祝宴	煙突・煙	応援・援助	鉛筆・亜鉛・鉛	縁側・縁	汚物・汚職・縁取り・額縁	汚す	押収・押印・押す	押す	押さえる	欧米・欧州

番号	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
文字	殴	翁	奥	桜	沖	憶	虞	乙	卸	穏	佳	架	華	菓	暇	嫁	禍	箇	寡
音訓	オウ	オウ	オウ	おくオウ	おきさくら	オク	おそれ	オツ	おろし	オン	おだやかカ	カ	カ	カ	カひま	カよめ	カ	カ	カ
提出語形	殴打・殴殺	翁・老翁	奥羽・奥州	奥山・山の奥	沖・沖合	記憶・追憶	甲乙	卸す・卸売り	平穏・穏便	穏やか	佳作	十字架・高架線	中華・華美	菓子	休暇	降嫁・転嫁する	花嫁・嫁入り	禍福	箇条・箇所	寡婦・寡人
番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	
文字	蚊	雅	餓	介	灰	戒	怪	皆	悔	塊	懐	壊	劾	慨	該	概	街	核	
音訓	か	ガ	ガ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	カク	
提出語形	蚊	優雅・雅楽	餓死	紹介	石灰	警戒	怪物・怪人	皆勤・皆無	後悔	金塊	懐古・懐中	破壊	弾劾	憤慨・感慨	該当	概要・概略	市街・街路	原子核・結核	
番号	79	80		81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
文字	郭	隔		較	閣	獲	嚇	穫	岳	掛	括	割	渇	滑	轄	且	刈	干	甘
音訓	カク	カク	へだてる	カク	カク	カク	カク	カク	ガク	たけかける	カツ	カツ	カツ	カツ	カツ	かつ	かる	カンほす	カンひる
提出語形	輪郭・城郭	隔離・遠隔	隔てる	比較	内閣	獲得・漁獲	威嚇	収穫	山岳	御岳・八ケ岳	掛ける・腰掛け	一括・総括	分割	滑走・円滑	管轄・直轄	且つ	刈る	干潮・若干	干す・物干し	干る・干物	甘諸・甘露

番号	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112
文字	汗	肝	巻	冠	看	勘	陥	貫	乾	患	換	喚	棺	閑	敢	堪
音訓	カン あせ あまい	カン きも	カン まく	カン かんむり	カン	カン	カン おちいる	カン つらぬく	カン	カン	カン かえる	カン	カン	カン	カン	カン
提出語形	発汗・汗腺 甘い・甘酒	肝油・肝臓 汗	一巻・巻頭 巻く・巻物	王冠・三冠王 冠・竹冠	看護・看板	勧定	欠陥・陥落 陥いる	一貫・尺貫法 貫く	乾電池・乾燥	患者	交換 換える	喚起	棺おけ・出棺	閑静・閑散	勇敢・敢闘	堪忍
番号	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129
文字	款	監	寛	憾	緩	環	還	簡	艦	鑑	丸	含	企	危	机	忌	奇
音訓	カン たえる	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	ガン	ガン まるい	キ くわだてる ふくむ	キ あやうい	キ つくえ	キ いむ	キ
提出語形	款待・借款 堪える	監督・監視	寛大・寛容	遺憾	緩和・緩急	環境・循環	返還	簡単・簡易	軍艦・艦長	鑑賞・年鑑	弾丸・丸薬 丸い	含有 含む	企画・企業 企てる	危険・危害 危うい	机上 机	忌中・忌引 忌む	奇術・奇怪
番号	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145
文字	岐	祈	軌	鬼	既	飢	揮	棋	棄	幾	輝	騎	宜	欺	偽	戯
音訓	キ	キ いのる	キ	キ	キ おに すでに	キ うえる	キ	キ	キ	キ いく	キ かがやく	キ	ギ	ギ あざむく	ギ いつわる	ギ
提出語形	岐阜・岐路	祈願・祈とう 祈る	軌道・軌跡	鬼面・鬼神	既報・既成 既に	飢餓 飢える	発揮・指揮	将棋	棄権・放棄	幾何 幾つ・幾日	光輝 輝く	騎士・騎兵	便宜 宜しく	詐欺 欺く	偽造 偽る	戯曲

番号	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161
文字	儀	擬	犠	菊	吉	詰	喫	却	脚	虐	弓	及	丘	吸	朽	泣
音訓	たわむれる ギ	ギ	ギ	キク	キチ	キツ つめる	キツ	キャク	キャク	ギャク	キュウ	ゆみ	キュウ おおよび	キュウ おか	キュウ くちる	キュウ
提出語形	戯れる	礼儀・儀式	模擬・擬人法	犠牲	菊	詰問	詰める	喫茶	忘却・退却	脚本	虐待・虐殺	及第・普及	及ぶ	砂丘	呼吸・吸収	吸う	不朽・老朽	朽ちる	感泣・号泣
番号	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176
文字	糾	窮	巨	拒	虚	距	拠	凶	叫	狂	況	享	峡	恐	恭
音訓	なす キュウ	キュウ	きわめる キョ	キョ こばむ	キョ コ	キョ	キョ	キョウ コ	キョウ	キョウ さけぶ	キョウ くるう	キョウ	キョウ	キョウ おそれる	おそろしい	キョウ
提出語形	糾合・糾紛	窮屈	窮める	巨大・巨人	拒否	空虚・虚無	距離	拠る	証拠	凶作・凶悪	叫ぶ	絶叫	狂言	狂う・狂い咲き	実況・状況	享保・享楽	海峡・峡谷	恐怖	恐れる	恐ろしい	恭賀・恭悦
番号	177	178	179	180	181	182	183		184	185	186	187	188		
文字	狭	脅	胸	郷	驚	響	仰		凝	暁	斤	菌	筋		
音訓	キョウ	キョウ おびやかす	キョウ むね	キョウ ゴウ	キョウ	キョウ おどろく	ギョウ コウ		ギョウ こる	ギョウ	キン	キン	キン			すじ
提出語形	狭い	脅迫	胸囲	故郷・郷土	驚嘆	驚異・驚く	影響・音響	響く	仰天	仰せ	凝固	暁	今暁	あかつき	一斤	細菌	筋肉	筋道
	義	い																

番号	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206
文字	琴	緊	謹	吟	駆	愚	偶	遇	屈	掘	繰	薫	勲	刑	径	茎	契	啓
音訓	キン・こと	キン	キン	ギン	ク・かける	グ・おろか	グウ	グウ	クツ	クツ	ほる・くる	クン	クン	ケイ	ケイ	ケイ	ケイ・ちぎる	ケイ
提出語形	木琴・琴	緊張・緊急	謹賀・謹啓	詩吟・吟詠	駆除	駆ける・愚問・愚者	愚か・偶然・偶数	待遇	退屈・屈折	発掘	掘る・繰る	薫風・薫陶	勲章・殊勲	刑事・死刑	直径・半径	地下茎	茎・契約	契る・拝啓
番号	207	208		209	210		211	212	213	214	215	216		217		218	219	220
文字	恵	掲		傾	携		継	慶	憩	警	鶏	迎		鯨		劇	激	撃
音訓	ケイ・エ	ケイ・かかげる・めぐむ		ケイ・かたむく	ケイ・たずさえる		ケイ・つぐ	ケイ	ケイ	ケイ	ケイ・にわとり	ゲイ		ゲイ・むかえる		ゲキ・くじら	ゲキ・はげしい	ゲキ
提出語形	恩恵・知恵	掲示・掲げる		傾向・傾く	携帯・携える		継続・継ぐ	慶応・慶賀	休憩	警察	鶏卵・鶏	欲迎・迎える		捕鯨船・鯨		劇場・感激	激しい	攻撃
番号	221	222	223		224	225	226	227	228	229	230	231		232	233	234	235	
文字	傑	穴	肩		軒	堅	圏	献	遣	倹	賢	剣		謙	顕	繭	懸	
音訓	うケツ	ケツ・あな	ケン		ケン・のき	ケン	ケン・かたい	ケン	コン・ケン	ケン	ケン	ケン・つるぎ	ケン・かしこい	ケン	ケン	ケン・ゆま	ケン	
提出語形	傑作・傑る	洞穴	双肩		一軒・軒下	堅固	北極圏・圏内	献金・文献	献立	派遣・遣唐使	賢明・賢人	倹約	剣道・剣	謙遜・謙虚	顕微鏡・顕著	繭糸・繭	懸賞・懸命	

番号	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248
文字	幻	玄	弦	源	呼	枯	孤	弧	雇	誇	鼓	顧	互
音訓	ケ|ゲン	まぼろし ゲン	ゲン つる	ゲン みなもと	コ よぶ	コ かれる	コ	コ	コ やとう	コ ほこる	コ つづみ	コ かえりみる	ゴ たがい
提出語形	懸念	幻燈・幻想 幻覚	弦楽器 弦関	源氏・資源	呼吸 呼ぶ	栄枯 枯る	孤独・孤立	括弧・円弧	雇用・解雇 雇う	誇張 誇る	太鼓 鼓	顧問 顧みる	相互 互いに
番号	249	250	251	252			253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	
文字	呉	娯	悟	御			碁	孔	巧	甲	江	好	抗	坑	攻	更	
音訓	ゴ	ゴ	ゴ さとる	ゴ ギョ			ゴ おん	コウ	コウ たくみ	コウ	コウ カン	コウ すく	コウ このむ	コウ	コウ せめる	コウ さらに	
提出語形	呉服	娯楽 娯悟	覚悟 悟る	御用・御殿 御製・御物 御中・御方			碁石・囲碁 孔子	技巧・巧妙	巧み	甲乙	甲板 揚子江 江戸	好物 好く 好む	抵抗 抗坑	炭坑 攻撃	攻める	変更 更に	
番号	263	264	265	266		267	268		269	270	271	272	273	274	275	276	
文字	恒	拘	肯	荒		郊	降		香	侯	貢	紅	控	慌	項	絞	
音訓	コウ	コウ	コウ	コウ あれる		コウ あらい	コウ ふる		コウ おりる	コウ か	コウ	コウ ク|	コウ ひかえる べに	コウ	コウ	コウ しめる	
提出語形	恒星	拘束・拘置	肯定	荒野 荒れる 荒い		郊外	降雨・降下 降る	降り	香水 香る	諸侯・侯爵	貢献 紅白	深紅 紅	控訴 控室・控える 紅ば	恐慌	項目	絞殺 絞める	

番号	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	
文字	硬	酵	綱	稿	鋼	購	衡	拷	剛	豪	克	刻	酷	獄	骨	込	困	恨	
音訓	しぼる	コウ	コウ	コウ	つな	コウ	コウ	コウ	ゴウ	ゴウ	ゴウ	コク	コク	コク	ゴク	コツ	ほね	こむ	コン	こまる	コン	うらむ
提出語形	絞る	硬球・硬水	酵母・酵素	綱目	横綱	原稿	鋼鉄	購売	均衡・平衡	拷問	金剛石・剛健	豪華・豪族	克服	彫刻・時刻	刻む	残酷	地獄	骨折・骨格	骨・背骨	申し込む	困難	困る	悔恨	恨む
番号	295	296	297	298	299	300	301		302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312
文字	婚	紺	魂	墾	懇	佐	砂		唆	詐	鎖	座	砕	宰	栽	彩	斎	裁	催
音訓	コン	コン	コン	たましい	コン	コン	サ	サ	シャ	すな	サ	サ	ザ	くさり	サイ	くだく	サイ	サイ	サイ	サイ	たつ	サイ
提出語形	結婚	紺色	霊魂	魂	開墾	懇談	大佐	砂糖・砂丘	土砂・砂利	砂浜	示唆	詐欺	鎖国	鎖	座席	粉砕	砕く	宰相	栽培	色彩	書斎	裁判・洋裁	裁つ	開催・主催
番号	313	314	315		316	317		318	319		320	321	322	323	324		325	326	327	328	329	
文字	債	載	歳		剤	削		索	酢		錯	搾	咲	冊	札		擦	撮	惨	暫	旨	
音訓	もよおす	サイ	サイ	のせる	セイ	ザイ	サク	けずる	サク	サク	す	サク	サク	さく	サツ	サツ	ふだ	サツ	サツ	サン	ザン	シ	むね
提出語形	催す	債券・負債	連載	載せる	歳末	歳暮	薬剤・洗剤	削除	削る	索引	酢酸	酢	錯覚	圧搾	咲く	一冊	改札	名札・お札	摩擦	撮影	悲惨	暫時・暫定的	旨趣	旨

番号	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342
文字	伺	枝	刺	姿	祉	施	脂	紫	嗣	飼	雌	誌	賜
音訓	シ うかがう	シ えだ	シ さす	シ すがた	シ	シ セ ほどこす	シ	シ むらさき	シ	シ かう	シ めす	め シ	シ たまわる
提出語形	伺候	伺う	枝葉	刺す	刺激・名刺	姿勢	姿・後姿	福祉	施設	施療	施す	脂肪	紫外線	紫色・紫式部	嗣子	飼育	飼う	雌雄	雌犬	雌牛	雑誌	恩賜	賜わる
番号	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	
文字	諮	侍	慈	滋	磁	璽	軸	疾	執	漆	湿	芝	射	赦	捨	斜	
音訓	シ	ジ さむらい	ジ	ジ	ジ	ジ	ジク	シツ	シツ シュウ	シツ	シツ	しばる	シャ いる	シャ	シャ すてる	シャ	なな め
提出語形	諮問	侍女	慈愛・慈悲	滋養	磁石	御璽	車軸	疾病・疾患	執筆・執行	執着	執る	漆器	漆・漆塗り	湿度	芝居・芝ふ	注射・反射	射る	容赦・赦免	四捨・取捨	捨てる	斜面	斜め
番号	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375
文字	煮	邪	勺	尺	爵	若	寂	朱	狩	珠	殊	趣	儒	寿	樹	囚	舟
音訓	シャ	ジャ に る	シャク	シャク	シャク	ジャク わかい もしくは	ジャク	シュ さびしい	シュ	シュ かり	シュ	シュ おもむき	ジュ	ジュ ことぶき	ジュ	シュウ	シュウ
提出語形	煮沸	邪悪・邪魔	一勺	尺度	公爵・爵位	若干	若い・若者	若しくは	静寂	寂しい	朱色	狩猟	狩り	珠算・真珠	特殊	趣味	趣き	儒教	寿命	寿ぎ	樹木	囚人	舟	雪舟

番号	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388
文字	秀	臭	愁	酬	醜	襲	充	柔	銃	渋	縦	獣	叔
音訓	ふ ね	シュウ	シュウ くさい	シュウ	シュウ みにくい	シュウ	ジュウ おそう	ジュウ あてる	ジュウ やわらかい	ジュウ しぶい	ジュウ たて	ジュウ けもの	シュク
提出語形	舟	秀才・優秀	悪臭 臭い	哀愁 報酬	醜悪・醜態 醜い	襲来・襲撃	補充・充実 充てる	柔道 柔和	柔らかい 銃声・拳銃	渋滞 渋柿	渋い 縦横・縦断	猛獣 縦	叔父・叔伯
番号	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407
文字	淑	粛	縮	熟	俊	瞬	旬	巡	盾	殉	准	循	潤	遵	庶	署	緒	如	徐
音訓	シュク	シュク	シュク ちぢむ	ジュク	シュン	シュン	ジュン	ジュン めぐる	ジュン	ジュン	ジュン	ジュン	ジュン うるおう	ジュン	シヨ	シヨ	シヨ	おヨ	ジヨ	ニヨ	ジヨ
提出語形	淑女	静粛	縮図	熟語	俊才	瞬間	上旬・下旬	巡査	巡る 矛盾	殉職・殉死	批准	循環	利潤 潤う	遵守	庶民	署長	緒論	緒 突如	如来	徐行
番号	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425
文字	叙	升	召	匠	抄	床	肖	松	昇	沼	渉	笑	症	訟	将	祥	晶	粧
音訓	ジヨ	シヨウ	シヨウ めす	シヨウ	シヨウ	シヨウ とこ	ゆか	シヨウ	シヨウ まつ	シヨウ	シヨウ ぬま	シヨウ	シヨウ わらう	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ
提出語形	叙事詩	一升	召集	師匠	抄本	起床	寝床	床板	肖像	松竹梅 松	昇天	湖沼 沼	交渉	微笑	笑う・笑い声	病症	訴訟	大将	発祥地 祥	水晶	化粧

番号	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	
文字	紹	掌	詔	硝	焦	傷	詳	障	彰	奨	衝	礁	償	鐘	丈	冗	域	
音訓	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	しろ
提出語形	紹介	車掌・掌握	詔勅	硝酸	焦土	負傷・重傷	傷口	詳細	詳しい	障子	表彰	奨励	衝突	暗礁・岩礁	賠償	償う	晩鐘	鐘	丈夫・一丈	冗談	○○城・城下	お城
番号	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458		
文字	浄	剰	蒸	錠	嬢	畳	譲	醸	殖	触	飾	嘱	辱	伸	辛	侵		
音訓	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ジョウ	ショク	ショク	ショク	ショク	ジョク	シン	シン	シン	おかす	
提出語形	浄土・清浄	過剰・剰余	蒸気	蒸す・蒸し暑い	錠をかける・手錠	令嬢	一畳	畳敷	譲歩	譲る	醸造	繁殖	接触・触角	触れる	装飾	飾る	嘱託・委嘱	恥辱・侮辱	伸縮・伸長	伸びる	辛苦	辛い	侵入	侵す
番号	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474		
文字	振	浸	針	娠	紳	診	慎	寝	審	震	薪	刃	迅	陣	尋	尽		
音訓	シン	シン	シン	シン	シン	シン	シン	シン	シン	シン	シン	ジン	ジン	ジン	ジン	ジン		
提出語形	振動	振る	浸水	浸す	方針	針妙	紳士	診察	慎重	慎む	寝室	寝る	審判	地震	震う	薪炭	白刃・刀刃	刃物	迅速	陣地	尋問	尋ねる	尽力	

番号	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491
文字	吹	炊	垂	帥	衰	睡	穂	遂	粋	酔	錘	随	髄	枢	崇	寸	故
音訓	つく・スイ	ふく・スイ	スイ	スイ	スイ	おとろえる・スイ	スイ	ほスイ	とげる・スイ	スイ	よう・スイ	つむ・ズイ	ズイ	ウ・スイ	ウ・スイ	ン・スイ	せ
提出語形	尽す	吹奏	炊事・自炊	垂直	元帥	衰弱	衰える	睡眠	穂状	穂先	遂行・完遂	遂げる	純粋	酔眼	酔う	錘	紡錘	随筆	骨髄	中枢	崇拝	寸法	一故
番号	492	493		494	495	496	497		498	499	500			501	502	503	
文字	瀬	井		征	姓	牲	盛		婿	誓	請			斥	析	昔	
音訓	せ	セイ	シ・ショウ	い・セイ	セイ	シ・ショウ・セイ	セイ	ジョウ・さかり・もる	セイ	む・こ・セイ	セイ	シン・こう	うける	セキ	セキ	セキ	シャク
提出語形	瀬戸・浅瀬	市井・油井	天井	井戸	征服	姓名	百姓	犠牲	全盛・盛大	繁盛	花盛り	盛る・酒盛り	女婿	婿・花婿	宣誓	誓い	請求	普請	請う	請ける・請け負う	斥候・排斥	分析	昔日	今昔
番号	504	505		506		507	508	509	510	511		512		513		514		515		516	517	518	
文字	隻	惜		跡		籍	拙	窃	摂	占		洗		染		泉		扇		旋	践	銑	
音訓	むかし・セキ	セキ	おしい・セキ	セキ	あと・セキ	セキ	セツ	セツ	セツ	セン	うらなう・しめる	セン		あらう・セン	そめる・セン	セン	いずみ・セン	セン	おうぎ・セン	セン	セン	セン	セン	
提出語形	昔話	一隻	惜別	惜しい	筆跡・追跡	戸籍	拙者	窃盗	摂政・摂氏	占領・独占	占う	占める	洗濯	洗う	染色	染める	温泉	泉	扇子・扇風機	旋風・旋律	実践	銑鉄	

番号	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538
文字	潜	遷	薦	鮮	繊	漸	禅	繕	阻	租	粗	措	疎	訴	塑	礎	双	壮	奏	桑
音訓	セン ひそむ	セン	セン	セン	セン	ゼン	ゼン	ゼン	ソ つくろう	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ うったえる	ソ	ソ いしずえ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ
提出語形	潜水	潜む	変遷	推薦	新鮮	繊維	漸進・漸次	禅宗	修繕	阻害・阻止	租税	粗末・粗品	措置	疎開・疎外	訴訟	訴える	塑像	基礎	双方	壮大・壮年	演奏・伴奏	桑園
番号		539	540	541		542	543	544	545	546		547	548	549	550		551	552		
文字		荘	掃	巣		窓	喪	捜	葬	装		僧	遭	層	操		燥	霜		
音訓		ソウ わ	ソウ はく	ソウ す		ソウ まど	ソウ も	ソウ さがす	ソウ ほうむる	ソウ		ソウ よそおう	ソウ	ソウ	ソウ みさお		ソウ	ソウ		
提出語形		荘重・荘厳・別荘	清掃・掃除	掃く	巣窟	巣立つ・巣箱	同窓会	喪失	喪中	捜査	捜す	葬式	葬る	装置・服装	衣装	装う	僧兵・僧侶	遭遇・遭難	地層	体操	乾燥	霜害
番号		553	554		555	556	557		558		559	560	561	562	563	564		565	566	567	568
文字		騒	憎		臓	贈	束		促		即	賊	妥	惰	堕	耐		胎	怠	泰	逮
音訓		ソウ しも	ゾウ さわぐ		ゾウ にくむ	ゾウ おくる	ソク たば		ソク うながす		ソク	ゾク	ダ	ダ	ダ	タイ		タイ	タイ おこたる	タイ	タイ
提出語形		騒動・騒音	憎悪		憎む	贈呈・寄贈	約束		催促・促進		即死・即席	盗賊・海賊	妥協	惰性・怠惰	堕落	忍耐		胎内・胎児	怠惰	安泰・泰平	逮捕

番号	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585
文字	袋	替	滞	滝	宅	沢	択	拓	卓	託	諾	濁	但	脱	奪	丹	担
音訓	タイ	タイ・ふくろ	タイ・かえる	とどこおる・たき	タク	タク・さわ	タク	タク	タク	タク	ダク	ダク・にごる	ただし	ダツ・ぬぐ	ダツ・うばう	タン・にわ	タン
提出語形	風袋	交替	沈滞・滞納・替える・振替	滞る・滝	住宅	光沢	選択	開拓	食卓・卓球	委託・信託	受諾・承諾	濁流	但し・但し書	脱出・脱走・脱ぐ	強奪・争奪・奪う	仁丹	担任・分担

番号	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600
文字	胆	探	淡	端	嘆	誕	鍛	段	暖	弾	壇	値	恥	致	痴
音訓	タン	タン・さぐる	タン・あわい	タン・はし	タン・なげく	タン	タン・きたえる	ダン	ダン・あたたかい	ダン	ダン	チ・ねあたい	チ・はじる	チ	チ
提出語形	落胆・大胆	探検・探求・探る	淡水・冷淡・淡い・淡雪	極端・先端・右端	感嘆・嘆息・嘆く	誕生	鍛錬・鍛える	一段・階段	暖房・暖流・暖かい	弾力・爆弾	教壇・花壇	価値・値段・……に値する	恥辱・恥じる	一致・致命的	人白痴

番号	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	
文字	遅	稚	逐	畜	蓄	秩	窒	嫡	仲	宙	抽	衷	駐	鋳	弔	兆	頂	彫	
音訓	チ	チ・おくれる	チク	チク	チク	チツ	チツ	チャク	チュウ・なか	チュウ	チュウ・いただき	チュウ	チュウ	チュウ・いる	チョウ・とむらう	チョウ	チョウ・いただき	チョウ	ほる
提出語形	遅刻	遅れる・幼稚園	逐次・駆逐・牧畜・家畜		貯蓄	秩序	窒息・窒素	嫡男・嫡子	仲裁・仲良し・仲間	宇宙	抽選・抽象・抽出	衷心・折衷	駐車場	鋳金・鋳造・鋳る・鋳型	弔問・弔電・弔う	吉兆・一兆	頂点・頂上・頂	彫刻・彫る	

番号	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	
文字	超	脹	跳	徴	潮	澄	懲	聴	庁	勅	沈	珍	朕	陳	鎮	津	墜	痛	
音訓	チョウ	チョウ	チョウ	チョウ	チョウ	チョウ しお	チョウ すむ	チョウ こらす	チョウ	チョク	チン しずむ	チン めずらしい	チン	チン	チン	つ	ツイ	ツウ いたむ	
提出語形	超越・超過	伸脹・膨脹	跳躍	象徴・特徴	干潮・満潮	黒潮	清澄・最澄	澄む	懲罰・懲役	懲らす	聴覚・聴衆	県庁・都庁	勅語・詔勅	沈没・沈黙	沈む	珍重・珍品・珍種	珍しい	朕	陳列・陳情・陳述	鎮火・鎮圧	津波・津軽	墜落	痛切・頭痛	痛む	
番号	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646		647	648		649		650		651	652	653	654	655	656	
文字	坪	呈	廷	邸	抵	帝	訂	貞	逓	堤		艇	締		笛		摘		滴	迭	哲	撤	徹	添	
音訓	つぼ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ		つつみ テイ	テイ		しまる テキ		ふえ テキ		つむ テキ	テツ	テツ	テツ	テツ	テン	
提出語形	坪数・一坪	進呈・贈呈	法廷・朝廷	邸宅・官邸	抵抗・大抵	帝国・皇帝	訂正・改訂	貞操・貞節	逓信・逓送	堤防		堤	競艇		締結		締切り・締まる		警笛・汽笛	笛・口笛	指摘（摘要）	摘む	水滴・一滴	更迭	哲学	撤去	徹夜・徹底	添付・添加	
番号		657				658	659		660	661		662	663		664		665			666	667		668	669	
文字		殿				斗	吐		途	渡		塗	奴		怒		豆			到	倒		唐	凍	
音訓		そえる	デン	テンとの	どの	ト	ト はく		ト	ト わたる		ト ぬる	ド		ド いかる		トウ			ト まめ	ト たおれる		ウ	トウ	
提出語形		添える	宮殿	御殿	殿様	○○殿	北斗星・一斗	吐血	吐く	帰途・途中	渡来・渡来	渡る	塗装・塗料	塗る	奴隷	怒声・喜怒	怒る	豆腐	大豆	到達・到着	卒倒・打倒	倒れる	遣唐使	凍死・冷凍	

番号		670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684
文字		桃	逃	透	陶	悼	痘	筒	塔	盗	稲	踏	糖	騰	闘	謄
音訓	こごえる	トウ・もも	トウ・にげる	トウ・すく	トウ	トウ	トウ	トウ・つつ	トウ	トウ・ぬすむ	トウ・いね	トウ・ふむ	トウ	トウ	トウ	トウ
提出語形	凍える	桜桃・白桃	逃走・逃亡	逃げる・透ける・透明	陶器	追悼・哀悼	天然痘・種痘	水筒・封筒	五重の塔	盗難・強盗・盗む	陸稲・水稲・稲刈り	舞踏	踏む・踏み切り・砂糖	騰貴・沸騰	闘争	謄本・謄写
番号		685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696		697	698	699	700
文字		胴	峠	匿	督	篤	突	豚	鈍	曇	軟	尼	乳		尿	妊	忍	寧
音訓	ドウ	とうげ	トク	トク	トク	トツ	つく	トン	ドン・にぶい	ドン・くもる	ナン	ニ・あま	ニュウ・ちち		ニョウ	ニン	ニン・しのぶ	ネイ
提出語形	胴体	峠	匿名	監督	危篤	突然	突く	豚脂・豚肉	豚・焼豚・鈍角・鈍感	鈍い・曇天	曇る・軟水・柔軟	尼僧・尼寺	牛乳	乳飲み子・乳母	尿・尿素	妊娠	忍耐・忍術	忍ぶ・丁寧
番号		701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718
文字		粘	悩	脳	濃	婆	杯	肺	背	俳	排	廃	輩	培	梅	陪	媒	賠	伯
音訓	ネン	ねばる	ノウ・なやむ	ノウ	ノウ・こい	バ	ハイ・さかずき	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	バイ	バイ・うめ	バイ	バイ	バイ	ハク
提出語形	粘土	粘る	苦悩・悩む	頭脳	濃淡・濃度・濃い	老婆	乾杯・杯	肺病	背後・背景・背中	俳句	排水・排斥・排除	廃止	我輩・先輩	栽培	梅林・梅雨・梅	陪審	媒体・媒介	賠償	画伯

番号	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733
文字	拍	迫	泊	舶	薄	幕	爆	縛	箱	髪	伐	抜	罰	閥	帆
音訓	ハク	ハク／ヒョウ	ハク／とまる	ハク	ハク／うすい	バク	バク／マク	バク／しばる	はこ	ハツ／かみ	バツ	バツ／ぬく	バツ	バツ	ハン／ほ
提出語形	拍手	迫害／拍子	迫る／宿泊・一泊／泊る	船来・船舶	薄情・軽薄／薄い	幕府／幕内・開幕	原爆・爆発	束縛／縛る	箱・本箱	理髪・頭髪	征伐	選抜・抜群／抜く	罪と罰・罰金	財閥	帆船／帆柱

番号	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751
文字	伴	班	畔	般	販	煩	頒	搬	範	繁	藩	晩	蛮	盤	妃	彼	批	卑
音訓	ハン	ハン／バン／ともなう	ハン	ハン	ハン	ハン／わずらわしい	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	バン	バン	バン	ヒ	ヒ／かの	ヒ／かれ	ヒ／いやしい
提出語形	同伴	伴奏／伴う	班長・一班／班	湖畔	一般	販売	煩雑・煩悶	煩わしい	頒布	搬入・運搬	範囲	繁栄	藩主	今晩	野蛮	円盤	王妃	彼岸／彼女／彼	批判・批評	卑屈／卑しい

番号	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766
文字	秘	被	疲	碑	罷	避	尾	微	匹	泌	姫	漂	苗	描	浜
音訓	ヒ	ヒ／こうむる	ヒ	ヒ／つかれる	ヒ	ヒ／さける	ビ	ビ／お	ヒ／キ	ヒツ	ヒめ	ヒョウ／ただよう	ビョウ	ビョウ／えがく／なえ	ヒン／はま
提出語形	秘密・神秘	被服・被害／被る	疲労／疲れる	石碑・記念碑	罷免	避難／避ける	首尾・尾語／尾	微笑・微生物	二匹／匹敵	分泌	姫君・姫様	漂流／漂う	苗族・種苗／苗床	描写／描く	海浜／浜べ・浜

番号	767	768	769	770	771	772		773	774	775		776	777		778		779	780	781		782		783
文字	賓	敏	扶	附	赴	浮		普	符	腐		怖	敷		膚		賦	譜	侮		舞		封
音訓	ヒン	ビン	フ	フ	フ	フ	うかぶ・うく	フ	フ	フ	くさる	フ	フ	しく	フ	はだ	フ	フ	ブ	あなどる	プ	まう	フウ
提出語形	賓客・来賓	敏感・鋭敏	扶助・扶養	附属	赴任	浮力・浮浪	浮かぶ・浮く	普及・普通	符号・切符	腐敗・豆腐	腐る	恐怖	敷設	敷く・屋敷	皮膚		賦与・月賦	楽譜	侮辱		侮る	舞台・舞踊	舞う	封筒

番号	784		785		786		787		788		789		790		791		792		793	794	795				796
文字	伏		幅		腹		覆		払		沸		紛		憤		墳		噴	丙	並				併
音訓	ホウ	フク	フク	ふせる	フク	はら	フク	はら	フツ	はらう	フツ	わく	フン	まぎれる	フン	いきどおる	フン		フン	ヘイ	ヘイ	ならべる	なみ	ならびに	ヘイ
提出語形	封建	伏線・降伏	振幅	伏せる	幅とび	腹痛・満腹	腹巻き	覆面・転覆	払暁・払底	払う・支払い	沸点・沸騰	沸く・湯沸し	紛失・紛争	紛れる	憤慨	憤る	古墳		噴火・噴水	甲乙丙	並行・並列	並べる	並木	並びに	併合・合併

番号	797		798		799	800	801		802		803		804	805		806		807		808	809		810	
文字	柄		閉		幣	弊	癖		壁		片		偏	遍		捕		浦		舗	募		慕	
音訓	へイ	え	へイ	がら	へイ	へイ	へキ	くせ	へキ	かべ	へン	かた	へン	へン		ホ	とらえる	ホ	うら	ホ	ボ	つのる	ボ	したう
提出語形	葉柄・横柄	かさの柄	閉会	人柄・家柄	紙幣・貨幣	弊害	習癖・悪癖		壁画・絶壁		破片・一片	片手	偏食・偏平	遍歴・遍路		捕手・捕虜	捕える	曲浦		浦和	舗装・店舗		募集・応募	募る	慕情

番号	811		812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825
文字	暮		簿	邦	芳	宝	奉	抱	胞	峰	砲	倣	崩	訪	飽	縫
音訓	ボ	くれる・くらす	ボ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ
					かんばしい	たから	たてまつる	だく		みね				おとずれる	あきる	
提出語形	暮歳	暮らす・暮れる	名簿・帳簿	邦人・連邦	芳名・芳香・芳しい	宝石・宝物	奉仕・奉公	抱負・介抱・抱く	細胞	高峰・連峰	峰・山の峰	大砲・鉄砲	模倣	崩壊	訪問	訪れる	飽和・飽きる	裁縫
番号		826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842
文字		亡	乏	忙	坊	冒	妨	忘	房	剖	肪	某	帽	傍	棒	紡	謀	膨
音訓		ぬ・ボウ	ボウ	とぼしい・ボウ	いそがしい・ボウ	ボウ	ボウ	さまたげる・わすれる・ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	つむぐ・ボウ	ボウ	ボウ
提出語形		縫う・縫い物	死亡	貧乏	多忙	忙しい	坊主	冒険・感冒	妨害	妨げる	忘却・忘年	忘れる	暖房・女房	解剖	脂肪	某氏・某国	帽子	傍線・路傍	鉄棒	紡績	紡ぐ	陰謀・無謀	膨張
番号		843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862
文字		撲	墨	没	奔	翻	凡	盆	麻	摩	魔	枚	埋	膜	又	漫	慢	魅	密	妙	眠
音訓		ボク	ボク・すみ	ボツ	ホン	ホン・ひるがえる	ボン	ボン	マ・あさ	マ	マ	マイ	マイ・うめる	マク	また	マン	マン	ミ	ミツ	ミョウ	ミン
提出語形		打撲傷	墨汁・墨絵	没落・日没	奔走・奔流	翻訳・翻える	平凡・凡人	お盆・盆地	麻薬	摩擦	魔法・魔術	一枚	埋蔵	埋める	腹膜・角膜	又は	漫画	自慢・高慢	魅力	密林・秘密	妙な人・奇妙	冬眠・睡眠

番号	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	
文字	矛	夢	霧	娘	銘	滅	免	茂	模	盲	耗	猛	網	黙	
音訓	ムねむる	ムゆめ	ムきり	モむすめ	メイ	メツほろびる	メンまぬかれる	モしげる	モボ	モウめくら	モウ	モウ	モウあみ	モクだまる	
提出語形	矛盾	夢中・悪夢	濃霧・噴霧器	霧	娘・孫娘	銘柄・感銘	全滅・滅亡	滅びる	免疫・免許状	免れる	繁茂	茂る	模様	規模	盲目	盲人・盲目	消耗	猛獣・猛烈	網膜・通信網	網	沈黙	黙る	
番号	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886			887	888	889	890	891	892			893		
文字	紋	匁	矢	躍	愉	論	唯	郵	幽	雄			裕	猶	誘	優	融	憂			与		
音訓	モン	もんめ	やヤク	ヤク	ユ	ユ	ユイ	ユウ	ユウ	ユウおす			ユウ	ユウ	ユウさそう	ユウやさしい	ユウ	ユウうれい	うれえる	ヨあたえる			
提出語形	紋章・指紋	一匁	弓矢	活躍・飛躍	愉快	教諭	唯一	郵便	幽霊	英雄・雄大	雄と雌	雄牛・正雄	余裕・裕福	猶予	誘惑・誘導	誘う	優勝	優しい	金融	憂鬱・憂国	憂い	憂える	授与・給与	与える	
番号	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908								
文字	誉	羊	幼	庸	揚	溶	腰	揺	窯	踊	謡	擁	抑	翌	翼								
音訓	ヨ	ヨウほまれ	ヨウひつじ	ヨウおさない	ヨウあげる	ヨウとける	ヨウこし	ヨウゆれる	ヨウ	ヨウおどる	ヨウうたい	ヨウ	ヨクおさえる	ヨクよく	ヨクつばさ								
提出語形	名誉	羊毛	幼稚・幼児	幼い	揚子江・抑揚	揚げる	溶液	腰掛け部	動揺	揺れる	窯業	舞踊	踊る	童謡・民謡	謡	擁護	抑制・抑揚	翌年・翌日	右翼・左翼					

番号	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924
文字	裸	雷	頼	絡	酪	卵	乱	濫	欄	覧	吏	痢	履	離	裏	柳
音訓	ラつばさ	ライはだか	ライかみなり	ラクたのむ	ラクラク	ランたまご	ランみだれる	ランラン	ランラン	ランラン	リリ	リリ	リリ	リはなれる	リうら	リュウ
提出語形	裸体・裸像	雷雨	信頼・依頼	連絡	酪農	産卵・鶏卵	混乱・乱暴	乱れる・濫用	欄外・空欄	回覧・展覧会	官吏	下痢	履歴・草履	距離・離別	裏面・表裏	川柳
番号	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	
文字	粒	隆	硫	虜	慮	了	涼	猟	陵	僚	寮	療	糧	厘	倫	隣	涙	累	
音訓	リュウやなぎ	リュウつぶ	リュウ	リョ	リョ	リョウ	リョウすずしい・すずむ	リョウ	リョウみささぎ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リン	リン	リン	ルイ	ルイなみだ	
提出語形	粒子・粒状	隆盛・隆起	硫酸	捕虜	遠慮・考慮	完了・終了	清涼・涼風	涼む・涼しい	陵師	官僚・同僚	寮生活	療養・治療	食糧・糧米	一厘	倫理学・人倫	隣人	落涙・涙腺	累計・累積	
番号	943	944	945	946		947	948	949	950	951	952	953	954	955			956	957	
文字	塁	励	零	鈴		霊	隷	齢	麗	暦	劣	烈	裂	恋			廉	錬	
音訓	ルイ	レイはげむ	レイ	レイ	リン	レイ	レイ	レイ	レイうるわしい	レキ	レツこよみ	レツおとる	レツ	レンこい	レンこいしい		レン	レン	
提出語形	一塁	激励・奨励	零下	電鈴	風鈴・呼鈴	霊感・幽霊	奴隷	年齢	美麗	西暦・旧暦	優劣	熱烈・猛烈	分裂	恋愛	恋人	恋しい	廉売・廉価	錬磨・鍛錬	

番号	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969
文字	炉	露	浪	朗	郎	廊	楼	漏	賄	惑	腕	湾
音訓	ロ	ロ	つゆ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	もれるワイ	もれるワク	まどうワン	うでワン
提出語形	原子炉・炉端	露出・暴露	露・朝露	浪人・浪費	朗読・明朗	朗らか	太郎	廊下	高楼・望楼	漏電・漏水	漏る	漏れる	贈賄・収賄	惑星・迷惑	惑う	腕力・手腕	右腕	伊勢湾

（芦沢　節）

資　科　Ⅳ

漢字習得に関する実態調査の文献

はじめに

われわれの調査を進めるに際して，漢字習得の実態調査にはこれまでにどのようなものがあるか，その結果はどうであったかなどについて調べ，それを問題作成や実施上の参考資料の一つとしてきた。明治期からのものを対象としたので，現在ではほとんど見る機会に恵まれないと思えるものも中にはある。こうした事情から，ここにリストアップして紹介することとした。

しかし，このリストは，われわれの立場での必要から目を通したものばかりであって，漢字習得に関する実態調査のおもなものの全部を網羅したものではない。また，われわれの目が届かなかったことによって漏れたものもあると思われる。その意味ではかなり主観的なリストであることをお許し願いたい。収録の範囲は学校教育に関するもののみに限定した。

記載にあたっては，調査者(機関)・被調査者・調査内容・実施の時期・結果の概要がわかるようにした。記載の順序は調査実施の時期の古いものの順になっている。

なお，文献の収集にあたっては，国立国会図書館・国立教育研究所図書館・東京教育大学図書館・お茶の水女子大学図書館・東京学芸大学図書館・二松学舎大学図書館，その他いく人かの個人のかたがたなどから御協力御示唆を賜わった。厚く御礼を申しあげる次第である。

※　この種のリストの先行文献に，塩田紀和氏の手になる「漢字習得状況についての調査」(昭和41年，文部省国語課―ガリ刷り　非売品―)がある。

(1)　小学校尋常四年生のその学年までに出た漢字の書きの調査

調査者　東京高等師範学校附属小学校

被調査者　同小学校4年生

調査内容　小学校4年までに提出された漢字の書字力

実施の時期　明治35年（？）

結果の概要　平均正答字数273字（66%）

(2) 中学校ニ入学セル当初ノ生徒ノ　漢字ニ関スル知識ノ調査

調査者　森本角蔵（東京高等師範学校助教諭）

被調査者　東京高等師範学校附属中学校１年生78名（２学級）

調査内容　被調査者が小学校で使用した国語科教科書（国定）１年～６年に提出された新出漢字（ただし，一から十までの数字を除く）1341字の書き。

実施の時期　大正５年４月10日～４月27日までの間に９回に分けて。

結果の概要　この調査の結果は『中学校ニ入学セル当初ノ生徒ノ漢字ニ関スル知識ノ調査』（A5，200ページ，雑誌「中等教育」特別号）として一冊にまとめられ，大正６年５月に中等教育研究会から刊行されている。それによると，

「生徒各人を対象とした分析の結果」は，

(イ)　平均正答数　　1125.7字（84.0%）

(ロ)　平均誤字数　　105.1字（ 7.8%）

(ハ)　平均忘字数　　110.1字（ 8.2%）

(ニ)　誤字最少の者の誤字数　　19字（ 1.4%）

(ホ)　忘字最少の者の忘字数　　２字（0.1%）

(ヘ)　誤字・忘字の計が最も小さい者の誤字・忘字数　22字（1.6%）

(ト)　誤字最多の者の誤字数　　330字（24.6%）

(チ)　忘字最多の者の忘字数　　410字（30.6%）

(リ)　誤字・忘字の計が最も大きい者の誤字・忘字数　　638字（47.6%）

となっている。

また「漢字の性質を対象とした分析の結果」として

(イ)　誤字数忘字数および誤字形体一覧表

(ロ)　誤字数の百分率による分類表

(ハ)　忘字数の百分率による分類表

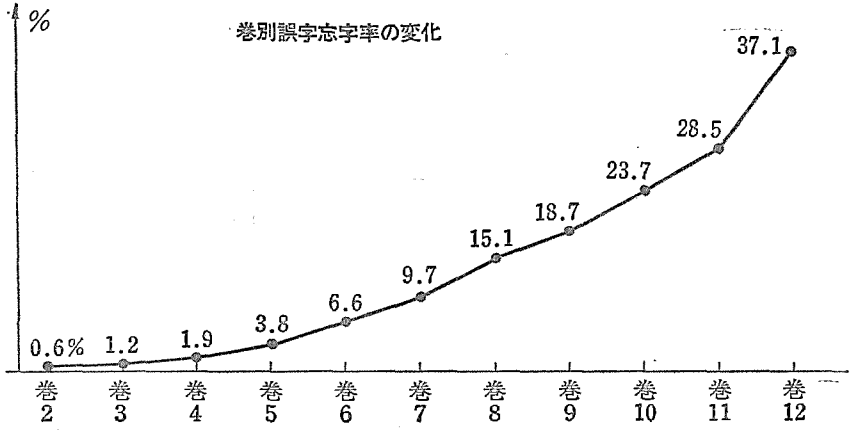
(ニ)　誤字数忘字数合計の百分率による分類表

(ホ)　誤字数忘字数およびその合計の百分率による分類比較表

(ヘ)　出処による誤字数忘字数およびその合計の分類一覧表

(ト)　各巻の誤字数忘字数およびその合計の平均百分率一覧表

などが詳しく示されている。(ト)の表にもとづいて，巻別の誤字忘字（合計）率の変化をグラフ化してみると次のようになる。



(3)　読方教育測定

調査者　旧東京市（読方測定委員会）

被調査者　神田・日本橋・京橋・麻布・四谷・小石川・本郷・浅草・本所・深川・目黒・杉並・豊島・足立・葛飾の各区の各１校（計15校）から抽出された小学校児童の各学年男・女１クラス（合計180学級，約9,500名）

調査内容　東京市における読み方の標準テストの作成を主たる目的とした調査で，読み方についてのほぼ全領域にわたる内容となっている。このうち，漢字の読字・書字という観点では，教科書の新出（読みかえ字も含む）の中から抽出した漢字，１年生40字，２年生以上は各50字（計 290 字）の読み・書き。

実施の時期　昭和８年３月17日～18日

結果の概要　報告書『読方教育測定』（東京市編，B5，187ページ，昭和10年２月　勝田書店刊）によると，「中位数による標準得点数」として次のように示してある。

	読　字	書　字	語句解釈	文章理解
1年	38.52	38.46	13.68	13.11
2年	46.36	40.27	21.40	16.71
3年	41.73	28.02	26.70	18.35
4年	43.82	28.13	27.98	20.83
5年	43.37	25.19	27.05	19.60
6年	45.30	24.28	27.00	19.13

(4)　東京市内小学校児童に対する漢字の書きの調査

調査者　カナモジカイ（岡崎常太郎ほか）

被調査者　尋常科6年生848名（本所・四谷・足立・葛飾・日本橋・豊島・下谷・麻布・本郷・蒲田の各区から1学校ずつ）。高等科1年生631名（芝区内の2学校）

調査内容　『尋常小学国語読本』（白表紙本）の巻1から巻12までの新出漢字1356字の書き（一，二……九までの数字を除く）。

全員の　セイセキの　ブンプ表

1,300字以上	書ケタ　モノ ……	2名	(0.1%)
1,200字以上	1,299字以下 ……	37名	(2.5%)
1,100字以上	1,199字以下 ……	91名	(6.2%)
1,000字以上	1,099字以下 ……	90名	(6.1%)
900字以上	999字以下 ……	94名	(6.4%)
800字以上	899字以下 ……	124名	(8.4%)
700字以上	799字以下 ……	139名	(9.4%)
600字以上	699字以下 ……	163名	(11.0%)
500字以上	599字以下 ……	167名	(11.3%)
400字以上	499字以下 ……	**184名**	**(12.4%)**
300字以上	399字以下 ……	172名	(11.6%)
200字以上	299字以下 ……	129名	(8.7%)
100字以上	199字以下 ……	80名	(5.4%)
99字以下　シカ	書ケナイ　モノ……	8名	(0.5%)
	計……	**1,479名**	**(100.0%)**

実施の時期　尋常科6年生については昭和10年3月，高等科1年生については同年4月はじめ。

結果の概要　この調査は，カナモジカイが「漢字500字制限案」をつくるために，その基本調査の一部として実施したものである。こうした事情から，調査結果は『漢字制限の基本的研究』（岡崎常太郎著A5，186ページ，昭和13年2月，松邑三松堂刊）に報告されている。これによると，被験者全員の成績は前ページの表のとおりである。

(5)　教育漢字881字の書きの調査（小・中学校）

調査者　文部省初等教育課

被調査者　長野県(小学校4校，中学校6校)，千葉県（小学校6校，中学校6校）の小学校児童1年～6年5,266名，中学校生徒1年～3年3,442名。

調査内容　教育漢字881字の書き

実施の時期　昭和25年2月下旬～3月上旬

結果の概要　正しく書かれた漢字数の算術平均および百分率は次のとおり。

学　　年	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
(a)字　　数	27	91	173	216	325	470	571	611	721
(b) 881字に対する百分率	3.1	10.3	19.6	24.5	36.9	53.3	64.8	69.4	81.9

なお，この調査についての報告は『児童生徒の漢字を書く能力とその基準』（A5，327ページ，昭和27年5月，明治図書刊）に載っている。

(6)　漢字を書く能力の基準を設ける調査

調査者　文部省初等教育課

被調査者　小学校第1学年から中学校第3学年までの児童生徒男子2,025人，女子2,005人，計4,030人。調査地域は福島県・茨城県・千葉県・長野県・静岡県・和歌山県の小学校計10校，中学校計10校

調査内容　次のような条件で選ばれた教育漢字内の100字の書き。

(1) その学年の正答率が70パーセント前後の字であること。つまり小学校の第1学年の字ならば，1年生の70パーセント前後が正しく書いている字であること。

(2) 正答率の男女の差の少ない字であること。

(3) 学年の発達が不規則な字でないこと。すなわち，正答率が学年を追って，だいたい，なめらかに増加している字であること。

(4) 児童生徒の生活と，あまりかけ離れた事がらを示す字でないこと。

(5) 偏，旁，冠，脚などの変化が多いこと。

このようにして選ばれた100字は次のとおりである。Ⅰ—Ⅸは学年を示す。

Ⅰ　上中子人大月本白木日手　　Ⅱ　耳火風村石米母方気界元
Ⅲ　秋草東文黒南時兄雲朝心　　Ⅳ　谷犬野作語間店和美通地
Ⅴ　色岩岸運内池面分黄重君　　Ⅵ　前帳姉暗坂横交保農指引
Ⅶ　駅着薬急開治塩投常散争　　Ⅷ　労選祭泳健絹伝軽康焼底
Ⅸ　厚己鼻航届逆善低境孫招救

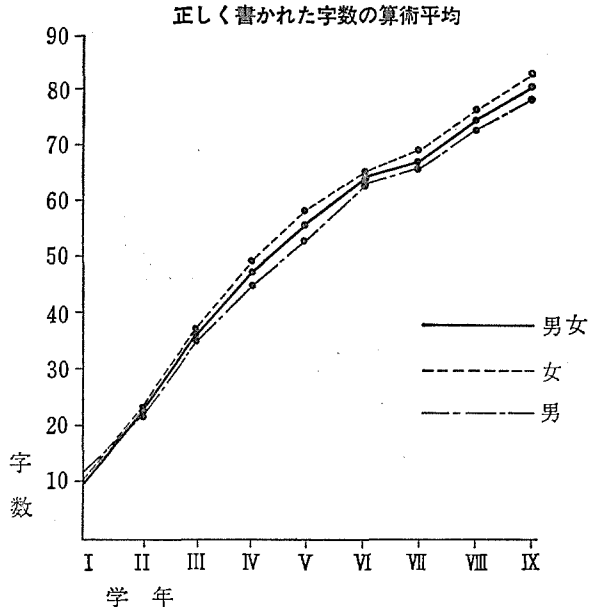
実施の時期　昭和26年1月下旬～2月上旬

結果の概要　1人につき100字ずつ調査した結果，正しく書かれた字数は次のとおりである。

正しく書かれた字数の算術平均と標準偏差

男女＼学年		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
男	算術平均	11	22	35	45	53	63	66	73	79
	標準偏差	3.5	8.2	13.1	16.0	14.0	15.2	15.7	16.0	14.0
女	算術平均	10	23	37	49	58	65	69	76	83
	標準偏差	3.9	7.9	12.7	14.0	13.5	13.1	14.1	13.0	10.5
男女	算術平均	10	22	36	47	56	64	67	75	81
	標準偏差	3.7	8.2	13.0	15.2	13.9	14.3	15.1	14.6	12.7

これをグラフ化すると次のような図になる。



この調査については『児童生徒の漢字を書く能力とその基準』（A5，327ページ，明治図書，昭和27年5月発行）に報告されている。

(7)　義務教育における漢字習得に関する調査

調査者　文部省国語課

被調査者　全都道府県を三つに層別し，それぞれの層の中から選定された小学校9校の

2年生　1256人
4年生　1192人　計　3675人
6年生　1227人

男女別内訳は，男子1815人，女子1860人である。

調査内容　教育漢字881字を3グレード6種に分類し，その各段階から選定された計200字についての読み，書き。

1グレード 171字 { 第1種　85字（調査字　30字）
　　第2種　86字（　〃　30字）
2グレード 397字 { 第1種　199字（　〃　35字）
　　第2種　198字（　〃　35字）
3グレード 313字 { 第1種　163字（　〃　35字）
　　第2種　150字（　〃　35字）

1グレード（調査字60字）

外土田人手足米力大小虫犬水川中石右左百千雨音光山上月東西南北（第1種）

晴朝風学校道国船見黒色畑草麦馬青鳥売組弟妹書新聞読星春秋夏冬（第2種）

2グレード（調査字70字）

用品線引形歴史商回点入自車委員会列団体真間駅近温計鉄炭急所台交通安全化（第1種）

勉強農業遊転乗練習週写病院薬飲熱楽曜祭姉家親類橋汽遠流発電機械港帰燈変（第2種）

3グレード（調査字70字）

供関易営許可栄求希因研究応芸宗液性質存在版永判宣伝均以責賃順序解漠損肥（第1種）

経済識係需給貿憲認権律従衆議挙職複雑観察酸素善悪誤評貯釈試験準備難願製（第2種）

〈上記の各字を，1グレード28問，2グレード30問，3グレード37問にして文脈，語脈を与えて提出〉

実施の時期　昭和26年2月～3月

結果の概要　グレード別および既習・未習別による正答率を示すと次のとおり。

	（読み）	（書き）
1グレードの字（小2）	69.3%	55.6%
2グレードの字（小4）	73.3%	37.0%

3グレードの字（小6）　61.3%　22.3%

なお，この調査についての報告書は，『義務教育における漢字習得に関する調査報告』（B6，112ページ）として，昭和26年8月に文部省から発行されている。

	調査学年	人数	正答率 既習字	未習字	平均	男	女
読み	2	622	79.4	45.3	69.3	67.6	71.0
	4	589	78.0	57.6	73.3	72.5	74.1
	6	611	65.7	50.7	61.3	61.0	61.5
書き	2	634	70.2	20.9	55.6	55.4	55.8
	4	603	43.7	14.3	37.0	35.5	38.5
	6	616	26.9	11.7	22.3	21.4	22.3

※読める字数に対する書ける字数の割合
2年生　82%
4年生　50%
6年生　30%

(8)　教育漢字881字の読み・書き調査

調査者　北九州5市

被調査者　5市内の小6・中3の児童生徒から抽出した500人

調査内容　教育漢字881字の読み・書き

実施の時期　昭和26年

結果の概要　読字・書字それぞれの正答字数（率）は次のとおりである。

	読字の平均正答字数（率）	書字の平均正答字数（率）
小　6	576字（65.4%）	371字（42.1%）
中　3	755字（85.7%）	454字（51.5%）

(9)　中学生・高校生の　漢字を読む力の調査

調査者　文部省

被調査者　全国層別抽出で

高校生　61校　15,270人

中学生　77校　21,380人

調査内容　漢字1000字の読み。その内訳は，

(1)　1年から4年までの教育漢字　19字

(2)　音読みのある当用漢字　　943字

(3)　訓読みだけの当用漢字　　26字

(4)　5・6年の教育漢字　　12字

これを，被調査者ひとりについて100字ずつ割当ててある。

実施の時期　昭和32年1月

結果の概要　中学・高校各学年別の正答率は次のとおり。

中学	1年	40.4%	高校	1年	79.4%
	2年	53.2%		2年	82.3%
	3年	63.4%		3年	84.4%

なお，この調査の報告書は『中学生・高校生の漢字を読む力』(A5，376ページ) として昭和34年10月に教育出版から発行されている。

(10)　教育漢字の学年配当と読み書き調査

調査者　栃木県日光市立清滝小学校・文部省

被調査者　同校児童（1年～6年）

調査内容　教育漢字881字についての読み・書き。問題は文部省国語課で作成，各学年一律に881字のすべてについて調査。

実施の時期　昭和31年2月

結果の概要　この調査についての報告書『漢字の学習指導に関する研究』(A5，226ページ，文部省，昭和32年刊) によると，この調査は，教育漢字の学年配当を最終的に決定していくための資料を得ることを主たる目的として行なわれたものである。そしてこの調査の際の学年配当字数は，1年40字，2年110字，3年170字，4年220字，5年182字，6年159字となっている。このうち，正答率50%以上の字数は左表に示すとおりである。

正答率50%以上の字数

学年	配当字数	読み	書き
Ⅰ	40字 (4.5)	34字 (85.0)	34字 (85.0)
Ⅱ	110 (12.5)	85 (77.3)	25 (22.7)
Ⅲ	170 (19.3)	118 (69.4)	20 (11.8)
Ⅳ	220 (25.0)	99 (45.0)	7 (3.1)
Ⅴ	182 (20.7)	97 (53.3)	1 (0.6)
Ⅵ	159 (18.0)	81 (50.9)	13 (8.2)
計	881 (100)	513 (58.7)	100 (11.4)

(11)　教育漢字881字についての小学校卒業直前における読み・書き調査

調査者　国立国語研究所

被調査者　実験学校（都内1校）と協力学校（都外4校）の6年生各1学級。

調査内容　教育漢字881字についての読み・書き。集団調査で，10数回に分けて実施。調査者のひとりひとりが881字の読み・書きの全部を行なった。

実施時期　昭和33年2月～3月

結果の概要　この調査の結果については，同研究所報告26『小学生の言語能力の発達』（A5，604ページ，昭和41年3月，明治図書刊）および，同研究所報告『高学年の読み書き能力』に報告されている。その中から実験学校におけるテスト結果をかいつまんで紹介すると次のとおりである。

881字の読字・書字それぞれの平均正答字数および正答率は

	平均正答字数	平均正答率
読　字	806字	91.5%
書　字	577字	65.5%

さらにこれを指導要領での配当学年別にみると次のとおりである。

＜読字＞

学年配当による	平均正答字数	平均正答率
1年用漢字（46字）	45.1	98.0
2年用漢字（105字）	103.9	99.0
3年用漢字（187字）	181.4	97.0
4年用漢字（205字）	196.7	96.0
5年用漢字（194字）	177.5	91.2
6年用漢字（144字）	103.5	71.7

＜書字＞

学年配当による	平均正答字数	平均正答率
1年用漢字（46字）	43.3	94.1
2年用漢字（105字）	100.1	95.3
3年用漢字（187字）	164.4	87.9
4年用漢字（205字）	147.7	72.0
5年用漢字（194字）	107.2	55.3
6年用漢字（144字）	60.4	41.9

(12)　中等学校における漢字書写能力調査

調査者　日本私学教育研究所

被調査者　全国を東部(北海道・東北・関東・東京）西部(中部・近畿・中国・

四国・九州）に分け，その中から抽出された，私立高校89校（1年生4821名，3年生4506名），同じく中学校42校（2年生1911名）。

調査内容　当用漢字の中で，生徒の生活に関係が深いと思われる語(100語）に用いられる漢字200字を選んで，その書写力を調べたもの。調査問題は次のとおり。

(1)　100メートル1キョウソウが2ハジまる。

(2)　今年は良い3テンコウに恵まれたので，4コクモツの5ゾウシュウが期待される。

(3)　6シンタイケンサを7オコなう。

(4)　文章の8コウソウを9ネる。

(5)　10キセンから降りると，すぐ11リンカイ学校の建物が見える。

(6)　12オウダンホドウでは，車はいったん13テイシする。

(7)　新聞が14インサツされる15ジュンジョ。

(8)　入会を16ススめる。

(9)　17グタイ的に18セツメイする。

(10)　テニスの19シンパンの20キジュンを設ける。

(11)　21コウキョウ曲を22エンソウする。

(12)　23ホガらかな24ヒトガラで皆に25シタわれる。

(13)　26セイソウの27テッテイをはかる。

(14)　あやうく28ソウナンを29マヌカれる。

(15)　山は30オダやかなので31キケンはない。

(16)　32サッカクに33オチイる。

(17)　34ケンビキョウの35バイリツ。

(18)　36チュウショウ的に表現する。

(19)　37ゲンコウのしめきり日が38セマる。

(20)　不幸な39キョウグウの人を40ナグサめる。

(21)　すばらしい芸術の41セイサクに42キョウイの目を見はる。

(22) セットウ(43)事件のショウコ(44)をにぎり，犯人をタイホ(45)する。
(23) すぐれたズノウ(46)で辞典のサクイン(47)をつくる。
(24) ニュースをジンソク(48)にホウドウ(49)する特派員のカツヤク(50)。
(25) テンランカイ(51)のユウタイケン(52)を受けとる。
(26) ワズラ(53)わしい仕事。
(27) ソウギ(54)に参列してチョウジ(55)を述べる。
(28) バイショウ(56)金をシハラ(57)う。
(29) シンチョウ(58)にコウリョ(59)する。
(30) ギジンホウ(60)によるビョウシャ(61)。
(31) 他人のスイミン(63)をサマタ(64)げる。
(32) ゲンメツ(65)のヒアイ(66)を感じる。
(33) おカシヤがハンジョウ(97)する。
(34) シュミ(68)とゴラク(69)。
(35) ユウビン(70)がチハイ(71)になる。
(36) トウゲ(72)をコエ(73)る。
(37) ホゲイセンダン(74)の帰港をカンゲイ(75)する。
(38) 美しいセンリツ(76)の曲。
(39) ゴウセイセンイ(77)の服をツクロ(78)う。
(40) 交通ジコ(79)のギセイ(80)者。
(41) 混雑カンワ(81)の方法を工夫する。
(42) ケンシン(82)的にカイホウ(83)する。
(43) 社長をホサ(84)するヒショ(85)。
(44) ユウワク(86)に負けずに勉強にハゲ(87)む。
(45) カンゲンガクダン(88)をシキ(89)する。
(46) ムジュンしたコウイ(90)をする。
(47) ケッコンシキン(92)をチョチク(93)する。
(48) ユウカン(94)な少年をヒョウショウ(95)する。

(49)　日本国民は，正義とチツジョ(96)をキチョウ(97)とする国際平和を誠実にキキュウ(98)し国権の発動たる戦争と武力の行使は，永久にホウキ(99)する。（日本国ケンポウ(100)第九条）

実施の時期　昭和40年９月

結果の概要　この調査の結果については，３分冊の報告書『中等学校における漢字書写能力調査』（第１冊は200字の中の30字について昭和40年度に，第２冊は残りの170字のうちの30字について，第３冊はさらにその残りの140字について，それぞれ昭和43年度に日本私学教育研究所から）が出されている。いずれもＢ５判，非売品。

報告書には，中・高それぞれの男子校・女子校・共学校の別による各字の正答（誤・無）率などがくわしく報告されている。

(13)　漢字習得の実態に関する調査

調査者　東京都板橋区立志村第四小学校

被調査者　志村第四小学校児童全員（680名）と，中野区立新井小学校児童の各学年１学級。

調査内容　調査字は学年ごとに違えてあり，その内容は次のとおり。

１年　１年字＋２年字の読み書き

２年　１年字＋２年字＋３年字の読み書き

３年　２年字＋３年字＋４年字の読み書き

４年　３年字＋４年字＋５年字の読み書き

５年　４年字＋５年字＋６年字＋別表外字の読み書き

６年　５年字＋６年字＋別表外字の読み書き

（別表外字は，小学校にくり上げ予定の115字，つまり備考漢字）

実施の時期　昭和43年２月～８月

結果の概要　この調査についての報告書は『国語研究集録――漢字習得の実態・考察とその指導法――』（Ｂ５，88ページ）として，昭和44年３月に同校

と板橋区教育委員会の名で出されている。

同書によって結果の概略をみると，次のとおりである。

1.　全体の習得状況

	前の学年の成績		その学年の成績		次の学年の成績	
	読み	書き	読み	書き	読み	書き
1年字			95 (55.6)	93	96 (96.5)	96 (93.4)
2年字	14	4	96 (77.8)	85 (54.5)	96 (96.8)	84 (86.2)
3年字	26	2	91 (72.5)	65 (50.6)	92 (93.0)	71 (76.1)
4年字	23	1	81 (71.9)	33 (37.6)	90 (90.4)	65 (57.0)
5年字	24	1	82 (70.4)	43 (32.3)	86 (88.9)	42 (59.2)
6年字	25	3	89 (71.3)	55 (47.3)	(83.6)	(56.8)

別表外 (備考字)	5年生	55	6
	6年生　A	75	20
	6年生　B	72	0
	6年生　C	90	69

※　数字は正答率，（　）は文部省国語課の調査（昭和40年）

2.　備考漢字について

(1)　読みの成績のいい字

100%	丸
96	宇 灰 泣 若 笑 宙
94	映 劇 好 紅 座 城 泉 優
92	羽 閣 割 危 郷 径 捨 洗 窓 仲 兆 乳 俳 亡 枚 郵 羊
90	警 源 骨
88	庁

86	穴 裁 誌 射 将 班 幼
84	刻 冊 宅 卵
82	机 弓 砂 操 腹 宝 忘 密 矢
80	看 筋 秘
78	磁 尺
76	樹 署 障 針 垂 乱 覧
74	巻 棒
72	域 簡 痛 糖 裏
70	臓 片

(2) **書きの成績のいい字**

%	
78	割 枚
76	羽
70	源 仲 兆
64	城
60	宝
54	宇 若 羊
52	閣 丸 弓 将 班

(14)　昭和43年度漢字の習得状況に関する調査

調査者　文化庁国語課

被調査者　高等学校１年生（59校，5036名）

調査内容

	書き		読み	
	実数	延べ数	実数	延べ数
別表漢字（教育漢字）	205字	208字	1字	1字
別表外当用漢字	447字	458字	211字	221字
計	652字	666字	212字	222字

＊延べ字数には，同一字を異なる音訓によって重出したものおよび，同一問題を重出したものを含む。なお，１字あたりの被調査人員は888名である。

実施の時期　昭和43年７月

結果の概要　結果の整理は進んでいるようであるが，まだ，正式な報告書にはまとめられていない。

(15)　中学生・高校生の漢字を書く力の調査

調査者　新潟県立教育センター

被調査者　新潟県内中学校３校（１年生162名，２年生148名，３年生177名，計487名），同じく高等学校３校（１年生139名，２年生139名，３年生141名，計419名）

調査内容　「備考」の当用漢字から50字，教育漢字から25字，計75字の書きと，漢字に対する関心や意見，訓読みと字の意味の理解。このうち後二者は75字の書字力のための参考資料。ここでは，備考漢字から選ばれた50字と教育漢字から選ばれた25字との書きの結果について紹介する。

実施の時期　昭和44年１月

結果の概要　この調査については，新潟県立教育センターから出されている『研究集録第２集』（昭和44年３月刊）の論文「中学生・高校生の漢字を書く力(1)」に報告されている。結果のあらましは次のとおり。

調査結果の概要（正答字数の平均）

	中　1	中　2	中　3	平　均	高　1	高　2	高　3	平　均
男	24.7字	41.9	51.0	39.2	68.9字	73.6	74.7	72.2
女	34.4	51.2	59.9	49.0	77.8	78.7	81.2	79.4
平均	29.2	46.4	55.4	44.0	72.3	76.0	77.9	75.4
ＳＤ	68.8	23.8	20.7		13.5	9.0	10.2	

中学３年・高校３年の正答率（上に・の字は訓で提出，右の数字は配当学年）

	(中３)	(高３)		(中３)	(高３)		(中３)	(高３)		(中３)	(高３)
宇	68.4	95.7	・側⑤	87.0	99.3	誌	61.0	91.5	刷④	53.1	90.1
・裏	41.2	60.3	雑⑤	87.0	96.5	印④	79.1	93.6	断⑥	49.7	90.1

層	50.8	96.5	矢	78.0	97.2	注③	67.2	94.3	映	70.6	98.6
温③	93.8	99.3	印④	78.0	90.8	射	51.4	80.1	演⑤	42.4	83.7
泉	59.9	88.7	染	44.6	83.0	丸	69.5	84.4	劇	33.3	80.1
資⑥	81.9	96.5	裁	15.8	27.0	焼④	61.6	87.2	優	55.4	78.7
源	76.3	94.3	階④	52.0	87.2	亡	74.0	97.9	将	40.7	80.1
巻	31.6	71.6	段	48.0	68.8	刻	68.9	90.8	来②	87.0	95.0
源	71.8	98.6	負③	52.0	87.2	警	37.0	90.1	針	50.3	79.4
険⑥	47.5	64.5	傷	15.8	63.1	察④	50.3	87.2	裁	46.9	83.0
砂	85.3	98.6	乱	76.3	99.3	班	77.4	82.3	判⑥	69.5	95.0
映	21.5	50.4	暴⑥	41.2	83.7	呼	66.7	93.6	閣	84.2	97.2
姿	76.8	94.3	片	63.8	97.9	簡	55.4	88.7	危	46.3	76.6
羽	72.7	92.2	骨	83.6	97.9	単⑤	66.1	87.2	険⑥	55.4	65.2
好	88.7	99.3	傷	14.7	65.2	割	82.5	96.5	困	53.1	80.1
仲	89.8	99.3	痛	62.7	89.4	訪	61.6	90.1	難⑥	45.8	68.1
城	83.6	99.3	注③	55.4	83.0	問④	46.9	44.0	訪	52.0	87.9
忘	62.1	88.7	宅	74.0	94.3	密	76.2	95.7	旗④	25.4	63.8
枚	79.1	94.3	尺	57.6	90.8	宝	85.9	97.2	乱	55.4	94.3
座	87.0	95.0	晩	52.0	92.2	断⑥	40.7	77.3	姿	71.2	94.3
席④	78.8	95.7	頭③	93.2	98.6	好	63.8	78.7	勢④	36.7	66.0
著	85.3	99.5	痛	65.5	94.3	意③	64.4	80.9			
笑	71.2	96.5	困	47.5	80.9	側⑤	64.4	94.3			

（根本今朝男）

国立国語研究所報告　36

中学生の漢字習得に関する研究　　**¥ 5,000**

昭和46年3月20日　印　刷
昭和46年3月30日　発　行

著作者　国立国語研究所

発行者　株式会社　秀英出版
代表者　山本春男

印刷者　大日本印刷株式会社

発行所　株式会社　秀英出版

〔162〕東京都新宿区市ケ谷加賀町2—30
振替 東京 119739・電話(260)5281

UDC　159.953.5：003.324.1：809.56
NDC　810.9

3081-31360-3042

国立国語研究所刊行書一覧

国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 ——白河市および付近の農村における——	〃	〃
3	現代語の助詞・助動詞 ——用法と実例——	〃	700円
4	婦人雑誌の用語 ——現代語の語彙調査——	〃	500円
5	地域社会の言語生活 ——高岡における実態調査——	〃	600円
6	少年と新聞 ——小学生・中学生の新聞への接近と理解——	〃	180円
7	入門期の言語能力	〃	200円
8	談話語の実態	〃	品切れ
9	読みの実験的研究 ——音読にあらわれた読みあやまりの分析——	〃	〃
10	低学年の読み書き能力	〃	〃
11	敬語と敬語意識	〃	〃
12	総合雑誌の用語（前編） ——現代語の語彙調査——	〃	〃
13	総合雑誌の用語（後編） ——現代語の語彙調査——	〃	〃
14	中学年の読み書き能力	〃	400円
15	明治初期の新聞の用語	〃	品切れ
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	〃
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	〃
18	話しことばの文型（1） ——対話資料による研究——	〃	800円
19	総合雑誌の用字	〃	品切れ
20	同音語の研究	〃	550円
21	現代雑誌九十種の用語用字（1） ——総記および語彙表——	〃	1,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字（2） ——漢字表——	〃	1,000円
23	話しことばの文型（2） ——独話資料による研究——	〃	550円

24	横組みの字形に関する研究	〃	350円
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) ——分析——	〃	1,000円
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	2,100円
27	共通語化の過程	秀英出版刊	品切れ
28	類義語の研究	〃	750円
29	戦後の国民各層の文字生活	〃	400円
30—1	日本言語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30—2	日本言語地図(2)	〃	〃
30—3	日本言語地図(3)	〃	8,000円
30—4	日本言語地図(4)	〃	8,000円
31	電子計算機による国語研究	秀英出版刊	450円
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) ——親族語彙と社会構造——	〃	250円
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電子計算機による国語研究(II)	〃	450円
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) ——マキ・マケと親族呼称——	〃	450円
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	5,000円
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	1,300円
38	電子計算機による新聞の語彙調査(II)	〃	2,800円
39	電子計算機による国語研究(III)	〃	700円
40	送りがな意識の調査	〃	1,500円
41	待遇表現の実態 ——松江24時間調査資料から——	〃	900円

国立国語研究所資料集

1	国語関係刊行書目(昭和17〜24年)	秀英出版刊	品切れ
2	語彙調査 ——現代新聞用語の一例——	〃	〃
3	送り仮名法資料集	〃	〃
4	明治以降国語関係刊行書目	〃	300円
5	沖縄語辞典	大蔵省印刷局刊	3,000円
6	分類語彙表	秀英出版刊	1,100円
7	動詞・形容詞問題語用例集	〃	1,700円

8	現代新聞の漢字調査（中間報告）	〃	500円

国立国語研究所論集

1	ことばの研究	秀英出版刊	品切れ
2	ことばの研究 第2集	〃	750円
3	ことばの研究 第3集	〃	800円

国立国語研究所年報　秀英出版刊

1	昭和24年度	品切れ	12	昭和35年度	350円
2	昭和25年度	〃	13	昭和36年度	160円
3	昭和26年度	160円	14	昭和37年度	220円
4	昭和27年度	品切れ	15	昭和38年度	250円
5	昭和28年度	240円	16	昭和39年度	250円
6	昭和29年度	200円	17	昭和40年度	250円
7	昭和30年度	品切れ	18	昭和41年度	300円
8	昭和31年度	220円	19	昭和42年度	300円
9	昭和32年度	200円	20	昭和43年度	350円
10	昭和33年度	品切れ	21	昭和44年度	400円
11	昭和34年度	220円			

国語年鑑　秀英出版刊

昭和29年版	450円	昭和38年版	950円
昭和30年版	600円	昭和39年版	品切れ
昭和31年版	品切れ	昭和40年版	1,100円
昭和32年版	〃	昭和41年版	1,100円
昭和33年版	〃	昭和42年版	1,100円
昭和34年版	〃	昭和43年版	品切れ
昭和35年版	550円	昭和44年版	1,500円
昭和36年版	800円	昭和45年版	1,500円
昭和37年版	品切れ		

高校生と新聞	国立国語研究所 日本新聞協会共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所共著	金沢書店刊	品切れ